

授 業 計 画

平成31年度

東京家政学院大学

平成31年度 学年暦

前期

後期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
31年 4月		1	2	3	4	5	6	1	1日 学年開始 3日 入学式
	7	8	9	10	11	12	13	2	4日～6日オリエンテーション 8日 前期授業開始
	14	15	16	17	18	19	20	3	13日・14日 オリエンテーションミーティング
	21	22	23	24	25	26	27	4	27日月曜日の振替授業日
	28	29	30						
元年 5月				1	2	3	4		
	5	6	7	8	9	10	11	5	
	12	13	14	15	16	17	18	6	
	19	20	21	22	23	24	25	7	21日 創立記念日(授業日)
6月							1	8	
	2	3	4	5	6	7	8	9	
	9	10	11	12	13	14	15	10	
	16	17	18	19	20	21	22	11	16日千代田KVA祭 (ローズ祭)
	23	24	25	26	27	28	29	12	16日学内入構禁止 (町田キャンパス)
7月							6	13	
	7	8	9	10	11	12	13	14	13日月曜日の振替授業日
	14	15	16	17	18	19	20	15	
	21	22	23	24	25	26	27	16	26日 前期授業終了 29日～8月2日 前期定期試験 (7月27日は予備日)
8月								17	
				1	2	3			5日～9月20日 夏季休業
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
9月									
	1	2	3	4	5	6	7		9日～11日 前期追・再試験
	8	9	10	11	12	13	14		19日・20日 後期オリエンテーション

	日	月	火	水	木	金	土	週	行事	
9月							21		21日 後期授業開始	
	22	23	24	25	26	27	28	1		
10月	29	30						2		
			1	2	3	4	5	2		
	6	7	8	9	10	11	12	3	12日 月曜日の振替授業日	
	13	14	15	16	17	18	19	4		
	20	21	22	23	24	25	26	5		
	27	28	29	30	31			6		
11月						1	2	6	2日 学内入構禁止	
	3	4	5	6	7	8	9	7	9・10日 大学祭(KVA祭) (7・8日 準備のため通常授業休業)	
	10	11	12	13	14	15	16	8	16日 学内入構禁止 (町田キャンパス)	
	17	18	19	20	21	22	23	9		
	24	25	26	27	28	29	30	10		
									11	7日 学内入構禁止
	1	2	3	4	5	6	7	11		
	8	9	10	11	12	13	14	12	14日 学内入構禁止	
	15	16	17	18	19	20	21	13		
	22	23	24	25	26	27	28	14	25日 補講日 26日～1月5日 冬季休業	
2年 1月	29	30	31							
				1	2	3	4			
2年 1月	5	6	7	8	9	10	11	15	14日・15日 補講日	
	12	13	14	15	16	17	18	16	18日・19日 学内入構禁止 (町田キャンパス)	
	19	20	21	22	23	24	25	17	27日 後期授業終了 26日・28日 学内入構禁止	
	26	27	28	29	30	31		18	29日～2月4日 後期定期試験	
2月							1	18	(2月1日は予備日)	
	2	3	4	5	6	7	8	19	6日 学内入構禁止	
	9	10	11	12	13	14	15			
	16	17	18	19	20	21	22		21日 学内入構禁止	
3月	23	24	25	26	27	28	29		28日・3月2・3日 後期追・再試験	
	1	2	3	4	5	6	7		12日 学内入構禁止	
3月	8	9	10	11	12	13	14			
	15	16	17	18	19	20	21		19日 大学卒業式・ 大学院修了式	
	22	23	24	25	26	27	28		25日～31日 春季休業	
	29	30	31							

- ・ 国民の祝日及び休日は、通常授業は行いません。
- ・ は、定期試験期間をあらわす。
- ・ は、授業休業期間をあらわす。
- ・ は、補講日をあらわす。
- ・ は、月曜日の振替授業日をあらわす。
- ・ 土曜日は補講並びに行事等を行う。

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
共通教育科目	G501010	日本の文学	井上 眞弓
共通教育科目	G501020	日本の言語と文化	内田 宗一
共通教育科目	G501030	文章表現法	内田 宗一
共通教育科目	G501040	外国の言語と文化	西川 純子
共通教育科目	G501050	異文化コミュニケーション	畷部 典子
共通教育科目	G501070	音楽	吉永 早苗
共通教育科目	G501080	美学・美術史	久々湊 直子
共通教育科目	G501090	色彩論	滝沢 真美
共通教育科目	G501110	民俗学	石垣 悟
共通教育科目	G501120	考古学	小瀬 康行
共通教育科目	G502010	基礎数学a	新海 公昭
共通教育科目	G502020	基礎数学b	新海 公昭
共通教育科目	G502030	数学トピックス	新海 公昭
共通教育科目	G502040	基礎統計学a	新海 公昭
共通教育科目	G502050	基礎統計学b	新海 公昭
共通教育科目	G502060	情報論	田中 康裕
共通教育科目	G502070	コンピュータ概論	田中 康裕
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習a	千葉 一博
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習a	田中 康裕
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習a	小野 由美子
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習a	原田 一義
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習b	千葉 一博
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習b	田中 康裕
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習b	小野 由美子
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習b	原田 一義
共通教育科目	G503010	人間の体	金子 和正
共通教育科目	G503020	ダイエットとフィットネス	金子 和正
共通教育科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋 徹
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習a	大嶋 徹
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習a	外川 重信
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習a	宮崎 晃子
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習a	江川 賢一
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習a	金子 みのり
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	金子 和正
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	外川 重信
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	大嶋 徹
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	宮崎 晃子
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	江川 賢一
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習b	金子 みのり
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習c	金子 和正
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習c	大嶋 徹
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習d	金子 和正
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習d	江川 賢一
共通教育科目	G503100	体育講義	金子 和正
共通教育科目	G503110	体育実技	金子 和正
共通教育科目	G504020	教養の化学	三島 綾子
共通教育科目	G504020	教養の化学	佐山 信成
共通教育科目	G504030	化学入門	三島 綾子
共通教育科目	G504030	化学入門	佐山 信成
共通教育科目	G504040	教養の生物学	岩見 哲夫
共通教育科目	G504040	教養の生物学	沼波 秀樹
共通教育科目	G504050	生物学入門	岩見 哲夫
共通教育科目	G504050	生物学入門	沼波 秀樹
共通教育科目	G504060	環境と資源	岩見 哲夫
共通教育科目	G504060	環境と資源	沼波 秀樹
共通教育科目	G504070	地球の科学	角和 善隆
共通教育科目	G504070	地球の科学	尾張 聡子
共通教育科目	G504080	教養の物理学	小谷 太郎

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
共通教育科目	G504110	自然史	岩見 哲夫
共通教育科目	G505010	法学入門（日本国憲法）	尾崎 利生
共通教育科目	G505020	市民と法	渡邊 友美
共通教育科目	G505030	社会学入門	野坂 真
共通教育科目	G505060	経済学入門	大野 裕之
共通教育科目	G505070	経営学入門	金森 敏
共通教育科目	G505080	日本の歴史	滝口 正哉
共通教育科目	G505090	世界の歴史	吉村 貴之
共通教育科目	G505100	世界の地理	横地 留奈子
共通教育科目	G505110	国際関係論	吉村 貴之
共通教育科目	G506010	哲学入門	梅田 孝太
共通教育科目	G506040	生命倫理	田中 丹史
共通教育科目	G506050	心理学 a	加地 雄一
共通教育科目	G506050	心理学 a	木村 文香
共通教育科目	G506060	心理学 b	加地 雄一
共通教育科目	G506060	心理学 b	木村 文香
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	嶽本 新奈
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	鈴木 亜矢子
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	富田 弘美 他
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	井上 眞弓 他
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	千葉 一博 他
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	井上 眞弓 他
共通教育科目	G507030	海外研修（異文化理解）	畷部 典子
共通教育科目	G507040	英会話集中講座	マーク ルイス
共通教育科目	G507050	地域貢献活動	大嶋 徹 他
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛
共通教育科目	G508010	Basic English 1	畷部 典子
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子
共通教育科目	G508010	Basic English 1	田中 愛
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛
共通教育科目	G508020	Basic English 2	畷部 典子
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子
共通教育科目	G508020	Basic English 2	田中 愛
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	大穀 郁子
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	大和田 寛
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	畷部 典子
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	橋本 文子
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	田中 愛
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	大穀 郁子
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	大和田 寛
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	畷部 典子
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	橋本 文子
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	田中 愛
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	大和田 寛
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	橋本 文子
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	大和田 寛
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	橋本 文子
共通教育科目	G508070	Communication English 1	マーク ルイス
共通教育科目	G508080	Communication English 2	マーク ルイス
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	大穀 郁子
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	田中 愛
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	綾部 素幸
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	アニー フランス
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	綾部 素幸

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	アニー フランス
共通教育科目	G508120	フランス語初級1	綾部 素幸
共通教育科目	G508130	フランス語初級2	綾部 素幸
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	高次 裕
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	織田 晶子
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	高次 裕
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	織田 晶子
共通教育科目	G508160	ドイツ語初級1	高次 裕
共通教育科目	G508170	ドイツ語初級2	高次 裕
共通教育科目	G508180	中国語入門1	尹 青青
共通教育科目	G508180	中国語入門1	澁井 君也
共通教育科目	G508190	中国語入門2	尹 青青
共通教育科目	G508190	中国語入門2	澁井 君也
共通教育科目	G508200	中国語初級1	澁井 君也
共通教育科目	G508210	中国語初級2	澁井 君也
共通教育科目	G508220	韓国語入門1	徐 旻廷
共通教育科目	G508230	韓国語入門2	徐 旻廷
共通教育科目	G508240	韓国語初級1	徐 旻廷
共通教育科目	G508250	韓国語初級2	徐 旻廷
共通教育科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森 朋子
共通教育科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森 朋子
共通教育科目	G509050	日本語ラボa	森 朋子
共通教育科目	G509060	日本語ラボb	森 朋子
共通教育科目	G509070	日本語ラボc	森 朋子
共通教育科目	G509080	日本語ラボd	森 朋子
共通教育科目	G509090	社会人としての日本語	内田 宗一
共通教育科目	G509310	日本の歴史と文化	内田 宗一
共通教育科目	G510010	キャリアデザイン概論	金森 敏
共通教育科目	G510020	キャリアデザインa	金森 敏
共通教育科目	G510030	キャリアデザインb	金森 敏
<現代家政学科>			
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏
専門科目	G010010	現代生活論（現代家政学科）	現代家政学科 教員
専門科目	G010020	家政学原論	上村 協子 他
専門科目	G010040	女性史	佐藤 広美
専門科目	G010050	美と健康	山村 明子
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野 由美子
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野 由美子
専門科目	G010080	卒業研究A	現代家政学科 教員
専門科目	G010090	卒業研究B	現代家政学科 教員
専門科目	G010100	家族論	林 葉子
専門科目	G010110	家族の文化	井上 眞弓
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋 徹
専門科目	G010160	家族支援論	西口 守
専門科目	G010170	家族と法	山里 盛文
専門科目	G010180	家庭経済学	上村 協子
専門科目	G010190	消費者教育	早野 木の美
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野 由美子
専門科目	G010250	消費者教育演習	小野 由美子
専門科目	G010260	プロシューマー実習	上村 協子 他
専門科目	G010270	生活設計論	上村 協子
専門科目	G010290	エコロジー	沼波 秀樹
専門科目	G010300	環境保護論	沼波 秀樹
専門科目	G010330	ツーリズムb（環境）	沼波 秀樹
専門科目	G010340	都市計画	長野 博一
専門科目	G010430	ツーリズム（地域と文化）	玉木 栄一
専門科目	G010450	多文化共生	森 朋子

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G010480	コミュニティ論	信田 理奈
専門科目	G010510	ファッション造形学	山村 明子
専門科目	G010520	ファッション造形実習B	松本 幸子
専門科目	G010530	装飾マテリアル演習	松本 幸子
専門科目	G010540	現代衣生活論	山村 明子
専門科目	G010550	世界の服飾	山村 明子
専門科目	G010560	日本の服飾	井上 眞弓
専門科目	G010570	西洋服飾文化史	山村 明子
専門科目	G010580	ファッション販売論	井澤 尚子
専門科目	G010600	ファッションカラー演習	井澤 尚子
専門科目	G010610	ファッションコーディネイト	山村 明子
専門科目	G010620	ファッション企画・設計論	井澤 尚子
専門科目	G010640	衣服環境論	成田 千恵
専門科目	G010660	インテリア設計論	大宮司 勝弘
専門科目	G010670	インテリア計画	大宮司 勝弘
専門科目	G010680	インテリアデザイン演習A	大宮司 勝弘 他
専門科目	G010730	日本語コミュニケーション	内田 宗一
専門科目	G010740	ことばと生活	内田 宗一
専門科目	G010760	生活文化論	石垣 悟
専門科目	G010800	文化の継承と発信	井上 眞弓 他
専門科目	G010810	生活文化演習	井上 眞弓
専門科目	G010820	食品学実験	竹中 眞紀子
専門科目	G010830	食品衛生学	竹中 眞紀子
専門科目	G010840	レシビの比較文化史	伊藤 有紀
専門科目	G010850	食文化論	伊藤 有紀
専門科目	G010880	フードコーディネート論	伊藤 有紀
専門科目	G010890	設計製図演習A	小林 直弘 他
専門科目	G010900	設計製図演習B	小林 直弘 他
専門科目	G010910	設計製図演習C	大橋 智子 他
専門科目	G010920	設計製図演習D	大宮司 勝弘 他
専門科目	G010930	現代家政演習	現代家政学科 教員
専門科目	G010950	社会調査法	小野 由美子
専門科目	G010960	食物学概論	三宅 紀子
専門科目	G010970	食と社会	竹中 眞紀子
専門科目	G010980	食生活演習	竹中 眞紀子 他
専門科目	G010990	インテリアデザイン演習B	大宮司 勝弘 他
専門科目	G011000	インテリアCAD演習	大宮司 勝弘
専門科目	G011010	建築調査	大橋 竜太
専門科目	G011100	基礎ゼミ	現代家政学科 教員
専門科目	G011103	ファイナンシャルプランニング入門	古徳 佳枝
専門科目	G011104	情報伝達と表現	小林 直弘
専門科目	G011105	家庭電気・機械・情報処理	栲田 考一
専門科目	G011106	会計情報演習	古徳 佳枝
専門科目	G011107	家庭経営学概論	井上 眞弓 他
専門科目	G011108	家政学概論	竹中 眞紀子 他
専門科目	G011109	家族関係論	林 葉子
専門科目	G011110	家庭看護	石井 紀子
専門科目	G011111	消費者情報論	小野 由美子
専門科目	G011112	消費経済論	金森 敏
専門科目	G011113	児童学概論	坪井 瞳
専門科目	G011114	保育学	坪井 瞳
専門科目	G011115	衣生活学概論	井澤 尚子 他
専門科目	G011116	ファッション造形実習A	井澤 尚子 他
専門科目	G011117	食品学概論	竹中 眞紀子
専門科目	G011118	フードスペシャリスト論	竹中 眞紀子
専門科目	G011119	栄養学概論	竹中 眞紀子
専門科目	G011120	食品学	郡山 貴子
専門科目	G011121	調理学	郡山 貴子

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G011122	栄養学	竹中 真紀子
専門科目	G011123	食生活論	伊藤 有紀
専門科目	G011124	調理学実習	三宅 紀子 他
専門科目	G011125	健康・食発達心理学	青木 洋子
専門科目	G011126	フードサービスビジネス論	吉野 知子
専門科目	G011127	食料経済	二瓶 徹
専門科目	G011129	製品・食品鑑別演習	三宅 紀子
専門科目	G011130	住居学概論	小池 孝子
専門科目	G011131	建築史A	大橋 竜太
専門科目	G011132	建築史B	大橋 竜太
専門科目	G011133	住生活論	大橋 竜太
専門科目	G011134	住居設備	椛田 考一
専門科目	G011135	構造力学A	白井 篤
専門科目	G011136	構造計画A	永井 佑季
専門科目	G011137	インテリア材料	白井 篤
専門科目	G011138	住宅施工	白井 篤
専門科目	G011139	建築法規	塚田 豊
専門科目	G011140	建築環境学A	椛田 考一
専門科目	G011141	住居計画	小池 孝子
専門科目	G011142	福祉住環境	小池 孝子
専門科目	G011143	社会福祉概論	西口 守
専門科目	G011144	スポーツツウリズム	大嶋 徹
専門科目	G011145	ライフステージとレクリエーション	大嶋 徹
専門科目	G011146	食文化演習	伊藤 有紀
専門科目	G011147	現代家政とKVA	現代家政学科 教員
専門科目	G011149	江戸東京文化研究	内田 宗一
専門科目	G011150	生活福祉論	小野 由美子
専門科目	G011151	食と環境	沼波 秀樹
専門科目	G011153	グローバルコミュニケーション	マーク ルイス
専門科目	G011154	家族の心理学	木村 文香
専門科目	G011157	高齢者福祉論	西口 守
専門科目	G011158	障がい者福祉論	朝倉 和子
専門科目	G011162	若者ファッション論	山村 明子

<健康栄養学科>

専門科目	G020020	健康福祉学概論	西口 守 他
専門科目	G020060	疫学・社会調査法	細川 まゆ子
専門科目	G020100	スポーツ栄養学	加藤 理津子 他
専門科目	G020280	食品の官能評価・鑑別論	林 一也 他
専門科目	G020300	食品衛生学実験	林 一也
専門科目	G020360	ライフステージ別栄養学Ⅱ	斉藤 恵美子
専門科目	G020370	応用栄養学実習	酒井 治子 他
専門科目	G020380	健康行動支援プログラム論	國井 大輔
専門科目	G020410	ライフステージ別栄養教育論	酒井 治子
専門科目	G020420	栄養教育実習Ⅰ	辻 雅子
専門科目	G020430	栄養教育実習Ⅱ	酒井 治子
専門科目	G020440	カウンセリング論	吉田 恵子
専門科目	G020450	食情報表現演習	呉 起東
専門科目	G020470	臨床栄養学Ⅱ	斉藤 恵美子
専門科目	G020480	臨床栄養アセスメント論	金澤 良枝
専門科目	G020490	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤 良枝
専門科目	G020500	臨床栄養アセスメント実習	金澤 良枝 他
専門科目	G020510	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤 良枝 他
専門科目	G020520	栄養治療学	金澤 良枝
専門科目	G020540	地域栄養活動論	田中 弘之
専門科目	G020550	公衆栄養学実習	田中 弘之
専門科目	G020560	地域栄養活動演習	田中 弘之 他
専門科目	G020570	国際栄養活動論	松田 正己 他

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G020580	フードシステム論	二瓶 徹
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネシメント演習 (児童)	酒井 治子 他
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネシメント演習 (高齢者)	吉野 知子 他
専門科目	G020630	健康フードマネシメント実習	吉野 知子 他
専門科目	G020640	食・空間プロデュース論	大野 治美
専門科目	G020660	給食運営臨地実習	吉野 知子 他
専門科目	G020670	臨床栄養Ⅰ臨地実習	金澤 良枝 他
専門科目	G020680	臨床栄養Ⅱ臨地実習	金澤 良枝 他
専門科目	G020690	公衆栄養臨地実習	田中 弘之 他
専門科目	G020700	実践健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科 教員
専門科目	G020710	総合演習Ⅰ	吉野 知子 他
専門科目	G020720	総合演習Ⅱ	金澤 良枝 他
専門科目	G020730	海外文献抄読演習	橋本 文子
専門科目	G020740	実践栄養英会話	マーク ルイス
専門科目	G020750	食物・栄養演習A	田中 弘之 他
専門科目	G020760	食物・栄養演習B	田中 弘之 他
専門科目	G020770	食物・栄養演習C	田中 弘之 他
専門科目	G020780	食物・栄養演習D	田中 弘之 他
専門科目	G020790	食物・栄養演習E	田中 弘之 他
専門科目	G021003	フードサービスビジネス論	吉野 知子
<生活デザイン学科>			
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏
専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科 教員
専門科目	G030020	現代生活論 (生活デザイン学科)	生活デザイン学科 教員
専門科目	G030030	卒業研究A	生活デザイン学科 教員
専門科目	G030040	卒業研究B	生活デザイン学科 教員
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田 朋美
専門科目	G030070	衣繊維学	花田 朋美
専門科目	G030110	繊維製品試験法	佐々木 麻紀子
専門科目	G030140	染色学	花田 朋美
専門科目	G030150	染色学実験	花田 朋美
専門科目	G030180	アパレル設計論	富田 弘美
専門科目	G030200	服飾造形実習C	富田 弘美
専門科目	G030220	アパレル商品論	富田 弘美
専門科目	G030250	テキスタイルデザイン実習	馬場 美和子
専門科目	G030250	ウィービングデザイン演習A	馬場 美和子
専門科目	G030260	テキスタイルアドバイザー実習	富田 弘美
専門科目	G030270	消費科学	藤田 雅夫 他
専門科目	G030280	衣環境衛生学	小柴 朋子
専門科目	G030290	食品機能化学	黒田 久夫
専門科目	G030320	食品衛生学	山崎 薫
専門科目	G030350	調理と素材	小口 悦子
専門科目	G030360	調理と文化	小口 悦子
専門科目	G030370	食文化論	櫻井 美代子
専門科目	G030380	食文化演習	櫻井 美代子
専門科目	G030410	食科学演習	食物学科 教員
専門科目	G030430	食企画・開発論	黒田 久夫
専門科目	G030440	食企画・開発実習A	黒田 久夫
専門科目	G030450	食企画・開発実習B	黒田 久夫
専門科目	G030480	フードビジネス・食産業研究	黒田 久夫
専門科目	G030490	住居デザイン演習A	小池 孝子 他
専門科目	G030500	住居デザイン演習B	小池 孝子 他
専門科目	G030510	住居デザイン演習C	原口 秀昭 他
専門科目	G030520	住居デザイン演習D	原口 秀昭 他
専門科目	G030530	建築デザイン演習A	原口 秀昭 他
専門科目	G030540	建築デザイン演習B	原口 秀昭 他
専門科目	G030550	住居CAD演習	足立 幸寿

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G030560	建築CAD演習	足立 幸寿
専門科目	G030570	建築総合演習	柏木 穂波
専門科目	G030580	建築計画	小池 孝子
専門科目	G030600	建築環境システム	椋田 考一
専門科目	G030630	構造力学C	西村 彰敏
専門科目	G030640	住宅設計論	原口 秀昭
専門科目	G030660	構造計画B	西村 彰敏
専門科目	G030670	建築材料学	白井 篤
専門科目	G030680	建築施工	白井 篤
専門科目	G030720	クラフトデザイン演習	澤田 雅彦
専門科目	G030730	インテリアデザイン演習	高尾 純宏
専門科目	G030760	メディアデザイン演習	呉 起東
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉 起東
専門科目	G030820	インテリアデザイン論	高尾 純宏
専門科目	G030830	食器デザイン論	澤田 雅彦
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	生活デザイン学科 教員
専門科目	G030880	高分子材料学実験	花田 朋美
専門科目	G030890	繊維学実験	花田 朋美
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	富田 弘美
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	手島 由記子
専門科目	G030920	服飾造形実習A	富田 弘美
専門科目	G030960	高分子材料実験Ⅱ	花田 朋美
専門科目	G030970	繊維学実験Ⅱ	花田 朋美
専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科 教員
専門科目	G031005	家庭電気・機械・情報処理	椋田 考一
専門科目	G031006	デザイン概論	澤田 雅彦
専門科目	G031008	家庭経営学概論	河田 敦子 他
専門科目	G031010	家庭看護	遠藤 由美子
専門科目	G031011	消費者調査法	小野 由美子
専門科目	G031012	消費生活論	黒澤 佳子
専門科目	G031014	保育学	新開 よしみ
専門科目	G031015	被服学概論	富田 弘美 他
専門科目	G031019	食科学概論	山崎 薫
専門科目	G031026	フードビジネス論	山岡 義卓
専門科目	G031029	製品・食品鑑別演習	山崎 薫
専門科目	G031030	住居学概論	小池 孝子
専門科目	G031031	建築史A	大橋 竜太
専門科目	G031032	建築史B	大橋 竜太
専門科目	G031033	住生活論	小池 孝子 他
専門科目	G031034	住居設備	椋田 考一
専門科目	G031035	構造力学A	西村 彰敏
専門科目	G031037	インテリア材料	白井 篤
専門科目	G031039	建築法規	原口 秀昭
専門科目	G031040	建築環境学A	椋田 考一
専門科目	G031041	住居計画	小池 孝子
専門科目	G031042	福祉住環境	小池 孝子
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	生活デザイン学科 教員
専門科目	G031047	服飾造形実習B	富田 弘美
専門科目	G031052	生活デザイン演習E	生活デザイン学科 教員
専門科目	G031053	生活デザイン演習F	生活デザイン学科 教員
専門科目	G031055	アパレル生産実習	富田 弘美
専門科目	G031057	アパレルグラフィックス実習	呉 起東
専門科目	G031058	インテリアコーディネート	原口 秀昭
専門科目	G031061	CGデザイン演習	呉 起東
専門科目	G031063	ガーデニング概論	石綱 史子
専門科目	G031064	言語学概論	森 朋子
専門科目	G031065	ウェブデザイン	呉 起東
専門科目	G031067	ファッションビジネス論	手島 由記子

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G031068	基礎調理学実習	小口 悦子
専門科目	G031069	ものづくり演習A	澤田 雅彦
専門科目	G031071	スタディツアー	生活デザイン学科 教員
専門科目	G031072	テキスタイル加工演習	花田 朋美
専門科目	G031073	テキスタイルデザイン論	顧 真源
専門科目	G031075	プリンティングデザイン演習	顧 真源
専門科目	G031076	日本文化論	難波 美緒
専門科目	G031077	Practical English A	森 朋子
専門科目	G031078	Practical English B	森 朋子
専門科目	G031079	言語コミュニケーション	森 朋子
専門科目	G031080	情報倫理	千葉 一博
専門科目	G031081	ウェブデザイン演習A	高嶋 章雄
専門科目	G031082	コミュニティデザイン論	齋藤 史夫
専門科目	G031083	園芸論	石綱 史子
専門科目	G031084	ガーデニング実習 I	石綱 史子
専門科目	G031085	観賞植物素材論	石綱 史子
専門科目	G031086	インターネットビジネス論	今中 厚志
専門科目	G031087	マーケティング論	神田 正樹
専門科目	G032056	アパレルCAD実習	富田 弘美
専門科目	G032059	住環境調査B	栴田 考一
<児童学科>			
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏
専門科目	G040010	児童学研究法	児童学科 教員
専門科目	G040020	発達心理学	丹羽 さがの
専門科目	G040030	教育心理学	木村 文香
専門科目	G040040	教育原理	河田 敦子
専門科目	G040050	教育課程論 (小)	齋藤 義雄
専門科目	G040070	保育学B	新開 よしみ
専門科目	G040080	児童文化	石川 えりこ
専門科目	G040090	小児保健 I	鳥海 弘子
専門科目	G040100	卒業研究A	児童学科 教員
専門科目	G040110	卒業研究B	児童学科 教員
専門科目	G040130	発達臨床心理学	柳瀬 洋美
専門科目	G040140	対人関係の発達	丹羽 さがの
専門科目	G040150	発達障害の理解と支援	杉野 学 他
専門科目	G040160	発達臨床論	加地 雄一
専門科目	G040170	心理学研究法	加地 雄一
専門科目	G040180	児童とカウンセリング	柳瀬 洋美 他
専門科目	G040190	心理検査法実習	加地 雄一 他
専門科目	G040220	社会福祉	嶋田 芳男
専門科目	G040230	社会的養護	塩谷 隼平
専門科目	G040240	社会的養護内容	杉野 学 他
専門科目	G040280	幼児理解	新開 よしみ
専門科目	G040290	保育内容総論A	中田 範子
専門科目	G040300	保育内容総論B	中田 範子
専門科目	G040310	保育内容演習健康A	金子 和正
専門科目	G040320	保育内容演習健康B	金子 和正
専門科目	G040330	保育内容演習言葉A	和田 美香
専門科目	G040340	保育内容演習言葉B	和田 美香 他
専門科目	G040350	保育内容演習人間関係A	丹羽 さがの
専門科目	G040360	保育内容演習人間関係B	柳瀬 洋美 他
専門科目	G040370	保育内容演習環境A	中田 範子 他
専門科目	G040380	保育内容演習環境B	中田 範子
専門科目	G040390	保育内容演習表現A	新開 よしみ 他
専門科目	G040400	保育内容演習表現B	新開 よしみ 他
専門科目	G040410	保育方法論	野田 日出子
専門科目	G040420	障がい児保育	中野 佐世子

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G040420	障がい児保育	上出 香波
専門科目	G040430	保育実践演習	児童学科 教員
専門科目	G040440	算数科教育	新海 公昭
専門科目	G040450	生活科教育	中田 範子
専門科目	G040460	音楽科教育	吉永 早苗
専門科目	G040480	国語科教育 (書写を含む)	宮津 大蔵
専門科目	G040490	体育科教育	金子 和正
専門科目	G040500	社会科教育	石塚 綾子
専門科目	G040510	理科教育	沼波 秀樹
専門科目	G040520	国語科教育法 (書写を含む)	深瀬 須美子
専門科目	G040530	社会科教育法	佐藤 広美
専門科目	G040540	算数科教育法	新海 公昭
専門科目	G040550	理科教育法	未 定
専門科目	G040560	生活科教育法	池田 仁人
専門科目	G040570	音楽科教育法	吉永 早苗
専門科目	G040580	図画工作科教育法	立川 泰史
専門科目	G040590	家庭科教育法	金田 佳子
専門科目	G040600	体育科教育法	金子 和正
専門科目	G040620	小児保健Ⅱ	松井 知子
専門科目	G040630	小児保健演習	田中 和香菜
専門科目	G040640	子どもの食と栄養	太田 百合子
専門科目	G040650	児童体育演習	金子 和正
専門科目	G040670	野外活動論 (児童と野外環境)	金子 和正
専門科目	G040680	児童とことば	和田 美香
専門科目	G040700	児童と音楽B	吉永 早苗 他
専門科目	G040710	児童と身体表現	荒金 幸子
専門科目	G040720	児童と造形	立川 泰史
専門科目	G040730	保育表現技術	桜井 郁子
専門科目	G040740	英語アクティビティ	畷部 典子
専門科目	G040750	児童と外国語A	畷部 典子
専門科目	G040760	児童と外国語B	畷部 典子
専門科目	G040770	児童と文学	原 善
専門科目	G040790	カリキュラム論	中田 範子
専門科目	G040800	相談援助	西口 守 他
専門科目	G040810	保育相談支援	柳瀬 洋美 他
専門科目	G040820	家庭支援論	新開 よしみ 他
専門科目	G040840	家庭科教育	金田 佳子
専門科目	G041000	卒業研究基礎ゼミ	児童学科 教員
専門科目	G041002	青年心理学	木村 文香
専門科目	G041003	人格心理学	早野 富美
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬 洋美
専門科目	G041008	児童学概論	齋藤 義雄 他
専門科目	G041010	児童福祉論	市川 和男
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	金子 和正
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	金子 和正
専門科目	G041017	自然体験活動実習	金子 和正
専門科目	G041018	初等教育演習A	齋藤 義雄 他
専門科目	G041019	初等教育演習B	齋藤 義雄 他
専門科目	G041020	初等教育演習C	齋藤 義雄 他
専門科目	G041021	初等教育演習D	齋藤 義雄 他
専門科目	G041022	児童臨床実習AⅠ	田尻 さやか
専門科目	G041023	児童臨床実習AⅡ	田尻 さやか
専門科目	G041024	児童臨床実習BⅠ	田尻 さやか 他
専門科目	G041025	児童臨床実習BⅡ	山原 麻紀子 他
専門科目	G041026	児童臨床実習CⅠ	柳瀬 洋美
専門科目	G041027	児童臨床実習CⅡ	柳瀬 洋美
専門科目	G041028	障害の基礎的理解	阿尾 有朋
専門科目	G041029	特別支援学校教育課程論	杉野 学

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G041030	特別支援教育総論	杉野 学
専門科目	G041031	知的障害者の教育	原田 晋吾 他
専門科目	G041034	知的障害者の心理・生理・病理	原田 晋吾 他
専門科目	G041035	肢体不自由者の心理・生理・病理	岡澤 慎一
専門科目	G041036	病弱者の心理・生理・病理	原田 晋吾 他
専門科目	G041037	視覚障害の理解と支援	阿尾 有朋
専門科目	G041038	聴覚障害の理解と支援	信方 壽幸
専門科目	G041040	保育原理	和田 美香
専門科目	G041041	子どもの理解と援助	丹羽 さがの
専門科目	G041042	乳児保育Ⅰ	柳瀬 洋美 他
専門科目	G041043	乳児保育Ⅱ	柳瀬 洋美 他
専門科目	G041044	外国語科教育	畷部 典子
専門科目	G041045	インターンシップ	齋藤 義雄
専門科目	G041046	子どもと音楽	吉永 早苗
専門科目	G041047	音楽実技A	佐藤 くみ 他
専門科目	G041048	造形表現基礎	立川 泰史

<人間福祉学科>

専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏
専門科目	G050060	社会調査法	小野 由美子
専門科目	G050200	卒業研究A	西口 守
専門科目	G050210	卒業研究B	西口 守
専門科目	G050220	社会保障論Ⅰ	木本 明
専門科目	G050230	社会保障論Ⅱ	木本 明
専門科目	G050240	福祉サービスの組織と経営	西口 守
専門科目	G050250	福祉行政論	木本 明
専門科目	G050260	公的扶助論	木本 明
専門科目	G050270	医療福祉論	砂田 淳一郎
専門科目	G050280	権利擁護と成年後見制度	木本 明
専門科目	G050320	就労支援	木本 明
専門科目	G050330	更生保護制度	木本 明
専門科目	G050710	スクールソーシャルワーク実習	芦田 正博
専門科目	G050730	地域福祉論Ⅰ	嶋田 芳男
専門科目	G050740	地域福祉論Ⅱ	嶋田 芳男
専門科目	G050770	実践英会話Ⅰ	マーク ルイス
専門科目	G051020	障害者福祉論	高橋 幸三郎
専門科目	G051025	精神保健学	糸井 千尋
専門科目	G051026	こころの障害者心理	糸井 千尋
専門科目	G051036	アロマセラピー演習	川人 紫
専門科目	G051038	園芸療法実習	本田 ともみ
専門科目	G051039	ガーデニングⅠ	石綱 史子
専門科目	G051042	音楽セラピーⅡ	深野 広美
専門科目	G051044	プレイセラピーⅡ	大嶋 徹
専門科目	G051045	福祉セラピー専門演習Ⅰ	川人 紫
専門科目	G051046	福祉セラピー専門演習Ⅱ	深野 広美
専門科目	G051049	社会福祉経営学Ⅲ	前田 卓也
専門科目	G051050	社会福祉情報演習Ⅱ	千葉 一博
専門科目	G051051	実践英会話Ⅱ	マーク ルイス
専門科目	G051052	ソーシャルビジネス論	人間福祉学科 教員
専門科目	G051053	地域包括ケアマネジメント	人間福祉学科 教員
専門科目	G051054	福祉ビジネス専門演習Ⅰ	前田 卓也
専門科目	G051055	福祉ビジネス専門演習Ⅱ	前田 卓也
専門科目	G051056	コミュニティアートプロデュース論	高橋 かおり
専門科目	G051057	社会調査法演習	福嶋 美佐子
専門科目	G051058	社会調査実習	福嶋 美佐子
専門科目	G051650	ソーシャルワーク演習Ⅳ	朝倉 和子
専門科目	G051660	ソーシャルワーク演習Ⅴ	朝倉 和子
専門科目	G051670	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	千葉 一博 他

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	G051680	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	千葉 一博 他
専門科目	G051690	スクールソーシャルワーク論	芦田 正博
専門科目	G051700	スクールソーシャルワーク演習・実習指導	芦田 正博
専門科目	G051720	ソーシャルワーク実習	千葉 一博 他
<食物学科>			
専門科目	G060010	食生産体験演習A	食物学科 教員
専門科目	G060020	食生産体験演習B	高尾 純宏
専門科目	G060030	栄養士論	山田 正子
専門科目	G060040	地球環境と食	山岡 義卓
専門科目	G060050	フードビジネス概論	山岡 義卓
専門科目	G060060	コミュニケーション・プレゼン演習	黒田 久夫
専門科目	G060070	有機化学	三島 綾子
専門科目	G060080	分子生物学	岩見 哲夫
専門科目	G060090	統計学演習	黒田 久夫
専門科目	G060100	基礎サイエンス実験	黒田 久夫 他
専門科目	G060110	食と語学A	大和田 寛
専門科目	G060120	食と語学B	大和田 寛
専門科目	G060130	社会福祉学概論	西口 守
専門科目	G060210	公衆衛生学Ⅰ(総論)	佐々木 溪円
専門科目	G060230	解剖生理学Ⅰ(解剖学)	瀧宮 顕彦
専門科目	G060240	解剖生理学Ⅱ(生理学)	瀧宮 顕彦
専門科目	G060250	解剖生理学実習	岩本 直樹
専門科目	G060260	生化学(総論)	三島 綾子
専門科目	G060280	栄養学・生化学実験	岩本 直樹 他
専門科目	G060290	食品学総論	山崎 薫
専門科目	G060310	食品学各論	山崎 薫
専門科目	G060320	食品学実験	山崎 薫
専門科目	G060350	基礎栄養学	岩本 直樹
専門科目	G060360	応用栄養学	岩本 直樹
専門科目	G060480	給食管理学	山田 正子
専門科目	G060510	基礎調理学実習	小口 悦子
専門科目	G060520	調理学	小口 悦子
専門科目	G060530	調理科学実験	小口 悦子
専門科目	G060610	微生物学	鈴木 武人
専門科目	G060640	食品加工学	山崎 薫
専門科目	G060650	食品加工学実習	山崎 薫
専門科目	G060660	応用調理学実習	小口 悦子
専門科目	G060680	食空間コーディネート論	山田 正子 他
専門科目	G060690	比較食文化・食生活論	末 定
専門科目	G060710	栄養士総合演習	山田 正子
専門科目	G060760	フードスペシャリスト論	山田 正子
専門科目	G060770	フードコーディネート論	山田 正子
専門科目	G060810	食企画・開発演習Ⅰ	黒田 久夫
専門科目	G060840	病態生理学	岩本 直樹
専門科目	G060870	食事計画論	小口 悦子
専門科目	G060910	被服学概論	花田 朋美 他
専門科目	G060920	服飾造形実習A	富田 弘美
専門科目	G060930	住居学概論(製図を含む)	小池 孝子
専門科目	G060940	家庭経営学概論	河田 敦子 他
専門科目	G060970	食科学概論	山崎 薫
専門科目	G060980	家庭看護(学校安全・救急看護報)	遠藤 由美子
<人間栄養学科>			
専門科目	H020010	人間栄養学原論	加藤 理津子 他
専門科目	H020020	管理栄養士基礎演習	城田 直子
専門科目	H020030	有機化学	佐山 信成
専門科目	H020040	基礎サイエンス実験	沼波 秀樹 他

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
専門科目	H020050	栄養情報統計演習	田中 弘之 他
専門科目	H020060	健康・食癆達心理学	青木 洋子
専門科目	H020110	公衆衛生学Ⅰ	松田 正己
専門科目	H020120	公衆衛生学Ⅱ	松田 正己
専門科目	H020130	公衆衛生学実習	松田 正己
専門科目	H020150	解剖生理学Ⅰ	原 光彦
専門科目	H020160	解剖生理学Ⅱ	原 光彦
専門科目	H020170	解剖生理学実習	原 光彦
専門科目	H020180	運動生理学	江川 賢一
専門科目	H020190	微生物学	津山 淳
専門科目	H020200	臨床病態栄養学	斉藤 恵美子
専門科目	H020210	分子栄養学	海野 知紀
専門科目	H020220	生化学	馬場 修
専門科目	H020230	生化学実験	馬場 修
専門科目	H020240	基礎食品学	海野 知紀
専門科目	H020250	基礎食品学実験	海野 知紀
専門科目	H020260	応用食品学	林 一也
専門科目	H020270	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）	林 一也
専門科目	H020280	調理学	大富 あき子
専門科目	H020290	調理学実験（官能評価を含む）	大富 あき子
専門科目	H020300	基礎調理学実習	大富 あき子 他
専門科目	H020310	応用調理学実習	大富 あき子
専門科目	H020320	食事計画論実習	加藤 理津子
専門科目	H020330	食品衛生学	林 一也
専門科目	H020350	基礎栄養学Ⅰ	海野 知紀
専門科目	H020360	基礎栄養学Ⅱ	海野 知紀
専門科目	H020230	基礎栄養学実験	馬場 修
専門科目	H020380	食事摂取基準論	斉藤 恵美子
専門科目	H020390	ライフステージ別栄養学Ⅰ	原 光彦
専門科目	H020420	栄養教育総論	辻 雅子
専門科目	H020430	栄養教育方法論	辻 雅子
専門科目	H020470	臨床栄養学基礎	斉藤 恵美子
専門科目	H020530	公衆栄養学	田中 弘之
専門科目	H020560	給食経営管理論	吉野 知子
専門科目	H020570	給食経営管理実習	吉野 知子 他
専門科目	H020580	健康フードマネジメント論	吉野 知子
専門科目	H020600	総合演習Ⅰ	金澤 良枝 他
専門科目	H020770	江戸・東京の食と文化	綿貫 仁美
専門科目	H020810	栄養プロデュース実習	綿貫 仁美 他
専門科目	H021010	海外専門研修（栄養学）	人間栄養学科 教員
専門科目	H021020	キャリアデザイン活動	酒井 治子
<資格科目>			
資格科目	6100010	教師論（町田・千代田）	佐藤 広美
資格科目	6100020	教育原理（町田）	河田 敦子
資格科目	6100020	教育原理（千代田）	佐藤 広美
資格科目	6100030	教育心理学（町田・千代田）	木村 文香
資格科目	6100040	教育制度論（町田）	河田 敦子
資格科目	6100040	教育制度論（千代田）	佐藤 広美
資格科目	6100050	教育課程論（町田・千代田）	齋藤 義雄
資格科目	6100060	家庭科教育法A（町田）	和田 早苗
資格科目	6100060	家庭科教育法A（千代田）	花形 美緒 他
資格科目	6100070	家庭科教育法B（町田）	和田 早苗
資格科目	6100070	家庭科教育法B（千代田）	上村 協子 他
資格科目	6100080	家庭科教育法C（町田）	花形 美緒 他
資格科目	6100080	家庭科教育法C（千代田）	深谷 敬子 他
資格科目	6100090	家庭科教育法D（町田）	花形 美緒
資格科目	6100090	家庭科教育法D（千代田）	深谷 敬子 他

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員
資格科目	6100220	道德教育論 (小)	河田 敦子
資格科目	6100220	道德教育論 (町田・千代田)	河田 敦子
資格科目	6100230	特別活動論 (町田・千代田)	齋藤 史夫
資格科目	6100230	特別活動論 (小)	齋藤 史夫
資格科目	6100300	教育方法・技術論 (幼・小)	齋藤 義雄
資格科目	6100300	教育方法・技術論 (町田・千代田)	齋藤 義雄
資格科目	6100310	生徒指導論 (小)	齋藤 史夫
資格科目	6100310	生徒指導論 (町田)	齋藤 史夫
資格科目	6100310	生徒指導論 (千代田)	齋藤 史夫
資格科目	6100320	教育相談論 (幼・小)	齋藤 史夫
資格科目	6100320	教育相談論 (町田・千代田)	木村 文香
資格科目	6100350	教育実習指導 (町田)	木村 文香
資格科目	6100350	教育実習指導 (千代田)	齋藤 史夫 他
資格科目	6100360	教育実習A (町田)	佐藤 広美
資格科目	6100360	教育実習A (千代田)	河田 敦子 他
資格科目	6100370	教育実習B (町田)	佐藤 広美
資格科目	6100370	教育実習B (千代田)	河田 敦子 他
資格科目	6100380	栄養教育実習指導	佐藤 広美
資格科目	6100390	栄養教育実習	辻 雅子
資格科目	6100400	初等教育実習指導 (小)	辻 雅子
資格科目	6100410	初等教育実習C	立川 泰史 他
資格科目	6100420	初等教育実習指導 (幼)	立川 泰史 他
資格科目	6100430	初等教育実習A	吉永 早苗 他
資格科目	6100440	初等教育実習B	吉永 早苗 他
資格科目	6100450	教職実践演習 (中等)	吉永 早苗 他
資格科目	6100450	教職実践演習 (中等)	齋藤 史夫 他
資格科目	6100460	教職実践演習 (栄養)	佐藤 広美 他
資格科目	6100470	教職実践演習 (幼小)	辻 雅子 他
資格科目	6100480	特別支援教育実習・実習指導	立川 泰史 他
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	阿尾 有朋 他
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	田中 延子
資格科目	6300010	博物館概論 (町田・千代田)	酒井 治子 他
資格科目	6300020	博物館資料論 (町田・千代田)	石垣 悟
資格科目	6300030	博物館経営論 (町田・千代田)	石垣 悟
資格科目	6300060	生涯学習概論 (町田・千代田)	田尾 誠敏
資格科目	6300080	博物館実習 (町田・千代田)	上野 昌之
資格科目	6300090	博物館資料保存論 (町田・千代田)	石垣 悟
資格科目	6300100	博物館展示論 (町田)	田尾 誠敏
資格科目	6300100	博物館展示論 (千代田)	高木 幸枝
資格科目	6300110	博物館教育論 (町田)	佐藤 広美
資格科目	6300110	博物館教育論 (千代田)	木村 涼
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論 (町田・千代田)	丹羽 さがの 他
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	丹羽 さがの 他
資格科目	6400070	保育実習ⅠB	丹羽 さがの 他
資格科目	6400080	保育実習ⅠC	和田 美香 他
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	新開 よしみ 他
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	柳瀬 洋美 他
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	和田 美香 他
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅲ	柳瀬 洋美 他

共通教育科目



シラバス参照

講義名	日本の文学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

授業概要(教育目的)	文学は、社会や時代に縁取られた人間存在を多角的に表現するものである。したがって、本講義では文学作品の読解を通して、その表現の深奥にある他者の声に耳を傾け、自己との対話を通して見えてくる人間たるものへの理解を深めることが目標となる。具体的には、人間の生の多様性と普遍性・固有性について、日本の古典文学を辿るなかで考究する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	文学作品を読む上で求められる作品の持つ時代性や社会のコードを理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	文学作品を読むことを通して、自分の感性・考えを探ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間と社会との関係に注意しながら、意欲的に読書することができる。
技術・表現の観点 (A)	読解の結果得られた自分の意見・考えを、他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の文学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代の女性と平安文学	『源氏物語』と「エヴァンゲリオン」の相同・相違を探ることの中から、人間という存在に着眼できる視点を持つ。	予習としてシラバスを読み、教科書のはしがきを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第2回	違和感を生きたる	『堤中納言物語』に入集されている「虫めづる姫君」および『狭衣物語』『海月姫』の読解を通して少女という存在を把握し、その有り様から現代女性の持つ生きづらさを理解する。	予習として教科書の第14講P71を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第3回	つながらない気持ち	理不尽な力によって居場所を追われた者が残した和歌を通して、悲哀という感情を表出する言葉の力を理解する。	予習として教科書の第11講P56-57を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第4回	交響する和漢のことは(1)	男の人との会話術(1)と題して、『枕草子』と『ナナ』に見る男女のコミュニケーション方法の違いを把握する。	予習として教科書の第8講P42を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180

第5回	交響する和漢のことは(2)	男の人との会話術(2)と題して、『和漢朗詠集』に見える漢詩や和歌の朗詠がもたらす文学空間の中で人がどのようなことばでどのように変容を遂げていくかを辿り、それらの表現が持つ背景について知る。	予習として教科書の第8講P45を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第6回	やまとことの葉を拾う(1)	当該時代の文化事業であった『古今和歌集』の制作理念を理解する。	予習として教科書の第2講P11を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第7回	やまとことの葉を拾う(2)	『古今和歌集』に入集されている和歌を解釈し、和歌を詠むという行為の根底にあるものを探る。	予習として教科書の第2講P14を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第8回	言葉で恋する女たち	小野小町の詠んだ和歌を読解するとともに、その歌をモチーフとして制作された『君の名は。』の構造について概説し、文学の持つ引用の精神を知る。	予習として教科書の第3講P15-16を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第9回	異郷のものと生きる	『うつほ物語』の俊蔭奄流譚を読んで「異界」「異郷」について理解し、併せて映画『シンゴジラ』に通底する精神を知る。	予習として教科書の第4講P19を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第10回	「ひかり」の転生	『竹取物語』に見える話型を理解し、物語の本質にある鎮魂という考えに触れる。併せて「セーラームーン」との共通項を理解する。	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第11回	歴史を書き付ける(1)	『源氏物語』における長編化の仕掛けを知り、世界文学と称される所以を把握する。	予習として教科書の第6講P30を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第12回	歴史を書き付ける(2)	『源氏物語』における恋の場面を分析することの中から、人間存在への理解を深める。	予習として教科書の第5講P29と第6講P33を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第13回	浮舟にあこがれて	『更級日記』の読解を通して平安時代に生きた女性の心情に触れ、現代女性の生き方との相同・相違について考える。	予習として教科書の第12講P60を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第14回	「唐」への二つのまなざし	『浜松中納言物語』と「私は利休」を比較分析し、異国への怖れと憧れという相反した心情と転生についての理解を深める。	予習として教科書の第13講P64を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第15回	振り返り	振り返りシートへの記入を通して客観的に自己の学びを捉え直し、これからの読書活動への展望を持てるようにする。	これまでの授業を振り返るとともに、課題に対するレポートを制作する。	180

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートに記入された質問や意見について、毎週受講者と問題を共有する。
評価方法	レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。振り返りシートは15回目で実施し、レポートは、本授業を通して得られた知見を自らのものとして消化し問題意識を持って作成しているかという観点や客観的に事実を把握したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価する。ネット上の情報を写したものは点数化しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
レポート	○	○	○	○
振り返りシート		○	○	○
課題	○	○		○

評価割合	平常点30%(授業内課題含む)、振り返りシート10%、課題・レポート(前半・期末の2回)60%
使用教科書名(ISBN番号)	井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』翰林書房 定価980円+税
参考図書	授業時に示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会的・文化的背景を持つ人間存在について、文学を通して深く理解することができる。 【思考・判断】文学を通して得られた課題について、自身の思考を深めることができる。 【関心・意欲・態度】多様な他者理解の方法と自分の感性や思考の錬磨に関心をもつ。 【技能・表現】読書行為によって得られた知見や感得した思考を、他者に向けて自分の言葉で表現できる。
オフィスアワー	火曜日3限、千代田三番町キャンパス1807室
学生へのメッセージ	本を読むことは、人生を深く豊かにするアクティブなものだと捉えられてきました。みなさんにも読書の楽しさを味わっていただきたいと願っています。古文が苦手な方も歓迎します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講者の学修にグループ討議場を導入し、意欲的な参加を促す。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、レポート作成時の著作権使用に関する注意を喚起
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	日本の言語と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要 (教育目的)

言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、そのように密接に結びついている言語と文化との関係の問題について、日本語を対象として考察を行っていく。日本語の構造やしぐみ、歴史、表現などについて分析を行い、そこから見出される日本の文化の特質を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めさせることをめざす。

履修条件

なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の言語文化に関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動（ワークシート作業とその報告・分析、資料講読、質疑応答など）に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本語の音声・音韻 1 発音のしぐみ	音声を発するしぐみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	日本語の音声・音韻 2 母音と子音	母音と子音の特徴の違いや、それらの分類基準について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第3回	日本語の音声・音韻 3 音素と異音	音韻論の基本、ならびに、音韻論上の最小単位である音素の概念について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	日本語の音声・音韻 4 音素設定の原則	音素を設定するための作業原則について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本語の文字・表記 1 文字の分類	言語学における文字の分類の枠組みについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本語の文字・表記 2 日本語表記の特色	日本語の文字・表記の特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本語の語彙 1 語彙とは何か	語彙という概念ならびに日本語の語種について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	日本語の語彙 2 語種から見た日本語語彙の特色	日本語の語彙を、語種という観点から分析した場合の種々の特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語の文法 1 文法とは何か	文法概念ならびに文法論の分野について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。	180

			授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	日本語の文法2 日本語のテンス	時間を表す文法カテゴリーのひとつであるテンスについて、その概念ならびに日本語におけるテンスの枠組みを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	日本語と文化1 ことばと文化の関係性	語構成論の基本を理解する。言語と文化の関わりについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	日本語と文化2 サピア・ウォーフの仮説	サピア・ウォーフの仮説について理解する。日本語の語彙と文化との関係について、ワークシートを用いた作業を通じて学ぶ。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と文化3 日本の文化と方言	方言、標準語、共通語の各概念について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と文化4 方言圏論	柳田国男の提唱した方言圏論について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本語と文化5 方言分布のさまざま	方言分布の種々のパターンと、それらの分布パターンから読み解ける事象について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（ワークシート作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
平常点			○	
評価割合	定期試験70%、平常点30%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。			
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】日本の言語文化に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 			
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> 【千代田三番町キャンパス】 金曜3限 1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室 			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業回において、ワークシートを用いた作業と、その作業結果にもとづく報告・分析を行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	文章表現法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要 (教育目的)	ことばを用いて自分の考えや感情を表現し、相手に伝えるという技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生活していく中で欠くことのできない必須のものである。この授業では、文章表現に関する理論的な面からの考察と、実際に文章を書く課題への取り組みとをあわせ行うことを通じて、日本語による表現力を向上させることをめざす。表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの文章表現の上に応用し、実践できる力を養う。
履修条件	なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内課題やペアワーク、グループワークなどに積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現を実践することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性	相手や場面を意識して、必要な情報をわかりやすく伝えることの重要性を理解する。	「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	180
第2回	上手な意見交換の方法を学ぶ	感情的な対立を引き起こさずに、上手に意見交換を行う技術・ポイントについて理解する。	教科書第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」(pp.17-19)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第3回	文章を読解する(アカ)	文章の読み方の種類とその特徴について理解する。精読の方法について理解する。	教科書第6章「文章を読解する」(pp.20-22)を読んでおく	180

	デミツクリーディング)		こと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第4回	文章を要約する(パラグラフの分析)	文章を要約する方法・手順を理解する。	教科書第7章「文章を要約する」(pp. 23-25)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	データをまとめて解釈する	データの収集や解釈にあたって、注意すべき点を理解する。	教科書第8章「データをまとめて解釈する」(pp. 26-28)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	プレゼンテーションを行う1 発表資料の作成	プレゼンテーションの準備に必要な情報収集の大切さを理解する。レジュメの作成方法や、プレゼンテーションの構成の基本について理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」(pp. 41-43)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	プレゼンテーションを行う2 発表の実践	プレゼンテーションの実践と、その後のグループ内での討議を通じて、自身のプレゼンテーションの優れている点ならびに改善すべきポイントについて理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」(pp. 41-43)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ディベートの技法を学ぶ	ディベートに関する基本的事項ならびに論理的に議論する技術について理解する。	教科書第15章「ディベートの技法を学ぶ」(pp. 47-49)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	口頭表現の基礎を押さえる	相手にとって聞き取りやすく、好印象を与える話し方がどのようなものであるかを理解する。	教科書第17章「口頭表現の基礎を押さえる」(pp. 53-55)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	エントリーシートを作成する1 エントリーシートの基本	エントリーシートの書き方の基本について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」(pp. 83-85)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用い	180

			るなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第11回	エントリーシートを作成する2 自己分析の基本	エントリーシートにおいて要点をわかりやすくまとめる技術について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」(pp. 83-85)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	面接のコツを学ぶ	面接の目的を踏まえた上で、具体的なエピソードを交えながら話すことの大切さを理解する。	教科書第28章「面接のコツを学ぶ」(pp. 86-88)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	手紙を書く1 書式の基本	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	教科書第24章「手紙を書く1」(pp. 74-76)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	手紙を書く2 依頼の手紙の基本	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、依頼の趣旨・熱意を伝えるための技術を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」(pp. 77-79)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	手紙を書く3 手紙文作成の実践	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、書式・内容・表現のいずれにおいても礼儀にかなった手紙の書き方を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」(pp. 77-79)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。 ・毎回の授業内で行う課題については、添削を施した上で次回授業の冒頭で返却し、解説を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①課題の意図を適切に理解できている。 ②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。 ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。 ④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。 ・平常点は、授業内に行う練習問題等への取り組み、ペアワーク、グループワーク作業への参加状況等によって評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○		○
平常点			○	

評価割合	授業内課題（トレーニングシート）70%、平常点30%	
使用教科書名（ISBN番号）	福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著（2009）『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂 978-4-385-36326-4	
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】日本語の文章表現に関する豊かな知識を有している。</p> <p>【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく表現し、他者に伝えることができる。</p>	
オフィスアワー	<p>【千代田三番町キャンパス】 金曜3限 1703ゼミ室</p> <p>【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室</p>	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講者の抽選を行う可能性があるため初回授業には必ず出席すること。 ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアワーク、グループワーク、スピーチ発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	外国の言語と文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西川 純子	指定なし

授業概要(教育目的)	他国を知ることで自国を俯瞰的に見る視点を身につけることを目指します。受講生各自がフランスを中心としたヨーロッパの国々について幅広い知識と、学習したことについてまとめてプレゼンテーションやレポートで発表する表現力を習得することを目的とします。
履修条件	ヨーロッパについてフランスを中心に学びますが、フランス語を学習している必要はありません。様々な知識を吸収して視野を広げたいという意欲を受講生には求めます。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	テレビや新聞の国際関係のニュースの理解が深まるように、ヨーロッパやフランスに関する幅広い知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	与えられたテーマについて自らの考察を加えてレポートを作成したり、プレゼンテーション(発表)の準備ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の意見を述べ、他の受講者の意見も真摯に聞くことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	レポートまたはプレゼンテーション(発表)の原稿を形式にのっとり作成できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の説明。現在のフランスを中心としたヨーロッパの状況(移民問題、デモ、テロなど)の状況を解説して、問題提起を行う。	授業の最後に20分ほどの時間をつかって、簡単なレポートを書いてもらう。内容は、1. 授業の前にフランスおよびヨーロッパのどこに興味があるか。2. 授業で取り上げたテーマについての感想。1について、事前に考えてきてほしい。参考図書に興味があるものを読んでくること、テレビ、ネットなどでヨ	60分

			ヨーロッパやフランスのニュースに特に気を付けて欲しい。	
第2回	マリー・アントワネットについて	なぜ、この授業でマリー・アントワネットという人物をあえて取り上げたかを中心に日本とは異なるヨーロッパの状況を説明する。	参考文献のどちらかを読む。また、漫画を読んでも、ソフィア・コッポラの『マリー・アントワネット』などの映画を見てもいいので、当時の雰囲気想像してみる。	120分
第3回	フランス基礎知識	フランスという国について総合的に解説する。	高等学校で使用した地理の教科書のヨーロッパに関するところを読んできてほしい。授業の最後で20分ほどかけて「フランスという国について抱いていたイメージが授業をうけてどう変わったか」を書いてもらう予定なので、「自分がフランスという国に抱いていたイメージ」を頭の中で整理してきてほしい。	120分
第4回	フランス革命への道(1): フランスの王朝の歴史	ヨーロッパの地勢図と王朝の関係とヨーロッパの王朝の特色について説明する。	高等学校の時の世界史の教科書の中世からフランス革命までのヨーロッパの歴史のセクションを読み返してこよう。	120分。
第5回	フランス革命への道(2): ブルボン王朝	ブルボン王朝を中心にフランスの歴史の大まかな流れを説明する。	高等学校の世界史教科書の中世からフランス革命までの読み返しと、前回の授業の復習を必ずすること。	120分
第6回	フランス革命への道(3): バロックとロココ + 小テスト1	ブルボン王朝期の代表的な美術の傾向について解説する。また、ここまでの内容の小テストを行う。	小テストのために復習をして授業に臨むこと。とくに写真集や画集を指定はしないが「ロココ」および「バロック」の絵画や建築の画像を見ておくこと。	120分
第7回	フランス革命(1): 革命のきっかけ	世界に大きな影響を及ぼしたフランス革命がおきたきっかけをアンシャン・レジームの状況から解説する。	高等学校の世界史の教科書を読み返してきてほしい。フランス革命に関する参考文献を授業の時に挙げるので、それらのうちの一つを読むこと。	120分
第8回	フランス革命(2): 革命の経緯	フランス革命の経緯を解説する。	前回の授業の復習をして、授業に挙げた参考文献を読むこと。	120分
第9回	フランス革命(3): 革命とマリー・アントワネットの運命	マリー・アントワネットの処刑とその背景にある女性をめぐる文化的コンテクストについて解説する。	授業中に提示する参考文献を読んでこよう。また、発表またはレポートのテーマについて授業の終わりに書いてもらうので、考えてこよう。	120分
第10回	10. フランスと外国(1): 外国から嫁いできたフランス王妃たち + 小テスト2	フランス王妃の多くがヨーロッパの他国の出身である。王族間の婚姻関係からヨーロッパ成立の背景を解説する。	授業中に示した参考文献を読んでこよう。また、小テストを行うので復習しておくこと。	120分
第11回	11. フランスと外国(2): フランスとユダヤ人	フランスにおけるユダヤ人の歴史と現状を解説する。	授業中に挙げた参考文献を読んでこよう。また、ヨーロッパにおけるユダヤ人の状況を知るために、例えば『アンネの日記』などを読んでこよう(映画でも構わないですが、第二次世界大戦中のユダヤ人に関する映画はショッキングな内容を含むものが少なからずあるので心の準備をして見てください)	120分

学習計画注記

受講者数や授業の進み具合によって変更になることがあります。その際は受講者には改めて学習計画表を配布します。

学生へのフィードバック方法

小テストは実施した週の翌週には返却して、解説を行います。授業の際に書いてもらうリアクションペーパーの提出やディスカッションを通じて、受講者の興味・関心を把握し、次回以降の授業内容に随時反映させていく予定です。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは直前の3～4回の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施します。1回あたりの問題数は10問です。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・小テストは、知識を確実に身につけてもらうために実施します。 ・レポートまたはプレゼンテーションのいずれかを受講者各位に選択してもらいます。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○		○	
	レポート	○	○	○	○
	プレゼンテーション (発表)	○	○	○	○
評価割合	平常点20% (授業への積極的な参加や貢献度、リアクションペーパーへの真摯な回答)、小テスト (30%)、レポートまたはプレゼンテーション (発表) 50%によって評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定しません。適宜プリントを配布します。必要に応じて、参考文献も紹介します。				
参考図書	受講前にできれば読んでもらいたい参考図書 【フランスについて】 ジャック・レヴィ (編) 『地図で見るフランスハンドブック 現代編』土居佳代子訳、原書房 増田ユリヤ『揺れる移民大国』、ポプラ新書 朝比奈美知子・横山安由美編著『フランス文化55のキーワード』、ミネルヴァ書房 【マリー・アントワネットについて】 中野京子『ヴァレンヌ逃亡 マリー・アントワネット運命の24時間』、朝日新聞出版社 シュテファン・ツヴァイク『マリー・アントワネット』中野京子訳、角川文庫				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】外国文化を学ぶことを通じて、人間社会の多様性を豊かな知識をもって理解することができる。 【思考・判断】幅広い視野を形成することで、正確な情報を自ら主体的に集めて適切な判断をすることができる。				
学生へのメッセージ	本講義で扱うのは、主にフランスについての事柄ですが、フランス語を学習している必要はありません。幅広いテーマを対象に知見を高めてもらうことが目的の本講義は、KVA精神のとくに「知識をたかめる」と「徳性 (人間性) を養う」に関連しています。講義した内容から各自が関心を持ったものを、自分なりに深めるよう努めてください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	異文化コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	「文化」「コミュニケーションの種類」「異文化トレーニングの方法」などについて学び、「文化の違いを調整するテクニック」を身につけることを目指す。具体的な場面を想定して、どのような行動をとることがベストであるか考える。授業ではワークシートに基づき自分の考えを時間内にまとめ、発表することが求められる。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、自文化絶対主義に陥らずに他者を尊重できる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の人々の考え方や発想を理解し、異文化の相手に対して配慮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に異文化について理解しようとし、異文化の人々に対して公平な見方ができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化間のトラブルに遭遇してもそれを適切に調整でき、異文化の人々に対しても自分の考えを述べるができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	文化とは何か	文化とは何か考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第2回	コミュニケーション／異文化コミュニケーションの定義	コミュニケーションとは何か、異文化コミュニケーションとは何か、定義を試みる。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	コミュニケーションのメカニズムと特性	言語コミュニケーションはどのようなメカニズムで成立するか、また、どのような特性があるか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	コミュニケーションの内容面と関係面	言語コミュニケーションによる言葉の意味はどのように解釈されるか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分

第5回	言語コミュニケーション	言語コミュニケーションにはどのような方法やスタイルがあるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第6回	非言語コミュニケーションの種類	非言語コミュニケーションにはどのような種類があるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第7回	異文化トレーニング：映像演習	映像を通じて異文化トレーニングの在り方について考える。前半で学んだ内容を復習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第8回	中間試験と解説	この授業の前半で学んだ内容について中間試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	授業の前半に学んだ内容を復習しておく。	120分
第9回	エンパシー・シンパシー	エンパシー（共感）とシンパシー（同情）の違いについて考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第10回	コンフリクト・マネジメント	異文化間における対立管理の在り方について考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第11回	異文化トレーニング：DIEメソッド	DIEメソッドは何のためにどのような手順で行うか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第12回	異文化トレーニング：アサーティブ・コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーションとはどういうことか。また、どのような種類があるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第13回	異文化トレーニング：エポケー	エポケーとは何のために、どのようなメソッドか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第14回	異文化学習サイクル	異文化において新しく出会うさまざまな出来事について、私たちはどのように学習するか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第15回	異文化適応とカルチャーショック	異文化に適応できるとはどのようなことか、カルチャーショックとはどのような現象か理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第16回	期末試験と解説	この授業の後半で学んだ内容について期末試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は次学期に希望者に返却する。
評価方法	中間試験、期末試験、平常点（授業中の実績、授業参観態度）により判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	授業中に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、状況を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】 積極的に異文化の人々とコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性を持って人々のために働くことができる。 【技能・表現】 学修で得た異文化に関するさまざまな知識を踏まえて自分の考えを自信を持って表現し、他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ	授業には積極的に参加し、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を自信を持って述べて下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	音楽		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

音楽鑑賞の基本である「よく聴くこと」のために、サウンド・エデュケーションを行います。その一環として、サウンドウォークの実践や音日記を紹介し、その実践に取り組んでいただきます。講義では、人と音楽の関係、西洋音楽の歴史、民族と音楽、ジャズとクラシック、日本の音楽など、多様な音楽を視聴と解説を行います。音楽鑑賞に集中できるよう、クイズを導入した講義も行います。
なお、講義時に次回のテーマをお話しますので、関連文献や音楽作品の視聴を積極的に行ってください。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	音楽の歴史と音楽様式の変遷をたどりながら、さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、人を癒し励ましてきた音楽の魅力を探る。
思考・判断の観点 (K)	さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、その発信するものを感じ、言い表そうとするものを探求する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	音楽を愛する心情を養う。 異なった時代や社会における音楽を通して、人間理解や共感を深める。
技術・表現の観点 (A)	サウンド・エデュケーションの体験を通して、「音」・「音楽」への聴き方をとらえ直す。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：聴くことの再考①	サウンドエデュケーション：よく聞くことの教育	サウンドスケープ、サウンドエデュケーションについて調べておく。	150分
第2回	聴くことの再考②	サウンドウォーク、音日記の演習	1週間の音日記を作成する。	240分
第3回	聴くことの再考③	五感で感受する音・音楽：『タッチ・ザ・サウンド』の視聴	感想レポート「五感で音楽を感受するということについて」	150分
第4回	人間と音楽①	音楽の起源・音楽の機能について	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第5回	人間と音楽②	音楽を聴取し、音の表情や音楽に込められた情景・感情を感受する。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分

第6回	西洋音楽の鑑賞①	ルネサンスからバロックの音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第7回	西洋音楽の鑑賞②	古典派の音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第8回	西洋音楽の鑑賞③	ロマン派の音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第9回	西洋音楽の鑑賞④	印象派の音楽から現代音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第10回	音楽と人間と社会	『魂の教育 エル・システム』の鑑賞とディスカッション	音楽が人の心に及ぼす影響、音楽の教育力について考えておく。	240分
第11回	民族と音楽①	民族の音階と音楽（実演を聴く）	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第12回	民族と音楽②	民族音楽の楽器や歌唱について発表する。	グループごとに担当地域を決めて、民族楽器や歌唱の特徴を調べておく。	240分
第13回	ジャズとクラシック	ジャズとクラシックについての聴き比べ。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第14回	日本の音楽	日本の伝統音楽	グループごとに担当地域を決めて、民謡やお祭りの音楽について調べておく。	240分
第15回	日本の音楽②	近代から現代の音楽。童謡・唱歌等の歌唱を含む。	歌唱曲の譜読みをしておく。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合があります。				
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートには、講義テーマに関する予習内容、講義の中での気づき、講義内容についてさらに調べたこと（復習）を記載し、翌週の講義で提出していただきます。提出されたリフレクションシートやレポートは、採点して返却します。質問等がある場合は、その中に付記していただくと、講義の中でお答えします。				
評価方法	課題評価の観点はこの通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽を体の諸感覚で感受し、分析的に聴こうとしているか。 様々な表現力を持つ音楽が発信するものを感じ、言い表そうとする内容を探求しようとしているか。 それぞれの時代の音楽の社会・文化との繋がりに関する理解。 他者の感受した内容に共感することを通し、自身の音楽鑑賞を深めているか。 音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する理解。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	音日記		○	○	○
	リフレクションシート	○	○	○	
	グループ討議・発表とそのまとめ	○	○	○	○
評価割合	音日記 (20%)、リフレクションシート：講義内容の感想および予習・復習を含む (60%)、期末レポート (20%) で評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし (プリント配布)				
参考図書	片桐 功他著「はじめての音楽史」(音楽之友社) 岡田 暁生著「音楽の聴き方」(中公新書) 伊福部 昭著「音楽入門」(角川ソフィア文庫) 青島 広志著「これだけ!西洋音楽史」(KING RECORDS) CD				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】 音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する知識を広げ、文化的に豊かな社会に向けての提案をすることができる。 【関心・意欲・態度】 様々な表現力を持つ音楽が発信するものを体の諸感覚で感受し、豊かな感性を育む。 【技術・表現】				

	音楽を分析に聴いたり、他者の感じたことに共感して自己の鑑賞を深めたりすることを通し、論理性や共感性を育む。
オフィスアワー	前期 月曜日 3限 1601 後期 水曜日 2限 1601
学生へのメッセージ	ぜひ様々な音楽に興味を持ち、積極的な態度で授業に臨んでください。質問等は随時受け付けています。イヤフォンを外し、身のまわりの音・人の声に耳を澄ませてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	プロの演奏家の特別講義を実施し、生演奏に触れる。
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識を持ち、感じたことの裏付けとなる音楽の特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。
情報リテラシー教育	○	レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	美学・美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 久々湊 直子	指定なし

授業概要(教育目的)

当授業は先史・古代からの美術の流れを概説する講義です。現在われわれが「美術館の中に安置された《美しいもの》」と考えがちな美術作品たちが、いかに多様な機能を持っていたか（そして今も持っているか）を知ってもらい、美術作品が生々しく、多弁で、多面的であるかということをとらえ分ち合うことを目的としています。形式は講義ですが、参加者には授業中の発問応答や毎回取り組んでもらうワークシートを中心に積極的に授業に参加していただきます。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多くの作例に触れて視覚的知識を蓄えてもらい、その中で、西洋美術の大きな流れや時代ごとの様式の違いを識別できる様になること、シンボル・象徴・アトリビュートといった視覚文化特有の「決まりごと」を知ること、頻りに視覚化されてきたキリスト教主題、ギリシア・ローマ主題の内容と典拠についての知識を身につけてもらいます。
思考・判断の観点 (K)	制作背景・時代背景、社会との結びつきなど、作品周辺の事情とともに作品を観察し、分析・考察し、それを言葉で表現する訓練もワークシートを通じて授業内で繰り返し行ってもらいます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内の発問応答やワークシートを通して、単なる受動的な講義授業でなく、手と目と頭を動かして美術について豊かに接し学んで意欲を示していただきます。授業外でも展覧会見学の課題が課せられ、フィールドワークにも取り組んでいただきます。
技術・表現の観点 (A)	ワークシートによる表現の訓練はもちろん、特にフィールドワークの課題となる「展覧会見学カード」では、紙面での画像選択プレゼンテーションや表現工夫の独創的なアイデア創作に取り組んでいただきます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1回 ガイダンス(履修と講義内容の説明/参考文献の紹介)	毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。時にはペアワーク、グループワークなどの取り組みもあります。	毎回配布される翌週の予習レジュメを基にテーマ、キーワードの検索作業を行っていただきます。また、返却されるワークシートは復習用のツールとして活用していただきます。またフィールドワークとして展覧会見学と「展覧会見学カード」のワークに取り組んでいただきます。 (予習復習毎週1時間計15時間)「展覧会見学カード」は事前課題・現地課題・事後課題が用意され、それぞれ観察・検証・考察・紙面プレゼンテーシ	計30時間

			ヨンの力を発揮していただくワークとなっています。(フィールドワークに伴う学習計15時間)	
第2回	第2回 先史とエジプトの造形～人が形を象ること～	以下同様	以下同様	以下同様
第3回	第3回 古代ギリシア・ローマの発想～外界を写すこと、理想の形を求めること～	以下同様	以下同様	以下同様
第4回	第4回 キリスト教美術の始まり～形態の抽象化とシンボルの世界～	以下同様	以下同様	以下同様
第5回	第5回 ロマネスク・ゴシックの美術～教会という権力・メディア～	以下同様	以下同様	以下同様
第6回	第6回 ルネサンス～古代を学び復興するという発想～	以下同様	以下同様	以下同様
第7回	第7回 初期ルネサンスと北方ルネサンス：古代を復興する夢／細部に神の宿る絵画	以下同様	以下同様	以下同様
第8回	第8回 盛期ルネサンス：ローマと法皇たちの攻防とヴェネツィア	以下同様	以下同様	以下同様
第9回	第9回 バロック・ロココ～教会・宮廷の権力と芸術の役割～	以下同様	以下同様	以下同様
第10回	第10回 新古典主義とロマン主義～権威となった様式、対抗する様式～	以下同様	以下同様	以下同様
第11回	第11回 写実主義から印象派へ～広がる芸術の裾野～	以下同様	以下同様	以下同様
第12回	第12回 印象派と後期印象派～展覧会と美術の制作～	以下同様	以下同様	以下同様

第13回	第13回 世紀末美術と象徴主義～美術と工芸・デザインの融合～	以下同様	以下同様	以下同様
第14回	第14回 フォーヴィスム・キュビスム～20世紀美術～前衛という発想～	以下同様	以下同様	以下同様
第15回	第15回 テクニカルチームのまとめ	以下同様	以下同様	以下同様

学習計画注記	<p>毎回取り組んでもらうワークシートは、授業内容の理解促進と定着を図るものであると同時に、前回授業の復習や次回授業の予習が含まれています。授業内でノート代わりに使用すると同時に、返却後は予復習のツールとして授業外学習に活用し、豊かな学習時間を積極的に自ら作ることに努めてほしいと思います。さらに、毎回の授業では、次回用のレジュメが配布されます。授業の最後に、次回の授業内容のキーワード、時代、作家などを知らせるので、それを書物や検索機能で調べ、予習用に配布したレジュメに目を通して読み、自ら授業をより充実した学習時間にしてほしいと思います。</p> <p>授業とは別に、展覧会見学(自費)の課題が大切な学習時間の可能性を開いてくれます。「展覧会見学シート」(A3両面)は提出物として評価されるものもありますが、そこには事前課題、現地課題、事後課題の3種類のタイプの学習が用意されています。そのための調査、考察、プレゼンテーション、創案の努力は、学生本人の熱意しだいで質の高い経験学習の機会となり得ます。特に事前課題は展覧会だけでなく、授業内で身に付けてほしい知識の定着を図るものでもあるので、授業と連動した学習として取り組んでほしいものです。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	<p>学習計画で示しているように、授業内の発問応答によるフィードバックはもちろんですが、ワークシートや展覧会見学シートは、全てコメントもしくは口頭講評を添えて返却されます。</p> <p>また、毎回授業の初頭15～20分ほどは前回授業の復習になり、強調や誤解修正の機会として講評コメントがされる時間です。返却された自分のワークシートを参照しながらフィードバックを受け取る時間として用意されています。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	<p>授業態度(ワークシート)、提出物(展覧会見学シート)、試験をもとに総合的に評価します。</p> <p>試験は多少の知識問題と記述問題(課題は事前発表)を含みます。</p> <p>提出物のうち、展覧会見学シートは単位取得必須条件です。</p> <p>(提出後の返却物は評価確定まで必ず保管してください。)</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート(提出物)	○	○	○	○
展覧会見学シート(提出物)	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合	ワークシート(3割)、展覧会見学シート(3割)、試験(4割)を大まかな目安としています。
------	----------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定しません。その代わり展覧会見学(自費)と「展覧会見学シート」が単位必須条件となります。
-----------------	-----------------------------------------------------

参考図書	参考図書類は授業内で適宜紹介します。初回の授業のガイダンスはとくに重要なので、受講希望者は初回授業に参加してください。
------	-------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	質問や指摘等は授業時(前後休み時間)に受け付けます。
---------------	----------------------------

学生へのメッセージ	視覚文化に対して熱意のある学生諸氏に向けた授業です。知識を持った人よりもやる気や積極性を持った人に向いています。また、いわゆる「美術」だけでなく、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、舞台など、現代の視覚文化に興味を持つ人の参加も望んでいます。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発問応答、授業内ワークシート、フィールドワーク、プレゼンテーション(紙面)といったアクティブラーニングの諸要素を含み、能動的な参加を求める講義となっています。

情報リテラシー教育	○	とくに西洋視覚文化独特の読み解きや意味・象徴のリテラシー(発信)の教育に意識的なプログラムとなっており、異文化理解や自文化との差異、比較文化の情報リテラシーを学びたい人にも適しています。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	色彩論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 滝沢 真美	指定なし

授業概要(教育目的)	色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標としている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 業際的に広がる色彩の果たす役割を知り、リベラルアーツとしての色彩の基礎知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	1. 好き、嫌いではなく、よい色の使い方、悪い色の使い方を、理論的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グローバルな視点で「日本の色とは何か」を説明できる。 2. 「カラーユニバーサルデザイン」を学ぶことで、万人に伝わる色彩情報の伝え方を理解する。 3. 1と2の2つの観点から、色彩を通して現代社会を考える。
技術・表現の観点 (A)	1. 学問としての座学の色彩学に加え、自分の生活で応用できる実践的な配色テクニックやセンスアップの方法を学び、自己表現できるようになるとともに、配色によって美しい環境をつくる方法を理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	色とは何かを知り、色彩の果たす役割を理解する。色彩検定、カラーコーディネーター検定、色彩業界の今について紹介する。15回の授業の全体像を理解する。センスレベルチェックを行う。	センスレベルチェックの結果を基に、改善すべき方向性を確認する。	30分
第2回	色とは何か、照明と色	色を見るための光について理解する。自然光と人工光を含めた照明について理解する。	授業時に配布したプリントを熟読し、2回目のテーマ「色とは何か、照明と色」について復習する。	90分
第3回	色が見える仕組み、色覚説	目の構造を学び、網膜の中の錐体細胞、桿体細胞の役割を理解する。色弱がなぜ起きるか、その仕組みを理解する。代表的な色覚説についてを理解する。	授業時に配布したプリントを熟読し、3回目のテーマ「色が見える仕組みと色覚説」を復習する。	90分

第4回	色の混色	加法混色、減法混色の原理、三原色、応用分野を理解する。加法混色的一种である中間混色について理解する。特に、加法混色と減法混色に関しては、色紙を貼付しながらビジュアルで理解を深める。	授業時に配布したプリントを熟読し、4回目のテーマ「色の混色」について復習する。テレビ画面、印刷画面をルーペで拡大し、実際のもので確認しておく。 6回目以降の授業で使うHUE&TONEシステムの一覧表に、色紙を貼付しておく。方法については授業時に説明する。	120分
第5回	色の伝達方法 1色名 2様々なカラーシステムの紹介	色を伝える方法として、まず色名について理解する。そのために、自分の知っている色名を各自が書き出し、授業の中で発表してもらおう。その結果を基に、色名の分類方法について学ぶ。特に慣用色名の中で知っておきたい色名を紹介する。次に、色を伝える方法として代表的なカラーシステムを紹介する。	知らなかった色名について復習する。授業時に配布したプリントを熟読し、色名の分類について理解をする。教科書1章1節表色系の分類(P9)を読み、カラーシステムの大分類を復習する。代表的なカラーシステムのうち、この授業で触れないカラーシステムについては、参考文献を使って確認をしておく。色彩検定またはカラーコーディネーター検定受験希望者は、復習時間を長めにとること。	90分～120分
第6回	マンセル表色系	マンセル表色系の色の三属性について理解する。特に、色相について、色紙を使いながら理解を深める。	授業前には、教科書1章2節のマンセル表色系(P10～13)の部分を予習しておく。修了後には、理解できていない部分を中心に復習をする。	120分
第7回	HUE&TONEシステム トーンの仕組み	マンセル表色系を基にしたHUE&TONEシステムについて理解する。特に、教科書1章3節HUE&TONEシステム(P14～23)を使って、明度と彩度を一緒にしたトーンを理解する。トーンについても色紙を使って、ビジュアルで確認しながら理解する。	4回目の教室外学習で作成したHUE&TONE表を準備しておくこと。 授業前には、教科書1章3節HUE&TONEシステム(P14～23)を読み予習しておく。授業後には、特にトーンの2分割、4分割について理解できているか復習する。	120分
第8回	マンセル表色系とHUE&TONEシステムのまとめ	2つのシステムの表記方法の違いと、メリット、デメリットを理解し、使い分けができるようになる。色相の果たす役割、トーンの果たす役割を理解する。HUE&TONEシステムを使った応用として、色紙を使って嗜好色診断を行い、自分のカラーボックスを確認する。カラーデータの収集方法や分析方法についても、教科書第2章1節インテリア慣用色を事例に説明する。	教科書1章全体を熟読し、マンセル表色系とHUE&TONEシステムについて復習する。嗜好色診断の結果を基に、自分のクローゼットの中の洋服の色や身の回りにある色について観察する。自分の好きな色、嫌いな色について、具体的にカラーシステムの中で理解しておく。	120分
第9回	補色残像、対比、同化、色の心理的効果	色紙を使って補色残像の実験を行い、人間の色の見え方の中で生理的現象について確認する。色は単独では存在せず、置かれる場所や組み合わせによって違って見えることを、対比と同化の2つの観点から、色紙を使って自分の目で確認しながら理解する。色の心理的効果を理解する。	対比、同化に関しては、授業で紹介した事例を自分の生活の中で確認しておく。色の心理的効果に関しては、授業時に配布するプリントを熟読し復習する。また、授業時に紹介した絵画の例は、実際の美術館に向いたり、それが難しい場合は書籍で確認しておくことが望ましい。	120分
第10回	2つの色の関係 配色実習1 まとまりときわだち	配色の基本としての2つの色の関係について、色相での考え方とその効果、トーンでの考え方とその効果を理解する。まとまり(同系色、トーンのコントラスト弱)ときわだち(反対色、トーンのコントラスト強)の配色テクニックを、教科書3章1節(P41～43)で理解した上で、実際に自分のオリジナルで作成する。	教科書3章1節(P41～47)を通読し、特にまとまり、きわだちのテクニックの部分がきちんと理解できているかどうか確認する。授業中に配色実習1が修了しない場合は、その続きを行い、次の授業時までには終わらせておくこと。	120分
第11回	配色実習2 トーン配色と色相配色 配色実習3 グラデーションとセパレーション	教科書3章1節(P44～45)を読み、トーン配色(同系色で濃淡をつけた配色)と色相配色(多色相を使ったカラフルな配色)の2つの違いを理解し、実際の色紙を使ってオリジナルで配色する。次に教科書3章1節(P46～47)を読み、グラデーション(漸変)とセパレーション(分離)の2つの違いを理解し、実際の色紙を使ってオリジナルで配色する。	教科書3章1節(P41～47)を通読し、トーン配色と色相配色、グラデーションとセパレーションについて理解ができているかどうか、確認する。授業中に配色実習1が修了しない場合は、その続きを行い、次の授業時までには終わらせておくこと。第13回の配色トレーニング実習に向けて、課題に合った配色が作成できるかどうか、全体的に確認をしておく。	120分

第12回	配色センスアップの方法、カラーユニバーサルデザイン	教科書3章2節 (P48~58) と配布資料を併用しながら、配色センスアップの具体的な方法を理解する。カラーユニバーサルデザインに関しては、教科書3章2節 (P58~59) とCUDO (カラーユニバーサルデザイン機構) のサイトや書籍を紹介するので、その考え方や対策について理解する。	教科書3章2節 (P48~59) を熟読し、12回の2つのテーマについて復習する。視認性の高い配色について、第3回の網膜の中の細胞の役割から説明できるかどうか、確認する。できない場合は、第3回の教室外学習を再度行うこと。	120分
第13回	配色トレーニングシート作成実習	配色トレーニングシートの課題に沿って、実際の色紙を使って配色を作成する。この課題シートの提出によって、配色実習の評価を行う。	授業中に終わらない場合は、教室外で作成し、期日までに提出すること。	90分~150分
第14回	色彩心理、カラーイメージ、生活の中の色	教科書4章 (P62~87) を使って、主要な色のカラーイメージを確認する。その色が生活の中で具体的にどのように使われているかを確認し、カラーイメージを正しく伝える方法を理解する。教科書2章2節と4節 (P29~32 & P38) を使って、生活の中で重要な7つの基本色について、その役割と使い方についても理解する。	教科書4章 (P62~87) を熟読し、主要なカラーイメージとその応用方法について理解する。授業の中で簡単に紹介するイメージスケールについても、教科書5章1節 (P117~121) を通読しておくこと。	120分
第15回	色と文化、日本の色全体のまとめ	日本の色だと思える単色を選びとその理由を自ら考える。その上で、前回までの受講生が考えた日本の色のデータと比較し、自分の考えとの違いを確認し、日本の色の特徴を説明できるようにする。配布資料を使って、日本の色彩文化として知っておきたいキーワードの五行思想、冠位十二階、襲色目、四十八茶百鼠について理解する。最後に15回の授業内容の全体を振り返る。	日本の色の特徴や、色名を伝えられるようにしておく。期末試験に向けて、第10回~第13回を除く全ての総復習を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	配色実習1、2、3の課題は、授業中にできた状態で順次確認し、間違いがあれば指摘して修正をしてもらう。この時点で理解できていないと、第13回の配色トレーニングシートが作成できないので、注意すること。配色トレーニングシートは全員返却するが、課題に対して不適當な箇所のみ添削する。 検定対策の授業ではないが、授業の中で検定で出題される部分に関しては、その旨アナウンスする。また、その箇所に関して質問がある場合は、質問を受け付け、授業にて解説する。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験、配色トレーニングシート、平常点（出席状況や授業態度を総合的に判断する）の3つにより総合的に判断する。15回のうち、3分の2以上の出席のないものと、配色トレーニングシート未提出者は、定期試験の受験資格はないため不合格となる。定期試験はキーワードの穴埋め形式で、60点以上で合格とする。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
配色トレーニングシート	○	○		○
平常点				

評価割合	定期試験80% 配色トレーニング実習シート15% 平常点（出席状況や授業態度）5%
------	-------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	住宅インテリアのための実践カラーテクニク 滝沢真美 (トソー出版) 978-4-904403-21-1 デザイントーン130 配色用色紙ロング台紙付 (日本カラーデザイン研究所)
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

参考図書	カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版 大井義雄・川崎秀明 (日本色研事業) カラーコーディネーター検定試験3級 公式テキスト第4版 カラーコーディネーションの基礎 (東京商工会議所) カラーユニバーサルデザイン カラーユニバーサルデザイン機構 (ハート出版)
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考URL	http://www2.cudo.jp/wp/
-------	---------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 日常生活に欠かせない色彩を幅広い角度から総合的に理解する。 【関心・意欲・態度】 カラーユニバーサルデザイン、日本の色を通して、現代社会の一員として、自らのあり方を考える。 【技術・表現】 配色テクニクを身につけることで、美しい環境作りの方向性を理解する。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	1. 日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なものに触れる機会を意識して増やしてほしい。 2. 授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。そのため、事前準備は適宜指示するので、準備を済ませてから授業に臨むこと。 3. 教科書、教材、のり、はさみは毎回持参すること (のりは口紅タイプかテープ状) 4. 配布したプリントや色紙の紛失には十分注意すること。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第6回～第14回は、日本カラーデザイン研究所の色彩基礎セミナーで企業向けに行っている内容を、学生向けに噛み砕いて講義を行う。結果として、生活の中で実践的に使えるカラーテクニックが学べるようになっている。
アクティブ・ラーニング	○	実際の色紙を切る、貼るという作業や、具体的な配色を作成するなど、演習的な要素を盛り込んだ授業となっている。また、色名、カラーイメージ、日本の色などを考えさせ、発表させることで、参加型の授業となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	民俗学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	民俗学は、衣食住をはじめ、信仰儀礼、伝説、妖怪、生業、社会構造などに関する有形、無形の資料を利用して、過去の暮らしを考えると同時に、これからの暮らしの行く末を見定め、また実践していく学問である。西洋からの受け売りではない、日本の学問である民俗学の成り立ちを多くの事例を用いつつ丁寧にみていくことで、単なるオカルト趣味ではない民俗学の思想・理念を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	民俗学の成り立ちと現状を知ること、民俗学が(特に現代)社会の中でもつ役割を理解できる。
思考・判断の観点(K)	民俗学の成果が日常生活のなかでどのような意義もつのか、またその限界や課題についても思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	民俗学の方法・視座や成果について、自らの興味関心と関連づけながら捉えてみるができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

民俗学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(1): 文学から農政学、そして民俗学へ	柳田國男が民俗学を立ち上げるに至った経緯を、彼の生い立ち、江戸から明治への時代背景などを手がかりに考察します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、『遠野物語』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第2回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(2): 「山人」と「天狗」をめぐって	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分けられる。その第一期、山人(先住民)論について、天狗などの妖怪をめぐる民俗、狩猟習俗などを手がかりに解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、『遠野物語』『妖怪談義』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第3回	民俗学のあ	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分け	教科書に適宜目を通しておいて	180分

	けぼの～柳田國男の足跡(3): 周圏論と民俗語彙の可能性	られる。その第二期、田舎に古い文化の見られる事実、そこでの言葉の持つ文化力について、方言や年中行事(正月やお盆など)をめぐる民俗を手がかりに解説します。	ください。また時間があれば、『遠野物語』『妖怪談義』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	
第4回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(4): 「稲作」と「沖繩」からのぞく社会	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分けられる。その第三期、稲作をめぐる固有信仰と、日本列島にみる沖繩(南島)の文化的重要性について、柳田晩年の著作をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、『先祖の話』『海上の道』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第5回	もう1つの民俗学～渋沢敬三の足跡(1): 民具・「モノ」への視角	柳田に遅れて起ち上げられた、もう一つの民俗学、すなわち「モノ」を対象とした人々の伝承的生活へのアプローチを紹介し、その可能性について考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、民俗学(民具)に関する博物館図録などにも目を通してみてください。	180分
第6回	もう1つの民俗学～渋沢敬三の足跡(2): アチックミュージアムと文化財保護	「モノ」を対象とした民俗学と博物館および文化財保護との関わりについて、いくつかの具体的事例をもとに考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、民俗学(民具)に関する博物館図録などにも目を通してみてください。	180分
第7回	伝承文学と芸能から～折口信夫の民俗学(1): 依り代論と祭祀	柳田の後を追うように起ち上げられた折口信夫の民俗学、特になどの神社などでの祭祀と神霊を迎える依り代(よりしろ)との関係性とその変遷について、いくつかの事例をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、折口信夫の著作にも目を通してみてください。	180分
第8回	伝承文学と芸能から～折口信夫の民俗学(2): マレビト論と常世	柳田の後を追うように起ち上げられた折口信夫の民俗学、特に常世なる異世界から定期的に訪れるマレビトをめぐる民俗について、いくつかの事例をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、折口信夫の著作にも目を通してみてください。	180分
第9回	民俗学と歴史学～柳田・渋沢・折口以後	柳田・渋沢・折口以後の民俗学が何を受け継ぎ、どこをどう発展・展開させたのかを、特に和歌森太郎の民俗学への発言を手がかりとして考察していきます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第10回	民俗学の展開～重出立証法と個別分析法	民俗学にとって学的方法とは何か、柳田理論を批判・否定しつつ議論された伝承母体論を紹介し、地方史・地域史と民俗学との関わり、あるいは地域社会の中での民俗学の立ち位置について考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第11回	民俗学と地域社会～崩壊する地域と民俗	民俗学は地域をどう捉えられるのか、そしていかに救えるか、について、「郷土」、「伝統」などをキーワードを用い、いくつかの現場での事例を交えて考えてみます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第12回	民俗学と都市～経済成長後の社会を捉える	二次・三次産業へのウエイトが高い都市ね民俗学の視座・方法はどのように対応できるか、について江戸時代の町場から明治以降の近代都市まで幅広く見ながら考察します。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第13回	民俗学と国際社会～グローバル化のなかの民俗学	国際化する社会に民俗学はどのように向き合えるのか。グローバルというキーワードをもって国際化に民俗学的な視座と方法で向き合う可能性を考えます。また、東アジアの諸国をフィールドとする比較民俗学の動きにも言及します。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第14回	民俗学と現代社会(1)～民俗の「再生」	現代社会を民俗学はいかに捉えられるか、特にフォークロリズム(民俗っぼさ)という切り口から、具体的事例を交えて考えてみます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第15回	民俗学と現代社会(2)～民	現代社会を民俗学はいかに捉えられるか、特に文化・観光資源という切り口から、具体的事例を交えて考えてみます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分

	俗の「活用」																											
学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																											
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。提出された疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で適宜補足説明をしていきます。																											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。基本的には講義の感想・意見等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を望みます。 ・定期試験は、講義全体の中でとりあげたいいくつかテーマのうちから、適当なものを選択して自身の見解等も交えて論じてもらいます。 																											
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リアクションペーパー</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	リアクションペーパー	○		○		定期試験	○	○	○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																								
リアクションペーパー	○		○																									
定期試験	○	○	○																									
評価割合	リアクションペーパー（毎回）（30%）、定期試験（70%）で評価します。																											
使用教科書名 (ISBN番号)	『はじめて学ぶ民俗学』【ミネルヴァ書房・2015年】 ISBN-10: 4623071251 ISBN-13: 978-4623071258																											
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																											
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 民俗学が社会の中でもつ役割を理解できる 【思考・判断】 民俗学の視座・方法と成果の何が日常生活を考えるうえで有益であるか判断できる 【関心・意欲・態度】 民俗学の視座・方法と成果を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる 																											
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。																											
学生へのメッセージ	受講するにあたっては、教科書のほか授業内で触れた著作に目を通すなどして予習・復習してください。また、普段から身のまわりの民俗文化と考えられる事象を観察してみてください。私たちの周りには、何気なく展開している民俗文化が数多くあります。どのような民俗文化を持つ社会に生まれ、過ごしてきたかは、その人の属性に関わる重要な問題です。それらを考えることにより、自分とはどのような存在なのかを改めて確認できるはずで、それは各自が今後の人生を歩む上での指針の一つともなりえるものです。																											
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																										
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。																										
アクティブ・ラーニング																												
情報リテラシー教育																												
ICT活用																												

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	考古学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小瀬 康行	指定なし

授業概要(教育目的)	考古学は、過去の人類が残した遺跡や遺構、遺物などを研究することによって、当時の生活や文化を明らかにする。そのために本講義では、何をどのように研究するのか、考古学研究の理論と実践の基礎を体系的に学ぶ。通史的な概説をおこなうとともに、考古学の研究成果を紹介しながら授業をすすめる。この授業を履修することによって、考古学研究に必要な基礎的な知識を修得し、同時に埋蔵文化財に対する理解を高める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	考古学の視点から、歴史の再構築の方法について理解できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、その保護に関する意識を高める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な歴史文化財にひろく目を向け、また博物館・資料館における考古学展示に対する関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

考古学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	考古学とは何か?	・第1回では、まず本講義の概要について説明し、あわせて評価方法についてのガイダンスをおこなう。その後、考古学の定義と歴史学との関係について説明して、次回からの講義の導入とする。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第2回	考古学のあゆみ(1) -ヨーロッパ-	・イタリヤルネサンスで関心がもたれた古典文化の器物や美術品、北欧の遺跡と遺物に対する見方、さらにシュリーマンに代表される考古学研究について考える。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第3回	考古学のあゆみ(2) -日本1-	・わが国の考古学の萌芽期として『常陸風土記』における巨人伝説から、江戸時代の徳川光圀による発掘調査と那須国造碑について考える。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。	60分

			2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	
第4回	考古学のあゆみ(3) —日本2—	・わが国ではじめて科学的方法にもとづいて発掘調査された大森貝塚とE. モースを概観することにより、近代科学としての日本考古学の成立について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第5回	考古学のあゆみ(4) —日本3—	・弥生時代の代表的遺跡である吉野ヶ里遺跡を事例として、環濠集落や各種の遺構や出土遺物について概観するとともに、遺跡保存の意味も考えてみる。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第6回	考古学と層位学的方法	・考古学における歴史的叙述の第一歩は「いつ」を明らかにすることであり、その考え方の一つが相対的年代である。ここでは層位学的方法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。 3. 小テスト(1)：授業のはじめに、これまでの講義内容について小テストを行うので、復習しておくこと。	90分
第7回	考古学と型式学的方法	・遺物の外観や技術などの差異から新旧を決める相対的年代法がある。ここでは0. モンテリウスが確立した型式学的方法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第8回	理化学的年代測定法	・理化学的手法を用いて実年代を明らかにする絶対年代法がある。ここではC14年代測定法、地磁気年代法、そのほかに年輪年代法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第9回	映像研究1 —発掘調査のプロセス(1)—	・発掘調査が実際におこなわれるまでの手順について講義する。あわせて遺跡の分布調査、事前発掘、発掘調査などを映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第10回	映像研究2 —発掘調査のプロセス(2)—	・発掘調査で出土した遺物の整理と分析について講義する。あわせて注記・土器接合・拓本・実測・撮影などの諸作業を映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第11回	映像研究3 —貝塚の調査研究—	・具体的に貝塚のあり方とその調査方法について講義する。あわせて台地上に広がる貝塚と低地のある貝塚を事例としてとりあげ映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第12回	映像研究4 —古墳の調査と保存(1)—	・古墳の形態・分布・保存について幅広く講義する。あわせて多摩地域の古墳を事例としてその形態と歴史的な位置づけについて映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第13回	映像研究5 —古墳の調査と保存(2)—	・先回に引き続いて、古墳のあり方と古墳の保存の意味について講義する。あわせて多摩地域の古墳を事例としてその形態と歴史的な位置づけについて映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第14回	映像研究6 —漆紙文書の出土—	・常磐自動車道路の建設に伴う事前調査で発見された常陸国府跡と関連遺跡について講義する。とくに漆紙文書など出土遺物について映像で確認し、理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	90分

			3. 小テスト（2）：授業のはじめに、これまでの講義内容について小テストを行うので、復習をしておくこと。		
第15回	埋蔵文化財と公開	・出土した考古遺物は整理・調査されたあと文化財として博物館において展示公開されることが多い。展示までのプロセスについて講義するとともに、その様子を映像で確認し、理解する。最後に15回の講義の総括をおこなう。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分	
学生へのフィードバック方法		2回の小テストによって学習到達度をはかる。そのため小テストのあとただちに解説をおこない、疑問点やあいまいな点をその場で解決する。また学習カードに講義内容に関する質問や疑問点がある場合には回答、解説をおこなう。			
評価方法		評価は、「小テスト（1）」、「小テスト（2）」、「学習カード」、「レポート」によっておこなう。 1. 小テストは、講義内容の学習到達度をはかることを目的として、2回実施する。 2. 学習カードは、毎回の講義内容を簡潔にまとめて提出し、次回に返却する。 3. レポートは、講義で学んだことを博物館等の展示資料で確認し報告する。 以上、評価は以上の4点によっておこなうため、期末試験は実施しない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト（1）	○			
	小テスト（2）	○			
	学習カード	○	○		
	レポート	○	○	○	
評価割合		小テスト（1）（20%）、小テスト（2）（20%）、学習カード（20%）、レポート（40%）で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		授業中に配布するプリントを使用する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】・【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働くことができる。			
学生へのメッセージ		考古学は恐竜や化石について研究する学問ではありませんので、科目登録にはご注意ください。考古学は人類が残した遺跡や遺構、遺物などを研究することによって、過去の人類史を再構築し叙述する学問です。多くの実物資料を実際に見ることが理解につながりますので、博物館や資料館に積極的に見学するようにしましょう。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	遺跡の分布調査、発掘調査、遺物の整理、復元、実験考古学など実務経験にもとづいた講義をおこなう。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	基礎数学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要 (教育目的)	高校までの数学は、どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では、まず、高校までに学習した数学 I・数学A・数学 II・数学B・数学 IIIの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで、知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に、それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて、事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	文章題 1 (料金の割引)	タイムセール、まとめて商品を購入するとき、団体でサービスを利用するときなど、何らかの割引があることが一般的である。割引の条件を読み取り、料金を考える問題を扱う。	予習：教科書 I 部 1. 料金の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書 I 部 1. 料金の割引の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	文章題 2 (代金の精算)	支払総額を、全員が「割り勘」している状態にもっていく問題を扱う。	予習：教科書 I 部 2. 代金の精算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書 I 部 2. 代金の精算の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	文章題 3 (分割払い、仕事算)	分割払い、および仕事算を扱う。いずれも分数計算が必須である。	予習：教科書 I 部 3. 分割払いのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書 I 部 3. 分割払いと配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

第4回	文章題4 (損益算)	「原価」「定価」「売価」「利益」などの用語の関係を把握し、それらを使いこなす損益算を扱う。小数と分数、百分率と歩合の関係もおさえておく必要がある。	予習：教科書I部4. 損益算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部4. 損益算の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第5回	文章題5 (速度、通過算、流水算)	人、自動車、電車そして船の移動する速度を扱う通過算、流水算を扱う。移動した道のり、所要時間、速度の関係を理解することが大事である。単位の変換も必須となる。	予習：教科書I部5. 速さのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部5. 速さの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第6回	四則演算、多項式の計算、指数計算	四則混合計算の順序、根号を含む計算、多項式の計算、指数法則を扱う。	予習：教科書II部1. 間違えやすい計算問題、2. 割合と比のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部1. 間違えやすい計算問題、2. 割合と比の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第7回	方程式と不等式(1次方程式・不等式、連立方程式・不等式)	1次方程式・不等式、連立方程式・不等式を扱う。	予習：教科書II部3. 1次方程式・不等式と連立方程式のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部3. 1次方程式・不等式と連立方程式の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第8回	因数分解と2次方程式、中間テスト	因数分解と2次方程式の解を扱う。中間テストも行う。	予習：教科書II部4. 因数分解と2次方程式のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部4. 因数分解と2次方程式の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第9回	ブラックボックス	数値を一定のルールで変換する装置を複数つないで回路をつくり、入出力される数値の関係を明らかにする所謂ブラックボックスの問題を扱う。	予習：教科書I部12. ブラックボックスのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部12. ブラックボックスの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第10回	関数1(1次関数、頂点が原点にある2次関数)	1次関数と頂点が原点にある2次関数のグラフ描画および平面幾何への融合問題を扱う。	予習：教科書II部5. 1次関数と2次関数のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部5. 1次関数と2次関数の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第11回	関数2(頂点が原点でない2次関数)	2次関数を平方完成して、グラフを描画する。また、描画グラフを利用して2次不等式の解を考える問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第12回	関数3(2次関数の応用)	2次関数の応用として、経済学への応用問題等を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第13回	関数4(指数関数と対数関数)	自然現象や社会現象に焦点をあてながら指数関数や対数関数を扱う。	予習：教科書III部2. 関数のはなしに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第14回	不等式の表す領域	不等式の表す領域を考える問題を扱う。	予習：教科書I部11. グラフと領域のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部11. 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第15回	線形計画問題	線形な等式および不等式の制約条件のもとで、線形な目的関数の最大値あるいは最小値を考える、所謂線形計画問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部11. グラフと領域の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題(課題)について、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室(emailも可)まで訪問すること。

評価方法

1. 中間テストおよび定期テスト(期末テスト)
中間テストや定期テスト(期末テスト)は、各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

2. 課題

毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。

* 中間テスト、定期テスト、課題は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○			○

評価割合

中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、課題(40%)

使用教科書名 (ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習 (ISBN:978-4-416-91632-2)

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、数学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。

【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中に見える課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12:30～14:00

後期：水曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。

授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室 (emailも可) まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎数学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要(教育目的)	高校までの数学は、どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では、まず、基礎数学aで扱ったテーマ以外で、高校までに学習した数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで、知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に、それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて、事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	平面図形	図形の平行移動・回転移動・対称移動、図形の内角と外角、平行線と線分の比、四角形概念集合、平行線と面積を扱う。	予習：教科書Ⅱ部7. 平面図形の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部7. 平面図形の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	作図	線分の垂直二等分線と三角形の外心、角の二等分線と三角形の内心、垂線と垂心、重心、傍心、円の接線、正多面体を扱う。	予習：教科書Ⅱ部8. 作図のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部8. 作図の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	合同と相似	三角形の合同条件、三角形の相似条件、相似な図形の面積比や体積比を扱う。	予習：教科書Ⅱ部9. 合同と相似のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部9. 合同と相似の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

第4回	円の性質	円の面積，扇形の弧と面積，円周角および中心角の定理，円に内接する四角形の性質，接弦定理，円の外から2接線を引いたときの接点までの長さに関する性質などを扱う。	予習：教科書Ⅱ部10. 円の性質のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部10. 円の性質の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	空間図形	柱体や錐体の体積，球の体積と表面積を扱う。	予習：教科書Ⅱ部11. 空間図形のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部11. 空間図形の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	三平方の定理と余弦定理・正弦定理	三平方の定理およびその拡張ととらえられる余弦定理，さらに正弦定理を扱う。	予習：教科書Ⅱ部12. 三平方の定理のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部12. 三平方の定理の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	流れと比率	人やモノの流れを式で表す問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部13. 流れと比率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部13. 流れと比率の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	集合，中間テスト	条件を満たす集合の要素の個数を求める問題を扱う。中間テストも行う。	予習：教科書Ⅰ部6. 集合のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部6. 集合の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	順列・組合せ	場合の数のテーマのうち，並べる問題「順列」と選ぶ問題「組合せ」を扱う。	予習：教科書Ⅰ部7. 順列・組合せのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部7. 順列・組合せの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	確率	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。	予習：教科書Ⅰ部8. 確率のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部8. 確率の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	数列	等差数列，等比数列，階差数列，フィボナッチ数列，群数列の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	資料の読み取り	図や表や文章から必要な情報を読み取る問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部10. 資料の読み取りのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部10. 資料の読み取りの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	推論1（論理式，ベン図）	論理式やベン図を用いた推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第14回	推論2（発言の正誤を推論する問題，対応関係）	所謂うそつき問題と，対応関係の推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第15回	推論3（リーグ戦，トーナメント戦）	リーグ戦とトーナメント戦の推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題（課題）について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。
評価方法	1. 中間テストおよび定期テスト（期末テスト） 中間テストや定期テスト（期末テスト）は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。 2. 課題 毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。

* 中間テスト, 定期テスト, 課題は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
定期テスト (期末テスト)	○			
課題	○			○

評価割合

中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題点(40%)

使用教科書名 (ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習 (ISBN:978-4-416-91632-2)

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 数学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に判断することができる。

【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期: 水曜日 12:30~14:00
後期: 水曜日 12:30~14:00

学生へのメッセージ

数学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭と手を動かして思考することが大事である。
授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せずに気楽に1625研究室 (emailも可) まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	数学トピックス		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要(教育目的)

身の回りにはたくさんの「不思議」がある。A4サイズの紙の縦と横の長さの関係は？ゲームの背景に数学が存在するものがあるって本当？複利の借金ってなぜ怖い？GPSはなぜ現在の位置情報を把握できるのか？いくつかの神社に数学の問題と解答が奉納されているけどあれって何？ などである。高校までで学んだ数学を、有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイデアや知恵」について解説する。
* 毎回の授業では、はさみ、のり、定規、コンパスを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りにはたくさんの「不思議」に関して、数学的な視点で解決しようと試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	鳩の巣原理、カプレカ数、黄金比、白銀比(数のおもしろさ)	鳩の巣原理を応用した事例を紹介する。おもしろい性質をもつカプレカ数を紹介する。黄金比、白銀比を紹介する。	復習：鳩の巣原理を利用した問題を作成する。黄金比、白銀比がどこにあるか3例ずつ紹介する(図も描く)。	180分
第2回	六角将棋1(論理のおもしろさ)	ヘックスを楽しむ。六角将棋の盤とコマを作成する。	復習：六角将棋を完成させ、ルールを確認し、周りの人と対戦する。	180分
第3回	六角将棋2(論理のおもしろさ)	六角将棋の大会をする。	復習：勝敗およびその要因を詳細にレポートする。	180分
第4回	空間図形の展開図1(図形のおもしろさ)	ニンジンやジャガイモから定型図形に限らない立体図形(多面体および可展面に限る)を切り出し、その展開図を作成する。	復習：切り出した立体図形の写真を撮る。展開図を完成させる。	180分

第5回	空間図形の展開図2 (図形のおもしろさ)	完成した展開図を基に、ペーパークラフトを作成する。まずは、展開図のコピーをとり、切り出した辺と辺がしっかり合わさるかなどをチェックし調整する。	復習：展開図のコピーからにニンジンやジャガイモの立体図形が再現できるようにする。展開図を調整する。	180分
第6回	空間図形の展開図3 (図形のおもしろさ)	ペーパークラフトを完成させる。	復習：完成したペーパークラフトからもう一度立体図形を作成し、その写真を撮る。そして、以前に撮ったニンジンやジャガイモから切り出した立体図形の写真とあわせて提出する。	180分
第7回	n進数を利用したゲーム1 (情報理論)	n進数を理解する。	復習：n進数の理解を深める課題に取り組む。	180分
第8回	n進数を利用したゲーム2 (情報理論)	n進数を利用したゲームを作成する。	復習：n進数を利用したゲームを完成させる。	180分
第9回	一弦ギター1 (算数と音楽)	音楽と数学の歴史について学ぶ。純正音階律や平均音階律について学ぶ。	復習：純正音階を作成する。ドの弦の長さを基準に、レから一オクターブ高いドまでの弦の長さを調べる。	180分
第10回	一弦ギター2 (算数と音楽)	一弦ギターの作成を始める。角材の上部と下部にナットとブリッジを割り箸で作る。角材の下部にドリル等で穴をあける。糸を、あけた穴に通し、角材上部にあるペグに巻く。弦を押さえながら、ドの音を探します。その弦の長さを基準に、レミファソラシ(一オクターブ高い)ドの弦の長さを求めて、印をつける。実際に印をつけた個所を押さえて弦をはじいたとき、対応する音が出るか確かめる。大丈夫であれば、印の個所にフレットを作る。最後にボディをつくる。	復習：一弦ギターを完成させる。(ボディは未完成でよい)	240分
第11回	一弦ギター3 (算数と音楽)	一弦ギターのボディを作成する。全員で演奏会を行う。	復習：一弦ギターのボディを2次元のものにした場合と、3次元のものにした場合の音の響きの違いを調べる。	120分
第12回	複利計算 (社会生活と数学)	複利計算について学ぶ。借金の場合の複利の怖さ、投資の場合の複利のメリットについて知る。	復習：複利計算に関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第13回	GPSのしくみ (図形の科学)	GPSのしくみを学ぶ。	予習：GPSのしくみに関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第14回	第13週 ファジィ集合 (複雑系)	ファジィ集合とクリスプ集合を学び、あいまいさの定量化の方法について学ぶ。	復習：ファジィ集合の理解を深める課題に取り組む。	180分
第15回	和算 (数学の歴史)	和算の問題のいくつかに取り組む。	復習：授業では扱わなかった和算の問題のいくつかに課題として取り組む。	180分

学生へのフィードバック方法

授業内外で取り組んだこと(平常課題)に関して、毎回チェックしコメントする。

評価方法

- 平常課題
毎回の授業内外で取り組む作業や課題を平常課題とする。取り組みを評価する。
 - 定期試験
定期試験では、授業で取り組んだ内容の中で、特に印象に残っているものについて、概要や新たに得られた視点等について記述することで、授業への関心・意欲等を評価する。
- * 平常課題や定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常課題			○	
定期試験			○	

評価割合	平常課題（80％）、定期試験（20％）	
使用教科書名（ISBN番号）	なし。プリントを配布して説明する。	
参考図書	なし。	
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して、数学的な視点で解決しようと試みることができ、社会を構成するひとりとして、高い徳性をもって人々に貢献することができる。	
オフィスアワー	前期：水曜日 12：30～14：00 後期：水曜日 12：30～14：00	
学生へのメッセージ	授業では各回に行うことを丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は気楽に質問したり、研究室(1625)を訪ねて質問してほしい。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待する。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎統計学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要(教育目的)

授業では、統計の基礎を学び、データを適切に処理でき、かつ得られた結果を正しく理解・解釈するために必要な知識・技術について説明する。
 まずは、記述統計学としての1変量の標本データの要約ができるように平均値、分散、標準偏差に代表される基本統計量を扱う。次に、2変量のデータ解析の基本として相関分析、回帰分析を扱う。最後に、離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を扱い、推定および検定の考え方につながる推測統計学の基本的考え方を解説する。毎回の講義では、事例を複数提示し、様々な事象への応用に触れる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	統計検定3級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	基本統計量 (平均値、中央値、最頻値)	データ全体を代表させる数値である平均値、中央値、最頻値を学ぶ。	予習：教科書34ページから37ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	箱ひげ図、分散、標準偏差	散らばりを持つデータの大まかな比較をするのに便利な箱ひげ図、全データを対象にした散らばりを説明する分散、標準偏差を学ぶ。	予習：教科書29ページ、38ページから41ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	散布図、共分散	2変量の相関関係を視覚的に表す散布図と、数値で示す共分散を学ぶ。	予習：教科書26ページから27ページ、46ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第4回	相関係数	相関の強弱をも見ることができる相関係数を学ぶ。	予習：教科書47ページに目を通しておくこと	予習60分、復習120分

			復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第5回	回帰方程式	1変量を、他の変量で表現する単回帰分析や重回帰分析における回帰方程式を学ぶ。	予習：教科書110ページから113ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第6回	標本調査と確率、離散型確率変数と確率分布、中間テスト	全数調査と標本調査、無作為抽出、統計的確率と大数法則の説明から始め、離散型確率変数と確率分布を学ぶ。中間テストも行う。	予習：教科書50ページから60ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第7回	離散型確率変数の期待値と分散	離散型確率変数の期待値および分散を学ぶ。	予習：教科書60ページから61ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第8回	確率変数と変数変換、確率変数の標準化	確率変数の変数変換、そして確率変数の標準化を学ぶ。	予習：教科書42ページから43ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第9回	連続型確率変数と確率密度関数、連続型確率変数の期待値と分散	連続型確率変数と確率と似て非なる確率密度関数について学び、その後、連続型確率変数の期待値と分散についても学ぶ。	予習：教科書62ページから63ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第10回	正規分布と標準正規分布	連続型確率変数の中で最も有名な確率分布である正規分布を学ぶ。正規分布の公式、正規分布の例、正規分布の性質とパーセント点を学ぶ。そして、標準正規分布も学ぶ。	予習：教科書66ページから67ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第11回	正規分布表を用いた確率計算1	確率変数が標準正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第12回	正規分布表を用いた確率計算2	確率変数が正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第13回	中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値、中心極限定理と大数の法則を学ぶ。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第14回	統計的推定（区間推定）	統計的推定（区間推定）の考え方を学ぶ	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第15回	統計的仮説検定	統計的仮説検定の考え方を学ぶ。	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

学生へのフィードバック方法

復習で扱う演習問題（課題）について、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

- 中間テストおよび定期テスト（期末テスト）
中間テストや定期テスト（期末テスト）は、各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。
- 課題
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。
* 中間テスト、定期テスト、課題は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			

課題	○		○
評価割合	中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、課題(40点)		
使用教科書名(ISBN番号)	統計学の図鑑 (ISBN:978-4-7741-7331-3)		
参考図書	なし		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、統計学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。</p>		
オフィスアワー	前期：水曜日 12：30～14：00 後期：水曜日 12：30～14：00		
学生へのメッセージ	統計学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭で理解したら、自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは、情報リテラシーを向上させることにつながる。	
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎統計学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要 (教育目的)

最初に基礎統計学aで学習した項目のうち、確率分布と確率計算、標本分布、中心極限定理を中心に概説する。その後、推測統計学の中で実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」の基本的考え方について説明する。具体的には、点推定、区間推定、母平均の差の検定、母分散の検定、適合度の検定などである。関連して、統計ソフトを用いたデータ処理（調査の企画設計、調査の実施、統計を用いた評価）も積極的に扱う。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	統計検定2級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	母集団の平均値と標本の平均値、中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値を確認した後、中心極限定理と大数の法則をシミュレーションを通して確認する。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	統計的推定1(大きな標本における母平均の推定の考え方)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において、大きな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	母集団分布	母数(母平均、母分散)、統計量(標本平均、標本の分	予習：教科書88ページから93ペ	予習60分、復習120分

	と母数(母平均, 母分散など), 標本分布と統計量(標本平均, 不偏分散など), 自由度	散), 推定量, 検定統計量を確認し, さらに不偏分散と自由度を学ぶ。	ージに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第4回	統計的推定2(小さな標本における母平均の推定の考え方)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 小さな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	予習: 教科書94ページから95ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第5回	統計的仮説検定1(帰無仮説と対立仮説, 有意水準)	統計的仮説検定の考え方を, 有意水準, 帰無仮説, 対立仮説等の用語の説明の後, 具体的な事例を通して学ぶ。	予習: 教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第6回	統計的仮説検定2(両側検定と片側検定, p値, 第一種の過誤と第二種の過誤)	具体的な事例を通して, 両側検定および片側検定を学ぶ。その際, 検定統計量が棄却域に入ることとp値が有意水準より小さいことが同値であることを, p値の定義から説明する。第一種の過誤と第二種の過誤についても説明する。	予習: 教科書78ページから85ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第7回	統計的仮説検定3(大きな標本および小さな標本における母平均の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の検定を学ぶ。	予習: 教科書98ページから99ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第8回	統計的仮説検定4(大きな標本および小さな標本における母比率の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次は母比率の検定を学ぶ。	予習: 教科書100ページから101ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第9回	統計的仮説検定5(母分散の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母分散の検定(母平均既知, 未知の場合)を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第10回	統計的推定と統計的仮説検定を使ったデータ分析, 中間テスト	今まで行ってきた1つの母集団の母数に関する統計的推定および統計的仮説検定を活用した種々のデータ分析を行い, 結果を記述する。中間テストも行う。	予習: 第1回から第8回までに扱った事項および問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第11回	統計的仮説検定6(母平均の差の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の差の検定(分散既知, 分散未知であるが等分散, 分散未知で分散が等しいとは限らない場合)を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第12回	統計的仮説検定7(母分散の比の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次に母分散の比の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第13回	統計的仮説検定8(母比率の差の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母比率の差の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第14回	統計的仮説検定9(一元配置分散分析)	3つ以上の母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 母平均の差の検定である一元配置分散分析を学ぶ。	予習: 教科書102ページから103ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分

第15回	統計的仮説検定10 (適合度検定, 独立性の検定)	適合度検定と独立性の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分																														
学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室(emailも可)まで訪問すること。																																	
評価方法	<p>1. 中間テストおよび定期テスト(期末テスト) 中間テストや定期テスト(期末テスト)は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。</p> <p>2. 課題 毎回の復習で取り組む演習問題(課題)への取り組みを評価する。</p> <p>* 中間テスト, 定期テスト, 課題は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。</p>																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期テスト(期末テスト)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	中間テスト	○				定期テスト(期末テスト)	○				課題	○			○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
中間テスト	○																																	
定期テスト(期末テスト)	○																																	
課題	○			○																														
評価割合	中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、課題点(40%)																																	
使用教科書名(ISBN番号)	統計学の図鑑 (ISBN:978-4-7741-7331-3)																																	
参考図書	なし																																	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。</p>																																	
オフィスアワー	前期: 水曜日 12:30~14:00 後期: 水曜日 12:30~14:00																																	
学生へのメッセージ	統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭で理解したら, 自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せずに気楽に1625研究室(emailも可)まで訪問すること。主体的に学んでほしい。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。	ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。																																
ICT活用																																		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	情報論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

授業概要(教育目的)	情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができるようになること
思考・判断の観点 (K)	数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようになること
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

情報論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	情報とは (ガイダンスを含む)	情報科学の概念から『情報とは何か?』を学ぶ。また、講義ガイダンスとして、Google Classroomを利用した講義資料の配付方法を説明する。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WiFiに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	60
第2回	情報の定義	コンピュータでは、文字や画像、動画、音声など様々な情報を扱うことができる。この情報の定義と、コンピュータ上で様々な情報を取り扱うために必要となる2進数について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に10進数と2進数の変換などの解き方を復習すること。	60
第3回	文字と画像の表現	文字や色をコンピュータで取り扱うための文字コードや色コードを例にして、コンピュータで情報を扱うためのコード化(デジタル化)について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に文字コードの割り当て方法などを復習すること。	60

第4回	グラフによるモデル化	数学的に現実世界の様々な問題を解決するための第一歩は、問題を単純化するモデル化である。モデル化の理論の1つであるグラフ理論について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にグラフ理論によるモデル化の方法を復習すること。	60
第5回	数学的解決①：線形計画法と待ち行列	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題を数式を使って解決する線形計画法と待ち行列について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。講義内で行った課題を中心に線形計画法の連立方程式や待ち行列の計算式の解き方を復習すること。	60
第6回	数学的解決②：ゲーム理論と日程計画問題	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題をグラフや図を使って解決するゲーム理論と日程計画問題について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にゲーム理論の考え方や日程計画法の図の作り方を復習すること。	60
第7回	データの処理	データに処理を行うことにより、様々な意味づけや解釈を行うことができるようになる。このようなデータの処理や意味解釈の方法論を代表値や簡単な統計解析の事例を基に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を代表値の意味や相関分析の解釈の仕方などを復習すること。	60
第8回	オブジェクト指向によるシステムのモデル化	現実世界にある業務や遊び全体など、システムをモデリングするための手法を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に講義内で取り扱ったモデリング技法の特徴を復習すること。	60
第9回	アルゴリズム	コンピュータが問題を解決するための手順やプロセスをまとめた者がアルゴリズムである。アルゴリズムとは何かを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アルゴリズムとは何かを予習しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムとは何かを復習すること。	60
第10回	アルゴリズムの評価	現実世界の問題を解くためのアルゴリズムは、1つだけではなく、考え方や解き方によって複数存在する。このようなアルゴリズムの評価の方法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの評価方法を復習すること。	60
第11回	アルゴリズムの基礎	問題を解決するためのアルゴリズムを作成するためには、基礎となるいくつかの技法・理論がある。この基礎となる理論・技法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの基礎理論とその理論に基づくアルゴリズムの特徴を復習すること。	60
第12回	基本ソフトウェアと応用ソフトウェア	コンピュータを動作させる基礎となる基本ソフトウェア(OS)や様々な役割を果たす応用ソフトウェア(アプリケーションソフト)について、学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に基本ソフト・応用ソフトの特徴や役割を復習すること。	60
第13回	情報伝達の仕組み	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOSI基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	60
第14回	情報処理の歴史	情報処理の歴史について、コンピュータの開発から発展にかけて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、コンピュータ開発の歴史から発展の経緯について復習すること。	60
第15回	言語の定義と解釈	コンピュータが人間の言語を理解するために必要な、言語を定義する方法と言語を解釈するコンピュータの仕組みを学ぶ。またこの言語の定義と言語解釈の仕組みを基にして作られた様々なプログラミング言語についても学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義で行った課題を中心にコンピュータが言語を解釈する仕組みやプログラミング言語の特徴を復習すること。	60

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 ・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 ・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	受講状況・学習態度			○	
	課題	○	○		
	定期試験	○	○		
評価割合	受講状況・学習態度 (10%)、課題 (60%)、定期試験 (30%)などを総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。				
参考図書	矢沢 久雄：情報はなぜビットなのか——知っておきたいコンピュータと情報処理の基礎知識，日経 BP 社 (2006)				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】情報科学に関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている</p> <p>【思考・判断】情報科学の基本的な概念や論理に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p>				
オフィスアワー	非常勤のため、出校は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。				
学生へのメッセージ	情報学の基本は論理性と手順にあります。一見難しく思えるかもしれませんが、じっくりと取り組んで下さい。また、「コンピュータ概論」の履修を希望する場合には、本講義を履修することが望まれる。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う			
情報リテラシー教育	○	情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけでなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う			
ICT活用	○	情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

授業概要(教育目的)	コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使って複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。
履修条件	パソコン室のコンピュータを利用できること。また、@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念を十分に理解すること コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を理解すること
思考・判断の観点 (K)	数理的な思考に基づいて論理的に判断する能力を養うこと
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

コンピュータ概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	講義内容・講義の進め方等について説明を行う。また、Google classroomを利用した講義資料の配付方法等について説明を行う。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WiFiに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	40
第2回	情報システムのイメージ	講義全体を通してテーマとなる『情報システム』とは何か?、また、情報システムが取り扱う『情報』とはどのような概念なのか、その概念や定義、目的などについて学習する	事前にGoogle classroomで配布した資料で情報の概念を予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に情報や情報システムの概念を復習し理解すること。	60
第3回	情報を処理	情報システムが実際にどのように情報を処理していくの	事前にGoogle classroomで配布	60

	する仕組みとその改善	か、システムの成り立ちから、情報処理の仕組み、システムの改善について学ぶ。	した資料を確認しアーキテクチャやアルゴリズムなど専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心に情報処理の仕組みを復習し理解すること。	
第4回	コンピュータシステムの機能と性能	情報システムを構成するコンピュータについて、コンピュータを構成する主要部品について、機能や役割を理解し、その性能指標を学ぶ。また、この知識に基づいて目的に適したコンピュータなどを選定できる知識を習得する。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、わからない専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータを構成する主要部品の役割を復習し理解すること。	60
第5回	コンピュータの導入とアーキテクチャ	情報システムを構成するために必要な機器を選定するために必要な知識や選定の手順を学ぶ。また、選定の基準となる機能や性能と密接に関わるアーキテクチャについて学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アーキテクチャについて予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの機能とアーキテクチャの関係を復習し理解すること。	60
第6回	コンピュータの構成	人間が行う命令や指示をコンピュータが理解するためには、『機械語』と呼ばれる2進数で表現されるコンピュータ言語が必要になる。この機械語とは何か、また機械語の命令をコンピュータにどのように処理するのかをKUE-CHIP2を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、機械語の前提となる2進数について予習すること。また、講義内で行った課題を中心に機械語によるコンピュータへの命令文の内容を復習し理解すること。	60
第7回	プログラムの内蔵方式	コンピュータは、データを記録する装置である「メモリ」にあらかじめプログラムを記録しておき、その記録されたプログラムを実行することで命令を処理することができる。このコンピュータにあらかじめ内蔵されたプログラムの実行手順を学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第8回	実行順序を変える命令	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、実行順を変える命令文（ジャンプ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6・7回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第9回	ループ処理	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、命令を繰り返す処理（ループ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にループ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第10回	条件によって分岐先を変えるプログラム	ループ命令は延々と命令を繰り返し、終了することがない。そこで、ループ命令を終了させるために、条件を設定して、その条件によって命令を繰り返すか、終了するか分岐する方法が考案された。この条件によって分岐先を変えるプログラムについて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にZero Flagを組み込んだジャンプ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第11回	オペレーティングシステムとプログラム	コンピュータを機能させるためには、オペレーティングシステム（OS）が必要となる。このOSの役割を理解し、現在のコンピュータがより複雑で膨大なプログラムをどのように処理しているのかを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSとは何かについて予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にOSの役割を整理し理解すること。	60
第12回	メモリ管理とファイル管理	オペレーティングシステムの重要な役割であるメモリ管理とファイル管理について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSの役割について予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にメモリの断片化の発生メカニズムやファイル管理システムを復習し理解すること。	60
第13回	情報ネットワークの環境	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心	60

		りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	にOS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	
第14回	情報セキュリティ	情報システムを運用する上で情報セキュリティが大きな課題となっている。近年多発する情報の漏えいや情報システムのトラブル事例などを通して情報セキュリティの役割や重要性を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、情報漏えいやシステムトラブルの事例を調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心に情報システムのトラブルと対応策について復習すること。	60
第15回	コンピュータの歴史	コンピュータの発展の歴史について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、分からない専門用語などについて事前に調べて予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの発展の経緯を復習すること。	60

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
課題	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度 (10%) , 課題 (60%) , 試験 (30%) などを総合的に評価する。
------	----------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。
-----------------	----------------------------------------------

参考図書	神沼 靖子, 和田 勉, 富澤 眞樹 著, 神沼 靖子 監修: 情報システムのためのコンピュータと基本システム, 共立出版 (2005)
------	----------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】 数理的思考に基づいて論理的判断・思考が身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 自ら取り組む学習態度を身につけている。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	非常勤のため、出校は火曜日1限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。
---------	-------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	コンピュータの基礎は計算にある。 なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。
-----------	----------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようにする
情報リテラシー教育	○	利用者の視点からだけでなく、開発者や運用者の視点から情報セキュリティについて理解し、自らメディアを利活用するだけでなく、他者に啓蒙できる能力を養う
ICT活用	○	コンピュータの構成する要素に関する基礎的な概念や役割を理解することで、より専門的にICTを利活用できる能力を養う



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a (D)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習 a

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45

第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45
第7回	ファイル操作	フォルダの作成やファイルの移動など、学修者が能動的にファイルに関して操作する。演習結果を提出する。	USB メモリ内を整理すること	45
第8回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第9回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第10回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第11回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第12回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第13回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第15回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	45
第16回				

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
--------	-------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
------	--------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p> <p>【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	金曜3限 1411研究室
---------	--------------

学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習a

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45

第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45
第7回	ファイル操作	フォルダの作成やファイルの移動など、学修者が能動的にファイルに関して操作する。演習結果を提出する。	USB メモリ内を整理すること	45
第8回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第9回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第10回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第11回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第12回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第13回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第15回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
------	--------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。
-----------------	----------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p> <p>【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	非常勤のため、出校は水曜日1~3限のみ。これ以外の時間はメール (y. tanaka@kasei-gakuin. ac. jp) で質問等を受け付ける。
---------	------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので各自空いた時間を利用して自学することが望まれる。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。
------	-------------------------------------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USBメモリを用意すること。	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること。	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること。	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること。	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること。	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること。	45

第7回	ファイル操作	フォルダの作成やファイルの移動など、学修者が能動的にファイルに関して操作する。演習結果を提出する。	USBメモリ内を整理すること	45
第8回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること。	45
第9回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること。	45
第10回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること。	45
第11回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること。	45
第12回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第13回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること。	45
第15回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
------	--------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p> <p>【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30
---------	-----------------------------

学生へのメッセージ	コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。
-----------	-----------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田 一義	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45

第7回	ファイル操作	フォルダの作成やファイルの移動など、学修者が能動的にファイルに関して操作する。演習結果を提出する。	USB メモリ内を整理すること	45
第8回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第9回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第10回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第11回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第12回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第13回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第15回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	45

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。

オフィスアワー 担当教員 (原田) は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき (前期: 金曜3~5限、後期: 金曜2~5限) だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ 文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する活用能力を養成する。

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b (D)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標 (到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習 b

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45

第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45
第16回				

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b (D)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標 (到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習 b

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45

第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45
第16回				

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ

表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること。	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること。	45
第4回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること。	45
第5回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること。	45
第6回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45

第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること。	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること。	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること。	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること。	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること。	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること。	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること。	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること。	45

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合

受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

なし

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
 【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー

【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ

コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。

ICT活用

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田 一義	指定なし

授業概要 (教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標 (到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45

第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー 担当教員（原田）は非常勤講師で、大学に在るのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ 表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	人間の体		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要 (教育目的)

メディアによる体の情報は溢れる毎日である。正しい情報を得るためにも、自身の体についてしっかりとした知識をもっている必要がある。人の体の基本的なことから、運動や環境に左右される人の生理学的値についても修得していく。人の体を形態、機能、食事（栄養）、運動、加齢といったキーワードから考えていく。視覚教材を十分に利用し体の理解を深める事に重点を置く。自身の体に関心を持つ事によって疾病への予防、対策について考えられるようにしていく。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間の体について構造や機能について理解している。体の名称について理解している。
思考・判断の観点 (K)	簡単な救急処置ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体について運動や栄養の観点から考えられる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	なぜ人の体について学ぶことは重要か	体について関心を持つことは、食事内容や健康、運動についても知識を得ることになる。健康な体作りの実践をしていくための基本となる正しい知識を理解する。	体について関心を持ち、健康や疾病について考える習慣を身につける大切さについて理解しておく。	120分
第2回	形態と機能	人間の体について表面から見た形態と、体の中の様々な骨や筋肉、神経、血管、臓器の働きについて理解する。	年齢に伴って体の形態や機能は変化していく。表面から見た体、体の中の働きについて理解しておく。	120分
第3回	動きを決定する脳	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを理解する。	人間の生活に欠かせない器官である脳について理解しておく。	120分
第4回	骨格と神経系	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する。	筋肉と関節、骨と筋肉について運動とどのように関連しているのか、筋肉の収縮の種類についても理解しておくこと。	120分
第5回	運動と筋肉、神経	無意識に手や脚を動かす運動と、考えて動いていく運動について初心者と熟練者の観点から理解していく。	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるの	120分

	(反射)		か理解しておくこと。	
第6回	病気と健康の間	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する。	スポーツ選手の健康観、病気をしている人の健康観、年齢に伴う健康観等、様々な側面から病気と健康について理解しておくこと。	120分
第7回	栄養と運動とダイエット	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する。体重が健康管理の指標となることを理解する。	エネルギーの摂取は消費と較べて時間的に容易である。運動に加えて栄養の正しい摂取はダイエットの効果を高めることを理解しておく。	120分
第8回	呼吸・循環器系	心臓の働きと心筋について理解する。肺循環と体循環について心拍数や拍出量と一緒に理解する。	心臓を動かす筋肉、心臓を動かす血管について理解しておく。心拍数が体の指標となることを理解しておく。	120分
第9回	運動と呼吸・循環系の変化	運動を始めると呼吸が苦しくなり、20~30分経過すると少しずつ楽になってくる。必要な酸素と呼吸で取り入れられる酸素の量が調整できた証拠である。呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する。	運動は呼吸・循環機能を高める最も良い方法であることを理解しておく。	120分
第10回	人の側性	人によって利側は異なってくる。自転車の乗る側から腕組み、脚組み、ボールを蹴る脚と様々な利側がある。スポーツゲームとの関連から側性(利側)について理解する。	側性を無視することは難しい。助走の第一歩や最初の回転方向は、その後の運動成果に影響してくる。利側と人間の体の形態・機能との関係を理解しておく。	120分
第11回	人の体の数値とその変化	人間の体の数値は体重、身長、血圧や心拍、呼吸数・体温など容易に計測できるものから血中内のヘモグロビン量、白血球数など一般には計測できない数値がある。容易に計れる数値から体の何が分かってくるのか理解する。	体の状態を表している数値にはどのようなものがあるのか、それは何の指標となっているのか理解しておく。	120分
第12回	運動による人の体の変化	運動を続けて3ヶ月程すると外見的(形態的)に変化が見られる。機能的にも心拍数が低くなったり、筋量も増し脂肪量が減ってくる。体の変化はどのような過程をたどるのかについて、筋肉や肺のトレーニング効果から理解していく。	運動の効果は数ヶ月を経てから現れてくる。体の中でどのような変化が起きてくるのか理解しておく。	120分
第13回	加齢による人の体の変化	加齢により体には様々な変化が起きてくる。病気や怪我も加齢に伴い多く生じてくる。体の中の変化を中心に加齢と病気について理解する。	加齢による形態的变化と体の中の変化について、筋肉や骨、神経系、心臓、肺の	120分
第14回	体の数値の変化(疾病と予防)	加齢に伴い体の持つ数値は変化してくる。数値の変化から体はどのような方向に向かうのかを理解する。	運動による数値の変化、加齢による数値の変化、疾病による数値の変化等、体の持つ数値は人の健康の指標として重要であることを理解しておく。	120分
第15回	健康な体を維持するために	寿命が長く健康でいられることは誰もが望むことである。長生きイコール健康寿命も長いとは限らない。健康で長生きをするための体について理解する。	平均寿命が長くなっていく中で、他者に頼って身の回りの世話をしてもらおう老人も増えている。健康で長生きをしていくためのヒントについて理解しておく。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業毎の小テストの回答を示すので、自分の解答と比べる。
体の部位や代表的な筋肉、骨、内臓器官の名称は小テストで数回解答を求めらるので覚えた名称を確認できる。

評価方法
・毎回、授業の終了時に小テストを実施する。2回の課題の提出をする。
・小テストは5点満点とし5点×15回で75点、課題は15点満点×2回30点とし、この2つの総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
課題	○	○	○	

評価割合 小テスト5点×15回で75点、課題15点満点×2回で30点。この2つの総合評価とする。

使用教科書名 (ISBN番号)	授業時に適宜指示する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】体の器官や形態的名称を理解している。 【思考・判断】簡単な救急処置ができる。体の変化について、様々な角度から検討できる。 【関心・意欲・態度】体について関心を持っている。	
学生へのメッセージ	日常生活の中で、体について関心を持って下さい。様々なあふれる情報の中で何が正しい情報なのかを判断できるように、いろいろな角度から体の情報を調べる習慣を身につけて欲しい。子供から老人までの体の成長、老化そして死というものについて科学的な知識をもって考える機会をもって欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	複雑な人体について段階的に名称や働きを理解していく。解剖図を観ながら積極的に知識を得ていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	DVD、インターネットを活用し体の最新の画像や動画を視覚的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ダイエットとフィットネス		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)	ダイエットは女子大生にとって関心の事柄の一つです。ダイエットをしてはリバウンドをしてという繰り返しもあるでしょう。正しいダイエットというものはありませんが、体に無理なダイエットはいつしか体の疲弊を招く恐ろしい現象につながっていきます。食事療法と運動療法はダイエットの両輪ですが、運動療法を中心に、具体的なダイエットの理論と実践のための知識を学びます。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ダイエットの方法について正しい知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	様々なダイエットについての効果や科学的論拠について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ダイエットに積極的に取り組もうとする。
技術・表現の観点 (A)	他者にダイエットの方法と効果を伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ダイエットとフィットネスの関係	食事のコントロールに偏りがちなダイエットについて、運動との関連から理解する。	ダイエットは、運動と食事コントロールと休息の3つの基本から成ることを理解しておく。	120分
第2回	肥満	肥満の定義について、いくつかの計算方法から理解する。肥満を続けることによる体への影響について理解する。	肥満の考え方について、男女の差、スポーツ種目による差、年齢による差といった色々な側面から理解しておくこと。	120分
第3回	食欲	食欲の生理学について食事内容の変化、食品の変化、生活スタイルの変化等の観点から理解する。	体のエネルギー消費と食欲、食事量について理解しておくこと。	120分
第4回	エネルギーと食事	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係から食事について理解する。	余剰エネルギーが脂肪として体に貯蓄され、やがて肥満へと繋がって行くことを理解しておくこと。	120分
第5回	生活習慣病	食事量の取り過ぎ、運動不足の繰り返しの日常生活から	運動が日常生活から少なくなっ	120分

		生活習慣病にいたる体の変化、数値の変化について理解する。年齢に伴う生活スタイルの変化についても理解する	ていく一方で、食事内容が豊になっていく現象を理解しておく。運動時間の確保が何故難しいのかについて理解しておく。	
第6回	運動とエネルギー代謝	激しい運動をすることがエネルギーを多く使うことでは無いことを理解する。運動の様々な種類とエネルギー消費量について理解する。	運動時間や強度・頻度について、エネルギー消費量との関係から理解しておくこと。	120分
第7回	食事療法と運動療法	ダイエットは食事療法と運動療法の2つの側面から実施することが望ましいことを理解する。極端な食事療法、疲労が取れない運動処方だけでは病気に繋がることを理解する。	運動、食事、休息を取り入れたダイエットの方法を理解しておく。	120分
第8回	有酸素運動とエネルギー消費	短時間の強度の高い無酸素運動は、長い時間（30分以上）をかける有酸素運動に比べダイエットの効果は少ないことを理解する。有酸素運動の指標について理解する。	有酸素運動を習慣化し、エネルギーの消費に伴った食事を取ることがダイエットへの近道であることを理解しておくこと。	120分
第9回	運動の原則	ダイエットのための運動を始める前に、運動の基本的な原則を理解する。年齢に対応した運動の種類、運動量、運動時間について理解する。	ダイエット効果を急ぐために無理な運動を行うことは避けなくてはならない。運動の基本や原則に基づいて運動療法を実施することを理解しておく。	120分
第10回	運動と栄養と休息	適切な運動、食事、休息について理解する。ダイエットには相応の時間がかかること、生活の中に運動と食事、休息のバランスを組み入れることを理解する。	短い時間でのダイエットはリバウンドや、体への負担をとまなうこと、生活習慣を規則正しくすることを理解しておく。	120分
第11回	疲労について	運動と疲労の関係について理解する。慢性疲労と急性疲労について理解し、適切な疲労を生じる運動を考える。	疲労の種類を理解し、慢性疲労の恐ろしさや過度の運動による病気や怪我について理解しておく。	120分
第12回	正しいダイエットの方法	様々なダイエット法について概観し、体に影響の少ない適正なダイエットについて理解する。	メディアに溢れているダイエット法の多くが継続しない理由や、極端なダイエット法の影響について理解しておく。	120分
第13回	体の評価	年齢とともに変化する人間の形態的な数値、機能的な数値について学び、運動や食事による数値のコントロールについて理解する。	エネルギーの摂取と消費によって変わる人間の機能的数値、形態的な数値について理解しておく。	120分
第14回	ダイエット計画	ダイエット計画を立てる時の期間、方法、目標の設定について、年齢や性別、職業といった観点から理解する。	運動量や食事量は年齢、性別、職業によって変わることを理解しておく。	120分
第15回	ダイエットの評価	ダイエットの評価は体重のみでなく、体の生理学的な指標も測定する事を理解する。	体重の変化だけを測定すると、食事を軽んじる傾向が現れる。運動前と後の血圧の測定、心拍数の測定はダイエットの効果科学的に捉える数値であることを理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎日の体重測定や食事内容、運動量の記載によって体重の変化を確認できる。記録された表から生活習慣を確認できる。			
評価方法	毎回、授業の終了時に小テストを実施する。2回の課題の提出をする。小テストは5点満点とし5点×15回で75点、課題は15点満点×2回30点とし、この2つの総合評価とする。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
課題	○	○	○	
評価割合	小テスト5点×15回で75点、課題15点満点×2回で30点。この2つの総合評価とする。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ダイエットについて正しい知識を理解している。			

	【思考・判断】食事にに関して、ダイエットや運動との関連から、正しい食事メニューを計画できる。 【関心・意欲・態度】溢れる食品群から健康作りのための食品を選び、正しい食事内容を実践できる。															
オフィスアワー	月曜日4時限目															
学生へのメッセージ	ダイエットのちまたに溢れる情報に左右されることなく、正しい知識と実践力を身につけ、それを実際に経験してほしい。運動と食事がダイエットの基本である事を十分に理解してほしい。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>理解したダイエット法を自ら実践し、正しいダイエットを経験していく。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>多くのダイエット法から正しいダイエット法について、科学的根拠を持って説明出来る。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	理解したダイエット法を自ら実践し、正しいダイエットを経験していく。	情報リテラシー教育	○	多くのダイエット法から正しいダイエット法について、科学的根拠を持って説明出来る。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	理解したダイエット法を自ら実践し、正しいダイエットを経験していく。														
情報リテラシー教育	○	多くのダイエット法から正しいダイエット法について、科学的根拠を持って説明出来る。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	レクリエーション概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的) 日本のレクリエーション活動小史を把握し日本人の「レクリエーション」観を振り返る。また、現行のレクリエーション活動援助や組織、その他の関連領域を把握すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本のレクリエーションについてその歴史を振り返り現状を把握すること。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	在住最寄りのレクリエーション協会を調査することによって自身の生活圏を確認すること。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	遊びとレクリエーション	グリム童話第1集「豚の屠殺ごっこ」遊びについて紹介し、遊びとレクリエーションの違いを学ぶこと。	ごっこ遊びについて調査すること。	45
第2回	厚生思想(保養と厚生の理念)	レクリエーションはわが国においてははじめは「保養」や「厚生」と翻訳されたこと。わが国のレクリエーションの規定を振り返ること。	レクリエーションについてネット検索しまとめること。	45
第3回	色々な場面のレクリエーション1(2004年屈斜路湖カヌー転覆事故について)	2004年屈斜路湖カヌー転覆事故についてその原因や「低体温症」の怖さを学ぶこと。	レクリエーションの事故例を調査すること。	45
第4回	いろいろな場面のレクリエーション2(福岡大学ワンダーフォーゲル部)	福岡大学ワンダーフォーゲル部熊襲撃事件について動画を見て感想を述べること。	福岡大学ワンダーフォーゲル部熊襲撃事件を調査すること。	45

	ル部 熊襲撃事件)			
第5回	これからのレクリエーション運動 (三世代のレクリエーション)	1. レジャーのこと 2. チクセントミハイのフロー理論 3. ライフスタイルマネジメント (クリストファー・R・エジントン)	レジャーとは何かを調査すること。	45
第6回	レクリエーション支援の理論1 (福祉施設の現状・静岡・八王子・相模原3都市の比較)	2005年の3都市の調査について、レクリエーションの動向を把握すること。	福祉施設でどのようなレクリエーションが行われているか調査すること。	45
第7回	レクリエーション支援の理論2 (地域の現状)	日本レクリエーション協会について解説し、各個人在住の最寄りのレクリエーション協会をレポートすること。	最寄りのレクリエーション協会を調査しレポートすること。	45
第8回	レクリエーション支援の目標と理念 (生きがいとレクリエーション)	神谷恵美子の生きがい論からレクリエーションにおける生きがいをとらえ直すこと。	神谷恵美子について調査すること。	45
第9回	レクリエーション支援者の役割	自立支援の基本を学び、さまざまなレクリエーション支援の現場を紹介すること。	レクリエーション支援の現場をひとつあげ調査すること。	45
第10回	レクリエーションクラブを育て運営する	レクリエーションクラブの組織と運営についてその実際を紹介する。	レクリエーションクラブについてひとつあげ調査すること。	45
第11回	市町村レクリエーション協会の役割と運営 (横浜市レクリエーションの事例)	横浜市レクリエーションの事例を紹介する。	在住の最寄りのレクリエーション協会のレポートを確認すること。	45
第12回	レクリエーションを支える理念と人権宣言	ジュネーブ子ども宣言や世界人権宣言を紹介する。	ジュネーブ子ども宣言について調査すること。	45
第13回	趣味としてのレクリエーション (貝原益軒の楽の思想)	貝原益軒「養生訓」における「楽」の思想を確認し、現代のわれわれの考え方を問い直すこと。	貝原益軒について調査すること。	45
第14回	レクリエーション事業を評価する	評価はなぜ必要か。その評価方法について解説する。	表方法について調査すること。	45
第15回	レクリエーション事業と安全・保険について	レクリエーションの事故判例をもとに責任体制を確認すること。	レクリエーションの事故判例をひとつあげ調査すること。	45
第16回	テスト	1～15回の授業の要点を整理し獲得した知識を確認すること。	授業内容を振り返りまとめること。	180

評価方法

平常点50%、テスト50%で判定する。
(平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	平常点50%、テスト50%で判定する。 (平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する。)
使用教科書名 (ISBN番号)	授業中に配布するプリントを参照すること。
参考図書	授業中に配布するプリントを参照すること。
ディプロマポリシーとの関連	生活のなかのレクリエーションを見直すこと。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	これまでに経験した遊びやレクリエーション活動、またはその援助活動、指導経験、習い事などについてまとめておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分のレクリエーションの体験を発表すること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。後半ではフライフィッシングのキャスティング技術について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分か関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点 (A)	さまざまなスポーツ種目を体験できること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習・実技ができる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第2回	室内レクリエーション(PA系ゲーム)	仲間づくりゲームでコミュニケーションが取りやすい状況で運動できる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション(PA系ゲーム)	競争ではなく、仲間づくりを目的とした軽い運動でさらにコミュニケーションの充実をはかること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション(PA系ゲーム)	グループワークでリーダーを決め、参加者を指導してゲームを進めること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第5回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分

	ン・ホッケーから選択			
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第10回	フライキャスティング1グリップからベーシックキャストを経て、ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	フライキャスティングをグリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	ネット上の動画などを参考にイメージをつかむこと。	45分
第11回	フライキャスティング2ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出してみる。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてマーカーを落とすことができるかをアピールする。	ネット上の動画などからイメージをつかむこと。	45分
第13回	自分の得意種目をアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第14回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第15回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第16回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分

学習計画注記

授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業の入れ替わりや統合・分離がある。

学生へのフィードバック方法

授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。また、評価テストによる。

評価方法

平常点50%、テスト50%で判定する。
(平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50%、テスト50%で判定する。
 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)

ディプロマポリシーとの関連

ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のバランスを保つことができる。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

体育会系施設は卒業までに充分活用していただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。
アクティブ・ラーニング		相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川 重信	指定なし

授業概要(教育目的)	レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点 (K)	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアースhipをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点 (A)	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り(アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、イニシアティブゲーム)	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	2 バレーボール(トスとサーブ)	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	3 バレーボール(レシーブとアタック)	・レシーブ練習 ・アタック練習 ・チーム練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第4回	4 バレーボール(ミニゲーム)	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習 ・柔らかいボールでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

第5回	5 バレーボール (ゲーム)	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。 授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6 テニス又はソフトボール (基本技術)	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。 授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7 バasketボール (基本技術)	・Basketボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	Basketボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8 Basketボール (マンツーマンデフェンス)	・Basketボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	Basketボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9 Basketボール (ゾーンデフェンス)	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	Basketボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10 バドミントン (基本技術)	・バドミントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11 バドミントン (ゲーム)	・バドミントンのルール ・ゲーム	バドミントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12 卓球 (ゲーム)	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13 フットサル (基本技術)	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13 フットサル (ゲーム)	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第15回	15 レクリエーションスポーツとまとめ	・ユニホッケーのルール ・まとめ	ホッケーの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法

授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
運動能力				○
スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合

授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

授業の中で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ

授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎 晃子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、自己の身体の特性を理解し、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。</p> <p>②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、いま、ここにいる自分を実感する。</p> <p>③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問う。</p>			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。			
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わるができる。			
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。			
技術・表現の観点 (A)	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行えるようになる。			
学習計画				
健康スポーツ演習 a (ヨガ)				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標(到達目標)、評価方法などの説明。	シラバスを精読	5分
第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第4回	部位の意識を高める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	700分
第9回	ヨガについて②	課題の振り返り。自律神経、交感神経と副交感神経。実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第12回	テスト課題の練習① (背骨の意識を高める)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第13回	テスト課題の練習② (呼吸とのつながりを深める)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第14回	テスト課題の練習③ (流れるように、のびのびと)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第15回	テスト課題の練習④ (総まとめ)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第16回	快適で安定した自分へ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

学習計画注記	※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。				
評価方法	平常点 (40%)、課題 (提出物) (20%)、実技テスト (40%)。 (平常点は、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する)				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	課題 (提出物)	○	○		
	実技テスト				○
評価割合	平常点 (40%)、課題 (提出物) (20%)、実技テスト (40%)。 (平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する)				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない				
参考図書	「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。 【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。 【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。 【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。				

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。
 ヨガをとおして、現在の自己を知り、
 心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、
 初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。
 裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。屋内で実施できるバドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを理解する。ゲームに必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得する。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先する。履修希望者は4/15(月)12時30分にサブアリーナに集合すること。定員を超えた場合は抽選とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球のゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設(サブアリーナ)、用具に慣れる。	新体力テストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体力テスト	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、 基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	バドミントン(基礎)	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第4回	バドミントン(応用)	ハイクリアーの方法を理解する。 ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	バドミントン(実践)	シングルスゲームを体験する。 ダブルスゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分

第6回	バスケットボール（基礎）	ボール、リング、コートに慣れる。 ドリブルの方法を理解する。 パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第7回	バスケットボール（応用）	オフェンスの方法を理解する。 ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第8回	バスケットボール（実践）	3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第9回	バレーボール（基礎）	ボール、ネット、コートに慣れる。 オーバーハンドパスを行う。 アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第10回	バレーボール（応用）	サーブを行う。 スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第11回	バレーボール（実践）	ミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第12回	卓球（基礎）	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第13回	卓球（応用）	フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第14回	卓球（実践）	シングルのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体カテストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、 基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記	※履修者数や演習の進度により種目やスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応する。				
評価方法	各種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体力テストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ゲーム実践			○	○
	レポート	○	○		
評価割合	ゲーム実践の達成度50%、レポート50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	新体カテスト実施要領 (URL参照)				
参考URL	http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】学修で得た専門的スキルをもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている				
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:30				
学生へのメッセージ	演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅でストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しんでほしい。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指 みの利	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、エアロビクスダンスを三大柱として扱う。これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 エアロビクスダンスでは、有酸素運動をすることによって体力増進を図り、音楽に合わせて動く事で、ストレス発散も目的とする。</p> <p>これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。</p>			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。 			
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。 			
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することができる。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことができる。 			
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことができる。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。 			
学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)

第1回	ガイダンス	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→筋力トレーニング又は身体作りの運動→有酸素運動（エアロビクスダンス）→クールダウン 以上の流れを毎時間、基本とします。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	ストレッチ①	自分の体と向き合い、現在の体の状況を知りながらストレッチの有効性を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ②	呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使っのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第4回	ストレッチ③	今まで行ってきたストレッチに加え、立ち方を中心に体の重心を考えてみる。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第5回	体幹トレーニング	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第6回	バランスボール①	バランスボールを使った体幹トレーニング。バランスボールに慣れる。座ったトレーニングを中心に行う。	できそうな体幹トレーニングを自宅でも実践すること。	60分
第7回	バランスボール②	バランスボールを使った体幹トレーニング。上半身を中心にトレーニングを行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第8回	バランスボール③	バランスボールを使ったトレーニングのまとめ。今まで行ったトレーニングをテンポよく行い、トレーニングの数をこなす。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第9回	セルフマッサージ①	一人でやるマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第10回	セルフマッサージ②	二人組みで行うマッサージ。ストレッチ以外の全身の緊張を取る方法、相手の体を用いてリラクセスの方法を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第11回	エアロビクスダンス①	有酸素運動とは何かを知識として学ぶ。その知識を踏まえて実践をする。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第12回	エアロビクスダンス②	心拍数と有酸素運動の関係について学ぶ。また、心拍数を計りながらエアロビクスダンスを実践していく。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第13回	エアロビクスダンス③	今まで行ってきた動きを中心に更に複雑にした動きに挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第14回	エアロビクスダンス④	今まで行ってきた動きを中心に、ハイインパクト（跳躍系の動き）に挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第15回	エアロビクスダンス⑤	今まで行ってきたエアロビクスダンスを繋げて行う。授業のまとめとして、自分の体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の体の状況の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	<p>体育館の地下のスタジオにて実技を行う。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。第11回目からのエアロビクスダンスの時には内履きのスポーツシューズが必要。</p> <p>*初回はガイダンスの為、更衣、シューズの必要はない。</p>
学生へのフィードバック方法	<p>授業内で扱う、個人カードでのやり取りを基本とする。 質問は授業前後で受け付ける。</p>
評価方法	<p>特に試験は課さないで、以下事項で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・授業時の提出物：筆記の課題を授業内で提出。 <p>なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会の多様性を、そのあるべき姿を的確に判断して提案する能力を有している。	
オフィスアワー	基本的に授業内および授業前後に限る。緊急の場合、事務局に相談すること。	
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)	卓球は気軽に始められるスポーツですが、自己の技術の進歩とともに運動量は大きなものとなっていきます。反射的な動きが求められるとともに、いろいろと作戦を考えながら試合運びをしていく楽しさもあります。ダブルスゲームを中心にしながらチームワークとコンビネーションの大切さを学んでください。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	卓球のルールとシングルスゲーム、ダブルスゲームの試合運びを理解している。
思考・判断の観点 (K)	相手の動きを予測して、ボールを打つことを学んでいる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生涯スポーツとして積極的に運動に臨む態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	ラケットイングからスマッシュまで理解している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ラケットの選択	個人によってラケットの持ち方は様々であるが、ペングリップとシェイクハンドグリップのどちらが適しているか理解する。	バドミントンやテニスのグリップと卓球のグリップは違ってくる。グリップの持ち方が、その後の打法に影響を及ぼしていることを理解しておく。	90分
第2回	ラケットイング	ラケットでボールを打ち続け、卓球のボールを打つ力加減を理解する。相手とボレーの連続を行いボールの質量を感じる。	卓球のボールは初心者にとって非常に軽く感じ、力の加減が分かりづらい事を理解しておく。	90分
第3回	フォアハンドラリー	初めてのラリーであるフォアハンドラリーで、ボールを相手のコートに打って入れることを学ぶ。相手が打ちやすいボールはどのようなコースかについて理解する。	相手を動かし回らないで、常に同じ所にボールを返すためにはどのような打ち方なのかについて理解する。	90分
第4回	バックハンドラリー	バックハンドラリーの習得は、初心者では時間がかかる。多くのボールを打つことが必要であることを学ぶ。	フォアハンドに対して、バックハンドは自分の身体の反対側にボールが来た時に使う。ペングリップでは手首をひねりラケットの面はフォアハンドと同じ面を使う。シェイクハンドではラケットの反対側を使う。グリップ	90分

			プの選択がここで現れてくることを理解しておくこと。	
第5回	サーブとレシーブ	ゲームへの第一歩はサーブである。相手のコートに着実に入るサーブの仕方を理解する。	台の上から、手のひらを開いて、16cm以上あげて基本的なルールを守ってサーブすることを理解しておく。	90分
第6回	変化を持たせたサーブ	ラケットがボールに接する時のラケットの動かし方によって、ボールが変化することを理解する。	ボールが軽い卓球では、ラケットの持ち方、動かし方でいろいろな変化球が生じることを理解しておく。	90分
第7回	クロス打ち	相手のテーブルいっぱいの長い距離を打つには、お互いに対角線上に立ち相手のコーナーを狙って打つことを学ぶ。	クロスでラリーを続けるためには、フットワークを動かし常に同じフォームで打つことを理解しておく。	90分
第8回	ダブルスゲームのルール	卓球のダブルスゲームは、チームの2人が交互に打たなくてはならない。そのための2人のポジショニングやレシーブの構えも必然と決められてくることを理解する。	ダブルスゲームでは、2人が常に動き回りながらゲームを戦わなくてはならないことを理解しておく。	90分
第9回	ダブルスのゲーム	ダブルゲームでは、常に2人が動いてレシーブとショットに対応しなければならことを学習する。馴れてきたら2人で作戦を立てていくことを理解する。	相手チームのスタイルを考えながら作戦を立てて戦うことを理解しておく。	90分
第10回	シングルスゲームのルール	シングルスゲームは、相手の動きを予測しサーブ・レシーブ・スマッシュの連続で試合を運ぶことを理解する。	シングルスゲームは、相手のサーブ・スマッシュを予測し対応していくことを理解しておく。	90分
第11回	シングルスゲーム	サーブでポイントを獲得するのかスマッシュで点数をとるのか戦略を立てる。相手の戦い方を予測し対応していくことを理解する。	ペングリップやシェイクハンドの相手に対応した、戦略を立てることを理解しておく。	90分
第12回	団体戦	シングルスゲーム、ダブルスゲームのどちらに参加することが、自分はチームに貢献できるか理解する。	シングルスゲームとダブルスゲームでは、得意なゲームはどちらなのかを理解しておくこと。	90分
第13回	スマッシュの練習	強打することは得点を取ることに繋がる。相手のコートに正確に強いボールを打てるようになることを学ぶ。慣れてきたらバックハンドでも打てるようになることを学ぶ。	スマッシュで強打するためには、何回も練習しなくてはならない。段階を踏んで少しずつ正確な強いボールを相手のコートに入れられるようになることを理解しておく。	90分
第14回	変化球の打ち方	ボールがラケットに当たる瞬間にラケットを色々な方向に運ぶことで、ボールに回転が加わり相手コートに運ばれていくことを理解する。	ボールに色々な回転を加えることで、相手のコートにボールが変化球として運ばれていく。これによりボールの動きが予測できないものとなることを理解しておく。	90分
第15回	まとめ	これまでの技術を使ってシングルスゲームやダブルスゲームを行い実践力をつけていくことを学ぶ。多くのゲームを通して相手の動きの予測や、試合運びを理解していく。	多くのゲームを通して相手の動きやボールの予測をしていくことが、卓球の上達に繋がることを理解しておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	数回の授業後からは、毎回短時間のゲーム（ダブルスゲーム）を行うことによって技術の習得の度合いが確認できる。
評価方法	授業への積極的な参加態度、技術の習得、他の授業学生との協調性の3つの観点からの総合評価とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	授業への積極的な態度（35%）他の学生との協働（35%）、技術の習得（30%）の総合評価とする。
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ルールや試合展開中のポジション 【思考・判断】練習や試合中における相手の動きとボールの予測 【関心・意欲・態度の観点】上達したいという意欲 【技術・表現の観点】習得した技術を使用してのゲーム	
オフィスアワー	月曜日4時限 G302研究室	
学生へのメッセージ	時間があったら体を動かす運動習慣を身につけて欲しい。一週間一ヶ月一年といった中で運動をする時間をつくり、生活の中に運動を取り入れ、スポーツをすることの重要性和素晴らしさを身につけて行って欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ラケットティングからダブルスゲームまでを学び、理論を理解している。
情報リテラシー教育	○	卓球のルールや試合運びを理解している。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川 重信	指定なし

授業概要(教育目的)	レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点 (K)	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアースhipをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点 (A)	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り(アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、イニシアティブゲーム)	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	2 バレーボール(トスとサーブ)	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	3 バレーボール(レシーブとアタック)	・レシーブ練習 ・アタック練習 ・チーム練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第4回	4 バレーボール(ミニゲーム)	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習 ・柔らかいボールでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

第5回	5 バレーボール (ゲーム)	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。 授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6 テニス又はソフトボール (基本技術)	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。 授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7 バasketボール (基本技術)	・Basketボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	Basketボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8 Basketボール (マンツーマンデフェンス)	・Basketボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	Basketボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9 Basketボール (ゾーンデフェンス)	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	Basketボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10 バドミントン (基本技術)	・バドミンントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミンントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11 バドミントン (ゲーム)	・バドミンントンのルール ・ゲーム	バドミンントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12 卓球 (ゲーム)	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13 フットサル (基本技術)	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13 フットサル (ゲーム)	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第15回	15 レクリエーションスポーツとまとめ	・ユニホッケーのルール ・まとめ	ホッケーの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法

授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
運動能力				○
スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合

授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

授業の中で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ

授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要 (教育目的) レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。後半ではフライフィッシングのキャスト技術について学ぶ。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点 (V)	関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点 (A)	さまざまなスポーツ種目を実施することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習ができるよう準備すること。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第2回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	仲間づくりゲームを実施し、コミュニケーションが取りやすい状態で運動ができること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	競争ではなく仲間づくりを目的とした軽い運動でコミュニケーションの充実をはかる。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	グループでリーダーを決め参加者を指導してゲームを進めることができる。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第5回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

	ン・ホッケーから選択			
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順序実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第10回	フライキャスティング1グリップからベーシックキャスト・ショートレンジ	フライキャスティング1グリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第11回	フライキャスティング2ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出す。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてキャストできるかをアピールする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第13回	自分の得意種目のアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第14回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第15回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第16回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

学習計画注記	授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業順番の入れ替えや統合・分離がある。
学生へのフィードバック方法	授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。または評価テストによる。
評価方法	平常点50%、テスト50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○		○	

評価割合	平常点50%、テスト50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)
ディプロマポリシーとの関連	ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のパランスを保つことができる。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	体育会系施設・用具は卒業までに充分活用していただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。
アクティブ・ラーニング	○	相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎 晃子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、自己の身体の特性を理解し、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。</p> <p>②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、いま、ここにいる自分を実感する。</p> <p>③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問う。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特性、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わるができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点 (A)	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標(到達目標)、評価方法などの説明。	シラバスを精読	5分
第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第4回	部位の意識を高める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	700分
第9回	ヨガについて②	課題の振り返り。自律神経、交感神経と副交感神経。実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第12回	テスト課題の練習①（背骨の意識を高める）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第13回	テスト課題の練習②（呼吸とのつながりを深める）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第14回	テスト課題の練習③（流れるように、のびのびと）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第15回	テスト課題の練習④（総まとめ）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第16回	快適で安定した自分へ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

学習計画注記

※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。

評価方法

平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		
実技テスト				○

評価割合

平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定しない

参考図書

「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

学生へのメッセージ

体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。

ヨガをとおして、現在の自己を知り、心身が変化していく過程を体感しましょう。

段階を追って進めますので、初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。

安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。裸足で行うため、運動靴は不要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。屋内で実施できるバドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを理解する。ゲームに必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得する。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先する。履修希望者は4/15(月)12時30分にサブアリーナに集合すること。定員を超えた場合は抽選とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球のゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設(サブアリーナ)、用具に慣れる。	新体力テストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体力テスト	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体力テストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、 基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	バドミントン(基礎)	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第4回	バドミントン(応用)	ハイクリアーの方法を理解する。 ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	バドミントン(実践)	シングルスゲームを体験する。 ダブルスゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分

第6回	バスケットボール（基礎）	ボール、リング、コートに慣れる。 ドリブルの方法を理解する。 パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第7回	バスケットボール（応用）	オフェンスの方法を理解する。 ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第8回	バスケットボール（実践）	3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第9回	バレーボール（基礎）	ボール、ネット、コートに慣れる。 オーバーハンドパスを行う。 アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第10回	バレーボール（応用）	サーブを行う。 スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第11回	バレーボール（実践）	ミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第12回	卓球（基礎）	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第13回	卓球（応用）	フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第14回	卓球（実践）	シングルのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記	※履修者数や演習の進捗により種目やスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応する。				
評価方法	各種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体力テストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ゲーム実践			○	○
	レポート	○	○		
評価割合	ゲーム実践の達成度50%、レポート50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	新体力テスト実施要領 (URL参照)				
参考URL	http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】学修で得た専門的スキルをもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている				
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:30				
学生へのメッセージ	演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅でストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかわりを楽しんでほしい。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指 みの利	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、エアロビクスダンスを三大柱として扱う。これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 エアロビクスダンスでは、有酸素運動をすることによって体力増進を図り、音楽に合わせて動く事で、ストレス発散も目的とする。</p> <p>これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主眼点とする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。</p>			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。 			
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。 			
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいきいきと参加することができる。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことができる。 			
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことができる。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。 			
学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)

第1回	ガイダンス	授業（フィットネス）の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→筋力トレーニング又は身体作りの運動→有酸素運動（エアロビクスダンス）→クールダウン 以上の流れを毎時間、基本とします。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	ストレッチ①	自分の体と向き合い、現在の体の状況を知りながらストレッチの有効性を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ②	呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使っのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第4回	ストレッチ③	今まで行ってきたストレッチに加え、立ち方を中心に体の重心を考えてみる。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第5回	体幹トレーニング	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第6回	バランスボール①	バランスボールを使った体幹トレーニング。バランスボールに慣れる。座ったトレーニングを中心に行う。	できそうな体幹トレーニングを自宅でも実践すること。	60分
第7回	バランスボール②	バランスボールを使った体幹トレーニング。上半身を中心にトレーニングを行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第8回	バランスボール③	バランスボールを使ったトレーニングのまとめ。今まで行ったトレーニングをテンポよく行い、トレーニングの数をこなす。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第9回	セルフマッサージ①	一人でやるマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第10回	セルフマッサージ②	二人組みで行うマッサージ。ストレッチ以外の全身の緊張を取る方法、相手の体を用いてリラクセスの方法を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第11回	エアロビクスダンス①	有酸素運動とは何かを知識として学ぶ。その知識を踏まえて実践をする。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第12回	エアロビクスダンス②	心拍数と有酸素運動の関係について学ぶ。また、心拍数を計りながらエアロビクスダンスを実践していく。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第13回	エアロビクスダンス③	今まで行ってきた動きを中心に更に複雑にした動きに挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第14回	エアロビクスダンス④	今まで行ってきた動きを中心に、ハイインパクト（跳躍系の動き）に挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第15回	エアロビクスダンス⑤	今まで行ってきたエアロビクスダンスを繋げて行う。授業のまとめとして、自分の体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の体の状況の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	<p>体育館の地下のスタジオにて実技を行う。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。第11回目からのエアロビクスダンスの時には内履きのスポーツシューズが必要。</p> <p>*初回はガイダンスの為、更衣、シューズの必要はない。</p>
学生へのフィードバック方法	<p>授業内で扱う、個人カードでのやり取りを基本とする。 質問は授業前後で受け付ける。</p>
評価方法	<p>特に試験は課さないで、以下事項で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・授業時の提出物：筆記の課題を授業内で提出。 <p>なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○
授業時の提出物	○	○		○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会の多様性を、そのあるべき姿を的確に判断して提案する能力を有している。	
オフィスアワー	基本的に授業内および授業前後に限る。緊急の場合、事務局に相談すること。	
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によっての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 c		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要 (教育目的)

長野県にある独立行政法人国立信州高遠少年自然の家のキャンプ場を使用しての、本格的アウトドアキャンププログラムを展開する。プログラム内容は環境教育、冒険教育を中心に4泊5日の期間で自然環境と人間の関わりについて様々な観点から学んでいく。また大自然の中での生活の知識や技術の実践を通して、個々人がたくましく生きる力を身につけることを目的としている。実習終了後、希望者は(社)日本キャンプ協会公認「キャンプ・インストラクター」の資格を取得することができる。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	キャンプの知識について理解している。
思考・判断の観点 (K)	キャンプでの緊急時に対応できる判断力を持っている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然保護や環境についての関心を持ち、態度や行動を示している。
技術・表現の観点 (A)	教育キャンプや組織キャンプの義勇を持っている。キャンプを企画し指導できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャンプの歴史	日本におけるキャンプの歴史について、体育的な側面から理解する。	キャンプはアメリカのキャンプの歴史から学ぶことが多いことを理解しておく。	90分
第2回	キャンプの意義・目的	キャンプは短期間でも、参加者に大きな効果をもたらすことを理解する。	年齢に対応したキャンプ・プログラムについて理解しておくこと。	90分
第3回	キャンプと自己肯定感	キャンプの成果で大きく取り上げられるものの一つに自己肯定感が上げられる。生きる力が自然の中での活動を通して育まれることを理解する。	キャンプは自己概念の変容になぜ影響を与えるのかについて、理解しておく。	90分
第4回	キャンプ・プログラム	キャンプは期間や対象、場所によって様々なプログラムから成り立ち、プログラムによって参加者に大きな影響をもたらすことを理解する。	プログラムは参加する対象を考慮して、展開されることが重要であることを理解しておく。	90分
第5回	フィールドの条件	自然の中で活動するためにはフィールドが重要である。海や山、川や森といったようにフィールドと展開するプログラムは深く関わっていることを理解する。	キャンプを行うフィールドを何処にするかで、参加者に何を求めるかが異なってくることを理解しておく。	90分

第6回	キャンプのスタッフ	キャンプを組織していくスタッフの重要性について理解する。	キャンプのスタッフはどのような知識、技術を持っているべきかについて理解しておくこと。	90分
第7回	事故防止とリスクマネジメント	野外で行われる活動での事故や、リスクマネジメントについて理解する。	事故の防止のために事前や活動中にどのような配慮が必要か、リスクマネジメントについて理解しておく。	90分
第8回	いろいろなキャンプ	参加対象者、フィールド条件、期間、季節など様々な条件によって、いろいろなキャンプが企画できることを理解する。	キャンプを企画する際に、何を重要視していくのかについて理解しておくこと。	90分
第9回	冒険教育	キャンプでは、参加者の精神的、身体的限界に近い状態を引き起こすことも可能であることを理解する。	参加者が限界に近い状況を乗り越えた時に、自己肯定感や有能感が高められることを理解しておく。	90分
第10回	キャンプとカウンセリング	自然の中での活動中の他者からの助言は、大きな影響力を持つことを理解する。	カウンセリングは、キャンプ活動中においては重要な教育効果をもたらすことを理解しておく。	90分
第11回	キャンプ用具	キャンプ用具には様々な種類があり、キャンプの目的や種類に合わせて用具を選ぶことを理解する。	キャンプの用具を何で運ぶかによって、持って行く物はことなってくる。車での移動ではテントは大きく重い物を持参することも可能である。移動手段、目的によって用具も変わることを理解しておく。	90分
第12回	野外炊事	自然の中での炊事は、ボタンを押すだけでは食事はできない。多くの準備が必要であり段取りをしっかり立てることの必要性を理解する。	山の中での薪拾いから始めて、火を絶やさないと先を読みながら行動しなくてはならないことを理解しておく。	90分
第13回	クラフト制作	自然物を利用しての様々なクラフト制作は、想像力を膨らませることを理解する。	ナイフや彫刻刀を用いて木を削り、モノを創り出すプログラムは、制作過程を通して想像する力を引き出すことを理解しておく。	90分
第14回	パッキング	荷物をリュックに詰める時の要領や、リュックを背負っての歩き方等について理解する。	リュックに荷物を詰める時は、使用頻度や利便性を考えてパッキングすることが大切であることを理解しておく。	90分
第15回	テントの設営と撤収	キャンプの宿泊のスタイルの多くはテント泊になる。宿泊数が長くなればなるほどテントをしっかり立てることが重要であることを理解する。テントの片付けも、たたみ方やメンテナンスが大切であることを理解する。	テントは、正しく設営・撤収をすることによって長く使用できること、メンテナンスを行うことによって	90分
第16回	キャンプと健康	キャンプ中でも日常と同じ衛生習慣や、健康に関する習慣を厳守する事が大切なことを理解する、	自然の中での生活は時間にとられない生活をするのでなく、規則正しい生活習慣はキャンプでも実施しなくてはならないことを理解しておく。	90分
第17回	自然と気象	気象の変化によって、キャンプ中に健康をそこねない様に生活する方法を理解する。	自然の中での気象の急変にどのように対応するのか、身体のリスクマネジメントについて理解しておく。	90分
第18回	自然環境と順応	キャンプの初心者でも自然の中での生活が続くと、様々な事柄になれてくる。期間をかけてゆっくりと自然環境に馴れる事が大切であることを理解する。	暑さ・寒さに順応していくと、自然の中での生活も楽しくなっていくことを理解しておく。	90分
第19回	サバイバル技術	簡易なテントの作り方、保温の方法、飲料水の確保などサバイバル技術を理解する。	キャンプのサバイバル技術は、日常生活の緊急時にも十分利用できるものであることを理解しておく。	90分
第20回	ロープワーク	ロープを使ったいろいろな結び方について理解する。	ロープワークの習得は、日常生活の中で頻繁に使用される結び方の習得でもあり、生活の中にある紐の正しい結びの方法について理解しておく。	90分
第21回	キャンプと自然保護	自然環境の保護は、自然の中に入って自然環境について学ぶことが重要であることを理解する。	自然環境の保護について考え、実行するためには、自然の中で生活することからスタートする必要性を理解しておく。	90分
第22回	キャンプの	期間やスタッフ、目的や場所といった要素を総合的にと	組織キャンプは1人で実施する	90分

	企画	らえプログラムの企画を立てることを理解する。	ことは難しい。キャンプの企画を考える方法を理解する理解しておく。	
第23回	キャンプカウンセリング	教育キャンプでは、キャンパーに的確な指示やアドバイスを与えることによって効果が異なってくる。指導者の発言や行動が参加者に与える影響について理解する。	指導者は参加者の気持ちを十分に理解し、プログラム遂行中に的確なアドバイスを与える事が重要であることを理解しておく。	90分
第24回	障害者キャンプ	障害を持った人が、自然の中でキャンプ生活を楽しむためには何が必要なのか理解する。	健全者と障害を持った人が一緒にフィールドでキャンプ生活を送るためには、どのような準備から始めるのかについて理解しておく。	90分
第25回	キャンプの評価	企画したキャンプや参加したキャンプについて、様々な角度から評価する方法を理解する。	教育キャンプや組織キャンプは、終了した後に必ず評価を行い次回のための資料を得なくてはならない。評価のための方法について理解しておく。	90分

学習計画注記

気候等の自然条件によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

4泊5日間テント生活であり、内1泊は湖の畔で野営をする本格的キャンプである。期間中の12食は全て野外炊事であり、シラバスの内容は全て体験する事になる。キャンプ生活に馴れていくことで、生活プログラムは時間的に早くなっていくことがフィードバックされる。

評価方法

4泊5日間のキャンプ生活を通して、守らなければならない自然の中でのルールについて確認する。キャンプ生活中の態度、基本的なルールの厳守、協調性の3点からの総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
オリエンテーション	○		○	
実習	○	○	○	○

評価割合

実習のオリエンテーション及び実習への参加（生活態度、自然の中でのルール、協調性）をもって単位の認定をする。

参考図書

野外活動-その理論と実際-、日本野外教育研究会編、杏林書院、2002
キャンプテキスト、日本野外教育研究会編、杏林書院、1995

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】自然の中で生活するための方法について、知識と技術の側面から理解し具体的に経験している。環境保護や自然保護の知識を身につけている。
【思考・判断】緊急時の対応に関する知識と実践能力を身につけている。

学生へのメッセージ

アウトドアの楽しさを経験をもつて理解するとともに、様々なリスクマネジメントとクライシスマネジメントも修得して欲しい。創造して生きていく力を授業で経験して欲しい。日常生活の豊かさに感謝する気持ちを学習し、また環境保護についても考える姿勢を形成し実行してもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	本格的なキャンプ生活を通して知識と技術を身につける授業である。自然の中での緊急時の対応の方法を習得し、日常生活にも応用できる能力を身につけられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 c		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

1. 東京都あきる野市にある養沢川の自然環境に親しむ
2. 水生の動植物を知る (K)
3. 渓流魚(ヤマメ・イワナ・ニジマス)の特性を知る (K)
4. フライ(毛鉤)や道具のことを知り、技能を身につける (K・A)
5. フライフィッシングを通して自然環境と如何にマッチしていくべきかを学ぶ (V)
6. フライフィッシングをARTにまで高める基礎をつくる (A)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	水生昆虫や魚の習性を知ること。河川の状態を知ること。自然環境の大切さを知ること。
思考・判断の観点 (K)	魚との距離をどれくらい取るべきか判断し、立ち位置を決定すること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	魚を釣りたい。魚を食べたいという意欲と欲求が釣りの技術を進歩させる原動力となること。
技術・表現の観点 (A)	釣りのさまざまな道具には歴史的発展があること。釣りの服装は自分を表現する重要なアイテムである。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	用具の確認	第1日目: 10:30~12:00 道具配布・装備確認(実践1)	フライフィッシングとはどのようなものか。ネットなどで調査すること。	45分
第2回	自然観察	第1日目: 12:30~14:00 宿泊先養沢センター周辺の河川観察(実践2)	養沢川の地理的特徴を調査すること。	45分
第3回	オリエンテーション	第1日目: 14:00~15:30 開校式・釣具セッティング(実践3)	時間厳守のこと。フライトは何かを調査すること。	45分
第4回	第1日目: 15:40~17:10 キャスティング発達史(講義1)	文献上16世紀には始まっていたフライフィッシングについて学ぶこと。	ジュリアナ・パーナースについて調査すること。	45分
第5回	第1日目:	日本の漁業法について概説する。	行方法の所轄はどこか調査する	45分

	19:00～ 20:30日本の 漁業法 (講義2)		こと。	
第6回	第2日目： 9:00～ 10:30キャ スティング・精度を 高める(実 践4)	キャストイング(ショートレンジ)をマスターする。	ネットなどでキャストイング動 画をチェックしておくこと。	45分
第7回	第2日目： 10:40～ 12:10キャ スティング 理論(講義 3)	フライはなぜ飛ぶか。ロッドの機能とフライを飛ばす原 理を説明すること。	フライロッドについて調査する こと。	45分
第8回	第2日目： 14:00～ 15:30養沢 川の観察・ 魚のいる場 所を確認す る(実践 5)	河原に降りて魚と周囲を観察すること。	溪流について調査すること。	45分
第9回	第2日目： 15:40～ 17:10フラ イタイ ング・フライ を作る(実 践6)	実際にフライを巻いてみること。	フライを巻く道具と材料につい て調査すること。(フェザンと テール・カディスなど)	45分
第10回	第2日目： 20:00～ 21:30キャ スティング のポイント (講義4)	魚はどこにいて、何を食べているか。流れを読むこと。	ネットの動画などでヒットシー ンを確認すること。	45分
第11回	フライでマ スを釣る (実践7)	第3日目：6:00～7:30フライでマスを釣る試み(実践7)	魚がいる流れを察知することが できるか。挑戦する。	45分
第12回	自然観察・ 河川の観察	第3日目：9:00～11:30河川の観察・動植物の観察(実践8)	養沢の植物について調査する。	45分
第13回	フライタイ イング	第3日目：14:00～15:30フライタイイング・フライを作る (実践9) ニーフ・カディスをつくり保管する。	ニーフとは何かを調査する。	45分
第14回	魚を釣る試 み	第3日目：16:00～18:30フライでマスを釣る(実践10)	魚は何を食べているか確認する こと。	45分
第15回	水生昆虫	第3日目：20:00～21:30水生昆虫について(講義5) 養沢 にいる水生昆虫を紹介する。	カゲロウとトビゲラについて調 査する。	45分
第16回	マスを釣る 試み	第4日目：6:00～7:30フライでマスを釣る(実践11)	自分が持っているフライを確認 すること。	45分
第17回	郷土館見学	第4日目：9:00～11:30武蔵五日市市郷土館・古民家見学 (実践12)	武蔵五日市市について調査す る。	45分
第18回	ニーフをつ くる	第4日目：14:00～15:30フライタイイング・フライを作る (実践13)	再度ニーフとは何かを確認する こと。	45分
第19回	釣魚の試 み	第4日目：16:00～18:30フライでマスを釣る(実践14)	ポイントの情報交換をする。	45分
第20回	魚を釣った 人の事例を 参考にす ること。	第4日目：20:00～21:30 個別指導・説明会(講義6)	魚のいる場所を確認すること。	45分
第21回	マスを釣る 試み	第5日目：6:00～7:30フライでマスを釣る(実践15)	実績のある場所を選んでそこ に行く準備をする。	45分
第22回	名人紹介	第5日目：9:00～10:30日本のフライフィッシングの名士 たち(講義7)	フライフィッシングの達人をひ とあげ調査すること。	45分
第23回	世界のフラ イフィッシ ング	第5日目：10:40～12:10世界のフライフィッシングの名士 たち(講義8)	フライフィッシング世界大会に つて調査すること。	45分

学習計画注記	天候により外出できないことがあります。				
学生へのフィードバック方法	魚が釣れるか。釣れないか。それが課題でありひとつの結果である。				
評価方法	平常点50%、演習・釣果判定等50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの課題達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	釣果判定	○	○	○	○
評価割合	平常点50%、演習・釣果判定等50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜				
参考URL	http://yozawa.jp/				
ディプロマポリシーとの関連	日常生活から離れて自然環境の中で自分と向き合う時間はさまざまに意味を持つことがある。その時間の中で生活のことを考え、仲間のことを思うかもしれない。日常から離れて、また日常へ帰るとき生活者としての自分に気がつくものである。				
オフィスアワー	金曜4限				
学生へのメッセージ	自作のフライでニジマスを釣って胃袋におさめる。わたしたちはそのとき何を思うだろう？				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年にはイタリアでの世界大会にも日本代表として参加した。それらの経験を学生の還元する集中授業である。			
アクティブ・ラーニング	○	魚との距離をとって的確にキャストすることが求められその学習が必要であること。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 d		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

スキー、スノーボードの技術と理論を学ぶと共に、運動文化としてのスノースポーツの重要性について考える。また、滑走技術としてのスキーやスノーボードの捉え方から、移動手段としてのスキーやスノーボードの歴史的背景について学習する。さらに雪を媒介としての環境教育プログラムの考え方についても造詣を深める。スキー、スノーボードの講習は、それぞれ専門の大学教員が担当する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 日常で用いない新しい技術をどのように学ぶか理解している。 2. 知識と同時に実践を通して学ぶ事は、効率的な事であることを理解している。 3. 他者に教えられることは、新しい知識と技術を習得した証であることを理解している。
思考・判断の観点 (K)	1. 斜面に対応する滑りの技術を理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 初級者や初心者指導に対応できる態度を持っている。 2. 他者に対する言葉かけや、指導の方法を理解している。
技術・表現の観点 (A)	1. 自身の力でゲレンデを滑走する技術を身につけている。 2. 初心者や初級者を教えられるスキー、ボードの技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	冬季スポーツの歴史(スキー・スノーボードの歴史)	冬季スポーツが世界でどのような歴史を経て来たのかを理解する。日本のスキーとスノーボードの歴史を理解する。	スキーやスノーボードが高校や大学で普及してきた年代について考えおく。	60分
第2回	冬季スポーツの魅力	冬季スポーツの魅力について、地域性や年齢段階、スポーツ活動の場から理解する。	スノーボードが特に若者に指示される理由について考えておくこと。	60分
第3回	スキー・スノーボードの用具の発展	スキーやスノーボードには、板やストック、靴と一緒に締め具といった特殊な用具が使用される。これらの歴史的発展やその使い方を理解する。用具の発展は、技術の発展と大きく結びついていることを理解する。	用具について、調べておくこと。	60分
第4回	スキー・スノーボード	スキー・スノーボードには多くの技術があり、技術は滑降する斜面と関係していることを理解する。	技術は簡単なものから複雑なもの、低速から高速、荒削りのものから洗練されたもの、という	60分

	の技術について		ように体系化されていくことを考えておくこと。	
第5回	冬季スポーツと事故や怪我の防止	スポーツの実施にともなう事故や怪我の発生について理解する。ハインリッヒの法則を中心に怪我の予防について理解する。簡単な救急処置について理解する。	スキー場での怪我は、なぜ生じるのか考えておくこと。	60分
第6回	初心者・初級者の技術(実技)	スキーやボードで雪面をずらして滑ることを学ぶ。安定した姿勢で雪面をゆっくりと真下に滑ることを学ぶ。	初心者や初級者が雪の上を滑る時の気持ちを考えておくこと。	60分
第7回	初級者の特徴	スキーやボードの初級者の陥りやすい姿勢、スキー・ボードの操作の特徴について理解する。斜面に対応する重心の位置や構えの姿勢について理解する。	斜面を下に滑降していくということは、どのような事なのか考えておくこと。	60分
第8回	初級者から中級者へ	斜面が変わる度に、姿勢を変えることを理解する。いろいろな斜面を滑るために股関節や脚の角度を変えることを理解する。	斜面の凹凸を通過する時の重心の位置を考えておくこと。	60分
第9回	スキー・ボードの操作	板のエッジを切り替えることによって、ターンが生じることを理解する。荷重の切り替え、スキー板やボードの脚による操作について理解する。	スキーやボードの動画を見て、上級者がどのように板を操作しているか事前に調べておくこと。	60分
第10回	滑走感覚を習得する	長い距離を滑ることによって、習得した技術をさらに高めることを学ぶ。長い時間を滑ることによって、スキーやボードで使用する体の使い方を理解していく。	長い距離や長い時間、スキーやボードをすために必要な体の使いかたについて調べておくこと。	60分
第11回	滑りのバリエーション	なめらかなゲレンデや整地されていないゲレンデ、凹凸のある斜面、一定の斜面があるところといったような、様々な条件下を滑ることができる技術を習得する。	長い距離、色々な斜面、を滑りきれられるためにはどのような滑りが望ましいのか考えておくこと。	60分
第12回	リスクマネジメントと応急処置	ゲレンデ内での事故防止のために、何が必要なのかについて理解する。事故に遭遇したり当事者となった時の対処方法について理解する。	スキー場の安全管理やスノースポーツの保険について調べておくこと。	60分
第13回	スピードとコントロール	スキーやボードの滑走スピードは、常に止まれるスピードで滑走しなくてはならないことを理解する。オーバースピードは事故につながることを理解する。ゲレンデ内の標識や注意事項を理解し滑走することを学ぶ。	ゲレンデでは滑走ルールを厳守することが重要であるとともに、相手の滑走方向を常に予測しながら自身が滑走していく必要があることを考えておくこと。	60分
第14回	スキー・ボードの用語	スキーやスノーボードで用いる様々な用語について理解する。それぞれの種目の技術用語と指導用語について理解する。	ヨーロッパや欧米から伝わったスポーツで用いられる用語は、指導場面で多く用いられることを学習しておくこと。	60分
第15回	総合的な滑走	スキーやスノーボードを操作して、様々な条件下を自身のコントロール下で自由に安全に楽しく滑る楽しさを理解する。	事故や怪我を生じさせないで自由に楽しく安全に滑るために、準備運動から始まり適切な服装の用意、指導者の意見、斜面の選定など様々な条件を学習することの必要性について理解しておくこと。	60分
第16回	用具になれる	靴や板を履いて、重さに慣れ日常生活の中の用具と違う感覚を理解する。	部屋で足の運びを実際に行っておくこと。	90分
第17回	歩行と方向変換	板をつけて歩行したり、斜面を登っていく方法を理解する。長い装具である板を履いての方向変換を理解する。	方向変換の方法を調べて足の運びを理解しておくこと。	90分
第18回	斜面を真下に滑り停止する	面を真下にまっすぐに滑って行く時の、荷重の方法とエッジのコントロールを理解する。	上体の構えや、重心の位置、股関節の角度の変化を理解しておくこと。	90分
第19回	方向を変えて停止する	脚を曲げて停止する方法から、山回りによってエッジの角付けを強めて停止することを理解する。	エッジを強めるためにはどのようにするのか、学習しておくこと。	90分
第20回	エッジを切り替える	エッジを切り替えることによってスキーやボードは回転を生じることを理解する。	エッジの切り替えのコントロールによってターンが早くなったり、大きくなったりすることを学習しておくこと。	90分
第21回	ターン(山回から谷回り)	真下に向かうフォールラインを板が2回通過すると山回りから谷回りとなりターンが生じること、体の重心の切り替えが生じることを理解する。	ターンを行うために、からだの重心はどのような軌跡をたどるのかを理解しておくこと。	90分
第22回	ターンを連続する	滑らかな斜面でターンの連続を行うことを学ぶ。積極的な上体の構えがターンの連続を可能にすることを理解する。	上体の構えがターンをリードしていくことを理解しておくこと。	90分

第23回	エッジを切り替える	エッジを切り替えるための荷重の方法や、上体の立ち上がりの方法を理解する。	スキーやスノーボードでは、脚以外の部位に緊張があるとスムーズな回転が難しいことを理解しておく。	90分
第24回	回転弧を替えて滑る	大きなターンや小さいターン、早いターンやゆっくりしたターンといった変化のあるターンを、体でコントロールして滑ることを理解する。	脚や股関節、上体の積極的な立ち上がりを行うことで回転を滑らかにできることを理解しておく。	90分
第25回	いろいろな斜面を滑る	自然の中では、全く同じ条件で全く同じ滑りをするということは不可能である。気象条件や雪質の変化に対応しながら滑ることを理解する。	90分	
第26回	スピードのコントロール	常に停止できるスピードで滑る。そのためには脚や股関節の自由度を大きく保ち、いつでも停止できる状態で滑ることが重要であることを理解する。	安全なスピードで滑走することが、スキーやボードにとって大切な要件であることを理解しておくこと。	90分
第27回	長い距離を滑る	様々に変化した斜面を長く滑ることが上達に繋がることを理解する。	長い距離を滑ることによって、滑走感覚を身につけることが重要であることを理解しておく。	90分
第28回	フォーメーションで滑る	他者の滑走リズムに合わせて自分の滑走スピードやリズムをコントロールすることが大切であり、上達するための方法でもあることを理解する。	他人のスピードやリズムに合わせてられることは、スピードコントロールが常にできていることを理解しておく。	90分
第29回	指導をする	初心者に教えられることは、様々な事柄を理解し滑走技術も習得できた証であることを理解する。	初心者に教えるために必要な事柄を整理し、どのような方法を用いるのが最適な方法かを準備しておくこと。	90分
第30回	応用技術を習得する	これまでに学習した技能を用いて、さらにいろいろな斜面や斜度に対応した技術を理解する。	応用的な技術は、どのような場面で求められるのかについて理解しておくこと。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講習中は常に教員がアドバイスを的確に行います。 ・実力に応じた班編成で、1班10名程度で講習を行います。 ・メディアを用いた指導法で、滑りを還元していきます。 																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導が5日間あります。実習中は夕食後に講義を実施します。事前指導、実習中の講義については毎回ノートの提出を求めます。 ・4泊5日の最終日にそれぞれの班ごとに、実技テストを実施します。 ・講義中のノートの提出状況と実技テストの総合判定とします。 ・実技テストとノートの割合は、50%づつとします。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講習ノート</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実技テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	講習ノート	○		○		実技テスト	○	○	○	○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
講習ノート	○		○																										
実技テスト	○	○	○	○																									
評価割合	講義ノート (50%)、実技テスト (50%) を総合して評価する。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。																												
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】スキー・ボードの知識をもつ。 【思考・判断】様々な条件に応じた滑りを判断し、実行できる。 【関心・意欲・態度の観点】積極的に滑ろうとする意欲を持つ。 初心者や初級者に教えられる態度を持つ。 【技術・表現の観点】斜度や斜面、自然条件に応じた滑走技術を有する。 																												
オフィスアワー	月曜4時限 G302教室																												
学生へのメッセージ	スノーボードやスキーは冬の代表的なスポーツです。雪のなかで体を動かす楽しさや素晴らしさを経験して下さい。また、雪国で生活する人々の暮らしについて考える機会を持って欲しい。																												
教育等の取組み状況																													
	該当	概要																											

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 d		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。テニスのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブなどの基本的技術を身につけて、経験、技能によらずゲームを楽しく行う。
履修条件	夏季集中で開講するため、確実に履修できる学生を優先する。8/12(月)～8/16(金)に蓼科山の家で実施。実習費22,000円(税込予定、交通費別)。千代田三番町キャンパスで実施する新体カテストに参加すること。履修希望者は以下のいずれかのオリエンテーションに参加すること。定員を超えた場合は抽選とする。 ・4/15(月)12時30分 千代田三番町キャンパスサブアリーナ ・4/17(水)12時30分 町田キャンパス体育館
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	テニスの特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点(K)	テニスのゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	テニスの基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション (千代田三番町、町田)	本授業の目的と概要を理解する。 演習に必要な服装・用具を準備する。	新体カテストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体カテスト (千代田三番町)	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体カテストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、 基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	グラウンドストローク (フォアハンド)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分

第4回	グランドストローク (フォアハンド)	フォアハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、右側に来るボールをフォアハンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	グランドストローク (バックハンド)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第6回	グランドストローク (バックハンド)	バックハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、左側に来るボールをバックハンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第7回	グランドストロークの練習1	フォアハンドからバックハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第8回	グランドストロークの練習2	バックハンドからフォアハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第9回	グランドストローク (クロス)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第10回	グランドストローク (ストレート)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第11回	グランドストローク (逆クロス)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第12回	ボレー	ボレーの方法を理解する。 ネット付近での、ラケットワークを説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第13回	スマッシュの練習1	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、正確に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第14回	スマッシュの練習2	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、ポイントにつながる方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第15回	サービスの練習1	サービスの種類と方法を説明する。 ファーストサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第16回	サービスの練習2	サービスの種類と方法を説明する。 セカンドサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第17回	サービス・レシーブの練習1	サービスされたボールを確実に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第18回	サービス・レシーブの練習2	サービスされたボールを打ち返し、得点する方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第19回	試合の進め方・審判の方法	ルールを理解し判定をできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第20回	試合の進め方・審判の方法	正しく、コールできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第21回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ミニゲームの方法を説明する。 本来より短い試合の進め方を学習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第22回	ミニゲームでの試合・審判の方法	本来より短い試合でのセルフジャッジに慣れる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第23回	ミニゲームでの試合・審判の方法	シングルの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分

第24回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ダブルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身につける。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第25回	ゲーム形式での練習	ミニゲームを発展させた試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第26回	ゲーム形式での練習	シングルのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第27回	ゲーム形式での練習	ダブルスのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第28回	5ゲームでの試合	5ゲームのシングルの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第29回	5ゲームでの試合	5ゲームのダブルスの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第30回	5ゲームでの試合（まとめ）	テニスの基礎技術、プレーマナー、チームワーク、スポーツをする、観る、支える知識、態度、行動について説明する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記	※天候、履修者の技能レベル、人数によりスケジュールや内容が変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業中およびオフィスアワーで対応する。
評価方法	種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体力テストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゲーム実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合	ゲーム実践の達成度50%、レポート50%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	全米テニス協会評価プログラム (NTRP) ガイドライン (URL参照)
参考URL	https://assets.usta.com/assets/639/15/National%20tennis%20Rating%20Program.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解・思考・判断】 運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる 【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている 【技術・表現】 学修で得た専門的スキルをもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:30
学生へのメッセージ	初心者向けに蓼科山の家で実施する（夏季集中）。NTRP3.0~4.5を主な対象とする。演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅でストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	体育講義		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもの身体と運動能力について理解していく上での基礎的な知識を学ぶ。子どもの発育発達にともなう、遊びからルールをともなったスポーツへの参加がどのように身体的・精神的に影響を及ぼしていくのかについて考えていく。また、諸外国の多くの事例を見ながら運動やスポーツの効果について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 子どもの成長と運動の関係について理解している。 2. 運動が子どもにとって大切な事項であることを説明出来る。 3. 年齢段階に応じた運動について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 幼児の成長において重要な運動を分類できるとともに、その内容も理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 幼児の運動を分類でき、それぞれの運動について説明と指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	体の発育と発達	発育と発達の相関について学ぶ。スキヤモンの発育・発達曲線を中心に理解する。	自身の母子手帳を見て、発育・発達について関心を高めておく。	60分
第2回	発育・発達に及ぼす栄養と運動	子どもの成長は運動と栄養、休息が3つの大きな基本となっていることを理解する。栄養、運動、休息のそれぞれが関連を持たなくなった時、どのような影響が現れるかについて理解する。	怪我や病気について、その誘因や主因から考えを深めておく。	60分
第3回	運動やスポーツの科学的成果(生理学的側面から)	運動やスポーツの効果について、科学的に検証された成果について理解する。筋肉や骨、神経の成長を促すための運動やスポーツについて理解する。	園や小学校で実施されている運動やスポーツについて、年齢や学年に応じた分類を考えておく。	60分
第4回	運動・スポーツの科学的成果(運	運動やスポーツの効果について、科学的に検証された成果について理解する。技術の習得や技の巧みさについて理解する。	技術を習得するために、どのような方法をとっているか、大人と子どもの習得方法の違いはあ	60分

	動学的側面から)		るのかについて考えておく。技術の習得の順番について考えておく。	
第5回	運動・スポーツの科学的成果(心理学的側面から)	運動をコントロールするものは、筋肉よりも神経系である。「あきらめない」こと「頑張る」こととは何なのか。運動を持続する事によって何が高まっていくのかについて理解する。	心肺機能に影響をもたらす運動と、技巧緻性に影響する運動やスポーツに調べておくこと。子どもにとってどのような運動が望ましいかについて学習しておくこと。	60分
第6回	運動・スポーツを取り巻く環境	子どもを取り巻く運動やスポーツ環境について理解する。子どもの親の子ども時代と現在の子ども達との遊び環境の違いについて理解する。	文部科学省のHPから、それぞれの時代の子どもの体力や遊びについて調べておくこと。	60分
第7回	運動・スポーツを取り巻く現状	子どもの運動・スポーツを取り巻く現状について理解する。スポーツの英才教育や競技スポーツの若年齢化について理解する。スポーツの2極化現象について、原因や課題を理解する。	スポーツ人口の構成やスポーツ教育の若年齢化について調べておく。スポーツの2極化現象に及ぼすマスメディアの存在について考えておく。	60分
第8回	オリンピック・パラリンピックの課題	2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックの学校や社会への波及について理解する。大きな国際大会がその国に及ぼす影響について実施前・実施中・実施後の観点から理解する。	オリンピックやパラリンピックの社会的側面、経済的側面から様々な記事を読んでおくこと。オリンピック後の施設の在り方について考えておくこと。	60分
第9回	運動環境(施設・用具・価格)	園や学校以外の運動環境について理解する。日本の運動環境は諸外国と比較してどのようなレベルなのか理解する。子ども達が好んで実施しているスポーツ環境について、施設面から理解をしていく。	運動環境が整っていると言うことは、どのようなことなのか調べておくこと。	60分
第10回	学校体育の役割	子どもの成長に合わせた学校体育について理解する。小学校体育と競技スポーツの関係について理解する。	競技スポーツは、必ずしも小学校体育で取り上げていない。子どもの発育・発達から競技スポーツの特色を考えておくこと。	60分
第11回	社会体育の役割	学校以外の運動やスポーツ環境について理解する。スポーツ環境が整っていると言うことはどのようなことなのかについて理解する。	自身の家を中心とした環境の中で、スポーツや運動施設を振り返って見て、スポーツ施設の充実度について考えておくこと。	60分
第12回	生涯スポーツ、障害者スポーツ	長い期間続けられる運動やスポーツこそ、人の健康に大きく寄与していくことを理解する。年齢段階によって大きな筋肉運動から小さな運動へと移行していくことや有酸素的運動の大切さを理解する。障害者スポーツが益々発展していくための環境作りについて理解する。	年齢を重ねる度に競技スポーツから生涯スポーツへと移行していくことを考えておくこと。障害者が誰でもスポーツや運動を楽しめる環境作りについて考えておくこと。	60分
第13回	スポーツによる地域興し	スポーツを用いての地域の活性化について理解する。スポーツや運動の大会の企画や実施は、大きな要因となって周囲を活気づけていくことを理解する。	自分の周囲で、このような行事があるか調べておくこと。	60分
第14回	これからの運動・スポーツ	健康を維持・増進する運動から競技的なスポーツ、生涯を通して実施していくスポーツや運動、年齢や環境に合ったスポーツについて色々な方向から理解する。	家族のスポーツの実施状況や、運動の嗜好について調べておくこと。	60分
第15回	まとめ	運動やスポーツの経験が今後の自分にどのような影響を及ぼしてくるのか、身体的精神的側面から理解する。生涯にわたってスポーツや運動続けて行くことの意義について理解する。	自分のこれまで経験してきた運動やスポーツを通して、何を学んできたかをまとめておくこと。	60分

学習計画注記

授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して返却する。小テストの模範解答はgoogle ドライブ上に提示する。質問等については授業終了後もしくは研究室G302へ訪問すること。

評価方法

- ・毎授業時の終わりに、5分間の小テストを実施する。小テストは授業時の講義の内容に沿ったものとする。
- ・小テストは5点満点とし、総計は5点×14回で70点とする。
- ・授業期間中2回の課題レポートを出し、それぞれ15点満点とし15点×2回で30点とする。課題はすべて講義で話した内容を基に提出することとなるので十分注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
課題	○	○	○	

評価割合	小テスト（70%）課題・レポート（30%）を総合して評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動やスポーツを、発育・発達に応じて与えられる知識をもつ。生涯を通してどのようなスポーツと関わって行くことが望ましいのかについて知識をもつ。スポーツが健常者のみのものではなく、障害者とともに楽しむことであるという知識をもつ。 【思考・判断】今後、自分がスポーツや運動とどのように関わっていくのかという判断ができる力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜4時限 G302研究室	
学生へのメッセージ	運動やスポーツについて関心をもつ習慣を身につけることは大切です。自身で体を動かし積極的に自分のからだの変化を感じましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	体育実技		
講義開講時期	後期	講義区分	実技
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

運動やスポーツの実践を通して、身体を動かすことによる効果を実体験していく。勝敗を決定すること以上に、運動やスポーツがコミュニケーションの形成や自己効力の向上に大きな効果を上げていることを学んでいく。これらが子どもの発育・発達においていかに重要な要素となっているかについて学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	運動技術の修得のための指導用語を理解する。
思考・判断の観点 (K)	運動のコツを修得する。技のタイミングを得ようとする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	スポーツを楽しむためにゲームのルールを理解する。
技術・表現の観点 (A)	模範演技のための表現能力を高める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アイスブレイクゲーム	初めてのメンバーと出会った時に緊張をほぐすゲームは、非常に効果があることを理解する。	ゲームを通して体を触れあったり、一つの目的を達成するために全員が協力することは、お互いの心を開くための最善の方法であることを理解しておく。	90分
第2回	イニシアティブゲーム	集団の凝集性と意識を高めるための方法として、イニシアティブゲームの有効性について理解する。	集団に一定の課題を与え、これを解決することによってまとまりのある集団へと成長していくことを理解しておく。課題解決のためのいろいろなゲームについて理解しておく。	90分
第3回	アウトドアゲーム	アウトドアゲームを通して環境保護や環境教育の必要性を理解する。	アウトドアゲームは、自然についての意識を高めることを理解しておく。	90分
第4回	基本的な運動(投げる、跳ぶ、走る)	基本的運動能力である走・跳・投について、現在の自分の数値を計測し、運動能力の推移について理解する。	運動能力の経年的推移について理解しておく。	90分

第5回	基本的な運動から応用へ（ボール運動、なわ運動、マット運動）	メデシングボール等を用いた補助運動、基本的な縄跳び運動、マット運動の前転・後転を中心に、体の柔軟性や運動能力について理解する。	運動能力に影響をおぼしている柔軟性や筋力・神経反射について理解しておく。	90分
第6回	ゲームスポーツ（バレーボール）	バレーボールを通して、チームワークの必要性、作戦の大切さを理解する。	バレーボールは個人スポーツではないこと、6人が協力するとはどういうことなのかを理解しておく。	90分
第7回	ゲームスポーツ（バスケットボール）	シュートの成功の確率が勝敗に大きく影響しているバスケットボールについて、確率の高いシュートを打つための方法を理解する。	シュート練習の重要性について理解しておく。	90分
第8回	ゲームソフトボール	基本のキャッチボールからバッティングまでを行い、ソフトボールの楽しさを理解する。	ソフトボールの基本はキャッチボールであることを理解しておく。	90分
第9回	いろいろなスポーツを楽しむ（インディアカ）	運動量が大きなバレーボールとは異なり、ニュースポーツとしてのインディアカの楽しさを理解する。	インディアカのルールを知り、インディアカの楽しさを理解しておくこと。	90分
第10回	いろいろなスポーツを楽しむ（サッカー）	シュート時の感覚やパスが通った時の感覚を体験し、サッカーの楽しさを理解する。	チームが一つになって、相手のゴールにボールを運ぶ時の感覚を理解しておく。	90分
第11回	いろいろなスポーツを楽しむ（フライングディスク）	ディスクを投げたり、キャッチングする楽しさに触れ、ディスクゴルフとアルテミットを理解する。	ディスクを用いてのゲームの楽しさについて理解しておくこと。他の投げるスポーツと異なりバックからの投げ方は独特である。目標に向かって正確に投げる方法を理解しておく。	90分
第12回	運動会の企画と準備	子どもたちにとって、ワクワク・ドキドキする運動会を企画する。いろいろな種目を自ら体験し楽しい運動会にすることを学ぶ。	競技のみの種目でなく、全員で協力して行う種目や、勝ち負けのない種目を理解しておくこと。	90分
第13回	運動会	様々な種目が組み入れられた運動会を経験し、種目の配置や時間を理解する。	運動会を企画・経験し種目の配列、時間、集団での動きの理解をしておく。勝敗のない運動種目を理解しておく。	90分
第14回	球技大会	ルールに変化を加えたりしながら、プレイが長い時間継続する方法を理解する。	参加者全員が競技を楽しむためには、どのような工夫が必要か、ルールや時間、人数等について変化をもたせることを理解しておく。	90分
第15回	運動をつくる	グループごとに子どもが楽しめる体操やゲームを創り、発表する。子どもたちはどのような運動を楽しむのかについて理解する。	楽しい運動、ゲームについて子どもの気持ちになって考えておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回の実技授業を通して、自身の得意な領域を見つけさらに興味を深めていくようにする。苦手な運動に対しては段階を追って練習をするようにアドバイスをしていく。			
評価方法	授業に対する積極的態、授業時に実施する基本運動の習得テスト、授業の最終回である「運動をつくる」の3つの評価の総合評価とする。			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業に対する積極的態	○		○	○
基本運動の習得	○	○	○	○
評価割合	授業に対する積極的態 (30%)、基本運動の習得 (35%)、運動をつくる (35%) の総合評価。			

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。 【思考・判断】 ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。 【関心・意欲・態度】 様々なスポーツゲームに積極的に取り組む、チームのために努力を惜しまない。 【技術・表現】 新しい運動を考え、他者に見せるための表現をしている。	
オフィスアワー	月曜4時限目	
学生へのメッセージ	様々な運動をゲームの楽しさから入り、徐々にルールのあるスポーツへと展開していくことを経験をもって学んでいきます。特に子どもへのスポーツや運動指導のヒントを得て欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	運動体験をフィードバックしながら、新しい技術や技に取り組んでる。
情報リテラシー教育	○	新しいゲームや運動を創作するために、年齢に応じた興味や関心について調べる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教養の化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

授業概要(教育目的)	生活の中で出会う現象をとりあげ、現象の背景にある化学の基本的な原理を学ぶとともに、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。また、地球環境と人間活動の関わり、直面している地球環境問題について学ぶ。授業終了時、本講義が、科学、科学技術に目を向け、地球環境問題を身近に捉えるきっかけとなることを願う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、生活の中で出会う化学的な現象の基本的な原理を理解する。 2、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	1、暮らしに密着した化学の内容を健康や暮らしと結び付けながら学習する。 2、身近な現象の化学を学ぶことにより、身の回りの現象や物質、食物などについて、化学的な視点から捉えられるようになることを目的とする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、特に関心を持った分野について、より知識を深めるための課題に取り組む
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	暮らしと化学、測定	スモッグはどうやってできるのか?オゾン層はなぜ壊れるのか?釘はどうしてさびるのか?アスピリンはなぜ頭痛にきくのか?暮らしに密着した謎ときの一部を簡単に紹介する。 化学の測定も暮らしに深く関係する。測定と単位、数値の扱い方、物質の密度などを勉強する。健康、環境問題を読み解くにも測定の理解が欠かせない。	教科書第1章「暮らしと化学」、第2章「測定」(1~22ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第2回	物質とエネルギー	物質の分類、物質の三態と性質を学ぶ。 摂氏、華氏、絶対温度の三種類の温度と換算方法を学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、食品のエネルギーの単位や計算方法を学ぶ	教科書第3章「物質とエネルギー」(24~37ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第3回	元素と原子	万物は元素からできている。元素や元素記号、周期表を	教科書第4章「元素と原子」	180

		学び、身の回りにある元素を身近なものに感じてもらう。アルミ箔はアルミニウム、指輪は金や銀、白金などの元素、体の中だと骨や歯にはカルシウム、リン、赤血球には鉄、甲状腺の機能に関わるヨウ素が欠かせない。	(40~52ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	
第4回	電子配置と周期性	ブリズムや水滴を通った太陽の光は、いくつかの色に分かれて見える。虹も同じようにして生まれるし、高温できれいな色を出す元素は花火に使う。原子がもつ電子の性質は光の色や研究から分かった。第4回では原子内で電子がどのような状態にあるのかを調べ、元素の性質と周期表上の位置との関係について学ぶ。	教科書第5章「電子配置と周期性」(54~70ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第5回	無機化合物と有機化合物	自然界では、ほとんどの原子が別の原子と結合している。二種類以上の元素の原子が一定の割合で結合し合った純物質を化合物という。食塩(NaCl)や重曹(NaHCO ₃)などのイオン化合物、プロパンC ₃ H ₈ やエタノールC ₂ H ₅ OHなどの有機化合物について、結合様式や特徴について学ぶ。	教科書第6章「無機化合物と有機化合物」(72~87ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第6回	物質の量	物質の化学式から、ある元素の質量や原子の個数がわかり、逆に元素の組成比から物質の化学式がわかる。第6回では化学の本質となる粒子の数をどんな単位で測るのか、化学式と元素組成との関係などを学ぶ。アスピリンなどの薬を飲むときには、ラベル表示を見て服用量を決める。また、食品の栄養表示は、炭水化物や脂肪、ナトリウム、鉄、亜鉛などの量を教える。	教科書第7章「物質の量」(89~97ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第7回	反応の表記と分類	化学反応式の書き方、反応式の係数の合わせ方、化学反応の分類について学ぶ。有機化合物の官能基、有機化合物の反応について学ぶ。どんな反応も安定な状態を目指して起こり、反応物が結合を組み替えて生成物になる。化学反応式から光化学スモッグやオゾン層についても考える。	教科書第8章「反応の表記と分類」(101~115ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第8回	量でみる化学反応	正しい反応式は、反応物と生成物のモル関係を教える。物質のモル質量を使うと、反応物と生成物の質量がわかる。反応には熱の出入り(エネルギー変化)が伴い、熱を出しながら進む反応と吸収しながら進む反応がある。生物はエネルギーを使い、小さい分子から巨大なタンパク質やグリコーゲンの分子を作る。発熱反応で出るエネルギーは、特別な化合物がもつ結合に備える。第8回では、反応物のモル、質量の関係からエネルギーまでを学ぶ。	教科書第9章「量でみる化学反応」(117~126ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第9回	分子やイオンの形と引き合い	イオン化合物と共有結合化合物については第5回で簡単に学ぶが、第9回では少し複雑な結合も扱い、まずは原子のつながり方と分子や多原子イオンの形との関係を調べる。原子のつながり方も化合物の共鳴構造もルイス構造を描くとわかりやすい。分子の引き合いについて学び、固体、液体、気体の状態変化がなぜ起こるのかを考える。	教科書第10章「分子やイオンの形と引き合い」(128~144ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第10回	気体	私たちは大気という気体の底で生きている。大気の約21%は動植物の生存に欠かせない酸素が占める。成層圏で紫外線を吸収した酸素からできるオゾンは、生物にとって危険な紫外線を弱めてくれる。環境や健康のことを正しく考えるためにも、気体の性質をつかみ、気体の法則を知っておきたい。気体の圧力と体積の関係(ボイルの法則)、温度と体積の関係(シャルルの法則)、温度と圧力の関係(ゲーリュサックの法則)、気体の量と体積(アボガドロの法則)、気体の分圧(ドルトンの法則)などについて学ぶ。	教科書第11章「気体」(148~162ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第11回	溶液	何かが何かに溶けるといことはどういうことかを考える。電解質と非電解質との違いについて学ぶ。溶解度、パーセント濃度、モル濃度などの計算を学ぶ。融点や沸点などの溶液の性質が、溶質が溶けるとどのように変化するかを考える。	教科書第12章「溶液」(164~181ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第12回	化学平衡	化学反応が起こるとき、反応は一方方向だけに進むわけではなく、たいていの場合、生成物の粒子がぶつかり合って結合を組み換え、反応物に戻る逆反応も進む。正反応と逆反応の速度が釣り合えば、見かけ上、反応物と生成物の量は変わらない。それを化学平衡の状態という。第12回では、化学平衡について学ぶ。生成物がごくわずかできて平衡になる反応もあり、反応物のほぼ全部が生成物になって平衡になる反応もある。	教科書第13章「化学平衡」(183~198ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第13回	酸と塩基	酸と塩基は暮らしや産業、環境に深く関わる。レモンやオレンジの酸味は、クエン酸やアスコルビン酸(ビタミンC)などの有機酸が出す。胃液の塩酸は食物の保存と消	教科書第14章「酸と塩基」(200~219ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導	180分

		化を助け、胃酸過多の人は制酸剤（酸化マグネシウムなど）を飲んで酸を中和する。酸と塩基は産業にも欠かせない。合成物質の王座を占める硫酸は、肥料やプラスチック、洗剤の原料や鉛蓄電池の電解質にも使う。水酸化ナトリウムNaOHは、パルプ、紙、石鹼、繊維産業やガラスの製造に多用する。自然界では、雨や河川水、土の酸性化が問題になる。酸性の強い雨は大理石を溶かし、金属製品を腐食させる。このように現代の暮らしに深く関わる酸、塩基の性質と中和反応などについて学ぶ。	きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	
第14回	酸化と還元	酸化、還元と暮らしの関係は広くて深い。鉄釘のさびも銀食器の黒ずみも、金属の腐食も酸化反応が生む。車のライトを光らす電気エネルギーは、蓄電池のなかで進む酸化還元反応から出る。寒い日に暖炉で気を燃やせば有機物が酸化されてCO ₂ とH ₂ Oになるとき熱がでる。食品のでんぷんは分解されてグルコース（ブドウ糖）になり、そのグルコースが酸化されるときに出るエネルギーが私たちの体温を保ち、さまざまな活動を支える。このような身の回りの酸化、還元反応について、電子のやりとり注目して学ぶ。	教科書第15章「酸化と還元」（223～237ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第15回	放射能の化学	初の人工元素（リン-30）をキュリー夫妻が作って3年後の1937年、カリフォルニア大学バークレー校が、放射性同位体を白血病の治療に使った。1946年には、放射性ヨウ素を使う甲状腺の診断と甲状腺がんの治療に成功し、放射線医学が大きく前に進んだ。現代ではいろいろな放射性物質を使い、たいいていの臓器の形状と機能を探れる放射線医学は疾患の早期発見と治療に役立っている。第15回では放射線の反応や半減期について学び、放射線の生体影響や放射線医療との関係などについて考える。	教科書第16章「放射能の化学」（239～254ページ）を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するため、出席用紙提出の際に毎回小テストを行う。小テストの解説は翌週行うので、質問等がある場合には授業終了後に質問にいくこと。

評価方法

- ・小テスト、および授業での発言を重視する。小テストについては、間違い直しを行って提出すること。
- ・授業中に特に興味を持った分野について、さらに感心、知識を深めるために課題提出を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
授業中の発言	○	○	○	
課題提出	○	○	○	○

評価割合 小テスト、平常点（60%）と課題提出（40%）により評価する。平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) ティンバーレイク教養の化学（東京化学同人）（978-4-8079-0822-6）

学生へのメッセージ 教科書を必ず入手し、授業の前後によく目を通すこと。例題、解説をよく読み、どこまで理解できているかを確認してから授業に出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	教養の化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐山 信成	指定なし

授業概要(教育目的)

文系の学生や化学を勉強したことのない学生向けに基本事項の演習・復習も含めて、生活の中の身近な現象の化学を1回1テーマで講義する。化学物質の有用性と危険性を知り、身近な化学物質に関する理解を促す。生活する上でそれらに対して自分たちにできることは何かを考えさせる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 化学の基礎を理解し、化合物の名称や化学式を書くことができる。 2. 生活の中の物質(化合物)について化学的に説明することができる。 3. 材料・薬品・食品に含まれる化学物質を分類し、安全性と有用性について判断することができる。 4. 化学物質と健康的な生活の関わりについて考えることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	化学の基礎 1. 原子と分子について 教養の化学 1. 電子レンジと電磁波(マイクロ波)	化学の基礎となる原子や分子の構造を理解する。電子レンジで使われている電磁波で分子がどうなるか考える。電磁波の領域と利用について理解を深める。	電磁波と電子レンジで加温できないものを調べて下さい。水分子の性質や構造を確認しておくこと。	120分
第2回	化学の基礎 2. 酸素の同素体と無機化合物 教養の化学 2. オゾン層と紫外線	同位体・同素体の理解とオゾンなど気体分子の化学式を確認する。併せて単原子分子・二原子分子について理解を深める。生命とオゾン層と紫外線の関わり・連鎖反応について考える。	同素体と同位体について調べておくこと。	120分

第3回	化学の基礎 3. アルコールとアルデヒドの構造と性質 教養の化学 3. 二日酔いとエタノール (エチルアルコール)	アルデヒドとアルコールについて表し方と性質を理解し、それぞれの化学式を書くことができるようにする。二日酔いはどのような化合物によって引き起こされるか考える。またエタノールとメタノールに違いと危険性も認識できるようにする。	アルコールの種類について調べておくこと。	120分
第4回	化学の基礎 4. 無機化合物の分類 教養の化学 4. 乾燥剤	種々の無機化合物の分類と性質について理解を深める。乾燥剤や食品添加物に含まれている無機化合物の性質と安全性について考える。	シリカゲルなど乾燥剤について調べておくこと。	120分
第5回	化学の基礎 5. アミノ酸と脂肪酸 教養の化学 5. アミノ酸とタンパク質と酵素	アミノ酸と脂肪酸の構造と性質を理解する。アミノ酸とタンパク質から生命を支える酵素の役割と生活への応用について理解を深める。	アミノ酸について調べておくこと。	120分
第6回	化学の基礎 6. アミノ酸のアミノ基とカルボキシル基 教養の化学 6. ビタミンの種類とアミン	前回に引き続きアミノ酸の官能基の性質について理解を深める。ビタミンの役割と種類について化学的に説明できるようにする。	ビタミンの種類について調べておくこと。	120分
第7回	化学の基礎 7. ベンゼン環を含む有機化合物 教養の化学 7. 市販の風邪薬とベンゼン環	薬品や合成樹脂に多くみられるベンゼン環を含む有機化合物について理解を深める。市販の風邪薬や頭痛薬に含まれている有機化合物について説明することができるようにする。	ベンゼンについて調べておくこと。	120分
第8回	化学の基礎 8. エチレンと二重結合 教養の化学 8. 青葉の頃と紅葉	二重結合を含む有機化合物について理解を深める。青葉の頃の化学物質と紅葉時期の化学物質について説明することができるようにする。	エチレンとアセチレンについて調べておくこと。 レポート I (1回目) の課題内容と提出期限日をお知らせします。 課題のまとめに取り組み始めること。	120分
第9回	化学の基礎 9. タンパク質 教養の化学 9. ラーメンとパーマに共通する結合	タンパク質についての復習し、立体構造について理解を深める。 ラーメンやパーマを通してタンパク質の立体構造に関わる重要な結合について説明することができる。	タンパク質の立体構造について調べておくこと。	120分
第10回	化学の基礎 10. 有機化合物の官能基 教養の化学 10. フェロモンとホルモン	種々の有機化合物の官能基と性質について理解を深める。 フェロモンとホルモンの違いを理解し説明することができる。	有機化合物の官能基について調べておくこと。	120分
第11回	化学の基礎 11. 高分子化合物	高分子化合物について理解を深める。 ペットボトルやプラスチックを構成する化学物質を認識し安全性について考えることができるようにする。	高分子化合物について調べておくこと。 レポートII (2回目) の課題と	120分

	物 教養の化学 11. プラスチックの種類とペットボトル		提出期限日をお知らせします。 課題をまとめる準備を始めること。	
第12回	化学の基礎 12. 熱とエネルギー（分子運動） 教養の化学 12. 食べ物を煮ることとご飯を炊くこと	熱とエネルギーについて理解し分子の運動について理解を深める。 煮ることや炊く事の化学的意味を考察することができる。	分子運動の種類について調べておくこと。	120分
第13回	化学の基礎 13. 糖（デンプンとブドウ糖） 教養の化学 13. 糖と血液型	ブドウ糖やスクロースなどの糖の構造と役割について理解を深める。 血液型やいろいろな多糖類の利用について説明することができるようにする。	ブドウ糖やスクロースなど炭水化物について調べておくこと。	120分
第14回	化学の基礎 14. エネルギーを蓄える物質（ATP） 教養の化学 14. 生きているとはどういうこと	ATPや核酸（DNA・RNA）について理解を深める。 生命活動に必要なATPの構造を説明することができるようにする。	ATP・ADP・AMPを構成する化学物質を調べておくこと。	120分
第15回	化学の基礎 15. 無機化合物と有機化合物のまとめ 教養の化学 15. 化学物質の安全性と環境	化学の基礎のまとめの演習を通して化学物質全体の理解を深める。 無機化合物や有機化合物の安全性や致死量を認識し、環境ホルモンや環境問題について考えることができるようにする。	授業の中で取り上げた化学物質を化学式や構造式で整理しておくこと。 忘れずにレポート課題IIの提出をすること。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によって、化学の基礎の内容と教養の化学のテーマが変更になります。授業内容も前後します。				
学生へのフィードバック方法	可能な限り「化学の基礎」演習の到達度を見極めて授業を進めます。質問等は授業後に受けます。各自、基礎学力を確認して下さい。				
評価方法	演習等の取り組みを平常点とします（40%）。 レポート課題提出（2回）で定期試験相当の点とします（60%）。平常点の不足とレポート課題2回の未提出の場合は、評点無しです。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート課題	○			
評価割合	平常点(40%)、課題レポート2回提出(60%)。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。 「化学の基礎」の演習プリントと「教養の化学」用の資料プリントを配布する。				
参考図書	必要に応じ、授業中に紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 専門につながる化学物質を理解する能力と知識を有する。 【思考・判断】 科学ニュースや材料・食品・薬品等に対して化学的にかつ論理的に考察できる学力と判断力を身				

		につけている。
オフィスアワー		授業後に質問を受けます。
学生へのメッセージ		科学ニュースを新聞やテレビ等で読む/見る/聞く。 「化学の基礎」の演習を授業中に行います。それを復習して化学の基礎学力を身につけて下さい。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	化学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

授業概要 (教育目的)	化学は物質の性質、物質の変化を扱う学問である。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、化学変化と熱の関係、代表的な化学反応(酸塩基反応、酸化還元反応)、物質の変化、有機化合物の構造と性質など、化学の基礎について講義する。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、化学の基本である「化学式」、「粒子間の結合」、「物質量」、「化学反応式」の4項目を十分に理解する。 2、「酸化・還元」、「有機化学の基礎」など専門課程の化学を学ぶ上で必要な基礎的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	1、化学式、化学反応式を書ける。 2、物質量について理解し、物質量を用いた計算ができる。 3、基本的な有機化合物の命名ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、積極的に予習を行い、理解できていない範囲、苦手な範囲を自身で確認し、授業中に克服する。化学の基本をしっかり学び、基礎力を定着させる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	元素と物質、単位と数値	化学の内容に踏み込む前に、化学を学ぶ際の基本事項を学ぶ。元素記号、指数、対数、物理量と単位、有効数字などの復習、確認を行う。	教科書0章「元素記号は化学のアルファベット」(1~3ページ)、及び付録の化学を学ぶ際の基本事項(95~99ページ)を読むこと。	120分
第2回	原子の内部構造	化学の基礎となる原子の構造について学ぶ。原子は、原子核と電子から構成され、さらに原子核は、陽子と中性子という二種類の粒子から構成されている。原子の構造を理解するため、二つの重要な数である原子番号と質量数について学ぶ。これらの数と陽子、中性子、電子の数との関係を理解し、同位体やイオンについても学習する。	教科書1章「原子の内部構造」(5~12ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分

第3回	原子の電子配置と共有結合	原子の中心には原子核があり、その周りにはいくつかの原子核がある。それぞれの原子核の電子がどのように収容されるかを示したのが電子配置である。電子配置に関する知識は、原子の化学的性質や共有結合を理解するために不可欠である。第3回では、電子配置を理解するために、電子核、副核、原子の電子式、などについて学ぶ。	教科書2章「原子の電子配置と共有結合」(13~26ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第4回	イオン性物質とイオン結合	陽イオンと陰イオンが結合して生じるのがイオン性物質である。また、そのときにイオンとイオンを結び付けているのがイオン結合である。本講義では、イオンの種類、名称、イオン結合のでき方、さらにはイオン性物質の組成式の作り方や名称について学ぶ。	教科書3章「イオン性物質とイオン結合」(29~35ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第5回	粒子間の結合	物質を構成する原子は、単独に存在することはまれで、通常は粒子同士が結びついて存在している。分子は、原子同士が共有結合という強い結合で結びついた物質である。この分子も、通常は単独では存在せず、分子と分子はファンデルワールス結合や水素結合という分子間結合でゆるやかに結びついている。第5回ではこれら粒子間の結合について学ぶ。	教科書第4章「粒子間の結合」(37~45ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第6回	第1回から第5回確認テスト 物質量とその単位mol	授業のはじめに、第1回から第5回の確認テストを行う。物質量とその単位molは化学の基本であり、物質量なしでは化学は語れない。第6回では物質量及びその基礎となる原子量、分子量、式量について学ぶ。	教科書第5章「化学の基本である物質量とその単位mol」(47~53ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに、1~5回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。	240分
第7回	物質量と他の物理量との関係	授業のはじめに、確認テストの解説を行う。化学の基本である物質量は、他の物理量である粒子の数、質量、体積と相互に交換できる。第7回では、これらの関係を学び、相互変換する方法を学ぶ。これは、溶液や化学変化の量的関係を学ぶ基礎となる内容である。	教科書第6章「物質量と他の物理量との関係」(55~64ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに行った確認テストの解説を参考に、間違えた問題についてレポートにまとめる。	240分
第8回	溶液と濃度	化学では、溶液が関与する反応が非常に多い。金属と塩酸との反応、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応、ダニエル電池、塩化銅水溶液の電気分解など。それゆえ、化学を学ぶ際に、溶液及び溶液中の各成分の割合である濃度に関する知識は不可欠である。第8回では、溶液の構成要素や種々の濃度について学習する。	教科書第7章「溶液と濃度」(67~76ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第9回	化学変化と化学反応式	化学変化が生じれば、ある物質がまったく別の物質に変化し、それに伴い物質を構成する原子の組み換えが起こる。これを化学式で表現した式が化学反応式である。化学反応式は、化学変化の中身と、これに伴う量的な関係を理解するのに不可欠な式である。第9回では、化学変化やそれを表す化学反応式の作り方について学習する。	教科書第8章「化学変化と化学反応式」(77~84ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第10回	化学変化に伴う物理量の量的な関係	化学反応式を見れば、どのような化学変化が起こるのかわかるだけでなく、量的な関係もわかる。ここでいう量とは、物質量、粒子の数、体積、質量をさす。これらの量はすべて物質量に換算すると考えやすい。第10回では、化学反応式の係数を表す意味について述べ、続いて具体的な化学変化に伴う量的な関係について学習する。	教科書第9章「化学変化に伴う物質量の量的な関係」(85~93ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第11回	第6回から第10回確認テスト、 酸と塩基	授業のはじめに、第6回から第10回確認テストを行う。アレニウスの酸・塩基、ブレンステッドの酸・塩基、について学ぶ。さらに、酸と塩基の強さ、解離定数や水の自己解離、pHの考え方について学ぶ。	「酸と塩基」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに、6~10回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。	240分
第12回	酸化、還元	授業のはじめに、確認テストの解説を行う。酸化・還元とは、どのような変化をいうのか、原子の何がどう変わるのかを学ぶ。さらに、電気エネルギーを生む反応についても学習する。	「酸化・還元」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を	240分

			確認しておく。授業のはじめに行った確認テストの解説を参考に、間違えた問題についてレポートにまとめる。	
第13回	有機化合物①	有機化合物の特徴と構造について学ぶ。官能基による有機化合物の分類、脂肪族炭化水素の命名法の基本を学習する。	「有機化学①」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第14回	有機化合物②	酸素を含む脂肪族炭化水素、芳香族化合物の基礎を学ぶ。有機化学の学習へ繋がる基本的な事項を身に付ける。	「有機化学②」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第15回	第11回から第14回の確認テスト	授業のはじめに、第11回から第14回の確認テストを行う。確認テストの解説と共に、全範囲の総復習を行う。	授業のはじめに、11～14回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。テスト終了後に解説を行う。間違えた問題についてレポートにまとめる。これまでの授業を総復習しておくこと。	420分

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト、確認テストは、採点して返却する。解説は、次回授業のはじめに行う。質問等がある場合には、授業終了後に質問に来ること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の終わりに、小テストを実施する。 全15回を3回に分けた範囲で確認テストを3回行う。 予習・復習、授業の理解度の確認の為に課題をレポートにまとめて提出する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○		
課題提出	○	○	○	

評価割合	小テスト (20%) と確認テスト (40%) 課題提出 (40%) により評価する。平常点は授業への参加状況、授業中の確認テスト、課題提出等で総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「化学の基礎」中川徹夫著 (化学同人) 978-4-7598-1437-8
参考図書	
学生へのメッセージ	教科書は、独習できる内容の物を選びました。授業の前に、教科書、もしくは配布した資料を十分に読み、例題を解いてから授業に出席してください。授業中にも演習を行いますので、復習するようにして下さい。高校化学の教科書を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	化学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐山 信成	指定なし

授業概要(教育目的)	生活科学や栄養学等を専攻する学生が化学の基礎を理解するための入門科目である。化学を受験科目としなかった学生が専門課程を学ぶ為に必要な知識を身につけることあるいは化学が苦手だった学生が再び勉強をすることを主眼とした講義をする。生活にみられる化学物質や科学事象を化学的に考察することができる基礎学力を育成することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の構成について説明することができる。 2. 原子の電子配置について説明することができる。 3. 物質質量と化学変化における物質の量的関係を説明することができる。 4. 酸・塩基・塩について説明することができる。 5. 水素イオン濃度と緩衝液をイオン平衡から説明することができる。種々の水溶液の水素イオン濃度を計算することができる。 6. 酸化還元反応を電子の授受や酸化数から説明することができる。酸化還元反応の半反応式を理解し、水溶液の濃度を計算することができる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	物質を構成する元素と周期表	元素の性質を周期表で理解する。物質の化学式の表し方を習得する。	高校の教科書「化学基礎」で元素と周期表を復習しておくこと。第三周期までの元素記号を確認しておくこと。	120分
第2回	原子の電子配置と分子	元素の周期性について電子配置から理解する。原子と分子の構成について電子配置から理解する。	「化学基礎」の電子配置と原子・分子の構成について復習しておくこと。	120分
第3回	化学結合(1)	イオンとイオン結合について理解する。イオン化合物の分類と化学式の表し方について習得する。	「化学基礎」でイオン結合について復習しておくこと。	120分

	イオンとイオン結合			
第4回	化学結合(2) 共有結合と結合の表し方	共有結合の電子対と性質について理解する。イオン結合と併せて共有結合の表記法を習得する。イオン結合や共有結合を持つ化合物を分類することができる。	「化学基礎」で共有結合と共有電子対について復習しておくこと。イオン結合について復習しておくこと。	120分
第5回	分子の立体構造	共有結合を持つ化合物の分子の形状や大きさ(立体構造式)を理解する。原子間の結合距離や結合角について理解する。紙面上(二次元)の分子を三次元でとらえることができるようにする。	「化学基礎」で分子の形や大きさについて復習しておくこと。	120分
第6回	物質質量(1) 原子の質量と分子量	原子の質量と相対質量について理解する。同位体についても理解する。物質質量(モル)について理解し、化学式から分子量(物質質量)やモル数を計算することができるようにする。	「化学基礎」で原子量と物質質量を復習しておくこと。	120分
第7回	物質質量(2) アボガドロ数と分子量	アボガドロ数の意味を理解し、化学反応式により出発物質や生成物の物質質量(モル数)等の化学計算ができるようにする。	「化学基礎」で物質質量(モル数)とアボガドロ数について復習しておくこと。	120分
第8回	気体と物質質量	気体(理想気体)の体積や性質を理解し、物質質量の計算の仕方を習得する。理想気体の標準状態や気体の分子量の違いを理解し、有害な気体についても認識できるようにする。	「化学基礎」で気体(理想気体)の体積と圧力、標準状態について復習しておくこと。	120分
第9回	中間試験	第1回から第8回までの授業内容について、到達度を確認する。	第9回の中間試験前に、計画的に第1回から第8回までの全ての授業内容を整理し復習しておくこと。	120分
第10回	化学反応 化学変化と状態変化	化学反応式を書くことが出来るできるように、化学物質と反応性について理解する。状態変化についても理解を深める。	「化学基礎」で化学反応、特に無機化合物の反応について復習しておくこと。	120分
第11回	化学反応と質量変化	化学反応式から量的な化学計算をすることができるように理解する。併せて種々の化合物の性質について確認する。	「化学基礎」で化学反応式の出発物質と生成物質の化学的性質やそれらの計算法を確認すること。第8回の授業内容も確認しておくこと。	120分
第12回	溶液と濃度	質量パーセント濃度とモル濃度を理解し、水溶液の濃度を換算することができるようにする。併せて温度と密度や比重の関わりについても理解を深める。	「化学基礎」で溶液の濃度の表し方を復習しておくこと。	120分
第13回	酸と塩基 中和反応と塩	酸・塩基・塩の性質を理解し、酸・塩基の分類ができるようにする。価数と電離度や中和反応の量的関係について理解を深める。	「化学基礎」で酸・塩基の性質について復習しておくこと。	120分
第14回	水素イオン濃度と緩衝溶液	水素イオン濃度と水素イオン指数(pH)について理解する。水素イオン濃度とイオン指数の計算法を習得する。酸塩基指示薬についても確認する。緩衝溶液についてイオン式(イオン平衡)により理解を深める。	「化学基礎」で水素イオン濃度とpH・指示薬について復習しておくこと。	120分
第15回	酸化還元反応	酸化反応と還元反応について酸化数および電子の授受により理解する。酸化還元反応の半反応式を書き、反応の量的関係の計算法を習得する。種々の酸化剤・還元剤の性質を理解する。	「化学基礎」で酸化還元反応について復習しておくこと。	120分

学習計画注記

授業内容の進み具合により中間試験日や学習計画が前後することがあります。

学生へのフィードバック方法

授業で演習を行い到達度を判断し予習や復習を促す。授業で中間試験の講評を行う。

評価方法

演習の取り組み・中間試験の得点から平常点(50点)を与える。定期試験の得点(50点)と併せて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点(50%)と定期試験(50%)で評価する。	
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。演習用のプリントと資料を配布する。	
参考図書	必要に応じ授業中に紹介する。高校化学の教科書を持っておらず、本が無いと不安な学生は参考書として「化学入門編 日本化学会・化学教育協議会編(化学同人)」など、できるだけ分かりやすいと思う本を選ぶこと。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】化合物の性質や物質の量的関係より「生活の科学」と「人間の栄養」の専門的知識を理解するための基礎学力と知識を有する。 【思考・判断】化学の基礎理論の習得により「生活の科学」や「人間と栄養」に関わる材料・薬品・食品の性質と安全性等を判断できる専門につながる思考力を身につけている。	
オフィスアワー	授業後に質問を受けます。	
学生へのメッセージ	授業の前に、前週のノートおよび配布した資料を復読する。 授業で演習も行いますので、それも復習するようにして下さい。 高校化学の教科書「化学基礎」を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教養の生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

授業概要(教育目的)	生物の形や色・模様などから、生物が環境に適応し進化してきた過程を解説する。「進化」、「生物多様性」、「生態系と環境」などの分野を横断的に扱い、自ら生物の特徴を評価して進化過程を推察したり、系統樹を構築したりしながら体験的に学ぶ。生命の誕生や生物の進化から生物と環境の関わり合いまで、マクロスケールでの生物学的な現象について学ぶことで、生物に関する興味・理解を高め、生きものに関する教養を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物の形態や模様を正しく記述できる 系統関係推定法の原理が理解できる 生物の行動パターンと適応度との関係を説明できる ウイルスやプリオンなどの特徴を説明できる
思考・判断の観点 (K)	生物の形態・模様・行動等から生物進化の駆動要因を推定することができる 形質分布表から系統関係の推定ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りの生物への理解を深め、環境と生物の関わりについて関心をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生物種とは	生物分類の基本単位である種の定義を説明し、どのようにして種が形成されていくのか解説する。	予習として、高等学校での授業内容で生物の多様性に関する知識を再確認しておく。授業後は種とは何か説明できるようにしておくこと。	240分
第2回	生物の形	生物の形を表記する基準を説明し、さまざまな生物についてその形をどう表記するのか解説する。	生物の形の基準を理解し、身の回りの生物について形を表記できるように復習しておく。	120分
第3回	形と進化	生物の形を生息環境や生態と関連付けて説明する。形と生態の密接な関係を解説する。	生物の形をその生息環境や生態と関連付けて理解できるように復習しておく。	120分

第4回	生物の模様	生物の模様の定義を説明し、その模様の生態的・進化的な意義について解説する。	生物の模様を、その生物の生態などと関連させて理解できるよう復習しておくこと。	120分
第5回	擬態	擬態の定義を説明し、さまざまなタイプの擬態について、その生態的な意義と併せて解説する。	身の回りで観察される擬態の例について、との特徴を調べておくこと。 代表的な擬態のタイプやその生態的意義を理解し、説明できるよう復習しておくこと。	240分
第6回	系統関係を推定する	最新の分子生物学的手法も含め、生物の系統を推定するいくつかの方法を説明する。また、特に分岐分類学的手法を取り上げ、その手法で系統関係の推定ができるよう基本的な考え方・原理・用語等を解説する。	分岐分類学的手法で系統関係が推定できるよう、必要な用語を憶え、その考え方・原理を復習し理解しておく。	120分
第7回	分岐分類学	ある仮想的な生物群の形質表を例に、分岐分類学的手法で系統関係の推定を行う。また、課題として具体的な生物の形質表を提示し、その系統関係の推定を行ってもらう。	分岐分類学的手法によって形質分布表が与えられ具体的な生物群のその系統関係を推定する(課題)。	360分
第8回	恐竜は絶滅した?	恐竜は本当に絶滅したと表現して良いのか。分岐分類学的手法によって推定された四肢動物の系統関係を説明し、現在の鳥類が恐竜類の直系の子孫であることを解説する。	分岐分類学の考え方で、現在の鳥類を含む四肢動物、魚類の系統関係が提示できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	「こども」だけ「おとな」	幼生の形態的特徴を残して成熟するペドモルフォシス(幼形進化)の例をあげて、生物進化において飛躍的な変化を起こす原動力として認識されている異時性について解説する。	異時性の分類方法を理解し、身近な幼形進化の例が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	「おとこ」だけ「おんな」	動物の世界でしばしば認められる性転換についていくつかの例をあげ、その形式・進化的意義について解説する。	性転換という繁殖形式が自然界で定着しえた理由について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	なぜ親は子を守るのか?	動物の親に普通に見られる子の保護行動。血縁関係がない利他的行動も含め、これらの行動が成立する進化的意義について解説する。	子の保護も含め、ヒト以外で観察される利他的行動の例について調べておくこと。 子を守ることが親にとってどのような意味があるのか、血縁関係のない個体が利益を得るような行動にどのような意味があるのか説明できるよう復習しておくこと。	240分
第12回	なぜ縄張りを作るのか?	縄張りを作ることはこの個体(群)にとって利益となることばかりではない。動物が縄張り行動を示す条件から、その進化的意義について解説する。	動物の縄張り行動について、その条件と利益・不利益を説明できるよう復習しておくこと。	120分
第13回	なぜ生物は病気になるのか?	病気という要因のみならず、生物は通常、必ず個体レベルでは死を迎える。個体の死はその種の手段にとってどのような意味があるのか、その進化的意義について解説する。	種という集団が連続性をもって存在すること、個体の死という現象との関係が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第14回	ウイルスの脅威	厳密には生物とは言えないウイルスについて、その特徴や増殖方法、ウイルスが原因の病気の例などをあげて解説する。	ウイルスの特徴や、代表的なウイルスが関係した病気の例について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第15回	謎の微小病原体/今までの振り返り	細菌でもウイルスでもない微小病原体プリオンについて、その特徴や病例を解説する。また、今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	プリオンとは何か、また細菌やウイルスと何が違うのか説明できるよう復習しておくこと。また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記 授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。

評価方法 授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の形態や行動、進化について基本的な知識を得ているか。また、生物の特徴や行動を適応度の概念で理解しているかを、下記の基準で評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	

定期試験	○	○	○
評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。		
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。		
参考図書	特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の特徴、生物の多様性と生態系、および「生物」の生物の系統と進化等の単元が参考となる。		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる問題について、分析する力が身につきます。		
オフィスアワー	後期 木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。		
学生へのメッセージ	皆さんは身の回りで見られる生物について、どうしてそのような形や色彩をしているか考えたことがありますか。生物の形や色彩などは長い進化の歴史の中で、何らかの理由で獲得された結果と考えられています。この授業の中で、その形や色彩・もようなどの特徴が行動や生態とどのような関連があるのか、またどうして現在そこに生息するのかなどを考え、生物の生き様について関心を持つようにして下さい。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では、アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに、意見を出し合って考えを深めます。	
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教養の生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	太古の海は生命誕生の場であり、今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また、我々人類にとって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では、海洋における生物の進化をたどりながら、多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境、人類と海洋の関わりについて理解を深める。
履修条件	特に無し。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して、基礎的な生物現象(生命現象や生態系など)が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して、生活と生物が密接に関わっていることを考えられる思考を持てる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	海洋生物の生き様を通して、生物の生態に興味を持ち、環境問題に関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ー海洋と私たちの暮らしー	授業概要について説明後、「くらし」と「海洋環境」や「海洋生物」がどのように関係しているかについて紹介する。	授業内容の確認。	180分
第2回	地球誕生から海洋の形成まで	太陽系の形成から地球誕生までを解説。特に海洋の形成と生命誕生について説明する。	予習：高校地学基礎教科書の「太陽と惑星」「生命の変遷」、高校生物教科書の「生命の起源と生物の変遷」について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	生物界の構成と海洋生物	生物界の階層性を生物の分類を通して説明する。海洋生物を題材にして生物の名称についても説明する。	予習：高校生物教科書の「生物の系統」に関連する部分について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	海洋環境概	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得	予習：テキスト・プリントを読む	180分

	説1 -なぜ海は青いか?-	る。海洋環境概説の1回目として、光環境について生物への作用も含めて解説する。	む。復習：授業内容の確認。	
第5回	海洋環境概説2 -広大な海は一つではない-	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の2回目として、水温・塩分濃度とこれらの組み合わせで発生する水塊について生物への作用も含めてVTR映像も用いて解説する。これらを通して、海洋が一つの大きな水の塊で無いことを認識し、多様な環境に多様な生物が適応していること知る足がかりとする。	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	海洋環境概説3 -エルニーニョが起こると豆腐が高くなる?-	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の3回目として、地球の風系、海流についてVTR映像も用いて解説する。さらに海洋での食物連鎖の原点である栄養塩類について説明する。そして、海洋環境と人の暮らしとの関わりをエルニーニョ現象を例にして紹介する。	予習：「栄養塩類」「海洋深層水」「エルニーニョ現象」についてインターネットを用いて調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	海洋生物の生活様式1 -海洋生物のライフスタイル-	これまで解説した海洋環境概説を念頭に置いて、水柱環境を主な生息場所とするプランクトン（浮遊生物）とネクトン（遊泳動物）について適応、生態などについてVTR映像を用いて解説する。	予習：海洋環境概説（第4回～第6回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	海洋生物の生活様式2 -海洋生物のライフスタイル-	海洋中で最も多様な生息環境である基質（海底）に生息するベントス（底生生物）の適応、生態などについて解説する。また、一つの生物種でも、生活史において生活様式（ライフスタイル）を変化させて、適応していることを理解する。	予習：海洋環境概説（第4回～第6回）の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	海洋生物とくらし	これまで（第7回・第8回）に学んだプランクトン・ネクトン・ベントスの内、食糧資源として重要なネクトンについて、魚類の鮮度、イカ類の体の構造などを実物を用いて説明し、食と海洋生物との関係を実感を伴って理解する。	予習：海洋生物の生活様式（第7回・第8回）の授業内容の復習。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	海洋の食物連鎖 -イワシが安くて、マグロが高い理由-	なぜ、「イワシは安くて、マグロが高いか？」その理由を海洋での食物連鎖から解説する。また、魚介類の増養殖についても触れる。	予習：高校生物基礎教科書の「生態系の成り立ち」に関連する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	浅海の生物群集 -生物が豊富な海域-	生物量が豊富な沿岸域、特に潮間帯に生きる生物の適応について解説する。また、漁業対象種の稚魚を含む多くの生物の生息場所となっているが、近年減少している藻場について取り上げ、環境破壊と海洋生物の関連を説明する。	予習：第8回海洋生物の生活様式2について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	外洋の生物群集 -きれいな海には生物は多いか?-	外洋での海洋環境と生物の適応について解説する。	予習：第8回海洋生物の生活様式のプランクトン・ネクトンの特徴について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	深海の生物群集 -なぜ深海には生物が少ないか?-	海洋中の90%以上を占める深海域の特徴について解説し、そこに生息する深海生物の適応について説明する。	予習：第10回海洋の食物連鎖について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	深海の生物群集 -地球を“食べる”生物たち-	1970年代後半に深海で発見され、20世紀最大の発見の一つである「化学合成生物生態系」について解説し、我々人類を含む多くの生物が依存している「光合成生態系」との関係を理解する。	予習：「化学合成生態系」「光合成生態系」の特徴をインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	海洋生物と人類の関係 -海洋汚染と乱獲-	一連の授業の最後として、海洋生物と人類との関係を海洋汚染と乱獲と言う視点で、解説する。乱獲による海洋生物の減少について説明し、持続可能な生物資源の活用について考える。また、近年問題かしている「マイクロプラスチック汚染」についても触れる。	予習：「マイクロプラスチック汚染」についてインターネットを用いて調べる。復習：定期試験に向けての授業内容の総復習。	240分

学習計画注記	海洋生物に関する展示を行っている社会教育施設（水族館、自然・科学博物館など）に行き、所定の項目についてレポートを作成する。
学生へのフィードバック方法	授業内容については、適宜質問を受ける。
評価方法	定期試験および平常点・レポートによる総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験 (80%) および、レポート・平常点 (20%) による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を配付する。
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】 人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室
学生へのメッセージ	海洋に関する書籍などを読んだり、映像資料 (テレビ番組やDVDなど) を見たりしておくとう理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生物学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちは日々、呼吸し食事をして生命を維持し成長を続けており、これらの生命現象の基本を理解することは、健康の維持を図る上で不可欠となっている。そこで、この講義では、生物の特徴を理解し、生物の基本単位である細胞の構造や働き、細胞内・生体内での反応や免疫システムなど、生命現象に関する基礎的な内容についてヒトを例に理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生物の基本的な特徴について説明できる 人体の基本的な構造や機能について説明できる 免疫の成り立ちについて説明できる 遺伝の基本的な仕組みについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	細胞・組織・器官について、構造と機能の関係を類推することができる。 健康の維持・管理について、生物学的な側面から評価することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身でもある人体について、正しく理解し関心をもつ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生物の特徴	生物とは何か、生きているとはどういうことかについて説明し、生物と非生物の違いを認識してもらう。	高等学校で学んだ生物の特徴に関する知識を再確認しておく。授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておく。	240分
第2回	細胞の基本構造	動物・植物細胞の基本構造を学び、細胞内で特定の働きを担っている細胞小器官の働きやその起源について解説する。	高等学校で学んだ細胞に関する知識を再確認しておく。また、授業で扱った細胞内の構造について、その機能を理解しておく。	240分
第3回	組織と器官	ヒトを例に、細胞・組織・器官の関係を説明し、代表的な組織についてその形態・機能を解説する。	さまざまな組織について、その特徴と機能との関係を復習しておく。	120分

第4回	代謝一生きるための活動	生命維持の根幹である代謝について、特にエネルギー代謝に焦点を絞ってATPの役割を解説する。	高等学校で学んだ細胞とエネルギーに関する知識を再確認しておく。新たに学んだ内容について、ノートで確認しておく。	240分
第5回	酵素のはたらき	生体内でのさまざまな反応を制御する酵素について学ぶ。	酵素反応の特徴について具体的に述べられるよう復習しておく。	120分
第6回	呼吸と光合成	呼吸と光合成の反応の類似点を説明し、エネルギーの移動という視点で解説する。また、実際に酵素反応による実験を見てもらい、その結果を考察する。	授業中に行った酵素実験の結果をもとに、呼吸の意味や酵素のはたらき・性質に関する課題に取り組む。	360分
第7回	人体の基本構造	生命維持に関わるさまざまな現象・反応を、ヒトを例に解説する。そのための、人体の基本を説明する。	これからの授業で人体に関わる内容を扱うので、基本的な部位やその名称等について復習しておくこと。	120分
第8回	骨格の構造と機能	ヒトの体には成人で200個余りの骨がある。その成長過程、形態・機能について解説する。	骨格の機能およびその成長過程について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	筋肉の機能と収縮のメカニズム	筋肉の種類と特徴について説明し、筋収縮のメカニズムを分子レベルで解説する。	3種類の筋肉それぞれについて特徴や機能が述べられるように復習する。また、筋収縮のメカニズムについて説明できるようにしておくこと。	120分
第10回	神経系の構成単位と神経系の機能	神経系の基本単位であるニューロンの構造から神経の伝達について解説する。また、運動神経系・自律神経系の機能を学び、人体制御における役割について理解を深める。	神経伝達の機構や人体の生理学的反応について神経系がどのように関わっているのか、説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	食物の消化と吸収	食物が人体内でどのように処理されていくのかを学び、ヒトの消化器系とそれを構成するそれぞれの器官の役割について理解を深める。	食物中の物質がどの器官でどのように消化・吸収されるのか説明できるように、成分毎にまとめておくこと。	120分
第12回	血液の循環	血液の組成から血管系の概要、腎臓や肝臓の働きについて学ぶ。心臓の構造と血液循環のシステムについても理解を深める。	肺循環・体循環と腎臓や肝臓の位置、心臓の構造と循環における役割について、復習しておくこと。	120分
第13回	生体防御	健康を守る免疫システムについて、その役割を担う細胞・組織、発現機構を学ぶ。	体液性免疫・細胞性免疫における免疫細胞の役割に理解し、自然免疫やアレルギーについても説明できるように復習しておくこと。	120分
第14回	細胞の増殖	細胞分裂の様式や機構について解説する。特に生殖細胞を生み出す減数分裂について詳しく述べる。	減数分裂における染色体の挙動について、細胞の核相とあわせ理解できるよう復習しておくこと。	120分
第15回	遺伝の基本	自己と同じ特徴をもつ個体をつくる連続性は生物の特徴の一つである。その連続性の根幹を担っている遺伝現象について、染色体レベルで説明する。また、今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	基本的な遺伝現象について、その原理を説明できるよう復習しておくこと。また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料等を用いて講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の持つ生命維持に関わる基本的な反応に関する知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。	
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。	
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の細胞とエネルギーについて，生物の体内環境の維持，および「生物」の生命現象と物質，生殖と発生等の単元が参考となる。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を理解する知識が身につきます。また，そこから生命に関する基礎知識が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の中にある課題を理論的に分析する力が身につきます。	
オフィスアワー	前期 木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，可能な限りGmailを用いて予約をしてください。	
学生へのメッセージ	日々の食事がどのようにして私たちの生命を支えているのか考えてみたことがありますか。なぜ，食事や睡眠をとらないと生きていけないのでしょうか。これら，生物の基本的な生命現象の原理や機構を学ぶことは，毎日の生活の質を考えることにも繋がりますので，自分のことだという意識を持って受講して下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果をもとに意見を出し合ってより考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生物学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力を置いて講義を進め、生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。
履修条件	特に無し。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	基礎的な生物現象、特にヒトに関わる生物現象の理解。
思考・判断の観点 (K)	細胞の構造・機能、組織と器官・器官系、遺伝子の構造・機能、環境問題などの基礎知識を修得し、一部をこれから学ぶ生化学や栄養学等の学修に役立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生命とは何か?について考える。	「生命」の持つ特徴を説明し、生命とは何かを考える。また、なぜ食べなくてはならないかについても考える。	予習: 高校「生物基礎」を履修した学生は、「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習。高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習。復習: 授業内容の確認。	180分
第2回	細胞の構造とはたらき1	原核細胞・真核細胞の特徴、細胞の基本構造と各細胞内の器官の機能を説明する。	予習: 教科書第3章1~2を読んでおく。高校教科書「細胞の多様性」「細胞の共通性」を復習する。復習: 授業内容の確認。	180分
第3回	細胞の構造とはたらき2	生物の基本単位である細胞の機能について説明する。特に細胞膜の機能と細胞同士の連結等について理解する。	予習: 教科書第3章3を読んでおく。復習: 授業内容の確認。	180分
第4回	生物を構成	多様な細胞の種類と特徴、ウイルスの構造と特徴について	予習: 教科書第3章4, 第7章	180分

	する細胞	て説明する。またトピックとして食と密接に関係する伝染性のタンパク質についても解説する。	p.157コラムを読んでおく。復習：授業内容の確認。	
第5回	生物体の構造 1 組織の種類と特徴 1	上皮組織と結合組織について、その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第6回	生物体の構造 2 組織の種類と特徴 2	筋組織と神経組織について、その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第7回	生物としてのヒトを知る	「ヒトはなぜ食べなくてはならないか？」を生物学的に解説し、食物から体をつくり・維持する仕組みについて考える。	予習：教科書第1章2を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	生物体の構造 3 主な器官・器官系	ヒトを例として、個体を構成する主要器官・器官系について解説する。	予習：教科書第1章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	代謝のしくみ 1 酵素・代謝	代謝と代謝に深く関係する酵素の特徴について解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。高校教科書「細胞とエネルギー」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	代謝のしくみ 2 消化・吸収	消化・吸収に関連する器官・器官系の特徴について説明する。特に胃・小腸のはたらきをVTR映像も利用して解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	第11回 代謝のしくみ 3 呼吸	生命維持の為に重要な現象である呼吸について説明する。	予習：教科書第4章5を読んでおく。高校教科書「呼吸」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	遺伝のしくみ 1 遺伝とは何か？	生命の根源である遺伝子について説明する。DNAと遺伝の関係・DNAの構造について解説する。	予習：教科書第5章1, 2を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	第13回 遺伝のしくみ 2 DNAの機能	DNAに機能（遺伝情報の複製・タンパク質合成）について説明する。	予習：教科書第5章3を読んでおく。高校教科書「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	遺伝のしくみ 3 遺伝子と体質	遺伝子解析が人類にもたらす影響について、医療における応用を例としてVTR映像を用いて解説する。	予習：第12回・第13回の授業内容を確認する。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	環境と人間	食を通して身近な環境問題について考える。	予習：教科書第7章3～5を読んでおく。高校教科書「生態系と保全」を復習する。復習：第1回から第15回までの授業内容を教科書、ノート、配布プリントを用いて復習し、定期試験に備える。	180分

学習計画注記	教科書、配布プリント、講義内容に関連した映像資料などを使用した講義形式で行う。また、映像資料の内容の確認や感想などを200字程度にまとめて提出させる場合もある。
学生へのフィードバック方法	60分間の定期試験後に30分間程度のフィードバック（解説）を行う。
評価方法	平常点と定期試験の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）定期試験では、15回の授業で学んだ基本的な生物学的現象について問う。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点20%、定期試験80%の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
使用教科書名 (ISBN番号)	川崎・古庄編著 (2009), 生物学—ヒトと環境の生命科学—, 建帛社.

参考図書	適宜、授業中に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	木曜1限 1702室
学生へのメッセージ	高校「生物基礎」を履修した学生は、「生物基礎」の「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習すると理解しやすい。 高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習すると理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	環境と資源		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

授業概要(教育目的)	毎日のように新聞記事やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられているが、地球環境や資源に関する問題を正しく理解するためには生態学の基礎知識が不可欠である。そこで、この授業では、生態学の基本的内容を学習し、地球環境とそこに生活する生物の関係、生物間の相互関係、人類を含む生物が環境に与える影響、資源の利用と保全の実態や問題点等について理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物と環境、生物と生物の関わりについて説明できる 生態系の構成や内部での物質の移動について説明できる 環境問題について背景となる事実を説明できる
思考・判断の観点 (K)	生態系の保全・保護についてその必要性が理解できる 環境条件の変化から生態系の変化について推察できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	地球環境の現状や未来について関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	環境とは何か?	「環境」ということばはさまざまな分野においてさまざまな意味で用いられている。ここでは共通の認識を持つように、生物学分野で用いられる「環境」の意味について説明する。	高等学校での授業内容で生態系に関する知識を再確認しておく。 環境という用語について、共通の認識が持てるよう復習しておく。	240分
第2回	生態系の構成	生態系は生物群集と無機的環境とで構成されることを説明し、その規模にはさまざまなレベルがあることを解説する。	身近な生態系について、その構成要素を列挙できるよう復習しておく。	120分
第3回	生物と環境とのかかわり	生物群集と無機的環境の間には作用・環境形成作用・相互作用などが認められる。実例をあげて、これらの関係について解説する。	作用・環境形成作用・相互作用について、実例をあげて説明できるよう復習しておくこと。	120分
第4回	生物と生物	同種間の関係としていくつかの例をあげ説明する。ま	個体間の関係と環境の安定性と	120分

	の関わりー 同じ種類の 間	た、個体間の関係と環境の安定性との関係について解説し、その関連を示す。	の関係について、グラフを読み取ったり、説明したりできるよう復習しておくこと。	
第5回	生物と生物の関わりー異なる種類の間	ニッチの概念とガウゼの競争排他について解説する。	ニッチの概念とそこから導き出せるガウゼの競争排他則について理解できるよう復習しておくこと。	120分
第6回	生物間の関係ー競争	種間競争の例について説明し、安定した生態系は結果として種間競争が低減される環境であることを解説する。	競争とニッチの重複を避けることとの関係を理解し、多様性を維持している生態系の特徴が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第7回	生物間の関係ー捕食者の効果	捕食者の存在が生態系の安定性に寄与することや生物の行動に影響を与えることを説明し、捕食者の存在意義について解説する。 また、捕食者を利用した生物農薬の映像資料を視聴しその問題点について考える。	捕食者の存在意義について、例をあげて説明できるよう復習しておくこと。また、生物農薬の映像資料を視聴し、その利点と問題点について考えるという課題に取り組む。	360分
第8回	個体群の成長	個体群の成長に影響する要因をあげ、個体群の成長曲線がどう影響されるかロジスティック方程式を用いて説明する。	ロジスティック方程式の各要素の変動と成長曲線の変化との関係が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	食物連鎖と生態系内の物質・エネルギーの移動	生態系における生物群集の構成を説明し、無機的環境との関係も踏まえ、生産者から高次消費者への物質・エネルギーの移動について解説する。	生態系における各栄養段階の物質収支、エネルギーの移動が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	生物資源の変動とその機構	生物資源の特徴と食物連鎖を念頭にその変動パターンと変動のメカニズムについて解説する。	生物資源が無機資源と異なる点、また生物資源の量的変動パターン（ボトムアップコントロールやトップダウンコントロール）について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	資源保護・資源管理	水産資源を例に、密度独立型・密度依存型資源の特徴とその管理方式について解説する。また、保護と管理の問題についても言及する。	資源の特徴を把握し、その管理方式について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第12回	生物多様性	生物多様性とは何か、どのようにして測定されるのか説明し、生物多様性の保全の必要性和その意義を解説する。	生物多様性に関する国際的な取り組みについて予習しておく。また、生物多様性保存の必要性について説明できるよう復習しておく。	120分
第13回	生物多様性保全への取り組み	国際的な生物多様性保全の取り組みを紹介するとともに、その問題点についても解説する。	生物多様性保全の取り組みにおいて指摘されている問題点について、内容と理由が説明できるよう復習しておく。	120分
第14回	気候変動と地球温暖化	地球環境の変化を地球史の時間スケールとここ数十年の時間スケールで比較し、その原因と問題点を解説する。また、映像資料を視聴して、地球温暖化の現状について考える（課題）。	地球温暖化の原因とその影響について説明できるよう復習しておく。また、地球温暖化を扱った映像資料を視聴し、今まで環境について学修してきたことを踏まえて意見を述べる（課題）。	360分
第15回	これからの地球環境	今までの観測や調査を通じて得られた知見から、これからの地球環境についていくつかの予想を説明し、地球環境の未来について解説する。また、前回提示された課題について出されたいくつかの意見を材料に、環境問題について考える。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。特に、環境問題について意見が述べられるようにしておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生態系や環境、資源等の問題について十分な知識を得て判断できるようになっているかを、下記の基準で評価する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)

	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○
評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。				
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。				
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の生物の多様性と生態系，および「生物」の生物の環境応答，生態と環境等の単元が参考となる。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身に付きます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる課題について，分析する力が身に付きます。				
オフィスアワー	後期 木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は，可能な限りGmailを用いて予約をしてください。				
学生へのメッセージ	地球温暖化や化学物質汚染，さらには放射能汚染など，私たちの生活に直結する環境問題は，その理由や対策について，正しく理解し冷静に判断することが重要です。知らないことは，無関心という最悪の状況に繋がります。環境問題に関心を持つためにも本講義を受講して，その本質について理解を深めて下さい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊隊員として2度，南極の生物の調査をした経験を活かし，地球環境の問題について「現場」の問題として講義します。			
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに，意見を出し合って考えを深めます。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	環境と資源		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	毎日のように、新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年、地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが、環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では、生態学の基礎的な知識を踏まえ、地球環境とそこに生活する生物の関係、人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し、環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生態学の基礎的な現象を学び、環境に関する現象を理解する力を持つ。 環境問題とくらしの関わり合いについて理解している。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしの関わり合いについて理解した上で、人類も生態系の一部であるという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	持続可能な社会と環境の関係について関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	授業の学習目標・内容について説明する。	復習：授業内容の確認。	90分
第2回	「環境」とは何か?	地球の成り立ちを含めて、人類を含む生物が息できる地球環境について解説する。特に宇宙空間における地球環境の特殊性について、現在話題になっている惑星移住も触れ、理解する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系の成り立ち」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	生態系の構成要素	環境を構成する大気・水・温度などの無機的環境と生物群集(有機的環境)について解説する。これらの環境要因が影響し合って、生態系が形成されていることを理解する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系のバランス」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	生物と環境との関わり	環境が息する生物にもたらす影響(作用)、生物の活動が環境に及ぼす影響(反作用)について、生物の適応進化も交えて解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する	180分

			る部分を読む。復習：授業内容の確認。	
第5回	生物と生物との関わり1(種・個体・個体群・群集)	生物の基本単位である「種」とは何か? 個体から個体群, 群集そして生態系までのまとまりの系列について解説し, 生物多様性について理解する。	予習: 「生物多様性」について, どのような多様性があるのかをインターネットを使って調べる。復習: 授業内容の確認。	180分
第6回	生物と生物との関わり2(個体群の成長, 競争)	個体群の成長, 成長時に生じる相互作用について説明する。また, 競争回避や個体群の成長戦略についても解説する。	予習: 高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習: 授業内容の確認。	180分
第7回	生活資材(資源)と人口問題ーヒトも生物ー	前回, 解説した個体群の成長をヒトに当てはめて, 人口問題などについて解説する。	予習: 国立社会保障・人口問題研究所のHP (http://www.ipss.go.jp/) で, 日本の人口ピラミッドの推移を確認し, 各年代の特徴をまとめる。復習: 授業内容の確認。	180分
第8回	生態系の構成と食物連鎖(なぜマングローブは高いのか?)	最も基本的な種間関係である「食物連鎖」について海洋の食物連鎖を例にあげて解説する。特に生態系内の物質収支について理解する。	予習: 高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を読む。復習: 授業内容の確認。	180分
第9回	生態系内のエネルギーの流れと物質の循環1ーエネルギーの流れと炭素循環ー	生態系内でのエネルギーの流れと物質循環の特徴について理解する。物質循環に関しては炭素の循環と地球温暖化現象についても解説する。	予習: 高校生物基礎教科書中の「生態系内の物質とエネルギーの流れ」に関連している部分を読む。復習: 授業内容の確認。	180分
第10回	生態系内の物質の循環2ー炭素循環と地球温暖化ー	炭素循環と地球温暖化現象の関連性について解説する。地球温暖化がもたらす環境変化と人類への影響を映像資料を用いて説明することにより理解を深める。	予習: 高校生物基礎教科書中の「人間活動による生態系への影響」に関連する部分を読む。復習: 授業内容の確認。	180分
第11回	環境保全への取り組みー地球温暖化防止ー	地球温暖化防止(抑制)の取り組みについて, 国際条約の変遷も含めて映像資料を用いながら解説する。特に人間活動と環境保全の関係について理解し, 今後求められていくQOL(生活の質の向上)とはどのようなものか, について考える機会とする。	予習: 全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)のHP (http://www.jccca.org/) で地球温暖化と生活(家庭)での対策について, 予備知識を得る。復習: 授業内容の確認。	180分
第12回	人間活動の影響ー地球温暖化とホッキョクグマ(レポート課題)ー	人間活動の環境への負荷について, 地球温暖化が人類以外の生物にあたえる影響を題材として考える。この時間はNHKが製作した「北極大変動」を視聴した後に課題(レポート)を提出する(図書館等非営利上映用DVDを視聴)。	予習: 第9回~第11回の授業内容の確認。復習: レポートの作成。	180分
第13回	生態系内の物質の循環3ー窒素循環とリン循環ー	窒素とリンの循環を説明し, その特徴について理解する。また, 窒素やリンの循環が及ぼす環境への影響についても説明する。	予習: 高校生物基礎教科書中の窒素循環とリン循環に関連する部分を読む。窒素とリンの循環が環境に及ぼす影響についても知識を得る。復習: 授業内容の確認。第12回のレポートの作成。	180分
第14回	生態系内の物質の循環4ー人工化学物質と生物濃縮ー	DDTやPCBなどの人工化学物質や有機水銀による環境汚染とヒトを含む生物への影響について映像資料を用いて解説する。特に「生物濃縮」による影響について理解する。	予習: 「水俣病」をキーワードとして, 日本における水質汚濁が原因の公害病について, 原因を調べる。復習: 授業内容の確認。	180分
第15回	生態系からもたらされる利益ー生態系サービスー	国連が実施したミレニアム生態系評価が示した「生態系サービス」について解説し, 生態系と私たちの生活の関係を理解する。また, これまでの14回の授業を振り返り, 人間活動の生態系への影響について再考する。	予習: ノート, 配布プリントなどから, これまでの授業を振り返る。復習: 定期試験への準備。	240分

学生へのフィードバック方法 授業内容については, 適宜質問を受ける。

評価方法 定期試験および平常点・レポートによる総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験 (80%) および平常点・レポート (20%) による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	授業中に資料を配付する。
参考図書	適宜, 紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】 人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室
学生へのメッセージ	高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」「生物の多様性と共通性」を復習しておくこと、理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地球の科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 角和 善隆	指定なし

授業概要(教育目的)	地球科学は物理・化学・生物の知識を総合して、宇宙や地球、それらと人間活動との関わりなどを解き明かす総合科学であり、地層や化石などを通して過去を知り、将来を見通す歴史科学でもある。この授業では、これら両側面を扱い、地球についての基本的な見方、自然観を養うことを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	さまざまな情報媒体を通して扱われる地球環境を含めた地球科学に関連するニュースを正確に理解し、その背景をも洞察できるようになること。
思考・判断の観点 (K)	普段の生活で特に災害・資源・地球環境にかかわる事象に対して、適切な行動と判断ができるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りにある自然に積極的に目を向けることができるようにする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

地球の科学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	地球科学は おもしろい (個人の感想です)	授業全体についてのガイダンス。地球科学という学問は何を扱うか、どのような考え方で研究が行われているか、具体的に講師が進めている研究の例を中心に紹介する。	授業で扱われた、地球科学の基本的発想とは何かを確認する。	30分
第2回	塵もつもれば地球になる	物質を構成する元素がどうやってできたか、地球を含む太陽系はどのようにして形成されたかを概観する。	復習として、身の回りにある物を構成する元素が、どのようにしてできたかを考える。	180分
第3回	地球外に生物はいないのか	地球上で生命はどのように発生したか知り、宇宙において地球以外に生命はどこに存在する可能性があるかを考える。	前もって渡す新聞記事などのコピーを読んでおき、わかりにくい場所を把握しておく。	200分
第4回	生物の進化は赤の女王の仰せのままに	生命はどのように進化してきたか、なぜ進化するのか、地球環境はどのように変化してきたか、について考える。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	180分

第5回	海は深い、「海」は高い	地球上の様々な現象を説明できる基本的概念であるプレートテクトニクスについて理解を深める。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	200分
第6回	地震の予知には自信が無い(^_^;)	地震についての基礎知識を復習し、津波を含めた地震災害の特徴を知り、地震予知の現状を理解する。	授業後、自分の家の地震対策は何ができていないか、不足しているのは何かを考える。	210分
第7回	活断層を探そう	活断層とは何かを知り、自らの生活との関わりについて考える。	前もって渡す新聞記事などのコピーを読んでおき、わかりにくい場所を把握しておく。	180分
第8回	火山は見かけによる	火山噴火の様式を支配するのはマグマの組成であり、それは噴火の様式を通して火山の形に表れていることを知る。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	180分
第9回	火山は怖い役に立つ	火山災害の特徴を知り、どのようにすれば災害をより少なく抑えることができるかを知る。また火山のもたらす恵について考える。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	200分
第10回	地すべりと崖崩れは違うのか	毎年起こる土砂災害は、どのようなものか、減災にはどのような方法があるかを知る。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	180分
第11回	自然災害って結局何なの	世界を見回して、そこで起きる自然災害は日本とどのように違うのか、その特徴は何かを知り、自然災害の本質を理解する。	前もって渡す新聞記事などのコピーを読んでおき、わかりにくい場所を把握しておく。	200分
第12回	資源は天然やねん (1) 生き物を燃やす、時間を燃やす。	石油や石炭などの炭化水素資源について、その形成過程環境への影響について考える。	前もって渡す新聞記事などのコピーを読んでおき、わかりにくい場所を把握しておく。	180分
第13回	資源は天然やねん (2) 四の五の言わず、金目のものを置いていけ。	主に金属元素を中心に、様々な金属鉱床が、どこにどのようにして形成されるかの原理を知り、遍在する理由について考える。	前もって配布する授業で使用するパワポの図を見て疑問点を整理しておく。	200分
第14回	今は「暖かい」けど	地球環境は一定ではない。どのように変動し、なにが変動を引き起こす原因かを知ることで、将来の地球環境について知る。	前もって渡す新聞記事などのコピーを読んでおき、わかりにくい場所を把握しておく。	200分
第15回	東京家政学院大学でプラタモリ (©NHK)	毎日通う東京家政学院大学周辺の地形・自然を見回し、そこにどのような歴史と意味が隠されているかを読み取る。	授業後、自分自身で改めて授業内容を確認し、さらに独自の発見を試みる。	180分

学習計画注記 通常の講義形式です。動画、画像など視覚に訴える素材を一部使用する。内容理解のため、授業で使用する資料を前もってアップロードする。そのサイトを知らせるので、各自がダウンロードして予習しておく。

学生へのフィードバック方法 授業時間中に解説する。

評価方法 定期試験を行う。また時に授業中にちょっとした課題を出す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
提出物	○		○	

評価割合 期末テスト80%、授業中の様々な提出物20%。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

参考図書 参考文献はない。

参考URL <https://sites.google.com/site/chigakunonabe/home>

ディプロマポリシーとの関連 知識・理解：災害を含めた自然現象や天然資源について、基本的な知識を有し、生活に生かすことができる。思考・判断：身の回りに溢れているさまざまな「情報」をきちんと理解し、対応できるようにする。関心・意欲・態度：自然災害や省エネルギーなど、普段の生活に活かせるようになる。

学生へのメッセージ まずは毎回の講義をきちんと聞き理解するだけで十分です。普段は新聞やテレビ、映画、書物などに取り上げら

れる地球、自然に関わるコンテンツを読み、見聞きしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地球の科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尾張 聡子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、地球科学の基礎となる地質現象のメカニズムを学び、それが私たちの生活にどのように関わり、影響を持つのか考える力を育成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	地球上の基礎的な地質現象のメカニズムを理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	授業の中で扱った地質現象の中で、どの部分が私たちの生活に関わっているか類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業の中で扱った地質現象の中で、特に防災という観点から、自分たちがどのような対策をすべきか考察する機会に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	地球の誕生から現在までにおける地球科学的な時間スケールを扱うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	地球科学を学ぶ意義とその必要性、重要性を知る、理解する。	予習：身近に存在する地球科学にはどんなものがあるか、事前にインターネット等で調べる。 復習：自分で調べた身近に存在する地球科学が私たちの生活にどのように関わっているかを考え、調べる。	予習：90分 復習：90分
第2回	地球の誕生	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 地球がどのようにして誕生したかを理解する。また宇宙や地球の始まりから現在までの歴史を学び、地質学的な時間スケールを理解する。	予習：事前に配布する講義・資料プリント(第二回 地球の誕生)を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第3回	大気・海洋・大陸の誕生	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 大気・海洋・大陸の誕生の歴史やそのメカニズムを知	予習：事前に配布する講義・資料プリント(第三回 大気・海洋・大陸の誕生)を読み、プリ	予習：90分 復習：90分

		る。また地球の歴史の中でどのようにして生命活動が始まったか理解する。	ント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	
第4回	石油・石炭・天然ガスのでき方	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 石油・石炭・天然ガスのでき方を知る。 化石燃料の使用にあたり、人為的に引き起こされている地球環境問題の背景を知る。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第四回 石油・石炭・天然ガスのでき方）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第5回	恐竜の世界	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 刻々と変化する地球の環境に応じて進化と絶滅を繰り返してきた過去の生物について知る。（特に中生代に大量絶滅した恐竜に焦点をあてる）	事前に配布する講義・資料プリント（第五回 恐竜の世界）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第6回	気候変動	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 氷期・間氷期サイクルを中心に地球上の気候変動のメカニズムを理解する。	事前に配布する講義・資料プリント（第六回 気候変動）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第7回	地球の活動	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 火山活動や地震など、地球の活動についてそのメカニズムを理解する。火山活動や地震が私たちへ与える影響を知る。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第七回 地球の活動）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第8回	大気と海洋	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 大気と海洋の循環を熱輸送システムの観点から理解する。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第八回 大気と海洋）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第9回	地表の変化	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 風化侵食作用とその要因について理解する。風化侵食作用によってもたらされた物と、私たちの生活との関わりを知る。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第九回 地表の変化）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第10回	地球の石	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 地球上に存在する様々な石(岩石)は形成過程がそれぞれ異なることを理解する。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十回 地球の石）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第11回	地球の姿	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 地球表面は凹凸に富んでおり、身近にある地形がどのように形成されたのかを理解する。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十一回 地球の姿）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第12回	エネルギー・資源問題	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 化石燃料と非在来型エネルギーの形成メカニズムの違い	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十二回 エネルギー・資源問題）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてく	予習：90分 復習：90分

		を知り、最新のエネルギー・資源問題について理解する。	る。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	
第13回	環境問題	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 地球温暖化、酸性雨など、人為的に引き起こされる地球環境の変化について知り、その要因や背景を理解する。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十三回 環境問題）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第14回	災害問題	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 1-13回までの講義で扱った地質学現象に関する知識を用いて、地震、異常気象等の災害からどのように身を守るかを考える。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十四回 災害問題）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第15回	まとめと解説	予習の穴埋め部分の解説を行う。解説内容は以下のとおりである。 1-14回までの講義で扱った内容のまとめと解説を行い、幅広い地球科学の知識の定着をはかる。	予習：事前に配布する講義・資料プリント（第十五回 まとめと解説）を読み、プリント内の空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあり。
学生へのフィードバック方法	予習で行う空欄の穴埋めについて、授業にて解説を行う。解説について質問等がある場合、授業の前後の時間や、非常勤講師室、メールにて質問を受けつける。
評価方法	予習でプリントの穴埋めをした部分について授業内で回答してもらい、その理解度や授業態度・意欲を平常点として評価する。 定期試験では配布プリントの中から選択式・記述式の問題を出題する。また意見を問う記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 この授業では以下に示す力を養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
テスト	○	○		

評価割合	平常点20%、試験80%で総点を決め評価する。平常の授業における熱意・意欲を考慮することがある。
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用せず、プリントを使用する。 次の参考書を勧める。
参考図書	地球学入門 第2版 惑星地球と大気・海洋のシステム, 東海大学出版部, 酒井治孝
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、【思考・判断】：自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力
学生へのメッセージ	地球科学と私たち人類の生活には密接な関わりがあります。そんな関わりを自分たちの生活のなかから探し出してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教養の物理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小谷 太郎	指定なし

授業概要(教育目的)	物理学はいつどのように成立したのか、「元素」や「原子」、「単位」といった概念は誰がいつ発見したのか、そこにいたるまでの物語とともに講義する。 数式はあまり使わず、物理学の思考方法（論理の展開）を追うことを重視する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	物理学の基礎を理解する。 物理学は、この世界は何かからできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。
思考・判断の観点 (K)	物理学の思考方法（論理的な思考）を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガリレオ～最初の近代科学者 1	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第2回	ガリレオ～最初の近代科学者 2	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第3回	ニュートン～ニュートン力学を一人で建設 1	ニュートン力学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分
第4回	ニュートン～ニュートン力学を	ニュートン力学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分

	一人で建設 2			
第5回	メンデレー エフ～元 素には周期 がある	周期表について学習する。	ドミトリ・メンデレーエフにつ いて予習・復習する。	120分
第6回	ドルトン～ 原子論の再 発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予 習・復習する。	120分
第7回	ドルトン～ 原子論の再 発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予 習・復習する。	120分
第8回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第9回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第10回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第11回	キュリー～ 不滅のはず の原子が壊 れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予 習・復習する。	120分
第12回	キュリー～ 不滅のはず の原子が壊 れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予 習・復習する。	120分
第13回	フェルミ～ 最初の原子 炉と原子爆 弾	原子力について学習する。	エンリコ・フェルミについて予 習・復習する。	120分
第14回	元素はどこ で作られ た～元素合 成	宇宙の元素合成について学習する。	ビッグ・バンについて予習・復 習する。	120分
第15回	元素はどこ で作られ た～元素合 成	人工元素について学習する。	エミリオ・セグレについて予 習・復習する。	120分

学習計画注記

スケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法

講義を中心とする。

評価方法

成績評価は平常点と定期試験による。
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合

平常点 (40%)、定期試験 (60%)。

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定なし。

参考図書

小谷太郎『科学者たちはなにを考えてきたか』(ナツメ社)。
ほか、適宜指示。

ディプロマポリシーとの関連

人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけます。

社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる力と、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる力を育てます。

オフィスアワー	なし。	
学生へのメッセージ	数式はあまり用いません。 これまでの物理学・数学の履修経験は必要ありません。 必ず授業の復習をすること。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	自然史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

授業概要 (教育目的)	自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野で、要約すると「自然の姿と生い立ちを探究する」分野と表現できる。その対象は、大きさでは宇宙から原子まで、時間軸では宇宙誕生から瞬間的な生命現象までの広い範囲を扱うことになるが、この授業では、約6億年前の生物大発展以降の生命の発展に重点を置き、時間の流れに沿う形でさまざまな自然現象を解説し、私たちヒトに連なる生命発展の経緯について理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	宇宙138億年の歴史の中で主要な地質学的イベントを列挙できる 生物進化の流れについて、概要を述べることができる
思考・判断の観点 (K)	地震や環境変動などがどのような過程によって生ずるのか、論理的に述べるができる 生物進化はどのような要因で進み、結果として方向付けられるのか、地球表層環境の変化と関連付けて説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が住んでいる地球について、長い時間軸に沿って考えることができ、生命や環境に関心をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	時空の進化	自然史という学問が時間という指標で地質学上・進化学上のできごと(イベント)を扱う分野であることを説明し、宇宙誕生から現在までの時間軸を概観する。	宇宙誕生から現在までの138億年の流れを時間軸に沿って復習し、「大きな」時間の理解に努める。	120分
第2回	宇宙の創生から太陽系の誕生まで	今から約138億年前に誕生したとされる宇宙の構造を学び、その宇宙の中に私たちの太陽系が誕生するまでの課程を解説する。	天の川とは何か、どのような構造をしているのかについて事前に調べておく。 「何もない」宇宙空間で星ができるメカニズムについて再確認し、太陽系8個の惑星の特徴を復習しておく。	240分
第3回	地球誕生/地球内部の	今から約46億年前に誕生したとされる地球創成の課程を説明し、時間を追って大きな変化をとげた地球内部の構	地球内部の構造と身近な問題である地震との関係について調べ	120分

	構造	造を解説する。「生きている」地球の動きと地震・気候等との関係についても述べる。	ておく。 46億年の間、地球内部がどのように変化してきたのか、そしてそれが地球の環境にどのような影響を与えてきたのかを理解しておく。	
第4回	地球史を概観する	主に表層環境の変化に着目して、地球46年の歴史を概観する。	地球内部の変化や宇宙からの影響が地球表層環境にどのように影響したか理解しておく。	120分
第5回	地球カレンダーを作る	地球史46億年を1年365日に換算し、地球史上重要なイベントの時期を実感しやすい時間軸で説明する。	地球カレンダーの考え方、計算方法について復習し理解する。また、地球カレンダー作成の課題に取り組むこと。	360分
第6回	生命誕生	著しい変化を遂げる地球表層環境の中で生命がどのようにして誕生したのか、いくつかの代表的な説を例に解説する。	生命（生物）とは何であるか、生命体と無機物は何か違うのかを考えておく。 生命誕生の諸説を比較し、その長所・短所を説明できるよう復習する。	240分
第7回	全球凍結と生物多様性の創出	原生代の一大イベントである全球凍結の原因そして生命進化に及ぼした影響について解説し、その結果発展した生物群の特徴について説明する。	予め、地球カレンダーで全球凍結を含む前後のイベントの時間的な位置づけについて理解を深めておく。 エディアカラ生物群の特徴・独自性について復習する。	240分
第8回	古生代の世界	顕生代最初の時代である古生代全体を概観し、主として地球表層環境の推移と生物の応答について解説する。	地球表層環境の変化が生物進化にどのような影響を及ぼすのか、復習すること。	120分
第9回	古生代における生物発展—脊椎動物の進化	古生代を通じて生物がどのように進化していったのか、魚類誕生から四肢類の出現までの課程を解説する。	脊椎動物の進化について、地球表層環境の変化に対応させて理解できるよう復習すること。	120分
第10回	古生代末の生物大絶滅と恐竜の誕生	古生代末期に起こった地球史上最大の生物大量絶滅を解説し、その原因と結果が、以後長期の繁栄を誇ることになる恐竜類の出現に繋がった点を説明する。	恐竜類の出現に関わる地球環境変動について理解できるよう復習する。	120分
第11回	中生代の世界	大量絶滅からの復活と現代型生物の進化について概観する。	地球史の中で中生代がどのような位置付けとなるのか、地球カレンダーによる解釈も踏まえ理解できるよう復習する。	120分
第12回	中生代末の生物大絶滅と恐竜の絶滅	小惑星の落下等の原因によって訪れた中生代の終焉を、地球環境変動と恐竜類や中生代の代表的な生物の絶滅という観点から説明する。	中生代の生物の多くが絶滅した理由について、環境変動という観点から理解できるよう復習する。	120分
第13回	新生代の世界	中生代が終わり新生代に入り、生物がどのように進化・発展していったか、哺乳類の発展に焦点を当てて解説する。	新生代に入り哺乳類が発展した理由について述べられるように復習する。	120分
第14回	人類の進化	今から約700万年前に出現した人類。その発展の過程と現在のように全世界に分布する特異な生物種へと進化した経緯について解説する。	人類とは何か、また人類進化の歴史について説明できるよう復習すること。	120分
第15回	未来の地球／今までの振り返り	地球はこれからどうなるのかいくつかの仮説が出されているので、これらの仮説に基づき惑星としての地球のこれからを解説する。また、再度、地球カレンダーに基づき、地球46億年の歴史を通覧する。	地球の未来について、現在の環境や科学技術の発展などの状況から考えられる範囲でまとめて授業に臨むこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料、模型や化石標本等を用いて、講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。地球の歴史と生物の進化を中心とした知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)

	アンケート	○		○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		○
評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。				
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。				
参考図書	特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の共通性と多様性、および「生物」の生物の進化と系統の単元が参考となる。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地球の歴史、生物の進化を学ぶことで、自然の多様性について理解することができます。 【思考・判断】地球環境の成立を知ることから、そのあるべき姿について判断する基礎を身につけることができる。				
オフィスアワー	前期 木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。				
学生へのメッセージ	今から約46億年前に地球は誕生しました。それからの地球環境の変化は、想像を絶するものが有り、その中で生命が誕生し進化して、今の私たちに繋がっています。その、遠大で変化に富む生命の変遷を理解し、私たち人類という種族の誕生と発展について考えてもらいたいと思います。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では、実物の化石を用いてその特徴と進化の過程を考え、議論してもらう時間を作ります。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	法学入門（日本国憲法）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 尾崎 利生	指定なし

授業概要(教育目的)

はじめに、法および法律学の基礎を概観し、私たちの生活の中で、法律や憲法をどのように活用すればよいのか、法律の作用や憲法の役割を考えてみる。次に、日本国憲法が保障する基本的人権について、憲法訴訟におけるリーディング・ケースを考察し、今日の基本的人権をめぐる問題状況を明らかにする。後半は、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割、また、憲法改正の意味などについて考察する。

履修条件

教育職員免許状希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	憲法を頂点とした国内法の構造を理解し、憲法保障（例えば、裁判所の法令審査権）について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	人権に関する判例を考察し、裁判所の判断が憲法の解釈に適合したものかどうかを指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権に関心をもち、配慮できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	I 憲法総論 (1) 法律学と憲法学	権利・義務関係の内容・手続を定めた法令を分類しながら法令の解釈・適用を学ぶのが法律学。憲法は国家権力を制限する国の基本法であって、公権を定めた高次の法（最高法規）を学問対象とするのが憲法学であることを理解する。	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」（3～11ページ）を読んでおくこと	180分
第2回	(2) 憲法の歴史と憲法の基本原理	ヨーロッパの近代市民革命を経て、権力が一人の人間（君主）や一つの機関に集中しない工夫として権力分立制が生み出され、国家が人びとの権利を侵害してはならないとしたのが、人権保障規定（権利章典）であったことを理解する。	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の種類」「基本権の享有主体」（23～32ページ）を読んでおくこと	180分
第3回	II 憲法(人権) (1) 包括的基本権	憲法13条（幸福追求権）と同14条（法の下での平等）の規定は、すべての人権規定の基礎となる総則的権利である。プライバシー権は憲法13条を根拠に導かれた新しい	教科書第3章の「私人間効力」（34～35ページ）第4章の「幸福追求権」「法の下での平等」	180分

		人権の一つである。人権の私人間効力についても理解できるようにする。	(38～50ページ)を読んでおくこと	
第4回	(2) 精神的自由①	憲法19条思想・良心の自由、同20条信教の自由と政教分離原則を中心に、内心の自由を理解する。「君が代ピアノ伴奏」事件、「愛媛玉串料」事件、「エホバの証人剣道授業拒否」事件を検討する。	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」(51～61ページ)を読んでおくこと	180分
第5回	(3) 精神的自由②	憲法21条表現の自由、同23条学問の自由。とりわけ、表現、言論の自由は、民主政の大前提となる優越的権利であることを統治システム(議会制民主主義)との関係で理解する。「北方ジャーナル」事件を取り上げる。	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」(62～82ページ)を読んでおくこと	180分
第6回	(4) 経済的自由	憲法22条、同29条は、職業選択の自由、財産権の保障を規定しているが、「公共の福祉」(人権相互の調整原理)の観点から、精神的自由を制約する場合は厳格な基準が必要であるのに対して、憲法22条、29条については、憲法自身が合理的基準による制約を予定している権利であることを理解する。	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」(83～93ページ)を読んでおくこと	180分
第7回	(5) 人身の自由	Due process of law(法の適正手続)を中心に、拷問の禁止、令状主義など、人の身体に関する自由は、日本国憲法第三章の条文の中で条文数がもっとも多い特色を理解する。「第三者所有物没収」事件、「高田」事件を取り上げる。	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」(94～106ページ)を読んでおくこと	180分
第8回	(6) 社会権(生存権的基本権)	自由権が国家の介入を排除する性質をもっていた(国家からの自由)のに対して、社会権は国家が配慮しなければ、十全に保障されない性質(国家による自由)をもった権利であることを理解する。朝日訴訟、堀木訴訟を取り上げる。	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」(107～118ページ)を読んでおくこと	180分
第9回	(7) 参政権・国務請求権	参政権には選挙権、被選挙権、国民投票権があり、公務の性質によっては公務就任権も参政権の一部を構成する。また、請願権はその主体に未成年者、外国人、法人等も含まれる。これは議会制民主主義を補完する機能と捉えられることを理解する。	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」「裁判を受ける権利」(119～128ページ)を読んでおくこと	180分
第10回	Ⅲ憲法(統治)(1)国会の役割と権能	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関(憲法41条)であって、国政について最高の責任を負う地位にある。また、議院の権能として、国政調査権(同62条)は他の権力を侵害しない範囲で独自の調査が認められることを理解する。	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」(158～169ページ)を読んでおくこと	180分
第11回	(2) 内閣の役割と権能	行政権は、内閣に属する(憲法65条)とは、各行政機関によって行政が行われ、内閣がそれを指揮監督(同72条後段)し、統括している。日本の内閣は、議会の信任に基づき、議会に対して責任を負う議院内閣制を採用していることを理解する。	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」(170～180ページ)を読んでおくこと	180分
第12回	(3) 裁判所の役割と権能	司法とは、具体的な争訟について法を解釈し適用することによって、紛争を解決する国家作用であり、この作用を行う権限を司法権という。また、すべての裁判所は、法令等が憲法に適合するか否かを判断する法令審査権を有していることを理解する。	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」(181～197ページ)を読んでおくこと	180分
第13回	(4) 財政	国の財政を処理する権限は、国会の議決に基づいて行使されなければならない(憲法83条)とされ、「財政民主主義」の理念が含まれる。新たに租税を課したり、現行の租税を変更する場合は、法律に基づく租税法律主義を規定していることを理解する。	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」(198～205ページ)を読んでおくこと	180分
第14回	(5) 地方自治の制度と地方自治法	地方自治における団体自治とは、国家から独立した法人格をもち、自立権をもってその地方の事務を処理することをいい、住民自治とは、住民の意思に基づいて地方の事務が行われることを意味している。議会は、条例制定権をもつことを理解する。	教科書第18章の「地方自治の本旨」「地方公共団体」(206～214ページ)を読んでおくこと	180分
第15回	(6) 憲法改正	憲法改正とは、成典憲法中の条項の修正・削除および追加をなし、あるいは別に条項を設けて増補することをいう。憲法改正の限界については、成典憲法が抱えて立つ基本原理を否定するような改正を行うことは法的に不可能であることを理解する。	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」(215～220ページ)を読んでおくこと	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト・中間テストは、採点して、次週の授業にて返却する。
評価方法	小テスト(1回)、中間テスト(1回)、課題レポート(1回)(その他、毎回授業内容についてのチェック問題を出す)が、これは自己採点して、授業理解に役立つようにする)これらを平常点として、評価の30%とする。定期試験は70点満点で出題する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
中間テスト	○			
課題レポート		○		
評価割合	定期試験 (70%)、平常点 (小テスト10%、中間テスト10%、課題レポート10%) で総合評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義 第2版』(法律文化社、2016年) 978-4-589-03750-3 宇賀克也他編『ポケット六法2019年版』(有斐閣、2018年) 978-4-641-00919-6			
ディプロマポリシーとの関連	国の基本法としての憲法を頂点とした法秩序を学び、高い関心と徳性をもって人びとのために働く能力を身につける。			
学生へのメッセージ	テキスト、資料にあらかじめ目を通して、何が分かって、何が分からなかったのかを明らかにして、授業に参加できること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	市民と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡邊 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会における法の意義と機能を明らかにし、法的なものの見方・考え方（legal mind）が身につけられるよう努める。日常生活に法律があふれていることを知ってもらい法律を身近に感じてもらうとともに、法律それぞれの考え方を学び、特徴をつかんでもらうことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身近な問題を法的観点から考えることができる。法律それぞれの特徴を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な法律の特徴を理解し、区別して他者へ説明することができる。身近な問題について、法的観点から結論を導き出すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

市民と法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	契約が成立するってどういうこと?	社会生活を営む上で実は多くの契約を結んでいることを知り、法律を身近に感じられるようにする。契約が成立するために必要な要件について理解する。	予習：教科書1～15、246～247、274～279頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第2回	契約通りにいかなかったら?	契約が成立したものの、契約通りに履行されなかった場合にどうなるのかということ（損害賠償請求）について理解する。法の解釈とはどのようなものか、なぜ必要かということについて学ぶ。	予習：教科書16～18、242～245頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書	120分

			の上記頁を読み、理解を深める。	
第3回	一口に「契約」といっても。	契約の分類（双務契約など）について学び、典型契約についてそれぞれの契約の特徴を理解する。	予習：教科書18～24頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第4回	物に対する権利？	物権とは何かを知り、債権との違いを理解する。区分所有法など、物権に関する特別法について理解する。一般法と特別法との関係について学ぶ。	予習：教科書24～30、240～241頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第5回	「保証」とは何？	保証契約の基礎知識を獲得するとともに、連帯保証人と保証人との違いなどについて理解できるようにする。	予習：教科書31～41頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。また、教科書で出てきた具体例を図で書いてみる。	120分
第6回	アクシデント発生！！	交通事故や医療事故など、契約以外によって発生する権利関係について理解する。私法と公法の違いについて知り、説明できるようにする。	予習：教科書42～54、246～249頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第7回	多くの人を巻き込むアクシデント	製造物責任や悪徳商法など、一度に多くの被害者が発生する社会問題となったことについて規定している法律について学ぶ。	予習：教科書55～67頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。ネットで最近の悪徳商法などについて調べて、どのようなものがあるのか知っておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第8回	社会人として働いていくこと	会社に採用されるまでから退職するまでのルールについて学ぶ。労働者の権利について理解する。	予習：教科書68～91、271～273頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第9回	アルバイトは労働者？	正規社員と非正規社員の違い、非正規社員を保護する法律について学ぶ。男女雇用機会均等法について理解する。	予習：教科書92～105、258～262頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第10回	家族になる！	婚約から婚姻までの流れや婚姻によって発生する効果について知る。事実婚や同性婚など、過渡期にある家族についても理解する。	予習：教科書106～121、250～253頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第11回	子どもが欲しい！	実子と養子の違いについて学ぶ。養子制度、里親制度について理解する。	予習：教科書131～140頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書	120分

			の上記頁を読み、理解を深める。	
第12回	こんな結婚生活もう嫌だ…	離婚する手続きについて知る。離婚に伴って発生する清算関係（親権や財産分与など）について理解する。離婚後の家族関係について学ぶ。	予習：教科書121～131頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第13回	家族が死んでしまったら	相続についての基礎知識を獲得する。自分が高齢になったときの備え（成年後見制度や民事信託、遺言状の作成など）について理解する。	予習：教科書140～155、263～266頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。自分の家族が亡くなった場合の相続関係を図式してみる。	120分
第14回	「株主」って？	株式会社について知り、会社法の基礎知識を獲得する。株主の権利や取締役の責任、その責任追及の方法について学ぶ。	予習：教科書156～204頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。	120分
第15回	紛争の解決方法	わが国の裁判制度について理解する。裁判以外の紛争解決制度についての基礎知識を獲得する。	予習：教科書205～238、267～270頁に目を通し、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度教科書の上記頁を読み、理解を深める。裁判所のHPを見て、自分の住所地の管轄裁判所を調べてみる。また、裁判所HP内の動画配信で興味のある分野を見てみる。定期試験に向けて、これまでの授業内容の総復習をしておくこと。	120分、（総復習420分）

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	毎回、授業の最後に10分程度の簡単な確認テストを行い、次の授業の冒頭で簡単な解説を行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストは、その日の授業で行った内容について1行程度で説明する問題などを3～5問程度出す。5～10分程度で書き終わる内容のものとする。そこでの理解度に応じて平常点（各回0～2点、30点満点）とする。 定期試験は、70点満点で出題し、説明問題、穴埋め問題、選択問題などを出題する。出題の傾向や問題数などについては、最後の授業で説明する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○		
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験（70%）、平常点（30%）で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	池田真朗ほか著『法の世界へ〔第7版〕』（有斐閣、2017年） (ISBN:978-4-641-22088-1)				
参考図書	ポケット六法などの小型六法や、e-Gov法令検索 (https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/) などで法律を確認するように。携帯アプリでも可。				
参考URL	https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】社会の仕組み・身近な問題を法的観点から見つめ、様々な法律の特徴を理解するとともに、多様な価値観を身に着けている。				
学生へのメッセージ	法律学は条文や文章を読むことが必須である。教科書は必ず読むように。社会で生きていく以上、法律とともに				

生活することになるので、自分や家族を守る武器を得られるように、積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 野坂 真	指定なし

授業概要(教育目的)

電車内での迷惑行為、外国人との共生、地方創生、災害の多発など、実際に現代社会で生じている事象や課題を取り上げながら、人間社会の中で生じてきたできごとや変動を分析するさまざまな社会学の視点や方法を紹介する。

本授業は講義の形式を取るが、受講生の皆さんには、社会学の視点や方法を学びながら、現代社会の事象や課題をどのように理解しそれに向き合っていけば良いかを、自分の問題として考えて欲しい。質疑応答の時間なども設けるので、積極的に授業へ参加することを期待したい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基本姿勢を理解し、説明できる。 社会で生じている様々な事象や社会問題について、その実態とメカニズムを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 社会で生じている様々な事象や社会問題について、その実態とメカニズムを理解した上で、問題の核心を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観を持つ社会の人々とコミュニケーションを取りつつ、自分の価値観を相対化することで、社会参加できる。 授業内でのディスカッションに参加し、議論の発展に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> レポートやコメントシートの中で、自分の主張とその根拠を、より多くの読み手にとって理解できる形で表現できる。

学習計画

現代の社会的事象や社会問題に、社会学の研究はどのように切り込んでいるか？

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本授業のねらいと進め方、受講上の注意点を説明する。	予習：シラバスをよく読み、授業の進み方のイメージを持って授業に臨むこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、参考書の序章部分をよく読んでおくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第2回	社会学の視点と方法—そもそも社会学とは？	社会学の成り立ちや基本姿勢、人間「社会」とはそもそも何か、社会学が人間「社会」を研究対象とする意義を学ぶ。	予習：人間社会と動物の群れの共通点と相違点を考えてみる。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう	予習：2時間 復習：2時間

			思ったのか思考を深めておくこと。	
第3回	社会学の重要テーマ (1) 近代化、個人と社会	「近代化」と「個人と社会」というテーマを社会学がどのように扱っているか、なぜこれら2つのテーマが社会学にとって重要なのかを学ぶ。	予習：近代化（産業化、都市化など）によってどのような正の面と負の面がそれぞれ生じるかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第4回	社会学の重要テーマ (2) 価値観の多様化、国際化・都市化、リスク社会化、そして他者理解	本授業の重要テーマと、それぞれのテーマがどのようにつながっているかを説明する。また、これらの重要テーマが社会学の重要テーマとどのようにつながっているかを説明する。	予習：これまでの授業内容、特に「近代化」と「個人と社会」の意味を理解できるよう学び直しておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと	予習：2時間 復習：2時間
第5回	現代社会をみる(1) 私的な場と公共の場の変容	多様な価値観を持つ人々が関わり合っている公共の場について、なぜそうした場が成り立つのかを考察する。また、私的な場との違いを考察する。統計資料やディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第1章をよく読み、公共の場で生じる「迷惑行為」にはどのようなものがあり、なぜ迷惑と感じられるのかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第6回	現代社会をみる(2) 家族、ジェンダーと性の多様性	現代日本社会において、家族・人生のあり方や性のあり方が多様化している様相を、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第12章をよく読み、男女で差を設けている例とそれが差別だと感じられるかどうかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第7回	まとめと補足(1) 価値観の多様化と他者理解	直近2回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「価値観の多様化と他者理解」について理解を深める。また、学習到達度のチェックテストも行う予定である。	予習：直近2回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「価値観の多様化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第8回	現代社会をみる(3) 国際化、エスニシティと境界	現代日本社会において、国際化が多様化している様相を、特に居住者の多国籍化に焦点をあてながら、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第13章をよく読み、外国人労働者の生活状況と社会への包摂のされ方について考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第9回	現代社会をみる(4) 都市化と都市問題	現代日本社会において、都市化にともない様々な都市問題が生じている様相を、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第7章をよく読み、都市化の正の面と負の面を考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第10回	第10週 現代社会をみる(5) 過疎化と地方の時代	現代日本社会において、大都市での都市化と同時並行で地方では過疎化が進んでいる様相と、地方で生じている過疎問題について、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第7章をよく読み、地方が存続する意義があるかどうか、意義があるのであればどのように過疎問題に対応すべきかを自分なりに考えておくこと。	予習：2時間 復習：2時間

			<p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	
第11回	まとめと補足(2)都市化・国際化と他者理解	直近3回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「国際化・都市化と他者理解」について理解を深める。また、学習到達度のチェックテストも行う予定である。	<p>予習：直近3回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「国際化・都市化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。</p> <p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	<p>予習：2時間 復習：2時間</p>
第12回	現代社会をみる(6)社会のリスクと災害	現代社会は、リスクが遍在するリスク社会である。第12回では特に、非日常の状況下で顕在化するリスクについて考察する。具体的には、これまでに日本で起こった自然災害を事例に、映像資料や事例分析、ディスカッションを通じ、考察していく。	<p>予習：新聞記事などをよく読み、東日本大震災で被災地域がどのようなメカニズムで被災し、どのような復興上の課題を抱えているかを考えておくこと。</p> <p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	<p>予習：2時間 復習：2時間</p>
第13回	現代社会をみる(7)格差・不平等と貧困	現代社会は、リスクが遍在するリスク社会である。第13回では特に、日常に潜むリスクについて考察する。具体的には、格差、不平等、貧困に焦点を当て、音読資料やディスカッションを通じ、考察していく。	<p>予習：参考書の第14章をよく読み、現代社会にどのような格差や不平等があるか、自分がどのようなことをきっかけにして貧困状態に陥る可能性があるかを考えておくこと。</p> <p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	<p>予習：2時間 復習：2時間</p>
第14回	まとめと補足(3)リスク社会化と他者理解	直近2回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「リスク社会化と他者理解」について理解を深める。また、学習到達度のチェックテストも行う予定である。	<p>予習：直近2回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「リスク社会化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。</p> <p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	<p>予習：2時間 復習：2時間</p>
第15回	本授業のまとめと受講生へのメッセージ	これまでの授業内容の総まとめを行うとともに、そこから導き出される知見を整理する。	<p>予習：これまでに授業で配布した資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。</p> <p>復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。</p>	<p>予習：2時間 復習：2時間</p>

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の授業の進捗状況によって、各回の内容を変更することがありうる。 ・学習到達度チェックテストをレポートに変える場合がある。
学生へのフィードバック方法	<p>毎回、コメントシートに記入してもらい回収する。特にコメントが必要と講師が感じたコメントシートについて、匿名化した上で次回の授業でコメントをつけて全体に共有する。</p> <p>また、提出してもらったレポートや授業内の学習到達度チェックテストは、優良な回答をいくつか選定し、匿名化した上で最終回の授業でコメントをつけて全体に共有する。</p>
評価方法	<p>以下を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加への意欲や積極性など平常点 ・コメントシートの内容 ・レポートや学習到達度チェックテストの内容 <p>※コメントシート、レポートや学習到達度チェックテストでは、授業で学んだ知識を正確に理解しているかどうか、自分自身の考え方を他人にもわかりやすく表現できているかどうか、レポートを書く上での最低限のマナー</p>

を守れているか（自分の言葉で書く、参考文献を使ったなら書誌情報を書くなど）を重視する。
 ※授業に2/3以上出席しなかった者、レポートや学習到達度チェックテストを提出しなかった者は、単位取得できない（レポートや学習到達度チェックテストが複数ある場合は半分以上提出しないと、単位取得できない）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
コメントシートの内容	○	○	○	○
レポートやテストの内容	○	○	○	○

評価割合

平常点（20%）、授業内で毎回書くコメントシートの内容（30%）、レポートの内容（50%）を合わせて評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。

参考図書

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007年

ディプロマポリシーとの関連

・毎回のコメントシートと、レポートや学習到達度チェックテストによって、豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力が身についているかを確認する。
 ・社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を養うために、多様な価値観を持つ受講生が集う授業への積極的な参加を促す。
 ・学修で得た専門的技術（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を養うために、毎回のコメントシートと、レポートや学習到達度チェックテストにおいて自分の思考結果を表現できているかどうかを確認する。

オフィスアワー

授業前後に相談を受け付ける。

学生へのメッセージ

<事前準備>
 1) 参考文献等
 社会的な事象（人間同士の関わりから生じるできごと）に関して、新聞・雑誌記事、書籍、テレビ・インターネットの番組などを積極的に見ておく。必ずしも事前に読んでおかなくても良いが、下記を参考書として読んでおけば授業への理解が深まるだろう。
 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007年
 2) 情報環境の確認
 授業に関わるコミュニケーションやレポート課題の提出等で、google classroomも活用する場合がある。学生の皆さんも大学のメールアカウントで使えるようになっているはずなので、ログインの仕方や使い方を確認しておいて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コメントシートやレポートの内容を受講生全体に共有し、グループ・ディスカッションを行う場合がある。
情報リテラシー教育	○	レポートでは、レポートを書く上での最低限のマナーを守れているか（自分の言葉で書く、参考文献を使ったなら書誌情報を書くなど）を重視する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	経済学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大野 裕之	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>経済学を初めて学ぶ学生に、経済の基本的な仕組み意と最近の重要な経済問題を理解させ、私たちへの生活へのかかわりや経済問題の重要性を理解させることを目標にする。そして、それらに対する自分自身の意見を形成し、それを自分のことばで他人に伝えられるだけの知識を習得することも、併せて目標にすえる。</p> <p>授業内試験1の前までは、経済の基本的な仕組みの解説に充てる。その中で、経済学の中のいくつかの考え方の違いも詳述する。後半は、新聞やニュースで取り上げられる、昨今の重要な経済問題について解説することを中心に進める。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。
------	-------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	経済学の基本的な概念を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	市場や政府の役割など、経済の基本的な仕組みを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、高校数学の復習(テスト)	この授業の全体像を理解する。経済学に必要な最低限度の数学の知識を確認する。	高等学校で習った数学の復習。	120分
第2回	経済学とはなにか。	経済学とはどういう学問かを大まかに把握するとともに、特に重要ないくつかの概念を理解する。	教科書(上)第1章を読んでおくこと。	120分
第3回	貨幣の仕組み	貨幣の発展の歴史を学ぶことにより、貨幣とはそもそも何か、その基本的機能を理解する。	教科書(上)第2章を読んでおくこと。	120分
第4回	市場原理	需要・供給と価格の関係と市場メカニズムの基本的な仕組みを理解する。	教科書(上)第3章を読んでおくこと。	120分
第5回	資本主義と	市場メカニズムもしくはそれを前提とした資本主義の負	教科書(上)第4章を読んでお	120分

	失業	の側面を理解する。	くこと。	
第6回	公共事業と景気回復	資本主義の負の側面を矯正する手段としての政府の介入、公共事業の役割を理解する。	教科書（上）第5章を読んでおくこと。	120分
第7回	マネタリスト理論	ケインズ経済学へのアンチテーゼとして出現した、マネタリストの理論と、それに連なる新古典派マクロ経済学について理解する。	教科書（上）第6章を読んでおくこと。	120分
第8回	学習到達度確認テスト1とその解説	第1回～第7回までの授業における学習到達度を確認し、不足点を見つける。	理解度が不十分であった回の、教科書該当章やノートを復習する。	120分
第9回	比較優位と貿易	自由貿易の優位性と保護貿易の動きを理解する。	教科書（上）第7章を読んでおくこと。	120分
第10回	インフレとデフレ	物価とは何か、それが変動する要因、その帰結について理解する。	教科書（下）第1章を読んでおくこと。	120分
第11回	政府と日銀	政府と日銀の役割を理解する。	教科書（下）第2章を読んでおくこと。	120分
第12回	バブル経済と平成不況	バブル経済の発生と崩壊、その後の平成不況について理解する。	教科書（下）第3章を読んでおくこと。	120分
第13回	年金と消費税	年金の仕組みと財務状況を学び、消費税増税の是非について理解する。	教科書（下）第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	リーマンショック	2008年に世界を襲ったリーマンショックの原因について学び、新古典派マクロ経済学の限界について理解する。	教科書（下）第7章を読んでおくこと。	120分
第15回	学習到達度確認テスト2とその解説	第9回～第14回までの授業における学習到達度を確認し、不足点を見つける。	到達度が不十分な授業の、教科書該当部分とノートをよく読む。	120分

学習計画注記

学習計画は実際の進捗による。

学生へのフィードバック方法

小テストは前回分を毎回、返却し、簡単な解説を行う。

評価方法

授業内容の理解度を吟味する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
学習到達度確認テスト1	○	○		
学習到達度確認テスト2	○	○		

評価割合

小テストが2割、学習到達度確認テスト1が4割、学習到達度確認テスト2が4割の割合で評価する。詳細は初回授業で説明する。

使用教科書名 (ISBN番号)

池上彰著『池上彰の優しい経済学』1, 2巻、日本経済新報社、2013年

参考図書

随時紹介する

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】経済の重要概念に関する基本的な知識を有している。
 【思考・判断】市場メカニズムの基本的な機能を理解し、その優位性と限界を知り、さまざまな現代的な課題に関する思考・判断能力を身に付けている。

学生へのメッセージ

教科書に沿ってすすめるので、次回の内容を予習して出席のこと。また、小テストを頻繁に行うので、復習も肝要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	経営学入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

授業概要(教育目的)

現代社会は、営利組織である企業、非営利組織である官庁・学校・病院など、「組織」を通じてその運営がなされている。経営学は、この組織の構造や行動、組織で働いている人のやる気や管理などの問題を扱うものである。本講義では、主に企業活動における企業の行動や企業の中で働く人の管理に焦点を当て、企業に関する理解を深めてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講生の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多様な企業活動を知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	企業活動について、「自分の言葉」で記述することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	組織と個人 の関係を考 える	個人の役割が大事だとわかっていても、組織を巨大なものとして思いがちなのはなぜかを考える。	組織と個人の関係、誘因と貢献の関係について復習しておくこと。	180分
第2回	企業イメ ージと3C分 析	企業イメージを知り、3C分析について考える。	3C分析について復習をしておくこと。	180分
第3回	会社とは	会社は何のためにあるのか、何のために働くのかについて考える。	何のために働くのかを復習しておくこと。(1回目の課題あり)	180分
第4回	株式会社 について知 る	株式発行について知る、株式会社の3会について知る。	興味のある株式会社を調べておくこと(2回目の課題あり)	180分
第5回	課題の解説	課題について解説を行う	課題についての復習を行うこと。	180分
第6回	会社は誰 のものか	会社は誰のものか(企業ガバナンス)を考える。	会社は誰のものか考える。(3回目の課題あり)	180分
第7回	CSRにつ い	CSRについて知る。CSRについて考える。	CSRの点から株式会社を調べ	180分

	て		る。(4回目の課題あり)	
第8回	中間振り返り	第1回～第7回までの授業内容を振り返る。	レポート作成について各自調べてくること(5回目の課題)	180分
第9回	レポート作成について	課題のレポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習しておくこと。	180分
第10回	組織構造について①	「組織(構造)は戦略に従う」について知る。	組織構造について復習しておくこと。	180分
第11回	組織構造について②	組織構造における人の役割について考える。	社内ベンチャーについて調べおくこと。	180分
第12回	マックとモスの競争戦略について	競争戦略を知る。競争戦略について考える。	競争戦略について復習しておくこと。	180分
第13回	国際化について	企業はなぜ国境を越えた活動をするのか?	グローバリゼーションとは何か復習しておくこと。	180分
第14回	キャリアについて	キャリアデザインはいつするのか。	自身のキャリアについて復習しておくこと。	180分
第15回	総まとめ	これまで取り上げた授業内容を中心に復習を行う。	これまで取り上げた授業内容を予習しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
--------	-------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
---------------	------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回(40%)
------	--------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
----------------	----------------------

参考図書	加護野忠男・吉村典久、『1からの経営学』、碩学舎、2012。
------	--------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：人間社会において豊かな知識と深い思考をもって理解する。
---------------	-----------------------------------

オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること。
---------	----------------------------------------

学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット(1束100円程度)を購入してもらう。
-----------	---------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		



シラバス参照

講義名	日本の歴史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 滝口 正哉	指定なし

授業概要(教育目的) 日本の歴史について、原始から古代・中世・近世・近代までを概観する。具体的な地域としては東京都の変遷について述べるが、町田キャンパス周辺地域の歴史展開についても言及する。

履修条件 特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、授業で取り上げた内容を正確に理解し、全体の歴史的な流れを把握している。 2、東京とその周辺地域の歴史的特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1、博物館の資料や地域の文化財について、それぞれを歴史の流れのなかに位置づけ、その内容や価値を理解できる。 2、過去の歴史から学ぶことによって、現代日本の抱える問題、地域社会における現実的課題を解決するための自分なりの考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに～最初の東京人～	旧石器時代から縄文時代にかけての東京地域の遺跡の発掘成果から明らかになった原始時代の生活ぶりを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で旧石器時代・縄文時代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第2回	古墳の世紀	弥生時代から古墳時代にかけての東京地域の遺跡の発掘成果から明らかになった当時の生活ぶりを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で弥生時代・古墳時代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第3回	仏教伝来と浅草寺・国分寺	6世紀の仏教伝来以降、東国に寺院がどのような広がりをもったのかについて、浅草寺の縁起と、国分寺の創建の経緯をもとに理解する。	あらかじめ高校の教科書等で飛鳥時代・奈良時代の部分を読み、浅草寺・国分寺の沿革を調べておくこと。	予習60分、復習120分
第4回	ヤマトタケル伝説と将門伝説	日本古代史上の伝説的英雄ヤマトタケル(日本武尊)の東征と、平安時代に関東で反乱を起こした平将門をめぐる伝説と、ゆかりの神社の由緒から、古代の東国社会を理解する。	あらかじめ高校の教科書等でヤマトタケル・平将門について調べておくこと。	予習60分、復習120分

第5回	坂東武士の登場	平安時代に関東に勢力を誇った平家一族や武蔵七党の活躍、東国に源氏の基礎を築いた源義家の動向を紐解きながら、平安時代の関東の実態を理解する。	あらかじめ高校の教科書等で平安時代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第6回	源平争乱と鎌倉幕府の成立	保元の乱・平治の乱から源頼朝の挙兵と、平家滅亡という争乱の時期の関東の動向と、関東に初めての武家政権として鎌倉幕府を開いた意義などを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で鎌倉時代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第7回	室町時代の東国と太田道灌の江戸城築城	鎌倉幕府の執権政治が衰退し、足利尊氏・新田義貞らが挙兵した関東の動向と、室町時代の鎌倉公方と関東管領上杉氏の存在、太田道灌が江戸に新たな拠点として城を築いた意義を理解する。	あらかじめ高校の教科書等で建武の新政・室町時代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第8回	徳川家康の関東入国	戦国時代、南関東に一大勢力を築いた後北条氏が滅亡し、その旧領を与えられた徳川家康がなぜ江戸を拠点に定めたのか、戦国時代の江戸の発展と、当時のその地域的な魅力を理解する。	あらかじめ高校の教科書等で応仁の乱以降の戦国時代の部分を読み、後北条氏について調べておくこと。	予習60分、復習120分
第9回	明暦の大火後の江戸と元禄時代	江戸幕府の開設後、徳川家が諸大名を動員して内堀・外堀と二重の堀に囲まれた巨大な江戸城を築城し、それと同時に初期城下町を整備したこと、明暦の大火後に再度都市計画を行ない、現代の東京の原型というべき都市が成立した事情を理解する。	あらかじめ高校の教科書等で江戸時代前期、17世紀の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第10回	享保の改革と田沼時代	18世紀に入り、幕府や諸大名の財政難が深刻化する一方で、商業の発展し、農村が大きな変化を迎えた流れと、そうした社会状況に幕府がどのような取り組みをしたかを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で江戸時代中期、18世紀の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第11回	寛政の改革と文化文政時代	経済・文化の発展する時期と、財政改革・農村改革・風紀取締の強化を目指す時期が交互に繰り返される歴史的推移や、それぞれの時期の特徴を理解する。	あらかじめ高校の教科書等で江戸時代後期、1780年代～1830年代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第12回	天保の改革と幕末	19世紀前半の都市江戸の抱えるさまざまな矛盾に対して天保の改革がどのような取り組みを行ったのか、そして黒船来航後の動乱の時代に江戸はどのように変化していったのかを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で1840年代～明治維新の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第13回	明治維新と文明開化	江戸城と幕府諸施設が新政府に引き渡され、新しく首都となった東京の市街がどのように変化し、文明開化をどのように受け入れていったのか、そして何が受け継がれたのかを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で明治維新～明治30年代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第14回	関東大震災・戦災後の復興	明治・大正時代の東京の発展と、政府の関東大震災後の復興計画と、それに続く戦時下の東京、そして戦後の東京の都市計画がどのようになされ、人々の生活はどのように変化したのかを理解する。	あらかじめ高校の教科書等で明治末～昭和20年代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分
第15回	「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」にみる昭和	東京オリンピック前後の都市計画と、高度経済成長期からバブル期の東京の暮らしがどのように変化したのかを、漫画などを題材に理解する。	あらかじめ高校の教科書等で昭和30～60年代の部分を読んでおくこと。	予習60分、復習120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業の前後の時間を利用してアポイントをとって下さい。連絡用のEメールアドレスは必要に応じて授業内で提示します。

評価方法

- ・歴史の流れを全体的に把握することが大事なので、細かい事象を暗記する必要はありません。
- ・授業後にコメントペーパーを配布するなどし、受講生の理解度や積極性を量りつつ、受講生の疑問・関心を授業に反映させていく。
- ・レポートは地域の歴史についてまとめてもらう課題を出します。
- ・期末試験については、論述問題とし、出題の傾向については、最後の授業にて説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○			
期末試験	○			

評価割合 平常点30%、レポート・期末試験70%。平常点は授業への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

参考図書	竹内誠 他編『教養の日本史』（東京大学出版会、ISBN：4-13-022014-4）	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 日本の歴史や地域の歴史的事象について基本的知識を有し、これを時系列に把握し、その特質を説明できる。</p> <p>【思考・判断】 正確な情報を収集して、これまでの歴史をふまえた論理的批判的に思考し、現代社会や地域社会の抱える諸問題に対する取り組みを判断できる力を身につけている。</p>	
学生へのメッセージ	この授業を履修するにあたり、歴史の専門知識は必要ありません。毎回の授業を集中して受講して下さい。準備学習として、高校までの日本史の学習内容を再認識しておく、授業内容をより深く理解できます。また、授業中に紹介する参考文献などについても、自ら積極的に読んで授業に望むことを希望します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、これまでに地域博物館において学芸員として資料の収集や調書作成、展示、文化財指定、講座等教育普及事業に関する実務経験を有しており、また、現在でも具体的な資料をもとにした地域の歴史を紐解く記事の執筆や、講演などを行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	世界の歴史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村 貴之	指定なし

授業概要(教育目的)	今後社会人として人生を歩んでいく際に必要となる近現代の世界に目を向ける。特に、中東やロシアを始めとするユーラシア世界で起きている現代的な問題（地域紛争など）を歴史の観点から理解し、考察できるようになることを目指す。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	人間社会、特にユーラシア世界の多様性に関する豊かな知識を持ち、その多民族共存、多文化接触のありようを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	ユーラシア中央部、つまり中東やロシアの多様性に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	これからの日本にとって、外国人の日本訪問、労働滞在に伴う多文化共生の問題は不可避の課題で、中東やロシアの歴史的経験は、大きな教訓となる。将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、社会問題を解決する能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

多民族共存の歴史

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入	講座の進め方や参考書についての説明。多民族共存の歴史、世界帝国とは何かについて解説。	予習は不要。復習に力を入れて欲しい。	120
第2回	イスラーム教の起こりと拡大	イスラーム教についての解説と、イスラーム帝国が、西アジアから北アフリカ・中央アジアに拡大するまでを説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第3回	イスラーム世界の形成	イスラーム世界に北方の遊牧民が侵入し、イスラーム国家が変質する過程を説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第4回	オスマン国	代表的な遊牧国家だったオスマン国家が、西アジア、北	講義が少し難しいと思ったら、	240

	家の起りりと拡大	アフリカ、ヨーロッパにまたがる世界帝国に成長する過程を説明。	高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	
第5回	オスマン帝国と西洋の衝撃	19世紀に入り、オスマン帝国が西洋列強の侵略を受け、近代化を試みると同時にどの問題点が露になる過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第6回	オスマン帝国の解体	19世紀末のキリスト教徒の民族運動と第一次世界大戦でオスマン帝国が解体する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第7回	トルコ共和国の成立と発展	オスマン帝国が解体し、西欧を模範にしたトルコ人の国民国家が成立する過程とその周辺地域の情勢を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第8回	イスラーム復興運動と民族問題	現在のトルコ共和国の抱える宗教復興と少数民族の問題を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第9回	「第三のローマ」の成立	諸民族が行き交うロシアの地にキリスト教国家が成立、発展する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第10回	ロシア帝国の成立と発展	18世紀に西欧諸国を模範とした国政改革を行い、領土を急拡大させながら、世界帝国に飛躍する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第11回	社会主義の流入と革命	19世紀のロシア帝国は、西欧から新しい文化が流入する一方で、アジア地域に支配を拡げ、社会矛盾が増大し、20世紀に入って革命を迎えるまでを解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第12回	ソ連邦と民族問題	社会主義を掲げるソヴィエト政府は、平等を重んじる一方で、少数民族の取り込みを図るうえで、その独自性も重視するという難しいかじ取りを迫られた点を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第13回	社会主義の発展と国家主義	1920年代にソヴィエト政府が重視した少数民族の優遇策は、30年代に入ると内外の情勢の変化で破綻を迎える過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第14回	ソ連邦の崩壊と独立国家共同体	第二次世界大戦を勝ち抜いた社会主義体制が、1970年代以降凋落し、新たな改革を目指すとともに少数民族の問題が再燃し、1991年にはソ連邦そのものが崩壊する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第15回	まとめ	講義のまとめと期末課題を実施。	参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	360

学習計画注記	履修者数や出席者の関心度によって、講義の進度が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどを回収した際には、次週の講義で講評のうえ、返却する。
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回講義で説明する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合	平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。			
参考図書	講義で推薦図書リストを配布する。			
ディプロマポリシーとの関連	人間社会、特にユーラシア社会の多様性に関する豊かな知識を持ち、それを深い思考で理解する。さらに、これに由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。			
学生へのメッセージ	基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などでイスラーム史と東欧史の箇所を復習しておくこと。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	学生との対話を重視した講義。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	世界の地理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 横地 留奈子	指定なし

授業概要(教育目的)

地球上では、その位置により、大気の動きと太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	気候による食文化の違いが理解できる
思考・判断の観点 (K)	気候による違いの要因を考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ニュースや新聞などの報道と関連付けて考えられる
技術・表現の観点 (A)	将来自分と異なる文化背景を持つ人々と接したときに、配慮できるようになる

学習計画

世界の地理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義概要	今後の講義を理解するための、用語の解説や講義の進め方など、全体的な説明を行う	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第2回	熱帯雨林気候	熱帯雨林気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第3回	サバナ気候	サバナ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく	5分

			新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	
第4回	砂漠気候	砂漠気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第5回	ステップ気候	ステップ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第6回	地中海性気候	地中海性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第7回	西岸海洋性気候	西岸海洋性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第8回	温帯〔温暖〕湿潤気候	温帯〔温暖〕湿潤気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第9回	冷帯〔亜寒帯〕気候	冷帯〔亜寒帯〕気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第10回	ツンドラ気候・氷雪気候	ツンドラ気候・氷雪気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第11回	日本の気候	温暖湿潤気候のうち、日本を細かく考える。日本の中で気候が異なることを確認し、その変化の要因を理解する。	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第12回	日本の気候と植生	日本の地域により異なる気候の中で、植生がどのように異なっているのかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第13回	日本の気候と作物	日本の地域によって異なる気候の中で、作られてきた作物の違いについて理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分

第14回	日本の気候と生活	日本の地域によって異なる気候の中で、人々がどのような生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第15回	まとめ	今までの講義の内容を振り返る	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分

学生へのフィードバック方法	出席表に書かれた内容の中で、疑問・質問があった場合は解説する。
---------------	---------------------------------

評価方法	定期試験の得点（70%）、平常点（30%）。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。 ※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。 ※毎回、出席カードを配布します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出してください。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席票の記述	○	○	○	○
筆記試験	○	○	○	○

評価割合	定期試験の得点（70%）、平常点（30%）
------	-----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。
-----------------	--------------------------------------------------------------------

参考図書	高橋伸夫ほか編『世界地図を読む 図説世界地理』大明堂、1993年。 漆原和子ほか編『世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007年。 ※このほかにも、講義中に紹介していきます。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	質問・欠席の申請書類（公欠など）などは、講義の前後に受け付けます。
---------------	-----------------------------------

オフィスアワー	講義のある木曜日12:00~15:00ごろ 非常勤講師室にいます。
---------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日頃より、ニュースなどの国際情勢について注意してください。講義の中で自分なりに気づく点があり、より深く理解できるはずです。 講義でとりあげる地域・主要な都市・地形を地図帳で確認してみましょう。また、講義の際に「疑問に思ったこと」や「興味をもったこと」について書籍などで積極的に調べてみてください。さらに「興味を持ったこと」（たとえば文化や産業など）について「他の地域」・「他の時代」と比較し、どの点が似ているのか、異なっているのかについても考えてみましょう。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	参考図書を案内する。その際、公共図書館等の使用方法を案内する場合がある。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	国際関係論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村 貴之	指定なし

授業概要(教育目的)	「国際関係論」は、単純な国家間の外交史だけを意味するのではなく、人や物を含めた世界規模の交流のあり方を総体的に理解する学問である。我々の生活は国際関係に影響を受けると同時に、我々の生き方が国際関係に影響を及ぼすこともある。講義では、国際関係論の重要なテーマを解説しながら、現代の我々の生活との関係に目を向けていきたい。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国際関係に関する豊かな知識を持ち、その歩みを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の国際関係に由来する「グローバル化」の問題を複眼的にとらえ、その対応策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本も「グローバル化」とは無縁ではない。今後の人生に向けて、目の前にある課題に意欲的に取り組み、国際化社会の中で働く能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

国際関係の歩み

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入	講義の進め方や国際関係論についての説明。	予習は不要。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	120
第2回	主権国家とは何か	近代の国際関係の基本単位となった主権国家と成立について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第3回	勢力均衡外交と国民国家の起こり	欧米の国家が、市民革命を通じて王朝から国民国家へ変化する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第4回	帝国主義と植民地問題	市場経済の発展とともに、ヨーロッパの強国が帝国主義となり、アジア・アフリカに植民地を築く過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋	240

			近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	
第5回	第一次世界大戦後の国際関係	勢力均衡外交が破綻し、第一次世界大戦を経験した欧米が、新たな国際関係を模索する様を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第6回	冷戦の時代	第二次世界大戦で超大国に躍り出たアメリカ合衆国とソ連邦の対立が、その後の国際関係を大きく左右する構造となる様を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第7回	国際連合の仕組み	第二次世界大戦後の新たな国際秩序を支えることになった国際機関の組織と役割について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第8回	欧州統合の歩み	第二次世界大戦の破壊と冷戦の勃発によって地盤沈下した西欧諸国が、地域統合によって新たな国際関係を築く過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第9回	欧州統合の変質	西欧諸国の経済統合を目指した欧州諸共同体から、東欧諸国をも取り込んだ欧州連合に拡大する経緯と、政治統合を目指すことによって生じた問題について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第10回	戦争と平和の理論	国際関係論において重要なテーマとなる、戦争と平和についての諸理論を解説。	予習よりは復習に力を入れ、参考書などを使って理解を深めること。	240
第11回	経済不均衡と南北問題	19世紀末に発生した帝国主義の問題は、形を変えながら、第二次世界大戦後の経済構造にも残存したばかりか、グローバル化の進展という新たな段階に移行する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第12回	移民問題とは何か	経済のグローバル化の進展に伴って目立ってきた移民の問題について解説。	予習よりは復習に力を入れ、参考書などを使って理解を深めること。	240
第13回	環境問題とは何か	現代の人類に喫緊の課題とされる環境問題は、まさに国際関係を象徴する。この問題の発生と現状を解説する。	予習よりは復習に力を入れ、参考書などを使って理解を深めること。	240
第14回	現代の日本と世界	安全保障、グローバル化、外国人労働者、環境問題など地球規模の問題に日本がどう関わってきたのかを解説。	予習よりは復習に力を入れ、参考書などを使って理解を深めること。	240
第15回	まとめと期末課題	安全保障、グローバル化、外国人労働者、環境問題など地球規模の問題に我々がどう関わるべきかを考えたうえで、期末課題を実施。	講義で扱ってきたテーマを、参考書などを使ってよく理解しておくこと。	360

学習計画注記	履修者数や出席者の関心度によって、講義の進度が変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどを回収した際には、次週の講義で講評のうえ、返却する。			
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回の講義で説明する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	
評価割合	平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。			

参考図書	講義で推薦図書リストを配布する。	
ディプロマポリシーとの関連	国際関係論に関する豊かな知識を持ち、それを深い思考で理解する。さらに、現代の国際関係に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。	
学生へのメッセージ	普段から、新聞、テレビ、インターネットニュースなどを通して、国際ニュースに関心を持っておくこと。また、基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に外交史は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで西洋史の箇所を復習しておくこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生との対話を重視した講義。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	哲学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 梅田 孝太	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、(1) 哲学思想史の講義と、(2) 哲学的な問いをめぐってのグループワークを交互に実施する。講義の週にはソクラテスやカント、ニーチェといった哲学者たちの思想を概括的に学び、哲学思想史の流れをたどる。グループワークの週には、簡潔に思想史上の議論を紹介したあとで、グループに分かれて哲学対話の実践を行う。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋哲学思想史の流れを概括的に説明できるようになる。 ことがらの本質をめぐっての対話実践の意義と実践方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ことがらの本質をめぐっての対話実践を通じて他者の意見を聴くことによって自らの思い込みを反省的に理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ことがらの本質をめぐっての対話実践の円滑な実施に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

哲学入門 (G50601001)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション／哲学対話の方法と実践について	哲学史の概括的な流れについて思想史的観点から学ぶ。哲学対話の意義およびその方法と実践の多様性について理解する。	授業の復習を行うこと。配布資料①(梶谷真司『考えるとはどういうことか』より抜粋)を読み、哲学対話の意義とその方法について理解を深めること。	120分
第2回	西洋哲学の端緒(ソクラテス)	西洋哲学の端緒と古代ギリシア神話について思想的観点から学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料②(荻野弘之著『哲学の原風景』より抜粋)を読み、西洋哲学の端緒について理解を深めること。	120分
第3回	「幸福」／グループワーク①	ソクラテスの刑死について学び、「よく生きる」とはどのようなことを反省的に考える。「幸福」について哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート①の語句説明問題および配布資料①と②についての問題に回答し、グループワークの成	240分

			果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「幸福」について自らの問題意識に沿って論述すること。	
第4回	中世キリスト教思想 (アウグスティヌス)	アウグスティヌスの思想を例として取り上げつつ、西洋哲学思想の根幹にあるキリスト教思想について概括的に学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料③(梶谷真司『考えるとはどういうことか』より抜粋)を読み、哲学対話について理解を深めること。	120分
第5回	「悪」／グループワーク②	弁神論について学び、「なぜこの世に悪が存在するのか」を反省的に考える。「悪」について哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート②の語句説明問題および配布資料③についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「悪」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第6回	近代フランス哲学(デカルト)	近代西洋哲学における二元論について、またデカルトの懐疑論について学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料④(谷川多佳子『デカルト『方法序説』を読む』より抜粋)を読み、デカルト哲学について理解を深めること。	120分
第7回	「夢」／グループワーク③	「夢」についての思想史を学び、「目覚めているときどうして自分が夢を見ていないとわかるのか」について反省的に考える。「夢」について哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート③の語句説明問題および配布資料④についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「夢」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第8回	近代ドイツ哲学(カント)	西洋倫理思想について概括的に理解するために、カントの義務論を功利主義や徳倫理学との対比で学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑤(佐藤岳詩『メタ倫理学入門』より抜粋)を読み、メタ倫理学について理解を深めること。	120分
第9回	「道徳的な正しさ」／グループワーク④	西洋哲学における規範倫理学の分類について思想的観点から学ぶ。「道徳的に正しい行為とは何か」について反省的に考える。「道徳的な正しさ」をめぐって哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート④の語句説明問題および配布資料⑤についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また配布資料の内容と授業内容を振り返りつつ「道徳的な正しさ」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第10回	19世紀の思想①(ショーペンハウアー)	ショーペンハウアーの共苦論と形而上学について学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑥(リップマンほか『子どものための哲学授業』より抜粋)を読み、哲学対話について理解を深めること。	120分
第11回	「芸術」／グループワーク⑤	ショーペンハウアーの芸術論、また美学・芸術学の諸問題について思想的観点から学ぶ。「芸術の本質とは何か」をめぐって哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート⑤の語句説明問題および配布資料⑥についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「芸術の本質とは何か」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第12回	19世紀の思想②(ニーチェ)	ニーチェの道徳批判と現代的問題としてのニヒリズムについて学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑦(『ヨーロッパ現代哲学への招待』より抜粋)を読み、ニーチェ哲学について理解を深めること。	120分
第13回	「正義」／グループワーク⑥	西洋哲学史における「正義」について思想的観点から学ぶ。「正義」をめぐって哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート⑥の語句説明問題および配布資料⑦についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「正義」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第14回	現代哲学の諸問題(ハイデガー)	西洋哲学における存在論について、20世紀ドイツの思想家ハイデガーの思想を手引きに学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑧(古東哲明『ハイデガー＝存在神秘の哲学』より抜粋)を読み、ハイデガーの存在論について理解を深めること。	120分

第15回	「存在」／グループワーク⑦	西洋哲学史における「存在」の問題について思想史的観点から学ぶ。テーマをグループごとに自由に設定して哲学対話のグループワークを実施する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。ワークシート⑦の語句説明問題および配布資料⑧についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ、自ら設定したテーマについて自らの問題意識に沿って論述すること。	300分
------	---------------	---------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	ワークシートは採点して翌々週までに返却する。その際、優れた問題意識を示した回答内容を共有する。
---------------	-------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（7回提出）は、語句説明問題と資料内容を問う問題（穴埋め方式）、グループワーク報告および小論（記述方式）を出題する。その評価には平常点（グループワークへの取り組み姿勢）を含める。 定期試験は100点満点で出題し、ワークシートで扱った内容を含める。出題傾向については第15回の授業で説明する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合	ワークシート（70%）と定期試験（30%）で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。随時コピーを配布。
-----------------	--------------

参考図書	<p>梶谷真司『考えるとはどういうことか——0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎新書、2018年。（ISBN: 4344985141）</p> <p>河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せる こどもを育てる哲学レッスン』、河出書房新社、2018年。（ISBN: 4309248691）</p> <p>中岡成文監修、堀江剛『ソクラティック・ダイアログ——対話の哲学に向けて』（シリーズ臨床哲学4）大阪大学出版会、2017年。（ISBN: 4872596048）</p> <p>マシュー・リップマンほか、河野哲也・清水将吾訳『子どものための哲学授業』、河出書房新社、2015年。（ISBN: 4309247016）</p> <p>マシュー・リップマン、河野哲也・土屋陽介・村瀬智之監訳『探求の共同体——考えるための教室』玉川大学出版部、2014年。（ISBN: 4472404885）</p> <p>荻野弘之『哲学の原風景 古代ギリシアの知恵とことば』、NHKライブラリー、1999年。（ISBN: 4140841060）</p> <p>荻野弘之『哲学の饗宴——ソクラテス・プラトン・アリストテレス』、NHKライブラリー、2003年。（ISBN: 4140841583）</p> <p>服部英次郎『西洋古代中世哲学史』、ミネルヴァ書房、1976年。（ISBN: 4623010600）</p> <p>谷川多佳子『デカルト『方法序説』を読む』、岩波書店、二〇一四年。（ISBN: 4006003137）</p> <p>石川文康『カント入門』、ちくま新書、1995年。（ISBN: 4480056297）</p> <p>佐藤岳詩『メタ倫理学入門』、勁草書房、2017年。（ISBN: 4326102624）</p> <p>アラスデア・V・キャンベル『生命倫理学とは何か——入門から最先端へ』、勁草書房、2016年。（ISBN: 4326102551）</p> <p>齋藤智志ほか『ヨーロッパ現代哲学への招待』、梓出版社、2009年。（ISBN: 4872620221）</p> <p>古東哲明『ハイデガー＝存在神秘的哲学』、ちくま学芸文庫、2002年。（ISBN: 406149600X）</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】現代の人間社会の礎のひとつである西洋哲学思想の基本的な流れを理解している。また人間社会の特徴である多様性について、ことからの本質をめぐって対話することを通じて自らの考えと他者の考えとのちがいを実体験として理解する。</p> <p>【思考・判断】ことからの本質をめぐって対話することを通じて、立場のちがいはあっても共有している価値について提案しあう思考の柔軟性を身につける。</p> <p>【関心・意欲・態度】高い徳性をもって人間社会をよりよいものにしていくために、個々の立場を越えてことからの本質をめぐって対話することを通じて、他者を理解し尊重する場づくりに積極的に貢献できるようになる。</p> <p>【技術・表現】ことからの本質をめぐって対話する能力によって、他者と共に課題を発見し、「わたしたち」を主語とする探究に向かうことができる。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	哲学思想についての事前知識は必要ありません。哲学対話のグループワークを通じて、他者と共に考える自由な場の楽しさと大切さを学んでください。授業外学習については、プリント課題（ワークシート）を渡しますので、これをもとに各自行ってください。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	哲学対話のグループワーク（哲学プラクティス）を実施する。1グループ4名程度（毎回ランダムでメンバー選出）、ことがらの本質をめぐっての対話を実践する。対話実践のルールは指示するが、ファシリテーション（司会進行）はグループごとに学生1名が行う。対話のプロセスについて学生はワークシートにまとめ、反省点や独自の見解について報告する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生命倫理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 丹史	指定なし

授業概要(教育目的)	20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. 医療倫理及び環境倫理の基本問題について知識を獲得する。
思考・判断の観点(K)	1. 授業で獲得した知識を使って、主体的に自分で生命倫理に関する思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	バイオエシックス・生命倫理がどのような意味なのかを検討する。	シラバスの熟読、ノートの準備	120分
第2回	アメリカにおける生命倫理の登場(1)	アメリカにおける人体実験の事件がどのようにしてバイオエシックス(生命倫理)の登場の契機になったのかを考察する。	アメリカでどのような人体実験の事件があったのかを調べる。	120分
第3回	アメリカにおける生命倫理の登場(2)	アメリカにおいて原則主義という考え方がどのように出てきたのかを検討する。	原則主義とはどのようなものを調べる。	120分
第4回	安楽死・尊厳死(アメリカの議論)	アメリカにおける安楽死・尊厳死に関する裁判例を検討する。	アメリカでどのような安楽死・尊厳死に関する事件があったのかを調べる。	120分

第5回	安楽死・尊厳死（日本の議論）	日本において安楽死・尊厳死に関してどのような事件があったのかを検討する。	日本における安楽死・尊厳死に関する事件について調べる。	120分
第6回	臓器移植（臓器移植法の成立）	臓器移植法の成立までの議論の過程について検討する。	旧臓器移植法の特徴について調べる	120分
第7回	臓器移植（臓器移植法の改正）	臓器移植法の改正までの過程でどのような議論があったのかを検討する。	改正臓器移植法の特徴について調べる。	120分
第8回	生殖技術（産まないための技術）	避妊と人工妊娠中絶の倫理問題について検討する。	母体保護法について調べる。	120分
第9回	生殖技術（産むための技術）	現在における生殖補助医療に関する議論を考察する。	生殖補助医療にどのような技術があるのかを調べる。	120分
第10回	生殖技術（診断技術）	出生前診断をめぐる倫理問題を検討する。	出生前診断にどのような技術があるかを調べる。	120分
第11回	再生医療（クローン）	生殖クローニングと治療目的クローニングをめぐる議論について考察する。	ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律について調べる。	120分
第12回	再生医療（iPS細胞）	iPS細胞をめぐる倫理問題を検討する。	iPS細胞がどのようなものかを調べる。	120分
第13回	環境倫理（環境倫理学概論）	環境倫理学の基本的な視点を検討する。	世代間倫理とはどのような考え方を調べる。	120分
第14回	環境倫理（水俣病）	水俣病の歴史的な過程について考察する。	胎児性水俣病について調べる。	120分
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめを行い、倫理委員会についても検討する。	倫理委員会とは何かについて調べる。	120分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	授業は板書を中心に行う。質問は教室あるいは講師控室で受け付ける。
---------------	----------------------------------

評価方法	期末レポートによって授業内容の理解度、思考力を見る。
------	----------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○		

評価割合	期末レポート(100%)で評価する。
------	--------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	適宜授業中に指示します。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 医療問題や環境問題を通して、社会に多様な見解があることを理解している。 【思考・判断】 授業で獲得した知識に基づき、論理的に思考する力を身に付けている。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	自ら主体的に考えるという姿勢を持つこと。また他の受講生に配慮した受講態度を取ること。
-----------	--------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要 (教育目的)

心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、研究方法から心の在りか、心の働き、心の発達、そして最後に自己について学ぶ。
本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	心理学とは何か?	心理学というと一般の人にはカウンセリングや心理テストが思い浮かぶが、学問としての心理学はそれだけではないということを学ぶ。	予習：心理学について自分がどんなイメージを持っているか考える。 復習：授業を通して心理学についてのイメージがどのように変わったか確認する。	60分
第2回	心理学の歴史	心理学の歴史について学ぶ。	予習：ギリシャ哲学を思い出す。 復習：キーワード (タブララサなど) の確認。	60分
第3回	心理学の研究手法	心理学の主な研究方法について学ぶ。	予習：自分だったらどうやって心理を研究するか考えてくる。 復習：キーワード (質問紙法など) の確認。	60分
第4回	心の在りか ①脳と心	脳と心の関係について学ぶ。	予習：脳について知っていることを書き出す。	60分

			復習：キーワード（前頭葉など）の確認。	
第5回	心の在りか②からだと心	からだと心の関係について学ぶ。	予習：からだと心の関係について自覚していることを書いてくる。 復習：キーワード（交感神経など）の確認。	60分
第6回	心の働き①学習	レスポナント条件づけとオペラント条件づけについて学ぶ。	予習：パブロフの条件づけについて調べる。 復習：キーワード（条件づけなど）の確認。	60分
第7回	心の働き②記憶	短期記憶、長期記憶や記憶の仕組み（記銘、保持、検索）について学ぶ。	予習：10円玉の大きさと模様をを実物を見ずに書いてくる。 復習：キーワード（長期記憶など）の確認。	60分
第8回	心の働き③思考と言語	思考と言語について、具体的な問題を取り上げる。	予習：流行語を書いてくる。 復習：キーワード（4枚カード問題など）の確認。	60分
第9回	心の働き④動機づけ	内発的動機づけ、外発的動機づけについて学ぶ。	予習：どのような時にやる気が出るか考えてくる。 復習：キーワード（内発的どうきづけなど）の確認。	60分
第10回	心の働き⑤性格①	類型論、特性論について学ぶ。	予習：自分の性格についてどのように他者に説明できるか考えてくる。 復習：キーワード（類型論など）の確認。	60分
第11回	心の働き⑥性格②	性格検査について学ぶ。	予習：不要。 復習：検査結果のまとめ。キーワード（投影法など）の確認。	60分
第12回	心の発達①児童期までの発達	ピアジェの認知発達論などを学ぶ。	予習：子供の頃に持っていた素朴な考えを思い出す。 復習：キーワード（前操作期など）の確認。	60分
第13回	心の発達②青年期の心	青年期に特有の心の問題（アイデンティティ、恋愛心理など）について学ぶ。	予習：「私は」ではじまる文章を10文書いてくる。 復習：キーワード（アイデンティティなど）の確認。	60分
第14回	心の発達③成人期以降の発達	成人期以降の発達（中年期危機など）について学ぶ。	予習：成人した後、どのような心の変化があるか、想像する。 復習：キーワード（中年期危機など）の確認。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだことを確認する。	予習：これまで学んだことを確認する。 復習：これまで学んだことを確認する。	60分

評価方法

平常点（30%）、定期試験（70%）で評価する。（平常点は授業への参加状況、課題への取り組み状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合

平常点（30%）、定期試験（70%）で評価する。（平常点は授業への参加状況、課題への取り組み状況等で総合的に判断する）

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

参考図書

参考文献については授業内で適宜伝える。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断

	して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力	
オフィスアワー	月曜昼休み、火曜3限	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことや興味のあることは、調べてみてください。 ・課題があるときは課題に取り組んでください。 	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、心理学の基礎、人の発達について学ぶ。本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 心理学とはいかなる歴史を持ち、どのようなことを明らかにできる学問なのかを説明することができる。 2. 基礎心理学、特に認知や行動に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動に関して、心理学aで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学とは—	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の位置づけに基づいたスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	心理学の歴史 (1)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	180分
第3回	心理学の歴史 (2)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	180分

第4回	感覚と知覚の心理学	感覚と知覚と認知の違いを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	知覚の応用	日常生活において、知覚の心理学が使われている場面を知り、心理学と生活とのつながりのうち、1つの側面を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	記憶と忘却	記憶と忘却の仕組みを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自分の記憶と忘却の「癖」について考える。	180分
第7回	人間と動物との違い (1) 社会的隔離児、野生児	社会的隔離児と野生児についての「物語」を知り、そのような「物語」の存在が心理学や現在のくらしに意味することを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	人間と動物との違い (2) 行動が形成されるための要因	人間と人間以外の動物の双方の行動について、その背景にある要因を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 普段何気なく取っている行動について、その要因を考えてみる。	180分
第9回	人間と動物との違い (3) 人間の行動様式の特徴	人間の行動様式のうち、特に他の動物と異なる行動の仕組みについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (1) 脳と心と身体の関係、大脳の発達と進化	人の行動が生じる背景を、脳の機能の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (2) 欲求と行動	人の行動が生じる背景を、欲求の理論全般から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (3) 欲求の発達	人の行動が生じる背景を、欲求の発達の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動 (1) 喜怒哀楽、情動による行動の支配	感情と情動のそれぞれの意味を理解し、人の行動と喜怒哀楽の関係を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動 (2) 状況の認知と行動	主観的な経験と生理的変化と行動のつながりについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	人の行動はなぜ生じるのか～学習	行動の背景にある学習理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法

1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。
2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックする。

	クした後、返却する。				
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	自己チェック	○		○	
	出席カード		○	○	○
	最終試験	○	○		
評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。				
参考図書	授業の中で紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>				
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限（千代田三番町キャンパス1805室）				
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)

心理学は「こころ」について理解し、支援するための学問です。心理学は大きく分けて、基礎領域と応用領域があります。「心理学b」では主に応用領域（社会、臨床など）をとりあげます。そして、心理学の基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活とのつながりを考えます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の予定や受講にあたっての注意事項等について説明を受ける。	予習：なし。 復習：受講にあたっての注意事項等について確認する。	60分
第2回	社会①：社会的認知	印象形成やスキーマについて学ぶ。	予習：人の印象が何で決まるか考えてくる。 復習：キーワード（印象形成など）について確認する。	60分
第3回	社会②：自己過程	自己開示と自己呈示の違いについて学ぶ。	予習：素の自分とSNSでの自分の違いについて考えてくる。 復習：キーワード（自己開示など）について確認する。	60分
第4回	社会③：態度と説得	態度変容と説得技法について学ぶ。	予習：どのような時に自分の態度が変わるか（説得されるか）考えてくる。 復習：キーワード（説得技法など）について確認する。	60分
第5回	社会④：社会的影響	アッシュの実験などについて学ぶ。	予習：どのような時に「空気を読む」か考えてくる。	60分

			復習：キーワード（アッシュの実験など）について確認する。	
第6回	社会⑤：対人関係	対人魅力に与える要因について学ぶ。	予習：自分が魅力的だと思う人（同性異性問わない）の特徴を挙げる。 復習：キーワード（吊橋実験など）について確認する。	60分
第7回	臨床①：精神分析	精神分析と精神分析的な心理療法の違いについて学ぶ。	予習：自分が好きな芸術作品について深く掘り下げて魅力を説明する。 復習：キーワード（転移など）について確認する。	60分
第8回	臨床②：認知行動療法	認知行動療法について学ぶ。	予習：人に話しても差し支えない程度のストレスイベントを書いてくる。 復習：キーワード（コラム法など）について確認する。	60分
第9回	臨床③：クライアント中心療法	クライアント中心療法について学ぶ。	予習：どんな人がカウンセラーに向いているか考えてくる。 復習：キーワード（自己一致など）について確認する。	60分
第10回	臨床④：心理検査	心理検査を受けて自分で所見を書いてみる。	予習：なし。 復習：所見を書き上げる。キーワード（ラポールなど）について確認する。	60分
第11回	応用①：行動経済学	行動経済学について学ぶ。	予習：ものを買いたくなる時の状況を振り返る。 復習：キーワード（身体化された認知など）について確認する。	60分
第12回	応用②：ポジティブ心理学	ポジティブ心理学について学ぶ。	予習：自分が夢中になれるものや夢中になっている時の特徴について書いてくる。 復習：キーワード（フロー理論など）について確認する。	60分
第13回	応用③：恋愛	恋愛について心理学で研究されていることについて学ぶ。	予習：好きな人（俳優でもよい）について思い浮かべる。 復習：キーワード（返報性など）について確認する。	60分
第14回	応用④：犯罪	犯罪について心理学で研究されていることについて学ぶ。	予習：最近起きた事件について、犯行の動機を推測する。 復習：キーワード（プロファイリングなど）について確認する。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだことを確認する。	予習：これまで学んだことを確認する。 復習：これまで学んだことを確認する。	60分

学生へのフィードバック方法	授業にて解説。			
評価方法	平常点30%、レポート30%、試験40% (平常点はコメント等の授業への参加度から評価します)			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
試験	○	○	○	○
評価割合	平常点30%、レポート30%、試験40% (平常点はコメント等の授業への参加度から評価します)			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しません。			

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>
オフィスアワー	月曜昼休み、火曜3限
学生へのメッセージ	心理学は日常生活とつながりが深い学問です。 身近に感じたこと興味を持ったことについて予習・復習をして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要 (教育目的)	心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、これまで蓄積されてきた心理学の基礎的知見が、どのように現代社会において応用されているのか、心理学の応用的側面を学ぶ。応用場面として、コミュニケーション、家族、受講者自身を含む青年期、教育場面、心の支援方法、発達上の危機を取り上げる。その上で、問題に直面した際に解決方法として「自ら使える心理学」を修得することを目指す。
履修条件	特になし
学習目標 (到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 社会心理学等の応用心理学では、どのようなことを明らかにできるのかを説明することができる。 2. 応用心理学、特に対人関係に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動に関して、心理学bで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクションー応用心理学とは	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の中でも授業で取り扱う応用心理学について学び、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	コミュニケーションの心理学 (1) コミュニケーションの仕組み	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているか、その背景や関連する学問領域を併せて知る。	コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。	180分
第3回	コミュニケ	コミュニケーションの心理学のうち、認知的不協和理論	事前に配布された資料をよく読	180分

	ーションの心理学 (2) 認知的不協和	について学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、認知的不協和理論で説明できる日常生活の事象を考える。	
第4回	コミュニケーションの心理学 (3) 意思決定	意思決定の仕組みに関する理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、日頃、自身が行っている意思決定について考える。	180分
第5回	コミュニケーションの心理学 (4) 説得	説得の仕組みについて学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、日頃、自身が行っている、もしくは今後用いていきたい説得の手法について考える。	180分
第6回	個人と社会 (1) 「フツ ー・・・」 ——ステレオタイプ	ステレオタイプとは何かについて理解し、人間の行動や、そこから派生する対人関係の問題を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自身の日常生活上の疑問や問題を解決する方法を考える。	180分
第7回	個人と社会 (2) 自分 ってなに？ ——自己意識	自己意識について定義や理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	国際社会の問題と心理学	1. UNHCRによる難民に関する映画を視聴し、国際的な問題について理解する。 2. 国際社会における問題を理解するのに、心理学はどのように使うことができるのかを考える。	予習として、事前に配布された資料をよく読み、難民問題について情報を得る。加えて、疑問点を明確にし、事前に与えられた課題を解決するための情報を映画から得られるように準備する。 復習として、映画で明らかになった問題について、これまでの回で得た知識を基に、心理学的な観点から自分の考えや解決策をまとめる。	180分
第9回	個人と社会 (3) 「みんな違う」 はパーソナリティ	パーソナリティの理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、第7回目の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	個人と社会 (4) 「あの人、ステキ」 の心——対人魅力	対人魅力の理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	個人と社会 (5) 人を 助ける心理学——援助行動	援助行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	個人と社会 (6) いじわる?? ——非援助の行動と攻撃行動	日援助の行動と攻撃行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	個人と社会 (7) 「みんな」 って誰? 何? ——グループダイナミクス	集団の定義やグループダイナミクスについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	個人と社会 (8) 「みんな」 って誰? 何? ——リーダーシップ	リーダーシップ理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

第15回	豊かなくらしと心理学	これまでの内容を概観し、日常生活の中の問題を、どのように心理学の知見が説明、解決することができるのかを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	これまでに配布された資料や自己チェックの結果をふりかえり、興味をもった点、疑問に感じた点を明らかにしておく。	180分	
学習計画注記		講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。			
学生へのフィードバック方法		1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。			
評価方法		最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	自己チェック	○		○	
	出席カード		○	○	○
	最終試験	○	○		
評価割合		最終試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%			
使用教科書名 (ISBN番号)		特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。			
参考図書		授業の中で紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。			
オフィスアワー		会議のない木曜日、金曜日の3、4限（千代田三番町キャンパス1805室）			
学生へのメッセージ		教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 嶽本 新奈	指定なし

授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダー論の基礎をマスターする 2. 社会現象をジェンダー視点から批判的に捉えることができるようになる 3. 問題が生まれる社会的・構造的背景を理解し、問題解決の方策を考えることができる 4. 反対説を踏まえ、自説を説得的に文章、口頭で論じることができるようになる 										
履修条件	特になし										
学習目標(到達目標)	<p>学習目標(到達目標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>ジェンダー論の基礎を学び、社会現象をジェンダーの視点から理解できるようになる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>ジェンダー的思考を身につけ、批判的観点でもって現在の社会を評価できるようになる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>社会におけるジェンダー問題に対して主体的に関心を示せるようになる。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>身近で具体的な諸問題をジェンダーの視点から言語化できるようになる。</td> </tr> </tbody> </table>			知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論の基礎を学び、社会現象をジェンダーの視点から理解できるようになる。	思考・判断の観点 (K)	ジェンダー的思考を身につけ、批判的観点でもって現在の社会を評価できるようになる。	関心・意欲・態度の観点 (V)	社会におけるジェンダー問題に対して主体的に関心を示せるようになる。	技術・表現の観点 (A)	身近で具体的な諸問題をジェンダーの視点から言語化できるようになる。
知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論の基礎を学び、社会現象をジェンダーの視点から理解できるようになる。										
思考・判断の観点 (K)	ジェンダー的思考を身につけ、批判的観点でもって現在の社会を評価できるようになる。										
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会におけるジェンダー問題に対して主体的に関心を示せるようになる。										
技術・表現の観点 (A)	身近で具体的な諸問題をジェンダーの視点から言語化できるようになる。										

学習計画

ジェンダー論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や評価などを含めてガイダンスを行います。	シラバスで挙げた参考図書を事前に読んでおくこと	120分
第2回	ジェンダーとはなにか	ジェンダー概念や歴史について学ぶ	参考図書の該当部分を事前に予習しておくこと。	120分
第3回	女性参政権の歴史	女性参政権に関する動画を見て、歴史とその意義を学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第4回	家族とジェンダー	近代家族の成り立ちと性別役割分業について学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第5回	労働とジェンダー	労働におけるジェンダーの問題を性差と賃金の側面から学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前	120分

	(1) 性差と賃金格差		回の授業の内容を復習しておくこと。	
第6回	労働とジェンダー (2) 労働の現場とハラスメント	労働現場で問題になるハラスメントについて学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第7回	労働とジェンダー (3) 無償労働とケアワーク	労働とジェンダーの問題を考える際に切り離せない無償労働とケアワークについて学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第8回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 自己決定権とフェミニズム	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と歴史を学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第9回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権/自己責任化	性と生殖における自己決定権を求めてきたフェミニズムの運動をおさえたうえで、現在の新自由主義の流れのなかで自己責任化へと横滑りしている状況を学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第10回	身体とジェンダー (1) 性売買と性暴力	性売買と性暴力についてその理解と、ジェンダーバイアスについて学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第11回	身体とジェンダー (2) セクシュアリティとジェンダー・アイデンティティ	セクシュアリティという言葉の意味とジェンダー・アイデンティティについて、特に差別の観点から学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第12回	セクシュアル・マイノリティ (1)	セクシュアル・マイノリティを身近な問題として理解するために動画を観て学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第13回	セクシュアル・マイノリティ (2)	セクシュアル・マイノリティの問題は単なるジェンダー・アイデンティティとしての単純な問題ではなく、これまで学んできた他の社会的諸要素とも結びついていることを学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第14回	フェミニズムとジェンダー	フェミニズムの歴史と問題意識をおさえて、現在のジェンダー問題について学ぶ	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	これまでの授業の理解を確認するためのテスト	これまでの授業内容を復習して確認テストに備えておくこと。	240分

学習計画注記

授業の中でディスカッションをしたり、質問を投げかけたりしますので、受け身でただ聞いているのではなく、授業への積極的な参加姿勢を求めます。また、授業を聞いていて疑問に思ったことなどは遠慮せずに質問してください。

学生へのフィードバック方法

毎回授業の最後にレスポンスペーパーを書いて提出してもらい、次回の授業冒頭でレスポンスペーパーへのフィードバックを行います。

評価方法

平常点で40%、定期試験で60%の割合で点数をつけます。平常点はレスポンスペーパーの内容と、毎回の授業態度で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合	定期試験60%、授業への参加度・理解度(40%) 毎回、授業の最後にレスポンスカードを提出してもらいます。			
使用教科書名(ISBN番号)	なし			
参考図書	加藤秀一『はじめてのジェンダー論』(有斐閣ストゥディア、2017) 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』(有斐閣、2013年)ほか			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、現状の問題を的確に判断できる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】社会を構成するひとりとして、高い徳性をもって人々に寄り添う能力を身につけている。 【技能・表現】授業で学んだ知識と情報によって社会を分析し、的確に表現できる能力を身につけている。			
学生へのメッセージ	各回の授業に出席する際に、指定された資料を熟読しておくこと。また、ジェンダーに関する時事問題に関心を持ち、日々の新聞やテレビ報道などに接しておくことが望ましい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木 亜矢子	指定なし

授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダー論の基礎をマスターする 2. 社会現象をジェンダー視点から批判的に捉えることができるようになる 3. 問題が生まれる社会的・構造的背景を理解し、問題解決の方策を考えることができる 4. 反対説を踏まえ、自説を説得的に文章、口頭で論じることができるようになる
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論、ジェンダー法学に関する基礎知識を身に付け、それらについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な社会問題をジェンダー視点に基づき分析・批判することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持ち、自分の考えを積極的に発言することができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを論理的に口頭および文章で説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	今後の授業のスケジュールと内容について		90分
第2回	ジェンダーとは①—性別を捉え直す	「性別」は男/女だけなのか。この振り分けはどのように行われているのか、検討する。	教科書第1章Unit 1、2 を読んでおくこと。	90分
第3回	ジェンダーとは②—性別役割・セクシュアリティ	性別役割の妥当性、セクシュアリティの多様性について学ぶ。	教科書第1章Unit 3 を読んでおくこと。	90分
第4回	ジェンダーとは③—女子教育の歴史と現状	女子教育はどのように進展し、教育における男女平等がどの程度進んでいるのか、検討する。	教科書第4章Unit 1 1、1 2 を読んでおくこと。	90分

第5回	フェミニズムとジェンダー	ジェンダーという概念が生まれたフェミニズム運動の歴史を概観する。	教科書第8章を読んでおくこと。	90分
第6回	恋愛とジェンダー—ロマンチック・ラブ・イデオロギー—近代家族／主婦	ロマンチック・ラブ・イデオロギーとは何か、近代家族の変遷と問題点について学ぶ。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第7回	結婚とジェンダー—結婚制度／戸籍／夫婦別姓	日本の結婚制度について、諸外国との比較、ジェンダー視点をを用いて分析する。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第8回	家族とジェンダー—性別役割分業／法律婚・事実婚／婚外子	日本の家族制度の歴史と現状について、諸外国と比較し、ジェンダー視点をを用いて分析する。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第9回	労働とジェンダー①—女性労働裁判の歴史と男女雇用機会均等法	女性労働裁判の歴史を概観し、男女雇用機会均等法がどのような経緯で成立したのかを学ぶ。	教科書第3章Unit 7, 8 を読んでおくこと。	90分
第10回	労働とジェンダー②—〈男社会〉と女子のキャリア	男女雇用機会均等法以後、現在の女性のキャリア形成における問題点を学ぶ。	教科書第3章Unit 9, 10 を読んでおくこと。	90分
第11回	法教育①—昔話法廷	ジェンダー法学の基礎を学ぶため、昔話法廷を教材とし、法学の基礎と論理的思考力を養う。	事前に配布する予習資料を熟読すること。	90分
第12回	法教育②—離婚調停	ジェンダー法学の基礎を学ぶ一環として、離婚調停を疑似体験することで、離婚制度について理解を深める。	事前に配布する予習資料を熟読すること。	90分
第13回	国家とジェンダー①—ジェンダー主流化と男女共同参画	ジェンダー主流化の変遷と、男女共同参画社会／基本法について学ぶ。	教科書第6章Unit 18, 19 を読んでおくこと。	90分
第14回	国家とジェンダー②—女性の人権と女性差別撤廃条約	国際的に女性の人権がどのように保護されてきたのか、その歴史と現状について学ぶ。	教科書第6章Unit 16, 17 を読んでおくこと。	90分
第15回	授業総括	15回の授業を通して学んだことを総括し、質疑応答を通して、本授業で学んだことの理解の定着を図る。	これまで学んだことを復習し、疑問点をまとめ、授業に臨むこと。	90分

学習計画注記	※履修者数、授業の進度や学生の理解の程度により、授業内容やスケジュールが変更になる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	授業後に回収するコメントペーパーについて、次回講義内でフィードバックする。質問がある場合は、授業の前夜又はコメントペーパーに記入すること。
評価方法	受講者数により、レポート課題、または小テストを2～4回実施する。試験範囲や詳細については、授業にて告知する。定期試験は100点満点で出題し、15回の授業で学んだことを総合的に問う内容とする。選択式／記述式問題を出題し、表現力、論理的思考力、知識の定着を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート課題	○	○		○
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		○

評価割合	レポート／小テスト（５０％）、定期試験（５０％）	
使用教科書名 (ISBN番号)	千田有紀・中西祐子・青山薫 『ジェンダー論をつかむ』 有斐閣	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ジェンダーの基礎理論を理解し、人に説明できるだけの知識を有している。 【思考・判断】様々な社会現象をジェンダー視点によりその問題点を判断し、論理的に説明できる能力を身に付けている。	
学生へのメッセージ	ジェンダー理論を通して、社会における女性の立場を理解し、これからの皆さんの人生、キャリア形成に役立ててください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
教授	廣江 彰	指定なし
助教	朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)

「東京家政学院を学ぶ」は、受講生が本学の理念を、創設者である大江スミの想いと行動に即してその時代ので理解することを主眼とする。また、現代における本学理念の再評価を受講生一人ひとりが行い、講義を通し自分の生き方と重ね合わせるために必要な情報と動機とを体得する機会にする。さらに、大江スミがイギリスから帰国後、日本で本格的に実践した家政学とは何かを知り、家政学を構成する個々の専門領域を受講生が学中に学ぶ意義を理解する。全体を通じて、大江スミが大きな影響を受けたイギリスという国家と国民、イギリスの教育についても知見を得たい。(キーワード：大江スミ、家政学、イギリス)

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	本学の理念や創設者大江スミの女子教育(家政学)について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	大江スミの想いと行動およびその当時の時代背景から、自分の生き方と重ね合わせて本学で学ぶ意義を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	トピック1:美しい「かたち」	挨拶とは、作法とは、という奥深さから大江家政学を体得する。特別講師:小川美子(礼法)	創立者大江スミ 学校法人東京家政学院 東京家政学院大学のホームページから大江スミについて読んでおくこと。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/houjin/founder/	180分
第2回	大江家政学と「衣」の世界	大江スミの留学前後のファッションから女子教育として伝えたいことを学ぶ。また、20世紀のイギリスのファッションの行方や大学に制服が存在したことなどにも触れる。富田弘美(本学生活デザイン学科准教授)	東京家政学院大学付属図書館のホームページから大江文庫の概略を確認しておくこと。 http://www.kasei-gakuin.ac.jp/library/ooe.htm	180分
第3回	東京家政学院大学学びの特徴—家政学をどのように学ぶか—	「家政学」について、現代もしくは将来にかけて学ぶ価値を考える。「暮らすこと」、「食べること」、「育てること」の各領域と「家政学」との関連について、「いのちをつなぐ」勉強をみなさんが大学で行う、という視点から検討してみたい。廣江彰(本学学長)	①みなさんが考える「家政学」とは何か、②自分が大学で学ぶ領域(たとえば保育学など)と①で示した家政学との関連はどのようなことか、を200字程度にまとめたメモを持参して出席しなさい。当日教室でこのメモを提出用紙に記入させます。	180分

第4回	トピック 2：博物館 は面白い	本学生活博物館の所蔵物に触れ、大江スミの「こだわり」を知る。川本利恵（本学生活文化博物館）（富田弘美・朝倉和子）	東京家政学院大学生生活博物館のホームページから博物館の概略を調べ、授業の前後には博物館を見学すること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/museum.html	180分
第5回	大江家政学が伝えること	本学家政学は「ほんもの」主義。図書館で江戸の著作物に触れ、大江家政学が伝えることを体感する。特別講師 関原暁子（元本学図書館事務部長）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第2章とげのある身（pp.16～29）を読んでおくこと。	180分
第6回	家政学と女性（1）女子教育と家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的立場づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。特別講師 石渡尊子（桜美林大学教授）	配布した課題作成し、持参すること。	180分
第7回	大江スミ―人時代1―	生い立ちから本学設立まで、成長の過程と教育理念形成を追う。特別講師：澤田佳与子（本学卒業生、草月流本部講師）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第3章出会いの時（pp.30～45）を読んでおくこと	180分
第8回	トピック 3：イギリスは面白い	大江スミ先生がイギリスに留学していた当時を振り返りながら、イギリスの文化政策の変遷、日本の文化政策を比較し、広い社会の中における文化芸術のあり方について考える。特別講師 岩坂未佳（文筆家）	①大江スミが留学時代のイギリスについて、あなたにとって関心があることを3つ、②現代イギリスについて3つ、調べておきなさい。いずれも理由を説明できるように。「なし」はなしです。	180分
第9回	大江スミ―人時代2―	学校設立から大江先生の終焉を把握する。特別講師 澤田佳与子（本学卒業生、草月流本部講師）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第4章新しき旅立ち（pp.46～69）を読んでおくこと。	180分
第10回	大江スミ―人時代3―	戦後から現在への学院の発展を考える。特別講師 澤田佳与子（本学卒業生、草月流本部講師）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第5章妻たるものの責務（pp.70～91）を読んでおくこと。	180分
第11回	大江家政学の「住」の世界	大江スミ先生が重要視されていた公衆衛生と住教育のつながり、その教育を受けた卒業生の活躍、そして現在取得できる資格や教育内容の変遷について講義する。深石圭子（本学生活デザイン学科助教）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第6章徳・智・技の世界（pp.92～120）を読んでおくこと。	180分
第12回	家政学と女性（2）東京家政学院から見る家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的立場づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。特別講師 石渡尊子（桜美林大学教授）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」を読んでおくこと。5/22の課題および「ひとひらの雪として」を持参すること。	180分
第13回	大江家政学と「人」の世界	大江スミ先生が英国留学と同時期に、イギリスではBooth, Cによるロンドンの貧困調査が発表された。人が置かれている状況を客観的に把握する視点は、大江家政学にも繋がる。自分自身を含め、人とその社会・環境の在り方について振り返ってみよう。朝倉和子（本学人間福祉学科助教）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第7章山にむかいて（pp.121～132）を読んでおくこと。	180分
第14回	大江家政学と「子ども」の世界	大江スミ先生が学んだ1900年ごろの「イギリス」では、まだ「子ども」の育つ場についての研究が始まったばかりでした。現在、「イギリス」も「日本」も子どもを取り巻く環境が大きく変化し、様々に検討が重ねられ、保育・子育て支援が展開しています。「イギリス」「日本」両国における保育・子育ての実際を学び、「子ども」の世界を考えていきます。田尻さやか（本学児童学科助教）	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」の第8章地の塩世の光（pp.133～142）を読んでおくこと。	180分
第15回	東京家政学院大学という大学	本学と家政学の起点を大江スミの1902年イギリス「官費留学」に求め、イギリスと日本という二つの国家、百余年という時空を超え「東京家政学院とは何か」を考える。廣江彰（本学学長）	「東京家政学院を学ぶ」では配布された資料や返却されたリアクションペーパーを全てひとつのファイルにまとめて、第15回の講義に必ず持参すること。また、事前に全て眼を通して出席すること。	180分

学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメント			
評価方法	平常点80%、リアクション・ペーパー20%			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

	リアクションペーパー	○	○		
	平常点			○	
評価割合	平常点80%、リアクションペーパー20%とする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリント配付				
参考図書	「ひとひらの雪として―大江スミ先生の生涯―」（入学時に配布）				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を確に判断して提案できる能力				
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00（富田 1405研究室） 水曜日3限（朝倉 実習指導室 管理棟4階K411-1）				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず授業の予習・復習をしてください。 ・本学教員の講義終了時には、リアクション・ペーパーを提出してください。（リアクション・ペーパーとは、講師の狙いを学生が受け止めているか、更なる学習意欲が喚起されたかなどを簡潔に確認するものです。） ・特別講師のため、授業内容に関する質問は授業中および終了後の対応になりますが、授業内容以外の質問等は、担当教員までお問い合わせください。 ・講義テーマが変更する場合がありますがご了承ください。 				
教育等の取組み状況					
		該当有 無	概要		
	実務経験を活かした授業				
	アクティブ・ラーニング				
	情報リテラシー教育				
	ICT活用				

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
教授	佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

東京家政学院の沿革、創立者大江スミの信念・理想、大江家政学の特徴、建学の精神である「KVA精神」、教育史および家政学史上における本学院の意義などを学ぶことを通じて、本学院を深く理解するとともに、そこに学ぶ学生としての自信と誇りを持ち、学び豊かな充実した学生生活を送るための基盤を形成する。あわせて、建学の精神を継承し、それを具現化していくことによって、よりよい生活を創り上げていこうとする姿勢を養うことをめざす。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション「学び」をめぐって	授業担当者より授業に向けての授業をする上での方針を理解し、「学ぶ」ということの本質について考える。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』発刊のことば・執筆によせてを読む。	180分
第2回	家政学と現代生活学	本学院の歴史、設立のKVAスピリットが、個人の生活の質を人間の尊厳を重視する総合的実践科学「家政学・現代生活学」へつなげた経緯を理解する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』1章・2章を読む。	180分
第3回	本学創立者大江スミの生涯	本学院理事長による創立者大江スミの生涯についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』1章・2章を読む。	180分

第4回	東京家政学院の創生と創業の地三番町	本学院理事長による学院設立の経緯と創業の地三番町についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』8章を読む。	180分
第5回	東京家政学院大学の理念	本学での学びの理念について、学長による講義。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第6回	東京家政学院大学学びの特長	本学の学びの特長について、学長による講義。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第7回	大江スミ先生の英国留学	大江スミ先生の英国留学について、その背景と意義を光塩会会長永山スミ先生が講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第8回	進路を考える(1)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第9回	進路を考える(2)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第10回	女性史の中の東京家政学院(1)	江戸末期から明治期における女性の生き方(教養と文化)を通して東京家政学院の設立の意義を語る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第5章を読む。	180分
第11回	女性史の中の東京家政学院(2)	大正期から昭和前期の女性の生き方(教養と文化)を通して、東京家政学院の果たした役割を語る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第5章を読む。	180分
第12回	東京家政学院の文化資源を活かす	東京家政学院大学附属図書館に架蔵されている、江戸期から昭和期までの衣食住・教育・風俗文化に関する資料である大江文庫を、学びにどのように活かすことが出来るか、講義する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第7章を読む。	180分
第13回	生活文化博物館活動	東京家政学院に設置されている生活文化博物館における収蔵品の、所蔵にかかわる経緯・背景を知ることにより、学びを広げる方法を知る。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第14回	東京家政学院と家政学	本学院で実践的総合科学である家政学・現代生活学を学ぶことで、暮らしを重視する生活者としての自分自身の成長可能性を発見していくか道筋を構想する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第6章を読む。	180分
第15回	まとめ～今後の生き方考える	本学院に関することを学ぶなかで、自分がどのような学びの道筋を描くことが出来たか、また、卒業後の進路選択において何を重視していくのか、自分の言葉で表すことによって、本授業を振り返る。	レスポンスシートをまとめ、教場レポート作成の準備をする。	180分

学習計画注記	校内特別授業講師の都合により、日程が変更となる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	専任教員の授業時に、学生が提出した既修のレスポンスシートを紹介し、振り返りを行う。				
評価方法	授業時には基本的にはレスポンスシートを配布し、それを回収する。これにより関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。教場レポートは、本授業を自らの体験として客観的に把握しているかという観点から評価する。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○		○	
	教場レポート		○		○
評価割合	平常点(授業時におけるレスポンスシートの提出を含む)30%、教場レポート70%				
使用教科書名 (ISBN番号)	入学時に配布された東京家政学院光塩会編 大濱徹也著『ひとひらの雪として～大江スミ先生の生涯』光塩会編集 (入学時に全員へ配布済み)				
参考図書	授業内で指示する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。 【思考・判断】他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。				

	【関心・意欲・態度】本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。 【技能・表現】自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。															
オフィスアワー	井上眞弓（水曜日2限）1807室・上村協子（火曜日4限）1805室・佐藤広美（水曜日3限）1804室															
学生へのメッセージ	社会制度や歴史の流れのなかで、大江スミ先生の提唱した家事学・家政学はどのようなものだったのかを理解し、自身の学びの方向について考える機会をもちましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要 (教育目的)	レポート・論文を作成する技術を習得させ、大学教育に対応していくための基礎力を育成することをめざす。具体的には、課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析する能力および情報や意見を分かりやすく正確に伝えられる日本語能力の養成を目的とする。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応していくための基礎力を身につけている。課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析することおよび情報や意見を分かりやすく正確に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45
第4回	D 報告書・レポートの表現	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。	45

第5回	E レポートの構成	レポートにおける文章の構成を考え、どのような順序で並べるのかを見ていく。	テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	図書館ガイダンス	本学の図書館とその資料について、基本的な利用方法などのガイダンスを受ける。	図書館の利用について復習すること。	45

学習計画注記	※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。				
学生へのフィードバック方法	課題は予定していない。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。 ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	定期試験	○			○
評価割合	平常点 (50%)、定期試験 (50%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編 (2019) 『平成31年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に無料で配付する。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】演習形式の具体的な作業で得た技術をもって課題に適したテーマを設定し、データを分析して意見をわかりやすく他者に伝える能力を身につけている。 				
オフィスアワー	金曜3限 1411研究室				
学生へのメッセージ	準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。				
教育等の取組み状況					
	該当	概要			

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用方法や資料の検索方法、レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

授業概要 (教育目的)	レポート・論文を作成する技術を習得させ、大学教育に対応していくための基礎力を育成することをめざす。具体的には、課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析する能力および情報や意見を分かりやすく正確に伝えられる日本語能力の養成を目的とする。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応していくための基礎力を身につけている。課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析することおよび情報や意見を分かりやすく正確に伝えることができる。

学習計画

リテラシー演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45
第4回	D 報告書・レポートの表現	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。	45

第5回	E レポートの構成	レポートにおける文章の構成を考え、どのような順序で並べるのかを見ていく。	テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	図書館ガイダンス	本学の図書館とその資料について、基本的な利用方法などのガイダンスを受ける。	図書館の利用について復習すること。	45

学習計画注記	※スケジュールは指定される教室により異なる。初回到大学生として身につけるべきことを確認する。また、複数の教員によるオムニバス形式の授業となる。				
学生へのフィードバック方法	課題は予定していない。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。 ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	定期試験	○			○
評価割合	平常点 (50%)、定期試験 (50%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編 (2019)『平成31年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に無料で配付する。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】演習形式の具体的な作業で得た技術をもって課題に適したテーマを設定し、データを分析して意見をわかりやすく他者に伝える能力を身につけている。 				
オフィスアワー	井上 眞弓 (千代田三番町キャンパス1807ゼミ室) 前期火曜日3限				
学生へのメッセージ	この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力や情報収集能力を高めてみましょう。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用方法や資料の検索方法、レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)	国際社会における円滑な英語コミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingに必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Unit 1の1. Introductory Readingを訳してこること。	60分
第2回	Unit:1 1. Introductory Readingの読解	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第3回	Unit:1 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。	60分
第4回	Unit:1 3. Listeningの音声を聞く	listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3. と4. の問題を解いてこること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてこること。	60分
第5回	Unit:1 3. Listeningの内容の確認	3. と4. の答え合わせと確認を行う。5. について練習を行う。	Unit 1で学んだことを基にActivity6で自分のことについて答える。	60分

第6回	自分のことについて表現する	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。	60分
第7回	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第8回	Unit:2 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第9回	Unit:2 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。	60分
第10回	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第11回	Unit:3 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第12回	Unit:3 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。	60分
第13回	自分のことについて発表する Unit:4 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping HabitsのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第14回	Unit:4 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第15回	Unit:4 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめること。 これまでの授業内容について総復習して確認すること。	480分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
評価方法	・各Unitの課題の発表ができていのかどうか確認する。 ・定期試験はIntroductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、管理栄養士として必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
オフィスアワー	水曜日4時限 1610研究室
学生へのメッセージ	授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、各ユニットのsceneより様々な表現を学ぶ。有用な表現を理解した上で、outputし、自然に使える英語を身に付けることを目的とする。
------------	---------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期授業ガイダンス	・成績評価、テキスト、授業の進め方、事前・事後学修について ・Classroom English	・Classroom Englishを覚える ・Unit1 P.2 Overviewを訳す	60分
第2回	Unit1 Arriving at the Hotel	・語句の確認 ・DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・発音練習	・Exercises1,2,3を解く(次回の授業時に答え合わせ)	120分
第3回	Unit1 Arriving at the Hotel	・Exercises1,2,3の答え合わせ ・Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・Exercises4,5,6,7を解く	・Unit1の見直し ・Unit2 P.8 Overviewを訳す	120分
第4回	Unit2 A Taxi Ride	・語句の確認 ・DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・発音練習	・Exercises1,2,3(次回の授業時に答え合わせ)	120分
第5回	Unit2 A Taxi Ride	・Exercises1,2,3の答え合わせ ・Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・Exercises4,5,6,7,8を解く	・Unit2の復習 ・Unit3 P.13 Overviewを訳す	120分
第6回	Unit3 Shakespeare's Globe Theatre	・語句の確認 ・DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・発音練習	・Exercises1,2,4を解く(次回の授業時に答え合わせ)	120分

第7回	Unit3 Shakespeare's Globe Theatre	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 2, 4の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises3, 5, 6, 7, 8を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit3の見直し ・ Unit4 P.19 Overviewを訳す 	120分
第8回	Unit4 A Cruise on the River Thames	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 3, 4（次回の授業時に答え合わせ） 	120分
第9回	Unit4 A Cruise on the River Thames	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 3, 4の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises2, 5, 6, 7を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit4の復習 ・ Unit5 P.24 Overviewを訳す 	120分
第10回	Unit5 Huungerford Bridge	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習 ・ Exercises1, 2, 3, 4, 5 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises6, 7を解く（次回の授業時に答え合わせ） 	120分
第11回	Unit6 The Imperial War Museum	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit5 Exercises6, 7の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 2, 3を解く（次回の授業時に答え合わせ） 	120分
第12回	Unit6 The Imperial Museum	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 2, 3の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises4, 5, 6, 7, 8を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit6の復習 ・ Unit7 P.35 Overviewを訳す 	120分
第13回	Unit7 The London Tube	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 2, 3を解く（次回の授業時に答え合わせ） 	120分
第14回	Unit7 The London Tube	<ul style="list-style-type: none"> ・ Exercises1, 2, 3の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises4, 5, 6, 7を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示されたGetting Informationを解く（次回の授業時に答え合わせ） 	180分
第15回	Review	<ul style="list-style-type: none"> ・ Getting Informationの答え合わせ ・ 定期試験範囲の総復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験に向け、復習を行う 	180分
第16回	定期試験	学習到達度の確認試験を行う	試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない） ・ 定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・ 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○		
平常点	○		○	
その他			○	

評価割合	小テスト・試験 60% 平常点（学習意欲、履修態度など） 20% その他（任意課題などの提出状況など） 20%
使用教科書名 (ISBN番号)	London Alive -Survival English-（朝日出版社）¥2,400（税抜） ISBN 978-4-255-15508-1
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。 【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。
学生へのメッセージ	授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、テキスト内のsubstitutionを行う。また、Dialogueを用いたロールプレイングも行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	海外研修（異文化理解）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	平成31年度の海外研修（異文化理解）では、オーストラリアのシドニーとキャンベラを訪問する。生活・文化・歴史をテーマとした視察研修だけでなく、現地で活躍する日本人女性や現地大学生との交流も行う。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	異文化について知識や情報を収集し、異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきかを的確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（異文化理解）

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前授業1	オーストラリアでの研修に関する事前授業を行う。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	60分
第2回	事前授業2	オーストラリアでの研修に関する事前授業を行う。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	60分
第3回	事前授業3	オーストラリアでの研修に関する事前授業を行う。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	60分
第4回	事前授業4	オーストラリアでの研修に関する事前授業を行う。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	60分
第5回	事前ガイダンス1	オーストラリアでの研修に関する事前ガイダンスを行う。	研修に必要な情報を確認する。	30分
第6回	事前ガイダ	オーストラリアでの研修に関する事前ガイダンスを行	研修に必要な情報を確認する。	30分

回数	研修日	研修内容	学習目標	評価
第7回	研修1日目	羽田空港に集合し、カンタス航空にてオーストラリア、シドニーに向かう。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	
第8回	研修2日目	シドニー市内研修、世界遺産オペラハウスの見学。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	
第9回	研修3日目	専用車で首都キャンベラに向かう。キャンベラではオーストラリア高等裁判所にて裁判制度について学び、実際の裁判を見学する。その後、オーストラリア連邦議会、戦争記念館、国立図書館、日本大使館などを見学する。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	
第10回	研修4日目	キャンベラ市内研修、その後シドニーへ移動。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	
第11回	研修5日目	シドニー工科大学訪問。現地大学生によるキャンパスツアーと大学生との交流。QVBIに移動して現地で働く日本人女性との茶話会を催す。	文献やインターネット等でオーストラリアについて学習しておく。	
第12回	研修6日目	シドニー郊外の19世紀の邸宅を訪問する。その後、ワトソンズ・ベイ～サーキュラーキー～シドニーハーバーへ移動し、Rocks地区を訪問する。カンタス航空にて羽田へ向かう。	海外研修（異文化理解）における自分の記録を整理しておく。	
第13回	研修7日目	羽田空港到着、入国手続きの後、レポート等の指示を受け解散する。	海外研修（異文化理解）における自分の記録を整理しておく。	
第14回	海外研修（異文化理解）についての考察	自分自身で海外研修（異文化理解）について考察を深める。	海外研修（異文化理解）における自分の記録を整理しておく。	120分
第15回	レポートの提出	海外研修（異文化理解）についての考察、自分自身の研修記録などに基づきレポートを作成し提出する。レポートの詳細は追って指示する。	海外研修（異文化理解）における自分の記録を整理しておく。	120分

学生へのフィードバック方法	異文化における研修、異文化の人々との交流、異文化に暮らす日本人との交流を通じて、体験的にフィードバックできる。
---------------	---------------------------------------------------------

評価方法	事前授業・事前ガイダンスへの出席、海外研修における主体的参加、帰国後のレポート提出により評価する。
------	---------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
事前授業・事前ガイダンス	○	○	○	○
海外研修	○	○	○	○
レポートの提出	○	○	○	○

評価割合	事前授業、事前ガイダンスへの出席20%、海外研修への参加40%、帰国後レポートの提出40%
------	-----------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】異文化について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	異文化を理解することで自分の所属する文化の本質が分かることがあります。海外研修を客観的に自分自身を考えるきっかけにしましょう。
-----------	-----------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流、異文化に暮らす日本人との交流を通じて異文化を体験・理解する。

情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	英会話集中講座		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	This three day intensive English course allows students to practice conversational English to gain confidence and ability. The goal of this class is to improve student fluency of English through practical situation role-playing, memorization, language games, and writing activities.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English Conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Meet the teacher and make name cards and meet first speaking partner with handout #1.	Students should prepare by reading handout #1: introduction, family members, work; Do you like music? Can you play an instrument?	60
第2回	Names and greetings; How to do a song presentation	Nice to meet you games and activities, such as Wink First, and Remember Names Circle. Group 1 song presentation.		
第3回	Movie	Watch a movie in English after dinner and bath. Titles to choose from include: Fantastic Beasts and Where to Find them; Remember Me, and other popular movies.		
第4回	Family	Handout #2 with new partner. Group 2 song presentation.	Students should prepare by reading handout #2: What's your favorite family restaurant? How come? How often do you watch movies?	60
第5回	Interesting Questions and class survey	Students conduct a class survey and find out what is particularly interesting about a randomly chosen classmate.		
第6回	Eye Contact	This activity shows students how to give a		

		presentation in a professional way, concentrating on making eye contact with everyone in the audience.		
第7回	Haiku Competition	Students create a haiku based on seasons, activities, and feelings. Most liked haiku (by votes) gets a prize.		
第8回	Talk about your character	Handout #3 with new partner. Group 3 song presentation.	Students should prepare by reading handout #3: Are you quiet or talkative? Shy or outgoing? Messy or neat? Do you like to play sports?	60
第9回	Listen up!	Double dictation and disappearing dialog games.		
第10回	Food	Handout #4 with a new partner. Group 4 song presentation.	Students should prepare by reading handout #4: What kind of food do you like? What's your favorite restaurant? Do you like to eat out?	60
第11回	Money Talks	This fun activity helps students practice numbers, big and small in a fun race to finish activity.		
第12回	Your star sign	Handout #5 with a new partner. Group 5 song presentation. Dinner then bath, movie.	Students should prepare by reading handout #5: What kind of work do you want to do in the future? Where do you want to work?	60
第13回	Steven meets a bully. What should he do?	Create a consistent narrative in English based upon a list of scrambled sentences and phrases.		
第14回	Fun final activities	How romantic are you game; Group 6 song presentation.		
第15回	Final Interview/Conversation	Students conduct a short interview with their partner to see how comfortable they are using English. Interview topics may cover the five conversations from the five camp handouts.	Review all five camp handouts to compose a natural English conversation interview with a partner.	60

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive feedback from in-class activities such as presentations and games, and final speaking interview.
評価方法	Students must participate for all hours that the camp is held in order to receive credit. Students must also take part actively in all speaking activities and games, and all writing activities, be prepared to share their thoughts and ideas in English with others.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○
Final interview	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Writing activities 20%; Final Interview 20%
使用教科書名 (ISBN番号)	none
参考図書	A Japanese -English dictionary
ディプロマポリシーとの関連	Ability to use English in a fluent and confident manner.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.
学生へのメッセージ	Please relax and enjoy English music, movies, games, and activities as much as possible

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		

ICT活用

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地域貢献活動		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)	国内外を問わず、学内の授業以外で行われたボランティア活動を通じて、当該地域に貢献した活動から自分を見直すこと。
------------	---------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉協議会や社会福祉法人などの情報をよく理解する必要がある。
思考・判断の観点 (K)	いつからどれくらいの期間でボランティア活動を実施できるか決定し計画しておく必要がある。
関心・意欲・態度の観点 (V)	どのような人々を援助したいのか。自分の気持ちを整理してボランティア先を決定すること。
技術・表現の観点 (A)	自分ができるボランティアは何か。自分が貢献できるスキルを自覚していること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	調査票、実習証明書用紙配布と実習の心構え、安全対策、保険加入などについて説明する。	自分にはどのようなボランティアが適しているか調査すること。	45
第2回	事前指導	ボランティアの内容、場所等について相談すること。	いつどこでボランティアを実施するのか。あらかじめ計画しておくこと。	45
第3回	実習先の選定	社会福祉協議会や社団法人について関連する団体を紹介する。	どのようなボランティアがあるか調査すること。	45
第4回	実習先の決定	期間・期日をマッチさせボランティア先を決定し計画を立てること。	ボランティア先が決定したら滞在期間、交通、自分の生活基盤を確認すること。	45
第5回	ボランティア保険加入	依頼状が必要かどうか実習先に確認する。ボランティア保険に加入する。	ボランティア保険について調査すること。	45
第6回	ボランティアの実施	ボランティア先と連絡調整の上ボランティア活動に参加する。	ボランティア先と自分の居住地の交通を確認すること。	45
第7回	記録する	ボランティア活動に参加して何を自覚したか記録・メモすること。	メモ用紙、筆記用具を準備し携帯する。	45
第8回	「地域貢献	活動終了時まで「地域貢献活動」記録カードへ実習担	ボランティア先の代表者にあら	45

	活動」記録カード	当者に捺印してもらう。	はじめ書類にサイン・または捺印してもらうことを依頼しておくこと。	
第9回	「地域貢献活動」レポート	活動中にメモしたことがらをもとに「地域貢献活動」レポートとして作成する。	レポート作成の手順を確認しておくこと。	45
第10回	終了報告	「地域貢献活動」記録カードとレポートをもとに大嶋に報告すること。	ネットや電話を利用してボランティア活動のはじめと終了を大嶋まで報告すること。	45
第11回	事後指導	ボランティア活動の報告に基づいてアドバイスする。	報告内容を簡潔にまとめておくこと。	45
第12回	書類の提出	「地域貢献活動」記録カードとレポートを後期試験期間中に提出する。	提出場所と提出期限を確認すること。	45

学生へのフィードバック方法 事前指導・事後指導による。

評価方法 オリエンテーション・説明会などの出席20%、実習後のレポート提出30%、実習証明書の提出30%、事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート			○	

評価割合 オリエンテーション・説明会などの態度20%、実習後のレポート提出30%、実習証明書の提出30%、事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する。

ディプロマポリシーとの関連 社会参加として、学生が社会と接する重要な手段としてボランティア活動を考えるとき、学生には予想以上の収穫がある。自分はどう見られているのか。自分にできることは何かを現場で直接求められるからである。学生にとって重要な社会貢献である。

オフィスアワー 金曜4限

学生へのメッセージ ボランティアセンターや地域のことにふれてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ボランティア先の現場でさまざまな経験ができること。協力者とともにネットワークをつくることもできる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Basic English 1 (月2)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ、に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々なことを知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活で使われる英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点獲得を目指すと同時に、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. ショッピング関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	At a Restaurant	1. レストラン関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. レストラン関連の文法学習(名詞の修飾) 3. レストラン関連の読解演習2種(ファーストフードの持つ問題、アメリカのレストランでのチップの適正な額)	語彙学習は本章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	1. At an Airport 2. Entertainment	1. 空港関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. 空港関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. もてなし関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 4. もてなし関連の文法学習(知覚動詞と使役動詞)	語彙学習は予習がしてあるとやりやすい。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Entertainment(続)	引越しパーティー関連の読解演習4種(準備する料理のこと、招待状の一例、出欠席のメール連絡、後日の謝礼メール)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	1. Hotel 2. Job Hunting	1. ホテル関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. ホテル関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 就職活動関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 4. 就職活動関連の文法学習(助動詞)	語彙学習は予習がしてあるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

		5. 就職活動関連の読解演習2種（就職率、面接試験受験のために準備すること）		
第6回	1. Telephoning 2. Negotiating	1. 電話関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 電話関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. 商業交渉に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. 商業交渉に関連する文法学習（現在完了）	語彙学習は予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第7回	1. Giving a Presentation 2. Appointments	1. プリゼン関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. プリゼン関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. 面会の約束関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. 面会の約束関連の文法学習（不定詞） 5. 面会の約束関連の読解演習2種（面会の約束を求める手紙、約束時刻への遅刻のメール連絡）	語彙学習は予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	At a Bank	1. 銀行関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 銀行関連の文法学習（仮定法過去） 3. 銀行関連の読解演習2種（銀行の歴史的起源、オンラインバンキングで重要なこと）	語彙学習は本章の予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	1. On the Street 2. Taking a Trip	1. 道路に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 道路に関連するリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. 旅行に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. 旅行に関連する文法学習（受動態）	語彙学習は本章の予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	Taking a Trip（続）	旅行に関連する読解演習3種（時差ぼけ対策、旅行日程の一例、旅行後の旅行代理店アンケートの記入例）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	1. Dealing with Troubles 2. Renting an Apartment	1. 様々なトラブル応対に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 様々なトラブル応対に関連するリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. アパート賃貸関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. アパート賃貸関連の文法学習（関係代名詞）	語彙学習は本章の予習がしてであるとしやすい。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	Renting an Apartment（続）	アパート賃貸関連の読解演習2種（アパートを借りる時のためのアドバイス、アパート賃貸広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	1. Meetings 2. Business Performance	1. 会議関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 会議関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. 営業成績に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. 営業成績に関連する文法学習（比較）	語彙学習は予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	Business Performance（続）	営業成績に関連する読解演習4種（商品の売れ行きについての社内報告、最優秀社員賞受賞決定を知らせるメール、授賞式についての連絡メール、同僚からの祝福のメール）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	1. Handling Customer Complaints 2. Advertising 3. Parties	1. 顧客からの苦情に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. 顧客からの苦情に関連するリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題） 3. 宣伝広告に関連する語彙学習（本章の内容の予備学習） 4. 宣伝広告に関連する文法学習（可算名詞、不可算名詞） 5. 宣伝広告に関連する読解演習（広告媒体の色々について） 6. パーティー関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 7. パーティー関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題）	語彙学習は予習がしてであるとやり易い。 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 授業毎回の小テストは採点してその次回の授業で返却する。

評価方法 毎回の小テストは、前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点して合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	小テストの合計90%、定期試験10%	
使用教科書名 (ISBN番号)	Raise Your Score 150 Plus on the ToEIC Test (松柏社、2016) 978-4-88198-716-2	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】 どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】 実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。	
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、4時間目	
学生へのメッセージ	ToEIC受験に役立つだけでなく、実用英語全般の勉強になります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要 (教育目的) 本授業では、発信に必要な基本的英語文法を学ぶ。具体的には名詞・代名詞・冠詞・動詞の使い方や疑問文・否定文の作り方など、英語文法の基本を身につけ、英語で自分の考えを発信できるようになることを目指す。

履修条件 なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基本的な英語文法を習得する。
思考・判断の観点 (K)	日本語と英語の文法や文章の作り方の違いを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語を使って積極的に自分の考えを発信できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英語文法を利用して自分の考えを表現できる。

学習計画

Basic English 1

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	イントロダクション：日本語と英語の違い	日本語と英語の違いを語族、文法構造、音韻などの観点から理解する。	教科書のPre-Unitを読み、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第2回	英語の品詞と文の主要素 (1)	英語の品詞と文の主要素について学習する。	授業で学んだこと、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第3回	英語の品詞と文の主要素 (2)	英語の品詞と文の主要素について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 12を学習する。	120分
第4回	否定文の作り方	英語の否定文の作り方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 13を学習する。	120分
第5回	疑問文の作	英語の疑問文の作り方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授	120分

	り方		業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 1を学習する。	
第6回	名詞の使い方 (1)	英語の名詞の種類、可算名詞と不可算名詞の違い、複数形の作り方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	名詞の使い方 (2)、前半のまとめ	英語の名詞と冠詞の関係、不特定数量を表す形容詞 (someやany) の使い方について学習する。前半で学んだ内容を復習する。	これまでの授業で学んだことを復習する。	120分
第8回	中間試験と解説	中間試験を行う。試験後、試験内容のポイントを解説する。	これまでに学んだことを復習し、活用できるレベルにする。教科書Unit 2を学習する。	120分
第9回	前置詞と人称代名詞	英語の前置詞の種類と使い方、人称代名詞の分類について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 3を学習する。	120分
第10回	動詞の使い方	英語の動詞および準動詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 4を学習する。	120分
第11回	目的語と補語	英語の文の要素である目的語と補語の使い方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 5を学習する。	120分
第12回	文の構成要素と文型	英語の文の主要素とその配置 (文型) について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 6を学習する。	120分
第13回	動詞の現在形と過去形 (1)	英語の動詞の時制、現在形と過去形の使い方について学習する。動詞の活用を覚える。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	動詞の現在形と過去形 (2)	英語の動詞の現在形と過去形の使い方について学習する。動詞の活用を覚える。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 7を学習する。	120分
第15回	現在完了形と過去形、後半のまとめ	英語の現在完了形の作り方、現在完了と過去形との区別について学習する。後半の授業内容を復習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第16回	期末試験と解説	期末試験を行う。試験後、試験内容のポイントを解説する。	前期に学習した内容を復習する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は後期Basic English 2初回に採点基準を明らかにして返却する。小テストを実施した場合は次の授業中に解説する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験、期末試験、平常点 (授業中の実績、小テストの結果を含む) により判定する。 ・小テストは各ユニットごとに行い、授業中の実績の一部とする。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	書くための英文法一形から学ぶ英語のルール-Writing English for You in Japan 表正幸・Jeffrey Irish (南雲堂) 978-4-523-17889-7				
参考図書	なし				

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断して提案できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に外国語でコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た英語技能をもって自分の考えを表現し、他者との共感を創り出すことができる。</p>	
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室	
学生へのメッセージ	学んだ表現や知識は、ことばとして「使う」ことが大切です。まずは自分の考えを相手に伝える努力をしましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料(主としてイギリスの児童文学関連)や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第1課 ロンドン: 国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 <文法>原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp6-7を読解して問題に解答すること。 (以降、毎回同様に準備すること)	60分
第3回	第2課 ロンドン: 騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい! バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 <文法>so~that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8-9	60分
第4回	第3課 ロ	探偵依頼はシャーロックホームズまで。	p10-11	60分

	ンドン：ペーカー街	ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」		
第5回	第4課 ロンドン：ビクトリア&アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞 as のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12-13+ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課 宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14-15+プリント	80分
第7回	第6課 ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解 中間テスト前のまとめ	p16-17+プリント	80分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画「ミス・ポター」 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	第1課-第6課+ピーターラビット原文読解プリントを範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第7課 ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ イギリスの新聞の販売方法、他。 ＜文法＞some~, others...、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p18-19	60分
第10回	第8課 オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞ A such as B、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p20-21	60分
第11回	第9課 ストラットフォード・アポン・エイヴォン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞ 先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p22-23	60分
第12回	第10課 ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第13回	第10課 ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第14回	第11課 リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。 ・映画の脚本を読んでみよう！	p26-27 「ブラダを着た悪魔」の脚本のプリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第11課 リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。 ・「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 ・定期試験前のまとめ	p26-27	60分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法

実施した中間テストは、採点して、次週の授業にて返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験対策という側面もあるので、勉強法や勉強量などの反省点を定期試験対策に生かしてください。

評価方法

- ・ 中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。
- ・ 定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。
- ・ 中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
- ・ 平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します。

評価基準

評価基準

評価方法

知識・理解 (K)

思考・判断 (K)

関心・意欲・態度 (V)

技術・表現 (A)

中間テスト	○			○
定期試験	○			○
評価割合	中間試験40%、定期試験50%、平常点10%で評価します。			
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。			
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

授業概要 (教育目的) この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげることを目的とする。

履修条件 特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	前期授業ガイダンス	・成績評価、テキスト、授業の進め方、事前・事後学修について説明 ・Pre-Unit 品詞と語順について解説	・テキストP. 13を読んでおくこと	60分
第2回	Unit1 First Day of Class	be動詞: 第1文型、第2文型の復習	・授業内容を復習し、配布プリント Review Quizを解く (次回授業時に答え合わせ) ・テキストP. 19を読んでおくこと	120分
第3回	Unit2 I Love Bread!	・一般動詞の現在形および命令文・否定文についての復習	・授業内容を復習し、配布プリント Review Quizを解く (次回授業時に答え合わせ) ・テキストP. 25を読んでおくこと	120分
第4回	Unit3 Pizza Time	・可算名詞、不可算名詞 (日本語との相違についての確認) ・不可算名詞の数量を表わす表現について学ぶ	・授業時に指示	120分
第5回	Unit3	・前回の授業内容をもとに、テキストの問題を解く	・授業内容を復習し、配布プリ	120分

	Pizza Time		ントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 31を読んでおくこと	
第6回	Unit4 Not Just a Baker	・代名詞（格変化の確認）や、代名詞を用いた慣用表現を学ぶ	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 37を読んでおくこと	120分
第7回	Unit5 What's Wrong with Hitomi?	・一般動詞の過去形：規則変化動詞、不規則変化動詞の復習	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 110を暗記する（後日、小テストを行う） ・テキストP. 43を読んでおくこと	120分
第8回	Unit6 It Won't Hurt	・進行形（現在分詞について理解を深める）	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ）	120分
第9回	Review Unit1~6の復習	・Unit1~6の復習（プリント配布）	・テキストP. 49を読んでおくこと	120分
第10回	Unit7 I Feel Healthy Already!	時と場所を表わす前置詞：「時・場所・その他」を表わす前置詞の分類と慣用表現	・授業時に指示	120分
第11回	Unit7 I Feel Healthy Already!	・テキストの問題を解く	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 55を読んでおくこと	120分
第12回	Unit8 Small Talk	未来形：willとbe going toの相違について（使いわけが出来るようにする）	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 91を読んでおくこと	120分
第13回	Unit14 Date night	・助動詞の種類の確認 ・特殊な助動詞（過去の意味を持たない助動詞の確認）	・授業時に指示	120分
第14回	Unit14 Date Night	・テキストの問題を解く	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ）	120分
第15回	Review	Unit6~8、14を中心とした定期試験範囲の総復習	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ）	180分
第16回	定期試験	学習到達度の確認試験を行う	定期試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。

評価方法

- ・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない）
- ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。
- ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・試験 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%

	その他（任意課題などの提出状況など） 20%	
使用教科書名 (ISBN番号)	English Aid (金星堂) ¥1,800 (税抜) ISBN 978-4-7647-4036-5	
参考図書	必要に応じて授業時に紹介します。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。 【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。	
学生へのメッセージ	授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として英語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々なことを知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7タイプ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Chapter 1 Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習(本章で学ぶ内容の予備学習) 2. ショッピング関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Chapter 2 At a Restaurant	1. レストラン関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. レストラン関連の文法問題(名詞の修飾) 3. レストラン関連の読解問題2種(インテリアの重要性、顧客からの苦情のメールと店側のそれへの対応)	語彙学習の部分は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Chapter 3 Transportation Chapter 4 Entertainment(1)	1. 交通手段に関連する語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. 交通手段に関連するリスニング演習(写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 娯楽に関連する語彙学習(本章の内容の予備学習) 4. 娯楽に関連する文法問題(使役動詞、知覚動詞)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Chapter 4 Entertainment (2)	娯楽に関連する読解問題2種(トランプカードを使った奇術について、社内旅行の手配の進行状況についてのメールのやり取り)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	Chapter 5 Accommodation	1. ホテル関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. ホテル関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。	60分

	Chapter 6 Employment (1)	題) 3. 就職関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 就職関連の文法問題 (助動詞)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	
第6回	Chapter 6 Employment (2)	就職関連の読解問題2種 (採用面接で採用側が採用の判断の材料とすること、フライトアテンダントの採用募集広告の一例)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第7回	Chapter 7 Communication Chapter 8 Negotiating (1)	1. コミュニケーション関連の語彙学習 (本章の内容の予備) 2. コミュニケーション関連のリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 商業交渉に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 商業交渉に関連する文法問題 (現在完了)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	Chapter 8 Negotiating (2)	商業交渉に関連する読解問題2種 (値引き交渉の手紙、家屋改築事業の宣伝広告とそれへの問い合わせのメール)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	Chapter 9 Giving a Presentation Chapter 10 Appointments	1. プレゼン関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. プレゼン関連のリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 仕事での面会の約束関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 仕事での面会の約束関連の文法問題 (不定詞) 5. 仕事での面会の約束関連の読解問題2種 (面会日時の提案のメール、本来自分が行くはずの面会に代わりに同僚に行ってもらうように頼むメール)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	Chapter 11 Public Facilities	1. 公共施設に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 公共施設に関連する文法問題 (仮定法過去) 3. 公共施設に関連する読解問題2種 (「公園デビュー」のいいところ、図書館の存在意義)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	Chapter 12 On the Street Chapter 13 Vacation	1. 道に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 道に関連するリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 休暇に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 休暇に関連する文法問題 (受動態) 5. 休暇に関連する読解問題2種 (世界の有給休暇事情について、海外旅行の行先についてのメールのやりとり)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	Chapter 14 Environment Chapter 15 Housing	1. 環境問題関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 環境問題関連のリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 住居関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 住居関連の文法問題 (関係代名詞) 5. 住居関連の読解問題2種 (アパートの自室のエアコンの修理の手配をアパートの所有者に求めるメール、アパートのルームメイト募集の広告とそれへの応募のメール)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	Chapter 16 Meetings Chapter 17 Business Performance	1. 会議に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 会議に関連するリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 仕事の売りに上げに関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 仕事の売りに上げに関連する文法問題 (比較表現) 5. 仕事での売りに上げに関連する読解問題2種 (エアコンの売りに上げについての社内報告、フィットネスクラブの売りに上げについての社員への報告と利用者アンケート)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	Chapter 18 Handling Customer Complaints Chapter 19 Advertising	1. 顧客からの苦情に関連する語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 顧客からの苦情に関連するリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題) 3. 宣伝広告関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 4. 宣伝広告に関連する文法問題 (数と量) 5. 宣伝広告に関連する読解問題2種 (広告の適切な媒体に関して、求人広告の一例)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	Chapter 20 At a Factory	1. 工場関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 工場関連のリスニング演習 (写真描写問題、会話問題、ショートトーク問題)	語彙学習は全章の予習がしてあるとし易い。 授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法

授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。

評価方法

授業毎回で前回の授業中で重要として指摘されたことの中から5問を選んで小テストをする。(5点満点)遅刻欠席で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分0点として合算する。最終回の授業分の小テストは定期試験として実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回の小テストの合計90%、定期試験10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Beat Your Best Score on the Toeic L & R Test (松柏社、2019)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】 どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】 実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
学生へのメッセージ	TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異なる点はそこで、実用的です。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。</p> <p>②英語圏の文化に関する視聴覚資料(主としてイギリスの児童文学関連)や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第1課 ロンドン: 国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 <文法>原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp6-7を読解して問題に解答すること。 (以降、毎回同様に準備すること)	60分
第3回	第2課 ロンドン: 騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい! バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 <文法>so~that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8-9	60分
第4回	第3課	探偵依頼はシャーロックホームズまで。	p10-11	60分

	ンドン：ペーカー街	ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」		
第5回	第4課 ロンドン：ビクトリア&アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞 as のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12-13+ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課 宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14-15+プリント	80分
第7回	第6課 ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解 中間テスト前のまとめ	p16-17+プリント	80分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画「ミス・ポター」 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	第1課-第6課+ピーターラビット原文読解プリントを範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第7課 ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ イギリスの新聞の販売方法、他。 ＜文法＞some~, others...、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p18-19	60分
第10回	第8課 オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞ A such as B、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p20-21	60分
第11回	第9課 ストラットフォード・アポン・エイヴォン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞ 先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p22-23	60分
第12回	第10課 ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第13回	第10課 ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第14回	第11課 リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。 ・映画の脚本を読んでみよう！	p26-27 「ブラダを着た悪魔」の脚本のプリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第11課 リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。 ・「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 ・定期試験前のまとめ	p26-27	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。			
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、次週の授業にて返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験対策という側面もあるので、勉強法や勉強量などの反省点を定期試験対策に生かしてください。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	中間試験40%、定期試験50%、平常点10%で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2(月2)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活で使われる英語が正しいものであるのかの判断がしやすくなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点獲得を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	TOEICの問題構成についての説明	1. リスニング (1)写真描写問題 (2)応答問題 (3)会話問題 (4)説明文問題 2. 文法、読解問題 (1)空所補充問題(語を補充するもの、文を補充するもの) (2)文章の内容把握問題	授業の内容を復習して理解して把握しておくこと。	60分
第2回	1. Unit L-1 2. Unit R-1	1. リスニング演習 人物が写っている写真描写問題 2. 文法問題 名詞、形容詞の空所補充問題→それぞれに特徴的な語尾と文中での位置で決まる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	1. Unit L-2	1. リスニング演習 人物が写っていない写真描写問題 2. 文法問題	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

	2. Unit R-2	動詞、副詞の空所補充問題→それぞれの文中での位置と特徴的な語尾で決まる。		
第4回	1. Unit L-3 2. Unit R-3	1. リスニング演習 応答問題：疑問詞で始まる疑問文 2. 文法問題 代名詞、能動態、受動態の空所補充問題→文中での位置で代名詞の格が決まる。「する側」、「される側」を理解すること。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	1. Unit L-4 2. Unit R-4	1. リスニング演習 依頼、申し出の意味の疑問文の応答問題 2. 文法問題 動詞の時制に関する空所補充問題→他の語との関係から決まる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	1. Unit L-5 2. Unit R-5	1. リスニング演習 Yes/No疑問文、選択疑問文を含む応答問題 2. 文法問題 前置詞、接続詞の空所補充問題→文全体の意味から決まる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. Unit L-6 2. Unit R-6	1. リスニング演習 応答問題の総合演習 (Unit L-3~Unit L-5) 2. 長文穴埋め問題演習 Unit R-5までのような1文の中での空所補充でなく、まとまった文章の中での空所補充となる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	1. Unit L-7 2. Unit R-7	1. リスニング演習 会話問題→2人、または3人の会話を聞いて、印字されている質問と4択から答える。 2. 読解問題 長文の内容把握問題。解答は4択。ここでは宣伝広告を読む。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	1. Unit L-8 2. Unit R-8	1. リスニング演習 会話問題(続)。話し手の職業を問う、提案事項を問う。 2. 読解問題 チャット、メール。チャットでは複数の人間が関わる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	1. Unit L-9 2. Unit R-9	1. リスニング演習 会話問題(続)話し手の目的、依頼事項を問う。 2. 読解問題 メール(続)。差出人の職業、メールの目的を問う。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	1. Unit L-10 2. Unit R-10	1. リスニング演習 説明文問題→1人がまとまった内容を話す。質問と解答は会話問題と同じ形式で、印字されている。ここでは録音メッセージ、広告。 2. 読解問題 手紙。メールよりも正式なものであることが多い。資料が同封される場合も多く、文面と資料と並べて出題されることもある。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	1. Unit L-11 2. Unit R-11	1. リスニング演習 アナウンス、トーク、ニュース。話し手の立場、目的などが問われる。 2. 読解問題 告知、社内連絡。目的が問われることが多い。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	1. Unit L-12 2. Unit R-12	1. リスニング演習 図表が問題の一部として印字されているもの。 2. 読解問題 ダブルパッセージ。関連した長文が2つ出題され、そのあとに問題が印字される。長文が3つ以上のこともある。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	1. Unit L-13 2. Unit R-13	1. リスニング演習 写真描写問題と会話問題の総復習 2. 文法問題 空所補充問題の総復習	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	1. Unit L-14 2. Unit R-14	1. リスニング演習 説明文問題の総復習 2. 読解問題 読解問題総復習	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法

授業毎の小テストは採点してその次回の授業で返却する。

評価方法

毎回の小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する(5点満点)。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなけ

ればその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合

小テストの合計90%、定期試験10%

使用教科書名 (ISBN番号)

Key Strategies for Success on the TOEIC Test Level 400 (朝日出版、2019) 978-4-255-15635-4

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍できるような英語力を養う。
 【関心・意欲・態度】 どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。
 【技能・表現】 実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。

オフィスアワー

月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目

学生へのメッセージ

TOEIC受験対策が鮮明な教科書ですが、日常英語の勉強になりそうな語彙学習の面も含まれています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本授業では、発信に必要な基本的英語文法を学ぶ。具体的には名詞・代名詞・冠詞・動詞の使い方や疑問文・否定文の作り方など、英語文法の基本を身につけ、英語で自分の考えを発信できるようになることを目指す。
履修条件	今年度前期月曜3限のBasic English 1 (畝部担当) を履修していることが望ましい。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基本的な英語文法を習得する。
思考・判断の観点 (K)	日本語と英語の文法や文章の作り方の違いを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語を使って積極的に自分の考えを発信できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英語文法を利用して自分の考えを表現できる。

学習計画

Basic English 2

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	前期の復習	前期期末試験を、採点基準を明らかにして返却する。前期学習内容を復習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 7を学習する。	120分
第2回	未来を表す表現と現在完了	未来を表す表現について学習する。現在完了を用いた文を作る。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 8を学習する。	120分
第3回	進行形	進行形の作り方、-ing形を使った表現について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 9を学習する。	120分
第4回	受動態 (1)	英語の受動態の作り方、使い方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第5回	受動態	英語の受動態の作り方、使い方について学習する。過去	授業で学んだことを理解し、授	120分

	(2)	分詞を使った表現について学習する。	業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 11を学習する。	
第6回	助動詞 (1)	英語の助動詞の種類、使い方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	助動詞 (2)、前半のまとめ	英語の助動詞の種類、使い方について学習する。前半で学んだ内容を復習する。	これまでの授業で学んだことを復習する。	120分
第8回	中間試験と解説	中間試験を行う。試験後、試験内容のポイントを解説する。	これまでに学んだことを復習し、活用できるレベルにする。教科書Unit 12~13を学習する。	120分
第9回	否定文と疑問文	英語の否定文と疑問文の作り方を復習し、応用する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 14を学習する。	120分
第10回	疑問詞を使った疑問文 (1)	疑問詞を使った疑問文について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第11回	疑問詞を使った疑問文 (2)	疑問詞を使った疑問文について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 15を学習する。	120分
第12回	間接疑問文	間接疑問文について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	時制の一致	時制の一致について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	総合練習 (1)	これまでに学習した内容の復習として練習問題を解く。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第15回	総合練習 (2)	これまでに学習した内容の復習として練習問題を解く。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第16回	期末試験と解説	期末試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	後期に学習した内容を復習する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は次年度4月以降に希望者に返却する。小テストを実施した場合は、次の授業中に解説し返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験、期末試験、平常点（授業中の実績、小テストの結果を含む）により判定する。 ・小テストはユニットごとに行い、授業中の実績の一部とする。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	書くための英文法一から学ぶ英語のルールーWriting English for You in Japan 表正幸・Jeffrey Irish (南雲堂) 978-4-523-17889-7				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断して提案できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 積極的に外国語でコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性をもって人々のた</p>				

	めに働くことができる。 【技能・表現】学修で得た英語技能をもって自分の考えを表現し、他者との共感を創り出すことができる。	
オフィスアワー	木曜2限 1630研究室	
学生へのメッセージ	学んだ表現や知識は、言葉として「使う」ことが大切です。まずは自分の考えを相手に伝える努力をしましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料(主としてイギリスの児童文学関連)や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第12課 ヨーク	ステンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 <文法>不定詞の形容詞用法、他。	p28を読解して問題に解答すること。(以降、毎回同様に準備すること)	30分
第2回	第12課 ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 <文法>仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	p 28-29	40分
第3回	第13課 ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 <文法>倒置表現、他。 ・映画②	p30-31	60分
第4回	第14課 湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ!	p32-33	60分

		<文法>現在完了進行形、他。 ・映画③		
第5回	第15課 リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 <文法>使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34-35	60分
第6回	第16課 ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 <文法>不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36-37	60分
第7回	第17課 結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 <文法>接続詞 that、他。 ・映画⑤ ・中間テスト前のまとめ	p38-39	60分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画⑥	第12課-第17課を範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第18課 ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 <文法>述語動詞が複数ある英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化	p40-41	60分
第10回	第19課 コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 <文法> 注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解① ・ディズニー映画「くまのプーさん」	p42-43 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課 ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 <文法> 関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解② ・ディズニー映画②	p46-47 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課 ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ <文法>主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解③ ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・ディズニー映画③	p48、+「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課 ロンドン：グロブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパの大観覧車ロンドン・アイも。 <文法>Some...other...の訳し方、他。 ・「くまのプーさん」原文読解① ・ディズニー映画④	p50-51 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第14回	第24課 ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ <文法>接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 ・「くまのプーさん」原文読解②	p52 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第25課 ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 <文法>不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・「くまのプーさん」原文読解③ ・定期試験前のまとめ	p54-55 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強量や勉強法などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) Looking Around England <Revised Edition>
「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。
【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

- ・十分に予習したうえで授業に臨んでください。
- ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

授業概要 (教育目的)	この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英文作の応用へとつなげることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	後期授業ガイダンス	・成績評価、テキスト、授業の進め方、事前、事後学習について説明	・テキストP. 61を読んでおくこと	60分
第2回	Unit9 Weight Down, Power up!	・現在完了の4つの用法 (完了、継続、経験、結果) について知識を深める ・過去形との違いを理解する	・授業時に指示	60分
第3回	Unit9 Weight Down, Power up!	・テキストの問題を解く	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く (次回授業時に答え合わせ) ・テキストP. 67を読んでおくこと	120分
第4回	Unit10 It's Nice... And	・比較 (原級、比較級、最上級) への理解を深める ・形容詞、副詞の不規則変化について復習	・形容詞、副詞の不規則変化について復習 (次週、小テスト実施)	120分
第5回	Unit10 It's Nice... And	・テキストの問題を解く ・比較表現を用いた書きかえ問題を解く	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く (次回授業時に答え合わせ)	120分

			・テキストP. 73を読んでおくこと	
第6回	Unit11 Hitomi Wants a New Look	・接続詞がつなぐもの（語と語、句と句、節と節）について ・前置詞と接続詞の違い	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ）	120分
第7回	・Review: Unit9~11 の復習	Unit9~11の復習	・テキストP. 79を読んでおくこと	120分
第8回	Unit12 Shopping for Clothes	・不定詞：3つの用法（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法）の復習（語順や和訳）	・授業時に指示	120分
第9回	Unit12 Shopping for Clothes	・動名詞：現在分詞との違いや不定詞との書き換え	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 85を読んでおくこと	120分
第10回	Unit13 I'm Meeting a Friend	・疑問詞：疑問詞を用いた文について学ぶ	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ） ・テキストP. 97を読んでおくこと	120分
第11回	Unit15 It's Party Time!	・受動態：能動態⇄受動態の書きかえ演習	・授業時に指示	120分
第12回	Unit15 It's Party Time!	・テキストの問題を解く ・by以外の前置詞を用いる受動態の確認	・授業内容を復習し、配布プリントReview Quizを解く（次回授業時に答え合わせ）	120分
第13回	関係代名詞 （プリント 使用）	・主格、目的格、所有格について ・先行詞を必要としない関係代名詞	・授業内容を復習し、配布プリントを解く（次回授業時に答え合わせ）	120分
第14回	関係副詞 （プリント 使用）	・時、場所、方法、理由について ・和訳 ・関係代名詞との違いについて	・定期試験に向け、復習を行う	120分
第15回	Review	・後期試験範囲の総復習	・定期試験に向け、復習を行う	240分
第16回	定期試験	・学習到達度の確認試験	・定期試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない） ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点			○	
	その他	○		○	
評価割合	小テスト・試験 60% 平常点（学習意欲、履修態度など） 20% その他（任意課題などの提出状況など） 20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	English Aid (金星堂) ¥1,800 (税抜) ISBN 978-4-7647-4036-5				
参考図書	必要に応じて授業時に紹介します。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。 【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。				

学生へのメッセージ	授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、英語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Drill 1 Drill 2 Drill 3 Drill 4	空所補充問題(語彙関連、連語関連、文法関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Drill 5 Drill 6 Drill 7	1. 読解問題(パーティーでのスピーチを依頼されてそれを断るメール) 2. 読解問題(従業員数削減の提案に賛成する旨のメール) 3. 読解問題(自家用車使用が近年以前より難しくなっていることについて)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Drill 8 Drill 9 Drill 10	1. 読解問題(転職の案内) 2. 読解問題(交通事情により会議の時間変更を決めるメールのやり取り) 3. 読解問題(起業のためのインターネット講習を宣伝するネット記事)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Drill 11	1. 読解問題(入荷商品の確認に関するメールのやり取り)	授業中で重要として指摘された	60分

	Drill 12	り) 2. 読解問題 (購入したコンピューターへのクレームと、業者のそれへの対応のメールのやり取り)	ことを復習して身に付けておくこと。	
第5回	Drill 13 Drill 14 Drill 15 Drill 16	空所補充問題 (語彙関連、連語関連、文法関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第6回	Drill 17 Drill 18 Drill 19	1. 読解問題 (不動産会社からの購入可能な別荘の説明の手紙) 2. 読解問題 (衣料品店の特別セールのご案内) 3. 読解問題 (久しぶりで会った旧友へのメール)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第7回	Drill 20 Drill 21	1. 読解問題 (母親から息子に突然の外出のことを伝えるメール) 2. 読解問題 (注文品の遅配への対処方法についてのメールのやり取り)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	Drill 22 Drill 23	1. 読解問題 (大学の同窓会からの名簿作成に関する連絡) 2. 読解問題 (警備会社の事業案内)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	Drill 24	読解問題 (留学生のための図書館利用案内)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	Drill 25 Drill 26 Drill 27 Drill 28	空所補充問題 (語彙関連、連語関連、文法関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	Drill 29 Drill 30	1. 読解問題 (引っ越し業者の宣伝広告) 2. 読解問題 (会議開催を伝える社内メール)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	Drill 31 Drill 32	1. 読解問題 (冬季の家庭での野菜栽培について) 2. 読解問題 (社員への営業状況の報告と励ましの社内メール)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	Drill 33 Drill 34	1. 読解問題 (出張計画についてのやり取りの社内メール) 2. 読解問題 (オンライン図書館利用案内)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	Drill 35	読解問題 (石鹸の新商品の使用試験への参加者募集の案内とそれへの応募のメールのやり取り)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	Drill 36	読解問題 (旅行会社のツアー宣伝広告、ツアー参加者への連絡、参加料支払いのレシート)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。

評価方法 授業毎回で前回の授業中で重要として指摘されたことの中から5問を選んで小テストをする (5点満点)。遅刻、欠席で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。最終回の授業分の小テストは定期試験として実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合 毎回の小テストの合計90%、定期試験10%

使用教科書名 (ISBN番号) New Steps to Success in the TOEIC Test: Grammar & Reading 550 (松柏社、2017) ISBN978-4-88198-733-9

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍できるような英語力を養う。
【関心・意欲・態度】 どの国の相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。
【技能・表現】 実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。

オフィスアワー 月昼休み、水2時限、昼休み、4時限

学生へのメッセージ TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異なる点はそこで、実用的です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。</p> <p>②英語圏の文化に関する視聴覚資料(主としてイギリスの児童文学関連)や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第12課 ヨーク	ステンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 <文法>不定詞の形容詞用法、他。	p28を読解して問題に解答すること。(以降、毎回同様に準備すること)	30分
第2回	第12課 ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 <文法>仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	p 28-29	40分
第3回	第13課 ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 <文法>倒置表現、他。 ・映画②	p30-31	60分
第4回	第14課 湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ!	p32-33	60分

		<文法>現在完了進行形、他。 ・映画③		
第5回	第15課 リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 <文法>使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34-35	60分
第6回	第16課 ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 <文法>不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36-37	60分
第7回	第17課 結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 <文法>接続詞 that、他。 ・映画⑤ ・中間テスト前のまとめ	p38-39	60分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画⑥	第12課-第17課を範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第18課 ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 <文法>述語動詞が複数ある英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化	p40-41	60分
第10回	第19課 コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 <文法> 注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解① ・ディズニー映画「くまのプーさん」	p42-43 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課 ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 <文法> 関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解② ・ディズニー映画②	p46-47 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課 ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ <文法>主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解③ ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・ディズニー映画③	p48、+「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課 ロンドン：グロブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパの大観覧車ロンドン・アイも。 <文法>Some...other...の訳し方、他。 ・「くまのプーさん」原文読解① ・ディズニー映画④	p50-51 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第14回	第24課 ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ <文法>接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 ・「くまのプーさん」原文読解②	p52 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第25課 ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 <文法>不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・「くまのプーさん」原文読解③ ・定期試験前のまとめ	p54-55 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強量や勉強法などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) Looking Around England <Revised Edition>
「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。
【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ

- ・十分に予習したうえで授業に臨んでください。
- ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。</p> <p>①TOEIC Bridgeのテキストを使用して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、海外旅行の際に必要な書類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。</p> <p>②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 TOEIC Bridgeについて サンプル問題 	必要なし	0分
第2回	第1課リスニング・セクション Part I、リーディング・セクション Part IV、チャレンジ TOEIC!	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・セクション：人物ひとりの動作や状態 リーディング・セクション：代名詞 チャレンジTOEIC!：人物と背景の描写 移民社会アメリカーディズニー映画「ズートピア」① 	テキストp13-17(テキストの指示に従って読解し、問題に解答しておくこと。以降、毎回同様に準備すること)	50分
第3回	第2課リスニング・セ	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・セクション：Yes/No疑問文 リーディング・セクション：広告文 	p18-20	50分

	クシヨ Part II、 リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart V	・映画②		
第4回	第2課 リ ー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart V 第3課 リ ス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart III	・リーディング・セクション：広告文 ・リスニング・セクション：話している人について ・映画③	p21-22, 24, 26	50分
第5回	第3課リー ディ ング・セ クシ ヨ ン：Part IV 場面別英会 話①	・リーディング・セクション：動詞の変化形 ・場面別英会話：ファストフード店で ・映画④	p27-29	50分
第6回	第4課リス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart I、 リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart V 場面別英会 話②	・リスニング・セクション：2人以上の動作や状態 ・リーディング・セクション：請求書・領収書 ・場面別英会話：レストランで ・映画⑤	p31-33（リーディング・セ クシ ヨ ンは解答するだけではな く、よく読解しておくこと）	50分
第7回	第4課リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart V	・リーディング・セクション：請求書・領収書 ・中間テスト前のまとめ ・映画⑥	p33-34（よく読解しておくこ と）	50分
第8回	中間テスト	・中間テスト ・アメリカ合衆国の成り立ち—映画「パイレーツ・オ ブ・カリビアン—呪われた海賊たち」①	第1課～第4課について中間テ ストを実施するので、よく復習し ておくこと。	240分
第9回	第5課リス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart II、 リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart IV	・リスニング・セクション：疑問視を使う疑問文 ・リーディング・セクション：同じ単語の変化形 ・映画②	p36-39	50分
第10回	第5課リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart IV 第6課リス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart III	・リーディング・セクション：同じ単語の変化形 ・リスニング・セクション：話題を問う ・映画③	p40-44	50分
第11回	第6課リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart V 場面別英会 話③	・リーディング・セクション：図表・一覧表 ・場面別英会話：空港で ・映画④	p45-46	50分
第12回	第7課リス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart I、 リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart IV	・リスニング・セクション：物の位置と名前 ・リーディング・セクション：前置詞の基本 ・出入国書類の記入例の作成 ・映画⑤	p49-51 「出入国書類の記入例」のプリ ント（まずは自力で作成してお くこと）	60分
第13回	第7課リー ディ ング・セ クシ ヨ ンPart I V、 チャ レン ジ TOEIC! 第8課リス ニ ング・セ クシ ヨ ンPart II	・リーディング・セクション：前置詞の基本 ・チャレンジTOEIC!：トークの種類 ・リスニング・セクション：勧誘・依頼などの表現 ・映画⑥	p52-55	50分

第14回	第8課リーディング・セクション Part V	・リーディング・セクション：お知らせ文 ・「パイレーツ・オブ・カリビアン—呪われた海賊たち」とその時代背景	p56—57（よく読解しておくこと）	60分
第15回	第8課リーディング・セクション Part V、Look at Realia	・リーディング・セクション：お知らせ文 ・Look at Realia: 近所の掲示物 ・定期試験前のまとめ	p58—59（よく読解しておくこと）	50分

学習計画注記 授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法 実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答は配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強法や勉強量などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。

評価方法

- ・中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。
- ・定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。50点満点。
- ・平常点は、授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断する。（平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します）
- ・中間テスト、定期試験では、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○	○		○

評価割合 平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他 著
南雲堂
1900円（税別）

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ 世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に着けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国内、国外で、日常生活で使われる話し言葉の英語を知り、理解する。
思考・判断の観点 (K)	使われる英語が正しいのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	英語で接客や海外旅行ができるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. Unit 1 I'm Fine, Thank you. And you? 2. 基本応 対、レジ 応対	1. 挨拶、自己紹介の英語を学び、練習する。 2. 「いらっしゃいませ」等、英語での接客の基本となる表現を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	1. Unit 1 I'm Fine, Thank You. And You? (続) 2. 電話応 対、トラ ブル応対	1. 知人を紹介する英語を学び、練習する。 2. 英語で電話を受けた時の対応を学び、練習する。 3. 利用者からクレームが来た時の英語での対応を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	1. Unit 2 Tell me a	1. 挨拶に続いてより詳しく自己紹介をする、相手のことを尋ねる。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておく	60分

	Bit about You. 2. コンビニ、スーパー、土産物店、雑貨店	2. 「お弁当は温めますか」等、コンビニ、スーパーでの接客英語、「扇子をお勧めします」等、土産物店、雑貨店での接客英語を学んで、練習する。	こと。	
第4回	1. Unit 2 Tell Me a Bit about You (続) 2. アパレル店、家電量販店	1. 知人の紹介をする。さらに詳しく自分のことを話す、相手のことを尋ねる。 2. 「とてもお似合いですよ」等、アパレル店での接客英語、「これは最新モデルの掃除機です」等、家電量販店での接客英語を学んで練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	1. Have a Pleasant Flight 2. 電車	1. 飛行機内でのフライトアテンダントとの会話を学んで練習する。 2. 「浅草駅で銀座線に乗り換えてください」等、電車関連の英語を学び練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	1. Have a Pleasant Flight (続) 2. バス、タクシー	1. 飛行機内でのフライトアテンダントとの会話を学んで練習する。(続) 2. 「バスは均一料金で210円です」等、バス、タクシー関連の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. First Steps in a Foreign Country 2. レストラン、居酒屋	1. 外国の空港での手続きで使う英語を学び、練習する。 2. 「何名様ですか」等、レストラン、居酒屋等での接客英語を学んで練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	1. First Steps in a Foreign Country (続) 2. 寿司屋、ラーメン店、そば店	1. 申し込んでおいたツアーガイドと面会する会話を学び、練習する。 2. 「すみませんが、他のお客様とご合席になりますがよろしいでしょうか」等、寿司屋、ラーメン店、そば店での接客英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	1. Staying at a Hotel (1) 2. ファストフード店、カフェ	1. ホテルのフロントでの会話を学び、練習する。 2. 「こちらでお召し上がりですか、お持ち帰りですか」、「どこでもお好きなところにおかけください」等、ファストフード店、カフェでの接客英語を学び練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	1. Unit 5 Staying at a Hotel (1) (続) 2. アイスクリーム屋、お好み焼き店	1. ホテルのフロントでの会話を学び、練習する。(続) 2. 「保冷剤はご入用ですか」、「それは鯉節です」等、アイスクリーム屋、お好み焼き屋での接客英語を学び練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	1. Staying at a Hotel (2) 2. 旅館	1. ホテルでの会話：「近くに日本食レストランはありますか」等を学び、練習する。 2. 「料金はサービス料込で1泊12,000円になります」、「こちらで靴を脱いでスリッパに履き替えていただきます」等、旅館での接客英語を学び練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	1. Staying at a Hotel (2) (続) 2. 旅館 (続)	1. ホテルでの会話（ロビーでツアーガイドと会う、チェックアウト等）を学び練習する。 2. 「朝食は2階の食堂、ご夕食はお部屋でのご提供になります」、「天然温泉ですので床が滑りやすいのでお気を付けてください」等の旅館での接客英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	1. Unit 7 Let's Go Shopping! 2. 美容院、ネイル	1. ショッピング関連の英語を学び、練習する。 2. 「今日はどんな髪型にしますか」、「いかがでしょうか」等、美容院、ネイルでの接客英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	1. Let's Go Shopping! (続)	1. 安売りセールについての会話を学び、練習する。 2. 「はじめに健康チェックシートにご記入ください」、「かなり肩が凝っていますね」等、エステ、マッサージでの接客英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

	2. エステ、マッサージ		
第15回	観光案内、寺社参拝、和文化初体験、アミューズメント、道案内、急病人、落とし物、忘れ物、迷子、地震、火事	「英語の路線図を持ってまいりましょうか」、「お守り」、「入場料」、「このまますすぐ進んでください」、「医者を呼びましょうか」、「遺失物取扱」、「落ち着いてください」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 60分

学生へのフィードバック方法 授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。

評価方法 各授業で指摘した重要なところの中からその次回に5問を選んで小テストとする（5点満点）。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。授業最終回分の小テストは定期試験として行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合 小テスト合計90%、定期試験10%

使用教科書名 (ISBN番号) Fly to the US! (松柏社、2009) 978-4-88198-624-0 接客英語：基本の『き』 (南雲堂、2017) 9784523265603

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として相応しい英語の知識と正確かどうかの判断力を養う。
【関心・意欲・態度】 外国人相手の接客や海外旅行において積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
【技能・表現】 適切な英語で外国人と会話ができるようにする。

オフィスアワー 月昼休み、水2時間目、4時間目

学生へのメッセージ 特に接客英語は、訪日外国人が急増している今日、知っておくと働くのに有利になると思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1 (月4)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本授業では、TOEICテストのリスニングとリーディングに特化して、問題の解き方を学習し練習問題に取り組む。最終的にTOEICテストの400点台を突破することを目指す。
履修条件	なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語の聞き取り方、英語の読み方を習得する。
思考・判断の観点 (K)	英語の音声パターン、文章構成を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語の受信能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICテストで400点台を突破できる英語聴解力、英語読解力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 1 (Monday 4th Period)

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	イントロダクション、英語聴解力アセスメント	TOEICテストの概要を解説し、実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	教科書Part 1、Part 5の概要と基本戦略を読む。教科書Unit L-1の音声を確認しておく。教科書Unit R-1を学習する。	120分
第2回	Part 1 写真描写問題 (1)、Part 5 短文穴埋め問題 (1)	教科書Unit L-1に基づき写真描写問題の解き方について学習する。教科書Unit R-1に基づき短文穴埋め問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習し、教科書Unit R-2を学習する。	120分
第3回	Part 1 写真描写問題 (2)、Part 5 短文穴埋め問題 (2)	教科書Unit L-1に基づき写真描写問題の解き方について学習する。教科書Unit R-2に基づき短文穴埋め問題の解き方について学習する。	教科書Unit L-2の音声を確認しておく。教科書Unit R-3を学習する。	120分

第4回	Part 1 写真描写問題 (3)、Part 5 短文穴埋め問題 (3)	教科書Unit L-2に基づき写真描写問題の解き方について学習する。教科書Unit R-3に基づき短文穴埋め問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習し、教科書Unit R-4を学習する	120分
第5回	Part 1 写真描写問題 (4)、Part 5 短文穴埋め問題 (4)	教科書Unit L-2に基づき写真描写問題の解き方について学習する。教科書Unit R-4に基づき短文穴埋め問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習し、教科書Unit R-5を学習する	120分
第6回	Part 1 写真描写問題 (5)、Part 5 短文穴埋め問題 (5)	Part 1 写真描写問題の応用問題に取り組む。教科書R-5に基づき短文穴埋め問題のの解き方について学習する。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	Part 1 写真描写問題 (6)、Part 5 短文穴埋め問題 (6)	Part 1 写真描写問題、Part 5 短文穴埋め問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第8回	中間試験と英語聴解力アセスメント	中間試験と実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	授業で取り上げてきた内容を復習する。教科書Part 2、Part 6の概要と基本戦略を読む。教科書Unit L-3の音声を確認し、R-6を学習する。	120分
第9回	Part 2 応答問題 (1)、Part 6 長文穴埋め問題 (1)	教科書Unit L-3に基づき応答問題の解き方について学習する。教科書Unit R-6に基づき短文穴埋め問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-4の音声を確認しておく。	120分
第10回	Part 2 応答問題 (2)、Part 6 長文穴埋め問題 (2)	教科書Unit L-4に基づき応答問題の解き方について学習する。教科書Unit R-6に基づき長文穴埋め問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-5の音声を確認しておく。	120分
第11回	Part 2 応答問題 (3)、Part 6 長文穴埋め問題 (3)	教科書Unit L-5に基づき応答問題の解き方について学習する。Part 6 長文穴埋め問題の応用問題に取り組む。	教科書Unit L-6の音声を確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第12回	Part 2 応答問題 (4)、Part 6 長文穴埋め問題 (4)	教科書Unit L-6に基づき応答問題の解き方について学習する。Part 6 長文穴埋め問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	Part 2 応答問題 (5)、Part 6 長文穴埋め問題 (5)	Part 6 応答問題、Part 6 長文穴埋め問題の応用問題に取り組む	授業で学んだ内容を復習し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	Part 2 応答問題 (6)、Part 6 長文穴埋め問題 (6)	Part 2 応答問題、Part 6 長文穴埋め問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第15回	Part 1、Part 2、Part 5、Part 6の復習	Unit L-1~L-6、Unit R-1~R-6で学んだ内容を復習する。	授業で学んだ内容を復習し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第16回	期末試験と英語聴解力	期末試験と実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの	120分

	アセスメント	内容を学習する。			
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。期末試験は後期Listening & Speaking 2初回に採点基準を明らかにして返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験、期末試験、平常点（授業中の実績）により判定する。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	TOEIC (R) L&Rテスト戦略的トレーニング : レベル400 (朝日出版社) 978-4-255-15635-4				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者の意図を的確に理解し、他者との共感を創り出すことができる。</p>				
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室				
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	フランス語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

授業概要 (教育目的)	フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみたいかたがたでしょうか。たとえ全くの初学者であっても、本人に学ぼうとする強い意欲があるなら大丈夫だと思います。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 入門程度の知識をさらに確実にする。 2. 使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習 (復習) としては、音声ダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください (学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第2回	「私は名前を〜といいます。／日	挨拶や自己紹介の仕方を学びます。	自宅での学習 (復習) としては、音声ダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表	120分

	本人です」		現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第3回	「あなたはフランスのかたですか？」	国籍を表す形容詞を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	「これは何ですか？／ほらあそこに教会があります」	物を指し示して、それが何であるか尋ねたり、その間に答えることができるようになります。その他、提示の表現も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	「兄弟姉妹はいますか？／私は21歳です」	動詞avoirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	「フランスの歌は好きですか？」	好き嫌いを言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	「きみはワインを買うの？ーいや、買わないよ」	疑問文や否定文について学びます。英語にはない部分冠詞や否定の冠詞deも学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	「私はテレビを見たい。／ワインはいかがですか？」	動詞vouloirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	「どんな花が好きですか？」	疑問形容詞を学びます。「どんな」「どの」「何」を尋ねることができるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

第10回	「このホテルは快適です／これはきれいな花です」	品質形容詞を学びます。性・数一致や置かれる位置など。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	「ルーブル美術館へ行きます。／どこから来ましたか？」	「～へ行く」「～から来る」、動詞で言えば、英語のgoとcomeに相当する、allerとvenirを使う表現を学びます。関連して、定冠詞の縮約や「どこに」「どこから」などの疑問副詞も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	「大学へはどうやって来ますか？／なぜフランス語を学びますか？」	前回に引き続き、疑問副詞を学びます。今回は、理由の尋ね方「なぜ」「どうして」、そして答え方「なぜなら」です。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	「今何時ですか？－4時15分前です」	時刻の尋ね方、時刻の言い方を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	「いつフランスにもどりますか／おいくらですか？」	疑問副詞「いつ」「いくら」「いくつ」を用いる表現を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	前期の授業の総復習	前期の授業の総復習をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に3コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くか迷いましたが、とりあえず標準的な時間（120分）を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく2つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的に・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいです。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が70%に、定期試験の結果が30%です。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しません。受講する皆さんの希望に沿った教材プリント等をこちらで用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心に向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。</p> <p>【技能・表現】「学習で得た専門的技能 (技術) をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。</p>
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	フランス語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

授業概要 (教育目的)	前期と同じく、フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてもいいのではないでしょうか。たとえ全くの初習者であっても、勉強意欲さえあれば大丈夫です。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 入門程度の知識をさらに確実にする。 2. 使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。後期からの人もいるのでしょうか。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習 (復習) としては、音声ダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください (学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第2回	前期の復習 1 重要な動詞の活用、	être, avoir, - er動詞、prendre, vouloir, pouvoir, aller, venir, faireなどといった重要な動詞の直説法現在の活用を確認します。	自宅での学習 (復習) としては、音声ダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表	120分

			現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第3回	前期の復習 2 否定文、疑問文、応答文、命令文	否定文、疑問文、応答文、命令文について、知識を確かなものにします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	前期の復習 3 形容詞と副詞	形容詞と副詞について、知識を確かなものにします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	複合過去形 1 助動詞 être	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にêtreを用いる動詞について学びます。「私は昨日、映画を見に行った」「私は何年何月何日に生まれました」などが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	複合過去形 2 助動詞 avoir	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にavoirを用いる動詞について学びます。「私は昨日腕時計を買いました」「私は財布を失くした」などが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	代名詞の広がり1 直接目的語を人称代名詞に	connaître ~ 「~を知っている」、voir ~ 「~に会う、~が見える」、attendre ~ 「~を待つ」、visiter ~ 「~を訪れる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	代名詞の広がり2 間接目的語を人称代名詞に	téléphoner à ~ 「~に電話する」、donner ~ à ~ 「~を~にあげる」、montrer ~ à ~ 「~を~に見せる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	代名詞の広がり3 強勢形代名詞、代名動詞	強勢形代名詞、代名動詞を学びます。「私は日本人です。であなたは?」「これはきみへのプレゼントだよ」などの表現が使えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

第10回	代名詞の広がり4 中性代名詞	中性代名詞en、y、それにleを学びます。「あなたはパンを食べますか?」「あなたには兄弟がいますか?」などの問いに答えるときに必要となる代名詞です。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	表現の幅を広げよう 1 もうひとつの過去時制	直説法複合過去と同じく重要な過去時制に、直説法半過去があります。たとえば、「彼女は若かったころパリに住んでいた」「私がテレビを見ていると彼が家にやってきた」などと言うときに必要となる時制です。この時制を学びます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	表現の幅を広げよう 2 天候や時間を言う(非人称表現)	非人称主語のilを主語に立てて文を作ります。「どんな天気ですか?」「いい天気です」「雨が降っています」「今何時ですか?」「昼の12時半です」などといったことが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	表現の幅を広げよう 3 関係代名詞を使う	関係代名詞を学びます。重要な関係代名詞には、qui、que、où、dontがあります。それぞれの用法を理解します。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	表現の幅を広げよう 4 意思を伝える	動詞vouloirの直説法現在、すでに学びましたが、今回は条件法現在に活用した形を学びます。条件法現在に活用すると、「～したいのですが」「～がいただきたいのですが」と語調が緩和されます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	後期の授業の総復習	後期の授業の総復習をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に3コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くか迷いましたが、とりあえず標準的な時間(120分)を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく2つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的に・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいです。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が70%に、定期試験の結果が30%です。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。</p> <p>【技能・表現】「学習で得た専門的技術 (技術) をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。</p>
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級相当に到達することを目標とします。</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語入門1				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入, ドイツ語のアルファベットと発音	導入, ドイツ語のアルファベットと発音	導入で学んだ単語, アルファベットとその発音を定着させる	60分
第2回	ドイツ語で使われる文字と発音, 挨拶	ドイツ語で使われる文字と発音, 挨拶の表現	単語レベルでのドイツ語特有の読み方と挨拶の表現を定着させる	60分
第3回	第1課 主語になる人称代名詞,	主語になる人称代名詞, 動詞の現在人称変化(1)	主語になる人称代名詞と動詞の現在人称変化の基本形を定着させる	60分

	動詞の現在人称変化 (1)			
第4回	sein, habenの現在人称変化, 語順	sein, habenの現在人称変化, 語順	sein, habenの現在人称変化を定着させ, ドイツ語における語順について理解を定着させる	60分
第5回	自己紹介の表現, 国名	基礎的な自己紹介の表現, ドイツ語での国名	基礎的な自己紹介の表現, 国名を覚え, 単語を定着させる	60分
第6回	前回までの学習内容の復習, 練習	前回までの学習内容を復習し, 練習問題を解く	この回までの学習内容を復習し, 定着させる	60分
第7回	第2課 名詞の性・冠詞, 名詞の格変化	名詞の性・冠詞, 名詞の格変化	名詞の性・冠詞, 名詞の格変化を覚え, 定着させる	60分
第8回	疑問代名詞 wer, was, 並列の接続詞	疑問代名詞 wer, was, 並列の接続詞	疑問代名詞 wer, was, 並列の接続詞について理解を定着させる	60分
第9回	前回まで (主に7回, 8回) の学習内容について復習, 練習	前回まで (主に7回, 8回) の学習内容について復習し, 練習問題を解く	この回までの学習内容を復習し, 定着させる	60分
第10回	ドイツはどんな国?	ドイツ語語圏の国, 文化	ドイツ語語圏の国, 文化について学んだことや興味を持ったことについて調べる	60分
第11回	第3課 動詞の現在人称変化 (2), 命令形	動詞の現在人称変化 (不規則動詞), 命令形	動詞の現在人称変化 (不規則動詞) と命令形を覚え, 定着させる,	60分
第12回	人称代名詞の3格と4格, 非人称のes	人称代名詞の3格と4格, 非人称のes	人称代名詞の3格と4格を覚え, 非人称のesの用法を理解, 定着させる	60分
第13回	趣味は何?	趣味についての表現, 単語	趣味についての表現, 単語を定着させる	60分
第14回	ドイツ語読解	短いドイツ語のテキストを読む	文章の構造理解を確認し, 出てきた単語, 用法を定着させる	60分
第15回	前期の学習内容の復習, 練習	前期の学習内容を復習し, 練習問題を解く	前期の学習内容を復習し, 定着させる	60分

学生へのフィードバック方法 採点して返却, 授業中に解説

評価方法 平常点, 小テスト, 試験
(平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合 平常点30%、小テスト20%、試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 小野寿美子／中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』朝日出版社, 2019年, 978-4-255-25420-3

オフィスアワー 授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。

メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。

学生へのメッセージ

ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に付けることにあります。</p> <p>①TOEIC Bridgeのテキストを使用して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、英文レター類の書き方なども学び、国際常識を身に付けることをも狙いとします。</p> <p>②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 第9課リスニング・セクション PartⅢ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方について リスニング・セクション：場所を問う 	p60-62 (テキストの指示に従って問題に解答する。リスニング・セクションについては理解できるまで何度もCDを聞き、リーディング・セクションについては十分に読解しておくこと。以降、毎回同様に準備すること)	50分
第2回	第9課リスニング・セクション PartⅢ、リーディング・セクションPartⅣ 中級リスニ	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・セクション：場所を問う リーディング・セクション：接続詞 中級リスニング：アナウンス アメリカ現代史：1950年代の状況—映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」 	p61-63	50分

	ングにチャレンジ!			
第3回	第9課リーディング・セクション Part IV 第10課リスニング・セクション Part I 場面別英会話①	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：接続詞 ・リスニング・セクション：物や建物の状態 ・場面別英会話：ショッピング ・映画② 	p 64, 67-68	50分
第4回	第10課リーディング・セクション Part V	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：商品の説明書 ・映画③ 	p69-71（よく読解しておくこと）	60分
第5回	第11課リスニング・セクション Part II	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：How～の疑問文 ・映画④ 	p72-74	40分
第6回	第11課リーディング・セクション Part IV ハロウィーンについて	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：関係詞 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴 	p75-76	50分
第7回	第11課リーディング・セクション Part IV 中間テスト前のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：関係詞② ・中間テスト前のまとめ ・映画⑤ 	p76	40分
第8回	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト ・現代を生きる女性たちへのエール—映画「ブラダを着た悪魔」 	第9課～第11課について中間テストを実施するので、よく復習しておくこと。	240分
第9回	第12課リスニング・セクション Part III 中級リスニングにチャレンジ!	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：具体的な事柄を問う ・中級リスニング②：アナウンス ・映画② 	p79-80	40分
第10回	第12課リーディング・セクション Part V、 Look at Realia	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：Eメールの形式 ・Look at Realia:いろいろなカード ・映画③ 	p81-83（よく読解しておくこと）	60分
第11回	第13課リスニング・セクション Part I、リーディング・セクションPart IV	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：ふぞろいな描写 ・リーディング・セクション比較・最上級の形と意味 ・映画④ 	p84-87	60分
第12回	第13課リーディング・セクション Part IV 映画の登場人物になりきって英会話してみよう!	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：比較・最上級の形と意味 ・「ブラダを着た悪魔」の脚本による英会話 	p87-88 「Devil Wears Prada」の英会話のプリント（読解しておくこと）	80分
第13回	第14課リスニング・セクション Part II クリスマスカードを書こう! 現代アメリ	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：さまざまな問いかけ ・英会話の中に表れる比較・最上級の表現 ・クリスマスカードの作成 ・アメリカ現代文化総まとめ①—「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 	p90-92 ・「英会話の中に表れる比較・最上級の表現」のプリント（問題に解答しておくこと） ・「英文クリスマスメッセージ講座」のプリント（熟読し、クリスマスカードに書く内容を下書きしておくこと）	90分

	カ文化総まとめ①			
第14回	第14課リーディング・セクション Part V 現代アメリカ文化総まとめ②	・リーディング・セクション：ビジネスレターの基本 ・現代アメリカ文化総まとめ②ーアメリカ現代史とロック・ポップスの歴史	p93-94（よく読解しておくこと）	60分
第15回	アメリカ現代文化総まとめ③ー名演説にみるアメリカの社会と文化 定期試験前のまとめ	・リスニング＋リーディング：名演説にみるアメリカの社会と文化ーオバマ前大統領とキング牧師の演説 ・定期試験前のまとめ	「オバマ前大統領とキング牧師の演説」のプリントを熟読しておくこと。	90分

学習計画注記 授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法 実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答は配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強法や勉強量などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。

評価方法

- ・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。
- ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。50点満点。
- ・平常点は、授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断する。（平常点の取り扱いについては初回の授業で詳しく説明します）
- ・中間テスト、定期試験では、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○	○		○

評価割合 平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他 著
南雲堂
1900円（税別）

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ 世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Listening&Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国内、国外で、日常生活で使われる話し言葉の英語を知り、理解する。
思考・判断の観点 (K)	使われる英語が正しいのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	基本的な海外旅行英語と日常生活英語を使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. Unit 8 Sightseeing 2. 起床する、身支度をする	1. 「この町の地図をいただけますか」、「いいツアーはありますか」等、観光で使う英語を学び、練習する。 2. 「寝坊した」、「髪をとかす」等、朝に使う英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	1. Unit 8 Sightseeing (続) 2. 朝食をとる、出かける、見送る	1. 「そのツアーは何時に出発ですか」、「私の写真を撮っていただけますか」等の英語を学び、練習する。 2. 「コーヒーを入れる」、「行ってきます」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	1. Unit 9 At a Fast Food Place 2. 通勤、通学、出社	1. 「お飲み物はいかががされますか」、「他にご注文ございませんか」等の英語を学び、練習する。 2. 「電車が遅延」、「仕事にとりかかる」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

第4回	1. Unit 9 At a Fast Food Place (続) 2. 登校する、昼食をとる	1. 「注文はどんな風にするのですか」、「テーブルまで注文品は持って来てくれるのですか」等の英語を学び、練習する。 2. 「小学校の頃から数学は苦手で」、「今日はお弁当を作ってきた」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	1. Unit 10 Dining at a Restaurant 2. 料理、洗濯	1. 「もう一度メニューを見せてください」、「オーダーストップまであと30分です」等の英語を学び、練習する。 2. 「お肉を解凍する」、「洗濯物を干す」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	1. Unit 10 Dining at a Restaurant (続) 2. 掃除、その他の家事	1. 「こちらのおすすめ料理は何ですか」、「クーポン券はお持ちでしょうか」等の英語を学び、練習する。 2. 「掃除をする」、「ごみを出す」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. Catching a Taxi 2. 買い物、病院	1. 「繁華街へはどうやって行くのですか」、「タクシーにはチップは必要ですか」等の英語を学び、練習する。 2. 「乳製品売り場はどこですか」、「少し熱があります」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	1. Unit 10 Catching a Taxi (続) 2. 銀行、郵便局、美容院	1. 「タクシーを呼んでいただけますか」、「お釣りは取っておいてください」等の英語を学び、練習する。 2. 「この荷物を速達で送りたいのですが」、「どんな髪型が流行しているのですか」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	1. Unit 12 Taking a Bus 2. 退社する、下校する、同僚と食事をする	1. 「6番のバスは何分おきに来ますか」、「10分毎に来ます」等の英語を学び、練習する。 2. 「途中本屋に寄る」、「今日はおごるよ」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	1. Taking a Bus (続) 2. インターネット、別れの挨拶	1. 「このバスはマンハッタンに行きますか」、「時間通りに来る」等の英語を学び、練習する。 2. 「アプリ」、「また明日」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	1. Unit 13 I Don't Feel Well 2. 帰宅する、出迎える、風呂に入る	1. 「顔色がよくない」、「頭痛がする」等の英語を学び、練習する。 2. 「ただいま」、「お風呂にはいる」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	1. Unit 13 I Don't Feel Well (続) 2. 夕食をとる、後片付けをする	1. 「どんな症状ですか」、「熱に効く薬はありますか」等の英語を学び、練習する。 2. 「お腹いっぱい」、「皿洗いをする」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	1. Unit 14 On the Way Back to Japan 2. 子供との会話、夫婦の会話	1. 「貴重品」、「旅行保険」等の英語を学び、練習する。 2. 「お行儀」、「いい加減にしてよ」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	明日の準備、就寝、ドライブ、友人の家に行く、デートする、イベントに参加する	「明日は何を着ようか」、「就寝する」、「渋滞に捕まる」、「手作り」、「待たせてごめん」、「乾杯しよう」等の英語を学び、練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	スポーツ、	「雨具」、「～のファン」、「食べ歩き」、「入会す	授業中で重要として指摘された	60分

	アウトドア、音楽・映画・観劇、その他の趣味、習い事	る」等の英語を学び、練習する。	ことを復習して身に着けておくこと。	
--	---------------------------	-----------------	-------------------	--

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは採点してその次回の授業で返却する。
---------------	-----------------------------

評価方法	小テストは、各回の授業で重要として指摘されたことの中から5問を選んで、その次回の授業で行う（5点満点）。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	小テストの合計90%、定期試験10%
------	--------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Fly to the US! (松柏社、2009) 9784881986240 日常英会話：基本の『き』 (南雲堂、2016) 9784523265481
-----------------	-------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、【思考・判断】 国際人として相応しい英語の知識と使う英語が正しいかどうかの判断力を養う。 【関心・意欲・態度】 海外旅行、日常生活で積極的に英語を使おうとする態度を養う。 【技能・表現】 適切な英語で外国人と話せるようにする。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目
---------	---------------------

学生へのメッセージ	日常生活英語は海外ホームステイで役立つでしょう。国内での英語での接客に使えるものも含まれています。
-----------	---------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2 (月4)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業では、TOEICテストのリスニングとリーディングに特化して、問題の解き方を学習し練習問題に取り組む。最終的にTOEICテストの400点台を突破することを目指す。
履修条件	今年度前期月曜4限のListening & Speaking 1 (畝部担当) を履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語の聞き取り方、英語の読み方を習得する。
思考・判断の観点 (K)	英語の音声パターン、文章構成を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語の受信能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICテストで400点台を突破できる英語聴解力、英語読解力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 2 (Monday 4th Period)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習、英語聴解力アセスメント	実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。前期末試験を、採点基準を明らかにして返却する。前期学習内容を復習する。	教科書Part 3、Part 7の概要と基本戦略を読む。教科書Unit L-7の音声を確認しておく。教科書Unit R-7を学習する。	120分
第2回	Part 3 会話問題 (1)、Part 7 読解問題 (1)	教科書Unit L-7に基づき会話問題の解き方について学習する。教科書Unit R-7に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-8の音声を確認しておく。教科書Unit R-8を学習する。	120分
第3回	Part 3 会話問題 (2)、Part 7 読解問題 (2)	教科書Unit L-8に基づき会話問題の解き方について学習する。教科書Unit R-8に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-9の音声を確認しておく。教科書Unit R-9を学習する。	120分
第4回	Part 3 会	教科書Unit L-9に基づき会話問題の解き方について学習	授業で学んだ内容を復習する。	120分

	話問題 (3)、 Part 7 読 解問題 (3)	する。教科書Unit R-9に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業中に配付されるプリントを学習する。	
第5回	Part 3 会 話問題 (4)、 Part 7 読 解問題 (4)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第6回	Part 3 会 話問題 (5)、 Part 7 読 解問題 (5)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	Part 3 会 話問題 (6)、 Part 7 読 解問題 (6)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第8回	中間試験と 英語聴解力 アセスメン ト	中間試験と実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	授業で取り上げてきた内容を復習する。教科書Part 4の概要と基本戦略を読み、教科書Unit L-10の音声を確認しておく。教科書Unit R-10を学習する。	120分
第9回	Part 4 説 明文問題 (1)、 Part 7 読 解問題 (7)	教科書Unit L-10に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-10に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-11の音声を確認し、教科書Unit R-11を学習する。	120分
第10回	Part 4 説 明文問題 (2)、 Part 7 読 解問題 (8)	教科書Unit L-11に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-11に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-12の音声を確認し、教科書Unit R-12を学習する。	120分
第11回	Part 4 説 明文問題 (3)、 Part 7 読 解問題 (9)	教科書Unit L-12に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-12に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-13の音声を確認し、教科書Unit R-13を学習する。	120分
第12回	Part 4 説 明文問題 (4)、 Part 7 読 解問題 (10)	Part 4 説明文問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	Part 4 説 明文問題 (5)、 Part 7 読 解問題 (11)	Part 4 説明文問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	Part 1 & 3 Review、 Part 5 & 6 Review	Part 1とPart 3の復習問題に取り組む。Part 5とPart 6の復習問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習する。	120分
第15回	Part 2 & 4 Review、 Part 7 Review	Part 2とPart 4の復習問題に取り組む。Part 7の復習問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習する。	120分
第16回	期末試験と 英語聴解力 アセスメン ト	期末試験と実用英検準2級程度の英語聴解力アセスメントを行う。	授業で取り上げてきた内容を復習する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。期末試験は次年度4月以降に希望者に返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験、期末試験、平常点（授業中の実績）により判定する。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	TOEIC (R) L&Rテスト戦略的トレーニング：レベル400（朝日出版社）978-4-255-15635-4				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者の意図を的確に理解し、他者との共感を創り出すことができる。</p>				
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室				
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2 (月4)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業では、TOEICテストのリスニングとリーディングに特化して、問題の解き方を学習し練習問題に取り組む。最終的にTOEICテストの400点台を突破することを目指す。
履修条件	今年度前期月曜4限のListening & Speaking 1 (畝部担当) を履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語の聞き取り方、英語の読み方を習得する。
思考・判断の観点 (K)	英語の音声パターン、文章構成を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語の受信能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICテストで400点台を突破できる英語聴解力、英語読解力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 2 (Monday 4th Period)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習、英語聴解力アセスメント	実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。前期末試験を、採点基準を明らかにして返却する。前期学習内容を復習する。	教科書Part 3、Part 7の概要と基本戦略を読む。教科書Unit L-7の音声を確認しておく。教科書Unit R-7を学習する。	120分
第2回	Part 3 会話問題 (1)、Part 7 読解問題 (1)	教科書Unit L-7に基づき会話問題の解き方について学習する。教科書Unit R-7に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-8の音声を確認しておく。教科書Unit R-8を学習する。	120分
第3回	Part 3 会話問題 (2)、Part 7 読解問題 (2)	教科書Unit L-8に基づき会話問題の解き方について学習する。教科書Unit R-8に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-9の音声を確認しておく。教科書Unit R-9を学習する。	120分
第4回	Part 3 会	教科書Unit L-9に基づき会話問題の解き方について学習	授業で学んだ内容を復習する。	120分

	話問題 (3)、 Part 7 読 解問題 (3)	する。教科書Unit R-9に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業中に配付されるプリントを学習する。	
第5回	Part 3 会 話問題 (4)、 Part 7 読 解問題 (4)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第6回	Part 3 会 話問題 (5)、 Part 7 読 解問題 (5)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	Part 3 会 話問題 (6)、 Part 7 読 解問題 (6)	Part 3 会話問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第8回	中間試験と 英語聴解力 アセスメン ト	中間試験と実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	授業で取り上げてきた内容を復習する。教科書Part 4の概要と基本戦略を読み、教科書Unit L-10の音声を確認しておく。教科書Unit R-10を学習する。	120分
第9回	Part 4 説 明文問題 (1)、 Part 7 読 解問題 (7)	教科書Unit L-10に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-10に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-11の音声を確認し、教科書Unit R-11を学習する。	120分
第10回	Part 4 説 明文問題 (2)、 Part 7 読 解問題 (8)	教科書Unit L-11に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-11に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-12の音声を確認し、教科書Unit R-12を学習する。	120分
第11回	Part 4 説 明文問題 (3)、 Part 7 読 解問題 (9)	教科書Unit L-12に基づき説明文問題の解き方について学習する。教科書Unit R-12に基づき読解問題の解き方について学習する。	授業で学んだ内容を復習する。教科書Unit L-13の音声を確認し、教科書Unit R-13を学習する。	120分
第12回	Part 4 説 明文問題 (4)、 Part 7 読 解問題 (10)	Part 4 説明文問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	Part 4 説 明文問題 (5)、 Part 7 読 解問題 (11)	Part 4 説明文問題、Part 7 読解問題の応用問題に取り組む。	授業で学んだ内容を再確認し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	Part 1 & 3 Review、 Part 5 & 6 Review	Part 1とPart 3の復習問題に取り組む。Part 5とPart 6の復習問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習する。	120分
第15回	Part 2 & 4 Review、 Part 7 Review	Part 2とPart 4の復習問題に取り組む。Part 7の復習問題に取り組む。	授業で学んだ内容を復習する。	120分
第16回	期末試験と 英語聴解力 アセスメン ト	期末試験と実用英検準2級程度の英語聴解力アセスメントを行う。	授業で取り上げてきた内容を復習する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。期末試験は次年度4月以降に希望者に返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験、期末試験、平常点（授業中の実績）により判定する。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	TOEIC (R) L&Rテスト戦略的トレーニング：レベル400（朝日出版社）978-4-255-15635-4				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者の意図を的確に理解し、他者との共感を創り出すことができる。</p>				
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室				
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

授業概要 (教育目的)	この授業では、各ユニットのsceneより様々な表現を学ぶ。有用な表現を理解した上で、outputし、自然に使える英語を身に付けることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	後期授業ガイダンス	・成績評価、テキスト、授業の進め方、事前・事後学修について ・Classroom English	・Classroom Englishを覚える ・Unit8 P. 40 Overviewを訳す	60分
第2回	Unit8 At the Shop	・語句の確認 ・DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・発音練習	・Exercises1, 2, 3を解く (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第3回	Unit8 At the Shops	・Exercises1, 2, 3の答え合わせ ・Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・Exercises4, 5, 6, 7, 8を解く	・Unit8の見直し ・Unit9 P. 46 Overviewを訳す	120分
第4回	Unit9 At Sally's Flat	・語句の確認 ・DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・発音練習 ・Exercise1, 2, 3, 5を解く	・Exercises6, 7 (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第5回	Unit10 Car Hire	・Exercises6, 7の答え合わせ ・Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・Exercises1, 2, 3, 4, 5を解く	・Exercises6, 7を解く ・Unit11 P. 56 Overviewを訳す	120分
第6回	Unit11 At	・Unit10 Exercises6, 7答え合わせ	・Exercises1, 3, 4, 5を解く (次	120分

	a London Pub	・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習	回の授業時に答え合わせ)	
第7回	Unit11 At a London Pub	・ Exercises1, 3, 4, 5の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises2, 6, 7, 8を解く	・ Unit11の見直し ・ Unit12 P.62 Overviewを訳す	120分
第8回	Unit12 Finding the Way	・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習	・ Exercises2, 3, 4 (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第9回	Unit12 Finding the Way	・ Exercises2, 3, 4の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises1, 5, 6, 7を解く	・ Unit12の復習 ・ Unit13 P.67 Overviewを訳す	120分
第10回	Unit13 Trafalgar Square	・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習	・ Exercises1, 3を解く (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第11回	Unit13 Trafalgar Square	・ Exercises1, 3の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises2, 4, 5, 6, 7を解く	・ Unit13の復習 ・ Unit14 P.73 Overviewを訳す	120分
第12回	Unit14 Cycle Hire	・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習 ・ Exercises1, 2, 3, 4	・ Exercises5, 6, 7を解く (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第13回	Unit15 Time to Leave	・ Unit14 Exercises5, 6, 7答え合わせ ・ Unit15 Overviewを訳す ・ 語句の確認 ・ DVDを通して、Dialogueの内容確認 ・ 発音練習	・ Exercises1, 3を解く (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第14回	Unit15 Time to Leave	・ Exercises1, 3の答え合わせ ・ Dialogue内の有用な表現の反復練習 ・ Exercises2, 4, 5, 6, 7を解く	・ 指示されたGetting Informationを解く (次回の授業時に答え合わせ)	120分
第15回	Review	・ Getting Informationの答え合わせ ・ 定期試験範囲の総復習	・ 定期試験に向け、復習を行う	180分
第16回	定期試験	・ 学習到達度の確認試験	・ 定期試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。

評価方法

- ・ 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。(小テストに関する追再試験は行わない)
- ・ 定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。
- ・ 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合

小テスト・試験 60%
平常点 (学習意欲、履修態度など) 20%
その他 (任意課題などの提出状況など) 20%

使用教科書名 (ISBN番号) London Alive -Survival English- (朝日出版社) ¥2,400 (税抜)
ISBN 978-4-255-15508-1

参考図書 必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。
【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。

学生へのメッセージ 授業の進行状況によりませんが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、テキスト内のsubstitutionを行う。また、Dialogueを用いたロールプレイングも行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	TOEIC受験対策教材を使用して(文法、読解編)、TOEICでの高得点獲得を目指すとともに、日常生活で出会う英語の読解力、文法力を養う。TOEIC学習は就職に役立つだけでなく、そのまま実用日常英語の勉強になるので、一挙両得と言える。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日常生活で英語が使えるように実際の英語に接し、理解する。
思考・判断の観点 (K)	自分の使う英語が正しいものなのかの判断がしやすくなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英文による記事やメールに積極的に関わろうとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点獲得を目指す。日常生活で出会う英語を読み、自分でも書けるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Drill 1, Drill 2	1. Drill 1 空所補充問題(語彙関連) 2. Drill 2 空所補充問題(連語関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Drill 3, Drill 4	1. Drill 3 空所補充問題(文法関連) 2. Drill 4 空所補充問題	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Drill 5, Drill 6	1. 長文空所補充問題(海外旅行先からのメール)(語彙関連) 2. 長文空所補充問題(市保健所からの健康診断についての連絡メール)(連語関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Drill 7, Drill 8	1. Drill 7 長文空所補充問題(発送した商品に破損があった場合の業者からの謝罪のメール)(文法関連) 2. Drill 8 長文空所補充問題(企業の人事課からの採用応募者への連絡メール)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	Drill 9, Drill 10	1. Drill 9 長文内容把握問題(テレビ局への視聴料支払い方法の電話での問い合わせとその応答)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

		2. Drill 10 長文内容把握問題（交通事故に遭遇した場合の対処の仕方についてのパネルディスカッション）	こと。	
第6回	Drill 11, Drill 12	1. Drill 11 長文内容把握問題（アルバイトの応募願書の一例） 2. Drill 12 長文内容把握問題（教員会議開催の連絡メールとそれへの欠席の返事、さらにその教員に出席を促す返事）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	Drill 13, Drill 14, Drill 15, Drill 16	1. Drill 13 空所補充問題（語彙関連） 2. Drill 14 空所補充問題（連語関連） 3. Drill 15 空所補充問題（文法関連） 4. Drill 16 空所補充問題	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Drill 17, Drill 18, Drill 19	1. Drill 17 長文空所補充問題（京都旅行についての連絡メール）（語彙関連） 2. Drill 18 長文空所補充問題（社内空調機器の動かし方についての説明会の通知のメール）（連語関連） 3. Drill 19 長文空所補充問題（ある工場の従業員カフェテリアの視察と利用者アンケートをとることへの許可を願うメール）（文法関連）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Drill 20, Drill 21, Drill 22	1. Drill 20 長文空所補充問題（ホテルの営業開始の宣伝広告） 2. Drill 21 長文内容把握問題（ツアーガイドとツアー客との会話） 3. Drill 22 長文内容把握問題（ホテルのフロントに掲示してある注意書き）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Drill 23, Drill 24	1. Drill 23 長文内容把握問題（日本旅行に関する案内、アドバイス、国際学生カードのネットショッピング画面） 2. Drill 24 長文内容把握問題（英国人の日本旅行の日程表、日本からの英国の親への手紙、英国に帰国してすぐの親へのメール）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	Drill 25, Drill 26, Drill 27, Drill 28	1. Drill 25 空所補充問題（語彙関連） 2. Drill 26 空所補充問題（連語関連） 3. Drill 27 空所補充問題（文法関連） 4. Drill 28 空所補充問題	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Drill 29, Drill 30, Drill 31	1. Drill 29 長文空所補充問題（遊園地の乗り物に乗る際の注意事項）（語彙関連） 2. Drill 30 長文空所補充問題（昔のクラスメートとの偶然の出会いを伝えるメール）（連語関連） 3. Drill 31 長文内容把握問題（スーパーマーケットの宣伝広告）（文法関連）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	Drill 32, Drill 33	1. Drill 32 長文空所補充問題（オフィスでコンピューターを終了させる時のための注意事項） 2. Drill 33 長文内容把握問題（ハイキングの内容の問い合わせとその返事のメール）		
第14回	Drill 34, Drill 35	1. Drill 34 長文内容把握問題（年末の社内スケジュールを伝える社内メール） 2. Drill 35 長文内容把握問題（入学案内、入学願書）		
第15回	Drill 36	長文内容把握問題（イギリスの友人への訪英予定と近況報告のメールとそれへの返事）		

学生へのフィードバック方法	毎回の授業での小テストは採点してその次回の授業で返却する。
評価方法	小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。
評価基準	
評価基準	
評価割合	小テストの合計90%、定期試験10%
使用教科書名 (ISBN番号)	New Steps to Success in the TOEIC Test: Grammar & Reading 350 (松柏社、2018) 9784881987315

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍するにふさわしい英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく積極的に英語で関わろうとする態度を養う。 【技能・表現】TOEICでの高得点獲得を目指す。日常生活で出会う英語を読めるようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目
学生へのメッセージ	実用英語として丁度いいレベルの教科書です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

基本的な英語読解力と英語表現力の養成に重点を置き授業を行う。英語による文学作品、論説文、随筆、ノンフィクションなど様々な読解資料を通じて書き手の思想や意図などを正しく読み取る読解力だけでなく、事実を描写し自分の意見や考えを論理的かつ的確に表現できるような英語表現力を身につける。この科目を土台として、英語による専門分野の文献読解や英語論文作成につなげていく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Chapter 1 Grammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習を行うこと。	60分
第2回	Chapter 1 5つの基本文型 Grammarと Composition	Chapter 1 Grammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearranging	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第3回	Chapter 1 5つの基本文型 Composition とReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの予習を行うこと。	60分
第4回	Chapter 2 動詞 Grammarと Composition	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分

第5回	Chapter 2 動詞 Composition と Reading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの予習を行うこと。	60分
第6回	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 Grammar と Composition	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 Composition と Reading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 4のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第8回	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 Grammar と Composition	Reading Comprehension II、Chapter 4のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 Composition と Reading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 5のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第10回	Chapter 5 前置詞・接続詞 (I) Grammar と Composition	Reading Comprehension II、Chapter 5のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第11回	Chapter 5 前置詞・接続詞 (I) Composition と Reading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 6のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第12回	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 Grammar と Composition	Reading Comprehension II、Chapter 6のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第13回	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 Composition と Reading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 7のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第14回	Chapter 7 命令文・感嘆文 Grammar Check と Composition	Reading Comprehension II、Chapter 7のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第15回	Chapter 7 命令文・感嘆文 Composition と Reading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	これまでの授業内容の総復習をすること。	予習・復習 840分

学習計画注記

* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Grammar Checkでこれまでの学習の確認をします。

評価方法

- ・教科書の課題ができていかどうか確認します。
- ・定期試験はGrammar Check、Exercises、Composition、Reading Comprehensionから出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英作力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で習ったことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	TOEIC受験対策教材を使用して(文法、読解編)、TOEICでの高得点獲得を目指すとともに、日常生活で出会う英語の読解力、文法力を養う。TOEIC学習は就職に役立つだけでなく、そのまま実用日常英語の勉強になるので、一挙両得と言える。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日常生活で英語が使えるように実際の英語に接し、理解する。
思考・判断の観点 (K)	自分の使う英語が正しいものなのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英文による記事やメールに積極的に関わろうとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点獲得を目指す。日常生活で出会う英語を読み、自分でも書けるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Drill 1, Drill 2	1. 空所補充問題(語彙関連) 2. 空所補充問題(連語関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Drill 3, Drill 4 Drill 5	1. Drill 3 空所補充問題(文法関連) 2. Drill 4 空所補充問題 3. Drill 5 長文空所補充問題(旅行会社からの日程表とチケットの送付の書簡)(語彙関連)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Drill 6, Drill 7, Drill 8	1. Drill 6 長文空所補充問題(中古ピアノ販売業者の宣伝広告)(連語関連) 2. Drill 7 長文空所補充問題(大学時代の恩師の講演を聞いてのその恩師への手紙)(文法関連) 3. Drill 8 長文空所補充問題(社内コピー機の使い方についての通知)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Drill 9, Drill 10	1. Drill 9 長文内容把握問題(タイ旅行の報告のメール) 2. Drill 10 長文内容把握問題(フィットネスクラブの宣伝広告)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

第5回	Drill 11, Drill 12	1. Drill 11 長文内容把握問題（郵便局の利用案内、会社の同僚に郵便物の発送を依頼するメモ） 2. Drill 12 長文内容把握問題（旅行会社からの出張の使用列車を知らせる手紙、会議の日時の変更を相手側に求めるメールとそれへの承諾の返事）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	Drill 13, Drill 14, Drill 15	1. Drill 13 空所補充問題（語彙関連） 2. Drill 14 空所補充問題（連語関連） 3. Drill 15 空所補充問題（文法関連）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	Drill 16, Drill 17	1. Drill 16 空所補充問題 2. Drill 17 長文空所補充問題（インターネット講習への問い合わせへの返事メール）（語彙関連）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Drill 18, Drill 19, Drill 20	1. Drill 18 長文空所補充問題（残業が生じたため自宅での妻の誕生日パーティーに参加できなくなったことを知らせるメール）（連語関連） 2. Drill 19 長文空所補充問題（いいレストランの紹介文）（文法関連） 3. Drill 20 長文空所補充問題（台風で空港が閉鎖されたというニュース）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Drill 21, Drill 22	1. Drill 21 長文内容把握問題（金に困っている友人に宝くじの購入を勧めるメールのやり取り） 2. Drill 22 長文内容把握問題（地震の際の注意事項）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Drill 23	長文内容把握問題（会議の場所候補を知らせる手紙、それに同封されたホテルのパンフレット）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	Drill 24	長文内容把握問題（カウンセリングセンターの広告、そこへの悩み事相談の手紙、それへの対処不能を告げる返事）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Drill 25, Drill 26, Drill 27, Drill 28	1. Drill 25 空所補充問題（語彙関連） 2. Drill 26 空所補充問題（連語関連） 3. Drill 27 空所補充問題（文法関連） 4. Drill 28 空所補充問題	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	Drill 29, Drill 30, Drill 31	1. Drill 29 長文空所補充問題（スーパーマーケットのポイント特典セールスの宣伝広告）（語彙関連） 2. Drill 30 長文空所補充問題（悪天候のために予定していたハイキングの中止を提案するメール）（連語関連） 3. Drill 31 長文空所補充問題（図書館からの図書の返却を求める手紙）（文法関連）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	Drill 32, Drill 33, Drill 34	1. Drill 32 長文空所補充問題（新婚旅行から戻ってきた娘から母親へのメール） 2. Drill 33 長文内容把握問題（テレビ視聴についてのメールでのアンケート調査とその回答） 3. Drill 34 長文内容把握問題（音楽祭のポスター）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Drill 35, Drill 36	1. Drill 35 長文内容把握問題（国際学生会議の開催案内、そこでの発表希望がどう処理されたのかを問うメール） 2. Drill 36 長文内容把握問題（ホテルのレストランでの商談の提案の手紙と、それに同封されたレストランのパンフレット、その提案への都合がつかない旨の返事の手紙）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 授業毎回での小テストは採点してその次回の授業で返却する。

評価方法 小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合 小テスト90%、定期試験10%

使用教科書名 (ISBN番号)	New Steps to Success in the TOEIC Test: Grammar & Reading 450 (松柏社、2018) 978-88198-732-2	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍するにふさわしい英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく英語で関わろうとする態度を養う。 【技能・表現】日常生活で出会う英語を読めるようにする。	
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目	
学生へのメッセージ	日常英語の勉強として丁度いいレベルの教科書です。特に長文読解は楽しめて役立つと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading&Writing 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)

基本的な英語読解力と英語表現力の養成に重点を置き授業を行う。英語による文学作品、論説文、随筆、ノンフィクションなど様々な読解資料を通じて書き手の思想や意図などを正しく読み取る読解力だけでなく、事実を描写し自分の意見や考えを論理的かつ的確に表現できるような英語表現力を身につける。この科目を土台として、英語による専門分野の文献読解や英語論文作成につなげていく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の学習内容の復習	前期の学習内容の復習をする。	Chapter 7 Reading Comprehension II、Chapter 8 のGrammar Check Exercisesの予習を行うこと。	60分
第2回	Chapter 8 不定冠詞 GrammarとComposition	Chapter 7 Reading Comprehension II、Chapter 8のGrammar Check、Exercisesの答え合わせと解説を行う。	Vocabulary、Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iを予習すること。	60分
第3回	Chapter 8 不定冠詞 CompositionとReading	Vocabulary、Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iを予習すること。	Reading Comprehension II、Chapter 9 動名詞と分詞のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingを予習すること。	60分
第4回	Chapter 9 動名詞と分詞	Reading Comprehension II、Chapter 9 動名詞と分詞のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading	60分

	GrammarとComposition		Comprehension Iの予習を行うこと。	
第5回	Chapter 9 動名詞と分詞 CompositionとReading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第6回	Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法 GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法 CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 11 受動態のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第8回	Chapter 11 受動態 GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 11 受動態のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 11 受動態 CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第10回	Chapter 12 完了形 GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第11回	Chapter 12 完了形 CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第12回	Chapter 13 接続詞 GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第13回	Chapter 13 接続詞 CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第14回	Chapter 14 仮定法 GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第15回	Chapter 14 仮定法 CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	これまでの授業内容の総復習をしておくこと。	予習・復習 840分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Grammar Checkでこれまでの学習の確認をします。
評価方法	・教科書の課題ができているかどうか確認します。 ・定期試験はGrammar Check、Exercises、Composition、Reading Comprehensionから出題します。

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	教科書の課題	○		○	○
	定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英作力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で習ったことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Communication English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the ability to use English in daily life
履修条件	No prerequisite

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions / About you	Introduce yourself and tell where you are from.	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.	60
第2回	Coming to school / lifestyle	Talk about where you live / Are you happy these days?	Prepare by reading p. 4-5; 36-37.	60
第3回	Family life	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?	Prepare by reading p. 6-7; 38-39	60
第4回	Work / Club activities	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?	Prepare by reading p. 8-9; 40-41	60
第5回	Seasons	Talk about the weather / What kind of music do you like?	Prepare by reading p. 10-11; 42-43	60
第6回	University Life	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?	p. 12-13; 44-45	60
第7回	Colors	What are your favorite colors? / What kind of ramen noodles do you like?	p. 14-15; 46-47	60

第8回	Free time	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?	p. 16-17; 48-49	60
第9回	Sports	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Pets	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?	p. 20-21; 52-53	60
第11回	Traveling	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?	p. 22-23; 54-55	60
第12回	Types of people	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	Technology	Do you like your smartphone? / How often do you cook?	p. 30-31; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare with a partner for the speaking test. Students can choose topics to use from the book.	p. 2-59	120
第15回	Speaking Test	Five minute speaking test with a partner. A natural English conversation without notes or books.	p. 2-59	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.
評価方法	Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)
参考図書	A Japanese - English dictionary
参考URL	http://www.hotcocoa.jp/
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand English at a basic level.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Communication English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions	How to talk about where you live / your summer vacation	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.	60
第2回	Work and play	Your circles and clubs / your shopping habits	p. 4-5; 36-37	60
第3回	Seasons / Colors	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food	p. 6-7; 38-39	60
第4回	Yesterday / This evening	What did you do last weekend? / How do you get the news?	p. 8-9; 40-41	60
第5回	Movies / music	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)	p. 10-11; 42-43	60
第6回	University life	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?	p. 12-13; 44-45	60
第7回	Free time	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?	p. 14-15; 46-47	60
第8回	Meals	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know	p. 16-17; 48-49	60

第9回	Coffee / ramen	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Technology	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?	p. 20-21; 52-53	60
第11回	Animals	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?	p. 22-23; 54-55	60
第12回	Sightseeing	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	More technology	Your smartphone and web-browsing / How was your New Year break?	p. 28-29; 60-61	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for the final speaking test with a partner. Students can choose the topics from the book they want to talk about. No notes or books during the speaking test.	p. 2- 61	120
第15回	Speaking Test	Five minute speaking test with a partner in natural English.	p. 2 -61	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feedback from the teacher.
評価方法	Weekly quizzes are worth 5 points. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)
参考図書	A Japanese - English dictionary
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand basic English conversation.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday 1300- 14:00; Machida Campus: Wednesday, 9- 10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	本講座は、初めてTOEIC受検対策に臨む方を対象としています。まずは日常的なコミュニケーションができるレベルを目標に据えて勉強していきましょう。ただ、TOEICには日本の高校までの学校英語では対応できないような問題も出題されます。授業では、そのための勉強法も伝授します。高校までの英語を復習しながら、TOEICテストへの取り組み方を学び、解法のコツや戦略を身につけましょう。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	平易なビジネス文書を読解し、必要な情報を取捨選択できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	一定の限度内では、日常生活のニーズを充足し、業務上のコミュニケーションを図れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 第1課 外食	・授業の進め方について ・TOEICテストについて ・リスニング・セクション	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 外食	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞	テキストp3-8 (リスニング・セクションはわかるまで何度もCDを聞き、リーディング・セクションは十分に読解したうえで解答すること。以降、同様に予習すること。)	90分
第3回	第2課 旅行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞の時制(1)	p9-14	90分
第4回	第2課 旅行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞の時制(2)	p21、23-28	90分

	第3課 娯楽			
第5回	第3課 娯楽 第4課 会合	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：代名詞	p29、31-35	90分
第6回	第4課 会合 第5課 人	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：不定詞	p36、39-40、43-44	90分
第7回	第5課 人 第6課 買い物	リスニング・セクション リーディング・セクション 中間テスト前のまとめ	p36、39-40、43-44	90分
第8回	中間テスト 第6課 買い物	中間テスト 第6課 リーディング・セクション 文法：動名詞	前回までの内容（第1課～第6課、p1-44）について中間テストを実施するので、よく復習しておくこと。 p45	270分
第9回	第7課 広告	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（1）	p47-49、52-53、55	90分
第10回	第8課 日常生活	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（2）	p57、60-61、63-64	90分
第11回	第9課 オフィス・ワーク	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法	p65、68-69、仮定法のプリント（読んで設問に解答しておくこと）	90分
第12回	第9課 オフィス・ワーク 第10課 ビジネス	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法、分詞	p71-73、75-78	90分
第13回	第10課 ビジネス 第11課 交通	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：関係詞	p80-83、86-88	90分
第14回	第12課 金融と銀行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：接続詞	p93、96-97、99-100	90分
第15回	第13課 メディア	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：前置詞 定期試験前のまとめ	p101、104-105、107	90分

学習計画注記 あくまでも予定です。状況によってスケジュールや進捗が変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法 実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答を配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであるとともに定期試験のリハーサルという側面も持っています。勉強法や勉強量などについての反省点を、定期試験対策として生かしてください。

- 評価方法**
- ・第8回に中間テストを実施する。出題数は40問で40点満点。欠席した場合は、課題で評価する。
 - ・定期試験は50点満点で出題する。
 - ・中間テストと定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施している。
 - ・平常点の取り扱いについては、初回の授業で詳しく説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	いま始めようTOEICテスト 北尾靖幸、他、著 朝日出版社	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【技能・表現】 学修で得た英語技能をもって、国際的なビジネスの現場でコミュニケーションを図る能力。	
学生へのメッセージ	十分な予習をしたうえで授業に臨んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、TOEICの問題集を教材として、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、試で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	(検定試験において) 培った知識により、正しい選択肢を選ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	目標スコアを設定し、自信をもって積極的に受験できる。
技術・表現の観点 (A)	長文の速読に慣れ、必要な情報を的確に選択できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業ガイダンス、Unit7 Mini Twst (プリント配布)	・成績評価、テキスト、授業の進め方、事前・事後学習について ・Unit7 Mini Test実施、答え合わせ、解説	・Unit7 Mini Testの見直し ・テキストP.13 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	60分
第2回	Unit1 The Weather: Listening中心	・新形式: 3人の会話を含めたリスニング問題を解く ・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く	・テキストに添付のCDを用いて、配布課題のリスニングを行う。(次週、解説) ・テキストP.13 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	120分
第3回	Unit2 Shopping: Reading中心	・名詞、代名詞、冠詞の復習 ・新形式のチャット形式の文書を中心とした問題を解く	・テキストP.17 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	120分
第4回	Unit3 At the Airport: Listening中心	・新形式: 図表を伴う問題を含めたリスニング問題を解く ・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く	・テキストP.20 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	120分
第5回	Unit4 Travel: Reading中心	・動詞の時制の復習 ・新形式: 空欄に適する文を選択する問題を含めた問題を解く	・テキストP.24 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	120分
第6回	Unit5 Health: Listening中心	・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く ・新形式: 話し手の意図を問う形式を含めた問題を解く	・テキストP.27 Warm-up CheckA, Bを解く(次週、答え合わせ)	120分

第7回	Unit6 Housing: Reading中心	・形容詞、副詞、比較の復習 ・新形式：空欄に適する文を選択する形式を含む問題を解く	・テキストP.35 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第8回	Unit8 Getting a Job:: Listening中心	・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く ・新形式：話し手の意図を問う形式を含めた問題を解く	・テキストP.38 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第9回	Unit9 In the Workplace: Reading中心	・使役動詞、不定詞、動名詞の復習 ・新形式：空欄に適する文を選択する問題を含めた問題を解く	・テキストP.42 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第10回	Unit10 New Products: Listening中心	・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く ・新形式：3人の会話を含めた問題を解く	・テキストP.45 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第11回	Unit11 Office Message: Reading 中心	・受動態の復習 ・新形式：文の挿入箇所を選ぶ形式を含む問題を解く	・テキストP.48 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第12回	Unit12 Sales: Listening中心	・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く ・新形式：図表を伴う形式を含む問題を解く	・授業時に指示	120分
第13回	DVD鑑賞	リスニング強化の一環として、海外ドラマにてセリフの書き取りなどを行う。	・テキストP.51 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第14回	Unit13 Ordering: Reading中心	・接続詞、前置詞、関係詞の復習 ・新形式：空欄に適する文を選択する問題を含む問題を解く	・テキストP.55 Warm-up CheckA, Bを解く（次週、答え合わせ）	120分
第15回	Unit14 Commuting: Listeningを中心	・TOEIC Listening Part1~4の練習問題を解く ・新形式：話し手の意図を問う形式を含む問題を解く	・定期試験に向けて、復習を行う	180分
第16回	定期試験	・学習到達度の確認（筆記）、リスニング問題を含む	・定期試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。

評価方法 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない）
定期試験は、授業内容を中心として出題する。
小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○	○	○
平常点	○		○	
その他	○		○	

評価割合 小テスト・試験 60%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 20%

使用教科書名 (ISBN番号) Simply 500: Acing the TOEIC Listening & Reading Test (南雲堂) ¥1,600 (税抜)
ISBN 978-4-523-18521-5

参考図書 必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 ビジネス一般で通用する基本的な能力がある。

学生へのメッセージ 授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	単なる解法テクニック教授の授業にならないよう、「その解答を導いたプロセス」について、履修者に積極的な発言を求める。
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

授業概要 (教育目的)	フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 2. 挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	Bonjour! (1) はじめに 発音	日本でもよく耳にするフランス語由来のことばについて、フランス語の綴りと発音を学びます。	教科書62ページからの「綴り字の読み方」を参考に、教科書6ページに出ている単語を発音し、発音と綴り字の関係に留意して、綴りを正確に覚えるようにしましょう。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています (「学生へのメッセージ」参照のこと)。	120分
第2回	Bonjour! (2)	アルファベの読みと発音を学びます。次に、「こんにちは」「おげんきですか?」「元気?」「どういたしまし	アルファベの読みと発音を正確に覚えます。教科書に出てきた	120分

	アルファベ 挨拶	て」「さようなら」といった基本表現を学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(69ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	基本表現、会話文を何度も発音し、そして正確に綴れるようになるまで紙に書きます。	
第3回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (1)	フランス語の名詞には性と数の別があることを理解します。「ビールをください」「お嬢さん、あなたは？」などが、フランス語で言えるようになります。	教科書10ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第4回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (2)	不定冠詞の種類を理解し、使い分けができるようになります。	教科書に載っている、日常生活でよく目にする食べ物や飲み物について、適切な不定冠詞を付けた形で発音し、書けるようにしてください。	120分
第5回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (3)	フランス語の数詞1~20を学びます。次に、いろいろな名詞に付けてみます。足し算、引き算を学びます。カフェで注文する練習をします。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(70ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第1課の小テストを実施しますので、第1課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第6回	第1課の小テスト、第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (1)	(冒頭で、第1課の小テストを実施) 各々の主語人称代名詞が指す対象と、動詞êtreの直説法現在の活用を理解します。「私の名前は~です」「あなたは~です」などの表現が使えるようになります。	動詞êtreの直説法現在の活用を何度何度も発音し、紙に書いて、完全に覚えるようにしてください。教科書14ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第7回	第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (2)	第1課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。否定文の作り方を学びます。「私は学生ではない」「私はアメリカ人ではない」などの文が作れるようになります。	教科書14~15ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第8回	第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (3)	疑問文の作り方を学びます。「あなたは学生さんですか?」「あなたはアメリカのかたですか?」などの文が作れるようになります。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(71ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第2課の小テストを実施しますので、第2課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第9回	第2課の小テスト、第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (1)	(冒頭で、第2課の小テストを実施) 「私の父」「私の母」「私の両親」と言うときに使う所有形容詞、それに「彼らはとても忙しい」という文の「忙しい」のような品質形容詞の性・数一致を学びます。	教科書17ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第10回	第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (2)	第2課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。練習問題を解きながら、動詞êtreの直説法現在の活用及び、形容詞の性・数一致の規則に精通します。	教科書17~18ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第11回	第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (3)	前週に引き続き、形容詞の性・数一致や形容詞の置かれる位置について学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(72ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第3課の小テストを実施しますので、第3課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第12回	第3課の小テスト、第4課 Vous avez des bagages? パリを	(冒頭で、第3課の小テストを実施) 動詞avoirの直説法現在の活用を学びます。「エッフェル塔に行きたいんですが」「荷物がありますか?」「あれはなんですか?」といった表現が使えるようになります。定冠詞の用法を学びます。	教科書20ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

	移動する (1)			
第13回	第4課 Vous avez des bagages ? パリを 移動する (2)	第3課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。既習の数詞である1～20までを復習し、理解を確認します。次に、90まで学びます。フランス語の数詞の作り方、仕組みを理解します。	教科書20～21ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第14回	第4課 Vous avez des bagages ? パリを 移動する (3)	「マリーには兄弟が、いますか?」「フランスは20歳だ」「あなたは犬を飼っていますか?」など、動詞にavoirを使う表現を学びます。「私は犬を飼っていません」のような否定文の時の、否定の冠詞deについても学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(73ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第4課の小テストを実施しますので、第4課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口について出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第15回	第4課の小テスト、前期授業の総復習、練習問題演習	(冒頭で、第4課の小テストを実施)回収した第4課の小テストの解答・解説を行います(皆さんの答えは、定期試験当日に返却します)。その後は、前期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	次週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	240分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法 評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。(私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非是非、公正に評価します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点(小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合 期末の定期試験の結果が60%、平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。

使用教科書名(ISBN番号) 『フランス語でサバイバル! (三訂版)』 内村瑠美子 他6名共著 白水社刊 定価(本体2000円+税) 978-4-560-06132-9

参考図書 仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解/思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。
【技能・表現】「学習で得た専門的技能(技術)をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ 皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

授業概要 (教育目的)	フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 2. 挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	Bonjour! (1) はじめに 発音	日本でもよく耳にするフランス語由来のことばについて、フランス語の綴りと発音を学びます。	教科書62ページからの「綴り字の読み方」を参考に、教科書6ページに出ている単語を発音し、発音と綴り字の関係に留意して、綴りを正確に覚えるようにしましょう。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています (「学生へのメッセージ」参照のこと)。	120分
第2回	Bonjour! (2)	アルファベの読みと発音を学びます。次に、「こんにちは」「おげんきですか?」「元気?」「どういたしまし	アルファベの読みと発音を正確に覚えます。教科書に出てきた	120分

	アルファベ 挨拶	て」「さようなら」といった基本表現を学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(69ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	基本表現、会話文を何度も発音し、そして正確に綴れるようになるまで紙に書きます。	
第3回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (1)	フランス語の名詞には性と数の別があることを理解します。「ビールをください」「お嬢さん、あなたは？」などが、フランス語で言えるようになります。	教科書10ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第4回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (2)	不定冠詞の種類を理解し、使い分けができるようになります。	教科書に載っている、日常生活でよく目にする食べ物や飲み物について、適切な不定冠詞を付けた形で発音し、書けるようにしてください。	120分
第5回	第1課 Un jus de fruit, s'il vous plaît. 機内サービス (3)	フランス語の数詞1~20を学びます。次に、いろいろな名詞に付けてみます。足し算、引き算を学びます。カフェで注文する練習をします。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(70ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第1課の小テストを実施しますので、第1課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第6回	第1課の小テスト、第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (1)	(冒頭で、第1課の小テストを実施) 各々の主語人称代名詞が指す対象と、動詞êtreの直説法現在の活用を理解します。「私の名前は~です」「あなたは~です」などの表現が使えるようになります。	動詞êtreの直説法現在の活用を何度何度も発音し、紙に書いて、完全に覚えるようにしてください。教科書14ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第7回	第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (2)	第1課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。否定文の作り方を学びます。「私は学生ではない」「私はアメリカ人ではない」などの文が作れるようになります。	教科書14~15ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第8回	第2課 Je m'appelle Mika. 機内での会話 (1) - (3)	疑問文の作り方を学びます。「あなたは学生さんですか?」「あなたはアメリカのかたですか?」などの文が作れるようになります。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(71ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第2課の小テストを実施しますので、第2課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第9回	第2課の小テスト、第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (1)	(冒頭で、第2課の小テストを実施) 「私の父」「私の母」「私の両親」と言うときに使う所有形容詞、それに「彼らはとても忙しい」という文の「忙しい」のような品質形容詞の性・数一致を学びます。	教科書17ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第10回	第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (2)	第2課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。練習問題を解きながら、動詞êtreの直説法現在の活用及び、形容詞の性・数一致の規則に精通します。	教科書17~18ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第11回	第3課 Elle est actrice. 機内での会話 (2) - (3)	前週に引き続き、形容詞の性・数一致や形容詞の置かれる位置について学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(72ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第3課の小テストを実施しますので、第3課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第12回	第3課の小テスト、第4課 Vous avez des bagages? パリを	(冒頭で、第3課の小テストを実施) 動詞avoirの直説法現在の活用を学びます。「エッフェル塔に行きたいんですが」「荷物がありますか?」「あれはなんですか?」といった表現が使えるようになります。定冠詞の用法を学びます。	教科書20ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

	移動する (1)			
第13回	第4課 Vous avez des bagages ? パリを 移動する (2)	第3課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。既習の数詞である1～20までを復習し、理解を確認します。次に、90まで学びます。フランス語の数詞の作り方、仕組みを理解します。	教科書20～21ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第14回	第4課 Vous avez des bagages ? パリを 移動する (3)	「マリーには兄弟が、いますか?」「フランスは20歳だ」「あなたは犬を飼っていますか?」など、動詞にavoirを使う表現を学びます。「私は犬を飼っていません」のような否定文の時の、否定の冠詞deについても学びます。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(73ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第4課の小テストを実施しますので、第4課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口について出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第15回	第4課の小テスト、前期授業の総復習、練習問題演習	(冒頭で、第4課の小テストを実施)回収した第4課の小テストの解答・解説を行います(皆さんの答えは、定期試験当日に返却します)。その後は、前期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	次週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	240分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法 評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。(私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非是非、公正に評価します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点(小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合 期末の定期試験の結果が60%、平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。

使用教科書名(ISBN番号) 『フランス語でサバイバル! (三訂版)』 内村瑠美子 他6名共著 白水社刊 定価(本体2000円+税) 978-4-560-06132-9

参考図書 仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解/思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。
【技能・表現】「学習で得た専門的技能(技術)をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ 皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

授業概要(教育目的)	前期と同様です。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 2. 挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	後期授業への導入、方向付け 前期の学習内容の復習	前期の学習内容の復習です。練習問題のプリントも配布して、文法の復習をします。	教科書、ノート、配布した補足の練習問題のプリントを使って、前期の授業で学んだことを予め復習してきてください。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています(「学生へのメッセージ」参照のこと)。	120分
第2回	第5課 Quel est votre nom ? ホテルにチェックイン(1)	「部屋はありますか?」「高いですね!」「80ユーロの部屋もあります」それに、疑問形容詞を用いた「あなたのお名前は?」といった表現を学びます。	教科書23ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

第3回	第5課 Quel est votre nom ? ホテルに チェックイ ン(2)	前回に引き続き、疑問形容詞について、もう少し詳しく学びます。	教科書23～24ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第4回	第5課 Quel est votre nom ? ホテルに チェックイ ン(3)	「～の上に」「～の下に」「～の前に」といった位置関係をあらかず前置詞を学びます。「テレビはどこにあるの?」「テーブルの下には何がありますか?」などの表現が使えるようになります。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(74ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第5課の小テストを実施しますので、第5課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をつけて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第5回	第5課の小 テスト、第 6課 J' aime la peinture. 好きなこと について話 す(1)	(冒頭で、第5課の小テストを実施)「私は絵画がとても好きです」「なぜですか?」「なぜなら～」といった表現を学びます。文法では、第1群規則動詞[-er型動詞]とよばれる、重要な動詞の直説法現在の活用を学びます。	教科書26ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第6回	第6課 J' aime la peinture. 好きなこと について話 す(2)	第5課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。前週に引き続き、第1群規則動詞[-er型動詞]を学びます。「音楽を聴く」「テニスをする」「旅行する」などが言えるようになります。感情・状態を表す表現も学びます。	教科書26～27ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第7回	第6課 J' aime la peinture. 好きなこと について話 す(3)	自分の好き嫌いや、そうである理由を言えるようになります。教科書巻末に付いている分野別単語リストを使って、自由に作文してみましよう。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(75ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第6課の小テストを実施しますので、第6課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をつけて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第8回	第6課の小 テスト、第 7課 Où est la banque ? 道をたずね る(1)	(冒頭で、第6課の小テストを実施)英語のgoに相当する、重要な動詞aller、命令法、前置詞と定冠詞の縮約を学びます。「銀行はどこですか?」「まっすぐ行ってください」などが言えるようになります。	教科書29ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第9回	第7課 Où est la banque ? 道をたずね る(2)	第6課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。英語のtakeに相当する、重要な動詞prendreを学びます。	教科書29～30ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第10回	第7課 Où est la banque ? 道をたずね る(3)	教科書に載っているイラストの地図を使って、道をたずねる文や、それに応答する文を作ります。肯定文、否定文、疑問文、命令文など、これまでに学んだ知識を駆使して、さまざまな文を作ります。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(76ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第7課の小テストを実施しますので、第7課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をつけて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第11回	第7課の小 テスト、第 8課 On va faire du shopping ? カフェで (1)	(冒頭で、第7課の小テストを実施)第8課は、英語のcanに相当する重要な動詞pouvoirの直説法現在の活用や、近い未来の表現、部分冠詞、動詞boire「飲む」の直説法現在の活用を学ぶ課です。「私はココアを飲みます」「ここでタバコを吸えますか(吸ってもいいですか)?」などの表現を学びます。	教科書32ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。DIALOGUEの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第12回	第8課 On va faire du shopping ? カフェで (2)	第7課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。前週に引き続き、部分冠詞を学びます。不定冠詞と部分冠詞の用法の違いを理解します。他、「のどが渴いている」「眠い」「頭が痛い」といった表現も学びます。	教科書32～33ページを、指示されている文法ページを参照しながら、復習してください。	120分
第13回	第8課 On va faire du shopping ? カフェで (3)	動詞pouvoirを使った、可能性を確かめたり、許可を求めたりする文をさまざまに作ります。「クレジットカードで支払えますか?」「写真をとってもいいですか?」など。授業の最後に、教科書巻末の切り取り式練習問題集の該当ページ(77ページ)を解きます。私が問題の正解を言い(書き)ますので、各自で丸つけをして提出してもらいます。	次週の授業の最初に、第8課の小テストを実施しますので、第8課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をつけて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第14回	第8課の小	(冒頭で、第8課の小テストを実施)第9課以降に配当	次々週が定期試験ですから、前	120分

	テスト、時間の表現・天候をあらわす表現・比較表現を学ぶ	されているけれども、当授業でぜひ学んでおきたい表現を学びます。「次の列車は何時に出ますか?」「今、何時ですか?—4時15分前です」「いい天気です」「ピエールはマリアよりも年上だ」など。	期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。
第15回	後期授業の総復習、練習問題演習	第8課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。後期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	次週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法 評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が40%です。（私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉強意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非非、公正に評価します）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点（小テストを含む）	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合 評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が40%です。

使用教科書名 (ISBN番号) 前期の入門1で使用した同じ教科書を継続して使用します。
『フランス語でサバイバル! (三訂版)』 内村瑠美子 他6名共著 白水社刊 定価（本体2000円+税）978-4-560-06132-9

参考図書 仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。
【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。

学生へのメッセージ 皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ アニー フランス	指定なし

授業概要(教育目的)

授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に会おうときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになります。
フランス語会話(入門)の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	異文化(フランス)を通じた文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Les vacances 夏休みの過ごし方	プリント	前期の復習	120分
第2回	Personnages de BD マンガの人物の紹介	教科書レッスン(32-33ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第3回	La possession 持ち物	教科書レッスン9(34-35ページと書き方の練習38ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第4回	les vêtements et les couleurs 洋服と色	教科書レッスン10(36-37ページと書き方の練習39ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分

第5回	Magazines de mode ファッションマガジン	(プリント)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第6回	l'âge et la majorité 年齢と成人期	教科書レッスン11 (40-41ページと書き方の練習44ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第7回	Demander le prix 値段を尋ねる	教科書レッスン12 (42-43ページと書き方の練習45ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第8回	Jeu de 7 familles カードゲーム	(プリント)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第9回	Les lois en France (alcool - tabac) タバコとアルコールに対するフランスの法律	教科書 (46-47ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第10回	Exprimer une intention 意思表示	教科書レッスン13 (48-49ページと書き方の練習52ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第11回	Chez le médecin 病院に行く	教科書レッスン14 (50-51ページと書き方の練習53ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第12回	Dire et demander l'heure 時間の言い方	教科書レッスン15 (54-55ページ書き方の練習58ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第13回	Noël et Epiphanie en France フランスのクリスマス／ガレット (1月のケーキ)のレシピ	ビデオとプリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第14回	Parler de ses projets 予定について話す	教科書レッスン16 (56-57ページと書き方の練習59ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第15回	Ecrire une lettre à une famille d'accueil ホストファミリーに手紙を書く	手紙	前のレッスンの復習と手紙の準備	240分

学生へのフィードバック方法 授業中で口頭による評価

評価方法 授業態度・小テストを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度	○	○	○	
小テスト	○			

評価割合 授業態度: 50% 小テスト: 50%

使用教科書名 (ISBN番号)	“Patachou 1 - Conversation” 朝日出版社 ISBN : 978-4-255-35205-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】簡単なフランス語で買い物や意思表示することができる。 【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。 【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。
学生へのメッセージ	短い会話を覚える。(小テストがあります) 必ず教科書を忘れないようにする。 学校に教科書を忘れた際は、必ず授業前にレッスンのページを他学生にコピーをさせてもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

授業概要(教育目的)

本授業は、前期に身についた基礎を更に発展させる。後期には、繰り返しヒアリングと音読を通して、基礎レベルの語彙と文法、表現を習得し、作文と会話も重視する。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音と基礎的な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	1ー中国語でメールを送り、中国人と日常的な会話ができるようになる。 2ー中国語の平易な物語や一般的な新聞や雑誌の記事が読める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第7課	新出単語とポイント7(存現文、主語がフレーズのとき、「～了～了」の用法)	第7課の単語とポイントを予習すること	30分
第2回	第7課	「街を歩こう!」の本文とトレーニング7	第7課の本文を予習すること	30分
第3回	第8課	新出単語とポイント8(状態の持続を表す「着」、副詞「再」、疑問詞の不定用法)	第8課の単語とポイントを予習すること	30分
第4回	第8課	「中国映画を見よう!」の本文とトレーニング8	第8課の本文を予習すること	30分
第5回	第9課	新出単語とポイント9(方向補語、使役を表す「让」) 小テスト1	第9課の単語とポイントを予習すること 授業の最後に第7課と第8課にかかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第6回	第9課	「チャイナドレスを買おう!」の本文とトレーニング9	第9課の本文を予習すること	30分
第7回	第10課	新出単語とポイント10(可能補語、強調表現)	第10課の単語とポイントを予習すること	30分

第8回	第10課	「中華を食べよう！」の本文とトレーニング10	第10課の本文を予習すること	30分
第9回	第11課	新出単語とポイント11（結果補語（2）、受身を表す「被」） 小テスト2	第11課の単語とポイントを予習すること 授業の最後に第9課と第10課にかかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第10回	第11課	「西遊記を読もう！」の本文とトレーニング11	第11課の本文を予習すること	30分
第11回	第12課	新出単語とポイント12（「快～了」の用法、「把」の構文）	第12課の単語とポイントを予習すること	30分
第12回	第12課	「春節を祝おう！」の本文とトレーニング12	第12課の本文を予習すること	30分
第13回	メールをだそう！	中国語でメールを書く 小テスト3	「メールを出そう！」の単語と本文を予習すること 授業の最後に第11課と第12課にかかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第14回	中国朋友と話そう！	中国語の会話と重要構文を学習する	教科書60～61ページを予習すること	30分
第15回	後期のまとめ	これまでの授業の内容の総復習	教科書の第7課～第12課までの内容を復習すること	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて模範解答と一緒に返却する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 定期試験は100点満点で出題し、出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点20%、小テスト30%、定期試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	尹景春・竹島毅『新版 中国語つぎへの一歩』白水社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎的な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

授業概要(教育目的)	韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをします。
------------	----------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音の練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音	ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。	プリントを読み、ハングル文字の仕組みについて理解すること。	60分
第2回	10個の基本母音	韓国語の基礎母音10個を学ぶ。	復習として10個の基本母音の発音を練習すること。	60分
第3回	二重母音	韓国語の二重母音について学ぶ。	復習として二重母音の発音を練習すること。	60分
第4回	母音の復習	これまで学んだ母音全体の復習。	復習として韓国語の母音の発音を練習すること。	60分
第5回	19個の基本子音(1)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として子音の発音を練習すること。	60分
第6回	19個の基本子音(2)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として韓国語の子音の発音を練習すること。	60分

第7回	19個の基本子音(3)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として韓国語の子音の発音を練習すること。	60分
第8回	子音の復習	これまで学んだ子音全体の復習。	復習として母音と子音を組み合わせさせて発音を練習すること。	60分
第9回	パッチム(1)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチムの発音を練習すること。	60分
第10回	パッチム(2)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチムの発音を練習すること。	60分
第11回	文字と発音の復習	これまで学んだ文字の書き方、発音のし方を復習する。	復習として母音、子音、パッチムを組み合わせ書いてみて、発音の練習をすること。	60分
第12回	基本文法 I 「○○は○○です」	韓国語の助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	基本文法 II 「韓国語のコ、ソ、ア」	韓国語の「コ、ソ、ア」について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	基礎文法 III 「○○は○○ではありません」	「～ではありません」に当たる韓国語の表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	全体の復習	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし

学習計画注記	特になし。
--------	-------

学生へのフィードバック方法	前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の修得であるため、毎回の授業で発音の練習と発表を行う。受講生の1人ずつに発音を発表してもらい、修正するフィードバックの過程を繰り返す。必ず前回学習した発音を練習することが望ましい。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	平常点(出席、授業への参加態度)と定期試験の結果で総合的に評価する。
------	------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点(出席、授業への参加態)	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：50% 定期試験：50% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
------	----------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配布
-----------------	--------

学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旼廷	指定なし

授業概要(教育目的)	韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
履修条件	韓国語入門1の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習	前期学んだ文法の復習。	前期学んだハングル文字の書き方・読み方及び基礎文法を予習しておくこと。	60分
第2回	存在の表現1	韓国語の存在表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第3回	存在の表現2	韓国語の存在表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第4回	位置に関する表現1	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第5回	位置に関する表現2	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第6回	位置に関する表現3	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第7回	数字に関する	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自	60分

	る表現1		ら考えて文を作ること。	
第8回	数字に関する表現2	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	数字に関する表現3	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	用言の活用1	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	用言の活用2	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	用言の活用3	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	否定文1	韓国語の否定文の作り方について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	否定文2	韓国語の否定文の作り方について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	全体の復習	これまで学んだ文法、語彙の復習	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし
第17回				

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。提出してもらった課題は添削して返し、フィードバックを行う。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度)、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点(出席、授業への参加態度)	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：40% 定期試験：60% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
------	----------------------------------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	プリント配布
----------------	--------

学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も近い国で、交流も頻繁に行われています。お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分けることが大切です。隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。楽しく勉強して下さい！
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	韓国語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語入門2を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語初級1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	尊敬の表現1	韓国語の尊敬表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第2回	尊敬の表現2	韓国語の尊敬表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第3回	過去形1	韓国語の過去形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第4回	過去形2	韓国語の過去形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第5回	意志の表現	韓国語の意志を表す表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第6回	可能・不可能・希望	韓国語の可能、不可能、希望を表す表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分

第7回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	連体形1	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	連体形2	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	連体形3	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	変則用言1	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	変則用言2	韓国語の変則用言について	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	変則用言3	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	変則用言4	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	各学習項目の学習の後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削し返し、フィードバックを行う
評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	

評価割合	平常点 : 100%
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	韓国語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語初級1を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語初級2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	初級1の復習	初級1で学んだ文法、語彙などを復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第2回	意志、経験の表現	韓国語の意志、経験を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第3回	逆接、依頼の表現	韓国語の逆接、以来を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第4回	推測の表現	韓国の推測を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第5回	仮定、許可の表現	韓国語の仮定、許可を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第6回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分

第7回	評価の表現、名詞化	韓国語の評価を表す表現、名詞化を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	時間の流れの表現	時間の流れを表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	義務、確認の表現	義務、確認を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	成り行き、結果の表現	韓国語の成り行き、結果を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	禁止、お願いの表現	韓国語の禁止、お願いを表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	後悔の表現	韓国語の後悔を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	理由、接続の表現	韓国の理由、接続を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	変化の表現	韓国語の変化を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし
第17回				

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	各学習項目を学習した後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削して返し、フィードバックを行う。
評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	

評価割合	平常点：100%
------	----------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント
-----------------	------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるかを考える。	レポートや口頭発表の特徴を復習し、同じ特徴を持つもの(出版物等)を挙げる。	45
第2回	論理性を考える1	論理性とは何かについてアイデアを出し合う。その上で、与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45
第3回	論理性を考える2	与えられた文章を読み、論理が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45
第4回	論理性を考える	与えられた絵から、読み取れる情報をグループで話し合う。その後、その情報が論理的であるかどうかについてクラス全体でディスカッションする。	対照したい物質を2つ挙げ、違いをまとめる。	45
第5回	論理性を考える5	対照したい2つの物質の違いが論理的であるかをグループ内で検証し修正をする。対照文の表現を学んだ上で、実	好きな絵もしくは写真を1枚取り上げ、何が描かれているかを	45

		際に自分が選んだ2つの物質についての対象文を書く。	挙げる。	
第6回	論理性を考える5	自分が選んだ絵もしくは写真から得られる情報を書き出し、その情報が論理的かどうかをグループ内で検証する。描写文の書き方を学び、実際に自分が選んだ絵もしくは写真の描写文を書く。	東京家政学院大学の好きなどころ、魅力的だと思う点を挙げる。	45
第7回	東京家政学院大学を紹介する1	東京家政学院大学の好きなどころ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワークシートをまとめる。	ワークシートを検証し、修正する。	45
第8回	東京家政学院大学を紹介する2	東京家政学院大学を紹介する上で効果的な視覚情報の計画を立て、キャンパスに撮影に行く。段落の構成を学ぶ。	自分のテーマと具体的な要素を段落の構成に当てはめる。	45
第9回	東京家政学院大学を紹介する3	段落の書き方について具体例から分析する。自分のテーマで段落を書き、修正のために必要な点をワークシートを使って自己分析する。	自分のテーマの段落を修正する。	45
第10回	東京家政学院大学を紹介する4	レジュメの書き方を学ぶ。自分のテーマの段落から、内容を簡条書きにする。	レジュメを書く。	45
第11回	東京家政学院大学を紹介する5	質疑応答の仕方を学ぶ。各自レジュメを使って発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分の学科について紹介したいことをまとめる。	45
第12回	東京家政学院大学を紹介する6	自分の学科について紹介したいことの情報源（パンフレット、ホームページ、人等）を探し、段落構成の計画を立てる。	情報源から情報を収集し整理する。	45
第13回	東京家政学院大学を紹介する7	引用の仕方を学び、引用を使って自分の学科を紹介する段落を書く。	自分の学科紹介をレジュメにまとめる。	45
第14回	東京家政学院大学を紹介する8	レジュメを使って、自分の学科紹介について発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分が健康について注意していることをまとめる。	45
第15回	健康について考える1	健康に必要な要素をブレインストーミングし、最も重要なものを3つ選ぶ。その要素について、なぜそれが重要なのか、健康を保つためには何をすれば良いのかを考える。	健康に関する語彙や表現をワークシートを使って学ぶ。	45
第16回	健康について考える2	効果的な読み方と要点をノートに取る方法を学び、練習問題を行う。	新しい練習問題をやる。	45
第17回	健康について考える2	健康についての文献を読み、使用したいものを選びノートを取る。	引き続きノートを取る。	45
第18回	健康について考える4	アウトラインについて学ぶ。アウトラインの練習問題を行った後、健康についての自分のアウトラインを書く。	アウトラインを見直し修正する。	45
第19回	健康について考える5	序論と本論の構成について学び、序論を書く。引用についても学ぶ。	引用についての練習問題をやる。	45
第20回	健康について考える6	引用を使って本論を書くことを学ぶ。	本論を書く。	45
第21回	健康について考える7	グラフ、図、表の用い方を学び、練習問題を行う。結論の構成について学ぶ。	結論を書く。	45
第22回	健康について考える8	引用文献一覧の書き方を学ぶ。自分のレポートの引用文献一覧を書く。	レポートを序論から引用文献一覧までつなげて見直し修正する。	45
第23回	日本人学生にききたいこと1	日本人学生にアンケートできいてみたいことをリストアップし、テーマを決定する。	アウトラインを書く。	45
第24回	日本人学生にきいてみたいこと2	アンケートの作成方法を学び、自分のアンケートを作る。	アンケートを見直し修正する。	45
第25回	日本人学生にききたいこと3	アンケートの集計方法、統計処理の方法を学ぶ。	アンケートを実施する。	45
第26回	日本人学生にききたいこと4	グラフ、図、表の作り方を学び、作成する。	作成したブラフ、図、表を見直し修正する。	45
第27回	日本人学生にききたい	効果的なパワーポイントの作り方を学び、実際に作成する。	パワーポイントを見直し修正する。	45

	こと5			
第28回	日本人学生にききたいこと6	口述原稿の作り方を学び、実際に作成する。	口述原稿を見直し修正する。	45
第29回	日本人にききたいこと6	質疑応答の方法を学び、練習する。	自分の発表の練習をする。	45
第30回	日本人学生にききたいこと8	パワーポイントを用いた口頭発表をする。発表後、質疑応答を行う。	授業全体を振り返り、研究の方法を復習する。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
---------------	---------------

評価方法	課題（課題の完成度により評価する） レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する） 口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○		
	レポート	○	○	○	○
	口頭発表	○	○	○	○
	平常点			○	

評価割合	課題10% レポート35% 口頭発表35% 平常点20%
------	------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】 テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】 レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】 テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】 学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日2限（前期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるのかを考える。	世界的な視点で女性の権利が侵害されている例を考えてくる。	45
第2回	女性の生き方と権利について考える1	女性の権利が侵害されている例を挙げ、なぜそのようなことが起こるのかディスカッションする。映像でひとつの例を観た後に、問題点を整理する。	女性の権利に関わる語や表現をワークシートで学ぶ。	45
第3回	女性の生き方と権利について考える2	女性の生き方と権利についての文章を読み、問題点をまとめディスカッションする。	前回の授業で観た映像の問題点との共通点をまとめる。	45
第4回	女性の生き方と権利について考える3	図書館の使い方、インターネットでの文献検索の方法を学び、女性の生き方と権利についての情報を集める。情報収集はグループ単位で行う。	集めた情報から、問題点を整理する。	45
第5回	女性の生き方と権利に	女性の生き方と権利について、グループごとに、原因を分析した上で、解決策および自分たちにできることを話	アウトラインにそって、レポートの下書きを書く。	45

	ついて考える4	し合う。		
第6回	女性の生き方と権利について考える5	グループでの話し合いの結果をポスターにまとめる。説明の役割分担を決め、説明文を考える。	口頭で説明をする練習をする。	45
第7回	女性の生き方と権利について考える6	グループごとにポスター発表をする。質疑応答も行う。	他グループの発表で参考になった点をまとめる。	45
第8回	地球の問題を考える1	与えられたテーマの選択肢の中から、自分が取り組みたいものを選び、グループを構成する。グループ内で、テーマに関してブレインストーミングし、何を取り上げていくかを整理する。	テーマについて、インターネットを使って情報収集する。	45
第9回	地球の問題を考える2	情報収集の分担を決め、図書館で情報収集する。	収集した情報を読んでノートにまとめる。	45
第10回	地球の問題を考える3	グループで話し合いながら、アウトラインを作成する。パワーポイントの作り方を学ぶ。	パワーポイントの原案を考える。	45
第11回	地球の問題を考える4	持ち寄ったパワーポイントの原案をグループ内で検討し、発表用のパワーポイントを作成する。説明の役割分担を決める。	自分が説明する部分の説明文を書く。	45
第12回	地球の問題を考える5	説明文を持ち寄り、グループで修正をする。ディスカッションの方法を学び、ディスカッションのポイントを作成する。	発表とディスカッションの練習をする。	45
第13回	地球の問題を考える6	グループごとにパワーポイントを使って発表をする。発表後、発表したグループが主導となり、テーマについてディスカッションをする。	自分が調べてみたいことをいくつか考える。	45
第14回	個人研究1	テーマの決め方を学び、各自個人研究のテーマを決める。	アウトラインを書く。	45
第15回	個人研究2	アウトラインをペアで検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。	アウトラインを修正する。	45
第16回	個人研究3	図書館で情報収集する。	収集した情報を読む。	45
第17回	個人研究4	図書館での情報収集を続ける。その過程で、アウトラインを修正していく。	収集した情報を読む。	45
第18回	個人研究5	アウトラインの論理性をグループ内で検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。アウトラインを修正する。	収集した情報をアウトライン中どこで使用するかを考える。	45
第19回	個人研究6	レポートの構成について学び、練習問題を通して理解を深める。	授業とは別の練習問題をやる。	45
第20回	個人研究7	序論の書き方について学び、練習を通して理解を深める。	個人研究の序論を書く。	45
第21回	個人研究8	本論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論を書く。	45
第22回	個人研究9	引用の意味、方法を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論に引用を加えて調整する。	45
第23回	個人研究10	結論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の結論を書く。	45
第24回	個人研究11	レポートと口頭発表の表現方法の違いについてディスカッションし、口頭発表で留意すべき点を明らかにする。	個人研究を口頭発表する場合の留意点をまとめる。	45
第25回	個人研究12	レジュメの書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究のレジュメを作る。	45
第26回	個人研究13	レジュメをペアで検証し、相互に改善点をアドバイスする。レジュメの修正を行う。	レジュメの修正を完了する。	45
第27回	個人研究14	口述原稿の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の口述原稿を書く。	45
第28回	個人研究15	質疑応答について学び、練習問題を通して理解を深める。	質疑応答に必要な語彙、表現を学ぶ。	45
第29回	個人研究16	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は質疑応答を行う。	発表した者は、発表について振り返る。次週発表の者は、練習をする。	45
第30回	個人研究1	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は	一学期間の自分の成長を振り返	45

7	質疑応答を行う。一学期間の自分の成長を振り返り、今後の課題をまとめる。	り、今後の課題をまとめる。			
学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント				
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する） 個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○		○
	グループ発表	○	○		○
	個人研究	○	○	○	○
	平常点			○	
評価割合	課題10% グループ発表（2回）30% 個人研究40% 平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】 テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】 レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】 テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】 学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。				
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限				
学生へのメッセージ	課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけてほしい。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。			
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。			
ICT活用					

シラバス参照

講義名	日本語ラボa		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉をまとめる。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	分かりやすい伝え方1	分かりやすい文とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい文とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第5回	分かりやすい伝え方2	分かりやすい資料とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	ふるさと紹介1	ふるさと紹介のテーマを決定し、テーマを説明するための要素を考える。ふるさとについての情報を集める。	ふるさとについての情報を引き続き集める。	45
第7回	ふるさと紹介	ふるさと紹介の全体の流れを考える。また、使用する画	ふるさと紹介の説明文を修正す	45

	介2	像を決定し、説明文を書く。説明文を書く上で、学ばなければならない語彙、文法および表現を確認する。	る。	
第8回	ふるさと紹介3	各自ふるさと紹介のパワーポイントを作成し、予行練習をする。予行練習はペアで行い、相互に改善点をアドバイスする。	発表の予行練習をする。	45
第9回	ふるさとの紹介発表	各自パワーポイントを用いてふるさと紹介をする。発表の後は、質疑応答を行う。	日本人に紹介したい自国料理をリストにする。	45
第10回	調理交流1	日本人と調理交流することを前提に、日本語で調理法、食材、調理器具等の名称、表現を学ぶ。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	調理交流2	日本人に紹介したい自国のメニューをディスカッションで決定する。その後、レシピを作成する。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	調理交流3	クラス全体でレシピを確認し、修正する。「教える人」「習う人」に分かれて、口頭で説明する練習をする。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	調理交流4	クラス全体で、調理交流の模擬授業を実施する。「教える人」「習う人」は、レシピごとに交代する。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	調理交流5	レジュメの書き方を学び、調理交流の成果をレジュメにまとめる。その後、口述原稿を作成する。	成果報告の発表の準備をする。	45
第15回	調理交流成果報告	各自レジュメを用いて調理交流の成果報告をする。	一学期の学びを通して、自分の成長、今後の課題をまとめる。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表2回（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	発表（2回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	-----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日2限
---------	-------------

学生へのメッセージ	調理交流は、国際交流センターが近隣の小学校や高齢者施設で実施しているプログラムに参加します。積極的に参加して下さい。
-----------	------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本語ラボb		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	近隣住民の方にインタビューするためのテーマをいくつか考える。	45
第2回	インタビュー1	近隣住民の方にインタビューをするためのテーマを決定する。さらに目上の方とコミュニケーションする際の注意点について話し合う。	アウトラインを立てる。	45
第3回	インタビュー2	アウトラインにしたがって、質問を考える。グループ内で、意見交換をし、相互に改善点をアドバイスする。	実際にインタビューを行う。	45
第4回	インタビュー3	インタビューの結果をパワーポイントにまとめ、説明文を考える。	報告会の練習をする。	45
第5回	インタビュー報告会	各自インタビューの結果を報告する。質疑応答も行う。	スピーチのテーマをいくつか考える。	45
第6回	スピーチ1	コミュニケーションの手段としてのスピーチの特徴や方法を学び、各自スピーチのテーマを決定する。	スピーチのアウトラインを立てる。	45

第7回	スピーチ2	アウトラインにしたがって、原稿を執筆する。執筆後は、ワークシートにしたがって、修正を行う。	スピーチの練習をする。	45
第8回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第9回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第10回	スピーチ発表会	各自スピーチを発表する。スピーチ後には質疑応答も行う。	小学生に紹介したい自国の文化、習慣などを考える。	45
第11回	自国の紹介1	小学生に自国を紹介するという前提で、テーマのアイデアを出す。クラス全体で協議してテーマを決定する。また、小学生と日本語でコミュニケーションする際に注意すべき点を話し合う。	テーマについて、何を紹介したかをまとめる。	45
第12回	自国の紹介2	テーマごとにグループ分けし、協議しながら紹介の内容を計画書にまとめる。	紹介に必要な画像を集める。説明を練習する。	45
第13回	自国の紹介3	紹介の資料および説明文をグループごとに作成する。その際に必要な語彙、文法、表現を確認する。	資料を見直し修正する。	45
第14回	自国の紹介4	最初から最後まででのリハーサルを行う。リハーサル後、相互に改善点をアドバイスし、修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45
第15回	自国の紹介5	リハーサルを行い、最終的な修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	報告・発表（各1回）（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
報告・発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	報告・発表（各1回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	---------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限
---------	-------------

学生へのメッセージ	国際交流センター主催の外国語スピーチコンテストおよび近隣の小学校との授業交流に参加します。貴重な機会を楽しんで下さい。
-----------	-------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をとまなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。

シラバス参照

講義名	日本語ラボc		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉をまとめる。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	分かりやすい伝え方1	分かりやすい文とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい文とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第5回	分かりやすい伝え方2	分かりやすい資料とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	ふるさと紹介1	ふるさと紹介のテーマを決定し、テーマを説明するための要素を考える。ふるさとについての情報を集める。	ふるさとについての情報を引き続き集める。	45
第7回	ふるさと紹介	ふるさと紹介の全体の流れを考える。また、使用する画	ふるさと紹介の説明文を修正す	45

	介2	像を決定し、説明文を書く。説明文を書く上で、学ばなければならない語彙、文法および表現を確認する。	る。	
第8回	ふるさと紹介3	各自ふるさと紹介のパワーポイントを作成し、予行練習をする。予行練習はペアで行い、相互に改善点をアドバイスする。	発表の予行練習をする。	45
第9回	ふるさとの紹介発表	各自パワーポイントを用いてふるさと紹介をする。発表の後は、質疑応答を行う。	日本人に紹介したい自国料理をリストにする。	45
第10回	調理交流1	日本人と調理交流することを前提に、日本語で調理法、食材、調理器具等の名称、表現を学ぶ。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	調理交流2	日本人に紹介したい自国のメニューをディスカッションで決定する。その後、レシピを作成する。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	調理交流3	クラス全体でレシピを確認し、修正する。「教える人」「習う人」に分かれて、口頭で説明する練習をする。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	調理交流4	クラス全体で、調理交流の模擬授業を実施する。「教える人」「習う人」は、レシピごとに交代する。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	調理交流5	レジュメの書き方を学び、調理交流の成果をレジュメにまとめる。その後、口述原稿を作成する。	成果報告の発表の準備をする。	45
第15回	調理交流成果報告	各自レジュメを用いて調理交流の成果報告をする。	一学期の学びを通して、自分の成長、今後の課題をまとめる。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表2回（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	発表（2回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	-----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日2限
---------	-------------

学生へのメッセージ	調理交流は、国際交流センターが近隣の小学校や高齢者施設で実施しているプログラムに参加します。積極的に参加して下さい。
-----------	------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田 晶子	指定なし

授業概要(教育目的)	ドイツ語の基本を学びながら、短いドイツ語のテキストを読みます。広告や料理のレシピなど身近なものから、日記や物語、簡単なインタビューなど。さまざまな種類の文を身構えずに楽しく読めるようになります。クラスメートと会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを読んだり伝えたりする楽しさを味わってください。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	発音や文字の読み方から始めて、ドイツ語の基本を身につけます。自力でドイツ語で情報を得たり、簡単な日常表現を学んで、挨拶を交わしたり簡単な受け答えができるようになります。短い文を書いたり、辞書さえあれば自力で平易な文章を読めるようになります。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生にとっておそらくは未知の言語であるドイツ語やドイツ語圏の情報に触れることで、異なる文化に対する理解や関心を深め、新しい言葉にも臆さずどんどん取り組んでいききっかけとしてほしいと思います。
技術・表現の観点 (A)	しっかり伝わる発音を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ドイツ語の基本	文字と発音	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第2回	動詞の基本(1)	ドイツ語で自己紹介をしよう	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣	90分

			らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第3回	動詞の基本 (2)	ある一家の自己紹介	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第4回	ちょっと不規則な重要動詞 (1)	職業は何ですか？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第5回	基本の接続詞 (並列接続詞)	ドイツ・オーストリア・スイスについて	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第6回	ドイツ語の冠詞 (定冠詞・不定冠詞)	何をプレゼントしますか？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第7回	否定する冠詞	いろいろな広告文～どれがお勧め？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第8回	名詞の複数形	ドイツ語圏の料理	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第9回	人も物も指せる人称代名詞	ドイツ風ポテトサラダを作ろう	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第10回	所有を表す冠詞	お店や建物・今日は何曜日？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。	90分

			課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第11回	この、あの、どの～ 定冠詞類	インターネット・電話・履歴書	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第12回	ちょっと不規則な重要動詞(2)	趣味は何ですか？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第13回	命令形	アルプスの少女『ハイジ』(1)	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第14回	命令形	『ハイジ』(2)	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ	前期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。後期にさらに上達するための、大切な土台になります。	120分

学習計画注記	※履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。				
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。				
評価方法	数回の小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合	小テスト10%、平常点30%、期末試験60%				
使用教科書名 (ISBN番号)	『ゲナウ！レーゼン』新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀他著、第三書房 ISBN:978-4-8086-1060-9				
参考図書	独和辞書も用意してください。初回の授業で説明します。				
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。				
学生へのメッセージ	文字の読み方や発音から始めて、ドイツ語の基礎を学びます。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながれると思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。(もちろん英語が苦手でも全く問題ありません)				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級相当に到達することを目標とします。</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「ドイツ語入門1」を履修していること、もしくはそれと同等の学習歴があること
------	---------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語入門2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の学習内容のまとめ、復習	前期の学習内容のまとめ、復習	前期の学習内容を確認する	60分
第2回	第4課 名詞の複数形、冠詞類	名詞の複数形、冠詞類	名詞の複数形のパターンと冠詞類を覚える	60分
第3回	keinとnichtの使い方、否定	keinとnichtの使い方、否定疑問文の答え方	keinとnichtの使い方と否定疑問文の答え方を理解し覚える	60分

	疑問文の答え方			
第4回	パン屋で買い物	欲しい物を伝える, 値段ついて質問する, 数字	買い物の際に使う基礎表現と数字を覚える	60分
第5回	前回までの学習内容の復習, 練習	前回までの学習内容を復習し, 練習問題を解く	この回までの学習内容を復習し, 定着させる	60分
第6回	ユーロ	ユーロ(通貨), EU, ヨーロッパについて	ヨーロッパについて学んだこと, 関心を持ったことについて調べる	60分
第7回	第5課 前置詞の格支配, 前置詞と定冠詞の融合形	前置詞の格支配, 前置詞と定冠詞の融合形	前置詞およびその格支配, 前置詞と定冠詞の融合形を覚え, 定着させる	60分
第8回	前回(前置詞)の内容について復習, 練習	前回(前置詞)の内容について復習し, 練習問題を解く	前置詞について復習し定着させる	60分
第9回	会話表現 どう行けばいいですか?	行き方を尋ねる基本表現	行き方を尋ねる基本表現と単語を覚える	60分
第10回	前回の会話表現の復習, 練習	前回までの学習内容の復習, 練習	この回までの学習内容を復習し, 定着させる	60分
第11回	第6課 話法の助動詞の現在人称変化, 未来形	話法の助動詞の現在人称変化, 未来形	話法の助動詞の現在人称変化, 未来形を定着させる	60分
第12回	第12週 従属の接続詞と副文, 時刻の表現, 不定代名詞man	従属の接続詞と副文, 時刻の表現, 不定代名詞man	従属の接続詞と副文, 時刻の表現, 不定代名詞manの用法を理解, 定着させる	60分
第13回	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産について知った内容からさらに興味を持ったことについて調べる	60分
第14回	ドイツ語読解	短いドイツ語のテキストを読む	文章の構造理解を確認し, 出てきた単語, 用法を定着させる	60分
第15回	後期の学習内容の復習, 練習	後期の学習内容の復習し, 練習問題を解く	後期の学習内容を復習し, 定着させる	60分

学生へのフィードバック方法	採点して返却, 授業中に解説
---------------	----------------

評価方法	平常点, 小テスト, 試験 (平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)
------	----------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合	平常点30%、小テスト20%、試験50%
------	----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	小野寿美子／中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』朝日出版社, 2019年, 978-4-255-25420-3
-----------------	----------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>
オフィスアワー	<p>授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。</p> <p>メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。</p>
学生へのメッセージ	<p>ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。</p> <p>ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田 晶子	指定なし

授業概要(教育目的)	入門1に引き続き、ドイツ語の基本を学びます。広告や料理のレシピなど身近なものから、日記や物語、簡単なインタビューなど、さまざまな種類の文を身構えずに楽しく読めるようになります。クラスメートと会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを読んだり伝えたりする楽しさを味わってください。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発音や文字の読み方から始めて、ドイツ語の基本を身につけます。自力でドイツ語で情報を得たり、簡単な日常表現を学んで、挨拶を交わしたり簡単な受け答えができるようになります。短い文を書いたり、辞書さえあれば自力で平易な文章を読めるようになります。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生にとっておそらくは未知の言語であるドイツ語やドイツ語圏の情報に触れることで、異なる文化に対する理解や関心を深め、新しい言葉にも臆さずどんどん取り組んでいききっかけとしてほしいと思います。
技術・表現の観点 (A)	しっかり伝わる発音を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期のおさらい	私の夏休み	前期に学んだことが、後期の土台になります。ひととおり見直して、記憶を新たにしておきましょう。ここでしっかり復習しておく、後期の学習を効果的にすすめることができます。	120分
第2回	助動詞	「ジョギングをしたいと思います。」	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第3回	未来形	『アンネの日記』より・メール文	学んだ事柄は、毎回復習してお	60分

			きましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第4回	前置詞	誕生日はいつですか？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第5回	再帰動詞	ドイツの祝祭	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第6回	分かれる分離動詞、分かれられない非分離動詞	何時ですか？	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第7回	zu不定詞句、従属の接続詞（副文を作ります）	インタビュー（聖トマス教会合唱団）	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第8回	動詞の三基本形（1）	これを読んだことはありますか？ドイツ語の文学作品	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第9回	過去形、現在完了形	『Die Kleine Hexe（小さな魔女）』	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第10回	動詞の三基本形（2）	観光名所を紹介しましょう	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第11回	受動態	HARIBOのクマ型グミの歴史	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また	60分

			指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第12回	形容詞の変化、比較の表現	ドイツ語で比べる	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第13回	関係代名詞	イソップ物語『ウサギとカメ』(1)	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第14回	関係代名詞	イソップ物語『ウサギとカメ』(2)	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第15回	後期のまとめ	後期のまとめ	後期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後、自力で学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。	180分

学生へのフィードバック方法 小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。

評価方法 数回の小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合 小テスト10%、平常点30%、期末試験60%

使用教科書名 (ISBN番号) 『ゲナウ！レーゼン』新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀他著、第三書房 ISBN:978-4-8086-1060-9 (前期と同じです)

参考図書 独和辞書

ディプロマポリシーとの関連 【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ることで、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。

学生へのメッセージ ドイツ語の基本を身につけます。後期の入門2で基礎をひとつおりに身につけて、今後も学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりを作ってください。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。(もちろん英語が苦手でも全く問題ありません)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級相当に到達することを目標とします。</p>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「ドイツ語入門1」、「ドイツ語入門2」を履修している、もしくはそれと同等の学習歴があること。集中講義日程2019年9月2日（月）～9月6日（金）に出席できること。
------	-----------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語初級 1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入、第1課 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)、語順、ja, neinの使い方	導入、第1課 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)、語順、ja, neinの使い方	練習問題	60分

第2回	第1課 単語・表現：国名・～人・言語・専攻名・職業名	単語・表現：国名・～人・言語・専攻名・職業名	練習問題	60分
第3回	第1課 会話表現、読解、【都市の紹介】ミュンヘン	会話表現、読解、【都市の紹介】ミュンヘン	練習問題	60分
第4回	第2課 名刺の性・冠詞・格、名詞の複数形、人称代名詞	名刺の性・冠詞・格、名詞の複数形、人称代名詞	練習問題	60分
第5回	第2課 単語・表現：身のまわりの物	単語・表現：身のまわりの物	練習問題	60分
第6回	会話表現、読解、【都市の紹介】ザルツブルク	会話表現、読解、【都市の紹介】ザルツブルク	練習問題	60分
第7回	動詞の人称変化（2）、命令形、非人称のes、時刻の表現	動詞の人称変化（不規則動詞）、命令形、非人称のes、時刻の表現	練習問題	60分
第8回	第3課 単語・表現：乗り物・果物・野菜	単語・表現：乗り物・果物・野菜	練習問題	60分
第9回	会話表現、読解、聴き取り、【都市の紹介】ウィーン	会話表現、読解、聴き取り、【都市の紹介】ウィーン	練習問題	60分
第10回	第4課 定冠詞・不定冠詞、人称代名詞3格と4格	定冠詞・不定冠詞、人称代名詞3格と4格	練習問題	60分
第11回	第4課 単語・表現：身につけるもの・家族	単語・表現：身につけるもの・家族	練習問題	60分
第12回	第4課 会話表現、読解、【都市の紹介】ハンブルクとブレーメン	会話表現、読解、【都市の紹介】ハンブルクとブレーメン	練習問題	60分
第13回	第5課 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞werとwas	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞werとwas	練習問題	60分
第14回	第5課 単語・表現：街	第5課 単語・表現：街	練習問題	60分
第15回	第5課 会話表現、読解、【都市の紹介】バーゼル	第5課 会話表現、読解、【都市の紹介】バーゼル	練習問題	60分

学習計画注記	集中講義日程：2019年9月2日（月）～9月6日（金）				
学生へのフィードバック方法	採点して返却，授業中に解説				
評価方法	平常点，小テスト，試験 (平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	○
	小テスト	○			
	試験	○			○
評価割合	平常点30%、小テスト20%、試験50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	小野寿美子／中川明博／西巻文児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年、978-4-255-25380-0				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力				
オフィスアワー	授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。 メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp ([at]を@に置き換えてください)。				
学生へのメッセージ	ドイツ語はドイツ，オーストリア，スイス，ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ，母語話者人口はEU圏内で一番多く，インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また，イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。 ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり，新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級相当に到達することを目標とします。</p>
履修条件	<p>「ドイツ語入門1」、「ドイツ語入門2」を履修している、もしくはそれと同等の学習歴があること。</p> <p>集中講義日程：2019年10月26日（土）、11月30日（土）、2020年2月5日（水）、7日（金）、8日（土）に出席できること。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語初級2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第6課 話法の助動詞、未来形、従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞	話法の助動詞、未来形、従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞	練習問題	60分

第2回	第6課 単語・表現：催し物	単語・表現：催し物	練習問題	60分
第3回	第6課 会話表現、読解、【都市の紹介】ベルリン	会話表現、読解、【都市の紹介】ベルリン	練習問題	60分
第4回	第7課 形容詞の格語尾変化、形容詞・副詞の比較	形容詞の格語尾変化、形容詞・副詞の比較	練習問題	60分
第5回	第7課 単語・表現：食事・色	単語・表現：食事・色	練習問題	60分
第6回	第7課 会話表現、読解、【都市の紹介】エッセン	会話表現、読解、【都市の紹介】エッセン	練習問題	60分
第7回	第8課 動詞の3基本形、現在完了形	動詞の3基本形、現在完了形	練習問題	60分
第8回	第8課 単語・表現：過去の表現	単語・表現：過去の表現	練習問題	60分
第9回	第8課 会話表現、読解、【都市の紹介】アイゼナハ	会話表現、読解、【都市の紹介】アイゼナハ	練習問題	60分
第10回	第9課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞	過去形、再帰代名詞と再帰動詞	練習問題	60分
第11回	第9課 単語・表現：童話	単語・表現：童話	練習問題	60分
第12回	第9課 会話表現、読解、【都市の紹介】ヴァイマル	会話表現、読解、【都市の紹介】ヴァイマル	練習問題	60分
第13回	第10課 zu不定詞(句)、関係代名詞	zu不定詞(句)、関係代名詞	練習問題	60分
第14回	第10課 単語・表現：祝祭	単語・表現：祝祭	練習問題	60分
第15回	第10課 会話表現、読解、【都市の紹介】ケルン	第10課 会話表現、読解、【都市の紹介】ケルン	練習問題	60分

学習計画注記	集中講義日程：2019年10月26日(土)、11月30日(土)、2020年2月5日(水)、7日(金)、8日(土)			
学生へのフィードバック方法	採点して返却、授業中に解説			
評価方法	平常点、小テスト、試験 (平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合	平常点30%、小テスト20%、試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	小野寿美子／中川明博／西巻文児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年、978-4-255-25380-0
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力
オフィスアワー	授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。 メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。
学生へのメッセージ	ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。 ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹 青青	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。
履修条件	初めて中国語を勉強する人を対象とする。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業ガイダンス、ピンイン・声調・轻声・2つの音の組み合わせ	学習の注意点の説明を行い、現代中国語のピンイン・声調・轻声・2つの音の組み合わせを理解する。	教科書の8～11ページを読んでおくこと。	60分
第2回	母音・子音	母音・子音を理解する。	教科書の12～14ページを読んでおくこと。	60分
第3回	複母音・鼻母音	複母音・鼻母音を理解する。	教科書の16～19ページを読んでおくこと。	60分
第4回	儿化(アル化)・変調	儿化(アル化)・変調を理解する。	教科書の20ページを読んでおくこと。	60分
第5回	発音総復習	前四回の授業内容について、総復習を行う。	これまで習った発音を予め復習しておくこと。	60分
第6回	第1課 空港で挨拶	人称代名詞・「A+是+B」・名詞と名詞をつなぐ「的」を理解する。	教科書の28～29ページを読んでおくこと。	60分

第7回	第1課 空港で挨拶	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第8回	第2課 バスで荷物をピックアップ	指示代名詞・疑問詞疑問文・副詞「也」、「都」を理解する。	教科書の32～33ページを読んでおくこと。	60分
第9回	第2課 バスで荷物をピックアップ	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第10回	第3課 留学手続き後に書店を探す	場所代名詞・動詞述語文・文末に置く「吧」を理解する。	教科書の36～37ページを読んでおくこと。	60分
第11回	第3課 留学手続き後に書店を探す	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第12回	第4課 キャンパスで建物の位置を確認	場所の表し方・所在を表す「在」・反復疑問文を理解する。	教科書の40～41ページを読んでおくこと。	60分
第13回	第4課 キャンパスで建物の位置を確認	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第14回	第5課 カフェで家族の話	所有と存在を表す「有」・名詞述語文・人の数え方を理解する。	教科書の44～45ページを読んでおくこと。	60分
第15回	第5課 カフェで家族の話	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分

学習計画注記	上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。
学生へのフィードバック方法	授業にて説明する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%。
使用教科書名 (ISBN番号)	スタートダッシュ中国語 氷野善寛・伊藤大輔・工藤真理子・李軼倫 (朝日出版社、2019年1月31日初版) 978-4-255-45316-3 C1087
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能 (技術) をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。
学生へのメッセージ	週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。 ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある文法練習とリスニングの文を発音する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

授業概要(教育目的)

「中国語入門1」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の簡単な会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課	発音の基礎1 声調と単母音	第1課の発音の音声を聞いて予習すること	30分
第2回	第2課	発音の基礎2 子音	第2課の発音の音声を聞いて予習すること	30分
第3回	第3課	発音の基礎3 複母音	第3課の発音の音声を聞いて予習すること	30分
第4回	第4課	発音の基礎4 鼻母音	第4課の発音の音声を聞いて予習すること	30分
第5回	第5課	発音の基礎5 ピンインの表記ルール	第5課の発音の音声を聞いて予習すること	30分
第6回	第6課	人称代名詞・動詞「是」・名前の言い方 小テスト1	第6課の単語と文法を予習すること 授業の最後に第1課～第5課に係る発音（ピンイン）小テストを実施するので、復習しておくこと	120分

第7回	第7課	動詞述語文・副詞「也」・語気助詞「吧」	第7課の単語と文法を予習すること	30分
第8回	第8課	指示代詞・助詞「的」・形容詞述語文	第8課の単語と文法を予習すること	30分
第9回	第9課	数字・量詞・反復疑問文	第9課の単語と文法を予習すること	30分
第10回	第10課	「呢」文・疑問詞疑問文・連動文	第10課の単語と文法を予習すること	30分
第11回	第11課	方位詞・存在を表す「在」 小テスト2	第11課の単語と文法を予習すること 授業の最後に第6課～第10課にかかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第12回	第12課	「有」構文	第12課の単語と文法を予習すること	30分
第13回	第13課	年月日・曜日・時間の言い方	第13課の単語と文法を予習すること	30分
第14回	第14課	前置詞「从」「到」「在」「给」「离」	第14課の単語と文法を予習すること	30分
第15回	前期のまとめ	これまでの授業の内容の総復習 小テスト3	これまで学習した単語と文法を復習すること 授業の最後に第11課～第14課に係る小テストを実施するので復習しておくこと	150分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて模範解答と一緒に返却する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 定期試験は100点満点で出題し、出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点20%、小テスト30%、定期試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	新谷秀明、王宇南『読み書き話す 中国語の基本』朝日出版社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎的な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹 青青	指定なし

授業概要(教育目的)	後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。
履修条件	前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習	前期の授業内容を復習する。	なし。	60分
第2回	第6課 服を買う	100以上の数・量詞・疑問詞「几」、「多少」を理解する。	教科書の48～49ページを読んでおくこと。	60分
第3回	第6課 服を買う	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第4回	第7課 電話で友達と約束	時間・時刻・助動詞「想」、「要」を理解する。	教科書の52～53ページを読んでおくこと。	60分
第5回	第7課 電話で友達と約束	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第6回	第8課 放課後に待ち合わせ	「了」・連動文・介詞「在」、「跟」を理解する。	教科書の56～57ページを読んでおくこと。	60分
第7回	第8課 放課後に待ち合わせ	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分

第8回	第9課 レストランで料理の話	形容詞述語文・選択疑問文・「～呢」を理解する。	教科書の60～61ページを読んでおくこと。	60分
第9回	第9課 レストランで料理の話	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第10回	第10課 北京の気候の話	比較・比較の否定・同一を理解する。	教科書の64～65ページを読んでおくこと。	60分
第11回	第10課 北京の気候の話	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第12回	第11課 趣味を話す	助動詞「能」、「会」・介詞「对」、「给」・動詞の重ね型を理解する。	教科書の68～69ページを読んでおくこと。	60分
第13回	第11課 趣味を話す	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分
第14回	第12課 北京駅への行き方	介詞「离」、「从」、「到」・疑問詞「怎么」・動作時間の長さを理解する	教科書の72～73ページを読んでおくこと。	60分
第15回	第12課 北京駅への行き方	文法練習とリスニングを行う。	前回の授業内容を復習すること。	60分

学習計画注記	上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。
学生へのフィードバック方法	授業にて説明する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%。
------	-----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	スタートダッシュ中国語 氷野善寛・伊藤大輔・工藤真理子・李軼倫 (朝日出版社、2019年1月31日初版) 978-4-255-45316-3 C1087
-----------------	------------------------------------------------------------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	<p>週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある文法練習とリスニングの文を発音する。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

授業概要(教育目的)

「中国語入門2」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語入門1」の続きで、前期に身についた入門知識を確認しながら授業を進んでいく。後期には、繰り返しのヒアリングと音読を通して、発音、初級文法、基礎レベルの会話を身につくように目指す。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音（ピンイン）と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第15課	疑問詞「多」・年齢の尋ね方・比較の表現	第15課の単語と文法を予習すること	30分
第2回	第16課	完了・変化の「了」	第16課の単語と文法を予習すること	30分
第3回	第17課	進行態・持続態・主述述語文	第17課の単語と文法を予習すること	30分
第4回	第18課	経験の「过」・動量補語	第18課の単語と文法を予習すること	30分
第5回	第19課	選択疑問文・助動詞「想」「要」「得」	第19課の単語と文法を予習すること	30分
第6回	第20課	助動詞「可以」「会」「能」 小テスト1	第20課の単語と文法を予習すること 授業の最後に第15課～第19課に係る小テストを実施するので、復習しておくこと	120分

第7回	第21課	「又～又～」・お金の数え方・動詞の重ね型	第21課の単語と文法を予習すること	30分
第8回	第22課	結果補語・副詞「就」・「把」構文	第22課の単語と文法を予習すること	30分
第9回	第23課	「是～的」・方向補語	第23課の単語と文法を予習すること	30分
第10回	第24課	受身文・「有」の連動文	第24課の単語と文法を予習すること	30分
第11回	第25課	存現文・可能補語 小テスト2	第25課の単語と文法を予習すること 授業の最後に第20課～第24課にかかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第12回	第26課	「快～了」・「因为～所以～」・使役動詞「让」	第26課の単語と文法を予習すること	30分
第13回	第27課	様態補語・「虽然～但是～」	第27課の単語と文法を予習すること	30分
第14回	第28課	兼語文・副詞「再」・二重目的語を取る動詞	第28課の単語と文法を予習すること	30分
第15回	後期のまとめ	これまでの授業の内容の総復習 小テスト3	これまで学習した単語と文法を復習すること 授業の最後に第25課～第28課に係る小テストを実施するので復習しておくこと	150分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて模範解答と一緒に返却する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 定期試験は100点満点で出題し、出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点20%、小テスト30%、定期試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	新谷秀明、王宇南『読み書き話す 中国語の基本』朝日出版社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎的な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

授業概要(教育目的)

本授業は、一年次で中国語を履修した学生等を対象とし、中国語母語話者の教員により行われる授業で、一年次で学んだ基礎文法のおさらいをし、特に会話とリスニングに重点を置き、さらに上のレベルに進む。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音と基礎的な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国人と買い物、旅行などの簡単な会話ができるようになる。 中国人同士間の簡単な会話や交流などが聞き取れる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	一年次の内容の復習1	オリエンテーション、自己紹介、授業の進め方、教科書について等	『中国語はじめの一步』の単語と文法を復習すること	30分
第2回	一年次の内容の復習2	基本動詞・形容詞と基本文型の復習	教科書の6～9ページを予習すること	30分
第3回	第1課	新出単語とポイント1(助動詞「可以」「要」、主述述語文、目的語が主述句のとき)	第1課の単語と文法を予習すること	30分
第4回	第1課	「中国に行こう!」の本文とトレーニング1	第1課の本文を復習すること	30分
第5回	第2課	新出単語とポイント2(「的」の用法、原因・理由を表す「因为」、文末の助詞「吧」「呢」)	第2課の単語とポイントを予習すること	30分
第6回	第2課	「ジャスミン茶を飲もう!」の本文とトレーニング2	第2課の本文を予習すること	30分
第7回	第3課	新出単語とポイント3(連動文、「是～的」の文、疑問詞「怎么」) 小テスト1	第3課の単語とポイントを予習すること 授業の最後に第1課と第2課に	120分

			かかわる小テストを実施するので、復習しておくこと	
第8回	第3課	「友達をつくろう！」の本文とトレーニング3	第3課の本文を予習すること	30分
第9回	第4課	新出単語とポイント4（「了」の三つの用法、副詞「就」）	第4課の単語とポイントを予習すること	30分
第10回	第4課	「長城に登ろう！」とトレーニング4	第4課の本文を予習すること	30分
第11回	第5課	新出単語とポイント5（様態補語、可能性の予測を表す「会」、「仮定を表す「要是」） 小テスト2	第5課の単語とポイントを予習すること 授業の最後に第3課と第4課にかかわる小テストを実施するので復習しておくこと	120分
第12回	第5課	「卓球を楽しもう！」の本文とトレーニング5	第5課の本文を予習すること	30分
第13回	第6課	新出単語とポイント6（結果補語（1）、副詞「有点儿」）	第6課の単語とポイントを予習すること	30分
第14回	第6課	「漢字を覚えよう！」の本文とトレーニング6	第6課の本文を予習すること	30分
第15回	前期のまとめ	これまでの授業の内容の総復習 小テスト3	これまで学習した単語と文法を復習すること 授業の最後に第5課と第6課に係る小テストを実施するので復習しておくこと	150分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて模範解答と一緒に返却する。
評価方法	平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 定期試験は100点満点で出題し、出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点20%、小テスト30%、定期試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	尹景春・竹島毅『新版 中国語つぎへの一步』白水社
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	日本語ラボd		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	近隣住民の方にインタビューするためのテーマをいくつか考える。	45
第2回	インタビュー1	近隣住民の方にインタビューをするためのテーマを決定する。さらに目上の方とコミュニケーションする際の注意点について話し合う。	アウトラインを立てる。	45
第3回	インタビュー2	アウトラインにしたがって、質問を考える。グループ内で、意見交換をし、相互に改善点をアドバイスする。	実際にインタビューを行う。	45
第4回	インタビュー3	インタビューの結果をパワーポイントにまとめ、説明文を考える。	報告会の練習をする。	45
第5回	インタビュー報告会	各自インタビューの結果を報告する。質疑応答も行う。	スピーチのテーマをいくつか考える。	45
第6回	スピーチ1	コミュニケーションの手段としてのスピーチの特徴や方法を学び、各自スピーチのテーマを決定する。	スピーチのアウトラインを立てる。	45

第7回	スピーチ2	アウトラインにしたがって、原稿を執筆する。執筆後は、ワークシートにしたがって、修正を行う。	スピーチの練習をする。	45
第8回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第9回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第10回	スピーチ発表会	各自スピーチを発表する。スピーチ後には質疑応答も行う。	小学生に紹介したい自国の文化、習慣などを考える。	45
第11回	自国の紹介1	小学生に自国を紹介するという前提で、テーマのアイデアを出す。クラス全体で協議してテーマを決定する。また、小学生と日本語でコミュニケーションする際に注意すべき点を話し合う。	テーマについて、何を紹介したかをまとめる。	45
第12回	自国の紹介2	テーマごとにグループ分けし、協議しながら紹介の内容を計画書にまとめる。	紹介に必要な画像を集める。説明を練習する。	45
第13回	自国の紹介3	紹介の資料および説明文をグループごとに作成する。その際に必要な語彙、文法、表現を確認する。	資料を見直し修正する。	45
第14回	自国の紹介4	最初から最後まででのリハーサルを行う。リハーサル後、相互に改善点をアドバイスし、修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45
第15回	自国の紹介5	リハーサルを行い、最終的な修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	報告・発表（各1回）（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
報告・発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	報告・発表（各1回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	---------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限
---------	-------------

学生へのメッセージ	国際交流センター主催の外国語スピーチコンテストおよび近隣の小学校との授業交流に参加します。貴重な機会を楽しんで下さい。
-----------	-------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をとまなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。

シラバス参照

講義名	社会人としての日本語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要 (教育目的)	留学生の中には、卒業後日本での就職や進学、母国での日本関連企業等への就職を希望する者が多い。本科目は、卒業後、日本と海外との架け橋として活躍する可能性のある学生に対し、社会人として求められる日本語力を養成することを目的としている。授業では、敬語の文型および用法を理解させた上で、実践を意識した練習を多く取り入れていく。また、日本語の言語表現を通して、日本人の思考形式への理解を深めさせ、日本社会における円滑なコミュニケーションの方法を身につけさせることをめざす。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情を日本語で適切に表現する技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動 (課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など) に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	45
第2回	日本語の敬語の分類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなど	45

			して自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本語の敬語の実践的練習	特に間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、練習問題を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第4回	電話対応の基本	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第5回	電話対応のマナー	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、望ましい伝言の方法やメモの作り方を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第6回	電話対応の実践的練習	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第7回	手紙の形式	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第8回	手紙に特有の日本語表現	頭語、結語、時候の挨拶などの、手紙に特有の日本語表現について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45

			して自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第9回	手紙の書き方の実践的練習	社会人としての手紙の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第10回	履歴書の書き方の基本	就職活動の際に作成する履歴書の書き方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第11回	効果的な文章表現の工夫	履歴書の自己紹介部分について、読み手にアピールする上で効果的な文章表現の技術を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第12回	履歴書の書き方の実践的練習	履歴書の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第13回	面接の受け方の基本	就職活動の際の面接の受け方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第14回	効果的な口頭表現の工夫	面接に際して、面接官にアピールする上で効果的な口頭表現の技術を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45

			して自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第15回	面接の受け方の実践的練習	面接の受け方について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 ・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

- ・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①課題の意図を適切に理解できている。
 - ②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
 - ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
 - ④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
- ・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。
- ・平常点は、授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○		○
定期試験	○	○		○
平常点			○	

評価割合 授業内課題40%、定期試験40%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書 なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】日本語表現に関する豊かな知識を有している。
- 【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
- 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- 【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく日本語で表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー

【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室

学生へのメッセージ

- ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
- ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
- ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ロールプレイング、課題発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の歴史と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要 (教育目的)	日本の歴史や文化についての知識は、大学における様々な勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし日本文化に育った者が大学入学時までに身につけているこれらの知識を、留学生は意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。「日本の歴史と文化」では、日本の歴史を学ぶことで、日本の政治的、文化的変遷を学び、更にそこから読み取れる日本文化の特徴および日本人の思考形式について理解を深めさせていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動 (音読、質疑応答など) に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	日本の姿 日本の地理	日本の地理に関する基本を理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本の歴史や文化に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」(pp. 8-9)～第3章「日本には、どんな島がありますか」(pp. 12-13)を読んでおくこと。	180
第2回	日本の姿 人口・気候・行政区	日本の人口・気候・行政区に関する基本を理解する。日本史の時代区分を理解する。	教科書第4章「日本は、どんな国ですか」(pp. 14-15)～第6章「いつの時代ですか」(pp. 20-22)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった	180

			場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本の歴史 石器から土器へ	旧石器時代、縄文時代の文化を理解する。	教科書第7章「歴史をまなぶ」(pp. 24-26)～第8章「ひとがすむ」(pp. 27-33)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	日本の歴史 農耕と金属器の時代	弥生時代の政治と文化を理解する。	教科書第9章「米をつくる」(pp. 34-38)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本の歴史 統一政権の誕生	古墳時代の政治と文化を理解する。	教科書第10章「統一政権の誕生」(pp. 39-45)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化	飛鳥時代の文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本の歴史 中央集権国家の形成	飛鳥時代の政治を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	まとめ・中間試験	日本の地理ならび歴史（旧石器時代～飛鳥時代）についての理解を深める。	教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」(pp. 8-9)～第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を再度読み返しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本の歴史 奈良時代の文化	奈良時代の政治と文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」後半部 (pp. 50-53) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	日本の歴史 律令国家の変容	平安時代の政治と文化を理解する。	教科書第12章「律令国家の変容」(pp. 54-60) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	日本の歴史 武士政権の登場	鎌倉時代の政治を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」前半部 (pp. 61-65) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点が	180

			あった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第12回	日本の歴史 鎌倉時代の文化	鎌倉時代の文化を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」後半部 (pp. 66-67) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本の歴史 武士社会の展開	南北朝時代、室町時代の政治を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」前半部 (pp. 68-72) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本の歴史 戦国大名の政治	戦国時代の政治を理解する。	教科書第4章「武士社会の展開」中間部 (pp. 72-74) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本の歴史 中世の産業と文化	中世の産業と文化を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」後半部 (pp. 74-77) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	--------------------------------------

学生へのフィードバック方法	・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
---------------	-----------------------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験ならびに期末試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（音読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○			
期末試験	○			
平常点			○	

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	東京外国語大学編 (1990) 『留学生のための日本史』 山川出版社 978-4-634-07010-3
-----------------	------------------------------------------------------

参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。
------	----------------------

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】日本の歴史や文化に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> 【千代田三番町キャンパス】 金曜3限 1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学則第54条に定める外国人留学生は必修（ただし、編入学、学士入学は「選択」）。 ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

授業概要(教育目的)

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。具体的には、人生100年時代といわれる中であって、キャリアや働くことについて深く考える。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること。	180分
第2回	働くとは ①(会社について)	働くとは何かを考える。	復習として、働くとは何か整理しておくこと。	180分
第3回	働くとは ②(100年時代の働きかた)	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	180分
第4回	100年ライフについて	100年時代の働き方について知る。	予習として、序章を読んでおくこと。	180分
第5回	長寿という贈り物について	長寿時代における働き方について考える。	予習として、1章を読んでおくこと。	180分

第6回	過去の資金計画について	これまでの教育・仕事・引退モデルの崩壊について考える。	予習として、2章を読んでおくこと。	180分
第7回	機械化・AI後の働き方について	雇用の未来として機械化・AI後の働き方について考える。	予習として、3章を読んでおくこと。	180分
第8回	お金に換算できないものについて	お金ではなく見えない資産について考える。	予習として、4章を読んでおくこと。	180分
第9回	今後の働き方①(新しいシナリオ)	今後の自身の可能性を広げることについて考える。	予習として、5章を読んでおくこと。	180分
第10回	今後の働き方②(新しいステージ)	今後の自身の選択肢の多様化について考える。	予習として、6章を読んでおくこと。	180分
第11回	今後の働き方③(新しいお金の考え方)	必要な資金をどう得るかについて考える。	予習として、7章を読んでおくこと。	180分
第12回	今後の働き方④(新しい時間の使い方)	自身のリ・クリエーションについて考える。	予習として、8章を読んでおくこと。	180分
第13回	未来の人間関係について	今後の私生活の変化について考える。	予習として、9章を読んでおくこと。	180分
第14回	変革への課題について	人生100年時代において、どのような変革の課題があるのかを考える。	予習として、終章を読んでおくこと。	180分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	これまでの内容を復習しておくこと。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、2回を就職懇談会に振り替える予定である。

学生へのフィードバック方法 授業において解説します。

評価方法

- ・課題として、毎週テキストの各章の要約をA4で1枚提出してもらいます。
- ・レポートは3000字程度、A4で2枚～3枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大切です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
- ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○		
レポート	○	○		

評価割合 レポート (60%)
課題 (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) リンダ グラットン(著)、池村 千秋 (翻訳)、『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)』、東洋経済新報社、2016年。

参考図書 星井博文(著)、リンダ・グラットン(著)、『まんがでわかる LIFE SHIFT』、東洋経済新報社、2018年。

ディプロマポリシーとの関連 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー 前期火曜日4限、後期金曜日3限。ただし、事前にアポをとってこること

学生へのメッセージ 課題が多いので、覚悟をもって授業に参加すること。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

授業概要 (教育目的)

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味が持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	授業概要	大学での学びの意義について考える。	大学生活での出会いについて復習しておくこと。	45分
第2回	キャリア教育とは	キャリア教育 (就職、資格、就業) とは何かについて説明を行う。	多様な働き方を調べてくる (課題①)	45分
第3回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	多様な働き方があることを復習しておくこと。	45分
第4回	学びと社会のつながり	「社会にでる」ってどういうことかを考える。	復習として、社会に出る意義を考えておくこと。	45分
第5回	社会を知る① (職種、業界偏)	職種、業界について知る。	職種、業界について復習しておくこと。	45分
第6回	社会を知る② (会社を知る)	会社について知る。	興味のある会社を知らべてくること (課題②)	45分
第7回	課題の解説	会社についての解説を行う。	会社について復習しておくこと	45分

			と。	
第8回	学びと社会のつながり	自分たちの学びがどのように社会とつながっているかを知る。	多様な働き方を調べてくる(課題③)	45分
第9回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	レポート作成について調べてくること(課題④)	45分
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説する。	レポート作成について復習しておくこと。	45分
第11回	失敗とは	失敗からの学びは何か考える。	大学での学びと社会の関係について調べてくること(課題⑤)	45分
第12回	課題の解説	大学での学びと社会の関係についての解説を行う。	大学での学びと社会の関係について復習しておくこと。	45分
第13回	組織に求められる能力とは	探求力、思考力、コミュニケーション力、遂行力について考えてる。	復習としてコミュニケーションについて考えてくること。	45分
第14回	仕事人生における壁について	仕事人生40年における壁について考える。	仕事人生40年における壁の復習をしておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を総復習する。	予習としてこれまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説します。

評価方法

- ・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。
- ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
- ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合 レポート(60%)
課題4～5回(40%)

使用教科書名(ISBN番号) なし。必要な資料はプリントで配布します。

参考図書 児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ』、筑摩書房、2013年。

ディプロマポリシーとの関連 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー 前期火曜日4限、後期金曜日3限。
ただし、事前にアポをとってこるこ

学生へのメッセージ 課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット(1束100円程度)を購入してもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	キャリアデザインb		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

授業概要(教育目的)

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考えから始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること	45分
第2回	働くとは ①(会社について)	働くとは何かを考える。	身近な人の仕事上の苦勞について調べてくること(課題①)	45分
第3回	働くとは ②(100年時代の働きかた)	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	45分
第4回	フリーターについて。	フリーターという働き方について考える。	復習として、フリーターという働き方について考えておくこと。	45分
第5回	社会と会社について。	社会と会社について知っていること、知らないことを整理する。	社会と会社について分かっていないことを調べておくこと(課題②)	45分

第6回	6課題についての解説	課題についての解説を行う。	復習として、社会と会社について分かっていないことを整理しておくこと。	45分
第7回	業界・職種について	業界・職種について知る。	興味のある業界と職種を調べておくこと（課題③）	45分
第8回	8会社について	会社について知る。	興味のある会社について調べておくこと（課題④）	45分
第9回	課題についての解説	業界と会社についての解説を行う。	レポート作成を調べておくこと（課題⑤）	45分
第10回	レポート作成	レポート作成について知る。	良い会社とは何か調べておくこと（課題⑥）	45分
第11回	良い会社とは	どのような会社が良い会社なのかを考える。	復習として、良い会社について整理しておくこと。	45分
第12回	就職懇談会振り替え①（一般企業）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第13回	就職懇談会振り替え②（教職）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第14回	自己の成長について	成長するための準備を知る。	復習として、成長について考えておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	予習として、これまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、2回を就職懇談会に振り替える予定である。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説します

評価方法

- ・課題は5回～6回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。
- ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
- ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合 レポート(60%)
課題4～5回 (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要な資料はプリントで配布します。

参考図書 児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ』、筑摩書房、2013年。

ディプロマポリシーとの関連 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー 前期火曜日4限、後期金曜日3限。
ただし、事前にアポをとってこること

学生へのメッセージ 課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット（1束100円程度）を購入してもらおう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

專 門 科 目

シラバス参照

講義名	生活設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

授業概要 (教育目的)	消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは冷たい貨幣で動くさらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。生活者を支援する専門的能力を育成する。
履修条件	なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動 (文献収集、調査など) に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

貨幣新時代の生活設計

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	導入— 人生100年時代の生活設計	人生100年時代の生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本や、世代による人生の違いを理解し自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第2回	人生100年時代のライフプランを描く ①変わる家族：家計管理は誰がする	デジタル化・キャッシュレス化が進む時代の家計管理・生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分

第3回	ライフプランを描く②冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシー	シェアリングエコノミーやクラウドファンディングなど持続可能な社会に向けた家計管理・生活設計がすすんでいる。経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第4回	地域・モデル事業を探す(グループ活動開始)大学生が魅力を感じる農泊とは;奥津軽を事例に	大学生が魅力を感じる農泊とは;奥津軽を事例に地域・モデル事業を探すグループ活動を開始する。国内外の農業とジェンダー問題を理解し分析する力をもとに今日の課題を解決するため女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第5回	なぜ今金融リテラシーなのか金融庁>	金融リテラシー出張授業を担当して<金融庁>金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第6回	お金とは:お金を稼ぐお金を貯める<金融広報中央委員会>金融教育の意義と歴史世界の金融教育	お金とは:お金を稼ぐお金を貯める<金融広報中央委員会>金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第7回	キャッシュレス社会の家計管理・生活設計<全国銀行協会>	お金をかりる<全国銀行協会>(クレジットカードの利用住宅ローン)は金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第8回	投資の意義<日本証券業協会>お金をふやす、	お金をふやす、リスクとリターンとの関係、長期投資の重要性など<日本証券業協会>は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に証券業界団体の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第9回	お金を遺す遺言・相続・事業承継にみる家族と地域<信託協会>	お金を遺す遺言・相続・事業承継にみる家族と地域<信託協会>は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に信託業界団体の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第10回	さまざまな経済設計<日本FP協会>モデル格差社会でFPの果たす役割	さまざまな経済設計<日本FP協会>モデル格差社会でFPの果たす役割は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に日本FP協会の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなともひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第11回	ライフプランを描く③持続可能な社会と地域コミュニティ【寄付や社会貢献投資の意義・仕組み、身近	持続可能な社会と地域コミュニティは金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをふりかえる。	『生活者の平成30年史 データで読む価値観の変化』日本経済新聞を読みそこに示されている【イマ・ココ・ワタシ】という価値観の変化は身近に起きている傾向なのかを考えてみる。	180分

	な社会貢献事例など】			
第12回	人生100年時代のエンパワメントと生活資源	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分
第13回	発表会プレゼンテーション準備	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分
第14回	発表会	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつけ、女性農業者と農家民泊を例に個人をセルフエンパワメントする生活設計・金融リテラシー事例を報告する。	報告会準備・パワーポイント作成・読み原稿作成・予定演習	180分
第15回	振り返り	家計管理・生活設計を中心にした大学生の金融リテラシーを学んで、エンパワメントしたと思う内容を、将来もっと学ばべきと思ったことを整理する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分

学習計画注記 ※外部講師の都合や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 提出された課題や最終発表に対して、専門家の講師及び教員が助言、添削等を行う。

評価方法 授業時にはリアクションペーパーを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。レポートに関しては、関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業ごとのリアクションペーパー	○		○	
レポート発表・提出資料	○			○
最終試験	○	○	○	○

評価割合 授業ごとのリアクションペーパー 50点
レポート発表・提出資料 30点
最終試験 20点

使用教科書名 (ISBN番号) 生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。
金融広報中央委員会 (<http://www.shiruporuto.jp/>)
日本FP協会 (<http://www.jafp.or.jp/>)

	生命保険文化センター (http://www.jili.or.jp/) 損害保険協会 (http://www.sonpo.or.jp/)
参考図書	大学生のためのFP資格ガイドブック 学生生活マネー&キャリア お役立ちハンドブック！ FP3級程度の知識をつけるテキストを適宜。 日本FP協会 フィナンシャル・プランニング入門など
参考URL	http://www.jafp.or.jp/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	上村 1805ゼミ室 前期： 水曜日 4限 後期： 火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	自分の求めるライフデザイン実現には、金融知識・金融リテラシーが必要です。家庭経営学概論（1年）家庭経済学（3年）の知識をもとに授業をすすめます。生活の経済など他科目とも関連付け社会で求められるフィナンシャルリテラシーを身につけます。各授業ごとに、事前に学んでおく内容、振り返りの内容を指示します。授業時間外に自習して、就職活動にもつながる経済基礎力を培ってFP資格取得にもチャレンジしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融庁・日本銀行・全国銀行協会・FP協会などの専門家による講義により、実社会に必須となる金融リテラシーを身に付ける
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、生活設計に関する深い気づきを促す

シラバス参照

講義名	インターンシップ (3年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要 (教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。
履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明 (1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分

第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るインターンシップ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話を聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	ビジネスマナー(1)	外部講師を招いてビジネスマナー(挨拶など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第9回	ビジネスマナー(2)	外部講師を招いてビジネスマナー(電話対応、企業訪問など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第10回	面談(6月中旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第11回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第12回	面談(6月下旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第13回	夏季休暇中：インターンシップ実習	インターンシップ実習(8時間×5日=40時間以上)	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第14回	後期1回目：インターンシップの振り返り(1)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第15回	後期2回目：インターンシップの振り返り(2)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。				
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 ・その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 ・成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	成果報告書			○	
	平常点			○	
評価割合	成果報告書80% 平常点20%				

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書 (平成30年度)
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
オフィスアワー	金曜 3 限 (小池) 3508研究室
学生へのメッセージ	インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。 インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。 インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこと。 なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代生活論（現代家政学科）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、民族紛争、南北問題、格差・貧困、人種問題、あるいは国際紛争、国内に眼を転じれば、住宅問題、過労死・自殺の急増、介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、引きこもり、などなど。世界に起きている生活の問題や日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的につなぐ努力を行い、問題を深め、希望を語れる素養を身につけることをめざす。
履修条件	特に無し。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考え理解できる。
思考・判断の観点 (K)	他の人々との意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題について、積極的にかかわり、調べたことを整理し、皆と協力的に意見交換ができる。
技術・表現の観点 (A)	テーマに沿って、相手に伝える工夫ができ、自分自身の意見が述べられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代生活論の授業概要と授業の進度予定 担当：沼波秀樹・松本幸子	現代生活論では、人間生活の環境の変化の中で、日常生活に起こる様々な問題を考え解決していく力を養うために、学科の専門分野の先生方が教授する、ヒントをとらえ、各自自身がそれらに向かって、個々で解決できる力を身につけること希望し、進めていく予定である。	シラバス等を読んで、内容を把握しておくこと。	90
第2回	ことばと生活文化 担当：内田宗一	日本語の歴史的变化を通じて読み解ける生活文化の変遷のありようを理解する。	事前学習として、ことばと生活文化の関連について、1年次必修「現代家政演習」で学んだ内容を復習しておく。授業後は配付資料やノートを読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は、附属図書館を利用するなどして自主的に学習し、知識を定着させる。	180

第3回	伝統文化を現代に活かす 担当：井上真弓	現代を生きている私たちは、ともしれば身近なものにさしたる関心を寄せずに過ごしがちですが、物事にはしかるべき「背景」があります。それを学ぶことを通して、文化継承の問題を考えます。未来の暮らし方について皆で考えてみましょう。	予習として、「文化」についての知見を得ておく。復習として現代にも継承されている伝統文化を街中より探してみる。	120
第4回	Looking Outward to Communicate with Different Cultures 担当：マーク・ルイス	How customs and manners differ between cultures. How our particular values differ and influence communication.	Students should read handout provided by the teacher before the day of class.	90
第5回	生活様式とすまい 担当：大橋竜太	世界にはさまざまな形状の住宅があります。これらの住宅は、気候風土を考慮しながら、より快適な生活を送ることができるよう、改良が加えられながら完成してきました。本講義では、すまいに凝らされたさまざまな工夫を、スライドを用いて解説していきます。	インターネットを用いて、各地の伝統的な住宅形式を調べ、気候風土との関係をまとめること。	120
第6回	現代住宅の設計手法 担当：大宮司勝弘	住まいの設計のためにまず知るべきことや考えるべきポイントについて、実際に設計された住宅を例に、構想段階から実施設計、行政への建築確認申請、着工、竣工へ至るの流れを追いながら、建築士の職能とともに紹介する。	図書館やインターネットを利用し、住宅を扱った書籍や雑誌、記事などから、自分の理想とする住環境のあり方について思考をしておく。	180
第7回	人間の感覚と環境評価指標 担当：栂田考一	人間は、目(視覚)、耳(聴覚、平衡感覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)、皮膚(触覚、温覚、圧覚)で環境からの刺激を受け、その感覚によって自身の置かれた環境を認識している。熱環境、空気環境、視環境、音環境について、刺激と感覚の関係を示す種々の環境評価指標を紹介する。	配布資料を参考に興味ある事項について、さらに知識を深めること。	120
第8回	祭り遊び 担当：大嶋 徹	自分の在住地域の祭りを調べ報告し、その地域と祭りの結びつきを考え、その中に遊びの要素があるかどうか考察する。	在住地域の祭りは何かを調査する。復習：祭りの中の遊びの要素を抽出し、他の祭りと比較する。	90
第9回	現代社会における余暇 担当：木村文香	余暇 (leisure) の言葉の概念について理解する。また余暇のもつ、生活の豊かさや、メンタルヘルスの向上など、生活に必要なスキルを習得させる側面を解説し、現代社会の問題解決の方法を余暇の側面から考える。	受講前の事前学習として、現状の自分の生活リズムや余暇活動について、把握しておく(45分)。受講後の事後学習として、自らの余暇生活について見直すと共に、社会の問題について、余暇の側面からその解決方法を分析する(45分)。	90
第10回	働くとは？就職活動とは？ 担当：金森敏	本授業では就職活動に触れつつ、働くことについて考えます。	予習として、就活ルールについて調べておくこと。	90
第11回	消費者の視点から「奨学金」を考える 担当：小野由美子	奨学金について教育サービスの消費者としての立場から考えます。日本学生支援機構の奨学金制度の現状を知り、卒業後に起こりうる課題(不払いや延滞、民間の債権回収専門会社への業務委託等)や社会的対応のあり方を検討します。	奨学金に関する新聞記事を読むなどして情報収集に努める。奨学金の利用者は卒業後の返済計画を確認する。利用していない人は奨学金の利用者や、現在、返済している人に将来の返済についての考えを尋ねる。	90
第12回	調理と食品成分の変化 担当：竹中真紀子	食品の調理によって成分や物性の様々な変化が起こり、それらの中にはリスクを持つ微量成分もあります。食生活においては、リスクの有無ではなく、トータルとして身体への悪影響がないことが重要であることを学びます。	農林水産省のホームページの「消費・安全局」の「政策」にある「食品の安全確保」、「健康な食生活」などのサイトを見て、食品の調理や加工によって生じる有害物質やこれに関する予備知識を得ておくこと。	180
第13回	料理の盛り付け 担当：伊藤有紀	和食を中心においしさや食文化の面から料理の盛り付けについて考えます。	復習として、配付資料を参考に授業の内容をまとめる。	120
第14回	エプロンにみる家庭生活の中の衣服 担当：山村明子	家庭内で着用される衣服とは、くつろぎ・就寝・家事労働といった状況に応じて求められる衣服である。すなわち、生活空間・時間そして家族関係の様相と深く関わっている。本講では主婦が家事労働に着用するエプロンに焦点を当て、第二次大戦以降の生活の変容を考える。	予習として、自分及び家族のエプロンの所持枚数及び着用状況を調査・記録する。	120
第15回	生活者視点で考えるカラーユニバ	われわれの色の見え方は一様でないことを理解するために、色覚にはいくつかのタイプがあることを解説する。特に、日常生活におけるカラーユニバーサルデザインの	色彩論を履修した学生は、「色の見える仕組み」を教科書で復習しておくこと。履修していな	90

一サルデザイン 担当：井澤 尚子	具体例をあげ、カラーユニバーサルデザインの考え方や必要性について理解を深める。	い学生は、書籍、インターネットを用いて予習すること。併せて「カラーユニバーサルデザイン」の意味を調べまとめる。
------------------------	-----------------------------------------	---------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法 適宜、各担当教員が質問を受ける。

評価方法

- ・平常点（授業への参加状況や課題が提示される場合は取り組みの等）及び定期試験（レポート形式）による総合評価。
- ・各回で担当する教員から課題等が出される。
- ・定期試験は記述式で、領域が重ならないように2つの授業を選んで回答する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
定期試験	○	○	○	○

評価割合 平常点（50%）および定期試験（50%）の総合評価とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

参考図書 複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
- 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 第1回の授業で教員別のオフィスアワーの一覧表を配布する。授業全体に関する質問は、沼波・松本が対応します。

学生へのメッセージ 準備学習は、広く、現代人の生活全般に関心を持つようにしてほしい。現代人とは、子ども、乳幼児、若者、大人、あるいは、高齢者や弱者、病気を抱える人びと、さまざまな困難を抱える人びと、差別を受ける人びと、などである。イメージを豊かに広げられるようにしてほしい。そうした人びとが抱える生活上の基本問題（重要課題）は何か、つねに、関心を示せるようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かし た授業		
アクティブ・ラー ニング		
情報リテラシー教 育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	家政学原論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
非常勤講師	工藤 由貴子	指定なし

授業概要(教育目的)	家政学原論とは家政学とは何か、家政学をまなぶことで人はどのように変化できるかを考える授業である。総合家政の特色をもつ本学の現代家政学の意義と可能性を3つの柱から概説する。第一は、現代日本において当面する生活の諸課題を生活者の視点、家政学・現代生活学の研究方法から明らかにする。第二は、女性の生き方と家政学との関係を整理する。家政学がどのように生成発展してきたか、ジェンダーや老年学の視点から理解する。第三は、国際的視点や地球環境との関わりから持続可能な社会形成に向けて現代家政学の可能性を考え、家政学を学んだ学生の生涯設計と社会的役割について考える。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家政学原論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家政学原論とは	家政学原論とはどのような研究分野・授業科目かを理解し、半期の授業予定にそった学びの計画をたてる。	テキストp1～p9を読み演習問題に取り組む。	180分
第2回	日本の「家政学原論」研究の歴史	「家政学原論」の誕生の経緯と誕生時「家政学原論」に期待された役割について理解する。	テキストp1～p9を読み演習問題に取り組む。	180分
第3回	家政学とは何か	「家政学」の定義について理解し、「家政学」の独自性について考え、「家政学」にはどのような専門分野があるのか、その全体を把握する。	テキストp10～p18を読み演習問題に取り組む。	180分
第4回	世界の家政学 ヒューマンエコロ	世界の家政学に影響を及ぼす要求について理解し、アメリカの家政学の歴史とヒューマンエコロジー思想を理解する。	テキストp19～p38を読み演習問題に取り組む。	180分

	ジ思想と家政学			
第5回	生活主体としての人間発達	家政学が（家庭を中心とした）人間の「生活」の学びであることを理解し、生活の主体者は個人・家族・コミュニティの一員として、生涯にわたって発達・変化し続けることを理解する。	テキストp57～p65を読み演習問題に取り組む。	180分
第6回	家政学と家族	家政学を学ぶ上で、家族をどのようにとらえるべきかを考え、家政学が「生活主体としての人間発達」をどのように支援できるのかを考える。	テキストp66～p73を読み演習問題に取り組む。	180分
第7回	家庭生活論	家政学の研究対象である家庭生活の特徴と現在の家庭生活の課題について考え、「家族・家庭・世帯」の概念の違い、世帯の動向、家族・家庭の機能について理解する。	テキストp74～p82を読み演習問題に取り組む。	180分
第8回	家政学は生活をどのように捉えてきたか	家庭生活はどのような要素で校正されているかを考える。「生活文化」の意味内容や性質について具体的に理解し、家政学における「生活文化」のとらえ方や課題について考える。	テキストp83～p107を読み演習問題に取り組む。	180分
第9回	家政学と教育	家庭科教育や消費者教育が家政学の本質とどのように関連するのかを考える。	テキストp108～p120を読み演習問題に取り組む。	180分
第10回	現代社会の生活者と家政学	天野正子の現代生活者論や現代生活学をもとに、食品ロス、SDGに關心をもち自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考える。生活者とは誰からサステナブル（持続可能）な社会の創造を考える	テキストp121～p129を読み演習問題に取り組む。	180分
第11回	日本における家政学と大江スミ	日本における家政学の展開過程について、社会的背景とおもに把握し、科学（学問）として家政学が成立するために、大江スミが果たした役割を考える。	テキストp39～p43を読み演習問題に取り組む。	180分
第12回	戦後の家政学の展開	戦後における「家政学原論」研究史の概略を把握し、東京家政学院大学の家政学部の位置づけを知る。	テキストp43～p49を読み演習問題に取り組む。	180分
第13回	持続可能な社会と家政学	「持続可能な社会を創る」という観点から家政学の社会貢献を考える。	テキストp143～p203を読み演習問題に取り組む。	180分
第14回	家政学の未来	国際家政学会の活動や、世界の国々の家政学の現状を、社会・経済状況との関連も踏まえて理解し、家政学の未来を考える。	テキストp19～p56を読み演習問題に取り組む。	180分
第15回	まとめ	家政学という学問についての理解、関心を高めることを目指す。生きにくい今だからこそ生活を総合的に見つめる家政学的視点が求められている。国際家政学会の2008ミッションステートメントや世界の家政学や家庭科教育に動向に目をむけて、また日本の家庭科教育の役割にも注目して、持続可能な社会の実現に自分が関われるかを自分に問いかけてほしい。	復習として、テキスト全体を読み返し、自分のなぜ家政学を学ぶのかという原点に立ち戻って考える。	180分

学習計画注記 講師の都合により、日程が変更となる場合があります。

学生へのフィードバック方法 調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法

- ・評価の内容は、以下のような観点から行う。
 - ①調査の目的や意義が明確である。
 - ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができる。
- ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業ごとに提出するレポート	○	○	○	
期末試験・最終レポート	○	○	○	○

評価割合 授業ごとに提出するレポート（50%）
期末試験・最終レポート（50%）

使用教科書名 (ISBN番号)	やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会 編/建帛社 (978-4-7679-1449-7)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	前期： 水曜日 4限 後期： 火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	家政学とは何か、なぜ必要であり、家政学を学んだ人は何ができたのか。家政学原論研究に取り組んだ女性たち、家政学を社会に生かして活躍する卒業生などの事例から、家政学の社会における意義と貢献内容を気が付く授業にしたいと思います。世界共通のレベルで家政学が生活者の視点で社会を変革できることを自覚し、自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	女性史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

女性の生き方を歴史に学びます。明治のはじめ、封建的な女性像（『女大学』など）はいかに批判されたのか。福沢諭吉は、その代表的な人物でした。彼の近代的な女性像を明らかにします。自由民権運動は女性の解放をどのように考えたのか。女性の参政権など、について語ります。明治後半から大正期にかけて女性の職業的自立や恋愛の自由が論じられます。平塚らいてうは、女性として恋愛の自由を主張します。女性は愛される対象ではなく、愛する主体なのだと言います。そして戦争の時代、女性たちはどのような生き方を選んだのか。戦争と女性の関わり方を考えます。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	女性の生き方や考え方は、歴史によって規定されていることを理解する。日本の女性たちはどんな思想を形成してきたのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	女性が自由にものを考え、生き方を選択できるのかは、歴史に学ぶ必要があることを理解する。その思想と判断力を歴史に学び、現実に生かせる、そうした思想と判断形成力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

女性史

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	女性の生き方と歴史	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第2回	女大学について	江戸中期の女大学とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第3回	女大学とは何か	女大学の思想と意義、問題点	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第4回	福沢諭吉の女性観	福沢の女大学批判	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第5回	福沢諭吉の女性観	福沢の女性観、アジア認識との関連など	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第6回	植木枝盛の	自由民権運動の女性観	講義で配布したテキストを読み	180分

	女性観		直し、KGノートを作成する	
第7回	自由民権運動の女性観	民権運動をになった女性たち	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第8回	明六社の女性観	森有礼の女性観など、	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第9回	明治憲法と女性	民法典論争と女性	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第10回	教育勅語の女性観	教育勅語の女性観、「夫婦相和シ」とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第11回	高等女学校の教育	良妻賢母主義教育とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第12回	北村透谷の恋愛観	恋愛と女性	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第13回	平塚らいてう	平塚らいてうの結婚観	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第14回	平塚らいてう	平塚らいてうの子育て観	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第15回	近代女性の生き方	近代女性の教養と労働、まとめ、	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

学生へのフィードバック方法	講義形式。プリントをたくさん配ります。歴史的な文書を読みながら、その時代状況を想像し、自らその時代の中に生きていたならどのような考え方をもつだろうか、を想像しながら、講義を受けてください。時々、意見を求めます。また、講義ノートの他に、KGノート（家庭学習ノート）の作成を求めます。時々点検します。
評価方法	定期試験とKGノートの点検による総合評価。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	KGノート10%、試験90%、の総合評価(100%)。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に決めません。プリントをたくさん用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。
参考図書	講義に中で、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	知識・思考、総合的な家政学の見地にたつて、諸問題を理解できる 関心・表現、生活者の視点で、関心を持ち続ける、心豊かな視点で、提案できる
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	女性の歴史を学び、自らの生き方を考えてほしいと思います。過去を学ぶことは、現在と無関係ではなく、現在と未来を生きていくために、過去を学ぶのです。また、自分と無関係に学ぶのではなく、自分の生き方に引きつけて、女性の過去を学んでほしいと思います。 準備学習として、「日本の近現代史」をきちっとおさらいをしておくこと。 特に、江戸末期から明治期、第一次、第二次世界大戦期の、政治・経済・社会状況の基本事項を調べておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	美と健康		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要(教育目的)	心身が健やかで、疾病等のトラブルがなく日常生活をおくれることが「健康」な状態である。一方、「美しい」という概念は一通りの型にはまったものではない。それは歴史的にみても時代や社会によっても望ましい概念は異なってきた。また、多様性を認める今日の社会においては多種多様な「美」を見出すことが望まれる。本講では「美」と「健康」とのバランスを学び、衣服や装飾行動と身体メカニズムとの関連を理解し、美しく過ごすことの意義を考える。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	美と健康に対する歴史的事象と現代社会の問題点を理解する
思考・判断の観点 (K)	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	多様な美、唯一の健康	歴史的な事象として、時代により社会が求める美・美意識は異なっていることを学び、美とは多様であることを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	美のはじまり 清潔	近代にいたるまでの日本、西洋の清潔に対する概念を学び、明治以降の近代西洋医学の導入とともに清潔が美的要因となったことを理解し、現代社会における清潔に関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第3回	においと香り	近代にいたるまでの日本、西洋の香りに対する概念を学び、清潔の指標でもあるにおいの存在及び香りが心身にもたらす効用、現代社会における香りに関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第4回	皮膚 小麦色の肌と美白	日本人の肌の色に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、皮膚の組織と紫外線からの影響等を学び、健康な肌とは何かを理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する資料を読む。復習として関連する	180分

			企業活動の情報を公式HP等より収集する。	
第5回	美肌をつくる (1)	校内特別授業として美容の専門家である外部講師から、潤いと肌理の整った素肌をつくるための手入れについて学ぶ。	授業で指示する課題を自宅で実践する。	180分
第6回	化粧 歴史的な展開	日本人の化粧に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、現代の化粧でのトラブルの一つとしてアイメイクに関する問題点を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第7回	美肌をつくる (2)	校内特別授業で課された課題提出を踏まえ、その内容に関する振り返りとアドバイスをを行う。	実践した自宅課題の内容をレポートにまとめる。	180分
第8回	毛髪 黒髪と茶髪	日本人の毛髪に対する志向を平安時代から今日までの変遷で学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第9回	毛髪 染毛料と人権	今日のヘアスタイルに欠かせない染毛料について学び、そのトラブル等について理解する。また、毛髪と人権の問題について事例を基に考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第10回	からだつき 肥満と痩身	体格は健康の指標であると同時に、体型は美的要因でもある。第二次大戦以降の日本の体型への志向を学び、美と健康を両立させる体型とは何かについて考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第11回	足と靴	第二次大戦以降の靴の流行を学び、靴のデザインと正しい歩行や足の健康との関わりについて理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第12回	美容医療 (美容整形)	美容医療が発展してきた背景を学び、現代の美容医療のトラブルの事例を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第13回	企業見学	美と健康に関連する事業を行っている企業 (花王株式会社すみだ事業場) の見学を行い、企業理念、製品の特長、清潔と美との関わりについて学ぶ。	予習として花王株式会社公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。見学後には、見学内容をまとめるレポートを作成する。	180分
第14回	おしゃれと心の健康	QOLを高めるために美容行為が着目されている現状に着目し、美容行為が精神面に働きかける効果について理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、美とはどのような概念か、また美と健康とはどのような関わりを持っているのか考える。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記	第5回:美肌をつくるは外部講師の都合により、開催時期を変更する可能性がある。 第14回:企業見学は見学先の状況により、開催時期を変更する可能性がある。
--------	--------------------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業時の小課題:採点、返却時に要点を解説する。要点を再確認することで授業内容に対する理解を深める。 校内特別授業のレポート課題は採点、返却時に内容や質問に対する解説、回答を行う。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	授業時の小課題:授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。 課題は美容に関する自宅での実践課題と見学のまとめ課題である。 試験では授業内容全体の理解と自身の意見を論述する課題を問う。知識の記憶だけではなく、授業内容を踏まえた自身の見解を持つことが重要である。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○	○		
課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合	授業の小課題:15% 課題(2回):20% 期末試験:65%
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない (プリント配布等)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】美と健康に関する歴史的背景と現代の課題を学び、美と健康が関与する「質の高い生活」とは何かを理解する。 【思考・判断】美と健康に関する現代の課題を学び、適切な行為を選択することができる。 【関心・意欲・態度】美と健康に関する今日の問題について関心をもち、情報を収集する。
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	授業で扱うテーマおよび関連テーマについて、現状把握・分析および考察などを、日常的・自発的に行ってほしい。健康的かつ美しく生きるための、生活者としての自分の姿勢を構築していくことが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	美容業界に長年携わっている外部講師による実践的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	企業 (花王株式会社) 見学による、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題作成における情報収集とPCの活用

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	多様な統計を読み解く力をつけるとともに、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数を使用した処理、グラフの作成などの応用操作を学習する。家計調査などの政府統計も活用しながら、情報処理の基本的な知識を理解し、演習を通して技術を身に付ける。コンピュータ演習bに引き続く授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45分
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作①	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第3回	数式入力・関数挿入の基本操作②	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第4回	数式入力・関数挿入の応用操作①	データ・計算式・関数入力などの応用操作の練習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第5回	数式入力・関数挿入の応用操作②	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第6回	統計調査を	政府統計である国勢調査や家計調査を理解する。家計調	公表されている家計調査のデー	45分

	用いた演習①	査を用いた課題の説明。	タについて調べること。	
第7回	統計調査を用いた演習②	家計調査を用いた課題の作成。演習結果を提出する。	家計調査に関する課題を完成させること。	45分
第8回	統計調査を用いた演習③	事業者が実施した調査について学ぶ。質問紙調査を用いた課題の説明。	既存の質問紙調査について調べること。	45分
第9回	統計調査を用いた演習④	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。	45分
第10回	統計調査を用いた演習⑤	質問紙調査の集計と分析の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を完成させること。	45分
第11回	統計処理①	単純集計・度数分布、統計処理（平均・分散・標準偏差）の説明と練習。演習結果を提出する。	平均値などの代表値が関数を用いて算出できるよう復習すること。	45分
第12回	統計処理②	統計処理（クロス集計）の説明と練習。演習結果を提出する。	クロス集計表が作成できるよう復習すること。	45分
第13回	統計処理③	高度なグラフを作成する。散布図と相関係数を説明・練習。演習結果を提出する。	散布図を作成し、相関係数を求めることができるよう復習すること。	45分
第14回	数式入力・関数挿入の応用操作③	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第15回	数式入力・関数挿入の応用操作④	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	世の中の膨大な量の情報から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集し、必要なものを効率よく検索して見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールであるデータベースについて、表計算ソフトとデータベース・ソフトの両方を用いながら、基本的な考え方を学ぶとともに、操作に関する能力を高める。情報処理演習Ⅰに引き続く授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算とデータベースによる情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を確認する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力などの操作を復習すること。	45
第2回	データベース管理システムの機能	データベースの役割や概要を学ぶ。演習結果を提出する。	データベースの基本的な知識を整理すること。	45
第3回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①	特定の条件を満たすレコードを対象にして集計するDSUM関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DSUM関数の操作について復習すること。	45
第4回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②	平均を求めるDAVERAGE関数、最大値・最小値を求めるDMAX関数、DMIN関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DAVERAGE関数、DMAX関数、DMIN関数の操作について復習すること。	45

第5回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③	個数・数値データを求めるDCOUNT関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DCOUNT関数の操作について復習すること。	45
第6回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作①	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第7回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作②	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第8回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作③	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第9回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作④	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第10回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作⑤	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第11回	データベースソフトを使った操作①	データベースソフトの概要を説明。データベースの設計と作成について学ぶ。	データベースソフトの概要を整理する。	45
第12回	データベースソフトを使った操作②	テーブル・クエリの作成。演習結果を提出する。	テーブルとクエリが作成できるよう復習する。	45
第13回	データベースソフトを使った操作③	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第14回	データベースソフトを使った操作④	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第15回	データベースソフトを使った操作⑤	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算とデータベース能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 現代家政学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。
評価割合	研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。
ディプロマポリシーとの関連	ゼミ受講生との話し合いで決定する。
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

シラバス参照

講義名	卒業研究B		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 現代家政学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。研究成果の報告では、プレゼンテーション力を身につけ、説明と議論を可能にすること。
評価割合	研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。
ディプロマポリシーとの関連	ゼミ受講生との話し合いで決定する。
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。

シラバス参照

講義名	家族論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林 葉子	指定なし

授業概要 (教育目的)	「家族」のあゆみと現状を家族社会学の知見に基づいて理解したうえで、近未来の「家族」と「家族」を取り囲む社会や制度の在り方について意見や展望をもてることを目指している。「問い」形式で家族社会学の知識が展開される教科書を用いて、論理的思考力や、分析力（総計データや資料などを読み解く力）を身につけられることを目的としている。ひいては、社会に出た時に、社会の単位である家族の視点を持って、統計データを分析し、社会で的確に活動していくことができるような内容を目指す。
履修条件	前年度までに家族関係論を履修していたことが望ましい

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代家族までの家族の変遷を理解し、説明できる。 2. 現代家族の問題点を指摘することができ、それに対する自分自身の意見を述べるができる。 3. 様々な公的な統計資料を用いて、現代社会を分析することができる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを用いて、そこに現れる現状や様相を読み解くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニュースなどで取り上げられた「家族」の特徴を思考する力が身につく。 2. 新聞などに掲載された統計調査の結果を理解することができる。 3. 学生が主体的に問題に取り組む姿勢を持つようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション： 授業の進め方の説明、 回答レポートの書き方、 期末レポートの書き方を説明	授業の進め方を説明する。(教科書の間にそって進めていくこと。問に関する説明を教科書やその他の資料一必要なときに配布またはパワーポイントで提示を用いること) 回答レポートの書き方、期末レポートの書き方を説明する	・教科書を初回の授業までに購入しておく、ざっと目を通しておく。	60分程度
第2回	「家族」を読み解くための基本的知識と視点	現代家族の在り方、変化や多様化の現状を学び、その問題点、政策、論点を把握する。教科書の執筆者たちの家族社会学に対する姿勢を理解し、教科書の概要を知る。	予習：教科書1. 『「家族」を読み解くために』(p. 2～p. 22) を読んでくること 復習：教科書p. 2に提示されているQUESTION 1、2の回答レポ	120分

			ート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週にすること。	
第3回	家族は、いつも時代にも変わらないか?	現代家族を理解するために、家族と歴史的变化に対する様々な論説、家族の地域的多様性を実証的な研究や統計データによって説明する。	予習: 教科書 第2章『「近代家族」の成り立ち』1~3 家族の地域的多様性と歴史的变化 (p. 24~p. 38) を読んでくること 復習: 教科書 p. 24 に提示されている QUESTION 1 に対する回答レポート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第4回	家族をめぐる社会状況は近代化によってどのように変化したか?	現代家族を理解するために、近代家族の歴史、成り立ちの歴史的背景、家族制度の変遷について学ぶ	予習: 教科書 第2章 4 家族をめぐる社会状況の近代化、5 近代家族と近代化 (p. 38~p. 48) を読んでくること 復習: 教科書 p. 24 に提示されている QUESTION 2 に対する回答レポート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第5回	家族形態によって貧困のリスクは異なるか?	「貧困」の概念、貧困問題に対する視点を理解したうえで、貧困状態にあるのはどのような家族形態の人々なのかを、いくつかのデータを検討しながら把握する。	予習: 教科書 第3章『家族・貧困・福祉』1~3 家族と貧困 (p. 50~p. 60) を読んでくること 復習: 教科書 p. 50 に提示されている QUESTION 1 に対する回答レポート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第6回	個人や家族を支える生活保障システムの日本の特徴は何なのか?	経済とケアの両面で家族を支える福祉制度のタイプと生活保障システムを学び、それをもとに、日本の家族に期待されている役割を把握する。さらに、諸外国と比較検討する。	予習: 教科書 第3章 4 福祉レジーム類型と家族~6 社会的包摂に向けて (p. 60~p. 75) を読んでくること 復習: 教科書 p. 50 に提示されている QUESTION 2 に対する回答レポート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	150分
第7回	結婚とは何か?	結婚が近代化によってどのように変化したかを把握し、結婚を機能と法・制度の側面から理解する。	予習: 教科書 第4章『結婚』1、2 結婚とは何か (p. 78~p. 91) を読んでくること 復習: 教科書 p. 78 に提示されている QUESTION 1 に対する回答レポート (A4 1 枚以上: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第8回	未婚化や離婚の増加は、結婚の衰退ということか、あるいは現代社会に適応するための変化か?	結婚を取り巻く変化を概観したうえで、近年の結婚の変化である未婚化、離婚の増加の背景、要因をデータを用いて理解し、その社会的対応を学ぶ。	予習: 教科書 第4章 3 未婚化という変化~5 パートナシップの多様化 (p. 91~p. 107) を読んでくること 復習: 教科書 p. 78 に提示されている QUESTION 2 に対する回答レポート (A4 1 枚: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第9回	日本の働き方の特徴は、性別によってどのように異なるか?	女性の活躍する社会 (就業システム)、ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) の実現に向けて、我が国の男女の働き方の特徴と変化をデータを用いたり、国際比較をしながら理解する。	予習: 教科書 第5章『就業と家族』1~3 男女格差の温存と女性労働者の二極化 (p. 110~p. 122) を読んでくること 復習: 教科書 p. 110 に提示されている QUESTION 1 に対する回答レポート (A4 1 枚: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第10回	若い女性の間でキャリア志向と専業主婦志向のどちらが支持されているのか?	私的領域における性別役割分業の実態をデータによって把握し、家事分担の規定要因を検討する。また、多様な家族の「ワーク・ライフ・バランス」実現の困難や課題を明らかにし、労働の意義や「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた課題を理解する。	予習: 教科書 第5章 4 私的領域における性別役割分業の実態~5 新たな家族モデル・社会保障の構築にむけて (p. 123~p. 135) を読んでくること 復習: 教科書 p. 110 に提示されている QUESTION 2 に対する回答レポート (A4 1 枚: 1200 字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分

第11回	日本はなぜ少子化しているのか？	「家族」を持つとはどういうことかを理解した上で、戦後日本の少子化の要因と課題について国際比較も含めて把握する。	予習：教科書 第6章『妊娠・出産・子育て』の1、2少子化と戦後日本の家族 (p.138～p.147) を読んでくること 復習：教科書 p.138に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第12回	日本で子育てをするとき、どのような問題があるか？	現代日本で子どもをもつということの意味を理解し、子育てを支える社会とはどのような社会であるのかを検討する。	予習：教科書 第6章3現代日本で子どもをもつということーなぜ子どもをもつのか (p.147～p.153) を読んでくること 復習：教科書 p.138に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること	120分
第13回	親とは誰か、子とは誰か？	生殖補助技術に関する知識を学び、生殖補助技術と親子関係を理解する。また、その他の親子関係 (養子、里子) の実態を把握しその問題点を理解したうえで、望ましい子育て、支援政策を検討する。	予習：教科書 第6章4 (p.153～p.164) を読んでくること 復習：生殖補助技術、養子、里子を含めて子どもを持つこと、また子どもを持つことの意味に対する自分の考えを、800字程度にまとめ、次週に提出する。	90分
第14回	親一人子関係は近年、どのように変化しているか？	親子関係の時期的関係性の変遷を学び、親と成人子とは何かに関して、理論的枠組み、社会的背景、歴史、制度から理解する。	予習：教科書 第7章『親一人子関係のゆくえ』 (p.165～p.195) を読んでくること 復習：教科書 p.166に提示されているQUESTION に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること	120分
第15回	家族の多様なあり方を国家や社会が差別せずに認め、支援するために必要なことは何か？	グローバルな視野で家族を考えたときに、欧米諸国の「公共圏ー親密圏」という概念と我が国との関係、グローバル化する家族 (多民族、多国籍家族)、セクシュアル・マイノリティ (LGBT) の実態と課題を理解した上で、多様な家族を差別せずに支援するために必要なこととは何かを考える。	予習：教科書 第8章『個人・家族・親密性のゆくえ』 (p.197～p.215) を読んでくること	60分

学習計画注記	*履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	質問・要望・意見があった場合にはメールで受け付ける																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパーの課題に回答する。リアクションペーパーは授業当日の提出のみ評価するので、注意すること。後日の提出は受け付けない。 ・各授業終了後、授業内容の問への回答レポート (A4 2枚：1500字程度) を次回までに作成し、提出する。 ・期末レポートは、教科書のEXERCISE課題 (p.21-3, p.46-1, p.71-1, p.106-1, p.106-2, p.132-2, p.132-3, p.161-1, p.193-2, p.213-1, p.213-2) から2つ課題を取り上げ、それぞれ2000字以上のレポートを作成する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リアクションペーパー</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>回答レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	リアクションペーパー	○		○		回答レポート	○	○			期末レポート	○	○	○						
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
リアクションペーパー	○		○																										
回答レポート	○	○																											
期末レポート	○	○	○																										
評価割合	リアクションペーパー： 20% 回答レポート： 30% 期末レポート： 50%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	岩間暁子、大和礼子、田間泰子、2015年 『問からはじめる家族社会学ー多様化する家族の包摂に向けて』 有斐閣ストウディア																												
参考図書	野々山久也編、2009年 『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社 神原文子、杉井潤子、竹田美知編、2009年、『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房																												
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解																												

	<p>し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる</p> <p>【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる</p> <p>【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる</p>
オフィスアワー	<p>なし</p> <p>但：メールでの質問、要望、意見はいつでも受け付ける</p>
学生へのメッセージ	<p>知識だけではなく、「考える」方法や、考えを「伝える」方法も学べるような授業にしていきたいと思います。授業では教科書を用いながら、説明が足りない部分を補って、家族に関する様々な現象を考えたり、調べたりして、主体的に学ぶことのおもしろさを経験していただけたらと思っています。未来の家族を考えた時に、誰にとってもよりよい家族のあり方が可能になるよう、一緒に考えていきたいと思っています。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	産業カウンセラー、保育士の仕事を通して、現代の家族問題を把握し、その観点から「現代家族」について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ネットでの検索方法、キーワードの同定の仕方などを、報告書作成の経験を生かして説明し、IDTを活用して資料やデータを会得する機会を提供している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族の文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

授業概要 (教育目的)	家族という私たちに馴染みの深い言葉は、実は近代以降になって登場した新しい概念である「近代家族」を指す用語として普及したものである。本講義ではこのことを前提としつつ、形を変えながら実態として機能してきた古代の氏族・家族と現代の家族について、文学・映像作品を用いて比較考察する。制度や法令、歴史資料などからはうかがい知ることが出来ない、夫婦、親子、兄弟姉妹間の関係における事例研究を行い、それを踏まえて様々な問題に直面している現代の家族の状況について、受講生とともに考えていきたい。
履修条件	特になし。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	当該事例に対する歴史的社会的背景と問題の所在を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究を踏まえて、家族論的見地による自分の意見を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	文学における人間存在の探究を理解し、知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	家族が抱える問題について論理的に説明できるとともに、自分の考え・意見を文章に表すことができる。

学習計画

家族の文化

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	モノと住まいと家族関係	「住まう」という見地から、家族を取り巻く物質的なファクターの存在を理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180分
第2回	母の束縛を生きる娘の問題 (1)	グリム童話の「ラプンツェル」を家族論として読解し、登場人物の存在意義を把握する。	予習として、グリム童話についての概要を調べる。復習として、配布プリントを読んで内容を理解する。	180分
第3回	母の束縛を生きる娘の問題 (2)	「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、親子をめぐる心理について理解する。	予習として、ディズニー公式HPの「塔の上のラプンツェル」を検索し、映画制作の意図を理解する。復習として、授業課題について調査を行う。	180分
第4回	母の束縛を生きる娘の	引き続き、「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、コミュニケーションを図る幾多の	予習として、授業課題を文章の形にする。復習として、授業で	180分

	問題 (3)	方法について理解する。	行った映像解析の方法をまとめ、理解する。	
第5回	母の束縛を生きる娘の問題 (4)	引き続き、「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、ジェンダー表現について理解する。	指定した課題図書を読む。	180分
第6回	母の束縛を生きる娘の問題 (5)	前回までの映像分析を踏まえて、『源氏物語』宇治十帖に登場する浮舟と母中将君の母娘関係を分析し、母娘に関する問題を理解する。	指定した課題図書を読む。	180分
第7回	母の4類型を考える	鷲田清一著書に出てくる「母の4類型」を用いて、母子問題に関するワークショップを行う。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を検索する。	180分
第8回	リモデルできない娘	『夜の寝覚』の姉妹を取りあげ、娘の側から母娘および父娘問題を考察する。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を読む。	180分
第9回	違和感を生きる娘たち	「虫めづる姫君」と『狭衣』の今姫君を対象として、違和感を抱えながら親子関係を生きる娘の有り様を把握し、現代の社会課題との接続を試みる。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を読む。	180分
第10回	ぼくのおとうさんは誰ですか	『狭衣』に見える息子と父・母の関係を把握し、近代家族との相同／相違について理解を深める。	文献調査の結果をまとめ、レポートを作成する。	180分
第11回	校内特別授業「地域で支える子どものくらし」	多摩市学校支援地域本部の方をお招きし、学校・地域・家庭という子供を取り巻く環境の中で、子供はどのような共育ちをしていくことができるか、その可能性と方策を考究する。	課題の文章を推敲し、レポートを完成させる。	180分
第12回	家族をつくる (1)	西加奈子『円卓』に登場する少女と自身の小学校3年次の有り様を比較し、子どもの特性について理解する。	指定された課題図書を読む。	180分
第13回	家族をつくる (2)	引き続き、西加奈子「円卓」の読解を通して、子ども自身が持つ力について学ぶ。また、朝井リョウ『世界地図の下書き』を読んで、これからの家族のあり方について、考究する。	指定された課題図書を読む。	180分
第14回	家族をつくる (3)	朝井リョウ『世界地図の下書き』の読解を通して、家族と地域の存在について理解する。	指定された課題図書を読む。復習として、配布プリントを見直し、内容を理解する。	180分
第15回	振り返りのためのワークショップ	子どもを見守る活動4事例を列挙し、班ごとにワークショップを行う。	期末試験準備として、授業中に配布されたプリント類をすべて見直し、ノートの整理を行う。	180分

学習計画注記	※講師の都合により、校内特別授業の日程変更があります。				
学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにより前週の振り返りを行う。また、提出を義務づけている課題（レポート）については、教員の推薦図書とともに最終週に全員分を公表し、関連書籍の読書を促す。				
評価方法	授業ではレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。課題は、本学図書館に架蔵されている書籍の中から受講生に読書を勧めたいものを選ぶという観点に適合しているか、他者にわかりやすく紹介を行っているかという観点で評価する。期末試験は、授業で扱った内容に関して記述式の問題とし、理解度と表現における論理性を評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○		○	
	期末試験	○	○		○
	課題 (レポート)	○	○	○	○
評価割合	出席レポート（平常点）50%、試験50%で評価。 （平常点は、各回に実施する小レポートによって評価する。）				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。				
参考図書	井上・下島・鈴木編『平安後期物語』翰林書房 2012年 978-4-87737-328-3 その他、授業時に指示する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間生活、特に親子をめぐる諸問題に関する知見を身につける。 【思考・判断】社会課題の在処を発見し、問題解決に導く考察をすることができる。				

	【関心・意欲・態度】読書による人間理解の方法を体得し、さらに持続して読書行為を行うことができる。 【技能・表現】他者の意見や考えと向き合い、そのうえで自分の意見を論理的に表明することができる。															
オフィスアワー	水曜日2限、千代田三番町キャンパス1807室															
学生へのメッセージ	授業で扱う家族事例に対して、研究を行うという意味で客観化できる姿勢が求められますが、同時にすべてを他人事とせず、当該課題にどのような形でかかわれるのか、考えてみましょう。また、ワークショップを実施します。授業への積極的な参加を期待します。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>多摩市学校支援地域本部事務局の方をお招きして、地域と学校が連携しどのような形で子どもを見守っているか具体的な活動について講演していただき、講師と学生間で対話する機会を持つ。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>2回のワークショップにおいての意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	多摩市学校支援地域本部事務局の方をお招きして、地域と学校が連携しどのような形で子どもを見守っているか具体的な活動について講演していただき、講師と学生間で対話する機会を持つ。	アクティブ・ラーニング	○	2回のワークショップにおいての意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。	情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	多摩市学校支援地域本部事務局の方をお招きして、地域と学校が連携しどのような形で子どもを見守っているか具体的な活動について講演していただき、講師と学生間で対話する機会を持つ。														
アクティブ・ラーニング	○	2回のワークショップにおいての意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。														
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと遊び		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると、そのプレイは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	子どもの遊びと発達を理解すること。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子どもの遊びの特徴	子どもは自分の身体をおもちゃにして遊ぶ。大人のように気晴らしのためのものではない。小宇宙「玩具の小さな世界」をつくり、やがて大宇宙「他の人々と共有する世界である」へ、そして物や人を支配する新しい段階へ前進する。エリクソンによれば子どもの遊びは「現実を支配する幼児的表現形式」である。	エリクソンについて調査すること。	30
第2回	マザーグースのなかの遊び	英語版子守唄マザーグースには不思議な世界がある。数え歌や泥棒の唄、男の子の唄女の子の唄、何を伝えようとしているのか。	マザーグースについて調査すること。	30
第3回	日本の童話のなかの遊び	浦島太郎のお話は「日本書紀」(478年)に登場する。そして現代にまで語り継がれている。それだけではない。日光の東照宮の一番奥にある家康・家光のお墓の昇り口には皇嘉門(龍宮の門)がある。日本の国歌「君が代」も浦島伝説に登場する。	浦島太郎のお話と歌を確認すること。	30
第4回	現代の遊びの環境	今の子どもたちで、積極的に遊べない子がいる。そういう子どもたちの原因の一つとして、親に丸ごと受け入れられてなくて育てられていることがあげられる。	親と子の関係に注目して善悪の判断を子どもにいつ伝えるべきか調査する。	60

第5回	ごっこ遊び 1	八木紘一郎の「ごっこ遊び」について解説する。	八木紘一郎について調査すること。	30
第6回	ごっこ遊び 2	久保田浩の「ごっこ遊び」を解説し、八木紘一郎の「ごっこ遊び」と比べてみる。	久保田浩を調査すること。	30
第7回	遊びと子どもの発達	子どもから大人へ、大人とは何か。河合隼雄の解説を参考にまとめる。	河合隼雄を調査する。	30
第8回	公園レポート発表・提出	近所にある公園、もしくは児童公園や子ども広場など一つ選び、そこで1時間に何人の子供がどんな遊びをしていたか実態調査し、調査結果をレポートで報告すること。報告をもとにグループディスカッションする。	公園内の子ども調査を実施すること。	
第9回	いろいろなおもちゃ	紀元前3000年前後と推定される、メソポタミア文明・ウル第一王朝の遺跡からサイコロと遊戯盤が出土しているが、現時点では、この盤ゲームがおそらく最古のおもちゃと考えられている。	おもちゃの起源について調査すること。	30
第10回	子どもは玩具で舞台を創る	遊戯についての学問は、「劇場」の語を借りてテアトリカと呼ばれていた。劇場には遊戯のために人々が集まるのが習わしであったが、それは劇場のみが遊戯のできる場所だったからではなく、ただ、ほかの場所よりも評判が高かったからである。	遊戯と劇場は深い関連があったが、その事例を調査すること。	60
第11回	玩具と舞台でめざめるもの	自由な発想・夢を追い求め続けることが人間の本性であり権利である。子ども大人も玩具と舞台で夢を追い求めている。	舞台の意味を調査すること。	30
第12回	イメージの拡大と大きな現実	夢と現実を取りちがえることは、通常の人間ならない。しかし遊びの世界では夢と現実は同じステージ（舞台）にあっても許される。むしろ遊びの世界だからこそ自由気ままなのである。	人間の自由について調査すること。	30
第13回	遊びの原風景	子どものころ遊んだことが絵のように浮かんでくることがある。それを遊びの原風景として、自分の原風景を思い出してみたい。それぞれの原風景についてグループディスカッションしてまとめ、発表してみよう。	遊びの原風景についてまとめておくこと。	30
第14回	今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？	大学の教室の中で、今、そこにいる自分にとって「遊び」とは何かを参考資料をもとにグループディスカッションすること。	「今、ここ」という時制の重要性について調査すること。	30
第15回	遊び、仕事、成長（ライフステージという考え）	遊びの楽しみは人それぞれである。遊びは楽しみを追求する活動である。自分の中でも高校生の時に楽しかったことが、大学生になったいまでも楽しいとは限らない。楽しかったことを思い出すことがある。それはいつだったか。	楽しかったことをいくつかあげてみよう。	30
第16回	自己確認	1～15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認する。	それぞれの授業の要点をまとめること。	180

学習計画注記 関連事項導入のため、各授業の順番が入れ替わることがある。また、授業を統合・分離したりすることがある。

学生へのフィードバック方法 授業中の質疑応答、視聴覚教材などで学生の授業への参加意欲を高めたい。

評価方法 課題レポート、授業中の質疑応答、プログラム課題達成度で20%、テスト80%の割合で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合 課題レポート、授業中の質疑応答、プログラム課題達成度で20%、テスト80%の割合で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

参考図書 授業の中で必要に応じて指示する。

ディプロマポリシーとの関連 子どもの遊びを知ることは子どもの生活を知ることである。子どもを知ることは、次世代を知ることにつながり、大人の責任についても反省させられる。次世代につながる豊かな生活を創造するためには「子どもと遊び」は見逃すことができないことである。

オフィスアワー 金曜4限

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>現在は子どもの遊びは、早期「教育」に飲み込まれてしまった観がある。しかし、歴史を振り返ってみれば、遊びはおとなのものであったり、人々の社会化の過程できわめて重要な役割を果たしてきた。遊びは文明の重要な要素のひとつであり、人間性の発達には欠かすことのできない重要なキーであり、文化の源であることをこの講義を通して学び、遊びのよき導き手としての力をつけてもらいたい。したがって「遊び心」を失わない大人であってほしい。</p>
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
<p>実務経験を活かした授業</p>	○	<p>担当の大嶋は学生時代より幼少年キャンプの経験がある。自分の息子を幼少年キャンプに6年間参加させ、また3～6歳までは育児の経験があり、子どもの発達に直接かかわってきた。</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>	○	<p>グループディスカッションや発表がある。</p>
<p>情報リテラシー教育</p>		
<p>ICT活用</p>		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族支援論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業では、家族のおかれた社会的な諸問題を学び、またその定義を理解し、様々な家族が直面する課題を包括的に学ぶ。特に高齢期における家族の問題と家族を学び、その中で支援制度としての介護保険について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家族の定義が理解できる
思考・判断の観点 (K)	様々な家族の状態の形成過程を学べる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	私の家族	自らの家族の歴史を自伝してみる	家族の歴史を書いてみる	120分
第2回	私の家族を 発表する	グループの中で自らの家族の歴史をシェアする	家族の定義を理解する	240分
第3回	家族とは何か	家族の定義について学ぶ	現代家族の諸問題を配布資料から整理する	120分
第4回	現代と家族 ①	結婚の課題	結婚に関する諸課題を整理する	240分
第5回	現代と家族 ②	青年期の家族の課題をデータに基づいて学ぶ	青年期の課題を学ぶこと	240分
第6回	現代と家族 ③	青年期の家族の課題をデータに基づいて学ぶ		240分
第7回	高齢期と家族 ①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第8回	高齢期と家	高齢期と家族の諸問題を学ぶ	高齢期の課題を学ぶこと	240分

	族①			
第9回	高齢期と家族①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ 介護保険①	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第10回	高齢期と家族①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ 介護保険②	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第11回	現場で学ぶ①	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の種別を覚える	240分
第12回	現場で学ぶ①	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の種別を覚える	240分
第13回	現場で学ぶ②	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の種別を覚える	240分
第14回	実務かから学ぶ	実務家から現場の状況をうかがう	実務家への質問を用意する	240分
第15回	まとめの授業	映画では家族をどのようにとらえているか？「ながらえ」の鑑賞	俯仰全体を整理する	240分

学習計画注記	状況によって外部講師や外部見学を実施します
--------	-----------------------

学生へのフィードバック方法	講義方式が基本ですが、参加型の授業も取り入れます。レポートの報告など受講生には授業への参加を求めます。校外授業も実施します。
---------------	----------------------------------------------------------------

評価方法	①中間レポート ②学期末レポート ③平常点
------	-----------------------------

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間レポート			○	
	学期末レポート	○			○
	平常点			○	

評価割合	平常点 (30%)、レポート (20%)、学期末試験 (50%) による総合評価を行います。 (平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断)
------	----------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	別途紹介
-----------------	------

参考図書	授業中に紹介します。
------	------------

ディプロマポリシーとの関連	ディプロマポリシーでは生活者の視点の構築、また生活者の問題に寄り添える力を養うとされ、この中で生活者の基本集団である家族の問題を多角的に捉え分析する中で「質の高い生活」とは何かを理解できるようになる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	適宜 メールして下さい。町田校舎にて相談を受け付けています。また授業前後の相談も予約をして受けつけます。
---------	------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	家族間のつながり、家族と地域とのつながりなどを自分のことをとおして考えてみましょう。授業では、主体的な参加を求めますのでよろしくお願いします。
-----------	-------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、そこで出会ったいくつかの家族を整理して取り上げ、現代における家族の問題の実際を理解できるようにする
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	家族と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山里 盛文	指定なし
非常勤講師	木村 くに子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、家族というもっとも身近な存在について、法的視点を通して考えます。夫婦、親子、扶養、相続などの現実の家族問題を解決するための法律に関わる知識がいかに手助けとなるかを概説し、法律を切り口に個人と家族、家族と社会の関係について歴史的・社会的な背景を踏まえて考えます。また、近時の様々な家族関係（パートナー関係・生殖補助医療）も扱います。家族法は、私たちの家族関係を規律し方向づける指針であり、当事者の間の自由な意思決定によって市民社会を形成する基盤でもあります。現行家族法についてよく理解し、家庭生活に関する紛争を防ぎ、問題点を掘り起こし変動する社会への法的対応ができるようになることを目的とします。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	1. 家族について、法的視点を通して説明できる。 2. 家族に関する現代的な問題について、法律に関係づけることができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 家族に関する法的問題について、論理的に指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家族と法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 家族法の基礎	この授業の概要を説明し、この授業で扱う家族法の概要について学び、家族法とはどのような法律かについて理解します。	教科書1~12頁(ページ)を読んでもください。	120分
第2回	婚姻(結婚)の成立	どのようにして婚姻(結婚)が成立するかを学び、どのような要素により婚姻(結婚)が成立し、どのような要素により婚姻(結婚)が成立しないのかについて理解します。	教科書13~51頁(ページ)を読んでもください。	120分
第3回	婚姻(結婚)の効力	婚姻(結婚)が成立した場合の効力について学び、婚姻(結婚)が成立した場合の夫婦間財産関係や財産関係以外の効力について理解します。	教科書52~85頁(ページ)を読んでもください。	120分

第4回	婚姻（結婚）の解消	どのようにして婚姻は解消するのかを学び、離婚の成立とその後の効果について理解します。	教科書86～129頁（ページ）を読んでもください。	120分
第5回	パートナー関係	婚姻（結婚）関係以外の関係について学び、婚姻（結婚）関係以外のバリエーションや同成婚などの現代的問題について理解します。	教科書130～152頁（ページ）を読んでもください。	120分
第6回	実親子関係	法律における親子関係について学び、実親子関係における基本的なルールについて理解します。	教科書153～182頁（ページ）を読んでもください。	120分
第7回	嫡出推定制度	親子関係が明らかではないとき、どのような制度が用意されているかについて学び、親子関係の確定方法について理解します。	教科書183～210頁（ページ）を読んでもください。	120分
第8回	生殖補助医療	生殖補助医療について学び、その問題点について理解します。	教科書211～229頁（ページ）を読んでもください。	120分
第9回	養子制度	民法が用意する養子制度について学び、養子成立・効果などについて理解します。	教科書230～277頁（ページ）を読んでもください。	120分
第10回	親権	親と子に関する法律関係について学び、親権の意義・内容などについて理解します。	教科書278～322頁（ページ）を読んでもください。	120分
第11回	相続制度	人が死んだ場合の財産の移転について学び、相続の概要、だれが相続するのかについて理解します。	教科書377～398頁（ページ）を読んでもください。	120分
第12回	相続分	人が死んだ場合の財産の移転の割合について学び、相続人がどれだけ相続するのか、どのように相続する割合を決めるのかについて理解します。	教科書399～455頁（ページ）を読んでもください。	120分
第13回	遺言	人の意思による死後の財産移転の方法について学び、遺言の種類などについて理解します。	教科書456～503頁（ページ）を読んでもください。	120分
第14回	遺産分割 配偶者居住権	遺産の分割について学び、遺産分割方法やその効力について理解します。	教科書504～521頁（ページ）を読んでもください。	120分
第15回	相続人の権利を守る仕組み	相続人の権利を守るための仕組み・方法について学び、その方法である相続回復請求権・遺留分制度について理解します。	教科書522～549頁（ページ）を読んでもください。	120分

学生へのフィードバック方法 コメントシートによる質問については、コメントして返却し、また、的確な質問については、授業にて解説します。

評価方法

- ・レポートは、現代における家族に関する法的問題点について、理解し、論理的に思考できているか確認します。
- ・定期試験は、70点満点で出題し、授業内容を振り返り、穴埋め問題などで、家族法に関する知識および理解度を図り、論述問題により、応用的な思考力や判断力を確認します。
- ・レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施しています。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合 レポート：30%
定期試験：70%

使用教科書名 (ISBN番号) 窪田充見『家族法—民法を学ぶ (第3版)』 (有斐閣・2017年)
ISBN：978-4-641-13759-2

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 家族に関する法制度についての知識を習得し理解することにより、現代生活の諸問題を理解する力を身につけます。

【思考・判断】 家族に関する法制度を学ぶことを通して、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察する力を身につけます。

学生へのメッセージ

- ・私語、その他、他の受講生の迷惑となる行為は禁止します。
- ・家族法は、私たちの生活に密接に関係しています。ニュースなどで取り上げられることも多くありますので、報道などについてもチェックしておいてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経済学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

授業概要(教育目的)	日常生活に関わる経済生活情報を、積極的に収集し、信頼できる自分オリジナルのデータをもとに、生活設計・家計管理を行う基礎的な能力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭経済学に関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	家庭経済に関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動(文献収集、調査など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

家庭経済学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭経済学の学びかた	家庭経済の現状についてジェンダーの視点から自分なりの課題を設定し家計調査をもちいて分析する基本的な方法を知る。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp10～p25を読み演習問題に取組む。	180分
第2回	家計からみる家族 家計調査年報を用いて	家計に関する基本概念と、家計調査・家計調査年報を用いて、家計分析を行う方法を習得する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp26～p40を読み演習問題に取組む。	180分
第3回	家計からみる家族 くらしの変化と家族	家計をとりまく経済社会の状況と相互作用しながら生活がどのように変化してきたのかを、ジェンダー研究や統計調査により説明する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp41～p56を読み演習問題に取組む。	180分
第4回	生活のリスクと生活保障・賃金と所得格差・貧困	「生活の設計とリスク」「賃金と所得格差・貧困」の内容から格差・貧困がなぜ発生し、世代間で貧困が拡大再生産されるかを考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp57～p92を読み演習問題に取組む。	180分

第5回	家計に見る地域差・消費社会と家計・消費行動	家計に見る地域差、消費社会と家計消費行動について買い物難民など地域の問題を中心に学ぶ。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp93～p128を読み演習問題に取り組む。	180分
第6回	消費社会と家計問題・生活と金融	消費者信用をキーワードにキャッシュレス社会の経済について学ぶ。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp129～p160を読み演習問題に取り組む。	180分
第7回	妻と夫の経済関係にみるジェンダー	妻と夫は共同して生活を営むことが多く、経済についても一体化して考えられることが多い。家計の管理形態、家計への貢献などから夫婦間の経済関係について検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp161～p177を読み演習問題に取り組む。	180分
第8回	親と子の経済関係	親による子の教育・養育期と親の高齢期に焦点をあて、親子間の経済関係について、実態や意識を概観し、課題を検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp178～p195を読み演習問題に取り組む。	180分
第9回	高齢期の生活と経済保障	長寿化により高齢期が長期化している。高齢期の経済生活は、生活設計上の最重要課題の一つとなっている。高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活実態・意識と制度の関わりについて検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp196～p215を読み演習問題に取り組む。	180分
第10回	NPOと家計	生活の中でNPOにより提供されるサービスやものを利用したり、NPOの活動に関わることも少なくない。家計とNPOの関わりの実態を概観するとともに、今後の課題について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp216～p235を読み演習問題に取り組む。	180分
第11回	生活経済と環境	環境問題を人々の生活、経済活動との関わりから検討する。日常生活に関わる環境政策・制度を概観するとともに、持続可能な生活のあり様について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp236～p254を読み演習問題に取り組む。	180分
第12回	生活経済の教育	近年、金融教育・金融経済教育・消費者教育など、生活と経済の関わりを取り上げる教育の必要性が指摘されている。この背景と具体的内容について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキストp236～p254を読み演習問題に取り組む。	180分
第13回	ワークショップ1 家計調査年報にみる食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。	180分
第14回	ワークショップ2 家計調査年報に見る食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。	180分
第15回	振り返り現代生活の家庭経済	現代の家計管理 生活者の平成30年史などを参照しつつ現代家計の特徴をまとめる	テキスト全体を振り返る。	180分

学習計画注記 ワークショップの準備状況で開催回数を変更することがある。

学生へのフィードバック方法 ワークショップ1、2の家計調査・考察などに関するレポート・発表、提出されたスクラップブックなどの課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法

- ・評価の内容は、以下のような観点から行う。
 - ①調査の目的や意義が明確である。
 - ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
家計調査分析	○		○	
家計調査発表		○		○

スクラップブック	○		○	
期末試験	○	○	○	

評価割合	家計調査分析レポートおよび発表 40点 スクラップブック（授業記録・自宅学習の記録と新聞記事）30点 試験 30点
使用教科書名 (ISBN番号)	新訂 生活経済学 NHK出版 重川純子
参考URL	https://www.shiruporuto.jp/
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	前期： 水曜日 4限 後期： 火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	家計調査や国勢調査など官公庁が出している調査結果を自分でグラフ化してコメントをつけてレポートとして授業中にプレゼンテーションをします。生活設計論や家庭科教育法などとも関わりが強いです。エクセル・ワード、パワーポイントなどを使って、消費者・生産者・納税者として何を考えて行動すればいいのか、家計にあらわれた数字から一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	家計調査・分析、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 早野 木の美	指定なし

授業概要(教育目的)	消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、DVDや資料を紹介する。一昨年より「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与された。在学中に国家資格を取得できるように、昨年実施された国家資格試験の紹介をする。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定などの情報も提供する。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 豊かで安全・安心な暮らしとはどのようなものかについて説明できる。 2. 消費者問題の解決にはどのような消費者教育が必要であるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 消費者問題の歴史を検証し、衣食住金融等生活全般に渡り、各世代に応じた各種の消費者教育にはどのようなものがあるかを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 毎回、授業の終了後にふりかえりシートを提出してもらう。講義の内容に応じて、ミニテストや論述、発表など変化を与えながらモチベーションを高めていくこととする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	シラバスに基づく科目の概要、成績評価方法、履修する上での注意事項についての説明。消費者教育の概要について。	科目の概要、成績評価方法、履修する上での注意事項などシラバスの内容を理解することができる。消費者教育の概要について説明することができる。	消費者教育に関し、知っていることや体験したことをノートに書き出す。消費者教育に関する記事を読み、そしてノートに要約する。	180分
第2回	インターネット関連の	IT関連の消費者被害から、SNSの落とし穴、個人情報を守るための方策、ワンクリック請求、電子マネーの種類と	クレジットカード、スマホ代や通信料の滞納から起きる消費者	180分

	消費者トラブルと消費者教育のあり方。	仕組などを理解する。	問題など、若者を中心とした消費者被害の実態を学び、被害の未然防止対策を考える。	
第3回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第1章 人生のデザインとお金	コラム記載の以下の内容を理解すること。①奨学金 ②ヒトは夢を描く ③人生には、大きな支出だけでも億レベルのお金がかかる ④「時間」という資源の使い方 ⑤人生という「時間」の使い方	以下の項目を読んでおくこと。 ①これまでにかけたお金 ②人生のデザインを描く ③ライフプラン ④人生とお金 ⑤働くこととお金について学ぶ	180分
第4回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第2章 お金の知恵	テキストでは以下の演習が掲載してある。実践できるようにする。①支出の把握 ②支出の見直し ③住宅購入のプランを作ってみる。	テキストの以下の項目を読んでおくこと。①お金の特徴 ②収入を把握する ③支出を把握する ④お金の使い方 ⑤お金を貯める ⑥お金を運用する ⑦お金を借りる ⑧損失に備える	180分
第5回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第3章 不確実な人生に船出する	テキスト項目 ①人生の不確実性に向き合う ②不確実性の下で意思決定する ③セーフティネットを理解する ④お金に関するトラブルを避けるについて学ぶ	テキストコラム 大学生と国民年金、学生納付特例制度 「大学生が悪質商法の被害者になったり、犯罪に利用されるケース」を確認しておくこと。	180分
第6回	アクティブラーニング 学生が複数のグループとなり、グループワークを実施	ライフサイクルゲーム（人生ゲームのようなもの）を使用して、人生のリスクについて考える。	テキストの以下のコラムを読んでおくこと。貯蓄と保険を使い分ける。生命保険が最も必要になるのはいつか。車やバイクの運転と自賠責保険 任意の自動車保険、火災保険の保険金額、高額療養制度	180分
第7回	テーマ「衣生活」 繊維製品の品質向上、社員の能力開発など、アパレル企業に貢献するスペシャリスト資格として繊維製品品質管理士（TES）の試験があるので、その内容を紹介する。	リクルートスーツの選び方を繊維の基礎知識を学習しながら学ぶ。併せてTES試験関連の繊維一般、製造・品質・流通・消費などについて学習する。	国家資格である消費生活相談員や消費生活アドバイザー資格試験に出た問題を紹介しながら、現代人に求められる繊維知識を学ぶ。	180分
第8回	テーマ「食生活」 近年、食品表示に係る相次ぐ事故が起こり、消費者の食品表示に対する関心が高まっている。正しい食品表示に関する知識を身に付ける。	食品表示の新ルール、健康食品の機能性表示、食物アレルギー、食事摂取基準等を理解する。	消費者教育における食の教育には、難しい内容をわかりやすく伝える手法を学ぶことも必要である。話題の栄養素キャラクター図鑑等を紹介する。また、消費生活相談に寄せられる食品関連の苦情事例等も消費者庁のHPで参照してもらいたい。	180分
第9回	テーマ「住生活」 一人住まいの家選びと防犯。賃貸住宅を契約・退去するとき。	住宅契約書の読み方。原状回復義務、敷金精算等について国土交通省が公表している原状回復ガイドラインの考え方を理解する。	どんな部屋でひとり暮らしをしたいか。自分の住要求を明らかにする。様々な賃貸物件情報をしっかり読みとり、比較検討し、自分の要求に合う物件を選択する。住居や契約に関する用語・記号を理解し、契約までの経過や重要事項説明での内容確認の大切さを知る。	180分
第10回	テーマ「地球環境問題・エネルギー需給」	①エネルギー利用の歴史とエネルギー需給の現状 ②廃棄物処理とリサイクル問題、化学物質の環境問題 ③地球温暖化問題への対応と省エネルギーの現状と対策	環境問題を身近なところから理解するために、家庭での電気、ガス、水道料金の使用量のお知らせを確認しておくこと。地球温暖化が進んでいる様子を理解	180分

			してもらうために、講師が撮影してきたスイスや北欧の氷河の映像等を紹介する。	
第11回	アクティブラーニング 東京都消費生活総合センターの見学	東京都消費生活総合センターの見学。当施設には消費生活相談業務、商品テスト、展示室、図書室、研修施設がある。消費者教育に活用できる資料が沢山あるので大いに活用してもらいたい。	展示室では商品テストが行われた実物展示があり、また、幼児のヒヤリ・ハットを再現したジオラマも設置してある。講義だけではわかりにくい消費者問題を用意された映像、展示物を通じ、理解する。	180分
第12回	テーマ「契約」契約の成立時期、契約の解消、(取り消しと解約の違い)、消滅時効、クーリング・オフ	消費者関連法規を理解した上で、クーリング・オフができる取引、クーリング・オフのチェックポイント、クーリング・オフの手続き方法を理解する。	事前に消費者関連トラブルを中心に書いた資料を配布するので読んでおくこと。	180分
第13回	テーマ「契約トラブル事例」最近起きている消費者問題からどのように被害を未然に防ぐかを学習する。	最近の悪質商法の事例を知る。①遠隔操作によるプロバイダー変更トラブル②キャッシュレス決済を悪用するトラブル③個人情報の削除を持ちかける詐欺など	上記の消費者問題に対し、消費者は今後どのような対策を講じるべきか、消費者教育の観点から考えてみること。	180分
第14回	法テラスと裁判所で行う民事調停・家事調停について。	消費者教育で重要なのは様々なトラブルに巻き込まれた時にどのような解決方法があるかを知っておくことである。法テラスや裁判所の調停の手続き方法を学ぶ。	消費者問題の解決には、国民生活センターや東京都の用意した行政型のADRや各種金融機関が持つADR、裁判所の調停などがある。第11回の東京都消費生活総合センターの見学では展示室に沢山のADR機関が発行した資料が用意されているので各自入手するとよい。	180分
第15回	テーマ「旅行」旅行のプランを立てる。取引条件説明書の記載内容の読み方、キャンセル料の考え方、旅程保証制度、特別補償制度、損害保険などについて考える。	旅行のパンフレットを配布するので、上記内容を確認する。講師が訪れた世界各国の映像を紹介する。	自分自身が行ってみたい国があれば、関連のパンフレットを授業中に持参し、講義を受けても構わない。	180分

学生へのフィードバック方法 講義では黒板の前に置いたレジュメと出欠用紙を受け取ってください。毎回、課題を出しますので、それを出欠用紙に書いて提出してください。その内容に関する採点はレポートに加点します。

評価方法 毎回、講義終了後にその日に解説した内容について感想を求めますので、毎回ごとの記述内容と期末のレポートで評価をします。レポートの課題は冬季休暇前に発表します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各回のペーパー	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合 平常点 (60%)、レポート (40%)
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号)	くらしの豆知識 2020 編集・発行 国民生活センター 販売：全国官報販売協同組合
ディプロマポリシーとの関連	毎回、講義の最後に出席カードと質問用紙を配布するので疑問点等があれば、書いてください。翌週の講義で説明します。授業中に全員に回答すべき内容であるか、個別に説明をした方がよいのかは、質問の内容や質問者の意向に沿って対処します。
学生へのメッセージ	消費者教育には、金融教育、食育、環境教育、法教育など、様々な要素が含まれていますので、授業では広範囲な知識を得ることになります。消費生活アドバイザーや消費生活相談員試験に関する内容も講義の中で紹介していきますので、資格を取りたい方は是非履修してください。教科書として暮らしの豆知識を使用しますが、日銀の発行した各種金融教育のテキストや様々が公的機関の発行する資料も提供します。また、理解を深めるためにDVDの視聴や東京都消費生活総合センターの見学会なども実施します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は行政で消費生活相談を受ける実務家である。国家資格の消費生活相談員、消費生活アドバイザー資格の他に、金融広報アドバイザー、東京都消費者啓発員、環境カウンセラー、繊維製品品質管理士等の資格を有している。裁判所の民事調停委員で、法的観点からの消費者問題を論じながら授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	東京都消費生活総合センターの見学会を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者政策と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	消費者にとって安全で安心できる商品とサービスを選択し、環境に優しい生活スタイルをつくり上げるための政策や法が求められている。消費者問題について考え、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要性を理解する。消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための能力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費生活のために必要な知識や態度を習得し、消費者の権利と役割を自覚することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費生活を送る上で求められる批判的思考力と意思決定をする力を付けることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者市民社会の構成員として自己実現していく能力を開発することができる。
技術・表現の観点 (A)	安全で安心な生活を送るための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者問題とは何か	消費者問題の発生や歴史、解決に向けた取り組みについて学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第2回	消費者問題と消費者政策	消費者問題を振り返り、消費者政策の展開や消費者被害の拡大防止と被害救済に関する新しい制度を学ぶ。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第3回	消費者法とは何か	消費者と契約について検討し、特定商取引法や消費者契約法などの消費者法について学ぶ。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第4回	生命・身体や財産にかかわる消費者被害	消費生活製品の安全性を検討し、安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第5回	消費者の安全に関わる政策と法律①	食品の安全が求められる背景と、関連する法律と行政の取組について学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分

第6回	消費者の安全に関わる政策と法律②	商品の安全性について検討する。安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第7回	消費者の安全に関わる政策と法律③	消費生活の相談や事故に関する情報を理解する。全国の消費生活相談のデータベースであるPIO-NETや、事故情報データバンクシステムについて学習する。	教科書第5章を読み、関連事項について調べること。	120分
第8回	消費者行政の実際	消費者行政の展開、現状と課題について理解する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第9回	消費者被害と法律①	契約と消費者トラブルについて理解する。悪質商法とそれを未然に防ぎ、早期解決に導くための法規制を学習する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第10回	消費者被害と法律②	社会的に弱い立場にある「脆弱な消費者」に関わる消費者トラブルとその対応について理解する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第11回	消費者団体の役割	消費者団体や消費者運動の歴史を振り返り、適格消費者団体の動向など、消費者を取り巻く現状と消費者団体の役割について学習する。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第12回	企業の消費者対応	企業の消費者対応についての変遷や、消費者被害の拡大防止と被害救済に関わる諸制度を学習する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第13回	各ライフステージにおける消費者教育	幼児期・小学生期・中学生期・高校生期・成人期の各ライフステージにおける消費者教育のあり方について学習する。	教科書第11章から第13章を読み、関連事項について調べること。	120分
第14回	生活設計・消費者信用	生活設計に関わり、金銭管理と消費者信用について理解する。金融商品と消費者信用の仕組みを知り、トラブルの未然防止と早期解決へ導く方策を学習する。	教科書第8章及び第9章を読み、関連事項について調べること。	120分
第15回	消費者市民社会の構築	消費者市民の概念を理解し、消費者の権利と責任について学ぶ。消費者も利害関係者として責任ある生活スタイルを取ることの重要性を知る。	教科書第14章を読み、関連事項について調べること	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容についてふりかえりをする。
評価方法	・定期試験は70点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。 ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）及び提出物（30%）などを総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	神山久美他編『新しい消費者教育:これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2016年
参考図書	国民生活センター編『くらしの豆知識（2019年版）』2018年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30
学生へのメッセージ	関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者教育演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	消費者市民社会における消費者教育をテーマに、学生をめぐる消費生活上の課題を中心にした質問紙調査やインタビュー調査を実施する。関連する研究や啓発資料、手法についての情報を収集・分析しながら消費者教育の素材を作成する。その成果は研究報告書にまとめ、連携先等に公開して地域社会に還元することを目指す。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費者教育に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者教育について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者教育についてどのようなものがあるか調べる。	240
第2回	消費者教育に関わる先行研究や取り組みの情報収集	行政や企業が実施している消費者教育について学習する。	行政が作成している消費者教育の啓発資料について調べる。	240
第3回	行政への消費者教育に関するインタビュー調査	行政の担当者を対象にした消費者教育の施策について聞き取りをする。	聞き取った内容を整理する。	240

第4回	調査の企画と設計、調査仮説を検討。質問紙調査の調査票作成	学生を対象にした啓発講座を実施するため、ニーズ調査の計画を立てる。	関連する先行調査を調べる。	240
第5回	質問紙調査とインタビュー調査の実施	どのような啓発講座が望まれているかを調べるための質問紙調査とインタビュー調査の項目を準備する。	関連する先行調査を調べる。	240
第6回	学生を対象にした調査票の配布・回収・分析	確定した質問項目に沿った調査を実施する。結果をとりまとめ、その内容を分析する。	集めたデータを整理する。	240
第7回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備①	これまでに実施したニーズ調査にもとづき、啓発講座を企画する。	これまでの講座の実践例などを調べる。	240
第8回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備②	啓発講座の準備を進める。	効果的な学習内容などを検討する。	240
第9回	啓発イベントの実施・振り返り	啓発講座の振り返りをする中で見えてきた課題を整理する。	振り返りの内容に関するデータ整理をはじめる。	240
第10回	啓発イベントの結果とりまとめ①	啓発講座の量的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第11回	啓発イベントの結果とりまとめ②	啓発講座の質的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第12回	見本市調査の準備	消費生活用品を取り扱う企業について情報収集をする。	出展内容をインターネットであらかじめ調べる。	240
第13回	見本市調査実施	消費生活用品を取り扱う企業の見本市に出かけて調査をする。	出展内容の情報を整理する。	240
第14回	見本市調査振り返り	見本市調査の情報を共有する。	他の学修者とも情報交換をする。	240
第15回	最終報告会	啓発講座調査と見本市調査を通して考えた消費者教育のあり方について発表する。	他の学修者の学びを整理する。	240

学習計画注記 本授業科目は演習2単位につき、90分×30回分の授業を実施する。毎週の授業（90分×15回）のほかに、90分×15回分の授業を別に実施する予定。土曜日・日曜日などを利用することも計画しているので、第1回の授業に出席をしてスケジュールをあらかじめ了解しておくこと。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。
- ・受講状況・学習態度、啓発講座調査、見本市調査、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	○
啓発講座調査	○	○		
見本市調査	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合 受講状況・学習態度（10%）、啓発講座調査（30%）、見本市調査（30%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。	
オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30	
学生へのメッセージ	消費者教育について行政や事業者との連携を通して、経験しながら学びましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	啓発講座のニーズ調査やとりまとめなどにあたっては、グループ・ディスカッションをはじめとするアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行となる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	プロシューマー実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
非常勤講師	宮川 有希	指定なし

授業概要(教育目的)	食品ロス削減は、世界的課題である。グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何ができるのか。が食の分野にも及んでいる。どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動、消費生活協同組合とどのように関わっているか。フードチェーン全体を見通して、大学生にアンケート調査などの調査を実施し、実際に活動することを目指す。
履修条件	社会調査士を目指す人は必修となる科目なので、調査法を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品ロス削減は世界的課題であることを理解し、グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄が食の分野に及んでいる現況に関する知識を身に付け説明できる。
思考・判断の観点 (K)	消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何ができるのかを思考し、フィールド調査並びにアンケート調査に基づいて自身の生活を見直し課題を発見し、食品ロス削減の方法を提案し削減に向けた計画を適切にたて判断・行動・実践につなぐことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動に関心を持ち主体的にフードチェーン全体を見直し持続可能な社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度を養い、積極的に地域社会の活動に参画することができる。
技術・表現の観点 (A)	生産者と消費者が連携して持続可能な消費生活を実現し消費者市民社会をつくるには何か必要か、食品ロスとエシカル消費をテーマに食品ロスに取り組むフードバンクと連携する学生や家庭科教員を目指す学生を事例にアンケート調査・ヒアリング調査・家計調査・フィールド調査なども活用しつつ、自分たちができるプロジェクトを企画して実行する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス(授業予定と調査倫理について)	授業目的、概要、後期スケジュール、協力団体について等。食品ロスの現状と課題(現代生活学セミナー昨年の報告書参照)。千代田区の消費生活展について授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。食品ロスに関して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	授業後、SDGsに関して調べ、食品ロス削減がどのように位置づけられているかをレポートする。	360
第2回	食品ロスに関する基礎調査の説明。基礎調査の分担。	天野正子にみる消費者と生産消費者。エシカル消費、SDGs。シェアリングエコノミー。生活者とは。基礎調査の説明、分担。定量調査、定性調査、二次分析の説明。二次分析は家計調査を用いる。	基礎調査のテーマにそってレポート作成の枠組み。内容を決定する。	360

第3回	プロジェクトの進め方と昨年度までの調査結果検討。消費生活展の出展内容の検討。	基礎調査進捗状況の確認。2016～2018プロシューマー実習、食品ロス意識調査報告書の分析・検討。グループにわかれて、消費生活展の出展内容を決定し役割分担。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第4回	基礎調査レポート報告 (1) 行政・消費者団体の取組みに関する報告。シェアリングエコノミー。	行政・消費者団体の取組みに関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第5回	基礎調査レポート報告 (2) 「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関する報告。	「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第6回	消費生活展準備及び出展	消費生活展の出展準備、展示物の確認。	基礎調査の振り返りと本調査のテーマを検討。	360
第7回	本調査テーマ・企画・役割分担等の決定。アンケート調査票の作成。	本調査テーマ決定と調査スケジュールの作成。調査依頼・仮説構成等。アンケート調査票の作成。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査を実施。	360
第8回	本調査実施 (1) アンケート・インタビュー・文献調査。	アンケート調査結果を入力。インタビュー調査等の実施。	本調査のテーマにそってグループごとに報告書を作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果の入力・集計。	360
第9回	本調査実施 (2) アンケート・インタビュー・文献調査。進捗状況の報告。	アンケート調査の単純集計報告。SPSSの説明。調査報告。消費生活展の出展準備。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。	360
第10回	本調査中間報告。	本調査の中間報告。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	360
第11回	本調査実施 (3) アンケート・インタビュー・文献調査。	授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。地域に活動・協力企業等を説明。食品ロスに関する事前学習を通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	360
第12回	内部での報告会。報告書作成準備。	結果概要報告	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	360
第13回	フィールド調査実施	楠公レストハウスにて意見交換。食品ロスや江戸エコ、エンカル消費など。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	360
第14回	報告会予行練習。プレゼン資料の作成。	パワーポイントを使用し、成果発表会の予行演習、意見交換を行う。	予行演習のフィードバックを踏まえてプレゼンテーション資料の修正を行う。	360
第15回	報告会の実施・振り返り	報告書をもとに成果発表を行う。協力企業や学外の関係者を招いて報告会を行う。	報告会・振り返りで出た意見を反映し最終報告書の作成。	360

学習計画注記

連携先の都合により、日程が変更となる場合があります。

学生へのフィードバック方法

調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法

・評価の内容は、以下のような観点から行う。

- ①調査の目的や意義が明確である。
 - ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
調査レポート報告	○	○	○	○
プロジェクトへの参加		○	○	
成果発表	○		○	○

評価割合	調査レポート報告まで 30点 プロジェクトへの参加 40点 成果発表会での発表内容 30点
------	-----------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	時々に表示する。
-----------------	----------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】食品ロス問題について総合的な家政学・生活者の視点から諸課題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	<p>上村</p> <p>前期：水曜日 4限 1805ゼミ室</p> <p>後期：火曜日 4限</p> <p>アポイントを取り時間調整を行うこと。</p>
---------	-------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。新しいライフスタイルにつながるどのようなアイデアが飛び出するか、楽しみにしています。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ファッション企画・設計論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

授業概要(教育目的)	ファッション商品は流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々の嗜好など多くの要素を満足させるような企画をすることが必要である。この授業では様々な要素を考慮しつつ、実際にTシャツのデザインを課題に商品企画を行い製品を制作することで、ファッション産業における商品企画の取り組みや諸問題を検討する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ファッション企画に必要な知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	ファッション企画に必要な事柄を適確に判断する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッション企画に必要な情報を広範囲に積極的に収集できる。
技術・表現の観点 (A)	実際に商品企画を行い、制作までを体験し、そのプロセスを習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、ファッションビジネスとは	授業の概略を説明する。ファッションビジネスの変遷について説明する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	120分
第2回	アパレル産業の生産プロセス	「アパレル産業」についてのビデオを視聴した後、アパレル製品の生産プロセスについて説明する。	配布した、アパレル製品の生産プロセスについての資料を読んでおく。	120分
第3回	婦人服原型製図(1)	婦人服パターン作成の基本となる婦人服原型の説明をする。採寸をし、各自の原型を作成する。実際に作成することで、原型についての理解を深める。	原型作成のプリントを読んでおく。作図が完成していない場合は、終わらせておく。	120分
第4回	婦人服原型製図(2)デザインへの応用	ダーツとは何か。ダーツを移動することで、さまざまなデザイン展開ができることを学ぶ。1/5原型を用いて、デザイン展開の演習を行う。完成したデザイン展開を提出。	デザイン展開が完成していない場合は、終わらせて提出する。	120分
第5回	アパレル	工業用パターンの特徴を理解する。工業用パターンの作	配布資料の設計技術の箇所を読	120分

	CAD、グレーディング、マーキングについて	成、アパレルCAD、グレーディング、マーキングについて解説する。	んでおく。	
第6回	アパレルメーカーの仕事	アパレルメーカーの業務態勢を理解し、担当職種と仕事の種類、仕事内容について学ぶ。	配布した、アパレルメーカーの業務態勢についての資料を読んでおく。	120分
第7回	特別授業：ファッション企業の概要を知る	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、アパレル企画を中心に、実際の企業活動についてお話をうかがう。	インターネットを使い、対象企業の概要を調べておく。	120分
第8回	ファッションアパレルの構造	これまでの授業で学んだ内容を基に、商品企画、試作評価、量産設計、進捗管理までを具体的に解説する。	配布した、ファッションアパレルの構造についての資料を読んでおく。	120分
第9回	縫製仕様書、縫製作業工程分析表とは	量産設計に関わる、縫製仕様書、縫製作業工程分析表について解説する。授業では、縫製作業工程分析表の書き方を練習する。	配布資料の縫製作業工程分析表の書き方を読んでおく。	120分
第10回	ファッション商品の分類	アパレル商品企画に必要な知識として、アパレルの分類について解説し、ファッションアイテムについての理解を深める。	配布した、アパレルの分類についての資料を読んでおく。	120分
第11回	アパレル素材と副資材について	アパレルに用いられる素材、副資材の説明をする。特に副資材ではファスナーを取り上げ、現在の衣生活や産業面での用いられ方を考える。	インターネットを使い、ファスナーの歴史や種類について調べておく。	120分
第12回	Tシャツデザインの検討、工程、見積もり、企画の決定	Tシャツを題材に、各自で商品企画を行う。企画テーマを考え、デザインを検討し完成させる。	テーマに沿ったデザインを考え、データ化する。	120分
第13回	制作(1)ガーメントプリンターについて、作業工程の説明	Tシャツの印刷に用いるガーメントプリンターの説明をする。作業工程を確認し、Tシャツの印刷・仕上げを進める。レポート作成の準備をする。	Tシャツのデザインを完成させ、データ化して提出する。	120分
第14回	制作(2)仕上げ、Tシャツの提出	Tシャツの印刷・仕上げを進める。Tシャツとレポートを提出。	レポートが終わらない場合は、最終提出日までに完成させ提出する。	120分
第15回	多様化するファッション産業と諸問題	本授業のまとめとして、多様化するファッション産業について概観し、現在の諸問題について考察する。	定期試験の準備のため、授業の振り返りを行う。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 講義に演習も取り入れて授業を進める。作品課題に対しては、企画・制作の各段階において助言等をそのつど行う。

評価方法 定期試験では、講義内容の理解を問う。平常点は、授業参加状況と授業時の課題への取り組みを総合的に評価する。提出課題では、原型については作図の正確性を問い、Tシャツのデザイン企画については、テーマとデザインコンセプトの整合性、デザインの独創性等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常の授業参加	○		○	○
提出課題 (Tシャツ、原型)	○		○	○

評価割合 定期試験70%、平常点（授業への取り組み）15%、提出課題15%

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。 【思考・判断】「質の高い衣生活」とは何であるかを、生活者と生産者の両方の立場で考えることができる。 【技術・表現】衣生活における諸問題の解決策を生産者の視点で提案することができる。	
オフィスアワー	月曜日1時限	
学生へのメッセージ	これまで学んだファッション系授業の内容も関連付けて考えて欲しい。日ごろからファッション産業を扱った新聞記事などにも目を配ることが大切です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	衣服環境論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 成田 千恵	指定なし

授業概要 (教育目的)	衣服は、人間を取り巻く最も身近な微小環境として位置づけられる。本講では快適な衣服環境について、人体の温熱生理的特性と衣服との関係（主に衣服気候）、人体の形状・運動特性と衣服との関係（主に動きやすさ）、皮膚の生理特性と衣服との関係（主に肌触り）の観点から学ぶ。さらに、これらの基礎的知識をもとに、着用環境（暑熱環境、寒冷環境）、着用者（乳幼児、高齢者、障害者）、着用場面（睡眠時等）に視点を広げ、機能的で安全、快適な衣服環境の実現を目的とする。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	説明
知識・理解の観点 (K)	人体の体温調節機能や外部気候と衣服（温熱的快適性）、人体の形状・運動特性と衣服（運動機能性）、皮膚の構造・生理特性と衣服（接触快適性）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	周囲の温熱環境や着用者、着用場面の特性に適した衣服の素材、デザイン、着装等の要素について指摘できる。また、衣服による障害の発生要因を指摘でき、その対策について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス、衣服環境論の目的、着心地・快適性・健康性について	学習計画や評価等について説明する。歴史的観点から見た衣服と健康との関係、健康と衣服の快適性との関連について学ぶ。	シラバスの熟読。教科書・ノートの用意。 教科書第1章「アパレルと健康」(2~6ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	体温調節に関わる環境温熱因子	寒暑感を左右する環境の温熱因子を理解する。温熱指標について学ぶ。	教科書第2章「2-1 5. (2) 体温調節に関わる温熱因子」(29~30ページ)、「発展2-7 PMV」「発展2-8 SET*」(50ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	人体の体温調節機能	人体の体温調節機能に関し、体温と皮膚温について理解する。	教科書第2章「2-1 1. 体温と皮膚温」(12~15ページ)を読む	180分

	① 体温と皮膚温		しておくこと。 また、自分の1日の体温と行動を3～4時間毎に記録し、1日の体温の変動を観察する。	
第4回	人体の体温調節機能 ② 産熱と放熱	人体の体温調節機能に関し、体内での産熱と人体からの放熱について理解する。	教科書第2章「2-1 2. 産熱と放熱」(16～22ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	人体の体温調節機能 ③ 行動性体温調節と自律性体温調節、不感蒸散と発汗	人体の体温調節機能に関し、行動性体温調節と自律性体温調節、皮膚からの蒸散(不感蒸散と発汗)について理解する。	教科書第2章「2-1 4. 行動性体温調節と自律性体温調節」(24～29ページ)、第4章「4-1 5. 汗腺」(120～122ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	気候と衣服 ① 快適な衣服気候と布地を通じた熱と水分の移動	衣服を着用したときの快適感を左右する衣服気候、および衣服の着心地に影響を与える布地の特性について理解する。	教科書第2章2-2「1. 快適衣服気候」「2. 布地を通しての熱の移動」「3. 布地を通しての水分移動」(32～41ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に2～5回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第7回	気候と衣服 ② 衣服の保温力の単位と測定法、衣服の形態・着装と衣服内気候	衣服の保温力の単位と測定法、および衣服の形態・着装と衣服内気候について理解する。	教科書第2章「2-3 1. 保温力の単位と測定法」(45～50ページ)、「2-2 4. 衣服の形態・着装と衣服内気候」(41～44ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	気候と衣服 ③ 衣服による熱中症の予防と対策	熱中症を予防するための衣服の条件について理解する。	教科書第2章「2-4 1. 熱中症の予防と対策」(56～65ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	気候と衣服 ④ 衣服による低体温症・冷え性の予防と対策	低体温症や冷え性を予防するための衣服の条件について理解する。	教科書第2章「2-4 2. 低体温症・冷え性の予防と対策」(65～71ページ)を読んでおくこと。	120分
第10回	着衣の運動機能性① 人体の構造と運動、衣服圧の発生要因	人体の構造と運動について学ぶ。また、身体を拘束する衣服圧の発生要因を理解する。	教科書第3章3-2「1. (1) 人体の構造と運動、(2) 動作に伴う身体寸法・形状の変化」(83～86ページ)、「2. 動作に伴う着衣の変形と運動機能的なデザインの工夫」(87～93ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に6～9回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第11回	着衣の運動機能性② 衣服圧の人体影響と衣服圧を利用した衣服	衣服圧が人体に与える影響、および、衣服圧を利用した衣服について理解する。	教科書第3章「3-3 衣服圧の人体影響とアパレルにおける有効利用」(94～106ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	皮膚の構造と役割、下着・寝衣の役割	人体皮膚の構造と役割について、および、下着・寝衣の役割について理解する。	教科書第4章「4-1 1. 皮膚の構造と役割～4. 皮下組織」(118～120ページ)、「9. 皮膚常在菌」(124～125ページ)、「4-2 下着・寝衣の役割と条件 1. ～4. 」(127～131ページ)を読んでおくこと。	120分
第13回	衣服による障害と対策	衣服によって生じる障害とその対策について理解する。	教科書第5章「5-1 アパレルによる障害と対策」(138～147ページ)、「5-2 (1) c. 防災寝具」(148～149ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	乳幼児の衣服	乳幼児の体型や身体機能の特徴と、それに適した衣服について理解する。	乳幼児の体型や身体機能の特徴について調べておくこと。	240分

			授業の最初に10～13回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。		
第15回	高齢者と障害者の衣服	高齢者と障害者の生理機能や体型の変化と衣服との関係を理解する。	教科書第5章「5-3 高齢社会におけるアパレル」(157～165ページ)を読んでおくこと。これまでの授業内容を総復習しておくこと。	720分	
学習計画注記		履修者数や授業の進み具合により、スケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		実施した小テストは採点して、次週の授業にて返却し、模範解答を解説する。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 小テストは4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施する。1回あたりの問題数は約20問で、全て穴埋め形式で出題する。 定期試験は100点満点で出題し、小テストの振り返りを含めて、穴埋め、選択、記述形式で出題する。出題の傾向については、最後の授業時に説明する。 小テスト、および定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○			
	定期試験	○			
評価割合		平常点(授業への参加状況等)20%, 小テスト30%, 定期試験50%の総合評価とする。			
使用教科書名 (ISBN番号)		日本衣料管理協会刊行委員会編『アパレル生理衛生論』日本衣料管理協会 (2016)			
参考図書		岡田宣子編著 『ビジュアル衣生活論』 建帛社 2010 田村照子編著 『衣環境学の科学』 建帛社 2004 日本家政学会被服衛生学部会編 『アパレルと健康—基礎から進化する衣服まで』 井上書院 2012 谷田貝麻美子 間瀬清美編著 『衣生活の科学 健康的な衣の環境をめざして』 アイケイコーポレーション 2007			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。			
学生へのメッセージ		・衣服を着る「人体」を中心に、「衣服環境」を考える授業である。今までに学んだ衣服素材、衣服サイズ等の知識が活かせるよう、それらについて自分で不明確だと思う部分を復習した上で受講すると理解が進みやすいため、努めてほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	インテリア設計論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	最初にインテリアの様式史、モダンムーブメントといった現代インテリアの背景について説明する。次に建築構造・構法といった安全で堅固な空間を担保するための技術、仕上げ材料や床の間などインテリアの設えについて解説する。最終的にインテリアを設計あるいは評価できるような知識を修得させる。
履修条件	なし。座席指定を行う。 なお、UR技術研究所（八王子市）と東京ビッグサイト（有明）での校外学習を行うため、交通費などの負担がある。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	インテリア史・デザイナーズ家具・構法・材料・設えなど、インテリアをコーディネートする際に必要な背景や実務の知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人に快適で安全な空間を提供することについて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	インテリアを構成するエレメントについて、その成り立ちや、機能、素材について説明できる。
技術・表現の観点 (A)	人の好みに応じたインテリアをコーディネート出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インテリアの歴史1(西洋古典)	インテリアの歴史について、ギリシャ・ローマ時代から近世までの様式別に学ぶ。	それぞれの様式別の特徴や代表的な建物、家具についてノートにまとめておくこと。	90分
第2回	インテリアの歴史2(西洋近代)	欧米で近代合理主義(モダンムーブメント)が起こった時代について、建築や家具、デザインの思想について学ぶ。	この時代の思想は現代のバックグラウンドとなっており、様々なところでその痕跡を見つけることができる。デザイナーズ家具など現代でも人気が高く、注目してほしい。次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第3回	インテリアの歴史3(西洋近代)	第二次世界大戦後の欧米での建築や家具、デザインの思想について学ぶ。	この時代の思想は現代のバックグラウンドとなっており、様々なところでその痕跡を見つけることができる。ミッドセンチュリーのデザイナーズ家具などイ	180分

			インテリアコーディネーター資格試験でも必出で、その作家名や作品名、素材や構成について整理をすると良い。 次週までにノートをまとめておくこと。	
第4回	インテリアの歴史4（日本近代・戦前）	欧米で発生した近代合理主義（モダンムーブメント）はすぐに日本へ受容された。今回はこれら戦前の日本における建築や家具、デザインの思想について学ぶ。	この時代の思想は現代のバックグラウンドとなっており、様々なところでその痕跡を見つけることができる。21世紀の我々が見ている世界と比較しながら考察すると良い。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第5回	インテリアの歴史5（日本近代・戦後）	戦後の日本はめざましい発展を遂げた。日本の建築やインテリアの思想が世界に伝わることも多くなった。今回はこれら戦後の日本における建築や家具、デザインの思想について学ぶ。	日本のミッドセンチュリーデザインのデザイナー家具などインテリアコーディネーター資格試験でも必出で、その作家名や作品名、素材や構成について整理をすると良い。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第6回	現代建築・インテリア	現代については学術的に位置づけられていないことも多いが、今回は1990年代以降の建築や家具、デザインの傾向について紹介したい。	図書館、書店にある建築インテリア系の専門誌（新建築、商店建築、住宅特集など）などを閲覧し、興味を持つと良い。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第7回	インテリアトレンドショーJAPANTEX2019の見学	東京ビッグサイトで開催されるインテリア関連企業の見本市「インテリアトレンドショーJAPANTEX2019」を見学する。現代のトレンドを知ることができ、製品情報など実物に触れることで学習を深める。	見学した企業、製品から興味が強かった一つを取り上げ、展示内容や付帯情報をインターネットなどで調べ、レポートにまとめる。	180分
第8回	建築・インテリア材料（木材）	インテリア材料によく使われる木材および木質建材について、その種類や特性、用途について学ぶ。	自身の生活空間にある木材に着目し、考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第9回	建築・インテリア材料（ガラス）	インテリア材料によく使われるガラスおよびガラス建材について、その種類や特性、用途について学ぶ。	自身の生活空間にあるガラスに着目し、考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第10回	インテリア構法（構造体）	インテリアを支える建築の主な構法（木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造）の概要を解説する。	自身の生活空間を形づくっている構法に着目し、考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第11回	インテリア構法（床）	インテリアを構成する床について、その下地を含めた解説を行う。また近隣トラブルの原因となりやすい床衝撃音対策に言及する。	自身の生活空間を形づくっている床に着目し、騒音問題を含め考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第12回	インテリア構法（壁）	インテリアを構成する壁について、その下地を含めた解説を行う。	自身の生活空間にある壁に着目し、考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第13回	インテリア構法（天井）	インテリアを構成する天井について、その下地を含めた解説を行う。	自身の生活空間にある天井に着目し、考察を深めて欲しい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第14回	インテリア構法（造作）	和室、洋室に分けて室内造作について学ぶ。	過去の日本家屋によく見られた床飾り（床の間）も現代住宅では少なくなってきた。和室の無い住宅に住んでいる者も床の間を見る機会があればよく観察しておいてほしい。 次週までにノートをまとめておくこと。	180分
第15回	UR都市機構、集合住宅歴史館（北八王子）の見学	UR都市機構の展示施設「集合住宅歴史館」には日本の戦前、戦後の代表的集合住宅のインテリアが移築・保存されており、実物に触れることで学習を深める。	見学した施設から興味が強かった一つの事象を取り上げ、図書館、インターネットなどで調べ、レポートにまとめる。	180分
第16回	定期試験	試験時間80分、持ち込み不可	到達度テスト（小テスト）を中	90分

				心に復習しておくこと。	
学習計画注記	それぞれの項目の学習量に違いがあり、1回で区切らず調整することがある。 2回の校外授業の日程は授業時間外（授業の空き時間、KVA期間中、冬期休暇中あるいは補講日）に行われ、また訪問先の都合で変更することがある。				
学生へのフィードバック方法	毎回、授業の冒頭で前回授業内容の到達度テスト（小テスト）を行う。直後に回答と解説を行うので、そこで自分の理解度が把握できる。 ノート作りについても指導を行う。毎回関連図表を配布するので、次週までにノートに切貼すると理解が大きく進む。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度テストは前回の授業に係る学習範囲から出題し、授業内冒頭に実施する。1回あたりの問題数は10～20問で、すべて選択式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、到達度テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は到達度テストの振り返りや、インテリアコーディネーター資格試験や二級建築士の出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題の傾向については、授業内にて説明する。 ・任意であるが、ノート作りについての動機付けとする為に、授業の最後にノート提出を受けつけ、良いものには加点を行う。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	到達度テスト（小テスト）	○		○	
	定期試験	○			
	レポート			○	
評価割合	学期末筆記試験：70%、平常点（到達度テスト）：20%、レポート：10%				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。				
参考図書	インテリアコーディネーターハンドブック技術編・販売編（インテリア産業協会編） 大江スミ著：応用家事講義（住宅建築文献集成第10巻）				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 インテリアを通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】 インテリアを通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることが出来る。</p> <p>【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、インテリアを理解することが出来る。</p> <p>【技術・表現】 次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の空間作りが出来るようになる。</p>				
オフィスアワー	水曜日 3時限目・金曜日 3時限目（1808ゼミ室）				
学生へのメッセージ	授業で配布する図版資料は必ず翌週までにノートに切貼りして整理すること。翌週の講義冒頭に小テストを行う。 東京は世界でも指折りのインテリア、建築デザインの先端都市である。普段から興味を持ち、情報収集に努め、可能な限り積極的に空間体験に行って欲しい。コンベックスは携帯し、生活の様々な場面であらゆる寸法を身に着けていきたい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は一級建築士資格を有しており、また建築・インテリア設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	エコロジー		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要 (教育目的)	「エコロジー」とは、狭義には生物学の生態学のことを指しますが、広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが、この授業では、主に「くらし」に関係した環境問題について解説し、人類と環境との共存について学びます。環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で、見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。
履修条件	1年次に開講される共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	環境問題の歴史の変遷を学び、現在の環境問題と生活（くらし）との関係について理解する。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしとの関係を理解した上で、日々の生活が環境に及ぼす影響について考え、改善する思考・判断が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。
技術・表現の観点 (A)	簡単な実験による環境測定法の習得。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	「エコロジー」の持つ意味・意義について解説する。今後の演習内容と見学の意義について説明する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み、環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第2回	地球環境と生態系	「エコロジー」の基本概念である「環境」と「生態系」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	90分
第3回	生態系とくらし(生態)	人類が生態系からもたらされる様々な利益(生態系サービス)について解説し、生態系と人類の関係について理	予習：高校生物基礎教科書中の生態系と生活の関連している部	90分

	系サービス)	解する。	分を読む。復習：授業内容の確認。	
第4回	環境問題の歴史と実態1 (公害の歴史と現在の生活の関係)	日本の高度成長期に発生した公害問題を紹介し、現在の安全・安心な生活がどのようにつくられてきたのかを考える。特に世界的な環境問題として現在でも取り上げられている「水俣病」についてVTR資料を使って紹介し、現在の生活が過去の多くの犠牲の上に成り立っていることを理解する。また、他の水質汚濁による環境問題についてインターネットを利用して調べる。	予習：公害病についてインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第5回	環境問題の歴史と実態2 (水質)	生活に不可欠で身近な飲料でもある「水」が都市においてどのようにして確保されているのか、また生活排水を含む「下水」はどのように処理されているのかを解説する。その後、次の見学先である東京都虹の下水道館・水の科学館をHPで見学する展示を確認する。	予習：「上水」「下水」の処理方法について調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第6回	環境問題の歴史と実態3 (虹の下水道館・水の科学館見学)	東京都虹の下水道館・水の科学館では、生命維持や生態系維持に必要な不可欠な「水」の供給・処理の実態について理解することを目的として見学する。上水の水質維持には森林や河川と言った環境の重要性、下水の処理については多くの微生物が関わっていることを理解し、さらに不可欠の「水」と環境との関連性について考える。特に虹の下水道館では下水設備の見学することによって、下水と環境問題について認識する。	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。	90分
第7回	環境問題の歴史と実態4 (都市化に伴う問題)	都市化に伴う環境問題 (都市型環境問題) について解説する。都市型環境問題の原点である廃棄物処理について、インターネットを使って調べ、まとめる。	予習：都市型環境問題についてインターネットを使って調べ、代表的な7つの環境問題を挙げる。復習：演習中で調べた廃棄物処理について再確認する。虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。	90分
第8回	8. 環境問題の歴史と実態5 (清掃工場見学)	東京都新江東清掃工場・東京都夢の島熱帯植物館では、人口密集地での代表的・根源的な環境問題であるゴミ処理について清掃工場を見学することで、その実態について実感を伴って理解することを目的とする。さらに清掃工場に隣接したゴミ焼却の余熱を利用した熱帯植物館を見学することで、余剰エネルギーの利用についても考える。	予習：ゴミ処理とエネルギーの再利用について、身近な例を調べる。復習：新江東清掃工場・東京都夢の島熱帯植物館の見学レポートの作成。	90分
第9回	環境問題の歴史と実態6 (自然に与える影響・生物多様性)	生物多様性の基本について解説した後、生物多様性と生活の関連性について「自然浄化」「品種」などをキーワードにVTR資料を使って理解を深める。遺伝的多様性から生まれる「品種」に関して、どのような生物が、どのように使われているのかを調べる。	予習：高校生物基礎教科書中の生物多様性に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	90分
第10回	生物多様性とくらし (ちりめんじゃこから環境問題を考える1)	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより、食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。1回目では「ちりめんじゃこ」に関連する漁業、製造方法などを解説した後、無選別の「ちりめんじゃこ」の中から混獲された生物を探し出し、簡単な生物図鑑を製作する。	予習：事前に配布したテキストを読み、実習内容の確認をする。復習：生物図鑑の作成。	90分
第11回	生物多様性とくらし (ちりめんじゃこから環境問題を考える2)	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより、食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。2回目では無選別の「ちりめんじゃこ」から選別した混獲生物を定量化し、食品としての「ちりめんじゃこ」を作り出す為にどのくらいの量の生物が混獲されているのかを知る。2回の実習を通して、食料と生物多様性・生態系との関連性を実感を伴って理解する。	予習：事前に配布したテキストを読み、実習内容の確認をする。復習：実習内容の確認。	90分
第12回	環境とくらしの共生を考える (ビオトープを例として)	都市環境下で自然環境を再現する「ビオトープ」について解説し、自然環境とくらしと共生の共生を考える。ビオトープの特徴を理解した上で、インターネットを用いて自宅周辺のビオトープを探し、特徴をまとめる。	予習：ビオトープに対する予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第13回	くらしと身近な環境問題 (まちづくりと環境; ヒートアイランドを測る)	都市化に伴う環境問題をヒートアイランド現象を例として解説する。その後、校舎屋上のクーリングタワー周辺、大学周辺の歩道や公園で気温測定を行い、都市の高温化と緑地の意義について実感を伴って理解する。	予習：測定場所の選定。測定方法の確認。復習：授業内容の確認。	90分
第14回	環境保護教育・活動 (見学) 1 (自然教育園見学)	国立科学博物館附属自然教育園では、大都市東京の中心地である目黒地区のビオトープを見学し、人口過密地域での環境問題・環境保護等について理解を深め、人と自然との共存について考える。また、気温測定を自然教育園で行う。	予習：国立科学博物館附属自然教育園についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。	90分

		園内と近隣の公園で行い、ヒートアイランド現象に対する緑地の意義について理解する。		
第15回	環境保護教育・活動 (見学) 2 (北の丸公園見学)	北の丸公園を見学し、前回に見学したビオトープである国立科学博物館附属自然教育園と整備された緑地である北の丸公園を比較し、都市における環境保全について理解する。	予習：北の丸公園など、都心における緑地の特徴についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。	90分

学習計画注記	見学があるので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学ための入園・入館料、交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館附属（JR目黒駅、東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅）の入園料300円、東京都新江東清掃工場・夢の島熱帯植物館（JR京葉線・東京メトロ有楽町線新木場駅）の植物館入館料250円、虹の下水道館・水の科学館（JR埼京線・東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅、ゆりかもめお台場海浜公園駅）の入館料は無料。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	講義と見学、簡単な実験。
---------------	--------------

評価方法	授業中に課した提出物や授業への取り組みと見学レポートの総合評価。1/3以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。特に演習科目なので、欠席については厳格に評価します。
------	-------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物・授業への取り組み	○	○	○	○
見学レポート	○	○		○

評価割合	授業中に課した提出物や授業への取り組み（60%），見学レポート（40%）の総合評価。
------	--------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に定めない。
-----------------	---------

参考図書	授業中に適宜、紹介する。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	木曜1限 1702室
---------	------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	環境保護論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、環境問題の過去と現在の状況を把握した上で、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までマイクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また、葛西臨海水族園、国立科学博物館、国立極地研究所の見学を予定しており、見学を通して自然観や保全方策などを理解する。
履修条件	専門科目「エコロジー」（2年次前期）と基礎科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	環境問題の過去と現在の状況を把握した上で、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までマイクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための知識を得て、自然保護や保全とは何かについて理解できる能力を持つ。
思考・判断の観点 (K)	常に暮らしと環境の関連性を考える思考と、持続可能な社会におけるQOL（生活の質の向上）と環境の関係について適切な判断が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境保護について関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	レポートにより、多くの人々に環境保護の重要性を訴える表現力が身についている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション (授業の概要)	授業の概要と進め方、見学先についての紹介などをする。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み、環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	180分
第2回	環境とは何か?	環境の基礎知識について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系内の物質・エネルギーの循環」の章を読み、生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	環境問題の	大気汚染を取り上げ、日本の環境問題(公害)について	予習：日本における大気汚染に	180分

	過去・現在・未来 1	振り返り、現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。	ついて過去と現状を調べる。復習：授業内容の確認。	
第4回	環境問題の過去・現在・未来2	水質汚濁を取り上げ、日本の環境問題（公害）について振り返り、現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。特に水俣病について解説し、社会と環境問題について考える。	予習：「日本の四大公害事件」「水俣病」についてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生物と環境の関わり合いについて 1（生物多様性）	生物多様性（種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性）について解説し、環境保護の基本的な知識を身につける。また、今後に見学する国立科学博物館の生物多様性について展示に関しても説明する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	生物と環境の関わり合いについて 2（生物多様性と人類）	生物多様性と人類との関係を「品種改良」と「外来種問題」の側面からVTR映像も利用して解説する。	予習：身近な「品種」と「外来種」について調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	生物と環境の関わり合いについて 3（国立科学博物館見学）	生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら、生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し、環境と生物の関係について理解を深める。	予習：国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。	180分
第8回	環境を保護する方法 1（生活と環境問題）	生活と環境問題の関連性について、輸入食料について総合的にとらえる目安として考えられた「フードマイレージ」について解説し、日本の食糧事情について考える。幕の内弁当におけるフードマイレージについて調査する。	予習：フードマイレージについてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。国立科学博物館の見学レポート作成。	180分
第9回	環境を保護する方法 2（回転寿司から環境を考える 1）	仮想で回転寿司のメニューから寿司を注文し。注文した寿司のフードマイレージを計算し、輸入食材と日本の食糧事情を実感を伴って理解する。	予習：回転寿司チェーンのメニューと原産地を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	環境を保護する方法 3（回転寿司から環境を考える 2）	前回、算出したフードマイレージについて、原産地を国産にして再算出して比較することにより、日本の食糧事情と地球温暖化をはじめとする環境問題の関係について理解する。比較データについて、全体で発表する。	予習：国産の産地と単価を調べる。復習：提出物の作成。	180分
第11回	環境を保護する方法 4（葛西臨海水族園見学）	日本は海に囲まれている海洋国家で、海から食糧などの様々な資源を獲得して暮らしている。水族館という海洋環境を人工的に再現した施設において食糧資源としても重要な海洋生物の生き様を観察することにより、環境保護のアプローチについて理解を深める	予習：葛西臨海水族園の展示についてHPを調べて、見学する展示を考える。復習：葛西臨海水族園見学レポートの作成。	180分
第12回	生物と環境の関わり合いについて 3（地球環境と人類の活動 1）	研究と環境保護の関連性について理解する為に、人類の活動から遠く離れた南極・北極で行われている研究について解説する。次回見学する国立極地研究所の概要についても説明する。	国立極地研究所のパンフレット類を配布し、研究者への質問を考える。見学する南極北極科学館の展示について調べる。	180分
第13回	生物と環境の関わり合いについて 5（国立極地研究所でのレクチャーと見学）	地球上には様々な環境が存在し、人類の生活に影響を及ぼしている。極地は、人類の活動域とは離れているが、地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また、人類の活動域から離れていることは、すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり、地球環境の変化を研究・観測する上で適している「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより、グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。なお、見学とレクチャーで3時間を予定しているので、第13回と第14回の授業を合わせて実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分
第14回	生物と環境の関わり合いについて（国立極地研究所でのレクチャーと見学）	第13回と第14回の授業を合わせて、レクチャーと見学を実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分
第15回	環境保護論まとめ	環境保護についてこれまでの授業内容・見学・レクチャーも含めて解説する。	第1回～第14回までの授業・見学・レクチャーについて復習	180分

し、自分なりに「環境保護」について考えてまとめる。

学習計画注記 見学があるので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学ための入園・入館料、交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館（JR上野駅、東京メトロ上野駅）の入園料660円、葛西臨海水族園（JR京葉線葛西臨海公園駅）の入館料770円、国立極地研究所（多摩モノレール高松駅）の南極北極科学館の入館料は無料。

学生へのフィードバック方法 見学レポート・提出物についてはコメントを出す予定。

評価方法 定期試験、平常点・レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 定期試験（40%）、平常点・レポート（60%）の総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号) プリントを配布する予定。

参考図書 講義中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 水曜日1時間目 1702室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ツーリズム b (環境)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	ツーリズムb(環境)では、特にエコツーリズムとよばれる活動について理解を深めます。エコツーリズムは、単に自然の豊かな場所に旅行することではありません。その地域の環境を、生活文化・自然生態系の総和として理解し、これらを学ぶことを目的とするもので、その活動には、訪れる地域社会の発展や貢献を目指すことも含まれています。この演習では、エコツーリズムについて、エコツアーへの参加、展示会や博物館、研究機関の見学によって実感を伴った理解を培います。特に「大学が置かれている都心で、どのようなエコツアーが提案できるか」をテーマにして、実習を進めていきます。
履修条件	基礎科目「環境と資源」、専門科目「エコロジー」・「環境保護論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幅広い見学を通して環境と人との関係に関して知識を得て、エコツーリズムについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	大都市・東京で環境・文化を持続可能な資源として利用する思考・判断力を持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	エコツアー参加、博物館・研究所・環境系展示会など見学を通して、都心の生活者としての自然との関わり方について関心を持ち、多くの人にフィードバックできるようになる。
技術・表現の観点 (A)	グループで考案したエコツアーの企画書(パンフレット)を作成し、他者に伝える(プレゼンテーション)能力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	今後の演習内容と見学の意義について説明する。	高校生物基礎教科書の生態系のバランスと保全に関する部分を読んでおく。	90分
第2回	エコツーリズムとは何か?	この演習の基本的概念である「エコツーリズム」について解説し、基礎知識を得る。	予習: 都心で体験できるエコな体験について、事前に調べてまとめる。復習: 授業内容の確認。	90分
第3回	都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す) ¹	大学近くの外濠公園、皇居周辺、北の丸公園、靖国神社などを散策し、都心で自然を探す。	見学資料の整理。	90分
第4回	都心でのエ	前回見学し、発見した自然現象を紹介する内容の紹介記	パンフレットを作成し、次週提	90分

	コツアーリズム（都会の自然を探す）2	事を作成する。さらに近隣の他の見学先をインターネットで調べて、パンフレットを作成する。	出する。	
第5回	エコツアーリズムの実例	次回参加する「都心の水辺でエコツアー」に関連して、ツアーの内容、意義などを説明する。その後、東京23区内周辺で水辺の自然の利用について調べる。	水辺の自然活用について調べたことをまとめる。	90分
第6回	都心でのエコツアー実践（ツアー参加）	以下の内容のNPOが主催するエコツアーに参加して、東京の特徴を生かしたエコツアーについて実践的な知識を得ます。なお、ツアーの時間が長いので、第6回と第7回の実習をこのツアーに当てます。 「都心の水辺でエコツアー」は、神田川・日本橋川を船に乗って巡り、江戸時代から現在までの東京の変遷を文化的な要素も含めて紹介するエコツアーです。エコツアーに参加して実態を知るだけで無く、現代家政学科の学びの特徴でもある都市生活の文化的な変遷についても理解します。（参加費5000円）	見学レポートの作成。	90分
第7回	都心でのエコツアー実践（ツアー参加）	第6回と第7回をツアー参加に当てます。	見学レポートの作成。	90分
第8回	都心でのエコツアーリズム（都会の自然を探す）3	国立科学博物館附属自然教育園を見学し、大都会・東京で武蔵野の自然を体感し、都心で自然環境を残す意義について考えます。（東京メトロ南北線／三田線白銀台駅、JR目黒駅；入園料310円）	見学レポートの作成	90分
第9回	エコツアーリズムへの多様なアプローチ	「環境」の持つ多面性を理解するために、エコロジー・環境関係の展示会を見学し、環境に対して、多くのアプローチがあることを理解します。実習中では、次回に見学するエコロジー・環境関係の展示会のHPを調べて、各自が見学の内容を決めます。	見学先の確認。周辺知識（企業やNPO、大学研究室など）を得ておく。	90分
第10回	多様なエコツアーリズム	東京ビックサイトで開催されるエコロジー・環境関係の展示会を見学して、エコツアーリズムの実態について理解を深めます（入場料1000円もしくは無料）。	見学レポートの作成。	90分
第11回	地球環境とエコツアーリズム1	環境研究とエコツアーリズムの関係について極地（南極・北極）の調査・研究を紹介して、研究と私たちの暮らしが関連していることを理解します。次回見学する国立極地研究所・南極北極科学館について事前調査をして、研究者に対する質問を考えます。	見学内容、質問の整理	90分
第12回	地球環境とエコツアーリズム2	国立極地研究所で地球環境について第一線で調査・研究している研究者から話を聞くことにより、環境保護やエコツアーリズムを理解する基礎的知識を培います。また、附属の南極北極科学館を見学し、遠く離れている極地でどのような研究が行われているかを理解します。（多摩都市モノレール高松駅；無料）	見学レポートの作成。	90分
第13回	自然の多様性について実感する（国立科学博物館見学）	国立科学博物館では、主に日本の自然の多様性と変遷について見学し、日本でエコツアーを実施する場合の基礎知識を培います。（JR上野駅；入館料620円）	国立科学博物館の展示についてHPで調べ、見学する展示を確認する。	90分
第14回	エコツアーを創る1	これまでの実習、見学、レクチャーなどを踏まえて、都心での体験できる自然や展示を生かしたエコツアーを考える。	エコツアーのパンフレット、プレゼンテーション資料の作成。	90分
第15回	エコツアーを創る2	これまでの実習、見学、レクチャーなどを踏まえて、都心での体験できる自然や展示を生かしたエコツアーのパンフレットとプレゼンテーション資料の作成。	エコツアーのパンフレット、プレゼンテーション資料の作成。	90分

学習計画注記	<p>多方面の環境に関する見学を通して、持続可能なツアーリズムについて体験を伴った理解が持てるような演習内容です。見学が多いので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。</p> <p>以下の注意事項を良く確認して、履修して下さい。</p> <p>①水曜日3・4時間目に開講しますが、見学など学外へ出る場合が多いので、5・6時間目に授業を入れない。</p> <p>②見学やエコツアー参加など、水曜日3・4時間目以外の曜日・時間帯に実施する場合があります。</p> <p>③見学やエコツアーなど、入館料や参加費、交通費など費用がかかります（参加することが原則）。</p> <p>④水曜日午前中に見学する場合に別の授業が入っている時は、沼波が欠席理由書を授業担当教員に提出します。</p> <p>⑤見学やエコツアーなどへの参加が多いので、参加費・交通費がかかります。</p>
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーションに対する評価を知らせる。
評価方法	演習への参加と取り組み、レポート+プレゼンテーションで総合評価する。演習なので欠席とレポート未提出の場合は、評価が著しく下がる。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習への取り組み	○	○	○	○
レポート	○	○	○	
プレゼンテーション				○

評価割合	演習への参加と取り組み (60%) , レポート+プレゼンテーション (40%) の総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に定めない。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
オフィスアワー	木曜1限 1702室
学生へのメッセージ	都市における環境・文化に関する見学を通して、持続可能な環境と人との関係について体験を伴った理解が持てるような演習内容なので、専門科目「エコロジー」や「環境保護論」、共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	見学して体験をまとめる。ディスカッションを経てプレゼンテーション資料を作成し、発表して評価を受ける。
情報リテラシー教育	○	インターネットを利用した情報収集、プレゼンテーション方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長野 博一	指定なし

授業概要(教育目的)

都市計画は、人間が生活する場・空間・建築物をもたらす、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題・建築環境問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は極めて大きなものがあるとともに、市民が参加する「まちづくり」を広く意識しながら、都市・地域計画を実行することが求められる。

本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	都市計画の基本的考え方を説明できる
思考・判断の観点 (K)	都市計画は建築やデザインに加えて、市民の生活を支える役割を担っている点を具体的に説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来、プランナー（都市計画行政や計画コンサルタント）、建築等に携わる者として必須となる基礎知識・専門知識、および専門的な計画能力を身につける
技術・表現の観点 (A)	与えられた課題に対して、レポートして取りまとめ、リサーチ内容を適切に表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	都市計画とまちづくり(都市計画の意味・意義、まちづくりとの違い)	特になし	0分
第2回	都市計画の歴史①	近代・現代都市計画の思潮：E. ハワード、ル・コルブジエ、C. A. ペリーの思想	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	120分
第3回	都市計画の歴史②	我が国の都市の歴史と現在までの軌跡：歴史と建築から感じ取る	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	120分
第4回	都市計画法①	都市計画法と都市計画マスタープラン、都市を構成する要素	自分が住んでいる区市町村の都市計画マスタープランを事前に見てくること、そして疑問点を見つける事	180分
第5回	都市計画法②	用途地域、市街化区域・市街化調整区域、建築基準法	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくること	120分

第6回	市街地の整備①	土地区画整理事業、市街地再開発事業 事例考察	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べる	120分
第7回	市街地の整備②	密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画、公園・緑地の計画と設計	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べる	120分
第8回	交通のプランニング①	道路、公共交通の基本的考え方・理論	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくる	120分
第9回	交通のプランニング②	交通マスタープランの役割、駐車場・集客施設の計画と設計	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べる	120分
第10回	海外都市の事例	アメリカ・ドイツ・フランスの都市事例など	特になし	0分
第11回	演習	前半から中盤までのまとめを踏まえ、グループ討議等の演習を行なう。ただし、テーマについては受講生の興味により決める	特になし	0分
第12回	現代都市が抱える諸問題①	バリアフリー、ユニバーサルデザインによるまちづくりの課題と展望	日本福祉のまちづくり学会が発行している学会誌や書籍をweb検索し、用語の意味などを理解しておく	180分
第13回	現代都市が抱える諸問題②	人口減少、少子高齢化時代の計画理論～コンパクトシティ・空き家	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べる	120分
第14回	現代都市が抱える諸問題③	住民参加・まちづくり、現代的アーバンイズム／事例考察	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくる	120分
第15回	まとめ／講義全体のふりかえり	小テストの実施	これまでのスライドやメモを基に、おさらいしておく	60分

学生へのフィードバック方法	①講義スライドは、講義前日までに教員のwebサイトへ掲載する、各自事前にダウンロードし、事前学習すること ②リアクションペーパーを配布・回収する、質問などもペーパーを通じて出してもらって構わない
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	最終レポート（40%）、演習・小テスト（30%）、平常点（30%）による評価 ・最終レポートは、提出までに2週間の時間を設ける、内容は、問題提起・構成・考察・まとめを総合して評価する ・演習は、グループワークを通じて議論への参加状況の評価する。 ・小テストは、最終回に行なう確認テストとして、いくつかの設問に回答してもらう ・平常点は、出席とリアクションペーパーを各15回分、必ず配付回収を行ない、点数としてつける
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
最終レポート		○	○	○
演習		○	○	
小テスト	○			
リアクションペーパー	○			○

評価割合	最終レポート（40%）、演習・小テスト（30%）、平常点（30%）による評価
------	----------------------------------------

参考図書	参考書①：「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社） 定価（本体 2,400円＋税）2011年11月発刊 参考書②：「入門 都市計画-都市の機能とまちづくりの考え方（谷口守 著）」（森北出版） 定価（本体 2,200円＋税）2014年10月発刊
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】都市・建物・土地に関する知識を深め、「質の高い生活」を意識できるようになる 【思考・判断】【関心・意欲・態度】最終レポートや演習でのグループワークを通じて、生活者や社会の視点に立った考え方を身に付け、諸問題の解決につなげる思考力を身に付けている 【技術・表現】レポートやリアクションペーパーを通じて、自分の考えを表現する野力を身に付けている
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	・講義形式にてスライドを用いて行う ・毎回15回分の講義メモを配布する、メモをとりしっかり復習すること ・学術、実務の両面から詳しく講義するので、質問をどんどんしてくるよう（講義終了後に受け付けます）
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、都市計画業務を10年以上公的機関にて実践しており、国土交通大学校等での教授歴も有している
アクティブ・ラーニング	○	毎回リアクションペーパーを求めると共に、グループワークも実施する
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	講義はスライドにて行ない、スライド資料は事前に教員webサイトからダウンロードする仕組みである

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ツーリズム（地域と文化）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 玉木 栄一	指定なし

授業概要(教育目的)	19世紀に産声をあげたツーリズム(観光)は、20世紀後半に大きく発展し、現在では、地球規模での観光交流で、経済、社会、文化など様々な分野に影響を及ぼしている。この講義では、こうした観光の歴史の変遷を考察し、国際観光の意義と役割や国際観光の発展のための課題について論じる。また、観光による地域開発と地方の活性化について、学生自らが、一つの観光地を事例として、観光開発や観光振興の方法を検討し、その対策案をまとめていく。そして、講義全体として、これからの世界と日本の観光の在り方を論じて、学生自ら、観光開発や観光振興の課題を発見し、その対応策を提案できるようにしていきたい。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 日本と世界の観光の現状を理解する。 2. 国際観光の役割、意義について理解する。 3. 観光の発展とその発展要因を理解する。 4. マスツーリズムの発展による影響を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 観光開発・観光振興策の立案方法を理解する。 2. 観光による地域開発・活性化案を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 日本と世界の観光の現状を考察し、課題を把握できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	世界の観光の現状と課題	世界の観光の現状と動向についての講義を受け、世界の観光統計を分析し、世界の観光の課題と展望について議論する。	復習：世界の観光の現状と課題をレポートの纏める。 予習：配付される日本の観光についての資料を読み、日本の観光の課題を見つけておく。	120分
第2回	日本の観光の現状と課題	日本の観光の現状と動向についての講義を受け、日本の観光統計を分析し、日本の観光の課題と展望について議論する。	復習：日本の観光の主な課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットから、ツーリズムの定義を調べておく。	120分
第3回	観光とツー	観光とは何か、を課題に講義をするめる。学問としての	復習：国際機関や日本政府の観	120分

	リズムの定義と概念	定義、産業としての定義、統計での定義を論じる。また欧州で始まったツーリズムの概念を論じ、日本語の「観光」の概念との違いを理解する。そして現在の観光業界で適用するツーリズム概念を考察する。授業では、学生の考えている観光についての概念を議論する。	光の定義をレポートに纏める。 予習：配付された観光の歴史の資料を読んでおく。	
第4回	ツーリズムの歴史1：旅から観光へ	世界の観光の歴史の変遷を論じる。この回では、古代、中世と近世までの旅行の歴史を考察する。また近代でのツーリズムの誕生から発展の歴史を論じる。授業中に、「文明の発展における旅の重要性」について議論する。	復習：世界の観光の歴史、古代、中世、近世、近代のたびと観光の歴史をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、20世紀の観光の発展の歴史を調べておく。	120分
第5回	ツーリズムの歴史2：国際観光時代の到来	20世紀の世界のツーリズムの発展の歴史を考察し、21世紀の世界のツーリズムの動向を論じる。またアジア太平洋地域の台頭、観光分野でのテクノロジーの革新、グローバル化の進展などによる観光業界の変化を考察する。	復習：世界の観光の現状と動向について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「マストツーリズム」について、調べておく。	120分
第6回	マストツーリズムの発展とその影響	第2次大戦後、ツーリズムは、大きく発展し、先進国では、ツーリズムが大衆化し、マストツーリズムと呼ばれるようになった。そこで、マストツーリズムの経済的、社会的な影響を検証し、自然への影響を考察し、これからのツーリズムの在り方を論じる。	復習：マストツーリズムの問題と解決策をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「持続可能な観光」について調べておく。	120分
第7回	持続可能な観光	マストツーリズムの代わる新たなツーリズムのあり方を検証する。自然生態との共存できるツーリズムは可能か、現地住民に利益をもたらす、地域を活性化することはできるのか、持続可能なツーリズムは何か、などを論じる。	復習：持続可能な観光の実践方法をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、観光による地域開発の成功事例を調べておく。	120分
第8回	観光と地域開発	観光による地域活性化の成功事例を考察し、地域開発の取り組みについて論じる。 学生は、事前に調べた「観光による地域開発の成功事例」を発表する。	復習：授業中に紹介された観光開発の成功事例の一つをレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、日本の観光庁の役割について調べておく。	120分
第9回	観光行政と観光政策	観光における政府機関の組織とその役割を論じる。事例として、日本の観光庁の組織と役割を考察する。また、観光政策の実施組織としての政府観光局の役割と実践事項について、論じる。	復習：日本の観光行政と観光政策について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、最近の日本政府の観光政策を調べておく。	120分
第10回	日本の観光政策	戦後の日本の観光政策、2003年からのビジット・ジャパン・キャンペーン、安倍政権での観光立国推進計画などを考察する。 授業中に、「日本の観光振興」のあり方について議論する。	復習：日本のインバウンド観光の課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある国や都市の観光マーケティング戦略を調べておく。	120分
第11回	観光開発戦略、観光振興戦略1	観光開発と観光振興の戦略の立て方、実施計画の作成方法を学ぶ。 具体的には、戦略立案のための調査、調査の分析、戦略の立案と実施計画の作成までを授業中に学び、グループ研究を進めていく。	復習：戦略計画、実施計画の作成方法をレポートに纏める。 予習：興味ある観光地の現状と課題を調べておく。	120分
第12回	観光開発・観光振興戦略2	観光開発・観光振興戦略の策定方法を、グループ研究にて習得する。学生は、課題研究として、興味ある観光地を対象に、その観光地の動向を分析し、課題を把握する。そして、その観光地の発展のための観光開発・観光振興策を検討し、提案する。	復習：観光開発・観光振興戦略の策定方法をレポートに纏める。 予習：グループ研究にて、興味ある観光地の観光開発・観光振興戦略を策定し、PPTに纏める。	120分
第13回	観光開発・観光振興戦略のグループ研究発表	グループ研究での纏めた観光開発・観光振興策案の発表を行う。また学生は、各グループの研究発表の評価し、コメントを述べる。	復習：各グループの研究発表の内容とその評価を簡潔にレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある日本の観光地の動向、課題を調べておく。	120分
第14回	世界各国の観光振興戦略	世界の観光先進国の観光振興戦略を紹介し、日本の観光の課題とその対応策を論じる。	復習：日本の観光の課題とその対応策について、レポートにまとめる。 予習：1回～14回までの授業内容を復習する。特に、今後の観光の課題や問題点の対応について、自分の意見を纏めておく。	240分
第15回	これからの	これまでの授業を振り返り、重要なポイントとキーワード	復習：これからの日本の観光の	60分

	観光の課題と展望授業のまとめと小テストの実施	ドを説明し、これからの観光の課題と展望について論じる。その後、授業全体の理解度を確認する小テストを実施する。	課題と展望について、レポートに纏める。																															
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、授業スケジュールが変更となる場合がある。																																	
学生へのフィードバック方法	1. 授業中の小テスト：実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。間違いの多かった設問については、解答の説明を行う。 2. レポートは、採点后コメントをつけて返却する。																																	
評価方法	1. 授業中の小テスト：記述式の設問で、理解度と論理性で評価する。 2. 課題レポート：「理解度、論理性、独創性」に基づき、3段階評価（A, B, C）で評価する。 3. 最終回の小テスト：100点満点の出題する。小テストの振り返りや、授業中で説明した重要なキーワードなどの問題を含む。																																	
評価基準	評価基準 <table border="1" data-bbox="137 694 1497 934"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最終回の小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業中の小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題研究レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	最終回の小テスト	○	○			授業中の小テスト	○	○	○		課題研究レポート	○	○	○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
最終回の小テスト	○	○																																
授業中の小テスト	○	○	○																															
課題研究レポート	○	○	○																															
評価割合	最終回の小テスト 40% 授業中の小テスト 20% 課題研究レポート 20% 平常点 20%																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。																																	
参考図書	塩田 正志、長谷川 政弘、観光学、同文社、1994 岡本 伸之、観光学入門、2001																																	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】 生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察をすることができる。 【技能・表現】 次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる																																	
オフィスアワー	火曜日 4 時限 非常勤講師室																																	
学生へのメッセージ	下記のURLは、世界の国際観光の動向について、国際観光機関（UNWTO）からの2017年に発行されたレポートです。第1回の授業に出席する前に、下記のURLをダウンロードして、読んでおいてください。 http://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2017/11/UNWTO_Tourism_Highlights_2017_Japan_web.pdf 世界中で、5人に一人が海外旅行をする時代になりました。日本でも2017年には、2869万人の外国人旅行者が訪れ、まさに国際観光時代になりました。ツーリズムを学び、チャンスがあれば旅に出て、世界の人々文化を知り、国際的な視野を養ってください。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1" data-bbox="137 1688 1497 2078"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>航空業界、旅行業界、国際協力（南太平洋島嶼国の観光開発）の実務経験を活かし、観光の歴史、マストツーリズムの影響、21世紀の観光の動向、観光開発・観光振興戦略の策定などで、具体的な経験や実施事例を紹介し、理解を深める。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>各授業での主要なテーマでのグループでの議論を行い、その結論の発表を行う。また、11回の授業からは、観光開発・観光振興戦略の策定方法を学び、グループ研究にて、世界の観光地の観光開発・観光振興戦略を作成し、13回の授業で発表する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	航空業界、旅行業界、国際協力（南太平洋島嶼国の観光開発）の実務経験を活かし、観光の歴史、マストツーリズムの影響、21世紀の観光の動向、観光開発・観光振興戦略の策定などで、具体的な経験や実施事例を紹介し、理解を深める。	アクティブ・ラーニング	○	各授業での主要なテーマでのグループでの議論を行い、その結論の発表を行う。また、11回の授業からは、観光開発・観光振興戦略の策定方法を学び、グループ研究にて、世界の観光地の観光開発・観光振興戦略を作成し、13回の授業で発表する。	情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業	○	航空業界、旅行業界、国際協力（南太平洋島嶼国の観光開発）の実務経験を活かし、観光の歴史、マストツーリズムの影響、21世紀の観光の動向、観光開発・観光振興戦略の策定などで、具体的な経験や実施事例を紹介し、理解を深める。																																
アクティブ・ラーニング	○	各授業での主要なテーマでのグループでの議論を行い、その結論の発表を行う。また、11回の授業からは、観光開発・観光振興戦略の策定方法を学び、グループ研究にて、世界の観光地の観光開発・観光振興戦略を作成し、13回の授業で発表する。																																
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

シラバス参照

講義名	多文化共生		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	グローバル化が進んだ現代社会では、学校、職場、地域などの日常の場が、異文化にルーツを持つ人々の「共生」の場となっていることが少なくない。そのような時代において、多文化共生についての知識および実践力を身につけることは必須である。本講義では、多文化共生の意義や問題点を学び、解決策を考察することで、より良い社会を築くための力を養っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代生活の諸問題を分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活者の視点に立ち、社会の諸問題に関心を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	他者と協議し、その結果を的確な表現で発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	異文化間コミュニケーションについて抱いているイメージを明確にし、課題を見つける。	文化とは何かを考えるためのワークシートに記入する。	180
第2回	異文化間コミュニケーションの難しさ	文化とは何か、異文化に出会った時に人はどのような反応をするかを学んだ上で、望ましいコミュニケーションのあり方を考察する。	異文化間コミュニケーションの望ましいありかたを自分の言葉でまとめる。	180
第3回	3 多文化共生社会を考える1-アメリカ	アメリカが多文化共生社会となるまでの歴史を概観する。その過程で、どのような問題点が生じたかをグループで考察する。	アメリカが多文化共生社会となるまでの歴史を復習する。	180
第4回	多文化共生社会を考える2-アメリカ	19世紀を舞台としたアメリカのドラマを鑑賞し、当時の人々が異文化圏の人にどのような価値観を抱いていたのかを分析する。	ビデオの登場人物達がどのような価値観を抱いていたのかをまとめる。	180
第5回	多文化共生	アメリカの強制入移民の歴史を概観する。アフリカ系ア	アメリカの強制入移民の歴史を	180

	社会を考える3ーアメリカ	メリカ人に対する差別の実態を映像で確認する。	復習する。	
第6回	多文化共生社会を考える4ーアメリカ	公民権運動について学び、公民権運動が結実した背景を分析する。	公民権運動について復習する。	180
第7回	多文化共生社会を考えるーアメリカ5	公民権運動後のアメリカにおける移民に対する考え方の変化を学び、何を要因としてどのように変わったかを分析する。	授業前半について復習する。	180
第8回	中間試験(前半のまとめ)	①人は異文化に対してどのような反応をするのか、②異文化間でコミュニケーションを取るにはどのような思考および行動が必要なのか、③アメリカの歴史を通して、多文化共生社会を築くためには何が幣害となり、解決には何が必要なのかを振り返る。	世界の難民問題について調べる。	180
第9回	多文化共生社会を考える6ー難民問題ー	難民問題の現状を資料および映像で知る。	難民問題が自分とどのような関わりがあるのかを考える。	180
第10回	多文化共生社会を考える7ー難民問題ー	難民問題と自分達にどのような関わりがあるのかを分析する。	日本の多文化共生の現状について、知っていることをまとめる。	180
第11回	多文化共生社会を考える8ー日本ー	日本の多文化共生の現状を資料および映像で知る。	日本の多文化共生の現状について、知っていることをまとめる。	180
第12回	多文化共生社会を考える9ー日本ー	日本の多文化共生の課題を分析する。	多文化共生社会のために自分が行動できることをリストにまとめる。	180
第13回	ダイバーシティ&インクルージョン1	ダイバーシティ&インクルージョンの概念を知り、その必要性を考える。	ダイバーシティ&インクルージョンと思われる事例を集める。	180
第14回	ダイバーシティ&インクルージョン2	ダイバーシティ&インクルージョンとはどのように実現できるのか、例を使って考える。	ダイバーシティ&インクルージョンの方法をまとめる。	180
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返り、多文化共生の必要性、方法について自分の考えをまとめていく。	授業を振り返り、自分の言葉で他者に伝えられるようまとめる。	180

学生へのフィードバック方法 ディスカッションの際のコメント、試験の振り返り

評価方法 中間試験および期末試験（知識を問うのではなく、授業中に学んだことについての分析、考察を述べる問題を課す）平常点（授業、ディスカッション時の発言、取り組みの姿勢）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 中間試験40% 期末試験40% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解の観点】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断の観点】現代生活の諸問題を分析し、問題解決に導く考察をすることができる。

	【関心・意欲・態度の観点】生活者の視点に立ち、社会の諸問題に関心を持って取り組むことができる。 【技術・表現の観点】他者と協議し、その結果を的確な表現で発信することができる。															
オフィスアワー	なし（メールでアポイントメントを取って下さい）															
学生へのメッセージ	授業は、それぞれの学習項目について各自「考える」ところから始まり「考える」ことで終わる方法で進む。意見交換も行うので、積極的な参加を期待する。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>自分の意見を述べる。ディスカッションをする。発表する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>課題について情報収集する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	自分の意見を述べる。ディスカッションをする。発表する。	情報リテラシー教育	○	課題について情報収集する。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	自分の意見を述べる。ディスカッションをする。発表する。														
情報リテラシー教育	○	課題について情報収集する。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コミュニティ論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 信田 理奈	指定なし

授業概要 (教育目的)	グローバル化や情報化、少子高齢化により社会が大きく変動するなか、コミュニティの在り方が問われている。高度経済成長期を境にコミュニティの衰退が叫ばれたが、近年、コミュニティ再生の動きが活発になってきた。地域防災、まちづくり、子育て、社会教育、地域福祉、男女共同参画、多文化共生などにおいて、市民による新たなコミュニティづくりが求められている。この授業ではコミュニティについての原理的考察に加え、いくつかの活動事例を通して生活者の視点からコミュニティの現状と課題について検討する。
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. コミュニティとは何かを原理的に説明できる。 2. コミュニティの基礎理論と用語を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 生活者の視点から地域社会が抱える多様な問題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. コミュニティの未来と自己の将来とを結びつけて地域の市民活動に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の目的と内容、スケジュール、授業の進め方、評価方法、受講上のポイント等について理解する。	シラバスを読み、授業の趣旨や目的を把握する。コミュニティ論を学ぶ理由についてノートにまとめる。	120分
第2回	コミュニティとは何か (1) 社会とつながること	集団・組織、群れ、ネットワークを通して、社会とつながることの意味を理解する。	社会とのつながりを感じる場面やこれまでの体験をノートにまとめる。	120分
第3回	コミュニティとは何か (2) 近代化とコミュニティの概念	近代化と生成・拘束する社会、コミュニティの概念、コミュニティ・コミュニケーションについて理解する。	例えば、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトなど、集団やコミュニティに関する主な定義について調べる。	120分

第4回	コミュニティとは何か (3) 近代化と共同性の衰退	近代化はコミュニティを衰退させ、地域の変容をもたらした。地域が抱える多様な課題を包括的に理解する。	戦後日本の高度経済成長が地域にもたらした変化と問題点について調べる。	120分
第5回	コミュニティとは何か (4) 地域に対するイメージと帰属意識	住みやすいコミュニティのイメージと条件、コミュニティに対する帰属意識の形成要因について理解する。	住みたい街のイメージと条件についてノートにまとめる。	120分
第6回	市民活動とコミュニティ (1) NPOによる公共空間の創生	「市民」の意味、市民活動の生成と発展、市民社会、市民組織としてのNPOと私たちの生活との関わりについて理解する。	ボランティアなどの活動を通して学んだことをノートにまとめる。授業内で小テスト(第1～5回までの範囲)を実施するので復習しておくこと。	240分
第7回	市民活動とコミュニティ (2) 地域福祉の増進	介護をめぐる地域のネットワーク、ユニバーサルデザインの社会づくりとNPOの関わりについて理解する。	ユニバーサルデザインとバリアフリーの相違について調べる。	120分
第8回	市民活動とコミュニティ (3) 子どもの居場所づくり	子どもの居場所として注目されている「子ども食堂」の取り組みと「居場所づくり」の意義について理解する。	居場所とは何か、居場所はなぜ必要かについて、自分の意見をノートにまとめる。	120分
第9回	市民活動とコミュニティ (4) 子どもの健全育成	異年齢の子どもから構成される集団に「子ども会」がある。地域に根ざした子ども会とコミュニティとの関係について理解する。	子ども会やその他の組織(例: ガールスカウトなど)での活動経験をノートにまとめる。	120分
第10回	市民活動とコミュニティ (5) 多文化共生	外国人やLGBT(セクシュアル・マイノリティ)など多様な属性をもつ人々との交流を通して共生をめざすNPOの取り組みを理解する。	ダイバーシティ(diversity)の意味と重視されてきた背景について調べる。	120分
第11回	市民活動とコミュニティ (6) 男女共同参画	すべての市民が性別に関係なく、自分らしく生きられる社会をめざすNPOの取り組みについて理解する。	男女共同参画が求められる理由と市民レベルの取り組みについて調べる。	120分
第12回	市民活動とコミュニティ (7) 地域振興、復興支援	震災後の復興支援に大きな役割を果たすNPO、地域振興の拠点「道の駅」について理解する。	避難所生活の問題点とは何か。また「道の駅」についてのイメージや利用した感想をノートにまとめる。	120分
第13回	情報コミュニティ (1) 情報コミュニティと地域コミュニティ	メディア的社会的な諸相、情報コミュニティと地域コミュニティの特質について理解する。	「媒介された経験」「メディアはメッセージ」という2つの言葉の意味について調べる。授業内で小テスト(第6～12回までの範囲)を実施するので復習しておくこと。	240分
第14回	情報コミュニティ (2) パーチャル・コミュニティの可能性と限界	ICT、パーチャル・コミュニティの可能性と限界、災害情報のコミュニケーションについて理解する。	ネット・コミュニティとしての「SNSにおけるつながり」について、意見・考えをノートにまとめる。	120分
第15回	まとめ	全体を振り返り、市民の視点からコミュニティの未来について展望する。	AI技術が進みIoTが日常生活に浸透するなか、市民同士のつながりは今後どうあるべきかをノートにまとめる。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進捗状況によっては、スケジュールが若干変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	小テストは採点終了後に授業内で返却し、解説する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は授業への積極的かつ協調的な姿勢であり、予復習や課題への取り組み、グループ・ワークやディスカッションへの参加、発言等が含まれる。 ・小テストは授業内で計2回実施し、主として基礎的知識を問うものとする。実施日、出題範囲・形式等については授業内で告知する。 ・定期試験は小テストでの知識や理解を問う内容に加え、授業で取り上げた資料に関する思考力や判断力、意欲

や関心度を測る内容とする。実施日、出題範囲・形式等については授業内で告知する。

※下表参照。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○	○	○	

評価割合

平常点 (30%)、小テスト (20%)、定期試験 (50%) により総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考図書

『現代コミュニティとは何か (初版)』船津衛・浅川達人、恒星社厚生閣 (2014) 978-4-7699-1473-0
※その他は授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

学生へのメッセージ

なぜ人々はコミュニティをつくるのか、コミュニティはどうあるべきか、そもそもコミュニティとは何か、など、素朴な疑問や問題意識をもって授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義形式を原則とするが、履修者の主体的な学びと授業内容の深化を図るため、グループ・ワークとディスカッションを適宜取り入れながら進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要 (教育目的)	現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。具体的には、先ず人体の形状を把握する。次に平面的な布帛を、人体を包み込む被服として構成するための技法について検討する。あわせて、その時に生じる立体的な造形上の表現の多様さに着目する。さらに、それらの表現が着用者または第三者にはどのような心象を与えるかを検討する。服飾が持つ造形物としての機能性及び表現性の可能性を考える。
履修条件	特に定めず

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	ファッション制作に必要な人体の構造その他の基本的な情報を理解する
思考・判断の観点 (K)	適切な衣服設計とは何かを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	服飾デザインの多様性について積極的に学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	衣服の携帯の特徴	衣服の携帯上の特徴を3種類に分類し、その形態と表現上の特徴、着装上の特徴のかかわりについて理解する。	シラバスを読み、授業の概要について理解する。	180分
第2回	服飾デザインに触れる	文化服飾博物館でのドレス展示を見学し、多様な服飾デザインに触れる。	予習として、文化服飾博物館公式HPを閲覧し、概要を理解する。復習として見学に関するレポート課題を制作する。	180分
第3回	人体の構造	衣服の着衣基体となる人体の構造を学び、体型にどのように関与しているか理解する。	復習として、人体の基本的な骨格、筋について学ぶ。	180分
第4回	人体の計測	衣服制作に必要なとなる人体の計測項目および計測方法について学ぶ。	復習として、人体の計測項目について授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第5回	体型と体格	服飾デザインのイメージ形成にも影響する体型と体格に	授業で指示をする頭身指数につ	180分

		ついて学び、頭身指数について理解する。	いての課題を行い、レポートを作成する。	
第6回	体型変化：成長と性差	成長に伴う体型変化と、男女の性差の特徴について理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第7回	衣料品のサイズ	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。	180分
第8回	中間試験、スタイル画	授業内の前半について中間試験を行う（30分間）。第5回の授業で学習した頭身指数を基に、ファッションのスタイル画の基礎を学ぶ。	学習したスタイル画の基礎を基に、スタイル画を完成させる。	180分
第9回	動作と体型変化	人体は姿勢の変化や動作によって、体表面の形状や寸法が変化することを理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第10回	平面製図と立体構成	衣服の制作方法である平面製図と立体構成の手法の違いを理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第11回	身頃原型	衣服制作における原型について理解し、平面製図法の文化式身頃原型の設計方法を学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第12回	布帛の立体化の技法	平面である布帛を立体的な衣服形状に表現する技法の種類とそのデザイン効果について理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第13回	デザインの理論：点と線	形状の構成要素である、点と線について理解し、服飾デザインの中でどのような効果を持つか学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第14回	デザインの理論：錯視	錯視の原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	錯視の原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	180分
第15回	デザインの原理とドレスデザイン	デザインの原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分

学習計画注記	博物館の見学は受講生の人数によって、日程等を調整する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。 第9回目の授業では中間試験の解説を行う。採点した課題はコメントを付して期末試験前に返却する。
評価方法	見学課題においては服飾デザインの多様性について、積極的に視野を広げているかについて、体型に関する課題では、授業内容を理解し、作業を行っているかを評価する。中間試験、及び期末試験では授業内容の理解を評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		
授業時の小テスト	○			

評価割合	授業時の小テスト：15% 課題：20% 中間試験：30% 期末試験：35%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし、プリントを配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】適切な衣服設計とは何かを理解する。 【思考・判断】人体にとっての快適な衣生活とは何か判断できる。 【関心・意欲・態度】衣服設計と服飾デザインの問題について関心をもつ。
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	教職のための選択科目です。被服構成のための基礎的な知識を習得することを目的としています。日常的に身近な衣服の構造やデザインをよく観察するとよいと思います。1年次後期開講のファッション造形実習Aの内容に関連する科目です。

教育等の取組み状況

--	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館のドレスの展覧会を見学することで、実物に触れる体験的な学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習B		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 松本 幸子	指定なし

授業概要(教育目的)	本講では夏の浴衣制作を課題とし、材料に関する特徴である染色方法から、基礎的な和服の構成と縫製類を実践的に体験し習得する。さらに各自の身体を計測して制作した作品が適合しているかを、着装すると共に着付けの方法も体験し着装発表を行なう。また、和の縫製技術と様々な体型の人々に可能な着その後の管理等についても合わせて理解する。最終的に日本の伝統文化である和服を継承していくこと考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	日本の民族衣装としての和服の役割を正しく理解し、伝えていくことへの認知ができ自分の情報として活用する。
思考・判断の観点(K)	全体像の予測ができ、各箇所に適した工程を正しく理解し、考えての作業選択ができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	特殊な技術方法などに積極的なアプローチを示し、再現してみる努力を行うことができる。
技術・表現の観点(A)	あらゆる手法・着装方法について重ねて技術を磨くことや、相手に作品の特徴などについて伝える力がわかる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	ガイダンス、和服について計測・材料・見積り	この授業についての進め方と概略について説明し、日本の和服について、浴衣はどの位置にあるかと構成をパワポで解説し、材料の説明から、各自の身体に合わせた制作のため、身体計測の説明を加え、実際に組みなって計測を行い、算出をする。ミシンも使用することを伝える。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をして、準備しておくものについて調べてみる。材料の調達と柄合わせの方法などを確認しておく。	80分
第2回	柄合わせと裁ち方：身頃、衿、袖の裁断	和服の柄の構成をパワポで解説し、着方による柄の見え方を確認し、各自の寸法も併せて確認を行い、実際にデモを行い、各自ペアで身頃・衿・袖と裁断を行う。裁断するときは、点検を受けてから行う。	柄合わせの種類を確認し、衿と袖の柄を確認する。	40分
第3回	袖のしるしつけ・縫製と運針	袖の柄合わせの確認をパワポですしてから、しるしつけの解説をし、実際に板書で説明しながら学生もしるしつけを同時に進めていく。次に縫製手順と手法を説明し、デモを加え説明をおこない、各自縫製を進める。	袖の柄合わせの確認としるしつけの方法と基本の運針の技法を確認し練習する。	60分
第4回	袖の縫製と身頃のしるしつけ	袖の縫製の続きとして、三つ折りぐけの手法を基礎縫いとして体験させ、本番に活用する。次に身頃のしるしつけをするための布重ね方と方法をパワポと板書して解説する。ペアでしるしつけを行い、反復で理解する。	基礎縫いの三つ折りぐけの練習と身頃のしるしつけの確認。袖の三つ折りぐけの片方宿題。	70分
第5回	衿と衿の裁断・肩当てつけ	衿と衿の裁断のためどこに付く部分かをパワポで解説し確認後、衿と衿に切り分ける。次に肩当ての意味と効果について解説し、実際につける準備を行い、付け方をデモで説明し、実際に実習する。	肩当てがついていない場合はつける。衿と衿の切り分けを確認しておく。	40分
第6回	衿のしるしつけ・衿つけと始末	肩当てつけの確認を行う。次に衿のしるしつけをパワポと実物投影機により解説し、二人同時にしるしを付ける。衿つけの説明をデモで行い、きせの分量についての	衿つけの確認と耳くけの練習。	30分

		違いを解説に加え、各自実習する。基礎縫いとして耳ぐけの技法を練習し習得する。		
第7回	脇縫い・衿の始末	衿つけと始末（耳ぐけ）の確認をする。次に脇縫いの位置を確認し、脇縫いと脇縫いの始末の方法を説明する。次回の部分縫いの準備を行う。	片方の脇縫いと脇の始末。 部分縫いの準備の確認。	60分
第8回	袖つけ縫い代の始末・裾角の始末・裾角の部分縫い	裾角の始末の方法（縫い代の折り方と針の出し方）を部分縫いとして練習するため、実物投影機により説明する。裾の方法と袖付けについてパワポで解説し、進度によりデモを加えて説明する。	裾の三つ折りぐけの確認と袖付けと始末の確認。	40分
第9回	脇の始末・裾ぐけ	脇縫い始末（縫い代折り方）の確認と点検。8・9週の授業の総確認をして、進度を整える時間とする。	この時点で、完成していないところの確認をする。	30分
第10回	掛け衿の柄合せ・衿のしるしつけ・衿つけ	掛け衿の寸法と柄合わせについてパワポで解説し、本衿の衿のしるしつけの準備とするしつけについて説明し、各自実習する。個々に柄合わせ点検を行う。衿先の部分縫いの準備の説明をする。次に衿付けの説明を半分ほどに行う。	部分縫いの準備の確認と衿のしるしつけ確認。	30分
第11回	衿つけ・衿先部分縫い	衿付けの（待ち針の打つ順序と縫い方）デモを行い、再確認する。衿先の留めの部分縫いをパワポと実物投影機で実際に進行を同じにして説明し、習得させる。衿付け待ち針を行い点検を受けをマシンで行う。	衿先の留めの確認と衿つの確認。	40分
第12回	三つ衿芯入れ・衿ぐけ	本衿のきせのかけ方を確認し、三つ衿芯を入れる意味を解説し、手法を説明する。さらに衿の本ぐけとして、基礎縫いで確認し習得してから本番に入る。	三つ衿芯入れと本衿の本ぐけの確認。	40分
第13回	衿ぐけ・脇の始末	本衿の本ぐけ確認と脇の始末、の確認。最後の着付けに必要な道具について解説しする。	本日まででの総確認を行い、不足の箇所を完全なものに整える。着付けの道具について、有り無しの確認を行う。	40分
第14回	袖つけと始末・仕上げ・たたみ方・ミニテスト	袖つけの方法と始末についてパワポで解説し、デモを加えて実習に移る。仕上げの方法と、たたみ方と、来週の着付けに必要な道具の解説をパワポで行う。最後に名称のミニテストを行う。	袖のつけ始末の確認をする。ミニテストの各部の名称を確認し習得しておく。着付けの道具を用意しておく。	60分
第15回	着付	着付けの方法をパワポで説明し、人台を使用して同時進行で着付けを行う。ペアで前後確認しながら帯は文庫結びで着装する。最後に何人かで写真撮影を行う。作品提出とレポートを添えて提出する。	着付けにつて、復習して着られるようになるよう努力する。	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業での机間指導で、正しく理解しての作業ができていないかを確認し、その都度指導する。ミニ模範解答を提示する場合は直接研究室又はメールで対応する。その他、部分縫い等の提出物と最後のレポートに、正しく確認できているかをコメントし、再度確認させる。
評価方法	平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価し、作品課題評価は、最初の出来だけ上達し正しく理解し技術を習得できたかを評価する。ミニテストでは、正しく専門用語の漢字が入り込めるかも採点に含め理解を見る。着装体験では、構造の理解と重要なポイントと作法及び技法を習得できるかについてと相互協力して着装が完成できるかを判断する。最後に和服の利点を感じ取れるかその回答を見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施している。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常の取組姿勢	○		○	
	課題制作	○	○	○	○
	ミニテスト	○	○		
	着装体験	○	○	○	○

評価割合	平常点 (30%)、作品課題 (40%) 着装課題 (10%) 課題レポートとミニテスト (20%) の割合で総合する。
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書	和服一平面構成と基礎：熊田知恵 (源流社)
ディプロマポリシーとの関連	日本の伝統衣装である和服の浴衣制作を行うが、実習作業を進めていくことも、すべて人間教育が欠かれない。作品完成結果のみで判断せず、そのステップ一つ一つを大事に知識・技術体得に加え、総合的に評価することを重視する。
オフィスアワー	木曜日 3 時間目 1808ゼミ室
学生へのメッセージ	・1回目の授業より必須な内容に入るため、必ず出席を希望する。 ・授業外で行う作業も出てくる事は覚悟して履修して欲しい。 ・浴衣の反物が必要になるため初回の授業で説明する。(質問のある人は事前に相談に来て欲しい。)

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、和裁技能士資格を有し、和服についての様々技術を活かし負の状況が発生した場合も、経過し対処し、様々な方法を提案しプラスの方向に再生できることを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	装飾マテリアル演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 松本 幸子	指定なし

授業概要 (教育目的)	装飾とは、一般には物品、建築物、身体等を装飾する事である。ここにマテリアルを加えるり、洋服で言う生地になる。この授業では、装飾マテリアルとして、人間が身につける素材を使用して装飾する様々な種類がある事を学び手法を理解する。次にいくつかを実際に制作を体験し習得する。予定している主な作品は、刺繍作品、アクセサリさらに髪飾りなどデザインした作品を制作する。完成作品はコンセプト等をプレゼンテーションし、相互に評価してフェルトをテーマにその歴史と扱い方と作品手法などについての内容をプラスする予定
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	装飾のさまざまな種類の歴史と技術を理解し、立体的に構造を把握し、実際に技法を再現でき
思考・判断の観点 (K)	図解を正しく認識し、デザインにあった表現方法を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマについて、情報収集を適切にでき、自ら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	デザインに適した手法の選択と材料の選定ができ、完成度の高い創作表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外
第1回	ガイダンス、装飾マテリアルについてと基礎刺繍について	装飾とは何かということ把握し、様々な装飾があることを理解し、この授業ではファッションの分野の各自が身につける装飾について学んでいくことを開設し、授業の予定等を確認する。最初に行う刺繍の歴史と手法の解説をし、基礎刺繍の図案デザインを演習する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。 図案について参考になる本を探し検討をしておく。	50分
第2回	基礎となる刺繍の種類とその手法：基礎刺し演習a	図案デザインの続きを行い完成させて、布に転写することを実際に体験する。基礎の刺繍の糸の扱いから針について解説し、実際に何種類かの手法を技術をデモをして理解させ、実践し演習する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。 図案について参考になる本を探し検討をしておく。	40分
第3回	基礎となる刺繍の種類とその手法：基礎刺し演習b	前回の手法の確認と新しい手法の技術をさらに加えて、デモで解説し実際に刺してみる。各自の図案にあった色糸を使用して、バランスを考えながら実体験をする。さらに刺繍の仕上げの方法などについても解説し理解をさせる。	新しい手法を加えて刺繍を完成させ、糸などの後始末を行う。 次回のキルトについての本を見て、図案についての資料を集めておく。	60分
第4回	イギリスキルトⅠ：キルトの意味と種類。手法とデザインと形の設定	刺繍手法の2段階として、立体的に仕上がるキルト刺繍の歴史と手法について解説し、今回の作品についての解説を行い、図案の特徴について特に解説をし、様々な資料を参考に各自図案デザインを行う。	キルトの刺し方の確認と図案の検討を再確認しておく。	30分
第5回	イギリスキルトⅡ：図案写しと演習と完成品の製作	図案点検をおこない、キルトにあったものに作り上げていく。素材は光沢のあるサテン地を活用し、糸は絹の手縫い糸を使用する。布に転写し、中に入れるキルトやあて布のガーゼを合わせて刺繍する下準備を行い、実際に刺す。	キルトの刺し方を確認し、実際に来ると刺繍を行う。	60分
第6回	特別授業「フェルトの歴史とその扱いと作品制作の手法」	特別授業として、素材を変えフェルトを使用した、装飾品を制作する。フェルトの成り立ちからそれらの活用法やフェルト地の作り方などの解説し、簡単な装飾のデザインを行い、デザイン画を描き材料を用意し、制作の手順を説明し、各自制作する。	キルト作品を作品づくりを行う。3点の作品についてのプレゼンテーションの準備をする。	30分
第7回	作品デザイン	前回の作品を形に完成する。次に前半の3点の作品について	次回のデザインを考えるために資料等を集め検討する。	30分

	ンとコンセプトを前半作品のプレゼンテーション	てプレゼンテーションを行い、各自作品についてのコンセプトと描いたデザイン画と作品を使って自分の作品の特徴などを伝える。		
第8回	アクセサリ作品への応用Ⅱ：制作	引き続きアクセサリ制作。アクセサリーの効果について、解説し、各自どのようなシーンでつけるかを想定しデザインを考える。条件は今まで習った手法をかみならず取り入れることとして、デザインを考える。材料の選定をする。	どのようなシーンで使用するかを考えて、デザインも考えてデッサンしてみる。	50分
第9回	アクセサリ作品への応用Ⅰ：作品デザインとコンセプト	デザインの再度確認し、材料点検をし制作に入る。制作演習	最終完成を想定し、不足な部品を検討しておく。	35分
第10回	アクセサリ作品への応用Ⅱ：制作	前回の続きを行い、最後の完成のための部品つけ方の種類を解説し、各自選択して完成させる。	完成に至らない場合は、ある程度進めておく。	30分
第11回	様々な材料による装飾りの創作Ⅰ：コンセプトとデザイン	完成に向けて、取り付ける部品等をつけ方の解説などを来ない、各自完成させる。次回の作品についてのテーマについて伝え、資料を集めてくることを伝える。	材料を集めたり、材料の加工を行う。	30分
第12回	様々な材料による装飾りの創作Ⅱ：制作	1年次に多くの学生が浴衣制作を行っているのを活かして、残り布を活用して浴衣にあった装飾りの制作をテーマとして、布を見てデザインを考える。立体的にすることや、涼しさを表現するにはどのような方法が効果的かのヒントを伝える。	デザイン画を描いてみたり、完成を想定してイメージを確かなものにする。	30分
第13回	応用作品の創作	料等が整っているかを確認し、形つけることや布のカットの種類を解説し、自分の作品に適した手法を選び、制作を行う。	不足な部品等を確認し、用意しておく。	30分
第14回	応用作品の創作	前回の続きを行い、最後の完成のための部品つけ方の種類を解説し、各自選択して完成させる。次回のプレゼンテーションについての説明をし、準備をする。	完成の確認とプレゼンテーションの準備を行う。	40分
第15回	応用作品の創作、プレゼンテーション及び評価	後半作品についてプレゼンテーションを行い、各自作品についてのコンセプトと描いたデザイン画と作品を使って自分の作品の特徴などを伝える。	自分の作品づくりとプレゼンテーションの他社に自分の作品を伝えることが出来たかを考えてみる。	30分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	作品制作のレポートを返却し、それぞれの作品についての構成・手法・完成度についてコメントをかける事柄を伝え、検討課題とする。
評価方法	平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。また、作品課題インクと色彩力に加えて、技術を総合的に判断するが、技術力については、最初よりどれだけに判断して評価を決定する。プレゼンテーションについては、自分の作品をどれだけ正しく方法で相手に伝えることが出来るかで評価する。最後に各作品のレポートにより装飾についてれらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施している。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (T)
平常の取組姿勢	○		○	
作品創作	○	○	○	
レポート	○	○		
プレゼンテーション	○	○	○	

評価割合	平常点 (30%)、作品課題 (50%)、プレゼンテーション (20%)
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書	刺繍 Stitches&Samplers:真田武夫 (雄鶏社)
ディプロマポリシーとの関連	総合家政の各領域で専門知識を習得する中で、装飾としての一部の分野としてのファッションにつける装飾作品をシーンを考えて創作する精神的充足感とファッションの一部としての重みを育み総合的に成長することを目的としている。
オフィスアワー	木曜日3時限 1808ゼミ室
学生へのメッセージ	日頃から装飾に関心を持って、美術館や映画等々を見る。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	現代衣生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会の中で、ファッション領域における特徴のある事象を取り上げる。ファッション産業の構造と現状の課題、生産現場の人権と商品の価値、企業が取り組むべきCSR活動、エネルギー消費の問題や地球環境に配慮をするサステナビリティなファッション商品とは何か。また少子化、超高齢化が進む中、子ども服やシニアファッション商品の開発についてなど多方面にわたる衣生活の問題について考えていく。
履修条件	特に定めず
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	現代のアパレル産業と消費者の課題について理解する
思考・判断の観点(K)	豊かな衣生活とは何かについて理解し、適切な消費行動をとれる
関心・意欲・態度の観点(V)	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる
技術・表現の観点(A)	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アパレル産業の構造と課題	従来のアパレル産業の構造を学び、そこに生じる問題点を理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	日本のアパレル産業の現状	日本のアパレル産業の長所と弱点を学び、今後の展開について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第3回	ファストファッション	今日のアパレル産業を大きく動かしているファストファッションの現状を学び、その問題点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第4回	現代のファッションとグローバル化	グローバル社会におけるアパレル産業の動向を学び、ファッションのグローバル化の持つ課題を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分

第5回	アパレル産業とCSR	アパレル産業のCSRについて学び、それらに対する消費者としての姿勢について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第6回	ファッション商品の生産現場の問題点	映画「女工哀史」から、ファッション商品の生産現場が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第7回	ファッション商品の価値	前回の映画の内容を振り返り、フェアトレードやエシカルファッションの動向を学び、ファッション商品の価値とは何かを考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第8回	消費と廃棄	ファッション商品の消費と廃棄の現状を学び、消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第9回	3Rとファッションデザイン	今後の活用が期待されるケミカルリサイクルについて理解し、ファッション商品に対する消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第10回	ファッション商品の生産と消費の問題点	映画「トウルー・コスト」から、ファッション商品の生産現場と消費行動が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第11回	持続可能な衣生活	前回の映画の内容を振り返り、持続可能な衣生活を創り出すための消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第12回	シニアファッション	高齢者の身体的特徴、運動・生理的機能の変化を学び、高齢者の衣生活に生じる課題を理解し、今後のシニアファッションについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第13回	ユニバーサルファッション	身体の機能不全などで生じる衣生活の課題を理解し、それに対応できるファッションの提案を企業の活動から学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第14回	子ども服と安全	乳幼児期の身体的特徴、運動・生理機能の特徴を学び、乳幼児の衣生活、特に子どもの健康や安全に留意する点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第15回	服育	子ども服産業の現状を学び、ファッションを楽しむことを通し子どもの学びについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。授業全体を振り返り、試験に備えて指示した内容をまとめる。	180分

学習計画注記 受講生の理解度等により授業の進度を調整することがある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 授業時の小課題：前回の授業の振り返り小テスト等を行う。
 期末試験：試験の内容については事前に指示をする。授業で提示した内容だけでなく、積極的に情報を収集する態度と、これからの衣生活のあり方と消費者としての行動を考え回答することを求める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○	○	○	
期末試験	○	○	○	

評価割合 授業時の小課題15%、期末試験85%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。授業時にプリント配布

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である衣生活に関する課題を理解する。</p> <p>【思考・判断】現代の衣生活における消費者と企業の課題の解決や適切な行動について志向する。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代の衣生活の問題について関心を持ち、積極的に情報を収集する。</p>
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	ファッションは個人的な楽しみでもあり、社会における問題を提示することもあります。この授業では衣生活における問題意識を持つことを目標にしていますので、新聞記事などにも積極的に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	世界の服飾		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要 (教育目的)	世界各地には様々な民族服が存在する。それは歴史的背景の中で成立してきたものであるが、グローバル社会の中で服飾文化は西洋化されてしまった。今日ではその着用者は限定的となり、儀式やイベントなどに着用されることで、民族を意識させる象徴的な存在でもある。民族服の構成、色彩、装飾の特徴、現代社会における民族服飾の役割や、変わりゆく服飾文化を踏まえ、服飾文化から国家と民族との関係を見つめなおすことが目標である。
履修条件	特に定めず

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	民族服飾に関する歴史的事実と現代社会との関わりを理解する
思考・判断の観点 (K)	民族服飾は民族にとってどのような意味を持つものなのか考え、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民族服飾に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	制作課題においてイメージマップの効果的な表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	民族服飾の定義	民族と民俗、民族服飾の定義を学び、日本にとっての民族服飾とは何かを考える。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	自然をまとう オセアニア	民族服飾の成立の要因を学び、オセアニアの服飾例から服飾デザインと素材との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第3回	巻衣 アジア地域 (インドなど)	服飾の基本形態の一つである巻衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第4回	貫頭衣 南米地域 (アンデスなど)	服飾の基本形態の一つである貫頭衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第5回	寛衣 中東地域	服飾の基本形態の一つである寛衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分

		る。		
第6回	脚衣 中東地域（トルコなど）	服飾の基本形態の一つである脚衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第7回	ヨーロッパ地域 ギリシャの衛兵	ギリシャの衛兵の服装に残されているデザインの特徴を学び、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第8回	ヨーロッパ地域（中欧の女性）	中東欧地域の女性民族服飾の特徴と、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを学び、民族服の持つ意味を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第9回	ヨーロッパ地域 スコットランド	スコットランドのタータンチェックの概要について学び、民族に固有のデザインが現代に活かされる事例について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第10回	民族服飾が作りだされる背景 ハワイ	ハワイにおけるアロハシャツの成立の背景を学び、民族服飾とグローバル化との関わりについて理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第11回	変わっていく民族服飾 西洋文化の影響	中国（満州族）におけるチーパオ、ベトナムにおけるオアザイ、シンガポールにおけるサロン・ケバヤの西洋文化からの影響を学び、民族服飾の変容について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第12回	文化服飾博物館見学	文化服飾博物館で開催される「ひだ—機能性とエレガンス—」を見学し、民族服飾のデザインについて理解する。	予習として博物館公式HPを閲覧し、復習として事前に指示した課題を踏まえて見学内容に関するレポートを制作する。	180分
第13回	課題作成	多様な民族服飾のデザイン例の中から、現代の衣生活とのコラボレーションを考え、イメージマップを作成する。	課題に沿ったテーマ設定の情報収集を行う。	180分
第14回	変わっていく民族服飾 チマチヨゴリ	韓国の服飾文化の変容を概観したうえで、チマチヨゴリの表象性について理解する。	復習として、授業内容の振り返りを行う。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、民族と民族服飾とはどのような関わりを持っているのかを考える。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記 博物館の見学は、受講生の人数により日程等を調整する可能性がある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 授業時の小課題：授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。
博物館の見学課題では積極的に服飾デザインを観察し、デザインの持つ意味を理解しているかを問う。
制作課題では民族服飾の情報収集とイメージマップ制作における表現の工夫を問う。試験では授業内容全体の理解を問う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○			
課題	○	○		○
期末試験	○	○	○	

評価割合 授業の小課題：15% 課題（2回）：20% 期末試験：65%

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書 授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】世界の服飾文化を学び、各地の風土や歴史的背景と服飾文化とのかかわりについて理解する。
【思考・判断】服飾文化の多様性を次世代の衣生活に生かす方策を志向する。
【関心・意欲・態度】服飾文化と民族の問題について関心をもつ。

オフィスアワー 月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ 服飾を通してその国の文化や地域の特色を知り、異文化理解に役立ててほしい。受講に際しては、積極的に授業に参加するとともに、授業で取り上げる内容以外にも諸外国の文化、服飾について関心を持ってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館の展示を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の服飾		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

授業概要 (教育目的)	これまで他国から伝播した諸文化は、国内での伝承過程で形態変化を遂げながらも現代まで残ってきた。何が愛でられ、どのようにそれらの文化が融合もしくは変転しつつ伝承されてきたのか、平安王朝期と江戸期を中心に服飾の文化的・社会的背景の考察を行う。また、本学の所蔵コレクションを文化資源として用いながら、服飾と文学の関係も合わせてみていきたい。本講義を通して、次世代に受け継ぐべき服飾に関する知見と感性を持てるようになることをめざす。
履修条件	特になし。学芸員課程の選択科目となっている。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	伝統的な服飾文化の受容について、それらが持つ歴史的社会的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代日本において伝統的な服飾文化をどのように活用することが出来るか、考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に自らの課題を発見し、それに対する調査を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の服飾

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション 世界へと突き抜ける日本の服飾	日本の服飾を扱うにあたり、その前提となるべき観点・背景の説明として、京都西陣織とラオス織を取りあげ、両者の関係について現代的意義を理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第2回	日本の風土と服飾の関係について	「二四節気」や「七二候」という言葉に表される暦に関する基本的な知識と、衣生活と季節の関わりを文化的側面から学ぶ。	配布プリントを読んで理解する。	180
第3回	古代布の周辺	日本各地で細々と営まれている絹製品・木綿製品以外の布に焦点をあて、その背景を把握し、改めて布とは何かについて、自身の見識を持てるようにする。	課題図書を読む。	180
第4回	王朝の服飾 (1)	平安時代の正装である衣冠束帯・女房装束、その他男性の着装である直衣について、基本的な知識を習得し、文学に表れたそれらの服飾の文化史的背景について学ぶ。	課題図書を読む。	180

第5回	王朝の服飾(2)	平安時代の貴族女性が着装した女房装束が持つ美意識について理解し、併せて現代の皇室儀式での着装を例として、これらの装束が持つ意味を解明する。	課題図書を読む。	180
第6回	王朝の色彩表現	日本の伝統色のうち、平安時代新たに生み出された色についてその背景を知る。文学に表れたそれら色の世界を文化的に分析する手法を習得する。	レポート作成のための予備調査を行う。	180
第7回	江戸の色彩表現	日本の伝統色のうち、江戸時代新たに生み出された色についてその背景を知る。社会的な規制の中でどのような暮らしぶりであったのか、理解する。	中間テストのためにこれまで作成したノートの見直しを行う。	180
第8回	中間テストと日本の文様(1)	日本古代の文様の種類を把握し、文様の持つ意味を理解する。	レポート作成のためのテーマを設定する。	180
第9回	日本の文様(2)	江戸時代に流行した文様の特徴について把握し、その文様が持つ意味を理解する。	レポート作成のための文献検索を行う。	180
第10回	日本が発信する服飾シーン(1)	東京オリンピック開催に向けて、エンブレムやそれに付随するさまざまなグッズが制作された。そこに用いられている伝統色や伝統文様について理解を深め、色・文様の背景を確認する。	レポート作成のための文献を読む。	180
第11回	日本が発信する服飾シーン(2)	消費文化の中に見いだせる日本の伝統色や伝統文様についての事例をあげ、これらについて分析する中から、それらを現代に活かす方策をさぐる。また、本学生生活文化博物館資料に触れることで、文化資産の考え方を学ぶ。	調査結果をまとめ、レポートを完成させる。	180
第12回	バイオミメティクスと服飾文化	生物模倣という技術と日本文化との関係性について把握し、現代社会における伝統文化のスタンスについて考察を行う。	情報検索をしてバイオミメティクスについて理解を深める。	180
第13回	エシカルファッションとアップサイクル	日本の伝統的な暮らし方との比較により、現代の文化を環境の側面から考察する。	配布プリントを読んで理解する。	180
第14回	老舗の生き残り戦略	450年続く京友禅の老舗「千總」に見る異業種とのコラボレーションや著作権フリーの取り組みを通して、伝統文化を現代に定着させ、かつ継承させていくための戦略について学ぶ。	関連書籍や情報検索により千總の取り組みを深く理解する。	180
第15回	振り返り・まとめ	作成されたレポートの内容を発表し、学生の行った調査や作業を振り返る。さらに、効果的なレポートの書き方について教授する。	期末試験準備として、これまで作成したノートを見直す。	180

学生へのフィードバック方法 レスポンスシートにおける質問は、次週に回答する。また、レポートは最終週に返却するが、今後よりよい成果が得られるよう、レポートの効果的な書き方についてアドバイスを行う。

評価方法 授業ではレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。中間テストは8回目の授業時にこれまでの授業内容理解について、記述式にて問う。レポートは、本授業を通して得られた知見を元に他者にわかりやすく伝えるという工夫がなされているか、正確な情報に基づいて作成されているかという観点から評価する。期末試験は、授業で扱った内容に関して記述式の問題とし、理解度と表現における論理性を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
中間テスト	○			
期末試験	○			○
レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点20% (授業内課題含む)、中間テスト10%、レポート30%、期末試験40%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

参考図書 鶴見和子編『日本の名随筆 着物』作品社 1800円
その他、授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】日本の服飾を巡る社会課題を発見できる知識を持つことができる。
【思考・判断】社会課題を調査分析し、その結果、自分で考察することができる。
【関心・意欲・態度】持続して課題を追究する意欲を持つことができる。【技能・表現】次世代に残したい文化を他者に向けて発信できる表現力を持つことができる。

オフィスアワー	水曜日2限、千代田三番町キャンパス1807室	
学生へのメッセージ	世界と通じている日本の服飾文化について知ることは、その地に生きる人びとのくらし方を知ることでもあります。広い視野で物事を見ることができるようにならねばなりません。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講者が能動的に学修できるようにグループワークを取り入れる。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	西洋服飾文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要 (教育目的)	現代の服飾文化のスタンダードである西洋服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたかを考える。特に、近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連付けて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互的作用に着目する。服飾は社会における人々の在り方を表象する装置であり、服飾への造詣を深めると同時に、服飾を切り口とした社会や人々へのアプローチについても考えていく。
履修条件	特に定めず

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	西洋の服飾文化の歴史を理解する
思考・判断の観点 (K)	西洋の服飾文化がどのような社会の中で作りだされてきたのか考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化を理解する姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	古代から中世までの西洋服飾	当該授業では16世紀以降のヨーロッパの服飾について学ぶが、その導入として古代エジプト以降中世ゴシック期までの服飾の変遷を概観する。また、歴史を見る眼として重要な現代の価値観で判断しないことを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	16世紀とスペインモード	イタリアルネサンス様式における服飾文化の変容を確認する。16世紀の宮廷文化と服飾との関わりについて理解する。	予習として教科書pp. 44-52を読む。	180分
第3回	エリザベス I 世	イギリスのエリザベス I 世の服飾を中心に、当時の戯曲などを資料にしてスペインと敵対したイギリスの位置づけと服飾の特徴について理解する。	予習として教科書pp. 53-58を読む。	180分
第4回	17世紀とオランダモード	スペインから独立を果たし市民の経済活動が活発だったオランダ市民の服飾に注目し、服飾においてもバロック様式の造詣的な特徴への変容がみられることを理解する。	予習として教科書pp. 59-62を読む。	180分

第5回	17世紀後半のフランスバロック	ヨーロッパの政治の中心となったフランス宮廷における服飾に注目し、当時の戯曲などを資料にしてその特徴について理解する。	予習として教科書pp. 62-76を読む。	180分
第6回	18世紀のフランスロココ	フランス宮廷のロココ様式の特徴を踏まえて、男性のアビ・ア・ラ・フランセーズ、女性のローブ・ア・ラ・フランセーズについて理解する。	予習として教科書pp. 77-88を読む。	180分
第7回	18世紀のマリー・アントワネット	マリー・アントワネットの衣裳に注目して、フランス宮廷モードと私的な服装の差異について、また王妃の衣裳費の記録から、宮廷文化について理解する。	予習として教科書pp. 88-94を読む。	180分
第8回	フランス革命と19世紀	フランス革命に伴う社会と服飾の変化との関わりをサン・キュロット及びエンパイアスタイルの事例から理解する。	予習として教科書pp. 94-100を読む。	180分
第9回	19世紀の男性服飾	今日の男性服飾の基本形となったイギリスの紳士服スタイルについて、ダンディの美意識とともに理解する。	予習として教科書pp. 101-109を読む。	180分
第10回	19世紀の女性服飾	ロマンティックスタイル、クリノリンスタイルといった有階級の服飾について、社会と女性の在り方という視点から理解する。	予習として教科書pp. 109-113を読む。	180分
第11回	19世紀のウェディングドレス	19世紀中ごろのイギリスのヴィクトリア女王のウェディングドレスから広がった白いドレススタイルを取り上げ、19世紀後半の女性の位置づけについて理解する。	予習として教科書pp. 113-120を読む。	180分
第12回	19世紀の女性とスポーツ服	19世紀後半に女性たちに拡大したレジャースポーツとその服飾に着目し、現代的な価値観の誕生について理解する。	予習として教科書pp. 124-129を読む。	180分
第13回	アクセサリ-ミュージアムの見学	19世紀末から20世紀までの国内外のコスチュームジュエリーについて、ミュージアムの見学を通して理解する。	予習としてアクセサリ-ミュージアム公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。	180分
第14回	19世紀末から20世紀にかけて	アクセサリ-ミュージアムで見学したアールヌーヴォーから、アールデコへの様式の変化を服飾の特徴から理解する。	予習として教科書pp136-142 (9章 20世紀)を読む。	180分
第15回	まとめ	第一次大戦、第二次大戦を経て、ヨーロッパモードは今日のグローバルスタンダードな服飾となったことを理解し、社会と服飾との関わりについて再考する。	授業内容を振り返り、試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記	見学の日程は受講生の他の授業の履修状況を踏まえて、参加できやすい日程に調整する。																									
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。																									
評価方法	授業時の小課題：授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。 試験では服飾について社会との関わりからの観点から理解しているかを問う。授業時の板書だけではなく、教科書の内容も自発的にまとめてノートを作成する工夫が必要である。																									
評価基準																										
評価基準																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業時の小課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	授業時の小課題	○				試験	○	○		○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																						
授業時の小課題	○																									
試験	○	○		○																						
評価割合	授業時の小課題：15% 課題：85%																									
使用教科書名 (ISBN番号)	ファッションの歴史—西洋服飾史— (朝倉書店) 佐々井啓編著 ISBN-10: 4254605986 ISBN-13: 978-4254605983																									
参考図書	なし																									
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 西洋の服飾文化の変容を学び、服飾文化が創り出す生活の質について理解する。 【思考・判断】 服飾と社会の動向や人々の志向のかかわりから、服飾文化とは何かを考える。 【関心・意欲・態度】 服飾文化の学びから異文化に関心をもつ。																									
オフィスアワー	月曜2限 1703ゼミ室																									
学生へのメッセージ	服飾文化は社会のあり方、人々の生き方への志向を表しています。服飾史を通して異文化への視点を広げてほしいと思います。																									
教育等の取組み状況																										

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	これまでアクセサリメーカーを経営したのちに、自らミュージアムを開館、運営しているアクセサリミュージアム館長より、見学に際して展示物の説明に加えて、自身の経験等の講話をいただく。
アクティブ・ラーニング	○	ミュージアム見学による体感的な学び。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション販売論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

授業概要 (教育目的)	ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本授業では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	ファッション販売現場において消費者個々のニーズを適切に判断できる能力を培う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッション小売店に関する情報を積極的に収集する。希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を受験することで資格取得を目指す。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス、ファッション販売とは	本授業の概略を説明する。ファッションとは何かを中心に解説する。ファッションの意味を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。	120分
第2回	販売知識 (1) ファッション商品の流れ	ファッションビジネスとファッション商品、ファッション商品とコーディネート、ファッション商品の流れ、アパレル産業の概観を理解する。	予習として配布資料を読んでおく。	120分
第3回	販売知識 (2) 消費者は何をもとめているか	お客様の個性、お客様と顧客についてを学び、お客様=消費者について理解を深める。	予習復習として教科書の8P~15Pを読んでおく。	120分
第4回	ファッション販売技術	お客様にとっての店とは、店が提供するサービスについて理解を深める。	予習として教科書の15P~17Pを読んでおく。	120分

	(1)サービスとは何か			
第5回	ファッション販売技術 (2)購買心理	お客様の購買心理について解説する。各自の購買心理も考えることで、理解を深める。	予習として教科書の32P～40Pを読んでおく。	120分
第6回	ファッション・マーケティング知識	マーケティングの基礎知識を学び、マーケティングの本来の目的を考える。	予習として教科書の174P～197Pを読んでおく。	120分
第7回	タウンウォッチングについて	これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。レポート課題の「タウンウォッチング」についての解説をする。	「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第8回	外部講師による特別授業	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、マーケティングを中心に、実際の企業活動についてお話をうかがう。	対象企業について、インターネットで調べ、事前学習しておく。	120分
第9回	店舗演出 (1)	店舗の環境づくりについて解説する。購買心理と店舗の陳列などの関連性を理解する。	予習として教科書の152P～160Pを読んでおく。	120分
第10回	店舗演出 (2)	マーチャндаイズプレゼンテーションについて理解を深める	予習として教科書の160P～173Pを読んでおく。	120分
第11回	ファッション商品知識 (1)アイテムの知識	販売スタッフに求められる知識としてファッションアイテムについて学ぶ。	予習として教科書の46P～93Pを読んでおく。	120分
第12回	ファッション商品知識 (2)素材の種類と加工	販売スタッフに求められる知識として衣服の素材と加工、シルエット、衣服の構成とディテールについて学ぶ。これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。	予習として教科書の94P～123Pを読んでおく。「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第13回	ファッション商品知識 (3)商品の品質管理	販売スタッフに求められる知識として、衣服のサイズ表示、繊維製品の品質管理について学び、理解を深める。	予習として教科書の136P～145Pを読んでおく。	120分
第14回	ファッション商品知識 (4)商品苦情	販売スタッフに求められる知識として、商品苦情と対応について考える。	商品苦情について、インターネットなどで調べておく。	120分
第15回	販売スタッフの業務およびまとめ	お客様が心地よく時間を過ごせる店舗環境づくりのための、販売スタッフの業務について理解を深める。本授業の内容について総括をする。	予習として教科書の198P～213Pを読んでおく。定期試験のための振り返りをする。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、2回程度「振り返りテスト」を行う。選択方式で出題し、時間内に正解の解説をする。必要に応じて、ファッション販売に関連する「基礎用語」の解説をする。				
評価方法	振り返りテストを踏まえた定期試験で授業内容の理解を評価する。レポートでは対象店舗のコンセプト、店舗演出などが適確にレポートされているかを総合的に評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	
	レポート	○		○	
評価割合	平常点 (15%)、定期試験 (70%)、課題レポート (15%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	『ファッション販売3』 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト (一財) 日本ファッション教育振興協会				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解することで、質の高い衣生活を構築する知識を有することができる。 【思考・判断】ファッション販売における消費者のニーズが理解できることで、衣生活における諸問題を多角的に考えることができる。 【関心・意欲・態度】消費者・生産者両方の立場を理解することで、情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる。				

オフィスアワー	水曜日 3、4時限	
学生へのメッセージ	1年次の「衣生活概論」で学んだ、衣服の材料・管理・サイズ等の知識の定着を目指す。ファッション系授業の関連性も考えながら、学びにつなげてほしい。また、日常生活の中でも、タウンウォッチングなどで観察する目を養ってもらいたい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッションカラー演習		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

授業概要(教育目的)	ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネートにおける色彩表現を学ぶ。授業後半は企業連携を予定しており、実際店舗におけるテキスタイルのトータルデザインとして、クッション等のオーナメントの企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考え、実践に即したコーディネート感覚を磨く。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	市場調査や店舗調査の方法を体験することで、日常生活と社会の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、さまざまな材料を用いたデザイン制作に活用することができる。
技術・表現の観点 (A)	配色技法、ミシンの縫製技術、手縫い技法を学ぶことで、さまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスおよび企業連携授業の課題説明	本授業の概略を説明する。松崎照明客員教授より、企業連携授業の目的、対象企業・店舗について、対象商品についてなどのレクチャーをしていただく。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。インターネット等で企業連携とは何かを調べておく。	45分
第2回	色の体系とカラーコーディネート	色とは何か、色の三属性、カラーオーダーシステム、トーンの概念について解説する。カラーコーディネートに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。	学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。	45分
第3回	色の分類と整理:色相環のコラージュ(1)	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にカラーージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。カラーージュの素材用の雑誌を数冊準備する。	45分
第4回	色の分類と整理:色相環のコラージュ(2)	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にカラーージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに、雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。色相環の提出。	色相環のコラージュを完成させる。	45分

第5回	ファッションイメージとファッションカラー	ファッションと配色を理解するために、ファッションスタイルとファッションイメージについて解説する。さらに、ファッション配色の事例を紹介し、配色の基本的な考え方を学ぶ。	ファッションスタイルとファッションイメージに関する配布資料を読んでおく。	45分
第6回	配色技法について	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。	色相環、トーン概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。	45分
第7回	特別授業：パーソナルカラーの実践	カラーコーディネーターの外部講師から、パーソナルカラーについてのレクチャーをしていただく。グループに分かれ、実際にパーソナルカラーの体験をする。	書籍、インターネット等で、パーソナルカラーについて調べておく。事前に配布した資料を読んでおく。	45分
第8回	企画と設計計画(1) 本社見学および対象店舗見学	本社見学および対象店舗の見学を行う。 ・対象企業の見学を行い、概要を知る。 ・対象店舗の街の雰囲気、店舗の外観と内装、商品などの市場調査を実施する。 ・店舗の概要を知る。	インターネットで対象企業、対象店舗について調べておく。	60分
第9回	企画と設計計画(2) デザイン画の作成	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインする。色鉛筆を使いデザイン画を描く。	作品の材料を準備する。デザイン画を完成させておく。	45分
第10回	企画と設計計画(3) 中間発表	デザイン画を提示し、制作予定の作品についての発表を行う。作品計画についてアドバイスをもらう。	アドバイスを参考に、デザイン画を修正しておく。	45分
第11回	素材の説明および材料の購入について	作品制作に使用する材料、素材について説明をする。使用する素材や、購入店舗等の相談に応じる。作品に適した素材の選択を学ぶ。	作品制作に使用する材料を準備する。	120分
第12回	作品の制作(1)	作品のパターンを作成し、布地や材料の裁断をする。しるしをつけ、縫製を進める。	予定通りに行かない部分を終わらせる。必要な材料を追加準備する。	45分
第13回	作品の制作(2)	各自の作品制作を進める。	予定通りに行かない部分を終わらせる。	45分
第14回	作品の仕上げ、プレゼンテーションの準備	各自の作品の仕上げをする。プレゼンテーションの準備とレポート作成の準備をする。	作品を完成させる。	120分
第15回	作品のプレゼンテーションおよび講評	制作した作品のデザインコンセプト、配色計画などを中心にプレゼンテーションを行い、企業の方から講評をいただく。作品とレポートの提出。	作品への講評を参考に、レポートを完成させ、最終提出日までに提出する。	45分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	作品課題等に対しては、企画・制作・完成の各段階において助言等をそのつど行う。				
評価方法	平常点は、授業参加状況と授業時の作品制作への取り組みを総合的に評価する。課題評価では、色相環は色相の配分が正しくなされているか、色の選択が正しいか等を総合的に評価する。企業連携作品は、企業調査や市場調査の結果が作品に反映されているか、素材の特徴が作品に活かされているか等も含めて総合的に評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションマナー、作品のアピール等が適確になされているかを総合的に評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常の授業参加	○		○	○
	課題(色相環、企業連携作品)	○	○	○	○
	プレゼンテーション			○	
評価割合	平常点 (30%)、作品課題 (60%)、プレゼンテーション (10%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考図書	なし				

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。 【思考・判断】生活者として「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。 【技術・表現】日常生活やファッション表現のための配色技法と裁縫技法を体得することができる。	
オフィスアワー	月曜日1時限	
学生へのメッセージ	担当教員以外に、企業のデザイナーの方からも直接アドバイスを伺うことのできる授業です。積極的な授業参加を期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	企業見学、店舗調査などの調査学習の内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッションコーディネート		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要 (教育目的)	服飾デザインのデザインイメージを理解し、ファッションイメージマップの作成を通してファッションスタイリング提案することを目的とする。まず着用者の生活用途とオケーションの分析、ライフスタイル分析。次にファッションデザインイメージの分類とデザインの要素との関連。ファッション商品のシーズン特性。ファッション雑誌の分析。さらにファッションイメージと個人の資質を学び、総合的にファッション提案を行うことができる能力を身につけることを目的とする。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特に定めず
------	-------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ファッションイメージを形成する要素を理解する
思考・判断の観点 (K)	各要素に応じたファッションコーディネートを選択する判断ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッションコーディネートを楽しむ姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	他者に効果的に伝達できるファッションイメージマップを制作できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ファッションイメージマップ	ファッションビジネスの現場でも活用されるファッションイメージマップについて理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	45分
第2回	生活用途とオケーションの分析	ファッションスタイルを決定する要因となる生活シーンの違いと適切な服装について理解するとともに、日本フォーマルウェア協会が提唱しているフォーマルウェアの基本について学ぶ。	復習として授業で指示するフォーマルウェアについての資料を読む。	45分
第3回	ライフスタイルの分析	ファッションは着用者のライフスタイルへの志向を反映するものであることを理解し、基本属性(性別、年齢、身分・職業)、消費行動、趣味、衣食住の志向の側面から分析する。	復習として授業内容を踏まえ、受講生自身のライフスタイル分析を行う。	45分
第4回	ファッションイメージマップの制作(1)	PCを利用したファッションイメージマップ制作の手法を理解し、20代及び50代女性の生活用途に応じたイメージマップを作成する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分

第5回	ファッションイメージマップの制作 (2)	受講者自身（または身近な人物を設定）のライフスタイル分析をもとにファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第6回	ファッション感性とコーディネート分析	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	ファッションデザインを構成する要素（色彩、形態、素材、模様、装飾等）を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	45分
第7回	シーズンサイクル	日本のファッションビジネスにおけるシーズンサイクルについて理解する。また、提出したファッションイメージマップについて全体発表をし、各自の感性を相互に学ぶ。	復習として授業で指示をするシーズンサイクルの一覧表を作成する。	45分
第8回	毛皮製品の理解	日本毛皮協会の派遣講師による校内特別授業。各種の毛皮素材を実際に手に取り、それぞれの特性を理解する。	授業で配布する毛皮協会作成のパンフレットを読み、個々の毛皮の違いについて理解を深める。	45分
第9回	ファッションイメージマップの制作 (3)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第10回	ファッションイメージマップの制作 (4)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第11回	ファッション雑誌の分析	ファッション雑誌における、写真レイアウト・文字及び言葉遣い・テーマ設定の違いなどから、各雑誌が提案するファッション感性の違いを理解する。	予習として授業で指示をするファッション雑誌を読む。	45分
第12回	ファッションイメージと個人の資質	ファッションコーディネイトを考える上で、洋服そのものだけではなく、着用者の肌・体型・髪・声といった個人の資質との関わりを理解する。	復習として各自の個人の資質を項目ごとに書きまとめる。	45分
第13回	ファッションイメージマップの制作 (5)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第14回	ファッションイメージマップの制作 (6)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第15回	ファッションイメージマップの制作 (7)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分

学習計画注記 日本毛皮協会による校内特別授業は担当者の都合により、日程を調整することがある。

学生へのフィードバック方法 課題に対する評価、改善点等を口頭で指示をする

評価方法 授業への参加状況：授業内では内容に関して受講生に質問をするので、積極的に発言することが望ましい。また、適宜小課題を課す。
イメージマップ課題：3回の制作課題を通して、授業内容の理解、課題制作への意欲、制作内容に関する表現の工夫等を評価する。特に3回の課題について提出ごとに注意点を指摘するので、前回までの注意事項等を踏まえて制作内容を工夫しているかを重視する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
イメージマップ課題	○	○	○	○
授業時の小課題	○	○	○	

評価割合 授業時の小課題 (15%) イメージマップ課題 (85%)

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である、ファッション感性について理解する。 【思考・判断】ファッション感性を豊かにし、適切なファッションの選択ができる。 【関心・意欲・態度】ファッション感性に関する今日の情報に関心をもつ。	
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室	
学生へのメッセージ	ファッションデザインへの視点を広げる授業です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	校内特別授業の講師は国内で毛皮製品製造に携わるとともに、日本毛皮協会理事を務めている。毛皮製品に実際に触れてその特性を学ぶとともに、今日の毛皮製品の市場動向及び消費者の志向等の現状を理解する。
アクティブ・ラーニング	○	制作した課題を口頭発表し、感性の相互理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題（ファッションイメージマップ）の制作のための情報を収集や選択し、PPTでイメージマップを表現するために活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ことばと生活		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	言語は、それを使う人々の生活とともにある。言語を使うことなしに生活することは困難であるという点において、言語は生活の基盤のひとつであると言える。その一方で、生活の中のさまざまな要素が言語に影響を与え、個々の表現や言語行動の上に反映されているような事例もさまざま見出される。この授業では、日本語を主たる対象として、ことばと生活の相互のつながりについて考えていく。言語を切り口として生活文化を考える視点を身につけさせるとともに、受講生自身の言語表現力を高めさせることもめざしたい。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ことばと生活の相互のつながりについて理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、練習問題、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	若者ことばとは	若者ことばの定義、捉え方に関わる諸問題について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	若者ことばの特色	若者ことばの特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第3回	さ入れことばとは	若い世代を中心に使用が広がりつつあるさ入れことばに注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	さ入れことばの分析	さ入れことばの使用が広がる背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	さ入れことば使用の意識と実態	さ入れことばに対する意識と使用実態に関する諸問題について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	ぼかし表現とは	若者ことばの特色のひとつとされるぼかし表現に注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	ぼかし表現の使い分け	若者ことばとして使用されるぼかし表現と、従来から日本語に存在していたぼかし表現との違いについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ぼかし表現使用の背景	若者がぼかし表現を好んで使用する背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語と性差	男性語、女性語と呼ばれる、性別による日本語表現の特色の違いについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。	180

			授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	女性語の歴史1	女性語の歴史的な展開（近世以前）について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	女性語の歴史2	女性語の歴史的な展開（明治以後）について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	現代の女性語	現代における女性語の変化の動向について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と生活文化1	生活文化の変化が日本語に影響を与えることがあるという点について、具体的な事例を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と生活文化2	日本語表現の歴史的変化について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	日本語と生活文化3	日本語の各方言における表現について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
	平常点			○	
評価割合	定期試験70%平常点30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。				
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができる。</p>				
オフィスアワー	金曜3限（千代田三番町キャンパス1703ゼミ室）				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	生活文化論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	毎日の暮らしは、歴史性や地域性をもった、さまざまな生活規範と慣習等によって支えられ、そのどれひとつを欠いても社会的な機能は円滑に働かない。そうした多様な生活考えるには、様々な視点や切り口が必要であり、そこに日々の暮らしをより豊かにできる可能性もある。本講義では多様な生活規範や慣習等の上に人間社会が成り立っていることを、歴史学、民俗学、社会学、地理学などから多面的に学んでいく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	伝承的な生活規範や慣習を知るとともに、それが今の我々の生活の基盤となっていることを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	伝承的な生活規範や慣習を私たちの今の日常生活のなかでどのように活かせるか、その可能性と課題について思考できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	伝承的な生活規範や慣習について、自らの興味関心と関連づけながら捉えてみる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

民俗学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣生活の歴史と民俗	衣生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいってください。	180分
第2回	食生活の歴史と民俗	食生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいってください。	180分
第3回	住生活の歴史と民俗	住生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいってください。	180分
第4回	生業(稲作と畑作)の歴史と民俗	稲作と畑作をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいってください。	180分
第5回	生業(漁撈と狩猟)の歴史と民俗	漁撈や狩猟をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいってください。	180分

第6回	生業（諸職）の歴史と民俗	諸職（職人の技術）をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第7回	年中行事（暦）の歴史と民俗	暦（こよみ）をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第8回	年中行事（正月と盆）の歴史と民俗	正月とお盆をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第9回	年中行事（節供）の歴史と民俗	雛祭り（桃の節供）、子供の日（端午の節供）などの節供行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第10回	人生儀礼（誕生）の歴史と民俗	人の誕生をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第11回	人生儀礼（成人と婚姻）の歴史と民俗	成人儀礼や婚姻をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第12回	人生儀礼（葬送と墓制）の歴史と民俗	葬送儀礼やお墓をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第13回	民間信仰（祭礼）の歴史と民俗	祭礼行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第14回	民間信仰（仏教と神道）の歴史と民俗	民間における仏教と神道をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分
第15回	民間信仰（妖怪と幽霊）の歴史と民俗	妖怪や幽霊に関する言い伝えや行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。提出された疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で適宜補足説明をしていきます。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。基本的には講義の感想・意見等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を望みます。 ・定期試験は、講義全体の中でとりあげたいいくつかテーマのうちから、適当なものを選択して自身の見解等も交えて論じてもらいます。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リアクションペーパー</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	リアクションペーパー	○		○		定期試験	○	○	○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
リアクションペーパー	○		○																										
定期試験	○	○	○																										
評価割合	リアクションペーパー（毎回）（30%）、定期試験（70%）で評価します。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																												
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 伝承的な生活規範や慣習が生活の基盤となっていることを理解できる。</p> <p>【思考・判断】 伝承的な生活規範や慣習を生活でどう活かせるか、その可能性と課題を思考できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 伝承的な生活規範や慣習を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる。</p>																												
オフィスアワー	毎週火曜日昼休み（12：30～12：50）に1701ゼミ室にて相談を受けます。																												
学生へのメッセージ	受講にあたっては、教科書のほか授業内で触れた著作に目を通すなどして予習・復習してください。また、普段から身のまわりの伝承的な生活規範・慣習と考えられる事象を観察してみてください。私たちの周りには、何気なく展開している生活規範・慣習が数多くあります。何気ない事象について立ち止まって考えてみることは、各自																												

の人生を豊かに彩る重要な行為です。自身の目で見て、耳で聞いて、主体的に考えてみる楽しみを身につけてほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	文化の継承と発信		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし
教授	山村 明子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業は、伝統的生活文化に支えられて残存する文化遺産がいかなるものかその価値を理解し、それを未来に向けてどう伝え、また、どのように活用することができるのかについて考究する。前半は、日本における伝統的文化の現代における状況調査と継承の方法について考察し、未来に向けた新しい文化創造の可能性について講義する。後半は、主に服飾史の観点から、日本における西洋服飾文化の受容について分析ならびに考察を行い、それを踏まえた現代における新しい文化の発信方法について講義する。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。
------	-------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	伝統的な文化がどのように受け継がれてきたか、その受容の歴史的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や文化に関する資料をを踏まえつつ、受講者自らが文化的資産の現代における新しい意義を見出すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に課題を取り押さえ、かつそれを横断的に他分野と結びつけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

文化の継承と発信

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	「文化」の定義と「継承」の意義を理解し、「街角ミュージアム」に関する関心を持つ。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180分
第2回	文化遺産とともに生きる街(1)	文化の継承と発信事例研究1として、上野の街を取りあげ、その歴史的経緯を踏まえた上で現況の特異性を検証する。	各自調査のうえ、上野に関する資料を準備する。	180分
第3回	文化遺産とともに生きる街(2)	地域と博物館・美術館の連携事業について、その実態を理解する。	授業で配布された資料を読み、「街角ミュージアム」実践のための見学テーマを各々決める。	180分
第4回	上野の街見学(1)	街角ミュージアムの実践として上野を訪れ、各自のテーマに添った実地踏査を行う。	復習として、見学において得られた知見を元に授業課題や各自	180分

			のテーマに添った内容で口頭発表をするための準備を行う。	
第5回	上野の街見学(2)	街角ミュージアムの実践として上野を訪れ、授業課題である「博物館と街の連携事業」に添った調査を行う。	復習として、発表に必要な文献調査を図書館にて行い、パワーポイントもしくは作品制作を行う。	180分
第6回	文化の継承に関する発表会(1)	ワークショップ形式で学生による口頭発表を行う。	ワークショップで得られた知見を元に発表内容を精査し、レポートを作成する。	180分
第7回	文化の継承に関する発表会(2)	ワークショップ形式で学生による口頭発表を行う。	ワークショップで得られた知見を元に発表内容を精査し、レポートを作成する。	180分
第8回	日本の服飾文化	日本の服飾文化を現代生活にどのように、吸収・発展させられるかを考える前提として、日本の服飾文化の成立・発展及び特徴について学ぶ。	日本の服飾文化の変遷について、指定した資料を読み理解を深める。	180分
第9回	日本の服飾文化の洋服への展開(1) 三宅一生	三宅一生のデザイン活動から日本の服飾文化の特徴の一つである平面構成が、洋服のデザインに展開されている事例について学ぶ。	予習としてIssey Miyakeの公式HPを閲覧し、デザイナーについて理解する。	180分
第10回	日本の服飾文化の洋服への展開(2) 三宅一生	三宅一生のデザイン活動から日本の服飾文化の特徴の一つである服飾素材の持続可能な活用について学ぶ。	予習として授業内で配布する三宅一生に関する資料を読む。	180分
第11回	日本の服飾文化の洋服への展開(3) 川久保玲	川久保玲のデザイン活動から日本の服飾文化の特徴の一つである色彩・男女の服飾の共通性が、洋服のデザインに展開されている事例について学ぶ。	予習としてCOMME des GARÇONSの公式HPを閲覧し、ブランドについて理解する。	180分
第12回	日本の服飾文化の洋服への展開(4) 山本耀司	山本耀司のデザイン活動から日本の服飾文化の特徴の一つである色彩・男女の服飾の共通性が、洋服のデザインに展開されている事例について学ぶ。	予習としてYouji Yamamotoの公式HPを閲覧し、デザイナーについて理解する。	180分
第13回	日本の服飾文化の洋服への展開(5) まとふmatohu	ランド「matohu」のデザイン活動から日本の安土桃山期の美意識が、洋服のデザインに展開されている事例について学ぶ。	予習としてmatohuの公式HPを閲覧し、ブランドについて理解する。	180分
第14回	日本の服飾文化の洋服への展開(5) ゴシック&ロリータ	江戸時代の判じ物から日本の美意識にある遊びについて理解し、洋服デザインのゴシック&ロリータに展開されている事例について学ぶ。	予習としてh. Naotoの公式HPを閲覧し、デザイナーについて理解する。	180分
第15回	日本の伝統工芸と洋服	日本の伝統工芸の技術が現代にどのように活かされているかについて、西陣の活動の事例について学ぶ。本講義のまとめとして、日本の服飾文化を今後どのように私たちの生活の中で活かしていくべきかを考える。	予習として西陣の特徴について授業内で指示をする資料を読み理解する。	180分

学習計画注記 見学の日程調整によっては、授業回の変更があります。

学生へのフィードバック方法 授業前半では、レスポンスシートに記入された質問や意見について、受講者と問題を共有する。また、口頭発表については、講評を行う。後半は授業ごとに提出するレスポンスシートまたは小テストを採点后に返却する。

評価方法 授業前半時には、レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。発表は、他者を意識してわかりやすく工夫しているか、テーマに添った調査内容となっているかという観点から評価する。レポートは、本授業を通して得られた知見を自らのものとして消化し問題意識を持って作成しているかという観点や客観的に事実を把握したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価する。授業後半は毎回の授業ではレスポンスシートまたは小テストを行う。後半のまとめの課題として、日本の服飾文化が現代の洋服デザインにどのように活かされているかを調査し、プレゼンテーション資料を作成する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
発表	○	○	○	○

レポート	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合	平常点30% (授業内課題含む)、発表10%、課題・レポート (前半・期末の2回) 60%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	授業時に適宜示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本の伝統文化及び伝統文化を活かす「質の高い生活」とは何かを理解する。 【思考・判断】伝統文化を次世代の生活に活かす方策を志向する。 【関心・意欲・態度】伝統文化の保全に対する今日の問題について関心をもつ。 【技能・表現】日本の伝統文化について他者・他民族にむけてアピールする提案・発信ができる。
オフィスアワー	井上 前期火曜日3限 (千代田三番町キャンパス1807室) 井上担当週 山村 前期月曜日2限 (千代田三番町キャンパス1703室) 山村担当週
学生へのメッセージ	授業内容に校外見学が含まれます。見学をしないと発表・レポート作成に支障を来しますので、注意して下さい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表形式の授業において、他者の意見・考えを聞くことにより自身の問題発見となるよう、示唆を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、発表形式の授業においては著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用	○	課題作成において情報収集・整理およびプレゼンテーション資料作成において活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活文化演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

授業概要(教育目的)	生活文化はくらししている土地との結びつきのなかでどのように位置づけられるのか、実際に街を歩いてその実態を調査し、その調査結果の分析を行う。2011.3.11以降の日本が直面するコミュニティの問題を含めて生活文化の時間軸・空間軸での変容を辿りつつ、次世代に何をつないでいくか、何を伝えていくか、受講生とともに考究していきたい。具体的には、人とモノとくらしの関係を考察し、東京の過去・現在・未来を考える活動である「街角ミュージアム」の実践となる。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	生活文化から見た取り組むべき社会の問題・課題について、その内実を理解することができる。
思考・判断の観点(K)	文献調査や街角ミュージアムの活動を通して、生活文化提案を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	次世代に継承したい生活文化に向き合い、さまざまな事象について知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点(A)	問題について論理的に説明できるとともに、自分の考え・意見を表明することができる。

学習計画

生活文化演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活文化をどのように学ぶか	生活文化に関する問題意識の持ち方について、理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	90
第2回	街を見る(1)	BIDの観点から街と人の関係について理解し、街角ミュージアムという方法を知る	予習として、授業課題を文章化しておく。復習として、配布プリントを読んで理解する。	90
第3回	街を見る(2)	街角ミュージアムの実践を行うにあたり、広告と社会および広告と生活文化の関係について、受講者間で問題を共有する。	予習として、アドミュージアムの公式HPを視聴し、当該博物館のミッションについて理解する。復習として、授業課題を解く。	90
第4回	街に行く(1)	街角ミュージアムの実践として、シオサイトにおける街と人の関係構築の状況を調査するとともに、アドミュー	予習として、シオサイトに関わるものを事前調査し、本調査に	90

		ジウムにおいて広告の歴史・社会との関わり事例を習得する。	備える。復習として、調査内容をまとめる。	
第5回	街に行く(2)	街角ミュージアムの実践として、恩賜浜離宮庭園における伝統文化の継承例を調査し、あわせて伝統文化の体験から得られた知見をまとめる。	予習として、浜離宮庭園に関わることを事前調査し、本調査に備える。復習として、調査内容をまとめる。	90
第6回	街を考える(1)	近代都市のなかで伝統文化を残している意義について討論を行う。	授業で出た課題について、自分の意見・考えをまとめる。	90
第7回	街を考える(2)	街中で見える生活文化の諸相について、討論を行う。	発言できるように、予めメモを用意しておく。また、口頭発表の準備として、調査内容についてさらに図書館等を利用して深める。	90
第8回	街角ミュージアムの発表(1)	街角ミュージアムの実践について、口頭発表を行う。	口頭発表の準備として、原稿をまとめる。	90
第9回	街角ミュージアムの発表(2)	街角ミュージアムの実践について、口頭発表を行う。	口頭発表の準備として、原稿をまとめる。発表後は、気づいた点をまとめておく。	90
第10回	生活文化と社会事例研究	社会課題に対する文化学からの提案事例の数々を知り、理解を深める。	授業内容と合致した事例について、情報検索を行う。	90
第11回	社会とかかわる生活文化ワークショップ(1)	グループ毎に課題を見つけ、教室に設置したPCから得られた資料および図書館架蔵の書籍によって、文献調査を行う。	課題に即した文献調査を行い、その結果を授業に持ちよる。	90
第12回	社会とかかわる生活文化ワークショップ(2)	各自調査したものを元にグループ内で討議を行う。	討議内容を精査し、グループの提案としてのパワーポイント制作物を準備する。	90
第13回	社会とかかわる生活文化ワークショップ(3)	グループ内での討議によりグループでの提案をパワーポイントや制作物としてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションのために必要な作業を行う。	90
第14回	社会へ発信する生活文化発表(1)	ワークショップでの討議・作業で得られたものを口頭発表する。	予習として、口頭発表の原稿を作成し、プレゼンテーションの練習をする。復習として、課題レポートの作成にあたる。	90
第15回	社会へ発信する生活文化発表(2)と振り返り	授業前半でワークショップで得られたもののプレゼンテーションを行う。後半では、授業の総まとめを行う。	課題レポートの作成にあたる。	90

学習計画注記	※見学日程の設定によって、学習計画に変更が生じる可能性があります。				
学生へのフィードバック方法	レスポンスシートを使用して、前週の振り返りとする。また、ワークショップの一環として、学生による口頭発表を行い、各々の発表に対し、講評する。				
評価方法	授業ではレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。口頭発表や討議では、調査の結果を的確に表現しているか、他者に伝わりやすい工夫を試みているかを問う。課題レポートは、取り組みの意欲とともに表現における論理性や他の受講者との共同作業によって得られた知見をどのように自分のものとして消化しているかを評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○		○	
	口頭発表	○	○		○
	課題(レポート)	○	○	○	○
評価割合	平常点(授業内課題等含む)20%、口頭発表40%、課題レポート40%				

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。	
参考図書	授業時に随時紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「よりよい生活」とは何かについて、自身の考えや意見を持つことができる。【思考・判断】社会課題を発見し、その解決に向けた提案を考えることができる。【関心・意欲・態度】物事に対する知的好奇心を持つことができる。【技能・表現】次世代につながる持続的で心豊かな生活を創造するために効果的なプレゼンテーションをすることができる。	
オフィスアワー	水曜日 2 限、千代田三番町キャンパス1807室	
学生へのメッセージ	口頭発表では、様々な角度から練られた提案を求めます。自分の観察眼や批評精神を鍛えましょう。また、受講生同士が積極的に意見を出し合って授業を展開してゆく場面がありますから、積極的な態度で臨んで下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		2回のワークショップにおける意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。
情報リテラシー教育		図書館の利活用法について習熟するとともに、効果的なプレゼンテーションができるようになる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本科目では食品の性質をより詳しく知るために、食品の加工における成分や物性の変化について実験を通して理解を深めることを目的とする。具体的には、果実のペクチンのゲル化を利用したジャム、牛乳の乳酸発酵によるヨーグルト、砂糖の結晶化を利用した砂糖衣（菓子）などを実際に作ることによって、それぞれの製造原理や食品成分の反応についての知識や加工・調理の技術を習得することを目指す。また、それぞれの加工・調理による歩留まりの計算、計測データの扱い方やレポートの書き方についても解説する。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「食品学概論」の単位を修得していることが望ましい。
------	---------------------------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	授業で扱う各種食品の加工における製造原理、加工操作、適切な歩留まりを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループごとの実験において、当日のテーマを理解した上で他のメンバーと協力して積極的に作業できる。
技術・表現の観点 (A)	実験で実施したことを、当日のポイントを踏まえ科学レポートの書き方に沿って適切にまとめることができる。

学習計画

食品学実験

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	授業全体の概要を把握し、レポート作成に関する基本事項について学ぶ。		
第2回	果実の加工 (いちごジャムの瓶詰)	いちごジャムを作製し、その製造原理 (ペクチンのゼリー化)、いちごジャムの加工と瓶詰めの手順、糖度計による糖度の測定方法、いちごジャムの適切な歩留まり、瓶詰めによる殺菌の意義について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第3回	野菜の加工 (スイートピクルス)	スイートピクルスを作製し、その製造原理 (野菜の原形質分離による食感や風味の変化)、加工手順について理解する。また、計量器具の種類や精度についても学ぶ。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第4回	乳の加工 (バター、カッテージチーズ)	バターとカッテージチーズを作製し、それらの製造原理、加工 (乳脂肪の分離とエマルジョンの転相、乳たんぱく質の凝固と分離) の手順、適切な歩留まりについて理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分

第5回	穀類の加工 (甘酒)	甘酒の仕込みを行い、その製造原理(でんぷんの糖化)、甘酒の原料である麴という食品について理解する。(出来上がりの観察や試飲は次時に行う。)	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第6回	小麦粉生地の性質	小麦粉の種類(薄力粉、中力粉、強力粉)について学び、薄力粉および強力粉から生地を作製し、その粘弾性や進展性の変化を観察するとともにその原理を理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第7回	小麦粉の加工(うどん)	前時の学習を踏まえて、中力粉を用いてうどんを作製する。製造段階における生地の粘弾性や進展性の変化を観察し、それらがうどんにどのように活かされているか考察する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第8回	砂糖の加熱に関する実験	砂糖用液を180℃まで加熱し、その過程での色や物性の変化を観察する。また、砂糖を使った食品としてタフィー、ピーナッツの砂糖衣、フォンダンを作製し、砂糖の加熱温度による状態の変化について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第9回	エマルションの形成(マヨネーズの製造)	マヨネーズを作製し、その製造原理(卵黄に含まれるレシチンが乳化剤としてはたらき、油が乳化する)、加工手順、エマルションのタイプと食感との関係について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第10回	魚の加工(かまぼこ)	かまぼこを作製し、その製造原理(魚肉たんぱく質のゲル化)、加工手順について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第11回	乳の発酵(ヨーグルト)	ヨーグルトの仕込みを行い、ヨーグルトの製造原理(乳酸菌による乳たんぱく質の凝固)、加工の手順、無菌操作の意味について理解する。(出来上がりの観察と試食は翌日に行う。)	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第12回	大豆の加工(豆腐)	木綿豆腐とおぼろ豆腐を作製し、その製造原理(大豆たんぱく質の凝固)、豆乳を含めた加工手順、適切な歩留まりについて理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第13回	野菜の加工(トマトケチャップの瓶詰)	トマトケチャップを作製し、その製造原理(粉砕した野菜の濃縮による風味や物性の変化)、加工手順について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第14回	食肉の加工(ソーセージ)	ソーセージを作製し、その製造原理(畜肉のたんぱく質のゲル化)、加工手順について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第15回	大豆の加工(大豆の水煮の缶詰)	大豆の水煮の缶詰を作製し、缶詰の製造原理(密封状態での高温・高圧加熱による効率的な調理と殺菌)、製造の手順について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分

学生へのフィードバック方法 実験時に気付いたことはその場でお伝えします。また毎回レポートを提出していただき、適宜コメント等を書き込んで次の授業で返すとともに、全体に向けて改善を要する点などをお伝えします。

評価方法 平常点、レポート、定期試験により評価します。レポートが合格基準に達していない場合は再提出となります。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験への参加態度			○	
レポート	○			○
定期試験	○			

評価割合 平常点 (30%)、レポート (40%)、定期試験 (30%)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

オフィスアワー 前期：水曜日2時限目～昼休み時間

学生へのメッセージ 食品学概論、食品学の知識が生きてきます。また、食品を扱うので必ず指定の衛生的な身支度をして、欠席せずに積極的に実習・実験に参加してください。毎回のレポートをまとめる際、自分で疑問点や関連する事項について調べるなど、自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品関係の研究所において食品の調理・加工や分析に関わる研究を行ってきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本科目では、我が国で施行されている「食品安全基本法」に基づき、健全な食環境整備・食品の表示・食品の衛生管理という3つの視点から、食品の安全管理について概説する。また、昨今食に関する事件が多く報道されるようになったことを受けて、事件の背景にある日本における食の安全システムや行政の問題について検討する。生産者・加工業者・流通業者・消費者とさまざまな食に携わる立場を考慮しつつ、消費者としてそれら食のリスクにどう立ち向かうかについても考えていく。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。
------	-------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食生活におけるリスクとそれを低減するために生産者や消費者がとるべき行動、また食の安全を確保するための法律や制度について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	食品の安全性	過去20年ほどの間にBSEの発症や食品表示偽装事件の多発などにより食品の安全性についての信頼性が揺らいだ背景を理解し、日本における安全行政の仕組みについて学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品の劣化に関わる微生物	食品の劣化に関わる腐敗性微生物について学ぶ。その基礎知識として、自然界における微生物の種類と分布、微生物の増殖に必要な諸条件や簡易な細菌検査法について理解する。	授業前に教科書第2章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の腐敗・変敗とその防止	微生物による食品の腐敗・変敗の定義とこれらに関わる微生物の種類、腐敗・変敗の判定法、腐敗・変敗の防止方法について学ぶ。	授業前に教科書第2章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食中毒	食中毒の種類とその特徴、原因微生物およびウイルスの性質、それぞれの微生物・ウイルスと原因食品との関係	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した	180分

		を理解する。	内容を復習しておくこと。	
第5回	食品の安全性の確保	食品の種類（食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵、冷凍食品、惣菜製品）ごとに、原料、製造工程、流通過程での安全性確保のポイントを理解する。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	家庭における食品の安全保持	家庭において食品を衛生的に取り扱うために必要な調理器具の洗浄法、洗剤・漂白剤の効果や使用方法、冷凍庫・冷蔵庫の適切な使い方について学ぶ。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	環境汚染と食品	人々の生活において健康への影響が問題となっている環境中の有害物質や放射性物質による食品汚染などについて学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	器具および容器包装の衛生	食品と直接接触する器具や包装容器について、食品を汚染する可能性のある物質の種類や、これらの規制を中心に学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	中間まとめ	教科書第1章～7章までを振り返る練習問題に取り組む。	授業前にこれまで学習したところを復習しておくこと。	180分
第10回	水の衛生	飲用、また食品の製造や食品の洗浄に用いられる水の安全性確保のための水の浄化・殺菌方法やその規制について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	食品の安全流通と表示（1）	食品の安全流通のための、食品の表示に関する法律、食品添加物の種類や使用の実際、輸入食品の安全確保対策について学ぶ。	授業前に教科書第9章-1, 2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	食品の安全流通と表示（2）	食品の安全流通のための、遺伝子組換え食品の概要、食物アレルギーへの対策、食品に含まれる発がん物質の概要とその規制について学ぶ。	授業前に教科書第9章-4, 5, 6を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	食品の安全管理（1）	食品の安全行政の在り方について、リスクアナリシスを基本とし、リスク管理、リスク評価、リスクコミュニケーションの3つの要素が関わり合っていることを学ぶ。	授業前に教科書第10章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	食品の安全管理（2）	食品の安全管理のために、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPやそれらを効果的に運用するためのマネジメントシステムと組み合わせた「食品安全マネジメントシステム」について理解する。	授業前に教科書第10章-2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組む、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 定期試験100%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

評価割合 定期試験（100%）

使用教科書名 (ISBN番号) 三訂 食品の安全性 (978-4-7679-0574-7)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。

オフィスアワー 前期：水曜日2時限目～昼休み時間

学生へのメッセージ 微生物や化学物質に関する学びが中心となりますので、生物や化学の基礎知識が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	レシピの比較文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	本科目では、料理のレシピに関する事柄を空間軸と時間軸で比較する。前半はコメ、ムギ、大豆などの代表的な食材の調理、加工法を中心に地域比較をする。後半は、日本人が摂取してきた食材や料理、献立様式に焦点を当て、歴史的変遷を概観する。併せて自然環境や食のタブー、食事作法などの背景も学ぶ。これらを通して民族、地域、時代、宗教などにより異なる食文化の多様性を理解し、レシピに違いが生じる要因を考える。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	世界および日本の様々なレシピに関する事柄の比較を通して、食文化の共通性と多様性を知る。
思考・判断の観点(K)	どのような変遷をたどり現代の我々の食事に至っているかを把握し、将来の食生活について考える力を養う。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	レシピ文化の考え方	レシピ文化の考え方を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	コメのレシピ比較	世界のコメの生産から食べ方までを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第3回	ムギのレシピ比較	世界のムギの生産から食べ方までを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第4回	麺のレシピ	世界の様々な麺料理について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業	170分

	比較		内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	
第5回	食事作法と食のタブー	世界における多様な食事作法と食のタブーについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第6回	だしのレシピ比較	世界における多様なだしについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第7回	豆のレシピ比較	大豆を中心に、世界における豆の生産から食べ方を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第8回	醬、すしの文化	醬とすしの誕生から発展を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第9回	嗜好品 (酒、コーヒー、茶)のレシピ比較	世界の様々な酒や茶、コーヒーにまつわる文化を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第10回	日本の時代変遷によるレシピ比較 ①	縄文時代、弥生時代の食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第11回	日本の時代変遷によるレシピ比較 ②	古墳時代、平安時代の食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第12回	日本の時代変遷によるレシピ比較 ③	鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代の食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第13回	日本の時代変遷によるレシピ比較 ④	江戸時代の食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて図書館の書籍やインターネットから情報収集をする。	170分
第14回	日本の時代変遷によるレシピ比較 ⑤	明治時代～平成時代の食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第15回	まとめ	授業全体の総括を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	420分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	コメントペーパーは評価して基本的には次週に返却する。質問がある場合は、1808研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントペーパーは、事前に指示した事柄について調べたことや授業内容のまとめおよびそれに対する考察や意見を記入するものとする。 ・定期試験は、1～14回の各テーマに関して、授業内でポイントとした部分を中心とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
コメントペーパー	○	○		
定期試験	○			

評価割合 コメントペーパー (40%) 筆記試験 (60%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】人々の食の多様性を食生活の地域性や時代の変遷を通して学び、現代生活の諸問題に対する理解につなげることができる。 【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、将来の食生活についての考察や問題解決につながる考察をすることができる。

オフィスアワー 水曜5限 1808研究室

学生へのメッセージ 食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集して、視野を広げて行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食文化論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	日本の食文化において重要ないくつかのテーマに焦点を当て、身近な話題を手がかりに現代の状況を把握する。同時に、その食文化がどのように形成され発展してきたかを遡り、自然環境、社会環境などの面から概観する。これらの学習を通して、私達を取り巻く食文化の現在、未来について考え、食生活上の問題点や課題の発見につながる思考態度を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自身の関心が高いテーマについて、食文化的な面からみた現在の日本における概況とそこに至る歴史の変遷を簡単に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	上記の知識・理解にもとづき将来の方向性やあり方について意見を述べることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食文化とは	食文化の定義、食文化を学ぶ意義を考える。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	飯を中心とした食事	現在の食事における飯の位置づけや飯が主食とされるようになるまでの歴史の変遷などを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第3回	粉食①	パンや麺類など粉食が日本で定着していった過程や現在の状況などを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第4回	粉食②	パンや麺類など粉食が日本で定着していった過程や現在の状況などを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第5回	調味料	醤油、味噌がどのように利用されてきたかなどを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分

			にまとめる。	
第6回	魚食	日本では魚をどのようにして調理、加工し、生活に取り入れてきたかについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第7回	肉食	日本では肉をどのようにして調理、加工し、生活に取り入れてきたかについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第8回	菓子と茶	菓子および砂糖、茶について日本における生活の中での定着までを学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート作成に必要な情報収集を行う。	240分
第9回	酒造り	日本酒を中心に、暮らしの中の酒の位置づけや酒造りなどについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート作成に必要な情報収集を行う。	240分
第10回	外食	日本における外食文化の起こりと発展について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポートを作成する。	240分
第11回	国民食と言われる食	カレーとラーメンを題材に外来の食の受容と発展について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポートを作成する。	240分
第12回	郷土食	生活に結びついた郷土食について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポートを作成する。	240分
第13回	行事食	生活に結びついた行事食について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第14回	台所と調理道具	食生活の変化と台所や調理器具の変遷の関係を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第15回	まとめ	これまでの総括を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	420分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	コメントペーパーは評価して返却する。レポートは採点し最後の授業または試験日に返却する。質問がある場合は、1808研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントペーパーは、授業内容のまとめや考察、意見を記入するものとする。 ・レポートは、郷土食に関して課す。 ・定期試験は、1～14回の各テーマに関して、授業内で要点とした部分を中心とする。 				
評価基準	評価基準				
	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	コメントペーパー	○	○		
	レポート	○	○		
	定期試験	○			
評価割合	コメントペーパー (20%) レポート1回 (30%) 定期試験 (50%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	江原絢子, 石川尚子編著 『日本の食文化 「和食」の継承と食育』 (2016) , アイ・ケイコーポレーション				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食文化的な視点から「質の高い生活」を把握し、現代生活の諸問題を理解できる。【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、食生活、社会の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。				
オフィスアワー	水曜5限 1808研究室				

学生へのメッセージ

食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集し、問題や現象の背景にある人々の生活にも目を向けて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードコーディネート論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	食材に関する科学的知識、栄養と食品、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用について具体的な事項を中心に学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事に関するマナーとサービス、テーブルコーディネートなどについて学習する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食事の文化、食卓のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニング、食空間のコーディネート、フードサービスマネジメントの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	フードコーディネートの視点に立ち人々の食生活を豊かにするための考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードコーディネートとは	フードコーディネートの基本理念を学ぶ	教科書第1章の「フードコーディネートの基本理念」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第2回	食に関する文化と歴史	食のタブーや日本の食事の歴史などを学ぶ。	教科書第2章の「食事の文化」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第3回	食卓のコーディネート①	テーブルコーディネートの要点を学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第4回	食卓のコーディネート	日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネートを学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」2~4を読んでおく。	150分

	②		配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	
第5回	食卓のサービスとマナー①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナーを学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第6回	食卓のサービスとマナー②	中国料理、西洋料理のサービスとマナー、パーティ、プロトコルについて学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」2~6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第7回	メニュープランニング①	メニュープランニングの要件を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第8回	メニュープランニング②	料理様式とメニュー開発の基礎を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第9回	食空間のコーディネート	食空間（食事空間、キッチン）のコーディネートについて学ぶ。	教科書第6章の「食空間のコーディネート」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第10回	フードサービスマネジメント	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本を学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第11回	フードサービスの起業	フードサービス（レストラン）の起業について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」3を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第12回	投資計画、収支計画	投資計画、収支計画の作成、損益分岐点売上げ高について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」4~6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第13回	食企画の実践コーディネート	食企画の流れ、必要なスキルについて学ぶ。	教科書第8章の「食企画の実践コーディネート」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第14回	食企画の実践現場	外部講師による特別授業。現場で活躍するフードコーディネーターから実際の仕事や仕事に臨む心構えを学ぶ。	講義内容をまとめる。講師が指定した内容についてレポートを書く。	300分
第15回	まとめ	全体の総括を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	450分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	小テストは授業内で解説を行う。質問がある場合は、1808研究室まで訪問すること。
評価方法	前回授業の復習として授業の最初に小テスト（10回を予定）を行い、小テストと定期試験で評価を行う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	小テスト（30%）筆記試験（70%）
使用教科書名（ISBN番号）	（公社）日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 フードコーディネート論』，建帛社（978-4-7679-0440-5）
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】フードコーディネートによる物的、心的な満足が「質の高い生活」をもたらすことを理解できる。 【思考・判断】フードコーディネートの視点に立ち人々の食生活における改善点を自ら発見し、工夫すべき点を考察することができる。
オフィスアワー	火曜2限 1808研究室
学生へのメッセージ	これまでに学んだ食品、栄養、調理などを実際の食生活に生かしていくときに、私たちの食卓を楽しく豊かにするための総合的なことについて学んでいきます。調理学実習を履修した人は、実習で学んだ献立構成、盛り付け、配膳なども結びつけて理解してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし
非常勤講師	小林 直弘	指定なし

授業概要(教育目的)	建築設計やインテリア設計など各種設計を行う基礎を学ぶことを目的としている。建築設計では図面による表現及び読み解きが必須な技術であるが、本授業では、図面を作成する技術を修得するために、線表現、図面間の関連性、基礎図(平面図、立面図、断面図、配置図)の作成を2種類(木造、鉄筋コンクリート造)の構造種別で出題する。また図面表現のみならず鉄筋コンクリート造では模型を作成し、理解を深めさせる。
履修条件	なし。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります(学内で申し込み販売します)。また模型製作などで材料等の実費負担、1回の校外学習で交通費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築製図におけるルールを身に付けることができる。製図によって建築物そのものの構造が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	建築図面は建築物そのものの縮小ではなく記号の集積であること、他者に合理的に伝える方法であることが理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら魅力的な建築や空間について主張することが出来るようになり、図を描いて説明することができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を習得する。構造別の住宅を対象として図面の表現方法を習得する。各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を習得する。

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスと製図基礎	建築製図の概要、授業の進め方の説明、必要な製図道具の説明を行います。	ガイダンスを受けて、履修について検討してください。	30分
第2回	課題1:線の練習/レタリング・文字の練習	基礎的な線の描画方法を身に付けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	課題2:製図基礎/建築図面の表示記号	基本的な建築図面の表示記号について身につけます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

第4回	課題3：木造住宅／配置図・平面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第5回	課題3：木造住宅／配置図・平面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第6回	課題4：木造住宅／断面図・立面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第7回	課題5：木造住宅／展開図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第8回	校外学習 旧平櫛田中邸	作図した図面を持って、その実体との関係を旧平櫛田中邸の内覧によって確認します。	旧平櫛田中邸の内部（部分）で気に入ったところをレポートしてください。	90分
第9回	課題6：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	安藤忠雄設計「住吉の長屋」について、図書館、インターネット等で下調べをしてきてください。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第10回	課題6：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	課題7：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	課題7：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	課題8：鉄筋コンクリート造住宅／展開図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第14回	鉄筋コンクリート造住宅／模型の	作成した図面を基に、立体的に確認するため、ステレンボードを使用し模型を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

	作製 課題 9			
第15回	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製 課題 9	作成した図面を基に、立体的に確認するため、ステレンボードを使用し模型を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（最終期限は1週間後）	90分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	演習中に作業の講評を実施する。
---------------	-----------------

評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに近きの通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。
------	-------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各課題	○		○	○
レポート		○	○	

評価割合	各課題を10点として評価し演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。
------	-------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	瀬川康秀『初学者の建築講座 建築製図』市ヶ谷出版社
-----------------	---------------------------

参考図書	住宅雑誌など建築系雑誌（雑誌の名称は授業内で提示します。）
------	-------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	2級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わるさい必須の能力である。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日3時限目・水曜日3時限目（大宮司） 授業終了後30分程度（小林）
---------	----------------------------------------

学生へのメッセージ	手描きによる製図は建築設計の基本となる重要な技術です。住宅建築のトレースを通して、建築の基礎をしっかりと勉強してください。図面を読み解くことで様々な建物を見る楽しみを学びましょう。 事前準備として、現在住んでいる家もしくは自分の部屋の間取りを描いてみましょう。また、気になる建物、気になる家具、好きな場所、好きな店を見つけてみて下さい。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員はいずれも建築製図について実務経験が豊富であり、実践的な指導が出来る。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育		建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要性認識
ICT活用		

シラバス参照

講義名	設計製図演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 直弘	指定なし
助教	大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。また設計を自由な発想で行うことが重要であるため、各自で都市型マンション一室の設計を行い、間取りや空間の理解、図面による表現、透視図の作成方法、設計に対するプレゼンテーション手法を学ぶ。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Aの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担、1回の校外学習で交通費、入場料負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造住宅の設計製図手法を習得する。立体表現図法を習得する。部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握する。設計手法の進め方
思考・判断の観点 (K)	部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持てるように
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 立体表現図法を習得する。 建築計画のプレゼンテーション手法を習得する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、パースの基礎/アクソメとアイソメ 課題1	講義の目的と流れを理解し、立体表現の基礎を習得する。平行透視図法の基礎(アクソメとアイソメ)について解説し、製図していただきます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第2回	和室の知識とパース 課題2	学内の茶室を見学し、解説を行い、各自がコンベックスを使って野帳を採ります。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	和室のパースと着彩 課題2	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

第4回	和室のパスと着色 課題2	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第5回	校外学習 (江戸東京たてもの園：前川國男など) 課題3・課題4	建築の歴史を理解し、住宅の展開を実物を通して見学する。また空間は実体験にしか理解できないので体験を通して、空間理解を促す。	予習：訪問する江戸東京たてもの園を調べどのような建物があるか確認しましょう。	90分
第6回	木造住宅平面図のトレース 課題5	設計製図演習Aで得た技術を再確認し、より正確性を高めた図面作成を学ぶ	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第7回	木造住宅の断面図・展開図トレース 課題6	設計製図演習Aで得た技術を再確認し、より正確性を高めた図面作成を学ぶ	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第8回	木造住宅の断面図・展開図トレース 課題6	設計製図演習Aで得た技術を再確認し、より正確性を高めた図面作成を学ぶ	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第9回	木造住宅の模型作製 課題7	設計製図演習Aで得た技術を再確認し、より正確性を高めた模型作成を学ぶ。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第10回	建築細部の知識と設計 (類例の調査とコンセプトの検討) 課題8	建築の基礎となる小住宅(2人暮らしの小さな住まい)の設計を演習形式で実施する。住宅の多様性を理解するため、類例から設計手法を読み解き、各自の設計コンセプトを作成する。。	予習：類例となる建築作品を建築系雑誌から任意に選定し、その設計意図を読み解く。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	建築細部の知識と設計 (コンセプトの検討とエスキース) 課題8	各自で作成したコンセプトを基にした設計図を、講師に説明し、エスキースを実施する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	建築細部の知識と設計 (図面の作成) 課題8	エスキースを基に住宅の設計を確定し、図面表現を行う。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	建築細部の知識と設計 (透視図法の基礎) 課題8	設計した住宅を自己評価し、コンセプトに沿う魅力ある個所を透視図法を用いて作図する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。 復習：通学若しくは生活県内にある建築に目を向けてみましょう。	90分
第14回	建築細部の知識と設計 (プレゼンテーション資料の作成) 課題8	設計した住宅を他者へ理解を促すためのプレゼンテーション資料を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第15回	建築細部の知識と設計 (プレゼンテーション) 課題8	設計した住宅を他者へ説明し、魅力をよりよく伝えることに努める、また聴取する学生は他学生の設計を図面から批判的に評価する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中の作業及びプレゼンテーションに対する講評を実施する。
評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに近きの通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題 1～7	○	○		○
レポート		○	○	
課題 8	○	○	○	○

評価割合

課題 1～7 を10点として評価し演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。課題8は (K) 10点 (v) 10点、(A) 10点とする。

使用教科書名 (ISBN番号)

瀬川康秀. 「初学者の建築講座 建築製図」. 市谷出版社. 2004
※適宜、参考資料プリントを配布する。

参考図書

住宅雑誌など建築系雑誌 (雑誌の名称は授業内で提示します。)

ディプロマポリシーとの関連

2級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わるさい必須の能力である。

オフィスアワー

水曜日 3 時限目・金曜日 3 時限目 (大宮司)
授業終了後 30 分程度 (小林)

学生へのメッセージ

立体表現の基礎となる一点透視図法や二点透視図法は、その建物の良さをプレゼンテーションする方法として有用です。建築設計やインテリア設計など様々な場で必要となる技術ですので、頑張って勉強しましょう。前期では、建築を見る基礎を学んでもらいました。気になる建物を見つけ、なぜ気になるのか考えてみて下さい。また、前期の復習はしっかりと行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも建築製図における実務経験が豊富である。従って実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要さ認識
ICT活用		

シラバス参照

講義名	設計製図演習C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大橋 智子	指定なし
助教	大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計2課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。</p> <p>第一課題「コンクリート壁式構造の小住宅」 決まったブロックの組み合わせにより、住宅を設計する手法を学ぶ。</p> <p>第二課題「私の家族の家」 第1課題と同じ区画内に与えられた敷地に自由な発想で一戸建て住宅の設計を行う。</p>
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済を条件とします。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	独立住宅の設計に必要な空間概念および機能について理解します。またプロの住宅作品からデザイン手法を学びます。
思考・判断の観点 (K)	独立住宅についての設計方法、居住する家族とそこに求められる機能のあり方や、敷地周辺環境との調和への理解を深めます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集などの方法を身に着けます。
技術・表現の観点 (A)	建築のプレゼンテーションに必要な模型、作図法、説明の方法などを身に着けます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 第1課題 小住宅設計課題の説明	まず授業の方針を説明します。そして第1課題「小住宅設計課題」の説明を行います。また次週の校外学習について説明します。	第1課題をよく読んで理解してきてください。	90分
第2回	第1課題、第2課題敷地見学、周辺調査	実際に敷地に建ち、近隣の状況、まちなみまで含めた環境を観察し、野帳を取り、記録します。	野帳で得た情報を清書してきてください。また、図書館を利用し実例研究をしてきてください。	90分

第3回	実例研究	専門誌等からプロの建築家による作品を学びます。	実例研究をまとめて来てください。	90分
第4回	設計の構想	縮尺1/100で作った紙箱を用意し、それを組み合わせることで立体造形を構想します。	縮尺1/100で作った紙箱を用意してきてください。	90分
第5回	平面図、断面図、立面図のエスキース	方眼紙等に平面図、断面図、立面図のエスキースを行います。	授業時間内で間に合わなかった部分は完成させてきてください。	90分
第6回	平面図、立面図、断面図製図	トレーシングペーパーに図面を清書します。	授業時間に間に合わなかった部分は完成させて来てください。	90分
第7回	第1課題図面提出、模型製作	図面を提出していただき、ブラッシュアップのための指導を行います。模型の制作に入ります。	授業で間に合わなかった部分は完成させてきてください。	90分
第8回	第2課題住宅設計課題の説明、エスキース	第二課題について課題の説明を行い、エスキースを始めます。	第1課題より現実感の強い課題となります。設計上考慮する点が多くなり複雑化します。専門誌からプロの実例の情報を入れながらエスキースを進めて下さい。	90分
第9回	家族を考える	家族を設定し、必要な諸室や機能を考えます。	授業時間内に間に合わなかった部分は完成させてきてください。	90分
第10回	平面図、断面図、立面図のエスキース	方眼紙に平面図、断面図、立面図の相互関係を考えながらエスキースを進めていきます。	立体を考えるのが難しく感じる場合は第1課題同様に紙箱を組み合わせてデザインを考えても構いません。	90分
第11回	平面、断面図の製図	トレーシングペーパーに平面、断面図の清書をします。	授業時間内に間に合わなかった場合は完成させて来てください。	90分
第12回	立面図製図	平面図、断面図の確認のあと、立面図の製図を行います。	授業時間内に間に合わなかった場合は完成させて来てください。	90分
第13回	模型製作開始	模型の制作を始めます	作業が遅れ気味の場合は自宅で作業を進めて来てください。	90分
第14回	模型の完成	模型を完成させ提出していただきます。ブラッシュアップおよび模型写真撮影の指導を行います。	指導に従って模型をブラッシュアップしてきてください。	90分
第15回	図面の完成	図面を完成して提出していただきます。場合によってはブラッシュアップを求めます。	指導があった場合はブラッシュアップしてきてください。	90分
第16回	ポスターセッション（作品講評会）	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。	口頭発表で何を伝えるかを整理し臨んでください。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	90分

学生へのフィードバック方法 演習方式で行い、住宅設計の課題が2件出される。敷地見学、エスキース、作図、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。

評価方法 講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模型	○	○	○	○
図面	○	○	○	○
口頭発表 (プレゼン)	○	○	○	○

評価割合 平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

参考図書 新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築（月刊誌）

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。</p>
オフィスアワー	月曜日3時限目・水曜日3時限目（大宮司）
学生へのメッセージ	デザイン力を上達するには実例を学ぶことが重要になります。東京都心は世界的に見ても屈指の建築・インテリアデザインの最先端地域になります。様々なデザインを実際に見て、学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも一級建築士資格を有しており、また建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし
非常勤講師	左 知子	指定なし
非常勤講師	柳沢 伸也	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>第1課題「ペットと共生する住まい」 対象敷地：公園に面した住宅地域、敷地面積約120㎡を想定。郊外住宅を想定。 構造規模：木造2階建て、地下なし、延べ面積約100㎡、駐車場1台 家族構成：30代夫婦、ペット（犬またはネコ）、将来家族が増えることも想定する。</p> <p>第2課題「都市型2世帯住宅」 対象敷地：公園に面した住商混合地域。敷地約100㎡を想定。都心の住宅を想定。 構造規模：RC造3階建て、延べ面積約120㎡、駐輪場2台 （地下やロフトの有無は自由） 家族構成：40代夫婦＋親1人＋子ども1人</p>
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Cの単位取得済を条件とします。また、校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造、鉄筋コンクリート造とした構法別の住宅の設計に必要な知識について理解します。またプロの住宅作品からデザイン手法を学びます。
思考・判断の観点 (K)	動物や親(子)の家族との共生について、発生する問題を抽出し解決法を探ります。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集などの方法を身に着けます。
技術・表現の観点 (A)	建築のプレゼンテーションに必要な模型、作図法、説明の方法などを身に着けます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課題 敷地の提示・設計諸元説明	木造住宅について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分
第2回	エスキース1	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分

第3回	エスキース 2・模型製作	立面図までのエスキースを完成させ、模型製作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第4回	模型製作	指導に従って模型製作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第5回	模型提出、 図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第6回	レイアウト 図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出していただきます。ブラッシュアップの指導を受けて下さい。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし、着彩して模型写真を貼付、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	180分
第7回	第1課題 プレゼンテーション 図面の提出（A2 着彩・模型 写真貼付）	第1課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）をしていただきます。1次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	90分
第8回	第1課題 ポスターセッション （作品講評会）	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分
第9回	第2課題 敷地の提示・設計諸 元説明	鉄筋コンクリート造について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分
第10回	エスキース 1	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分
第11回	エスキース 2・模型製作	立面図までのエスキースを完成させ、模型製作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第12回	模型製作	指導に従って模型製作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第13回	模型提出、 図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第14回	レイアウト 図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出していただきます。ブラッシュアップの指導を受けて下さい。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし、着彩して模型写真を貼付、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	180分
第15回	第2課題 プレゼンテーション 図面の提出（A2 着彩・模型 写真貼付）	第2課題プレゼンテーション図面の提出（A2着彩・模型写真貼付）をしていただきます。1次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	90分
第16回	第2課題 ポスターセッション （作品講評会）	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分

学習計画注記	敷地見学を目的とした校外授業を追加する場合があります。履修人数との兼ね合いで決定します。
学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、前後半で住宅設計の課題が2件出される。それぞれ敷地見学、エスキース、作図、コピー製版、着採、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。 なお本演習は、二級建築士及びインテリアプランナー受験資格取得の指定科目である。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)

模型	○	○	○	○
図面	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。
参考図書	新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築（月刊誌）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。
オフィスアワー	水曜日3時限目・金曜日3時限目（大宮司）
学生へのメッセージ	住宅設計では最終の演習となります。 実際の建築の設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を創造してゆく」こととなります。授業では、実際の敷地を想定して、より具体的な「設計演習」を実施します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも一級建築士資格を有しており、また建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代家政演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各領域での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習などを通して、現代家政領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。なお、「総合家政」は、便宜上、「生活」「家族・家庭」「社会」の3つに分けることとする。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの特徴を理解し、今後4年間を通して学ぶ為の基本的な知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	現代の生活は「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域が有機的に関連して成立しているという思考を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政の領域における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学科で学ぶ目標を考え、指示された形式でレポートを作成することが出来る。 現代家政学科4領域の学びの中から、最も関心を持った事象についてポスター形式で発表することが出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	大学での学びを考えよう1	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの紹介とカリキュラムの説明を聞き、現代の生活は各領域が有機的に関連して成立していることを知る。	学生便覧、シラバスによる授業概要を確認する。資格科目についての履修条件などを確認する。自分の将来の目標を書き留める。	90分
第2回	大学での学びを考えよう2	現代家政学科で4年間学ぶ目標を考えるために、「自分の過去を振り返り、大学で何を学び、どのような将来を希望するか」についてのレポートを作成する。レポートの提出にはGoogleClassroomを使用するので、その使用方法についても理解する。	自分の将来の希望を再確認し、その実現のために現代家政学科の4領域でどのように学ぶのかを考えてまとめる。レポートは、指示された形式や手順を守って作成し提出する。	90分
第3回	領域別の学	「食生活」領域の学びの特徴を説明する。食生活の中で	配布資料を参考にしながら内容	90分

	びの特徴の理解と課題への取り組み1	の食品の嗜好性の重要性について理解する（三宅教授）。調理と文化の関連性や学ぶ意義を理解する（伊藤助教）。	をまとめ、食生活領域の学びについて理解を深める。	
第4回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み2	近年注目されている食品の機能性と調理・加工との関係や食品の機能性に関する法律などを切り口として食生活領域の学びについて理解する（竹中准教授）。ファッション領域の学び方として、ファッションの事象と社会の動向との関わりについて着目し、ジェンダー観の変化を事例に取り上げる（山村教授）。	授業の前に消費者庁HPにある「健康食品Q&A」、内閣府男女共同参画局HP「『男女共同参画社会』」って何だろう」を読み理解する。	90分
第5回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み3	「ファッション」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。トレンドのつくり方を学ぶために、まず流行色について概説し、ファッション情報の流れを理解する（井澤准教授）。平面構成である和服についてその種類と特徴について解説する。特に身近な浴衣の移り変わりを理解する（松本助教）。	「トレンド」、「流行色」、「和服」、「浴衣」など、講義内容に関連するファッションキーワードや関連語について書籍、インターネットを用いて調べまとめる。	90分
第6回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み4	「ハウジング」領域全体の学びの特徴と現代生活との関連性を説明する。歴史的な建築物の保存を例として、建築物と生活や文化との関連性について理解する（大橋教授）。フードマイレージを例として、本学科で学ぶ「ハウジング」を「住空間」とだけでなく地球全体も含む「環境」としてとらえることを理解する（沼波教授）。	「文化財建造物にはどのようなものがあるか」、「生活に関わる環境問題にはどのようなものがあるか」をインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる。	90分
第7回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み5	「ハウジング」領域で学ぶ「住まいの基本的な性能」と「住まいを設計し建てること」について説明する。住まいの基本的な性能は、安全性と健康性を確保した上に快適性を追求する。住まいの健康性について、評価ツールを使って解説する（椋田教授）。建築図面や模型を作成してプレゼンテーションする意味を実際の住宅生産の段取りから解説する（大宮司助教）。	「あなたの住まいの不都合な点」を探し、その解決方法を文献等で調べる。	90分
第8回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み6	「総合家政(生活)」：暮らしの諸相を捉える方法とその学びの特徴を理解する。現代文化に残存する伝統文化の実相を捉える（井上教授）。生活文化の変化が日本語に与えた影響を分析することを通じて、ことばと文化のつながりを理解する（内田教授）。	現代に生きている伝統文化にはどのようなものがあるか調べ、まとめる（井上教授）。日本人の衣服について、明治時代と現代とではどのような違いがあるか、必要に応じてインターネットを用いて調べるなどして、あらかじめ考えておく（内田教授）。	90分
第9回	大学を知ろう	学園祭での生活に関わる展示やイベントを見学することにより、大学での学びの発展性について考える。さらに多くの人々に伝える方法について学ぶ。見学した後に見学レポートを作成する。	これまでの領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理する。大学での学びや活動を多くの人々に伝える場としての視点で本学の学園祭（ローズ祭）の見学を行い、レポートを作成する。	90分
第10回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み7	「総合家政(家族・家庭)」領域に関する学びの特徴と現代の生活との関連性を説明する。東日本大震災後の地域における、人々の生活と学校の様子について語り、地域にとって必要な教育の在り方を考える（佐藤教授）。生活に欠かせない便利なツールであるICTメディアを取り上げ、身近な人とのかかわりについて理解し、考える（木村准教授）。	事前学習として、自分のメディアとの付き合い方について考える。事後学習として、自分の世代と次世代にとって必要なメディアリテラシーをまとめる。震災関連の新聞記事を見て、人々の復興の様子を書き留める。	90分
第11回	11. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み8	考えるとは何か。江戸時代におけるエコから考える。その後、現在の生活、特に、大学生活において考えるとは何かを考える。（上村教授・金森准教授）	これまでの領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理する。	90分
第12回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み9	オリーブオイルが人々の生活に深く関わっていたことを、日本人旅行者をつうじて疑似体験し、南イタリアの人々の生活触れること。（大嶋准教授・ルイス准教授）	オリーブオイルは現在の日本ではどのような価値を持っているか調査すること。また、自分はオリーブオイルをどのように使ったことがあるかレポートすること。	90分
第13回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み10	「総合家政」領域の学びの中でも社会と生活文化との関係で説明する。消費生活の現状と課題を理解し、消費者教育のニーズを理解する（小野准教授）。私たちの暮らしに関わる歴史を読み解き、生活文化の大切さを理解する（石垣准教授）。	「身近な消費者問題」と「くらしと文化」について、自分の経験を振り返りながら関連する情報を収集・整理する。	90分
第14回	問題の発見や関心の深まりを考える	これまでの授業の振り返りを行う。また、4領域の中で最も興味を持った事象や問題の新たな発見、興味・関心を持てる事象についてまとめ、レポートを作成する。	10回の領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理し、今後学びたいこと、将来にむけて4年間の大学生活で何を	90分

			するかをまとめる。1回目のレポートに対する教員からのコメントも参考にして、再度レポートを作成し提出する。2回目もGoogleClassroomを使用して提出する。	
第15回	「学び」の理解をまとめる	発表用のパワーポイントを作成する。現代家政学科4領域の学びの中で最も関心を持った事象について、先に提出したレポート内容も踏まえ、ポスターを作成する。ポスターはパワーポイントで作成するので、その使用方法についても理解する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。	2回目のレポートをまとめた内容のポスターを作成するので、要点をまとめておく。パワーポイントの使用法の不明点があれば質問し、解決すること。ポスター形式の発表の注意事項を確認し、作成する。	90分

学習計画注記	授業内容の一部や授業の順番は、担当教員の都合等によって変更になる場合がある。ローズ祭は6月16日（日）に実施されるので、予定しておくこと。
--------	-----------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みでのコメントシート等については、振り返りの中で解説する。2回のレポート課題については、教員からのコメントをGoogleClassroomに個別に入力する。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みの各担当教員が授業内にコメントシート等を課し、理解状況や指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 ・レポート課題は、指示された内容に沿って書かれているか、また、指示された形式や手順通りに作成・提出されているかを評価する。指示された形式や手順を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。 ・ポスター形式の発表は、最も関心を持った事象について、自分の考えを端的にまとめられているか、それを多くの人に伝えるための工夫がされているかを評価する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	レポート課題	○	○	○	○
	ポスター形式の発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（領域別の学びの理解状況や課題への取り組み）60%、課題（レポート課題、ポスター発表）40%
------	---------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント等を配布する予定。
-----------------	---------------

参考図書	適宜、紹介する。
------	----------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p>
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	第1回に配付する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。
---------	------------------------------

学生へのメッセージ	<p>受講前に「大学に入学した目的」「将来の目標や夢」などについて考えをまとめておくこと。また、1年前期に履修したい科目についても考えておくこと。</p> <p>「現代家政演習」に関する不明な点は、授業については各領域の教員、全般については1年担任の先生、もしくは正地先生（1802室）に問い合わせること。</p>
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	ポスター形式での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してレポート課題提出とコメント返却を行う。

シラバス参照

講義名	社会調査法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要 (教育目的)	社会調査とは社会事象を観察して分析する過程であり、様々な目的や種類、方法がある。まずは、政府統計などを用いたデータの読み取り方を解説する。次に、量的調査のプロセスである「構想・計画」「準備」「実査」「データ入力と点検」「分析」「報告」「データの管理」について学習する。なかでも、調査票を作成する際に求められる適切な質問や選択肢の設定、調査結果の記述やグラフ化について詳説する。この授業では社会調査に関わる企画、実施、結果報告といった一連の流れについて、その知識と技術を身につける。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会調査に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	社会調査について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を知る。	総務省統計局の情報をインターネットで閲覧し、生活に関わる社会調査について考える。	120分
第2回	社会調査とは何か	社会調査の意義と目的を理解する。	テキスト第1章の内容をまとめる。	120分
第3回	質的調査の概要	質的社会調査とは何か。データの収集や分析の概要を理解する。	テキスト第2章の内容をまとめる。	120分
第4回	フィールドワーク・参与観察法	フィールドワークと参与観察法について、データ収集の手法と分析方法を理解する。	テキスト第3章と第4章の内容をまとめる。	120分
第5回	ワークショップ・インタビュー	ワークショップ・インタビューについて、データ収集の手法と分析方法を理解する。	テキスト第5章と第6章の内容をまとめる。	120分
第6回	聞き取り調査	データの収集と分析方法について理解し、調査票を作成	調査票を完成させる。	120分

	査(1)	する。		
第7回	聞き取り調査(2)	完成した調査票を使用して、調査を実施する。	収集したデータの整理をする。	120分
第8回	聞き取り調査(3)	収集したデータを入力、集計、分析する。	分析した内容をまとめる。	120分
第9回	聞き取り調査(4)	まとめた内容を発表する。	他の履修者の発表内容を検討する。	120分
第10回	内容分析(1)	さまざまな内容分析の種類と手法を理解する。	テキスト第9章と第10章と第11章の内容をまとめる。	120分
第11回	内容分析(2)	質的データ分析ソフトを使用して、分析方法を理解する。	分析した手順を確認する。	120分
第12回	内容分析(3)	質的データ分析ソフトを使用した様々な分析方法を試す。	分析した手順を確認する。	120分
第13回	質的調査の実際	データの作成、テープ起こし、データの分析、論文の執筆について理解する。	テキスト第12章と第13章の内容をまとめる。	120分
第14回	質的調査と調査倫理	プライバシーと個人情報保護、ラポールと倫理について理解する。	テキスト第15章の内容をまとめる。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	社会調査について振り返りを行い、学習到達度を確認するためのテストを実施する。	授業全体の振り返りをする。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合 受講状況・学習態度(10%)、提出物(60%)、定期試験(30%)などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査 技法編』ミネルヴァ書房、2009年

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30

学生へのメッセージ 関連する教材などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、社会調査の能力の育成を図る
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食物学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、総合的に食物学について講義する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養素の生体内での働きを説明できる。 2. 各種食品に含まれる食品成分の機能性や調理・加工における変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. よりよい食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食物学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに	食の主な機能を理解し、健康面からの「食べる」ことの意味(外部から物質を取り入れること)を理解する。現代の私たちの食生活における問題点を考える。	教科書第1章「食物とは」「人と食物」(1~3ページ、9~16ページ)第2章の「食と健康」(17~20ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	食と健康、栄養素の種類と消化吸収	生活習慣病と食生活との関わりを理解する。栄養素の種類と働きを理解し、食物を摂取した際の各栄養素の消化と吸収について理解する。	教科書第2章の「生活習慣病と食生活」「栄養素の種類と消化吸収」(20~27ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養素の機能(炭水化物)	炭水化物(特に糖質)に関して、単糖、少糖、多糖類の化学構造、特徴、主な供給源を理解し、エネルギー代謝と血糖値維持について理解する。	教科書第2章の「炭水化物」(27~31ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	栄養素の機能(脂質)	脂質(特に中性脂肪)に関して、その化学構造、脂肪酸の種類と特徴を理解する。さらに、脂質の働き、脂質摂取	教科書第2章の「脂質」(30~33ページ)を読んでおくこと。	120分

		における量と質について理解する		
第5回	栄養素の機能（タンパク質）	タンパク質に関して、その化学構造、働き、主な供給源を理解する。また、タンパク質の栄養的な質と食生活との関連について理解する。	教科書第2章の「タンパク質」（34～37ページ）を読んでおくこと。 三大栄養素（2から5回の授業内容）について復習しておくこと。	240分
第6回	栄養素の機能（ビタミン、ミネラル）	微量栄養素であるビタミン、ミネラルの種類、働き、供給源を理解し、主なビタミンやミネラルの欠乏症、過剰症などの健康との関わりを理解する。	教科書第2章の「ビタミン」「ミネラル」（37～43ページ）を読んでおくこと。	120分
第7回	食品中のその他の成分の機能、食生活の設計	水分の生体内での働きと出納、水分摂取の重要性を理解する。栄養バランスのよい食生活を送ることができるように、日本人の食事摂取基準、食品成分表について理解する。	教科書第2章の「食品中のその他の成分（水）」「食生活の設計」（44～46ページ、51～57ページ）を読んでおくこと。次回授業の最初に、2～7の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第8回	植物性食品の調理・加工（穀類）	主食となる、米、小麦に含まれる主な成分と、調理・加工における成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品―米、小麦―」（64～75ページ）を読んでおくこと。	120分
第9回	植物性食品の調理・加工（いも類、豆類）	いも類、豆類の種類と特徴を学び、いも類、豆類に含まれる主な成分、調理・加工における成分の変化、さらに加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品―いも類、豆―」（76～81ページ）を読んでおくこと。	120分
第10回	植物性食品の調理・加工（野菜類）	野菜類の種類と特徴を学び、野菜類に含まれる主な成分、調理・加工における色素等成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品―野菜―」（81～87ページ）を読んでおくこと。	120分
第11回	植物性食品の調理・加工（海藻類、果物類、きのこ類）	海藻類、果実類、きのこ類の種類と特徴を学び、海藻類、果実類、きのこ類に含まれる主な成分、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品―海藻、果物、きのこ―」（88～95ページ）を読んでおくこと。次回授業の最初に、8～11の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第12回	動物性食品の調理・加工（肉類、魚介類）	肉類、魚介類の種類と特徴を学び、肉類、魚介類に含まれる主な成分、鮮度判定法、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「動物性食品―肉、魚―」（95～107ページ）を読んでおくこと。	120分
第13回	動物性食品の調理・加工（卵）	卵類の特徴、主な成分、鮮度判定法について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	卵類の特徴、主な成分、鮮度判定法について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	120分
第14回	動物性食品の調理・加工（乳類）、その他の食品の調理・加工（甘味料）	乳類の特徴、主な成分について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。甘味料の種類と特徴、調理性について理解する。	教科書第3章の「動物性食品―乳類―」（116～124ページ）「その他の食品」（125～128ページ）を読んでおくこと。	120分
第15回	その他の食品の調理・加工（調味料、油脂等、ゲル化剤、嗜好飲料等）、まとめ	調味料、油脂類、ゲル化剤の種類と特徴、調理性について理解する。茶、コーヒーなどの嗜好飲料の特徴と製造法を理解する。	教科書第3章「その他の食品」（128～144ページ）を読んでおくこと。	予習240分、復習420分

学生へのフィードバック方法 授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。小テストは次週までに採点して返却し、誤りの多い箇所については解説する。

評価方法

- ・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。
- ・小テストは、3～5回の授業内容について、穴埋めを中心とした問題を出題する。
- ・定期試験は、小テストの振り返りも含めて、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。
- ・課題、小テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験80% 小テスト10% 課題10%
使用教科書名 (ISBN番号)	食物学概論 第2版 / 藤原葉子 編著 / 光生館 (ISBN 978-4-332-04065-1)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	金曜・2時限および昼休み 1609研究室
学生へのメッセージ	食物学の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となる。高校で学んだことをきちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食と社会		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	近・現代の食生活のあり方は変化し続けており、それに伴い食の安全や信頼などに関する様々な問題が次々に発生している。それらの問題の原因や背景を正しく理解し、食物の生産、流通、消費の各段階でそれぞれに関わる人たちがどのように問題に向き合っていかなければならないのか考えるとともに、それらの問題を正しくとらえ、解決できる力を習得することを目的としている。近代における食に関する様々な問題を具体的に取り上げながら、食と社会の関わりや消費者としてあるべき姿について解説する。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	近・現代において変化し続けている食生活のあり方と、それに伴い発生した様々な問題とその原因や解決策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食生活に関わる様々な問題を理解した上で、自身が消費者としてとるべき行動について適切に判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食と社会				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体について把握する。また、現代社会における食生活のあり方を考えるきっかけとして1990年代以降に頻発した「食の不祥事」に注目し、代表的な事例における原因や対策について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	食生活の変遷	人類の歴史における食生活の変遷と、近・現代における食生活の大きな変化について学び、食に関する様々な問題の要因について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第3回	食品の生産から消費まで	現代における食品の生産から消費までの過程が非常に複雑化しているのと同時に縦割りの管理により互いの信頼	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するもの	180分

		関係が希薄になっている現状と、その改善策について学ぶ。	を見付けたら、要約し、記録しておくこと。	
第4回	栄養素とそれ以外の食品成分	消費者が食に期待するものとして、栄養素の供給と栄養素以外の生体調節成分の供給に大別し、それらの適切なとらえ方について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第5回	豊かな食生活における食品添加物の位置付け	現代の食生活をつくるうえで欠かせない食品添加物について、日本食品添加物協会が発行している冊子を教材として、その位置付け、分類、表示、安全性の確保について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	食生活における健康志向（1）	現代において見られる健康志向がいつ頃から高まり始めたのか、またそれに伴う混乱と政府による法整備、「健康」や「機能性」を表示することが認可された食品のカテゴリーについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食生活における健康志向（2）	健康志向の高まりを受けて制度が整えられた「保健機能食品」と、これに相対する「いわゆる健康食品」の関係について学ぶ。一方で健康を意識した個別の食品を摂ることに注力するのではなく、「バランスのとれた食生活」を送ることも重要であることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食育と社会の関わり（1）	日本において、第二次世界大戦後の食生活が大きく変化した中で食育の必要性が認識された背景と、食育基本法の概要、食育推進基本計画の策定や食育の取り組み、それらをまとめて公表している食育白書について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食育と社会の関わり（2）	特別授業として、食育について様々な研究や実践に取り組んだ経験を持つ講師による講義を聴講し、食育と社会の関わりについて考える。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	食の安全（1）	現代における食の安全への関心の高まりと、その背景にある食の安全を脅かす事件・事故、それを受けて整備された安全行政体制と安全行政の仕組みについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	食の安全（2）	前時の学習を踏まえ、食の安全は必要不可欠であるが、安全＝ゼロリスクではないこと、食生活においては様々なリスクが存在するがその影響が十分に小さければ問題はないことを理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	くらしの中の食情報（1）	情報化社会の現代において、特に人々の関心を引きやすい食情報の影響の大きさ、その極端な例としてのフードファディズム、確かな食情報の選択と日常生活における活用について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	くらしの中の食情報（2）	前時の学習を踏まえ、現代における様々な食情報の実例について分析し、消費者としての適切な判断と態度について学ぶ。前時と本時の内容に関する課題を課す。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。課された課題に取り組むこと。	180分
第14回	食品の表示と宣伝広告	食品表示法や保健機能食品の制度がある一方で、いわゆる健康食品などは、これらの法や規定に触れない方法で巧みな宣伝広告をしていることを理解し、消費者としての適切な判断について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 平常点には、課題の評価も含めます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
-------------	------------------	------------------	---------------------	------------------

課題	○	○		
定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	後期：水曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	食品学や栄養学の基礎知識が役に立ちます。また、日ごろから新聞等で食関係の確かな情報に目を向けておくことをおすすめします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリア計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	快適な空間づくりを目指すために、人体寸法や家具寸法など必要寸法の把握、および必要な設備やインテリアエレメントについて解説する。最終的にインテリアをコーディネートするために必要とされる技術を修得させる。
履修条件	なし。座席指定を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	インテリアをコーディネートするために必要とされる技術についてその概要を学び、その後続くインテリア設計論およびインテリアデザイン演習を通して専門知識と技術を習得するための、基礎的用語を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	快適な生活を維持できるインテリアを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	計画者だけでなく消費者の立場としてインテリアを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	人間とモノとの関係の中で生じるさまざまな課題を理解し、総合的にまとめあげる技術が修得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	住宅の種類と平面計画	住宅の種類について戸建と集合住宅に分け、その形式と種類、およびメリット・デメリットについて解説する。	該当する自分の生活空間において、その問題点などを考えて欲しい。 次週までにノートを作成すること。	90分
第2回	人体寸法と動作空間	インテリア計画での基礎的資料となる人体寸法とその動作空間について学ぶ。	自分の身体寸法を測り、その数値と感覚を身につけておくこと。 次週までにノートを作成すること。	180分
第3回	リビングの計画	住宅の中心にあり、多目的な機能を受け入れるリビング(居間)について学習する。	自分の生活空間にあるリビングについて顧み、その問題点などを考えておくこと。 次週までにノートを作成すること。	180分
第4回	寝室、子供室、書斎の	住宅において最もプライベートな性格がある、休息のための寝室、成長のための子供室、作業のための書斎の計	自分の生活空間にある寝室、子供室、書斎について顧み、その	180分

	計画	画について学ぶ。	問題点などを考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること。	
第5回	ダイニング の計画	食事機能を中心に、家族の集いの場としての性格も持つ ダイニング（食堂）について学習する。	自分の生活空間にあるダイニ ングについて顧み、その問題点 などを考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第6回	キッチン の計画	効率的な調理と後片付けを可能にするキッチン（台所、 厨房）について学ぶ。食分野や環境問題に関連する。	自分の生活空間にあるキッチン について顧み、その問題点など をを考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第7回	サニタリー の計画	サニタリー（浴室、洗面所、便所などの水回り衛生空 間）の計画について学ぶ。その歴史やバリアフリーにつ いても言及する。	自分の生活空間にあるサニタリ ーについて顧み、その問題点な どをを考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第8回	玄関、廊 下、階段 の計画	住宅内の上下・水平方向の移動空間となる玄関、廊下、 階段の計画について学ぶ。安全性を担保する寸法計画な ども言及する。	自分の生活空間にある玄関、廊 下、階段について顧み、その問 題点などを考えておくこと。可 能なら実測しておくことが望ま しい。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第9回	収納スペ ースの計画	消費活動が盛んな現代について住宅内の収納物は増える 傾向にあるが、収納スペース（クローゼット、納戸な ど）について収納量、収納物に適した位置や大きさにつ いて学ぶ。衣分野にも関連する。	自分の生活空間にある収納スペ ースについて顧み、その問題点 などを考えておくこと。可能 なら実測しておくことが望まし い。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第10回	家具1（椅 子・机）	インテリアの重要な要素となる家具について、その種類 や構成、素材などを学ぶ。最初に椅子、机について扱 う。	自分の生活空間にある椅子、机 について顧み、その問題点など をを考えておくこと。可能なら 実測しておくことが望ましい。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第11回	家具2（収 納・ベッ ド）	インテリアの重要な要素となる家具について、その種類 や構成、素材などを学ぶ。今回は収納家具やベッドにつ いて扱う。	自分の生活空間にある収納家具 やベッドについて顧み、その問 題点などを考えておくこと。可 能なら実測しておくことが望ま しい。 次週までにノートを作成して ること	180分
第12回	ウィンド ートリ ートメ ント	インテリアの重要な要素となるカーテンやブラインドな どのウィンドートリートメントについて、その種類や構 成、素材などを学ぶ。	自分の生活空間にあるウィンド ートリートメントについて顧 み、その問題点などを考えてお くこと。 次週までにノートを作成して ること。	180分
第13回	建具1 （扉・サ ッシ）	インテリアの重要な要素となる扉やサッシなどの建具に ついて、その種類や構成、素材などを学ぶ。	自分の生活空間にある建具につ いて顧み、その問題点などを考 えておくこと。 次週までにノートを作成して ること	180分
第14回	建具2（金 物）	建具の可動を可能にする金物（取っ手、ドアノブ、錠な ど）について、その種類や構成、素材などを学ぶ。防犯 性能についても言及する。	自分の生活空間にある建具金物 について顧み、その問題点など をを考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること	180分
第15回	内装材	インテリアの重要な要素となる内装材について、その種 類や素材、機能性、工法などを学ぶ。	自分の生活空間にある内装材に ついて顧み、その問題点などを 考えておくこと。 次週までにノートを作成して ること	180分
第16回	定期試験	試験時間80分、持ち込み不可	到達度テスト（小テスト）を中 心に復習しておくこと。	90分

学習計画注記	それぞれの項目の学習量に違いがあり、1回で区切らずに調整することがある。
学生へのフィードバック方法	毎回、授業の冒頭で前回授業内容の到達度テスト（小テスト）を行う。直後に回答と解説を行うので、そこで

	自分の理解度が把握できる。 ノート作りについても指導を行う。毎回関連図表を配布するので、次週までにノートに切貼すれば理解が大きく進む。																																	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 到達度テストは前回の授業に係る学習範囲から出題し、授業内冒頭を実施する。1回あたりの問題数は10～20問で、すべて選択式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、到達度テストの再試験は行わないので注意すること。 定期試験は到達度テストの振り返りや、インテリアコーディネーター資格試験や二級建築士の出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題の傾向については、授業内にて説明する。 任意であるが、ノート作りについての動機付けとする為に、授業の最後にノート提出を受けつけ、良いものには加点を行う。 																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達度テスト (小テスト)</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	到達度テスト (小テスト)	○		○		定期試験	○	○																	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
到達度テスト (小テスト)	○		○																															
定期試験	○	○																																
評価割合	定期試験：70%、平常点（到達度テスト）：30%																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。																																	
参考図書	インテリアコーディネーターハンドブック技術編・販売編（インテリア産業協会編）																																	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 インテリアを通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】 インテリアを通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることが出来る。 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、インテリアを理解することが出来る。 【技術・表現】 次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の空間作りが出来るようになる。</p>																																	
オフィスアワー	月曜日 3 時限目・水曜日 3 時限目																																	
学生へのメッセージ	<p>授業で配布する図版資料は必ず翌週までにノートに切貼りして整理すること。翌週の講義冒頭に小テストを行う。</p> <p>東京は世界でも指折りのインテリア、建築デザインの先端都市である。普段から興味を持ち、情報収集に努め、可能な限り積極的に空間体験に行って欲しい。コンベックスは携帯し、生活の様々な場面であらゆる寸法を身に着けていきたい。</p>																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は一級建築士資格を取得しており、また建築・インテリア設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は一級建築士資格を取得しており、また建築・インテリア設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業	○	担当教員は一級建築士資格を取得しており、また建築・インテリア設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。																																
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

シラバス参照

講義名	インテリアデザイン演習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>導入課題、単位空間と一人暮らしの生活空間の課題を出題する。さらにインテリア製品についての理解のために企業連携特別課題を別に行う。授業ではまず現代のインテリア空間の現状を知るために実例を調査・研究させる。次に平面図・断面図・展開図による室内空間の表現方法ならびにアイソメトリック図やパース(透視図)の描き方、模型制作の手法など表現方法を説明し、演習課題によって修得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入課題 2回 『自分の部屋の実測』 ：各自が自分の部屋(他の部屋で代用しても良い)の実測を行い、平面図・展開図・天井伏図など図面に表す。授業では実測の手法や建築家の実例を見せる。(次課題関連で窓など建具部分は詳細に描く) 【提出図面】平面図・展開図・天井伏図 ・企業連携特別課題 3.5回 『デコブラインドの制作』 ：1回は日本橋二チベションルームでウィンドウトリートメントの学習を行う。 【提出図面】パワーポイント・ブラインド完成写真 ・第1課題 3.5回 『デザイナーズチェアのための空間』 ：デザイナーズチェアを1つ選びそのデザインについて研究し、2.5×2.5×2.5の空間を使って考える。(1/12ミニチュアを貸し出すのでその中から選ぶ、そのため模型は1/12で製作) 【提出図面】平面図・展開図・天井伏図・内観パース(一点透視)・模型写真 ・第2課題 6回 『マンション1室のリフォーム(女子学生ひとり暮らしの部屋)』 ：与えられたワンルームマンションの空間を使い、女子学生の一人暮らしを想定したリフォーム案を作成する。 【提出図面】平面詳細図・展開図・アクセソメ・模型写真
履修条件	<p>基礎的な建築製図力を必要とするため、設計製図演習AおよびBの単位取得済を履修条件とする。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。</p>
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	<p>実例など資料収集を行い、課題条件を読み込んだうえでインテリア設計を実践できる。</p>
思考・判断の観点(K)	<p>より細かな寸法体系やインテリア素材について考えることができる。</p>
関心・意欲・態度の観点(V)	<p>現代の最先端のインテリアデザインに関心を持ち、資料収集などの方法を修得できる。</p>
技術・表現の観点(A)	<p>インテリアのプレゼンテーションに必要な模型、作図法、説明の方法などを修得できる。</p>

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アテイブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入課題 ①『平面図・天井伏図・展開図のトレース』第1課題 ①『デザイナーズチェアのための空間』説明	導入課題①『自分の部屋の実測』を出題します。実測の手法や建築家の実例を見せます。(次課題関連で窓など建具部分は詳細に描く)また第1課題①『デザイナーズチェアのための空間』説明を行います。	各自が自分の部屋(他の部屋で代用しても良い)の実測を行い、平面図・展開図・天井伏図など野帳に表してください。	90分
第2回	導入課題 ②『平面図・天井伏図・展開図のトレース』	各自取ってきた野帳に沿って平面図・展開図・天井伏図を作図し、提出していただきます(次課題関連で窓など建具部分は詳細に描く)。	第1課題の実例収集を始めて下さい。	90分
第3回	第1課題 ② 対象としたデザイナーズチェアの調査発表	各自が対象としたデザイナーズチェアについて作者、作品の両面の視点でA3用紙にまとめ、発表していただきます。	発表用A3原稿は前日18:00までに大宮司へ提出してください。全員分を印刷して全員に配布します。	90分
第4回	企業連携特別課題① ブラインド&窓周り講義、デコブラインド紹介、制作条件確認	ニチペイ株式会社より講師を招き、ブラインド&窓周り講義、デコブラインド紹介、制作条件確認、ASAX新カラーパレット(カラスキーム)の紹介をします。	ウインドウトリートメントについて復習してきてください。	90分
第5回	ニチペイ日本橋ショールーム見学、企業連携特別課題 ②『デコブラインドの制作』説明、ブラインド製作寸法の確認と発注。	ニチペイ日本橋ショールームを見学します、またブラインド製作寸法の確認と発注を行います。	ブラインドを取り付ける窓について採寸してきてください。	30分
第6回	第1課題 ③ エスキス(平面、断面計画)	第1課題について平面、断面のエスキスを進めます。模型の床、壁、天井の板を切り出し、組み立ててみます。	各自構想を膨らませて来てください。	90分
第7回	第1課題 ③ 模型提出、模型撮影の手法	模型を提出していただき、模型撮影の手法を指導します。	模型を完成させて来てください。	180分
第8回	第1課題 ④ プレゼン図面提出、第2課題 ①『マンション1室のリフォーム(女子学生ひとり暮らしの部屋)』説明	第1課題のプレゼン図面提出していただき1次採点と共にブラッシュアップについて指導します。また第2課題『マンション1室のリフォーム(女子学生ひとり暮らしの部屋)』の課題説明を行います。	図面を完成させてきてください。	180分
第9回	第1課題 ⑤ 講評会(試験に該当する)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。	口頭発表で何を伝えるかを整理し臨んでください。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	60分
第10回	企業連携特別課題③ 制作プラン	制作プランをパワーポイントで発表していただきます。プレゼン資料の作成ポイントについて指導します。	パワーポイントの準備を進めて来てください。	90分

	発表、プレゼン資料の作成ポイント。			
第11回	第2課題 ② 平面、断面計画	第2課題の平面、断面計画を進めます。	授業で間に合わなかった部分は完成させてきてください。	90分
第12回	企業連携特別課題④ プレゼンテーション (試験に該当する)	パワーポイントにより発表していただく。インテリアコーディネーターやニチベイ株式会社の講師を招き担当教員と共に講評を行う。	パワーポイントの準備をしてくること。	90分
第13回	第2課題 ③ インテリア計画	アクソメトリック図法について解説する。	図面を完成させること。	90分
第14回	第2課題 ④ 模型提出期限、模型撮影の手法	提出された模型の1次採点を行い、ブラッシュアップの指導や模型撮影についての解説を行う。	図面を並行して進めること。	90分
第15回	第2課題 ⑤ プレゼンテーション図面提出	図面手直し指導、口頭発表準備を行う。	図面のレイアウトまでは完成させてくること。	90分
第16回	第2課題 ⑦ 講評会 (試験に該当する)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。	口頭発表で何を伝えるかを整理し臨んでください。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	90分

学習計画注記	企業連携授業のコマについて、実施日が変更になる場合がある。
--------	-------------------------------

学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、導入課題とインテリア設計の課題が2件出される。また企業連携課題も出される。基本的に調査、エスキス、作図、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	平常点（毎回のエスキス）、模型提出時／1次採点、講評会のプレゼンテーション／2次採点、最終提出作品（図面・模型）／3次採点の総合評価
------	--------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	模型	○	○	○	○
	図面	○	○	○	○
	口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
	エスキス			○	

評価割合	平常点（毎回のエスキス）：10% 模型提出時／1次採点：10% 講評会のプレゼンテーション／2次採点：30% 最終提出作品（図面・模型）／3次採点：50%
------	----------------------------------------------------------------------------------------

参考図書	商店建築（専門誌）など
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、インテリア設計の中で解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題をインテリアの形で解決する。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日3時限目・水曜日3時限目（大宮司）
---------	----------------------

学生へのメッセージ	インテリアデザイン演習A・Bは、これまであなたが受講したインテリア計画、インテリア設計論、設計演習などで得た知識・経験を、実践に移す授業です。そのため、プロの現場で必要不可欠なインテリアのディテールも学んでもらおうと考えています。ディテールと聞くと、とても難しいもののように思えますが、どうぞ安心してください。楽しくトレーニングできるよう課題を用意しています。ぜひ一緒にがんばりましょう。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも一級建築士資格を有しており、またインテリアおよび建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本語コミュニケーション		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、日本語によるコミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力を向上させることもめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本語によるコミュニケーションに関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切なコミュニケーションの取り方を判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、練習問題、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニケーションとは	コミュニケーションの概念の基本について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	コミュニケーションの種類と、それぞれの特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は	180

			附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	コミュニケーションと文化	コミュニケーションと文化の関係について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	敬語の種類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	誤りやすい敬語	間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、各種調査の結果を参照しつつ、練習問題を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	敬語使用の実態と意識	文化庁による「国語に関する世論調査」の分析を通じて、敬語使用の実態と意識のありようを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	敬語の変化	文化庁による「国語に関する世論調査」の結果から読み解ける、敬語使用の経年変化の傾向について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	敬語をめぐる新たな動向	近年勢力を拡大しつつある敬語表現の形式について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までに	180

	向		そのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	断り表現のしくみ	日本語の断り表現のしくみについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	断り表現の種類	先行研究を参照しつつ、断り表現の型をどのように分類できるかを考え、理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	断り表現の使い分け	断り表現の型は一般的にどのように使い分けられているのかを、話し手と聞き手との関係性に着目して考え、理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	感謝表現のしくみ	日本語の感謝表現のしくみや、他言語と比較した場合の特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	感謝表現の使い分け	日本語の感謝表現において、「ありがとう」と「すみません」はどのように使い分けられているのかを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	感謝と謝罪の関係性	日本語において「すみません」が謝罪表現にも感謝表現にも使用されることの背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理	180

				解が不十分な点があった場合は 附属図書館を用いるなどして自 主的に学習し、知識を定着させ ておくこと。	
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。				
評価方法	<p>・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。</p> <p>・レポートは、小規模な言語調査の実践を課題として課す。レポートの内容は、以下のような観点から評価を行う。</p> <p>①課題の意図を適切に理解できている。 ②適切な方法で調査を行うことができている。 ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。</p> <p>・平常点は、授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。</p>				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		○
	レポート	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	定期試験50%、レポート30%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。				
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】日本語を適切に用いて、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。</p>				
オフィスアワー	金曜3限（千代田三番町キャンパス1703ゼミ室）				
学生へのメッセージ	<p>・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。</p> <p>・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。</p> <p>・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

シラバス参照

講義名	消費者情報論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には表示や広告など、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などを消費者の視点から学ぶ。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費者情報に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者情報について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者情報についてどのような素材・教材があるか調べる。	120分
第2回	消費者情報とは何か	企業、行政、消費者のそれぞれの立場からみた場合の消費者情報について理解する。	今日の消費者が企業と行政から提供される消費者情報の種類・方法を調べる。	120分
第3回	消費者教育をめぐる動向	学校教育と社会人教育における消費者教育を学習する。	学修者が受けてきた学校教育における消費者教育の実例について整理する。	120分
第4回	企業と消費者教育	企業が実施する消費者教育のメリットとデメリットについて理解する。	企業が提供している消費者教育の素材を調べる。	120分
第5回	企業における消費者情報	消費者信用に関わる情報の内容と、消費者と事業者双方のメリットとデメリットを理解する。	消費者信用情報機関について調べる。	120分

第6回	行政における消費者情報①	国や自治体を実施している消費者教育やその素材について現状と課題を理解する。	国や自治体を実施している消費者教育やその素材を調べる。	120分
第7回	行政における消費者情報②	消費生活相談情報のとりまとめや活用のされ方について理解する。	消費生活相談情報の公表内容を調べる。	120分
第8回	行政における消費者情報③	消費者庁などが公表している消費者事故情報を理解する。	公表されている消費者事故情報を調べる。	120分
第9回	メディアリテラシーとは何か	メディアリテラシーの重要性について理解する。	メディアリテラシーに関わる教材を調べる。	120分
第10回	生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討	消費生活に関わる広告の種類や問題を理解する。	誇大広告など問題のある宣伝内容を調べる。	120分
第11回	消費者マーク	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	120分
第12回	消費者情報の収集と整理	新聞記事の活用方法について理解する。	1日分の新聞をページやレイアウトに着目して内容を確認する。	120分
第13回	消費者情報に関わる統計の分析と評価	消費者庁や総務庁の政府統計を手掛かりにして、私たちの生活の現状と課題を理解する。	総務庁統計局の家計調査を調べる。	120分
第14回	消費者情報をめぐる取り組み	消費者の様々なニーズを活用するための取り組みを理解する。	行政のパブリックコメント制度（意見公募手続制度）のしくみについて調べる。	120分
第15回	まとめ	消費者情報とは何かについて、授業を通して得られた知識や技術を整理する。	授業を通して消費行動の変容の有無や、その内容について学修者で話し合う。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は60点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
- ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 国民生活センター編『くらしの豆知識（2019年版）』2018年

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
- 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
- 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ 関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	メディアリテラシーについて学ぶ機会を設け、情報モラルに関する知識と技術の向上に努めている。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費経済論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

授業概要 (教育目的)

消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の3点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	講義全体の概要	3つの消費者行動を知る。	シラバスによく目をとおしておくこと。	180分
第2回	説得的コミュニケーションとは	消費者に品物やサービスを買ってもらうためのコミュニケーションを知る。	5つの説得される消費者心理を復習しておくこと。	180分
第3回	セグメンテーション	なぜ人の好みは違うのかを考える。	セグメンテーションについて復習しておくこと。	180分
第4回	店頭マーケティング	売れるお店はどうやって作るのかを考える。	課題①食品スーパーなどの売り上げをあげるために、インスタ・マーチャンダイジングを考える。	180分
第5回	学習とは何か	学習とは、経験によって引き起こされる行動の永続的変化であり、購買の視点から学習を考える。	学習メカニズムについて復習しておくこと。	180分
第6回	記憶	購買の視点から学習を考える。	購買の記憶について復習しておくこと。なお、2回目の課題あ	180分

			り。	
第7回	課題の解説	課題の解説を行う。	課題について復習しておくこと。	180分
第8回	意思決定	「意思決定者としての消費者」の観点から、消費者がどのように消費について意思決定しているのかを考える。	日経MJを題材とした3回目の課題あり。	180分
第9回	中間振り返り	これまでのキーワードなどを授業において復習する。	レポート作成について4回目の課題あり。	180分
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習を行うこと。	180分
第11回	消費で自己表現をしている	消費とは生きるために必要なものを得るだけではない。消費とは自己の存在と深くかかわっている。	消費から自己を考え復習しておくこと。	180分
第12回	文化について	消費としての文化を考える。消費は単なる買い物ではなく、その人らしさを表現するものでもある	消費と文化を復習しておくこと。日経MJを用いた5回目の課題あり。	180分
第13回	集団について（なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？）	友人などの周囲の人々が消費者の好みに及ぼす影響（意識的・無意識的を含めて）を考える。	自身の消費について影響する人を考えておくこと。	180分
第14回	家族の買い物は誰が決めているのか	①家族の購買意思決定のあり方、②消費者としての子供の社会化について考える。	家族としての購買意思決定について復習しておくこと。	180分
第15回	総復習	これまで授業で取り扱ったキーワードを整理する。	予習として、これまで授業で取り扱ったキーワードを整理しておくこと。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説を行います。

評価方法

- ・課題は4回～5回出題します。A4で1枚～2枚程度です。
- ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
- ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合 レポート (60%)
宿題4～5回 (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要な資料はプリントで配布します。

参考図書 松井剛・西川英彦、『1からの消費者行動』、碩学舎、2016年。

ディプロマポリシーとの関連 生活・社会の諸問題を自ら発見し分析することができる。

オフィスアワー 前期火曜日4限、後期金曜日3限。
ただし、事前にアポをとってこること。

学生へのメッセージ 課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット（1束100円程度）を購入してもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 坪井 瞳	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理・保育・教育・保健・社会・文化・環境・福祉等)を概観しながら、子どもを取り巻く基礎的課題(子ども観、現代社会における子どもの問題、子どもの発達、子どもと環境、子どもと教育・保育等)に対する理解を進める。現実の生活や社会における子どもという存在、子ども問題へのアプローチについて実践的な視点からも検討していく。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「子ども」という存在を歴史的・社会的・教育的など多角的な視点から捉えることができる。また、児童学における基礎的課題を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	上記の知識・理解の観点を踏まえた上で、子どもを取り巻く現代的課題について総合的に考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容を踏まえた上で、自らの経験、社会的状況など、子どもにかかわる情報を自ら関心を持って調べ、総合的な考察をする上での知見を獲得しようとするすることができる。
技術・表現の観点 (A)	獲得した知見を基に行った考察を適切にレポート等に表すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学問としての「子ども」：児童学とは	子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理・保育・教育・保健・社会・文化・環境・福祉等)の連関性について学ぶ	【予習】シラバスを読み、今後の授業概要について確認しておくこと 【復習】配布資料を読み、授業内容の理解を深めておくこと	各90分
第2回	子どもとは何か：子ども観の歴史の変遷	・江戸時代～現代における、社会における子どもの位相について学ぶ ・子どもと「家庭」の関係性、その歴史の変遷と社会的背景について学ぶ ・「教育される子ども」の歴史の変遷と社会的背景について学ぶ	【予習】子ども関連法令における年齢区分の差異について調べておく 【復習】「愛される存在」としての子どもの歴史的位相についてまとめる	各90分
第3回	乳児期の発達の様相	・誕生から1歳までの発達の様相について学ぶ ・原始反射とその意義について学ぶ	【予習】発達に関する配布資料を読んでおくこと 【復習】原始反射の種類とその意義について復習しておくこと	各90分

第4回	愛着形成の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成の発達の様相とその意義について学ぶ ・「母性」なるものの歴史の変遷について学ぶ 	<p>【予習】配布資料を読み、愛着形成の概要の基礎について確認をしておくこと</p> <p>【復習】子どもにとっての養育者の意義、現代の多様な家庭環境における養育者の意義についてまとめておく</p>	各90分
第5回	子どもの安全・保健	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期に起きやすい事故、病気などの概要について学ぶ 	<p>【予習】乳幼児期の死因・事故種別の順位について調べておく</p> <p>【復習】事故防止や関連する制度等について復習しておくこと</p>	各90分
第6回	児童虐待の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の歴史の変遷・社会的背景について学ぶ ・児童虐待の種類について学ぶ ・具体的な事例から、そのメカニズムについて学ぶ 	<p>【予習】児童虐待に関連する報道等から、その実態について調べておく</p> <p>【復習】虐待者の虐待に至る心理的・社会的背景についてまとめておく</p>	各90分
第7回	児童虐待防止のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・園・学校における児童虐待防止のための対策について、事例を通して検討する ・児童相談所の役割や意義について学ぶ ・発見～対応（学校内・他機関との連携・地域等）の具体的方法について学ぶ 	<p>【予習】「児童虐待の防止等に関する法律」における園・学校の役割について確認しておくこと</p> <p>【復習】多機関との連携における各機関の主な役割・意義について確認をしておく</p>	各90分
第8回	日本の保育制度	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の保育制度の歴史の変遷と現代の状況・課題について学ぶ ・保育所保育指針・幼稚園教育要領の意義について学ぶ 	<p>【予習】保育所・幼稚園・認定こども園の特徴について調べておく</p> <p>【復習】保育制度の現代的課題についてまとめておく</p>	各90分
第9回	幼児期の発達の様相	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の発達の姿について学ぶ ・保育所・幼稚園等の子ども集団の中で「関わり合って育つ」ことの意義について学ぶ 	<p>【予習】配布資料を読み、幼児期の発達の概要について確認をしておく</p> <p>【復習】子どもにとっての子ども集団の意義についてまとめておく</p>	各90分
第10回	子どもの育ちと「遊び」の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊び」を通して学ぶ・育つことの意義について学ぶ ・子どもの主体的な「遊び」を保障するための環境・保育者の配慮について学ぶ 	<p>【予習】配布資料から「遊び」の意義について確認しておく</p> <p>【復習】保育における計画・保育者の専門性の重要性についてまとめておく</p>	各90分
第11回	子どもと社会的養護	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護が必要とされる社会的背景について学ぶ ・社会的養護の意義とその種類について学ぶ ・社会的養護を受ける子どもの実態について学ぶ 	<p>【予習】社会的養護についてインターネット等で調べておく</p> <p>【復習】現代的な家族・子どもの問題と社会的養護との関連性についてまとめておく</p>	各90分
第12回	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の歴史とその意義について学ぶ ・特別支援教育の種類やその実態について学ぶ 	<p>【予習】特別支援教育の基礎的な内容について確認をしておく</p> <p>【復習】「特別な支援とは何か」ということについて自らの意見をまとめておく</p>	各90分
第13回	少年非行と保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年非行の諸問題とそのメカニズムについて学ぶ ・保護の制度やその意義について学ぶ ・少年非行における児童相談所・家庭裁判所、保護司など関連する機関や役割について学ぶ 	<p>【予習】少年犯罪の件数の歴史の変遷について調べておくこと</p> <p>【復習】保護・教育を行う機関や役割についてまとめておくこと</p>	各90分
第14回	子育て・家庭支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点を踏まえた上での、子どもと家庭の支援の在り方とその意義について学ぶ ・子どもと家庭支援のための具体的な制度や方法について学ぶ ・園・学校での子どもと家庭支援の方法について学ぶ 	<p>【予習】子育て・家庭支援が必要となる社会的背景について確認しておく</p> <p>【復習】園・学校で必要とされる支援について具体的に説明ができるようまとめておく</p>	各90分
第15回	すべての子どもの最善の利益：「子どもの権利に関する条約」	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業内容を概観し、現代の子どもと位相やその課題について改めて確認する ・「子どもの権利に関する条約」の概要について学ぶ ・子どもの最善の利益を保証するために、園・学校・地域が行うべきことについて学ぶ 	<p>【予習】「子どもの権利に関する条約」に目を通しておく</p> <p>【復習】全15回の授業を振り返り、自らが関心を持ったテーマについてレポートを執筆すること</p>	各90分

学生へのフィードバック方法	提出されコメントペーパーなどについては、翌週以降授業内にてフィードバックを行う
評価方法	課題レポートについては本授業で取り扱った内容の中から自身の課題設定を行い、論じること。詳細については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点 (20%)、提出物 (20%)、課題レポート (60%)

使用教科書名 (ISBN番号) 講義時にレジュメやプリントを随時配布する

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる ・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ
 ・講義実施中の半期間、子どもや教育に関する関心のあるニュースについて、各自関心を高めておくこと
 ・講義の復習をしておくこと
 期末レポート課題は、上記2点を掛け合わせた内容になる予定です

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	幼稚園教諭、都内子ども家庭支援センターでの勤務経験、現在も継続的に行っている巡回保育相談での経験を生かし、事例紹介や保育の現場における実態について具体的に紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	各回においてディスカッションを取り入れ、受講生が主体的に参加できるような授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	保育学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 坪井 瞳	指定なし

授業概要(教育目的)

乳幼児期の保育や教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものである。子どもとの信頼関係を築き、子どもが身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになることを大切にする乳幼児期の教育や保育における見方・考え方について学んでいく。
また、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連についても考察が深められるよう検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の教育や保育の意義や重要性を理解し、説明することができる 乳幼児期の教育や保育の実践の実際を理解し、説明することができる
思考・判断の観点 (K)	上記知識・理解の観点を理解した上で、乳幼児期の教育や保育の今日的課題について考察を深めることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児期の教育や保育では、保育者自らが環境の構成者となる。そのため、グループワークや援助実践の場面などにおいて、主体的な参加・他者との協調を図ることができる。
技術・表現の観点 (A)	乳幼児期の教育や保育の実践の実際を理解した上で、具体的な場面において援助を実践することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳幼児期の教育や保育の制度とその意義	・生涯発達の中での乳幼児期の重要性について理解する ・日本の保育制度について理解する	【予習】教科書の「保育」、「幼稚園と保育所」「認定こども園」の箇所を読み、日本の保育制度について理解しておくこと 【復習】居住している自治体の保育所入所基準について調べ、その制度概要について理解しておくこと	各90分
第2回	保育所保育の基本：乳児保育	・保育所保育の基本原則について理解する ・乳児保育におけるねらい、3つの視点、具体的な配慮事項について学ぶ。	【予習】テキストp9(幼稚園と保育所)・14(幼稚園・保育所の職員)・18(年齢区分)の箇所を読み、理解しておくこと 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行うこと	各90分
第3回	保育所保育	・乳児保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ	【予習】乳児の発達の特性を理	各90分

	の基本：乳児保育の実践①	・遊びを通じた支援においては、実際に廃物等を用いたおもちゃの作成やその活用について学ぶ。	解した上でのおもちゃ作成の計画を立てる。作成に必要な材料や道具を整えておく 【復習】作成したおもちゃを用いて、身近な乳児とかかわりの機会を持ち、子どもの様子を観察する	
第4回	保育所保育の基本：乳児保育の実践②	・乳児保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・授乳期～離乳期～完全食までの食の発達について学ぶ ・調乳を実際に行い、その配慮事項について学ぶ	【予習】調乳時の配慮事項（衛生面等）についての事前配布資料を読み、準備を整えておくこと 【復習】離乳食のレシピ（初期・中期・後期・完了期）を作成すること	各90分
第5回	保育所保育の基本：1歳以上3歳未満児の保育	・1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・情緒面・言語面の発達について学ぶ	【予習】配布資料を読み、情緒面・言語面の発達に関する基礎的な事項を理解しておくこと 【復習】発達に応じた絵本の選定を行い、実際に読み聞かせを行えるよう準備しておくこと	各90分
第6回	保育所保育の基本：1歳以上3歳未満児の保育の実際	・1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・集団生活における個に応じたかかわりを重視した生活の流れ・保育計画について学ぶ	【予習】教科書p32「保育所の一日」を読み、デイリープログラムについて理解しておくこと 【復習】授業内で指定された年齢（月齢）・時期に応じたデイリープログラムを作成すること	各90分
第7回	母子保健の基本と実際①	・母子保健の歴史の変遷・社会的背景・その必要性について学ぶ ・母子保健法の概要を学ぶ ・妊婦健康診査の概要について学ぶ ・母子手帳の歴史とその必要性、活用について学ぶ ・特定妊婦の実際について学ぶ	【予習】身近な子育て経験者に妊娠期の経験について話を聞いてみること 【復習】特定妊婦の支援の必要性について考え、まとめておくこと	各90分
第8回	母子保健の基本と実際②	・出生率と新生児死亡率の歴史の変遷とその背景について学ぶ ・乳幼児健康診査（1歳6か月・3歳児検診）の歴史の変遷とその必要性について学ぶ ・予防接種の概要について ・ハイリスク児の支援について学ぶ	【予習】自身の母子手帳があれば、その内容について見返し、どのような内容が記載されているか、その意義等について確認しておく 【復習】授業内での内容を総括し、母子保健の必要性についてまとめておくこと	各90分
第9回	3歳以上児（幼児）の保育の基本①	3歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認しておくこと 【復習】3歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること	各90分
第10回	3歳以上児（幼児）の保育の基本②	4歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認しておくこと 【復習】4歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること	各90分
第11回	3歳以上児（幼児）の保育の基本③	5歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認しておくこと 【復習】5歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること	各90分
第12回	保育における行事の必要性とその計画立案について	・保育における行事の意義について理解する ・通常保育とは異なる機会において、どのような意図をもって計画を行うか理解する ・実際にある行事の計画立案を行う	【予習】教科書p44「行事・記念日」を読み、概要を理解しておく 【復習】行事の由来なども含めた上で、指定された年齢に応じた行事の指導計画を作成する	各90分
第13回	家庭支援・子育て支援①	・保育所保育・幼稚園教育を通じた家庭支援・子育て支援の意義を学ぶ ・保護者への支援での留意事項について学ぶ ・保育の専門性を生かした支援の方法やその実際について学ぶ	【予習】教科書p22「家族・家庭・保護者」、p42「延長保育・預かり保育」、p46「園だより・連絡帳」の箇所を読み、事前に基礎的な理解をしておくこと 【復習】指定された設定の中で、園だよりの文面を作成すること	各90分

第14回	保育における表現・児童文化財の意義と活用	・保育の実践に生かす表現活動・児童文化財の意義について学ぶ ・実際に身体表現、描画活動、絵本、紙芝居などの活動を行い、その活用の具体的方法や配慮点について学ぶ	【予習】教科書p43「子どもと楽しむ保育実技」、p56「保育の表現技術」を事前に読み、概要を理解しておく 【復習】学習内容を振り返り、実際に1つ活動を取り上げ、実演の練習を行う	各90分
第15回	子どもと社会・子育てと社会	・これまでの学習内容を総括した上で、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連について考察を行う ・多様化する子育て環境・家庭環境を踏まえた上での子どもの最善の利益、その具体的方法について学ぶ（社会的養護、子育て支援の実際。子育て・保育関連の制度的な展望など）	【予習】これまでの学習内容について振り返りを行い、その関連性について考察を行う 【復習】課題レポートに備え、各自深めたいテーマを決定し、レポート執筆を行う	各90分

学生へのフィードバック方法 提出されたコメントペーパーなどについては、翌週以降授業内にてフィードバックを行う

評価方法 課題レポートについては本授業で取り扱った内容の中から自身の課題設定を行い、論じること。詳細については、授業内で提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点 (40%)、提出物 (20%)、課題レポート (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) 講義時にレジュメやプリントを随時配布する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ
・講義実施中の半期間、幼児期の教育や保育に関するニュース、書籍などを読み、自身の問題関心を深めておくこと
・講義の復習をしておくこと
期末のレポート課題は、上記2点を掛け合わせた内容になる予定です

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	幼稚園教諭、都内子ども家庭支援センターでの勤務経験、現在も継続的に行っている巡回保育相談での経験を生かし、事例紹介や保育の現場における実態について具体的に紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	調乳等の実践的な活動や、子どもにとってふさわしい環境の設定等についてディスカッションを行い、より具体的に実践的な授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	衣生活学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし
教授	山村 明子	指定なし

授業概要(教育目的)	衣服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能から成る。したがって、衣服について学ぶには、服飾美学、被服構成学、被服材料学、被服管理学、被服衛生学等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う衣服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、衣生活に関する基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣服に求められる課題について考える。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	快適な衣生活を構築するために必要となる知識を理解する
思考・判断の観点 (K)	快適な衣生活を送るための適切な選択ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣服とは何か	JISに規定されている衣服に関する用語について学び、そこから衣服とはどのようなものであるかを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	衣服の機能	世界各地の民族服飾の例から、衣服は多様な機能を持つことを理解する。	復習として授業内容を振り返るとともに、授業で指示をする課題を行う。	180分
第3回	日本の服飾の変遷	日本の服飾文化の変遷を現代から古代までさかのぼり、服飾文化と日本の社会状況とのかかわりを理解する。	復習として授業内容を振り返り、授業で指示をする課題を行う。	180分
第4回	衣服と身体環境	身体の生理的特徴と、衣服の機能の一つである温熱環境の維持について理解する。	予習として教科書「5章1節 暑さ・寒さから身を守り快適に着る」を読む。	180分
第5回	既製衣料品のサイズ表	JISに規定されている衣料品のサイズ表示の基本情報と、世界で流通している衣料品のサイズ表示、サイズ表示に	予習として教科書「4章2節 衣服のサイズ表示」を読む。復習	180分

	示	関する消費者問題について理解する。	として授業内で指示をする課題を行う。	
第6回	中間試験 および 色彩とファッション(1) 色彩のはたらき	第1階から5回までの授業内容について中間試験を行う(30分間)。後半は、色彩に関する基礎知識として、色とは何か、そして色の三属性について解説する。	中間試験に備えてこれまでの授業の振り返りを行う。	180分
第7回	色彩とファッション (2)デザインの表現と色彩	色彩を系統的に理解するために、マンセル表色系、PCCSを取り上げ、カラーオーダーシステムの説明をする。さらに、衣服のデザイン表現に関係の深い、色の心理効果について解説する。	教科書第3章の「衣服を構成する色彩とデザイン」を読んでおくこと。	180分
第8回	衣服の材料 (1)繊維・糸の種類・特徴	布を構成する糸と、糸を構成する繊維について学ぶ。天然繊維と化学繊維、糸の種類、糸の太さ、糸の撚りなどについて理解する。	教科書第2章の「布を構成する糸」「糸を構成するいろいろな繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	衣服の材料 (2)布地の種類・特徴	衣服を構成する布について学ぶ。織物と編物の違いを理解し、それぞれの特徴を活かした衣服への用いられ方と消費性能について考える。	教科書第2章の「衣服を構成する布」を読んでおくこと。	180分
第10回	衣服の材料 (3)機能的繊維・加工	高性能衣服素材と加工の種類について理解を深める。衣生活のなかで身近にある高性能繊維素材について考える。	予習として教科書第8章を読んでおく。	180分
第11回	衣服の管理 (1)衣服の汚れと洗たく	汚れの種類、着用による衣服の性能低下について考え、洗たくの必要性和洗たくの条件、洗浄作用について学ぶ。	教科書第6章の「着用による衣服の性能変化」から「洗たくに必要なもの」までを読んでおく。	180分
第12回	衣服の管理 (2)家庭洗たくと商業洗たく	家庭洗たくと商業洗たくの違いを学び、商業洗たくを利用する際の正しい判断基準を身につける。	教科書第6章の「家庭洗たくと商業洗たく」を読んでおく。	180分
第13回	衣服の管理 (3)衣服の管理	洗たく以外の衣服の手入れとして、しみ抜きや漂白について理解する。さらに、適切な衣服の保管について考える。	教科書第6章の「洗たく以外の衣服の手入れ」を読んでおく。	180分
第14回	既成衣料品の取扱い表示	「繊維製品の洗たく等取扱い絵表示」に代表される、既成衣料品の取扱い絵表示について、絵表示の意味を正しく理解する。	教科書第6章の「衣料取り扱い絵表示」を読んでおく。	180分
第15回	現代生活における衣生活経営	本講でこれまで学んだ衣生活についての基礎的内容を踏まえ、現代生活における衣生活の課題として、環境に配慮した衣生活について考える。	予習として教科書第7章を読んでおく。期末試験に備えてこれまでの授業の振り返りを行う。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 平常点（小テスト）では要点の理解を確認する。中間・期末試験では授業内容全体の理解を問う。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間・期末試験	○	○	○	
平常点（小テスト）	○		○	

評価割合 平常点（小テスト）：15% 中間試験：30% 期末試験：55%

使用教科書名 (ISBN番号) 『消費者の視点からの 衣生活概論』菅井清美・諸岡晴美 編著、井上書院 978-4-7530-2323-3

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】快適な衣生活を構築する能力を有することで「質の高い生活」の本質が理解できる 【思考・判断】快適な衣生活を送るための適切な選択ができることで、生活における諸問題を解決するための考察ができる 【関心・意欲・態度】衣生活を多角的に学ぶことで情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる

オフィスアワー	山村 月曜日2時限 井澤 水曜日3、4時限	
学生へのメッセージ	本授業で学ぶ内容は、1年後期以降のファッション系の授業の基礎となり、また、教員採用試験や各種検定試験につながる。よく復習をして、今後の授業に活かしてほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし
助教	松本 幸子	指定なし

授業概要(教育目的)	衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造および構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い(サンプルづくり)、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究(ハーフパンツの製作)およびステップアップ課題(ブラウスの製作)を取り上げる。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。
------	-------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	洋服の基本的な構造および構成方法を理解し、日常の衣生活に活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、さまざまな被服材料を用いた衣服デザイン製作に活用しようとする事ができる。
技術・表現の観点 (A)	ミシン縫製の基礎技術、基礎手縫い技法を学ぶことで、衣服製作でのファッション表現の基礎技術を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの製図、布地の説明	本授業の概略を説明する。ハーフパンツのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、ハーフパンツの製図を描く。実習に必要な、裁縫道具とハーフパンツの材料の説明をする。実習の概要を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。裁縫道具とハーフパンツの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第2回	ハーフパンツの裁断、しるしつけ	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。ここでは、裁断、しるしつけについて学ぶ。	しるしつけまでを終わらせる。ミシンの種類やミシンの付属品について確認しておく。	40分
第3回	直線ミシ	本縫いで使用する直線ミシン、ロックミシンの使い方の	脇縫い、ポケット作りまでを終	60分

	ン、ロックミシンの説明、ハーフパンツの脇縫い・縫い代の始末、ポケット作り	説明をする。その後、脇縫い、ロックミシンを使用した縫い代の始末、ポケット作りの説明をする。ここでは、ミシンで縫うためのまち針の打ち方を学び、用途に応じたミシンでの作業に慣れるようにする。	わからせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	
第4回	ポケットつけ、股下縫い・縫い代の始末、裾上げ	ポケットつけでは、ポケット口の縫い方の説明する。ポケットつけの点検をし、股下縫い・縫い代の始末、裾上げの説明をする。裾上げの方法として三つ折り縫いのやり方を理解する。	ポケットつけ、股下縫い、裾上げまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分
第5回	股上縫い・縫い代の始末、ウエストの始末・ゴム通し、ハーフパンツの仕上げの説明、ハーフパンツの提出、レポート提出	股上縫いでは、二度縫いの説明をする。ウエストの始末ではゴム通しの作り方、平ゴムの通し方を学ぶ。最後にハーフパンツの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。完成した作品の仕上げ方を理解する。ハーフパンツの提出、レポート提出。	股上縫い、ウエストの始末・ゴム通し、仕上げまでを終わらせ、最終提出日までにハーフパンツ、レポートを提出する。	60分
第6回	人体計測、ブラウスのデザイン説明、ブラウスの製図、布地の説明	新しい課題であるブラウスのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、ブラウスの製図を描く。ブラウスの材料の説明をする。課題について理解する。	ブラウスの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第7回	ブラウスの裁断、しるしつけ	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	40分
第8回	仮縫いの説明、ブラウスの仮縫い	仮縫いに用いるしつけ糸、縫い針について解説する。ブラウスの仮縫い（手縫い）の仕方を説明する。仮縫いで使用する手縫いの技法、仮縫い独特の後ろ明きの作り方、裾上げの仕方を学ぶ。試着点検時の服装について説明する。	仮縫いを終わらせる。試着点検、基礎縫いについてプリントで確認しておく。	90分
第9回	基礎縫いの説明、ブラウスの試着点検、補正の説明	基礎縫い（手縫い）の説明をする。ブラウスの縫製段階で使用する縫い方として、手縫いの技法を学ぶ。ブラウスの試着点検、補正の説明をする。仮縫いしたブラウスを試着点検することで、その必要性を理解する。	補正があった場合は、しるしを新たにつけておく。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	40分
第10回	ブラウスの本縫い、肩縫い・縫い代の始末、見返しの裁断	先に脇、後ろ中心の縫い代にロックミシンをかけ、縫い代の始末をする。ブラウスの本縫いとして、しつけをかけミシンで縫うことを学ぶ。衿ぐりの始末、袖ぐりの始末に使用する見返しの裁断をする。	ブラウスの本縫い、肩縫い、見返しの裁断まで終わらせる。基礎縫いを提出日までに終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	60分
第11回	見返し作り、接着芯の説明・接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫い、見返しつけ、基礎縫いの提出	接着芯の特徴について説明をする。見返しに接着芯を貼り、しるしをつけ、見返しを縫う。衿ぐり、袖ぐり部分の見返しつけの説明をする。見返しつけ独特のまち針の打ち方、しつけのかけ方、ミシンのかけ方を学び、なぜそうするのかを理解する。基礎縫いを提出する。	見返し作り、接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫いまで終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第12回	見返しつけ、後ろ中心縫い	見返しつけを完成させるために、縫い代の始末、おさえミシンのかけ方の説明をする。見返しつけを完成させ、後ろ中心を縫う。見返しつけの点検をする。	見返しつけ、後ろ中心縫いまで終わらせる。ファスナーの種類について調べる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第13回	ファスナーつけ、ファスナーつけの始末	ファスナーつけに使用する、コンシールファスナーについて理解する。縫い代に貼る伸び止めテープの説明、コンシールファスナーのつけ方および押さえがねの説明をする。コンシールファスナーのつけ方を学ぶ。ファスナーつけの点検をする。	ファスナーつけを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第14回	脇縫い、見返しの始末、裾の始末	脇縫いをし、見返しの下方部分にロックミシンをかける。見返しの始末、裾の始末の説明をする。見返しの始末には、基礎縫いで学んだ縦まつり、星止め、千鳥がけ	脇縫い、見返しの始末、裾の始末を終わらせる。ブラウスの仕上げについてプリントで確認し	90分

		を用いる。裾の始末にはロックミシンをかけた後、奥まつりを用いる。基礎縫いで学んだ技法を理解する。	ておく。レポートを作成しておく。
第15回	ブラウスの仕上げの説明、ブラウスの提出、レポート提出	ブラウスの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。授業で製作した課題についての総括をする。ブラウスの提出、レポート提出。	ブラウスの仕上げをし、最終提出日までにブラウス、レポートを提出する。

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	毎回の授業で、作業内容が理解されているか、作業進度を確認している。作業のポイントといえる箇所です必ず点検を行い、間違いがあれば訂正を促す。提出した作品については、返却時にコメントを書き、学生各自に作品の総合的な完成度を再確認させる。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	平常点は、授業参加状況と授業時の作品製作への取り組みを総合的に評価する。課題（作品）評価は、授業時の説明を正しく理解しているか、さらに縫製技法を正しく習得しているかを評価する。レポート評価では、レポート課題の各項目について授業時の説明とも照らし合わせ、書かれている内容を総合的に評価する。これらを下表に示す力を養うことを目的に実施している。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常の授業参加	○		○	
課題（ハーパンツ、ブラウス）	○	○	○	○
課題（レポート）	○		○	

評価割合	平常点 (30%)、作品課題 (60%)、レポート課題 (10%)
------	-----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
-----------------	------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣服製作を学ぶことで、衣服製作の側面から家庭裁縫や被服教育の変遷を理解する機会を有する。</p> <p>【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。</p> <p>【技術・表現】日常の衣生活や、ファッション表現のための裁縫の基礎技法を体得することができる。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜1時限 1704ゼミ室（井澤）、木曜3時限 1808ゼミ室（松本）
---------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	第1回目の授業から実習を行うので、履修希望の学生は必ず出席してください。授業時間外の作業も多いので、実習内容は次回まで持ち越さないほうが良いと思います。わからないことがあったら、遠慮なく担当教員に質問に来てください。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食品学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	本科目では食品の成分について広く理解することを目的とする。食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化する。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。本科目では、これら食品中に含まれる成分の性質とその機能（栄養性、嗜好性、生理機能）について解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各種食品成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。食品における成分間反応による嗜好性や栄養性の変化について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人と食べ物	人類の歴史における食の移り変わりや食をめぐる環境問題など、人と食べ物とのかかわりや、食生活の現状について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品成分を理解する-有機化学の基礎-	教科書3章以降で食品成分や成分間反応について学ぶために、本時において有機化学の基礎を理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の成分(水)	食品中の水の状態(結合水、自由水)と物性や貯蔵性との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食品の成分(炭水化物)	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分

第5回	食品の成分 (脂質)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食品の成分 (たんぱく質)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	食品の成分 (ビタミン)	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食品の成分 (ミネラル、核酸)	食品中のミネラルの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-6,7を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	味の成分	食品に含まれる味にかかわる成分の種類、構造、利用について学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	香りの成分	食品に含まれる香りにかかわる成分の種類、構造、性質について学ぶ。また、食品の調理・加工において二次的に生成する香り成分について理解する。	授業前に教科書第4章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	色の成分	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在、調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第4章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	成分間の相互作用	食品の酵素的褐変と非酵素的褐変の概要と食品学的意義を理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	食品の物性	食品におけるエマルション、サスペンション、ゾル・ゲルの関係について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	食品成分表	食品成分表の概要を知り、実際の食生活における食品成分表の利用について学ぶ。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 定期試験100%で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

評価割合 定期試験の得点 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号) 食べ物と健康I 第2版 (978-4-7598-1818-5)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。

オフィスアワー 後期：水曜日3,4時限目

学生へのメッセージ 私たちが毎日食べている食材に含まれる成分の特徴とその調理・加工における変化を中心に学んでいきます。高校や大学における化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくとう理解しやすいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生活演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	本科目は、現代社会における食生活の乱れ、食文化の衰退などの様々な問題について自ら調べたり、健康、時短などのコンセプトに沿った企業の製品開発に触れたりしながら、具体的にその解決法を考えグループごとに発表することを通して、問題を正しくとらえ解決する力、問題の原因から結果までをまとめて示す力を養うことを目的とする。また、受講者同士がそれぞれの発表に対して意見を出し、内容の改善を図りながら学習を進める。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	栄養学や食品学など、食生活領域の専門科目を履修していることが望ましい。
------	-------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人々の食生活をより豊かなものにするために必要な基本事項について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立作成や産学連携の取り組みに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	食生活に関して養った実践力を今後の食生活に活かすことができる。

学習計画

食生活演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業スケジュールを確認する。自身の食生活を振り返り、現代の食生活における諸問題を理解する。		0分
第2回	現代の食生活と栄養バランス	食事における栄養バランスについて、献立作成の基本、食事バランスガイドや栄養価計算などを用いた考え方を修得する。また、次時からのテーマ「健全な食生活のための献立作成と調理」に関する理解を深める。	授業後に、宿題として課された課題に取り組みこと。	90分
第3回	健全な食生活のための献立作成と調理(1)計画	個人で考えた献立をグループで突き合わせ、食事バランスガイドや食品成分表、レシピ集などを参考に、グループごとに、調理実習に向けた献立を1つ作成する。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第4回	健全な食生	食事バランスガイドや食品成分表、レシピ集などを参考	授業内で不足した準備を補って	45分

	活のための献立作成と調理 (2) 実習準備	に、グループごとに、献立を作成する。次時の実習のために必要な食材の品目と量をとりとまとめる。	おくこと。	
第5回	健全な食生活のための献立作成と調理 (3) 調理実習	グループごとに作成した献立について、調理実習を行う。実際の調理と試食を通して、自分たちが作成した献立を評価する。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第6回	健全な食生活のための献立作成と調理 (4) 発表準備	グループごとに、献立作成、調理実習、試食を通して学んだことをまとめ、次時に向けた発表準備を行う。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第7回	健全な食生活のための献立作成と調理 (5) 発表	グループごとに、2～6回目の授業での取り組みについての発表を行う。他のグループの発表を聞いてコメントし、互いの理解を深める。		0分
第8回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (1)	8～14回目の授業での取り組みについて説明を聞き、理解を深める。	授業後に、メニュー開発に関して課された課題に取り組むこと。	90分
第9回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (2) 実習準備1	8～14回目のテーマに関して課した課題について、まず個人で取り組み、それをグループ内で突き合わせ、グループとしてのレシピを決定し、実習に向けた準備を行う。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第10回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (3) 実習準備2	グループとしてのレシピを決定し、次時の実習に向けた準備を行う。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第11回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (4) 試作1	グループごとに作成したレシピについて、調理実習を行う。実際の調理と試食を通して、自分たちが作成したレシピを評価し、改善点を見出す。	試作により見出された問題等について改善策を検討しておくこと。	45分
第12回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (5) 試作1の見直し	前時の実習において見出された問題点を改善し、レシピを修正し、次時の実習に向けた準備を行う。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第13回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (6) 試作2	グループごとに改善したレシピについて、調理実習を行う。実際の調理と試食を通して、レシピや盛り付け計画を完成させる。	試作により見出された問題等について改善策を検討しておくこと。	45分
第14回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (7) 発表準備	試作を重ねて完成したレシピについて、そのコンセプトやアピール点についてグループごとにまとめ、次時に発表するための資料を作成する。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	90分
第15回	テーマに沿ったメニュー開発と実践 (8) 調理・試食・発表	グループごとに完成したレシピの本番調理を行い、他のグループの試食を行う。コンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。		0分

学生へのフィードバック方法	グループ作業に関しては、その都度教員からコメント・アドバイスをを行います。
評価方法	グループ作業（課題に対するディスカッション、実習等）への参加態度を評価します。個人で取り組む課題を3回程度、グループで取り組む課題を2回程度課します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ作業			○	
提出された課題の内容	○			
発表	○			○

評価割合	平常点 (40%)、課題 (30%)、発表 (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
オフィスアワー	前期：水曜日2時限目～昼休み時間（竹中） 水曜日5限目（伊藤）
学生へのメッセージ	グループでの作業（課題に対するディスカッション、実習等）を多く取り入れた授業です。食生活について自ら考え、実践する意欲をもって取り組んでください。実習の食材費として、2000円程度徴収する予定です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリアデザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>インテリアデザイン演習Aに引き続き、商業施設と住まいのインテリア設計の2課題を出題する。授業ではまずデザインの現状を知るために実例を調査・研究させる。また詳細図、建具図、家具図による室内空間の表現方法ならびにパースの描き方、模型制作の手法などのインテリア空間のプレゼンテーションの手法を説明し、演習課題により修得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1課題 7回『カフェの内装設計』 ：都心のビルの1階部分を想定し、商業空間を考える。 【提出図面】平面図・展開図・天井伏図・内観パース（一点透視）・模型写真 ・第2課題 8回『マンション1室のリフォーム』 ：ファミリータイプのマンションを想定し、リフォーム案を作成する。 【提出図面】平面図・展開図・天井伏図・アクセソメ・模型写真
履修条件	インテリアデザイン演習Aの単位取得済を履修条件とする。また1回の校外授業で交通費、模型製作などで材料等の実費負担が必要になる。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	建築、インテリア系の講義で得た知識を利用して、インテリア設計を実践する。カフェ（商業施設）やファミリー向けマンションの一室を例に、社会や家族を扱う計画を立てる。
思考・判断の観点 (K)	どういったカフェや住宅が社会で求められるのか、現実的な、あるいは斬新な発想ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	周囲にある物や空間の寸法、使われている素材や色、照明計画などが理解できる。
技術・表現の観点 (A)	他者の理解や興味を引き出すための図面や模型表現、説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課題『カフェの内装設計』説明、実例研究	第1課題『カフェの内装設計』について説明します。次に実例研究を行います。	図書館等で建築、インテリアの専門誌から情報を集めてA3用紙にまとめてきてください。	90分
第2回	実例研究発表	各自が目にしたインテリア(カフェ)実例作品をA3用	前日18:00までに2件の実例を	90分

	表	紙にまとめ、説明していただきます。	集め、それぞれ図面や写真、作者の作品コンセプトをA3用紙にレイアウトしてまとめて提出してください。全員分をコピーし全員に配布します。	
第3回	平面、断面検討	平面、断面のエスキースをはじめます。模型では床、壁、天井の部材を切り出し、空間の大きさを確認します。	授業時間内で出来なかったエスキースを進めてきてください。	90分
第4回	校外学習	設定された空間を見学し、そこに求められるカフェのあり方を検討し、都市との関係を考えて見ます。	設定空間周辺や商業施設にあるカフェも観察し、現代のトレンドを探ります。	90分
第5回	パース作図	一点透視図法（パース）について解説し、作図をします。	授業時間内で出来なかった作業を進めてきてください。	90分
第6回	模型提出、撮影方法検討	完成模型を提出していただき、一次採点を行います。ブラッシュアップについて指導をします。また演習室内にライティングされた撮影場所を設営し模型写真の撮影を行います。	当日模型が間に合うように準備してきてください。図面については各自進めてきてください。	180分
第7回	レイアウト図面提出、手直しについて指導	A2レイアウト用紙に図面をレイアウトします。手直しについて指導	レイアウトをケント紙等にコピーし、彩色、模型写真を貼付し、プレゼン図面を完成させてください。	90分
第8回	第1課題講評会（試験に該当する）、第2課題『マンション1室のリフォーム』説明	ポスターセッションで指導教員や他の履修生に対して自己の作品を説明していただきます。他者の作品についても感想や質疑を行います。第2課題『マンション1室のリフォーム』の課題説明を行います。	口頭発表で何を伝えるかを整理し臨んで下さい。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	90分
第9回	実例研究発表	各自が注目したインテリア（マンションのリフォーム）実例作品をA3用紙にまとめ、説明していただきます。	前日18:00までに2件の実例を集め、それぞれ図面や写真、作者の作品コンセプトをA3用紙にレイアウトしてまとめて提出してください。全員分をコピーし全員に配布します。	90分
第10回	平面、断面検討1リビング、ダイニング、キッチン	リビング、ダイニング、キッチンを中心に平面、断面、寸法の検討（エスキース）を行います。模型では床、壁、天井の部材を切り出し、空間の大きさを確認します。	授業時間内で出来なかったエスキースを進めてきてください。	90分
第11回	平面、断面検討2サニタリー、寝室	サニタリー、寝室を中心に平面、断面、寸法の検討（エスキース）を行います。	授業時間内で出来なかったエスキースを進めてきてください。	90分
第12回	インテリア仕上検討	インテリアで使用する素材やウインドウトリートメントなどを検討します。	授業時間内で出来なかったエスキースを進めてきてください。	90分
第13回	アイソメ作図	平行透視図法（アイソメトリック図法）について解説し、作図をします。	授業時間内で出来なかった作業を進めてきてください。	90分
第14回	模型提出、撮影方法検討	完成模型を提出していただき、一次採点を行います。ブラッシュアップについて指導をします。また演習室内にライティングされた撮影場所を設営し模型写真の撮影を行います。	当日模型が間に合うように準備してきてください。図面については各自進めてきてください。	180分
第15回	レイアウト図面提出、手直しについて指導	A2レイアウト用紙に図面をレイアウトします。手直しについて指導を行います。	レイアウトをケント紙等にコピーし、彩色、模型写真を貼付し、プレゼン図面を完成させてください。	90分
第16回	第2課題講評会（試験に該当する）	ポスターセッションで指導教員や他の履修生に対して自己の作品を説明していただきます。他者の作品についても感想や質疑を行います。	口頭発表で何を伝えるかを整理し臨んで下さい。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	90分

学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、カフェとマンション1室のリノベーションの2課題が出される。基本的には実例調査、エスキース、作図、模型製作、写真撮影、レイアウトの手順で作品を完成させ、課題提出後にポスターセッション方式で採点及び講評が行われる。学生どおしの意見交換も行う。
評価方法	平常点（毎回のエスキース）、課題点（図面、模型）、プレゼンテーション（口頭発表）により総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模型	○	○	○	○
図面	○	○	○	○
口頭発表 (プレゼン)	○	○	○	○
エスキス			○	

評価割合	平常点 (毎回のエスキス) : 10% 模型提出時 / 1次採点 : 10% 講評会のプレゼンテーション / 2次採点 : 30% 最終提出作品 (図面・模型) / 3次採点 : 50%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	商店建築 (月刊)、新建築 (月刊)、住宅特集 (月刊)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、商業施設や生活空間の知識を得ること、理解することができる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、インテリア設計の中で解決する。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題をインテリアの形で解決する。
オフィスアワー	水曜日 3時限目・金曜日 3時限目 (大宮司)
学生へのメッセージ	インテリアデザイン演習A・Bは、これまであなたが受講したインテリア計画、インテリア設計論、設計演習などで得た知識・経験を、実践に移す授業です。そのため、プロの現場で必要不可欠なインテリアのディテールも学んでもらおうと考えています。ディテールと聞くと、とても難しいもののように思えますが、どうぞ安心してください。楽しくトレーニングできるよう課題を用意しています。ぜひ一緒にがんばりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも一級建築士資格を有しており、またインテリアおよび建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	インテリアCAD演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	建築設計においてCADの基本操作を身に付けることを目的とし、建築製図法の基本を確認していただく。ソフトウェアはVectorWorksを使用し、基礎的操作から2次元図面作成、さらに3次元モデリングや写真を貼りこんだレイアウトなど、プレゼンテーション図面を適切に表現するための必要な知識と技法を教示し、それらを演習によって修得する。
履修条件	基礎的な建築製図力、立体把握力を必要とするため、設計製図演習A～Dについて単位取得済であることを履修条件とする。ソフトウェアのライセンス数やパソコンの台数に限りがあるため、履修人数の制限と調整を行う場合がある。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	建築の図法および平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点(K)	立面(断面)図と平面図の相互関係を読み取り立体にすることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	操作を多くこなし、作業スピードの高速化が達成できる。
技術・表現の観点(A)	他人を惹きつけるプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション・CADソフトの取り扱い	建築インテリア業界で使われているCADのソフトの現状や、授業で使用するソフト「VectorWorks」について概要を説明します。	設計製図演習CまたはDでそれぞれが作成した課題をCAD描画するので、そのときの図面を準備してください。	45分
第2回	2次元(平面)CAD基本描画(1)線	最初に2次元(平面)CADの基本描画(操作画面の説明、線の引き方、座標の見方)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第3回	2次元CAD基本描画(2)図形	2次元(平面)CADの基本描画(図形の描画)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分

第4回	2次元CAD基本描画 (3)住宅の平面図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の平面図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第5回	2次元CAD基本描画 (4)住宅の断面図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の断面図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第6回	2次元CAD基本描画 (5)住宅の展開図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の展開図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第7回	画像ファイルの取り込み・レイアウト	CAD図面内に写真(JPEG)データを貼り込む方法、レイアウトをする方法を身に着けます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第8回	CADデータの扱い方 (1)	CADで作成したデータについて出力方法(プリントアウト、PDF化)を身につけます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第9回	3次元(立体)CAD基本描画 (1)住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成)1回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第10回	3次元(立体)CAD基本描画 (2)住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成)2回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第11回	3次元(立体)CAD基本描画 (3)住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成)3回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第12回	3次元(立体)CAD基本描画 (4)住宅のパース描画	3次元(立体)CADの基本描画(住宅のパース描画)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第13回	CADデータの扱い方 (2)	CADで作成した立体データについて出力方法(イメージファイル化)を身につけます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第14回	最終提出課題作成 (1)	身に着けた技術を使って2次元及び3次元の最終提出課題を作成します。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	180分
第15回	最終提出課題作成 (2)	身に着けた技術を使って2次元及び3次元の最終提出課題を作成し、最後にデータとプリントアウトしたものを提出します。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	45分
第16回				

学習計画注記	担当教員が履修生全員の作業を見ながら演習を進めるため、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	学内のパソコン室を利用する。テキストは無く、その場で全体または個別に指導を行い、技術を修得していく。
評価方法	毎回の課題進行状況(平常点)および提出課題によって、作図力、理解度、空間把握力などを総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出図面 (プリントアウト)	○	○		○
提出図面 (データ)	○	○		○
平常点			○	

評価割合	提出課題による。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし、必要なマニュアルは配布します。
参考URL	http://www.aanda.co.jp/OASIS/index.html
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し自主的に作業を進めることができる。</p> <p>【技能・表現】履修で得た専門的スキルをもって課題を論理的に分析し表現することで他者の共感を創ることができる。</p>
オフィスアワー	月曜日3時限目・水曜日3時限目 (1808ゼミ室)
学生へのメッセージ	<p>履修にあたり個人でパソコンを用意する義務はないが、現代社会においてパソコンのスキルは必修になっている。これを機会に自宅でもパソコンを用意し、ワープロソフトの操作やインターネット接続環境を整備し、パソコンのスキルアップを図ってほしい。</p> <p>なお、授業で使用するVectorWorksは高価なソフトだが、インテリアCAD演習履修者に限り年間10,800円でライセンスを使用できる制度があり、自宅でも使用できる。</p> <p>テキストは無く、その場の指導で操作を覚えていく方式のため、遅刻や欠席への対応は難しい。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はVectorworks操作技能認定を受けており、またインテリアおよび建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	CAD自体がICTの一部となっているが、さらにインターネット上から造形素材をダウンロードして使用するなど、ICTを積極的に活用した授業となる。

シラバス参照

講義名	建築調査		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要 (教育目的)	都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。
履修条件	特に定めない

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る
思考・判断の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る制度を知る
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想のまちづくりを考える能力を身につける
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを他者に伝える (プレゼンテーション) 能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	イントロダクション	建築・都市の個性とは何か？ まちづくりの現状を知る	自分の住んでいる町の都市計画についてインターネット等を利用して調べる	90分
第2回	建築・町並みの調べ方	文献調査、実測調査、聞き取り調査、その他の調査方法、文化財建造物の調査の方法 (DVD)	インターネットで門司 (福岡県) の現状を調べる	90分
第3回	東京の歴史的建造物	東京の文化財建造物の特徴、谷中のまちづくり (DVD)	見学会に向けて、見学先の興味がある建物の下調べをする	90分
第4回	見学会 1	東京駅周辺の歴史的建造物を実際に見る 東京駅、旧東京中央郵便局、三菱一号館、明治生命観、日本工業倶楽部、等	調査結果をまとめる	90分
第5回	プレゼンテーション 1	見学会 1 で見学した歴史的建造物からひとつ選び、レポート (A4レポート用紙3枚) を作成するとともに【課題 1】、その内容を5分程度で発表する。また、同級生の発表に質疑を行う	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、レポートを完成させる	90分

第6回	諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくり	建築保存の歴史、各国の文化財保護関連法、各国の都市計画関連法	わが国と諸外国の町の景観の違いを整理する	90分
第7回	わが国の建築保存とまちづくり	わが国の建築保存の歴史、文化財保護法、景観法、歴史町づくり法	重要伝統的建造物群保存地区からひとつ選び、その特徴をまとめる	90分
第8回	文化財建造物の保存	国宝・重要文化財、登録有形文化財、伝統的建造物群保存地区、文化的景観 上野清水堂の保存・修復 (DVD)	江戸の都市計画についてまとめる	90分
第9回	文化財建造物の修復	保存修復の手順、保存修復の現場 大崎八幡神社の修復 (DVD)	大崎八幡の修復のDVDを見た感想文をまとめる	90分
第10回	さまざまな建築保存	わが国の建築保存の実例、山形県庁舎の保存 (DVD) 建築保存に携わる職人、薬師寺金堂 (DVD)	宮大工について調べる	90分
第11回	復原を考える 歴史的建造物の防災	復原に関する議論、オーセンティシティと復原 三菱一号館の復原、朱雀門の復原 (DVD) 文化財防災の法制度	インターネットで三菱一号館の復原のけいについて調べる	90分
第12回	銀座・日本橋の歴史的建造物	銀座・日本橋の歴史的建造物の特徴	インターネットを用いて各建造物の来歴、特徴等について調べる	90分
第13回	見学会2	銀座、日本橋の歴史的建造物を実際に見る 日本橋、日本銀行本店、三井本館、三越本館、高島屋、明治屋、等	調査結果をまとめる	90分
第14回	プレゼンテーションの手法を学ぶ	PPTの作成の方法を学ぶ。ソフトの使い方から、有効なスライドの作成方法を、課題2を通して学ぶ	課題2のPPTを作成する	90分
第15回	プレゼンテーション2	見学会2で見学した歴史的建造物をひとつ選び、それぞれの建築についてPPTで10分程度のプレゼンテーションを行う【課題2】	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、PPTを完成させる	90分

学生へのフィードバック方法 採点したレスポンスシートを返却する。また、受講者のそれぞれのプレゼンテーションに対し、詳細にコメントする

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・ふたつの課題に対しては、プレゼンテーション、課題、他の受講者への質問内容の3点を評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度	○	○	○	
課題	○	○		○

評価割合 授業態度（レスポンスシートで評価する）30%と課題（第一課題30%、第二課題40%）で評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 特に定めない

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
- 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー 月曜2限 1702室

学生へのメッセージ この授業は「まちづくり」に関する授業です。画一的なまちづくりが否定される現在、地域らしさを出すために、建築保存が脚光を浴びるようになってきました。また、こういった問題は、しばしばマスコミによって取り上げられます。日頃から、新聞記事などのチェックが重要となります。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、歴史的建造物の修理工事等の委員会の委員を務めるなど、歴史的建造物の保存業務に関わる仕事を兼務しており、その経験をいかして授業を行っている
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、ディスカッション等の教育内容を含む
情報リテラシー教育	○	図書館の利用、インターネットを利用した情報収集、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎ゼミ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この授業では、企業活動と生活、各領域の研究と生活、社会見学を通して、現代家政学科の学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた学習課題をより具体化することを目的とする。主に教室での講義と校外施設等の見学を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	現代家政学科4領域の学びを、実社会にどのように活かせるかを考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政演習で各自が見つけた学習課題について、興味・関心を持ち続ける。
技術・表現の観点 (A)	社会見学で得た知識や発見した諸問題について、自分の意見をレポートにまとめ、さらに口頭での発表を行うことが出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス (各領域ゼミの事前説明、後期時間割の確認)	基礎ゼミでは、全体での授業のほか、少人数でのゼミ形式の授業や学外での社会見学を行うので、それぞれの授業内容や学科での学びとの関わりについて理解する。各領域ゼミと社会見学は、各自の希望にそって所属を決めるため、希望調査を行う。	学生便覧、シラバスの授業概要を確認しておく。前期の「現代家政演習」で見つけた学習課題を再検討する。各領域ゼミの希望調査を行うので、配布資料をよく読み、配属希望を考える。	90分
第2回	各領域の研究と学科での学びとの関わり1 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第1回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第3回	現代家政学科の学びと	【校内特別授業】 NTTドコモのCSR部長の講演を聞く。現代家政学科の4領域が有機的に関連して人々の「くら	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べ	90分

	実社会との関わり ① (外部講師による講演)	し」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の1回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	ておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	
第4回	各領域の研究と学科での学びとの関わり2 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第2回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第5回	社会見学の事前説明1 (見学先紹介)	後期後半に実施する社会見学について説明する。各領域に関連した施設や展示会等の見学を行うので、見学先と学科での学びとの関わりについて理解する。4領域のうち2領域(学生1人が2回)の見学に参加するので、希望調査を行う。見学終了後は見学レポートを提出する。なお、1ヶ所については口頭発表を行う。	これまでの各領域ゼミでの学びについて整理する。社会見学の希望調査を行うので、配布資料をよく読んで、見学先の希望を考える。	90分
第6回	各領域の研究と学科での学びとの関わり3 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第3回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第7回	各領域の研究と学科での学びとの関わり4 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第4回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第8回	社会見学の事前説明2 (見学先決定)、社会見学発表会の事前説明	各自が参加する見学先を把握する。社会見学に参加する際の注意事項、見学レポートの書き方、社会見学の口頭発表についての説明を聞き、見学に備える。	決定した見学先について、事前の配布資料を確認し、ホームページ等で基本情報を調べておく。見学レポートの書き方にそって、どのような観点で見学に参加するかを考える。	90分
第9回	特別公開講座への出席	本学では毎年、大学の教育内容に関連した著名人等を招いて、特別公開講座を実施しているのので、それに出席し、講演を聞く。 (特別公開講座の出席を基礎ゼミの出席回数に含む。)当日配布されるコメントシートを記入する。	講演者について、事前にホームページや関連書籍等で情報収集しておく。講演後、今後の学びや暮らしにどのように活かせるかについて考察する。	90分
第10回	社会見学1	【校外授業】決定した社会見学に参加する。(1と2で1回分) 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第11回	社会見学2	【校外授業】決定した社会見学に参加する。(1と2で1回分)	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第12回	社会見学3	【校外授業】決定した社会見学に参加する。(3と4で1回分) 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第13回	社会見学4	【校外授業】決定した社会見学に参加する。(3と4で1回分)	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第14回	現代家政学科の学びと実社会との関わり ② (外部講師による講演)	【校内特別授業】食品ロス削減や環境問題に取り組んでいるパイオ関連企業GMの講演を聞く。企業による講演の2回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	90分
第15回	学びの振り返りとまとめ	これまでの授業の振り返りとまとめを行う。社会見学1ヶ所について、パワーポイントを使用して3分間の口頭発表を行うので、パワーポイントの使用法や今回の発表の形式について理解する。パワーポイントのデータはGoogleClassroomで提出する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。	これまでの授業を振り返り、まとめておくこと。発表する見学先について要点を絞り、どのようにパワーポイントにするか考えておく。パワーポイントの使用法の不明点は解決すること。作成したデータはGoogleClassroomで提出する。口頭発表3分間の原稿も作成し、練習を行うこと。	90分

社会見学は、時間割以外の日時に行う場合もある。
社会見学は、2回分の時間を予定している。

学生へのフィードバック方法

- ・各領域ゼミでの課題やコメントシートについては、各授業にて解説する。
- ・社会見学レポート、校内特別授業のコメントシートについては、振り返りの中で解説する。
- ・パワーポイントを使用した口頭発表については、発表会終了時に全体に向けた教員からのコメントを伝える。

評価方法

- ・平常点は、校内特別授業、各領域ゼミおよび社会見学での授業内活動への参加状況、指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。
 - ・各領域ゼミでの課題等と社会見学レポートは、指示された内容に沿って作成されているかを見学担当教員が評価する。
 - ・パワーポイントを使用した口頭発表は、指定された内容に沿ってパワーポイントが作成され、3分間の口頭発表が出来ているか等を担当教員が評価する。
- ※レポートと口頭発表は、指示された形式や締切期日を提出されたか等も評価に含める。なお、指示された形式を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題・レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合

平常点（授業への参加状況・課題への取り組みの総合評価）60%、課題（各領域ゼミの課題・社会見学レポート・口頭発表）40%

使用教科書名 (ISBN番号)

プリント等を配布する予定。

参考図書

適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
- 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

第1回目の授業で配布する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。

学生へのメッセージ

前期「現代家政演習」の内容を振り返り、将来の希望を考えておく。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	(第3回) NTTドコモのCSR担当部長 (CSR: 企業の社会的責任) による講演。NTTドコモの「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」活動やケータイ安全教室、災害時の対応、さらに最新の活動内容について伺う。 (第14回) バイオ関連企業のGMによる講演。大手コーヒーチェーンでの食品ロス削減に対する取り組みや現在の世界的な環境問題に関する活動等を伺う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用した口頭での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してパワーポイントデータの提出を行う。

シラバス参照

講義名	ファイナンシャルプランニング入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳 佳枝	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>実生活において必要となる経済関連の知識として、FP（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野を対象とし、そのうち特に「年金（ライフ）」「金融」「タックス」に重点を置く。単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、疑問を持ったら積極的に質問してほしい。</p>
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	税制や社会保険制度について理解する。 経済の基本的仕組みを理解する。
思考・判断の観点 (K)	自分の目標に向かうためのプランニングができる。 複数の選択肢から合理的選択ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身の将来に向けて、キャリアプラン、ライフプランを構築する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	基本的な収入支出貯蓄額、税額、金利などの算出ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：パーソナルファイナンスの全体像	パーソナルファイナンスとは何か。個人のライフプランの全体像を俯瞰し、収入・支出・貯蓄・ローンなど社会人として自己責任で選択すべきことの全体の流れを理解する。	予習：教科書の序章・第1編(2～19ページ)を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントをよく理解しておくこと	120分
第2回	ライフプランニングと資金計画	人生の3大資金といわれる「住宅」「教育」「老後」資金について、具体的な貯蓄方法とローンの考え方を理解する。	予習：教科書第2編(22～33ページ)を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第3回	キャッシュフロー表の作成	自身の収入・支出・貯蓄残高について、長期的に予測するために、キャッシュフロー表の作成方法について理解し、実践する。	予習：教科書第8編(260～277ページ)を読んでおくこと 復習：キャッシュフロー表の構造や作成方法を十分理解し、自	180分

			分自身で作成できるようにしておくこと	
第4回	社会保険制度と年金制度	日本において加入が義務づけられている社会保険制度を理解し、給付と負担の関係、特に負担の重さを認識する。	予習：教科書第2編（34～59ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第5回	タックスプランニング（1）日本の税制と所得税	日本の財政、特に歳入の柱である税収について認識し、税制の全体像と所得税の基本的仕組みを理解する。	予習：教科書第3編（62～67ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第6回	タックスプランニング（2）各種所得の計算	所得税は個人の所得を10種類に分けて計算する。それぞれの所得の内容と計算方法について理解する。	予習：教科書第3編（68～80ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと また、第2回から第6回までの内容について復習しておくこと	240分
第7回	タックスプランニング（3）所得税算出の流れ	10種類の所得から所得税を算出する過程として、14種類の所得控除および主要な税額控除について理解し、具体的なケースを用いて税額計算を実際に行う。授業の最後に、第1回ミニテストを実施する。	予習：教科書第3編（81～96ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第8回	リスクマネジメント	生命保険と損害保険について、予測できない損失に備える制度であることを理解し、自身や家族にとって必要な保障は何かを考える。	予習：教科書第4編（106～142ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと また返却されたミニテストで間違えた箇所について、見直しておくこと	240分
第9回	金融資産運用（1）経済・景気と金利	経済状況を示す指標として、GDP、景気動向指数などを学ぶ。資産運用を行う上での基盤となる「金利」とは何かを知り、その変動要因や利息計算方法を理解する。	予習：教科書第5編（144～153ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第10回	金融資産運用（2）預貯金・債券・株式	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品について理解する。具体的には元本確保型である預貯金と、資産を増やすためリスクを負って運用する投資性商品である、債券と株式について学ぶ。	予習：教科書第5編（154～167ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと また、第8回から第10回までの内容について復習しておくこと	240分
第11回	金融資産運用（3）投資信託・外貨建て商品	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品として、投資信託と外貨建て商品について学ぶ。授業の最後に、第2回ミニテストを実施する。	予習：教科書第5編（168～178ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第12回	不動産運用設計	個人が自宅や投資用として、不動産を購入・所有したり、また他者と賃貸契約を結んだりする際の法制度や税金について理解する。	予習：教科書第6編（184～211ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、返却されたミニテストについて間違えた箇所を見直しておくこと。	240分
第13回	相続・贈与の基礎（1）相続税	近年、高齢者から若年層への資産移転が重要となっている。民法における親族の考え方と相続税の基礎知識を学ぶ。	予習：教科書第7編（214～230ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、第12回と第13回の内容について復習しておくこと。	240分
第14回	相続・贈与の基礎（2）贈与税	相続を補完する概念である贈与について理解すると共に、時限的に実施されている教育資金や結婚・子育て資金の非課税贈与制度について学ぶ。授業の最後に、第3回ミニテストを実施する。	予習：教科書第7編（231～245ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	240分
第15回	まとめと学習到達度の総合確認テスト	ファイナンシャルプランニングの全体像について包括的まとめを行う。FP技能士試験の概要について理解する。最後に学習内容全般について、総合確認テスト60分を実施する。	予習：これまでの授業内容を総復習しておくこと	240分

学生へのフィードバック方法	第3回のキャッシュフロー表は、内容を確認して次週の授業にて返却する。 ミニテストは採点して、次週の授業にて返却し、解説する。
評価方法	・第3回の授業でキャッシュフロー表の作成を行い、提出。 ・ミニテストは直前2分野の学習内容について授業内に3回実施。1回あたりの問題数は10問で、正誤問題8

問、三択問題2問。
 ・第15回で実施する総合確認テストは、FP技能士3級レベルの問題80問。正誤問題50問、三択問題30問。
 ・キャッシュフロー表作成、ミニテスト、総合確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
キャッシュフロー表作成		○	○	○
ミニテスト	○			
総合確認テスト	○	○		

評価割合	第3回キャッシュフロー表の提出 (30%)、ミニテスト3回分 (30%)、第15回総合確認テスト (40%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students- [第4版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2016年発行
参考図書	10代から学ぶパーソナル・ファイナンス
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤として各種制度を理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	木曜2時限 非常勤講師室
学生へのメッセージ	FP (ファイナンシャル・プランナー) の知識は、今後の就職活動、将来の仕事、消費行動に役立ちます。まじめに授業を受ければ、初級のFP資格取得レベルの知識が身に付きますので、授業後は積極的なFP資格試験への挑戦を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融機関で20年以上の実務経験があり、ファイナンシャル・プランナー上級資格を持つ教員が、理論の説明にとどまらず、具体的な資産形成の手法や考え方について講義する。
アクティブ・ラーニング	○	キャッシュフロー表作成により、社会人になってから目標を実現するために行う、資産形成などについて具体的にイメージできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	情報伝達と表現		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 直弘	指定なし

授業概要 (教育目的)	現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の可視化」の流れのプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。
履修条件	上級生を優先する。また大学のPCの保有台数により定員は決定する。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	情報を収集する方法や画像加工の概念、情報リテラシーの理解力を説明できる
思考・判断の観点 (K)	蒐集した情報の整理と分類の能力を識別し、広告すべき対象の検討と表現方法を判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持てるように関与できる
技術・表現の観点 (A)	パソコン作業を通して、画像加工、DTP、美的表現、評価を体現できる

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	講義のオリエンテーション 情報伝達と表現の概要	情報とは何か？表現とは何か？様々な情報及び表現にさらされる現状を再確認を行う。広義の流れを確認し第一課題「辞典の作成」、第2課題は「広告作成」を行うことを確認する。	予習：「GOOD DESIGN AWARD 2018」をホームページで受賞作品を確認して、各々が気になる作品を見つける。	180分
第2回	広告デザインとコミュニケーション	情報伝達を主たるものの広告を主題に、その表現方法を理解する。また、各種表現の方法論を読み解く。	予習：我が国には各種広告に対する賞が存在する。(TCC賞、ADC賞、広告電通賞など) 日々目にする広告のよりよいといわれるものを見てみよう。また、各種媒体 (テレビ、インターネット、屋外広告) の広告を見てみましょう。	180分
第3回	インフォメ	情報伝達する媒体を確認し、媒体ごとの意味を考察す	予習：朝起きてから大学に来る	180分

	ーションデザインと実例	る。そこで、多岐にわたる情報を収集し、整理し、最低限必要な情報を提示する作業を行う。	までの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。(テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌)など気を付けてみて、素敵なものを探す。	
第4回	グラフィックデザインの要素(デザイン原理)	伝達手段としてグラフィックデザインを使用する。その際、必要な「色」について色彩学を基に原理と色における印象を考察する。	予習:日常生活のなかに様々な色に遭遇する。気分によりその受け取り方は変わるが、自分にとって好きな色を見つけ、携帯電話などで写真に収める。	180分
第5回	グラフィックデザインの要素(文字表現)	伝達手段としての文字の重要性を再確認し、書体、大きさ、色、文章表現による差異を確認する。また、5回から7回にかけて個人作業として情報を収集し、表現するDTP作業を行う。	予習:朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。(テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌)など文字表現を見つける。	180分
第6回	グラフィックデザインの要素(画像加工)	表現すべき情報を伝達するために画像を利用することが多々ある。写真などの画像の原理を確認し、DTP作業を行い、方法を学ぶ	予習:スマートフォンやプリント倶楽部など各種写真加工ができるツールがある。写真加工による効果を考察する。 復習:各人の課題の情報を収集する。	180分
第7回	グラフィックデザインの要素(法的規制)	表現は自由であるべきであるが、我が国における法的規制が存在する。写真や制作物には著者保護のための著作権などである。伝達する際の注意点などを学ぶ	予習:著作権法、知的財産基本法、ベルヌ条約など各種著作者を保護する法律をホームページ上で検索し概要を確認する	180分
第8回	情報伝達と表現の実践(情報収集とターゲットの検討)	第1回から7回にかけて情報伝達と表現の基礎をPC作業を通して実施した。そこで、身近な対象(家政学院大学現代生活学科の広告)を伝達するための方法を検討する。そのためにグループワークとする。	予習:作成している課題を完成させ、印刷を行う。	180分
第9回	情報伝達と表現の実践(コンセプトの作成)	伝達するためにはコンセプトが必要となる。コンセプト作成のための情報の整理方法を学ぶ	予習:それぞれが日常で気になる広告を探しそのコンセプトを考察し、レポートを作成する。	90分
第10回	情報伝達と表現の実践(中間発表)	作成したコンセプトを基にグループごとに方向性を講師に発表し、エスキースを行う。	予習:コンセプトを整理して、企画書としてまとまる。	180分
第11回	情報伝達と表現の実践(キャッチコピーの作成)	方向性(コンセプト)を基に情報を再度収集し、必要な文字を検討しパソコン作業を学び、作成する。	予習:コンセプトにあう文字情報をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第12回	情報伝達と表現の実践(画像加工)	方向性(コンセプト)を基に情報を再度収集し、必要な画像を検討し、表現方法を考察し、パソコン作業を学ぶ。	予習:コンセプトにあう画像をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第13回	情報伝達と表現の実践(制作物の校了と校正)	方向性(コンセプト)を基に採取した情報をとりまとめ、適切な形で表現を行い完成を目指す。また完成した広告物が印刷され製品化するまでの流れを学ぶ。	復習:作成した作品を再確認し校正を行う。	180分
第14回	情報伝達と表現の実践(プレゼンテーション資料の作成)	作成した伝達物は、他者に説明し理解をしてもらう必要がある。そのため、説明資料の作成する方法論を学び、次の発表のための資料を作成する。	予習:我が国には各賞レースが存在する。その際使用されるプレゼンテーション用紙を検索し確認する。また2025年に開催予定の大阪万博誘致プレゼンテーションを検索し確認する。	180分
第15回	情報伝達と表現の実践(プレゼンテーション)	作成した伝達物や他グループの作成物を自己評価し、価値の所在を検討する。	予習:プレゼンテーション資料を作成し、印刷を行う。サイズはA3とする。	180分

学習計画注記	なし
学生へのフィードバック方法	課題1および2において提出もしくは発表後、講評を行う。
評価方法	・講義では、基礎から実践まで行うため、各種レポート、第一課題は知識・理解、思考・判断の基礎部分を行い、第2課題は総合力を見る ・但し4回以上の欠席、第2課題未提出もしくは欠席の場合は単位は修得できません

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各種レポート	○			
課題 1	○	○	○	○
課題 2	○	○	○	○
評価割合	各種レポート10%、第一課題20%で基礎点として、第2課題は総合力として70%（内訳作成物40%、プレゼンテーション資料30%）とする。			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。適宜レジュメを配布します。			
参考図書	ヴィクター・パパネック著阿部公正翻訳『生きのびるためのデザイン』, 1974. 8. 1 各種デザイン大賞受賞作品掲載ホームページ（各自で興味ある分野で検索のこと） 各種デザイン大賞受賞作品			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。			
オフィスアワー	授業終了後30分程度			
学生へのメッセージ	現代社会には情報にあふれています。普段見ている書籍、新聞、雑誌、そしてCMなどの情報媒体がどのように表現して、何を伝えたいのか注意してみてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築分野で企画立案プレゼンテーションを業務で実施している。その中で使用するノウハウを提供する。		
アクティブ・ラーニング	○	講義と共にパソコン作業を取り入れ、講義広義内で得た知識をその場で実践し、技術を獲得する。		
情報リテラシー教育	○	情報を収集し使用する際の法的拘束や倫理観を講義し理解を促す		
ICT活用	○	講義の性質上、インターネットを利用し情報を収集し、ネットワークの基礎を学び、作成物の提出などで利用する。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要 (教育目的)	私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを教示するとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価する手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	[教職家庭科]家庭で使用されるエネルギーおよび情報の供給システムを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	[教職家庭科]家庭で使用されるエネルギーの視点から、その生活実態を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画を説明する。 家庭における主要な耐久消費財普及率の推移を知る。		0
第2回	「住まう」を考える	「住まう」「生活行為を改変すること」を理解する。 生活を定量的に知る／生活行為はエネルギー消費と室内環境に現れる 生活を変える／生活行為の改変には意識を変える何かが必要	配布資料(住まう)を復習して、自身の生活行為を考える	60
第3回	地球環境と生活環境(1)	地球環境のしくみを理解する。 地球の気象システム／地球の自律的活動／環境の入れ子構造	配布資料p.200-210(地球環境)を読んでおくこと	180
第4回	地球環境と生活環境(2)	地球環境問題と生活環境からの改善行動を理解する。 エネルギー問題／生活環境からの環境改善行動／環境共生建築・パッシブソーラー建築	地球環境問題について事例を調べること	120

第5回	水環境 (1)	生活用水の供給と廃棄について理解する。 水環境の入れ子構造／水環境のなりたち／雨水という上水道インフラ／水環境の水質	配布資料p.156-172 (水環境) を読んでおくこと	180
第6回	水環境 (2)	給排水衛生設備について理解する。 水使用量／給排水衛生設備のなりたち／排水の浄化法	生活用水の供給と廃棄について復習すること	120
第7回	廃棄物	ごみ排出の実態とその処理について理解する。 ごみの変化／ごみ処理の流れ／リサイクル実現のための資源物理と経済／ごみの法的区分	配布資料p.182-188 (廃棄物) を読んでおくこと 廃棄物の実態とその処理を復習すること	90 60
第8回	生活とエネルギー	暮らしの中のエネルギー消費について理解する。 衣生活とエネルギー／食生活とエネルギー／住生活とエネルギー／暮らしの中のエネルギー	配布資料p.4-11 (生活とエネルギー) を読んでおくこと 自身の暮らしのエネルギー消費を調べること	90 60
第9回	社会とエネルギー (1)	エネルギー利用について理解する。 日本のエネルギー利用／世界のエネルギー事情／エネルギー資源による世界とのつながり／エネルギーを取りまく諸問題	配布資料p.12-23 (社会とエネルギー) を読んでおくこと	180
第10回	社会とエネルギー (2)	エネルギー資源について理解する。 エネルギー資源による世界とのつながり／エネルギーを取りまく諸問題	エネルギー資源の問題点を調べること	120
第11回	科学とエネルギー	発電方式について理解する。 人類の発展とエネルギー／身のまわりのエネルギー／さまざまな発電方法 (火力, 水力, 原子力, 再生可能エネルギー)	配布資料p.26-33 (科学とエネルギー) を読んでおくこと 発電方式を復習すること	90 60
第12回	技術とエネルギー	電力供給について理解する。 電気の安定供給／エネルギーを有効に使う技術／これからのエネルギー利用と私たちの暮らし 電気の知識／電気料金の体系	配布資料p.40-47 (技術とエネルギー) を読んでおくこと 身近にある電力供給システムを探すこと	90 60
第13回	家電機器の省エネルギー性能	ヒートポンプの仕組みを理解する。 家庭で使用される機器の省エネルギー性能・環境負荷・経済性を知る／ヒートポンプの仕組み／省エネルギー法／家電機器の使い方による省エネルギー	配布資料 (家電機器の省エネルギー性能) を読んでおくこと 身近にある家電機器の取り扱い説明書を読むこと	90 60
第14回	給湯機器の仕組み	給湯機器の仕組みを理解する。 お湯の作り方・機器の使い方を知る／ガス湯沸器, エコキュートの仕組みと経済性・環境性	配布資料 (給湯機器の仕組み) を読んでおくこと 身近にある給湯機器を詳細に見ること 課題: 家電機器の購入や機器更新が「暮らしに与えた影響」	90 60 690
第15回	建物の環境性能とエネルギー管理システム	エネルギー管理・環境評価システムを理解する。 CASBEE (建築物総合環境性能評価システム) を知る／Home Energy Management Systemを知る／net Zero Energy House を知る	配布資料 (エネルギー管理) を読んでおくこと 住宅メーカーの提案するZEHの情報を調べること	90 60

学生へのフィードバック方法 課題について、採点の後、授業中に講評を行う。

評価方法

- ・課題は、「家電機器の購入や機器更新が暮らしに与えた影響」について論じるレポートである。
- ・定期試験は、配布資料から作成した問 (用語・仕組み・数値を説明した文章) を多肢択一で選ぶ設問である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○	○		

評価割合 定期試験 (75%)、課題 (25%) の総合評価

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015

ディプロマポリシーとの関連 現代家政学科
 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。
 [思考・判断] 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
 生活デザイン学科

	[知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。 [思考・判断] 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。															
オフィスアワー	千代田三番町C 前期火曜3限 1807室 / 町田C 後期水曜3限 3604室															
学生へのメッセージ	教職（家庭科） 高一種必修															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	会計情報演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳 佳枝	指定なし

授業概要 (教育目的)	この授業では、企業の経済取引に関して利益その他を報告する「会計情報」について学び、実際に利用できるようになることを目指す。具体的には、会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを学び、財務諸表の構造を理解すると共に、財務諸表の分析方法について学習する。学んだ内容を活かして学生自身が実際の企業の分析を行い、その内容を最終授業において発表する。企業分析を通じて、実社会における企業活動について具体的にイメージし、将来「就職先の選定」「自身の仕事における資金管理」「投資先選定」等に活かすことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	企業会計とは何かを理解する。簿記の基本ルールを理解し、記帳と財務諸表作成ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	財務諸表の数値を使って各社の安全性や収益性についての分析ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身や社会にとって、各企業がどのような役割を果たしているかについて関心を持ち、情報収集が行える。
技術・表現の観点 (A)	企業のホームページ等から会社概要、財務諸表データ等を取得することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	企業と会計	企業活動における会計の意義や企業の資金調達方法について学ぶ。自分が起業するとしたら、どのように資金調達するかを考える。	予習：教科書第1章「会計の意義」、第2章「株式会社」、第3章「資本市場」(1~40ページ)を読んでおくこと	30分
第2回	損益計算書の構造	企業の生み出した利益の額を計算する「損益計算書」の構造を理解する。実際の企業の損益計算書を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」(41~49ページ)を読んでおくこと	30分
第3回	貸借対照表の構造	企業のある時点での財産状況を示す「貸借対照表」の構造を理解する。実際の企業の貸借対照表を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」(49~58ページ)を読んでおくこと	30分
第4回	取引の仕訳	企業の日々の経済活動を記録するための「仕訳」について学ぶ。具体的な事例に基づいて、仕訳の練習を行い、	予習：教科書第5章「簿記」(63~66ページ)を読んでおくこと	予習：30分 復習：45分

		最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳データを提出する。	復習：学んだ仕訳ができるようにしておくこと	
第5回	総勘定元帳と試算表	初めに、「仕訳」の確認テストを行う。仕訳データから、総勘定元帳および試算表を作成する流れについて学ぶ。授業では具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳・転記・試算表作成データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」(63～66ページ)を読んでおくこと	30分
第6回	精算表と財務諸表作成	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。精算表および貸借対照表と損益計算書の作成について学ぶ。具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」(67～69ページ)を読んでおくこと 復習：仕訳から精算表の作成までの一連の流れができるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第7回	分析対象企業の選定	初めに、「精算表」の確認テストを行う。各自HPなどで情報収集を行い、自分が分析比較したい企業2社を選定し、選定理由などを記入したエクセルデータを提出する。	復習：分析対象企業について、HPなどで自分や社会にとってどのような役割を果たしているか調べておくこと	30分
第8回	貸倒引当金と減価償却	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。決算整理における「貸倒引当金」「減価償却」の処理について学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」の補論(73～80ページ)を読んでおくこと 復習：減価償却費の計算ができるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第9回	キャッシュフロー計算書	初めに、「減価償却費」の確認テストを行う。キャッシュフロー計算書の作成方法や分析の仕方を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」(81～87ページ)を読んでおくこと	30分
第10回	連結財務諸表	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。親会社と子会社の決算内容を合算して作成する「連結財務諸表」の作成方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」(88～90ページ)を読んでおくこと	30分
第11回	財務諸表分析(1)	貸借対照表を使った安全性分析と損益計算書を使った収益性分析について学ぶ。具体的には、自己資本比率、流動比率、固定比率および売上高利益率についての算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第7章「財務諸表の分析①」(93～104ページ)を読んでおくこと	30分
第12回	財務諸表分析(2)	貸借対照表と損益計算書を使った総合的な企業分析について学ぶ。具体的には、自己資本利益率、総資本利益率およびレバレッジ分析の算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第8章「財務諸表の分析②」(105～112ページ)を読んでおくこと 復習：第11回と第12回で学んだ財務諸表分析の各指標について、計算できるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第13回	企業分析演習(1)	初めに、「財務諸表分析」の確認テストを行う。学生が選定した個別企業について、HPで財務諸表データの取得を行う。	復習：分析対象企業について、情報収集を行っておくこと	30分
第14回	企業分析演習(2)	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。次週の発表に向けて、2社比較や時系列比較による企業分析を行い、分析データをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション資料を作成する。	復習：分析対象企業について、最終的なプレゼンテーション資料を完成させておくこと	45分
第15回	企業分析発表	各自が行った企業分析について、5-10分のプレゼンテーションを行う。プレゼンごとに教員からフィードバックを行うと共に、他の学生からもコメントをもらう。学生は自分の発表だけでなく、他者のプレゼンテーションに耳を傾け、コメントを行う必要がある。	予習：他者に伝わるプレゼンとなるように、資料と原稿を準備する 復習：他者が行ったプレゼン内容を理解し、有効に活用する	予習：30分 復習：30分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出されるエクセルデータについて、次週の授業にてコメントする。 ・授業中に実施する4回の確認テストは、次週の授業の初めに返却の上、正解の解説とフィードバックを行う。 ・第15回の企業分析発表については、各プレゼンテーションの発表直後に、良い点、改善点についてのフィードバックを行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出されるエクセルデータについて、計算式が正しいか、最後まで入力できているかなどに応じて教員が評価する。 ・確認テストは、前回までの授業内容から出題し、授業内に計4回実施する。1回当たりの問題数は5問～10問で、計算問題が主体となる。 ・第15回の企業分析発表に対しては、「複数の分析指標を正しく用いているか」「2社比較や時系列比較ができているか」「説得力あるプレゼンとなっているか」の3つの観点から教員が総合評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

毎回のエクセルデータ	○			○
確認テスト4回	○			○
企業分析発表	○	○	○	○

評価割合	毎回のエクセルデータ（30%）、確認テスト4回（40%）、企業分析発表（30%）で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「企業と会計の道しるべ」 水口剛・平井裕久・後藤晃範著（中央経済社） 978-4502212710
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会における生産主体である「企業」について理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】企業を含めた社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながるより良い生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
学生へのメッセージ	会計という難しいイメージがありますが、この授業は初心者向けの内容となっていますので、苦手意識を持たず積極的に参加して下さい。エクセルでデータ入力しながら自然に数字に親しみ、簿記の基礎的な内容が身につきます。これから就職活動を始めようという人は検討先企業の分析にも役立ちます。社会に出る前の今こそ、企業や社会についてより深く理解するために、簿記や企業会計について一緒に学びましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	運用会社での勤務経験を有し、証券アナリスト資格を持つ教員が、企業分析について具体的かつ実践的に指導する。
アクティブ・ラーニング	○	学生がひとりひとりパソコンでの入力・検索・資料作成を行い、アクティブに学ぶ。最終授業では、各自作成した資料を用い、他者にわかりやすくプレゼンする。
情報リテラシー教育	○	WEBサイトから必要な情報を入手し、その情報を用いて分析を行う。エクセルやパワーポイントを活用する。
ICT活用	○	パソコン教室のシステムを用い、「教員から配布した資料に学生が入力して返信する」「教員からの質問に答える」など双方向型授業を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
教授	井上 眞弓	指定なし

授業概要 (教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。
履修条件	特になし
学習目標 (到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様かつ急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自立的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族・家政学の定義、家庭経営学で頻繁に用いる概念や、SDGsの活動を理解し、持続可能な社会と家政学・家庭経営・家庭科教育について考える授業であることを概説する。	自分なりのエコかるとを考えてみる。レジュメを良く復習しておくこと。	120分
第2回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	コミュニティ エシカル消費と食品ロスなど現代社会・生活をとりまく状況を、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。	授業前に教科書pp. 7-15を良く読んでおくこと。	120分
第3回	家庭生活の経営とジェンダー	ジェンダーとは何か。女性が家庭生活の経営においてどのような役割を担ってきたのか。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。	小学校・中学校・高等学校で学んだ家庭科の授業を振りかえってくる。授業前に教科書pp. 16-39を良く読んでおくこと。	120分

第4回	「住まう」という観点から家族写真を読む	定義することが難しい「家族」について、「住む」「くらす」という観点から把握することで、近代家族とは何かを問題意識として持つことが出来るようにする。	授業前に「家族」の定義を考えてくる。復習として教科書pp.90-100を読んで理解する。	120分
第5回	映像に見る家族(1)	家族はどのような過程を経て家族となるのか。映像分析の手法を体得して、家族構成という観点から映像を読み解く。	授業中に配布された資料を読んで、内容をまとめる。	120分
第6回	映像に見る家族(2)	家族の文化はどのように伝承されてきたか。生活文化継承の観点から実際に映像分析を行うとともに、自身の家庭における生活文化継承の実態とその可能性について理解を深める。	授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	120分
第7回	映像に見る家族(3)	少子高齢化社会である現況において、家族はどのような存在か。コミュニティの観点で映像を視聴し、地域と家庭の関係を考察する。	授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	120分
第8回	家庭生活の経済	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	120分
第9回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク6～10のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	120分
第10回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を奥津軽の津軽鉄道を支える団体から学び、pp102～110を参照し1000年コミュニティをデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	人生100年時代の自助・共助・公助を奥津軽の津軽鉄道を支える団体から学び、pp102～110を参照し1000年コミュニティをデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	120分
第11回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	相続や遺言に関する法律を知り、世代間の資産移転のみでなく、食と農をつなぎ、時代の文化をつなぐ活動をすすめる高齢者・女性農業者の事例を学ぶ。	自分のまわりにいる高齢者に話をきいて、もっとも印象に残ったことをレポートとして提出する。	120分
第12回	家訓ワークショップ人生100年時代の家庭経営と生活設計	各自の家庭経営でどのようなルールがあるか調べ、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。	関心のあるテーマを持つ者同士が集まってディスカッションをした内容を発表するためのプレゼンテーションを準備する。	120分
第13回	家訓ワークショップ報告	各自の家庭生活の家訓を確認し、今後家族経営協定を（親子・夫婦・疑似家族で）締結するならばどのような内容が適切か。グループ毎に前回ディスカッションした内容をまとめて発表する。	各グループが発表した内容・方法について吟味し、家族を巡る現状の把握と今後のくらし方について、自分の考えをまとめる。	120分
第14回	生活者の視点で100年コミュニティを考える	地域を選んで、少子高齢化が急速に進む日本社会で求められる100年コミュニティを考える。また家庭科教育と地域の関係を検討する。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションをしてほしい。	120分
第15回	生活者と持続可能な社会	家族間の贈与共有と、経済社会での事業者消費者の関係性の違いを認識する。持続可能な開発や、生涯の人間発達はどのような関係性のなかで可能になるかを考える。	第1回から第14回で提出した授業レポートを読み返し、最終レポートの構想をつくる。	120分

学習計画注記	講義形式を中心としますが、ワークショップも行います。
学生へのフィードバック方法	授業内で提出するレポート内容について、次週に受講者全員と情報を共有する。
評価方法	授業内レポートでは、授業の内容を理解し授業課題に対し関心を持って取り組んでいるかという観点を中心に評価する。期末試験では、知識・理解を確認する内容と、思考をまとめる最終レポートで構成される。期末試験で何を評価されるのか、理解し周到に準備しているかを評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内レポート	○		○	
期末試験	○	○	○	○

評価割合	授業ごとに提出するレポート（50%） 期末試験・最終レポート（50%）
使用教科書名（ISBN番号）	日本家政学会生活経営部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2010年
参考図書	現代社会の生活経営/御船美智子 上村協子 編著/光生館/2001 やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会/建帛社/2018 新しい消費者教育/日本消費者教育学会関東支部 監修/慶応義塾大学出版会/2016 地域社会の創生と生活経済/生活経済学会 編/ミネルヴァ書房/2017 現代「生活者」論/天野正子/有志舎/2012
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	井上前期火曜日3限（千代田三番町1807ゼミ室） 上村：前期：水曜日 4限 後期：火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。 家庭科の教員になるための必修科目です。家庭科教育法をうける前に履修してください。消費者力検定やファイナンシャルプランナーの資格を取るなどチャレンジしていくための基礎的科目になります。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション等のワークショップを通して他者の考え・意見に触れ、自身の思考を錬磨する機会を持つ。
情報リテラシー教育	○	口頭発表に際して効果的な資料作成を指導する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家政学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	井澤 尚子	指定なし
助教	大宮司 勝弘	指定なし

授業概要(教育目的)	生きる力の基盤となる衣食住や家庭経済など、日常生活や地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得することを図る。家政の知と技が現代社会の中で、生活における人と人のかかわりあい、人と心のかかわりあい、人と物とのかかわりあい、人と事からのかかわりあいをどのように支えてきたのかを生活者の視点で詳説する。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	安全で豊かな消費生活を送るための基本事項を、衣・食・住・消費経済・環境の各領域において修得する。
思考・判断の観点 (K)	様々な消費者問題について適切に判断し、対処できる能力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家政学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	全体の授業予定を確認し、各教員から担当授業の説明を行う。また、本授業と関連する「消費者力検定」の資格受験についても説明する。	教科書の目次構成等を見て、学びの概要をつかみ、興味を持った分野については中身を読んでおくこと。教科書が手元にない場合は、日本消費者協会のウェブサイトなどで消費者力検定について理解を深めておくこと。	180分
第2回	消費生活 (1) 食生活	前年度の消費者力検定食生活分野の問題を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定食生活分野の問題に目を通しておくこと。教科書の食生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。	180分

第3回	消費生活 (2) 住生活	前年度の消費者力検定住生活分野の回答と解説を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定住生活分野の問題に目を通しておくこと。教科書の住生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。	180分
第4回	消費生活 (3) 契約	前年度消費者力検定、契約分野の回答と解説を中心に、ワークブックを活用し詳細な解説を行う。	関連する新聞記事などを読み最新の動向を把握しておくこと。	180分
第5回	消費生活 (4) サービス、生活設計	前年度消費者力検定、サービス・生活と家計管理の回答と解説を中心に、ワークブックを活用し詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定サービス・生活と家計管理分野の問題に目を通しておくこと。関連する新聞記事などを読み最新の動向を把握しておくこと。	180分
第6回	6. 消費生活 (5) 衣生活	前年度の消費者力検定衣生活分野の問題、ワークブックの衣生活分野の問題を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定衣生活分野の問題に目を通しておくこと。教科書の衣生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。	180分
第7回	7. 消費生活 (6) 環境	前年度の消費者力検定環境分野の回答と解説を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定環境分野の問題に目を通しておくこと。教科書の環境分野の関連箇所をよく読んでおくこと。	180分
第8回	小テスト	1～7回目の授業に関する小テストを行い、テスト後に各教員から解説を行う。	テストに向けて準備しておくこと。	180分
第9回	家庭経済	家政学の体系を概説し、家族生活設計分野の問題から特に重要な人生100年時代の生活設計・相続・遺言を取り上げ、身近なケースから関連分野の学びを深める。	当年度の消費者力検定の問題に目を通し、少子高齢社会に関わる家庭経済分野の問題に目を通しておくこと。	180分
第10回	住生活	当年度の消費者力検定の住生活分野の問題から特に重要なものを取り上げ、詳細な解説を行うとともに、関連分野の学びを深める。	教科書の住生活の分野をよく読んでおくこと。	180分
第11回	食生活 (1)	当年度の消費者力検定の食生活分野の問題から特に重要なものを取り上げ、詳細な解説を行うとともに、関連分野の学びを深める。	教科書の食生活の分野をよく読んでおくこと。	180分
第12回	食生活 (2)	現代の食生活と消費者について学ぶ。特に、食の安全にかかわる問題や、それに対する国の対策、消費者としてそれらの問題をどのようにとらえればよいのかについて学ぶ。	教科書の食生活の分野をよく読んでおくこと。	180分
第13回	衣生活 (1)	現代の衣生活における衣服のライフストーリーを理解するとともに、衣生活の循環型社会について学び、関連する諸問題について考察を深める。	教科書の衣生活の分野をよく読んでおくこと。	180分
第14回	衣生活 (2)	現代の衣生活における衣服のライフストーリーを理解するとともに、衣生活の循環型社会について学び、関連する諸問題について考察を深める。	教科書の衣生活の分野をよく読んでおくこと。	180分
第15回	まとめ	各教員から、9～14回目までの授業の振り返りと試験に関する連絡を行う。	9～14回目までの内容をよく復習し、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分

学生へのフィードバック方法 小テストの結果は、当日自己採点により確認する予定です。質問等がある場合は、担当教員のオフィスアワー等を確認してお尋ねください。

評価方法 小テストは、消費者力検定の過去問から出題する。定期試験は、各教員からそれぞれの担当分野に関して出題する。定期試験に関する連絡は最終授業時に行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合 平常点（授業への参加状況、討論への参加等）：20%、小テスト・定期試験：80%

使用教科書名 (ISBN番号) 「～消費者力検定テキスト～ やさしく学べる消費生活」 一般財団法人日本消費者協会編 (978-4-930898-46-3)

参考図書	消費者力検定 ワークブック2018 (978-4-930898-45-6)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	各教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。
学生へのメッセージ	本授業は、「消費者力検定」や「消費生活アドバイザー」、「お客様対応専門員」などの資格と関わっています。これらの資格試験にも挑戦してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族関係論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林 葉子	指定なし

授業概要(教育目的)	家族関係はさまざまな人間関係の中でもっとも身近な人間関係であり、誰もがその経験から家族についてのイメージをいただいている。今日、家族はかつてない激しい社会変動の中でかたちも機能も多様化し、さまざまな問題をかかえている。家族関係の基礎理論や家族の心理を学び、諸問題への対応について考察する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	1. 自分自身の家族について内省できる。 2. 自分とは違ったタイプの家族を理解することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 家族に関する問題について関心を持ち、家族に関するニュースや小説などを読む 2. 分からなかったことを質問する 3. レジюме、レポートなどを期日を守って提出する
技術・表現の観点 (A)	1. 教科書のレジюмеを的確に作成することができる 2. 自分の意見を持ち、それを記述することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家族関係論を学ぶ意義、レジюмеの作成方法の説明	自分の家族について考え、なぜ、家族関係学を学ぶのかを内省する。レジюмеの作成方法を理解する。	予習：教科書を授業開始までに購入する。自分にとって家族とは何かを考えてくる。	30分程度
第2回	家族とは何か	家族をどうとらえるかを、家族社会学的、文化的に理解する	予習：教科書【1家族とは】 「1. 家族をどうとらえるか」(2～8ページ)を読んで、レジюмеを作成すること。レジюмеの最後に、1.に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。1に関する感想も10行以内でまとめること。	120分
第3回	家族の種類と分類	様々な社会調査や研究における家族に用いられる基本的な形とその分類を理解する	予習：教科書【1家族とは】 「2. 家族分析の手がかり一類	120分

			型と分類^」(9~18ページ)を読んで、レジュメをA42枚程度に作成すること。レジュメの最後に、2.に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。2.に関する感想も10行以内でまとめること。	
第4回	家族形態の変遷	家族は歴史的背景や社会環境によって変化する存在であることを近代家族までの歴史的背景や諸外国との比較から理解する	予習：教科書【Ⅶ 家族の変動】「15. 家族形態の変化」(158~168ページ)を読んで、レジュメをA42枚程度に作成すること。レジュメの最後に、15.に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。15に関する感想を10行以内でまとめること。	120分
第5回	結婚への道	青年期の異性交際発達、機能や実態、配偶者を選択するメカニズムについて理解する	予習：教科書【Ⅱ 結婚への道】「3. 青年期の異性交際」(19~30ページ)「4. 配偶者の選択」(31~42ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、3. 4.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第6回	結婚と離婚	ある一つの家族の始まりである結婚とは何かを考え、その分類、機能、我が国の結婚の状況などを理解する。また、離婚とはどういうことなのか、離婚に対する社会の対応、日本における離婚の動向、社会的背景、離婚の要因、その後の再婚の状況を知ること、家族を理解する	予習：教科書【Ⅲ 結婚と離婚】「5. 結婚の意味と機能」(44~53ページ)「6. 離婚、その後」(54~64ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、5. 6.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第7回	人の一生と家族の危機	家族を夫婦の結婚から時間的な展開のなかでとらえるライフサイクル、ライフコースの視点を理解し、ライフサイクルの変化、ライフコースとは何か、ライフコースの変化、ライフコースにおける家族の危機とは何か、家族危機に対する基本的な考え方、対処方法を理解する。	予習：教科書【Ⅳ 人の一生と家族の危機】「7. ライフサイクル」(65~77ページ)「8. 家族の危機」(78~88ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、7. 8.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第8回	マタニティーハラスメント	マタニティーハラスメント(以下、マタハラ)に関するビデオ(NHK スペシャル)を視聴し、マタハラとは何か、マタハラが起こる要因、対策方法を理解する。	復習：リアクションペーパー(レポート)を完成させる。	120分
第9回	家族の内部構造	家族の役割構造、勢力構造に関する基本的知識を学び、役割構造や勢力構造の現代的变化を理解する。	予習：教科書【Ⅴ 家族の内部構造】「9. 家族の役割構造」(89~100ページ)「10. 家族の勢力構造」(101~111ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、9. 10.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること	120分
第10回	家族の情緒構造と家族機能とその変化	家族の情緒機能とは何かを学び、情緒機能を円滑に実行するために必要な事柄に関して理解する。	予習：教科書【Ⅴ 家族の内部構造】「11. 家族の情緒構造」(112~122ページ)【Ⅵ. 家族機能と社会的支援】「12. 子どもの養育と社会化」(123~135ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、11. 12.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第11回	老親扶養	高齢者を理解し、老親を扶養することに関する知識を学び、こうれ老年期の家族の動向や現状を理解する。	予習：教科書【Ⅵ. 家族機能と社会的支援】「13. 老親扶養」(136~147ページ)を読んで、A42枚程度のレジュメを作	90分

			成すること。レジュメの最後に、13. に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	
第12回	親を介護すること	老親を介護する青少年に関するビデオ（NHK スペシャル）を視聴し、老親を介護する青年の実態、対策方法を理解する。	復習：リアクションペーパー（レポート）を完成させる。	90分
第13回	家族の社会的ネットワーク	社会的ネットワークとは何か、家族と社会機関との関係、ネットワークとしての家族の役割に関する知識を理解し、どこまでが家族の責任かについて考察する。そのうえで、家族の孤立に関するDVD（NHK クローズアップ現代）を視聴し、リアクションペーパーを作成する	予習：教科書【VI. 家族機能と社会的支援】「14. 老親扶養」（148～156ページ）を読んで、A42枚程度のレジュメを作成すること。レジュメの最後に、14. に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。 復習：リアクションペーパー（レポート）を完成させる。	120分
第14回	家族のゆくえ	過去における未来の家族に関する論調を学び、家族の未来はどのようになるか、その可能性を理解し、現代の家族を再考する。	予習：教科書【VII. 家族の変動】「17. 家族のゆくえ」（179～186ページ）を読んで、A42枚程度のレジュメを作成すること。レジュメの最後に、17. に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	90分
第15回	まとめのテスト	第1回～14回までの学びを振り返り、理解度を確認する	予習：すべてのレジュメ（または教科書）、小テストがあることを確認し、読んでくれること 教室外学習の時間（分） 120分	120分

学習計画注記 * 履修者集や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して、次週に模範解答を提示する。
質問があった場合にはメールで受け付ける。

評価方法

- ・ 毎回、教科書の指定された箇所を読み、レジュメを作成し提出する。レジュメは授業当日の授業前に提出したものを満点とし、授業後の提出（当日、後日も含む）は減点されるので注意すること。
- ・ リアクションペーパーの課題に回答する。リアクションペーパーは授業当日の提出のみ評価するので注意すること。後日の提出は受け付けない。
- ・ 小テストは次週の授業の最初10分に毎時間実施する。小テストは再試験を行わないので注意すること。
- ・ 小テストは、教科書、レジュメ、メモ等の持ち込みは可とする。小テストは10回分を満点とする（毎回5問、点数の高い10回分を評価に使用・欠席者は理由の如何に関わらず0点とする）
- ・ 期末テストは教科書、小テスト、リアクションペーパーから出題する。穴埋め式、○×問題、記述問題によって理解度を確認する。
- ・ 期末テストは教科書、メモ、レジュメ、小テストの模範解答用紙の持ち込みは可とする。
- ・ レジュメ作成、小テスト、リアクションペーパー、期末テストは、下記に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レジュメ作成			○	○
リアクションペーパー	○	○	○	
小テスト	○			
期末テスト	○			

評価割合

レジュメ作成： 20%
リアクションペーパー： 20%
小テスト： 10%
期末テスト： 50%

使用教科書名 (ISBN番号) 森岡清美、望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館 最新版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー	なし 但：メールで質問、要望、意見を受け付ける	
学生へのメッセージ	家族のことを勉強するということは、自分自身の家族を見直すこととなります。自分のルーツを知ることにもなり、大人への第一歩にもなります。毎回の小論文の課題に答えることが、気恥ずかしかったり、嫌だったりのこともあるかもしれませんが、自分自身を見つめなおす機会にしてください。家族に関係する小説や映画は、たくさんあります。いろいろな家族を知り、自分の家族とも話し合ってください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員が体験してきた家族のことを含めて、見聞きしてきた実在する生活を例に挙げて説明することができ、産業カウンセラー、保育士の仕事を通して、現代の家族問題を把握し、その観点から「家族」について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ワードでの作成、ネットでの事項検索方法など、報告書、論文執筆の経験を生かして説明し、ICTを上手に活用できる準備の機会を提供している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭看護		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 石井 紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかがわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活支援についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 健康とは何かを、ライフサイクルをふまえて説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康増進方法や、日常生活における看護方法に興味を持ち、新たな発見ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 健康の定義	授業をどのように進めていくのか、また、学習方法について理解する。 様々な健康の定義について確認し、健康とは何か自分の考えを明らかにする。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	【予習】 ・教科書「はじめに」、第1章(2ページ～6ページ)を読む。 ・健康の定義を、2種類以上調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第2回	からだやこころのしくみを知る	自分のからだやこころのしくみを理解し、健康を保つためにできることを明確にする。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	【予習】 ・人間の体の中(臓器など)が、どのように配置されているのか、また、それらの働きについて、調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第3回	女性の健	女性のからだやこころのしくみを理解し、生活の中で	【予習】	予習・復習

	康 母子 保健と看護	どのような配慮を行う必要があるのか、明確にする。また、実践できることを知る。 調べてきたことを、グループで情報交換する。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	授業2回目で学んだことを基本とし、女性のからだやこころの特徴を調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	各90分
第4回	家庭看護の 実際① 【家庭看護 の技術】	【小テスト①実施】 正確な、バイタルサイン測定の実践を行う。 バイタルサインの正常値を理解し、正常値からはずれた場合の原因を検討する。	【予習】 ・教科書第2章①(8ページ~14ページ)を読み、バイタルサインの測定方法や正常値を確認する。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第5回	家庭看護の 実際② 【日常生活 における看護】 ポディメカ ニクスと安 楽な姿勢	【小テスト①の返却および解説】 ポディメカニクスとは何か、実践を通して理解する。 安楽な姿勢を保つための工夫を知る。	【予習】 ・教科書第2章②の(15ページ~16ページ)を読み、ポディメカニクスや姿勢(体位)について調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第6回	家庭看護の 実際② 【日常生活 における看護】 栄養と食事	健康を維持するための食事と、疾患を抱えた際の食事について、健康増進・看護の観点から理解する。	【予習】 ・教科書第2章②の(16ページ~19ページ)を読み、栄養素、病院食の内容について調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第7回	家庭看護の 実際② 【日常生活 における看護】 寝衣交換、 清潔保持	衣服の交換や、清潔を保持する理由を理解する。 衣服の交換方法や、清潔を保持する支援方法を実践できる。	【予習】 ・教科書第2章②の(19ページ~23ページ)を読み、衣服を交換、清潔にする目的をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第8回	家庭看護の 実際② 【日常生活 における看護】 排泄や睡眠 のしくみ	【小テスト②実施】 排泄や睡眠のしくみを理解し、リズムが乱れた際の対処方法を考えることができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(23ページ~26ページ)を読み、排泄や睡眠のしくみをまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第9回	家庭看護の 実際② 【日常生活 における看護】 薬法・消 毒・服薬	【小テスト②の返却および解説】 薬法・消毒・服薬準備を実践を通して、家庭で行える支援や、対処方法の判断ができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(26ページ~32ページ)を読み、薬法・消毒・服薬の種類と方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第10回	家族が不調 を訴えたとき の看護 ①体調の不 良	体調不良に対して、原因や症状の判断や、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう、理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章①(34ページ~55ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第11回	家族が不調 を訴えたとき の看護 ②体調以外 の不調	体調以外の不調に対して、ライフサイクルをふまえた原因や症状の判断、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう、理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章②(56ページ~61ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第12回	救急対応を 要する症状 と徴候、処 置方法	包帯法や移送法など、実践を通して、対処方法の理解を深め、技術を習得する。	【予習】 ・教科書第4章(64ページ~105ページ)を読み、救急対応方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第13回	小児期に多	小児期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処	【予習】	予習・復習

	い疾患	方法を理解する。	・教科書第5章①(108ページ～120ページ)を読み、小児の特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	各90分
第14回	成人期に多い疾患	【小テスト③の実施】 成人期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章②(121ページ～132ページ)を読み、疾患や症状をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第15回	精神疾患、がん、看取り	【小テスト③の返却および解説】 様々な疾患や状況をふまえて、対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章③④⑤(133ページ～144ページ)を読み、小児の特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、返却し解説を行う。
授業の始めに本日の学習目標を示し、復習と含めて、目標が達成できているか、確認しながら授業を進める。

評価方法

- ・小テストは、授業内容の理解を確認するために行う。そのため数回おきに、3回実施する。(各10点×3回=30点) 小テストの範囲については、授業内で、その都度説明を行う。 各小テストの問題数は10問、選択肢式・穴埋め式・記述式で問う内容である。なお、小テスト実施時の授業を欠席した場合、再試験は行わないことを了承願いたい。(小テスト問題は、解説時に配布する。)
- ・定期試験は70点満点で出題し、小テストの振り返りや、授業内で自分の言葉で説明できるようにという部分は、記述できるようにすること。
- 詳細については、授業内で説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的としている。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
定期試験	○		○	

評価割合 小テスト(30%)および定期試験(70%)で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 暮らしの看護 萱場一則 建帛社 (978-4-7679-1852-5)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる

オフィスアワー 授業の前後(質問などは、積極的に行ってください。)

学生へのメッセージ 家庭でできることは多くあり、日々の生活を通して健康増進や体調不良時の対処方法など、自信を持って行えるようになることを期待しています。一緒に学びを深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	看護師としての実務経験を生かし、分かりやすく「からだやこころのしくみ」を説明します。また、一工夫のできる専門的な対処方法を伝授いたします。
アクティブ・ラーニング	○	予習を活用した、グループワークやディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	フードスペシャリストとはどのようなものか、その専門性や活躍分野について理解を深め、それを踏まえて、人類はどのようにして食物を獲得し、より嗜好性の高い食品を作ってきたのか、世界の食と日本の食の歴史と特徴、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護などについての幅広い知識の習得を図る。フードスペシャリストの専門分野としての「食」について、食文化、食生活、食産業、食の安全行政、消費者保護などの各面から総合的に学び、基礎知識を身に付けることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの概要と意義について理解し、フードスペシャリストが具備すべき基本知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	食の安全や環境、公正な取り引き、食料自給率などの様々な面を考慮し、食品の選択や管理に活かすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

フードスペシャリスト論

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	フードスペシャリストとは	フードスペシャリストの概念、専門性および活躍の分野の概要について学ぶ。また、フードスペシャリストが社会的な規範や法令を遵守し、食育へも積極的に貢献する責務があることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	人類の歩みと食物	人類の歴史において世界の各地で発達した伝統的な食品加工・保存技術をたどり、日本独自の食品加工・保存技術について理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第3回	食品加工・保存技術史	近代において発達した新しい食品加工・保存技術やイミテーションフーズについて学び、前時の内容と併せて、	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞	180分

		人類の歴史において食に関する様々な知恵と技術が生命をつないできたことを理解する。	記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	
第4回	世界の食	世界の食作法や食事内容の多様性を学び、国際化している食の世界に対応できる視野を養う。地域の自然環境によって生産・生活様式が確立され、食材とともに料理や食文化が構築されていたことについて理解する。	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第5回	日本の食	日本の歴史において、人々は何を食べてきたのか、食べ物のバリエーションはどのように増えてきたのか、また料理様式の発達や食生活の変遷について理解する。また、地域における伝統野菜や郷土料理の発達とそれらを維持することの重要性について学ぶ。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	現代日本の食生活	戦後の食生活における食料経済や食環境の変化、食の外部化の進展、生活習慣病の増加、食品産業の構造や状況について学ぶ。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食料の供給と食料自給率	食料自給率の推移と課題、食品ロスやごみ問題などの改善策としての循環型社会の必要性などについて理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食品製造業	食品産業の構造や特性について学ぶ。食品産業の一つである食品製造業の概要、全製造業における食品製造業の特色や近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食品流通業	食品産業の一つである食品流通業について、食品流通業を構成する食品卸売業と食品小売業の概要や特色、存在意義、近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	外食産業	食品産業の一つである外食産業について、その概要や特色、近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	食品の品質規格と表示	食品の公正な取り引きと消費のために制定された食品の品質規格と表示に関する法体系の概要を理解する。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	JAS法と食品表示法による表示	食品の品質規格と表示に関する法律であるJAS法と食品表示法の概要について学び、これらが食品の公正な取り引きと消費に深く関わっていることを理解する。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	健康や栄養に関する表示制度	食品の品質規格と表示に関する法律である健康増進法と食品衛生法の概要について学び、近年注目されている食品の機能性に関する表示制度を正しく理解し、自身の食生活において機能性をうたった食品を適切に利用する姿勢を養う。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第14回	食情報と消費者保護	食情報について学び、食品偽装、フードファディズム、風評被害、トレーサビリティシステムなど、食情報に関わる問題について考える。また、食品の安全におけるリスク分析や食品安全基本法、消費者問題など、消費者保護の在り方についての理解を深める。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着する。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には	180分

			定期試験に向けて十分に準備すること。		
学習計画注記	授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。				
学生へのフィードバック方法	講義				
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験の得点 (100%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	四訂 フードスペシャリスト論 (第4版) (978-4-7679-0604-1)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。				
オフィスアワー	後期：水曜日3-4時限目				
学生へのメッセージ	「フードスペシャリスト論」は、フードスペシャリストを目指す学生のための最も基本的な科目の1つとなっています。新聞やニュースなどで報道される食に関する様々な問題についても普段から関心を持って見るようにしてください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	栄養学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本科目では栄養学について広く理解することを目的として、栄養学の歴史、各種栄養素の特性と消化・吸収、代謝機構について中心に解説する。また、食品に含まれる栄養素以外の重要な成分として水と食物繊維についても、これらの特性やそれらが私たちの身体に与える影響について解説する。また、食物が摂取された後、栄養素が体内で消化、吸収、代謝を経てエネルギーとして利用される際の変換効率や身体活動との関係についても考察し、これらの知識を実生活に活かす態度を養う。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、消化と吸収やエネルギー消費との関係が説明できる。また、栄養素ではなくても食物繊維のように消化管内で有効に働く成分があることを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学概論

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	栄養とは	栄養の本質を、「栄養」ということばの語源に立ち返って文化的な観点からとらえるとともに、「栄養素」と生物としてのヒトとのかかわりを科学的観点から理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	栄養学のあゆみ	古代において栄養学に相当する学問がどのように生まれ、またそれが世界の各地においてどのように発展し、体系化されてきたのかについて学ぶ。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	栄養素とそのはたらき (1) エネルギーになる栄養素	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	栄養素とそ	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解す	授業前に教科書第3章-1(2)を	180分

	のはたらき (2) エネルギーになる栄養素	る。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。	読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	
第5回	栄養素とそれはたらき (3) からだをつくる栄養素-1	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	栄養素とそれはたらき (4) からだをつくる栄養素-2	身体を構成する栄養素で、たんぱく質以外のものとして、生体膜の成分であるリン脂質、血液の成分であるヘモグロビンの構成成分である鉄、骨の構成成分であるカルシウムについて学ぶ。	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	栄養素とそれはたらき (5) からだのはたらきを調節する栄養素-1	食品中のビタミンの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(1)(2)(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	栄養素とそれはたらき (6) からだのはたらきを調節する栄養素-2	食品中のミネラルの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(4)(5)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	からだの水	栄養素以外の身体に必要な成分としての水について、身体における水分出納、水の役割を中心に学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	食物繊維のはたらき	栄養素以外の身体に必要な成分としての食物繊維について、その分類、性質、日常生活における適切な摂取の仕方について学ぶ。	授業前に教科書第4章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	消化と吸収 (1) 消化の流れとパターン	消化と吸収の定義、消化を担う臓器である消化管と消化腺、消化のパターン(管腔内消化と膜消化)を中心に学ぶ。	授業前に教科書第5章1,2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	消化と吸収 (2) 消化のしくみ	口腔、胃、小腸、大腸における消化の概要と流れについて理解する。	授業前に教科書第5章3,4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	消化と吸収 (3) 吸収のしくみ	栄養素が小腸から吸収される際の、受動輸送、能動輸送の概要と、その後の輸送経路について理解する。	授業前に教科書第5章5,6,7を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	エネルギー代謝	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係、基礎代謝と活動時代謝、またエネルギー代謝を知るための身体の活動強度を示す指標や消費エネルギーの求め方について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 定期試験の得点100%で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

評価割合 定期試験の得点 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号) はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ 基礎栄養学 第2版 (978-4-7598-1817-8)

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。	
オフィスアワー	前期：水曜日2時限目～昼休み	
学生へのメッセージ	栄養学の基礎について学びます。物質としての栄養素、またこれらが体内で変化を受けてエネルギーになる流れを理解するには、化学や生物の知識が不可欠です。これらの知識が不足していると思う場合は、共通教育科目の化学や生物に関する授業を受けて知識を補強してください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 郡山 貴子	指定なし

授業概要 (教育目的)

私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。食品には、生命を維持するための栄養機能（一次機能）、味や香りなどを感じさせる嗜好機能（二次機能）のほか、病気のリスクを低減する機能（三次機能）を有している。現在、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により、私たちが入手できる食品はますます多様化している。この講義では代表的な食品の性質、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、利用などについて解説する。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	代表的な食品についての性質や成分の特徴、ならびに調理・加工・貯蔵における変化を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	調理・加工・貯蔵した食品について正しい知識や新しい情報を理解することで、適切な食生活を維持するための情報の取捨選択ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	はじめに、植物性食品 穀類 (米)	現在の私たちを取り巻く様々な食環境、食品の分類、および食品のもつ機能性について理解する。植物性食品の中の米について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第1章「食品の分類と食品成分表」(p. 1-4)、第2章「植物性食品」「1. 穀類」(p. 5-14)を読んでおくこと。	120分
第2回	植物性食品 穀類 (小麦・大麦・とうもろこし・その他)	植物性食品の中の米以外の種々の穀類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」「1. 穀類」(p. 14-19)を読んでおくこと。	120分
第3回	植物性食品 いも類	植物性食品の中のいも類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」「2. いも類」(p. 19-26)を読んでおくこと。	120分
第4回	植物性食	植物性食品の中の豆類、種実類について、その特性、含	教科書第2章「植物性食品」	240分

	品 豆類・種実類	有成分、およびその加工品について理解する。	「3. 豆類」, 「4. 種実類」(p. 26-41) を読んでおくこと。授業の最初に、1-3回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	
第5回	植物性食品 野菜類	植物性食品の中の野菜類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「5. 野菜類」(p. 41-52) を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品 果実類	植物性食品の中の果実類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「6. 果実類」(p. 52-64) を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品 きのこと類・藻類	植物性食品の中のきのこ類、藻類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「7. きのこと類」(p. 64-67)、「8. 藻類」(p. 68-71) を読んでおくこと。	120分
第8回	動物性食品 肉類	動物性食品の中の肉類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「1. 肉類」(p. 73-89) を読んでおくこと。授業の最初に、4-7回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第9回	動物性食品 魚介類	動物性食品の中の魚介類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「2. 魚介類」(p. 90-104) を読んでおくこと。	120分
第10回	動物性食品 乳製品	動物性食品の中の乳類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「3. 乳類」(p. 105-115) を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品 卵	動物性食品の中の卵について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「4. 卵」(p. 115-125) を読んでおくこと。	120分
第12回	その他の食品 油脂・香辛料	油脂について、その分類、精製方法、および特性と機能について理解する。	教科書第4章「油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料」 「1. 油脂」(p. 125-133) を読んでおくこと。授業の最初に、8-11回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第13回	その他の食品 甘味料、調味料	甘味料および調味料について、その分類、精製方法、および特性と機能について理解する。	教科書第4章「油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料」 「2. 甘味料」「3. 調味料」(p. 134-143) を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品 香辛料、嗜好飲料	香辛料および嗜好飲料について、その分類、精製方法、および特性と機能について理解する。	教科書第4章「油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料」 「4. 香辛料」「5. 嗜好飲料」(p. 143-152) を読んでおくこと。	120分
第15回	微生物利用食品 (アルコール飲料、発酵調味料、その他)	微生物利用食品について、その種類、製造工程、およびその加工食品について理解する。	教科書第5章「微生物利用食品」(p. 155-168) を読んでおくこと。授業の最初に、12-15回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。これまでの授業内容を復習しておくこと。	予習：240分、復習：420分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは採点した後、次週の授業にて返却し、解説します。

評価方法

- ・小テストでは3~4回分の授業に関係する学習範囲より選択式と穴埋め方式で出題する。小テストは授業内に全部で4回実施するが、再試験は行わないので注意すること。
- ・期末試験は100点満点で出題し、小テストの振り返りやフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題傾向に関しては、授業にて説明する。
- ・小テストおよび期末試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

小テスト	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合	期末試験（60%），小テスト（20%），平常点（20%）で評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	食べ物と健康 改訂マスター食品学II, 小関正道（編著）他, 建帛社, 978-4-7679-0585-3
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し，総合的な家政学の見地に立ち，現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し，問題解決に導く考察ができるようになる。
学生へのメッセージ	食品学概論で食品成分の特性から食品をみてきましたが，それを基礎としてこの科目では実際の種々の食品の特徴について学んでいきます。日常生活においてもいろいろな食品に関心を持ってください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 郡山 貴子	指定なし

授業概要(教育目的)	調理とは食材を衛生的、栄養的に安心で、なおかつ嗜好的に優れた食べ物として供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について、食品材料の種類と調理特性、食品成分と調理変化、食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について解説する。また、人間と食べ物、環境との関係を理解し、調理の技術やおいしさの向上、豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	調理とは何かを学び、食品材料の種類と調理特性、調理過程での成分変化や調理操作の特徴、嗜好性への影響などについて科学的、系統的に理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	食べ物と人間や社会、環境との関連を理解し、豊かな食生活に繋げる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに、調理の目的	調理の目的、調理と調理科学について理解する。	教科書「1. 調理の目的・意義」(p. 1-3)を読んでおくこと。	120分
第2回	おいしさの科学	おいしさに関与する種々の要因について理解する。	教科書「2. 調理とおいしさの向上」(p. 4-16)を読んでおくこと。	120分
第3回	調理操作と調理器具① 非加熱調理	調理操作の分類、非加熱調理操作について理解する。	教科書「5. 調理操作、5-1. 調理操作、5-2. 非加熱操作」(p. 47-57)を読んでおくこと。	120分
第4回	調理操作と調理器具② 加熱調理	調理操作の分類、加熱調理操作および調理器具について理解する。	教科書「5. 調理操作、5-3. 加熱操作、5-4. 加熱調理器具」(p. 58-72)を読んでおくこと。授業の最初に、1-3回の授業内容に関わる小テスト	240分

			トを実施するので、復習しておくこと。	
第5回	調理操作と調理器具③ 新調理システム、チルド	調理操作の分類、新調理システム、チルド食品について理解する。	教科書 [5. 調理操作, 5-5. 新調理システム, 5-6. チルド食品] (p. 73-74) を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品の調理性① 米	植物性食品の中の米について、その調理特性を理解する。	教科書 [6. 食品の調理性, 6-1. 米] (p. 75-80) を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品の調理性② 小麦、その他	植物性食品の中の小麦やその他の食品について、その調理特性を理解する。	教科書 [6. 食品の調理性, 6-2. 小麦, 6-3. 穀類] (p. 80-87) を読んでおくこと。	120分
第8回	植物性食品の調理性③ いも類、豆類	植物性食品の中のいも類および豆類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性, 6-4. いも類, 6-5. 豆類」(p. 87-92) を読んでおくこと。授業の最初に、4-7回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第9回	植物性食品の調理性④ 野菜類、その他	植物性食品の中の野菜類、果実類、種実類、およびきのこ類について、その調理特性を理解する。	教科書 [6. 食品の調理性, 6-6. 野菜類, 6-7. 果実類, 6-8. 種実類, 6-9. 海藻類, 6-10. きのこ類] (p. 93-102) を読んでおくこと。	120分
第10回	動物性食品の調理性① 肉類	動物性食品の中の肉類について、その調理特性を理解する。	教科書 [6. 食品の調理性, 6-11. 食肉類] (p. 103-109) を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品の調理性② 魚介類	動物性食品の中の魚介類について、その調理特性を理解する。	教科書 [6. 食品の調理性, 6-12. 魚介類] (p. 110-111) を読んでおくこと。	120分
第12回	動物性食品の調理性③ 卵類、乳類	動物性食品の中の卵類および乳類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性, 6-13. 卵類, 6-14. 乳類」(p. 111-117) を読んでおくこと。授業の最初に、8-11回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第13回	その他の食品の調理性① でんぷん、甘味料、油脂類	でんぷん、甘味料および油脂類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性, 6-15. でんぷん, 6-16. 甘味料, 6-17. 油脂類」(p. 117-124) を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品の調理性② ゲル化剤、調味料、香辛料、嗜好飲料	ゲル化剤、調味料、香辛料および嗜好飲料について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性, 6-18. ゲル化剤, 6-19. 調味料, 6-20. 香辛料, 6-21. 嗜好飲料」(p. 124-135) を読んでおくこと。	120分
第15回	献立作成(食事計画)	食事計画の必要性について学び、献立作成について理解する。	予習: 教科書「7. 献立作成」(p. 138-152) を読んでおくこと。授業の最初に、12-15回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。 復習: これまでの授業内容を復習しておくこと。	予習: 240分, 復習: 420分

学習計画注記	※履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは採点した後、次週の授業にて返却し、解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストでは3~4回分の授業に関係する学習範囲より選択式と穴埋め方式で出題する。小テストは授業内に全部で4回実施するが、再試験は行わないので注意すること。 ・期末試験は100点満点で出題し、小テストの振り返りやフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題傾向に関しては、授業にて説明する。 ・小テストおよび期末試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合	期末試験 (60%) , 小テスト (20%) , 平常点 (20%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	食物と栄養学基礎シリーズ6 第三版 調理学 -生活の基盤を考える-, 吉田勉 (監修) 他, 学文社, 978-4-7620-2605-8
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し, 総合的な家政学の見地に立ち, 現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し, 問題解決に導く考察ができるようになる。
学生へのメッセージ	調理は皆さんにとって身近だと思いますが, 調理を科学的に捉えて理論を理解することで, 調理だけでなく食品製造や商品開発などの仕事でも活かしていく力をつけることができます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本科目では、私たちが健康を維持するための科学的根拠に基づいた正しい食生活について、栄養学の観点から探究していく。実際の食生活において、またそれぞれのライフステージにおいて、それぞれの栄養素をどのように摂取すればよいのかについて、「日本人の食事摂取基準」を踏まえて考察する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット、健康づくりのための国の政策や指針など食生活に関わる様々な問題や取り組みについても解説する。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、栄養素とからだの仕組みやエネルギー消費との関係が説明できる。健康づくりのための政策指針の内容やそれらが定められた背景が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康に生きていくために必要な栄養素のバランスや食生活、それをどのように維持していくか説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	健康と栄養	健康に生きていくということ、それらを支える適正な栄養素の摂取、適度な運動と休養、生体に備わるホメオスタシスについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	からだの仕組み	ヒトのからだの構成、生命を維持するための呼吸、消化、神経などのシステムについて学ぶ。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食事と栄養 (1) 糖質	食品中の糖質に関して、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1, 2(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食事と栄養 (2) 脂質	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2(2)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分

第5回	食事と栄養 (2) たんぱく質	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食事と栄養 (3) ミネラル、ビタミン、水分	食品中のミネラルとビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3, 4, 5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	食事と健康 (1) 栄養状態の判定	栄養状態を総合的、客観的に評価・判定するために様々な方法があること、またそれぞれの方法の概要について理解する。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食事と健康 (2) 日本人の食事摂取基準	日本において栄養素の過不足は「日本人の食事摂取基準」を用いて評価すること、また健康の維持・増進や疾患の予防・改善には、栄養摂取だけでなく適正な身体活動も必要であることを理解する。	授業前に教科書第4章-2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	我が国の食生活の変化と健康状況	日本の食生活は第二次世界大戦直後の食料難から徐々に改善したが、現代においては栄養過剰や栄養バランスの崩れにより生活習慣病などの様々な問題が生じていることを理解する。	授業前に教科書第5章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	健康増進のための指針	前時の学習内容を踏まえ、国民の健康増進のために様々な取り組みがなされてきたこと、またそれぞれの政策や指針の概要を理解する。	授業前に教科書第5章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	健康とダイエット	飽食、過食、貧食など食行動に様々な問題がみられる今日における、健康を維持する食事(ダイエット)の意義、また適正な体重維持における理論と実際について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	ライフステージと栄養	胎児期から高齢期までの各ライフステージにおける生理的特徴とそれに見合った栄養ケアについて学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	生活習慣病と栄養	生活習慣病とはどのようなものであるか、また個々の疾病の概要と予防や食事療法について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	免疫と栄養	健康を維持するために重要な役割を果たす免疫反応の概要について学ぶ。また、この仕組みが時として食物アレルギーとして人に対してマイナスに作用する場合があることを知る。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 定期試験の得点100%で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号) 三訂 栄養と健康 (978-4-7679-0539-6)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。

オフィスアワー 後期：水曜日3-4時限目

学生へのメッセージ 栄養学の基礎と、実際に健康に生きていく上で栄養という現象が他の生命維持機能にどのようにかかわっているか、またそれをどのように維持していかなければならないかについて学びます。化学や生物の基礎知識も必要です。

教育等の取組み状況

--	--	--	--	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)	私達の食に対する嗜好や要望を反映して、市場で販売される食品は多様化し、食情報も複雑化するなど食をめぐる環境は急速な変化を続けている。このような中で健康的な食生活を営むには、食生活上の問題点や課題を自覚し、より良い方向に自らを導く必要がある。本科目では、「食生活」を生活に関わる食のすべてを含む広範囲なものと考え、現代の食生活における諸問題や文化的側面について学ぶ。戦後から現代にかけての社会の変化やライフスタイルと食生活の関係、「日本型食生活」などについて触れ、質の高い食生活とは何かを考える力を養う。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 現代の食生活における諸問題とその社会的な背景をつなげて説明できる。2. 「日本型食生活」とそれが育まれた歴史的経緯について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食生活における問題を挙げて、その解決につながる考察ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食生活に関わる諸問題を身近な問題として考察する態度がとれる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活の概念	生活における食の位置づけを学び、食生活について学ぶ意義について考える。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第2回	食生活に関わる諸問題①	戦後～現代までの社会の変化が食生活に与えた影響について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第3回	食生活に関わる諸問題②	朝食欠食やこ食、共食などについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第4回	食生活に関わる諸問題③	自身の食生活について振り返りながら、健康と食生活の関係について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分

第5回	日本型食生活①	日本の食文化の特徴を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第6回	日本型食生活②	行事食や儀礼食、郷土食について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第7回	日本型食生活③	日本型食生活の特徴を学ぶ。	①配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②小テストに向け、前半のまとめを行う。	①120分②240分
第8回	日本型食生活④	食習慣と健康の関係を学ぶ。	①配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。②小テストに向け、前半のまとめを行う。	①120分②240分
第9回	前半のまとめ	前半の内容のまとめとして小テストを行う。	①小テストに向けて前半のまとめを行う。②小テストで不正解だった部分を中心に振り返る。	①120分②240分
第10回	食環境と食生活①	食品産業の発展や食情報の入手などについて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第11回	食環境と食生活②	環境問題と食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第12回	食生活の未来①	日本人の生活時間と食生活について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第13回	食生活の未来②	女性の生活時間の変化が食生活に与える影響について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第14回	食生活の未来③	価値観の変化が食生活に与える影響について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	120分
第15回	まとめ	これまでの授業のポイントを整理して総括する。	これまでの授業内容を総復習しておく。	300分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	コメントペーパーは評価して基本的に翌週返却する。小テストは返却時（授業内）に解答と解説を行う。質問がある場合は、1808研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントペーパーは、授業で扱った内容に対する理解の度合いと考察内容に対して評価を行う。 ・小テストは前半のまとめとして1回行う。 ・定期試験は、小テスト以降の内容を中心とする。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	コメントペーパー	○	○		
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		
評価割合	コメントペーパー（20%）小テスト（30%）定期試験（50%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	岡崎光子 編著『食生活論』，光生館（978-4-332-04058-3）				
参考図書	授業内で紹介する				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食生活の面から現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】自己を取り巻く食生活の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。			【思	
オフィスアワー	水曜5限 1808研究室				
学生へのメッセージ	自身の食生活に目を向けて、授業で学んだことと関連づけて考えてみて下さい。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

授業概要(教育目的)

安全でおいしい食事を作るためには、確かな調理技術と調理科学の理論が必要である。ここでは、非加熱調理操作、加熱調理操作などの基礎的調理技術を習得し、日本料理と諸外国の調理法や食文化の特徴を学ぶために、日本料理・西洋料理・中国料理の調理の実習を行う。これにより、食品の衛生的な取り扱い方、食品の調理性、調理による食品成分の変化、栄養性・嗜好性を高める調理法、調理器具や食器などの取り扱い方、食卓の演出、食事作法など調理と食生活に関する基礎総合力を養うことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 食事作りに必要な調理科学の理論、食品の性質、日本および諸外国の食文化等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
技術・表現の観点 (A)	1. 安全でおいしい食事を作りために必要な基礎的調理技術を身につける。

学習計画

調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、実習ノートのまとめ方を理解する。切り方の基本(包丁及びまな板の扱いを含む)を理解する。	切り方の基本について復習する。	15分
第2回	日本料理の基礎(1)	三色丼、味噌汁、即席漬け、さつまいもの茶巾絞りの献立の実習。 計量、炊飯の基本、煮干しだしのとり方、野菜の脱水、裏ごしのポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、炊飯の基本などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第3回	日本料理の基礎(2)	さつまいもご飯、かきたま汁、ぶりの照り焼き、ほうれん草のごまあえの献立の実習。 塩味ご飯、混合だし汁のとり方、切り身魚の調理、青菜の茹で方、あえ物のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、混合出しポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第4回	日本料理の基礎(3)	炊き込みご飯、吉野鶏の吸い物、厚焼き卵、ひじきの煮物の献立の実習。	実習内容のまとめに加えて、さらに、吸い物のポイントなどについて自分で学習を深めた点に	60分

		しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の焼き調理（１）、乾物の調理（戻し方）を理解する。	についても実習ノートにまとめる。	
第5回	西洋料理の基礎(1)	チキンピラフ、コンソメジュリアン、生野菜のサラダ、紅茶のゼリーの献立の実習。ピラフ、野菜の吸水、ドレッシング、ゼラチンの調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ゼラチンゼリーのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる	60分
第6回	西洋料理の基礎(2)	ロールキャベツ、温野菜のサラダ、ブランマンジェの献立の実習。ひき肉の調理のポイント、野菜の加熱調理、デンプンの調理性(ゲル化)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ひき肉調理のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第7回	中国料理の基礎(1)	ピーマンと牛肉のせん切り炒め、三種のせん切りのあえ物、牛乳かんの献立の実習。炒め物のポイント、あえ物、寒天の調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第8回	中国料理の基礎(2)	焼き餃子、水餃子、野菜の甘酢漬け、とうもろこしスープの献立の実習。小麦粉の調理(グルテンの形成)、野菜の調理(甘酢漬け)、スープ(湯菜)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第9回	中国料理の基礎(3)	焼くらげの酢の物、肉団子のもち米蒸し、かにたま、アーモンドクッキーの献立。もち米の調理、卵の焼き調理(2)、小麦粉の調理(膨化の種類 ペーキングパウダー)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第10回	日本料理の基礎(4)	イワシのかば焼き、茶碗蒸し、けんちん汁、ご飯の献立の実習。魚の扱い(イワシの手開き)、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、希釈卵液の蒸し物のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第11回	60行事食(1) クリスマス料理	ローストチキン、コーンポタージュ、ブッシュ・ド・ノエル、紅茶の献立の実習。骨付き鶏もも肉の扱い、肉のロースト、ポタージュスープ、スポンジケーキ(泡立て卵白による膨化)、紅茶(リーフティー)のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における泡立て卵白による膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第12回	行事食(2) 正月料理	伊達巻き、松かさいか、いり鶏、紅白なます、雑煮の献立の実習。日本の行事食(特に正月料理)、イカの扱い(下処理と飾り切り)、煮物(炒め煮)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、日本における行事食などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。正月料理について、我が家の雑煮をテーマとして調べ、レポートにまとめる。	120分
第13回	西洋料理の基礎(3)	ピザ、ミネストローネ、チョコレートババロアの献立の実習。イースト発酵、ポタージュ、ゼラチンの調理(ババロア・ムース)のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるイーストによる膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第14回	行事食(3) ひなまつりの献立	ちらしずし、はまぐりの潮汁、桜餅の献立の実習。節句の行事食、すし飯のポイント、潮汁、あんを用いた和菓子(米粉を用いた和菓子)、緑茶のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、和菓子の調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第15回	まとめ、実習テスト	実習テスト(野菜の切り方)、実習の振り返りを行う。	実習テストに向けての練習を行う。授業内容全体について総復習を行う。	予習; 60分 復習; 120分

学生へのフィードバック方法	受講者の実習中に、その都度調理法その他について必要に応じて、指導を行う。5から6回の実習が終了した時点で、実習ノートを提出してもらい、教室外学習がきちんと行われているかの確認も含めて、指定した事項が記載されているかどうかについて採点し、不十分な場合には、実習ノートの再提出を促して再度記載内容を確認する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習への取り組みでは、実習への積極的な参加を評価する。 ・実習ノートでは、毎回の実習内容に関して指定された項目をきちんとまとめているかどうか、さらに授業内容に関して自分で学びを深める学習を教室外でも行っているかを評価する。レポートは指定されたテーマに関して、関心を持って取り組んだかを評価する。 ・実習テストでは、調理の基本技術を身につけることができたかを評価する。 ・定期試験では、調理理論、食文化など、調理に必要な基本的な知識に関する問題を、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。 ・実習への取り組み、実習ノート・レポート、実習テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習への取り組み	○		○	
実習ノート・レポート	○	○	○	○
実習テスト				○
定期試験	○	○		

評価割合	実習への取り組み30%、実習ノート・レポート提出20%、実習テスト10%、定期試験40%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。プリント配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
オフィスアワー	金曜日1, 2限
学生へのメッセージ	食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。食生活に関心を持ち、自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。実習材料費として10000円程度を徴収する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木 洋子	指定なし

授業概要(教育目的)	前半は発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、乳幼児期の摂食行動の特徴を学習し、食事を取り巻く社会環境や育児観と関連付けながら健康な食生活とは何か考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の口腔機能の発達を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	講義で学んだ知識を元に、特定の栄養素や育児法を過大評価する情報の問題点を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション：授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第3回	幼児期の発達心理学	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第4回	児童期・青年期の発達心理学	児童期の仲間関係の発達、青年期の自己同一性の発達等を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分

第5回	成人期・老 年期の発達 心理学	成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第6回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第7回	大学生の食 事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史の変遷について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べる。	240分
第8回	乳幼児期に おける食と 心の関わり・食 事の意義	食事を通して発達する心理的側面と、保育園や幼稚園と家庭での食事の意義について理解する。	教科書Ⅰ編（14-60ページ）を読んでおくこと。	180分
第9回	保育園での 生活と家庭 での食事	保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認し、第8回の講義内容の理解を深める。	教科書Ⅲ編（154-163ページ）を読んでおくこと。「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	授乳期の食 べる機能・ 栄養と食支 援	授乳期の口腔機能の特徴を理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER1（62-73ページ）を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	離乳期の食 べる機能・ 栄養と食支 援1：栄養 指導・離乳 の進め方・ 食べる機能 の発達・食 器具など	栄養指導の変遷と、ミルクから離乳食への移行期の口腔機能の発達を理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER2の74-91ページを読んでおく。	120分
第12回	離乳期の食 べる機能・ 栄養と食支 援2：離乳 期の食事・ 献立・ベビ ーフード・ 口腔の成長 など	離乳初期・中期・後期の調理形態と口腔機能の発達を関連付けて理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER2の92-113ページを読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	幼児期の食 べる機能・ 栄養と食支 援	幼児食に移行した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、介助のポイントを理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER3（114-152ページ）を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と 人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記	授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業で告知する。
学生へのフィードバック方法	小レポートは講義の中で内容を紹介し、他の履修者と考えを共有する。小レポートの返却はしない。
評価方法	(1) 講義の理解度を確認するため、定期試験（筆記試験）を実施する。15回目の講義で出題範囲を告知する。 (2) 講義中に小レポートを2回実施する。レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、定期試験の得点に加算する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)

定期試験	○		
小レポート		○	

評価割合	定期試験80%、小レポート20%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援 (2008) 巷野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社
参考図書	藤村宣之編著 (2009) 発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つかー ミネルヴァ書房 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著 (2017) 若者たちの食卓 ナカニシヤ出版 その他、必要に応じて講義で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の摂食に関わる口腔機能の発達について専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。
学生へのメッセージ	「食」は様々な価値観が反映された営みです。その価値観は、単純に善悪や正誤に分けられません。本講義が、自分にとって望ましい「食」はどのようなものかを考えるきっかけになると良いです。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードサービスビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。
学生へのフィードバック方法	講義、調査、プレゼンテーション
評価割合	平常点(50%)、プレゼンテーション(50%) (平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)
使用教科書名(ISBN番号)	プリント配布
学生へのメッセージ	この科目では、市場調査や情報収集を通して、市場のトレンドやフードビジネス現状を捉えてみます。「人が豊かで健康になれるフードサービスとは何か」あなた自身の頭で考え、発信できる力をつけて下さい。

シラバス参照

講義名	食料経済		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶 徹	指定なし

授業概要 (教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局的問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フードシステム概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 2. フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 2. 現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 3. グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 2. 自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	豊かな食生活を支える食市場	1. 食市場を支える食品産業を理解する。 2. 外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3. 食の外部化をもたらした要因を理解する。 4. 少子高齢化が変える食市場を理解する。 5. 食品産業の技術発展内容を理解する。	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食品消費の変化	1. 品目別食品消費の変化を理解する。 2. 食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3. 栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4. 加工食品がなぜ増加したかを理解する。	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。	120分
第3回	食生活の多様化	1. 多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2. 食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分	240分

		る。 3. 現代における食情報が多様化した理由を理解する。	自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	
第4回	食品流通の役割と社会的使命	1. 食品流通の役割を理解する。 2. 卸売流通の役割を理解する。 3. 小売流通の役割を理解する。 4. 流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が必要な食品流通	1. 生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2. 加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。	120分
第6回	食品の小売流通	1. 販売形態の分類を理解する。 2. 食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 3. 家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食産業のマーチャングダイジング	1. 外食産業の業態を理解する。 2. 外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	中食産業のマーチャングダイジング	1. 中食産業の業態を理解する。 2. 中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類	1. 商品特性による基本的分類を理解する。 2. 商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主要食品の温度帯別流通	1. 食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。	120分
第11回	主要食品の流通	1. 生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードビジネスとフードマーケティング	1. フードビジネスの概要を理解する。 2. 6次産業化を理解する。 3. フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4. フードマーケティングの機能を理解する。 5. フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	1. 3Rを理解する。 2. 食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3. 食品ロスを理解する。 4. 環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	1. 食品の安全性を理解する。 2. 食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集しておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題	1. 食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ新聞等で時局的な事項を調べておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-mail (nihei@tatj.jp) で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて受付する。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	1. 大学の規定に沿い、授業に6回以上出席することが定期試験を受ける基本条件とする。 2. その上で定期試験の得点(100%)で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、記述式の問題を出題する。 3. 定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 4. 詳細については、最後の授業にて説明する。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%で評価する。
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	食品の消費と流通 (9784767905389)
-----------------	--------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。</p> <p>【思考・判断】現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、考察できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を具体的に提言できるようになる。</p>
オフィスアワー	月曜日の授業終了後 非常勤講師室
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものである。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、本講義を履修し、フードシステムを体系的に捉え、バランスよく知識と考えを持ち合わせ、実社会で活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった3つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらおうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	製品・食品鑑別演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

授業概要 (教育目的)	豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。適切な食品の選択を行う時に必要とされる食品の品質には、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能などが関わる。食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について講義および演習により学ぶ。特に嗜好性を評価するうえで重要な官能評価法について、考え方、手法、具体的な実施方法などについて、演習や発表などを取り入れながら授業を行う。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「食品学」「調理学」を履修していることが望ましい。
------	---------------------------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	1. 食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食品の品質評価から、食生活の問題点を発見し、その解決を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 食品の品質について関心を持ち、豊かな食生活につなげることができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 官能評価や食品実験について、目的・結果・考察等をわかりやすく記述し、口頭発表することができる。

学習計画

製品・食品鑑別演習

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	はじめに 食品の品質とは	食品の品質のひとつである食品の嗜好性とおいしさに関わる要因について理解する。 2点嗜好試験法、塩分濃度の違いの識別についての演習を通して、食品の嗜好性を評価する重要な方法である官能評価について理解する。	教科書序章「食品の品質とは」(1-2ページ)を読んでもらうこと。 官能評価の演習(2点嗜好試験法、塩分濃度の識別)についてのレポートを作成する。	60分
第2回	官能評価の概要、味覚と閾値、官能評価の手法(比較法その1)	官能評価の概要、味の認識の機構と閾値について理解する。 2点識別試験法、5味の識別テストの演習を通して、味覚と閾値、濃度識別について理解する。	教科書第1章「官能評価」(3-5ページ)を読んでもらうこと。 官能評価の演習(2点識別試験法、5味識別テスト)についてのレポートを作成する。	60分
第3回	官能評価の手法(比較)	官能評価の結果に及ぼす要因とその対策、官能評価の評価環境、実施条件について理解する。	教科書第1章「官能評価」(5-12ページ)を読んでもらうこと。	60分

	法その2)	3点識別試験法、1:2点識別試験法の演習を通じて、2種の試料の違いの識別を調べる官能評価法を理解する。	と。この回の官能評価の演習についてのレポートを作成する。	
第4回	官能評価の手法(順位法その1)	官能評価の手法として、比較法を理解する。順位法(スベアマンの順位相関係数等)の演習を通じて、3種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。	教科書第1章「官能評価」(12-17ページ)を読んでおくこと。官能評価の演習(順位法)についてのレポートを作成する。	60分
第5回	官能評価実習および発表(第1回)	野菜の調理法の違いをテーマに、実験計画を各グループで立て、3点識別試験法を用いた官能評価演習を各グループで実施して、結果をまとめて、次週の発表に向けて準備を行う。	官能評価実習(第1回)についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	150分
第6回	官能評価の手法(順位法その2、評点法その1)	官能評価演習(第1回)について発表を各グループで行い、講評を行う。順位法(ケンドールの一致性の係数)、2種の試料を用いた評点法の演習を行い、平均値の差の検定などの統計処理方法について理解する。	官能評価の演習(順位法、評点法)についてのレポートを作成する。	60分
第7回	官能評価の手法(評点法その2)	官能評価の手法として、順位法、評点法、記述法を理解する。3種以上の試料を用いた場合の評点法の演習を行い、統計処理方法についても理解する。	教科書第1章「官能評価」(17-30ページ)を読んでおくこと。官能評価の演習(評点法)についてのレポートを作成する。	60分
第8回	官能評価の手法(配偶法)	食品の化学的評価法を理解する。配偶法の演習を通じて、5種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。	教科書第2章「化学的評価法」(31-58ページ)を読んでおくこと。官能評価の演習(配偶法)についてのレポートを作成する。	60分
第9回	官能評価の手法(記述法)	食品の物理的評価法を理解する。食品の官能特性を列挙して話し合う円卓法を用いる記述法の演習を行う。	教科書第3章「物理的評価法」(39-85ページ)を読んでおくこと。官能評価の演習についてのレポートを作成する。	60分
第10回	官能評価実習(第2回)についての試料試作	テーマの食材を用いた2種の調理品を調製して、評点法を用いた官能評価を行う官能評価実習のために、試料の試作を実施し、評価項目を決定する。	官能評価実習(第2回)の実験計画を立て、試料調製のために、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	60分
第11回	官能評価実習(第2回)の実施及び発表	各グループで考えたテーマに沿った2種の調理品を調製し、評点法を用いた官能評価を実施し、結果をまとめ、次週の発表の準備を行う。	官能評価実習(第2回)についてのレポートを各自作成し、次回の各グループの発表に向けて、授業内で準備できなかった部分を補っておく。	150分
第12回	食品の鑑別評価(動物性食品1)	官能評価実習(第2回)について発表を各グループで行い、講評を行う。卵の鮮度および性質を調べる実験を行い、卵の鮮度判定法と加熱調理性について理解する。	卵の鮮度および調理性についての実験レポートを作成する。	60分
第13回	食品の鑑別評価(動物性食品2)	植物性食品の鑑別について理解する。魚の鮮度および性質を調べる実験を行い、魚の鮮度判定法と加熱調理による変化について理解する。	教科書教科書第4章「個別食品の鑑別 米など」(87-138ページ)を読んでおくこと。魚の鮮度と加熱調理性についての実験レポートを作成する。	90分
第14回	食品の鑑別評価食品の鑑別評価(植物性食品1)	動物性食品の鑑別について理解する。野菜の調理による色の変化の実験を行い、色の測定法や、野菜の色素の性質について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 魚介類など」(139-177ページ)を読んでおくこと。野菜の色の変化についての実験レポートを作成する。	90分
第15回	まとめ 市販飲料の糖度測定	その他の食品の鑑別について理解する。市販飲料の糖度を測定し、日常摂取している糖分量について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 油脂など」(177-221ページ)を読んでおくこと。授業全体について復習をしておくこと。	270分

学生へのフィードバック方法	レポートについては、毎回次週までに採点して、多くの受講生が適切に記述できていなかった箇所については、授業の初めに説明を行い、不十分なレポートについては再提出を促し、再度確認する。官能評価実習ので各グループの発表については、講評を行い、次回の実習にいかすことができるようにする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への取り組み・発表では、食への関心をもって、テーマを探し、適切な手法で官能評価を実施し、まとめ、わかりやすく人に伝えることができるかを評価する。 ・レポートでは、官能評価あるいは実験の目的を理解し、方法および結果を科学的にまとめ、必要に応じて適切な統計処理を行い、適切な資料を用いて調査し、考察を行い、わかりやすい文章で記述しているかを評価する。 ・定期試験では、演習も含めて授業内容全体について、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。 ・演習への取り組み、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習への取り組み・発表	○	○	○	○
レポート	○	○		○
定期試験	○	○		
評価割合	演習への取り組みおよび発表30%、レポート提出40%、定期試験30%			
使用教科書名 (ISBN番号)	三訂 食品の官能評価・鑑別演習/日本フードスペシャリスト協会 編/建帛社 (978-4-7679-0506-8)			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>			
オフィスアワー	金曜日・2時限および昼休み 1609研究室			
学生へのメッセージ	日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってほしい。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行う。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、発表等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的) 住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	住生活に関する諸問題について解決案の提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	150分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	150分
第3回	日本の住まいの変遷 (1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分
第4回	日本の住まいの変遷 (2) 明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	(復習) 自分自身のライフスタイル、ライフコースと住居との	150分

			関係について考える。	
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	150分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	150分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	150分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	150分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	150分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	150分
第12回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	(復習) 自分の住む地域の空き家の状況について考える (レポート1/3) 地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 +レポート150分
第13回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	(復習) 自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる (レポート2/3) 地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 +レポート150分
第14回	まちづくりと住民参加	都市計画の基礎、まちづくりと住民の係わりについて学ぶ。	(復習) 自分の住む地域でおこなわれているまちづくり活動について調べる。 (レポート3/3) 地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 +レポート150分
第15回	こどもと住まい	社会・家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について、こどものための居住環境という視点から学ぶ	(復習) 自分の住む地域におけるこどもの居住環境について考える	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。レポートは、採点后にコメントを付して返却する。

評価方法 小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合 小課題30%、レポート30%、定期試験40%により総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特にテキストは指定しない

参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第1部I「竪穴式住居と高床式建物」(pp.10-11)を読んでおくこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第1部II「古代の神社建築」(pp.12-13)を読んでおくこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第1部III「仏教建築の伝来」(pp.14-15)を読んでおくこと。また、授業で配布するプリント(組物について)の組物名称を覚えること	120分
第5回	古代の都市	条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造	教科書第1部IV「古代の都市計	120分

	計画と寝殿造		画と住宅」(pp.16-17)を読む しておくこと	
第6回	平安時代の 仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第1部V「浄土教の建 築」(pp.18-19)を読んでおく こと	120分
第7回	中世の神社 建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第1部VII「中世の神社建 築」(pp.24-25)を読んでおく こと	120分
第8回	中世の仏教 建築1	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禪宗様	教科書第1部VI「中世の仏教建 築」(pp.20-23)を読んでおく こと	120分
第9回	中世の仏教 建築2	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第1部VI「中世の仏教建 築」(pp.20-23)を読んでおく こと	120分
第10回	中世の住宅 建築から書 院造へ	寝殿造の簡略化、楼阁建築、座敷飾り、書院造	教科書第1部VIII「中世の住宅か ら書院造へ」(pp.26-27)を読 んでおくこと	120分
第11回	近世の都市 と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの 誕生	教科書第1部IX「城郭建築」 (pp.28-29)IX「城郭建築」 (pp.28-29)X「茶室と数寄 屋」(pp.30-31)XI「近世の社 寺建築」(pp.32-33)を読んで おくこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第1部XII「民家」 (pp.36-39)を読んでおくこと	120分
第13回	西洋建築の 移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第2部I「西洋文化の移 入」(pp.42-43)II「日本人建 築家の誕生」(pp.44-46)を読 んでおくこと	120分
第14回	戦後の住宅 建築と都市 政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公園、ニュータウンの開 発、nLDK住宅の誕生	教科書第2部IV「都市計画およ び構造技術の発達」(pp.48- 49)VII「戦後の住宅政策とDK住 宅の誕生」(pp.56-58)を読ん でおくこと	120分
第15回	わが国のモ ダニズム建 築	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタポリズム	教科書第2部V「モダニズム建 築の到来」(pp.50-53)VIII「日 本建築界からの発信」(pp.59- 61)IX「モダニズムの先を求め て」(pp.62-63)を読んでおく こと	120分

学生へのフィードバック方法 学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	

評価割合 授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する

使用教科書名(ISBN番号) 「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN:978-4-395-00876-6)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる

	【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる	
オフィスアワー	火曜3限 1702室	
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史B		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストーンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジグurat、宮殿建築、アーチ構造	教科書第3部I「エジプト建築」(pp.66-67)II「オリエント建築」(pp.68-69)を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生(ドリス式、イオニア式、コリント式)	教科書第3部III「ギリシア建築」(pp.70-75)を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	5つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第3部IV「ローマ建築」(pp.76-79)を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリスト教建築	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達(スキッチ、トロンプ、ペンデンティ	教科書第3部V「初期キリスト教建築」(pp.80-81)VI「ビザ	120分

	ビザンティン建築	ヴ)、ハギア・ソフィア大聖堂	ンティン建築」(pp.82-83)を読 んでおくこと	
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第3部Ⅷ「ロマネスク建築」(pp.86-89)を読んでおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第3部Ⅸ「ゴシック建築」(pp.90-94)を読んでおくこと	120分
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家(ハーフ・ティンバー等)	教科書第3部Ⅹ「中世の世俗建築」(pp.94-95)を読んでおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴(古典様式の復興、教会堂建築の課題)、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラディオの建築	教科書第3部Ⅺ「ルネサンス建築」(pp.96-100)を読んでおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとボロミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第3部Ⅻ「バロック建築」(pp.101-107)を読んでおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第3部ⅫⅢ「リヴァイヴァル建築」(pp.108-111)を読んでおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第4部Ⅰ「新材料を用いた構築物」(pp.114-115)を読んでおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第4部Ⅱ「都市問題・住宅問題」(pp.116-118)を読んでおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォ、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・スティール、パウハウス	教科書第4部Ⅲ「アーツ・アンド・クラフツ運動」、Ⅳ「アール・ヌーヴォ」、Ⅴ「アメリカ建築の近代化」、Ⅵ「セセッション」(pp.1118-127)ならびにⅧ「ドイツ工作連盟」、Ⅸ「近代建築運動」(pp.130-133)、Ⅹ「アール・デコとスカイスケイパー」(p.141)を読んでおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築	教科書第4部Ⅹ「モダニズム建築の完成と流布」(pp.134-140)Ⅻ「第二次世界大戦後の建築」(pp.142-143)ⅫⅢ「ポスト・モダニズム建築」(pp.144-145)を読んでおくこと	120分

学生へのフィードバック方法 学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	

評価割合 授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する

使用教科書名(ISBN番号) 「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN: 978-4-395-00876-6)

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる	
オフィスアワー	火曜3限 1702室	
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行くとよいでしょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要(教育目的)	住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活を取りまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	わが国の住空間の特徴を習得する
思考・判断の観点 (K)	住空間を計画するにあたって何が重要かを理解できるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想の住空間を計画することができるようになる
技術・表現の観点 (A)	住空間を1:50の建築図面(平面図)で表現できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	住まいとは、住まいに求められるもの、どこに住むか、住まいの分類、空間を理解する、日本建築のモジュール	自分の部屋の簡単な間取りを描く	120分
第2回	さまざまな住まい	住まいの進化とアメニティの追求、住まいの地域性、住み手と住まい、住まいの種類	川崎市立日本民家園に移築保存されている民家をインターネットで調べ、現代住宅との違いを整理する	120分
第3回	住まいの伝統	寝殿造、舗設、書院造、座敷飾り、空間の上下	インターネットで書院造の実例を調べる	120分
第4回	住まいの近代化とnLDK住宅	ベランダ式住宅、洋館、中廊下型住居、台所改革、住まい方の研究、51C型住宅、DKの登場、プレファブ住宅	リビング(L)とダイニング(D)とキッチン(K)のつながり方を整理する	120分
第5回	住宅地開発と集合住宅	都市問題の発生、田園都市論、ニュータウン、モデル住宅、住宅政策、同潤会、日本住宅公団	集合住宅と戸建住宅について、それぞれの長所と短所をまとめる	120分
第6回	住まいの管理と地域コ	住まいの安全、家庭内事故の現状、防犯、防災、住まいのメンテナンス、地域コミュニティ、地域計画	自宅の安全対策を確認するとともに、火災や地震が起きた場合	120分

	ミニニュティ		の対応を確認する	
第7回	住まいの構成	住まいの機能、パブリック・スペースとプライベート・スペース、多様なライフスタイルと住まい	住まいで行う行為を列挙し、空間との関係を図示する	120分
第8回	中間試験および同解説	第1回～7回までの講義内容に関する試験を実施 授業後半にて、解答解説を行う	不正解の問題を復習する	120分
第9回	住まいの計画	リビング、ダイニング、キッチンの計画	自分の部屋の寸法を計測する	120分
第10回	図面の表現方法	図面の縮尺 平面図、立面図、断面図、展開図の表現	1:500、1:200、1:100、1:50、1:20のスケールバーを作成する	120分
第11回	1Kの住宅の計画1	自分の部屋を1:50の平面図で表現する	図面を完成させる	120分
第12回	1Kの住宅の計画2	4.2×6mの空間に1Kの住宅を計画する	図面を完成させる	120分
第13回	1Kの住宅の計画3	1点透視図法で室内を表現する	図面を完成させる	120分
第14回	マンションのリフォーム計画1	1:50の建築図面(平面図)を理解する 線の意味、躯体と間仕切壁の違いを学ぶ	図面を完成させる	120分
第15回	マンションのリフォーム計画2	理想の住戸を計画する	図面を完成させる	120分

学生へのフィードバック方法 授業で中間試験の解説を行う

評価方法
・中間試験は、大問2題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、nLDK住宅の成立と集合住宅に関する問題を出題する。小問では、用語の説明を中心に出題する
・2つ課題に関しては、図法が理解できているか、家具のスケール感概が正しかどうかを中心に採点する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合 中間試験(50%)と2つの課題(第一課題30%、第二課題20%)で評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 特に定めない

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー 月曜2限 1702室

学生へのメッセージ
三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心を持ち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測ってみて、使いやすい寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	製図の描き方等に関する教育内容を含む
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	住居設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境安全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画(配布資料) 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備/住宅で 사용되는エネルギーの種類/建築士の仕事(映像資料)	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 (配布資料) すまいの「水・お湯」のしくみ/すまいの「空気・熱」のしくみ/ビルの「給排水・衛生」のしくみ/ビルの「空調」のしくみ/インテリアコーディネーターの仕事(映像資料)	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境(1)	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの/水の流れ/都市設備と建築設備/建築設備と自然堤境/自然にやさしい再利用水	教科書p.102-110(水環境・水の用途)について読んでおくこと	180

第4回	建築と水環境 (2)	水の用途について理解する。 水と生活/生命維持のための水/水の用途と設備 給排水衛生設備 上水 雑用水/生活用水と使用水量	水の用途について復習すること	120
第5回	水に関する基礎知識 (1)	水質、給水圧力について理解する。 水質/上水, 下水, 再利用水/おいしい水, 湯 (定義, 洗浄力), 浄水器 残留塩素 水に対する溶解度 水と圧力/圧力の単位/ベルヌーイの式	教科書p.111-120 (水に関する基礎知識) について読んでおくこと	180
第6回	水に関する基礎知識 (2)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能/封水損失現象とその防止対策/誘導サイホン作用 自己サイホン作用 蒸発 水の使われ方と負荷/水使用パターンとピーク負荷/適正器具数	課題1 (水基礎知識) による復習	120
第7回	給水設備 (1)	給水の汚染防止について理解する。 安全な水/飲料用給水の汚染と防止/クロスコネクション 逆サイホン作用 吐水口空間 バキュームブレイカー 逆止弁 受水槽の6面点検 器具の汚染と防止/間接排水 排水口空間	教科書p.121-125 (給水設備) について読んでおくこと	180
第8回	給水設備 (2)	給水方式について理解する。 システムの種類/器具の必要給水圧力/直結直圧方式 直結増圧方式 高置水槽方式 圧力水槽方式 ポンプ直送方式 システムの構成/ポンプ 水槽 配管材料	課題2 (給水設備) による復習	120
第9回	給湯設備 (1)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い/給湯エネルギー/住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器/自然冷媒ヒートポンプ給湯器 潜熱回収型ガス瞬間湯沸器 ハイブリット型給湯器 太陽熱温水器	教科書p.126-129 (給湯設備) について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備 (2)	給湯方式について理解する。 システムの種類/住戸セントラル給湯方式 さや管ヘッダー配管方式 中央式給湯方式 システムの構成/湯沸器 貯湯槽 膨張水槽 逃し管 伸縮継手	課題3 (給湯設備) による復習	120
第11回	排水通気設備 (1)	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ/圧力発生原理/特殊継手排水システム/排水の種類と排水方式	教科書p.130-136 (排水通気設備) について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備 (2)	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成/ベントキャップ/排水管・継手類/フロアドレン/阻集器/排水ます・排水槽	課題4 (排水通気設備) による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類/給水器具 水受け容器 排水器具 付属品 プレハブ ユニット化 水栓金具/大便器/洗面化粧台/浴槽/流し類/排水器具	教科書p.137-141 (衛生設備) について読んでおくこと 課題5レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割/設置基準/処理方式/構造 ガス利用の歴史/都市ガスとLPG/ガスの性質/供給方式/設備設計/安全対策	教科書p.142-151 (浄化設備・ガス設備) について読んでおくこと 配布資料 (ガス設備の燃焼方式) について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量/シックハウス対策と24時間換気/換気の法的規制	教科書p.87-95 (換気設備) について読んでおくこと 換気の方式について復習すること	90 60

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
---------------	----------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、衛生器具設備 (キッチン・洗面・浴室・トイレ) の製品特徴・選択理由・設置寸法についてシヨールームあるいはカタログで調べる課題である。 ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			

レポート	○			

評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門 新訂第二版/同編集委員会編/彰国社/2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜5限 1807室 / 町田C 水曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造力学A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要 (教育目的)	構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことにより、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力を理解し、説明できる。 2. 力の釣合い条件をもとに、トラスに生ずる部材応力の計算ができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習(予習・復習)、成績評価の方法・基準などについて理解すること。力学を学ぶ上で理解して欲しい用語(質量、重量、荷重[固定荷重、積載荷重、積雪荷重、地震荷重、風圧力など])についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語(質量、重量、荷重)の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	60
第2回	力と形 (1) 1点で支える力の実験	1枚の紙に圧縮力がかかった時に、紙がどのような形だと大きな力を支えることができるかについて実験を通して理解すること。	【復習】授業で説明した用語(外力、反力及び応力)の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。又、かたちと力の関係についても復習してこること	120
第3回	力と形 (2) 1点で支える力	力と形に関係する図心、重心、剛心、座屈などの用語を用いながら、どんな形であれば大きな力を支えることが	【復習】授業で説明した用語(図心、重心、剛心及び座屈)の意味について、書籍やネット	120

	の実験の解説	できるかについて説明するので理解すること。又、応力度の計算ができること。	などで調べて理解すること。 又、応力度の計算についても復習してくること。	
第4回	力と形 (3) 図心の求め方 (制作)	図心について理解を深めるため、制作でT字形(床と壁を想定)の紙の図心を求めるので理解すること。又、建物の構造形式(剛構造[耐震構造]及び柔構造[免震構造・制震構造])についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語(剛構造[耐震構造]及び柔構造[免震構造・制震構造])の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第5回	力と形 (4) 図心の求め方 (計算)	図心について理解を深めるため、計算でT字形(床と壁を想定)の紙の図心を断面一次モーメントを用いて求めるので理解すること。又、建物の構造形式(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても説明できるようにすること。	【復習】断面一次モーメントの計算について復習して理解すること。又、授業で説明した用語(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第6回	形と変形	片持ち梁の変形について、部材断面の寸法や片持ちの長さを変えた実験を行いながら、形と変形の関係について説明するので理解すること。	【復習】形と変形の関係について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第7回	力の合成と分解(1) (図式解法)	力の合成と分解について作図を通して説明するので理解すること。又、荷重の種類(集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重)についても説明できるようにすること。	【復習】荷重の種類(集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重)について書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第8回	力の合成と分解(2) (図式解法及び計算)	平行な力の合成について作図を通して説明するので理解すること。又、支点と節点についても説明できるようにすること。	【復習】返却した小テストについて、復習すると共に、支点と節点について書籍やネットなどで調べて理解すること。	180
第9回	力の合成と分解(3) (支持反力の算出)	単純梁に集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。	180
第10回	力の合成と分解(4) (支持反力の算出)	単純梁に等分布荷重及び等変分布荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているか宿題を解いて確認すること。	240
第11回	力の合成と分解(5) (支持反力の算出)	片持ち梁に集中荷重が作用した時、及び静定ラーメンに集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【宿題】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第12回	トラス (1) (節点法による部材応力の算出)	トラスの解法の条件について説明し、実際に節点法を用いてトラスの部材応力の算出を行うので理解すること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第13回	トラス (2) (節点法による部材応力の算出)	節点法によるトラス部材の応力計算ができること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第14回	トラス (3) (切断法による部材応力の算出)	切断法によるトラスの部材応力の算出を行うので理解できること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第15回	トラス (4) (切断法による部材応力の算出)	切断法によるトラス部材の応力計算ができること。授業の最後に定期試験について説明するので理解すること。	【復習】第8回から第15回までの授業内容について復習して定期試験に備えること。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト、実験レポート及び宿題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に正答について解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは授業中に実施する実験レポートで評価する。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくは実験レポートの記載内容を3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。授業は15回あるので150点満点となる。宿題については、5回出し、1回10点満点で正答率によって3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。定期試験は50点満点で、静定梁の反力計算が2問、トラス応力の計算が1問とする。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・実験レポート	○			
宿題	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点（60％）、宿題（20％）、定期試験（20％）により、総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	和田彰ら／建築構造設計／実教出版、山田修／やさしい建築の構造力学／オーム社、小野里憲一・西村彰敏／力のつり合いを理解する構造力学／彰国社
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基礎となる構造的な知識を身につけている。
オフィスアワー	火曜日 4時限 非常勤講師室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	構造計画 A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 永井 佑季	指定なし

授業概要 (教育目的)

授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。
 構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。
 また、「構造デザイン」がどういったものであるかの理解を深めるために、パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して体得します。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
思考・判断の観点 (K)	将来、建築のデザイン関係の仕事（設計やインテリアデザイン等）をする際に、構造に対する基礎的な知識により、適切なデザイン判断が出来るようになることを目標とします。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築の構造という分野に興味を持ち、構造デザインという分野に関心を持てるようになることを目標とします。
技術・表現の観点 (A)	建築を専門としない学生でも、建築を専門とする学生とチームを組み、グループで課題に取り組むことにより、建築的な技術を体得することを目標とします。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション 「構造とデザインとは」	当該授業で扱う建築における構造の世界の概要について説明を行う。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第2回	意匠設計と構造設計 / 構造デザインとはー1	意匠設計と構造設計との関係を紐解きながら、構図デザインについて学ぶ。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第3回	模型実験で力の流れを理解する - 1	パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して、「構造」と「デザイン」の関係性について学ぶ。その第1回目として、パスタブリッジ制作のためのガイダンス及び、制作を行うグループ分け、デザインを行う。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分

第4回	鉄の構造 - 1	鉄骨構造の歴史について学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第5回	鉄の構造 - 2	前回に引き続き、現代の鉄骨構造のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第6回	模型実験で力の流れを理解する - 2	第3回のパスタブリッジの各グループのデザインについて中間発表を行い、互いのグループについて意見を述べたり質問をしたりすることで、製作に向けてデザインをブラッシュアップする。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第7回	木の構造 - 1	木造の基本について学ぶとともに、木を使った建物の実例から木の構造デザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第8回	鉄筋コンクリートの構造 - 1	鉄筋コンクリート構造の基本について学ぶとともに、鉄筋コンクリートを使った特殊な建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第9回	鉄筋コンクリートの構造 - 2	鉄筋コンクリートを使った現代の建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第10回	模型実験で力の流れを理解する - 3	第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第11回	大きな空間の構造	ドームやスタジアム等の大きな空間を作る構造について学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第12回	模型実験で力の流れを理解する - 4	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第13回	模型実験で力の流れを理解する - 5	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としている パスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第14回	模型実験で力の流れを理解する - 6	第3回から開始したパスタブリッジについて、最終的な成果物に重りを載荷し、自身が制作したブリッジの強度の確認を行い、構造とデザインについて学んだことを総括する。	参考図書等を参考に、自身が制作したパスタブリッジの強度について検証を行う。	180分
第15回	総括	構造デザインについて学んだ内容について総括を行う。具体的には、授業中のレポート課題により、学んだ内容を復習するような内容とする。	参考図書等を参考としながら、構造デザインについて総括を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	パスタブリッジの制作を通して、授業中にコメント等を行う。
評価方法	授業への出席はもとより、授業への積極的な参加等の平常点や、授業内に行うレポートの提出等により評価を行う。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
発表点	○		○	○

評価割合	出席及び平常点（授業への参加態度や授業中に小レポート等）（50%） パスタブリッジに関する発表点（20%） 学期末の授業内課題レポート（30%）			
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない			
参考図書	「空間・構造・物語—ストラクチャル・デザインのゆくえ（斎藤公男著・彰国社）」 「建築構造のしくみ—力の流れとかたち（建築の絵本）（川口 衛, 松谷 宥彦, 川崎 一雄, 阿部 優 共著・彰国社）」			
ディプロマポリシーとの関連	授業をとおして建築の構造デザインについて学ぶことをとおして建築における構造分野と向き合うことにより、生活・社会の諸問題を自らから分析し、問題解決に導く考察ができるようになると考えられる。			
学生へのメッセージ	基本的に、スライドによる講義とします。適宜メモを取り、積極的な授業参加をしてください。講義内容を確認するため、さらに、より構造デザインに関する知識の幅を広げるために、参考図書による、予習・復習に役立てることをお勧めします。 なお、授業の途中では、パスタによるブリッジの制作により実際に手を動かしてもらい、建物に働く力の流れを体験してもらいます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリア材料		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。 【レポート課題(繊維板の種類とその特徴について)の説明】	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	60
第2回	屋根材料 (1) 粘土瓦	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など)の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	180
第3回	屋根材料 (2) 金属板	金属板(トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など)の特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	300

			【復習】返却した小テストについて復習する。	
第4回	屋根材料 (3) スレートなど	スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	420
第5回	内外装仕上げ材料 (1) 木質系材料	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明することができるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第6回	内外装仕上げ材料 (2) せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第7回	内外装仕上げ材料 (3) 繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	内外装仕上げ材料 (4) 軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること 【復習】返却した小テストについて復習すること	120
第9回	内外装仕上げ材料 (5) タイル	タイルの種類(素地による区分) やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	内外装仕上げ材料 (6) れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装仕上げ材料 (7) 石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	内外装仕上げ材料 (8) 左官材料	左官材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	内外装仕上げ材料 (9) ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	その他の材料 (1) 塗装材料	塗装材料（塗料）の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	その他の材料 (2) 接着剤・断熱材料	接着剤及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	480

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点(約43%)、レポート課題(約14%)及び定期試験(約43%)で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橋高義典ら／市ヶ谷出版																																	
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに人や環境に優しい家づくりがある。その家づくりの基礎となる仕上げ材料についての専門的知識を有している。																																	
オフィスアワー	火曜日4時限 非常勤講師室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

シラバス参照

講義名	住宅施工		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要(教育目的)	住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 施工・管理計画(1)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略についても説明できるようにすること。	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	60
第2回	施工・管理計画(2)	工程表の種類及び読み方について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第3回	施工・管理計画(3)	工事現場での材料管理、工事着手前に行う各種の届出などについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第4回	仮設・地業	住宅が建てられる地盤について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した	120

	工事（１）	と。	「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	
第5回	仮設・地業工事（２）	住宅の地盤調査として用いられているSS式サウンディング試験について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第6回	基礎工事（１）	住宅に用いられている基礎の種類について説明できるようにすること。 【レポート課題（タイル工事の種類とその特徴について）の説明】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第7回	基礎工事（２）	基礎工事について、水盛り・やり方工事、割栗・捨てコンクリート工事、フーチング基礎工事などに分けて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第8回	主体工事（１）	土台から柱の建て方まで説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	300
第9回	主体工事（２）	胴差、梁、桁などの横方向の部材の取付方法について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題について、ルーブリックで示した観点に沿ってまとめられているか確認し、提出できるように準備する。	360
第10回	主体工事（３）	小屋組及び屋根工事について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出期限】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装工事（１）	タイル工事の中の湿式工法について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見直すこと。	180
第12回	内外装工事（２）	左官工事の中のセメントモルタル塗り及び石こうプラスター塗り工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	床工事（１）	床工事の中のビニルタイル張り及びビニルタイルシート張り工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	床工事（２）	床工事の中のカーペット工事及び畳敷きについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	設備工事	設備工事の中の給排水工事について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題提出時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題である。																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点（約43%）、レポート課題（約14%）及び定期試験（約43%）で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	最新構造入門／青木博文／実教出版、建築施工テキスト（改訂版）／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社																																	
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基本となる施工方法についての専門的知識を有している。																																	
オフィスアワー	火曜日4時限 非常勤講師室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塚田 豊	指定なし

授業概要(教育目的)	建築基準法及び施行令を中心にその他の建築関係法令との関連も併せて、理解しにくい法令文や法令用語などを平易に解説しながら進め、建築関係法令の全体像を理解することで、社会活動上求められる法的知識やインテリア・住宅・建築関連の実務を行う上で必要と思われる法令及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を理解出来るように説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築関連法の成立ちや概要を学ぶことで、法令の必要性を理解し、建築関連法令集の条文を理解できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	建築に関係する法令への理解を深めることで、法令順守の意識を持ち常に適切に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築関連法は普通に生活をするだけでも自身の回りに関わっている事を発見し法令集を確認する
技術・表現の観点 (A)	社会活動をおこなう上で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	建築基準法の必要性、建築基準法の概要とこれまでの流れ	建築関連法はいつどのように出来たのか、またこれまでの経緯を確認し、具体的にどの様に環境や人々とかかわっているかを認識する。	建築基準法第1章 第1条 及び関係法令のこれまでの流れを配布プリントで確認し復習すること。	60分
第2回	建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説	基準法・施行令・告示・土法・業法及び都市計画法・消防法・他、等の役割の説明。新築・改築・改修・修繕・模様替え・増築、以上・以下・未滿・超える・含む・かつ・または、などの法律用語を理解する。	配布プリントを復習し、関連法の概要と法令集の項目を再確認しておくこと。	120分
第3回	建築基準法の用語の定義	建物用途、各種面積の算定・各種高さの基準・階数の算定・延焼の恐れのある部分・防火準耐火耐火構造、等の用語についての法令上の定義を理解する。	事前に建築基準法第2条各号を読んでおき、授業後に基準法第	120分

			2条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	
第4回	敷地と道路、地域による建物の用途制限	道路の種類、敷地と道路幅員の関係、42条2項道路の扱い、道路内の建築制限の種類、建物の用途制限、特殊建築物の種類、都市計画との関連、等を理解する。	事前に建築基準法第42条から48条までを読んでおく、授業後に施行令各条令との関連を再確認、都市計画地図の読み方を再確認すること。	120分
第5回	地域による面積制限（容積率・建ぺい率）	建物の大きさを規制する、容積率及び建ぺい率制限の内容と限度（都市計画制限・道路幅員による規制）及び各要件ごとの緩和（特定道路、共同住宅、地下室、駐車場等）を理解する。	事前に建築基準法第52、53条を読んでおき、授業後に基準法第52、53条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第6回	地域毎による各種高さ制限・日影規制	建物の高さを規制する道路斜線・隣地斜線・北側斜線・高度斜線等の各斜線制限及び緩和規定を理解する。	事前に建築基準法第55、56、58条を読んでおき、授業後に基準法第55、56、58条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第7回	防火、準防火地域内の建築規制、その他の地域地区	防火地域、法22条区域の概要及び建築の構造制限。景観法、文化財保護法、地区計画、等の概要や制限を理解する。	事前に建築基準法第22条、61～68条を読んでおき、授業後に基準法第22条、61～68条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第8回	これまでに学んだ集団規定に関する総合演習問題及び設問の解説	集団規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかったところを再度学習し理解すること。	事前にこれまでに学んだ集団規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第9回	一般構造（居室、内装等の規定）	居室の採光、換気、室内の床・壁・天井の内装仕上材・下地材の材質制限、ホルムアルデヒド等のシックハウス対策等の制限の概要を理解する。	事前に建築基準法第28条を読んでおき、授業後に基準法第28条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第10回	一般構造（階段、廊下等の規定）	居室の天井の高さ、床の高さの制限、地下の居室の制限、廊下や階段の寸法制限、避難通路、避難階段の構造制限、等の概要の理解をする。	事前に建築基準法第28、29条、建築基準法施行令第21から32条、117から126条を読んでおき、授業後に基準法第28、29条、建築基準法施行令第21から32条、117から126条の各制限を復習しておくこと。	120分
第11回	建物の構造強度	木造を主に、鉄筋コンクリート、組積造などの基礎及び支持地盤、耐震性、耐風性、耐久性や地域によって異なる条件などの概要を理解する。	事前に建築基準法施行令第36から39条、83から88条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第36から39条、第83から88条、89、93、95条の各制限を復習しておくこと。	120分
第12回	建築設備、防火関連規定、関連法としての消防法	防火上の内装制限、界壁、間仕切り壁、隔壁、非常用照明器具、排煙設備、非常用進入口（代替進入口）、避雷針設備、消防法と建築基準法の関係性と制限等の概要を理解する。	事前に建築基準法第35条、建築基準法施行令第112から114条、126条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第112から114条、126条、129条、消防法の各制限を復習しておくこと。	120分
第13回	これまでに学んだ単体規定に関する総合演習問題及び設問の解説	単体規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかったところを再度学習し理解すること。	事前にこれまでに学んだ単体規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第14回	建築士法、建築関する各種申請、都市計画法の概要	建築士業務の視覚の種類及び業務の範囲、建築関連申請及び報告書等の流れ、建築基準法と都市計画法の関連及び位置付、耐震改修促進に関する法律等の概要を理解する。	配布資料た資料を再度読み込んで建築士法、都市計画法の法文を確認しておく。	60分
第15回	その他の建築関連法の概要	消費者保護の観点でできたバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、長期優良住宅、省エネ法、特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保。街造りの観点から出来た景観法。その他の他の関連法としての宅地建物取引業法、建物区分所有法、民法、に付いての概要を理解する。	その他の関連法は実生活におけるかわりが多く、受講者の社会活動に置き換えながら復習すること。	120分

学習計画注記	履修者の理解度によって、スケジュールが変更になる場合があります
学生へのフィードバック方法	建築関係法令集、適宜プリントの配布、によって例題を交えながら解説し進める、また授業の進行途中での演習問題により理解度の確認をおこなう、演習問題はその授業で問題の解答解説を行い受講者にも自己採点できるようにしている。履修者の理解不足部分の解説を再度行う。必要によって次回授業の最初に問題の解説を行う場合がある。
評価方法	演習問題を2回、及び定期試験を行い、問題はそれぞれ授業の内容から出題する、将来の建築士受験を考慮し出題形式は国家試験の建築士試験の出題形式に基づく選択式にしてあり法令集の持ち込みを可能としています。3回の解答内容に授業への参加状況や討論への参加状況も加えて評価の対象とします。尚演習問題の授業に欠席した場合、演習問題の再テストは行いません注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習問題2回	○	○		
定期試験	○	○		
授業内の討論への参加			○	

評価割合 平常点 (30%)、問題演習2回 (計20%)、定期試験 (50%) によって総合的に評価する。(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断)

使用教科書名 (ISBN番号) 建築関係法令集 (株式会社総合資格発行)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 建築法令等が求めているものを正しく理解できる
 【思考・判断】 法令遵守を意識して問題解決に導く考察ができる
 【関心・意欲・態度】 建築やインテリアはもちろん周囲の問題についても法令との関連性を考えながら活動できる
 【技術・表現】 建築士資格受験はもちろん諸問題において建築法令集の有効活用がスムーズにできる

学生へのメッセージ
 建築法規を受講する事で、これまでに学んできた建築や住宅及びインテリア関連の多くの授業内容の重要性や関連性が見えてきます、建築法規及び関連法律をしっかりと学ぶ事でより明確に社会で求められている事柄が把握できると考えられ、2級建築士資格取得の必須科目でもあり、建築法規を理解することが自身の総合力のアップとなり、社会活動でのコンプライアンス (法令遵守) の意識が実務への近道となります。また将来家を建てたり土地を取得をする場合にはこの授業内容が活きてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計及び工事監理の実務を30年以上前から現在も行っており、現在進行形の建築設計及び建築法規の基礎知識を生かした授業を実務経験を織り交ぜながらおこなっている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	建築環境学 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要 (教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学A

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 (配布資料) 建築環境学の位置付け／自然環境と室内環境の関わり／建築環境学と建築設備の関わり／人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 (配布資料) 安全・衛生 (健康) と快適を提供する建物／脅かす要素／環境制御の目標と原理／建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 (配布資料) 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計 寒い地方の建築的工夫／暑い地方の建築的工夫／これからの建築熱環境設計	気候風土と建築について復習すること	60

第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感（1）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導、熱対流、熱放射、蒸発）／温冷感に影響する要因（気温、湿度、放射、気流、着衣量、代謝量）／MRT	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180
第6回	温熱感（2）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT, SET*, PMV）／住宅の温熱環境	課題1（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグリデー）／湿度（クリモグラフ, WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線、可視光線、赤外線）／直達日射、天空日射、全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題2（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（1）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角、太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（2）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題3（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（1）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（2）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題4（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（1）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（2）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題5（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（1） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素、一酸化炭素、ホルムアルデヒド、VOC、窒素酸化物、硫黄酸化物、臭気、浮遊粒子状物質、PM2.5、アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（2） 室内の空気汚染対策	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力、室内外温度差）／機械換気	課題6（空気環境）による復習	120

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			
レポート	○			

評価割合 定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価

使用教科書名 (ISBN番号) 生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015 978-4-7530-1759-1

参考図書	図説テキスト 建築環境工学／加藤信介 他／彰国社／2008
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 〔知識・理解〕 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 〔知識・理解〕 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜3限 1807室 / 町田C 水曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	(復習) 自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	(復習) 自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	(復習) 自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計プロセス	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規について学ぶ	(復習) 住居の設計プロセスと建築に関わる法規について復習する	120分 +レポート120分

			(中間レポート1/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート2/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える (中間レポート3/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート4/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	(復習) 自分の生活を対象に生活の外部化について考える (期末レポート1/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	(復習) 多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える (期末レポート2/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第13回	集合住宅地の計画 1	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の住む地域の街並みの美しさについて考える (期末レポート3/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第14回	集合住宅地の計画 2	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	(復習) 自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小課題・小レポート・中間レポート・期末レポートについて、授業時間内に全体講評をおこなう。

評価方法 小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。3回の実施を予定している。
小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。7回程度の実施を予定している。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の2回実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		
小レポート	○	○	○	

レポート	○	○	○	○

評価割合	小課題15%、小レポート15%、中間レポート40%、期末レポート30%により総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門ー住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考えるー住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	福祉住環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	(復習) 日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	(復習) 配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備-1	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。	150分

第4回	高齢者・障害者の住環境整備－2	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－3	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第6回	日本の住宅と住生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－1	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－2	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－3	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第10回	福祉住環境整備の技術－4	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。	150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	(復習) 社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめ

て記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	小レポート20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	社会福祉概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要 (教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。この授業対象者が栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていく。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	120
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるのは好き? こんなことを考えてみて?	120分
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の歴史① イ	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく 特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	120

	ギリスの発達史			
第5回	歴史②	英国の歴史②	救貧法から新救貧法そして慈善組織協会の流れを理解する	120
第6回	社会福祉の歴史③	ロンドンCOSからリッチモンドまでを学ぶ	リッチモンドを調べておく	120
第7回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	120分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	120分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	120
第10回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	120
第11回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第12回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学ぶ	120
第14回	介護保険を学ぶ①	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	120
第15回	介護保険を知る②	介護保険の具体像を知る	申請手続きを学ぶ	120

学習計画注記	外部施設への見学もあり
--------	-------------

学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
---------------	----------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①中間試験 ②実務家講演のコメント ③学期末試験 ④平常点
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○		○	
コメント			○	
学期末試験	○			
平常点			○	

評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ①中間試験 30% ②コメント 20% ③学期末試験 40% ④その他 平常点 10%
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	別途指示
-----------------	------

参考図書	別途指示
------	------

ディプロマポリシーとの関連	ディプロマポリシーでは、現代社会の中で福祉問題を客観的にまた主観的に捉える力を養いその解決のための制度と実践の方法を学び展開できるとしており、この視点に立って本授業は実施する。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	毎週月曜日 2時限
---------	-----------

学生へのメッセージ	食と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきましょう。
-----------	-------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
--	------	----

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かに配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スポーツツーリズム		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>グランド・ツアーから、その過程でペDESTリアンツアーが登場する。このペDESTリアンツアーの流行こそ、スポーツツーリズムの発祥であり、スポーツツーリズムはグランドツアーの産物のひとつであったことがわかる。</p> <p>芭蕉の旅は、俳句を極めるという目標に向かって人生さえも賭ける旅であった。いわばものごとを成就させる旅である。そこには新たな文化的価値の創造という意味があった。他方、H・D・ソローの旅も「新たなこと」の発見の旅であり不退転の決意という点で芭蕉の旅と共通する。しかしソローを代表するペDESTリアンツアーたちはさまざまな目標を掲げ旅に出たことを理解させる。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	スポーツと旅のかかわりを理解すること。
思考・判断の観点 (K)	自分が好む旅やスポーツを判断する材料になること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	スポーツと旅を学ぶことを通じて、自分の興味・関心を再構成するきっかけとなること。
技術・表現の観点 (A)	旅の服装について自分の表現を再考すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	グランドツアーのはじまり	英国のグランドツアー(教養の旅)は16世紀には存在していた。そして息子を国際的に通用するジェントルマンに仕立てあげるには、文化的先進国であるフランスやイタリアを若いうちに訪れさせることが必要不可欠だと、イギリスの指導者階級である貴族たちは感じていた。	グランドツアーということばについてネットや書籍で調査すること。	45
第2回	グランドツアーの全盛期	18世紀には、グランド・ツアーはイギリス貴族階級の通過儀礼として確立するにいたった。つまり、イギリスの大学に行くかわりに、あるいは大学を出て実務につく前に、欧州大陸を何年かけて旅行するということが、貴族の若様にとっては常識となったのである。かならず訪れるべき国はフランスとイタリアであった。	グランドツアーではドイツやオーストリアは含まれなかったが、それはなぜかを調査すること。	45
第3回	グランドツアーの家庭教師	家庭教師として大陸におもむいた人びとのなかには、たとえば、ジョン・ロック、トーマス・ホブズ、アダム・スミスといった学者、詩人のウィリアム・ホワイトヘッド、詩人であり随筆家であり政治家となったジョゼ	グランドツアーにおける家庭教師には著名人がかなりいたが、なぜ彼らは家庭教師になったか調査すること。	45

		フ・アディソン、劇作家のベン・ジョンソンというように重要な役割をはたす人びとであった。		
第4回	ゲーテのイタリア旅行	ゲーテはなぜイタリアに旅立ったか。彼が生きた時代背景と旅立ちの理由と、イタリアでの旅のルートを明らかにする。	ゲーテはいつから、そしていつまでイタリアに滞在し、どのような経路で旅をしたか調査すること。	45
第5回	ペDESTリアンツアー	それまで多くの人が旅をしたが、それは巡礼とか商用の目的で、旅を目的とするような旅行になるのは18世紀後半である。移動手段としての馬車をあえてしりぞけ、徒歩旅行を敢行する人たちがあらわれた。これは1750年代からあらわれた特異な現象であった。	17世紀後半のペDESTリアンツアーで著名な人物をひとりあげ調査すること。	45
第6回	スポーツツーリズムのはじまり (ソローのWalking)	ソローの散歩は歩くだけではなかった。晩春から初秋にかけてはボートが、長い冬は川を使つてのスケートが散歩に含まれていた。	ソローはなぜ散歩に出かけたのかを調べること。	45
第7回	巡礼から教育志向的旅行へ	巡礼とは何か。教育志向的ツアーとしてのグランドツアーと巡礼の違いを考察する。	巡礼とは何かを調査すること。	45
第8回	日本の遊行1 (芭蕉1)	芭蕉の旅はどのような旅だったか。そして『奥の細道』の経路と作品を江戸～芦野～飯坂～松島まで辿る。	芭蕉の旅の服装について調査すること。	45
第9回	日本の遊行2 (芭蕉2)	芭蕉の旅はどのような旅だったのか。その経路を辿る。(大石田～新潟～金沢～大垣)	芭蕉の旅の服装と「わび」「さび」の関係について調べること。	60
第10回	日本のスポーツツーリズム (行脚・遊行・漂白)	行脚・遊行・漂白の意味から日本のスポーツツーリズムの特徴を考察すること。	行脚・遊行・漂白の意味を調査すること。	45
第11回	グランドツアーと日本の遊行	教育志向的ツアーであるグランドツアーと芭蕉を代表とする日本の遊行について共通点・相違点をまとめること。	グランドツアーと日本の遊行について、共通点・相違点を目的と手段を視点にまとめること。	60
第12回	モータースポーツツーリズム	国土交通省観光庁の「モータースポーツ観光活性化協議会」について設立の目的と展望を明らかにすること。	「モータースポーツ観光活性化協議会」について調査すること。	45
第13回	リゾート型スポーツツーリズム	スキーやスノボ・フィッシングなど自然環境を生かした「リゾート型」スポーツツーリズムについて事例を挙げ、発展の可能性を考察すること。	「リゾート型」スポーツにはどのようなものがあるか事例を調査し自分の経験があれば報告すること。	45
第14回	地域型スポーツツーリズム	スポーツのトップアスリートやチームを地域の市民・企業・行政が支えることで活性化を目指す事例をあげその特徴を調査すること。たとえば、野球やサッカー、バスケット、アイスホッケーなどを例に取り上げる。	自分の在住近隣にあるスポーツチームについて調査すること。	45
第15回	世界志向的スポーツツーリズム	オリンピックに代表される世界大会について、その現状を把握すること。	スポーツの世界大会を3つあげること。	45
第16回	自己確認	1～15回の講義の要点をまとめ獲得した知識を確認すること。	要点の整理・確認	180

学習計画注記	関連するテーマにより、授業を統括、あるいは分離することがある。
学生へのフィードバック方法	基本的に講義による知識の伝達を目的とするが、質疑応答を含めグループディスカッション・発表等を行う。また定期試験による。
評価方法	授業プログラム課題達成度、質疑応答、グループディスカッション、発表等50%、テスト50%で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	授業プログラム課題達成度、質疑応答、グループディスカッション等50%、テスト50%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	毎回プリントを配布する。
参考図書	毎回プリントを配布する。
ディプロマポリシーとの関連	生活者＝実践者の視点から徒歩旅行に含まれる大いなる意味を理解することで、我々は、スポーツツーリズムをさまざまな意味連関と生活背景のなかで捉えることができることを理解する。 また、スポーツが持つさまざまな意味は、個人の生活状況からだけでなく歴史的背景によっても影響があったことを理解する。
オフィスアワー	金曜 4 限
学生へのメッセージ	講義形式だが受身にならず、積極的に参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	これまでの筆者のスポーツ観戦のツアーや、ゲーム参加のためのツアー経験を例に、そしてさらに著名な人物の例を加え、学生のスポーツ経験からスポーツが学生自身の生活にいかに関与しているかを再確認する授業となる。
アクティブ・ラーニング	○	調査の発表があり、質疑応答があること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージとレクリエーション		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

1. ライフステージとは何か。
2. ひとの発達段階をライフステージとして捉えレクリエーションの意義を類型的に明らかにすること。
3. 現在の自分のレクリエーションの意味を明らかにすること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ・ライフサイクルを理解すること。それぞれのステージに応じたレクリエーションの意義を理解すること。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分のレクリエーションの体験に照らし合わせてみること。
技術・表現の観点 (A)	グループディスカッションの技術や表現を通してレクリエーションの意義を確認すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	遊びとライフステージ論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遊びとクリエイションの関連について 時代の善悪を超える遊びと善を目指すレクリエーション (事例) グリム童話一豚の屠殺ごっこ 2. ライフステージということ 乳幼児期、少年期学童期、青年期、成人期、高齢期 (事例) 青年期はレクリエーション(遊び)が通過儀礼の役割を負わされる。 ・イベント化したバンジージャンプなど 3. アウトドアレクリエーションの事故事例 (事例1) 2003年6月4日北海道屈斜路湖カヌー転覆事故 (事例2) 1970年7月福岡大学ワンダーフォーゲル部一ヒグマ襲撃事件 	ライフステージ、あるいはライフサイクルについて調査すること。	30
第2回	乳幼児期の特徴とレクリエーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. ローマ皇帝フリードリッヒ2世の育児実験から 2. 遊びと教育の違いについて 3. 遊びの効果 ①運動能力を高める。②興味や好奇心を高め、知的な発達を促進する。③イメージを広げ、表現力を豊かにする。 ④同年齢、あるいは異年齢の仲間関係を体験する。⑤さまざまな情緒的体験を持つ。⑥自発性、自主性を養うこ 	言葉を用いない生活を送る人間の生後1年間の重要性について調査すること。	60

		とができる。 4. ごっこ遊びの大切さ		
第3回	少年（学童）期の特徴とレクリエーション	1. 少年期は自然環境や社会関係、人間関係などに関する感受性が高くなる。 2. 遊びを通して仲間・グループをつくり、そこで自主性・積極性・社会性などを身につけていく。 3. 幼児期から始まるごっこ遊びの高度化と重要性について	自分が学童期に楽しんだ遊びについて発表すること。	30
第4回	青年期の特徴とレクリエーション1	青年期は自分の心も身体も外に向かって拡大してゆこうとする力と、内に向かって求心的にはたらく力が共存している。その片方のみが強く意識される人もあるし、その強い葛藤状態にまきこまれてしまう人もある。レクリエーションによって、心身のリフレッシュを図り、交流関係を拡大する。	青年期の特徴をまとめること。	30
第5回	青年期の特徴とレクリエーション2	青年の遊びやレクリエーションで注目すべきことは、必ずしも「楽しい」からしているとは限らないことであるが、成人期への通過儀礼としての役割を負うことがある。	通過儀礼について調査すること。	30
第6回	成人期の特徴とレクリエーション1	現代社会ではイニシエーション的状况が何回か繰り返されて大人になっていく。通過儀礼としてのレクリエーションもまた繰り返されることになる。	大人とは何かについて調査すること。	30
第7回	成人期の特徴とレクリエーション2	成人後期には自分なりのイメージ（コスモロジー）確立のために、レクリエーション（自己実現のための再構成と気晴らしの活動）は必須である。	人生の後半について自分は何を考えているかを想像し発表すること。	60
第8回	前期高齢期の特徴とレクリエーション	老いによって科学の知と神話の知が入れかわる。その原動力としてレクリエーションが必要である。全てを対象化する科学の知からは、神話の知やファンタジーは生じない。自分自身を含めたファンタジーの世界はレクリエーションの世界がその課題を担うことになる。	科学の知と神話の知について調査すること。	60
第9回	後期高齢期の特徴とレクリエーション	自分を世界の中に位置づけ、世界と自分とのかかわりのなかでものを見るためには、我々は神話の知を必要とする。ファンタジーは多くの創造的思考の萌芽を包みこんでいる。ファンタジーとしてのレクリエーションの世界が必要である。	ファンタジーなぜ必要か調査すること。	
第10回	個人差の問題	貝原益軒はひとの楽しみは「天地の理」という。ひとが何を楽しいと思うかは生まれついでのことだという意味である。本当の楽しさを味わえる遊びやレクリエーションは、他から与えられるものではなく自分で見出すほかないのである。	今ここで、自分が楽しいと思うことについてまとめ報告すること。	30
第11回	世代間格差の問題	エドワード・グレイによる少年時代の釣りと熟年期の釣りをその楽しみ方の違いからとらえるとき、その楽しみを失う「もっともつらい瞬間」から立ち直る人間の有りようを比較する。	楽しみを求めて行った遊びやレクリエーションが一瞬にして「つらい体験」になった経験について報告・発表する準備をすること。	30
第12回	レクリエーショングループの概念化（設立・発展・衰退）	レクリエーションクラブ（JFF: ジャパンフライフィッシャーズ）の設立・発展・衰退を具体例から検証する。	グループ（集団）の設立・発展・衰退について、その原因を調査すること。	30
第13回	仮説と事実	ライフステージ・ライフサイクルという人間の発達に関する類型論的仮説にもとづいて、レクリエーションの世界がさまざまな意味をもとことが理解できる。「楽しい」というこの意味はわれわれにとって事実として機能することを学ぶ。	仮説と事実について調査すること。	30
第14回	現在の自分のレクリエーションの意味	今ここで、つまり現在の時点でのレクリエーションの意味についてグループディスカッションする。	現時点での自分にとってのレクリエーションの意味を明らかにしておくこと。	30
第15回	まとめ	現在の時点でのレクリエーションの意味についてグループディスカッションした結果をグループごとに発表し、他のグループと意見交換をする。	前回行ったグループディスカッションの結果を事前にまとめておくこと。	30
第16回	自己確認	1～15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認すること。	授業内容をを振り返りまとめること。	180

学生へのフィードバック方法	各時間ごとにプリントを配布する。質疑応答・報告・発表で自分の考えをまとめること。定期試験。
評価方法	授業プログラム課題の達成度、質疑応答、グループディスカッション等で50%、テスト50%で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

授業プログラム課題の達成度、質疑応答、グループディスカッション等で50%、テスト50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

プリントを配布する。

参考図書

レクリエーション活動援助法、高橋孝三郎、島田芳男監修、ミネルヴァ書房、介護福祉士合格ワークブック 2011、上巻、2010

ディプロマポリシーとの関連

生活者としての自分の経験を踏まえてレクリエーションの意義を明らかにすること。

オフィスアワー

金曜4限

学生へのメッセージ

自分の体験から遊びやレクリエーションを考えてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション・発表・報告
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食文化演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

授業概要 (教育目的)	江戸時代に編纂された代表的な料理書の中のいくつかの料理を実際に調理して再現することを軸とし、食文化の変遷とその延長上に現代の食卓があることを理解する。日本の伝統食品の試食を行い、食品がつけられた風土との関連を考察しながら理解を深める。また、日本各地の郷土料理にも目を向け、地域の食文化についても学ぶ。いくつかのテーマについてはグループでの実習と発表を通して、知識の定着と調理技術やプレゼンテーション力の向上を目指す。
履修条件	「調理学実習」を履修していること

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	授業で扱った食文化のテーマについて食材の生産、加工法、調理法、各時代や地域での特有の食べ方などの面から説明できる。
思考・判断の観点 (K)	授業で扱った食文化のテーマについて食材の生産、加工法、調理法、各時代や地域での特有の食べ方などの面から説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習やグループワークなどに自ら積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	時代や地域ごとの食文化の共通点、相違点、考察した事柄などについてわかりやすくまとめて発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活年表作り	各自興味のあるテーマについて、トピックを抜き出してオリジナルの年表を作成しながらテーマに関して通史を学ぶ。	次週のプレゼンテーションの準備をする。	60分
第2回	発酵食品の伝統 1	1. 前回のプレゼンテーションを行う。2. 醤油について歴史や、製法や味の違い、調理での使い分けなどを試食を通して学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第3回	発酵食品の伝統 2	日本各地の味噌について味噌づくりの歴史や、製法や味の違い、調理での使い分けなどを試食を交えて学ぶ。	各自家庭で使っている味噌について調べてくる。	60分
第4回	菓子と茶	菓子と日本茶の歴史や製法について試食・試飲を交えて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分

第5回	江戸時代のお菓子作り実習	江戸時代の料理書に記載された菓子をつくる。	1. 実習でつくる料理について調理手順を確認しておく。2. 実習のレポートを作成する。	1. 60分 2. 150分
第6回	唐辛子	1. 前回の実習の振り返りを行う。 2. 唐辛子の利用について、試食を交えて学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第7回	漬物	伝統的な製法を残している漬物について、試食をしながら学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第8回	雑穀	雑穀の利用について、講義と様々な種類の試食を通して学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第9回	江戸時代の料理作り実習	江戸時代に考案された料理をつくる。	1. 実習でつくる料理について調理手順を確認しておく。2. 実習のレポートを作成する。	1. 60分 2. 150分
第10回	昆布	講義や試食を通して様々な昆布の特徴や食べ方について学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第11回	鯉	かつお節作りについて学ぶ。かつおを用いた様々な食品を試食し、多様な加工・調理法を学ぶ。	配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	60分
第12回	一汁三菜の献立作成	グループごとに伝統食品を用いた一汁三菜の献立を作成し、出来映えを評価し合う。	授業内での講評を受けて、改善点をまとめる。	60分
第13回	日本の郷土料理①	1. 日本の郷土料理にはどのようなものがあるかについて、気候や風土と結びつけながら学ぶ。2. 翌週つくる郷土料理を検討する。	調理実習を行う郷土料理の参考となるレシピを探す。	120分
第14回	日本の郷土料理②	グループごとに、各自決めた郷土料理の調理を行う。	実習に向けて材料の準備と調理手順の確認をしておく。	60分
第15回	日本の郷土料理③	発表	1. グループでプレゼンテーションの準備を行う。2. プレゼンテーションに対する講評をまとめておく。	1. 90分 2. 60分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 提出物はコメントを加えて返却する。プレゼンテーションは、授業内で講評する。

評価方法

- ・提出物は、個人の試食コメントやグループでのディスカッション結果のまとめなど提出するものすべてを含む。
- ・プレゼンテーションは、個人およびグループの発表内容に対する評価を行う。
- ・成績は平常点、提出物、プレゼンテーションで評価し、定期試験は行わない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
提出物	○	○		
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合 平常点 (30%) 提出物 (30%) プレゼンテーション (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 授業内で紹介する。

参考URL <http://www.location-research.co.jp/kyoudoryouri100/>

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 実習や試食を通して日本の食の独自性や多様性を知り「質の高い生活」への理解を深められる。
- 【思考・判断】 時代や地域による食生活の違いの理解を基礎に、食文化に関わる諸問題の問題解決的な考察ができる。
- 【関心・意欲・態度】 食文化に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
- 【技能・表現】 多様な食文化への理解につながる発信ができる。

オフィスアワー 水曜5限 1808研究室

学生へのメッセージ

調べ物やグループでのディスカッション、発表を含む演習です。主体的に参加することを期待します。実習や試食の費用がかかります。調理実習室を利用するため、上履き、白衣、三角巾が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代家政とKVA		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	大嶋 徹	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項（情報収集、課題の把握、調査・実験方法など）を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	現代家政学の学びと社会とのかかわりについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	学びを生かして社会で活躍していくための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政学を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学の学びについて、発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、卒研ゼミ紹介(1)	ガイダンスとしては、授業の進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。卒研ゼミ紹介では、各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの分の要旨を予習として読み、理解する。	45分
第2回	卒研ゼミ紹介(2)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの分の要旨を予習として読み、理解する。	45分
第3回	卒研ゼミ紹介(3)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当す	45分

			るゼミの分の要旨を予習として読み、理解する。	
第4回	卒研ゼミ紹介(4)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの分の要旨を予習として読み、理解する。	45分
第5回	就職内定報告会	就職の内定した4年生から、体験談や就職活動に関する助言を聞く。	身近な先輩の体験談から知りたいと思っている項目を挙げ、授業時にメモが取れるシートを作成しておく。加えて可能であれば、自分の希望する進路、業界について考え、事前にwebサイト等で該当する業界に関する情報を調べる。	45分
第6回	卒業後のキャリアプラン(外部講師による講演)	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランについての講演及びワークショップ	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第7回	働くこととKVA精神の関わり(外部講師による講演)	卒業生特別講師による、働くこととKVA精神のかかわりについての講演を聴き、自らの卒業後のあり方について考える。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第8回	学長による特別講義「大学と社会をつなぐ」	学長による講義を聴き、現代社会の課題を考え、自分なりに解決する方法を模索する。	事前に予告された内容に基づき、示された課題を行い、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第9回	社会の課題と大学の学び(外部講師による講演)	外部講師による講演を聴き、現代社会の課題を考え、理解し、自分なりに解決する方法を模索する。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第10回	卒研発表会出席(2月)	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業論文要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分
第11回	卒研発表会出席(2月)	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業論文要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分
第12回	卒研のための情報の収集方法(文献検索等)	文献検索、新聞情報の検索方法などの学ぶ(図書館)。実際に検索を行う演習も行う。	自らが関心を持つ研究やそれにまつわる文献、社会的な情報を考えておく。復習として、それらの情報に実際にアクセスし、理解する。	45分
第13回	各配属ゼミでのプレゼミ(1)	卒研ゼミの配属の決定後に、配属先の各ゼミでの学習を開始し、自分の配属先である卒研ゼミでの学習内容を理解する。	各ゼミで学んだことを基に、卒業研究に向けての準備を行う。	45分
第14回	各配属ゼミでのプレゼミ(2)	卒研ゼミの配属の決定後に、配属先の各ゼミでの学習をはじめ、自分の配属先である卒研ゼミでの学習内容を理解する。	各ゼミで学んだことを基に、卒業研究に向けての準備を行う。	45分
第15回	各配属ゼミでのプレゼミ(3)	卒研ゼミの配属の決定後に、配属先の各ゼミでの学習をはじめ、自分の配属先である卒研ゼミでの学習内容を理解する。	各ゼミで学んだことを基に、卒業研究に向けての準備を行う。	45分

学習計画注記 外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。

学生へのフィードバック方法 授業で提出した課題は採点后、返却する

評価方法 授業時に指示する課題を毎回提出する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

授業時の課題	○	○	○	

評価割合	授業時の課題100%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。 【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。 【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。
オフィスアワー	山村 月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師3名(キャリアカウンセラー、社会保険労務士、飲食店経営者)によるワークショップと講義
アクティブ・ラーニング	○	第13～15回には4年次の卒業研究につなげる調査や討議を行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	江戸東京文化研究		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

授業概要(教育目的)	東京の面白いところは、日本文化の伝統の上に築かれた江戸の文化と、近代化と共に西欧からもたらされた文化とが共存し、コーディネートされて、世界標準の近代文化に包含されながら生き残っていることである。本演習では、文化的資料を読み、実際に街に出かけて、江戸の文化や近代東京の文化に触れられるスポットを見学し、理解した上で、それらを現在の私たちの暮らしにどのように生かしていけるのかについて考えていく。前半は近世の江戸文化に関わる事象を、後半は近代以降の東京の文化に関わる事象をそれぞれ対象とし、主に言語文化の観点から考察を行う。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化に関する基本的事項について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化から何を学び取って、これからの我々の暮らしに生かしていくべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、資料講読、質疑応答、討議など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を、適切な日本語表現でわかりやすく伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	出版文化の歴史	日本における出版文化の歴史の概要について理解する。	大学入学以前の経験も含め、日本史学(近世史、近代史)や日本文学(近世文学、近代文学)などの、江戸・東京に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	45
第2回	江戸の出版文化	江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理	45

			解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	和本に触れる	近世の袋綴じの和本を例に、和本の構造や部分名称について、現物資料にじかに触れながら理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第4回	和本を作る (1)下綴じ	和本の構造や特徴を理解することを目的として、現代の素材を用いて実際に和本を作成する。下綴じの作業までを行う。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第5回	和本を作る (2)表紙付け	和本の構造や特徴を理解することを目的として、現代の素材を用いて実際に和本を作成する。表紙付けを行い、和本を完成させる。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第6回	和本を読む	作成した和本を実際にも読む。草双紙と呼ばれる近世の絵入り文芸の特徴や時代的な変遷を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第7回	江戸文学から読み解く 江戸の文化 (1)本屋	近世における出版プロセスを題材にした草双紙作品を講読し、江戸の本づくりの工程について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第8回	江戸文学から読み解く 江戸の文化 (2)食	近世における食文化の東西差を題材にした草双紙作品を講読し、江戸の食文化の特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第9回	江戸文学か	近世における蕎麦ならびにうどんの種類や食され方につ	各回の授業内で配付されるプリ	45

	ら読み解く江戸の文化(3)蕎麦・うどん	いて、文献資料や視聴覚教材を通じて学び、理解する。	ント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	江戸文学から読み解く江戸の文化(4)水	近世の江戸における飲料水確保をめぐる諸問題について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第11回	江戸文学から読み解く江戸の文化(5)水道	近世の文芸作品における水道の描かれ方の検討を通じて、当時の人々が抱いていた水道に対する意識・イメージを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第12回	明治・大正文学から読み解く東京の文化(1)学校	明治期における高等教育機関の設立の経緯と、そこに学ぶ学生(書生)の文化について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第13回	明治・大正文学から読み解く東京の文化(2)書生	明治期の書生を描いた文学作品の講読を通じて、書生ことばの特徴を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第14回	明治・大正文学から読み解く東京の文化(3)女学生	明治・大正期の女学生を描いた文学作品の講読を通じて、女学生ことばの特徴を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第15回	校外授業 東京都水道歴史館	東京都水道歴史館を見学し、江戸・東京の水道の歴史や生活文化について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を	45

読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法

- ・授業内課題としては、毎回の授業内容の要点を整理してレスポンスシートとして記述することと、和本の製作実習を予定している。以下のような観点から評価を行う。
 - ①課題の意図を適切に理解できている。
 - ②記述内容に、十分な妥当性が認められる。(レスポンスシート)
 - ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができる。(レスポンスシート)
 - ④各作業を正しい手順で積み重ね、和本を適切な形で完成させることができる。(和本製作実習)
- ・レポートは、見学レポートと期末レポートを課す。以下のような観点から評価を行う。
 - ①課題の意図を適切に理解できている。
 - ②適切な方法で調査を行うことができる。
 - ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができる。
- ・平常点は、授業内活動(作業、資料講読、質疑応答、討議など)への取り組み等によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○		○
見学レポート	○	○		○
期末レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合 授業内課題40%、見学レポート20%、期末レポート20%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書 なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、生活文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、生活文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、生活文化に関わる課題について関心を持ち続けることができる。
- 【技能・表現】生活文化の側面から、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 金曜3限(千代田三番町キャンパス1703ゼミ室)

学生へのメッセージ

- ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
- ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為(私語、スマートフォンの使用など)は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
- ・校外授業の詳細(日時・集合場所など)については、見学先との調整等を行った上で、授業内で連絡を行う。校外授業には土曜日・日曜日などをあてる可能性もあるので、あらかじめ了解しておくこと。校外授業に際しては、見学先施設や一般来館者の方々に迷惑がかからないような態度で臨むこと。
- ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習、調査学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	生活福祉論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	生活者・消費者の立場から地域社会における社会福祉のあり方を考察する。自立した生活を営むためには個人、家庭、地域、社会の単位で生活を総合的に理解する必要がある。あわせて、自助、互助、共助、公助について理解し、各段階に応じた支援について検討する。主な題材として子どもの貧困や障害のある消費者への社会的対応を取り上げ、家政学と関連させながら考察する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活福祉に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	生活福祉について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活福祉論とは何か	生活福祉論の概念について理解する。	授業で取り扱う先行研究について復習する。	120
第2回	私たちの生活と福祉	現代の社会保障および社会福祉の概要について理解する。	国民年金についてその仕組みと、近い将来取るべき手続きについて調べる。	120
第3回	福祉の対象者とは誰か	社会福祉の対象者について整理し、社会的対応の現状と課題を理解する。	子どもを対象にした社会保障・社会福祉制度を調べる。	120
第4回	個人、家庭、地域、社会単位で生活を考える	主体的に生活を営むためにできることを個人、家庭、地域、社会の単位で総合的に理解する。	学修者自身の生活テーマを設けて、個人、家庭、地域、社会の単位で対応できることを考える。	120
第5回	地域における助け合い①	自助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「自助」以外の例を調べる。	120

第6回	地域における助け合い②	互助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「互助」以外の例を調べる。	120
第7回	地域における助け合い③	共助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「共助」以外の例を調べる。	120
第8回	地域における助け合い④	公助とは何か。具体例をあげて自助、互助、共助、公助の違いについて理解し、各段階に応じた支援について検討する。	子どもを対象にした自助、互助、共助、公助のシステムを調べる。	120
第9回	子どもの貧困①	子どもの貧困を考えるために、子ども食堂の取組みと、学校給食費の未納問題を取り上げる。	関連する書籍について割り振られた章をまとめ、発表の準備をする。	120
第10回	子どもの貧困②	子ども食堂と学校給食に関わる書籍についてまとめた内容を発表し、グループディスカッションをする。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、調べたテーマについて整理する。	120
第11回	子どもの貧困③	フィールドワーク：子ども食堂の活動に参加する。	フィールドワークの内容を記録しまとめる。	120
第12回	子どもの貧困③	子ども食堂でのフィールドワークについて振り返りをして、家政学ならではの問題解決のアプローチを考える。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回のフィールドワークについて整理する。	120
第13回	障害のある消費者への社会的対応①	脆弱（ぜいじゃく）な消費者である子どもや高齢者、障害者などについて学習する。	子どもや高齢者、障害者の消費者教育の素材を調べる。	120
第14回	障害のある消費者への社会的対応②	消費者庁『消費者白書』などを手掛かりにしながら、障害のある消費者の相談状況を理解する。	インターネットで『消費者白書』を手掛かりにして、障害のある消費者について記述されている箇所を調べる。	120
第15回	地域社会における生活福祉	生活者・消費者の立場から地域社会における生活福祉のあり方を考える。	家政学の学びを活かした地域社会で求められる支援について調べる。	120

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
- ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
- 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
- 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ 授業で取り扱うテーマである子どもの貧困や、障害のある消費者の問題に関する情報を収集し、その問題点や社会的な取り組みの事例を通して、家政学を学ぶ皆さんに何が出来るかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	フィールドワークとその後の振り返りでは、体験学習やグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行である。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食と環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	この講義は、「食」と「環境」という別々に考え論議される二分野の関連性を学ぶことを通して、環境問題をより日常的な関連性の中で捉え直し、地球環境に対する理解を深めることを目的とする。環境問題の切り口や講義は多様であるが、「食」の問題を切り口として環境問題について考え、「食」と「環境」がいかに繋がっているかを理解できるようにする。今後現代家政学科での学びを進めていき、環境、経済、社会の面から見て持続可能な生活・社会を実現するのに必要な考え方や価値観を持つ為の基礎的な知識の習得を目標とする。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	「食」と「環境」との関連性を理解し、持続可能な生活・社会を実現するための基礎的な知識を習得出来ている。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	今後の授業内容について説明する。	授業内容の確認。	90分
第2回	なぜ、食べるのかを考える	「食べる」ことの生物学的意義について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「細胞とエネルギー」「生態系内の物質・エネルギーの流れ」に関する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	環境とは何か？	今後、授業の中心の一つになる「環境」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	180分

第4回	食生活と生物多様性	生物多様性について解説し、遺伝的多様性が人類にもたらす利益を「品種改良」を例にして理解する。	生物多様性の3つの構成要素についてインターネットを用いて調べる。	180分
第5回	資源としての生物	資源としての生物についてマグロ資源を例として解説し、その特徴や化石燃料などのエネルギー資源などとの違いについて理解する。	高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を予習する。	180分
第6回	バイオテクノロジーと食料1	遺伝子操作による品種改良の基本について解説する。	高校生物基礎教科書中の「細胞内での遺伝子の発現」に関する部分を復習する。	180分
第7回	バイオテクノロジーと食料2	バイオテクノロジーによる品種改良の変遷についてVTR映像などを用いて解説し、賛否について問う。	バイオテクノロジーによる賛否について、自分意見をまとめておく。	180分
第8回	フードシステムの環境負荷1 フードマイレージ	現在のフードシステム（食料品の生産から流通・消費の相互関係）が環境に及ぼす影響について理解する。その一環として輸入食料について、総合的にとらえる目安として考えられたフードマイレージについて解説する。	フードマイレージについて調べる。	180分
第9回	フードシステムの環境負荷2 フードマイレージとエネルギー消費	身近なコンビニ弁当からフードマイレージを算出する。さらに、原材料を国産に置き換えた場合と比較して、輸入食材の問題点を考える。また、日本の食糧事情についての問題点も考える。	フードマイレージと環境問題の関連性について、考えをまとめる。	180分
第10回	フードシステムの環境負荷3 水問題	バーチャル・ウォーター（仮想水）と飲料水の輸入など水がもたらす環境負荷について解説する。	バーチャル・ウォーター、飲料水の輸入についてインターネットを使って調べる。	180分
第11回	フードシステムの環境負荷4 食品廃棄物	これまで解説した「フードマイレージ」「水問題」を踏まえて、日本の食糧事情と食品廃棄物問題について考える。	食品廃棄物と日本の食糧事情について、自分の考えをまとめる。	180分
第12回	食生活と経済と環境の関連性（エコロジカル・フットプリント）	人間活動が地球環境に与えている負荷を計る指標として考案された「エコロジカル・フットプリント」を用いて、これまで解説してきたフードシステムによる環境負荷を総合して考える。	先進国、新興国、発展途上国に分けて、エコロジカル・フットプリントを調べて、それぞれの傾向について考える。	180分
第13回	食を通して環境問題を考える（公害病を例として）	生物濃縮による食料からの人体に及ぼされる影響について、公害病を例に解説する。日本の公害の歴史を振り返り、現在の安全な食生活がどのようにつくられたかを理解する。	公害病の中で食品が原因のものを調べる。	180分
第14回	廃棄物による環境汚染 マイクロプラスチック汚染	これまで食料に関係する環境問題について授業を行ってきたが、現在、ペットボトルなどの食品の容器やレジ袋などプラスチック製品が砕けて微粒子状になるマイクロプラスチックによる環境汚染が問題視されている。マイクロプラスチック汚染について解説し、この問題について考える機会とする。	マイクロプラスチック問題について企業の対応を調べる。	180分
第15回	食と持続可能な社会	これまでの授業で解説して「食」と「環境」に関連性について振り返り、持続可能な社会と食生活について考える。	これまでの授業の復習と定期試験への準備。	240分

学生へのフィードバック方法 レポート・提出物については、コメントを返す予定。

評価方法 定期試験とレポート・提出物・平常点の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
レポート・提出物	○	○	○	○

評価割合 定期試験60% レポート・提出物・平常点40%の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない	
参考図書	適宜, 紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち, 現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し, 問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。	
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	グローバルコミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	Students learn how to describe and explain areas of Japanese culture in English.
履修条件	None. (English Communication 1 and 2 recommended.)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their experiences in Japan, in English, and will become more at ease when speaking about Japan to others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Where you are from; and the places that you like in Tokyo.	Prepare for class by reading p. 2-3; and p. 34-35	60
第2回	Japan	Traditional Japanese things / Convenience stores	P. 4-5; 36-37	60
第3回	Transportation	Getting a driver's license / Cherry blossom viewing	P. 6-7; 38-39	60
第4回	Animals / Spring	What do you like to do in the spring season? / Takoyaki and okonomiyaki	P. 8-9; 40-41	60
第5回	Food	Monjayaki / Going to a preparatory school	P. 10-11; 42-43	60
第6回	More Food	Natto and miso soup / Game centers	P. 12-13; 44-45	60
第7回	Festivals	Finding a good restaurant / Festival activities	P. 14-15; 46-47	60
第8回	Fishing	Going fishing / Going to a hot spring	P. 16-17; 48-49	60
第9回	Fashion	Fashion magazines / Studio Ghibli movies	P. 18-19; 50-51	60
第10回	Comic Books	Favorite comic books / Green tea	P. 20-21; 52-53	60
第11回	More Food	Wagashi deserts / Japanese fast food	P. 22-23; 54-55	60

第12回	Cosmetics	Perfume, cologne / Varieties of rice	P. 24-25; 56-57	60
第13回	Spicy Food	Sushi and wasabi / Wearing a yukata	p. 26-27; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Practice speaking with a partner for final speaking test.	P. 2- 59	120
第15回	Speaking Test	Speak with a partner in a natural conversation about Japan. No notes or books.	P. 2-59	120

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing; and feedback from the teacher on class participation.

評価方法 Quizzes are worth 5 points each week. Quiz questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the pages assigned as homework, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English by the end of the semester. In-class writing allows you to earn more points. Write a lot about what you like and your ideas.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合 Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名 (ISBN番号) Say What You Like 2.5 (ISBN 978-4-9906347-5-9)

参考図書 A Japanese - English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連 The ability to talk about Japanese culture in English.

学生へのメッセージ Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	家族の心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	現代の家族の現象について、広い視野からその詳細を知り、原因や背景を学ぶ。その際、隣接領域である家族社会学、文化人類学等で語られる家族にも言及し、家族システム理論をベースとした、家族理解の方法論について学ぶ。また、家族心理学に隣接する心理学は、生涯発達心理学、臨床心理学である。これに社会心理学的な視点を加えて、家族プロセス、家族関係、家族力動について科学的にとらえ、自分なりの考えをまとめる力を身につける。最終的には、家族を取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を模索できる力を醸成することを目的とする。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 家族心理学の歴史や関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 2. 家族心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を家族心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 社会的な問題を家族心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある事象から、家族心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、家族心理学で得た知識に基づいて説明するなど、家族心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—家族心理学とは—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	家族心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	家族とは何か	「家族」の定義について学ぶ。家族心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で家族を扱うことができる範囲を知る。	家族の心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と家族心理学のつながりを考える。	180分
第3回	家族づくり	人の発達の観点から、家族はどのように作られていくの	事前に配布された資料をよく読	180分

	の準備	かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	
第4回	夫婦の発達	夫婦はどのように関係性が変化（発達）していくのかわかる。また現代社会における家族のあり方を、夫婦を一つの単位として考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	家族システム理論	家族にまつわるシステム理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	現代社会の特徴からみた家族	現代社会の特徴からみた「家族」について心理学的側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	子どもが育つ場としての家族 (1) 子育ての普遍性	養育のためのシステムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	子どもが育つ場としての家族 (2) 親子の関係	親子関係の変容について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	子どもが育つ場としての家族 (3) 現代社会の子育て	現代社会における子育てをめぐる問題について知り、その解決法を考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	家族の健康	家族の発達と変容について理解し、家族における「健康」とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	家族の危機 (1) 歴史的側面	家族に生じる危機とその対応について、過去はどのようなものがあったのかわかる。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	家族の危機 (2) 発達の側面 家族内の要因	家族に生じる危機のうち、家族内の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	家族の危機 (3) 発達の側面 家族外の要因	家族に生じる危機のうち、家族外の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	家族の危機 (4) 解決の方法	家族の危機を解決する方法の一つとして、家族療法について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	変化する社会の中の家族 ～家族をめぐる心理学の課題と展望～	家族の持つ普遍性と個別性の観点から、変化する社会の中での課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 30%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「家族」という社会システムの観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学に関する思考をもって「家族」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、家族の心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能 (技術) をもって人間社会の中に課題を発見し、家族心理学的な思考や家族心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限 (千代田三番町キャンパス1805室)
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	「現代社会の子育て」や「家族の危機の解決方法」を扱う部分については、臨床心理士としての実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	高齢者福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要 (教育目的)	この授業では、少子高齢社会である我が国の状況を具体的なデータから理解する。また高齢社会の歴史について学ぶ。高齢者を支える保健医療福祉のサービスを学び、特に介護保険制度を詳細に理解する。さらに高齢者への介護の方法を学ぶ 教員はこれらの目的を達せさせるために現場の事例を収集し、またメディアの情報を多様に分析し、授業を行っていく。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	高齢者への制度とサービスを理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	介護を受ける側からの介護のあり方に関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	介護保険の手続きが理解できる。いくつかの介護の方法を理解する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	高齢社会とは何か	新聞記事から「高齢社会」問題について整理してみる	新聞記事を整理する	120分
第2回	高齢社会の歴史と課題	高齢社会の歴史を7% 14%という視点で考えてみる	7% 14%の意味することを探索する	240分
第3回	榎山節考は何を言いたいか	榎山節考を事前学習で読み、その課題を検討する	榎山節考を読んでおく	240分
第4回	榎山節考は何を言いたいか	榎山節考を事前学習で読み、その課題を検討する	榎山節考を読んでおく	240分
第5回	社会保障における高齢者	30兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	国家財政の仕組みを財務省のHPから学ぶ	240分
第6回	社会保障に	30兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何	国家財政の仕組みを財務省のHP	120分

	おける高齢者	が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	から学んでおく	
第7回	高齢者への虐待（暴力）を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第8回	高齢者への虐待（暴力）を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第9回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第10回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第11回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第12回	介護の方法を学ぶ	簡単な介護の方法を学ぶ	介護の方法をインターネットから調べる	240分
第13回	介護の方法を学ぶ	簡単な介護の方法を学ぶ	介護の方法をインターネットから調べる	240分
第14回	現場に行く	現場でのケアを体験する	現場施設をHPで確認する	240分
第15回	外部講師の話	ケアマネジメント方法、クレームを言い続ける家族への対応、ターミナルケアについてソーシャルワーカーから学ぶ	質問を考える	120分

学習計画注記	状況に応じて視聴覚教材を取り入れる
--------	-------------------

学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーへのコメント
---------------	------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ①リアクションペーパー テーマを設定して意見や感想をもとめその内容を評価 ②ミニレポート 外部講義の講義感想を肯定的に評価できる ③期末試験 客観的知識の評価（正誤問題）
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー			○	
ミニレポート	○			○
期末試験	○			

評価割合	リアクションペーパー：20% ミニレポート：30% 期末試験：50%
------	------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	別途紹介
-----------------	------

参考図書	内閣府 高齢社会白書
------	------------

ディプロマポリシーとの関連	社会福祉の実践的側面を理解する
---------------	-----------------

オフィスアワー	月曜日3時限 その他はメールで対応
---------	-------------------

学生へのメッセージ	高齢者福祉に関心がある方の登録を望みます
-----------	----------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、その実際に基づいて、事例を踏まえて学びを深める
アクティブ・ラーニング	○	新聞記事を使った社会問題としての高齢社会問題の探索を自らが行き、教室でshareする
情報リテラシー教育		インターネット上の様々なサイトにアクセスし、事前学習を深める

シラバス参照

講義名	障がい者福祉論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 朝倉 和子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本科目では障がい者、その家族を含んだ障がい者を取り巻く環境の実態を理解することを目的とし講義する。また、ノーマライゼーション、自立生活、QOLといった障がい者理解に必要な基本理念を理解し、「共生」とは何かを共に考えるために講義する。障がい者のニーズの多様性を理解し、障がい者への支援の在り方を障がい者福祉施策と共に講義する。
履修条件	特になし。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 障がい者生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。 2. 障がい者福祉の理念や制度の発展過程について理解する。 3. 障がい者の生活支援に関係する障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係るほかの法制度について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	障がい (障害) とは何か。障がい (障害) の定義を理解する。	法律にみる障がい (障害) の定義を理解する。 ICFによる障がい (障害) の捉え方を理解する。 「障害」と「障がい」の表現について理解する。	教科書第1章「障害とは」(4-14ページ) を読んでおくこと。	120分
第2回	障がい者福祉の基本理念	障がい者福祉の理念を理解する。ノーマライゼーション、リハビリテーションの理念について理解する。自立生活運動の背景と意味について理解する。インテグレーション、インクルージョンの理念について理解する。	教科書第2章「障害者福祉の基本理念」(15-26) を読んでおくこと。	120分
第3回	障がい者福	戦前から戦後にかけての障がい者福祉を理解する。高度	教科書代3章「障害者福祉のあ	120分

	社の歴史、あゆみ	成長期以後の障がい者福祉を理解する。障がい者福祉の転換と国際的動向を理解する。	ゆみ」(27-38ページ)を読んでおくこと。	
第4回	障がい者福祉に関する制度や法律	障害者基本法の成立と内容について理解する。各種障がいに関する法律について理解する。障がい者に関する制度(障害者手帳・年金手当等)について理解する。	教科書第4章「障害者福祉に関する制度や法律」(39-52ページ)を読んでおくこと。	240分
第5回	障がい者の生活の実態とニーズ	障がい者の生活とニーズの理解する。障がい者の生活実態とニーズ理解と共に支援の在り方を理解する。	教科書第5章「障害者の生活の実態とニーズ」(53-65ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	障害者総合支援法とは	障害者総合支援法について理解する。成立の背景、目的及理念、対象を理解し、サービス体系の概要を理解する。障害者総合支援法の課題について理解する。	教科書第6章「障害者総合支援法の概要」(66-76ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回	障害者総合支援法におけるサービスの利用プロセスと相談支援	福祉サービスの利用プロセスを理解する。支給決定の流れ、介護給付、訓練等給付、利用者負担について理解する。利用プロセスにおける課題を理解する。相談支援について理解する。相談専門員の役割、相談支援の課題について理解する。	教科書代7章「障害福祉サービスの利用プロセス」(77-86ページ)及び第8章「相談支援」(87-95ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	障がい者の就労支援と雇用	障がい者の就労支援施策の全体像、障害者総合支援法における就労支援と雇用促進、課題について理解する。障がい者の雇用の現状、障害者雇用促進法について理解する。	教科書第9章「就労支援」(96-105ページ)及び第10章「障害者の雇用」(108-119ページ)を読んでおくこと。授業初めに1-7回の小テストを実施するので、復習をしておくこと。	240分
第9回	障がい者の生活環境	障がい者の住環境への配慮の在り方について理解する。福祉社会のまちづくりについて理解する。ユニバーサルデザインについて理解する。	教科書第11章「障害者の生活環境」(120-130ページ)を読んでおくこと。	120分
第10回	障がい者の権利擁護	障害者虐待防止法の概要、虐待の類型と判断、対応について理解する。成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解する。心神喪失者医療観察法、障害者差別解消法について理解する。	教科書第12章「障害者の権利擁護」(131-145ページ)を読んでおくこと。	120分
第11回	身体障がい者支援の実態(事例検討)	中途視覚障がい者の特徴と自立支援の在り方について検討、理解する。自立と参加への支援について理解する。すべての人が共生、包摂される社会とは何か、理解する。	教科書第13章「身体障害者支援の事例」(146-152ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	知的障がい者及び精神障がい者への支援(事例検討)	知的障がい当事者を主体とした生活支援の実際(エンパワメント)について理解する。日常生活への支援について理解する。当事者の可能性を引き出す支援(エンパワメント)について理解する。精神障がい者支援の実際について理解する。精神科病院退院への過程と課題について理解する。	教科書第14章「知的障害者支援の事例」(153-161ページ)及び第15章「精神障害者支援の事例」(162-170ページ)を読んでおくこと。	240分
第13回	発達障がい者支援の実態と難病患者支援に実態(事例検討)	自閉症の特性を踏まえた支援について理解する。発達障がい者への支援の在り方について理解する。ALS患者の事例検討を通じ、難病患者支援と課題について理解する。難病法の理解と他制度との併用に在り方について理解する。	教科書第16章「発達障害者支援の事例」(171-178ページ)及び第17章「難病患者支援の事例」(179-186ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	障がい者支援の実際	障がい者関連施設職員による講義。障がい者の支援の実際と制度等の運用の実際を理解する。障がい者支援専門職ならではの事例紹介を通じて障がい者福祉の実態を学ぶ。	これまでの、教科書、資料等を復習しておくこと。また、新聞等でよいので障がい者福祉関連の事例や動向を意識しておくこと。	120分
第15回	障がい者福祉の展望とまとめ	障がい者福祉を取り巻く国際的な動向を理解する。日本への障がい者福祉の国際的な動向の影響を理解する。まとめ。	教科書 エピローグ「これからの障害者福祉」(187-192ページ)を読んでおくこと。8回-14回の小テストを授業初めに実施するので、復習をしておくこと。	予習240分・復習420分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は提示する。質問等は、授業の前後の時間が、asakura@kasei-gakuin.ac.jpまで。
評価方法	小テストは授業内に2回実施する。1回あたりの問題数は20問。穴埋めもしくは選択方式で出題する。原則小テストの再試験は行わない。定期試験は80点満点で出題する。教科書、配布資料を中心に出題し障がい者福祉の基本的理解を判断する。選択式、穴埋め式、記述式を含む。定期試験の詳細については最後の授業で説明する。小テスト及び定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準					
評価基準					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	
小テスト	○				
定期試験	○				
評価割合	小テスト20%・定期試験80%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	新・はじめて学ぶ社会福祉 障害者福祉論 杉本敏夫・柿木志津江 ミネルヴァ書房 978-4-623-07496-9				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会の発展させていく礎となる「質の高い生活」について障がい者福祉を通じ理解する知識を有している。さらに共生とは何か、現代社会の諸課題を理解する力を有している。				
オフィスアワー	講義前後の時間 講師室 (千代田三番町キャンパス) もしくは、火曜日 3限目 K411-1実習指導室 (町田キャンパス)				
学生へのメッセージ	障がい者が生活しやすい社会はすべての人々が生活しやすい社会です。障がいを持つ人々を理解しより良い生活を送るための支援を学ぶことはすべての人々の共生に繋がります。共生社会の重要性についても本講義を通じて理解してほしいと思います。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	若者ファッション論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

授業概要(教育目的)	衣服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能から成る。したがって、衣服について学ぶには、服飾美学、被服構成学、被服材料学、被服管理学、被服衛生学等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う衣服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、衣生活に関する基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣服に求められる課題について考える。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	若者のファッション文化の変遷学び、ファッション文化と社会の動向の関わりをについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	若者とは何か、社会における若者の位置づけについて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代のファッション文化に対して積極的に情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	若者とは何か	社会の中で論じられてきた若者論について取り上げ、若者について考える意義について学ぶ	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	1950年代シネマファッション	1950年代のファッションは映画・テレビといった映像文化に影響を受けていたことを学び、社会におけるファッションの位置づけについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第3回	1960年代ミニスカート	日本経済の成長と生活の進展を学び、ミニスカートがファッションの価値観の変容にかかわったことを理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第4回	1960年代ヒッピーとサイケ	安保闘争などの社会的な動きから、若者と社会とのかかわりについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第5回	1960年代ジーンズと	若者ファッションの代名詞となるジーンズと、フォークソングの流行から今日のジェンダー感への移行を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分

	フォークソング			
第6回	1970年代ファッション雑誌	ファッション雑誌が提案した若者ファッションとライフスタイルについて学び、若者の消費行動の変化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第7回	1980年代スポーツ天国と女子大生ブーム	大学進学率の向上などを背景とする、若者のライフスタイルとファッションの関りについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第8回	1980年代ブランドの多様化	バブル経済の前後の事例を学び、ファッションブランドの多様化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第9回	中間試験・まとめ	1950年代からの昭和の社会と若者ファッションについて、第8回までの講義を踏まえた試験を行う。	試験準備として授業内容の振り返る。	180分
第10回	1990年代カジュアル志向	バブル崩壊後のファッションの中でのカジュアル志向を学び、価値観の変容を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第11回	1990年代カジュアル志向	女子高生を中心としたファッションムーブメントとしてのギャル文化を学び、社会における若者の位置づけの変化を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第12回	2000年代ローティーン	2000年代以降のローティーンファッションに着目し、市場動向を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第13回	カワイイとは何か	日本のポップカルチャーの一つとして世界にも認知される「カワイイ」文化について学び、カワイイとは何かを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第14回	エイジレス志向	2000年代以降の女性のエイジレス志向を学び、そこから今日の若者とはどのような意味を持つのかを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を細くする情報を記入する。	180分
第15回	まとめ 現代社会と若者	これまでの講義内容を振り返り、社会と若者ファッションとはどのような関わりを持っているのかを考える。	試験準備として、授業内で指示をした内容について情報収集をし、まとめる。	180分

学習計画注記 受講生の理解度等により授業の進行を調整することがある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 中間・期末試験では、ファッションと社会との関わりにおいてについて理解しているかを問う。毎回の授業内容をしっかりとノート整理することが必要である。期末試験では授業内容に加えて、現代の若者の流行に関する問題を課すので、積極的に情報収集する態度を評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業ごとの小テスト	○			
中間・期末試験	○	○	○	

評価割合 授業ごとの小テスト15%、中間試験45%、期末試験40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。授業時に資料を配布する

参考図書 なし。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 社会と若者のファッション文化について理解を深める。
【思考・判断】 ファッションを通して若者文化が包含する意味について思考することができる。
【関心・意欲・態度】 若者のファッション文化について意欲的に関心を持ち、情報を収集できる。

オフィスアワー 月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ 第二次大戦以降の日本の若者のファッションについて取り上げる、メディアの情報などを積極的に収集してください。また、同時代を経験してきた身近な父母、祖父母などに質問するのもよいと思います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康福祉学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし
教授	西口 守	指定なし
非常勤講師	矢野 明宏	指定なし
非常勤講師	尾谷 健	指定なし

授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 この授業対象者が管理栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていく。																												
履修条件	特になし																												
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる	思考・判断の観点 (K)		関心・意欲・態度の観点 (V)		技術・表現の観点 (A)																
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる																												
思考・判断の観点 (K)																													
関心・意欲・態度の観点 (V)																													
技術・表現の観点 (A)																													
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>福祉を知る</td> <td>新聞記事から福祉の問題を探す</td> <td>それを整理する</td> <td>120分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>社会福祉が必要な社会の状況</td> <td>前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える</td> <td>一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする</td> <td>240分</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか</td> <td>アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」</td> <td>◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるのは好き? こんなことを考えてみて?</td> <td>120分</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>社会福祉ん</td> <td>中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定され</td> <td>世界史の教科書で中世の出来事</td> <td>240分</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分	第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	240分	第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるのは好き? こんなことを考えてみて?	120分	第4回	社会福祉ん	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定され	世界史の教科書で中世の出来事	240分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)																									
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分																									
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	240分																									
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるのは好き? こんなことを考えてみて?	120分																									
第4回	社会福祉ん	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定され	世界史の教科書で中世の出来事	240分																									

	p 歴史 社会福祉の歴史① イギリスの発達史	たか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	をおさえておく 特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	
第5回	歴史②	英国の歴史②	救貧法から新救貧法そして慈善組織協会の流れを理解する	240分
第6回	社会福祉の歴史③	ロンドンCOSからリッチモンドまでを学ぶ	リッチモンドを調べておく	240分
第7回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	240分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	240分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	240分
第10回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	240分
第11回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	240分
第12回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	240分
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	240分
第14回	介護保険を学ぶ①	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	240分
第15回	介護保険を知る②	介護保険の具体像を知る	申請手続きを学んでおく	240分

学習計画注記 外部施設への見学もあり

学生へのフィードバック方法 提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション

評価方法 ①中間試験
②実務家講演のコメント
③学期末試験
④平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○		○	
コメント			○	
学期末試験	○			
平常点			○	

評価割合 ①中間試験 30%
②コメント 20%
③学期末試験 40%
④その他 平常点 10%

使用教科書名 (ISBN番号) 別途指示

参考図書 別途指示

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 人間などの総理解を深めて幅広い教養を身につける。人間理解のなかの生活困難な側面に着目し授業を行う

オフィスアワー 毎週月曜日 2時限

学生へのメッセージ 食と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かを配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	疫学・社会調査法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 細川 まゆ子	指定なし

授業概要(教育目的)	人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼしている要因や条件を包括的に探る方策として、疫学的思考および方法を習得する。 社会集団における社会現象を調査によって直接観察し、記述する社会データ収集の一方法である社会調査の基礎的事項を学び、習得する。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	疫学の基礎的事項を理解し説明できる
思考・判断の観点 (K)	社会調査の基礎事項を理解し実施できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	無断欠席、理由の無い途中退席は禁止する。疑問に思うことは積極的に質問する
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	疫学入門 (概念・歴史)	疫学の概念・歴史について学ぶ 大いなる航海-軍医 高木兼弘の280日- (DVD) を鑑賞し、理解を深める		
第2回	疫学研究方法の種類、頻度(割合、率、比)の比較	疫学研究方法の種類について触れ、統計の復習として割合、率、比等基本的な内容について学習する	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第3回	健康指標と疫学のデザイン	統計の復習(分布、度数分布表、度数・頻度、階級、相対度数、累積度数、累積相対度数、ヒストグラム)、疫学研究のデザイン(介入研究、コホート研究、症例対研究)、健康指標(死亡率、有病率、致命率、年齢調整死亡率とSMR、罹患率)について内容を理解する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第4回	健康指標と疫学のデザイン-計算編-	疫学のサイクル、記述疫学(生態学的研究、横断研究)について学ぶ。事例をもとに罹患率、症例対照研究のオッズ比、コホート研究の相対危険度、寄与危険割合の計算問題を解き、計算方法について理解する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分

第5回	健康指標と疫学のデザイン-計算編2-	事例をもとに、年齢調整死亡率、致命率を計算し理解を深める。また、症例対照研究とコホート研究の違いについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第6回	バイアス、統計の検定方法	標本調査、無作為抽出、バイアスの種類（選択バイアス、情報バイアス、交絡バイアス）、制御方法について学ぶ。また、統計学の復習として標準偏差と標準誤差、統計の検定方法について理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第7回	スクリーニング	スクリーニングの目的と適用条件について内容を理解する。スクリーニングの精度（感度、特異度）、陽性反応的中度、ROC曲線について計算を行いながら理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第8回	根拠（エビデンス）に基づいた医療（EBM）及び保健対策（EBPH）1	エビデンスの質のレベル、系統的レビューとメタアナリシスについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第9回	根拠（エビデンス）に基づいた医療（EBM）及び保健対策（EBPH）1	診療ガイドライン、保健政策におけるエビデンスについて学ぶ 7000人のカルテ - 九州大学医学部と久山町民の40年 - (DVD) を鑑賞し、EBM・EBPHの理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第10回	疫学研究と倫理	人を対象とした研究調査における倫理的配慮、インフォームド・コンセント、診療ガイドライン、保健政策におけるエビデンスについて学習する	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第11回	循環器疾患の疫学	日本で増え続けている生活習慣病の一つである循環器疾患を疫学的な観点から学習する。 生命の警鐘-米国フラミンガム町からのメッセージ- (DVD) の鑑賞を行い、理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第12回	食事調査と栄養疫学	食事調査法と栄養疫学について内容理解する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第13回	社会調査法（概要、種類、プロセス）	社会調査法の概要を理解し種類プロセスについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第14回	社会調査の実施（デザイン、調査票、方法、集計作業）	社会調査の実施方法について学ぶ	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第15回	疫学・社会調査法のまとめ	これまで学習した内容について復習し理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分

学生へのフィードバック方法	松田先生を通してご連絡ください。				
評価方法	定期試験（100%）				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	
評価割合	定期試験（100%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理-現代公衆衛生学第2版-松田正己編集 クオリティケア2013				
参考図書	1. 最新 保健学講座 6 疫学/保健統計 丸井英二 メジカルフレンド社 2008 2. はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～第2版 日本疫学会監修 南江堂 2010 3. わかりやすいEBNと栄養疫学 佐々木敏 同文書院 2005				

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】疫学・社会調査および統計学の基本的な知識を有する。 【思考・判断】疫学で学ぶ知識を活用し様々な問題解決する方策を導くことができる。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	講義で行った内容について、必ず復習う事。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スポーツ栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)

運動生理学を中心として、栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進める。
前半（運動生理学）では、運動を行ったときの一過性の生理応答、トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明する。
後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと、よりよいスポーツ活動のための食事について、実例とともに説明する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2. 運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 3. スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 4. スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動の違いを判断できる。 スポーツ選手の栄養摂取と一般人の栄養摂取の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。	120分
第2回	スポーツと栄養の基礎	身体活動時の生理応答を説明する。	運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。	120分
第3回	スポーツと栄養の応用	身体活動時の代謝を説明する。	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。	120分
第4回	スポーツと栄養の実践	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。	120分

第5回	健康づくりを目的とした運動処方	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。	身体活動基準・指針、アクティブリュウの情報を収集する。	120分
第6回	健康づくりを目的としたサポート計画の作成	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。	120分
第7回	スポーツ栄養アセスメント	スポーツ栄養アセスメントの方法を説明する。	アセスメントの方法を復習する。	120分
第8回	スポーツ栄養サポートの実施1	アセスメントに基づくサポート計画を立案する。	対象者のニーズに合わせた計画を作成する。	120分
第9回	スポーツ栄養サポートの実施2	料理教室を計画する。	栄養サポートを開始し、対象者のモニタリングを実施する。	120分
第10回	運動・栄養指導の実践①（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第11回	運動・栄養指導の実践②（料理教室）	料理教室を実施し、個別サポートにおける運動・栄養指導を考察する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第12回	運動・栄養指導の実践③（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第13回	運動・栄養指導の評価	個別サポートで実施した運動・栄養指導を評価する。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第14回	運動・栄養指導の結果報告	個別サポートの成果をプレゼンテーションする。	サポート対象の状況を把握し、フィードバック方法を検討する。	120分
第15回	まとめ	個別サポートの成果を総括する。	学修事項を整理し、サポート経験を記録する。	120分

学習計画注記 ※履修者数や講義の進捗によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法 中間試験：講義の内容を筆記形式で出題する。期間中に1回実施する。なお、臨地実習など単位取得にかかわる合理的な理由がない限り、追・再試験を実施しない。
課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
課題提出	○	○	○	○

評価割合 中間試験（50%），課題提出（50%）

使用教科書名 (ISBN番号) 「七訂食品成分表2016」 女子栄養大出版部 (978-4789510165)
「調理のためのベーシックデータ第4版」 女子栄養大出版部 (978-4789503174)
「日本人の食事摂取基準 [2015年版]」 第一出版 (978-4804113128)

参考図書 特になし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探索し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる

	【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
オフィスパワー	江川 G0101研究室：木曜日12時30分～14時 加藤 1B05研究室：火曜日5限
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組む、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的とした運動処方に関する専門的知識を教授する。 担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品の官能評価・鑑別論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)

統計処理を含め、具体的な食品について官能評価法、鑑別法について学ぶ。官能検査の目的と意義、官能検査の基本と実施法、官能検査の方法と解析法(比較法、識別法、順位法、評点法など)について学ぶ。演習また、食品の化学的、物理的評価法も含めて教授する。個別食品の鑑別法に関しては、鮮度、熟度の判定法なども含めて行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品の鑑別や官能評価法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食品の鑑別・官能評価を行える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品の官能評価・鑑別論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・食品鑑別・食品と水	食品の官能評価・鑑別論のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。食品を鑑別するとき重要な水について理解する。	食品と水の間接関係を参考書等で調べておくこと。また講義で配布したプリントや講義内容を復習しておくこと。	170分
第2回	食品鑑別・味覚とは・味覚と食べ合わせ	食の味に関する感覚は様々で、味覚だけではなく触覚、視覚、臭覚、聴覚など5感が重要である。味の感じ方に関する理解を、あわせて食べ合わせについても理解する。	味の感じ方に関する参考書等を調べておくこと。また講義で配布したプリントや講義内容を復習しておくこと。	170分
第3回	食品表示法、食品鑑別・旬とは	今日、食品を鑑別する上で重要な要素の1つが食品表示である。この表示に関する規則・法律を理解する。あわせて、食品の旬についても理解する。	食品表示に関する参考書等を調べておくこと。また講義で配布したプリントや講義内容を復習しておくこと。	170分
第4回	食品の官能評価・レオロジー	食品に官能評価法とレオロジーに関して理解する。	食品の官能評価法とレオロジーに関する参考書等を調べておくこと。また講義で配布	170分

			したプリントや講義内容を復習しておくこと。	
第5回	食品の官能評価の基本と実施方法	食品の官能評価を実施するにあたって必要な基本事項を理解する。	食品の官能評価の具体例について参考書等で調べておくこと。また講義で配布したプリントや講義内容を復習しておくこと。	170分
第6回	識別試験法	2点識別・嗜好試験法および3点識別・嗜好試験法について理解する。	授業内で終了しなかった計算を最後まで行うこと。識別試験法の具体例について参考書等で調べておくこと。	170分
第7回	順位法	実際に食品資料を用いて順位法にて評価を行い得られた結果を解析する。	授業内で終了しなかった計算を最後まで行うこと。順位法の具体例について参考書等で調べておくこと。	170分
第8回	評点法	実際に食品資料を用いて評点法にて評価を行い得られた結果を解析する。	授業内で終了しなかった計算を最後まで行うこと。評点法の具体例について参考書等で調べておくこと。	170分

学習計画注記 フードスペシャリスト資格を受験するときの必須科目となっている。

学生へのフィードバック方法 各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室(林)あるいは1B04研究室(大富)まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法 レポートおよび平常点で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		

評価割合 レポート50%、平常点50%

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 三訂 食品の官能評価・鑑別演習 (日本フードスペシャリスト協会 編)
ISBN 978-4-7679-0506-8

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】食品の官能評価・鑑別に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品、食材の基礎を理解できる知識基盤を有している。
【思考・判断】食品の官能評価・鑑別に関する正確な情報を収集し、論理的・批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。

オフィスアワー 月曜日3時限 1401研究室(林)
月曜日5時限 1B04研究室(大富)

学生へのメッセージ 慣れない用語も資料を良く読み込むことで理解できるようになるので、根気強く頑張ろう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食品衛生学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

授業概要 (教育目的) 食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的、化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行う。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全・安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。		
第2回	微生物培養培地作製	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明		
第3回	微生物培養培地作製	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などを説明。		
第4回	食品の微生物検査 (標準平板培養法, 大腸菌群テスト)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。		
第5回	食品の微生物検査 (生菌数, 大腸菌群数, 大腸菌)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

	腸菌確定検査)			
第6回	真菌類の食品からの分離 (カビ, 酵母)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	真菌類の形態観察, 細菌類の分離	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	細菌類の顕微鏡観察 (グラム染色など)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	微生物の抗生物質耐性試験	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	微生物の耐紫外線, 耐熱性試験	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生活環境と手指等の清潔度(微生物汚染度)の測定	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験(手洗いによる微生物除去も含め)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	遺伝子組換え食品の検出試験	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験(遺伝子組換え検出試験)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	食品添加物(着色料)の検出試験	食品添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の発色剤の検出	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	残留農薬試験	食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。	実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記 シラバスは、学年暦などにより回の内容が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法 各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法 成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合 レポート(50%)および実験へ臨む態度などの平常点(50%)で判定する。

使用教科書名 (ISBN番号) プリント配布

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考・判断】食品衛生の正確な情報を収集することでの確かな食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術・表現】食品衛生の技術・手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全・安心を的確に扱える専門的技能を身につけている。

オフィスアワー オフィスアワー 月曜日3時限 1401研究室

学生へのメッセージ	食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。
-----------	------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

授業概要 (教育目的)	本講義では、ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理 について学習する。ライフステージ別栄養学Ⅱにおいては、成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれらに関連した病態生理について学習する。さらに、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス（疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など）といった特殊な環境の条件下における生体の反応と特殊な栄養状態、および栄養的要求について理解する。
履修条件	病理学、臨床栄養学Ⅰ、ライフステージ別栄養学Ⅰを履修していること。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理について説明できる。健康と栄養、運動と栄養、特殊環境下の生理的特徴や栄養について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	臨床検査値の読み方 1	臨床検査の目的、種類、検査値の解釈 (尿検査、便検査、血液一般検査、凝固系検査等) を理解する。	授業で配布する資料および参考図書等を読み、理解を確実にしておく。	150分
第2回	臨床検査値の読み方 2	検査値の解釈その2 (血液生化学検査、免疫系検査等)、臨床検査値と疾患を理解する。	授業で配布する資料および参考図書等を読み、理解を確実にしておく。	150分
第3回	食物アレルギー	乳幼児期のみならず近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態、診断、治療について理解する。	授業で配布する資料および参考図書等を読み、理解を確実にしておく。	150分
第4回	成人期 1	成人期の生理的特徴、成人期特有の各種疾患 (脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドローム等) について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について確認しておく。臨床栄養学Ⅱの教科書の左記疾患の該当部分および	150分

			び教科書p205～226を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	
第5回	成人期 2	成人期特有の各種疾患（高血圧、糖尿病、慢性腎臓病、がん、虚血性心疾患、脳血管疾患など）について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について確認しておく。臨床栄養学IIの教科書の左記疾患該当部分および教科書p227～238を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第6回	成人期 3、更年期	成人期特有の各種疾患、さらに更年期における特有の生理的变化や各種疾患（婦人科系疾患、骨粗鬆症予防等）について学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する内容について確認しておく。臨床栄養学IIの教科書の左記疾患該当部分および教科書p227～238 を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第7回	高齢期 1	高齢期の生理的变化の特徴およびフレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、骨粗鬆症等の高齢期特有の状態・疾患について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について確認しておく。臨床栄養学IIの教科書の左記疾患該当部分および教科書p239～248を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第8回	高齢期 2	高齢期に多くみられる、摂食・嚥下障害、誤嚥等について病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について確認しておく。臨床栄養学IIの教科書の左記疾患該当部分および教科書p248～255を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第9回	高齢期 3	高齢期に多くみられる、認知症、脳血管障害、失禁、褥瘡等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習：2年次までに学習した左記に関する項目について確認しておく。臨床栄養学IIの教科書の左記疾患該当部分および教科書p255～269を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第10回	成人期・老年期のまとめ	食事摂取基準2020年版の変更予定の部分も踏まえ、成人期・高齢期の各病態・疾患に応じた栄養指導につながる基本的知識を理解する。	授業で配布する資料および参考図書等を読み、理解を確実にしておく。	150分
第11回	運動生理、スポーツと栄養	運動時の生理的特徴やエネルギー代謝、運動と栄養ケアについて理解する。	事前学習：運動生理学で学習した内容を確認しておく。教科書p271～301を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第12回	環境と栄養 1	生体リズムと栄養の関係について理解できる。	事前学習：教科書p303～310を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第13回	環境と栄養 2	ストレスと恒常性、栄養との関係について理解できる。	事前学習：教科書p310～317を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第14回	特殊環境と栄養 1	高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境などの生理的变化および栄養との関係について理解できる。	事前学習：教科書p317～328を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第15回	特殊環境と栄養 2、まとめ	災害栄養について理解できる。全体を通してのまとめ。	事前学習：教科書p328～330を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。 これまでの授業内容を総復習しておく。	600分
第16回	定期試験			

学習計画注記	2019年度中に改訂版発刊予定の食事摂取基準の内容や、履修者の状況、授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回講義時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行い、講義内に解説を加える。
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名 (ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ：応用栄養学：改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学：羊土社， 栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方ケーススタディ第2版：医師薬出版株式会社， 看護アセスメントにつながる検査データの見かた：照林社， 栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版：羊土社， 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版：羊土社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	火曜12：30～14：30 1503教室
学生へのメッセージ	今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	応用栄養学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理(マネージメント)の方法を学ぶ。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	ライフステージ別の特徴を踏まえたマネージメントについて説明できる
思考・判断の観点(K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネージメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点(V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネージメントを模索しようとする
技術・表現の観点(A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネージメントをすることができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養マネージメントの理論	PDCAサイクルに基づいた対象者の栄養マネージメントを行う理論を学ぶ	自身のエネルギー・各栄養素を算出する	30分
第2回	献立立案の方法 妊娠・授乳期の栄養ケアの特徴とプランニング	献立の立案方法を学ぶ。妊娠・授乳期の特徴に基づいた栄養計画について学ぶ。	妊娠・授乳期の特徴を予習する。妊娠・授乳期の栄養マネージメントの特徴を復習する。	30分
第3回	妊娠・授乳期の栄養ケアの実習と	妊娠・授乳期の統一献立を実習し、栄養ケアの特徴を考察する	統一献立の作り方、作業工程表を作成してくる。統一献立の結果をレポートにまとめる。	60分

	評価(統一 献立)			
第4回	妊娠・授乳期まとめ 調乳 離乳食の作り方の基本	妊娠・授乳期のマネジメントのまとめをする。調乳を実際に体験し、離乳食づくりの基本操作について学ぶ。	妊娠・授乳期の栄養マネジメントをレポートにまとめる。調乳方法を教科書を見て予習してくる。	60分
第5回	離乳期・幼児期の栄養ケアの特徴とプランニング	離乳期・幼児期の栄養ケアの特徴、プランニングについて学ぶ。	教科書から離乳期・幼児期の特徴を予習する。	30分
第6回	離乳期の栄養ケアの実習と評価 (初期・中期)(統一 献立)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	30分
第7回	離乳期の栄養ケアの実習と評価 (後期・完了期)(統一 献立) ベビーフードの試食	離乳食の後期、完了期の特徴について調理実習を通して学ぶ。ベビーフードとの比較を行う。	作業工程表を作成してくる。ベビーフードを購入してくる。	60分
第8回	離乳期のオリジナル献立立案	統一献立で学んだ離乳食の特徴に基づき、各班で離乳食の献立を作成する。	オリジナルの献立、栄養価計算を行ってくる。	90分
第9回	離乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価	各班で作成したオリジナルの離乳食献立を調理し、離乳食作りの実際について学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第10回	幼児期の栄養ケアの実習と評価 (統一献立)	幼児期の食事の特徴について調理実習を通して学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第11回	幼児期のオリジナル献立立案	統一献立で学んだ幼児期の食事の特徴に基づき、各班でオリジナルの献立を作成する	オリジナル献立、栄養価計算を作成してくる	90分
第12回	幼児期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価	実際に各班で考えた献立を調理し、幼児期の食事づくりの特徴を学ぶ	作業工程表を作成してくる。	30分
第13回	離乳期・幼児期のまとめ 高齢期の栄養ケアの特徴	統一献立、オリジナル献立の調理実習を通して、離乳期・幼児期の栄養マネジメントのまとめを行う。高齢期の栄養ケアの特徴について学ぶ。	幼児期のオリジナル献立のレポートを作成してくる。高齢期のライフステージの特徴を教科書を見て予習してくる。	60分
第14回	高齢期の栄養ケアの特徴と実習 (統一献立)	調理実習を通して高齢期の食事づくりの特徴を学ぶ。	作業工程表を作成してくる	30分
第15回	高齢期のまとめ、高齢者食の試食、全体のまとめ	市販の高齢者食を試食し特徴をまとめる。統一献立の高齢者食を通して、高齢期の栄養マネジメントをまとめる。全授業を通して栄養マネジメントを考える。	市販の高齢者食を購入してくる。統一献立のレポートを作成してくる。	60分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートを返却する。作成した献立について教員からコメントを返す。
評価方法	テスト60%、演習課題(作業工程等)20%、栄養ケアプラン作成のレポート20%などから総合的に評価する
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習課題	○		○	○
レポート	○	○	○	○
試験	○	○		

評価割合	テスト60%、演習課題20%、レポート20%などから総合的に評価する
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房 4903355290 「応用栄養学実習書—PDCAサイクルによる栄養ケア 第2版」 建帛社 柳沢 幸江 (編著) / 松井 幾子 (編著) 4767905869
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている 【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
オフィスアワー	酒井 火曜日5限 地域栄養教育 (酒井) 研究室
学生へのメッセージ	実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点を持ち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員 (會退)、担当教員 (酒井) は保育所等、担当教員 (加藤) はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、乳幼児期の栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康行動支援プログラム論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 國井 大輔	指定なし

授業概要(教育目的)

メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に対象者に合わせた情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。人の行動を科学的に把握し、適した目的地に導いていくためのスキルの習得を目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	行動科学的な支援方法と行動変容プログラムの組み立てかたを習得
思考・判断の観点 (K)	「理解できる」から「続けられる」ための支援の流れや評価方法を習得
関心・意欲・態度の観点 (V)	信頼関係を築くためのコミュニケーションスキルを習得する
技術・表現の観点 (A)	行動変容支援を成功させるカウンセリング技術を習得する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康づくりの専門支援とは(導入)	オリエンテーションとして、国内外での実際の仕事を通して、管理栄養士の活躍の現状を紹介する		
第2回	健康づくりの考え方と支援者の役割	管理栄養士として、行動変容支援に携わるための心構えについて事例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらおう。	配付する資料「健康づくりの考え方と支援者の役割について」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第3回	支援者として必要な考え方とスキル①	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に事例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらおう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル①」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第4回	支援者として必要な考え方とスキル②	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に事例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらおう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル②」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分

第5回	支援者として必要な考え方とスキル③	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル③」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第6回	支援者として必要な考え方とスキル④	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル④」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第7回	支援者として必要な考え方とスキル⑤	行動科学的な支援方法に必要な考え方とスキルを習得するために、具体的に実例を交えて解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「支援者として必要な考え方とスキル⑤」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第8回	行動変容プログラムの開発と考え方について	行動科学的な支援スキルに基づき、効果的な行動変容プログラムの開発方法や評価方法について解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「行動変容プログラムの開発と考え方について」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第9回	行動変容プログラムの実際①	健診結果の評価、事前調査、個別・集団指導（面談）、継続支援、評価方法について解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「行動変容プログラムの実際①」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第10回	行動変容プログラムの実際②	健診結果の評価、事前調査、個別・集団指導（面談）、継続支援、評価方法について解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「行動変容プログラムの実際②」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第11回	行動変容プログラムの実際③	健診結果の評価、事前調査、個別・集団指導（面談）、継続支援、評価方法について解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「行動変容プログラムの実際③」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第12回	ケーススタディ①	行動変容支援、行動変容プログラムに基づいて実際に行った事例について紹介し、解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「ケーススタディ①」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第13回	ケーススタディ②	行動変容支援、行動変容プログラムに基づいて実際に行った事例について紹介し、解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「ケーススタディ②」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第14回	ケーススタディ③	行動変容支援、行動変容プログラムに基づいて実際に行った事例について紹介し、解説する。また、実際の栄養指導で頻出するやり取りをミニ課題として取り組んでもらい、提出してもらう。	配付する資料「ケーススタディ③」を見直し、出されたミニ課題について情報を整理しておく	30分
第15回	健康行動支援プログラム論のまとめ	健康行動支援と行動変容プログラムについてまとめ、テスト対策について解説する。		

学生へのフィードバック方法	毎回実施するミニ課題を次の授業で返却し、解説することで、自身の考え方のフィードバックができる				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、実際に特定保健指導の現場でやり取りされる内容をミニ課題で問い、対応の仕方を習得させる ・ レポートは、課題に対して自身の考えをまとめ、わかりやすく伝えるスキルを習得させる ・ 定期試験は、記述式でケーススタディから課題や改善点を読み取り、実際の現場で役に立つ対応力を習得させる 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ミニ課題	○	○	○	○
	レポート		○	○	○
	定期試験	○	○	○	○
評価割合	出席（ミニ課題）20%＋レポート20%＋テスト60%による総合評価				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし（資料を都度配付）				
ディプロマポリシーとの関連	この授業は、栄養指導、カウンセリングに必要なスキルを学ぶため、理論だけでなく、実際の特定保健指導の現場でやり取りされる実例を、毎回「ミニ課題」として紹介することで、実際の特定保健指導の現場でのポイント				

	を学べるため、将来、「食と健康をつなぐ専門家」として活躍したい学生向けになっている。	
オフィスアワー	学籍番号と名前を明記の上、メール (kunii@j-nutrition.or.jp) にて随時受け付けます。	
学生へのメッセージ	この授業は、栄養指導、カウンセリングに必要なスキルを学ぶため、理論だけでなく、実際の特定保健指導の現場でやり取りされる実例を、毎回「ミニ課題」として紹介することで、実際の特定保健指導の現場でのポイントを学べる。また、日本での管理栄養士の活動をベースに、アジア圏での栄養管理技術の実情や課題などを含め、展望についても紹介する。将来、「食と健康をつなぐ専門家」として活躍したい学生向けになっている。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、特定保健指導機関を10年以上運営する代表者で、自らも国内外での栄養指導・栄養カウンセリング実務を担い、これまで介入した人数は8,000人以上になる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	健康づくり支援に関する健康情報や商品の本質を見抜く力を習得させる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし

授業概要 (教育目的)	栄養教育を効果的に行うために、学習者のライフステージ、すなわち、乳幼児期から高齢期にいたる時期の特徴や、ライフスタイル、健康状態等の特徴を十分に踏まえてアセスメントを行い、栄養教育の目的・目標を設定し、学習カリキュラムを立案して実施し、評価する方法を学ぶ。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解する。
履修条件	特になし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	学習者のライフステージに応じた栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	学習者のライフステージの食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習者のライフステージ、栄養教育 (食育) に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション 栄養教育マネジメント 1	本授業の特徴、学習方法を理解する。人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を構造的に理解する理論枠組みを学ぶ。栄養教育の目的・目標と、ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会について学ぶ。	予習：教科書① 「第1章 栄養教育の概念 A. 栄養教育の目的・目標」「B. 栄養教育の対象と機会 1 ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第2回	栄養教育マネジメント 2	栄養教育マネジメント、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法を学ぶ。	教科書① 「第5章 A. 栄養教育のマネジメント」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第3回	妊娠・授乳	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント (アセスメント、	教科書① 「第11章 ライフス	180分

	期の栄養教育 1	栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	テージ・ライフスタイル, 健康状態と栄養教育 A. 妊娠・授乳期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	
第4回	妊娠・授乳期の栄養教育 2	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル, 健康状態と栄養教育 A. 妊娠・授乳期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第5回	乳児期(乳汁)の栄養教育 1	乳児期(乳汁)の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第6回	乳児期(乳汁)の栄養教育 2	乳児期(乳汁)の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第7回	離乳期の栄養教育 1	離乳期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第8回	離乳期の栄養教育 2	離乳期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第9回	幼児期の栄養教育 1	幼児期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第10回	幼児期の栄養教育 2	幼児期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第11回	学童・思春期の栄養教育 1	学童・思春期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 C. 学童期 D. 思春期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第12回	学童・思春期の栄養教育 2	学童・思春期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 C. 学童期 D. 思春期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第13回	高齢期の栄養教育 1	高齢期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 F. 高齢期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第14回	高齢期の栄養教育 2	高齢期の栄養教育マネジメント(アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法)を学ぶ。	教科書① 「第11章 F. 高齢期)を読んでおく。 復習: 講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第15回	まとめ	ライフステージ・ライフスタイル栄養教育の特徴を振り返り、まとめる。	授業全体を振り返り、小テストで正解でなかった点を振り返る。	180分

学生へのフィードバック方法	授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1603研究室に訪問すること。
評価方法	・毎回の授業内容の理解度を高めるための、授業毎のリアクションペーパーも評価の一環とする。小テストは国

家試験の過去問題から出題する。
 ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容であるとともに、より実践的な教育の方法に関する記述問題を含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合

授業へのリアクションペーパー(10%)、定期試験(70%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(20%)などから総合的に評価する

使用教科書名 (ISBN番号)

「改訂第4版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 9784524259663
 「新版 子どもの食生活」 上田玲子他 ななみ書房 4903355290

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】学習者のライフステージに応じた栄養教育について、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
 【思考・判断】学習者のライフステージに応じた栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
 【関心・意欲・態度】学習者のライフステージに応じた栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている

オフィスアワー

火曜日 5限 地域栄養教育(酒井)研究室

学生へのメッセージ

ライフステージ別栄養論Ⅰ・Ⅱで学んだこと、栄養教育総論、栄養教育方法論で学んだことを復習しながら、栄養教育の実践につなげる方法を探っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育実習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要 (教育目的)

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見だし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解する。次週の食事調査法について学ぶ。	食事調査についての課題が出されるのでその課題について取り組むこと	60分
第2回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査(秤量食事記録法・自記式食事履歴問法・摂取頻度調査方法・食事バランスガイド)及び秤量食事記録法の解析について学ぶ	栄養教育アセスメントにおける食事調査について取り組むこと	60分
第3回	栄養教育マネジメント：データ入力～報告書作成	アンケート調査の調査表及び得られたデータの入力について学ぶ	データ入力および解析について取り組むこと	60分
第4回	栄養教育マネジメント：データ入力～報告書作成	アンケート調査の調査表で得られたデータの解析方法について学ぶ	データ解析に取り組むこと	60分

第5回	栄養教育マネジメント：データ入力～報告書作成	アンケート調査の解析データを用いての報告書の作成方法について学ぶ	報告書作成に取り組むこと	60分
第6回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査（秤量食事記録法・自記式食事履歴質問法・摂取頻度調査方法・食事バランスガイド）の解析方法を学ぶ	食事調査結果について解析に取り組むこと	60分
第7回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組むこと	60分
第8回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析に取り組むこと	60分
第9回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組むこと	60分
第10回	栄養教育マネジメント：栄養教育計画の作成	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組むこと	60分
第11回	栄養教育マネジメント：栄養教育目標設定	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラムについて学ぶ	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組むこと（復習時間として総合レポートを作成する取り組みが必要となる）	120分
第12回	特定健診・保健指導について①	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	60分
第13回	特定健診・保健指導について②	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	60分
第14回	特定健診・保健指導について③	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	60分
第15回	特定健診・保健指導について④	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える（最後の発表に向けて班ごとに発表準備を進める）	発表準備の予習として30分

学習計画注記 実習の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 基本的には実習授業内でフィードバックを全体に行う。個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でフィードバックを行う。

評価方法

- ・レポート提出は2回ある。一つはデータを集計解析した結果について報告書の形で提出してもらう。もう一つは本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。
- ・グループワークとして特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。
- ・実習に対する積極性が見られず態度が悪いものは、マイナス評価がつく。
- ・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。
- ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	

評価割合	レポート60%、グループワーク20%、平常点20%（平常点は授業への積極的な参加状況等から総合的に判断する）			
使用教科書名 (ISBN番号)	パソコン&データ活用法 林直樹・久保昌子・永井成美 東山書房 (978-4-8278-1427-9)			
参考図書	栄養教育論（第一出版）			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。</p>			
オフィスアワー	月曜日3時間目 1605研究室			
学生へのメッセージ	<p>栄養教育マネジメントの流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。</p> <p>本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。</p>			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。		
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養教育実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養う。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案(講習会形式型)、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育(食育)の実際的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に考え、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育(食育)に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって体系的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

回	時限	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1限後半	オリエンテーション 食育の計画方法1	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。(Phrase1・2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施)「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。	120分
第2回	1限後半	食育の計画方法2	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。(Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。)	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。	120分
第3回	1限後半	栄養・食に関わる政策診断	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講義を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業をホームページから事前に情報収集しておく。	120分
第4回	1限後半	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。	120分

第5回	1限後半	食育の計画方法3	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場(拠点・人)の設定、目的・目標を設定する。(Phrase5政策・運営診断の実施)	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べる。	120分
第6回	1限後半	食育計画の作成 1	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。	120分
第7回	1限後半	食育計画の作成 2	実物提示の決定、試作、教材の料理・食事の作成・撮影をする。	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。	120分
第8回	1限後半	食育計画の作成 3	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。実物提示のタイミング等の指導の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。	教材の構成を考え、作成する。	120分
第9回	1限後半	食育計画の作成 4	教材の構成を考え、作成する。	教材の構成を考え、作成する。	120分
第10回	1限後半	食育計画の作成 5	食育計画書を完成させ、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションの練習をする。	120分
第11回	1限後半	プレゼンテーション	農林水産省 和食室・事業担当者や、企業の食育担当者に向けて、各班15分で企画書の説明を行い、講評や学生による相互評価により、企画評価の方法を学ぶ。	プレゼンテーションの練習をする。	120分
第12回	1限後半	ロールプレイングの準備	次回からのロールプレイにむけて、教材の追加が必要であれば、教材の作成、指導のための原稿の作成を行う。	ロールプレイの練習をする。	120分
第13回	1限後半	ロールプレイング1	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分
第14回	1限後半	ロールプレイング2	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分
第15回	1限後半	ロールプレイング3まとめ	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。実習のまとめと、「和食に関する事後調査」により、授業の習熟度を自己評価する。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分

学生へのフィードバック方法 授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立方法について指導する。

評価方法 グループワークでの課題実習(計画書・プレゼンテーション)と、テストにて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合 グループワークでの課題実習(計画書・プレゼンテーション) 60%、テスト40%

使用教科書名 (ISBN番号) 「改訂第4版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解つながる幅広い教養を身につけている

【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている

【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意欲と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性身につけている

【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的技術と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー 火曜日 5限 地域栄養教育(酒井)研究室

学生へのメッセージ 本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前で話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験。また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	カウンセリング論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉田 恵子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなど、カウンセリングについて総合的に学ぶ。また、社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身につけ、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を育成することを目的とする。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養カウンセリングに必要な諸理論やアセスメントを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	学際的な学習を通して、個人や地域コミュニティ観点から、現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて情報を収集して、思考し、健康・栄養課題に対する取り組みを判断できる力が身につく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性が身につく。
技術・表現の観点 (A)	栄養カウンセリングのスキルや心構えを表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけを理解する。 人間関係作りを実習する。	教科書の1. 栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ(1~5ページ)を読んでおくこと	90分
第2回	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル(その1)	「栄養カウンセリング」の基本的態度を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 基本的事項を理解する。	教科書の2. 栄養教育に必要なカウンセリングスキル(6~9ページ)を読んでおくこと	90分
第3回	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル(その2)	「栄養カウンセリング」の基本的態度を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習1「聴くときの視線、姿勢および態度」を実習する。	教科書の2. 栄養教育に必要なカウンセリングスキル(10~17ページ)を読んでおくこと	90分
第4回	栄養カウンセリングに必要なカウ	1:精神分析療法を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習2「初回面接でのかわり行動」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論	90分

	ンセリング理論 (その1)		(18~20ページ) を読んでおくこと	
第5回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その2)	2: :来談者中心療法を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習3「単純受容」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (20~21ページ) を読んでおくこと	90分
第6回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その3)	3: 行動療法を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習4「理解したことを確認する」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (21~24ページ) を読んでおくこと	90分
第7回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その4)	4: 交流分析を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習5「気持ちを受けとめる」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (24~27ページ) を読んでおくこと	90分
第8回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その5)	5: 家族療法を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習6「クライアント役の体験1」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (27~28ページ) を読んでおくこと	90分
第9回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その6)	6: パーソナリティ理論を理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 描画療法を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (28~32ページ) を読んでおくこと	90分
第10回	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (その7)	7: グループアプローチを理解する。 栄養カウンセリングのための実習プログラム 実習7「クライアント役の体験2」を実習する。	教科書の3. 栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論 (32~34ページ) を読んでおくこと	90分
第11回	心理アセスメント (その1)	心理アセスメントを理解する。 面接によるアセスメントを理解する。 実習8「要約」	教科書の4. 心理アセスメント (35~36ページ) を読んでおくこと	90分
第12回	心理アセスメント (その2)	心理テストによるアセスメント (知能検査) を理解する。 面接とは違った角度から臨床的人間理解を深める実習をする。	教科書の4. 心理アセスメント (36~37ページ) を読んでおくこと	90分
第13回	心理アセスメント (その3)	心理テストによるアセスメント (発達検査) を理解する。 実習9「開かれた質問」と「閉ざされた質問」	教科書の4. 心理アセスメント (36~37ページ) を読んでおくこと	90分
第14回	心理アセスメント (その4)	心理テストによるアセスメント (パーソナリティテスト) を理解する。 実習10「栄養教育の実践事例」	教科書の4. 心理アセスメント (37~38ページ) を読んでおくこと	90分
第15回	心理アセスメント (その5)	行動観察によるアセスメントを理解する。 実習11「行動療法やコーチングなどを活用した実践事例」	教科書の4. 心理アセスメント (38~39ページ) を読んでおくこと	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

実施した課題は、採点して、次週の授業にて返却し解説する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (課題提出)			○	
発表			○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点（課題提出）30% 発表20% レポート50%			
使用教科書名 (ISBN番号)	小松啓子・大谷貴美子「栄養カウンセリング論」第2版 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-155358-3			
参考図書	石井 均 編著「栄養士のためのカウンセリング論」建帛社			
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として他者と協働するための共感力を有している。 【技能・表現】専門的知識と共に、他職種とのコミュニケーション能力やプレゼンテーションなどの表現力を有している、			
学生へのメッセージ	カウンセリングは、台本なしで行う、対象者との気持ちと言葉のやりとりからなっています。カウンセリングスキルを修得するには、理論を学び実際にカウンセリングの面接実習を実践していく必要があります。各授業の前半には、講義を、後半には実習を行いますので、学生には積極的に授業に参加することが求められます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	主に教育現場で、20数年間、臨床心理士（平成31年度公認心理師資格取得）として、勤務してきた臨床経験を活かして栄養カウンセリングを行う際の基本的事項を理解したうえで、傾聴を基本とした栄養カウンセリングスキルを総合的に学ぶための実習プログラムを行う。		
アクティブ・ラーニング	○	必要に応じて、ロール・プレイ、描画療法、心理検査などを実施し、発見学習や体験学習を行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食情報表現演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会において情報伝達能力はとても大切である。自分の考えをまとめて効率よく人に伝えて理解してもらうことは重要である。2次元グラフィックツールを用いて食に関する情報が表現できることを本授業の目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	分野別の管理栄養士の使命やそれぞれに求められる資質について理解している。
思考・判断の観点 (K)	課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各分野に対して関心を持ち、意欲を持って学ぶ。報告会では積極的にディスカッションに参加し、理解を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、2次元CGの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。2次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。	食に関する情報がどのように表現されているのかを調査し、その内容をレポートでまとめる。	90分
第2回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの基本的なインターフェースとツールを理解する。	食に関する情報がどのように表現されているのかを調査し、その内容をレポートでまとめて提出する。	90分
第3回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールのプリミティブ図形を理解する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第4回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの図形の応用演習を行う。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分

第5回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの曲線の生成方法を演習する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第6回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの色の付け方を演習する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第7回	課題1（食をテーマとしたキャラクター）	今まで学んだ2次元グラフィックツールを駆使して食をテーマとしたキャラクターをデザインする。	食をテーマとしたキャラクターのアイデアスケッチを行う。	90分
第8回	課題1（食をテーマとしたキャラクター）	今まで学んだ2次元グラフィックツールを駆使して食をテーマとしたキャラクターをデザインする。	食をテーマとしたキャラクターの完成度を高めて提出する。	90分
第9回	課題2（食に関する研究を可視化する）	食に関する研究の情報を収集する。	収集した情報を整理する。	90分
第10回	課題2（食に関する研究を可視化する）	食に関する研究情報の処理を行う。データの特性・関連性を知る。	収集した情報をどのように表現できるかを考える。	90分
第11回	課題2（食に関する研究を可視化する）	収集した食に関する研究情報の分析。	研究情報の分析してレポートでまとめる。	90分
第12回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第13回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第14回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第15回	プレゼンテーション	制作した食情報のパネルについてプレゼンテーションを行う。	制作レポートを作成して提出する。	90分

学生へのフィードバック方法	課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合はE-mailで連絡すること。				
評価方法	2回の課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。 2回のレポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。 平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	
評価割合	課題（60%）、レポート（10%）最終報告書（10%）平常点（20%）で評価をする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専				

門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。”

オフィスアワー	月曜日 1限
学生へのメッセージ	情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現には美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

シラバス参照

講義名	臨床栄養学Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	臨床の場において適切な栄養管理を行うためには、傷病者の病態とその栄養状態の特徴を把握することが重要である。患者の臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフが協力してディスカッションしながら施行されることが多くなってきている。多岐にわたる疾患群について確かな医学的知識を基に、疾病・病態別に生理的特徴や栄養代謝、治療について理解する。
履修条件	臨床栄養学Ⅰを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養障害	栄養障害(PEM, カヘキシー, マラスムス, クワシオルコル), ビタミン異常症, ミネラル異常症等の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 解剖生理・病理・臨床栄養1で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。教科書第1章の該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	糖尿病, 脂質異常症	糖尿病, 脂質異常症の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 解剖生理・病理・臨床栄養1で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。教科書第1章の該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	高尿酸血症, 内分泌	高尿酸血症, 内分泌系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 解剖生理・病理・臨床栄養1で学んだ左記に関連し	150分

	系疾患		た部分について確認しておく。 教科書第1章、第2章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第4回	消化器系疾患 1	上部消化管疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第3章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第5回	消化器系疾患 2	下部消化管疾患の診断・治療を学ぶ。周術期等の病態・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第3章、第14章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	感染症、がん、緩和ケア、ターミナルケア	感染症、がん、緩和ケア等について、病態や治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した該当部分について確認しておく。 教科書第12章、第13章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	肝胆膵系疾患	肝胆膵系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系疾患	循環器系疾患（肺塞栓症含む）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系疾患 1	腎臓系疾患，尿路系，生殖器系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第6章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系疾患 2、透析、尿路結石	腎臓系疾患，尿路系，生殖器系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第6章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	呼吸器系疾患，血液系疾患	呼吸器系疾患、血液系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第8章、第9章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	免疫系疾患，（アレルギー疾患），外傷，熱傷，クリティカルケア	免疫系，アレルギー系疾患の診断・治療について学ぶ。 クリティカルケア等について病態・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第11章、第15章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	小児の疾患，妊婦の疾患	小児や妊婦特有の疾患について、病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養 1 で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。 教科書第18章、第19章の該当部分を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第14回	脳血管疾患, 神経疾患, 精神疾患, 障害者	脳血管疾患, 神経系疾患等の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養1で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。教科書第5章、第7章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第15回	運動器系疾患	運動器系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：解剖生理・病理・臨床栄養1で学んだ左記に関連した部分について確認しておく。教科書第10章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。これまでの授業内容を総復習しておく。	600分

学習計画注記	履修者の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回講義時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行い、講義内に解説を加える。
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版 羊土社
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版 羊土社, 病気がみえるシリーズ MEDIC MEDIA, イメージするからだのしくみシリーズ MEDIC MEDIA
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	火曜12:30~14:30 1503教室
学生へのメッセージ	臨床栄養ケアマネジメントやライフステージ別栄養学など他の科目とも有機的に繋がっていますので、関連づけて学修するようにしてください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の实地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	疾病者の病態や栄養状態に基づいた、疾病治療のための適切な栄養管理方法を学ぶ。代謝・内分泌系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患、腎疾患、外科的疾患などの栄養状態、栄養管理、栄養補給法を学ぶ。理論的に疾患の栄養アセスメントを考え、栄養サポートが出来ることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養アセスメントと栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特徴、方法が考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導が出来る。

学習計画

臨床栄養アセスメント論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	臨床栄養学と栄養アセスメント	医療現場における管理栄養士の役割について学ぶ。診療報酬制度、チーム医療、栄養アセスメントの意義、方法について学ぶ。	教科書「栄養ケアの基礎」「栄養アセスメント」を予習しておくこと	120分
第2回	チーム医療と栄養ケアプランの実施	チーム医療には様々あるが、Nutrition support team(NST)での管理栄養士の役割や栄養ケアプランの立て方について学ぶ	教科書「栄養ケアプランの実施」を予習する	120分
第3回	肥満症の栄養アセスメント	肥満症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「肥満症」を予習する	120分
第4回	糖尿病の栄養アセスメント	糖尿病の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習する	240分
第5回	脂質異常症の栄養アセ	脂質異常症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分

	スメント			
第6回	高血圧・心疾患の栄養アセスメント	高血圧、心疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧」「虚血性心疾患」「心不全」を予習する	240分
第7回	高尿酸血症の栄養アセスメント	高尿酸血症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高尿酸血症を予習する	120分
第8回	肝疾患の栄養アセスメント	肝疾患（慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変」を予習する	240分
第9回	胆のう炎、胆石症の栄養アセスメント	胆のう炎、胆石症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「胆のう炎、胆石症」を予習する	120分
第10回	膵疾患の栄養アセスメント	膵疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「膵炎」を予習する	240分
第11回	腎疾患の栄養アセスメント	腎疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第12回	炎症性腸疾患の栄養アセスメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する	240分
第13回	消化器術前・術後の栄養アセスメント	消化器（上部消化器、下部消化器）の術前・術後の病態、栄養食事療法について学ぶ	教科書「消化器の術前・術後」を予習する	120分
第14回	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の栄養アセスメント	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧、糖尿病」および配布資料を予習する	240分
第15回	加齢にともなう機能低下への栄養アセスメント	加齢にともなう機能低下（サルコペニア、フレイル、認知症、褥瘡など）の診断基準、治療、栄養生理、栄養ケアについて学ぶ	教科書「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」を予習する	180分

学習計画注記 食事療法が治療の一翼となる疾患を理解し、栄養アセスメントを身につける。

学生へのフィードバック方法 授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

- ・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。
- ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合 確認レポート20点、定期試験80点

使用教科書名 (ISBN番号) 新臨床栄養学栄養ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)
栄養食事療法の実習 (978-4-263-70651-0)

参考図書 食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 各種疾患のアセスメント、栄養食事療法の知識が身に付き理解できている。
- 【思考・判断】 各種疾患の臨床検査値を理解し栄養食事療法の計画が考えられる。
- 【関心・意欲・態度】 各種疾患の栄養療法に対する関心や考える意欲、態度が身についている。
- 【技能・表現】 各種疾患の栄養療法を患者に伝える技術、表現力が身についている。

オフィスアワー	金曜日1、2限、1504研究室	
学生へのメッセージ	栄養食事療法が治療の一環となる疾病を理解して、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	臨床分野で医療スタッフの一員として、人びとの健康の保持・増進、および疾患の治療予防に携わっている管理栄養士の仕事を理解し、医療人としての管理栄養士としての資質を養うことを目的とする。前期に学んだ臨床栄養アセスメント論を発展させケアプランを立て栄養療法を実施し、評価するための栄養ケアマネジメントの一連の流れを理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種疾患と食事マネジメント(献立管理も含め)について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患に適合した食事管理が判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導ができる。

学習計画

臨床栄養ケアマネジメント論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	易消化食のマネジメント	胃炎、消化性潰瘍、腸疾患の病態および適応される流動食、分粥食、副菜の形態を理解し易消化食について系統的に学ぶ。	教科書「胃・腸疾患」を予習する	120分
第2回	塩分コントロール食のマネジメント	高血圧、虚血性心疾患など食塩コントロール食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「高血圧、虚血性心疾患」を予習する	120分
第3回	エネルギーコントロール食のマネジメント	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロール食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「肥満症、糖尿病、脂質異常症」を予習する	240分
第4回	エネルギーコントロール食のマネジメント	糖尿病治療のための食品交換表よりエネルギーコントロール食のマネジメントを学ぶ	糖尿病治療のための食品交換表を予習する	240分

第5回	エネルギーコントロール食塩コントロール食のマネジメント	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロール食が適応される疾患に、高血圧が併発し食塩コントロール食が必要となる栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「肥満症、糖尿病、脂質異常症、高血圧」を予習する	120分
第6回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓疾患の病態、たんぱく質コントロール食が適応される病期の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第7回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓病食品交換表よりたんぱく質コントロール食のマネジメントを学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する	240分
第8回	たんぱく質コントロール食のマネジメント（治療用特殊食品）	低たんぱく食の適応される慢性腎不全の病態、および治療用特殊食品を用いた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する、配布資料を予習する	240分
第9回	脂質コントロール食のマネジメント	脂質異常症の病態、脂質コントロール食の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分
第10回	脂質コントロール食のマネジメント	慢性閉塞性肺疾患の病態（急性期、慢性期）と脂質比率を増やす場合の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「慢性閉塞性肺疾患」を予習する	120分
第11回	膵臓疾患時の栄養マネジメント	膵臓疾患の病態と、病期に応じた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「膵臓疾患」を予習する	120分
第12回	肝硬変、肝不全時の栄養マネジメント	肝硬変、肝不全時の病態と、病期に応じた食事・栄養マネジメントについて学ぶ	教科書「肝硬変、肝不全」を予習する	240分
第13回	炎症性腸疾患時の栄養マネジメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の病態、および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「炎症性腸疾患」を予習する	240分
第14回	経腸栄養剤	各種病態において経腸栄養剤を利用する場合の、経腸栄養剤の特徴や、栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習する	180分
第15回	嚥下食	各種病態において嚥下食の適応となる場合の、嚥下食の特徴や栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習するを予習する	120分

学習計画注記 各種疾患の食事管理を理解する。

学生へのフィードバック方法 授業毎に前回の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

- ・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。
- ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合 確認レポート20点、定期試験80点

使用教科書名 (ISBN番号) 新臨床栄養学ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)
栄養食事療法の実習 (978-4-263-70651-0)

参考図書 食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表

	腎臓病食品交換表	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】疾患に適合した栄養マネジメントの知識が身についている。</p> <p>【思考・判断】疾患を理解し適合する献立管理や食事指導ができる。</p> <p>【感心・意欲・態度】献立管理、食事指導への関心、意欲、患者対応の態度が身についている。</p> <p>【技能・表現】献立作成や食事指導への技術、表現力が身についている。</p>	
オフィスアワー	水曜3, 4限 1504研究室	
学生へのメッセージ	栄養食療法が各種疾患への治療の一環であることを理解し、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験、および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田 直子	指定なし

授業概要 (教育目的)	傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために、実習を通して、疾病治療上、特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ぶ。アセスメント（各種検査・診査・計測など）による栄養状態の評価・判定の方法については、事例を解析するなどの実技を通して、詳細に学ぶ。特に、各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には、測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため、それらを実習により学ぶ。
履修条件	なし

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連づけられる。
思考・判断の観点 (K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークでは積極的に参加し、自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点 (A)	身体計測の手技を身につけ、アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	科目の概要(導入)	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容、臨床栄養管理に必要な技能について理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。	60分
第2回	食事摂取量調査	食事調査の種類と特徴について、実践を通して理解する。	5日間の食事記録法(秤量法)を課題とする。	240分
第3回	食事摂取量調査	5日間の食事記録を元に、管理栄養士役と患者役のペアを組み、食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聴き取る。それらの結果より、管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し、食事内容を考察、改善案を作成する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。	60分
第4回	市販弁当分析(グループワーク)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し、味見による調味料の想定などを通し、アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立つスキルを身につける。	揚げ物の吸油率や調味料%、基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。	60分

第5回	市販弁当分析（グループワーク）	前回に引き続き、食材重量測定、味見による調味料の想定などを通し、元の献立に組み立て直す作業を行う。それらの結果より、弁当の栄養価を算出することで、特徴、問題点や課題を見出し、考察する。	授業内に終わらなかった分析は、課題として終わらせておくこと。	120分
第6回	市販弁当分析（グループワーク）	グループ内で、分析した市販弁当の特徴、問題点や課題などを共有し、それらを元に、理想的な市販弁当を考案（対象者、特長、献立、商品名、価格など）する。プレゼンテーション準備として、グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。	授業内に終わらなかったプレゼンテーションのための媒体・発表原稿準備は、課題として終わらせておくこと。	240分
第7回	プレゼンテーション	グループごとに、理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは、聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。	プレゼンテーションの準備として、グループ内での発表分担および発表原稿を決定し、効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。	60分
第8回	栄養補給法	経管（経腸）栄養法の実際を理解するとともに、様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤、消化態栄養剤、半消化態栄養剤、天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの経管（経腸）栄養法について予習しておくこと。	60分
第9回	栄養補給法	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について、症例を通して検討する。	経腸栄養剤について予習しておくこと。	60分
第10回	栄養補給法	嚥下調整食についての知識を深め、栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。	60分
第11回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法、生理生化学検査（血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量）、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第12回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法、生理生化学検査（血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量）、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第13回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法、生理生化学検査（血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量）、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第14回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測（身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など）法、生理生化学検査（血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量）、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第15回	SOAP記録	POS（問題志向型システム）に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで、医療における栄養管理の経過記録として、SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	提出物は、添削し返却する。
評価方法	評価はSABCDとする。 ・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・提出物 ・定期試験
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合	平常点 (20%) , 提出物 (20%) , 定期試験 (60%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第11版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70651-0) 新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第3版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70664-0)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により, 総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として, 自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて, 人々の生活の質の向上に寄与すべく, 健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルを身につけている。
オフィスアワー	金澤 (金曜日1, 2時限) , 城田 (金曜日3, 4時限)
学生へのメッセージ	臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ, 臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は, 臨床現場では重要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は, 病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており, アセスメントによる栄養状態の評価・判定, 患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション, グループワーク, プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を学ぶ。具体的には、病院給食における栄養管理、NSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動、在宅訪問栄養指導、検診センターや人間ドックにおける管理栄養士の役割、さらに、ターミナルケアに至るまでの栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学ぶ。そして、献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理は、調理実習を含め修得する。また、各種治療用特殊食品を用いた実習も実施する。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連づけ、応用できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立を元に、事前に調理実習の工程を考え、グループ内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加する。
技術・表現の観点 (A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	科目の概要(導入)、易消化食の献立作成	臨床栄養ケアマネジメント実習で学ぶ内容、臨床栄養管理に必要な技能について理解する。易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの易消化食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第2回	易消化食の調理実習	基本的な易消化食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第3回	減塩食の献立作成	減塩食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの減塩食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分

第4回	減塩食の調理実習	基本的な減塩食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第5回	エネルギーコントロール食の献立作成	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのエネルギーコントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第6回	エネルギーコントロール食の調理実習	基本的なエネルギーコントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第7回	たんぱく質コントロール食の献立作成	たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのたんぱく質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第8回	治療用特殊食品の調理実習	たんぱく質コントロール食で活用される治療用特殊食品の種類・特徴を理解し、調理実習により扱い方を理解する。そして、実際に試食をし、考察する。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの治療用特殊食品について予習しておくこと。	60分
第9回	たんぱく質コントロール食の調理実習	基本的なたんぱく質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第10回	脂質コントロール食の献立作成	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの脂質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第11回	脂質コントロール食の調理実習	基本的な脂質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第12回	嚥下食の献立作成	嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの嚥下食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第13回	嚥下食の調理実習	基本的な嚥下食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第14回	食物アレルギー対応の献立作成	食物アレルギー対応の方法（除去・代替）を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの食物アレルギー対応について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第15回	食物アレルギー対応市販食品の調理実習	食物アレルギー患者に用いられる市販食品の種類・特徴を理解し、調理実習により扱い方を理解する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	提出物は、添削し返却する。
評価方法	評価はSABCDとする。 ・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・提出物 ・定期試験
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合	平常点 (20%) , 提出物 (20%) , 定期試験 (60%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第11版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70651-0) 新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第3版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70664-0)
参考図書	日本食品成分表, 糖尿病食品交換表, 腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により, 総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として, 自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて, 人々の生活の質の向上に寄与すべく, 健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルを身につけている。
オフィスアワー	金澤 (水曜日3, 4時限) , 城田 (水曜日2, 3時限)
学生へのメッセージ	臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ, 臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は, 病院管理栄養士としての実務経験を有しており, 病院給食における栄養管理, NSTにおける管理栄養士の役割, 栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法, 評価方法, 治療食献立の作成や調理に至るまで, 臨床現場における管理栄養士の使命について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク (調理実習)
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	栄養治療学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	医療現場において医療の一翼を担える管理栄養士を目指す。各種疾患別の症例に基づき、栄養アセスメントを実施し疾病者の栄養状態を把握し栄養管理のあり方を習得する。栄養指導媒体の作成や模擬栄養指導など実践力が備わる様に学習する。医療の倫理、患者の権利の問題など、医療人としての在り方についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養評価、栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理について、個々の患者背景、病態を考え提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理について、医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	各種疾患の適切な栄養指導媒体の作成や提案が出来る。

学習計画

栄養治療学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	肥満症症例の栄養評価と栄養指導	肥満症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導の実際について学ぶ	教科書「肥満症」を予習しておくこと	240分
第2回	糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」を予習しておくこと、糖尿病治療のための食品交換表を予習しておくこと	120分
第3回	糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病と高血圧を合併している症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」、「高血圧」を予習しておくこと	240分
第4回	脂質異常症症例の栄養評価と栄養指導	脂質異常症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「脂質異常症」を予習しておくこと	120分
第5回	脂質異常症	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例より、病	教科書「脂質異常症」「糖尿	240分

	+糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導	病「高血圧」を予習しておくこと	
第6回	脂質異常症+糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導の媒体作成	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例の、栄養食事指導媒体を作成し実際の栄養指導のシミュレーションを行う。	教科書「脂質異常症」「糖尿病」「高血圧」を予習しておくこと 240分
第7回	慢性腎臓病(ステージ1~3)症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎臓病(ステージ1~3)の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糸球体腎炎」を予習しておくこと 120分
第8回	慢性腎臓病(ステージ4~5)症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎臓病(ステージ4~5)の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと 120分
第9回	糖尿病性腎症症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病性腎症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病性腎症」を予習しておくこと 240分
第10回	慢性腎不全低たんぱく食事療法の媒体作成	慢性腎不全低たんぱく食事療法の栄養食事指導媒体を作成し実際の栄養指導のシミュレーションを行う。	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと、腎臓病食品交換表を予習しておくこと 240分
第11回	炎症性腸疾患症例の栄養評価と栄養指導	炎症性腸疾患の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「潰瘍性大腸炎」「クローン病」を予習しておくこと 120分
第12回	鉄欠乏性貧血症例の栄養評価と栄養指導	鉄欠乏性貧血症の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「鉄欠乏性貧血」を予習しておくこと 120分
第13回	肝硬変症例の栄養評価と栄養指導	肝硬変症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「肝硬変」を予習しておくこと 120分
第14回	妊娠糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	妊娠糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」を予習しておくこと 180分
第15回	高齢者(サルコペニア・フレイル)症例の栄養評価と栄養指導	高齢者(サルコペニア・フレイル)症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「加齢にともなう機能低下への栄養ケア」を予習しておくこと 240分

学習計画注記 授業後とに症例を提示するので、疾患の栄養食事管理について理解を深める。

学生へのフィードバック方法 毎回の症例シートは内容を確認して、次週に返却する。質問がある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

- ・症例シートより、臨床検査値の読み方や食事指導の方法を確認する。
- ・媒体作成より、患者によりわかりやすい内容であるか確認する。
- ・症例問題の定期試験より、医療スタッフとしての基礎知識が身についているか評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
症例シート	○			
栄養指導媒体作成	○		○	○
定期試験	○	○		○

評価割合	症例シート15点、媒体作成10点、定期試験75点	
使用教科書名 (ISBN番号)	新臨床栄養学・栄養ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)	
参考図書	食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 各種疾患の栄養アセスメント、栄養管理が理解でき食事指導への対応できる知識を有している。 【思考・判断】 患者に適合した栄養管理の対応が身についている。 【感心・意欲・態度】 患者教育への関心、意欲、栄養指導に対する態度が身についている。 【技能・表現】 食事指導媒体など、栄養指導を表現できる。	
オフィスアワー	金曜1, 2限1504研究室	
学生へのメッセージ	各種疾患の栄養食事療法を理解し、それを患者に正しく伝える技術と人間性ある栄養指導が実施できるように、学生時代から努力して学んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事個別指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域栄養活動論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

授業概要(教育目的)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	地域住民を主体としたネットワークづくりの必要性や、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の推進が思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実情に応じた公衆栄養マネジメントにより、関心・意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス	公衆栄養マネジメントの必要性・対象と実施者・プロセス・モデルについて、理解する。	教科書により、同概念と同対象を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第2回	2. 公衆栄養プロセスとアセスメント	アセスメントの種類、流れ、主要な役割、プロセス改善との関係などを理解する。	教科書により、アセスメントの項目と目的・枠組みプロセス改善を理解する。配布プリントにより、復習すること。	180分
第3回	3. 住民参加とコミュニティ・オーガニゼーション	公衆栄養プログラムの計画を理解する。	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第4回	4. 公衆栄養	公衆栄養プログラムの実施について、理解する。	教科書により、プログラムの実	180分

	養活動のための法規		施と関係者・機関の役割、コミュニケーション管理について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	
第5回	5. 公衆栄養プログラムの評価	評価の意義と方法やその実際について理解する。	教科書により、経過評価、影響評価、結果評価と各要因および経済評価について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第6回	6. 食育の基本	食育推進の背景と経緯、食育基本法について、理解する。	食育白書や農林水産省HPの今までの食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第7回	7. 食育推進基本計画	食育推進基本計画とそのツールを理解する。	教科書により、食育基本法の概念と食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第8回	8. 母子の公衆栄養プログラム策	母子保健法に係る計画や指針やツールを理解する。次世代育成支援法を知る。	教科書により、健やか親子21、保育所保育指針、妊産婦のための食生活指針、授乳・離乳支援ガイドを読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。”	180分
第9回	9. 特定健診・特定保健指導	高齢者の医療の確保に関する法律や特定健診・特定保健指導の仕組みを理解する。	教科書により、特定健診・特定保健指導を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第10回	10. 機能を表示する食品	私たちが飲食するものの法律上の分類について、理解する。	教科書により、特別用途表示食品と保健機能食品の活用を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第11回	11. 栄養成分表示等	食品表示法と関連する法律について理解する。	教科書により、栄養成分表示の活用を読んでおくこと。消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第12回	12. 特別用途表示の許可と虚偽誇大広告の禁止	用途別に見た食品の分類と適正な食品表示について理解する。	教科書により用途別に見た食品と消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第13回	13. 栄養疫学 1	栄養疫学の概要や指標について理解する。	教科書により、栄養疫学の概要や指標を読んでおH38:J39くこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第14回	14. 栄養疫学 2	栄養疫学の方法や調査について理解する。	教科書により、方法、調査・測定方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第15回	15. 食事摂取基準	食事摂取基準活用について理解する。	教科書により、食事摂取基準による評価方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。

評価方法 ・前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。1回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、3問とする。
・定期試験は100点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。”

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
リアクションペーパー		○	○	

定期テスト	○	○		

評価割合	平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学 古野純典他編(南江堂 2018)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。 【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける
オフィスアワー	月曜日15:00~17:30、火曜日10:00~12:00
学生へのメッセージ	公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組について、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用
ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

授業概要(教育目的)	公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力、意見をまとめる力を習得する。
履修条件	公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について	アセスメントのための各栄養調査による比較	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。	180分
第2回	写真より3日間の食物摂取量を推察する。	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差求める その結果どの食品がエネルギー、タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのバラツキ(分布)を調べる	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。	180分

第3回	写真より3日間の食物摂取量を推察する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー、タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査をパートナーと完結しておくこと。	180分
第4回	写真より3日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー、タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。	180分
第5回	統計処理方法	基本統計、相関、有意差検定を理解する。	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。	180分
第6回	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。	180分
第7回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。	180分
第8回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。	180分
第9回	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。	180分
第10回	携帯カメラを使った24時間思い出し方法と秤量法（ゴールドスタンダード）との検討	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。	180分
第11回	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた検討について	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理 [♂] （主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。	食事摂取基準値の算出方法と活用について予習・復習する。	180分
第12回	習慣的な食事調査結果を食事摂取	携帯カメラによる栄養調査によって得られたEN・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（2~3点に絞る）	教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。	180分

	基準からみた検討について	主食〔穀類（ご飯・パン・麺）〕、主菜〔肉類・魚類・豆類など〕副菜〔野菜類など〕の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）		
第13回	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の改善のポイント （食事摂取基準から）報告書の作成	背景、目的、方法、結果、課題抽出（食生活と生活習慣の観点から）、計画及び具体策（食生活と生活習慣の観点から）、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。	180分
第14回	調理実習	栄養教育の具体的な提案のツールを増やす。	学修してきた調理技術について、予習・復習する。	180分
第15回	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた検討等についてのプレゼンテーション	I 背景 20歳代の女子の生活習慣や食生活などの問題について背後に潜んでいる状況や事柄を説明している。 背景に沿った目的や課題を説明している。 II 目的 課題に対して、目指すための目標が明確になっている。 III 方法 食事摂取基準からの判定、主食・主菜・副菜などの観点から具体策への手順（検討内容）が示されている。 IV 結果 アセスメントや基本統計が課題抽出、計画、具体策及び考察の内容とつながっている。 V 課題の抽出 目的、結果に基づく課題になっていて、目標、計画、具体策へつなげていく内容となっている。 VI 計画及び具体策 目標は、実施後の結果と比較することが可能となっている。（分かりやすいか） 計画は、食物を摂取するための行動変容について（知識・態度・行動レベル）述べている。 食物を摂取するための行動変容に係る環境レベルを述べている。 具体策 実施する内容が課題解決（リスクの低減）に向けた内容であり、実効性や継続性の観点から検討されている。 VII 考察 食生活の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。 生活習慣改善の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。 実効性や継続性の観点から今後の課題などが提案や検討がされている。	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。	180分

学生へのフィードバック方法	調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。
評価方法	課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点は実習や討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)、定期試験(60%)から総合的に評価する
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学, 古野純典編, 南江堂, 2018
参考図書	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル（同文書院）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食物摂取状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。 【関心・意欲・態度の観点】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。
オフィスアワー	火曜日：10:40～12:00、15:00～17:30、金曜日：9:30～12:00、15:00～17:30

学生へのメッセージ | 公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開に際し、事前に他の専門科目との繋がりを想定した状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地域栄養活動演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)

地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志に関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握方法の実践が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を観察、状況判断しながら公衆栄養活動の実践ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他職種との協調する態度と高齢者がかかえる課題解決への主体的な役割と意欲を学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を踏まえた、公衆栄養活動が確実に実施できる技術や対象への表現が実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーションと地域栄養活動計画の策定とは	栄養学の目標のうち、心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献を理解する	公衆栄養活動によるQOLの向上について、地域栄養活動論での内容を思いめぐらす。	180分
第2回	地域栄養活動計画の策定の方法と実際	地域計画策定・実施・評価に関わる上で必要とされる技能と調査設計	健康日本21と食育推進基本計画等の構成について、政府のHPや白書により知る。	180分
第3回	地域の特性		配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分

		4つの地域モデル（地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデル）の特性を理解し、それぞれの地域モデルへのアプローチ法を理解する		
第4回	地域栄養支援法（1）	地域への支援方法に位置づけられるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概要について理解する。また、それぞれの支援方法の違いを知る	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	地域栄養支援法（2）	コミュニティワークの展開過程について事例を用いながら学ぶ。また、コミュニティソーシャルワークの展開過程についても理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第6回	地域栄養支援法（3）	地域におけるネットワークを構築していくための2つのアプローチ法（既存の組織等を活用した方法と新たな組織を構築していく方法）について学ぶ。また、事例を用いながらネットワークを構築していく際の留意点について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第7回	地域栄養支援法（4）	地域で栄養士として活動していく際に必要になってくる人や組織を知る。また、それぞれの役割や機能を把握することでスムーズな連携が図れることを理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第8回	地域栄養活動計画の策定	高齢者にとっての「食ること」の意義を考える。	地域包括ケアに関する政府のHPや今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第9回	高齢者の楽しみ、生きがいと社会参加の支援を考える。	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境に思い巡らせる事ができる既存資料を活用して、実践できる計画を立てる。	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境について、政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第10回	高齢者の身体機能・生活機能の維持向上のための買い物等の千代田区三番町近辺のマップ作成の方法を考える。	千代田区三番町近辺の高齢者の生活者としての実践の確認と改善をする。	政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第11回	計画と改善点の発表	各班の計画と実践について、評価する。	公衆栄養学実習で実践した評価方法について予習する。	180分
第12回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の枠組み	地域で暮らす対象者（今回は高校生）の栄養・食の営みを支援するための活動の展開例を学ぶ。そのための教材案を考える。	そのための教材に盛り込む食事を計画する。	180分
第13回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動内容の決定	地域で暮らす対象者（今回は高校生）の栄養・食の営みを支援するための活動を立案する方法を学ぶ。	活動の目的、流れ、教材、そして、評価方法を考える。	180分
第14回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の実践	地域で暮らす対象者（今回は高校生）の栄養・食の営みを支援するための活動を実践する（東京家政学院高等学校の生徒を対象としたアクティブラーニング）。	活動の中での役割、教育の実践のための事前準備を行う。	180分
第15回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の枠組み	地域で暮らす対象者（今回は高校生）の栄養・食の営みを支援するための活動の評価を行い、その結果から活動の全体を振り返る。	活動の報告書を作成する。目的、教育の内容、プロセス、成果をまとめる。	180分
学生へのフィードバック方法		計画策定に係る公衆栄養学、地域栄養活動論修得している内容のアドバイス		
評価方法		レポート作成と発表における積極性、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
評価割合	平常点は演習への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する			
使用教科書名 (ISBN番号)	公衆栄養学 古野純典他編 (南江堂 2018)			
参考図書	地域診断すすめ (医学書院)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、地域包括ケアにつながる教養を身につける。</p> <p>【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、高齢者にかかる健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける。</p>			
オフィスアワー	田中：月曜日15:00～17:30、火曜日10:00～12:00 酒井：火曜日5限、木曜日2限			
学生へのメッセージ	わが国の高齢者の栄養にかかる主要な政策についての理解を得ること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。		
アクティブ・ラーニング	○	発表における意見聴取やまとめ		
情報リテラシー教育	○	政府刊行物や既存資料の活用		
ICT活用	○	政府統計やHPの活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	国際栄養活動論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし
非常勤講師	熱田 泉	指定なし
非常勤講師	西田 美佐	指定なし

授業概要(教育目的)

我が国の政治・経済は、国際的な環境の中で成立しており、日常生活もグローバル化の中で、国際的なことと切り離せない。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がりを考えていくことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	NCD(慢性非感染性疾患)、生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあることを理解し、栄養士の重要性を考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。
技術・表現の観点 (A)	国際的な場面における、栄養活動について表現できる。

学習計画

国際栄養

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	国際保健とは	国際保健とは何かについて学ぶ。文献学習として「食の歴史」、及び「グローバル・ヘルス」の中から、担当を分け、グループを形成して、報告に向けた取り組みを考える。	教科書の該当部分	180分
第2回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分
第3回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分

第4回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分
第5回	熱田先生の講義	アフリカ等	教科書の該当部分	180分
第6回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第7回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第8回	熱田先生の講義	アフリカ等	教科書の該当部分	180分
第9回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第10回	西田先生の講義	国際栄養とは	教科書の該当部分	180分
第11回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第12回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第13回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第14回	グループの報告	食の歴史、グローバル・ヘルスの報告	教科書の該当部分	180分
第15回	グループの報告	食の歴史、グローバル・ヘルスの報告	教科書の該当部分	180分

学習計画注記	講師の予定により、日程変更の可能性があります
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	平常点 (35%)、報告・レポート (65%)
評価基準	
評価基準	
平常点	○
報告レポート	○
評価割合	平常点 (35点) と報告レポート (65点)
参考図書	食の歴史 / J-L・フランドラン, M・モンタナリ編; 菊地祥子, 末吉雄二, 鶴田知佳子訳, 藤原書店, 2006 木原正博他訳, グローバル・ヘルス, メディカル・サイエンス, 2017 変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくりーやってみようプライマリ・ヘルス・ケア (第3版) 松田正己他編 やどかり出版, 2010
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 (関心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。 (技能・表現) 他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜3限、メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	実際に国際協力を経験している人の話を中心に展開します。
教育等の取り組み状況	
	概要

	該当 有無	
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードシステム論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶 徹	指定なし

授業概要(教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達ที่著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局的問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. フードシステムの概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 2. フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 2. 現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 3. グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 2. 自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	豊かな食生活を支える食市場	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食市場を支える食品産業を理解する。 2. 外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3. 食の外部的な要因を理解する。 4. 少子高齢化が変える食市場を理解する。 5. 食品産業の技術発展内容を理解する。 	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食品消費の変化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 品目別食品消費の変化を理解する。 2. 食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3. 栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4. 加工食品がなぜ増加したかを理解する。 	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。	120分
第3回	食生活の多様化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2. 食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分	240分

		る。 3. 現代における食情報が多様化した理由を理解する。	自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	
第4回	食品流通の役割と社会的使命	1. 食品流通の役割を理解する。 2. 卸売流通の役割を理解する。 3. 小売流通の役割を理解する。 4. 流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が必要な食品流通	1. 生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2. 加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。	120分
第6回	食品の小売流通	1. 販売形態の分類を理解する。 2. 食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 3. 家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食産業のマーチャンダイジング	1. 外食産業の業態を理解する。 2. 外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	中食産業のマーチャンダイジング	1. 中食産業の業態を理解する。 2. 中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類	1. 商品特性による基本的分類を理解する。 2. 商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主要食品の温度帯別流通	1. 食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。	120分
第11回	主要食品の流通	1. 生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードビジネスとフードマーケティング	1. フードビジネスの概要を理解する。 2. 6次産業化を理解する。 3. フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4. フードマーケティングの機能を理解する。 5. フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	1. 3Rを理解する。 2. 食料リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3. 食品ロスを理解する。 4. 環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	1. 食品の安全性を理解する。 2. 食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集をしておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題	1. 食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ、新聞等で時局的な事項を調べておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-mail (nihei@tat.j.jp) で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて受付する。			
評価方法	1. 大学の規定に沿い、授業に6回以上出席することが定期試験を受ける基本条件とする。 2. その上で定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、記述式の問題を出題する。 3. 定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 4. 詳細については、最後の授業にて説明する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験100%で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	食品の消費と流通 (9784767905389)			

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】履修生が習得する「人間の栄養」のみならず、フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。</p> <p>【思考・判断】健康・栄養課題を考えるうえで、現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、総合的に考察できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を現代に暮らす生活者の栄養と関連付けた具体的な提言できるようになる。</p>	
オフィスアワー	木曜日の授業終了後 非常勤講師室	
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものである。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用していけるようになることを願っている。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった3つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
非常勤講師	坂崎 隆浩	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)

これまでの学修をもとに保育所における子どもの食の在り方について学び、自らの管理栄養士の役割を考えることができるようにすることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育所における子どもの食に関わる様々な法令や制度をもとに豊かな子どもの食について説明できる
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の子どもの豊かな子どもの食について自らの考えを思考することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育所における子どもの豊かな食の経験について自ら考えようとし、管理栄養士としての役割を模索しようとする。
技術・表現の観点 (A)	保育所における子どもの豊かな食について自らの考えを表現し、食事提供や食育にいかすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育所における目指す子どもの姿	保育所保育指針等を踏まえ、就学までに子どもが目指す姿について学ぶ。	保育所保育指針等の構成等、内容を復習する。	60分
第2回	保育所における目指す子どもの姿に向けた食経験とは?	保育所で目指す子どもの姿にむけた食経験を指針等から考え、学ぶ。	食育で目指す子どもの姿と生活での子どもの食行動との関連を整理する。	60分
第3回	保育所における食に関わる組織づくりと管理栄養士の役割	保育所における管理栄養士の専門性と保育所の職員連携について学ぶ。	保育所における管理栄養士としての役割を整理する。	60分
第4回	子どもの豊かな食経験とは?	保育所保育指針等から考える子どもにとって豊かな食経験とは何かを学生同士の討議から考える。	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめる。	60分

第5回	保育所における食事提供のPDCA (1)	食事提供ガイドライン等を踏まえ、保育所における豊かな食経験を保障するための食事提供について学ぶ。	保育所における食事提供のPDCAを整理し、子どもにとっての豊かな食事の在り方を自分なりにまとめる。	60分
第6回	保育所における食事提供のPDCA (2)	自分が考える子どもにとって豊かな食事をまとめ、学生同士で討議する。	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめる。	60分
第7回	保育所における豊かな食経験を目指した食育とは? (1)	保育所における豊かな食経験のためのPDCAについて計画書等の書式等の事例を踏まえて考える。	様々な食育に関連する書式等を見直し、自分なりに食育の在り方を考える。	60分
第8回	保育所における豊かな食経験を目指した食育とは? (2)	豊かな食経験を目指した食育について、学生同士で討議する。	学生同士で討議した内容を整理する。	60分
第9回	保育所における食の個別対応	離乳食、アレルギー、障がい児等、個別の配慮が必要な子ども達の食について、その特徴と食事提供について考える。	それぞれの個別の配慮が必要な子どもの食事提供の特徴を整理する。保護者が不安に思うこと、地域資源について考える。	60分
第10回	保育所における子育て支援、地域連携	保育所の子どもだけでなく、子どもを取り巻く人々を知り、管理栄養士としての役割を考える。	子育て支援、地域の組織、人等にまとめ、管理栄養士の役割を整理する。	60分
第11回	保育所の役割と保育の原理	子どもの最善の利益のためにある保育所の養護と教育について学ぶ。	保育所の役割と保育原理について配布プリント等から整理する。	60分
第12回	保育現場における食の現在とこれから	保育現場に今後求められる保育の在り方について学び、管理栄養士としての役割について考える。	今後の保育の在り方と求められる内容について、配布プリント等から整理する。	60分
第13回	食と保育の文化 (1)	レゾエミア等、様々な保育の在り方を学び、考える。	伝統的な様々な保育の文化について配布プリント等から整理する。	60分
第14回	食と保育の文化 (2)	保育の文化と食の在り方を学び、考える。	保育における食の在り方をまとめる。	60分
第15回	子どもの豊かな食経験を考える (2)	これまでの授業を通し、改めて子どもにとっての豊かな食経験とは何かを学生同士の討議で考える。	学生同士で討議した内容を整理する。	60分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートについてコメントをつけた後に返却する。
評価方法	平常点 (20%)、レポート (80%) で評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点 (20%)、レポート (80%)
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの食生活、上田玲子、他 (ななみ書房)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる書課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しよ

		うとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
学生へのメッセージ		保育所における子どもの食事について、食事提供だけでなく、子どもを中心とした生活の中の食の在り方について考え、現場で求められる自分なりの管理栄養士の姿と一緒に模索しましょう。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所の食育指針を作成した酒井より、保育所における子どもの目指す姿と食の在り方に関する考え方を講義する。現こども園の理事長を務める坂崎より、現在の保育の在り方について講義をする。保育所で栄養士を実務していた會退が保育所における食事提供等について事例を交えながら講義を行う。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士によるグループディスカッションを行い、自らの考えを広げ、考える力を養う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
非常勤講師	水野 敬生	指定なし

授業概要(教育目的)

高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～2週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、3週目以降は高齢者福祉施設に入所するご利用者に提供する介護サービスの実際と、その目的や効果を具体的な事例を基に講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養ケアマネジメントの仕組みについて説明できる。 高齢者施設及び在宅における介護サービス、食事サービスについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	介護保険制度における高齢者施設及び在宅の管理栄養士としての役割を理解し、課題や解決方法の取組について探求できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と主体的に学ぶ意欲を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	管理栄養士としての専門的スキルを生かし他職種と共働することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養ケアマネジメントの仕組み1	介護保険制度についての基礎を学ぶ。	介護保険制度についての概要を予習しておく。	120分
第2回	栄養ケアマネジメントの仕組み2	栄養ケアマネジメントの基礎を学ぶ。	栄養ケアマネジメントについて概要を予習しておく。	120分
第3回	高齢者が陥りやすい症状1	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 脱水、低栄養の基礎を理解し、その実践について症例を基に学ぶ。	高齢者の脱水と低栄養の概要について予習しておく。	120分
第4回	高齢者が陥りやすい症状2	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 褥瘡、摂食・嚥下障害について基礎を理解しその実践について学ぶ。	褥瘡、摂食・嚥下障害について予習しておく。	120分
第5回				120分

	高齢者の栄養ケアにおける食事のポイント	水分摂取方法、エネルギーアップの方法、たんぱく質付加価の方法、摂食・嚥下障害の評価方法を学ぶ。	高齢者の食事のポイントを復習し整理する。	
第6回	栄養補助食品の種類と活用1	栄養補助食品の種類と分類を理解し活用方法を学ぶ。	栄養補助食品について、事前に配付されたパンフレットで予習しておく。	120分
第7回	栄養補助食品の種類と活用2	様々な栄養補助食品を実際に試食し在宅への活用方法を検討する。	試食した栄養補助食品について自己評価し、在宅への活用方法としてのレシピを考案する(レポート作成)	240分
第8回	栄養ケアマネジメントの実際1(施設・在宅)	施設・在宅における栄養ケアマネジメントの実際を学ぶ。協働する他職種役割を理解する。症例検討を行いディスカッションする。	施設・在宅における栄養ケアマネジメントについて予習しておく。	120分
第9回	管理栄養士に求められるコミュニケーションについて	他職種におけるチームケアの基本となるコミュニケーションについて学ぶ。利用者、家族に対するコミュニケーションについて学ぶ。	コミュニケーション能力の基本を予習しておく。	120分
第10回	品質管理	施設において実施する介護サービスの品質管理について学ぶ。	介護サービスの概要について予習しておく。	120分
第11回	リスクマネジメント	高齢者施設において安心安全なサービスを提供するためのリスクマネジメントの実際を学ぶ。	リスクマネジメントの概要を予習しておく。	120分
第12回	施設サービス計画書の作成	施設サービス計画書の作り方(栄養ケア計画書を含む)を学び、個人々に対するアセスメントの計画書への反映の仕方学ぶ。	施設サービス計画書の概要について予習しておく。	120分
第13回	高齢者施設における看取り介護	高齢者施設における終末期の看取り介護について学ぶ。看取り介護における管理栄養士の役割を学ぶ。	看取り介護加算の概要について予習しておく。	120分
第14回	要介護高齢者に対する介護技術	食事介助をはじめ高齢者施設で実践している介護技術について学ぶ。	食事介助の基本を予習しておく。	120分
第15回	要介護高齢者の食事形態	要介護高齢者の高齢者施設で実践している摂食・嚥下機能に応じた食事形態について学ぶ。	摂食・嚥下機能の評価について予習しておく。 「変化の時代における専門職のコミュニケーションとは～役割と専門性を考える～」についてレポートする。	240分

学習計画注記	進行状況によってシラバス内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	講義や課題についての質問等は、研究室への訪問またはe-mailの問い合わせで対応する。
評価方法	平常点とレポートで評価する。 *平常点は授業への参加態度、討論への参加等で総合的に判断する
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点(40%)、レポート(60%)で評価する。
使用教科書名(ISBN番号)	在宅訪問栄養ハンドブック/ライフメディコム
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけて

		いる。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー		田中：月曜日15:00～17:30、火曜日10:00～12:00 吉野：火曜日12:30～14:00 水野：火曜日18:00～19:30
学生へのメッセージ		高齢者のケアを医療、介護、栄養等其々の観点から捉え、栄養ケアマネジメントを実施するうえで必要な視点を学びます。さらに施設や在宅では、具体的に多職種とどのように連携し協働しているのかを症例を通して実感しましょう。基本的な業界の専門用語について、事前に教科書、情報誌などで学習しておきましょう。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	行政機関（田中）、高齢者福祉施設（水野・吉野）等に従事した経験を踏まえ専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえうえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学生へのフィードバック方法

実習

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合

実習点 (80%)、定期試験 (20%)
 (実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号)

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

学生へのメッセージ

健康フードマネジメント実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活 かした授業		
アクティブ・ ラーニング		
情報リテラ シー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食・空間プロデュース論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大野 治美	指定なし

授業概要(教育目的)	国内外の食事の文化や料理様式はもとより、食事空間全体のインテリア、食器やテーブルウェア、そしてそれらのテーブルコーディネートの方法、また消費者の食に関する最新のトレンドやニーズなど、心地よく食べるための環境作りをトータルで学ぶ。これまでに学んだ管理栄養士の視点を生かしながら、食事空間の環境づくりの課題について、グループで企画・演出、提案を通して実践力を養う。学内での実習や校外見学に係る経費(実習材料費、交通費等)は、自己負担になります。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	心地よく食事をするために必要なマナーや心構えを理解し、説明することができる
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	食文化やテーブルウェアに関する感性を高め、ライフスタイルにあわせた心地よい食空間をプロデュースすることができる
技術・表現の観点(A)	食材の色、食器、空間演出、飾り花などの工夫を実践できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「食」に関する情報についての課題や問題点を挙げ、グループディスカッションを行う。	シラバスを読んでくること。食情報に関して、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく	120分
第2回	食事空間・テーブルコーディネートとは	食空間プロデュースとは何か、その効果と必要性について学ぶ。快適な食空間を作るためには、どのような事に配慮すべきかを理解する。カラーコーディネートや照明の工夫等についても学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第3回	日本の食事の歴史・文化・様式について	和食の成り立ちと、日本の食事の形態を学ぶ。本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。正しい箸の使い方を習得して、説明できるようになる。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分

第4回	外国の食事の歴史・文化・様式について	日本と代表的な世界の食文化を比較し、それぞれの特徴を理解する。	予習：興味のある外国の食文化を3か国調べておき、その特徴についてまとめる。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第5回	フードサービスマネジメントとは	マーケティング手法を学び、企画立案の方法を計画することができる。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第6回	食の企画書作成・提出	TPOに応じたメニュープランニングの基礎を学ぶ。フードコーディネーターや料理研究家等の食に関わる仕事を紹介し、わかりやすいレシピを書くテクニックなどを実践を通して理解する。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第7回	食事空間やキッチン環境、校外実習ガイダンス	食業界の仕組みと基本知識を理解し、食情報に関する理解を深める。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第8回	校外実習1 (食の流通過程・市場リサーチ、トレンドを学ぶ)	食の流通過程を知り、市場の役割、消費者の食に関する最近のトレンドやニーズ等を学ぶ。	予習：集合場所や交通経路等、各自確認しておくこと。 復習：学習、体験した内容をリサーチシートにまとめ、期限を厳守して提出する。写真やイラスト等を添付し、文章と図のバランスを考え、見やすく役立つシートを作成する。	180分
第9回	校外実習2 (キッチンの最新設備)	食の流通過程を知り、市場の役割、消費者の食に関する最近のトレンドやニーズ等を学ぶ。	予習：集合場所や交通経路等、各自確認しておくこと。 復習：学習、体験した内容をリサーチシートにまとめ、期限を厳守して提出する。写真やイラスト等を添付し、文章と図のバランスを考え、見やすく役立つシートを作成する。	180分
第10回	テーブルコーディネート方法	フードコーディネートの専門家に、テーブルコーディネートの要点を学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第11回	食器とテーブルウェアについて、盛り付け方の工夫	フードコーディネートの専門家に、食器やテーブルウェア等の選び方や盛り付け方等について実践を通して学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第12回	行事食とテーブルコーディネート	テーマ別にテーブルコーディネートのイメージボードを作成し、写真撮影方法等を学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第13回	クリスマス飾りの作成	センターピースの役割を理解し、センターピースアレンジメントを作成する。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第14回	食の企画プレゼンテーション	食の企画書を作成し、プレゼンテーションの準備をする。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	240分
第15回	まとめ	グループ別に食の企画を発表し、評価を行う。これまで学習してきたことを活かし、新しい視点を持って食品や商品、情報提供等、どのように管理栄養士の職務に生かしていけるか、自分の考えをまとめる。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。	180分

				復習：配布資料を整理し、まとめておく。	
学習計画注記	履修者数や行事、外部講師の予定により、スケジュール等が変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	講義形式を主とするが、体験学習・実習を含めて積極的に参加できる授業内容とする。レポート（企画書、リサーチシート等）やプレゼンテーションに関する評価は、授業にて解説する。				
評価方法	授業への取り組み姿勢、提出物、プレゼンテーション等で総合的に判断する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○		○	
	レポート（企画書、リサーチシート）	○		○	○
	プレゼンテーション	○		○	○
評価割合	平常点（20%）、レポート（60%）、発表（20%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	レジュメを配布する。パワーポイントやDVDなどの視聴覚教材を使用して講義を行う。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それら地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。				
オフィスアワー	木曜2時限 1206理化学準備室				
学生へのメッセージ	半期の授業をさらに効果的なものにするには、普段の身近な食情報から多くを学ぶことです。日常生活の中で目にする新聞や雑誌の食関連の記事、「食」に関する情報番組、レストランなどの外食産業やファーストフード店のメニューなど、食品の展示方法や食品表示等、私たちがを取り巻く「食」がこの授業の情報源になります。様々な分野の食情報に触れることで視野を広め、情報の質を見極めることができる力を身につけてほしいと考えております。積極的に主体的に取り組む姿勢を期待しています。				
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士の専門的スキルを生かして、フードサービス分野で栄養管理やメニュープランニングに従事してきた。対象者に応じたニーズの把握や食を通じた情報提供、情報収集力および分析力を活用し、授業を展開していく。			
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、体験学習、プレゼンテーション			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	給食運営臨地実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	特定給食施設における給食運営を学ぶ。具体的には、事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所のいずれかを実習先とし、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術の修得を目的とする。献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務、大量調理の特性と留意点、衛生管理等、学内で学んだ知識や技術が実際の給食現場でどのように反映されているかを体験し学習する。
履修条件	食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習の指定科目を3科目以上の単位を取得していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所)における、各々の給食運営の特徴と目的を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食現場での体験から、課題を発見(気づき)する力、臨機応変に判断する対応力を養うことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習を通じて、将来の進路への関心や興味が深まり学習意欲につながる。
技術・表現の観点 (A)	給食業務を行うために、必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する必要な技術を理解することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	実習先に関する基本情報や実習課題・提出物を確認し、実習先での事前オリエンテーションに向けての準備を行う。	「実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおくこと。 実習先からの事前課題に取り組み、内容をよく精査しておくこと。	120分
第2回	事前オリエンテーション(実習施設)	事前オリエンテーションとして、施設の概要、実習内容・日程、持ち物、注意事項、厨房案内等基本的な事項について確認し学ぶ。	実習先の基本情報をよく確認しておくこと。 「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおくこと。	60分
第3回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管		

		理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第4回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第5回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第6回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第7回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第8回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第9回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第10回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第11回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第12回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第13回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第14回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理) の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第15回	事後指導	実習後、実習班毎に教員への報告とグループワークによる総括を行い、課題のまとめ、お礼状、実習日誌、各提出物等を完成させる。		

学生へのフィードバック方法	<p>実習日誌は、毎日記入し実習施設指導者に提出し、添削やコメント付きで返却される。課題については内容も様々で実習先によって対応が異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献立課題については、添削指導だけでなく実習中に実際に調理・提供する施設もある ・ ミニ栄養指導課題については、添削指導後実習中に実施する ・ 栄養媒体は、添削後実習中に使用するケースが多い 			
評価方法	<p>規定の必要実習時間を終了している、実習施設の指導者による評価点がついている、学内への提出物を全て提出していること、実習日誌の提出を確認し、単位取得「合格」とする。実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。</p>			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の実施	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○

実習報告・提出物の作成	○	○	○	
実習日誌の提出	○	○	○	
評価割合		単位取得条件100%で評価する。		
使用教科書名 (ISBN番号)		管理栄養士の学外実習の手引き		
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>		
オフィスアワー		吉野（火曜日12：30～14：00）、加藤（火曜日5時限）		
学生へのメッセージ		実習先となる特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）の給食運営の特徴を捉えておきましょう。さらに学内での給食経営管理実習の流れを踏まえ「大量調理施設衛生管理マニュアル」を復習して実習に臨みましょう。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として専門領域の実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーションを実施している。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	臨床栄養Ⅰ 臨床実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	病院において、ベッドサイド訪問、個別指導や集団指導を通して、栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を学ぶ。学内における講義や実習では学ぶことのできない病院のシステム、医療スタッフとの関わり、ベッドサイドへの訪問、実際の個別栄養食事指導、集団栄養指導を通して、病態治療が臨床の場でどのように行われているのか、それらの実際を2週間の医療現場での実習を通して学び、実践力を養うことを目的とする。また、実習施設における事前集中講義、学内での特別講義や直前指導、事後の報告会なども行う。
履修条件	臨床栄養アセスメント論、臨床栄養アセスメント実習のうち、1科目以上の単位を取得している。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を理解できる。病態治療が臨床の場でどのように行われているか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し、状況に沿った必要な知識や情報を判断し、活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価など、臨床の場における実践力が養える。また、プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第3回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第4回	病院実習			120分

		実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	
第5回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第6回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第7回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第8回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第9回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第10回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第11回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第12回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第13回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学生へのフィードバック方法	実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。			
評価方法	評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。 ・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○
評価割合	単位取得条件（100％）で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。			

	<p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	金澤（水曜日3, 4時限）、城田（水曜日2, 3時限）	
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿、業務内容、他職種との連携、患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があつてこそその実習です。決して受け身にならないよう、積極的に取り組みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有しており、臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	臨床栄養Ⅱ 臨地実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食運営臨地実習・臨床栄養Ⅰ臨地実習を終えた後に本実習を行う。栄養治療などの疾病に関わる医療行為を具体的に実施する現場での実習である。先の臨床栄養Ⅰ臨地実習と異なる点は、医療チームの一環として加わり、患者の栄養状態のアセスメントとその判定、それらに応じた栄養ケアプランの作成、治療の実施と評価に至るまでのプロセスの詳細を学ぶことにある。実習生として現場で具体的な課題を発見し、解決方法を検討する。
履修条件	臨床栄養アセスメント論、臨床栄養アセスメント実習のうち、1科目以上の単位を取得している（臨床栄養Ⅰ臨地実習に同じ）。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	患者の栄養状態のアセスメントとその判定、それらに応じた栄養ケアプラン作成、治療の実施と評価に至るまでのプロセスを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	臨床現場で具体的な課題を発見できるよう、常に問題意識を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	臨床現場で具体的な課題を自ら発見し、解決方法を検討できる。また、プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第3回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第4回	病院実習		毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分

		実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。		
第5回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第6回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第7回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第8回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第9回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第10回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第11回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第12回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第13回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	60分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	60分
学生へのフィードバック方法		実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。		
評価方法		評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである（臨床栄養Ⅰに同じ）。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。 ・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。 		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○
評価割合		単位取得条件（100％）で評価する。		
使用教科書名（ISBN番号）		管理栄養士の学外実習の手引き		
参考図書		なし		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を		

	<p>身につけている。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	金澤（水曜日3, 4時限）、城田（水曜日2, 3時限）	
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿、業務内容、他職種との連携、患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があつてこそその実習です。決して受け身にならないよう、積極的に取り組みましょう。	
教育等の取り組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有しており、臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	公衆栄養臨地実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること
履修条件	公衆栄養学、公衆衛生学のうち、1科目以上の単位を取得している。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を理解する。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し、状況に沿った必要な知識や情報を判断し、活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、行政の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	PDCAによる地域診断の方法を理解するとともに、保健・医療・福祉施策の場において実践力が養える。また、プレゼンテーション技術を用いて課題を明確にして、解決策をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	120分
第2回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	120分
第3回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務 例： (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		<p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>		
第4回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第5回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第6回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p>	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		<ul style="list-style-type: none"> (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 		
第7回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第8回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第9回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		<ul style="list-style-type: none"> (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 		
第10回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第11回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第12回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） 2. 保健所 (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）		
第13回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務 例： (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） 2. 保健所 (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学生へのフィードバック方法	実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。
評価方法	評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。 ・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。 ・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。 ・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。 ・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。 評価基準
評価基準	
評価基準	
評価割合	単位取得条件（100%）で評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>															
オフィスアワー	火曜日5限目															
学生へのメッセージ	管理栄養士としての社会に適応する相応しい実習態度を期待します。															
教育等の取り組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="204 562 368 629"></th> <th data-bbox="368 562 440 629">該当有無</th> <th data-bbox="440 562 1428 629">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="204 629 368 696">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="368 629 440 696">○</td> <td data-bbox="440 629 1428 696">担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 696 368 763">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="368 696 440 763">○</td> <td data-bbox="440 696 1428 763">グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 763 368 831">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="368 763 440 831"></td> <td data-bbox="440 763 1428 831">保健所・保健センター業務報告書</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 831 368 891">ICT活用</td> <td data-bbox="368 831 440 891"></td> <td data-bbox="440 831 1428 891"></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。	アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	情報リテラシー教育		保健所・保健センター業務報告書	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。														
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション														
情報リテラシー教育		保健所・保健センター業務報告書														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 健康栄養学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	総合演習 I (3年)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>臨地実習前の事前指導と各班の実習テーマに関する事前準備を行う。具体的には各々の実習の目的や目標の理解、実習施設の概略の周知と動機付け、知識の整理、研究課題の検討等を行う。さらに病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、保育所、保健所等実習先の指導者から講義を受け、実習にあたっての心構え、社会における管理栄養士の使命および役割や業務について理解する。</p>															
履修条件	<p>給食運営臨地実習、臨床栄養 I 臨地実習、公衆栄養臨地実習または臨床栄養 II 臨地実習へのいずれの履修条件を満たしていること。</p>															
学習目標(到達目標)	<p>学習目標 (到達目標)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>「課題発見(気づき)と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>実習に対する心構えや取り組む姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。</td> </tr> </tbody> </table>	知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。	思考・判断の観点 (K)	「課題発見(気づき)と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。	関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に対する心構えや取り組む姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。	技術・表現の観点 (A)	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。							
知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。															
思考・判断の観点 (K)	「課題発見(気づき)と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。															
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に対する心構えや取り組む姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。															
技術・表現の観点 (A)	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。															
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>総合ガイダンス(2年次実施)</td> <td>臨地実習(給食運営・公衆栄養・臨床栄養 I II)の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。</td> <td>特になし</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>全体ガイダンス</td> <td>臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する(公衆栄養、臨床栄養 I II、給食運</td> <td>「学外実習の手引き」の、総合演習 I の部分を読んでおくこと。</td> <td>60分</td> </tr> </tbody> </table>	回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	総合ガイダンス(2年次実施)	臨地実習(給食運営・公衆栄養・臨床栄養 I II)の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。	特になし		第2回	全体ガイダンス	臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する(公衆栄養、臨床栄養 I II、給食運	「学外実習の手引き」の、総合演習 I の部分を読んでおくこと。	60分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)												
第1回	総合ガイダンス(2年次実施)	臨地実習(給食運営・公衆栄養・臨床栄養 I II)の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。	特になし													
第2回	全体ガイダンス	臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する(公衆栄養、臨床栄養 I II、給食運	「学外実習の手引き」の、総合演習 I の部分を読んでおくこと。	60分												

		営)。実習に向けての準備や心構え及び注意事項を学ぶ。		
第3回	公衆栄養ガイダンス①	公衆栄養臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する	「学外実習の手引き」の、公衆栄養臨地実習の分野を読んでおくこと。	60分
第4回	外部講師講演(介護保険施設)	介護老人福祉施設の管理栄養士による「介護保険施設における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	介護保険施設の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第5回	公衆栄養ガイダンス②	公衆栄養臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第6回	外部講師講演(事業所)	コントラクトフードサービスの管理栄養士による「事業所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	事業所の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第7回	外部講師講演(保健所・保健センター)	保健所・保健センターの管理栄養士による「保健所・保健センターにおける役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保健所・保健センターの管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第8回	外部講師講演(保育所)	保育所の管理栄養士による「保育所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保育所の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第9回	外部講師講演(小学校)	小学校の管理栄養士による「小学校における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	小学校の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第10回	外部講師講演(病院)	病院の管理栄養士による「病院における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	病院の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第11回	給食運営ガイダンス①	給食臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第12回	報告会	4年生における給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅡⅡ臨地実習の報告会(プレゼンテーション)に参加する。発表後のディスカッションにより実際の実習のイメージと理解を深める。	事前に配付される要旨集を予習し、当日に質問やディスカッションができるよう準備しておく。	120分
第13回	給食運営ガイダンス②	給食運営臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第14回	臨床栄養ガイダンス①	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の臨床栄養臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第15回	臨床栄養ガイダンス②	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分

学習計画注記	※外部講師の講演日程については、場合により変更になることがあります。			
学生へのフィードバック方法	レポートは後日返却する。			
評価方法	平常点、レポートから総合的に評価する。 (平常点は、授業態度・意欲、課題への取り組み状況から総合的に判断する)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点	○	○	○																
レポート	○	○	○	○															
評価割合	平常点50%、レポート50%で評価する。																		
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。</p>																		
オフィスアワー	吉野（火曜日12：30～14：00）、金澤（金曜日1,2時限）、酒井（未定）、田中（未定）、城田（金曜日3,4時限）、加藤（火曜日5時限）																		
学生へのメッセージ	<p>臨地実習実施のための事前授業です。実習の目的を明確にし、心構えや基本事項を学び実習の準備を行います。また臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割と業務について学びます。実習先の特徴や概要を捉え、その中から自ら課題・テーマを見出し主体的に取り組みましょう。</p>																		
教育等の取り組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>実習班単位によるグループワークを実施する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。	アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。																	
アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	総合演習Ⅱ（3年）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし
講師	吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	実習先の指導者を招き、講義をとおして管理栄養士の専門性、仕事について再確認し学ぶ。 各臨地実習（給食運営、公衆栄養、臨床栄養）について、体験した内容について発表報告会を実施する。
評価割合	出席、レポート
学生へのメッセージ	管理栄養士の社会的役割や各分野の業務について学びましょう。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	海外文献抄読演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)	大学における本格的な研究のためには、海外の最新の文献に接し情報収集する能力が必須である。本演習においては、食物科学および栄養学系の英語論文を中心とした文献を読み、論文の構成を学ぶと共に、内容やデータを理解しまとめて報告するスキルを身につけることを目標とする。学術論文特有の慣習や言い回し、専門用語などのポイントをおさえることによって、実用に足る内容把握力と読解スピードを滋養し、かつ情報を整理してレジュメを作るなど、伝達する能力をも獲得させることを目指したい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食や健康に関する英語の文献を読んで情報を得ることで、食や健康に関して理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	健康や食に関する英語の表現を知ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方について説明する。	Chapter 1 Vocabularyを確認し、Readingを訳してこること。	60分
第2回	Chapter 1 Why do people love sweets? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第3回	Chapter 1 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 2 Vocabularyを確認し、Readingを訳してこること。	60分

第4回	Chapter 2 Do you have a "dessert stomach"? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第5回	Chapter 2 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 3 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第6回	Chapter 3 Why is Japanese cuisine so popular? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 3 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Quiz 1に答え、Chapter 4 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第8回	Chapter 4 Did you enjoy your school meals? Vocabulary, Reading	Dialogue 1に答え、Quiz 1の答え合わせを行う。Chapter 4のVocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 4 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 5 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第10回	Chapter 5 Why do children dislike vegetables so much? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第11回	Chapter 5 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 6 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第12回	Chapter 6 How do you wash your dishes and vegetables? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第13回	Chapter 6 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Quiz 2に答え、Chapter 7 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第14回	Chapter 7 What a long way frozen food has come! Vocabulary, Reading	Dialogue 2に答え、Quiz 2の答え合わせを行う。Chapter 7のVocabularyを確認し、Readingを読み進め、解説を行う。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第15回	Chapter 7 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	これまでの授業内容について総復習をすること。	480分

学習計画注記

* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。

評価方法

- ・ 授業の内容についてあらかじめ読んできているかどうか確認します。
- ・ 定期試験はVocabulary、Reading、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionから出題します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内容の予習	○		○	
定期試験	○			

評価割合

定期試験70%、授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。

使用教科書名 (ISBN番号)

Living Well, Eating Well / Josh Norman 他/ Asahi Press

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として必要な食と健康に関するトピックを英文で読むことで、英語の文献から様々な情報や知識を得ることができる。

オフィスアワー

水曜日 4時限 1610研究室

学生へのメッセージ

授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	実践栄養英会話		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	Students will learn and practice basic conversation patterns for talking about health and nutrition.
履修条件	None. (Communication English 1 and 2 recommended.)
学習目標(到達目標)	

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their ideas about health and nutrition and be able to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will gain confidence in their ability.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Introducing ourselves / Vitamin A	Perpare for class by reading p. 2-3; and p.34-35	60
第2回	Meals	Breakfast and dinner / Calcium	P. 4-5; 36-37	60
第3回	Family	Talk about your famiy members / Fiber	P. 6-7; 38-39	60
第4回	Free Time	Clubs and circles / Vitamin B1 and meat	P. 8-9; 40-41	60
第5回	Work	Where do you work? / The common cold vs. the flu	P.10-11; 42-43	60
第6回	Fashion	Going to a hair salon / Fermented food	P. 12-13; 44-45	60
第7回	Animals	Having a pet / Vitamin D	P. 14-15; 46-47	60
第8回	Going Out	Eating out with friends / Probiotics	P. 16-17; 48-49	60
第9回	Seasons	Your favorite season / Vitamin C	P.18-19; 50-51	60
第10回	Sightseeing	Going to Disneyland / Protein	P. 20-21; 52-53	60
第11回	At Home	Cooking and cleaning / Vitamin K	P. 22-23; 54-55	60

第12回	Money	Shopping and snacks / Healthy Teeth	P. 24-25; 56-57	60	
第13回	Entertainment	The news and music and movies / Carbohydrates	P. 26-27; 58-59	60	
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for final speaking test with a partner. Students choose health and nutrition topics to speak about. No notes or books during the test.	P. 2-59	120	
第15回	Speaking Test	Speak in natural conversational English for 5 minutes with a partner.	P. 2-59	120	
学習計画注記		※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		Students receive weekly quiz scores and feedback from weekly in-class writing and from discussion with the teacher.			
評価方法		Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you have become while speaking about health and nutrition topics.			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	Quizzes	○	○	○	○
	Speaking Test	○	○	○	○
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○
評価割合		Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%			
使用教科書名 (ISBN番号)		Say What You Like 3 (ISBN 978-4-9906347-4-2)			
参考図書		A Japanese / English Dictionary			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】学際的な学習を通じて、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>			
オフィスアワー		Monday 12:30 - 14:00			
学生へのメッセージ		Relax and enjoy speaking English.			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かし た授業					
アクティブ・ラー ニング	○	Students talk to each other.			
情報リテラシー教 育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食物・栄養演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし

授業概要(教育目的)

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用してしながら総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康①	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田)	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第2回	社会・環境と健康②	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田)	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第5回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分

第6回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第7回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第8回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第9回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第10回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑧	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第11回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑨	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第12回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑩	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第13回	食べ物と健康(基礎食品)①	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野)	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第14回	食べ物と健康(応用食品)②	食べ物と健康(応用食品)について学ぶ(担当:林)	食べ物と健康(応用食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第15回	食べ物と健康(食品衛生)③	食べ物と健康(食品衛生)について学ぶ(担当:林)	食べ物と健康(食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第16回	食べ物と健康(調理)④	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富)	食べ物と健康(調理)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第17回	食べ物と健康(調理)⑤	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富)	食べ物と健康(調理)について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第18回	基礎栄養学①	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野)	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第19回	基礎栄養学②	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野)	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第20回	応用栄養①	応用栄養について学ぶ(担当:斉藤)	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第21回	応用栄養②	応用栄養について学ぶ(担当:斉藤)	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第22回	栄養教育①	栄養教育について学ぶ(担当:辻)	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第23回	栄養教育②	栄養教育について学ぶ(担当:酒井)	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第24回	臨床栄養①	臨床栄養について学ぶ(担当:原)	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第25回	臨床栄養②	臨床栄養について学ぶ(担当:斉藤)	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第26回	公衆栄養①	公衆栄養について学ぶ(担当:田中)	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第27回	公衆栄養②	公衆栄養について学ぶ(担当:田中)	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分

第28回	公衆栄養③	公衆栄養について学ぶ (担当: 田中)	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分	
第29回	給食経営管理①	給食経営管理について学ぶ (担当: 吉野)	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう	90分	
第30回	給食経営管理②	給食経営管理について学ぶ (担当: 吉野)	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう	90分	
学習計画注記		本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、講義回数等が変動的になる。			
学生へのフィードバック方法		基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。			
評価方法		管理栄養士国家試験科目の中から99点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。6割以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合		定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)			
使用教科書名 (ISBN番号)		クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。			
オフィスアワー		本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。			
学生へのメッセージ		管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、学習するにあたりまずは各科目のポイントをきちんと整理することから始め、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食物・栄養演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨む必要がある。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用してながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全6回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全8回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全5回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	食べ物と健康①(基礎食品)	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野(全2回))	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第5回	食べ物と健康②(調理)	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富(全2回))	食べ物と健康(調理)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

第6回	食べ物と健康③(応用食品・食品衛生)	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について学ぶ(担当:林(全5回))	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ(担当:斉藤(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第9回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ(担当:辻(全4回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ(担当:酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ(担当:原(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ(担当:金澤(全5回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ(担当:城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ(担当:田中(全6回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ(担当:吉野(全7回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。			
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。			
評価方法	食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目の中から200点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。午前問題範囲で6割以上・午後問題範囲で6割り以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)			
使用教科書名 (ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。			
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。			
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。			

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食物・栄養演習C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨む必要がある。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用してながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全6回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全8回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全5回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	食べ物と健康①(基礎食品)	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野(全2回))	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第5回	食べ物と健康②(調理)	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富(全2回))	食べ物と健康(調理)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

第6回	食べ物と健康③(応用食品・食品衛生)	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について学ぶ(担当:林(全5回))	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ(担当:斉藤(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第9回	栄養教育①	栄養教育論について学ぶ(担当:辻(全4回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ(担当:酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ(担当:原(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ(担当:金澤(全5回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ(担当:城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ(担当:田中(全6回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ(担当:吉野(全7回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。			
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。			
評価方法	食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目の中から200点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。午前問題範囲で6割以上・午後問題範囲で6割り以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)			
使用教科書名 (ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。			
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。			
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。			

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食物・栄養演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨む必要がある。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全4回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全3回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第5回	食べ物と健康①(基礎食品)	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野(全2回))	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

第6回	食べ物と健康② (調理)	食べ物と健康 (調理) について学ぶ (担当: 大富(全1回))	食べ物と健康 (調理) について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第7回	食べ物と健康③ (応用食品・食品衛生)	食べ物と健康 (応用食品・食品衛生) について学ぶ (担当: 林(全5回))	食べ物と健康 (応用食品・食品衛生) について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第8回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ (担当: 海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第9回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ (担当: 斉藤(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第10回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ (担当: 原(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第11回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ (担当: 辻(全3回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第12回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ (担当: 酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第13回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ (担当: 金澤(全4回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第14回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ (担当: 城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第15回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ (担当: 田中(全5回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
第16回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ (担当: 吉野(全5回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)	
学習計画注記		本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。			
学生へのフィードバック方法		基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。			
評価方法		食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目の中から200点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。午前問題範囲で6割以上・午後問題範囲で6割り以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合		定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)			
使用教科書名 (ISBN番号)		クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。			
オフィスアワー		本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。			
学生へのメッセージ		管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。 管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を受講して単位を取得できることが望ましい。			
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習E		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要 (教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用して食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ (担当: 松田 (全4回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ (担当: 斉藤 (全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ (担当: 原 (全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③ (生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (生化学) について学ぶ (担当: 馬場 (全3回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (生化学) について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)
第5回	食べ物と健康① (基礎)	食べ物と健康 (基礎食品) について学ぶ (担当: 海野 (全2回))	食べ物と健康 (基礎食品) について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断 (各回最低30分)

	食品)		こなう	
第6回	食べ物と健康②(調理)	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富(全1回))	食べ物と健康(調理)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第7回	食べ物と健康③(応用食品・食品衛生)	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について学ぶ(担当:林(全5回))	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第8回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第9回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ(担当:斉藤(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第10回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ(担当:原(全2回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第11回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ(担当:辻(全3回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第12回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ(担当:酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第13回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ(担当:金澤(全4回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第14回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ(担当:城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第15回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ(担当:田中(全5回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第16回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ(担当:吉野(全5回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

学習計画注記 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法 基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法 食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目の中から200点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。午前問題範囲で6割以上・午後問題範囲で6割り以上点数が取れなければ不合格となる。出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)

使用教科書名 (ISBN番号) クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ 管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を受講して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

--	--	--	--	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードサービスビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学び、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティを理解して総合的にフードサービスを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容を理解し正確な情報を収集して課題に関心を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題の発表をすることによりプレゼンテーション能力の向上を図ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードサービスビジネスの概念	フードサービスビジネスの概念を学ぶ。日本人の食生活における中食・外食の社会的動向とサービスの実態を理解する。		
第2回	サービスとホスピタリティ	サービスとホスピタリティについての違いとフードサービスビジネスにおけるホスピタリティの在り方を学ぶ。	課題1「自分の紹介したいお店」について取り組む。市場調査を実施する。	240分
第3回	食生活の領域と現状と課題	日本人の食生活の変遷(内食・中食・外食)を理解する。	課題1「自分の紹介したいお店」について取り組む。プレゼンテーション用PPTを作成する。	240分
第4回	データから読むフードサービスビジネス①	海外及び日本の食糧事情について比較を交え理解する。		
第5回	データから読むフード	海外および日本の食糧事情について比較を交え理解する。		

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	給食施設（病院、高齢者施設）でのフードサービス、配食サービスの実施経験も症例として指導する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。
------------	-----------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	(復習) 自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	(復習) 自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	(復習) 自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計プロセス	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規について学ぶ	(復習) 住居の設計プロセスと建築に関わる法規について復習する (中間レポート1/4) 住宅計画	120分 +レポート120分

			に関する中間レポートに取り組む	
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート2/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える (中間レポート3/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート4/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	(復習) 自分の生活を対象に生活の外部化について考える (期末レポート1/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	(復習) 多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える (期末レポート2/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第13回	集合住宅地の計画 1	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の住む地域の街並みの美しさについて考える (期末レポート3/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第14回	集合住宅地の計画 2	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	(復習) 自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	実施した小課題・小レポート・中間レポート・期末レポートについて、授業時間内に全体講評をおこなう。			
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。3回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。7回程度の実施を予定している。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の2回実施する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		

小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
評価割合	小課題15%、小レポート15%、中間レポート40%、期末レポート30%により総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。			
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。			
オフィスアワー	金曜3時限 3508研究室			
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インターンシップ (3年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感(働き甲斐)を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1~2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明(1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分

第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るインターンシップ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	ビジネスマナー(1)	外部講師を招いてビジネスマナー(挨拶など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第9回	ビジネスマナー(2)	外部講師を招いてビジネスマナー(電話対応、企業訪問など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第10回	面談(6月中旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第11回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第12回	面談(6月下旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第13回	夏季休暇中:インターンシップ実習	インターンシップ実習(8時間×5日=40時間以上)	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第14回	後期1回目:インターンシップの振り返り(1)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第15回	後期2回目:インターンシップの振り返り(2)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。 後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	成果報告書80% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。	
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書 (平成30年度)	
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力	
オフィスアワー	金曜3限 (小池) 3508研究室	
学生へのメッセージ	<p>インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。</p> <p>インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。</p> <p>インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこと。</p> <p>なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科が目指す「人や自然に優しい暮らし」というテーマに基づき、社会の中の諸課題に取り組む。必要な情報を収集・分析・整理し、新たな提案を発信していく力を学内外での協働作業を通して学ぶ。その過程において、能動的かつ自律的・自立的な学習態度を身につけ、大学への所属意識を高めると同時に人間関係の構築を図っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	川越についての事前調査	オリエンテーション・キャンプで訪れる川越の街を多角的な視点から捉え、どのような観点をどのように観察するかをグループごとに計画書を作成する。	所属グループの課題にそって川越の情報収集をし、どこで何を観察するかマップを作成する。	45
第2回	川越の街の特徴の分析	グループごとに川越の街の特徴について分析し、魅力と問題点を見つけ出す。また、プレゼンテーションの方法について学ぶ。	グループのプレゼンテーションの資料案を分担して作成する。	45
第3回	川越についての報告会準備	川越の魅力と問題点について、グループでの報告会資料を作成し、役割分担を決めた上で予行練習をする。	報告書を作成する。	45
第4回	川越についての報告会	自分たちが見つけた川越の特徴・魅力・問題点について、グループ単位の報告会を行う。	地球環境問題の現状と課題について調べ、身近にできることのア案を作成する。	45
第5回	地球環境と現代人の生活	地球環境の変化によって現代人はどのような生活を送っているかを知り、改善案を考える。	さがみはら環境まつりについて調べる	45

第6回	地域社会における環境への取り組み	地域社会の環境への取り組みとして、さがみはら環境まつりの歴史、趣旨および内容を知る。	さがみはら環境まつりの実施内容を確認する。	45
第7回	さがみはら環境まつりでのパフォーマンス決定	さがみはら環境まつりに参加するために、グループごとに試作をして、内容を確認し、計画書を作成する。	計画書にそって、パフォーマンスに必要な材料を集める。	45
第8回	さがみはら環境まつりパフォーマンス準備1	計画書に基づいて、パフォーマンスに必要な材料等の作製を開始する。	材料等の作製を進める。	45
第9回	さがみはら環境まつりパフォーマンス準備2	パフォーマンスに必要な材料等の作製を続け、ある程度形がついたところで教員にアドバイスをもらう。	材料等の作製を進める。	45
第10回	さがみはら環境まつりパフォーマンス準備3	パフォーマンスに必要な資料等の作成を続け、現場でのパフォーマンスを想定した練習を開始する。	材料等の作製を進める。	45
第11回	さがみはら環境まつりパフォーマンス準備4	準備の仕上げを行い、グループ単位で相互にパフォーマンスする。その際に出た意見をもとに修正を行う。	材料の最終調整およびパフォーマンスの練習をする。	45
第12回	さがみはら環境まつり参加1	さがみはら環境まつりに参加し、グループごとに環境に対する啓蒙活動を行う。	報告書を作成する。	45
第13回	さがみはら環境まつり参加2	さがみはら環境まつりについて、グループでの報告会資料を作成する。	報告書を作成する。	45
第14回	さがみはら環境まつり報告会準備	さがみはら環境まつりについて、グループでの報告会の発表準備をする。	報告会資料の最終調整および発表の練習をする。	45
第15回	さがみはら環境まつり報告会	さがみはら環境まつりについて、グループ単位の報告会を行う。	生活デザイン演習Bの振り返りをまとめる。	45

学習計画注記	※履修者数や授業の進度等によって学習計画の内容が変わることがあります。				
学生へのフィードバック方法	グループワーク時に適宜口頭でアドバイス。計画書へのコメント。発表会での講評。報告書へのコメント。				
評価方法	1) 報告会（報告の内容、構成、表現、プレゼンテーションを各5段階で評価）2) 報告書（報告の内容、構成、表現を各10段階で評価）、3) さがみはら環境まつりでのパフォーマンス（内容、プレゼンテーションの分かりやすさ、対象者とのコミュニケーション、取り組みの姿勢を各5段階で評価）、4) 平常点（発言&質問力、提案力、計画遂行中の調整力、実行力、予習復習等課題への取り組み、取り組みの姿勢を各5段階で評価）				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	報告会（2回）	○	○	○	○
	報告書（2回）	○	○	○	○
	さがみはら環境まつり参加	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	報告会20%、報告書30%、さがみはら環境まつりでのパフォーマンス20%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から社会の中にある諸課題についての知識を深める。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。				

		【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。 【技術・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー		森 朋子 月曜日5限、水曜日2限
学生へのメッセージ		生活デザイン学科に共通する学びのあり方を体験できる授業です。積極的に参加して下さい。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、グループで協議し、発表する。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	現代生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野に関わる問題について、共通のテーマに基づき、学科の教員が各々の専門分野の立場から講義を行う。様々な立場からの講義を通して、生活デザインに関する問題は、多角的・複合的な視点で考える必要があることを理解し、現代の生活における生活デザインの意義と役割を考えることを目的とする。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科の学習内容と方法の特徴を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科の各専門分野を関連づけて、さまざまな課題を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中の諸課題に主体的かつ複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション(澤田)	授業の進め方と学期末のレポート課題の説明	レポートの課題内容の確認。	180分
第2回	生活デザイン学科で学ぶこと①(花田)	「なぜ『生活デザイン学科で学ぶこと』を考えるのか」という問いを起点として、私たちの日々の生活は世界と繋がっていることを解説する。自らの考えを発信し、行動することの重要性について理解する。	SDGsについて理解し、自分ができることは何かを考える。	180分
第3回	生活デザイン学科で学ぶこと②(小池)	大学で研究をおこなうために必要となる科学的思考力、論理的思考力の重要性について理解する。	新聞・雑誌記事などを読み、クリティカルシンキングを実践する。	180分
第4回	生活デザイン学科で学ぶこと③(齋藤)	生活の中のデザインを科学し、身近にあるデザインで楽しいワークを構想し、教育改革のデザインにまで応用可能なことを学ぶ。(スティックのり・はさみ持参のこと)	授業で体験したことを、発展的に応用する。	180分
第5回	生活デザイン学科で学ぶこと④(小池)	「発想」とはどのようなことか。「発想力」を鍛える方法があるのだろうか。舞台衣装のデザイン発想の流れに	授業で紹介した発想法を日常の物事でも試してください。	180分

	ぶこと④ (富田)	沿って「発想」のプロセスを理解する。また、アイデア発想法を使って物事を違う方向から見て連想する。		
第6回	生活デザイン学科で学ぶこと⑤ (白井)	「私の歩み」と題し、自分自身の大学から現在までの教育・研究活動と関連づけながら「私の考える生活デザイン」及び「大学での学び」について説明するので、それぞれが、「生活デザイン」及び「大学での学び」について説明できるようにする。授業は板書及び実物投影機を使用して行う。	【予習】前週の授業の最後に渡した資料「学びのティップス(大学で鍛える思考法)」を読んだ上で、授業に臨むこと。 【復習】返却したミニレポートへのコメントについて目を通しておくこと。	180分
第7回	生活デザイン学科で学ぶこと⑥ (河田)	ある人物の人生を当該社会や歴史の流れの中でデザインする(描き出す)ことをライフヒストリー(生活史)研究という。本授業では、研究が少ない江戸時代の女性のライフヒストリーを紹介しながら、女性の生き方、ジェンダーについて学ぶ。	伝記、自伝、日記等人間の生きた記録について何か本を読んだり、身近なお年寄りに昔の話を伺ってみる。	180分
第8回	生活デザイン学科で学ぶこと⑦ (呉)	目には見えない情報を可視化することで伝えることができる。そのための表現とは如何なることかを考える。事例を見せながら解説する。	現代社会は情報で溢れている。どうすればその情報社会で良い暮らしができるかを考える。またその情報はどのような表現になっているのかを考える。	180分
第9回	生活デザイン学科で学ぶこと⑧ (森)	言語はコミュニケーションの重要なツールである。授業では人間が言語をどのように習得するのかについて学びを深めていく。共通のプロセス等を探るために、グループワークで分析を行う。	授業内容から発展し、言語の役割について考えをまとめる。	180分
第10回	生活デザイン学科で学ぶこと⑨ (千葉)	ゲーム理論について知り、関わり合いを数理的に表現することを考える。何かのためになるとか、何かの役に立つとかは考えない。	ゲーム理論について復習すること。身の周りの関わり合いを数理的に考えてみるとおよい。	180分
第11回	生活デザイン学科で学ぶこと⑩ (佐々木)	快適な生活を営むためにはどのように考え行動するのがよいのかを考えるために、衣服の選択と洗濯を例に挙げて解説する。衣服の管理の方法について理解する。	レポートの課題内容の確認。衣生活を振り返る。	180分
第12回	生活デザイン学科で学ぶこと⑪ (深石)	デザインは、カタチのないもの(ソフト面)に求められることも多い。まちづくり活動を事例として、企画の立案・実施のプロセスを交えて解説する。デザインする際に重要なものが何かを理解する。	今後の学内外での活動についてどう向き合い、取り組むべきかを考える。	180分
第13回	生活デザイン学科で学ぶこと⑫ (石綱)	私たちの生活の中にある植物を使った空間デザインを実例を挙げて解説する。暮らしの中にある植物の特徴と役割を理解する。	レポートの課題内容の確認。身近にある植物を観察する。	180分
第14回	生活デザイン学科で学ぶこと⑬ (原口)	住宅の購入とリフォームについて、実例を写真で見せながら、住宅の買い方、価格、リフォームについて考察してもらい、今後の学びの重要性について理解を促す。	現在の自宅を買った、借りた経緯と面積、価格を調べる。リフォーム歴がある場合は、その内容やコストも調べる。	180分
第15回	まとめ(澤田)	全体のまとめ(まとめ方の一例)	レポートの作成	180分

学習計画注記	授業計画は変更される可能性があります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で提出してもらったミニレポートは、その授業を担当した教員が採点して、次の授業の最後に返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最後にA5版のミニレポートを作成して提出する。(ミニレポートの用紙は毎回の授業の始めに配付。) ミニレポートについては、その日の授業の内容が的確に理解できているか、そして授業内容についての自分の考えが、整理されて分かりやすく説明されているか否かという観点で評価し、その評価結果を平常点とする。 学期末レポートは第1回授業で課題内容をくわしく説明する。最終回の授業終了後に、授業全体の総括として作成し提出すること。 学期末レポートは、14名の教員の講義のうち、複数の講義の内容を関連づけ、それをふまえて自分が生活デザイン学科で学びたいことが、分かりやすく説明されているか否かという観点で評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	学期末レポート	○	○	○	

評価割合	平常点50%と学期末レポート50%で評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活デザイン学科の各分野についての知識を得て、その特徴について深く理解する。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。	
オフィスアワー	前期水曜日の3時限目 1503研究室 (澤田)	
学生へのメッセージ	この授業を通して、生活デザイン学科で学ぶ目的と意義を、改めて考え直してみてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第13回の担当教員 (石綱) は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに、植物と空間デザインと生活の関わりについて解説する。第14回の担当教員 (原口) は、約20年間の建築設計監理経験を有しており、講義で述べる住宅の購入、リフォーム、運用については戸建て住宅10棟の実績がある。その実務経験から得られた知識を、教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークで作業や分析を行う授業があります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

授業概要(教育目的)	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	1) 研究要旨の合否判定 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
------	-----------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。
-----------	--------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシ ー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	テキスタイル材料学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	我々の生活に欠く事のできない被服を科学的に捉え、正しく理解するために、繊維製品に関する消費性能について考え、これらの性能を顕現させるための原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物などの布帛について学び、主要な被服材料の化学的・物理的構造が被服にどのように反映されているのかについて考察する力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	テキスタイル材料学材料学って何?	テキスタイル材料学の講義内容について概説する。グループに分かれて、今着用しているものはどのようなものか(素材、色、形等)について調査し、集計をして、発表する。	グループワークの調査結果をまとめておくこと。	180分
第2回	被服着用の目的と繊維製品の消費性能	私たちはなぜ被服を着用しているのか、繊維製品の消費性能とは何か学習する。	配付プリントの「被服着用の目的」「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。	180分
第3回	繊維について	被服材料の原料となる繊維とはどのようなものであるか理解する。	配付プリントの「繊維について」を読んでおくこと。	180分
第4回	糸について	グループに分かれて、糸とはどのようなものか、繊維がどのように集合して糸を構成しているのか試料を分解しながら観察する。	配付プリントの「糸について」を読んでおくこと。	180分
第5回	糸の太さの表示	恒長式番手、恒重式番手の表示の仕方、糸の太さの計算方法を理解する。板書した問題にグループで回答を導き出す。	配付プリントの「糸の太さの表示」を読んでおくこと。	180分

第6回	布帛について	布帛は、繊維や糸がどのように構成されてきているのか、織物分解鏡で試料を観察する。また身近な布帛はどのようなものか調べる。	配付プリントの「布について」を読んでおくこと。	180分
第7回	織物の種類と構造	織物の基本構造三原組織とはどのようなものか組織図を理解する。	配付プリントの「織物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第8回	織物組織資料の製作	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を各自作成し、組織の構造と表記の仕方を理解する。	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を完成させる。	180分
第9回	編物の種類と構造 その他の布帛	編物経編と横編を理解し、編物の基本組織学ぶ。近年、使用量の増加している不織布等、その他の布帛についても学習する。	配付プリントの「編物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第10回	繊維の分類（1）－植物性天然繊維－	植物性天然繊維の構造と特徴を理解する。	配付プリントの「植物性天然繊維」を読んでおくこと。	180分
第11回	繊維の分類（2）－動物性天然繊維－	動物性天然繊維の構造と特徴を理解する。	配付プリントの「動物性天然繊維」を読んでおくこと。	180分
第12回	繊維の分類（3）－化学繊維－	化学繊維の紡糸法を理解し、繊維製造の概要を理解する。	配付プリントの「化学繊維の紡糸法」を読んでおくこと。	180分
第13回	繊維の分類（4）－化学繊維－	レギュラー合成繊維の特徴と改質技術についての概要を理解する。	配付プリントの「合成繊維と改質」を読んでおくこと。	180分
第14回	繊維製品の消費性能	繊維製品の消費性能のうち特に快適性に寄与する強度に関する性能と着心地に関する性能について理解する。また、グループに分かれて、今着用しているものはどのようなものか（素材、色、形等）について調査し、集計をして、発表する。結果をこの授業の第1回目と比較し、快適な被服についてディスカッションを行う。	配付プリントの「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。	180分
第15回	繊維製品と環境問題	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている環境問題について理解する。	配付プリントの「繊維製品と環境問題」を読んでおくこと。	180分
第16回	筆記試験			

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 提出課題に対しての修正、コメント。
評価方法	①筆記試験 ②課題提出（内容の理解、完成度、提出日の順守について評価） ③平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）
評価基準	
評価基準	
評価割合	筆記試験60% 提出課題20% 平常点20% を総合的に評価
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒蔵編著 建帛社発行 平成14年第4刷) ②最新テキスタイル工学II (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	水曜日 4 限後半～5 限前半 2407 被服材料学研究室

学生へのメッセージ

被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	衣繊維学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	糸や布の原料である繊維材料として的高分子、その集合体である繊維の構造や性質を微細構造的に捉え、天然繊維、化学繊維の特徴を理解する。更に、高感性繊維、高機能性繊維等の話題の繊維とその繊維に施された技術や発想の原点を学び、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか、いかに新しい性質を持つようになったか等について考察する力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣繊維学の概要	衣繊維学の講義内容について概説する。グループに分かれて、今着用している衣服はどのような素材からできているか調査し、集計して発表する。	グループワークの調査結果をまとめておく。身近にかわった繊維がないか調べておくこと。	180分
第2回	繊維高分子の構造	繊維の構造はどのようなものか、特に衣料用繊維は鎖状高分子であり、結晶性高分子であることが重要な要素であることを理解する。	配付プリントの「繊維高分子の構造」を読んでおくこと。	180分
第3回	セルロース繊維-綿・麻-	セルロース繊維である綿と麻の微細構造を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の構造」を読んでおくこと。	180分
第4回	タンパク質繊維(1)-羊毛-	タンパク質繊維である羊毛の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維-羊毛-の構造」を読んでおくこと。	180分
第5回	タンパク質繊維(2)-絹-	タンパク質繊維である絹の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維-絹-の構造」を読んでおくこと。	180分

第6回	再生繊維・半合成繊維	再生繊維（キュブラ、レーヨン）と半合成繊維（アセテート）の微細構造を理解する。	配付プリントの「再生繊維・半合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第7回	合成繊維 （1）－ナイロン－	ナイロン繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ナイロン繊維」を読んでおくこと。	180分
第8回	合成繊維 （2）－ポリエステル－	ポリエステル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ポリエステル繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成繊維 （3）－アクリル－	アクリル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「アクリル繊維」を読んでおくこと。	180分
第10回	合成繊維 （4）－その他の合成繊維、生分解性合成繊維－	その他衣料用繊維として汎用性の高い繊維や、近年注目されている生分解性合成繊維の構造を理解する。	配付プリントの「その他の合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第11回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（1）	高機能性繊維の発想の原点とその背景を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（1）」を読んでおくこと。	180分
第12回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展（2）	高機能性繊維の製造技術の進展と技術要素を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（2）」を読んでおくこと。	180分
第13回	バイオミメティック繊維	バイオミメティック（生体模倣）の繊維の着眼点と技術要素を理解する。	配付プリントの「バイオミメティック繊維」を読んでおくこと。	180分
第14回	進化を続ける高機能繊維	繊維の製造技術は進化し続け、私たちの周りには従来品を超える新しい高機能繊維があふれていることを理解し、快適な衣生活とは何か考察する。	配付プリントの「進化を続ける高機能繊維」を読んでおくこと。	180分
第15回	持続可能な衣生活	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている諸問題について理解する。DVD観賞。	DVDを見て感じた事、考えたことを整理してまとめておくこと。	180分
第16回	筆記試験			

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。

評価方法 筆記試験
平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合 筆記試験80% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜プリントを配布

参考図書
①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒蔵編著 建帛社発行 平成14年第4刷)
②最新テキスタイル工学II (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)
③新繊維学材料入門 (ISBN4-526-03172-01 宮本武明 本宮達也著 日刊工業新聞社発行 2004年)
④繊維の科学 (ISBN978-4-526-07641-1 日本繊維技術士センター編 日刊工業新聞社発行 2016年)

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。	
オフィスアワー	水曜日 4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	繊維製品試験法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	快適な衣生活を送るため、繊維製品試験の原理と方法、得られる測定結果と評価について講義する。JIS試験方法を中心に、品質管理やクレーム処理のための試験方法について概略を解説し、繊維製品試験の目的とその方法について理解することを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	繊維製品の品質管理や苦情処理のための試験方法と評価方法を知る
思考・判断の観点 (K)	各種試験方法がどのような品質と関わっているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	繊維製品試験の目的	繊維製品の定義及び繊維製品試験の種類を知る	配布プリントを読んでおくこと	180分
第2回	繊維の種類と試験方法	各種繊維の特徴及び鑑別の方法を知る	身の回りにおける繊維製品の繊維組成を調べる	180分
第3回	糸及び織物の試験	糸の試験方法及び織物の種類とその試験方法について織物標本観察を行いながら理解する	身の回りにおける織物の種類を調べる	180分
第4回	布の種類と試験	布の種類と特徴及びその試験方法を理解する。	配布プリントを読んでおくこと	180分
第5回	布の品質要求項目と消費性能	布の品質要求項目と消費性能について理解する	配布プリントを読んでおくこと	180分
第6回	中間まとめと解説	1回から5回までの内容について振り返りのテストを行い、これまで内容を整理、理解する。	これまでの配布プリントを読んでおくこと	180分
第7回	衣料品の消費性能1	衣料品の形態安定性、外観変化の試験法について理解する	配布プリントを読んでおくこと	180分

第8回	衣料品の消費性能2	衣料品の風合い及び着心地の評価方法について理解する	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第9回	衣料品の消費性能3	衣料品の縫製部位試験方法及び耐久性などの試験方法を知る	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第10回	その他の試験方法	帯電性や燃焼性に関する試験方法を知る	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第11回	染色堅ろう度	染色堅ろう度試験の種類と各種試験方法について知る	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第12回	繊維製品の欠点と原因1	繊維製品の事故事例を取り上げ、その原因と対策について理解する	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第13回	繊維製品の欠点と原因2	繊維製品の事故事例を取り上げ、その原因と対策について理解する	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第14回	繊維製品の欠点と品質3	繊維製品の事故事例を取り上げ、その原因と対策について理解する	配布プリントを讀んでおくこと	180分
第15回	品質管理	これまでの授業を振り返り、繊維製品試験の各種試験方法についてまとめを行う	配布プリントを讀んでおくこと	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。																												
学生へのフィードバック方法	中間試験は20問程度の穴埋め方式で出題します。採点して返却しますので、理解度の確認に利用してください。																												
評価方法	定期試験は中間試験の振り返りを含んだ内容で出題します。糸や布、繊維製品の品質について強度や寸法変化に関する試験方法と評価方法及び染色堅ろう度試験方法についての知識と各種試験方法がどのような品質に関わっているのかについて穴埋め問題と記述式問題で知識と理解を評価します。試験の傾向については授業の中で説明します。																												
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	定期試験	○	○																	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
定期試験	○	○																											
評価割合	定期試験100%とする。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。適宜プリントを配布する。																												
参考図書	①JISハンドブック31繊維／日本規格協会 ②新訂3版繊維製品の基礎知識 第2部家庭用繊維製品の製造と品質／日本衣料管理協会 刊行委員会 編 / 一般社団法人日本衣料管理協会 ③繊維製品試験入門／木藤 他／三共出版 ④被服の機能性保持／日本家政学会編／朝倉書店																												
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】「衣」の分野において繊維製品試験を理解できる専門的知識を有している。 【思考判断】繊維製品についての諸課題を客観的に理解し適切な方法を選択できる力を身につけている。																												
オフィスアワー	月曜2限 2406研究室																												
学生へのメッセージ	1級衣料管理士の資格取得に必要な科目です。繊維製品になぜその試験が必要なのかを考えてください。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育															
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング																													
情報リテラシー教育																													

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	染色学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する境界領域の科学である。色についての基礎的理解を深め、天然・合成染料の化学構造、化学構造と性質・分類などの一般的概念、及び染色の基礎理論を理解する。更に、伝統的な染色方法、現代の染色について学び、染色加工の問題について考察する力を育成する。
履修条件	なし（染色学実験を併せて履修することが望ましい）

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	染色学の概要	染色学の講義内容について概説する。染色とはどのような現象か、染料と顔料の違いは何か理解できる。	身近な衣服で染料で染色されたものと顔料でプリントされたものを探してみる。	180分
第2回	染色の歴史	染色の起源はいつどのようなものであったか、またどのように発展してきたかを学び、染色に使われてきた天然染料と合成染料の概要を理解する。	配付プリントの「染色の歴史」を読んでおくこと。	180分
第3回	染色の方法と条件	浸染や捺染等の染色加工法の概要、及び、時間、温度、浴比、濃度等、染色時の設定条件を理解する。	配付プリントの「染色の方法と条件」を読んでおくこと。	180分
第4回	光と色	色を認識するためには、「光」「物体」「視覚」の三要素が必要であること、特に可視領域の電磁波と色は密接な関係があることを理解する。	配付プリントの「光と色」を読んでおくこと。	180分
第5回	染色性の評価法	染色化学においては、染料液の濃度や染色布の染着量などを科学的に測定することが基本となるため、染料液の吸光度測定と繊維表面の反射率測定により色素濃度を測定することを理解する。	配付プリントの「染料及び染色物の評価」を読んでおくこと。	180分

第6回	天然染料の概説と伝統的な染色方法	代表的な天然染料を染料の実物や染色物を確認しながら理解する。伝統的な染色技法についても解説する。	配付プリントの「天然染料」を読んでおくこと。	180分
第7回	染色の基礎理論 (1)	染色過程における染料の染着挙動を理解する。	配付プリントの「染色とは①」を読んでおくこと。	180分
第8回	染色の基礎理論 (2)	染色過程における繊維内部への染料の拡散挙動を理解する。	配付プリントの「染色とは②」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成染料の概説	合成染料開発の背景を理解する。	配付プリントの「合成染料」を読んでおくこと。	180分
第10回	合成染料の分類	各種合成染料の特徴を理解し、各々に適用繊維があることを理解する。	配付プリントの「合成染料の分類」を読んでおくこと。	180分
第11回	繊維と染料の結合力	繊維と染料間に結合力（ファンデルワールス結合、水素結合、イオン結合、共有結合と配位結合）が生じるために染色ができることを理解する。	配付プリントの「結合の種類とその力」を読んでおくこと。	180分
第12回	セルロース繊維の染色	セルロース繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第13回	タンパク質繊維の染色	タンパク質繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第14回	合成繊維の染色	合成繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「合成繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第15回	染色に関するトラブル	染色物の変退色、事故品、色に関わるトラブル、染色の環境問題について理解する。	配付プリントの「染色に関するトラブル」を読んでおくこと。	180分
第16回	筆記試験			

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。

評価方法 筆記試験、平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○	○	
平常点			○	

評価割合 筆記試験80% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜プリントを配布

参考図書
 ①染色 理論と工芸染色 (青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第6刷)
 ②染色って何? やさしい染色の化学 (ISBN978-4-9902580-4-7 繊維応用技術研究会編 繊維社企画出版発行 2015年第3版)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

オフィスアワー 水曜日4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室

学生へのメッセージ 被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	染色学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	染色学の講義で習得した知識をもとに、1) 酸性染料の合成と羊毛の染色 2) ナフトール染料による木綿の染色 3) 塩基性カチオン染料によるアクリルの染色 4) 建築め染料による木綿の染色 5) 天然繊維、合成繊維に対する各種染料の染色等のテーマについて、さまざまな染色条件での実験や測色に関する実験を実施し、染色に関する基礎理論を理解し、実践できる力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	染色学実験で行う実験内容、試料、器具の取り扱い等について概要を説明する。レポートの書き方や情報検索の方法についても解説する。	実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。	45分
第2回	酸性染料 Orange II の合成(1)	酸性染料 Orange II の合成方法を理解し、グループ毎にカップリング反応の準備をする。	実験書(p.1~2)「酸性染料 Orange II の合成」の英文を訳してくること。	120分
第3回	酸性染料 Orange II の合成(2)	ジアゾ化反応、カップリング反応を理解し、グループ毎に酸性染料 Orange II を合成する。	実験書(p.1~3)「酸性染料 Orange II の合成」の英文と「Direction」を読み、Orange II の合成方法を確認しておくこと。	60分
第4回	酸性染料 Orange II による羊毛繊維の染色	合成した酸性染料 Orange II を使用し、羊毛繊維の染色を行う。グループ毎に酸性度の条件を変化させ、酸性染料の染色に及ぼす酸性度の影響について考察する。	実験書(p.4~6)「Orange II による羊毛の染色」を読んでおくこと。 酸性染料 Orange II の合成と羊毛	135分

			繊維の染色のレポートを作成する。	
第5回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（1）	グループ毎に繊維上で染料を合成する染色法のナフトール染料を用いて木綿の染色を行う。下付け液を合成し、顕色剤として、Fast colour saltを用いる。更に、ソーピングの方法と効果を理解する。	実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読んでおくこと。	60分
第6回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（2）	グループ毎にジアゾ化反応を行い、顕色剤を合成してナフトール染料による木綿の染色を行い、不溶性アゾ染料の染色方法を理解する。	実験書（p.7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読み、顕色剤の合成方法を確認しておくこと。 ナフトール染料による木綿の染色のレポートを作成する。	120分
第7回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（1）	カチオン染料によるアクリル繊維の染色を行う。グループ毎に染色温度を変化させ、染着に及ぼす温度効果について検討する。	実験書（p.18～20）「アクリル繊維の染色」を読んでおくこと。	60分
第8回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（2）	カチオン染料水溶液の検量線の作成、及び、アクリル繊維を染色した後のカチオン染料残液の可視吸収スペクトル測定を行い、染着量を算出する。	可視吸収スペクトル測定値より、検量線となるグラフ、及び染着量の温度依存性の結果をグラフにまとめる。	90分
第9回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（3）	カチオン染料で染色したアクリル繊維の測色を行う。試料の反射率測定の結果から、K/S値を算出し、染色された色を客観的に分析する。	カチオン染料によるアクリル繊維の染色のレポートを作成する。	120分
第10回	木綿の建築め染料による染色（1）	インジゴのヒドロサルファイト建築め染料を用いて木綿の染色を行い、建築め染料の染色機構を理解する。参加回数の効果について検討する。	実験書（p.21、22、24、25）「木綿の建築め染料による染色ーインジゴのヒドロサルファイト建築め染料ー」を読んでおくこと。	60分
第11回	木綿の建築め染料による染色（2）	アントラキノン系建築め染料を用いて、温浴法中色染色により木綿の染色を行う。染色時間の効果について検討する。	実験書（p.23、26、27）「木綿の建築め染料による染色ーアントラキノン系建築め染料ー」を読んでおくこと。 木綿の建築め染料による染色のレポートを作成する。	120分
第12回	各種染料による染色（1）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計6種を染色温度と時間の条件を変化させ、直接染料と酸性染料で染色実験を行う。	実験書（p.28、29、30）「各種染料による染色」「直接染料による染色」「酸性染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第13回	各種染料による染色（2）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計6種を染色温度と時間の条件を変化させ、塩基性染料と分散染料で染色実験を行う。	実験書（p.28、31、32）「各種染料による染色」「塩基性染料による染色」「分散染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第14回	各種染料による染色（3）	三大天然繊維と三大合成繊維計6種を、染色温度と時間の条件を変化させ、4種の染料で染色した試料を整理、分析し、繊維による染色性の違いと温度と時間の効果を総合的に考察する。	各種染料による染色のレポートを作成する。	120分
第15回	総合的考察	全体的実験結果を振り返り、各種染料の用法と染色方法、染料と繊維の染着機構を考察する。	繊維と染料間に働く親和力について整理する。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。			
評価方法	①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価） ②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価）			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価	
使用教科書名 (ISBN番号)	染色学実験実験書	
参考図書	染色 理論と工芸染色 (青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第6刷)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。</p> <p>【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>	
オフィスアワー	水曜日 4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	各実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレル設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

被服設計の基礎知識として衣服の分類、人体の構造と計測、体型の特徴と衣服、JISサイズ、衣服原型の設定、身頃・袖・衿・スカート原型のデザイン展開、服飾素材・副資材の選定、立体化の技法、縫製の基礎、衣服の評価などについて学び、衣服製作の製図、材料、縫製のデザイン（設計）を理解することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル設計論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人体計測1	既製服の誕生から量産の背景、量産のために必要な人体計測機器について理解する。	教科書「人体形態の把握」(5～11)を読んでおくこと。	180分
第2回	人体計測2	計測方法について理解し、身頃原型の製図に必要な項目をグループで計測する。	教科書「基準線から」(11～30)を読んでおくこと。計測は衣服の上から行うが、厚い上着の場合は脱げるような服装でやること。	180分
第3回	体型の特徴1	個体差、成長と老化、性差、人種差について理解する。	教科書「人体分析」(32～36)を読んでおくこと。	180分
第4回	体型の特徴2	個体差、成長と老化、性差、人種差について理解する。	教科書「人体分析」(32～36)を読んでおくこと。	180分
第5回	パターン設計(身頃原型)1	立体的な人体と平面的な身頃原型について立体裁断の身頃から形態を把握する。身頃原型の(身頃部分)の製図作成のための数値計算を学ぶ。	教科書「パターン設計」(37～40、45～46)を読んでおくこと。	180分
第6回		実物大の身頃原型(身頃部分)の製図と点検をする。		180分

		できる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー		木曜日12:30~14:00
学生へのメッセージ		身頃原型は服作りで最も基本的な体型を表現する基型です。 この授業では身頃原型を製図し、後期の服飾造形実習Bで使用します。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	副資材を扱っているファスナー会社の講師に特別授業を依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	服飾造形実習C		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)	裏付2枚袖のテーラードジャケットを課題とし、素材の種類、ジャケットの構成とシルエット、パターンメイキング、芯地・裏地の扱い、プレス仕方、ポケットの種類と縫製等を学んで立体的な形態を造形する総合的な知識と制作技術を習得する。
履修条件	服飾造形実習A、Bを履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣服に関する分野の諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣服に関する分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣服に関する分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣服に関する分野の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

服飾造形実習C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	ジャケットのデザイン条件と材料	ジャケットの歴史、シルエット、デザイン条件、副資材、生地、製図の準備をする。
第2回	製図(身頃・衿)と生地標本	身頃と衿の製図を仕上げ、ジャケットに適した生地標本を製作してその特徴を把握する。
第3回	製図(袖)とパターン展開(表衿、見返し)	袖の製図を仕上げ、パターン展開と型紙づくり(トレース袖以外)、地直し、生地の見積もりを学ぶ。
第4回	袖の型紙づくり、裁断、芯の接着、印付け	型紙づくり(トレース袖)、表生地・芯の裁断と接着(身頃、袖、別布の衿・ポケット・ボタン)、切りじつけを学ぶ。
第5回	仮縫い合わせ	身頃、袖、袖付け、仮の衿などの縫い合わせを学ぶ。
第6回	試着点検(仮縫い)と裏地・衿・見返しの裁断	点検後に補正(型紙・表地の修正)をし、袖の裏地用型紙を作成して袖、衿、ポケット等の裁断について学ぶ。
第7回	袖の縫製1	表と裏の袖と袖口、フラップポケットについて学ぶ。

第8回	袖の縫製2	裏袖と表袖をを合わせ、中綴じ、袖口の仕上げを学ぶ。
第9回	表身頃作り	テープ管張り、ダーツ縫い、前、後ろ、脇、肩の縫い方を学ぶ。
第10回	表身頃の衿つけ、裏身頃作りと衿つけ	衿つけ、裾、見返し、肩、箱箒ケットの仕上げなどを学ぶ。
第11回	ポケット作り、表裏の身頃合わせの準備	ポケット作りとつけ方、身頃を合わせ衿の四つ止めについて学ぶ。
第12回	表裏の身頃合わせ	表裏の身頃合わせ（前端しつけ、ミシン、縫い代処理、衿の中綴じ、裏の仕上げ）について学ぶ。
第13回	袖付け仮縫い、中仮縫い（袖付け）点検	点検後、袖付けの本縫い、袖ぐり処理（ドミット芯、肩パット）について学ぶ。
第14回	裏地の袖ぐりち裾上げ、ボタンホール	袖ぐりを細かくまつり、ボタンホール（特殊ミシン使用）、ボタン付け、仕上げについて学ぶ。
第15回	着装発表、レポート提出	コーディネートをして着装し、デザインの特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。

学生へのフィードバック方法	製図・部分縫いのコメント、作品と発表への講評
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図、部分縫い、作品、発表

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
製図	○	○	○	○
部分縫い	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合	平常点40%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図10%、部分縫い10%、作品30%、発表10%
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	ジャケットの構造、パターンメイキング、縫製知識と技術などを学ぶことで、あらゆる日常の衣服をデザイン・制作できる応用力が身に付きます。ジャケットは作業工程数が多いので、次の授業までの準備を必ず行ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	作品を着装し、デザインの特徴や素材について調べて発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	アパレル商品論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

アパレルにおけるマーケティング、企画、設計、商品、販売、小売企業などを具体的な事例を交えて学び、ファッションビジネスを理解する。また、今日のファッション業界および将来について自分の考えや意見をまとめ、パワーポイントを使用し、口頭でわかり易く他者に説明できることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル商品論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アパレル業界の現状1、プレゼンテーションの説明	アパレルの生産地の移動やファストファッションの状況について理解する。	発表のテーマを探すために、5月上旬までにアパレル業界、ファッション、衣服に関する書籍2冊以上を選択すること。選択した書籍のタイトル、概略を5月中旬に提出する。	180分
第2回	アパレル業界の現状2	アパレルの生産地の移動やファストファッションの状況について理解する。	5月上旬までにアパレル業界、ファッション、衣服に関する興味のある書籍を2冊以上選択して読むこと。	180分
第3回	ファッションの変遷1	近代の服装から現代(20世紀前半)までの服装について理解する。	アパレル業界、ファッション、衣服に関する書籍を2冊以上読むこと。	180分
第4回	ファッションの変遷2	20世紀後半の服装について理解する。	アパレル業界、ファッション、衣服に関する書籍を2冊以上読むこと。	180分

	該当 有無	
実務経験を活かした授業	○	商品企画、ブランディングなどの経験のある講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング	○	自主的に課題に取り組み、発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報収集や発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	テキスタイルデザイン実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場 美和子	指定なし

授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、目的や用途に合った物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に企画、設計、選択できる力を身に付けるため、手織機により三原組織（平織・斜文織・朱子織）の基礎織の設計及び制作により、テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を理解できるよう解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 織物組織、糸と密度の関係、風合いについて理解を深める。 2. 手織機の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 用途に合った布の仕上げ、表現ができる。 2. 手織機のセッティングと操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	織物の概要。基礎制作「三原組織の色糸配列効果」の課題説明。一人一台手織機を使用し2色以上のコントラストのはっきりしたウール糸を用いて異なる配列を作りパターンを製作する。	経糸の配色を決めること。機結びを練習する。	120分
第2回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	整経をする。	経糸アレンジメントの表を理解する。整経を終わらせること。	120分
第3回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	機ごしらえ(蔑通し、綜統通し、織り付け)をする。	機ごしらえを終わらせること。	120分
第4回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	平織、斜文織の製織をする。	製織を終わらせること。	120分
第5回		平織、斜文織の組織図を作成する。色鉛筆を使用し実際に織った布を図式化して織物組織を理解する。	組織図を完成させること。	180分

	基礎織：三原組織の色糸配列効果			
第6回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	朱子織の機ごしらえ（綜統通し、箆通し、織り付け）をする。	織り付けを終わらせること。	120分
第7回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	朱子織を製織する。房を毛糸織じ針でかがり始末する。応用制作：プレゼントの課題説明をする。	製織を終わらせ、房の始末をすること。	120分
第8回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	平織、斜文織の房の始末をする。平織はネクタイ結び、斜文織はフリンジで始末し、デザインや用途によって使い分けることを学ぶ。布を縮絨し風合い出しをする。	房を始末し、縮絨を終わらせること。アイロンがけをしておくこと。次回からの応用制作「プレゼント」のレポート作成を完成させること。	予習：180分 復習：240分
第9回	応用制作：プレゼント	「プレゼント」のプレゼンテーションをする。プレゼントしたい相手とアイテムを設定し織物を制作する。織物設計表を作成する。	使用糸を決めておくこと。織物設計表を完成させること。	120分
第10回	応用制作：プレゼント	経糸アレンジメントを作成し、整経をする。	整経を終わらせること。	120分
第11回	応用制作：プレゼント	機ごしらえをする。（箆通し、綜統通し、織り付け）	機ごしらえを終わらせること。	120分
第12回	応用制作：プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて、織り進める。何センチ織ったかを測って記録を付ける。	作業時間を記録し、製織作業を進めておくこと。	240分
第13回	応用制作：プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて織り進める。	織り上げること。	240分
第14回	応用制作：プレゼント	布を仕上げる。用途、素材に合った仕上げをする。デザインに沿った縫製をする。	布の仕上げ、縫製を完成させる。	240分
第15回	応用制作：プレゼント	講評をする。課題「プレゼント」の作品を発表する。受講生同士で感想を述べ、意見交換をする。	提出物のまとめをする。作品、織物設計表と中間レポートを提出すること。	予習：120分 復習：180分
学習計画注記		履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。		
学生へのフィードバック方法		期末提出物は採点し、返却する。		
評価方法		期末提出物は3課題とし第1課題「基礎制作」は織物組織を理解しているか、布の仕上げが出来ているかを評価第2課題「中間レポート」は制作意欲やアイデアを評価、第3課題「応用制作」はコンセプトと作品が合っているか仕上げの丁寧さを評価する。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○			○
中間レポート			○	
平常点・授業姿勢	○			
評価割合		期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60% 平常点・授業姿勢 30% 中間レポート（発表を含む）10%		
使用教科書名 (ISBN番号)		プリント資料配布		
参考図書		ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社 手織のデザイン基礎編 長谷川愛子著 1979年9月源流社 ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】「衣」について専門的知識・技能を有している。グローバルな視点から「衣」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。		
学生へのメッセージ		織り実習では織機を1人1台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。学校にある糸を原則使用しますが、使用したい糸がない場合は各自購入してください。		
教育等の取組み状況				

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有しており、作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ウィービングデザイン演習 A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場 美和子	指定なし

授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、目的や用途に合った物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に企画、設計、選択できる力を身に付けるため、手織機により三原組織（平織・斜文織・朱子織）の基礎織の設計及び制作により、テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を理解できるよう解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 織物組織、糸と密度の関係、風合いについて理解を深める。 2. 手織機の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 用途に合った布の仕上げ、表現ができる。 2. 手織機のセッティングと操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	織物の概要。基礎制作「三原組織の色系配列効果」の課題説明。一人一台手織機を使用し2色以上のコントラストのはっきりしたウール糸を用いて異なる配列を作りパターンを製作する。	経糸の配色を決めること。機結びを練習する。	120分
第2回	基礎制作：三原組織の色系配列効果	整経をする。	経糸アレンジメントの表を理解する。整経を終わらせること。	120分
第3回	基礎制作：三原組織の色系配列効果	機ごしらえ（股通し、綜就通し、織り付け）をする。	機ごしらえを終わらせること。	120分
第4回	基礎制作：三原組織の色系配列効果	平織、斜文織の製織をする。	製織を終わらせること。	120分

第5回	基礎制作： 三原組織の 色糸配列効果	平織、斜文織の組織図作成をする。色鉛筆を使用し実際に織った布を図式化して織物組織を理解する。	組織図を完成させること。	180分
第6回	基礎制作： 三原組織の 色糸配列効果	朱子織の機ごしらえ（綜通し、箆通し、織り付け）をする。	織り付けを終わらせること。	120分
第7回	基礎制作： 三原組織の 色糸配列効果	朱子織を製織する。房を毛糸縦針でかがり始末する。 応用制作：プレゼントの課題説明をする。	朱子織の製織を終わらせ、房の始末をすること。	120分
第8回	基礎制作： 三原組織の 色糸配列効果	平織、斜文織の房の始末をする。平織はネクタイ結び、斜文織はフリンジで始末し、デザインや用途によって使い分けることを学ぶ。布を縮絨し風合い出しをする。	房を始末し、縮絨を終わらせること。アイロンがけをしておくこと。次回からの応用制作「プレゼント」のレポート作成を完成させること。	予習：180分 復習：240分
第9回	応用制作： プレゼント	「プレゼント」のプレゼンテーションをする。プレゼントしたい相手とアイテムを設定し織物を制作をする。織物設計表を作成する。	使用糸を決めておくこと。織物設計表を完成させること。	120分
第10回	応用制作： プレゼント	経糸アレンジメントを作成し、整経をする。	整経を終わらせること。	120分
第11回	応用制作： プレゼント	機ごしらえをする。（箆通し、綜通し、織り付け）	機ごしらえを終わらせること。	120分
第12回	応用制作： プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて、織り進める。何センチ織ったかを測って記録を付ける。	作業時間を記録し、製織作業を進めておくこと。	240分
第13回	応用制作： プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて織り進める。	織り上げること。	240分
第14回	応用制作： プレゼント	布を仕上げる。用途、素材に合った仕上げをする。デザインに沿った縫製をする。	布の仕上げ、縫製を完成させる。	240分
第15回	応用制作： プレゼント	講評をする。課題「プレゼント」の作品を発表する。受講生同士で感想を述べ、意見交換をする。	提出物のまとめをする。作品、織物設計表と中間レポートを提出すること。	予習：120分 復習：180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。			
学生へのフィードバック方法	期末提出物は採点し、返却する。			
評価方法	期末提出物は3課題とし第1課題「基礎制作」は織物組織を理解しているか、布の仕上げが出来ているかを評価第2課題「中間レポート」は制作意欲やアイデアを評価、第3課題「応用制作」はコンセプトと作品が合っているか仕上げの丁寧さを評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○			○
中間レポート			○	
平常点・授業姿勢	○			
評価割合		期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60%平常点・授業姿勢（30%） 中間レポート（発表を含む）10%		
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント資料配布			
参考図書	ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社 手織のデザイン基礎編 長谷川美子著 1979年9月源流社 ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太田星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」について専門的知識・技能を有している。グローバルな視点から「衣」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。			
学生へのメッセージ	織り実習では織機を1人1台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。学校にある糸を原則使用しますが、使用したい糸がない場合は各自購入してください。			

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有しており、作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	テキスタイルアドバイザー実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
非常勤講師	未 定	指定なし

授業概要(教育目的)

繊維製品の試験、検査、企画、生産、流通、販売などの関連企業や、消費者行政機関などの該当部門において、45時間（1週間）以上の実習を行い、職場の現状を体得する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活デザイン分野の基礎的な知識を多角的に捉え、習得する。
思考・判断の観点 (K)	衣生活デザイン分野の各領域を総括的に捉え、被服に関する発展的学習に備えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活デザイン分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	衣服に関する分野の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

テキスタイルアドバイザー実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	事前説明会	実習先（販売・検査機関等）の調査、実習の心得、報告書・お礼状の書き方などを理解する。
第2回	事前TA報告会	前年度の実習生報告会に出席し、実習内容や報告の仕方などを理解する。
第3回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第4回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第5回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第6回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第7回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第8回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第9回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。
第10回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。

第11回	学外実習	各企業実習先（販売等の店舗や試験機関）の課題の説明を理解する。		
第12回	お礼状の作成・点検・発送	ビジネスレターの基本を調べてお礼状の書き方を理解する。 （教員の点検を受けて実習終了後1週間以内に発送する。）		
第13回	報告書の作成と実習ノートの整理	実習記録ノートに整理した実習内容を基にして報告書を作成の仕方を理解する。 （その後、実習記録ノートと報告書を提出する。）		
第14回	報告会の発表準備	実習内容や感想などをパワーポイントを使用して見やすく、わかりやすい内容の書き方を理解する。また、口頭発表では適した声の大きさや速さなどを学ぶ。		
第15回	TA報告会	パワーポイントや標本等を使用して、指定の時間内で報告をすることを学ぶ。		
学生へのフィードバック方法		レポートおよび報告会の口頭発表に対するコメント		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（実習、説明会、報告会の参加状況などを総合的に評価する。） ・レポート提出 ・報告会での口頭発表 		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	平常点			○
	レポート	○	○	○
	口頭発表	○	○	○
				○
評価割合		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点30%（実習、説明会、報告会の参加状況などを総合的に評価する。） ・レポート提出30%、 ・報告会での口頭発表40% 		
使用教科書名 (ISBN番号)		実習記録ノートを配布		
ディプロマポリシーとの関連		実習全般については、TA養成の主務教員が指導に当たり、各学生については実習先別の担当教員が必要に応じ個別に指導する。相談は随時各研究室で行う。		
オフィスアワー		木曜日12:30~14:00		
学生へのメッセージ		実習先が決まりましたら、実習先の仕事内容を調べてください。また、挨拶など一般的な礼儀、履歴書の書き方、お礼状の書き方についても身につけておいてください。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	企業・財団法人・地方自治体の関係機関にて実習する		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	消費科学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 藤田 雅夫	指定なし
外国人教師	金井 光代	指定なし

授業概要(教育目的)

衣料品を中心した繊維製品が多様化、消費者が個性化しているため、供給側と需要(消費者)側のあり方が問題になっている。
供給側から複雑化する経済の仕組みの中でアパレル・流通の体制、需要側から品質等を通して、現状を把握し、情報化、国際化の時代での今後のあり方を考察する力を育成する。
並びに、T A(衣料管理士)過程の必修科目のため、繊維製品の生産・流通・消費に関する知識を体系的に解説する。
夏季集中講義において、効率的に意識・態度の修得を図れるように指導する。

履修条件

T A(衣料管理士)過程の必修科目のため、資格取得を希望する学生は必ず履修すること。
集中講義のため、教科書を必ず持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 繊維・アパレル製品の品質について、必要項目と重視点を理解している。 2. 消費者行動と心理について、概要を理解している。 3. 繊維・アパレル産業について、その構造と現況を理解している。
思考・判断の観点 (K)	1. 繊維・アパレル製品の品質について、必要項目と重視点を理解し、品質とは何かを説明できる。 2. 消費者行動と心理について、概要を理解し、わかりやすく説明できる。 3. 繊維・アパレル産業について、その構造と現況を理解し、今後の方向性を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本の繊維・アパレル産業の未来について、消費者側の立場から、建設的な意見を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

消費科学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費科学とは?	消費科学について、その歴史や社会的役割を学ぶ。消費科学を学ぶ意義を、生産者と消費者の両者を繋ぐ橋渡し役が期待されているTAの立場から理解する。	事前に、テキスト(特に第一章)をよく読んでおく。	240分
第2回	消費者心理(理論編)	消費者が購買行動を起こすに至るメカニズムを学ぶ。マズローの欲求階層理論などにより、理論的に消費者の心理について学ぶ。	事前に自身が衣服を購入する理由や選ぶ基準について考えておく。	120分

第3回	消費者心理 (測定尺度 について)	被服心理学でよく用いられる被服行動を測定する尺度の紹介とこれらの尺度を用いた研究結果から、消費者心理について学ぶ。 また、理解度確認のための小テストを実施する。	事後に、テキスト、授業時に配布した資料をよく読み、授業で学んだことを整理する。	120分
第4回	繊維製品の 品質 (品質 管理につい て)	繊維製品に求められる品質とは何か、また一定以上の品質を保つために企業がやっている品質管理について学ぶ。	事前に、自身が衣服に求める品質について考えておく。	120分
第5回	繊維製品の 品質 (品質 表示につい て)	一定以上の品質が保たれていることを消費者に示すための品質表示の種類やその内容、記された表示の読み取り方と、衣服の取り扱いについて学ぶ。	事前に、自身が衣服に求める品質について考えておく。	120分
第6回	繊維製品の 品質 (品質 表示につい て)	品質表示の中でも、2015年に改正された家庭洗濯等取扱絵表示について学ぶ。	事後に、テキスト、授業時に配布した資料をよく読み、授業で学んだことを整理する。	120分
第7回	繊維産業の 歴史と現状	繊維産業が、日本の近代化に大きく貢献した時代推移について学び、現在の停滞状況との違いを比較しながら、今後の日本の繊維・アパレル産業の方向性を考える。	予習：テキスト4章の事前読み込み。日本の明治から現代までの繊維産業の流れを把握しておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第8回	繊維製品の 流通 (生産 と流通)	繊維・繊維製品の生産の実態と流通市場の構造、現況について理解する。	予習：テキスト4章の事前読み込み。私たちが着用しているアパレル製品は、主にどこで作られているか、自分の服の原産国はどこか調べておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第9回	アパレルの 企画から販 売 ファッション ビジネス の現状	アパレル製品の企画から生産、流通に至るまでを直近の情報も交えながら、解説する。生産から販売に至る各業種の個々の現状を理解する。	予習：テキスト4章の事前読み込み。アパレル製品が、私たちの手元に届くまでのプロセスを調べ、整理しておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第10回	アパレル製 品のマーケ ティング戦 略、ブラン ド戦略	マーケティングの基本的な概念とアパレル製品におけるマーケティング戦略、ブランド戦略について理解する。	予習：テキスト4章の再読み込み。自分が好きなアパレルブランドについて、その理由を考えておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第11回	アパレル製 品のブラン ド戦略、価 格戦略	アパレル製品におけるブランド戦略、および価格戦略について理解する。 ブランドの意義について、ディスカッションを通し考える。	予習：テキスト4章の再読み込み。自分が洋服を購入する時、価格を重視するかしないか、また、その理由を考えておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第12回	アパレル産 業の職種	アパレル産業には、どのような職種があるか、その職務内容と現況について理解する。 また、理解度確認のための小テストを実施する。	予習：テキスト4章の再読み込み。繊維・アパレル企業には、どのような職種があるか調べておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第13回	ファッショ ンビジネス のケースス タディ	具体的な企業を例にファッションビジネスの成功要因について考える。	予習：テキスト4章の再読み込み。対象企業について、どのような企業なのかを確認しておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みと疑問点を整理し、必要であれば、次回に質問する。	120分
第14回	繊維製品と 環境問題	繊維製品とこれを取り巻く世界の環境問題について学ぶ。	予習：テキスト5章の事前読み込み。世界の繊維産業が抱える環境問題について、調べておく。 復習：授業時配布資料の再読み込みを通じ、自分の考えを整理しておく。	120分

第15回	全体の振り返り	1～14回を通して、授業を振り返りながら、理解不十分な点を補完し、学んでいく。	予習：テキスト、配布資料の事前読み込みを通じ、自分の考えを整理しておく。 復習：これまでの授業を振り返り、レポートを作成する。	600分	
学習計画注記		※履修者数や進捗状況、直近の社会状況変化等により、スケジュールが変更になることがあります。 担当教員が二名のため、 1～6回（2日、3日） 金井 光代 7～15回（4日～6日） 藤田 雅夫 が担当します。			
学生へのフィードバック方法		授業内で適宜、質問や考察の時間を設ける他、毎日の終了後、リアクションペーパーを配布、回収し、翌日の授業内において回答する。 実施した小テストは、採点して、次の日の授業時に返却する。 レポートについては、採点后、後期に返却するので、確認をすること。			
評価方法		・小テストは、集中講義5日のうち、1日目と4日目の計2回実施する。配点は、各15点。 出題範囲は、当日の授業学習内とし、論述問題1問を予定している（教科書・配布資料持ち込み可）。 ・レポートは、70点満点とし、総合問題として提示された課題に対し、論述を行う。提出期限は、授業内で指示する。 ・小テスト及びレポートは、下記に示す力を養うことを目的に実施する。 ・具体的には、知識・理解の観点の到達目標に達することを単位修得の下限目標としている。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	小テスト	○	○		
	レポート	○	○	○	
評価割合		平常点：20%、小テスト：30%、レポート50%。で総合評価をする。			
使用教科書名 (ISBN番号)		『改訂 衣生活のための消費科学』 日本衣料管理協会刊行委員会/（社）日本衣料管理協会/平成30年			
参考図書		授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		（知識・理解）衣生活を中心に消費者の立場を考慮した専門的な知識を有している。 （思考・判断）繊維・アパレル産業における諸課題を論理的に分析し、考察することができる。 （関心・意欲・態度）繊維・アパレル産業における諸課題に関心を持ち、消費者の立場にたって、解決に向けた態度を有している。			
学生へのメッセージ		9月の集中講義は大変だと思いますが、その分、集中して理解できる内容の濃い授業にしたいと思います。衣料管理士資格取得に加え、繊維・アパレル業界への就職を検討している学生にとって、価値ある授業を目指します。 5日しかないので遅刻・欠席をせず、主体的に取り組んでください。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、二人ともファッション関連企業におけるマーケティング業務に関する実務経験を有しており、理論だけではなく経験に基づく実践的な内容、消費者の立場にたつた授業を心掛けている。			
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ディスカッションを含んだ対話型の授業進行により、学生が常に課題を考えながら、積極的に授業参加ができる環境を創っていく。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	衣環境衛生学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小柴 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)

快適で健康的・機能的な被服の在り方を人体の生理衛生的観点から理解するため、被服の条件を「気候への適応性」「運動・動作への適応性」「皮膚の生理・衛生」の3つの視点から捉え、適切な被服素材、設計、着装が選択でき、現代社会における被服の健康問題について考察する基礎的な知識を習得することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	被服の素材、デザイン、着方および環境を含む衣生活全般について、専門的な知識を含めて修得し、その内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	快適で健康的・機能的な被服の在り方について、適切な被服素材、設計、着装の選択について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣料管理士として、健康的な衣生活について専門的な知識や情報収集能力を持つことを自覚できる。
技術・表現の観点 (A)	人体生理衛生に関する事象に対して実証的に調べる基礎的な方法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	着心地のよい衣服の条件	オリエンテーション 衣環境衛生学の目的、研究対象と範囲、快適性・健康性とは何か。
第2回	I 温熱環境と人体—温熱環境要素と総合指標 1) 寒暑感を左右する環境条件	気温・湿度・ airflow・放射熱、温熱指標(不快指数、標準新有効温度) 自然環境と人工環境 不快指数、標準新有効温度の試算
第3回	I 温熱環境と人体—温熱環境要素と総合指標 2) 体温調節のしくみ	体熱平衡 産熱と放熱
第4回	I 温熱環境と人体—温熱環境要素と総合指標 3) 体温調節のしくみ	皮膚温分布、血圧、脈拍
第5回	I 温熱環境と人体 4) 発汗とエネルギー代謝	精神性発汗と温熱性発汗、汗の冷却効果、 安静時代謝と運動時代謝 エネルギー代謝測定法
第6回	I 温熱環境と人体 5) 快適衣服気候	衣服がつくる衣服内微気候の快適条件 着衣の熱抵抗、着衣の蒸発熱抵抗とその要因

第7回	I 温熱環境と人体 6) 暖かさの調節-寒さへの適応	衣服による暖かさの調節 素材・デザイン・着方の工夫と空気の役割 赤外線・遠赤外線の利用
第8回	I 温熱環境と人体 7) 涼しさの調節-暑さへの対応	防暑服の条件 蒸し暑い日本の夏の衣服の工夫 汗の吸収放散と素材の性質、涼しいパストや下着開発の現状
第9回	II 着衣の運動機能的快適性 1) 衣服圧の発生要因	人体の運動時変形、衣服の力学特性と衣服圧の関係 人体と衣服間の摩擦と運動機能的性
第10回	II 着衣の運動機能的快適性 2) 衣服圧の害とその原因 衣服圧が人体に及ぼす影響	ファンデーション等のマイナスゆとり服の設計方針 快適性との関係 評価法 ストレッチ素材衣服の設計と評価
第11回	III 皮膚の生理と衛生 1) 皮膚の構造と生理機能	皮脂、垢、汗等の生成と皮膚の汚れ、細菌増殖
第12回	III 皮膚の生理と衛生 2) 肌着、くつ下、寝衣に要求される性能と衛生	下着・寝衣の役割と条件
第13回	IV 衣料の安全性	衣料による皮膚障害、環境汚染
第14回	VI アパレルと環境	1) クールビズ、ウォームビズ、熱中症 2) 花粉症、UV、ダニ、カビ等と衣服特性との関係
第15回	VI アパレルと環境	3) 高齢社会におけるアパレル

評価方法

平常点とレポート

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
レポート	○	○		

評価割合

レポート (60%) 平常点 (40%)

使用教科書名 (ISBN番号)

アパレル生理衛生論 (一般社団法人 日本衣料管理協会)

学生へのメッセージ

教科書を持参して、必要な内容を毎回書き込んで使ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食品機能化学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食のおいしさ(2次機能)と、健康(3次機能)に関する多くの知見が報告されています。また、それらのメカニズムを利用して新しい食品素材や技術が次々と実用化されています。本講義では、食品の2次機能と3次機能のメカニズムと、製品への応用例を学んでいきます。</p> <p>【座学】9回；【グループワーク】5回；【演習】1回；計15回 このクラスは、期末試験があります。</p> <p>*教室について 【座学】2203；【グループワーク】ラーニングcommons；【演習】第1PC室</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・食品学I、食品学II、食品加工貯蔵学を履修していることが望ましい ・第1-5回；第6-10回；第11-15回の3クールを設定し、それぞれのクールで4-5人のグループを作ります。 ・初めのクールでメンバーをくじ引きで決めます。その後のクールは、なるべく異なるメンバーになるようメンバーの組み替えを行います。 ・グループワークでは、すべての履修生がファシリテーターとプレゼンターを経験できるようにします。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	代表的な食品成分や素材について、その2次機能と3次機能が理解できている。
思考・判断の観点(K)	2次機能と3次機能の研究とそれを応用した製品の課題を批判的に分析することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	食の2次機能と3次機能に関心を持ち、深く学ぶ意欲が養われている。
技術・表現の観点(A)	2次機能と3次機能の研究とそれを応用した製品を説明できる。また、それらの課題を批判的に論じることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【座学1】 ガイダンス・科学情報をどう読むか？	<ul style="list-style-type: none"> ・第1-5回のメンバーをくじ引きで決定します。 ・食品の2次機能と3次機能の概要と、科学情報がどのように作られるかを説明します。 	グループワークの課題を提示するので、次回授業日の前日9:00までに各自取り進むこと。 (Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第2回	【グループワーク①】 ガイダンス	グループワークの課題に取り組んでください。	振り返りを投稿してください (Google Classroomより質問が)	180分

	ス・科学情報をどう読むか？		発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	
第3回	【座学2】 統計とデータ解析の基礎	統計量と分布、母集団と標本、統計的仮説検定とp値、t分析と分散分析を説明します。	演習問題を出题しますので、次回の授業の時までにとりくむこと。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第4回	【演習】統計とデータ解析の基礎	基本統計量の計算、ヒストグラム、クロス集計、t分析を演習します。	演習問題を次回の授業の時までに復習しておいてください。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第5回	【座学3】 研究論文の読み方とデータの解析(まとめ)	研究論文のしくみと数値データの解析についてまとめの講義をします。	第1-5回の内容をよく復習してください。確認テストを次回の授業の時までに回答してください。(Google Formより発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第6回	【座学4】 2次機能の概要と研究方法/2次機能(外観とテクスチャー)	食品の物理的性質(外観とテクスチャー)を説明します。	グループワークの課題を提示するので、次回の授業の時までに各自取り組むこと。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第7回	【グループワーク②】 2次機能の概要と研究方法/2次機能(外観とテクスチャー)	グループワークの課題に取り組んでください。	振り返りを投稿してください (Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第8回	【座学5】 2次機能(化学感覚)	食品の化学感覚(化合物による味・香り・刺激)を説明します。	グループワークの課題を提示するので、次回の授業の時までに各自取り組むこと。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第9回	【グループワーク③】 2次機能(化学感覚)	グループワークの課題に取り組んでください。	振り返りを投稿してください (Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第10回	【座学6】 2次機能(まとめ)	2次機能についてまとめの講義をします。	第6-10回の内容をよく復習してください。確認テストを次回の授業の時までに回答してください。(Google Formより発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第11回	【座学7】 3次機能の概要と研究方法/食習慣と疾病	3次機能の概要と研究方法を説明します。食習慣と疾病の関係について説明します。	グループワークの課題を提示するので、次回の授業の時までに各自取り組むこと。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること。)	180分
第12回	【グループワーク④】 3次機能の概要と研究方法/食習慣と疾病	グループワークの課題に取り組んでください。	振り返りを投稿してください (Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第13回	【座学8】 食品中の3次成分/機能性食品	食品中の3次成分と機能性食品を説明し、社会における諸問題を説明します。	グループワークの課題を提示するので、次回の授業の時までに各自取り組むこと。(Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)	180分
第14回		グループワークの課題に取り組んでください。		180分

	【グループワーク⑤】 食品中の3次成分／機能性食品		振り返りを投稿してください (Google Classroomより質問が発信されるので次回授業日の前日9:00までに回答すること)		
第15回	【座学9】 3次機能のまとめ／ゲノム栄養学、味覚・嗅覚の分子機構、脳科学	3次機能についてまとめの講義をします。また、ゲノム栄養学、味覚・嗅覚の分子機構、脳科学など、進んだ研究について説明します。期末試験の内容について説明します。	第11-15回の内容をよく復習してください。確認テストを次回の授業の時までに回答してください。(Google Formより発信されるので翌週同曜日の前日9:00までに回答すること) 期末試験の準備を進めてください。	180分	
学生へのフィードバック方法		授業内で積極的に質問・コメントしてください。双方向の授業を展開します。こちらからもたくさん質問を投げかけます。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること(参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます) 課題の期限後の提出については、2/3の係数を掛けます。 筆記試験では、食品の2次機能と3次機能のメカニズムと製品開発についての理解度を測る問題を出題します。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業への参加度	○	○	○	○
	筆記試験	○	○		○
評価割合		授業への参加度 (4点×15=60点) 筆記試験 (40点)			
使用教科書名 (ISBN番号)		食品学 (第2版 補訂) (スタンダード栄養・食物シリーズ5) 東京化学同人			
参考図書		Google Classroomのクラスコード: t6ffu5o わかりやすい食品機能学 三共出版			
参考URL		https://classroom.google.com/u/0/c/Mjc3NzU1MDIwMTJa			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解／思考・判断】食品機能化学に関する知識を習得する。</p> <p>【関心・意欲・態度】食品機能化学が与える環境・社会・倫理への効果・影響について意見を述べるができる。</p> <p>【技能・表現】グループワークを通して、科学的根拠に基づいた批判的な思考と議論の習慣を身につける。</p>			
オフィスアワー		月曜日と水曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること			
学生へのメッセージ		テキストをよく予習し、講義を集中して理解するようにしてください。次に、グループワークの演習を通じて、自分の理解の正確性と深さを確認してください。最終的に、食のおいしさ(2次機能)と、健康(3次機能)が理解できているかどうかを確認してください。この科目は、食品科学のもっとも進んだ科目なので、初めは難しく感じられるかもしれませんが、大学らしい学びの奥深さと面白さを実感できると思います。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	【座学】では、食品の2次機能と3次機能の研究と製品開発の実際を講義します。(食品企業での研究開発の実務経験26年)			
アクティブ・ラーニング	○	【グループワーク】では、学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的絶対条件であるが、時代背景や社会情勢により要求される内容は変化する。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。食品に関連する衛生法規関連、食中毒原因物質、食品添加物や食品の関わる感染症や寄生虫との関係などの基礎的知識の習得と併せて、食品衛生管理手法や国内外の最新情報についても学ぶ。
履修条件	生物、化学、食分野に関連する教科の基礎知識を理解し、応用知識を有していることを前提に授業展開を行う内容もあるため、関連教科を既習していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 食品の安全に関する基礎知識を生物学的、化学的、物理的観点から説明できる。 2. 食品の安全に関する基礎知識を基に実際の現場における食品安全確保の応用的知識を説明できる。 3. 国内外の食品に関する食品の安全確保に留意すべき事項に関しても法令関係を含め、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食品の安全確保に関する事柄に科学的根拠を基に倫理的、批判的に思考・判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 国内外の食品の安全確保に関する事柄に倫理的、批判的に関心をもち、活用できる。
技術・表現の観点 (A)	1. 食品の安全確保のための専門的に知識を正しく文章に表すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の安全性	1. 私たちが食品に求めるもの、2. 食品生産から最終消費までの一貫した安全性確保、3. 食品の安全性と私たちの食生活を中心に次回以降の専門的知識を学ぶ、導入内容を理解する。	教科書;第1章「食品の安全性」(1~8ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の腐敗・変敗の防止	1. 食品衛生微生物の基礎知識、2. 食品の腐敗・変敗とその防止法を理解すること。	教科書;第2章「食品の腐敗・変敗とその防止」(9~24ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食中毒①	1. 食中毒の分類と発生状況、2. 微生物性食中毒を理解すること。	教科書;第3章「食中毒」(25~36ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	食中毒②	2. 微生物性食中毒を理解すること。	教科書;第3章「食中毒」(37~49ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第5回	食中毒③	3. 自然毒食中毒を理解すること。	教科書；第3章「食中毒」(50～53ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	食中毒④	4. 化学性食中毒、5. 食品が媒介する寄生虫・原虫感染症、6. BSEプリオンを理解すること。	教科書；第3章「食中毒」(54～59ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食品の安全性の確保①	1. 食肉・食肉加工品、2. 生鮮魚介類、3. 水産加工食品、4. 野菜・果実類、5. 牛乳・乳製品の安全確保を理解すること。	教科書；第4章「食品の安全性の確保」(61～73ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食品の安全性の確保②	6. 鶏卵、7. 惣菜類、8. 弁当、にぎり飯、米飯、調理パン、9. 食用油脂、および油脂を多く含む食品、10. 冷凍食品の安全確保を理解すること。	教科書；第4章「食品の安全性の確保」(73～84ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	家庭における食品の安全保持	1. まないた、包丁、ふきんと食品、2. 冷蔵庫、冷凍庫と食品、3. 電子レンジと食品、4. 台所用洗剤、漂白剤の使用法、5. 哺乳びんの衛生管理を理解すること。	教科書；第5章「家庭における食品の安全保持」(85～100ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	環境汚染と食品①	1. 環境汚染と食品汚染、2. 残留性有機汚染物質による食品汚染、3. 内分泌かく乱物質(環境ホルモン)による食品汚染を理解すること。	教科書；第6章「環境汚染と食品」(101～108ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	環境汚染と食品②	4. 農業による食品汚染、5. 有害金属による食品汚染、6. 放射性物質による食品汚染を理解すること。	教科書；第6章「環境汚染と食品」(108～114ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	器具および容器包装	1. 器具および容器包装とは、2. 容器包装材由来の食品汚染、3. 金属製容器、4. 陶磁器、ホウロウ、ガラス製容器、5. プラスチック製容器、6. レトルトパウチ、7. 器具・容器包装の表示を理解すること。	教科書；第7章「器具および容器包装」(115～122ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	水の衛生	1. 水道水、2. 水道水の水質基準、3. 塩素消毒、4. ミネラルウォーター類、5. 水を汚さないためについて理解すること。	教科書；第8章「水の衛生」(123～132ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品の安全流通と表示	1. 食品の表示、2. 食品添加物、3. 輸入食品、4. 遺伝子組換え食品、5. 食品とアレルギー、6. 発がん物質を理解すること。	教科書；第9章「食品の安全流通と表示」(133～176ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の安全管理	1. リスクアナリシス、2. HACCP(危害分析・重要管理点方式)、3. ISO 9000シリーズとHACCPの関係、4. ISO 22000食品安全マネジメントシステムについて理解する。	教科書；第10章「食品の安全管理」(177～191ページ)を読んでおくこと。 第1回～第15回の復習を行うこと。 「食品の安全性」に関する課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	1. 課題レポート[総合評価：20/100%]は第15回目の授業時に提示する「食品の安全性に関わる時事的課題」を定期試験当日に提出し、その内容を専門的知識・思考・判断・関心の観点より評価します。 2. 定期試験[総合評価：80/100%]（筆記試験；持ち込み不可）は教科書並びに授業内容を加味して、専門用語説明、正誤判断の選択問題、穴埋め問題を中心に専門知識理解、判断の判定のため、出題します。 以上の1. 課題レポートと2. 定期試験を併せた総合評価100%で最終判定を行います。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題レポート20%、定期試験(筆記試験)80%の総合評価(100%)とします。
使用教科書名(ISBN番号)	三訂 食品の安全性 第2版/建帛社 日本フードスペシャリスト協会 編

	A5/並製/2色/201ページ 発行年月日：2018年12月20日 定価：2,268円（本体価格：2,100円）	
参考図書	授業内で必要に応じて、適宜、紹介します。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品安全確保のための科学的根拠を事象例と併せて専門的知識を理解する。 【思考・判断】食品の安全確保のための事象に対し、倫理的観点を基に維持、改善の判断を下せる。 【関心・意欲・態度】食品の安全確保に専門的知識理解の観点から関心をもち、諸問題に対し、改善策を積極的に動く方向性を示せる。	
オフィスアワー	火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得てください。	
学生へのメッセージ	生活デザイン学科平成29年度入学までの学生対象で、フードスペシャリスト受験資格科目（協会指定科目：食品の安全性に関する科目）、フードコーディネータ3級申請必須科目であるため、食品学、食品加工学などの専門知識を前提に授業を進めます。関連教科を修得の上の受講が望ましいです。平成30年度開講までの教科書と同出版、同編集、同タイトルですが教科書内容が更新されています。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理と素材		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	食生活の源泉である食材は、多種多様である。それぞれの食材も調理条件により食味の異なった料理となる。日常使用頻度の高い食材について、その性質を生かした調理法を究めることにより、料理への創造性を養うことを目的とする。あわせて、素材の適性な組み合わせ、献立構成、地域の食材を使った料理の提案など調理全般についての応用力を養うことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食材の扱い方、調理特性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材の特性を生かした献立立案ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業のテーマ(食材)について調査し、まとめることができる。
技術・表現の観点 (A)	提案された課題について、情報収集をし適切なまた、創造的な調理法の提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要	授業の内容説明と評価法等を説明する。6週、9週目に予定している「地域の食材を利用した献立」の目的、流れを説明する。実習上の取り決めや実習室の使用方法について理解する。	次週の献立をノートに記入しておくこと。 6週、9週目に予定している「地域の食材を利用した献立」についての調査や下準備をしておくこと。	120分
第2回	米を主とした献立	千葉県産の郷土料理のひとつである、飾り巻きずしの実習を行う。また小鯛のてまり寿司、いなりずしなど、すしのバリエーションとその技術的な要点を学ぶとともに、巻きずしの切り口を生かした盛り付け方、配膳法を学ぶ。うるち米を加工した道明寺粉を用いて桜餅の実習を行う。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、米を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと	120分
第3回	小麦粉を主とした献立による実習(中国料理、点心)	小麦粉を使用した、包子饅頭(肉饅頭、豆沙饅頭)鍋貼餃子、杏仁酥餅の実習を通して、小麦粉グルテンの特徴とでんぷんの特徴が調理上どのように生かされ、嗜好性に影響するかも学ぶ。また、点心の意味合いと盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、小麦粉を用いた料理1品を調べて記入して	120分

			おくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。 トマトのレシピを考案し次週提出すること。	
第4回	いも類を主とした献立による実習(西洋料理)	ニョッキ ポロニー風ミートソース添え、アプリコットのクヌーデル、レタスのサラダ アンチョビーソースの実習を通して、西洋でのいも(じゃがいも)の調理法とその特徴も学ぶ。また、男爵、メークインの品種の違いと調理特性の違いと料理への適性を学ぶ。盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、いもを用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第5回	いも類を主とした献立の実習(日本料理) 地域の食材を使った献立立案	丸十ご飯(さつまいも)、たぬき汁(さつまいも、こんにゃく)、里芋といかの煮物(里芋)、新じゃがいもの梨もどき(新じゃがいも・男爵)、大和いもの磯部揚げ(やまといも)、じょうよう饅頭(やまといも)の一汁三菜と菓子の献立のすべてにいもを使用し、その扱い方と調理特性を学ぶ。また、横浜のトマトを使ったレシピの立案のため、生産者から講義をいただき生産から出荷までのプロセスについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、いもを用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第6回	トマトを使った料理・菓子の考案(試作・発表・試食)	前週のトマトの生産者からの講義をもとに考案したレシピをもとに試作を行い、レシピのコンセプト、調理法等の発表を行い、試食と評価を行う。また、発表・評価から良いものを選び、提案するレシピを決定する。	授業内での評価をもとに、提案するレシピ内容の修正を行う。	120分
第7回	豆類を主とした献立による実習(日本料理)	藤色飯(黒豆)、そら豆のすり流し汁(そら豆)、鯛の卵の花和え(大豆 おから) 擬製豆腐(大豆 豆腐、グリーンピース)、菓子(そぼろ菓子)岩つつじ(白花生、小豆)の実習を通して、豆類の種類と扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、豆を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第8回	魚介類を主とした献立の実習(日本料理)	冷沖魷魚(いかの酢のもの)、如意魚捲(魚のすり身の卵巻き)、糖酢魚(魚の丸揚げ甘酢あんかけ)、乾焼明蝦(殻付き車海老の辛み炒め)、干貝粥(干し貝柱の粥)、搾菜の実習を通して、以下、すり身、いさき、えび、干し貝柱の扱いを学ぶ。中国料理の盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、魚貝類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第9回	地域の食材を使用した料理・菓子の提案	第6週で提案・修正したレシピをもとに最終発表、試食・評価をおこなう。生産者そのほか関係者からも高評をいただく。	評価をまとめ、調理ノートに記入すること。	120分
第10回	魚介類を主とした献立の実習(日本料理 鯛づくしの献立)	鯛一尾を用いて、たいそぼろ飯、たい頭の潮汁、たい平作り、たい幽庵焼き、たい皮と野菜の胡麻酢和えの一汁三菜の実習を行う。鯛の下ろし方、部位と料理への利用法・調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートも学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、魚貝類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第11回	肉類を主とした献立による実習(中後k料理)	中国料理の、蘿蔔鶏絲沙拉(鶏もも肉)(大根と鶏肉のサラダ)、京醬肉絲(豚ひれ肉)(豚ひれ肉の味噌煮)、京醬肉絲(豚ひれ肉)(豚ひれ肉の味噌煮)、蠟油青花(牛もも肉)(牛肉とブロッコリーの炒め物)の実習を通して、鶏肉、牛ひれ肉、牛ももお肉、豚ロース肉、豚の背脂の特徴、扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートを学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、肉類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第12回	乳・乳製品を主とした献立による実習(トルコ・ギリシャ・ロシア料理等)	西洋料理の、ムサカ(ヨーグルト・チーズ) 茄子と牛肉のヨーグルトソース焼き、きゅりのサラダ(サワークリーム)、レモンフラン(生クリーム・牛乳・コンデンスミルク)、無塩バターの実習を通して、乳・乳製品の種類と適正な扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートを学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、乳・乳製品を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第13回	果物と野菜を主とした献立による	季節向きの野菜を主とした献立、みょうが飯、焼きなすの味噌汁、じゅんさい、かぼちゃの直煮、なすのはさみ揚げ、たこのきゅうりみぞれかけ、フルーツ白玉の実	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反	120分

	実習（日本料理）	習を通して、野菜・果物の扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・配置、テーブルコーディネートも学ぶ。	省、感想を記入し、野菜・果物を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	
第14回	果物と野菜を主とした献立による実習（西洋料理）	ラタトイユにペンネリガータを添えて、かぼちゃのコロケ、フルーツのサラダ、バナナ入りケーキの実習を通して、西洋での野菜・果物の利用法、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・配置、テーブルコーディネートも学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法（科学的、技術的要点）、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、野菜・果物を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第15回	素材の組み合わせによる献立による実習（日本料理：松華堂弁当箱への盛り付け）	日本料理、あなごの押しずし、酢どりみょうが、とろろ汁の味噌仕立て、茶筌茄子の揚げ煮、枝豆塩ゆで、干草卵、いかのチーズ焼き、切り干大根の酢の物、くず菓子黒蜜、において、これまでのすべての素材を用いた料理の実習を行い、松華堂弁当箱への盛り付け方なども学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法（科学的、技術的要点）、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入すること。	120分

学習計画注記 天候等で材料の搬入に影響がある場合は、内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法 デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。

評価方法

- ・平常点（授業への積極的な参加状況）30%。
- ・課題（レシピ考案と調理）30%は、獨創性、創造性、食味、盛り付け方などを評価する。
- ・ノートと課題（30%）の3種を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
課題（レシピ）	○			○
調理ノート	○			○

評価割合 平常点（40%、授業への参加状況）、課題（レシピ考案）（30%）、ノートと課題（30%）の総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号) プリントを配布する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー 火曜12時10分～13時（2108室）

学生へのメッセージ 授業で使用する主たる食品素材の特徴については、授業前または、授業後に調べてノートにまとめておくことと実習での作業に生かされます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	演習		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

授業概要(教育目的)	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	1) 研究要旨の合否判定 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する
------	-----------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。
-----------	--------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシ ー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>食文化的視点から調理実習をおこなう。諸外国の種々の料理の調理法、副材料との組み合わせ、調味法を実習を通して学び、気候風土や文化による違いと食事との関連をを理解する。</p> <p>日本国内の各地域の伝統的な郷土料理の実習、伝統食品や伝統野菜を用いた実習を通して食文化の特徴や背景を考える。また、欧米と日本のこども向け料理書のレシピの実習を通して、材料、調理法、諸注意等から食育と食文化的特徴を比較考察する。築地市場見学、日本料理（会席）の試食とプロの料理人からの説明などを通して、食材の流通の現状と食事様式とマナーの実際を学ぶ。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	粉食における無発酵、発酵について説明ができる。 京都の伝統野菜、伝統食品、雑穀の定義について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	国や地域による食文化的背景によって、食材の使われ方を分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食材の新たな調理法を考案できる。
技術・表現の観点 (A)	調査・実習した経緯・結果について適切な発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要と実習上の諸注意	授業の概要と評価方法を説明する。実習室の使い方や取り決めごとについて説明をする。	授業内容を調理ノートに記入すること。次週の献立も記録しておくこと。	120分
第2回	世界の粉飾文化(1) 無発酵生地 ①メキシコ トウモロコシ粉	メキシコ料理素材の一つであるトウモロコシ粉を使って、マサを作りこれに合わせたサルサ、料理を学ぶ。トウモロコシ粉の特徴を理解し、メキシコの調理器具マキナを使って生地(マサ)を作成し、無発酵生地の膨化方法を学ぶ。メキシコの気候風土、食文化も学ぶ。テーブルコーディネイトも学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第3回	世界の粉飾文化(2) 無発酵生地 ②インド	小麦粉、小麦全粒粉を使ってインドのプリ、チャパティ、サモサを作り無発酵の膨化について学ぶ。インドの地理的条件、気候風土と食文化の関係を実習を通して学ぶ。またこれらに合わせて、シーフードカレー、カ	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分

	小麦粉、小麦全粒粉	チュンパル、ラッシーの実習を通して香辛料についても学ぶ。		
第4回	世界の粉食文化(3)発酵生地 ③イタリア ④イギリス小麦粉	これまでの無発酵の生地に対し発酵生地を学ぶ。イタリアのピッツァ生地、イギリスのホワイトパンズを小麦粉を使用し実習し、発酵生地について学ぶ。また、イーストによる発酵させるパンの種類も学ぶ。生地に合わせたトマトソース、マルゲリータピッツァを実習する。ホワイトパンズ用にハンバーグとそのソースの調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第5回	世界の粉食文化(4)無発酵生地 ⑤北イタリア トウモロコシ粉、そば粉	北イタリアのポレンタ(トウモロコシ粉)、ピッツォケリ(そば粉)の実習を通して、それぞれの国特有の調理法を学ぶ。また、これらの地域の気候風土と食との関係も学ぶ。また、クレープの実習も行う。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第6回	世界の粒食文化 ①イタリア 米 ②スペイン 米	リゾット、米のコロッケ、トマトの米詰め、パエリア、ライスプディングを通して、諸外国の米料理の調理法の特徴を学ぶ。またそれぞれの国の気候風土と食との関係を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第7回	京の伝統野菜を使って(1)	京都の伝統野菜の定義を知る。また、伝統野菜(京えんどう豆・九条ねぎ・万願寺とうがらし・賀茂なす・京水菜・赤ずいき)を使って、えんどう豆ご飯、九条ねぎの難波焼き、賀茂なす田楽、京水菜とちりめんじゃこの炒め煮、赤ずいきの梅酢あえと葛餅の実習を行い、調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第8回	京の伝統野菜を使って(2)	第7回に続き京野菜(坊っちゃんかぼちゃ、青うり、やまのいも、さんどまめ、新しょうが(京都産))を新生姜飯、すいとろろ、締め鮎、加茂なすの揚げ煮、坊っちゃん南瓜の卵豆腐詰め、青うりと茄子のわさび酢和え、蜜豆の実習を行い、京野菜の特徴や扱い方を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第9回	粒食 雑穀を使って	雑穀の定義を学ぶ。また、アワ・ヒエ・キビ・ハトムギを使い、きびとはと麦・発芽玄米のご飯、雑穀豚汁、鶏のから揚げ、ひえの衣、あわ餅の実習を通して、その扱い方、調理法を学ぶ。小麦粉との栄養価の違いも学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第10回	日本の伝統食品を使って(1)	日本の伝統食品(三輪そうめん、凍みこんにやく、高野(凍み)豆腐、六条(浄)豆腐、納豆、麩、生麩)を使ったり冷やしそうめん、揚げ高野豆腐のやまかけ、凍みこんにやくの田楽味噌あえ、玲瓏豆腐 黒密の実習を通して学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第11回	日本の伝統食品を使って(2)	日本の伝統食品(豆腐・納豆・麩・昆布・かつお節・豆乳(呉汁)・寒天)を使い、白飯、卵豆腐の清まし汁、変わり揚げ 2種 ごま豆腐と甘辛車麩の盛り合わせ、漬物、淡雪かんの実習を通してその利用法・調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第12回	学外授業	市場見学と日本料理店にての会席料理マナーを学ぶ。	見学の資料等をノートにまとめ感想を記入すること。	120分
第13回	子ども向け料理書(日本、欧米他)の料理書の調査	調理学研究室で所有する子ども向け料理書(日本、欧米他)の翻訳と内容の調査を行い、その特徴を理解する。また、次週にこれらの試作(再現)を行う料理について、材料、分量、方法などについてまとめを行う。	授業内容(翻訳他)を調理ノートにまとめること。	120分
第14回	子ども向け料理書(日本、欧米他)の料理書を用いた実習(再現)と発表	実習を通して、国・地域による特徴的な分量割合、操作法、材料の扱い方等を学び、日本の類似した料理(菓子)との違いを知る。また、子供を対象とした料理書としての特徴も見出す。これについて班ごとに発表を行う。	授業内容を調理ノートに記載すること。	120分
第15回	日本の伝統食品の製造について	本学図書館に所蔵される(ビデオ収録)資料(六条豆腐、三輪そうめん、麩)鑑賞し、その製造のプロセスや変遷を通してや日本人の食への関わり方を学ぶ。	鑑賞内容をまとめ、日本人と食についての今後の課題を見出し、その解決法などをまとめておくこと。	120分

学習計画注記

天候等により材料の搬入ができない場合は、内容を変更することがある。

学生へのフィードバック方法

デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室(2208室やemail)で受け付けます。

評価方法		授業参加状況40%、課題30%、調理ノートの記録内容30%の総合評価とする。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
課題	○			○
調理ノート	○			○
評価割合	実習試験(30%)、ノート提出(30%)、平常点(40%)、授業への参加状況の総合評価。			
使用教科書名 (ISBN番号)	実習用資料を配布する。			
参考図書	必要に応じて紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。</p> <p>【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。</p> <p>【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>			
オフィスアワー	火曜日12時10分から13時 (2108室)			
学生へのメッセージ	テーマとしている国々や地域の食事文化や地理的な特徴を調べておくと実習に生かされます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食文化論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 櫻井 美代子	指定なし

授業概要(教育目的)

和食がユネスコに登録され、伝統的な和食文化が注目され、日本各地の郷土食にも関心がそがれている。その中で、食生活の変遷や、和食の位置づけ、地域性、行事、食事様式などから日本の食文化の特徴の検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の食生活の変遷と伝統的な食品・食物、調味料などの成り立ちの概要を理解する。食文化的視点から食生活の成り立ちを理解する。
思考・判断の観点 (K)	歴史的・時代的、社会的背景等から食生活の違いを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食文化とは	食文化の定義や研究領域、範囲の基礎的な内容を理解する	教科書第1章「食文化の領域」(11~20ページ)を読んでおくこと	120分
第2回	和食について	ユネスコに和食が登録された内容を理解し、日本の和食の特徴や成り立ち等から和食文化を理解する	教科書第序章「和食」;日本人の伝統的な食文化」(1~10ページ)を読んでおくこと	120分
第3回	世界の食文化形成	世界の主要穀類と食文化圏、粉食と粒食文化等、地域により違いを知り、理解をする。	教科書第2章「世界の食文化形成」(21~30ページ)を読んでおくこと	120分
第4回	日本の食文化形成と展開	古くから食料調達等自然環境との関係、社会関係等から、日本の食文化形成を学び理解する	教科書第3章「異文化接触と受容」(31~40ページ)を読んでおくこと	120分
第5回	異文化接触と受容	日本は、島国ではあるが、古くから大陸等から文物や技術が伝わり、日本の食文化に影響を受けてきた。それらの内容を知り、現在の食生活との関係も考える。	教科書第4章「日本の食文化形成と展開」(41~50ページ)を読んでおくこと	120分
第6回	日本の主食について	主要食糧として、時代や社会背景などから昔からどのようなものが食されてきたかを理解する。	教科書第5章「主食の文化」(51~61ページ)を読んでおくこと	120分

第7回	日本の副食について	副食の内容を時代や社会背景等の変化や、日本の副食の特徴を考える。	教科書第6章「副食の文化」(61～70ページ)を読んでもこと	120分
第8回	日本の調味料について	日本の風土・気候より独特な調味料が多い。塩・砂糖・発酵調味料・油・だし等について食文化の視点より学び、現在に至ったかを理解する。	教科書第7章「調味料、油脂、香辛料」(71～80ページ)を読んでもこと	120分
第9回	日本の嗜好品(菓子・茶・酒)	日本の嗜好品の菓子・茶・酒の歴史的背景から内容を理解する。	教科書第8章「菓子、茶、酒」(81～90ページ)を読んでもこと	120分
第10回	日本料理の形成	日本の料理の時代による変遷を学び、それら料理の種類の特徴を理解する。	教科書第9章「日本料理の形成と発展」(91～100ページ)を読んでもこと	120分
第11回	日本の台所・食器・食卓に着いて	日本における台所・食器・食卓の時代や社会背景による変化を学び、理解する。	教科書第10章「台所・食器・食卓」(101～110ページ)を読んでもこと	120分
第12回	日本における日常食	日本における日常食の時代や階層の違い・社会背景よりの変化や違いを学ぶ。	教科書第11章「日常の食生活」(111～120ページ)を読んでもこと	120分
第13回	日本における非常の食生活	日本における、飢饉や戦争災害などの時の食生活を学び、今後の食生活に活かせるように理解する。	教科書第12章「非常の食生活」(121～130ページ)を読んでもこと	120分
第14回	日本における外食文化の成立と変化	日本における外食文化を、江戸期から現代までの時代や社会は背景による変化を学び、理解する。	教科書第13章「外食文化の成立と変化」(131～140ページ)を読んでもこと	120分
第15回	日本における行事と地域の食について	日本における、伝統的な年中行事、人生儀礼、農事行事等、食品・食物との関わりが大きい。それらの関わる食生活や、地域による違いなどを学ぶ。	教科書第14章「行事と地域の食文化」(141～150ページ)を読んでもこと	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎時間質問等は受け付ける。
評価方法	・定期試験では、教科書やプリント配布の中で科目での基本的内容を中心に出题予定。100点満点で出題採点を行う。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名 (ISBN番号)	「日本の食文化 「和食」の継承と食育」(新版)江原絢子・石川尚子編著者 (アイ・ケイコーポレーション) 978-4-78492-343-6
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然環境、人、地域、時代など様々な要因が影響して食品・食物が古くから関わってきている。 【思考・判断】知識を得て、それらの情報を正確に分析し、その現象や結果の違いを考える。
学生へのメッセージ	先人の試行錯誤があるから現在がある。古い時代や他の地域での食生活の違いを学ぶことで、現在の食生活に活かしてほしい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食文化演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 櫻井 美代子	指定なし

授業概要(教育目的)

江戸時代の食文化に関連した資料・史料より検討を行う。江戸期に出版された料理書（図書館大江文庫）を用い、翻刻を行いその時代の文化に触れ、他の資料も用い、レシピ化を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	史料及び資料を読み解き理解を行う。
思考・判断の観点 (K)	歴史的、時代背景等から食文化の視点を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	江戸時代の料理書について	江戸時代の料理書(大江文庫所蔵)の原本に触れ、特徴を理解する。	大江文庫所蔵の本の調査・検討を行う	120分
第2回	江戸時代の料理の翻刻1	変体仮名の内容を学び理解する。江戸時代の料理書の写本(大江文庫所蔵)より翻刻を行う(変体仮名より現代語訳を行う)。魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す	120分
第3回	江戸時代の料理の翻刻2	江戸期の料理で最も古く刊行されたとする『料理物語』魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す	120分
第4回	江戸時代の料理の翻刻(献立料理解説)	江戸期の料理書数種からこちらで選択をし、1食なる献立(飯・汁・菜(2品)・漬物・菓子)の翻刻を行う。『名飯部類』・『料理珍味集』・『万宝料理秘密箱』・『料理物語』・『四季献立 会席料理秘囊抄』・『精進献立集』・『大根一式秘密箱』・『甘藷百珍』を使用。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す	120分
第5回	江戸時代の料理の翻刻3	前回の献立からレシピ化を学び理解する。その後、江戸期の料理で最も古く刊行されたとする『料理物語』魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す	120分
第6回	江戸時代の料理の翻刻	江戸期の料理書数種からこちらで選択をし、1食なる献立(飯・汁・菜(3品)・菓子)の翻刻を行う。『名飯	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を	120分

	(献立料理 読解)	部類』・『素人包丁』・『蒟蒻百珍』・『甘藷百珍』・『諸国名産大根料理秘伝抄』・『料理物語』・『古今名物御前菓子秘伝抄』を使用。	良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	
第7回	江戸時代の料理の翻刻4	前回の献立からレシピ化を学び理解する。その後、江戸期の料理で最も古く刊行されたとする『料理物語』魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第8回	江戸時代の料理の翻刻(献立料理読解)	江戸期の料理書数種からこちらで選択をし、1食なる献立(飯・汁・菜(2品)・菓子)の翻刻を行う。『名飯部類』・『素人包丁』・『蒟蒻百珍』・『古今名物御前菓子秘伝抄』を使用。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第9回	江戸時代の料理の翻刻5	前回の献立からレシピ化を学び理解する。その後、江戸期の料理で最も古く刊行されたとする『料理物語』魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第10回	江戸時代の料理自由献立作成	江戸期の料理書(翻刻もの)から献立(1汁3菜+菓子)作成を行い、レシピ化を行う。	与えられた資料より翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第11回	江戸時代の料理の翻刻2	江戸期の料理で最も古く刊行されたとする『料理物語』魚類の部の翻刻を行う。	与えられた資料より変体仮名を理解する。翻刻を行った部分を良く読み返す。	120分
第12回	江戸時代の料理自由献立作成	江戸期の料理書(翻刻もの)から献立(1汁3菜+菓子)作成を行い、レシピ化を行う。	与えられた資料より翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第13回	江戸時代の料理自由献立作成	江戸期の料理書(翻刻もの)から献立(1汁3菜+菓子)作成を行い、レシピ化を行う。	与えられた資料より翻刻を行った部分を良く読み返す。献立の組み合わせを理解する。	120分
第14回	雑煮及び正月料理について・煮物料理の違い	各家庭の雑煮・正月料理の調査に基づき、献立作成を行う。各地の煮物料理を調査し、レシピ化を行う。	前もって、各家庭の雑煮、正月料理の聞き取りを行い、まとめておく。文献資料により、雑煮、正月料理の調査を行っておく。	120分
第15回	雑煮・正月料理の発表	各自、聞き取り・文献調査をまとめたものを発表を行う。	前もって、各家庭の雑煮、正月料理の聞き取りを行い、まとめておく。文献資料により、雑煮、正月料理の調査を行っておく。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎時間質問を受け付ける。				
評価方法	レポート1、2最終授業に提出すること。(授業時に指示を行う)				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート1 (翻刻献立・自由献立)	○	○		
	レポート2 (雑煮・正月料理)	○	○		
評価割合	レポート100% (レポート1 60%、レポート2、発表含め 40%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】江戸期の資料を使用し、その資料を読みこなし知識と理解を行う。 【思考・判断】資料の分析を行い、そこから献立作成を行いレシピ化する力を養う。				
学生へのメッセージ	本学所蔵の貴重本である江戸期の料理書に触れ、江戸時代の食生活の一部を垣間見ることが出ると考える。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食科学演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	主に食分野の卒業研究についての実験・実習・調査など研究を行うために必要な事柄を学ぶ。すなわち、研究論文の成り立ち、課題の選択方法、先行研究の検索方法、資料(史料)の収集と整理方法、実験・実習調査計画の立案方法、実験や調査結果の処理方法などを具体的な事例を通して学ぶ。さらに、国内・外国の論文、図書、資料(史料)などを購読し、発表・討論を交えて学習する。また、口頭発表等、プレゼンテーションの手法についてもより効果的な方法の実際を学習する(学生便覧より)
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 生活デザイン学科・食分野の卒業研究を履修するためには、本科目が単位修得されていることが必要です。 各研究室のゼミ①―ゼミ④については各教員の指示に従うこと。 外部講師による演習を予定しています。日程は、講師の都合により変更の可能性があります。詳細は、講師の指示に従うこと。 第14回と第15回は、食分野の卒業研究発表会への参加となります。日程は、決定次第おしらせします。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	研究論文の成り立ち、課題の選択方法、先行研究の検索方法、資料の収集と整理方法、実験・実習調査計画の立案方法、実験や調査結果の処理方法などが理解できている。
思考・判断の観点(K)	国内・外国の論文、図書、資料を批判的に読みこなすことができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	食分野の研究を深く学び、本分野で研究するための関心・意欲・態度を養う。
技術・表現の観点(A)	口頭発表等、プレゼンテーションの手法について効果的な技術・表現を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 各研究室の研究内容の説明	卒業研究に必要な条件と研究室配属方法を説明します。各研究室の研究テーマと研究室配属に関する条件について、質問を受け付けます。	食分野で卒業研究を履修する場合には、それぞれの研究室の内容と配属の条件を十分に確認し、疑問点は各教員に確認しておくこと。	180分
第2回	各研究室の研究内容の説明(1)	各教員がそれぞれの研究室の研究内容を説明します。	食分野で卒業研究を履修する場合には、それぞれの研究室の内容と配属の条件を十分に確認し、疑問点は各教員に確認しておくこと。	180分

第3回	各研究室の研究内容の説明(2)	各教員がそれぞれの研究室の研究内容を説明します。	食分野で卒業研究を履修する場合には、それぞれの研究室の内容と配属の条件を十分に確認し、疑問点は各教員に確認しておくこと。	180分
第4回	研究テーマに関する調査	図書館にて情報検索の説明を受けた後、図書館にて研究テーマの探索を行います。	各自の研究テーマ案を記入したレポートを作成し、提出してください(次回授業開始時まで)	180分
第5回	卒業研究のための統計演習(1)	基本統計量・尺度・カテゴリカルデータの集計と検定を説明します。	演習問題(1)を次回授業開始時まで提出すること	180分
第6回	卒業研究のための統計演習(2)	t検定と分散分析について説明します。	演習問題(2)を次回授業開始時まで提出すること	180分
第7回	ゼミ①(各研究室)	各研究室に参加し、専門分野を深く学ぶ(配属希望先、もしくは興味のある研究室)	それぞれの教員の指示に従うこと	180分
第8回	ゼミ②(各研究室)	各研究室に参加し、専門分野を深く学ぶ(配属希望先、もしくは興味のある研究室)	それぞれの教員の指示に従うこと	180分
第9回	ゼミ③(各研究室)	各研究室に参加し、専門分野を深く学ぶ(配属希望先、もしくは興味のある研究室)	それぞれの教員の指示に従うこと	180分
第10回	ゼミ④(各研究室)	各研究室に参加し、専門分野を深く学ぶ(配属希望先、もしくは興味のある研究室)	それぞれの教員の指示に従うこと	180分
第11回	「コミュニケーション技術」	コミュニケーションに関する演習(外部講師)	講師の指示に従うこと	180分
第12回	研究討議におけるプレゼンと質疑応答	学術研究のプレゼン方法と質疑の方法を説明します。	本年度の卒業研究要旨を読み、全ての発表者への質問を記入したレポートを提出する	180分
第13回	研究討議におけるプレゼンと質疑応答	学術研究のプレゼン方法と質疑の方法を説明します。	本年度の卒業研究要旨を読み、全ての発表者への質問を記入したレポートを提出する	180分
第14回	成果発表(卒研発表会)(1)	卒業研究発表会に参加し、食分野の研究成果を学びます。積極的に質問し、発表会に参加すること。	質問事項を整理し、レポートを提出すること。	180分
第15回	成果発表(卒研発表会)(2)	卒業研究発表会に参加し、食分野の研究成果を学びます。積極的に質問し、発表会に参加すること。	質問事項を整理し、レポートを提出すること。	180分

学生へのフィードバック方法	教室外学習において課題のある回は、課題についてフィードバックします。
評価方法	授業への積極的な参加、課題の提出状況と内容を各回総合評価します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	授業への参加度、レポート・課題の提出等を各回で評価したのちに、得点を合計して算出します(各回100/15点×15=100点)
参考図書	各教員の指示に従ってください
ディプロマポリシーとの関連	・課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
オフィスアワー	希望する教員に連絡して調整してください
学生へのメッセージ	本科目は、食分野での卒業研究履修の条件となっています。食分野での卒業研究を履修する学生は、授業内容を十分に理解し、演習問題と課題に取り組み、次年度の卒業研究の準備を進めてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	各教員の経歴を参照してください。 担当教員の一人である黒田は食品企業での研究開発とマネジメントの実務経験（26年間）で培ったKVAを伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	第4回、第12回、第13回は、グループワーク形式で授業を行います。
情報リテラシー教育	○	図書館にて情報検索の演習を行います（第4回）
ICT活用	○	エクセルを利用した統計量の計算を演習します（第5回、第6回）

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食企画・開発論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本講義では、食品開発に必要な様々な知識・考え方と手法を学び、ケーススタディを通してその実践方法を理解します。 【座学】6回；【グループワーク】5回；【発表会】3回（発表会への参加とプレゼン）；【演習】1回（PCを使った企画書の書き方と知財情報検索の演習）；計15回 （履修人数が少ない場合は、発表会を座学または演習に変更することがあります） *教室について 【座学】2203；【グループワーク】ラーニングcommons；【演習】第2PC室；【発表会】ラーニングcommons</p>
履修条件	<p>【グループワーク】では、学生同士のディスカッションがあります。グループメンバーは、くじ引きで決定し、各回で異なる組み合わせになるようにします。4-5名で1グループを作ります。ディスカッションには、積極的に参加してください。全ての履修生がファシリテーターとプレゼンターの役割を経験できるようにします。 【発表会】では、授業で学習した知識をもとに、各自が食に関する企画を考えクラス全体に発表します。発表会に使用するパワーポイントファイルは、Gmailに添付し、第12回の授業開始時までに担当教員にメール送信すること。ファイルを確認して確認メールを返信します。 【演習】では、知的財産データベースの検索方法とパワーポイントを利用した企画書の作成方法を習得します。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が習得できている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の効果的な進め方を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことを多面的にディスカッションできている。
技術・表現の観点 (A)	企画の立案とプレゼンテーションの体験を通して、自身の企画力とプレゼンテーションを正確に自己分析できている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【座学①】ガイダンス/デザイン思考	・クラスの進め方と評価方法を説明します。 ・現在ものづくりの基本となっているデザイン思考を説明します。	振り返りへの回答(次回授業日前日9:00まで)	120分
第2回				120分

	【座学②】 ビジョンを作る	もの作りは、知識と技術のみでは完結しません。商品にどのような価値があるのかが問われる時代になりました。価値を考える上でビジョンがとても大事になります。このビジョン・ファーストの概念を理解していきます。	マインドマップの提出（第15回授業開始時に回収します）	
第3回	【座学③】 感性／小論文練習 (1)	商品開発に必要な感性を考えていきます。感性とは何かを掘り下げ、それを文章として表現することを学びます。	小論文の提出（次回授業開始時まで）	120分
第4回	【座学④】 創造性／小論文練習 (2)	企画開発に必要な創造性とは何なのでしょう。創造的であることに必要なことを掘り下げ、それを文章として表現することを学びます。	小論文の提出（次回授業開始時まで）	120分
第5回	【グループワーク①】 マーケティングのツール (1)	グループワーク形式でブレインストーミングやKJ法を習得します。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第6回	【グループワーク②】 マーケティングのツール (2)	グループワーク形式でSWOT分析やCVCAを習得します。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第7回	【グループワーク③】 組織論 (1) コミュニケーション	チームでものづくりをする場合、コミュニケーションは不可欠です。コミュニケーションの基本である受容・発信と、自己認識についてグループワーク形式で考えていきます。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第8回	【グループワーク④】 組織論 (2) マネジメント	組織でものづくりをする場合、マネジメントは不可欠です。ファシリテーション、リーダーシップ、アジャイル法などの方法論を学び、マネジメントとは何かをグループワーク形式で考えていきます。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第9回	【座学⑤】 食の法令と制度	食の安全と品質に関する法と制度の概要を学びます。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第10回	【演習】知的財産の情報検索／企画書の作成方法	・知的財産の概念を学んだ後、特許・実用新案・意匠・商標の検索方法を演習形式で学びます。PC室のPCへのログイン及びGoogleアカウントへのログインができるように準備しておいてください。 ・パワーポイントファイルの作成の仕方を説明します。企画書の作成を進めてください。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第11回	【座学⑥】 食企画開発の事例研究	食品の様々な開発事例を説明します。どのような企画が成功するのか、その条件を考えてみてください。また、発表会で発表する企画に反映してみてください。	・振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで） ・発表会に使用する企画書（パワーポイントファイル）を完成させ提出する（次回授業開始までにGmailに添付して送ること）	120分
第12回	【グループワーク⑤】 食企画開発の事例研究	良い企画とは何なのかをグループで考えてみてください。多様な考え方があることに気がつくと思います。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第13回	【発表会①】 企画のプレゼン	授業で学習した知識をもとに、各自が食に関する企画を考えクラス全体に発表します。発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや意見・感想を発信してください。発表者は、コメント・意見・感想を元に、自身の発表内容及びプレゼンテーション方法を自己分析してください。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第14回	【発表会②】 企画のプレゼン	授業で学習した知識をもとに、各自が食に関する企画を考えクラス全体に発表します。発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや意見・感想を発信してください。発表者は、コメント・意見・感想を元に、自身の発表内容及びプレゼンテーション方法を自己分析してください。	振り返りへの回答（次回授業日前日9:00まで）	120分
第15回	【発表会③】 企画のプレゼン	授業で学習した知識をもとに、各自が食に関する企画を考えクラス全体に発表します。発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや意見・感想を発信してください。発表者は、コメント・意見・感想を元に、自	振り返りへの回答（翌週月曜日9:00まで）	120分

	身の発表内容及びプレゼンテーション方法を自己分析してください。				
学生へのフィードバック方法	授業に対する振り返りを確認し、翌回の授業でフィードバックします。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各課題は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます） 振り返りへの回答と小論文の提出は、授業を欠席した場合、または最終期限に提出できなかった場合は0点になるので注意してください（大学が認める欠席については、希望する場合別途課題を課しますので申し出てください） 発表会を欠席した場合は、欠席分を評価から差し引くので注意してください。 企画書の提出が期限までにできなかった場合は、評価に対して2/3の係数をかけます。最終期限は、授業最終回の次の週の同曜日13:00までとします。以降は、受領できないので注意してください。 30分以内の遅刻、または早退は評価に対して2/3の係数をかけます。それ以上の遅刻・早退は、評価が0点になるので注意してください。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業参加度・振り返りへの回答	○	○		
	企画書	○			○
	発表会への参加度			○	
	授業参加度・小論文の提出	○			○
	授業参加度・マインドマップの提出	○		○	○
評価割合	授業への参加度と振り返りへの回答（6点×9=54点） 授業への参加度と小論文・マインドマップ提出（6点×3=18点） 企画書（10点） 発表会への参加（6点×3=18点）				
使用教科書名 (ISBN番号)	システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」（食企画・開発実習A, Bでも使用します）				
参考図書	Google Classroomのクラスコード：x3pba4m				
参考URL	https://classroom.google.com/c/Mjc3NzU1MDIwMjNa				
ディプロマポリシーとの関連	食に関する企画開発の基礎的な知識と、企画立案に必要な技術が習得されている				
オフィスアワー	月曜日と水曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室（2206） 面談の場合（5分以上）は、必ずGmailで予約を取ること				
学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本講義で学ぶ基本的な考え方や手法は、食に限らず他のものづくりやビジネスで応用が可能なので、食以外のキャリアを志す方の参加も大いに歓迎します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> 企画開発の実践的な知識を継承する。 企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを継承する。（食品企業での研究開発の実務経験26年） 			
アクティブ・ラーニング	○	【グループワーク】と【発表会】では、学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。			
情報リテラシー教育	○	【演習】では、知的財産データベースの検索方法を習得します。			
ICT活用	○	【演習】では、マイクロソフト社パワーポイントを利用した企画書の作り方とプレゼンテーション法を演習し、【発表会】でプレゼンを実践します。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食企画・開発実習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本演習では、食品開発の技術と、そのマーケティングに必要な様々な考え方と手法をグループワークにより習得し、実践のための基礎力を養います。</p> <p>*教室について 試作調理(5, 11, 13回)は2207実習室; それ以外の回はラーニングcommons</p>								
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによる企画立案・試作・発表を行います。 ・チームメンバーはくじ引きで決定し、前後半でメンバーを入れ替えます。 ・履修生全員が、ファシリテーターとプレゼンターの役割を経験します。 ・企業との共同研究を予定しています。本授業を履修される方は、共同研究契約に関する確認書を押印の上提出する必要があります。本契約により、共同研究で発生する知的財産は、大学に帰属することになります。 ・実習レポートの提出があります(第13回授業開始時に回収) ・実習レポートを元に、振り返り(個人発表)をします(第15回) 								
学習目標(到達目標)	<p>学習目標(到達目標)</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点(K)</td> <td>食品の企画開発に必要な様々な知識が習得できている。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点(K)</td> <td>企画開発の効果的な進め方を判断できる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点(V)</td> <td>グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことが習得できている。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点(A)</td> <td>企画開発の体験を通して、自身の企画力が正確に自己分析できている。</td> </tr> </table>	知識・理解の観点(K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が習得できている。	思考・判断の観点(K)	企画開発の効果的な進め方を判断できる。	関心・意欲・態度の観点(V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことが習得できている。	技術・表現の観点(A)	企画開発の体験を通して、自身の企画力が正確に自己分析できている。
知識・理解の観点(K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が習得できている。								
思考・判断の観点(K)	企画開発の効果的な進め方を判断できる。								
関心・意欲・態度の観点(V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことが習得できている。								
技術・表現の観点(A)	企画開発の体験を通して、自身の企画力が正確に自己分析できている。								

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	企画開発の基本と心構え/プロジェクトの説明/チーム分け/ファシリテーションを理解する	プロジェクトの経緯と今期の目標について説明します。前半のチームの顔合わせとファシリテーションのワークを行なった後、企画(1)の立案をスタートします。	企画に参考となる情報・資料を入手し、アイデアを練ってください。三番町の書籍も積極的に利用してください(リクエストすることができます)	30分

	ワーク (1) / 企画 (1) スタート			
第2回	企画(1) テーマに関する調査と、製造と評価方法の検討	企画(1)のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。web情報も利用可能です。情報の出どころを必ず記録しておくこと。企画書を作る時に確認します。製造方法とどのように製品を評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第3回	企画(1) 企画の提案とフィードバック	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第4回	企画(1) 企画の再検討と試作方法の決定	前回のフィードバックをもとに企画を再立案し、最終案を作成してください。問題点がなければ、次の試作調理のステップに進みます。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第5回	企画(1) 試作調理と評価	試作調理し、製造したものを評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	60分
第6回	企画(1) プレゼン	チームで立案した企画を魅力的にプレゼンしてください。プレゼンは、特定の人だけが準備・発表するのではなく、全員が力を合わせて発表すること。	企画(1)の振り返りを実習レポートに記入してください。	60分
第7回	企画(1) のまとめとパブリシティーの検討	企画(1)の課題を整理し、オープンキャンパス等でのパブリシティーを検討します。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第8回	ファシリテーション技術のワーク / 企画(2) スタート	後半のチーム顔合わせとファシリテーションのワークを行なった後、企画(2)の立案をスタートします。	企画に参考となる情報・資料を入手し、アイデアを練ってください。三番町の書籍も積極的に利用してください(リクエストすることができます)	30分
第9回	企画(2) テーマに関する調査と製造と評価方法の検討	企画(2)のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。web情報も利用可能です。情報の出どころを必ず記録しておくこと。企画書を作る時に確認します。製造方法とどのように製品を評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第10回	企画(2) 企画の決定と試作の準備	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第11回	企画(2) 試作調理と評価(1回目)	試作調理し、製造したものを評価してください。次回のフィードバックに向けて資料を作成してください(形式自由)	フィードバックの資料を準備してください。	60分
第12回	企画(2) 企画の再検討	チームでのフィードバックの内容をレビューしてください。必要であればアドバイスします。レビュー後は、次の試作に向けての準備を進めてください。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。実習レポートの提出を準備してください。次回授業開始時に回収します。	30分
第13回	企画(2) 試作調理と評価(2回目)	2回目の試作調理を実施し、製造したものを評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	60分
第14回	企画(2) プレゼンとまとめ	企画(2)の課題を整理し、オープンキャンパス等でのパブリシティーを検討します。	振り返り(個人発表)の準備をしてください。	60分
第15回	振り返り(個人発表会)・プロジェクトの総括	プロジェクトの総括を行なった後、各自の振り返りを全体に発表します。	本授業に関するGoogle Formアンケートに回答してください。	30分

学生へのフィードバック方法	前半と後半の終わりに授業に対する振り返りをしてください。コメントつけて返信します (Google Classroomを利用) 希望者には、実習レポート中の「コンピテンシーの自己分析」に対してフィードバックの手紙をお渡しします (成績評価対象外です)				
評価方法	グループワークへの参加度・実習レポート・個人発表は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること (参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	グループワークへの参加度	○	○	○	○
	実習レポートの提出	○	○		
	個人発表会への参加度			○	○
評価割合	グループワークへの参加度 (6点×14=84) 実習レポートの提出 (8点) 第13回授業開始時に提出 個人発表会への参加度 (8点)				
使用教科書名 (ISBN番号)	システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」				
参考図書	Google Classroom クラスコード : oi2tt8				
参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/Mjc2NDg5ODQ2MjBa				
ディプロマポリシーとの関連	食に関する企画開発の基礎的な知識と、企画立案に必要な技術が習得されている				
オフィスアワー	月曜日と水曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること				
学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本講義で学ぶ基本的な考え方と手法は、食に限らず他のものづくりやビジネスで応用が可能なので、食以外のキャリアを志す方の参加も大いに歓迎します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> 企画開発の実践的な知識を継承する。 企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを継承する。(食品企業での研究開発の実務経験26年) 			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な論理思考力と対話力を養います。			
情報リテラシー教育	○	企画のテーマ調査の時に、図書館の資料の検索や、情報データベースを検索します。			
ICT活用	○	企画のプレゼンの時に、パワーポイントファイルを使用します。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食企画・開発実習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本演習では、食企画開発実習Aで学んだ知識と技術をさらに発展させて、将来企画開発を担うための実践力を養います。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによる企画立案・試作・発表を行います。 ・チームメンバーはくじ引きで決定し、前後半でメンバーを入れ替えます。 ・履修生全員が、リーダー・副リーダーの役割を経験します。 ・企業との共同研究を予定しています。食企画・開発実習Aを未履修で、本授業を履修される方は、共同研究契約に関する確認書を押印の上提出する必要があります。本契約により、共同研究で発生する知的財産は、大学に帰属することになります。 ・実習レポートの提出があります（第13回授業開始時に回収） ・実習レポートを元に、振り返り（個人発表）をします（第15回）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が定着されている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の効果的な進め方を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発を積極的に進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	企画を実現することができる。 自身の企画力が正確に自己分析できている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	企画開発の基本と心構えの確認／チーム分け／リーダーシップを理解するワーク／企画(1)スタート	プロジェクトの経緯と今期の目標について説明します。前半のチームの顔合わせとファシリテーションのワークを行なった後、企画(1)の立案をスタートします。	企画に参考となる情報・資料を入手し、アイデアを練ってください。三番町の書籍も積極的に利用してください(リクエストすることができます)	30分
第2回	企画(1)テーマに関	企画(1)のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。web情報も利用可能です。情報の出		30分

	する調査と、製造と評価方法の検討	どこを必ず記録しておくこと。企画書を作る時に確認します。製造方法とどのように製品を評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	
第3回	企画（1） 企画の提案とフィードバック	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第4回	企画（1） 企画の再検討と試作方法の決定	前回のフィードバックをもとに企画を再立案し、最終案を作成してください。問題点がなければ、次の試作調理のステップに進みます。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第5回	企画（1） 試作調理と評価	試作調理し、製造したものを評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	60分
第6回	企画（1） プレゼン	チームで立案した企画を魅力的にプレゼンしてください。プレゼンは、特定の人だけが準備・発表するのではなく、全員が力を合わせて発表すること。	企画（1）の振り返りを実習レポートに記入してください。	60分
第7回	企画（1） のまとめとパブリシティーの検討	企画（1）の課題を整理し、オープンキャンパス等でのパブリシティーを検討します。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第8回	ファシリテーション技術のワーク/企画（2）スタート	後半のチーム顔合わせとファシリテーションのワークを行なった後、企画（2）の立案をスタートします。	企画に参考となる情報・資料を入手し、アイデアを練ってください。三番町の書籍も積極的に利用してください（リクエストすることができます）	30分
第9回	企画（2） テーマに関する調査と製造と評価方法の検討	企画（2）のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。web情報も利用可能です。情報の出どころを必ず記録しておくこと。企画書を作る時に確認します。製造方法とどのように製品を評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第10回	企画（2） 企画の決定と試作の準備	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	30分
第11回	企画（2） 試作調理と評価（1回目）	試作調理し、製造したものを評価してください。次回のフィードバックに向けて資料を作成してください（形式自由）	フィードバックの資料を準備してください。	60分
第12回	企画（2） 企画の再検討	チームでのフィードバックの内容をレビューしてください。必要であればアドバイスします。レビュー後は、次の試作に向けての準備を進めてください。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。実習レポートの提出を準備してください。次回授業開始時に回収します。	30分
第13回	企画（2） 試作調理と評価（2回目）	2回目の試作調理を実施し、製造したものを評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	60分
第14回	企画（2） プレゼンとまとめ	企画（2）の課題を整理し、オープンキャンパス等でのパブリシティーを検討します。	振り返り（個人発表）の準備をしてください。	60分
第15回	振り返り（個人発表）・プロジェクトの総括	プロジェクトの総括を行なった後、各自の振り返りを全体に発表します。	本授業に関するGoogle Formアンケートに回答してください。	30分

学生へのフィードバック方法	前半と後半の終わりに授業に対する振り返りをしてください。コメントつけて返信します（Google Classroomを利用） 希望者には、実習レポート中の「コンピテンシーの自己分析」に対してフィードバックの手紙をお渡しします（成績評価対象外です）
評価方法	

		グループワークへの参加度・実習レポート・個人発表は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます）		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループワークへの参加度	○	○	○	○
実習レポートの提出	○	○		
個人発表			○	○
評価割合	グループワークへの参加度（6点×14=84） 実習レポートの提出（8点） 個人発表（8点）			
使用教科書名 (ISBN番号)	システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」			
参考図書	Google Classroomのクラスコード：hyeipsi			
参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/MjgxNTg5MjUyOTNa			
ディプロマポリシーとの関連	食に関する企画開発の基礎と応用の知識と、企画立案を効果的に進めるための技術が習得されている			
オフィスアワー	月曜日と水曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室（2206） 面談の場合（5分以上）は、必ずGmailで予約を取ること			
学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本講義で学ぶ基本的な考え方と手法は、食に限らず他のものづくりやビジネスで応用が可能なので、食以外のキャリアを志す方の参加も大いに歓迎します。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> 企画開発の実践的な知識を継承する。 企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを継承する。（食品企業での研究開発の実務経験2年6年） 		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な論理思考力と対話力を養います。		
情報リテラシー教育	○	企画のテーマ調査の時に、図書館の資料の検索や、情報データベースを検索します。		
ICT活用	○	企画のプレゼンの時に、パワーポイントファイルを使用します。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードビジネス・食産業研究		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>財務会計、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業活動等の基礎を説明した後に、それぞれのテーマについて、フードビジネス・食産業における事例研究をグループワーク形式でディスカッションします。</p> <p>【座学】8回；【グループワーク】5回；【発表会】2回（発表会への参加とプレゼン）計15回；期末試験があります。</p> <p>・履修人数が少ない場合は、発表会を座学またはグループワークに変更することがあります</p>
履修条件	高校政治・経済が理解できていることが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・財務会計、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業活動等の基礎が理解できている。 ・フードビジネス・食産業の概要が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	フードビジネス・食産業の諸問題について客観的で合理的な分析ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	フードビジネス・食産業が社会・経済・環境・生活に与える影響に深い関心がある。
技術・表現の観点 (A)	フードビジネス・食産業の諸問題について、深いディスカッションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【座学1】 経済と経営に関する基礎知識の理解度チェック/フードビジネス・食産業の概要	高校政治経済の内容を中心に基礎知識の理解度を確認します。 フードビジネス・食産業の概要を説明します。	理解度チェックについて、解答できなかった設問を高校政治経済などで復習して来てください	60分
第2回	【座学2】 財務と会計(1)	決算書のしくみと記入方法を説明します。	翌回のグループワークがスムーズに進むように、決算書を十分復習して来てください。	60分
第3回	【グループワーク①】 財務と会計(2)	グループで会社を設立し、商品を製造・販売し、決算書を作成します。	決算書を完成させてください。	60分

第4回	【グループワーク②】 財務と会計 (3)	2回目の商品を製造・販売し、決算書を作成します。最大の利益を上げるには、どのようにしたら良いかを考えてください。	決算書を完成させ、利益を上げるために必要な要因を考察してください。	60分
第5回	【座学3】 食に関する 法令と制度	食の法令と制度 (HACCP, ISO) を理解する	本日の授業内容を復習してください。	60分
第6回	【座学4】 ミクロ経済 入門 (1)	需要と供給を中心に、ミクロ経済の考え方を説明します。	グループワークの課題を出題しますので、各自取り組んで来てください。	60分
第7回	【グループ ワーク③】 ミクロ経済 入門 (2)	フードビジネス・食産業におけるミクロ経済をテーマとしたグループワークを行います。	グループワークの振り返りをしてください。	60分
第8回	【座学5】 マクロ経済 入門 (1)	景気の循環や輸出入などマクロ経済の考え方を説明します。	グループワークの課題を出題しますので、各自取り組んで来てください。	60分
第9回	【グループ ワーク④】 マクロ経済 入門 (2)	フードビジネス・食産業におけるマクロ経済をテーマとしたグループワークを行います。	グループワークの振り返りをしてください。	60分
第10回	【座学6】 企業活動 (1)	企業の経営と管理について学びます。	グループワークの課題を出題しますので、各自取り組んで来てください。	60分
第11回	【グループ ワーク⑤】 企業活動 (2)	フードビジネス・食産業における企業活動をテーマとしたグループワークを行います。	グループワークの振り返りをしてください。	60分
第12回	【座学7】 フードビジ ネス・食産 業の労働条 件	フードビジネス・食産業の労働条件について説明し、問題点を分析します。	翌回の事例研究の準備を進めてください。	120分
第13回	【発表会 ①】フード ビジネス。 食産業の事 例研究 (1)	日本経済新聞の中で、興味を持った記事について、レビューを行なってください。	発表会の振り返りをしてください。翌回の事例研究の準備を進めてください。	120分
第14回	【発表会 ②】フード ビジネス。 食産業の事 例研究 (2)	日本経済新聞の中で、興味を持った記事について、レビューを行なってください。	発表会の振り返りをしてください。	60分
第15回	【座学8】 まとめと今 後の学びに ついて/期 末試験の説 明	フードビジネス・食産業の現状と課題をもう一度整理します。期末試験について説明します。	期末試験の準備をしてください	120分

評価方法

・授業への参加度と発表会への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます）
・30分以内の遅刻、または早退は評価に対して2/3の係数をかけます。それ以上の遅刻・早退は、評価が0点となるので注意してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	
事例研究と発表会への参加度		○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合	授業への参加度 (5×12=60点) 事例研究と発表会への参加度 (5×2=10点) 期末試験 (30点)																
使用教科書名 (ISBN番号)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験のためのキーワードは、クラスルームを通して発信します。 ・グループワーク③④⑤では、日本経済新聞をグループワークの素材として各自数部購入していただきます。 																
参考図書	クラスルームのコード : xd9p3x 参考図書について)以下の書籍を参考書として推薦します。各自の興味やキャリア形成に合わせて購入してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学4年間の経済学見るだけノート ・〈2018年度版〉(産業と会社研究シリーズ) ・書いてマスター!財務3表・実戦ドリル 																
参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/MjgxNTg5MjUzMzJa																
ディプロマポリシーとの関連	フードビジネス・食産業の現状と課題を論じることができる																
オフィスアワー	月曜日と水曜日 昼休み 面談の場合(5分以上)は、必ずGmailで予約を取ること																
学生へのメッセージ	ディスカッションを取り入れた座学を展開します。講義に集中して内容を良く理解し、課題を考えることによって企業や業界のしくみを研究して下さい。また、知識の習得に止めることなく、各々のキャリア形成に役立てることを考えて受講して下さい。卒業後のキャリア形成にも役立つ授業を展開します。																
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>食品企業での実務経験(26年間)で蓄積したビジネスの知識を皆さんに伝えます。卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な講義とグループワークを展開します。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>【グループワーク】と【発表会】では、学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	食品企業での実務経験(26年間)で蓄積したビジネスの知識を皆さんに伝えます。卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な講義とグループワークを展開します。	アクティブ・ラーニング	○	【グループワーク】と【発表会】では、学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要															
実務経験を活かした授業	○	食品企業での実務経験(26年間)で蓄積したビジネスの知識を皆さんに伝えます。卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な講義とグループワークを展開します。															
アクティブ・ラーニング	○	【グループワーク】と【発表会】では、学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。															
情報リテラシー教育																	
ICT活用																	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし
助教	深石 圭子	指定なし

授業概要(教育目的)

本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本学科で学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な製図手法や技術を習得する演習授業である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。基礎的な図面の表現法及び手法(技法)を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題1: 線の練習	製図道具の種類、使い方について学び、線の引き方に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題1を完成させる。	90分
第2回	課題2: レタリング・文字の練習	線の引き方に加え、建築製図に用いる文字の書き方に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題2を完成させる。	90分
第3回	課題3: 建築図面の表示記号	建築図面の表記に用いる表示記号に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題3を完成させる。	90分
第4回	課題4: 木造住宅/配置図・平面図の表現方法-1	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第5回	課題4: 木造住宅/配置図・平面図	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分

	図の表現方法-2			
第6回	課題4:木造住宅/配置図・平面図の表現方法-3	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題4を完成させる。	90分
第7回	課題5:木造住宅/断面図・立面図の表現方法-1	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第8回	課題5:木造住宅/断面図・立面図の表現方法-2	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題5を完成させる。	90分
第9回	課題6:RC住宅/平面図の表現方法-1	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第10回	課題6:RC住宅/平面図の表現方法-2	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題6を完成させる。	90分
第11回	課題7:RC住宅/断面図・立面図の表現方法-1	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第12回	課題7:RC住宅/断面図・立面図の表現方法-2	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題7を完成させる。	90分
第13回	課題8:住吉の長屋:安藤忠雄設計/模型製作-1	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第14回	課題8:住吉の長屋:安藤忠雄設計/模型製作-2	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第15回	課題8:住吉の長屋:安藤忠雄設計/模型製作-3	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、課題8を完成させる	90分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題は採点後に講評とともに返却する。

評価方法 授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。提出された課題は完成度によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
課題	○			○

評価割合 平常点: 15%、課題: 85%による総合評価とする。但し全課題提出を条件とする。

使用教科書名 (ISBN番号)	「新しい建築の製図」 「新しい建築の製図」 編集委員会 / 学芸出版社 / 2005 / 978-4-7615-2375-6 「図解 すまいの寸法・計画事典」 岩井一幸 / 彰国社 / 2004 / 4-395-10032-5	
参考図書	その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「住」分野 について、専門的知識・技術を有している 【技能・表現】 社会に対して洗練された表現力で課題解決を発信するための基礎的な力を身につけている	
オフィスアワー	金曜 3 時限 3508 研究室 (小池) 水曜 2 時限 (但し 6/26 を除く) 3512 研究室 (深石)	
学生へのメッセージ	図書館にある新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし
助教	深石 圭子	指定なし

授業概要(教育目的)	10m角の独立住宅の設計作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す。平面図、立面図、断面図、パースなどの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。
履修条件	住居デザイン演習Aを履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する
思考・判断の観点 (K)	住まい手の求める生活像と住宅の適合性について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる
技術・表現の観点 (A)	住宅設計作品について、図面・パース・模型・写真・言葉を用いて表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題説明・コンセプト立案	(アクティブラーニング: グループワーク) 課題説明後、グループワークによるコンセプト立案のための資料収集を実施し、コンセプト案について発表する。	(予習) 自分が住みたい住宅として、どのような住宅とすべきか(仮想の)家族構成も含め、その構想をまとめる (予習) はさみと糊を持参する	90分
第2回	エスキース(配置図・平面図)	平面や配置図の表現方法を再確認し、配置図・平面図のエスキースを表現する。また、必要な室や大きさ、そのつながりを視覚的に把握し、室のつながりを検討する。	(予習) 教科書①第2章の「2-1. 配置図」(18~19ページ)「2-2. 平面図」(20~23ページ)を読んでおく (復習) 平面図のエスキースを完成させておく	90分
第3回	エスキース(断面図)	断面図の表現方法を再度確認し、断面のエスキースで表現する。また、平面図との関係を再考し、齟齬を修正する。	(予習) 教科書①第2章の「2-3. 断面図」(24~27ページ)を読んでおく (復習) 断面図のエスキースは完成させておくこと	90分

第4回	エスキース (立面図)	立面図の表現方法を再度確認し、立面のエスキースで表現する また、2~4回の授業で描いた各種図面の相互関係を確認し、必要に応じて修正を行う	(予習) 教科書①第2章の「2-4. 立面図」(28~31ページ)を読んでおく (復習) 立面図も含めた各図面のエスキースを完成させておく	90分
第5回	清書(配置図・平面図)	配置図・平面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、配置図・平面図エスキースを清書として表現する(情報リテラシー教育)	(予習) 教科書①第2章の「2. 平面図」(20~23ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第6回	清書(断面図)	断面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、断面図エスキースを清書として表現する	(予習) 教科書①第2章の「2-3. 断面図」(24~27ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第7回	清書(立面図)	立面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、立面図エスキースを清書として表現する さらに10回目の授業で使用する模型材料について説明をする	(予習) 教科書①第2章の「2-4. 立面図」(28~31ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第8回	パース作成 (一点透視図法) - 1	一点透視図法の原理を把握する また、表現する室とアングルを決定し、パースガイドを作成する	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしておく (予習) 教科書①第7章の「7-4. 一点透視投影法」(116~117ページ)を読んでおく (復習) 前回授業で作成したパースガイドは完成させておく	90分
第9回	パース作成 (一点透視図法) - 2	一点透視図法による作図手順を理解しながら、作図技術を習得し、パースを清書する 人物や植物その他什器の書き方についても理解する	(予習) 参考にしたい家具等の写真を持参する (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第10回	模型製作-1	模型制作技法を理解する。敷地や、外壁を作成する。	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚づつコピーする (予習) 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	90分
第11回	模型製作-2	模型制作技法を理解する 内壁や屋根、家具や人等も制作する	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚づつコピーをしておく (予習) 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	90分
第12回	模型写真の撮り方	模型写真撮影技法を理解する 照明の当て方を理解し、実践する 図面等に寸法や文字を貼り込み印刷原稿を作成する	(予習) スティック糊、完成した模型、5~9回目の授業で清書した図面を数枚コピーし、持参する (予習) 図面等に必要寸法・文字・タイトル等をワード等で打ち込み、印刷したものを持参する	90分
第13回	レイアウトの手法	レイアウトの基本を理解し、A2版レイアウト用紙(支給)に、図面やタイトル、写真等の配置の検討を行い、模型写真以外のものの仮止めを行う	(予習) 12回目の授業で完成した図面等をコピーしたもの(印刷原稿)を持参する	90分
第14回	印刷、着色・写真貼付	アルコールマーカーによる着色技法を理解する また、レイアウト用紙に配置した図面等(模型写真を除く)を印刷(KVAショップ前コピー機の印刷代:80円/1枚)し、図面やパースの着色を行い、模型写真を貼り込む	(予習) 貼り付ける模型写真の大きさを検討し、現像若しくは印刷し、持参する (予習) スティック糊を持参する	90分
第15回	仕上げ・プレゼンテーション	授業前半で図面・模型の最終仕上げを行い、授業後半でそれらを用いたプレゼンテーションを行う。	課題に手を入れ、完成させる。 ポートフォリオを作成する。	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題のプレゼンテーションに対して講評をおこなう。

評価方法

		授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。 提出された課題は完成度、プレゼンテーション内容によって評価する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
評価割合		平常点：30%、提出課題の完成度・プレゼンテーション内容：70%による総合評価とする。			
使用教科書名 (ISBN番号)		①「新しい建築の製図」 「新しい建築の製図」 編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6 ②「図解 すまいの寸法・計画事典」 岩井一幸 / 彰国社／2004／4-395-10032-5 (住居デザイン演習Aと共通)			
参考図書		その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】 「住」分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】 多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる 【技能・表現】 社会に対して洗練された表現力で課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている			
オフィスアワー		金曜 3 時限 3508 研究室 (小池) 水曜 2 時限 3512 研究室 (深石)			
学生へのメッセージ		図書館にある新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。自分が心地よいと感じる空間について、スケール、素材など、その空間の構成要素について注意を払うこと。また、設計は、段階を踏んで形になっていきます。毎回の作業が遅れると、他の部分に支障をきたしますので、終わらすべき作業は、次回の授業までに完成をさせ、授業には主体的に取り組んでください。毎回の製図道具一式の持参、その都度持参を指示するトレーシングペーパーや模型材料等の消耗品は、個人負担で用意してください。			
教育等の取り組み状況					
		該当有無	概要		
	実務経験を活かした授業				
	アクティブ・ラーニング	○	初回授業では設計コンセプトに関するグループワーク、個人の発表を実施する。最終授業では各自の設計した住宅の図面、模型を用いたプレゼンテーションを実施する。		
	情報リテラシー教育				
	ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	住居デザイン演習C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	塚田 豊	指定なし

授業概要(教育目的)	RC造区分所有建物内の住宅(住戸)の設計、RC造独立建物の店舗の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた実在する区分所有のRCマンション躯体内部に、住宅(住戸)の設計を指導する。第2課題は、与えられたRC造の店舗ビル躯体内部に、店舗の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	区分所有住宅、店舗の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点(K)	区分所有住宅、店舗の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	区分所有住宅、店舗の内装デザインに関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	区分所有住宅、店舗における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

区分所有住宅、店舗の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(7keyラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(区分所有住宅)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、区分所有住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める。	1LDK程度の区分所有住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	区分所有住宅の見学	可能ならば、設計に用いる区分所有住宅(実物)を見学し、寸法、面積を実際の建物で確認する。見学が不可能な場合は、各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、教員の指導を受ける。	区分所有住宅の平面図、断面図を十二分に読み込んでくる。家族構成、設計コンセプトを考え、紙にまとめる。	120分
第3回				120分

	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置、床・壁・天井の仕上げ、照明の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	
第4回	断面図の作成	断面図2面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面のエスキース、製図を行う。	120分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースの下図を作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着色し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（店舗）について説明を行う。その後グループに分かれて、店舗の種類、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌で店舗の設計、デザインを見て、イメージを膨らませる。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。授業の後に、コンセプトボードは張り出される。コンセプトが不十分な場合は、再度、練り直す。	店舗の種類、コンセプト、デザインイメージについて、A3用紙1枚にまとめる。	240分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース。	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図の作成	断面図を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図のエスキース、製図を行う。	120分
第13回	パースの作成	店舗のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着色し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名（ISBN番号）	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版（4-7615-2375-1）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野の区分所有住宅、店舗についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にある区分所有住宅、店舗の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にある区分所有住宅、店舗に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】区分所有住宅、店舗の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2時限 3602研究室
学生へのメッセージ	2年生前期はインテリアデザインに重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅や店舗の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。製図するうちに、立体と2次元の図面が結びついて考えられるようになり、後期の独立住宅へとつながることが出来ます。建築、インテリアの設計ができるようになる

ためには、多くの図面、パースを書く必要があります。それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、区分所有住宅、店舗の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。現場（区分所有住宅）にも見学に行く。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居デザイン演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	塚田 豊	指定なし

授業概要(教育目的)

RC造住宅、木造住宅の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地と自らが想定した家族構成で、RC造住宅の設計を指導する。第2課題は、与えられた敷地と家族構成で、木造住宅の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	RC造、木造住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造、木造住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造、木造住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造、木造住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造住宅)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める	RC造住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	エスキース	各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、エスキースを始め、教員の指導を受ける。	家族構成、設計コンセプトを考えてまとめてくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う	240分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース(透視図)を作成する。家具、人物を必ず入れる	パースの下図を作成する。	240分

第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着色し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（木造住宅）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌で木造住宅の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。木造住宅のエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	木造住宅のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける	作品をインキング、コピー、着色し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
---------------	-----------------------------------------------------

評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)
-----------------	----------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」の分野のRC造、木造住宅についての専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】社会にあるRC造、木造住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、木造住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。</p> <p>【技術・表現】RC造、木造住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	金曜2時限 3602研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	2年生後期は住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、木造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
	○	

実務経験を活かした授業		担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造、木造住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	瀬川 康秀	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし

授業概要(教育目的)

RC造集合住宅の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地と自らが想定したコンセプトによるシェアハウスで、RC造集合住宅を設計する。第2課題は、与えられた敷地で、RC造テラスハウスを設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	RC造集合住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造集合住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造集合住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造集合住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

RC造集合住宅の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造集合住宅・シェアハウス)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造集合住宅、シェアハウスや今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	RC造集合住宅、シェアハウスについて、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	集合住宅、シェアハウスのコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。ベッド、テーブル、椅子などの家具も記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分

第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースを作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（RC造テラスハウス）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌でRC造テラスハウスの設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。				
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○
評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。				
使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造集合住宅についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造集合住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造集合住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造集合住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。				
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室				
学生へのメッセージ	3年生前期は集合住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	瀬川 康秀	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし

授業概要(教育目的)

幼稚園、美術館の大型の建築2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は与えられた敷地に建つ幼稚園、第2課題は与えられた敷地に建つ美術館を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼稚園、美術館の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	幼稚園、美術館の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼稚園、美術館のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	幼稚園、美術館における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造、S造幼稚園)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、幼稚園や今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	幼稚園について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	幼稚園のコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。テーブル、椅子などの家具も記入する	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第5回	パースの作成	幼稚園の主要室のパース(透視図)を作成する。家具、人物を必ず入れる	パースを作成する。	240分

第6回	模型の作成	模型を作成する	模型の部品を作成する	240分
第7回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題 (RC造、S造美術館) について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	美術館の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。				
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	設計作品の展示、発表	○	○	○	○
評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。				
使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造、S造の大型建物についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造、S造の大型建物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、S造の大型建物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造、S造の大型建物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。				
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室				
学生へのメッセージ	3年生後期は大型建築に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、S造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居CAD演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立 幸寿	指定なし

授業概要(教育目的)	建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を学習する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. CADの重要なレイヤーという概念を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 図面の描き方について参考になるHPに興味をもてるようになる。 https://www.designboom.com/
技術・表現の観点 (A)	1. 2DCAD・3DCADの基本コマンドを使いこなせる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	JW_CAD	概要と基本 JW-CADでできること・画面構成・画面操作・図面設定	建築レシピ フリーソフト https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第2回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの基本操作 紹介基本コマンド・よく使うコマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第3回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの応用操作 住宅平面図の作成 基本コマンドの復習・簡単な住宅の平面図作成	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第4回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの応用操作 プレゼンの作成 画像編集 チュートリアル・応用コマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第5回	JW_CAD	集合住宅平面図作成 他 チュートリアル・新しいコマンドと総復習・マンション平面図の作図	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第6回	JW_CAD	集合住宅平面図作成 他 チュートリアル・作図練習	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分

第7回	JW_CAD	プレゼンテーション作成 JW-CADの総仕上げ・プレゼンテーション	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ★JW-CADでJPG画像表示 : 「SUSie」 https://arch-free-cad.blogspot.com/2017/10/jw-cadjpg.html	60分
第8回	SketchUp	SketchUpとの連携エクスポート・インポートと環境設定 JW-CAD総復習・SketchUp・初期設定・3DCADによる立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ORSJwwによる外部変形 https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/10/jw-cadsketchupkerkythe.html	60分
第9回	SketchUp	立体化 3Dモデリング (小テスト: JW-CADの確認) Sketchup初期設定の復習から・JW中間小テスト (100点満点——全体の20%)	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第10回	SketchUp	外観パース マンションの立体化 JWの図面マンションの立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ JWからSKUへ (小テストの住宅を3Dにしてみる) ○ https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/11/jw-cadsketchup.html	60分
第11回	SketchUp	内観パース (51C型・サザエさん) 2次元から3次元CADの一連操作 総合復習・	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第12回	SketchUp	KERKYTHEAとの連携エクスポート 最終課題 データ提出要綱・モデリング～レンダリング～プレゼン・添景の挿入方法	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第13回	KERKYTHEA	レンダリング (総合復習) JW-CAD製図～プレゼンテーション作成・確認テスト	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第14回	KERKYTHEA+G I N P	プレゼンテーション 確認テスト返却・フォーマットデータにインポート	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第15回	KERKYTHEA+G I N P	プレゼンテーション (最終課題) 最終仕上げ・プリントアウト A4サイズ提出・データ提出	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 授業内容等質疑受付メールアドレス (提出期限切れ課題提出先) shomei@kasei-gakuin.ac.jp	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に、確認データを提出してもらい次週の授業でExcellent・Good評価の人の内容を確認する。 小テストは、次週に採点して返却する。
評価方法	小テスト・確認テスト合わせて20% 最終課題80%
評価基準	
評価基準	
評価割合	小テスト・確認テスト (20%) 最終課題 (80%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	Jw_cad徹底解説 (操作解説編) 2012-2013
参考URL	https://arch-free-cad.blogspot.com/
学生へのメッセージ	CADを使うのが初めての方が大多数と思われるので、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習してください。 わからない、うまくできない人は、積極的に質問をするように心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築CAD演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立 幸寿	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的として、建築設計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを学習する。本講義ではすべてフリーソフト、2次元から3次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を学ぶ。差をつけるために動画によるポートフォリオを作成する。</p> <p>最初の授業でソフトのインストール、プラグインの設定を行います。ご自身のパソコンをお持ちの方は、ご持参ください。</p>
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	住居CAD演習を履修したもの(合否不問)
------	----------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. フリーソフトの連携を関係付けられる。
思考・判断の観点 (K)	1. フリーソフトの目的にあったプレゼンが可能になる
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 授業だけでなく積極的にプレゼンの可能性を探求できる。 設計のヒントになるHP: https://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介 issuu.com https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio
技術・表現の観点 (A)	1. フリーソフトを応用してプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月トレーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	JW-SU-GE	フリーソフトの連携の概要 動画 使用するソフト: SketchUP・GINP・INSCAPE・GoogleEarth PowerPoint MovieMaker 紹介	建築レシピ フリーソフト https://arch-free-cad.blogspot.com/ 設計のヒントになるHP: http://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介 issuu.com https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio	60分
第2回	SketchUp	写真合成の手法 モニタージュ手法 (Sketchupデータ)・Kerkythea チュートリアル 背景写真を利用した合成: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ KerkytheaのSUN&SKYウィザード: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/3d-cad.html Kerkytheaのglobal: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/12/kerkythea_7.html	60分
第3回	SketchUp	モニタージュ写真 SU+KT+GIMP 背景画+GIMPによる合成: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html 図面のPDF化: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscapepdf.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 添景の挿入: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_22.html GIMPのフィルター効果: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_23.html	60分
第4回	KERKYTHEA	添景の貼り付け プレゼンテーションボードの作成・JW-CADによるプレゼン Inkscapeによるプレゼン: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscape.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第5回	KERKYTHEA+GINP		https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築総合演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柏木 穂波	指定なし

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科における4年間の学修を確実なものとするために、木造軸組構法、RCラーメン構造の戸建て住宅の設計作図をおこなう。設計にあたっては、構造計画・設備計画及び周辺環境との調和を図り、総合的にまとめあげることが要求される。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅の構成・構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅について、適切な計画・構造となっているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住宅について、積極的に住まい手の要求をくみ取り、快適な住生活のための適切な計画を提案できる。
技術・表現の観点 (A)	住宅について、住まい手の要求に適合した計画案を作成でき、建築設計図書として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題1その1	ガイダンス、課題1説明後、各自、平面計画をおこなう	建築製図の基礎、木造とRC造の構法の違いについて確認しておく	90分
第2回	課題1その2	課題1の完成図例を配布および解説後、各自、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第3回	課題1その3	面積表、仕上げ表、主要構造部材表、断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第4回	課題1その4	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第5回	課題2その1	課題1提出。課題2の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第6回	課題2その2	課題2の完成図例を配布および解説後、各自、面積表、配置図、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第7回	課題2その3	床伏図の考え方を解説後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第8回	課題2その4	矩計図の解説後、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分

第9回	課題3 の1	そ	課題2提出。課題3の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第10回	課題3 の2	そ	授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第11回	課題3 の3	そ	授業内に床伏図を提出。指導を受けた後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第12回	課題3 の4	そ	課題3の完成図例を配布および解説 配置図、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第13回	課題4 の1	そ	課題3提出。課題4の説明後、各自、平面計画をおこなう。 授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第14回	課題4 の2	そ	課題4の完成図例を配布および解説。平面図の完成と断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第15回	課題4 の3	そ	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう。 課題4提出	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分

学生へのフィードバック方法	演習課題方式で授業を進める。授業内での質問を歓迎する。				
評価方法	課題については、計画の適切性および図面の完成度によって評価する。平常点については、授業中の学習態度によって評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○	○	○
評価割合	平常点：20%/課題：80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	「特に指定しない」 適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。				
参考図書	「はじめての建築製図」建築のテキスト委員会編/学芸出版/1997				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、1級建築士の資格を有し、設計事務所開設後、約23年、木造住宅、店舗等の設計監理に携わっている。 建築総合演習の指導にあたり、実務で学んだ設計の専門的知識、技術を教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)

建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野である。授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	建物が適切な建築計画に基づいてつくられているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築士としての社会的業務・業務に関わる諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス ／建築計画とは	建築計画の全体像について学ぶ。	(復習) 市民参加ワークショップによる計画事例について調べ、市民の設計プロセスへの関係性について理解する。	180分
第2回	寸法の決め方・決まり方	建築における寸法体系、寸法の決め方について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、さまざまな要因から決まる寸法の事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第3回	空間移動と安全性	群衆行動の法則性と建物の安全計画・安全設計、防災計画について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、群衆事故の事例について調べ、対策を考える。	180分
第4回	空間と知覚 1	空間の概念、知覚について、哲学、地理学、建築学、心理学の観点から学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、空間の概念について自分なりの考えをまとめる。	180分
第5回	空間と知覚 2	錯視と知覚の恒常性、アフォーダンスの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、身近なアフォーダンスの例について考える。	180分

第6回	空間と人間のイメージ	都市のイメージ、レジビリティの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自分の住む都市のイメージについて考える。	180分
第7回	周辺空間と人間の心理	空間におけるプライバシー、テリトリー、テリトリアリティの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自分の家の周りの領域性、自然監視について考える。	180分
第8回	小学校・中学校・高等学校	小学校・中学校・高等学校の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、小学校・中学校・高等学校の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第9回	幼稚園・保育所	幼稚園・保育所の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、幼稚園・保育所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第10回	美術館	美術館の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、美術館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第11回	図書館	図書館の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、図書館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第12回	劇場	劇場の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、劇場の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第13回	ホテル・事務所	ホテルの建築計画に関わる法規・機能・計画手法、事務所の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、ホテル・事務所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第14回	病院・診療所・高齢者施設	病院・診療所・高齢者施設の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、病院・診療所・高齢者施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第15回	商業施設・駐車場・スポーツ施設	商業施設・駐車場・スポーツ施設の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、商業施設・駐車場・スポーツ施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については採点し、次回授業時に全体講評をおこない返却する。 小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 小テストについては採点し、授業内で解説するとともに返却する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。2回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。6回程度を予定している。 小テストは、第1回～第7回の授業内容について第8回授業にて、第8回～第15回の授業内容について第15回授業にて実施する。穴埋め問題を出題する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○		
	小レポート	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○			
評価割合	小課題10%、小レポート25%、小テスト25%、定期試験40%により総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。				
参考図書	「図説やさしい建築計画」 深水浩／学芸出版社／2011				

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p>	
オフィスアワー	金曜 3 限 3508研究室	
学生へのメッセージ	建築士やインテリアコーディネーターなど資格取得の必須の科目であるため、その試験概要について把握していること。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築環境システム		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空調・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを説明し、建築と設備のかかわりを教示することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて講義する。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても説明する。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	〔建築士指定科目〕 建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	建築設備の概要を理解する。 建築設備の概要/要約配布資料の説明	授業内容を要約した配布資料を 読んでおくこと	60
第2回	建築から建築設備へ (1)	建築における建築設備の位置付けを理解する。 建築設備と地球環境/建築環境を構成する要素/意匠・構造・設備を合理的にまとめる	教科書p.9-20(建築から建築設備へ)を読んでおくこと	180
第3回	建築から建築設備へ (2)	設備デザインについて事例を通して理解する。 設備デザインの可能性 事例紹介	建築設備の概要の復習 レポート「設備デザインの事例を調べる」	120 540
第4回	防災設備 (1)	防災設備について理解する。 建築災害の種類/自然現象によるもの、人為的要因によるもの 防災計画/地震に対する建築計画/火災に対する建築計画/防災設備/防排煙設備	教科書154-167(防災設備)を 読んでおくこと	180

第5回	防災設備 (2)	消火設備について理解する。 消火設備/火災になるまでの経緯/燃焼の3要素/火災の種類/消火方法の分類/消火設備の種類/消火設備の設置方法/消火設備の設置対象	課題1(防災設備)による復習	120
第6回	空調和設備の概要 (1)	建物内のエネルギーの流れを理解する。 熱の流れ/ヒートポンプパッケージ空調方式/吸収式温水発生機による空調方式	教科書21-30(空調和設備の概要)を読んでおくこと	180
第7回	空調和設備の概要 (2)	建物内の空気の流れを理解する。 空調空気の流れ/換気空気の流れ/水の流れ	建物内の熱・空気・水の流れについての復習	120
第8回	空調負荷 (1)	自然環境と建築環境の関係について理解する。 入れ子としての内と外/自然環境の違いと変化/内と外の条件と設備/快適な温熱環境とは	教科書32-44(外界条件)を読んでおくこと	180
第9回	空調負荷 (2)	太陽エネルギーの利用と遮蔽について理解する。 太陽エネルギーの基本的性質/太陽エネルギー利用/日射の遮蔽	外界条件について復習すること	120
第10回	空調負荷 (3)	空調負荷について理解する。 加熱・加湿/冷却・除湿/暖房負荷と冷房負荷の要素/冷暖房負荷・空調負荷を減らす方法	教科書45-50(空調負荷)を読んでおくこと 課題2(空調負荷)による復習	90 60
第11回	空調和設備 (1)	空調熱源装置と使用エネルギーについて理解する。 エネルギーの選択/冷熱源と温熱源/新しい空調熱源方式	教科書51-60(熱源設備)を読んでおくこと 課題3(空調熱源)による復習	90 60
第12回	空調和設備 (2)	空調方式について理解する。 中央方式と個別方式/タスク空調と床吹き出し空調	教科書61-68(空調方式)を読んでおくこと 課題4(空調方式)による復習	90 60
第13回	空調和設備 (3)	熱搬送について理解する。 熱搬送方式/室内空気分布と吹き出し口/換気設備/自動制御設備	教科書69-100(熱搬送)を読んでおくこと 熱搬送方式について、その特徴を復習すること	90 60
第14回	建築と省エネルギー設備計画とスペース	省エネルギー計画について理解する。 エネルギー消費の決定要因/省エネルギーはどのように実現するか/省エネ法 設備スペース/建築プラン検討時の設備計画	教科書170-194(省エネルギー計画)を読んでおくこと 課題5(省エネルギー)による復習	90 60
第15回	電気設備の概要	電気設備の概要について理解する。 関連法規/電気の基本事項/配線設備	配布資料(電気設備の概要)を読んでおくこと 電気設備の復習をすること	90 60

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、「環境に配慮した設備デザイン」の実例を調べる課題である。 ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門 新訂第二版/同編集委員会編/彰国社/2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	[知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	町田C 水曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。
教育等の取組み状況	

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	構造力学C		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	建築(住居)における力学について講義する。構造力学Cは初学者向けの発展編である。単純な構造を通して、巨視的・微視的な着眼点に基づく力学の考え方を理解し、力学に対するより深い洞察力の育成を目指す。また、構造力学A(入門編), B(基礎編)の復習についても並行して行う。
履修条件	構造力学A, Bを受講していること。または、構造力学A, Bの受講に相当する理解を備えていること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 座屈の意味を理解し計算ができる 2. セン断変形と曲げ変形の違いを理解し計算ができる 3. 梁の変形の計算ができる 4. 不静定構造物の解法を理解し計算ができる
思考・判断の観点 (K)	1. 軸変形, セン断変形, 曲げ変形, 座屈荷重による変形を正しく理解し説明できる 2. 静定構造物と不静定構造物の解法について正しく理解し説明できる 3. 梁の変形に対する考え方を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

構造力学C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	概論	1. 構造力学Aの振り返り 2. 構造力学Bの振り返り	構造力学A, Bで学んだことを見直しておくこと	180分
第2回	座屈1	1. 座屈とは(座屈と圧縮について) 2. 座屈荷重, 座屈長さ, 断面2次半径, 細長比	構造力学A, Bで学んだ「断面2次モーメント, ヤング係数」を復習しておくこと	180分
第3回	座屈2	1. 水平移動がある場合の座屈荷重 2. 水平移動がない場合の座屈荷重	前回の授業内容を復習しておくこと	180分
第4回				180分

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住宅設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

授業概要(教育目的)	木造の基本を習得する。構法、構造、計画、材料、施工など、すべての分野のベースとなる部分を学ぶ。尺、寸、間などの寸法、在来工法、枠組み壁工法の基本、比較、基礎・地盤、壁・軸組み、1階床組み、2階床組み、小屋組み、屋根、外装、内装などの基本を、簡単な演習を交えて講義する。単に木造の知識を習得するのではなく、設計や実務に役に立つような生きた知恵の習得を目指す。後期から始まる木造設計に向けて、その時に知っておかなければならない最低限の知識を身に付ける。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	木造建築に関する材料、構法、納まりなどの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	具体的な建築設計で、木造の構造的可否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	設計や工事現場における木造構法に関心をもち、設計を意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	木造住宅の1/100の設計ができ、それを図面に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	面積計算、寸、尺、間、坪	面積計算(建ぺい率、容積率)の説明の後、寸、尺、間、坪などの伝統的な寸法体系、畳、襖、障子、テーブル、椅子、浴室、トイレなどの寸法を学ぶ。	教科書のp8~p28を読んでおくこと。	180分
第2回	容積率、建ぺい率、軸組構法と枠組み壁構法	容積率、建ぺい率の計算の説明の後、在来軸組構法と枠組み壁構法(ツーバイフォー構法)を比較し、両者の長所、短所を学ぶ。小屋組みの和小屋、洋小屋を学ぶ。	教科書のp29~p50を読んでおくこと。	180分
第3回	面積計算、ドライエリア、軸組構法と枠組み壁構法の床組み、地盤	面積計算とドライエリアの説明の後、軸組構法と枠組み壁構法の床組みの違いを学ぶ。地盤、L形擁壁、スウェーデン式貫入試験、不同沈下、地盤改良、杭などについて学ぶ。	教科書のp51~p66を読んでおくこと。	180分
第4回	近代建築の5原則、家具の大きさ	コルビュジエの近代建築の5原則と家具の大きさの説明の後、水杭、水貫、水糸、ベンチマーク、縄張り、フーチング、コンクリートなどを学ぶ。	教科書のp67~p83を読んでおくこと。	180分

	さ、縄張り、コンクリート			
第5回	コルビュジェの住宅構成、軸組構法、軸組構法、枠組み壁構法、基礎、土台	コルビュジェの住宅構成の説明、軸組構法、枠組み壁構法の復習の後、布基礎、べた基礎、割栗石、切込み砂利、捨てコンクリート、RCの意味、RCの構造的特徴、モルタル、セメントペースト、コンクリート、基礎、土台、換気口などを学ぶ。	教科書のp84～p105を読んでおくこと。	180分
第6回	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造、木造軸組	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造の説明の後、木造1/100平面図の書き方、柱の置き方、通し柱、管柱、胴差し、軒桁、筋交い、金物、間柱などを学ぶ。	教科書のp106～p129を読んでおくこと。	180分
第7回	ミースの均質空間、RC造、S造、木造1階床組み	ミースの均質空間、RC造、S造の説明の後、1階根太、大引き、金物、火打ち土台、土台の継手などを学ぶ。	教科書のp130～p150を読んでおくこと。	180分
第8回	アアルトの住宅、木造2階床組み	アアルトの住宅の説明の後、2階根太、梁、梁の仕口、金物などを学ぶ。	教科書のp151～p168を読んでおくこと。	180分
第9回	カーンの住宅、パラベット、ペントハウス、ドレイン、笠木、木造の屋根	カーンの住宅、パラベット、ペントハウス、ドレイン、笠木の説明の後、垂木、母屋、棟木、小屋束、小屋梁、梁間、桁行、平側、妻側、切妻、寄棟、入母屋、京呂、折置、梁の仕口などを学ぶ。	教科書のp169～p190を読んでおくこと。	180分
第10回	ガウディの建物、木造小屋組み	ガウディの建物の説明の後、木造の垂木と梁の架け方を何種類か学ぶ。	教科書のp191～206pを読んでおくこと。	180分
第11回	マッキントッシュの住宅、木造屋根材	マッキントッシュの住宅の説明の後、アスファルトルーフィング、スレート、屋根勾配、水切り、棟包み、金属瓦葺き、金属立てはげ葺き、本瓦、棧瓦、冠瓦、鬼瓦、巴瓦、スペイン瓦、セメント瓦、金属瓦、折版、雪留めなどを学ぶ。	教科書のp207～p227を読んでおくこと。	180分
第12回	ワグナーの建物、基礎、土台、木造の雨仕舞、外壁	ワグナーの建物、基礎と土台の違いの説明の後、軒天井、樋、内樋、屋根の1/100立面図、1/100断面図、フラットルーフの防水、防水立ち上がり、ドレイン、笠木、下見板、サイディング、ガルバリウム鋼板、ALC板、シーリング、役物、胴縁、壁体内通気などを学ぶ。	教科書のp228～p248を読んでおくこと。	180分
第13回	柱の入れ方、左官、サッシ	柱の入れ方（RC造、S造、W造比較）の説明の後、ラス、木摺、吹き付けタイル、リシン吹き付け、磁器質タイル、役物、外付けサッシ、半外付けサッシ、サッシの留め方、木製枠、サッシの平面図、框などを学ぶ。	教科書のp249～p266を読んでおくこと。	180分
第14回	床組み、ガラス、断熱材、ボード類、床材	床組み（軸組、枠組み壁）の比較の説明の後、フロートガラス、型ガラス、複層ガラス、網入りガラス、サランネット、ポリスチレンフォーム、グラスウール、岩綿吸音板、石膏ボード、化粧石膏ボード、石膏ラスボード、フローリング、クッションフロア、畳などを学ぶ。	教科書のp267～p284を読んでおくこと。	180分
第15回	小屋組み、仕上げの納まり	小屋組みの復習の後、幅木、畳寄せ、回り縁、野縁、吊り木、吊り木受け、ドア枠、ドア枠の平面図、散り、フラッシュ戸、框戸、側桁、ささら桁、踏板、蹴込み板、踏み面、蹴上げなどを学ぶ。	教科書のp285～p295を読んでおくこと。	180分

学生へのフィードバック方法	各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前か、3602研究室まで訪問すること。			
評価方法	毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問。すべて記述式とする。小テストの再テストは原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○

評価割合	各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価する。配点は平常点20%、テストの得点80%で評価。	
使用教科書名 (ISBN番号)	原口秀昭著「ゼロからはじめる木造建築入門」彰国社 (978-4-395-01014-1)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】木造建築に関する基本的知識を有している。 【思考・判断】木造の軸組に対して、構造的、計画的思考、判断ができる。 【関心・意欲・態度】社会にある木造建築に対して、常に関心をいただき、木造の設計に対して意欲がある。 【技術・表現】木造建築を平面図などの図面で表現できる。	
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室	
学生へのメッセージ	設計する上で必須の木造建築の技術を身に付け、デザイン演習の木造住宅の設計につなげてください。就職先がハウスメーカーやリフォーム会社の場合、必須の知識となります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理経験を有しており、木造建築の基本知識が設計、施工にどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	構造計画B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	構造力学の知識を基に、鉄筋コンクリート構造の構造設計法に焦点を当てて講義する(鉄筋コンクリート構造とその他の構造の違いについても講義する)。また、演習課題を通して、実務的な知識の育成を目指す。これらは、建築デザイン演習、環境デザイン演習において必要とする構造の知識である。			
履修条件	構造力学A, B, Cを受講していること。または、構造力学A, B, Cの受講に相当する理解を備えていること。			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	1. 建築計画, インテリアデザインにおいて構造の知識による判断ができる 2. 構造計画に基づいた建築デザインを考えることができる			
思考・判断の観点 (K)	1. 鉄筋コンクリート造とその他構造の違いを正しく理解し説明できる 2. コンクリートと鉄筋の役割を正しく理解し説明できる 3. 鉄筋量を求める基本的な考え方について正しく理解し説明できる			
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)				
学習計画				
構造計画B				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	鉄筋コンクリートの導入1	1. 鉄筋コンクリートの設計手順1(平面計画, 骨組の決定, 荷重の決定, 応力算定) 2. 反力計算, 応力計算の復習	構造力学で学んだ「反力計算, 応力計算」を復習しておくこと	180分
第2回	鉄筋コンクリートの導入2	1. 鉄筋コンクリートの設計手順2(前回復習, 応力図, 鉄筋量の算定) 2. 応力図, 材料特性, 断面特性の復習	構造力学で学んだ「応力図の描き方, 材料特性, 断面特性」を復習しておくこと	180分
第3回	鉄筋コンクリートの基礎1	1. コンクリートと鉄筋の特徴 2. コンクリートと鉄筋の圧縮応力度, 引張応力度, 応力度とひずみ度の関係, ヤング係数	構造力学で学んだ「応力度, ひずみ度, ヤング係数」を復習しておくこと	180分

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる										
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。										
教育等の取組み状況											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="373 360 440 421">該当有無</th> <th data-bbox="440 360 1439 421">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="373 421 440 495">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="440 421 1439 495"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 495 440 562">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="440 495 1439 562"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 562 440 629">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="440 562 1439 629"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 629 440 676">IGT活用</td> <td data-bbox="440 629 1439 676"></td> </tr> </tbody> </table>	該当有無	概要	実務経験を活かした授業		アクティブ・ラーニング		情報リテラシー教育		IGT活用	
該当有無	概要										
実務経験を活かした授業											
アクティブ・ラーニング											
情報リテラシー教育											
IGT活用											

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築材料学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要(教育目的)	現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	建築材料（コンクリート・木材・金属）について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 各種の木材について、年輪幅、含水率、密度と強さの関係を思考・判断できる。 2. 適正なコンクリートを製造するためのポイントを指摘できる。 3. 金属材料（鉄筋）の機械的性質がJIS（日本工業規格）に合格しているか思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 木質系材料(1)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、木質系材料の基本的な性質について説明できること。	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	30
第2回	木質系材料(2)	木質系材料の性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	90
第3回	木質系材料(3)	住宅用材料として用いられている各種の木材について、縦圧縮試験を行い、その性状を明らかにする。なお、授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すること。	120

第4回	木質系材料 (4)	木材の圧縮試験のレポート作成方法について理解すること。又、レポート課題を作成する上で必要となる情報活用の方法についても理解すること。 【レポート課題①の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①に関する資料集めを行う。	180
第5回	コンクリート (1)	コンクリートに用いられている材料（セメント）の種類や特徴などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①を書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①についてまとめる作業を行う。	240
第6回	コンクリート (2)	コンクリートに用いられている材料（骨材・混和材料）の種類や特徴などについて説明できること。 【レポート課題①の提出期限】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について、ルーブリックに示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	300
第7回	コンクリート (3)	コンクリートの作製を通して、まだ固まらないコンクリートの性質を説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について見返すこと。	180
第8回	コンクリート (4)	硬化前のコンクリートの性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	金属材料 (1)	金属材料の性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	金属材料 (2)	鉄筋の引張試験を通して、鉄筋の機械的性質について説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すること。	120
第11回	金属材料 (3)	鉄筋の引張試験のレポート作成方法について理解すること。レポート課題を作成する上で必要となる情報活用の方法についても理解すること。 【レポート課題②の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題②に関する資料集めを行う。	240
第12回	コンクリート (5)	コンクリートの圧縮強度試験を通して、硬化後のコンクリートの性質を説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について書き始める。 【復習】返却したデータシートについて復習すると共に、レポート課題②についてまとめる作業を行う。	240
第13回	コンクリート (6)	コンクリートの各種試験のレポート作成方法について理解すること。又、レポート課題を作成する上で必要となる情報活用の方法についても理解すること。【レポート課題②の提出期限】 【レポート課題③の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題③に関する資料集めを行う。	180
第14回		鉄筋コンクリートの性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて	240

	鉄筋コンクリート リット (1)		理解すると共に、レポート課題③を書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題③についてまとめる作業を行う。	
第15回	鉄筋コンクリート リット (2)	鉄筋コンクリートの耐久性について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すると共に、レポート課題③について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにすること。	300

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びデータシートは、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を行う。実験レポート課題については、提出された翌週もしくは翌々週に返却し、返却時に評価基準の解説を行う。
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは、実験時のデータシートの記載内容で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくはデータシートの記述内容によって3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。実験レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他(提出期限、分量、体裁など)」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階(S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点)で評価する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
データシート	○			
レポート課題	○	○		○

評価割合	平常点(50%)及びレポート課題(50%)で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
----------------	----------------

参考図書	初学者の建築講座 建築材料/橋高義典ら/市ヶ谷出版、やさしい建築材料/松本進/学芸出版社、初めての建築材料/前田幸夫ら/学芸出版社
------	-------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。 【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。 【技能・表現】建築材料の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	水曜日3時限及び4時限、3号棟6階3606研究室、できるだけ、メールなどで事前予約して下さい。
---------	-------------------------------------------------

学生へのメッセージ	ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。
-----------	-------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	レポート課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探査方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築施工		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要(教育目的)	建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、防水工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算・見積りの方法についても学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略について説明できること。	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること	60
第2回	仮設・地業工事(1)	地盤調査方法(標準貫入試験)について説明できること。 【レポート課題(鉄骨の接合方法とその特徴について)の説明】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第3回	仮設・地業工事(2)	杭の種類や施工方法について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第4回	仮設・地業工事(3)	根切り工事及び山留め工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	300

			【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	
第5回	仮設・地業工事（4）	足場工事について説明できること。 【レポート課題の提出期限】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について、ループリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	360
第6回	主体工事（1）	鉄骨工事の中の、特に、高力ボルト接合について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第7回	主体工事（2）	鉄骨工事の中の、特に、溶接について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	主体工事（3）	鉄筋コンクリート工事の中の、鉄筋工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	主体工事（4）	鉄筋コンクリート工事の中の、型枠工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	主体工事（5）	鉄筋コンクリート工事の中の、コンクリート工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	主体工事（6）	コンクリートブロック工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	防水工事（1）	防水工事の中の、アスファルト防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	防水工事（2）	防水工事の中の、改質アスファルト防水、シート防水などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	防水工事（3）	防水工事の中の、塗膜防水、ステンレスシート防水、モルタル防水及びシーリング防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	その他の工事	積算、施工機械・器具などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420
学生へのフィードバック方法		実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。		
評価方法				

平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
レポート課題	○			
定期試験	○			

評価割合

平常点（約43%）、レポート課題（約14%）及び定期試験（約43%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書

建築施工テキスト／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社、専門士課程 建築施工／福田健策ら／学芸出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】住分野の中の建築施工についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。

オフィスアワー

水曜日 4 時限 3606研究室

学生へのメッセージ

ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	クラフトデザイン演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

授業概要(教育目的)	陶土と木を主たる素材とし、スケッチによるアイデアの展開・製図の作成・試作品の制作という一連の手順をふんで食器具を制作する。制作にあたっては、既存の食器具の調査や生活の観察と検討をおこない、その結果に基づいて計画的に作品を制作することを原則とする。その過程を通して制作のための基礎的な技術と、クラフトデザインの基本的な考え方を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	材料の特徴と、その特徴に応じた形の作り方を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	機能と材料と作り方の関係を考えながら、形をデザインすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	暮らしの中の道具のデザインに関心を持ち、多角的視点で観察できる。
技術・表現の観点 (A)	デザインの意図にあった形を作ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容と日程の説明	作品の制作手順と授業日程の説明	作品制作の手順の確認	90分
第2回	課題1: 陶器制作の基礎①	陶土の準備と土練りと作品のデザインの検討	作品のデザインの決定	90分
第3回	課題1: 陶器制作の基礎②	円筒形の茶碗の成形(1作目)	作品の制作作業の継続	90分
第4回	課題1: 陶器制作の基礎③	円筒形の茶碗の成形(2作目)	作品の制作作業の継続	90分
第5回	課題1: 陶器制作の基礎④	円筒形茶碗の底削りと仕上げ	作品の制作作業の継続と制作工程のまとめ	90分
第6回				90分

	課題2：茶碗の制作①	茶碗のデザインの検討（アイデアスケッチ）と立面図・平面図の作成	茶碗のデザインの決定と製図の完成	
第7回	課題2：茶碗の制作②	製図に基づいた茶碗の制作	作品の制作作業の継続	90分
第8回	課題2：茶碗の制作③	製図に基づいた茶碗の制作	作品の制作作業の継続	90分
第9回	課題2：茶碗の制作④	底削りと仕上げ	作品の制作作業の継続と制作工程のまとめ	90分
第10回	課題3：木のバターナイフの制作①	木の枝の形をいかしたバターナイフの制作（1作目）	作品の制作作業の継続（紙ヤスリによる仕上げ作業）と次の作品のデザインの検討	90分
第11回	課題3：木のバターナイフの制作②	木の枝の形をいかしたバターナイフの制作（2作目）	作品の制作作業の継続（紙ヤスリによる仕上げ作業）と、次の作品のデザインの検討。	90分
第12回	課題3：木のバターナイフの制作③	木の枝の形をいかしたバターナイフの制作（3作目）	作品の制作作業の継続（紙ヤスリによる仕上げ作業）と、次の作品のデザインの検討。	90分
第13回	課題3：木のバターナイフの制作④	木の枝の形をいかしたバターナイフの制作（4作目）	作品の制作作業の継続（紙ヤスリによる仕上げ作業）と、次の作品のデザインの検討。	90分
第14回	課題2：茶碗の制作⑤	茶碗の施釉と本焼きのための窯入れ	各作品の制作意図と手順の整理	90分
第15回	各作品の仕上げとレポートの作成	作品の制作意図のまとめと写真撮影	レポートの作成	90分
第16回	作品合評会	完成させた作品について発表する。		0分
第17回				

学習計画注記	作品制作の進捗状況等により、授業計画を変更します。
学生へのフィードバック方法	提出された作品は授業終了後に返却します。
評価方法	<p>1. 提出課題は以下のとおり。 課題1：完成した円筒形の茶碗2個 課題2：同じ形で同じ寸法の茶碗3個とその製図とプレゼンテーションレポート 課題3：完成したバターナイフ4点とプレゼンテーションレポート</p> <p>2. 作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。</p> <p>3. レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。</p> <p>4. 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。</p>
評価基準	
評価基準	
評価割合	提出作品40%・レポート40%・平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】各分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p>

	【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	前期金曜5時限 1503研究室または工作工房	
学生へのメッセージ	授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。また動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インテリアデザイン演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

授業概要(教育目的)	家具(椅子)の基本的な知識を習得する。まず椅子の構造を理解するために有名な椅子の図面を基に忠実な模型製作を行う。次に平面材であり、ある程度自由な形を作ることができる厚み15mmのシナ合板と一部ブナ無垢材を使用したオリジナルの椅子のデザイン(設計)を考える。三面図、ラフモデルの制作、再検討し三面図、部品図、木取り寸法表、木取り図を制作する。写真撮影し、パネルイスカッションを行う。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	椅子デザインの特徴(機能、材料、構造、製作技術、経済性、審美性、創造性)を説明できる。
思考・判断の観点(K)	椅子をデザインできる思考、創造性を養うことができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	モデリングの表現技術を身に付け、製作できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家具の基礎知識	講義:家具の構造、材料、椅子のデザインの流れ、有名デザイナーの椅子、建築家が考えた椅子のデザインを理解する。	図書館等で椅子のデザインについて調べる。	90分
第2回	椅子構造の理解/有名な椅子の資料を基に1/5の模型制作①	有名な椅子の図面を基に、1/5の正確なサイズに合わせ、模型を製作する1)	模型制作の方法、モデル製作のテクニック等を調べる。	90分
第3回	椅子構造の理解/有名な椅子の資料を基に1/5の模型制作②	材料に正確な平面、側面、正面図を当て椅子の部品製作を行ない、忠実に正確に製作する手法を学ぶ。	授業時間外に部品製作の続きを行ない、3週で模型が完成するように、部品の製作を行う。	90分
第4回	椅子構造の理解/有名		模型製作が完成できなかった人は、完成に至らせる。	90分

	な椅子の資料を基に1/5の模型制作 ③	1/5サイズの各部品を組み立て、立体的なバランスと大きさを把握する。次回計画する椅子のデザイン（設計）のための参考となることを理解する。		
第5回	合板による椅子のデザイン アイデアスケッチ	過去の作品、卒業研究作品の例を挙げながら、構造の特徴、デザインの考え方をパワポで説明するため、材料の特性を活かすデザインを習得する。	オリジナルなデザインとは何かを考え、自分独自のデザイン（アイデア）を考案する。	90分
第6回	アイデアスケッチ 1/10のラフ模型による検討	15mmシナ合板1枚(910×1825mm)1枚で納まる椅子のデザインを行い、ラフモデルをできるだけたくさん製作し、アイデアを検討する力を養う。	ラフモデルの追加製作。	90分
第7回	三面図作成(1)	検討したアイデアを図面（正面、平面、側面図）を描き、立体としてのバランスを創造できるための能力を養う。	図面製作の不足の部分を補うための学習。	90分
第8回	1/5の模型制作(1)	描いた図面を忠実に正確に1/5の模型を制作し、最初に製作した有名な椅子のモデルと比較して、制作したい椅子のイメージを深める能力を養う。	模型制作で不十分な箇所を製作し、手直りする。	90分
第9回	改善点を考える	構造的に、安全か、視覚的な不安はないかなど検討し、デザインの追加、整理してスッキリさせる等を考慮して再デザインを行う能力を養う。	再度有名な椅子のデザインを振り返り、「デザインするとは？」を検討する。	90分
第10回	三面図の作成(2)	椅子はリデザインされるのが一般的であり、数回の再検討により、洗練されたフォルム、シンプルな構造などにより、良いデザイン、即ち主張べき部分が明確なることを理解する。	三面図制作作業で不足なところを補う。	90分
第11回	1/5の模型制作(2)	完成する椅子を予想し、正確な模型を製作、模型を拡大したものが現実の椅子となることを意識して、図面に忠実な模型制作のテクニックを身に付ける。	模型制作で、不十分な箇所を補う。	90分
第12回	部品図作成	実制作には、正確な寸法が必要であり、細かな部分も頭の中で想像し、頭の中で組み立てることができる能力。	寸法の確認、接合方法、部品点数の確認	90分
第13回	木取り寸法表と木取り図作成	材料の木目方向や、視覚的強度、材料が1枚で納まるような工夫を考慮し検討する力を養う。	寸法、数の確認、木取り図の誤りはないか等の確認	90分
第14回	写真撮影・パネル製作（プレゼンテーション）	パネル製作の技術、コメント、説明文、一番見せたいフォルム等を考え、フィニッシュ（仕上げ）パネルにまとめる能力。	どのようにパネル表現したいかを検討。	90分
第15回	パネルディスカッション	発表の能力、自分の考案した椅子で何を主張したかったのかを再度考え直してみる、達成できたかどうかを自問自答してみる。	発表の仕方、表現方法について反省及び検討。	90分

学習計画注記	個人差（アイデア抽出、図面、モデリング作業）により、進め方が異なることがあるため、作業等が早い人は、順次先に進み、多数のアイデア、モデル製作を行なう。
学生へのフィードバック方法	アイデアの段階ではアドバイスをを行い、図面、モデル製作は、手順等を個人指導する。
評価方法	成果物の評価（85%）平常点（15%）平常点は、積極的な授業態度、行動で判断する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	1/5模型（2点）三面図2枚、木取り寸法表と木取り図、プレゼンテーションパネル（80%）平常点（20%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	

	「住」分野のインテリアエレメントの一つとして椅子のデザインの知識を学修し、専門的な職業とのつながりを持つことができる。	
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室	
学生へのメッセージ	プロダクトデザインの考慮すべきことや楽しさ、アイデア展開の方法等を学修してほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	メディアデザイン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吳 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会に溢れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。 本授業では、映像制作を通じてマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、チーム構成	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、チーム構成とそれぞれの役割決める。ブレインストーミング方法によるテーマを設定する。	映像作品を1つ選定して映像の構成、特徴、視覚的效果などを調査してレポートでまとめる。	90分
第2回	コンセプト、シナリオの作成1	ブレインストーミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品を1つ選定して映像の構成、特徴、視覚的效果などを調査してレポートでまとめる。	90分
第3回	コンセプト、シナリオの作成2	ブレインストーミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品のテーマ、コンセプト、シナリオをまとめる。	90分
第4回	絵コンテの作成1	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	90分
第5回	絵コンテの作成2	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	絵コンテの完成度を高める。	90分
第6回	ロケーション	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影場所を視察する。	撮影するための準備を行う。	90分

第7回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第8回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	90分
第9回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第10回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第11回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリーを繋げる。	編集したデータを確認する。	90分
第12回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリーを繋げる。	編集したデータを確認する。	90分
第13回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。BGMやアフレコの録音を行う。	編集したデータを確認する。	90分
第14回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。字幕処理などを行い完成する。	編集したデータを確認する。プレゼンテーション準備を行う。	90分
第15回	プレゼンテーション	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	90分

学生へのフィードバック方法	この演習は学生が主体で行う授業ですがブレインストーミングの手法、シナリオの作成方法、撮影、編集のテクニックについて授業中およびオフィスアワーの時間に適切なアドバイスを行う。別の質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	<p>課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。</p> <p>レポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。</p> <p>平常点は20点満点で15回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
レポート		○	○	○
最終報告書	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	課題 (60%)、レポート (10%) 最終報告書 (10%) 平常点 (20%) で評価をする。
------	---------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 情報 について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】 多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日2限 1307研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	映像は情報表現にはとても重要な表現の手段です。映像制作に興味がある方は是非参加して楽しい映像を制作しましょう。受講申請が5名以下の場合には開講できません。少人数の映像製作は難しいからです。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。

ICT活用	○ 情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。
-------	----------------------------------

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	デジタルフォト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年(2019年度限り)		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吳 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	カメラの仕組みと写真の基本的な理論を理解して演習を通じて知識を深める。写真は情報伝達の表現において大切な方法である。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。テーマを用いた風景や人物などの撮影を行い、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。
履修条件	CGデザイン演習の履修が望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、写真の知識を深めて理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、デジタルフォトの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。デジタルフォトと表現の可能性について説明を行う。	写真家を2人選び作品(世界観、特徴など)について調査しレポート1でまとめる。	180分
第2回	カメラについて	カメラの種類と機能、レンズの種類・絞りとシャッターの機能について理解する。	写真家を2人選び作品(世界観、特徴など)について調査しレポート1でまとめて提出。	180分
第3回	カメラについて	シャッターの役割を学習して露出について理解する。またシャッターの変化による表現の可能性を理解する。	課題1:カメラの基本1(露出、シャッターの理解)を行う。	180分
第4回	カメラについて	絞りの役割を学習して露出について理解する。また絞りの変化による表現の可能性を理解する。	課題2:カメラの基本2(露出、絞り、露出の理解)を行う。	180分
第5回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家1の作品について解説を行う。	課題3:季節をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート2を作成す	180分

			る。インスタグラムで発信を行う。	
第6回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家2の作品について解説を行う。	課題3：季節をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート2を作成して提出。インスタグラムで発信を行う。	180分
第7回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家1の作品について解説を行う。	課題4：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート3を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第8回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家2の作品について解説を行う。	課題4：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート3を作成して提出。プレゼンテーションの準備を行う。	180分
第9回	プレゼンテーション1	季節・人物のテーマで撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	今までの課題やレポート、プレゼンテーションを振り返る。	180分
第10回	デジタル補正1	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート4でまとめる。	180分
第11回	デジタル補正2	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート4でまとめて提出。	180分
第12回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家1の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第13回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家2の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第14回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家3の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。インスタグラムで発信を行う。	180分
第15回	プレゼンテーション2	自由にテーマを設定し撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	デジタル補正や課題5、レポート、プレゼンテーション2を振り返る。	180分

学生へのフィードバック方法	課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。
評価方法	5回の課題は50点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。 5回のレポートは30点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。 平常点は20点満点で15回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題(50%)、レポート(30%)平常点(20%)で評価をする。

使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。”	
オフィスアワー	火曜日3限 1307研究室	
学生へのメッセージ	写真は情報表現、情報伝達にとっても有効なツールです。課題は多いですが写真について楽しく学びましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インテリアデザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

授業概要(教育目的)	インテリアデザインの入門として、内部空間との関係が深いモノや人との関係に関心を持ち、モジュールや形、色、テクスチャーの心理、家具、椅子、照明や材料などについての知識を深めていく。インテリアデザイン計画では建築空間の制約を受けると同時に、室内に配される物とも密接な関連を持っている。材料、技術、手法、建築法規などのハード面についての知識と人間の心理や行動、あるいは人間のスケールなど具体的な設計に応用できるための計画技術を学ぶ。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. インテリアエレメントの幅広い知識を理解し説明できる。 2. 建築の工法、材料、建築法規などを理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 様々な諸問題を理解し、インテリアデザイン計画を行なうことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インテリアデザインとは、日本の住まいの特徴	インテリア計画学、インテリアデザインの発生、必要となった理由、計画の目的と対策、範囲、インテリア計画を行う時のアプローチの方法を理解する。日本の住まい、伝統的木造住宅の特徴を理解する。	インテリア計画学、インテリアデザインとは(P10～11)を読んでもらうこと。	120分
第2回	日本の住まいとインテリアの変遷	寝殿造り、書院造り、数寄屋造りのそれぞれの特徴を理解する。西洋建築の普及と中廊下型住宅の特徴を理解する。1回目練習問題(台所寸法、天井高、建築材料)	日本の住まいとインテリアの変遷(P12～19)を読んでもらうこと。前回の復習として、インテリアデザインを行う場合に行う4つのアプローチの方法を理解しておく。	240分
第3回	西洋のインテリア家具様式の変遷、第二次世界対戦後	古代エジプトから近代アールデコまでの西洋家具様式の特徴と変遷を理解する。ビデオ(2×4工法)	西洋のインテリア家具様式の変遷(P20～25)、第二次世界対戦後のデザインの流れと日本の現代家具(P26～27)を読んでもらうこと。	240分

	のデザインの流れと日本の現代家具			
第4回	人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用	人体寸法と設計との関係、姿勢、作業域、動作空間を考慮した設計について理解する。2回目練習問題（色彩、造形）	人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用（P28～35）を読んでおくこと。	120分
第5回	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理	日常災害、非常災害について理解する。形と色の心理、テクスチャーの心理、人体感覚と内装材料について理解する。ビデオ（建物探訪・スローライフ編）	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理（P36～47）を読んでおくこと。	240分
第6回	人間尺度と空間の心理	建築モジュール、（モジュロール）、日本の木割を理解する。ビデオ（建物探訪・狭少・変形敷地編）	人間尺度と空間の心理（P48～55）を読んでおくこと。	120分
第7回	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート	家具の構造、家具デザインの条件、デザイン変遷を理解する。インテリアエレメントとしてのテキスタイル、照明等について学ぶ。ビデオ（建物探訪・ローコスト編）	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート（P56～67）を読んでおくこと。	120分
第8回	材料と仕上げ（木材、石材、タイル、金属、プラスチック）	教科書に加え、床下地と仕上げ、壁、天井、開口部、窓の納まり、派バキと廻縁の納まり等の構法を学ぶ。3回目練習問題（住居、住まいの変遷）	材料と仕上げ（床/壁/天井/開口部、カーペット・カーテン）（P68～75）を読んでおくこと。	120分
第9回	インテリアの構法	教科書に加え、別紙資料配布により、カーペット、カーテン、建具、扉、障子、ふすま、窓、照明器具、給排水設備、階段、住宅の構法、屋根の種類と構法を理解する。ビデオ（コーポラティブ住宅Vol113）	インテリアの構法（P76～83）を読んでおくこと。	120分
第10回	建築基準法・建築士法・消防法	別紙資料により、建築物、建築設備、居室、主要構造部、耐火構造、延焼のおそれのある部分、環境衛生に関する規定、防火・避難、建築士法、消防法を学ぶ。4回目練習問題（日本史、西洋史）	建築基準法・建築士法・消防法の別紙事前配布資料を読んでおくこと。	120分
第11回	室内環境計画とその制御	熱環境、空気環境と湿気、光環境と音環境、エコロジ的な室内環境について理解する。	室内環境計画とその制御（P84～91）	120分
第12回	プライベートインテリアの計画、住空間設計	事例を学ぶ。住まいの機能、集合住宅の計画について学ぶ。5回目練習問題（寸法計画）	住空間計画（P94～97）を読んでおくこと。	120分
第13回	コミュニケーション空間	LDK空間、DK空間、和室・洋室、これからのD空間、L空間のインテリア、家事空間を学ぶ。フォーマルリビングについて考える。ビデオ（建築家の設計した住宅・フォーマルリビングVol10）	コミュニケーション空間（P98～105）を読んでおくこと。	120分
第14回	プライベート空間、子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間	子供の成長、空間概念、プライバシー意識、子供と家族、親の養育態度、子供部屋の装備、高齢者の身体機能の衰え、フレキシブルな将来対応、夫婦寝室と書斎、趣味の部屋を考える。	子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間（P106～117）を読んでおくこと。	120分
第15回	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間	健康空間としての便所、浴室、ユーティリティ空間について考える。	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間（P118～127）を読んでおくこと。	予習：240分、復習：420分
学習計画注記		教科書の項目順に進めていくが、進み具合によりスケジュール変更の場合もある。		
学生へのフィードバック方法		授業についての質問は常時受け付ける。質問がある場合は、研究室へ訪ねて下さい。メールも可。 練習問題（2級建築士問題集、キッチンスペシャリスト問題集）を5回、授業前に行うが、答え合わせと同時に解説、質問を受け付ける。 ビデオ鑑賞後、短時間であるが意見交換を行う。		
評価方法		定期試験の評価及び平常点。 ビデオ鑑賞後の意見交換や、積極的な質問や意見、授業態度による評価。 練習問題は自己採点し、評価に反映しない。		

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験	○			
平常点			○	

評価割合

試験(85%)、平常点(15%)

使用教科書名 (ISBN番号)

インテリアデザイン教科書第二版/インテリアデザイン教科書研究会編著/彰国社/2800円+税

参考図書

「住居学入門」学芸出版社

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」分野における知識を得、専門的な職業に通じる知識を得ることができる

オフィスアワー

水曜3限 1502研究室

学生へのメッセージ

インテリアに関心を持ち幅広い知識を吸収して、インテリア計画のできる人になれるように学修してくれることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食器デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

授業概要(教育目的)	陶磁器と漆器の制作方法を紹介しながら、制作工程と技術と材料について解説し、食器をデザインする際の技術的基礎知識を学ぶ。また陶芸や漆芸の歴史についても解説し、制作技術の発展の過程と、食器のデザイン及び生活とのかかわりについて考える。これらの考察を通して、食器デザインの基盤となる考え方を身につけることをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	陶磁器と漆器の特徴、原材料、制作方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	食器の特徴や素材の違いを理解し、適切な使い方を判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食器のデザインと生活の関わりについて考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容の説明	食器のデザイン(形・色・作り方・材料)や歴史を学ぶことの意味を理解し、食器と生活の関わりについて考える。	普段自分が使っている食器について、良く観察してみる。	180分
第2回	日本のやきもの作りの歴史①	縄文土器と弥生土器の作り方と特徴について学ぶ。	日本の歴史の大まかな流れを理解しておく。	180分
第3回	日本のやきもの作りの歴史②	陶芸用のロクロの使用と窯の利用が、日本のやきもの作りにもたらした影響について理解する。	ロクロ成形の特徴と、窯を利用することの利点、そしてそれらの要因と、製品の変化の関係について、再確認すること。	180分
第4回	日本のやきもの作りの歴史③	日本の陶器作りにおける、釉薬の利用開始の背景と、釉薬の利用と陶器の使い方の変化の関係について学ぶ。	釉薬のかかったやきものと、かかっていないやきものを探して、その違いを見比べること。	180分
第5回	日本のやきもの作りの歴史④	中国の陶磁器と、その制作技術が、日本のやきもの作りにもたらした影響について理解する。	中国のやきものが、日本のやきものへ与えた影響を、実際の陶磁器で探してみる。	180分

第6回	日本のやきもの作りの歴史⑤	室町時代から江戸時代初めまでの陶磁器の歴史について学ぶ。日本の磁器の発祥についても学ぶ。	自分の身の周りにあるやきものが、陶器なのか磁器なのか、手にとって観察し考えること。	180分
第7回	ヨーロッパの陶磁器について①	古代ギリシャの陶器について学ぶ。	18世紀までの世界史の大まかな流れを理解しておくこと。	180分
第8回	ヨーロッパの陶磁器について②	中世のイベリア半島における陶器作りについて学ぶ。	レポートの作成	180分
第9回	ヨーロッパの陶磁器について③	ヨーロッパのやきもの作りが、中国とイスラム文化圏から受けた影響について理解する。	イスラム文化圏のやきものが、どのようなものなのか、資料を探して確かめてみる。	180分
第10回	ヨーロッパの陶磁器について④	中世のイタリアの陶器がイスラム文化圏から受けた影響と、その後のヨーロッパの陶器との関係について理解する。	やきもの作り以外で、イスラム文化圏がヨーロッパに与えた影響を考え、やきものに関する影響との、共通点と相違点を探してみる。	180分
第11回	ヨーロッパの陶磁器について⑤	ドイツのマイセンの磁器について解説し、ヨーロッパの磁器作りの始まりについて学ぶ。	現在のヨーロッパで、どのような磁器が作られているのか調べる。	180分
第12回	1漆器のデザイン①	漆の特徴と、漆器の素地となる材料について理解する。	自分の家にある漆器を探して観察すること。	180分
第13回	漆器のデザイン②	木を素地とする漆塗りの碗の制作工程について学ぶ。	博物館、美術館、あるいはデパートや食器店に行き、陶磁器や漆器を観察し、そのデザインや作り方について考える。	180分
第14回	漆器のデザイン③	木材以外の素地の漆器の作り方と特徴について学ぶ。また漆器の作り方、材料と、その特徴に基づいて、漆器の使い方について理解する。	博物館、美術館、あるいはデパートや食器店に行き、陶磁器や漆器を観察し、そのデザインや作り方について考える。	180分
第15回	食器のデザインと生活	15回の授業のまとめとして、食器のデザインと生活の関係を、歴史的な視点も交えて考える。	レポートの作成	180分

学習計画注記	授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	中間のレポートと、ミニレポートは後日採点して返却し、その時に解説をする。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業終了時に、授業内容を整理するミニレポートを適宜課す。 2. ミニレポートは、授業内容をどの程度理解できているか、さらに、授業内容を自身の体験や生活と関連づけて考えているか、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。 3. 学期の半ば頃と、学期末にレポートを出題する。 4. レポートは、それまでの授業内容を体系的に整理できているか否か、そして、そこから食器とそのデザインと、生活の関わりに関する問題を考察し、食器デザインに関する自身の考え方が整理されているか否か、という視点で採点する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点40%、レポートが各30%、2つのレポートで60%の割合で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p>
オフィスアワー	後期木曜日2時限 1503研究室
学生へのメッセージ	身近な食器にも関心を持って下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(石綱)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む②	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分

第8回	文献を読む ③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む ④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む ⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第11回	文献を読む ⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む ⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む ⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む ⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む ⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する	45分

学習計画注記	履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。				
評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：読解力、要約録、文章構成力などを総合的に判断して評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。				
オフィスアワー	月曜3限 3609研究室				
学生へのメッセージ	初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	高分子材料学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察することは習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。糸・布の構造観察と表示、及び機械的性質、快適性に関する性質、実用性能などに関する実験を行い、高分子の構造を背景とした繊維、繊維から糸、布にいたる繊維集合体としての性質、及びその相関を考察する力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書(p.1~16)読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方を理解する。	45分
第2回	糸の観察(1)	グループに分かれ、糸の長さ重量計測から糸の太さを算出する。恒長式番手・恒重式番手による糸の表示を理解できる。	実験書の「糸の観察」(p.高17~高23)を読んでおくこと。	45分
第3回	糸の観察(2)	グループに分かれ、検燃機を用いて、糸の合糸数、より方向、より数の測定等を観察し、糸の構造を理解する。	糸の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	織物の構造(1)	グループに分かれ、織物の厚さと重量を計測し、目付、見掛け比重、含気率、カバーファクターを算出する。	実験書の「織物の構造」(p.高24~高33)を読んでおくこと。	45分
第5回	織物の構造(2)	グループに分かれ、三原組織試料布を用いて、組織図の表示、織密度、織縮率を算出し、織物の基本構造について理解する。	織物の構造の実験レポートを作成する。	45分
第6回				45分

	引張強伸度試験	グループに分かれ、各種繊維の切断時の強さと伸び率を測定し、織物の伸長特性を理解する。乾湿強度についても検討する。	実験書の「引張強伸度試験」(p.高34～高38)を読んでもこと。引張強伸度試験の実験レポートを作成する。	
第7回	東京農工大学科学博物館見学	博物館所蔵の繊維製造機や繊維・糸・布に関する展示を見学することにより、近代から現代日本の繊維産業について理解を深める。	見学レポートを作成する。	45分
第8回	吸湿・吸水性試験(1)	グループに分かれ、各種繊維を湿度の異なる環境下で処理した各種繊維の等温吸湿曲線を作成し、繊維の吸湿性について理解する。	実験書の「吸湿性試験」(p.高39～高46)を読んでもこと。吸湿性試験の実験レポートを作成する。	45分
第9回	吸湿・吸水性試験(2)	グループに分かれ、パイレット法により各種繊維の吸水性を観測する。	実験書の「吸水性試験」(p.高47～高48)を読んでもこと。吸水性試験の実験レポートを作成する。	45分
第10回	摩耗・摩擦試験	グループに分かれ、各種繊維の平面摩耗試験と屈曲摩耗試験を行い繊維の摩耗特性について理解する。更に、傾斜板法により、静摩擦係数を測定し、織物の摩擦特性について理解する。	実験書の「摩耗試験」(p.高49～高52)を読んでもこと。摩耗試験、摩擦試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ドレープ性試験(1)	グループに分かれ、簡便法により各種繊維のドレープ係数を測定し、織物のドレープ性について考察する。	実験書の「ドレープ性試験」(p.高53～高56)を読んでもこと。	45分
第12回	ドレープ性試験(2)	グループに分かれ、新繊維を試料として簡便法によりドレープ係数を測定し、繊維径によるドレープ性の相違を検討する。	ドレープ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第13回	保温性試験	グループに分かれ、冷却法により保温性試験を行い、繊維の保温性について考察する。	実験書の「保温性試験」(p.高57～高61)を読んでもこと。保温性試験の実験レポートを作成する。	45分
第14回	防しわ性試験	グループに分かれ、針金法により防しわ性試験を行い、繊維の防しわ性について考察する。	実験書の「防しわ性試験」(p.高62～高63)を読んでもこと。防しわ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第15回	総合的考察	全体的実験結果を整理し、布帛は、繊維、糸、布の各々の性質と構造が複合的に相関した繊維集合体であることを総合的に理解する。	繊維、糸、布の構造や性質が、身近な衣服にどのように影響しているのか考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価) ②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)
評価基準	
評価基準	
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	高分子材料学実験実験書
参考図書	①新稿被服材料学—概説と実験—(ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年) ②被服材料実験書(ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成10年第三版 14刷) ③衣服材料学実験(ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

	【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	水曜日 4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思います。主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	繊維学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	被服材料の構造と性質を考察するためには、被服を構成している基本物質である繊維、及び高分子についての理解が必要である。各種繊維の顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性、耐薬品性、繊維の製造実験等の繊維に関する化学的・物理的性質について実験し、繊維を鑑別する知識と技術を習得すると共に、繊維、及び高分子について深く理解させる。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	被服材料として取り扱われている繊維の化学的・物理的性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書(p.1~16)読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方を理解する。	45分
第2回	顕微鏡の取り扱いと繊維の観察(1)	グループに分かれ、光学顕微鏡の取り扱いとマイクロメータの使い方を理解する。	実験書の「顕微鏡による繊維の観察」(p.17~20)を読んでおくこと。	45分
第3回	顕微鏡による繊維の観察(2)	グループに分かれ、光学顕微鏡により、既知繊維の側面・断面を観察し、各種繊維の形態的特徴を理解する。	顕微鏡による繊維の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	繊維の燃焼性試験(1)	グループに分かれ、既知繊維繊維の燃え方、煙の状態、臭い、灰の様子について観察し、繊維の燃焼性について考察する。	実験書の「繊維の燃焼性試験」(p.21~26)を読んでおくこと。	45分
第5回		グループに分かれ、パイルシュタイン法により既知繊維中の塩素を検出する。	繊維の燃焼性試験の実験レポートを作成する。	45分

	繊維の燃焼性試験(2)			
第6回	着色による繊維の鑑別(1)―鑑別用試薬―	グループに分かれ、鑑別用試薬を用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。	実験書の「繊維の燃焼性試験」(p.27~32)を読んでおくこと。	45分
第7回	着色による繊維の鑑別(2)―混合インク―	グループに分かれ、混合インクを用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。	着色による繊維の鑑別の実験レポートを作成する。	45分
第8回	シルク博物館見学	博物館所蔵の蚕やシルク繊維・糸・布に関する展示を見学することにより、近代から現代日本の繊維産業について理解を深める。	見学レポートを作成する。	45分
第9回	耐薬品性試験(1)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	実験書の「耐薬品性試験」(p.33~38)を読んでおくこと。	45分
第10回	耐薬品性試験(2)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	耐薬品性試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ビニロン糸の紡糸―湿式紡糸法―	グループに分かれ、ポリビニルアルコールを繊維化し、凝固浴中に押し出してビニロン糸を製作する。ビニロン糸の製作を通して湿式紡糸の原理を理解する。	実験書の「耐薬品性試験」(p.39~40)を読んでおくこと。	45分
第12回	ビニロン糸の紡糸―アセタール化―	グループに分かれ、紡糸したビニロン糸にアセタール化処理を行い、実用性について検討する。	ビニロン糸の紡糸の実験レポートを作成する。	45分
第13回	未知試料の鑑別(1)―天然繊維―	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	事前に実験書の「繊維鑑別のための各種繊維の性質表」(p.41~44)を確認しておくこと。	45分
第14回	未知試料の鑑別(2)―化学繊維―	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	鑑別試験の結果を振り返り回答を導き出した思考プロセスを確認する。	45分
第15回	総合的考察	全体的実験結果を振り返り、繊維の形態的特徴や化学的性質を整理し理解する。	繊維の形態的特徴や化学的特徴を決定する要因について考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価) ②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)
評価基準	
評価基準	
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価
使用教科書名(ISBN番号)	繊維学実験実験書
参考図書	①新稿被服材料学―概説と実験―(ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年) ②被服材料実験書(ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成10年第三版 14刷) ③衣服材料学実験(ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。

	【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】 衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	水曜日 4 限後半～5 限前半 2407 被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思いますが、主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレルデザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

アパレル製品の企画・設計には、アパレルデザインに関する基礎的な知識が必要である。アパレルの商品企画とファッションビジネスの状況、ファッションの変遷と時代背景などを理解し、衣服デザインの基礎としてデザイン構成要素やフォーム、色彩、テキスタイル、デザインとコストなどを学び、デザイン感覚や基礎知識を身につけることが目的である。デザイナーの講師による特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルデザイン論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	商品企画とアパレルデザイン 1	アパレル製品の台頭、衣服のファッション化、ファッションとアパレルデザイン、商品企画について理解する。	教科書「商品企画とアパレルデザイン」(2~9)を読んでおくこと。	180分
第2回	商品企画とアパレルデザイン 2	ファッションビジネスの職種と役割、マーチャントデザイナー・デザイナーの任務、ブランドについて理解する。	教科書「ファッションビジネスとは」(10~19)を読んでおくこと。	180分
第3回	ファッションの変遷とその背景 1	近代から1940年代までの服飾について理解する。	教科書「服装の変遷」(22~25)を読んでおくこと。	180分
第4回	ファッションの変遷とその背景 2	現代(20世紀後半)の服飾について理解する。	教科書「現代の服飾」(25~30)を読んでおくこと。	180分

第5回	フォーム1	フォームのディテールとバリエーションについて理解する。	課題1：衿、袖、スカート、パンツなどのフォームの収集をすること。	180分
第6回	フォーム2	イメージによる形態の表現、服種とデザインポイントについて理解する。	課題1：衿、袖、スカート、パンツなどのフォームの収集をすること。(続き)	180分
第7回	特別授業	デザイナーの経験をもつ講師の特別授業を行う。実務経験を活かした授業である。	課題1：衿、袖、スカート、パンツなどのフォームの収集をすること。(続き)	180分
第8回	カラー1	マンセル表色系、色名、色の見え方と見えやすさ、カラーイメージについて理解する。	教科書「カラー・オーダー・システム」(78~86)を読んでおくこと。	180分
第9回	カラー2	色彩好悪、配色調和、色と個人、社会と色彩について理解する。	教科書「色彩好悪」(86~92)を読んでおくこと。	180分
第10回	テキスタイル1	テキスタイルをアパレルデザイン、テキスタイルの外観効果について理解する。	教科書「テキスタイル」(95~102)を読んでおくこと。	180分
第11回	テキスタイル2	テキスタイルの表現効果として「布地の質感・感性」表にテキスタイルを貼り、生地とイメージの形容詞を理解する。	課題2：サンプル生地を切って標本を作成し、イメージの確認をする。	180分
第12回	テキスタイル3	テキスタイルの表現効果として「布地・色・柄による感じと表情」の表の横にテキスタイルを貼り、生地とイメージの形容詞を理解する。	課題2：サンプル生地を切って標本を作成し、イメージの確認をする。	180分
第13回	テキスタイル4	テキスタイルの表現効果として「布地のイメージと衣服デザイン」の表にテキスタイルを貼り、生地とイメージの形容詞を理解する。	課題2：サンプル生地を切って標本を作成し、イメージの確認をする。	180分
第14回	着装とデザイン	身体とデザイン、個性とデザインについて理解する。	今までの課題をレポートにまとめる。	180分
第15回	コストとデザイン	商品のコスト、商品のグレード、デザインおよびパターンメイキングのとコストについて理解する。	今までの課題をレポートにまとめる。	180分

学生へのフィードバック方法	レポートに対するコメント			
評価方法	平常点、レポート、提出物			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート	○	○	○	○
提出物				
評価割合	平常点30%、レポート30%、提出物40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	『改訂 アパレルデザインの基礎』 日本衣料管理協会 2004			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。			
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00			
学生へのメッセージ	服飾デザインの基礎には、デザインの発想を促す要素が満載です。デザインを説明するときや感覚を伝えるときなどに大変役立ちます。			
教育等の取組み状況				

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	デザイナーの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレルデザイン表現実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

授業概要(教育目的)	アパレルデザインの表現として、衣服のデザイン画を描く方法では、顔、手、足、ボディなどの人体のパーツやギャザー・フレアーの描き方など2次元的な表現を学ぶ。またドレーピング（立体裁断）で形を作る方法では、シーチングを組んでパターンを得る3次元的な表現を学ぶ。アパレルの企画に沿ってデザイナーと生産者、バイヤーとのコミュニケーションなどのツールとして各表現方法を身につけることが目的である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. デザイン画の基本的な描き方を理解できる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な製作方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. デザイン画の基本的な描き方を習得できる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な製作方法を習得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要。イラストレーションの変遷	授業の概要。準備する道具について学ぶ。日欧米のファッションイラストレーションの歴史を概観する。アパレルのデザイン画とは何かについて学習する。	次回までに、使用する道具をそろえておくこと。	90分
第2回	デザイン画ーパーツ① 手と脚、顔(正面) (1)	人体の法則、骨格・筋肉について理解する。パース(遠近法)について理解する。人体のパーツ①(手、脚、正面の顔)の描き方を習得する。	手、脚、正面の顔の描き方を復習すること。	90分
第3回	デザイン画ーパーツ② 顔(正面) (2)、顔(斜め) (1)	人体のパーツ②(正面の顔の続き、斜めの顔)の描き方を習得する。	正面の顔の続き、斜めの顔の描き方を復習すること。	90分

第4回	デザイン画 ーパーツ③ 顔（斜め） （2）、髪 型、ボディ （正面・斜 め）、靴	人体のパーツ③（斜めの顔の続き、髪型、正面と斜めのボディ、靴）の描き方を習得する。	斜めの顔の続き、髪型、正面と斜めのボディ、靴の描き方を復習すること。	90分
第5回	正面と斜め の全身画、 様々なポーズ、 着装画	正面と斜めの全身画（ヌードボディ）の描き方を習得する。様々なポーズの描き方を学ぶ。Tシャツとスカートの着装画を描いていく。	正面と斜めの全身画（ヌードボディ）のポーズをつけた描き方を復習すること。	90分
第6回	デザイン画 ー人体・水 着	ポーズをとった水着のスタイル画を描いていく。陰影をつけることで立体感のある人体の表現を学ぶ。	水着モデルのスタイル画の描き方を復習すること。	90分
第7回	デザイン画 ーハンガー イラスト①	ハンガーイラスト①（Tシャツ、ブラウス、スカート、パンツ）の表現法を習得する。ギャザーとフレアの布地の柔らかさの表現法を身につける。	ハンガーイラスト①（Tシャツ、ブラウス、スカート、パンツ）の表現法を復習すること。	90分
第8回	デザイン画 ーハンガー イラスト②	ハンガーイラスト②（ワンピース、ジャケット、コート、デニムパンツ）の表現法を習得する（バックスタイル含む）。	ハンガーイラスト②（ワンピース、ジャケット、コート、デニムパンツ）の表現法を復習すること。	90分
第9回	デザイン画 ー着装画	着装画を描いていく。布地をまとった人体の表現を習得する。立体感、遠近法、輪郭線の強弱の表現法を学ぶ。完成させて次回、課題として提出する。	着装画を完成させること（復習）。次回のドレーピングの準備をしておくこと。	240分
第10回	ドレーピング の説明、 トワルの準備	ドレーピング（立体裁断）とは何かを学習する。身頃原型（ウエストフィット型）をドレーピングで製作していく。布地にガイドラインを入れ、地直しをしていく。	次回までに布地にガイドラインを入れ、地直しまでを完成させておくこと。	120分
第11回	ドレーピング ー上半身 実習①	前身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせながらピン打ちをする。	次回までに前身頃までを完成させておくこと（復習）。	120分
第12回	ドレーピング ー上半身 実習②	後ろ身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせながらピン打ちをする。	次回までにマーキングまでを完成させておくこと（復習）。	120分
第13回	ドレーピング ー製図に 転写する	布地を製図にうつしとっていく。ボディに試着させ、トワルを修正していく。次回、トワルと製図を提出する（課題）。	次回提出する課題のトワルと製図を完成させておくこと。	240分
第14回	ドレーピング ースカート 実習①	タイトスカートのドレーピングの学習をする。シーチングの準備をする。前スカートをドレーピングで製作していく。	次回までに前スカートまでを完成させておくこと。	90分
第15回	ドレーピング ースカート 実習②	後ろスカートをドレーピングで製作していく。ドレーピングしたものを製図にうつしとっていく。	スカートの製図までを完成させておくこと。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内で制作された優れた作品を公表し、全員で共有していく。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン画の作品の評価は、着装画とそのハンガーイラストとする（40%）。 ・ドレーピングの評価は、身頃原型のトワルと製図とする（40%）。 ・授業参加状況などの平常点（20%）。 授業参加状況、作品製作の取り組み等総合的に判断する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点（20%）、作品（80%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし。配付プリント
参考図書	文化服装学園編「文化ファッション大系 アパレル生産講座③ 立体裁断 基礎編」文化出版局、2005年

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・アパレルのデザイン画と、身頃原型とタイトスカートのドレーピングについて専門的な知識・技術を有している。 ・知識を深め、専門的な職業への道へつなぐことができる。	
学生へのメッセージ	実習では作品を完成させるので、欠席をしないでください。 日頃よりファッション商品のシルエット、ディテールに注目するようにしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を有している。その実務経験を活かし、「デザイン画」、「ドレーピング」を指導する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	服飾造形実習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

基本的な下衣のショートパンツとスカートの各構成を把握し、デザイン（スタイル、素材、色彩など）、人体の構造とパターン設計（製図）との関係、素材の選定と扱い方、裁断と縫製準備（印つけ）、ミシン縫製の基礎技術、仕上げ（アイロンの扱い）など、衣服製作の基礎的な流れを習得する。消費者として日常着用している既製服の素材、縫製、着心地（サイズ感）などの品質を見分けられることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

服飾造形実習A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	スカートの種類、レポート説明1、生地準備、計測、スカート1（製図）	スカートの種類、材料（生地）、レポートの説明、道具、製図を理解する。スカートとショートパンツに必要な項目（ウエスト、ヒップ、股上など）を計測する。
第2回	洋裁道具説明、スカート2（型紙づくり）、ショートパンツ1（製図、地直し）	スカートの型紙、ショートパンツの製図、生地、準備する道具を理解する。
第3回	ショートパンツ2（型紙づくり、裁断）	型紙づくり、裁断、ロックミシンの使い方、縫い代のロックかけを理解する。
第4回	ショートパンツ3（本縫い1、ポケット、脇、股下、股上）	直線ミシンの使い方、ポケットづくりと付け、脇、股下、股上の縫合を理解する。

第5回	ショートパンツ4（本縫い2）	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げを理解する。
第6回	スカート3（型紙の展開、裁断、印つけ）	基本型スカートの展開（フレア、ギャザー）、裁断、切りじつけによる印付けを理解する。
第7回	スカート4（裁断、印付けまで完了）（仮縫い1、ダーツ）	裁断、切りじつけによる印付け、ダーツの縫い方を理解する。
第8回	スカート5（仮縫い2、脇、裾上げ、ベルト付け）	仮縫い合わせ（脇、裾、ベルト付け）の縫い方を理解し、完成させる。仮縫いではインサイドベルトを粗ミシンで付ける。
第9回	スカート6（試着点検、本縫い1）	試着点検・補正をする。本縫いではダーツ縫い、ファスナー側の脇縫ってアイロン掛けを理解する。
第10回	スカート7（本縫い2、ファスナー付け、レポートの説明2）	ファスナーを付け、脇縫い、縫い代のロックかけを理解する。ファスナー付け完成・点検をうける。
第11回	スカート8（本縫い3、ベルト付け、基礎縫い1）	ベルトつくりとベルト付け、基礎縫い1（まつり縫い・たてまつり縫い）を理解する。
第12回	スカート7（本縫い4、基礎縫い2）	ベルト付け完成、基礎縫い2（奥まつり）、スカートの裾にロックをかけ、奥まつりを理解する。
第13回	スカート8（基礎縫い3、前カンつけ）	基礎縫い3（前カンのかがり）、ベルトに前カン（フックとバー）を付ける。
第14回	スカート9（仕上げアイロン、基礎縫い4）	仕上げアイロンを掛け、基礎縫い4（半返し縫い・全返し縫い・千鳥がけ）の縫い方を理解する。
第15回	着装発表、基礎縫い・作品（スカート・ショートパンツ）、レポートの提出	コーディネートをして着装し、デザインの特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。

学生へのフィードバック方法	作品・基礎縫い・レポートのコメント、発表に対する講評
---------------	----------------------------

評価方法	平常点、作品、基礎縫い、レポート、発表 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
------	-----------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
作品	○	○	○	○
部分縫い	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、作品30%、基礎縫い10%、レポート30%、発表10% 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
------	--------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
-----------------	--------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
---------	----------------

学生へのメッセージ	初めて自分のショートパンツとスカートを作る人でも完成しますので、是非挑戦してください。ただし、欠席しない事が条件です。制作実習は、毎回作業を積み重ねることで作品が完成します。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	高分子材料実験Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	繊維や被服材料の構造と性質を考察するためには、衣服を構成している基本物質である高分子についての理解が必要である。この授業では求められる布帛の性質と、布帛を構成する糸、繊維、高分子の構造との関係について、各種繊維の帯電性、保温性、防しわ性、破裂特性、曲げ特性、引裂特性などの実験を行い、高分子から繊維、糸、布に至る繊維集合体としての性質を深く理解する力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	高分子材料実験Ⅱで行う実験内容、試料等について概要を説明する。レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。	45分
第2回	破裂・引裂き試験	グループに分かれ、ミューレン型法により繊維の破裂試験、及びベンジュラム法による引裂試験を行う。実験結果を整理、考察し、三大天然繊維と三大合成繊維の特徴を理解する。	実験書の「破裂試験」「引裂試験」(p.1~5)を読んでおくこと。破裂試験、及び引裂き試験の実験レポートを作成する。	45分
第3回	剛軟性試験	グループに分かれ、45°カンチレバー法とハートループ法により剛軟性試験を行う。実験結果を整理、考察し、三大天然繊維と三大合成繊維の特徴を理解する。	実験書の「剛軟性試験」(p.6~8)を読んでおくこと。剛軟性試験の実験レポートを作成する。	45分
第4回	防しわ・プリーツ保持性試験(1)	グループに分かれ、針金法により防しわ性試験を行う。実験結果を整理、考察し、三大天然繊維と三大合成繊維の特徴を理解する。	実験書の「防しわ・プリーツ保持性試験」(p.9~12)を読んでおくこと。防しわ性試験の実験レポートを作成する。	45分

第5回	防しわ・プリーツ保持性試験 (2)	グループに分かれ、針金法によりプリーツ保持性試験を行う。実験結果を整理、考察し、三大天然繊維と三大合成繊維の特徴を理解する。	プリーツ保持性試験の実験レポートを作成する。	45分
第6回	帯電性試験 (1)	グループに分かれ、ロータリースターチェックテスターにより帯電性試験を行う標準状態の天然繊維と合成繊維の帯電性を理解する。湿度0%と100%の環境で調整した試料の準備をする。	実験書の「帯電性試験」(p.13~16)を読んでおくこと。標準状態の天然繊維と合成繊維の帯電性について結果を整理してまとめる。	45分
第7回	帯電性試験 (2)	グループに分かれ、湿度0%と100%の環境で調整した試料の帯電性試験を行う。実験結果を整理、考察し、天然繊維と合成繊維の帯電性に及ぼす湿度の影響を理解する。	帯電性試験の実験レポートを作成する。	45分
第8回	総合的考察	前半の実験結果を分析し、三大天然繊維(綿、羊毛、絹)と三大合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)の特徴を総合的に理解する。	三大天然繊維と三大合成繊維の性質を考察する。	45分
第9回	糸の引張強伸度測定 (1)	グループに分かれ、オートグラフを使用して糸の引張強伸度測定を行う。実験結果を整理、考察し、糸の太さが強度に与える影響を理解する。	実験書の「糸の引張強伸度測定」(p.17~19)を読んでおくこと。糸の太さと破断力の関係について整理し、グラフにまとめる。	45分
第10回	糸の引張強伸度測定 (2)	グループに分かれ、オートグラフを使用して糸の引張強伸度測定を行う。実験結果を整理、考察し、糸の燃りが強度に与える効果を理解する。	糸の引張強伸度測定の実験レポートを作成する。	45分
第11回	織物・編物の寸法安定性試験 (1)	グループに分かれ、布帛の吸水、乾燥に伴う寸法変化について、収縮率、含水率、乾燥速度を算出し、寸法安定性について実験を行う。	実験書の「寸法安定性試験」(p.20~27)を読んでおくこと。収縮率、含水率、乾燥速度をグラフ化するための事件データを整理しておくこと。	45分
第12回	織物・編物の寸法安定性試験 (2)	グループに分かれ、実験結果を整理、考察し、収縮率、含水率、乾燥速度の結果をグラフ化し、繊維による寸法安定性の相違を理解する。	布帛の寸法安定性の実験レポートを作成する。	45分
第13回	繊維の太さ測定	グループに分かれ、顕微鏡マイクロメータを用いて繊維の太さの測定を行う。マイクロメータの使い方を理解し、各繊維の繊維径の測定法を習得する。	実験書の「繊維の太さ測定」(p.28~34)を読んでおくこと。繊維の太さ測定の実験レポートを作成する。	45分
第14回	保温性試験	グループに分かれ、冷却法により保温性試験を行う。実験結果を整理、考察し、三大天然繊維と三大合成繊維の特徴を理解する。	実験書の「保温性試験」(p.35~39)を読んでおくこと。保温性試験の実験レポートを作成する。	45分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を整理し、布帛は、繊維、糸、布の各々の性質と構造が複合的に相関した繊維集合体であることを総合的に理解する。	被服材料としての三大天然繊維、三大合成繊維の性質を総合的に考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。			
評価方法	①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価) ②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	高分子材料実験Ⅱ実験書			
参考図書	①新稿被服材料学—概説と実験— (ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年)			

	②被服材料実験書 (ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成10年第三版14刷)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。</p> <p>【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>	
オフィスアワー	水曜日4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができます。主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	繊維学実験Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	分析機器を用いて、繊維、染料、洗浄剤等の性質の評価や成分分析を体験させる。汎用の繊維を試料とした赤外吸収スペクトル測定や熱分析から繊維の重要な因子である結晶化度を考察する。また、紫外可視吸収スペクトル測定や分光測色により、色に関する測定を行う等、各種機器の使用法を実体験し、得られた分析結果について考察する力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維材料の性質を知るための代表的な機器分析測定である熱分析や光学的測定の原理と結果の意味を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験Ⅱで行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。	45分
第2回	繊維の熱分析測定(1)－フィルムの作製－	熱分析測定の測定原理、方法、試料等について解説する。グループに分かれ、ホットプレス機を使用して、身近な結晶性高分子と非晶性高分子のフィルムを作る。	実験書の「熱分析測定」をんでおくこと。	45分
第3回	繊維の熱分析測定(2)－サンプルの作製－	グループに分かれ、作成したフィルムから、DSC(示唆走査熱量測定)用の試料を作製する。	実験書の「熱分析測定」をんでおくこと。	45分
第4回			実験書の「熱分析測定」をんでおくこと。	45分

	繊維の熱分析測定と解析 (3)	非晶性高分子試料の熱分析測定を行う。ガラス転移が観測されることを確認し、高分子特有の熱転移であるガラス転移について理解する。		
第5回	繊維の熱分析測定と解析 (4)	結晶性高分子試料の熱分析測定を行う。ガラス転移の他、結晶の融解が観測され、融解熱量から結晶化度を算出する。測定後、試料を急冷し、再測定を行い低温結晶化を確認する。これらを解析し、高分子の熱的挙動を理解する。	熱分析測定の実験レポートを作成する。	45分
第6回	赤外吸収スペクトル測定 (1) - フィルムの作製 -	赤外吸収スペクトル測定の測定原理、方法、試料等について解説する。グループに分かれ、ホットプレス機を使用して、赤外吸収スペクトル測定用の薄いフィルムを作成する。	実験書の「赤外吸収スペクトル測定」をしておくこと。	45分
第7回	赤外吸収スペクトル測定 (2)	ポリプロピレンの赤外吸収スペクトル測定を行い結晶化度を算出する。	実験書の「赤外吸収スペクトル測定」をしておくこと。	45分
第8回	赤外吸収スペクトル測定 (3)	数種類の未知試料を測定し、官能基の帰属を行い、どんな繊維か同定する。赤外吸収スペクトル測定により、結晶化度の測定や未知試料の成分分析ができることを理解する。	赤外吸収スペクトル測定の実験レポートを作成する。	45分
第9回	染料の紫外可視吸収スペクトル測定 (1)	紫外可視吸収スペクトル測定の測定原理、方法、試料等について解説する。グループに分かれ、無職の液体の測定を行う。	実験書の「紫外可視吸収スペクトル測定」をしておくこと。	45分
第10回	染料の紫外可視吸収スペクトル測定 (2)	グループに分かれ、赤色3種の染料液の測定を行い、最大吸収波長の吸光度の値から、分子吸光係数(染料の発色能)を算出する。	実験書の「紫外可視吸収スペクトル測定」をしておくこと。	45分
第11回	染料の紫外可視吸収スペクトル測定 (3)	グループに分かれ、青や黄色、青と黄色を混合した試料の吸光度測定を行い、色と最大吸収波長の関係を理解する。	紫外可視吸収スペクトル測定の実験レポートを作成する。	45分
第12回	染色布の測定 (1)	反射率測定の測定原理、方法、試料等について解説する。グループに分かれ、染色学実験で酸性染料Orange IIで染色した羊毛繊維の測色を行う。酸性度により、色が変化し、反射率の値が変化することを理解する。	実験書の「測色」をしておくこと。	45分
第13回	染色布の測定 (2)	染色学実験でカチオン染料で染色したアクリル繊維布の測定を行い、K/S値を算出して、染色量を客観的に評価する。	実験書の「測色」をしておくこと。	45分
第14回	染色布の測定 (3)	測色から得られたK/S値と染色学実験で行った残液から求めた染色量の相関関係を考察し、染色ぬめ及ぼす温度効果について分析する。	測色の実験レポートを作成する。	45分
第15回	総合的考察	このような測定がどのような場面で活かされているか測定例を理解する。	機器分析を体験し、各々の測定の測定原理と結果の意味を確認する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。
評価方法	①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価) ②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)
評価基準	
評価基準	
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価
使用教科書名 (ISBN番号)	繊維学実験Ⅱ 実験書
参考図書	なし

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。</p> <p>【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>															
オフィスアワー	水曜日 4 限後半～5 限前半 2407 被服材料学研究室															
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができると思いますが、主体的に参加してほしいと思います。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="204 472 363 539"></th> <th data-bbox="368 472 440 539">該当有無</th> <th data-bbox="440 472 1406 539">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="204 539 363 607">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="368 539 440 607"></td> <td data-bbox="440 539 1406 607"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 607 363 674">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="368 607 440 674">○</td> <td data-bbox="440 607 1406 674">毎回グループワークによる実験を実施する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 674 363 741">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="368 674 440 741">○</td> <td data-bbox="440 674 1406 741">実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 741 363 786">ICT活用</td> <td data-bbox="368 741 440 786"></td> <td data-bbox="440 741 1406 786"></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。	情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。														
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

今年度は、「ひとや自然にやさしい暮らし」をテーマにして演習授業を行い、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考えられるようになることを目的としている。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	「人や自然にやさしい」とは具体的にどのようなことかの知識・理解が身についている。
思考・判断の観点 (K)	現代社会で何故「人や自然にやさしい暮らし」が求められているのかを掘り下げて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	今回演習で学んだことを踏まえ、「自分の人生にも「人や自然にやさしい」何かを取り入れようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	各課題について、問題意識を持って調べ、プレゼンテーションする能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本演習の目的と意義および概要を説明する。		
第2回	人や自然に優しい生き方・ライフスタイル(1)	「人や自然にやさしい生き方」をしている人を見つけ、その人の生き方がどのように人や自然にやさしいかを考える。この時間は授業担当者が何人かの人物を紹介する。この紹介を参考にしながら、自分で「人や自然にやさしい生き方」はどのような生き方を考え、そのような生き方をしている人物を自分なりに探してみる。	授業後に、「人や自然にやさしい生き方」をしている人物を自分なりに探しておくこと。	90分
第3回	人や自然に優しい生き方・ライフスタイル(2)	自分が選んだ人物についての紹介文を作成する。作成後、くじ引きで発表者を数名選出し、発表する。	紹介文の作成時間は30分程度なので、事前に作成して可。	90分
第4回	水の利用 衣服と水	教員による衣服と水についての講義を受けた後、グループワークで人や自然にやさしい暮らしをテーマに、衣服と水の関わりについて環境の視点からグループワークで討議する。	家庭での水の使用について調査しておくこと	45分
第5回	水の利用 家庭の水の使い方	前回のグループワークの討議の結果をまとめ、個々で発表用資料を作成する。	グループワークの討議結果に関する資料を収集しておく	45分

		【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
オフィスアワー		各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。
学生へのメッセージ		<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業で、この授業の「目的・意義」について説明します。その内容を理解して、意欲的に授業に取り組むことを期待します。 ・自分なりに取り組める「人や自然にやさしい暮らし」のあり方を、日常的に考える姿勢を身に付けて下さい。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員原口は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、戸建て住宅の設計に関し、計画的、環境的、構造的な配慮を注意点を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	各テーマ毎にグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを教示するとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価する手法を講義する。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)	
------------	--

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	[教職家庭科] 家庭で使用されるエネルギーおよび情報の供給システムを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	[教職家庭科] 家庭で使用されるエネルギーの視点から、その生活実態を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画	
------	--

家庭電気・機械・情報処理				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画を説明する。 家庭における主要な耐久消費財普及率の推移を知る。		0
第2回	「住まう」を考える	「住まう」「生活行為を改変すること」を理解する。 生活を定量的に知る／生活行為はエネルギー消費と室内環境に現れる 生活を変える／生活行為の改変には意識を変える何かが必要	配布資料(住まう)を復習して、自身の生活行為を考える	60
第3回	地球環境と生活環境(1)	地球環境のしくみを理解する。 地球の気象システム／地球の自律的活動／環境の入れ子構造	配布資料p.200-210(地球環境)を読んでおくこと	180
第4回	地球環境と生活環境(2)	地球環境問題と生活環境からの改善行動を理解する。 エネルギー問題／生活環境からの環境改善行動／環境共生建築・パッシブソーラー建築	地球環境問題について事例を調べる	120

第5回	水環境 (1)	生活用水の供給と廃棄について理解する。 水環境の入れ子構造/水環境のなりたち/雨水という上水道インフラ/水環境の水質	配布資料p.156-172(水環境)を読んでおくこと	180	
第6回	水環境 (2)	給排水衛生設備について理解する。 水使用量/給排水衛生設備のなりたち/排水の浄化法	生活用水の供給と廃棄について復習すること	120	
第7回	廃棄物	ごみ排出の実態とその処理について理解する。 ごみの変化/ごみ処理の流れ/リサイクル実現のための資源物理と経済/ごみの法的区分	配布資料p.182-188(廃棄物)を読んでおくこと 廃棄物の実態とその処理を復習すること	90 60	
第8回	生活とエネルギー	暮らしの中のエネルギー消費について理解する。 衣生活とエネルギー/食生活とエネルギー/住生活とエネルギー/暮らしの中のエネルギー	配布資料p.4-11(生活とエネルギー)を読んでおくこと 自身の暮らしのエネルギー消費を調べること	90 60	
第9回	社会とエネルギー (1)	エネルギー利用について理解する。 日本のエネルギー利用/世界のエネルギー事情/エネルギー資源による世界とのつながり/エネルギーを取りまく諸問題	配布資料p.12-23(社会とエネルギー)を読んでおくこと	180	
第10回	社会とエネルギー (2)	エネルギー資源について理解する。 エネルギー資源による世界とのつながり/エネルギーを取りまく諸問題	エネルギー資源の問題点を調べる	120	
第11回	科学とエネルギー	発電方式について理解する。 人類の発展とエネルギー/身のまわりのエネルギー/さまざまな発電方法(火力, 水力, 原子力, 再生可能エネルギー)	配布資料p.26-33(科学とエネルギー)を読んでおくこと 発電方式を復習すること	90 60	
第12回	技術とエネルギー	電力供給について理解する。 電気の安定供給/エネルギーを有効に使う技術/これからのエネルギー利用と私たちの暮らし 電気の知識/電気料金の体系	配布資料p.40-47(技術とエネルギー)を読んでおくこと 身近にある電力供給システムを探ること	90 60	
第13回	家電機器の省エネルギー性能	ヒートポンプの仕組みを理解する。 家庭で使用される機器の省エネルギー性能・環境負荷・経済性を知る/ヒートポンプの仕組み/省エネルギー法/家電機器の使い方による省エネルギー	配布資料(家電機器の省エネルギー性能)を読んでおくこと 身近にある家電機器の取り扱い説明書を読むこと	90 60	
第14回	給湯機器の仕組み	給湯機器の仕組みを理解する。 お湯の作り方・機器の使い方を知る/ガス湯沸器, エコキュートの仕組みと経済性・環境性	配布資料(給湯機器の仕組み)を読んでおくこと 身近にある給湯機器を詳細に見ること 課題: 家電機器の購入や機器更新が「暮らしに与えた影響」	90 60 690	
第15回	建物の環境性能とエネルギー管理システム	エネルギー管理・環境評価システムを理解する。 CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)を知る/ Home Energy Management Systemを知る/ net Zero Energy Houseを知る	配布資料(エネルギー管理)を読んでおくこと 住宅メーカーの提案するZEHの情報を探ること	90 60	
学生へのフィードバック方法		課題について、採点の後、授業中に講評を行う。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、「家電機器の購入や機器更新が暮らしに与えた影響」について論じるレポートである。 ・定期試験は、配布資料から作成した問(用語・仕組み・数値を説明した文章)を多肢択一で選ぶ設問である。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
	課題	○	○		
評価割合		定期試験(75%)、課題(25%)の総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)		なし			
参考図書		生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015			
ディプロマポリシーとの関連		現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 [思考・判断] 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。			

	生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。 [思考・判断] 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。	
オフィスアワー	千代田三番町C 前期火曜3限 1807室 / 町田C 後期水曜3限 3604室	
学生へのメッセージ	教職（家庭科） 高一種必修	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科における学習の基本として、デザインとはなにかという問題を考える。そのことを通して、デザインの考え方と手法の特徴を理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	デザインとは何かを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	デザインするのに必要なことは何かを判断し、それに基づいて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	分かりやすく表現をすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	デザインとは何か	「デザインとは何か」という問題を考えながら、この授業の目標と、15回の授業で考えることについて理解する。	「デザインとは何か?」という問いについての自分自身の考えを整理しておく。	180分
第2回	デザインを「デザインあ」で考える	NHK教育テレビの「デザインあ」のビデオをみて、デザインとは何かということ、デザインの考え方と手法の特徴について考える。	「デザインあ」の放送を見て、番組内容の意図するところを考察し、デザインの考え方、デザインに必要なことを考える。	180分
第3回	デザインと「観察」	デザインにおける「観察」の大切さを理解する。	実際にいろいろなものとことを観察し、その結果をどのようにデザインに結び付けられるかを考えてみる。	180分
第4回	デザインと「理解」	「理解する」「分かる」ということは、どういうことなのかを考え、デザインと「理解すること」との関係を考える。	「観察」と「理解すること」と「デザイン」の関係について、具体的な事例を探して、総合的に考えてみる。	180分
第5回	デザインと「表現」	「観察」「理解」「デザイン」の関係に基づいて、「表現すること」とはどのようなことなのかを考える。そこから「分かりやすい表現」について理解する。	ポスター、Webページ、雑誌などのデザインを、「分かりやすいデザイン」という視点で観察する。	180分

第6回	デザインの対象と領域	デザインの対象となるものとことについて考え、一般的に、デザインの対象領域はどのように考えられているのかを理解する。	「…デザイン」という言葉を探して、そのデザインの対象と範囲について具体的に考える。	180分
第7回	サインデザインについて①	サインデザインの種類や事例を見て、サインデザインとは何かということを理解する。	サインデザインの実例を見つけて、そのサインの役割や性質について考える。	180分
第8回	サインデザインについて②	サインデザインの特徴や分かりやすさについて考え、「伝えること」とデザインの関係について理解する。	具体的なサインデザインの事例を選んで、そのサインの分かりやすさと、それをデザインした人の意図について考える。	180分
第9回	ユニバーサルデザインについて①	ユニバーサルデザインとは何かについて理解する。	身のまわりのユニバーサルデザインを探して、そのどこが、どう「ユニバーサルデザイン」なのかを考える。	180分
第10回	ユニバーサルデザインについて②	ユニバーサルデザインの発展の歴史と、これからのユニバーサルデザインの考え方について理解する。	ユニバーサルデザインの考え方で、世の中の様々なものとことを観察し、どのような問題があるかを考える。	180分
第11回	「デザインのこころ」	デザインに必要な心構えは何かを考える。	「デザインのこころ」とは何かを、短い文で表現する。	180分
第12回	「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える	デザインの考え方、見方、デザインに必要な心構えを身につけるにはどうしたら良いのか、「デザインあ」を参考に考える。	自分自身の「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える。	180分
第13回	デザイン思考について①	「デザイン思考」あるいは「デザインシンキング」とはどのような概念なのかを理解する。	生活デザイン学科の学習に、「デザイン思考」の考え方と手法が、どのように応用できるかを考える。	180分
第14回	デザイン思考について②	現代における「デザイン思考」「デザインシンキング」の重要性を理解する。	「デザイン思考」の考え方を適用して、デザイン概論これまでの授業の内容を整理する。	180分
第15回	デザインとはなにか(まとめ)	15回の授業をふり返り、「デザインとは何か」という問題を、再度考える。	学期末レポートの作成	180分

学習計画注記	授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。																												
学生へのフィードバック方法	中間のレポートと、ミニレポートは後日採点して返却し、その時に解説をする。																												
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業終了時にミニレポートを適宜課す。ミニレポートは、その日の授業内容にあわせて課題を提示する。 2. ミニレポートは、その日の授業内容がどの程度理解できているか、さらに、その内容をふまえて、自分の考えが分かりやすく整理されているか否か、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。 3. 学期末にレポートを出題する。 4. レポートは、15回の授業内容を関連づけて整理できているか否か、そしてデザインについての自分の考えが、論理的に整理されて、記述されているか否か、という視点で採点する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点	○	○		○	レポート	○	○		○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
平常点	○	○		○																									
レポート	○	○		○																									
評価割合	平常点50%とレポート50%で評価する。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																												
参考図書	なし																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる。</p>																												

		【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー		後期木曜日2時限 1503研究室
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらす、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、近世女性史研究家柴桂子先生をお招きし、江戸時代に遡って女性の生き方を知り、現代との相違を考える機会を設けている。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻繁に用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」パブリックとプライベートの領域	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第3回	生活経営～新しい価値・規範の	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp. 7-15を良く読んでおくこと。	180分

	創造へ〜領域をめぐって			
第4回	地域と消費者市民社会	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第5回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第6回	家族関係 (1) 家族の概念 結婚と離婚	家族とは何か。どのようにして生成するのかを、結婚と離婚をもとに概説する。近年の晩婚化、非婚化、離婚率の増加をどのように捉えるかを概説する。	授業前後に教科書pp. 16-25を良く読んでおくこと。	180分
第7回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を学び、pp102～110を参照し地域のコミュニティデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク11～のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第8回	家庭経営とジェンダー (1) 現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なのかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	家庭経営とジェンダー (2) 近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第10回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について、近世女性史研究家の柴桂子先生を招いて講義して頂く。自らの想いを綴り、旅に出て見聞を揚げようとした女性像を生き生きと紹介し、江戸時代の女性への新たな知見が広がる講義である。	授業前後に参考図書②を読んでおくこと。	180分
第11回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp. 33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第12回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいのかを、概説する	教科書pp. 137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	180分
第15回	家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営	グループ毎に前回ディスカッションした内容をまとめて発表する。期末レポートを提出する。	関心のあるテーマを持つ者同士が集まってディスカッションをした内容を、代表者がプレゼンする。	420分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

中間テストは、模範解答と共に返却します。プレゼンテーション時には、随時コメントします。

評価方法

	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは30問程度で、穴埋め方式である。 ・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1600字以上。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間テスト	○			
	期末レポート		○	○	○
	グループディスカッション		○	○	○
	プレゼンテーション				
評価割合	平常点 (グループディスカッション、プレゼンテーションを含む) 20点 小テスト (30%) ・ レポート 50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	日本家政学会 生活経営学部会編 『暮らしをつくりかえる生活経営力』 朝倉書店 2010年				
参考図書	①原ひろ子著『生活の経営—21世紀の人間の営み—』放送大学教育振興会 2002年 ②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー：13)』吉川弘文館 1997年 ③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年 ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年 ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。				
オフィスアワー	前期水曜日4限 (アポイントメントを取り、時間調整を行うこと)				
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。 教職必修				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	第14回の授業ではディスカッション、第15回の授業では発表の機会を設けてある。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	家庭看護		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について説明ができる。 乳幼児から高齢期の特徴について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において創造力を駆使して、作品を完成する。 自ら設定した課題のレポートを作成する過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を、自宅学習を含め取り組み、「提出期限を守る」「決められたこと確実に行う」など社会的役割や責任を身に着ける
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわりを学び社会性を身に着け、専門職としての視点を磨く。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう ①		
第2回	健康と病気 ①健康について		
第3回	健康と病気 ②看護と介護		
第4回	病気と看護 家族の年代別健康管理		
第5回	病気と看護 病気の種類と特徴(子ども編)		

第6回	病気と看護 病気の種類と特徴 (大人編)				
第7回	病気と看護 病児の遊びを考えよう ②				
第8回	病気と看護 看護の基本と高齢者の心身の特徴				
第9回	高齢者の介護 介護の基本①移譲 (車いすにTRY)	演習・校内散策 (動きやすい服装・補水・日焼け対策・運動靴)	介護実習室 (90分)		
第10回	高齢者の介護 介護の基本②体位変換 (着脱にTRY)	動きやすい服装・運動靴)	介護実習室 (90分)		
第11回	高齢者の介護 介護の基本③清潔 (口腔ケアにTRY)	動きやすい服装・運動靴	介護実習室 (90分)		
第12回	高齢者の介護 介護の基本④排泄 (排泄介助にTRY)	動きやすい服装・運動靴	介護実習室 (90分)		
第13回	高齢者の介護 介護の基本⑤ (視覚障害者の介助にTRY)	校内散策 (動きやすい服装・補水・日焼け対策・運動靴)	介護実習室 (90分)		
第14回	課題作成	図書室・パソコン室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート (5枚)、発表 (5分) 資料の作成を行う。	図書室・パソコン室・自習室		
第15回	課題作成・発表・提出	他の学生の前で、自ら作成した資料を基に発表を行う。			
学生へのフィードバック方法		講義の他、グループワーク、演習等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるようにしていく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等毎授業持参すること。			
評価方法		授業成果物10点 (パズル、眼鏡) 個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特徴を学ぶ。 授業内平常課題30点 授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。 発表評価50点 (態度、プレゼン準備、プレゼン資料、学生個々評価) レポート10点、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	成果物		○	○	○
	授業内平常課題	○	○	○	
	発表評価	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
評価割合		成果物10点 (パズル、眼鏡) 授業内課題30点、発表評価50点 (態度、プレゼン準備、資料、学生個々評価) レポート10点 平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		授業内で配布			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】幅広い視点から知識を深め、専門な職業への道をつなぐことができている。 【思考・判断力】自ら設定した課題に取り組むことで、情報収集方法、理論的に分析する方法、考察するプロセスを学び行動できる力を身に着けている。 【関心・意欲・態度】授業内に課せられた課題に自ら取り組み、「課せられた課題をこなす」「提出期限を守る」など社会的マナーを守る力を培い、社会人としての役割を果たせる。 【技能・表現】他の学生と演習を通して関わり、社会性を身に着けている。自ら設定した課題を人前で発表することで表現力を身に着けている。			
オフィスアワー		前期金曜日1限 指定教室			
学生へのメッセージ					

日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	消費者調査法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)	消費者調査の種類と方法を理解し、調査を正しく行うための技術と、調査の結果を集計・分析・考察するための知識の修得を目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	消費者調査に関わる専門的知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	消費者調査について多面的に考える姿勢を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けている。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者調査とは何か	消費者調査の定義や意義、重要性などについて理解する。知識調査や意識調査の共通点や相違点を学ぶ。	テキスト第1章の演習問題に取り組むこと。	120
第2回	利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類	事実調査、知識調査、意識調査について確認する。量的調査と質的調査の特徴と相違点を理解する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第3回	情報の収集による分類(質問紙調査法、観察法)、動機調査	質問紙調査法の種類とメリット・デメリットについて学習する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第4回	質問紙調査法の手順、調査票作成の手順	質問文の作成や実施に関する留意事項を学習する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	120
第5回				120

	調査票作成の仕方	質問文の作成に関わる留意事項や、質問と回答の形式について理解する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	
第6回	全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法	調査対象の選び方に関わり、全数調査と標本調査、母集団と標本について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120
第7回	標本誤差と標本数	調査対象の選び方に関わり、標本誤差と標本数について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120
第8回	消費実態調査・トピックス調査の実例	衣料の消費実態調査の特徴と意義を理解する。調査項目や集計・分析について学習する。	テキスト第6章の演習問題に取り組むこと。	120
第9回	調査企画	質問紙調査を自ら実施するための調査企画を立てる。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第10回	調査票の作成①	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第11回	調査票の作成②	質問紙調査の調査票を完成をさせる。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第12回	調査の実施	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第13回	集計・分析①	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120
第14回	集計・分析②	実施した質問紙調査のデータを集計・分析する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120
第15回	発表	自ら実施した質問紙調査の分析結果を発表する。	他の学修者の発表内容や、自分自身が受けた指摘について情報を整理する。	120

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は40点満点で出題し、課題レポートを課す。 提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物			○	○
	定期試験	○	○		
評価割合	提出物 (60%)、定期試験 (40%) などを総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	日本衣料管理協会刊行委員会編『新版 消費者調査法』(日本衣料管理協会、2004年)				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の諸問題に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>				
オフィスアワー	【後期】水曜日 1701共同ゼミ室 10:40~12:50 ※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。				
学生へのメッセージ	自分でテーマを決めて質問紙調査を実施しますので、取り上げたいテーマを決めて、どのような質問をしたいのかを考えておきましょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	消費生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 黒澤 佳子	指定なし

授業概要(教育目的)

安全で豊かな消費生活を送るために、消費者問題の現状と、それに対して消費者、行政、企業がなすべきことを知る必要がある。この授業は、消費者問題を体系的に捉え、消費者・行政・企業のあるべき姿を理解し、消費者問題の現状と政策を考察する基礎的な力を育成することを目的とする。近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになっている。将来生きていくうえで誰もが知っておくべき金融経済の知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費者問題の現状を知り、その背景にある市場メカニズムや経済状況、施策等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	自立した社会人になるために、自分の身を自分で守るための「人間力」を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

消費生活論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者問題の基礎	消費者問題とは何か、消費者を取り巻く環境の変化	教科書第1章「消費者問題の基礎」(1~18ページ)を読んでおくこと	180分
第2回	消費者問題と消費者政策(1)	消費者政策の転換~消費者保護基本法から消費者基本法へ	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(25~32ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第3回	消費者問題と消費者政策(2)	消費者政策の理念	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(32~36ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第4回		消費者行政と消費者関連法		180分

	消費者問題と消費者政策 (3)		教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(36~42ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	
第5回	消費者政策の展開 (1)	消費生活の安全の確保	教科書第3章「消費者政策の展開」(43~52ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第6回	消費者政策の展開 (2)	広告・表示の適正化	教科書第3章「消費者政策の展開」(52~62ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第7回	消費者政策の展開 (3)	消費者契約の適正化	教科書第3章「消費者政策の展開」(63~80ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第8回	企業の消費者対応 (1)	事業者と事業者団体の責務	教科書第4章「企業の消費者対応」(81~83ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第9回	企業の消費者対応 (2)	消費者対応部門の役割と機能	教科書第4章「企業の消費者対応」(83~90ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第10回	企業の消費者対応 (3)	消費者対応部門の課題	教科書第4章「企業の消費者対応」(90~96ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第11回	企業の消費者対応 (4)	事業者団体の消費者対応	教科書第4章「企業の消費者対応」(97~101ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第12回	消費者教育	消費者教育の歴史・担い手・内容	教科書第5章「消費者教育」(103~122ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第13回	消費生活情報 (1)	消費生活における情報の重要性	教科書第6章「消費生活情報」(123~129ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第14回	消費生活情報 (2)	消費生活情報の現況	教科書第6章「消費生活情報」(129~143ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第15回	消費生活論まとめ	これまでの授業の振り返り、消費者問題に対する意識の変化の考察	これまで授業で行ったリアクションペーパー(ミニレポート)および小テストをみかえししておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストおよびミニレポートは、採点して、次週の授業にて返却する。小テストの解説は、授業内で行う。			
評価方法	毎回の授業で、その回の授業で扱った内容から、小テストもしくはミニレポートを実施する。定期試験に代えて、学期末にレポートを課す。提出期限、テーマ、作成方法は授業中に指示をする。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ミニレポートおよび小テスト	○	○		
レポート	○	○		
評価割合	授業ごとのリアクションペーパーおよび小テスト (50%)、レポート等の課題提出 (50%) で評価する。			

使用教科書名 (ISBN番号)	「衣料管理士養成のための消費生活論」 社団法人日本衣料管理協会平成22年7月発行	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「消費生活」の分野 について専門的知識を有し、グローバルな視点から知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができ、また、多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。	
学生へのメッセージ	資格取得の観点だけでなく、自分自身のためになる内容なので、関心を持って主体的に取り組んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、銀行において金融の実務経験を有しており、ファイナンシャルプランナーとして消費生活におけるアドバイスを行っている。また中小企業診断士として企業側の消費者問題についても精通しており、生活に密着した身近な経済について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について解説する。また、保育観察や子どもとのふれあい体験(自主実習)を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。
------	--------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的を説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 子どもとふれあいながら、乳幼児の生活と発達を体験的に理解することができる。
思考・判断の観点(K)	1. 自主実習や模擬授業を通して自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点(V)	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に教材研究を行うことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組む。
技術・表現の観点(A)	1. 家庭科(保育領域)の授業を構想し、模擬的に実践できる。 2. 電子黒板等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭科教育における保育領域の意義と目的	グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的、及び改訂の背景を理解する。	中学校・高校の学習指導要領「家庭科」のページ、及びテキストのP.1~18、P.26~28を読んでもらうこと	120分
第2回	保育・幼児教育の今	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」について理解する。	配布プリントを読んでもらうこと	120分
第3回	子どもの発達と保育	ビデオを観ながら、乳幼児の発達について理解する。	課題「子どもの姿レポート」に取り組む	120分
第4回	子どもの遊びと保育	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。	課題「自主実習のための準備」に取り組む	120分
第5回		乳児グループ「ぼかぼかひろば」の観察を行う。		120分

	「ぼかぼかひろば」保育観察		「ぼかぼかひろば」の資料を読んでおくこと／観察記録をまとめること	
第6回	保育研究課題の設定と自主実習計画の作成	模擬授業で扱う保育研究課題を設定する。また、自主実習に向けた計画を作成する。	保育研究課題に関する教材研究及び自主実習の準備	240分
第7回	自主実習(1)	乳児(0・1・2歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第8回	絵本の教材研究発表	絵本を3冊選びその内容を紹介するとともに1冊について「読み聞かせ」の実践をする。	絵本選びと読み聞かせの練習	180分
第9回	自主実習(2)	幼児(3・4・5歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第10回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループA	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	A:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 B~E:Aグループの発表から得たことをまとめる	A:720分 B~E:60分
第11回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループB	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	B:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,C~E:Bグループの発表から得たことをまとめる	B:720分 B以外:60分
第12回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループC	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	C:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,B,D,E:Cグループの発表から得たことをまとめる	C:720分 C以外:60分
第13回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループD	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	D:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~C,E:Dグループの発表から得たことをまとめる	D:720分 D以外:60分
第14回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループE	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	E:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~D:Eグループの発表から得たことをまとめる	E:720分 A~D:60分
第15回	振り返りとまとめ	自主実習や模擬授業等を通して学んだことを振り返り、自己課題を明確にする。	これまでの授業内容を総復習しておくこと(まとめのファイルの提出)	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によって計画が前後したり変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室(emailも可)まで訪問すること。

評価方法 自主実習に対する取り組み(自主実習点)、模擬授業に対する取り組み(模擬授業点)に加えて、これら以外の課題への取り組み(課題点)について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
課題点	○	○	○	
自主実習点		○	○	
模擬授業点	○	○	○	○

評価割合 課題点(30%) 自主実習点(30%) 模擬授業点(40%)の割合で評価する。

使用教科書名(ISBN番号) 高等学校学習指導要領解説「家庭編」, 文部科学省, 平成30年7月

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

	<p>【知識・理解】「家庭科教育」（保育）分野について専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある（保育をめぐる）諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>	
オフィスアワー	（後期）金曜3限 1635研究室	
学生へのメッセージ	この授業では自主実習や保育分野模擬授業に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションなどのグループワーク取り入れた授業を展開する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業においては、効果的なプレゼンテーション資料の作成や電子黒板の活用に取り組む。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	被服学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う被服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。</p> <p>(花田朋美／8回) 被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。</p> <p>(富田弘美／7回) 被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。</p>
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	衣生活デザイン分野の基礎的な知識を多角的に捉え、習得する。
思考・判断の観点 (K)	衣生活デザイン分野の各領域を総合的に捉え、被服に関する発展的学習に備えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活デザイン分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	衣服に関する分野の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

被服学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分
第2回	布帛の構造 - 繊維・糸・織物・	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分

	編物の構造 ー			
第3回	被服の素材 (1)ー天然 繊維ー	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維（綿、麻、羊毛、絹）の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材 (2)ー化学 繊維ー	代表的な化学繊維（再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維）について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の 染色加工と 機能化	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解する。	配付プリントの衣服素材の高機能化について読んでおくこと。	180分
第6回	被服と健康 ー被服の快 適性ー	健康の定義と被服の快適性について概要を理解する。	配付プリントアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	被服の管理 と機能保持 ー洗浄と保 管ー	衣服の汚れと汚れ除去のメカニズムについて、更に取り扱いに関する表示記号の概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗濯について読んでおくこと。	180分
第8回	衣生活と環 境保全	衣服の廃棄と環境問題、環境配慮の方法について概要を理解する。	配付プリント地球環境と繊維製品について読んでおくこと。	180分
第9回	服飾デザイ ン1ーデザ イン構成ー	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考える。	180分
第10回	服飾デザイ ン2ーデザ イン要素ー	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを自分でくこと。	180分
第11回	被服の変遷 1ー西洋の 服装ー	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミ先生が留学した頃、20世紀初頭のファッション、芸術について調べる。	180分
第12回	被服の変遷 2ー日本の 服装と和服 文化ー	古代から中世の公家装束、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについて調べる。	180分
第13回	アパレル設 計ーアパレ ル産業と既 製服サイズ ー	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握すること。	180分
第14回	衣生活と ファッション ンビジネス	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解する。	アパレル産業の現状を整理し、さらにアパレル産業の未来について各自の考えをまとめる。	180分
第15回	衣生活と福 祉ーユニ バーサルデ ザインー	ユニバーサルデザインの定義を把握し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を理解する。	ユニバーサルファッションとして企画されている商品（衣服）を調べる。	180分
第16回	筆記試験			

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	①第1回～第8回担当者による筆記試験 ②第1回～第8回の平常点 ③第9回～第15回担当者による筆記試験 ④第9回～第15回平常点

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回～第8回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第8回の平常点			○	
第9回～第15回の筆記試験	○	○	○	
第9回～第15回の平常点			○	

評価割合	第1回～第8回と第9回～第15回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価	
使用教科書名（ISBN番号）	適宜プリント配付	
参考図書	第1回～第8回 ①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年） ②アパレル生理衛生論（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年） ③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷） ④衣生活のための消費科学（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年）	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する基礎的な知識を有している。 【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。	
オフィスアワー	水曜日 4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室（花田） 木曜日12時30分から14時 1405被服構成学研究室（富田）	
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田） 被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史、被服材料、被服衛生、被服管理などの基礎を多角的に概説します。被服・服飾の領域全般を広く学ぶことにより、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つような内容です。例えば、スカート・衿・袖などの名称、体型とデザイン、季節の寒暖に適合した素材や着用の方法、正しい洗濯や管理法などの知識は、日常に衣生活に役立つことでしょう。（富田）	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食科学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新的话题も交えながら総合的に授業展開する。
履修条件	高校までの総合家庭科の食関係領域と基礎的な生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる知識を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を論理的に提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を論理的、公平性を持ち、提示できる。
技術・表現の観点 (A)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活の意義	1. 食生活の基本、2. 食生活の意義について理解する。	教科書；1「食生活の意義」(1～7ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食の歴史	1. 食と人類、2. 日本の食の変遷について理解する。	教科書；2「食の歴史」(8～17ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	健康と栄養の歴史と制度・行政	1. 世界と日本の栄養思想の歴史、2. 健康に関する社会制度・保健対策、3. 健康・栄養の行政について理解する。	教科書；3「健康と栄養の歴史と制度・行政」(19～38ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	世界と日本の食①	1. 世界の食について理解する。	教科書；4「世界と日本の食」(39～47ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	世界と日本の食②	2. 日本の食について理解する。	教科書；4「世界と日本の食」(47～57ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第6回	栄養面から見た食生活①	1. 栄養学の基礎（総論・タンパク質・糖質）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（59～67ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	栄養面から見た食生活②	1. 栄養学の基礎（脂質・ビタミン）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（68～72ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	栄養面から見た食生活③	1. 栄養学の基礎（ミネラル・フィトケミカル・消化吸収）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（72～75ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	栄養面から見た食生活④	2. 疾病予防のためのライフステージ別食生活（乳幼児期・学齢期・青年期）について理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（76～86ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	栄養面から見た食生活⑤	2. 疾病予防のためのライフステージ別食生活（壮年期・高齢期）について理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（86～96ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	安全面から見た食生活①	1. 食品の安全と健康被害、2. 食生活の安全に関わる食品行政について理解する。	教科書；6「安全面から見た食生活」（98～120ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	安全面から見た食生活②	3. 食と健康をめぐる情報について理解する。	教科書；6「安全面から見た食生活」（120～131ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	環境面から見た食生活①	1. 食料生産と環境問題について理解する。	教科書；7「環境面から見た食生活」（133～142ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	環境面から見た食生活②	2. 食料問題について理解する。	教科書；7「環境面から見た食生活」（142～154ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	健康のための食生活	1. 地球環境レベルの健康・栄養問題への取り組み、2. 将来に向けての日本人の食生活について理解、考える。	教科書；8「健康のための食生活」（156～166ページ）を読んでもおくこと。 第1回から第15回までを復習しておくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
学習計画注記		* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。		
評価方法		課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		
評価割合		課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。		
使用教科書名 (ISBN番号)		私たちの食と健康(第2版)三訂/三共出版 吉田勉 監修 宮沢栄次・堀越宣弘 編著 B5/並製/181ページ/発行年月日：2018年4月10日 定価：2,484円（本体価格：2,300円）		
参考図書		授業内で必要に応じて、適宜、紹介します。		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】様々な立場を想定した食に関わる総合的な知識を他者に伝えることができる。 【思考・判断】教員並びに食の専門家として倫理観を持って食に関する事項を遂行できる思考・判断力を身につける。 【関心・意欲・態度】食に関わる事象を他者に正しく伝える対する倫理的素養を身につける。		
オフィスアワー		火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。		

学生へのメッセージ

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科への導入部分的内容となります。平成30年度から入学生活デザイン学科と食物学科履修者は中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための必修科目となります。平成29年度以前入学の生活デザイン学科履修者は、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための選択科目となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

授業概要(教育目的)

フードビジネスの範囲は、農業・漁業、小売業、飲食業、流通業、医療福祉、情報産業など幅広い分野におよぶ。フードビジネスは、ライフスタイルの変容やグローバル化の進展など昨今の社会の変化に伴って拡大、発展してきた産業分野であるが、一方で、食の安全性の確保や食品ロスの増大といった諸問題とも深く関係している。本授業では、私たちの日々の生活と深く関わるフードビジネスについて、その普及の経緯と現代社会における役割や諸課題等を理解するとともに、今後、持続可能な社会を目指すしていくに際して、同産業のあり方や方向性について考える。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	フードビジネスの普及の経緯や役割、問題等を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者として、あるいは商品やサービスを提供する側の人間として、フードビジネスに関わる際には、短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：フードビジネスとは	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。	フードビジネスの全体像(生産・加工・流通・消費)を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。	120分
第2回	私たちの暮らしとフードビジネス	フードビジネスをめぐる昨今の話題を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているかを理解する。	復習としてフードビジネスをめぐる昨今の話題(授業で取り上げた以外)をとりあげ、私たちの暮らしにどのように関係しているかを確認する。	180分
第3回	フードビジネスに関する諸課題①消費社会	消費社会がの成り立ちを踏まえてフードビジネスと消費社会の関係を理解する。	復習として自分自身の日々の食品消費行動を振り返り、フードビジネスにどのような影響を及ぼすか確認する。	180分

第4回	フードビジネスに関する諸課題② グローバル化	グローバル化の進展の経緯を確認し、フードビジネスとグローバル化の関係について理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化に関する昨今話題を調べておく。	復習として具体的な食品を題材に、グローバル化が進展することによる課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	フードビジネスに関する諸課題③ 食の安全性	食の安全性に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食の安全性に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食と環境問題に関する最近の話題を調べる。	180分
第6回	フードビジネスに関する諸課題④ 環境問題	環境問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食に関する環境問題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として食品表示や食品営業に関する法規制について調べる。	180分
第7回	フードビジネスと関連法規 食品表示・食品営業	食品表示法をはじめとしたフードビジネスに関連する食品表示や食品営業に關係する基本的な法規制を理解する。	復習として身近な食品の食品表示についてそれぞれの法律や規制に基づく表示なのかを確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第8回	事例に見るフードビジネス① 生産	今回から4回にわたり各分野における先進的なフードビジネスのケーススタディ（事例研究）により、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。第1回目は主に生産（農業）分野のフードビジネスを取り上げる。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第9回	事例に見るフードビジネス② 流通	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第2回目として流通業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第10回	事例に見るフードビジネス③ 飲食	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第3回目として飲食業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第11回	事例に見るフードビジネス④ 小売	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第4回目として小売業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。また、全3回のケーススタディを踏まえて、授業で取り上げた以外の先進的なフードビジネス事例を一つ以上選んで、事例の概要を説明したうえで、意義、課題、可能性等を論ずる。	240分
第12回	フードビジネスをつくってみる① 事業計画のつくり方	これまでの学習を踏まえてこれから3回にわたり食に関するビジネスプラン（事業計画）を作成する。第1回目では事業計画のつくり方を理解する。	復習として事業計画作成に必要な要素を整理し、事業計画作成に向けてフードビジネスのアイデアを3つ以上考える。	180分
第13回	フードビジネスをつくってみる② 事業計画作成	ビジネスプランづくりの2回目として、具体的なビジネスアイデアに基づき、グループワークによりプランの骨格を作成する。	作成したビジネスプランに基づき、インターネット等により関連情報（業界や市場、競合等）を収集し、次週のワークの材料とする。	180分
第14回	フードビジネスをつくってみる③ プレゼン資料作成	前回作成したビジネスプランの骨格とその後収集した関連情報をもとに最終的なビジネスプランとしてプレゼンテーション資料を作成する。引き続きグループワークで作業を行う。	授業内で作成したプレゼンテーション資料を脚色し、最終版を完成させる。	180分
第15回				180分

まとめ・振り返り	グループごとに作成したビジネスプランを発表し、課題や可能性等について意見交換する。これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成度を確認する。	授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのようにフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。			
学習計画注記	授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。				
学生へのフィードバック方法	講義形式の授業においては毎回の授業の最後に質疑応答の時間を設けてフィードバックの時間とする。後半のケーススタディにおいてはディスカッションを通じて学生の考えや意見に対してその場で随時フィードバックする。				
評価方法	レポートは授業で学んだことを踏まえて今後のフードビジネスの望ましいあり方を論考する内容とする。レポート課題は8回目以降の授業内で提示する。 ワークは、ビジネスプラン作成のグループワークにおいて、理解力、発想力、課題解決力、思考力、チームワーク等により評価する。 平常点は授業内のディスカッション等における発言や質疑等に基づき理解度を確認し、評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート	○	○	○	
	ワーク	○	○	○	
	平常点	○	○	○	
評価割合	レポート40点、ワーク30点、平常点30点				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任果たすことができる。				
学生へのメッセージ	フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによりビジネスプランを作成し、発表する。ケーススタディを通じてディスカッションを行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	製品・食品鑑別演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	食品を評価する際に、嗜好に直接結びつく官能評価ならびに個別の食品に関する鑑別知識は大変重要である。官能評価は味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚の五感を持つヒトを一種の計測機器と考え、ヒトの感覚を用いて、評価、測定する方法である。また、食生活の多様化により、利用する食品の種類も多くなっている中、食の安全性確保の上でも食品の品質を見抜く能力も必要である。その両者の考え方、手法、具体的な実施方法について、演習を通して修得することを目的とする。
履修条件	食品学Ⅰ・Ⅱ、食品加工貯蔵学、調理学等の関連科目を既修もしくは履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 食品の官能評価、鑑別に関わる知識、技術を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 対象となる食品に的確な官能評価、鑑別法を選択し、その評価と判断においては、倫理的、批判的な観点も加味して判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 官能評価、鑑別を行う試験者、評価対象となる被検者の両者の立場の両面において、的確な行動ができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 対象となる食品に的確な官能評価、鑑別法を遂行できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の品質と官能評価について	食品の品質とは、官能評価とはどのようなものか総体的に理解し、次回からの官能評価で用いる試料調製を行う。	教科書；序「食品の品質とは」(1~2ページ)を読んでおくこと。	予習60分、復習60分
第2回	官能評価① 個別食品の鑑別①	官能評価においては「5味の鑑別」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「米」について理解する。	教科書；1「官能評価」(3~12ページ)、4「個別食品の鑑別」(87~94ページ)を読んでおくこと。 「5味の鑑別」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第3回	官能評価② 個別食品の鑑別②	官能評価においては「1・2点比較法、2点比較法：鑑別・嗜好」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「麦・トウモロコシ」について理解する。	教科書；教科書；1「官能評価」(12~15ページ)、4「個別食品の鑑別」(94~104ページ)を読んでおくこと。 「1・2点比較法、2点比較法：	予習60分、復習60分

			識別・嗜好」のレポート作成を行うこと。	
第4回	官能評価③ 個別食品の鑑別③	官能評価においては「3点識別試験法」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「雑穀類・イモ類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（15～16ページ）、4「個別食品の鑑別」（104～110ページ）を読んでおくこと。 「3点識別試験法」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第5回	官能評価④ 個別食品の鑑別④	官能評価においては「スピアマンの順位相関係数」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「豆類・種実類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（17～19ページ）、4「個別食品の鑑別」（111～108）ページを読んでおくこと。 「スピアマンの順位相関係数」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第6回	官能評価⑤ 個別食品の鑑別⑤	官能評価においては「Newell&MacFarlaneの検定表を用いる検定」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「野菜類・キノコ類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（19～20ページ）、4「個別食品の鑑別」（118～126ページ）を読んでおくこと。 「Newell&MacFarlaneの検定表を用いる検定」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第7回	官能評価⑥ 個別食品の鑑別⑥	官能評価においては「ケンドールの一致性の係数」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「果実類・海藻類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（19～21ページ）、4「個別食品の鑑別」（126～138ページ）を読んでおくこと。 「ケンドールの一致性の係数」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第8回	官能評価⑦ 個別食品の鑑別⑦	官能評価においては「評点法」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「魚介類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（22～29ページ）、4「個別食品の鑑別」（139～150ページ）を読んでおくこと。 「評点法」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第9回	官能評価⑧ 個別食品の鑑別⑧	官能評価においては「SD法」を実施し、手技手法を習得する。個別食品の鑑別においては「肉類」について理解する。	教科書；1「官能評価」（30ページ）、4「個別食品の鑑別」（151～161ページ）を読んでおくこと。 「SD法」のレポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第10回	化学的評価法① 個別食品の鑑別⑨	化学的評価法においては「食品成分と品質」について、個別食品の鑑別においては「卵とその加工品・乳と乳製品」について理解する。	教科書；2「化学的評価法」（31～50ページ）、4「個別食品の鑑別」（162～177ページ）を読んでおくこと。 「食品成分と品質」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第11回	化学的評価法② 個別食品の鑑別⑩	化学的評価法においては「化学的品質評価」について、個別食品の鑑別においては「油脂・菓子類」について理解する。	教科書；3「物理的評価法」（59～63ページ）、4「個別食品の鑑別」（187～209ページ）を読んでおくこと。 「化学的品質評価」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第12回	物理的評価法① 個別食品の鑑別⑪	物理的評価法においては「食品の状態、個別食品の鑑別」について、個別食品の鑑別においては「酒類・茶類・コーヒー・ココア・清涼飲料」について理解する。	教科書；2「化学的評価法」（50～58ページ）、4「個別食品の鑑別」（177～187ページ）を読んでおくこと。 「食品の状態、個別食品の鑑別」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第13回	物理的評価法② 個別食品の鑑別⑫	物理的評価法においては「レオロジーとテクスチャー」について、個別食品の鑑別においては「醸造食品・調味料・香辛料」について理解する。	教科書；3「物理的評価法」（64～69ページ）、4「個別食品の鑑別」（209～224ページ）を読んでおくこと。 「レオロジーとテクスチャー」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分、復習60分
第14回	物理的評価法③ 個別食品の鑑別⑬	物理的評価法においては「物理的性質の評価方法」について、個別食品の鑑別においては「インスタント食品・冷凍食品・弁当」について理解する。	教科書；3「物理的評価法」（69～78ページ）、4「個別食品の鑑別」（224～237ページ）を読んでおくこと。 「物理的性質の評価方法」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分、復習60分

第15回	物理的評価法④ 個別食品の鑑別④	物理的評価法④色の評価方法・非破壊検査法、個別食品の鑑別④機能性食品 物理的評価法においては「色の評価方法・非破壊検査法」について、個別食品の鑑別においては「機能性食品」について理解する。	教科書；3「物理的評価法」(79～85ページ)、4「個別食品の鑑別」(237～243ページ)を読んでおくこと。 第1回～第15回の復習を行うこと。 「色の評価方法・非破壊検査法」に関する課題レポートを作成すること。	予習60分 復習240分	
学習計画注記		授業展開において、履修人数や進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		提出レポートに関しては、次回に添削物返却を行い、課題に関しては解答例等を示します。			
評価方法		演習態度（編成された班における協同の様子等）15%、演習結果・課題レポート45%、実技試験（官能評価立案）20%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価とします。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	演習態度			○	○
	レポート	○	○		
	実技試験	○	○		○
	筆記試験	○	○		
評価割合		演習態度15%、演習結果・課題レポート45%、実技試験20%、筆記試験20%の総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)		三訂／食品の官能評価・鑑別演習/健帛社 日本フードスペシャリスト協会 編 A5/並製/2色/264ページ 発行年月日：2014年4月10日 定価：2,376円（本体価格：2,200円）			
参考図書		必要に応じて授業内で紹介します。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】食品に関わる評価、鑑別について知識を身につける。 【思考・判断】教員並びに食の専門家として倫理観を持って食品の評価、鑑別を遂行する素養を身につける。 【関心・意欲・態度】食品の評価や鑑別を遂行する試験者と被験者に対する考えと調和力を身につける。 【技術・態度】食品の評価、鑑別にに対する対処、検討に必要な技術を身につける。			
オフィスアワー		火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得てください。			
学生へのメッセージ		平成29年度までの生活デザイン学科入学の学生対象となるスペシャリスト受験資格教科（協会指定：食品の官能評価・識別論対応）です。食品学、生物学、化学（特に有機化学）ならびに調理学、調理実習の基礎知識を基に物理化学と統計学の要素が入った演習形式で授業を進めます。様々な教科の複合的な要素が入ってきますので、苦手な教科部分は事前にその基となる授業を受講されていることが望ましいです。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。			
アクティブ・ラーニング	○	演習における編成班員と協同して、パネルの対象食品の評価、鑑別結果の共有、解析を行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	建築環境学 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 柘田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学A				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 (配布資料) 建築環境学の位置付け/自然環境と室内環境の関わり/ 建築環境学と建築設備の関わり/人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 (配布資料) 安全・衛生(健康)と快適を提供する建物/脅かす要素/環境制御の目標と原理/建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 (配布資料) 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計 寒い地方の建築的工夫/暑い地方の建築的工夫/これからの建築熱環境設計	気候風土と建築について復習すること	60

第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感（1）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導、熱対流、熱放射、蒸発）／温熱感に影響する要因（気温、湿度、放射、気流、着衣量、代謝量）／MRT	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180
第6回	温熱感（2）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT, SET*, PMV）／住宅の温熱環境	課題1（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグリデー）／湿度（クリモグラフ, WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線、可視光線、赤外線）／直達日射、天空日射、全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題2（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（1）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角、太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（2）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題3（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（1）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（2）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題4（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（1）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（2）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題5（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（1） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素、一酸化炭素、ホルムアルデヒド、VOC、窒素酸化物、硫酸酸化物、臭気、浮遊粒子状物質、PM2.5、アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（2） 室内の空気汚染対策	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力、室内外温度差）／機械換気	課題6（空気環境）による復習	120

学生へのフィードバック方法	すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。 ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。 ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価
使用教科書名 (ISBN番号)	生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015 978-4-7530-1759-1

参考図書	図説テキスト 建築環境工学／加藤信介 他／彰国社／2008	
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 【知識・理解】 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 【知識・理解】 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。	
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜3限 1807室 / 町田C 水曜3限 3604室	
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)

住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。
住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷 (1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住まいの変遷 (2) 明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分

第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	(復習) 自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	180分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	180分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第12回	住まいの設計プロセス	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学び、作図のための練習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図 (1) 図面作成のルール	建築図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図 (2) 平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第15回	住まいの設計／製図 (3) 配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	(復習) 図面を完成させる。	180分
第16回	定期試験	製図を除く授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて6回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○	○	
	製図課題	○			○
	定期試験	○	○	○	
評価割合	小課題30%、製図課題30%、定期試験40%により総合的に評価する。				

使用教科書名 (ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館	
参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p> <p>【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている</p>	
オフィスアワー	金曜 3 限 3508研究室	
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築史 A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠的特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第1部I「竪穴式住居と高床式建物」(pp.10-11)を読んでもらうこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第1部II「古代の神社建築」(pp.12-13)を読んでもらうこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第1部III「仏教建築の伝来」(pp.14-15)を読んでもらうこと。また、授業で配布するプリント(組物について)の組物名称を覚えること	120分
第5回		条坊制、モヤ・ヒサシ構造、寝殿造		120分

	古代の都市計画と寝殿造		教科書第1部IV「古代の都市計画と住宅」(pp.16-17)を読むこと	
第6回	平安時代の仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第1部V「浄土教の建築」(pp.18-19)を読むこと	120分
第7回	中世の神社建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第1部VII「中世の神社建築」(pp.24-25)を読むこと	120分
第8回	中世の仏教建築1	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禪宗様	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第9回	中世の仏教建築2	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第10回	中世の住宅建築から書院造へ	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造	教科書第1部VIII「中世の住宅から書院造へ」(pp.26-27)を読むこと	120分
第11回	近世の都市と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生	教科書第1部IX「城郭建築」(pp.28-29) X「城郭建築」(pp.28-29) XI「茶室と数寄屋」(pp.30-31) XII「近世の社寺建築」(pp.32-33)を読むこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第1部XII「民家」(pp.36-39)を読むこと	120分
第13回	西洋建築の移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第2部I「西洋文化の移入」(pp.42-43) II「日本人建築家の誕生」(pp.44-46)を読むこと	120分
第14回	戦後の住宅建築と都市政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公園、ニュータウンの開発、nLDK住宅の誕生	教科書第2部IV「都市計画および構造技術の発達」(pp.48-49) VII「戦後の住宅政策とDK住宅の誕生」(pp.56-58)を読むこと	120分
第15回	わが国のモダニズム建築	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタポリズム	教科書第2部V「モダニズム建築の到来」(pp.50-53) VIII「日本建築界からの発信」(pp.59-61) IX「モダニズムの先を求めて」(pp.62-63)を読むこと	120分

学生へのフィードバック方法	学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う 定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	
評価割合	授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	『建築史』編集委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN : 978-4-395-00876-6)				
参考図書	なし				

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる	
オフィスアワー	水曜3限 3509室	
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築史B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストーンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジグurat、宮殿建築、アーチ構造	教科書第3部Ⅰ「エジプト建築」(pp.66-67)Ⅱ「オリエント建築」(pp.68-69)を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生(ドリス式、イオニア式、コリント式)	教科書第3部Ⅲ「ギリシア建築」(pp.70-75)を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	5つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第3部Ⅳ「ローマ建築」(pp.76-79)を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリスト教建築	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会堂、ドームの発達(スキンジ、トロンプ、ペンデンティヴ)、ハギア・ソフィア大聖堂	教科書第3部Ⅴ「初期キリスト教建築」(pp.80-81)Ⅵ「ビザ	120分

	ビザンティン建築		ンティン建築」(pp.82-83)を 読んでおくこと	
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第3部Ⅷ「ロマネスク建築」(pp.86-89)を 読んでおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第3部Ⅸ「ゴシック建築」(pp.90-94)を 読んでおくこと	120分
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家(ハーフ・ティンバー等)	教科書第3部Ⅹ「中世の世俗建築」(pp.94-95)を 読んでおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴(古典様式の復興、教会堂建築の課題)、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラーディオの建築	教科書第3部Ⅺ「ルネサンス建築」(pp.96-100)を 読んでおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとポロツミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第3部Ⅻ「バロック建築」(pp.101-107)を 読んでおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第3部Ⅼ「リヴァイヴァル建築」(pp.108-111)を 読んでおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構造物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第4部Ⅰ「新材料を用いた構造物」(pp.114-115)を 読んでおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第4部Ⅱ「都市問題・住宅問題」(pp.116-118)を 読んでおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・ステール、バウハウス	教科書第4部Ⅲ「アーツ・アンド・クラフツ運動」、Ⅳ「アール・ヌーヴォー」、Ⅴ「アメリカ建築の近代化」、Ⅵ「セセッション」、Ⅶ「ドイツ工作連盟」、Ⅷ「近代建築運動」(pp.118-127)ならびにⅧ「ドイツ工作連盟」、Ⅷ「近代建築運動」(pp.130-133)、Ⅹ「アール・デコとスカイスクレイパー」(p.141)を 読んでおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築	教科書第4部Ⅹ「モダニズム建築の完成と流布」(pp.134-140)Ⅺ「第二次世界大戦後の建築」(pp.142-143)Ⅻ「ポスト・モダニズム建築」(pp.144-145)を 読んでおくこと	120分

学生へのフィードバック方法	学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う 定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○	○		
	定期試験	○	○	○	
評価割合	授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	『建築史』編集委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN : 978-4-395-00876-6)				

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している。グローバルな視点から専門分野の知識を深めて理解する</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p>	
オフィスアワー	水曜2限 3509室	
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行くといよいでしょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし
助教	深石 圭子	指定なし

授業概要(教育目的)	住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法について検討する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	住生活について科学的に分析し理解するための基礎知識を身に付ける
思考・判断の観点 (K)	住生活について科学的に分析し理解する能力を身に付ける
関心・意欲・態度の観点 (V)	住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

授業計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	参考書や建築関連書籍、建築雑誌等、住・建築関連の資料を知ること、情報の活用の仕方学ぶ 建築系の資格についても簡単に説明できるようにする	(予習) 建築系の資格について、どのようなものがあるのか、を調べ理解しておく	180分
第2回	敷地の把握と機能図	住宅が建設されるまでの流れを理解する また、機能図の表現の仕方を学ぶ	(復習) 一定の条件の元、機能図で室のつながり等を図に書いて理解する(小課題)	180分
第3回	ゾーニングと動線	使いやすい住宅とは何かを考察し、住宅としての室の配置やつながりの重要性を理解する 住宅における動線の種類や、室の構成要素、空間構成の一例を理解する	(復習) 空間構成について再確認し、イメージが湧くよう、具体的事例を雑誌やweb等で見ておく	180分
第4回	尺度	尺度の概念の理解し、説明ができる 三角スケールの使い方を習得することで、スケール感覚を身に垂付ける また、図面のコピー倍率の計算方法も理解する(小課題)	(復習) 授業終了時に配布する模範解答に三角スケールを当て、なぜその解答になるかの再確認する (三角スケールを持っていない)	180分

			学生に対しては、貸出しを行う)	
第5回	木造在来軸組工法(平屋)の部材名称と施工順序	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と、平屋の地盤調査から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する プリントの部材を着色することで、視覚的に理解できる(小課題)	色鉛筆(12色以上)を持参する (復習)授業内に着色した部材の図面と施工写真、軸組のアイソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	180分
第6回	木造在来軸組工法(2階建)の部材名称と施工順序	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と2階建ての2階床木工事から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する プリントの部材を着色することで、視覚的に理解する(小課題)	色鉛筆(12色以上)を持参する (復習)授業内に着色した部材の図面と施工写真、軸組のアイソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	180分
第7回	階段の構造・種類・各部名称・寸法	階段の種類や各部の名称、構造を理解し、一定の条件のもと、図面としての階段の表現ができるようになる	三角スケールを持っている場合は、持参する (予習)身近にある階段の実物をよく観察し、構造を理解しておく	180分
第8回	直階段	直階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法を理解する 課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する(小課題)	三角スケールを持っている場合は、持参すること (復習)授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べながら、表記の方法などの再確認をする	180分
第9回	折り返し階段	折り返し階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法を理解する また、課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する 授業回数1回目から9回目までの振り返り、定期試験の出題傾向を理解する(小課題)	三角スケールを持っている場合は、定期試験時に持参する (復習)授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べながら、表記の方法などの再確認する	180分
第10回	住まいの管理	住生活基本法の基本理念、日本の住宅の整備状況、住まいの老朽化対策について学ぶ	(復習)住生活基本法について、授業で取り上げなかった項目についても含め全体像を理解する	120分
第11回	集合住宅の管理	集合住宅の管理に関する法律、現代における課題について理解する	(復習)区分所有法に関して全体像を理解する	120分
第12回	居住地の管理	良好な居住環境形成のための居住地管理について理解する	(復習)自分の住む地域でおこなわれているまちづくり活動について調べる	120分
第13回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	(復習)自分の住む地域の空き家の状況について考える (レポート課題 1/2) 空き家問題に関するレポート課題に取り組む	120分 +レポート180分
第14回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	(復習)自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる (レポート課題 2/2) 空き家問題に関するレポート課題に取り組む	120分 +レポート180分
第15回	こどもと住まい	社会・家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について、こどものための居住環境という視点から学ぶ	(復習)自分の住む地域におけるこどもの居住環境について考える	復習 120分
第16回	定期試験	単語や数値、簡単な図面の読み書きができるかどうかを問う内容		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題は、添削し返却、若しくは模範解答の配布を行う。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評を行う。 期末レポートについては採点後にコメントを付けて返却する。
評価方法	小課題は、授業の進行と同時に取り組み、より授業内容を深めるために行い、6回実施する。 定期試験は、100点満点で出題し、課題プリントの内容も含む。単語や数値、簡単な図面の読み書きができるかどうかを問う内容とし、問題出題の傾向については、9回目の授業後半で説明する。 小レポートは、10～15回の授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題につ

いて自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		
定期試験	○	○	○	
小レポート	○	○		
期末レポート	○	○	○	

評価割合

小課題20%、定期試験30%、小レポート20%、期末レポート30%により総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

定行まり子「生活と住居」光生館
小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
その他、必要に応じ、参考になる資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「住」の分野 について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる

オフィスアワー

金曜 4 時限 3508 研究室 (小池)
水曜 2 時限 3512 研究室 (深石)

学生へのメッセージ

身の回りに存在する住生活に関する諸問題への関心をもつこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境安全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画 (配布資料) 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備/住宅で使用されるエネルギーの種類/建築士の仕事(映像資料)	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 (配布資料) すまいの「水・お湯」のしくみ/すまいの「空気・熱」のしくみ/ビルの「給排水・衛生」のしくみ/ビルの「空調」のしくみ/インテリアコーディネーターの仕事(映像資料)	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境(1)	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの/水の流れ/都市設備と建築設備/建築設備と自然堤境/自然にやさしい再利用水	教科書p.102-110(水環境・水の用途)について読んでおくこと	180

第4回	建築と水環境 (2)	水の用途について理解する。 水と生活/生命維持のための水/水の用途と設備 給排水衛生設備 上水 雑用水/生活用水と使用水量	水の用途について復習すること	120
第5回	水に関する基礎知識 (1)	水質、給水圧力について理解する。 水質/上水, 下水, 再利用水/おいしい水, 湯 (定義, 洗浄力), 浄水器 残留塩素 水に対する溶解度 水と圧力/圧力の単位/ベルヌーイの式	教科書p. 111-120 (水に関する基礎知識) について読んでおくこと	180
第6回	水に関する基礎知識 (2)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能/封水損失現象とその防止対策/誘導サイホン作用 自己サイホン作用 蒸発 水の使われ方と負荷/水使用パターンとピーク負荷/適正器具数	課題1 (水基礎知識) による復習	120
第7回	給水設備 (1)	給水の汚染防止について理解する。 安全な水/飲料用給水の汚染と防止/クロスコネクション 逆サイホン作用 吐水口空間 バキュームブレイカー 逆止弁 受水槽の6面点検 器具の汚染と防止/間接排水 排水口空間	教科書p. 121-125 (給水設備) について読んでおくこと	180
第8回	給水設備 (2)	給水方式について理解する。 システムの種類/器具の必要給水圧力/直結直圧方式 直結増圧方式 高置水槽方式 圧力水槽方式 ポンプ直送方式 システムの構成/ポンプ 水槽 配管材料	課題2 (給水設備) による復習	120
第9回	給湯設備 (1)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い/給湯エネルギー/住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器/自然冷媒ヒートポンプ給湯器 潜熱回収型ガス瞬間湯沸器 ハイブリット型給湯器 太陽熱温水器	教科書p. 126-129 (給湯設備) について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備 (2)	給湯方式について理解する。 システムの種類/住戸セントラル給湯方式 さや管ヘッダー配管方式 中央式給湯方式 システムの構成/湯沸器 貯湯槽 膨張水槽 逃し管 伸縮継手	課題3 (給湯設備) による復習	120
第11回	排水通気設備 (1)	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ/圧力発生の原理/特殊継手排水システム/排水の種類と排水方式	教科書p. 130-136 (排水通気設備) について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備 (2)	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成/ベントキャップ/排水管・継手類/フロアドレン/阻集器/排水ます・排水槽	課題4 (排水通気設備) による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類/給水器具 水受け容器 排水器具 付属品 プレハブ ユニット化 水栓金具/大便器/洗面化粧台/浴槽/流し類/排水器具	教科書p. 137-141 (衛生設備) について読んでおくこと 課題5レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割/設置基準/処理方式/構造 ガス利用の歴史/都市ガスとLPG/ガスの性質/供給方式/設備設計/安全対策	教科書p. 142-151 (浄化設備・ガス設備) について読んでおくこと 配布資料 (ガス設備の燃焼方式) について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量/シックハウス対策と24時間換気/換気の法的規制	教科書p. 87-95 (換気設備) について読んでおくこと 換気的方式について復習すること	90 60

学生へのフィードバック方法

すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、衛生器具設備 (キッチン・洗面・浴室・トイレ) の製品特徴・選択理由・設置寸法についてショールームあるいはカタログで調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

課題	○			
レポート	○			
評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	「建築の設備」入門 新訂第二版/同編集委員会編/彰国社/2017年 978-4-395-32095-0			
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。			
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜5限 1807室 / 町田C 水曜3限 3604室			
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。			
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
IGT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	構造力学A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	建築(住居)における力学について講義する。構造力学Aは初学者向けの入門編である。単純な構造(単純梁、片持ち梁)を通して、力の性質・力の種類・力の釣り合い・構造物の表現・反力計算・応力計算・応力図を理解し力学に対する興味を喚起する。また、基礎編の構造力学Bに向け、事象に対する力学的な思考力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 反力(支点に作用する力)と応力(部材に作用する力)の計算ができる 2. 応力図(軸方向力図、せん断力図、モーメント図)を描くことができる
思考・判断の観点 (K)	1. 力の釣り合いを正しく理解し説明できる 2. 反力と応力の違いを正しく理解し説明できる 3. 応力図の意味を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

構造力学A				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	力の性質1	1. 力とは(力の3要素) 2. 力の演算(符号, 力の和と差) 3. 力の単位(SI単位系) 4. 数学の基礎(スカラーとベクトル)	参考書P8~11を読んでおくこと 又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第2回	力の性質2	1. 力の合成と分解(同一作用線上の力の合成, 同一作用線上にない力の合成) 2. 生活における力の合成と分解 3. 数学の基礎(三角関数, 単位円)	参考書P12~28を読んでおくこと 又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第3回	力の性質3	1. 力のモーメント 2. 生活におけるちからのモーメント 3. 偶力(偶力とは, 偶力の性質) 4. バリニオンの定理	参考書P29~38を読んでおくこと 又は相当する内容を学習しておくこと	180分

第4回	構造物の表現と種類	1. 構造のモデル化とは 2. 節点の種類(剛節点, 滑節点) 3. 支点の種類(移動端, 回転端, 固定端) 4. 荷重の種類(集中荷重, 等分布荷重, 等変分布荷重, モーメント荷重)	参考書P40~51を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第5回	力のつり合い(反力1)	1. 反力とは 2. 力のつり合いとは 3. 力のつり合い条件(2力のつり合い, 3力のつり合い) 4. 反力の求め方	参考書P54~66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第6回	力のつり合い(反力2)	1. 反力の求め方(復習) 2. 力のつり合い(復習) 3. 力の合成と分解(復習) 4. 支点の種類(復習) 5. 集中荷重が作用する片持梁の反力計算 6. 集中荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54~66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第7回	力のつり合い(反力3)	1. モーメント力(復習) 2. 生活におけるモーメント力(事例) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の反力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54~66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第8回	力のつり合い(反力4)	1. 合力とは, 重心とは 2. 合力と重心の考え方 3. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する片持梁の反力計算 4. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54~66を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第9回	力のつり合い(応力1)	1. 応力とは 2. 反力と応力の違い 3. 応力の種類(軸方向力, せん断力, 曲げモーメント) 4. 応力の描き方(N図, Q図, M図)	参考書P67~113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第10回	力のつり合い(応力2)	1. 反力計算(復習) 2. 切断法の考え方 3. 集中荷重が作用する片持梁の応力計算 4. 集中荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67~113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第11回	力のつり合い(応力3)	1. 力のつり合い(復習) 2. 切断法の考え方(復習) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の応力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67~113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第12回	力のつり合い(応力4)	1. 合力の考え方(復習) 2. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する片持梁の応力計算 3. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する単純梁の応力計算 4. 数学の基礎(2次関数, 極値)	参考書P67~113を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1. 反力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第1~8回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1. 応力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第9~12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1. 理解度の確認 2. 授業内容の総括	授業の第1~14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
---------------	--------------------------------------------------

評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする(板書を基準に自らの考えも含めること)。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する	
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない	
参考図書	力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる	
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15~30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インテリア材料		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)	
------------	--

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画	
------	--

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。 【レポート課題（繊維板の種類とその特徴について）の説明】	【復習】ガイダンス（第1回の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第2回	屋根材料 (1) 粘土瓦	粘土瓦（釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第3回	屋根材料 (2) 金属板	金属板（トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など）の特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストにつ	300

			いて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	
第4回	屋根材料 (3) スレートなど	住宅屋根用化粧スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、作成したレポート課題についてループリックで示した観点に沿ってまとめられているか、再度、読み返し、提出できるようにする。	360
第5回	内外装仕上げ材料 (1) せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習する。	120
第6回	内外装仕上げ材料 (2) 木質系材料	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第7回	内外装仕上げ材料 (3) 繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	内外装仕上げ材料 (4) 軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	内外装仕上げ材料 (5) タイル	タイルの種類（素地による区分）やその特徴について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること 【復習】返却した小テストについて復習すること	120
第10回	内外装仕上げ材料 (6) れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装仕上げ材料 (7) 石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	内外装仕上げ材料 (8) 左官材料	左官材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	内外装仕上げ材料 (9) ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	その他の材料 (1) 塗装材料	塗装材料（塗料）の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	その他の材料 (2) 接着剤・断熱材料	接着剤及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。																																	
評価基準																																		
評価基準																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○																	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点(約43%)、レポート課題(約14%)及び定期試験(約43%)で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材/砂川幸雄・江口征男/相模書房、初学者の建築講座 建築材料/橋高義典ら/市ヶ谷出版																																	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築仕上げ材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。																																	
オフィスアワー	水曜日4時限 3606研究室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																					
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

授業概要(教育目的)	道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造など、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法の規制を知り、面積計算、高さ計算、採光計算などの計算練習をすることで、建築の設計、施工、不動産取引において必要となる法的な知識を身に付け、応用できる力を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	建築法規の目的、全体像、概念を知り、道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などの建築基準法の基本的な規制を説明できる。建築関係法令集を自力で引ける。
思考・判断の観点 (K)	設計において、建築基準法の道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などのチェックができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	建築基準法の概要	法規のアウトライン 法律と条令、施行令、手続き規定と実体規定(単体規定、集団規定)、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、各用途地域、高度地区などの意味、包含関係、適用範囲。また確認申請、工事届・除去届け、中間検査、完了検査、定期報告などの手続き。用語の定義などを理解する。	教科書の8~25pを読み、p69の用途地域名はすべて暗記しておくこと。	180分
第2回	道路と敷地	道路、敷地 42条の各項の道路、43条、44条など。特に2項道路、五号道路(位置指定道路)、接道義務について学ぶ。	教科書のp26~p64を読んでおくこと。	180分
第3回	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、住居系用途地域8種	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、違いについて説明する。13種の用途地域の特色と建てられる建築物について概説し、住居系用途地域8種について詳述する。	p65~p82まで読んでおくこと。	180分

オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室	
学生へのメッセージ	2年次、3年次でのデザイン演習では建ぺい率、容積率が法規制として提示されました。実際の設計では、さらに道路制限、用途制限、高さ制限、防火規定、避難規定など、多くの法規制がされます。この授業で建築関連法規の基本を身に付けて社会に出ましよう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに関与するか、設計時での法律的な注意点を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	(復習) 自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	(復習) 自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	(復習) 自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計プロセス	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規について学ぶ	(復習) 住居の設計プロセスと建築に関わる法規について復習する (中間レポート1/4) 住宅計画	120分 +レポート120分

			に関する中間レポートに取り組む	
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート2/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える (中間レポート3/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート4/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	(復習) 自分の生活を対象に生活の外部化について考える (期末レポート1/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	(復習) 多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える (期末レポート2/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第13回	集合住宅地の計画 1	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の住む地域の街並みの美しさについて考える (期末レポート3/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第14回	集合住宅地の計画 2	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	(復習) 自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	実施した小課題・小レポート・中間レポート・期末レポートについて、授業時間内に全体講評をおこなう。			
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。3回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。7回程度の実施を予定している。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の2回実施する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		

小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
評価割合	小課題15%、小レポート15%、中間レポート40%、期末レポート30%により総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。			
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門―住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える―住居学」彰国社			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。			
オフィスアワー	金曜3時限 3508研究室			
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉住環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	(復習)日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	(復習)配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備-1	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	(復習)配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにおける生活用具について、共用品・福祉用具にあたるものがないか考える。	150分

第4回	高齢者・障害者の住環境整備－2	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－3	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第6回	日本の住宅と生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－1	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－2	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－3	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第10回	福祉住環境整備の技術－4	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。	150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	(復習) 社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点后にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。

		<p>期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。</p>		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			
評価割合	小レポート20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。			
参考図書	「新版福祉住環境」 浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】家政学を学修し、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている</p>			
オフィスアワー	金曜4時限 3508研究室			
学生へのメッセージ	本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(石綱)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年生		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む②	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	服飾造形実習B		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>衿と袖付きのブラウス製作が課題である。人体の計測後に身頃原型を設定し、デザイン(設計)では、スタイル、ディテール、素材・色彩等を選定し、パターン設計(製図)、裁断、身頃・衿・袖のミシン縫製を習得して仕上げる。人体の上半身・腕・頸の構造と衣服のパターンとの関係を理論的に理解し、製作技術の基礎を習得することを目的とする。</p>
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「服飾造形実習A」の履修をしていること
------	---------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	衣服に関する分野の諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点(K)	衣服に関する分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	衣服に関する分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

服飾造形実習B		
回	授業テーマ	学習内容(7key'トレーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	課題のブラウス(シャツ)の説明、材料・道具・レポートの説明、身頃原型1	ブラウスの種類、材料(生地・糸)道具、レポートの説明、身頃原型の型紙づくりを理解する。
第2回	身頃原型2	裁断、印付け、粗ミシンで縫製を理解する。
第3回	身頃原型3、身頃原型の試着点検1、ブラウスの製図1	試着点検、ブラウスの製図(身頃)を理解する。
第4回	ブラウスの製図2、身頃原型の試着点検2、材料の準備	ブラウスの製図(衿・袖)の製図、生地の地直し、試着点検の方法を理解する。
第5回	ブラウスの型紙づくり、裁断・印付け1	製図から型紙をトレースして型紙づくり、裁断、チャコペーパーの印付けを理解する。

第6回	裁断・印付け2、仮縫い1	裁断、チャコペーパーの印付け、身頃のダーツ、ヨーク、脇の仮縫い合わせを理解する。
第7回	仮縫い2	肩・衿づくり、衿付け、袖つくりの方法を理解する。
第8回	仮縫い3、ブラウスの試着点検1	カウス付け、袖付け、裾上げ、試着点検、補正を理解する。
第9回	本縫い1、ブラウスの試着点検2	ダーツ、肩、脇、接着芯張り（衿、カフス、見返し・前立て）、試着点検を理解する。
第10回	本縫い2、レポートの説明	衿づくり、衿つけ、カウスつくりを理解する。
第11回	本縫い3	袖づくり、袖の開きの始末（見返し・短冊）を理解する。
第12回	本縫い4、ボタンホール（手かがり）の練習1	袖付け、ボタンホールの手かがりを理解する。
第13回	ボタンホール（手かがり）の練習2、ボタンホール（ミシン）1	ボタンホールを手でかがり、実物はミシンで行うことを理解する。
第14回	ボタンホール（ミシン）2、ボタン付け、仕上げアイロン	ボタンホールを手でかがり、実物はミシンで行い、ボタンを付け、仕上げアイロンをかけることを理解する。
第15回	着装発表、レポート提出	コーディネイトをして着装し、デザインの特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。

学生へのフィードバック方法	製図・部分縫いのコメント、作品と発表への講評
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図、部分縫い、作品、発表

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
製図	○	○	○	○
部分縫い	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合	平常点40%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図10%、部分縫い10%、作品30%、発表10%
使用教科書名 (ISBN番号)	アパレル生産実習・アパレル設計実習 一般社団法人衣料管理協会 適宜プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
学生へのメッセージ	授業の遅れは次回までに取り戻しておくこと。欠席をしないこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	作品を着装し、デザインの特徴や素材について調べて発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習E(石綱)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む②	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活デザイン演習F(石綱)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回		課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する		45分

	文献を読む ②		課題の文献を読み要約、解説する準備をする	
第8回	文献を読む ③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む ④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む ⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第11回	文献を読む ⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む ⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む ⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む ⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む ⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する	45分

学習計画注記	履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：読解力、要約力、文章構成力などを総合的に判断して評価する。
------	---------------------------------------------------------------------

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
-----------------	----------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜3限 3609研究室
---------	--------------

学生へのメッセージ	初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレル生産実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

アパレル製品が、システム化された作業工程に従って商品化される過程を模擬的に体験して学園祭で販売する。商品の企画、デザイン、CADによる工業用衣料パターンメイキング、サンプル製作、縫製仕様書による指示、カッティング、縫製、仕上げ、検品と製品評価などの生産工程と商品のパッケージ、広告、販売について学び、品質のよい製品を効率よく工業生産の基礎を習得する。また、学外で多種類の工業用ミシンの見学およびアパレル企業の実務経験をもつ講師により特別授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル生産実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	オリエンテーション、プロジェクトの説明、既製服の歴史	グループごとに模擬的なアパレル企業として企画、設計、生産、検品、販売などの作業内容を理解する。
第2回	特別授業	アパレル企業の商品企画、店舗の管理について学ぶ。実務経験を活かした授業である。
第3回	プロダクトパターン、プロダクト1(商品企画)	プロダクトパターンについて理解する。プロダクトでは商品企画としてターゲット、ライフスタイル、コンセプトを学ぶ。
第4回	グレーディング、マーキング、縫製仕様書、プロジェクト2(コンセプト決定)	グレーディング、マーキング、縫製仕様書を理解する。プロジェクトではターゲット、ライフスタイル、コンセプトを決定し、デザイン画で表現する。
第5回	縫製工程分析、プロジェクト3(デザイン決定)	縫製工程分析の書き方を理解する。プロジェクトではデザイン決定と材料を検討する。

第6回	プロジェクト4（シーティングによる試作、中間発表の準備）	シーティングでサンプルを製作し、シルエット、大きさ、縫製、材料（生地・副資材）などを検討および調達する。グループごとに中間発表の準備をする。
第7回	特別授業 工業用各種ミシンの見学	ジュエキ株式会社の工業ミシンを見学して縫製工場の特殊ミシンの種類、縫製方法、速さなどを理解する。
第8回	プロジェクト5（中間発表、縫製準備）	シーティング、デザイン画でデザインを発表する。プロダクトパターン作成（CAD使用1）、裁断指示書、縫製指示書、工程分析表の作成する。
第9回	プロジェクト6（裁断・縫製準備）	地直し、裁断、仕分け（バンドリング）、芯貼りの方法を理解し、作業を進める。
第10回	プロジェクト7（縫製1）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をする。
第11回	プロジェクト8（縫製2）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をする。
第12回	プロジェクト9（縫製3、パッケージデザイン）	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をする。パッケージデザインを考える。
第13回	プロジェクト10（製品完成・製品評価・検品・プレゼンテーションの準備）	検査項目に従って検品方法を学ぶ。プレゼンテーションの内容を検討する。
第14回	プロジェクト11（製品の包装）	洗濯表示、品質表示などの法律的に添付する内容を理解する。製品の包装をする。プレゼンテーションのパネルを製作する。
第15回	プレゼンテーション	各グループごとにパネルを使用して商品を説明する。このパネルは学園祭で販売するときにも使用する。

学生へのフィードバック方法	商品企画・製作物・レポートに対するコメント
---------------	-----------------------

評価方法	平常点、商品企画・製作物、レポート
------	-------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
商品企画・製作物	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点：40点、商品企画・製作物：30点、レポート：30点
------	-------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
-----------------	--------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
---------	----------------

学生へのメッセージ	グループ作業のため、欠席をしないように協力してください。
-----------	------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で商品企画、店舗管理などの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して自発的に調べ、グループで協議して発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレルグラフィックス実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吳 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	ファッションの広告の企画や制作、商品のディスプレイを行うためには、基本的なコンピュータグラフィックスデザインのスキルが必要である。本授業では、衣料品の売り場展開に必要な企画、演出、ディスプレイ、宣伝広告のための資料作成に必要なグラフィックの基礎を学び写真、印刷物、映像などの制作を通じて実践的に学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	衣料品の売り場展開に必要な企画、宣伝広告の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、デザインの認識について	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。デザインの認識について説明を行う。	アパレル広告について調査を行いレポートを書く。	90分
第2回	デザインの要素について	グラフィックデザインの要素について説明を行う。その後、2次元グラフィックツール(ドロー系)の使い方を実習する。	2次元グラフィックツール(ドロー系)の復習を行う。	90分
第3回	デザインの原理:反復	デザインの原理である反復について説明を行う。その後、反復を用いた平面構成(課題1)をデザインする。	反復の平面構成(課題1)を完成する。	90分
第4回	デザインの原理:多様性	デザインの原理である多様性について説明を行う。その後、多様性を用いた平面構成(課題2)をデザインする。	多様性の平面構成(課題2)を完成する。	90分
第5回	デザインの原理:リズム	デザインの原理であるリズムについて説明を行う。その後、リズムを用いた平面構成(課題3)をデザインする。	リズムの平面構成(課題3)を完成する。	90分

第6回	デザインの原理：バランス	デザインの原理であるバランスについて説明を行う。その後、バランスを用いた平面構成（課題4）をデザインする。	バランスの平面構成（課題4）を完成する。	90分
第7回	デザインの原理：強調	デザインの原理である強調について説明を行う。その後、強調を用いた平面構成（課題5）をデザインする。	強調の平面構成（課題5）を完成する。	90分
第8回	デザインの原理：簡潔性	デザインの原理である簡潔性について説明を行う。その後、簡潔性を用いた平面構成（課題6）をデザインする。	簡潔性の平面構成（課題6）を完成する。	90分
第9回	広告の企画：テーマ、アイデア	デザインの要素とデザイン原理を駆使してアパレル広告を制作する。	アパレル広告を制作するためのアイデアスケッチを行う。	90分
第10回	広告の制作：レイアウト	アイデアスケッチを用いてアパレル広告のレイアウトを考える。	アパレル広告のレイアウトの完成度を高める。	90分
第11回	広告の制作-写真撮影	アパレル広告に必要な写真撮影を行う。	撮影した写真を広告に使えるように編集を行う。	90分
第12回	広告の制作：コンピュータ作業	2次元グラフィックツール（ドロー系）を用いてアパレル広告を制作する。	アパレル広告を進める。	90分
第13回	広告の制作：コンピュータ作業	2次元グラフィックツール（ドロー系）を用いてアパレル広告を制作する。	アパレル広告を進める。	90分
第14回	広告の制作：コンピュータ作業	2次元グラフィックツール（ドロー系）を用いてアパレル広告を制作する。	プレゼンテーションの準備を行う。	90分
第15回	プレゼンテーション	制作したアパレル広告のプレゼンテーションを行う。	アパレル広告の制作レポートを作成する。	90分

学生へのフィードバック方法	課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。				
評価方法	5回の課題は30点満点で提出した結果を3つの基準で評価を行う。3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。最終課題は40点満点で課題の結果、制作レポート、プレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は小課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。2回のレポートは20点満点で小課題や課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は10点満点で15回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○	○	○
	最終課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	
評価割合	課題（30%）、最終課題（40%）、レポート（20%）平常点（10%）で評価をする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし、必要に応じてプリントを配布する。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。				
オフィスアワー	火曜日3限 1307研究室				

学生へのメッセージ

情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現を行うさいには美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インテリアコーディネート		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

授業概要(教育目的)	インテリアの概要、インテリアの歴史、近代の建築家のインテリアデザイン、材料、納まり、構法、建具と金物、カーテンとブラインド、給排水衛生設備、電気設備、照明設備、空調設備、環境、構造、スケールなどの基本を学ぶ。技術的、用語的な解説だけでなく、コーディネートや設計に応用可能なように、なるべくデザインに関連させて説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	インテリアに関係する材料、納まり、構法などの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	具体的なインテリアについて思考し、関係する商品をピックアップし、コーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	インテリアデザインを図面などに表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	古代、近世のインテリア	古代、中世のインテリアの基本構成要素、まぐさ、アーチ、古典主義と中世主義の違い、ルネサンス、バロック、ロココの概要について学ぶ。	教科書のp8～p22を読んでおくこと。	180分
第2回	ロマネスク、ゴシック、ガウディとライト	中世のロマネスク、ゴシック、ガウディとライトのインテリアデザインについて学ぶ。	教科書のp23～p47を読んでおくこと。	180分
第3回	近代初頭のインテリアデザイン	マッキントッシュ、アールヌーボー、アールデコ、ロース、リートフェルトらのインテリアデザイン、家具デザインの要点を学ぶ。	教科書のp48～p85を読んでおくこと。	180分
第4回	近代のインテリアデザイン	コルビュジエ、ミースらのインテリアデザイン、家具デザインの要点を学ぶ。	教科書のp86～p104を読んでおくこと。	180分
第5回		アアルト、カーン、ヤコブセン、イームズらのインテリアデザイン、家具デザインの要点を学ぶ。	教科書のp105～p127を読んでおくこと。	180分

学生へのメッセージ

「住」と「衣」分野の双方にまたがるインテリアデザイン、インテリアコーディネートは、非常に興味深い分野であると同時に、実社会で役に立つ実業でもあります。この授業でインテリアの基本を身に付けて、社会に出ましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、インテリアの基本知識がインテリアデザインやインテリアコーディネートにどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	CGデザイン演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吳 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	情報の伝達、表現方法である2次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は2次元グラフィックツールを用いて課題を行いながら表現の基礎を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	2次元グラフィックツールの知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイデアに展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイデアに展開することができる。
技術・表現の観点 (A)	情報伝達を理解し情報を可視化することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、2次元CGの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。2次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。	2次元CGについてどのようなことができるか、何を表現したいのかについて調査を行いレポートを書く。	90分
第2回	2次元CG基礎1-1	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題1(野菜でcockさんを作る)を行う。	課題を理解するために再度小課題1(野菜でcockさんを作る)を復習する。次回の課題1(コラージュ)のための素材を収集する。	90分
第3回	2次元CG基礎1-2	レイヤー機能について演習を行う。画像の合成、スタンプツールなどを用いて小課題2(ベネチアの風景)を行う。課題1(コラージュ)を制作する。	課題を理解するために再度小課題2(ベネチアの風景)を復習する。	90分
第4回	2次元CG基礎1-3	イメージのレタッチについて演習を行う。課題2(ありえない世界)の説明を行い制作を始める。	課題2(ありえない世界)のアイデアスケッチと表現のための素材を収集する。	90分
第5回	課題2(ありえない世界)の制作	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールを駆使して課題2(ありえない世界)の制作を行う。	課題2(ありえない世界)の完成度を高める。	90分

第6回	2次元CG基礎 2-1	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。基本形の図形、選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題2（初めてドロー）を行う。	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本を復習する。	90分	
第7回	2次元CG基礎 2-2	色の選択・グラデーション・ペンツールの使い方を学ぶ。課題3（キャラクター）の制作を始める。	キャラクターについて資料を収集して課題3（キャラクター）のアイディアスケッチを行う。	90分	
第8回	課題3（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	90分	
第9回	課題3（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	90分	
第10回	課題3（キャラクター）の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。制作レポートを作成する。	キャラクターデザインの完成度を高める。制作レポートを作成する。	90分	
第11回	課題4（年賀状）の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分	
第12回	課題4（年賀状）の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分	
第13回	課題4（年賀状）の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分	
第14回	課題4（年賀状）の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	90分	
第15回	プレゼンテーション	キャラクター、年賀状のデザインについてプレゼンテーションを行う。	制作レポートを作成して提出する。	90分	
学生へのフィードバック方法		小課題、課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。			
評価方法		2回の小課題は10点満点で提出した結果を3つの基準で評価を行う。3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。4回の課題は60点満点で課題の結果、制作レポート、プレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は小課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。2回のレポートは20点満点で小課題や課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は10点満点で15回を通して「積極的な授業の参加、態度」「積極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
	平常点			○	
評価割合		小課題（10%）、課題（60%）、レポート（20%）平常点（10%）で評価をする。			
使用教科書名 (ISBN番号)		特になし、必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書		なし			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。			

オフィスアワー	火曜日2限 1307研究室	
学生へのメッセージ	情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現を行うさいには美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ガーデニング概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、園芸やガーデニングとは何かについて考え、定義する。主にガーデニングを行う際に必要な植物学や庭のデザインに関する基礎的な知識や技術について紹介する。本講義を通じ、私たちの生活の中に多く存在している植物に気づき、見る力を養う。園芸領域科目(園芸学、ガーデニング実習など)の入門編の講義である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を生活に取り入れることのメリット、デメリットを判断し、その楽しさや難しさ示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本講義を受ける前には気が付かなかった、私たちの生活の中にある植物に気づき、興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	植物を生活に取り入れるために必要な園芸やガーデニングの基礎的知識を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスとイントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方を説明する。身近にどのような植物があるか、どのような植物を知っているかを考える。	本講義の到達目標や進め方をよく理解すること。生活の中にある植物を観察する。	240分
第2回	植物、庭、花壇、園芸、ガーデニングとは	本講義で扱う言葉の定義を例を紹介しながら解説する	講義で扱った言葉の定義を復習し違いを理解し解説できるようにする。	240分
第3回	造園とランドスケープの歴史①	日本庭園の歴史と様式を事例を挙げながら解説する。	日本庭園の歴史を復習し、なぜ時代によって庭園の様式が変化したか理解する。	240分
第4回	造園・ランドスケープの歴史②	西洋の庭園の歴史、様式を実例を挙げながら解説する。	授業内容を復習し、西洋の庭園の歴史と時代によって異なる様式を理解する。	240分
第5回		海外の庭園の歴史と様式を実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。第3回から第5回までの造園・ランドス	240分

	造園・ランドスケープの歴史③		ケープの歴史について理解する。	
第6回	植物学の基礎	植物学的分類、命名法、植物の形態の基礎を実例を挙げながら解説する。	植物の名前はどの様につけられているか、植物の形態と部分の名前を理解し解説できるようにする。	240分
第7回	園芸植物の基礎①	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に野菜の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。野菜の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第8回	園芸植物の基礎②	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に果物の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。果物の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第9回	園芸植物の基礎③	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に花の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。花の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第10回	植物についての正しい情報を得る方法	植物図鑑の見方（用語の解説など）、インターネットサイトなど、植物についての正しい情報を得る方法を解説する。	講義内容の復習とインターネットなどを実際に関連し、情報を得る方法を確認する。	240分
第11回	季節の重要性	庭や植物の季節の重要性、日本文化で昔から用いられる四季の代表的な植物を実例を挙げて解説する。	講義内容の復習と秋の植物を観察する。	240分
第12回	道具と資材	ガーデニングや園芸で使用する特殊な道具、資材、用土について実例を挙げて解説する。	講義内容の復習。どのような道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。	240分
第13回	デザイントライアル①	初歩的な題材、寄せ植えのデザイン方法とポイントを実例を挙げて解説する。	講義内容の復習。寄せ植えデザインのコンセプトなどについて検討する。	240分
第14回	デザイントライアル②	初歩的な題材、寄せ植えのデザインを行う。	講義内容の復習。寄せ植えデザインを完成させる。	240分
第15回	デザイントライアルの発表と本講義の総括	デザイントライアルでデザインした内容を発表し、他の人のデザインの考え方も学ぶこの講義で学んだこと、到達目標は達成できたか振り返る。	デザインの考え方について復習する。身の回りある植物を改めて観察する。	240分

学習計画注記	履修者数などにより、スケジュールや課題が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力などを総合的に判断して評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点（50%）と、課題（レポート・小テスト）（50%）による総合評価。
使用教科書名（ISBN番号）	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日 3限 3609研究室
学生へのメッセージ	私たちの生活の中にある植物について学びます。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	言語学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	「ことば」は「コミュニケーションの道具」と言われており、人間の生活は「ことば」なしには成り立たない。授業では、あまりにも身近な存在である「ことば」の特徴を客観的に学ぶことで、外国語習得や言語コミュニケーションに活かせる基礎力を養う。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
思考・判断の観点 (K)	学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
技術・表現の観点 (A)	言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違いについて学び、言語の役割や機能について考える。言語学概論がどのような学問なのかについても学ぶ。	世界にはどのぐらいの言語があるかを調べる。自分の興味のある言語の概要についても調べる。	180
第2回	世界の言語	世界の言語の数や分類、特徴について学ぶ。各自調べてきた言語について発表する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第3回	音声学 1	音声のしくみと子音について学び、日本語の子音の特徴について考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第4回	音声学 2	母音について学び、日本語の母音の特徴を分析する。母語の体系にない音声はなぜ難しいのか、母語にない音はどのように発声するのかについても学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第5回	音韻論 1	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第6回	音韻論 2			180

		音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかの分析を続ける。このような変化がなぜ起きるのかについても考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	
第7回	形態論 1	形態素について学び、語がどのように成り立っているのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第8回	形態論 2	新しい語ができる際の成り立ちについて学び、いくつかの例を分析する。	授業内容を復習し、中間試験に備える。	180
第9回	中間試験 (ここまでの振り返り)	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い、言語の役割、世界の言語の分類、音の体系、語の構成について、学んだ知識を活かして分析する。	中間試験で十分に分析できなかったところを復習する。	180
第10回	統語論 1	伝統文法による文の分類について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第11回	統語論 2	構造主義による統語論を学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第12回	統語論 3	変形生成文法について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第13回	意味論・語用論 1	意味の分類について学び、例を用いて意味を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第14回	意味論・語用論 2	例を用いた意味の分析を続ける。また、コミュニケーションで実際に使う際の機能について学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第15回	意味論・語用論 3	日本語のコミュニケーションの特徴を学ぶ。例を用いて分析をする。	授業内容を復習し期末試験に備える。	180

学生へのフィードバック方法 試験は振り返りを行う。その他は口頭、書面でコメントする。

評価方法 小テスト（全体を理解するために要点となる知識を評価する）
中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する）
平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
中間試験・期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 小テスト10% 中間試験35% 期末試験35% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解の観点】言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
【思考・判断の観点】学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
【関心・意欲・態度の観点】言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
【技術・表現の観点】言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

オフィスアワー 月曜日3限、木曜日3限（後期）

学生へのメッセージ 授業では、実際に体験したり、グループで話し合ったりすることが多い。好奇心を持って、積極的に参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	例を収集する。ディスカッションをする。
	○	図書館を利用して課題について調べる。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ウェブデザイン		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吳 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	情報化社会に必須とされる情報の発信のためウェブデザインの理解が必要である。本講義では、ウェブデザインの歴史、技術、デザインなどの知識を通してウェブデザインについて理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月「ラーニング」・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、Webデザインとは	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、Webデザインの概要について講義を行う。	教科書1章の「Webデザインの世界を知る」(9~26ページ)を読んでおくこと。	180分
第2回	Webデザインの世界を知る	インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味、役割を理解する。	教科書2章の「Webサイトを設計する」(29~52ページ)を読んでおくこと。	180分
第3回	Webサイトを設計する1	Webサイトについて理解する。テクノロジー(CGI, PHP, Flash)について、Webの現状と今後について理解する。	教科書2章の「Webサイトを設計する」(29~52ページ)を読んでおくこと。	180分
第4回	Webサイトを設計する2	Webサイトについて理解する。テクノロジー(CGI, PHP, Flash)について、Webの現状と今後について理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55~112ページ)を読んでおくこと。	180分
第5回	HTMLの役割とできること1	HTMLについて理解する。テキスト情報とマークアップ。要素と属性の違い。HTMLの基本構造を理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55~112ページ)を読んでおくこと。	180分
第6回				180分

	HTMLの役割とできること2	HTMLについて理解する。Headの要素とBodyの要素などを理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55～112ページ)を読んでおくこと。	
第7回	HTMLの役割とできること3	HTMLについて理解する。リストを表現する要素と表組みを作成するための要素などを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第8回	CSSの役割とできること1	CSSはで情報をデザインするなどを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第9回	CSSの役割とできること2	情報をブロック単位で並べるなどを理解する。	教科書4章の「CSSの役割とできること」(117～190ページ)を読んでおくこと。	180分
第10回	CSSの役割とできること3	CSSによるレイアウトなどを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第11回	Webサイトを構成する素材	Webサイトで使う素材、著作権などについて理解する。	教科書6章の「Webサイトを表現する色」(213～220ページ)を読んでおくこと。	180分
第12回	Webサイトを表現する色	Webカラーについて理解する。	教科書7章の「Webサイトを公開する」(223～240ページ)を読んでおくこと。	180分
第13回	Webサイトを公開する	ホスティングサービスや情報を公開する前に確認することなどを理解する。	教科書8章の「Webサイトを運用する」(243～258ページ)を読んでおくこと。	180分
第14回	Webサイトを運用する	SNSとの連携やアクセス解析などを理解する。	教科書9章の「Webサイトを制作する」(261～278ページ)を読んでおくこと。	180分
第15回	Webサイトを制作する	HTMLのコーディングなどを理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験は70点満点で出題する。Webデザインを行う際に必要な基本的な知識を出題する。平常点は30点満点で15回を通して「毎回の感想や質問」「背後的な授業の参加、態度」「背後的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
平常点		○	○	

評価割合	定期試験 (70%) 平常点 (30%) で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Webデザインの新しい教科書「改訂新版」 ISBN978-8443-6563-1
-----------------	------------------------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】 多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】 積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	火曜日 3限
---------	--------

学生へのメッセージ	現代社会において情報発信はとても大切である。情報発信の基本であるWebデザインを理解することで情報表現する幅が広がると思われる。特にこの科目はウェブデザイン実務士の必須科目でもあるので主体的に学んでほしい。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ファッションビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

授業概要(教育目的)	ファッションビジネスの特色を理解するために、ファッション産業の発展の歴史や産業構造について学習し、現状を把握してファッション産業の将来を展望するための基礎的な力を育成することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. ファッション産業の構造とその業務について理解できる。 2. ファッションビジネスの基礎的な用語と、ファッション産業の歴史を説明できる。
思考・判断の観点(K)	1. ファッションビジネスの現状と課題を認識し、考察できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要、ファッションビジネスとは	授業の概要。ファッションビジネスの定義と、その特性を学ぶ。	配付プリントのファッションビジネスの定義と、その特性を読んで復習すること。	120分
第2回	ファッション産業の構造、ファッション産業(1)素材産業	繊維ファッション産業の4段階の構造と、それぞれの流れを学ぶ。その中の繊維素材産業とテキスタイル産業について学習する。	配付プリントの繊維ファッション産業の4段階を読んで復習すること。	120分
第3回	ファッション産業(2)アパレル産業	アパレル産業の分類とアパレルメーカーの業種・業態を学ぶ。アパレルメーカーの各職種(デザイナー、パタンナー等)と、その業務について理解する。	配付プリントのアパレルメーカーの業種と業態を読んで復習すること。	120分
第4回	ファッション産業(3)アパ	アパレル小売業の分類と3つの業態を学ぶ。アパレル小売業の各職種(バイヤー、FA等)と、その業務について理解する。	配付プリントの小売業の分類と業態を読んで復習すること。	120分

	レル小売産業			
第5回	ファッション消費と消費者行動	消費者行動とファッション表現（マズローの5段階欲求）を学ぶ。ライフスタイルの各分類とお客様の購買行動について理解する。	配付プリントのライフスタイルの各分類を読んで復習すること。	120分
第6回	ファッション・マーケティング	マーケティングの定義とマーケティングの4Pについて学ぶ。マーケティングの分類を学び、ファッション感性に関する用語を理解する。	配付プリントの4Pと、ファッション感性に関する用語を覚えるようにすること。	120分
第7回	フランスのファッション産業の歴史 (1)	オートクチュールの盛衰からブレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。ウォルト、ボン・マルシェ、ポワレに注目し、そのビジネススタイルを概観する。	配付プリントのオートクチュールからブレタポルテまでの歴史と、各ブランドのビジネススタイルを復習しておくこと。	120分
第8回	フランスのファッション産業の歴史 (2)	シャネルなどに焦点をあて、そのビジネス戦略を学習する。また、LVMHグループによるブランド戦略についても学ぶ。	配付プリントのフランスの産業の歴史を読んで復習しておくこと。	120分
第9回	イタリアとアメリカのファッション産業の歴史	ミラノの3G、ベネトンなどのイタリアのファッション産業について学習する。また、アメリカのポロ・ラルフ・ローレンのブランド戦略を学習する。	配付プリントのイタリアとアメリカの産業の歴史を読んで復習すること。	120分
第10回	日本のファッションビジネスの歴史 (1)	日本のファッションビジネスの変遷について、戦前から1980年代までを、当時の時代背景を踏まえながら学ぶ。	配付プリントの日本のファッションビジネスの歴史を読んで復習すること。	120分
第11回	日本のファッションビジネスの歴史 (2)、日本のデザイナーズブランド	日本のファッションビジネスの変遷について、1990年代から2000年代までを学習する。また、コム・デ・ギャルソンや、日本人デザイナーのブランドビジネスについて学ぶ。	配付プリントの日本のデザイナーズブランドの戦略について読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	180分
第12回	グローバルビジネスの世界 (1) ーラグジュアリーブランドとファストファッション	ラグジュアリーブランドの「ブランドの民主化」と、台頭するファストファッションの構造を学習する。	配付プリントのファストファッションの構造を読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	180分
第13回	グローバルビジネスの世界 (2) ーエコとエシカル	エコ、エシカルの視点から、世界のファッション生産地の問題を考察する。	配付プリントの世界の工場について読んで復習すること。レポート課題の分析を行う。	180分
第14回	新しいビジネスモデル (1) ー通販市場、ガールズマーケット	ECビジネスの発展について学ぶ。また、拡大するガールズマーケットの各イベントについて学習する。	配付プリントのECビジネスと、ガールズマーケットについて読んで復習すること。	120分
第15回	新しいビジネスモデル (2) ーセレクトショップ、百貨店	セレクトショップの歴史を概観し、セレクトショップが現在取り組んでいるマルチチャネル戦略について学ぶ。また、百貨店とアパレルメーカーとの間の取引問題について学習する。	配付プリントのセレクトショップの多角経営と、百貨店の取引問題について読んで復習すること。	120分
学習計画注記		※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		ファッション産業についての質問がある学生には、授業内で提出するミニレポートに質問を書いてもらう。その質問に対して授業内で解説していく。		
評価方法		現代のファッションビジネスについてレポート課題を出す。レポート課題は、専門的な職業の道につながられることを目的としている。授業参加状況等、総合的に判断する。		
評価基準				

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
評価割合	平常点・授業への取り組み方 (40%)、レポート (60%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。配付プリント			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・社) 日本衣料管理協会刊行委員会 「ファッションビジネス論」 日本衣料管理協会、2003年 ・永松浩介編 「ファッションビジネスの世界」 日本衣料管理協会、2011年 			
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】・ファッションビジネスの専門的知識を有している。 ・グローバルな視点から知識を深め、専門的な職業の道につなげることができる。 			
学生へのメッセージ	店舗で洋服を購入する際に、ブランドの特徴、商品の価格帯、店員の接客態度、商品の原産国表示などにも注目するようにしてください。			
教育等の取り組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を有している。その実務経験を活かし、「ファッション産業の構造」、「産業の歴史」、「ファッションビジネスの現状と課題」を解説する。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎調理学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	日本・西洋・中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、中・高教員免許（家庭）のための必須科目である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 栄養価計算方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切碎でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	一つの食材を工夫し、多様に調味、調理できる。
技術・表現の観点 (A)	盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。	120分
第2回	2. 炊飯(白飯)、だしの取り方、野菜の切り方	炊飯の調理工程(計量、洗米、浸漬、加水、むらし)を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀だね、椀箸、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	120分
第3回				120分

	3. 季節向き日本料理の献立による実習(えんどう飯、みそ汁、魚の照り焼き、ほうれん草の胡麻和え、果物)	塩味飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解・習得する。切り身魚の扱い方と直火焼きの要点を学ぶ。青菜のゆで方、和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。果物の扱い方と切り方他、盛り付け・配膳を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	
第4回	4. 栄養価計算と菓子の実習(桜餅)	日本食品成分表の成り立ちと栄養価計算の基本的な方法を学ぶ。菓子の実習では、道明寺粉の扱い方、餡の作り方を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。また、2~4回の実習の栄養価計算を行いノートに記録すること。	120分
第5回	5. 季節向き日本料理の献立による実習(たけのこ飯、卵豆腐のすまし汁、鰯の香味揚げ、じゅんさいの酢の物、豆大福)	醤油飯の塩分量、食塩の添加時期、加熱方法など炊飯の要点と食塩と醤油の塩分換算も学ぶ。卵豆腐(卵液の希釈と加熱方法)の要点を学ぶ。魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い、三枚おろしを習得する。揚げ物の要点・注意点、酢の物の調味と要点を学ぶ。上新粉、白玉粉の扱い方、小豆の加熱・調味法を学び、餅菓子の調理技術を習得する。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第6回	季節向き日本料理の献立による実習(新茶飯、沢煮椀、鯉のたたき、茄子の南蛮煮、葛よせ)	茶飯及び湯炊きの要点、混合出しの取り方、生もの調理の注意点を実習を通して学ぶ。くずでんぶんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習を通して学ぶ。黒蜜の作り方(黒砂糖と白糖の割合、溶かし方)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第7回	日本料理の献立による実習(そば飯、みそ汁、五目きんぴら、鯛皮ときゅうりの胡麻酢和え、淡雪寒)	鯛そぼろ、卵そぼろの調理法の要点を学ぶ。木綿豆腐、なめこと扱い方、根菜類の切り方と調味法を学ぶ。味噌の塩分量を学び味噌汁へ応用する。棒寒天の種類と扱い方、使用料、凝固温度、卵白の気泡の要点を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第8回	日本料理の献立による実習(ちらし寿司、茶わん蒸し、いんげんの胡麻和え、わらび餅)	すし飯のための炊飯(加水量、加熱・むらし時間)の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しのだしと卵の割合、加熱の要点を学ぶ。わらび粉の扱い方について学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第9回	日本料理の献立による実習(赤飯、蛤の潮汁、炒り鶏、てんぷら、水ようかん)	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。潮汁の要点、てんぷらの食材の下処理、衣、揚げ温度など揚げ物の要点を学ぶ。天つゆの調味割合、薬味の種類と役割について学ぶ。煮汁の少ない煮物(炒り煮)の要点と野菜、肉理の扱い方と切り方、調味法を学ぶ。粉寒天の扱い方と使用割合、さらし餡の扱い方、分量、凝固方法を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第10回	西洋料理の献立の実習(ミネストローネスープ、舌平目のムニエル、トマトのソテー。バターライス、ブラマンジェ)	パスタの種類と扱い方、舌平目の下ろし方、ムニエルの要点を学ぶ。ピラフの米の炒め方、加水、加熱の要点を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴(糊化)と攪拌効果(粘着性)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分

第11回	西洋料理の献立による実習（南瓜のピュレスープ、豚肉のソテー、リンゴソース添え、マッシュドポテト、ピネグレットソース、カスタードプリン）	実習を通して、スープは、基本となるブイヨン（スープストック）の取り方と南瓜のピュレの方法を学ぶ。豚肉のソテーは、豚肉の下処理法、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュドポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ピネグレットソースの基本の調味割合と調理法を学ぶ。カスタードの材料配合割合と加熱の要点、カラメル調理法の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第12回	西洋料理の献立による実習（オニオンスープ、蟹のクリームコロッケ、マトリース、ニンジンのグラッセ、ロールスポンジケーキ）	実習を通してオニオンスープの玉ねぎの切り方と炒め方の終点を学ぶ。ルウの材料割合とクリームコロッケ用の濃厚ベシャメルソースの加熱方法とその終点を学ぶ。ニンジンのグラッセのはニンジンの切り方、グラッセの要点について、洋菓子の基本であるジェノワーズ（スポンジ）生地配合割合と起泡、焼成方法とその終点について要点を学ぶ。また生地丸め方の切り方の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第13回	使用料理の献立による実習（コンソメスープ、魚介類のリゾット、ニンジンのサラダ、ピネグレットソース、フルーツケーキ）	実習を通して、コンソメスープではスープの澄まし方、リゾットでは、米の扱い方と加水・加熱方法、魚介類の扱い方と処理方法を学ぶ。フルーツケーキでは、12回で学んだスポンジケーキとの比較をしながら、バターケーキの材料割合と混合、焼成方法の違いと調理上の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第14回	中国料理の献立による実習（涼拌茄子、蟹仁吐司、麻婆豆腐、酸辣湯）	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。茄子の処理と加熱（蒸す）方法、溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。次週の実習内容を確認すること。	120分
第15回	中国料理の献立による実習（什錦炒飯、干貝蘿蔔湯、什錦炒飯、乳奶豆腐）	什錦炒飯では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。湯は、干し貝柱の処理法と加熱法、球状大根の作り方を学ぶ。炒飯は、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。乳奶豆腐では、粉寒天の扱い方の復習（8第9回）と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。15週の実習を終えて、復習として自信の評価をまとめること。	120分

学習計画注記	天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。				
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。				
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。 実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。 調理ノート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験		○		○

筆記試験	○	○		
実習ノート	○			○
評価割合	実習試験 (15%) 筆記試験 (15%) 調理のノート (材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、実習ごとの栄養価計算の記載、30%)、授業参加状況 (40%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	七訂 食品成分表 女子栄養大学出版社 (978-4-7895-1019-6) 調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版社 (978-4-7895-0323-5) 基礎調理学実習テキスト (印刷製本して配布)			
参考図書	必要に応じて配布。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。</p> <p>【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。</p> <p>【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>			
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時 (2108室)			
学生へのメッセージ	授業後には、実習内容を毎回調理ノートに整理し、栄養価計算を行うこと。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	実習を通して、グループ内での協力・協調性を養います。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ものづくり演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

授業概要(教育目的)	数種類の材料を使って、立体的な造形物を複数制作する。その作業を通して、材料の特徴や制作技術の応用方法などを考えつつ、制作意図に沿ったかたちを作ることを体験的に理解する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る課程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点 (K)	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、形を作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身のまわりの物の素材と形に関心を持ち、観察することができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容と日程の説明	作品の制作手順と授業日程の説明	作品制作の手順の確認。	45分
第2回	課題1: 文字を切り抜いた立方体の制作①	紙で作る立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜き、それでも形が崩れない立方体を制作する。 ①切り抜く文字のデザイン	アルファベット4文字のデザイン	45分
第3回	課題1: 文字を切り抜いた立方体の制作②	紙で作る立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜き、それでも形が崩れない立方体を制作する。 ②ケント紙で立方体を作りながら試作を行う。	試作作業	45分
第4回	課題1: 文字を切り抜いた立方体の制作	紙で作る立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜き、それでも形が崩れない立方体を制作する。 ③白ケント紙の作品1点と色紙の作品1点の制作。	制作作業の続き(完成まで)と制作意図のまとめ。	45分
第5回	練習課題: クロッキー①	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察	45分

第6回	課題2：木で曲面を作る①	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 ①試作品の制作と面の形の確認	試作品の制作作業。	45分
第7回	課題2：木で曲面を作る②	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 ②形の決定とヤスリでの切削作業開始	作品の制作作業。	45分
第8回	課題2：木で曲面を作る③	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 ③制作作業の継続	作品の制作作業。	45分
第9回	課題2：木で曲面を作る④	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 ④紙ヤスリによる作品の仕上げ	作品の制作作業（完成まで）	45分
第10回	練習課題：クロッキー②	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察。	45分
第11回	課題3：紙のカードの「TOWER」制作①	60mm×49mmのケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ300mm以上の構造物「TOWER」を制作する。材料は、A3のケント紙を用いる。 ①カードの裁断作業とデザインの検討	「TOWER」のデザイン、紙の組み方の検討。	45分
第12回	課題3：紙のカードの「TOWER」制作②	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ300mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 ②試作品の制作	試作品の制作作業。	45分
第13回	課題3：紙のカードの「TOWER」制作③	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ300mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 ③試作品の制作とデザインの決定	試作品の制作作業とデザインの決定。	45分
第14回	課題3：紙のカードの「TOWER」制作④	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ300mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 ④作品の完成	制作意図のまとめ。	45分
第15回	作品の合評会	作品とプレゼンテーションレポートを提示して、自分の作品の制作意図や制作過程での工夫点などについて発表する。	プレゼンテーションレポートの修正	45分

学習計画注記	作品制作の進捗状況等により、授業計画を変更します。																							
学生へのフィードバック方法	提出された作品は授業終了後に返却します。																							
評価方法	<p>1. 提出する課題は以下のとおり。</p> <p>課題1：完成した立方体2点 課題2：試作品と、完成した曲面で構成された作品とプレゼンテーションレポート 課題3：完成した「TOWER」とプレゼンテーションレポート</p> <p>2. 作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。</p> <p>3. レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。</p> <p>4. 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。</p>																							
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提出作品</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	提出作品	○	○		○	レポート	○	○	○	○	平常点		○	○	○
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																				
提出作品	○	○		○																				
レポート	○	○	○	○																				
平常点		○	○	○																				
評価割合	提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。																							
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																							
参考図書	なし																							
ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>																							

オフィスアワー	後期水曜4時限目 1503研究室または工作工房	
学生へのメッセージ	授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。また動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	スタディツアー		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の各分野（「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」）に関する地域や施設を訪ねる実習体験を通して、高度な専門性と実践的な知識・技術の習得や、現地での人との交流を通してコミュニケーション力を育成することを目的としている。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	衣生活デザイン、住生活デザインに関する高度な専門性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	収集した情報を分析、整理し、他者に分かり易く発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「香川+広島+倉敷エリア」の紹介とスタディツアー実施方法と課題の説明。	(復習)「香川+広島+倉敷エリア」について、どのような地域なのかを確認する。	20
第2回	「香川+広島+倉敷エリア」の事前調査	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報の収集・アウトプット グループ毎に、「香川+広島+倉敷エリア」について以下の調査を行い、多角的視点から分析する。①エリア内にある日本を代表する建造物や有名建築家の作品について、②地場産業であるジーンズの歴史や地域振興としての発展の背景について	(復習)授業内のグループ課題をまとめる。	30
第3回	「香川+広島+倉敷エリア」の事前調査	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報の収集・アウトプット グループ毎に、「香川+広島+倉敷エリア」について以下の調査を行い、多角的視点から分析する。①エリア内にある日本を代表する建造物や有名建築家の作品について、②地場産業であるジーンズの歴史や地域振興としての発展の背景について	(復習)授業内のグループ課題をまとめ発表準備を行う。	30

第4回	「香川+広島+倉敷エリア」の事前調査報告の準備	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報のアウトプット グループ毎に、課題について調べた結果を整理し、パワーポイントによるプレゼンテーション発表をするための資料を作成し、発表練習を行う。	(復習) 授業内のグループ課題をまとめ発表準備を行う。	60
第5回	「香川+広島+倉敷エリア」の事前調査報告会	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：アウトプット グループ毎に、課題について調べたまとめた結果を、パワーポイントを用いてプレゼンテーションにより発表する。	(復習) 各グループの事前調査の結果を振り返り、現地での見学ルートや活動計画案を考える。	30
第6回	「香川+広島+倉敷エリア」の見学活動計画案の立案	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報の収集・アウトプット 現地での見学ルート、活動計画案を立案する。	(復習) 活動計画案を確認する。	30
第7回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第8回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第9回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第10回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第11回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第12回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの実施	アクティブラーニング：グループ活動、3泊4日でスタディツアー実施(学外での見学)	(予習) 見学活動計画案の確認 (復習) 見学先の振り返り、実際に見学してどのような場所であったか整理する。	360
第13回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの振り返り	各自見学活動内容を振り返り、見学活動報告レポートを作成する。	(復習) 見学活動の振り返り内容をまとめ報告レポートを作成する。	60
第14回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアーの振り返り	アクティブラーニング：グループ活動、情報リテラシー教育：情報のアウトプット 各自が作成した見学活動報告レポートを基に、グループ毎に見学活動内容を振り返り、実施報告用のパワーポイント資料の作成を行う。	(復習) 見学活動の振り返り内容をまとめ発表準備を行う。	30
第15回	「香川+広島+倉敷エリア」のスタディツアー実施報告会	グアクティブラーニング：グループ活動、情報リテラシー教育：情報のアウトプット グループ毎にまとめた見学活動報告について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションにより発表する。	(復習) 見学活動報告会を振り返り、内容をまとめ各自の報告レポートを完成させる。	20

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	グループワーク時に適宜口頭でアドバイス。 発表会での講評。 報告レポートへのコメント。
評価方法	①報告会(報告内容、構成、表現、プレゼンテーションを5段階で評価) ②報告レポート(報告内容、構成、表現を10段階で評価) ③ツアーでの活動内容(計画の遂行能力、自律的行動力の評価)

		④平常点（グループワークにおける提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢を各５段階で評価）			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	事前調査報告会	○	○	○	○
	実施報告会	○	○	○	○
	報告レポート	○	○	○	○
	ツアー活動内容	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	報告会 20% 報告レポート 30% ツアーでの活動内容 20% 平常点 30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】生活デザインの専門分野に関する知識を身につけ、高度な専門性について理解できる。 【思考・判断】実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。</p> <p>【技術・表現】情報を収集し、分析、整理できる能力を身につけ、他者に分かり易く発信することができる。</p>				
オフィスアワー	水曜日 4 限後半～5 限前半 2407 被服材料学研究室（花田）				
学生へのメッセージ	優れたデザインを観察し体感することや、ものづくりの現場を見学し体験することは、貴重な学びの経験になります。積極的に行動し、学んでほしいと思います。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	課題に対し自ら調べ、グループワークで協議し、発表する。			
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集、分析、整理し、発表する。			
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	テキスタイル加工演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	各種繊維の性質を応用してテキスタイルにデザインの・機能的な付加価値を付与するための加工法について理解する。特にデザイン性を付与する加工については、作品制作を通して、デザインの考案と加工理論や技術を習得させることを目的としている。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維製品の高付加価値化に関する理論や技術を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	洗練された表現力で課題解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	繊維製品の加工	繊維製品の一般加工と特殊加工について学習する。この授業では、特に布の風合いやテクスチャー、外観を変化させる特殊加工を行い作品制作をすることを理解する。	各テーマの作品デザイン要素を収集する。	30分
第2回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(1) 一綿の収縮加工①-	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。	【予】綿の収縮加工のデザインを考案してくる。【復】収縮加工の準備を完了させること。	60分
第3回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(1) 一綿の収縮加工②-	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。	【復】綿の収縮加工のレポートを作成すること。収縮加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第4回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2)	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工のデザインを考案してくる。【復】オパール加工の下絵を終わらせること。	45分

	ーオパール加工①ー			
第5回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2)ーオパール加工②ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工テキスタイルを使用した作品制作準備をしておくこと。	30分
第6回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2)ーオパール加工③ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【復】オパール加工糊置を完了させること。	45分
第7回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2)ーオパール加工④ー	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工糊置を完了させること。【復】オパール加工のレポートを作成すること。オパール加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第8回	羊毛繊維の縮絨加工①	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【予】羊毛繊維の縮絨加工のデザインを考案してくること。【復】縮絨の準備を完了させること。	30分
第9回	羊毛繊維の縮絨加工②	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【予】羊毛の縮絨加工テキスタイルを使用した作品制作準備をしておくこと。	30分
第10回	羊毛繊維の縮絨加工③	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【復】羊毛繊維の縮絨加工のレポートを作成すること。縮絨加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第11回	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布①ー	グループワーク。アルミ蒸着布の構造を理解し、どのようにデザインに活かすかを考える。	【復】アルミ蒸着布の加工デザインを考案してくること。	30分
第12回	特殊素材の加工ーアルミ蒸着布②ー	グループワーク。アルミ蒸着布の加工方法を学ぶ。	【復】アルミ蒸着布の加工のレポートを作成すること。アルミ蒸着布を加工したテキスタイルを使用して作品制作を行う。	60分
第13回	糸を染める	グループワーク。糸ぞめの方法を理解し、下準備をする。	【予】グループで染めたい色を相談しておくこと。	30分
第14回	糸を染める	グループワーク。糸染を体験する。	【復】糸ぞめのレポートを作成する。	45分
第15回	作品発表会	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等をプレゼンテーションする。	【予】作品発表会の準備をしておくこと。	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 作品発表会での講評。 提出レポート、作品に対するコメント。				
評価方法	①レポート提出(内容の理解、丁寧さ、提出日の順守について評価) ②作品提出(完成度) ③発表会でのパフォーマンス(内容の理解、構成、表現力を評価) ④平常点(意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート	○	○	○	○
	作品	○	○	○	○
	発表会	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○

評価割合	提出レポート40% 作品30% 平常点30% を総合的に評価	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配付	
参考図書	①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒蔵編著 建帛社発行 平成14年第4刷) ②最新テキスタイル工学II (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	水曜日4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	イメージしたことを形にすることを楽しんでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる作業、ディスカッション。作品発表会。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	テキスタイルデザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 願 真源	指定なし

授業概要(教育目的)	私たちの生活に欠くことのできない布帛(テキスタイル)はどのように設計され、制作されているのか、技術的、歴史的、文化的側面から捉え、テキスタイルデザインとは何かについて考察する力を育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、テキスタイルデザインについて技法の特徴を説明できる。 2、技法について歴史的な発展経緯を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1、社会的要因によって、影響を受けてきたテキスタイルデザインの分析を重ね、デザインについての分析の仕方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	この授業の全体をオムニバスの紹介する。東洋の織りと染めの歴史の変遷を文様の意匠から理解する。染織品に表れた文様がどのような染織技法で表現され、それらが時代によってどのように移り変わってきたかを学ぶ。	授業で配布したプリントの「染織史」を読むこと。	140分
第2回	植物繊維	植物から糸を作る工程を紹介する。植物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配布したプリントの「繊維―1. 植物繊維」を読むこと。	140分
第3回	動物繊維	動物から糸を作る工程を紹介する。動物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配布したプリントの「繊維―2. 動物繊維」を読むこと。	140分
第4回	色	天然の染料の原料の紹介。天然染料の発色と、化学染料の発色を見比べる。	授業で配布したプリントの「染料について」を読むこと。	140分
第5回	絞り	絞りは昔綴りと呼ばれ、糸や紐で布をくくったり、しごいたりして防染する古典的な染色技法の一つである。インドから中央アジア、中国を経て日本には7世紀に伝播している。現在では愛知県の有松・鳴海絞りや京都の京絞	授業で配布したプリントの「染―1. 絞り」を読むこと。	140分

		りへと伝承されている。授業内では、様々な絞りの手法を実材見本を提示し、さらに知識を深めていく。		
第6回	型染	三重県白川白子地区で代々受け継がれている「伊勢型」を使った染色法である。「型染め」のルーツと変遷、現在へどのように受け継がれているかを検証し学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—2. 型染」を読むこと。	140分
第7回	シルクスクリーンプリント	日本の「型染め」がルーツと言われ、印刷技術と共にイギリスで開発された効率化を実現した「シルクスクリーンプリント」技法。その歴史的背景と、現況と市場での位置づけなどを作品の実例などを提示しながらその特徴を学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—3. シルクスクリーンプリント」を読むこと。	140分
第8回	デジタルプリント	1983年にパーソナルコンピューターが普及し、印刷技術のデジタル化が急速に発展した。同時に染色分野にもデジタル化が追随することになるが、あらゆる表現が可能になるデジタル染色品の事例と実材サンプルを手捺染との比較をしながらその特徴を学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—4. デジタルプリント」を読むこと。	140分
第9回	注染	明治時代後期に始まった染色法で、ゆかたやてぬぐいに用いられてきた。技法の特徴と歴史を紹介する。	授業で配分したプリントの「染—5. 注染」を読むこと。	140分
第10回	緋	日本の木綿の三大緋を中心に講義を進める。その中でも現在も市場で評価の高い、久留米緋を中心に、その発祥から現在に至るまでの産地の状況や、緋布の魅力を学ぶ。さらには、これからの伝統工芸の課題なども考察していく。	授業で配分したプリントの「織—1. 緋」を読むこと。	140分
第11回	銘仙	平織りの絹織物の一つで、経糸と緯糸の糸の段階で文様を描く「ほぐし技法」で染色し、その糸を使って織り上げる技法を銘仙と呼ぶ。大正時代から昭和初期にかけて大流行した銘仙、その理由には、銘仙の図柄、デザインに特徴がある。それらのデザインを知ることで、様々な美術様式の変遷を学ぶ。	授業で配分したプリントの「織—2. 銘仙」を読むこと。	140分
第12回	綴織	西洋でいうところのタペストリーと同じ技法なので、東洋の作品と西洋の作品の両方の紹介。	授業で配分したプリントの「織—3. 綴織」を読むこと。	140分
第13回	編み	「編み」は「織り」と違い、一本の糸で一枚の布の構造を作ることのできる技法である。手芸的に発展した「編み」の技法が家庭用編み機の発明につながり、その後「横編み機」、無縫製横編み機「ホールガーメント機」へ発展したかをサンプルを手に取りながら学ぶ。また、現在では美術表現の一つとして新しい美術様式として確立してきていることを学ぶ。	授業で配分したプリントの「編みについて」を読むこと。	140分
第14回	沖縄の染織	久米島紬、宮古上布、琉球緋、首里織、喜如嘉の芭蕉布、紅型などそれぞれの技法を紹介する。	授業で配分したプリントの「沖縄の染織について」を読むこと。	140分
第15回	近代から現代へ	アニ・アルパースによる、パウハウスのテキスタイルデザインと後世への影響を紹介する。また、株式会社社会社NUNOを紹介し、時代の転機と現代のテキスタイル業界を把握する。	授業で配分したプリントの「パウハウスのテキスタイルデザインについて」を読むこと。 日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。	140分 150分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にて回答する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。 ・日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レジュメ	○			
	レポート	○	○		

評価割合	レジュメ（70%）及びレポート（30%）で評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	適宜プリントを配付。	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】テキスタイル作品を見ることで、その生地を判断できる。 【思考・判断】テキスタイルの歴史を分析することで、時代に沿った提案ができるようになる。	
学生へのメッセージ	生活の中で、切り離すことができないテキスタイルという分野を詳しく理解して見ませんか。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有しており、個人的に作家活動を行っている。広い視野でテキスタイルデザインについて指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	プリンティングデザイン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 願 真源	指定なし

授業概要(教育目的)	テキストスタイルプリントデザインの基本となる柄の送りについて学び、自然をモチーフにしたデザイン、幾何学的デザイン等、更に、対象や用途を設置したデザインについて解説し、捺染技法の基礎を理解する力を育成する。
履修条件	特に無し
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1、歴史的な観点で捺染を説明することができる。 2、染物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	1、色の組み合わせ、モチーフの選択、配置をバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点 (A)	1、プリントする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義	捺染とは：染料を布地になすりつけて染めること。技法で分類すると、直接捺染法・抜染法・型付け浸染法などが主である。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第2回	型染	シルクスクリーンプリントのルーツである型染について説明し、デザインを考える。	授業で配分したプリントを読むこと。 型染のデザインを考えること。	120分
第3回	型彫り	デザインの定まったものから型紙の制作をする。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第4回	制作	型染の手順に沿って作業を進める。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第5回	紗張り、糊置き	制作した型紙を紗張りし、糊置きする。	型紙を制作すること。 糊置きすること。	120分

第6回	染色	染色に使う染料を作る。糊が乾いた生地に染色を行う。	作品を染めること。	140分
第7回	講評	型染の作品の講評とシルクスクリーンプリントの説明。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第8回	色彩計画	これまでに撮影した画像を見直し、気に入った素材を探し出す。画像から色を抽出し、ストライプ状に色を構成する。(刺繍糸、カラーカード、ガッシュ、ポスターカラー、クレヨン、色鉛筆等々)	色彩計画を作成すること。	120分
第9回	パターン計画	何からデザインを抽出するかを考える。写真などの画像から、あるいは、手描きドローイングなどを元に抽象化することを学ぶ。	デザインを考えること。	120分
第10回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第11回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第12回	染色	④で検討した色彩計画のなかからデザインとのバランスを考慮して色を抽出しインクを選択する。力加減を注意しながら作成する。	原画を制作すること。 作品を染めること。	140分
第13回	捺染	捺染の手順に沿って染め進める。	作品を染めること。	140分
第14回	展示発表	制作した布がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。	作品を染めること。 展示方法を考えること。	140分
第15回	鑑賞と講評	仕上がった布を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。	作品をディスプレイしておくこと。 これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にて回答する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回のレジュメの内容から理解度の確認。 作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レジュメ		○		
	作品		○		○
評価割合	レジュメ (30%) 及び作品 (70%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配付。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】歴史的な背景からデザインを語る。 【技術・表現】オリジナリティ溢れる表現を身につける。				
学生へのメッセージ	伝統技法が衰退しているかなで、イノベーションを起こしませんか。				
教育等の取組み状況					

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。生地制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	日本文化論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 難波 美緒	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>「文化」を考える上で、日本文化を取り上げる。授業は、日本文化の知識を伝達することから始め、それを生み出した人々の価値観、思考形式、行動様式について考えを深められるよう進めていく。</p> <p>日本文化について、衣食住および、生活という観点から、各回のタイトルをそれぞれ通史的に取り上げる。通史的な歴史や文化を知ること、教養を身につけると同時に、現代にまだまだ残っている問題を認識できる構成とし、その解決方法の一つとして、デザイン的な手法も紹介する。</p>
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	思考・判断の観点 (K)	関心・意欲・態度の観点 (V)	技術・表現の観点 (A)
身の回りの日本文化の歴史について、通史的に知る。博物館・史跡等に行く意義を理解できる。	日本文化を知ること、現代社会の中の諸課題との関りを意識し、解決法を考えることができる。	授業内で積極的にグループディスカッションを行うことができる。	学んだ知識を簡潔にまとめ、他者に伝えることができる。

学習計画

日本文化論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	日本文化とは何かについて、グループに分けて話し合いを行う。日本文化は、いつの時代からのものかを考えてもらう。評価方法を示す。	授業で配布するプリントの見直しと、期末レポートのテーマの選定(必須)。授業内で提示した博物館に行く(推奨)。	180
第2回	衣:着物の歴史	着物の歴史を通史的に取り扱う。埴輪などの考古遺物から、前近代は衣服令規定の朝服・物具装束・小袖・腰巻・前帯等、近代以降は礼服・制服等を扱う。	配布プリントを読み直しておくこと(必須)。授業内で指示した博物館等を訪れること(推奨)	180
第3回	衣:お香の歴史	衣に香りをつける、お香について、通史的に概観する。蘭奢待・薫物・塗香・香木・源氏香・十種香・組香や香道の成立を扱う。	雑貨店などで、どのようなお香関連グッズが売られているか、観察しておく(予習、推奨)。授業で配布するプリントの見直しをする(必須)。	120

第4回	食：お茶の歴史	日本のお茶について、通史的に概観する。茶葉の遺物・団茶・抹茶・煎茶・ぼてぼて茶など、日本のお茶を扱う。	日本茶や抹茶を扱うカフェには、どんなお店があるか挙げられるようにしておく（予習、推奨）。授業で配布するプリントの見直しをする（必須）。	180
第5回	衣&食：博物館見学	校内の附属博物館を見学する。実際に日本の文化に触れる。	博物館を見学後、翌週までに感想レポートを準備する（必須）。	180
第6回	食：和食の歴史	和食について、通史的に概観する。縄文時代から、様々な変化をしつつ、現代の食事に至る日本の食事文化を扱う。	授業プリントの見直し（必須）と、和食の特徴を観察する（推奨）	180
第7回	住：トイレの歴史	トイレの歴史について概観する。考古学的なトイレ遺構や、現代に残る寺社のトイレ（東司）などを扱う。現代も変化を続けるトイレのデザインも紹介する。	授業で配布するプリントの見直しをする（必須）。より優れたトイレのデザインについて考えてみる（推奨）。	120
第8回	住：お風呂の歴史	お風呂の歴史について、通史的に取り扱う。洞窟風呂・釜風呂・施浴・戸だな風呂・蒸気風呂・湯屋・銭湯等を扱う。余裕があれば風呂敷も扱う。	授業で配布するプリントの見直しをした上で、日本の入浴文化を観察する（必須）。風呂敷の包み方を試みる（推奨）	120
第9回	住：建物の歴史	建物の変遷について通史的に取り扱う。竪穴住居・掘立柱建物・礎石式建物・寝殿造・武家屋敷・城郭建築・長屋・数寄屋造・コンクリート建築等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、江戸東京たてもの園に行く（推奨）	300
第10回	住：お庭の歴史	庭園の歴史について、通史的に取り扱う。酒船石遺跡・神泉苑・浄土庭園・方丈庭園・枯山水・回遊式庭園等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、いずれかの都立庭園を訪れる（推奨）	180
第11回	住：お墓の歴史	お墓の歴史について、通史的に取り扱う。方形周溝墓・壘形墓・古墳と石室・火葬と土葬等について扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、史跡に指定される古墳を訪れる（推奨）。	240
第12回	生活：仏教の歴史	仏教の歴史について、基礎的な事項を扱う。お寺が何をするとお坊さんとはどのような人か、仏様とはなにか、仏像とは何か等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、お寺にお参りしてみる（推奨）。	120
第13回	生活：女性の立場の歴史	女性の立場の歴史（ジェンダーの歴史）について、通史的に概観する。班田収授法・相続差・就学率の差・女工・男女雇用機会均等法・女性活躍推進法等を扱う。	授業で配布するプリントの見直しをする。同時に、自分の周りのジェンダーについて、具体例を考えてみる（必須）。	120
第14回	生活：LGBTの歴史	LGBTの歴史について、通史的に概観する。阿豆那比の罪・台配・寺社や武家の男色や殉死・陰間茶屋・近代以降のタブー化等を扱う。現代に残る問題も紹介し、その解決についても考えてもらう。	授業で配布するプリントの見直しをする。現代に続く問題と解決について考えてみる。次週提出のレポートを準備する（必須）。	240
第15回	まとめ	半期の総括を行う。これまでの授業の底辺に共通するテーマについて考える。レポートを集める。	次週の試験準備を行う（必須）。	240
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	各回の出席カードに感想や質問を書いてもらい、それに回答する形式。
評価方法	初回に各自が選定したテーマで、第15回に提出のレポートを課す。定期試験は、衣・食・住・生活のテーマからそれぞれ一題（合計4題）を説明できるかを問う。レポートには、授業内でのディスカッションの参加状況（積極性）も加味するので、ディスカッションの際は積極的に意見を出し、考えてほしい。
評価基準	
評価基準	
評価割合	試験60%、レポート40%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし

参考図書	各回の授業で紹介する。例えば、『日本衣服史』『日本食物史』『日本葬制史』『図表でみる男女格差』『トイレの考古学』等	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」等の分野について、専門的知識を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を論理的に分析し考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。	
オフィスアワー	なし	
学生へのメッセージ	身の回りにある色々なものの歴史を知ること、今やこれからの世界の見方が少し変わります。授業で紹介する博物館や史跡等に行くことも勉強の一つなので、第5回以外は必須ではありませんが、授業中で紹介する博物館等は、あちこち行ってみることをお勧めします。この先の人生のために、大学生の間に知っておくとよいことも、いくつか扱いたいと考えています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	博物館見学（校内）、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイント使用（毎回）・パワーポイント内リンクから、ネット上の映像再生

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Practical English A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 自己紹介 1	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、自分についての情報を伝える。その際に具体的な説明を加えていく練習をする。授業内容・方法について理解する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分が好きなもの・こと／きらいなもの・ことの絵を描く。	45
第2回	自己紹介 2	自分が好きなもの・こと／嫌いなもの・ことについて考え、他者に伝える。その際に必要な具体的な情報について説明できるよう練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分の住居の写真を撮る。	45
第3回	自己紹介 3	自分の住まいについて他者に伝える。聞き手は、質問ができるよう練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分の住んでいる街の写真を撮る。	45
第4回	自己紹介 4	自分が住んでいる街について他者に伝える。お互い質問し合うことで、話題を発展していく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第5回	大学生生活 1			45

		東京家政学院大学を他者に紹介する場合、何を伝えたいかを考える。さらに、それがどのような様子なのかを整理する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	
第6回	大学生生活 2	大学紹介の一要素をグループが担当する。どのような写真を撮るかや役割分担を決め、キャンパスで写真撮影を行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第7回	大学生生活 3	各グループで、パワーポイントを作成し、伝えたい情報を整理する。説明の表現を考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第8回	大学生生活 4	グループごとの内容をひとつにつなげ、全体としてまとまりがあるかどうかをクラス全体で検証する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。発表の練習をする。	45
第9回	大学生生活 5	大学生活について発表する。発表後は、評価シートで自己採点する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第10回	いつも何をしています？ 1	自分の習慣について書き出す。自分の習慣を他者に伝え、共通点を見つけ話題を発展させる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第11回	いつも何しています？ 2	異なる年齢、職業の人の行動をワークシートにまとめ、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第12回	今何してる？/あの時何してた？ 1	絵を見ながら、登場人物の行動を挙げていく。その際に、様子も伝えられるよう練習していく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第13回	今何してる？/あの時何してた？	過去のある大きな出来事の際に、自分は何をしていた、何を思っていたのかを整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第14回	これやったことある？ 1	絵を見ながら、過去に経験したことを整理した上で、まとめて他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第15回	これやったことある？ 2	他の人が経験したことのない事柄について情報を伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第16回	最近何をしました？ 1	最近やったことを整理し、まとめて他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第17回	最近何をしました？ 2	週末に何をしたかを整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第18回	最近何をしました？ 3	物語を読んで、登場人物の行動をワークシートにまとめ、再話する。再話はグループで行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第19回	ご予約は？ 1	週末の予定を考え、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第20回	ご予約は？ 2	将来の予定を整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第21回	日本の文化 1	日本の文化の中で、紹介したいものについてブレインストーミングし、いくつかを選択する。グループに分かれ、具体的に何を紹介したいのかを考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第22回	日本の文化 2	グループごとに情報収集した上で、紹介のためのパンフレットのコンセプト、内容および表現を考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第23回	日本の文化 3	グループごとに紹介をパンフレットの形にしてまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第24回	日本の文化 4	グループごとに、パンフレットのコンセプトの紹介を考える。また、発表時の評価表をグループごとに作成する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第25回	日本の文化 5	グループごとにパンフレットのコンセプトを発表する。その後、各グループのパンフレットを評価する。グループ内で、評価を検証し、成果と改善点をまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45

第26回	これについてどう思う？1	ある話題について、映像および文章から情報を得た後に、自分の考えを整理する。問題解決のために、何ができるかをディスカッションする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分がクラスで覚えたいテーマを決める。	45
第27回	これについてどう思う？2	各自自分のテーマについてコンセプトを決め、情報収集する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分がクラスで覚えたいテーマを決める。	45
第28回	これについてどう思う？3	自分のテーマについて内容とディスカッションポイントを決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第29回	これについてどう思う？4	自分の発表の配付資料をまとめ、質疑応答の練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第30回	これについてどう思う？5	各自発表し、各テーマについてディスカッションする。	他の人の発表内容から、覚えたい表現を学ぶ。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント。授業最後の質問・確認コーナーでの対応。
---------------	------------------------------------

評価方法	小テスト（課題設定力、表現的的確さで評価する） 発表（内容、構成、表現で評価する） ポートフォリオ（課題設定力、解決力、分類・整理力で評価する） 平常点（発言、グループワークでの協働、取り組みの姿勢で評価する）
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
発表（グループ2回、個人1回）	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	小テスト20% グループ発表2回 20% 個人発表1回 20% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	---------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。</p> <p>【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。</p> <p>【技術・表現の観点】意味を伝えるための的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。</p>
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日2限
---------	-------------

学生へのメッセージ	今の力は問いません。「英語でコミュニケーションできるようになる」という強い気持ちだけ持って来て下さい。
-----------	-----------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	Practical English B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われ、英語でタスクを達成したり、自分の考えが述べられるように訓練していく。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションにひつような知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 食事1	好きな食べ物と嫌いな食べ物を挙げ、その理由をまとめる。使われている材料、調理法を確認し、自分の好きな食べ物と嫌いな食べ物について文章にまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第2回	食事2	グループに分かれ、海外の人に食事でもてなす際のメニューを決める。自宅に招いた時に使われる表現を学ぶ。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第3回	食事3	海外の人に食事でもてなすという場面で、グループごとにロールプレイを行う。相互に改善のためのアドバイスをする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第4回	食事4	海外で自宅に食事に招かれた時の表現を学び、客となってロールプレイをする。食事について感想を述べ、楽しく話すという練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第5回	食事5	レストランで食事をする際の表現を学ぶ、ロールプレイをする。支払い、チップの計算なども練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第6回	旅行1			45

		グループに分かれ、旅行ガイドブックを見ながら旅程を決める。それぞれの訪問先で見たいもの、やりたいことについても考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	
第7回	旅行 2	旅行代理店で、不明な点を確認するというロールプレイを行う。質問事項については、グループ内で予め決めておく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第8回	旅行 3	旅行代理店で得た情報を基にグループ内で旅程を調整する。旅程は各自ワークシートにまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第9回	旅行 4	海外に入国する際の手続きについて知り、入国審査のロールプレイをする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第10回	旅行 5	各自、旅行先で購入したい物を決める。店でないものを探すとこのロールプレイを行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第11回	人物・街並み 1	写真を見て、何が写っているのかを詳細を確認する。その後、写真についてストーリーを書く。作業はグループ内で行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第12回	人物・街並み 2	2枚の人物写真を見て、共通点および相違点を分析する。それぞれに名前をつけ、ワークシートに性格や行動パターンをまとめる。作業はグループワークで行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第13回	人物・街並み 3	人物を表す表現を学んだ上で、誰の説明をしているのかを当てるゲームを行う。自分について描写する文章を書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第14回	人物・街並み 4	街並みを表す表現を学び、道案内をするゲームおよび練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第15回	人物・街並み 5	自分の住んでいるところの絵を描き、どのような場所か説明する。文章でもまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担してサンクスギビングとクリスマスについて調べる。	45
第16回	行事 1	サンクスギビングとクリスマスに関する表現を学んだ後、それぞれに関するストーリーを読み、ワークシートにまとめる。クリスマスソングを練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。サンクスギビングとクリスマスについての絵本を読む。	45
第17回	行事 2	サンクスギビングとクリスマスの料理について学び、説明文を書く。クリスマスソングを練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第18回	行事 3	自分の理想のサンクスギビングおよびクリスマスの計画を立てる。その様子を絵に描き、クラスで発表する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担し日本の正月について調べる。	45
第19回	行事 4	日本の正月を紹介する内容を話し合っで決める。グループに分かれ、分担となった内容について何を紹介するのかを決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担し日本の正月について調べる。	45
第20回	行事 5	グループごとに日本の正月について紹介する文章を作り、写真を決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第21回	行事 6	日本の正月について、グループごとに発表する。発表について、相互に評価表に記入をする。評価表は各グループで成果と改善点を検討する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第22回	物語 1	物語Aを聞き、登場人物と出来事をグループで分析する。物語の構造を学び、聞いた物語の出来事を当てはめる。物語を再話して書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第23回	物語 2	物語Bを聞き、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第24回	物語 3	物語Cを読み、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して話す。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第25回	物語 4	物語Dを読み、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して話す。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第26回	物語 5			45

		物語の構造に当てはめて、グループで物語を書く。まずは登場人物を設定する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	
第27回	物語 6	グループで物語の出来事を決める。脚本を書く。必要なコスチュームや小道具を決める。	脚本を覚える。コスチュームと小道具を用意する。	45
第28回	物語 7	各グループで発表のリハーサルをする。	劇の練習をする。	45
第29回	物語 8	各グループでオリジナルの物語を劇で発表する。相互に評価表に記入し、成果と改善点を口頭で伝え合う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第30回	まとめ	1学期間の学びを振り返り、ワークシートにまとめる。クラスで発表し、お互いの成果と今後の課題を確認する。相互にコメントを述べる。	覚えたい表現を勉強する。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント。授業最後の質問・確認コーナーでの対応。
----------------------	-----------------------------------

評価方法	小テスト（課題設定力、表現の的確さで評価する） 課題（ワークシート、発表）（内容、プレゼンテーションで評価する） ポートフォリオ（課題設定力、解決力、分類・整理力で評価する） オリジナル劇（内容、創造性、パフォーマンスで評価する） 平常点（発言、グループワークでの協働、取り組みの姿勢で評価する）
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
-------------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○
オリジナル劇	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	小テスト 20% 課題20% ポートフォリオ20% オリジナル劇20% 平常点 20%
-------------	------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
------------------------	----

参考図書	なし
-------------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションにひつような知識を学び、理解を深める。 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。 【技術・表現の観点】意味を伝えるための的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限
----------------	-------------

学生へのメッセージ	英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。
------------------	---------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況	
-------------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	言語コミュニケーション		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

授業概要(教育目的)	言語コミュニケーションを円滑にするためには、言語の「形」を覚えるだけでは不十分であり、「相手」「場面」「状況」に応じて適する「ことば」を選ぶ必要がある。授業では、日本語だけでなく、他言語における例も取り上げ、言語コミュニケーションのあり方を探っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションとは何かについて考える。その上で、言語コミュニケーションの役割について分析する。	日本的だと思う言語表現を挙げる。	180
第2回	言語と文化の関係1	言語と文化の関係を学び、例を分析することで理解を深める。	文化の違いによる言語の違いについて思いつく例を集める。	180
第3回	言語と文化の関係2	文化の違いによる言語表現の違いを例を用いて分析する。各自集めてきた例についても、文化のどのような違いから生まれた表現であるかを分析する。	日本語文化と日本語の関係についてワークシートにまとめる。	180
第4回	言語と文化の関係3	日本文化と日本語の関係から、日本語にどのような特徴があるのかを分析する。発話収集の方法について学ぶ。	自分と第三者の会話を録音し、文字化する。	180
第5回	グローバル・コミュニケーションに必要なこと1	言語が異なる会話・談話を分析し、どのような話し方が不特定多数に分かりやすいのかを考察する。	分かりにくい説明を分かりやすく書き直すワークシートをやる。	180
第6回				180

	<p>【知識・理解の観点】グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。</p> <p>【思考・判断の観点】真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。</p> <p>【技術・表現の観点】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。</p>	
オフィスアワー	月曜日3限、木曜日3限	
学生へのメッセージ	グローバル化、多文化共生化が進む社会において、万人とコミュニケーションできる「ことば」を持つことは大切な力となります。日本語コミュニケーションの特徴についての発見を楽しみながら、世界の人と通じる「ことば」の修得に励んで下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	情報倫理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要(教育目的)	情報社会と情報を伝達するメディアについて考え、それらに関する問題を探ることにより、情報倫理の学修力を育成することを目的とする。皆で考えて話し合うように、積極的な参加を促す。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題を正しく認識することができる。
思考・判断の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題の解決策を自分で考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	話し合いに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	高度情報社会と生活	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。高度情報社会における生活に関係する人工知能について考える。	人工知能について復習すること	90
第2回	情報とはなにか1	個人情報について考える。	個人情報に関して自分で考えて下調べしておくこと 個人情報について復習すること	180
第3回	情報とはなにか2	ビッグデータについて考える。	ビッグデータに関して自分で考えて下調べしておくこと ビッグデータについて復習すること	180
第4回	情報社会における心の問題	情報社会における心の問題を議論し、情報倫理の必要性について考える。	情報社会における心の問題に関して自分で考えて下調べしておくこと 情報社会における心の問題について復習すること	180
第5回	SNS (Social)	SNSについて考える。	SNSに関して自分で考えて下調べしておくこと SNSについて復習すること	180

	Networking Service)			
第6回	サイバー犯罪	サイバー犯罪について議論し、情報倫理の課題を考える。	サイバー犯罪に関して下調べしておくこと サイバー犯罪について復習すること	180
第7回	デジタルとアナログ	デジタルとアナログの違いなどを議論し、倫理的な視点で考える。	デジタルとアナログの違いなどに関して自分で考えて下調べしておくこと デジタルとアナログの違いなどについて復習すること	180
第8回	メディアとはなにか	メディアについて理解し、表現の自由について議論する。	メディアと表現の自由に関して自分で考えて下調べしておくこと 表現の自由について復習すること	180
第9回	メディア(新聞)	メディアのなかでも新聞などマスメディアについて考える。	マスメディアに関して自分で考えて下調べしておくこと マスメディアについて復習すること	180
第10回	IoT (Internet of Things)	IoTと日常生活環境の関連について議論する。	IoTに関して自分で考えて下調べしておくこと IoTについて復習すること	180
第11回	ネット依存	ネット依存について自己評価し、ネットやゲームに関わる問題を議論する。	ネットやゲームに関わる問題を自分で考えておくこと ネット依存について復習すること	180
第12回	バーチャルリアリティ	バーチャルリアリティについて議論し、その応用について考える。	バーチャルリアリティに関して自分で考えて下調べしておくこと バーチャルリアリティについて復習すること	180
第13回	情報メディア	情報メディアの一つとしてデジタルサイネージについて議論する。	デジタルサイネージに関して下調べしておくこと デジタルサイネージについて復習すること	180
第14回	情報社会と生活1	知的財産権について考える。	知的財産権に関して自分で考えて下調べしておくこと 知的財産権について復習すること	180
第15回	情報社会と生活2	セキュリティについて考える。	セキュリティに関して自分で考えて下調べしておくこと セキュリティについて復習すること 授業全体をふり返ること	270

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	下調べのレポートなどは、チェックして返却する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。 ・定期試験は 40 点満点で、授業のふり返りに基づいた論述形式とする。また、情報倫理に関する理解度と思考力を確認する。 ・平常点、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート	○			
定期試験		○		
評価割合	平常点 (50%)、レポート (10%)、定期試験 (40%) などを総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「コミュニケーション・情報」分野の倫理に関する知識を有している。 【思考・判断】情報社会の諸課題を分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】情報社会の諸問題に関心を持ち、社会人として責任を果たすことができる。	
オフィスアワー	金曜3限 1411研究室	
学生へのメッセージ	授業の予習・復習をすること。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的にディスカッションに参加することによって、倫理的、社会的な能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報倫理の学修力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ウェブデザイン演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高嶋 章雄	指定なし

授業概要(教育目的)	ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業では、学生がウェブサイトをデザインするための技術的な要素 (HTML、CSS) を理解し、基礎的なウェブサイト制作スキルを身につけることを目的として、演習形式で講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 2. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	サイト制作の基礎	サイト制作の流れを把握し、学習範囲を明確にする。ウェブ技術の標準化、オーサリングソフトやエディタ、jQuery等、周辺技術の紹介も含め全講義を概観する。ウェブサイトの構成要素 (HTML、CSS) を理解する。	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。	60
第2回	HTML・CSSの基礎(1)	基本的なタグ(ドキュメントタイプ宣言、メタデータ用タグ、見出し、段落、箇条書き等)を利用したサイトを制作する。セレクトタについて理解する。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第3回	HTML・CSSの基礎(2)	基本的なタグ(画像、表、リンク等)を利用したサイトを制作する。セクションコンテンツ(section、article、nav、header、footer等)を理解する。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第4回	HTML・CSSの基礎(3)	IDセレクトタ、クラスセレクトタ、タイプセレクトタを使い分けたサイトを制作する。リセットCSSを理解する。	セレクトタを使い分けてサイトを制作する。	90
第5回	レイアウト(1)	ボックスモデルを理解する。基本的な単位(px、%、em、rem、vh、vw)を理解する。	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。	60

第6回	レイアウト (2)	float、positionを利用したサイトを制作する。	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。	90
第7回	CSS3、ウェブフォント	CSS3で導入された属性（角丸、シャドウ、グラデーション、ウェブフォント等）を利用したサイトを制作する。	様々なCSS3表現を用いた試用する。	90
第8回	レイアウト (3)	flexboxを理解する。ナビゲーションメニューを実現するための手法（画像スプライト、CSS3、疑似クラス）を理解する。	リンクの表現方法を確認する。	90
第9回	動的なwebサイト	JavaScript、jQueryを用いた動きのあるサイトを制作する。	様々なJavaScript (jQuery) プラグインを検索する。	90
第10回	外部ウェブサービス	Googleマップ、Twitter、Facebook等の外部コンテンツを埋め込む手法を理解する。	SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。	60
第11回	レイアウト (4)	メディアクエリを理解し、モバイル対応したサイトを制作する。	複数デバイスに対応したサイトを制作する。	90
第12回	レイアウト (5)	モバイル対応したシングルページを制作し、これまでの内容を復習する。	スマートフォン向けのサイトを制作する。	90
第13回	グループワーク：レイアウト実践 (1)	高校生を対象とした大学紹介サイトをグループで制作する（企画、コンテンツ収集、コーディング等）。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第14回	グループワーク：レイアウト実践 (2)	高校生を対象とした大学紹介サイトをグループで制作する（コーディング）。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第15回	グループワーク：レイアウト実践 (3)	高校生を対象とした大学紹介サイトをグループで制作する（コーディング、まとめ、発表）。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120

学習計画注記 ※履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 各課題に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。

評価方法

- ・講義時間内のコーディング作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。
- ・各回の学習内容に関するレポートで、技術の習得および内容の理解度を確認する。締め切りを過ぎたレポートは著しく評価が下がるので注意すること。
- ・最終課題では、学習した技術を実践で活用できたかを確認し、グループへの貢献も含めて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点				○
レポート				○
最終課題				○

評価割合 平常点20%、各回のレポート60%、最終課題20%を基準とし、総合的に判断して評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連 【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。

学生へのメッセージ パソコンやタブレット、スマートフォンの普及により、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
	○	一部の課題でグループワークを実施する。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用	○	PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コミュニティデザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>日本の都市でも農山漁村でも、地域社会のあり方の変貌から多くの課題を抱えている。産業の衰退と暮らし、人と人の繋がりの希薄化、子どもを育てる環境の悪化など、多くの困難が指摘されている。</p> <p>しかし、その一方で、地域の人たちの繋がりを作り、伝統的な暮らしと新しい生活の双方の可能性から、新しい地域のあり方を創造している取り組みが多数存在している。子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍し、その力を結集している現場での実践は未来の日本と世界への希望を培っている。</p> <p>コミュニティのあり方を主体的に創造するコミュニティデザインの考えを学び、社会課題に主体的に取り組み貢献できる力を身につける。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特に無し。
------	-------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本社会の変貌と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	課題の原因と解決の方向のための資源を知る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍する社会を主体的に構想しようという態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら考える新たなコミュニティの姿を他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニティデザインの課題とは—授業ガイダンス	コミュニティの姿を知り、コミュニティデザインの課題を考える。	自分の育った地域の姿を振り返る。	180分
第2回	私の生まれたまち	絵日記ワーク(アクティブラーニング)で、自分の育った地域の姿を記述する。	自分の育った地域の姿の特徴を考える。	180分
第3回	私の地域の姿と課題	絵日記ワークから地域の姿を知る。	自分の育った地域の課題を考える。	180分
第4回	地域の持つ資産に目を向ける一地	絵日記ワークから見えてくる、これからのコミュニティをデザインするとき、活用できる資源を探る。	自分の地域の資源を調査する。	180分

	域の特徴とは			
第5回	校外授業— コミュニティデザインの実践1	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査する。	インターネットで対象事例の状況調査する。	180分
第6回	校外授業— コミュニティデザインの実践2	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査する。	インターネットで対象事例の状況調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク 演習1	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク 演習2	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第9回	実践から考えるコミュニティデザインの可能性	ワークの体験からコミュニティデザインの可能性を考える	ワークを振り返る。	180分
第10回	地域と子ども	ユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを学ぶ。	インターネットでユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを調査する。	180分
第11回	校外講師による授業— 若い世代とコミュニティ	校外講から若い世代が主体となったコミュニティデザインの先進事例を学ぶ	若者の持つ可能性を考える。	180分
第12回	世代間交流とコミュニティ	世代間交流とコミュニティのあり方を考える。	地域の他世代の生活を考える。	180分
第13回	都市と農山漁村	地域の違いによる課題と可能性を学ぶ。	自分の育った地域と違う特徴を持つ地域の様子を調査する。	180分
第14回	自治と民主主義	市民が主体となるコミュニティデザインを考える。	市民とは何かを考える。	180分
第15回	コミュニティデザインの展望 (BRD)	コミュニティデザインの展望を自分の考えとしてまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	グループワークへの主体的参加と貢献度、および、BRD（当日ブリーフレポート）によって評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	グループワークへの参加と貢献（50%） レポート（50%）
使用教科書名 (ISBN番号)	授業の中で指定する。

ディプロマポリシーとの関連																
オフィスアワー	火曜日 3 限1607研究室															
学生へのメッセージ	自分の育った地域の姿を知り、コミュニティの一員として主体的に参加する姿勢で授業に参加し、他者との共同から新しいコミュニティのあり方を創造しましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>グループ活動を主体として授業を実施</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>パワーポイント等によるプレゼンテーション</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	グループ活動を主体として授業を実施	情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査	ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	グループ活動を主体として授業を実施														
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査														
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション														

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	園芸論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	近年、園芸植物やそれを扱う人々に技術は多様化している。本講義では、野菜（野菜）、果樹、花卉（花）の生産を主とする商業園芸と家庭菜園や庭づくりなどの家庭園芸の現状、ガーデニングなどで園芸植物を栽培、利用するために必要な基礎的な技術や植物生理について解説する。園芸領域科目（ガーデニング実習等）の他の科目につながる、基礎的な力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	園芸の現状を理解し、植物の基礎的知識を身につけ、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	植物の栽培管理を行う場合に、いつ、なぜ、この管理作業が必要であるか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	本講義で得た植物の性質や特徴の知識を、植物を用いた空間デザインや表現や生活の中で活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方について説明する。本講義で扱う園芸学の定義について解説する。	本講義の内容と園芸学の定義について理解する。	240分
第2回	園芸の起源と歴史	日本の園芸の発達と変遷、園芸植物の起源について解説する。	講義内容の復習、日本の園芸の起源と歴史について理解する。	240分
第3回	種子と発芽	植物の種子の構造とその役割、種子の休眠と発芽に影響する環境条件について解説する。	講義内容の復習、植物の種子の構造、役割や発芽のメカニズムについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第4回	植物の生長	植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について解説する。	講義内容の復習、植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第5回	地下器官の生長と発達	根の生長と地下器官の発達、菌根菌との共生などについて解説する。	講義内容の復習、根の生長と地下器官の発達、菌根菌について	240分

			理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	
第6回	花芽分化と開花	生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて解説する。	講義内容の復習、生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第7回	果実の発育と成熟	果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について解説する。	講義内容の復習、果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第8回	植物ホルモン	オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて解説する。	講義内容の復習、オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第9回	養分の吸収と光合成	植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について解説する。	講義内容の復習、植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第10回	栽培環境とその制御	温度、光、水など園芸作物の栽培に影響する栽培環境について解説する。	講義内容の復習、園芸作物の栽培に影響する栽培環境について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第11回	病害虫と雑草	病気、外注、雑草の防除とコントロール法について解説する。	講義内容の復習、病気、外注、雑草の防除とコントロール法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第12回	繁殖	園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について解説する。	講義内容の復習、園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第13回	品種改良	園芸植物の品種の改良について実例を挙げて解説する。	講義内容の復習、園芸植物の品種の改良について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第14回	園芸植物の利用と機能	園芸植物の利用（食、観賞、癒し）と機能（抗酸化機能、栄養価）について解説する。	講義内容の復習、園芸植物の利用と機能について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第15回	総括	本講義のまとめと到達目標の達成度の確認。定期試験の方法について説明する。	本講義全体の復習を行い、定期試験の準備をすること。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。				
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや問題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 定期試験：講義で扱った話題や問題の中から選択式と記述式で50点満点で出題する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○		○
	定期試験	○	○		○
評価割合	平常点50%、定期試験50%で総合的に判断する。				

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。	
参考図書	「園芸学の基礎」 鈴木正彦編 (農山漁村文化協会) 978-4-540-11105-1 「最新園芸・植物用語集」 土橋豊 (淡交社) 978-4473042668	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。	
オフィスアワー	月曜 3限 3609研究室	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ガーデニング実習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	ガーデニング概論と園芸論などの講義で得た基礎的な知識を活かし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニングⅡと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を学ぶ。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。園芸や造園の役割を理解し、植物を使った時間的、空間的なデザインを見る目、思考力、判断力を養う。
履修条件	ガーデニング概論、園芸論、観賞植物素材論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	イントロダクション	本実習の到達目標、進め方、持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。持ち物、服装を準備する。
第2回	花壇の準備	区画分け、土づくり、地慣らしなど花壇の準備作業を行う。	花壇づくりの手順の確認。
第3回	園芸店見学	近隣の園芸店を見学し、この季節に入手できる植物苗の大きさと価格を学ぶ。	自宅の近所の園芸店や花屋さんで入手できる植物苗の大きさと値段を確認する。
第4回	秋・冬花壇のデザイン	各自担当の花壇の区画を計測し、図面化する。秋から冬の花壇をデザインし、植栽図面を製作する。	花壇のデザインを完成させる。
第5回	花壇に植える植物の準備	健康で良い苗の選び方を解説する。各自デザインした花壇の植物を購入その他により準備する。	入手できなかった植物種は、代替の植物とするか自宅近辺の店等で入手し準備する。
第6回	植栽	デザインした花壇と準備した植物を用いて植栽する。	水やり等の管理を各自必要に応じて行う。

第7回	植栽管理計画	植栽した花壇の植物の管理計画を作成する。	実習時間内に終わらなければ、完成させること。
第8回	植栽管理と近隣農家の見学	植栽した後の花壇の管理を行う。 近隣で野菜や菊の栽培を行っている農家の見学。	
第9回	初歩的なテラリウムをつくる	サボテンや多肉植物を使ってテラリウムをつくる。	各自作品の管理を行う。
第10回	近隣農家の見学	秋冬の果樹の管理作業（剪定・整枝など）を学ぶ。	
第11回	季節の飾りを作る	クリスマスやお正月に向けて季節の飾りを作成する。	実習時間内に終わらなかった場合は各自完成させ、記録を残すこと。
第12回	繁殖（挿し木）	家庭でもできる観葉植物の挿し木を試みる。主な挿し木の方法について解説し、実際に行う。	
第13回	春・夏の花壇のデザイン	秋・冬の花壇のデザイン、施工、管理の一連の経験を活かし、春・夏花壇のデザインをする。	時間内に終わらなかった場合は、各自デザインを完成させること。
第14回	土づくり	来年の春に向けて、土づくり。腐葉土と肥料のすきこみ。天地返し作業を行う。	
第15回	総括	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認する。 ガーデニング実習Ⅱ（3年次前期）への繋がりについて説明する。	

学習計画注記	履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、質問や問題提起が適切か、疑問に適切に答えているかなどを総合的に判断して評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日 3限 3609研究室

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	観賞植物素材論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	園芸やガーデニングには多種多様な植物が用いられる。植物を使った空間デザインを行うためには、個々の植物の知識が不可欠である。本講義では、熱帯花木、山野草、盆栽、ハーブ、サボテン類、洋ラン等の観賞植物の分類及び特徴と栽培方法を学び、園芸における活用方法を講義する。観賞植物の特徴を、体系的に理解し、正しい情報を入手する力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物の名前、性質、特徴などを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物を栽培法や環境条件を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	本講義で得た植物の知識を植物を用いた空間デザインや植物の栽培に活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方について説明する。本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。	本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。講義の内容と用語や植物の利用上の分類を理解する。	240分
第2回	観葉植物	観葉植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	観葉植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第3回	多肉植物とサボテン	多肉植物とサボテンの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	多肉植物とサボテンについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第4回	草花(一年草、二年草、多年草、宿根草)	草花(一年草、二年草、多年草、宿根草)の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	草花(一年草、二年草、多年草、宿根草)について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分

第5回	低木と高木	低木と高木の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	低木と高木について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第6回	果樹	果樹の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	果樹について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第7回	家庭菜園	家庭菜園で使われる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	家庭菜園で使われる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第8回	山野草	山野草の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	山野草について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第9回	薬草と有毒植物	薬草と有毒植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	薬草と有毒植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第10回	盆栽とラン	盆栽とランの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	盆栽とランについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第11回	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニング	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第12回	在来植物と外来植物	在来植物と外来植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	在来植物と外来植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第13回	公園とビオトープ	公園とビオトープで使用される植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	公園とビオトープで使用される植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第14回	ファイトレメディエーション	ファイトレメディエーションに用いられる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	ファイトレメディエーションに用いられる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第15回	総括	本講義のまとめ、到達目標の達成状況の確認。	本講義で得た知識をもとに、生活の中にある植物にこれまで以上に注意を払い、名前と特徴を知っている身の回りの植物を増やして欲しい。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力などを総合的に判断して評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	随時、講義内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。</p> <p>【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。</p> <p>【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>															
オフィスアワー	月曜 3限 3609研究室															
教育等の取組み状況																
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="204 405 363 472"></th> <th data-bbox="368 405 440 472">該当有無</th> <th data-bbox="445 405 1423 472">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="204 479 363 546">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="368 479 440 546">○</td> <td data-bbox="445 479 1423 546">担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 553 363 620">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="368 553 440 620"></td> <td data-bbox="445 553 1423 620"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 627 363 694">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="368 627 440 694"></td> <td data-bbox="445 627 1423 694"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 701 363 730">ICT活用</td> <td data-bbox="368 701 440 730"></td> <td data-bbox="445 701 1423 730"></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用			
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インターネットビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 今中 厚志	指定なし

授業概要(教育目的)	SNSを活用したビジネスモデルとそれを展開するための基礎的な技術を理解し、インターネット時代の新しいビジネスの創造について考える力を育成することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. インターネットビジネスはこれまでのビジネスと何が異なるのか理解し、説明できる 2. インターネットビジネスの発展により、生活者のライフスタイルや価値観がどのように変化するかを理解し、説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 新しい情報通信技術について議論し、新しいビジネスを発想する考え方を身につけ、表現できる 2. ビジネスにおけるSNS利用の基本的なを理解し、自身の活動に応用することができる

学習計画

イントロダクション				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	授業内容の概観とルールの確認	予習として、シラバスを一読する。 復習として、高等学校までで学んだ情報科の関連する内容や、他のビジネス関連の授業で学んだことと、本授業の概要から関連する項目を関連づけることを試みる。	150分
第2回	インターネットビジネスの歴史	インターネットビジネスの歴史を理解する。	復習として、インターネット黎明期から現在までのビジネス活用を配布資料や紹介した資料などを使い、整理する。	150分
第3回		インターネットを活用したビジネスモデルの分類を行い、パターンを理解する。		150分

	インター ネットビジ ネスの概観		復習として、自分自身が利用、 また知っているインターネット ビジネスの分類を試みる。	
第4回	分野別概 観：ソー シャルメ ディア(広 告モデル)	ソーシャルメディアの歴史と仕組みを理解する。 ソーシャルメディアを活用したインターネットビジネス の内容を概観する。	予習として、自分自身が利用し ているSNSをはじめとするソー シャルメディアを把握する。 復習として、ソーシャルメ ディアのビジネス利用の例を、自分 の視点で整理する。	150分
第5回	分野別概 観：e-コ マース(商 品販売モ デル)	e-コマースの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身が利用し ているeコマースサイトを把握 する。 復習として、自身の知っている eコマースサイトの改善点を検 討し、整理する(授業の展開に 応じ、簡単な課題を提示する予 定)	300分
第6回	分野別概 観：デジ タルコン テンツ(コン テンツ販 売モデル)	デジタルコンテンツの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身や周囲が 利用しているデジタルコンテン ツのサービスを把握する。 復習として、デジタルコンテン ツサービスを、自分の視点で整 理する。	150分
第7回	ソーシャル メディアの 活用	ソーシャルメディアの活用提案を検討する。 履修者各自に、アイデアを授業内で報告してもらう。	予習として、簡単なソーシャル メディアの活用提案を検討し、 資料を作成する。	300分
第8回	分野別概 観：シェア リングエコ ノミー	シェアリングエコノミーの概念、歴史と仕組みを理解す る	予習として、「シェアリングエ コノミー」という言葉の定義や その概要を調べて整理してお く。 復習として、シェアリングエコ ノミーの文脈で登場するサービ スを、自分の視点で整理する。	150分
第9回	既存企業 における インター ネット ビジネス の活用	既存企業、大企業、中小企業でのインターネットの活用 と課題について理解する。	予習として、ネットニュースや テレビ、新聞、雑誌などのマス メディアでの大企業でのイン ターネットビジネスの展開に関 する記事を確認しておく。 復習として、授業で学んだこと を踏まえて、自分の関心のある 業界での主要企業のインター ネットビジネスへの展開や、ス タートアップへの参画を整理す る。	150分
第10回	公的セク ターにお けるイン ターネッ トの活 用	政府、自治体におけるインターネットの活用について理 解する。	予習として、自身の住んでい る自治体(都道府県、市町村)の ウェブサイトを確認し、掲載内 容を把握する。 復習として、民間セクターが取 り組めない、公的セクターが参 画すべきだと考える分野につ いて、自分なりの考えを整理す る。	150分
第11回	制度・法的 課題	インターネットビジネスに関わる制度・法律を理解す る。	予習として、他の授業で学んだ 法制度(消費者関係など)でイン ターネットビジネスに関わるも のがないかを把握しておく。 復習として、授業で学んだ法制 度と自分自身の消費活動との関 わりについて整理する。	150分
第12回	課題提示	報告のテーマ(新規ビジネスの提案)の提示と発表の要件 について、説明する。 (クラスの数等の条件で、個人発表とするかグループ発 表とするかは決定する)	プレゼンテーションについて、 資料を提示するので一読する。 発表に向けた情報収集を行う。	300分
第13回	技術動向	インターネットビジネスに関わる技術を理解する。	予習として、高等学校まで学ん だインターネットに関係する技 術について用語を整理する。 復習として、授業で学んだ技術 用語について、自分自身の言葉 で説明できるよう、概念をまと める。	150分
第14回	報告(1)	個人もしくはグループでの報告を行う。	事前の準備として、発表の準 備・リハーサル等を各自で行	300分

			う。 発表後は、それぞれのクラスでのコメントやフィードバック等を整理する。		
第15回	報告(2)とまとめ	報告と授業全体のまとめを行う。未発表者がいる場合は、発表を行い、総括を行う。	定期試験に向けた復習を行う。	150分	
学習計画注記		インターネットビジネスに関する企画提案を課題として提示する予定ですが、履修者の実態に応じて、提示時期は前後する可能性があります。また、取り上げるテーマは時勢に応じて、変更する可能性があります。			
学生へのフィードバック方法		課題については授業内でフィードバックをする。			
評価方法		<p>定期試験は、授業の内容やITパスポートなどの国家試験の内容・レベルを概要を把握できているかを問う内容を中心に出題する予定です。</p> <p>課題は、授業の理解度や関心に応じて、インターネットビジネスの内容を理解しているか、また、自身で、学生活動を含めた様々なシーンで企画できるかをみる内容とし、数回提示します。</p> <p>プレゼンテーションは、インターネットビジネスに関するビジネスプラン等を検討していますが、履修者の関心に応じて、授業内で決定し、要件を提示します。</p>			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	プレゼンテーション	○			○
	定期試験	○			
	課題	○			○
評価割合		定期試験(40%) 課題(20%) プレゼンテーション(40%)			
使用教科書名 (ISBN番号)		なし			
参考図書		授業内で適宜説明します。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】「コミュニケーション・情報」「ビジネス」の分野について、専門的知識を有している。</p> <p>【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその問題解決策を発信できる力を有している。</p>			
学生へのメッセージ		授業への積極的な参加を希望します。			
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
実務経験を活かした授業		○	担当者は、ICT分野を専門とする市場調査会社に勤務経験があり、大企業やスタートアップのICTビジネスに関する支援業務の経験を有する。		
アクティブ・ラーニング		○	授業内で、プレゼンテーションと、必要に応じてディスカッションを取り入れます。		
情報リテラシー教育			授業内で、プレゼンテーションを実施するため、その技法について取り上げます。履修者のリテラシーに応じて、PC利用教室での授業を実施します。		
ICT活用		○			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	マーケティング論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 神田 正樹	指定なし

授業概要(教育目的)	マーケティングの基本を理解し、特にアパレルビジネスに焦点をあてたマーケティング戦略、計画、評価などマーケティング活動の基礎を学ぶことを目標とする。マーケティングの基本的な考え方とマーケティングの実践に役立つ枠組み（フレームワーク）が活用できるようになることを目的とし、アパレルビジネスで展開されているマーケティングの事例を多く含めて講義をすすめる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. マーケティング・マネジメント（マーケティング・ミックスとSTP）について説明できる。 2. 消費者行動の基本概念（消費者関与・顧客満足・ロイヤリティ）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. アパレルビジネスにおけるマーケティング戦略の特徴について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 教室外学習を確実に実行し、課題に取り組む。 2. 質疑または議論の場で、質問・意見・アイデアを積極的に共有する。
技術・表現の観点 (A)	1. マーケティングの理論やフレームワークをアパレルビジネスに当てはめて表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アパレルビジネスとマーケティング	アパレルビジネスにおけるマーケティングの目的、特徴、課題について理解する。	教科書 第1章「マーケティングの考え方」(1~12ページ)を読んでもらうこと	120分
第2回	マーケティングとは	マーケティングの定義、意義、目標について理解する。また、顧客志向の本質についての理解とマーケティングリサーチの目的と手法について学ぶ。	教科書 第1章「マーケティングの考え方」(13~31ページ)を読んでもらうこと	120分
第3回	マーケティング・マネジメント	STP(セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング)とマーケティング・ミックス(製品・価格・流通・プロモーションの4P)について理解する。	教科書 第2章「マーケティングの構図」「3 マーケティング・マネジメント・プロセス」(49~61ページ)を読んでもらうこと	120分
第4回	マーケティング戦略の基本	SWOT(強み・弱み・機会・脅威)分析と5つの競争要因(5フォース)のマーケティング環境分析のための枠組み(フレームワーク)を理解する。また、市場のポジショニングごとの戦略を知る。	教科書 第2章「マーケティング環境のとらえ方」(80~91ページ)を読んでもらうこと	120分

第5回	製品・サービス戦略	製品・サービスは、消費者にどのように価値を提供する必要があるのか、セグメンテーションとターゲティングの目的と重要性について理解する。	教科書 第5章「セグメンテーションとターゲティング」(139～166ページ)を読んでおくこと	240分
第6回	価格・プロモーション戦略	価格の役割、価格設定の基本アプローチ、マーケティング・コミュニケーションの機能、目的、類型について理解する。また、ポジショニングのポイントについて理解する。	教科書 第6章「ポジショニング」(177～187ページ)、第7章「マーケティング・ミックス」(201～217ページ)を読んでおくこと	240分
第7回	流通チャネル戦略	小売店舗出店戦略とアパレルビジネスにおける流通の役割について理解する。	教科書 第7章「マーケティング・ミックス」(217～227ページ)と配布資料を読んでおくこと	120分
第8回	マーケティング計画	前半の講義内容を振り返り、マーケティングミックスを統合した戦略について理解する。前半のまとめと理解度の確認のために、小テストを行う。	第1回から第7回までの授業内容の復習をしておくこと 8回目の授業内で小テストを行います	240分
第9回	マーケティング実践	実際のアパレルビジネスでのマーケティング活動について、アパレル企業の事例を取り上げて議論し、理解を深める。	事前に資料を用意して渡します しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと	240分
第10回	消費者の理解	消費者の購買意思決定、消費者の知覚と製品開発、マーケティング環境をふまえた消費者理解について学ぶ。	教科書 第4章「消費者の理解」(110～129ページ)を読んでおくこと	120分
第11回	ブランドの理解	マーケティングにおけるブランドの役割と機能を理解する。消費者視点でのブランドを理解するために、消費者関与・顧客満足・顧客ロイヤルティの概念について学ぶ。	教科書 第4章「消費者の理解」(129～134ページ)、第2章「マーケティングの構図」の「4 補完的な視点」(63～71ページ)を読んでおくこと	120分
第12回	ファッションビジネスにおける販売管理	実務において販売管理が必要とされるKPI(重要業績評価指標)の理解とビジュアルマーチャンダイジングの基本について学ぶ。	事前に資料を用意して渡します しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと	120分
第13回	顧客価値とマーケティング・リサーチ	顧客価値を焦点とするマーケティングについて理解する。また、マーケティング・リサーチの目的と方法についての概要を理解する。	教科書 第2章「マーケティングの構図」(32～49ページ)、第3章「マーケティング環境のとりえ方」(98～109ページ)を読んでおくこと	240分
第14回	アパレル企業におけるマーケティング戦略	アパレルビジネスでのマーケティング戦略について、アパレル製造小売企業(SPA)の事例を取り上げて議論し、理解を深める。	事前に資料を用意して渡します しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと	240分
第15回	これからのマーケティング	全体の総括として、今後求められるアパレルビジネスにおけるマーケティングの方向性について理解する。アパレル企業の事例をもとに、マーケティング4.0を中心に、マーケティングの最新動向について学ぶ。	事前に資料を用意して渡します しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと これまでの授業内容を総復習しておくこと	240分 360分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8回目の授業で、小テストを実施する。小テストの結果は、次の授業で採点して返却し、模範解答について授業で説明する。 ・ 9回目と14回目の授業内でアパレル企業の事例を取り上げてディスカッションを行う。その議論の場において質問・意見・アイデアについてコメントする。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストは、20点満点とし、前半の7回分の授業の範囲から穴埋めおよび記述方式で出題する。 ・ 質問・意見・アイデアの共有は、質疑応答と議論の場において、思考、判断、関心、意欲、態度を重視して評価する。 ・ 定期テストは、100点満点とし、講義の中で説明した内容から穴埋めおよび記述方式で出題する。 ・ 小テスト、質問・意見・アイデアの共有、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		○
	質問・意見・アイデアの共有	○	○	○	○

定期試験	○	○	○
評価割合	小テスト (20%) 定期試験 (50%) 質問・意見・アイデアの共有 (30%)		
使用教科書名 (ISBN番号)	はじめてのマーケティング 久保田進彦・渋谷寛・須永努 (有斐閣ストゥディア) 978-4-641-15003-4		
参考図書	マーケティング論—アパレルビジネスのための		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「衣」(アパレル)の分野における顧客の理解とマーケティングに関する専門知識を有している</p> <p>【思考・判断】マーケティングを行う上での課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じて、アパレルビジネスにおけるマーケティングに関して解決策を立案できる</p> <p>【技術・表現】マーケティングの理論と枠組みを活用して、アパレルビジネスの現場の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理ができる</p>		
学生へのメッセージ	<p>マーケティングは、将来のどの分野に進むにしても必ず役立ちます。マーケティング・マインドを身につけて、マーケティングに取り組む方法や枠組み(フレームワーク)を学んで欲しい。</p> <p>アパレルビジネスの事例を多く取り上げて講義を行います。質疑や議論の場では、質問・意見・アイデアを共有し、積極的な参加を望みます。</p>		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、アパレル企業において、販売管理と店舗オペレーション、マーケティングの実務経験を有しており、講義では、実企業で行われている実践内容や事例を多く取り上げて教授する。	
アクティブ・ラーニング	○	9回目、14回目の授業内で、アパレル企業の事例を取り上げてディスカッションを行う。事前に資料を配布し、設問に対する回答についての意見の交換と共有を行い、気づきと理解を深める。	
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アパレルCAD実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

アパレルCADは、設計(デザイン)、パターンメイキング(製図)、生産工程等を効率化するための道具である。基本的なパターンメイキングを理解し、CADの操作方法を身に付ける。また、「アパレル生産実習」の授業で企画したデザインを商品化するために、CADで製図、型紙(パターン)、マーキング(裁ち合せ図)等を作成し、生産工程におけるCADを操作できることを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルCAD実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	基本操作、画面の表示操作方法	基本操作である直線・曲線の引き方、拡大・縮小・移動・印刷・ファイル保存などを理解する。
第2回	特別授業	アパレル企業の商品企画、店舗の管理について学ぶ。実務経験を活かした授業である。
第3回	パターンメイキング(ストレートスカート) 1	9ARサイズの前スカートの製図を理解する。
第4回	パターンメイキング(ストレートスカート) 2	9ARサイズの後ろスカートの製図を理解する。
第5回	パターンメイキング(ストレートスカート) 3	9ARサイズの前後のスカートの製図を理解して仕上げる。
第6回	グレーディング 1	9号前スカートを7号と11号にグレーディングする方法を理解する。

第7回	グレーディング2	9号前スカートを7号、11号にグレーディングする方法を理解する。
第8回	マーキング	前後スカートとベルトを縮小し、限られた範囲の上に配置する方法を理解する。
第9回	パターンメイキング（身頃原型）1	自分のサイズの身頃原型を製図するために、まずは身基本線を引くことを理解する。
第10回	パターンメイキング（身頃原型）2	後ろ身頃原型の衿ぐり、肩、AH、脇を引く方法を理解する。
第11回	パターンメイキング（身頃原型）3	前身頃原型の衿ぐり、肩、AH、脇を引く方法を理解する。
第12回	パターンメイキング（身頃原型）4	ウエストダーツを引く方法を理解して仕上げる。
第13回	パターンメイキング（衿）	原型の衿ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってシャツカラーの基本線を引くことを理解する。
第14回	パターンメイキング（袖）	原型の袖ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってセットインスリーブの基本線を引くことを理解する。
第15回	パターンメイキング（フレアスカート）	前タイトスカートのダーツ止まりまで裾から切り開き、フレアを入れることを理解する。

学生へのフィードバック方法	課題に対するコメント
評価方法	平常点、課題

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題	○	○	○	○

評価割合	平常点50点（授業への参加状況などで総合的に判断する）、課題50点
使用教科書名 (ISBN番号)	CADのマニュアル 適宜プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。 【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00
学生へのメッセージ	授業で行ったCAD操作は空き時間を利用して練習してください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で商品企画、店舗管理などの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	住環境調査B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

授業概要(教育目的)	住環境を調査により評価する手法について紹介するとともに、基礎的な調査や実測を行うことによって、その分析・評価手法を教示する。具体的には、調査手法の習得、人の作り出す空間の評価、室内環境の評価、デザインサーベイについて実施する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	[建築士指定科目] 住環境を評価するための基礎的な調査・実測手法を説明できる。
思考・判断の観点(K)	[建築士指定科目] 現状から問題点を発見し、その要因を考察し解決策を提案できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画の説明		0
第2回	調査の手法(1)	集団でアイデアを発想する「カワイイ」モノとコトについて、ブレインストーミングを行う。		0
第3回	調査の手法(2)	人の意見を整理する手法を習得するブレインストーミングによる種々雑多なアイデアをKJ法で整理する。	図解および文章化を行う。	90
第4回	調査の手法(3)	アンケート調査の手法を習得するアンケート調査の実施方法、調査票の作成について、事例を通して学ぶ。例示は、集合住宅の企画段階での市場調査・販売開始前営業用調査・居住者の省エネ意向調査。	例示の調査票を分析する。	90
第5回	調査の手法(4)	人の評価構造を知る手法を習得する人々の評価構造を知り記録する手法である「評価グリッド法」を学び、住宅インテリアの評価構造を体験的に知る。	評価構造図を作成する。	90

第6回	人の作り出す空間 (1)	人の作り出す空間に関する文献を輪読する 小空間に住む/人間がつくる空間/待ちの列をつくる空間/人間どうしの間の距離とコミュニケーション/他人との間に保つスペース/人間どうしの空間フォーメーション/空間の占め方/住まいの中での人の集まり	文献の事例を実生活で観察する。	90
第7回	人の作り出す空間 (2)	人が作り出す空間を評価する 人体寸法、日常生活の基本動作で必要な空間を計測する。	実測データを整理する	60
第8回	室内環境の評価 (1)	温熱環境を評価する 計測器を用いて屋内の熱環境を計測する。	実測データを整理する	60
第9回	室内環境の評価 (2)	空気環境を評価する 計測器を用いて、屋内の空気質、換気量を計測する。	実測データを整理する	60
第10回	室内環境の評価 (3)	視環境を評価する 計測器を用いて、屋内の測光量、色彩を計測するとともに、模型実験を行う。	実測データを整理する	60
第11回	デザインサーベイ (1)	調査計画を立案する 調査の方法を検討する 「みち」をテーマにデザインサーベイを行う。	情報収集	180
第12回	デザインサーベイ (2)	調査を実施する (校外授業)	現地調査・情報収集 (1)	210
第13回	デザインサーベイ (3)	調査を実施する (校外授業)	現地調査・情報収集 (2)	180
第14回	デザインサーベイ (4)	調査をまとめる	調査資料の整理	180
第15回	デザインサーベイ (5)	調査結果をプレゼンする		0

学生へのフィードバック方法	課題については、提出後に授業で講評を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査手法、人の作り出す空間の課題は、調査手法のトレーニングの位置付けである。 ・ 室内環境評価の課題は、実験・実測のトレーニングの位置付けである。 ・ デザインサーベイの課題は、実地の応用課題である。 ・ 平常点は、課題に取り組む意欲、調査手法の習得を評価する。 ・ 課題は、現状から問題点を抽出できるか、その要因を考察し解決策を提案できるかを評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点 (40%)、課題 (60%) の総合評価 (平常点は授業への参加状況等も総合的に判断する。)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	心理と環境デザイン 日本建築学会編 技報堂出版 978-4-7655-2583-1
ディプロマポリシーとの関連	<p>[知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>[思考・判断] 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。</p>
オフィスアワー	町田C 水曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ⑩その他 に認定。 2020年度以降は開講されない。
教育等の取組み状況	
	概要

	該当 有無	
実務経験を活か した授業		
アクティブ・ ラーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インターンシップ (3年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感(働き甲斐)を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1~2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明(1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分

第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るインターンシップ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	ビジネスマナー(1)	外部講師を招いてビジネスマナー(挨拶など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第9回	ビジネスマナー(2)	外部講師を招いてビジネスマナー(電話対応、企業訪問など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第10回	面談(6月中旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第11回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第12回	面談(6月下旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第13回	夏季休暇中:インターンシップ実習	インターンシップ実習(8時間×5日=40時間以上)	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第14回	後期1回目:インターンシップの振り返り(1)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第15回	後期2回目:インターンシップの振り返り(2)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。 後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	成果報告書80% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。	
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書 (平成30年度)	
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力	
オフィスアワー	金曜3限 (小池) 3508研究室	
学生へのメッセージ	<p>インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。</p> <p>インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。</p> <p>インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこと。</p> <p>なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童学研究法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし
教授	児童学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	児童学研究における研究課題の決定、研究方法、卒業論文に求められる要素など、4年次の卒業研究(卒業論文作成)に必要な基本的知識について学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域(子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化)における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

児童学研究法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業オリエンテーション	児童学研究法授業概要、卒業論文に関する取り決め、児童学研究法の評価等について概説し、児童学研究ゼミ配属先決定方法について説明する。児童学研究法第2回～第14回の講義を聞いて指定期日までに児童学研究ゼミ配属先希望調査票を提出する。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第2回	文献研究の方法1	文献研究の方法について概説し、論文の構成や参考文献目録の書き方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	文献研究の方法2	文献の読み方、要約の仕方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	文献研究の方法3	文献研究の方法で学んだ内容を復習し、まとめテストを行う。	文献研究の方法で学んだ参考文献目録の書き方、要約の仕方などを復習しておく。	120分
第5回	質問紙調査の作り方	質問紙調査の作り方について学習する。	質問紙調査について理解し、応用できるレベルにする。	120分

第6回	質問紙調査の結果の分析1	質問紙調査の結果の分析方法について学ぶ。	質問紙調査の分析方法を理解し、応用できるレベルにする。	120分
第7回	質問紙調査の結果の分析2	質問紙調査の結果の分析方法について学ぶ。	質問紙調査の分析方法を理解し、応用できるレベルにする。	120分
第8回	領域別研究方法1	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第9回	領域別研究方法2	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第10回	領域別研究方法3	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第11回	領域別研究方法4	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第12回	領域別研究方法5	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第13回	領域別研究方法6	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第14回	領域別研究方法7	・児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。 ・7月18日の指定の時刻までに児童学研究ゼミ配属先希望調査票を提出する。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第15回	児童学研究ゼミ	児童学研究ゼミ配属先希望調査票に基づき決定されたゼミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分

学生へのフィードバック方法	各研究室で質問・相談を受け付ける。
評価方法	・平常点、「文献研究の方法まとめテスト」および「質問紙調査まとめテスト」の結果により評価する。 ・平常点は、授業中の実績（授業の取り組み方、提出物等）に基づき総合的に評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	文献研究の方法まとめテスト30%、質問紙調査まとめテスト30%、平常点40%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし（プリント配付）
参考図書	授業中に指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあひ学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	研究室により異なる。
学生へのメッセージ	これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	人は生涯を通じて発達の的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習することとする。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び、その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達の特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付けられるようにする。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深められるようにする。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・発達心理学の基本的概念を説明できる・人の生涯発達の概観、各発達期の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	・人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結びつけて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自分自身のこれまでの体験と関連させながら、人の発達について具体的に理解しようとする
技術・表現の観点 (A)	・発達心理学的知見が保育、教育実践にどのように活かされているか説明できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション：発達を学ぶ重要性、発達のメカニズム	生涯発達心理学の考え方を知る。教育における発達の理解の意義を学ぶ。内的要因(遺伝)と外的要因(環境)の相互作用による発達のメカニズムを理解する。	【予習】(1)テキスト第5章の①(p.168-171)を読み、生涯発達を対象とする心理学について概観をつかむ。(2)テキスト第2章①②(p.15-32)を読み、発達のメカニズムを理解する。【復習】授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える。	180分
第2回	乳児期の運動・認知の発達	乳児期の運動発達と認知発達について相互に関連しながら発達することを含めて学ぶ	【予習】(1)テキスト第2章⑥⑦を読み乳児期、幼児期、児童期の身体的機能・運動機能・知覚と認知の発達について概観をとらえる【復習】授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える。	180分
第3回				180分

	乳児期の言語・社会性の発達	乳児期の言語発達と社会性の発達について認知面とも相互に関連しながら発達することを学ぶ	〔予習〕テキスト第2章⑧ (p.89-99)を読み、乳児期、幼児期、児童期の言語と社会性の発達について概観をつかむ 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	
第4回	幼児期の運動・認知の発達	幼児期の運動発達の様子を学ぶ、幼児の認知発達（記憶、概念学習、推論能力、メタ認知）を学ぶ	〔予習〕テキスト第2章⑥-3⑦ (p.69-88)を読み、幼児期の運動発達、認知発達の概観をつかむ 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第5回	幼児期の言語・社会性の発達	幼児の文字への関心を含めた言語発達、仲間関係の発達について事例も用いて学ぶ	〔予習〕テキスト第2章⑦⑧ (p.75-101)、第3章① (p.102-116)を読み、幼児の言語発達・社会性の発達について、園での生活をイメージしながらつかむ 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第6回	乳幼児期の自己と情動制御の発達	乳幼児期を通して現れてくる自己と情動制御（自己主張・自己抑制）の発達について学ぶ	〔予習〕テキスト第2章③④⑤ (p.33-62)を読み、情動の発達、自己の発達、社会情動的スキルの発達について、園での生活をイメージしながらつかむ 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第7回	児童期の認知発達	児童期の認知発達をその要因（物理的・人的環境）とともに学ぶ	〔予習〕テキスト第2章⑦ (p.75-88)を読み、児童期の環境と認知発達との関係を考える 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第8回	児童期の社会性の発達	仲間関係の発達、仲間関係を形成する力を高めるソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ	〔予習〕テキスト第3章①-3-④ (p.111-112)を読み、児童期の仲間関係が教室での適応と深くかかわっていることを理解する。その上で、教室での適応に必要な社会的能力を考え付くだけ挙げてくる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第9回	青年期のアイデンティティの発達	アイデンティティとは何か、アイデンティティ選択の方法について自らを振り返りながら学ぶ	〔予習〕エリクソンの発達理論と青年期の課題について参考図書などを用いて調べる 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度参考図書を読み考える	180分
第10回	青年期の人間関係	青年期の親子関係、友人関係の様相について、自らの関係性を振り返りながら学ぶ	〔予習〕自らの高校時代～現在の親子関係について振り返りまとめる。自分にとっての友人の存在の意味についてまとめる 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度参考図書を読み考える	180分
第11回	学びの様々な理論	学びの原理に関する代表的な理論（学習理論、観察学習理論、ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論）を学び、各発達段階の学びにふさわしい学習の仕方を理解する	〔予習〕テキスト第4章 (p.129-167)を読み、代表的な学習に関する理論の概観と、各発達段階における学びの概観をとらえる 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第12回	学びの動機づけ	主体的な学びを支える動機づけ、主体的学びを阻害する経験（学習性無力感）について学び、各発達段階にふさわしい指導のあり方を理解する	〔予習〕テキスト第4章 (p.129-167)を読み、動機づけ、原因帰属、学習性無力感など、学びにかかわる心理学的概念を理解する。その上で各発達段階にふさわしい指導のあり方のポイントを考えてみる 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分

第13回	集団における学び・育ちと保育における評価	幼児期の協同的な活動において得られる学び、育ちについて事例を用いて学ぶ。個と集団の育ちの視点に立った評価について理解する	【予習】事前配布プリントを読み、協同的な活動を通して得られる学び・育ちとは何か考える 【復習】事例を再度読み、協同的な活動を通しての学び・育ちについてまとめる。保育における評価とはどのようなものかとまとめる	180分
第14回	成人期の発達	子育て期から子育て卒業期の親の心理について学び、子育てという経験がもつ意味を考える。教育・保育現場における保護者支援・保護者との連携の必要性と重要性を理解する	【予習】テキスト第5章③ (p.184-195)を読み、子育て支援の意義、支援の実際の概要をつかむ【復習】授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第15回	老年期の発達	生物学的な衰えを補う心理的・社会的仕組みについて学び、生涯学び続ける存在としての人の一生を概観する	【予習】事前配布プリントを読み、老年期の発達の特徴を知る 【復習】バルテスの理論について授業資料を読み返しまとめる。その上で、生涯学び続けるために必要な環境について考える	180分

学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	平常点は学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。定期試験は60点満点で出題し、授業で学んだ内容全てが範囲となる。心理学的概念、各発達段階の特徴の理解度、心理学的知見と教育・保育実践との関連についての理解度を測る選択式・記述式の問題から構成される。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	平常点 (40%) 及び定期試験 (60%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	保育の心理学—子どもの育ち・学びを知る—/光生館、無藤隆・堀越紀香・古賀松香・丹羽さかの (編著), 978-4-332-70194-1
参考図書	問いから始める心理学—生涯にわたる育ちの科学、有斐閣ストウディア、坂上裕子他編著, 978-4-641-15013-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの心理についての専門的な知識を有している。【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室
学生へのメッセージ	人の発達・成長の面白さに触れるとともに、自らの成長の道のりを振り返る機会にもなる授業です。積極的に参加してくれることを期待します。毎回授業内容の復習をしてください。わからない点についてはそのままにせず、質問したり自分で調べたりするようにして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らの体験を振り返るワーク、事例に基づき考えるワーク等に、小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を理解する。 2. 教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学と教育、人の発達の関わり—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	発達と教育1—発達課題と身体的発達—	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分
第3回	発達と教育2—運動	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解す		180分

	機能の発達と発達の普遍性と可変性——	る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	
第4回	発達と教育3——脳と神経の発達——	発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育4——自我の発達——	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育5——自我の防衛機制——	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育6——社会性の発達——	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	発達と教育7——認知の発達——	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支えるメカニズム1——動機づけ——	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支えるメカニズム2——記憶——	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習を支えるメカニズム3——自己効力感——	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する理論1——条件づけ——	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	学習に関する理論2——観察学習と技能学習、教育における評価——	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育——「障害のある子ども」とは——	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括——教育心理学の理論への応用——	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		
評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 30%			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。			
参考図書	『教育心理学』丸善出版 ¥2,500 このほか適宜、授業の中で紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に教育現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技術 (技術) をもって人間社会、教育現場の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。			
オフィスアワー	月曜日のお昼休み、4限 (町田キャンパス1633室)			
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育原理 (3年)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解すること。
思考・判断の観点 (K)	現代教育問題の本質にあるものを見つめられるようになること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講していることが重要である。
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢が備わること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育が人間にとって持つ意味(1)	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp. 1-16を讀んでおくこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を紹介する。	授業前後に教科書pp. 16-42とレジュメの第2回の部分を讀んでおくこと。	180分
第3回	<子ども>の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想を概説する。	授業前後に教科書pp. 43-54とレジュメの第3回の部分をよく讀んでおくこと。	180分
第4回	近代日本に影響を与えた西洋教育思想	ペスタロッチー、フレーベル、デューイの教育思想を概説する。	授業前後に、教科書pp. 54-59とレジュメの第4回の部分をよく讀んでおくこと。	180分

第5回	近世以前の教育と近世の教育	大学寮、足利学校等近世以前の教育と近世の藩校郷校について映像を用いて概説する。(第1回小テスト)	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp. 61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を紹介する。	授業前後に、教科書pp. 65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	近代日本公教育制度の成立期の制度として学制の頒布と教育令について概説する。	授業前後に、教科書pp. 67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語の公布	授業前後に、教科書pp. 71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	コルチャック神父の思想について概説し、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp. 243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を概説する。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを概説する。	授業前後に教科書pp. 75-77、pp. 174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業の作り方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp. 157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp. 91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。授業前後に、教科書pp. 209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。	授業前後に、教科書pp. 259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小テスト(2回)の採点后の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。尚、3年生が実習で出席回が揃わない場合は、小テストを1回で行う。特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」(2000字以上)である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	第1回小テスト	○			
	第2回小テスト	○			
	期末レポート		○		○
	リアクション・ペーパー			○	○
評価割合	小テスト(2回または1回)30%、平常点20%、最終レポート50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣 (978-4-641-22081-2)				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社 2009年、 ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会 2014年、 ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 1961年 ・松沢哲郎『想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店 2011年、 ・コメニウス著 井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ 1995年 	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>	
オフィスアワー	水曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）	
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	常時、学生へ質問し回答を得る、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育課程論		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

授業概要(教育目的)	学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領についての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 教育課程の意義が理解できる。 2 教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。	教科書の第1章(p8~16)と第2章(p18~22)を読んでもらうこと。	120分
第2回	2 教育課程に関する法制及び行政	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。	教科書の第2章(p22~27)と第3章(p30~38)を読んでもらうこと。	120分
第3回	3 近代日本の教育課程	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。	教科書の第4章(p40~48)を読んでもらうこと。	120分
第4回		戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。		120分

	4 現代日本の教育課程、昭和編		教科書の第5章（p50～58）を読んでおくこと。	
第5回	5 現代日本の教育課程、平成編	ゆとり教育と生きる力を理解する。	教科書の第6章（p60～68）を読んでおくこと。	120分
第6回	6 学習指導要領の改訂	学習指導要領（小学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。	教科書の第7章（p70～77）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。	180分
第7回	7 教育課程の評価とカリキュラムマネジメント	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。	教科書の第9章（p94～105）と第10章（p108～117）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、試験	学習のまとめと定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめを行う。	270分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。
---------------	--------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合	定期試験 70%、平常点 30%で評価する。 定期試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。 平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
------	------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『教育課程論—カリキュラムマネジメント入門—』大学図書出版 2018年
-----------------	---------------------------------------------------

参考図書	『学習指導要領小学校編』文部科学省
------	-------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
---------------	---------------------------------------------

オフィスアワー	授業の前後 授業教室または随時1628研究室
---------	------------------------

学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育学B		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

授業概要(教育目的)	保育所（幼稚園・認定こども園）における保育者の専門性とは何か、保育者として身につけるべき知識・技術・心構え・態度・姿勢とはどのようなものかについて検討していく。周囲と連携・協働しながら保育者として成長していくプロセスをイメージし、今後自分が身につけるべき資質や能力は何かを探ることを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	保育者の資質・能力について、いくつか具体例を挙げて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 保育者としての成長のプロセスを自分なりにイメージし、見通しを持つことができる。 2. 自分を振り返り、必要な知識・技能・態度について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育のあり方についての様々な意見・考え方に関心を持ち、自分で調べたり、グループ討議に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育者になるということ	これまでの学びを振り返るとともに、将来の自分をイメージしながら、保育者の専門性とは何か、保育者になるために身につけるべき知識・技能・態度とは何か、自由に討議し考えてみる。	入学後学んできたことを振り返り、身につけた知識・技能・態度について確認しておくこと。	120分
第2回	保育者の制度的位置付けと倫理	保育者の制度的位置付けと職務内容、守秘義務、倫理等について学ぶ。	保育士資格に関する指定された事項について事前に調べてまとめておくこと。	120分
第3回	わが国の保育親と保育者の役割	保育所保育指針等を参考にしながら、わが国の保育において近年求められている保育者の役割とは何かについて考える。	保育所保育指針第1章総則を読むこと。	120分
第4回	保育者の資質・能力(1)保育指針を手がかりに	保育所保育指針を手がかりに、保育者に求められる資質・能力について考える。	保育所保育指針を読んで、保育者に求められる資質・能力に関連する部分アンダーラインを引いておく。	120分
第5回				120分

	保育者の資質・能力 (2)「育ての心」を手がかりに	倉橋惣三の「育ての心」を手がかりに、保育者に求められる資質・能力について考える。	保育者の資質・能力に関連する文献を探して読んでおく。	
第6回	保育者の資質・能力 (3) 具体的な言動を手がかりに	してはいけない言動、すべき言動について、ディスカッションすることにより、保育者に求められる資質・能力について具体的に考える。	保育者の資質・能力に関連する文献を探して読んでおく。	120分
第7回	保育における子ども理解 (1) 子どもから出発する	子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢でいることの重要性について考える。	「子どもの視点に立つ」「子どもから出発する」とはどういうことか。関連する文献を探して読んでおく。	120分
第8回	保育における子ども理解 (2) 遊びの中の学びを見出す	子どもの主体的な遊びの中に学びの芽を見出し、その学びを支える保育のあり方と保育者の専門性について考える。	保育指針等の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み、10の項目内容について押さえておく。	120分
第9回	保育の環境 (1) 養護と教育を一体的に支える	養護と教育を一体的に支える環境とはどのようなものか、VTRを手がかりに考える。	保育の環境に関連する文献を探して読んでおく。	120分
第10回	保育の環境 (2) 事例から考える	幼稚園の事例をもとに、子どもの主体的な遊びを支える環境のあり方について学ぶ。	近所の公園の環境を調べておく。事例の園環境と違っている点は何かについて考える。	120分
第11回	保育の環境 (3) 保育マップを手がかりに	園内の環境と子どもの遊び・活動の実態、保育者の配慮や工夫について、保育マップを手がかりに考える。	自分の通った保育園・幼稚園の室内外の環境、どこでどのような遊び・活動をしていたか、お気に入りの場所や遊具など、思い出せる範囲で書き出してみよう。	120分
第12回	保育の計画・省察・評価・記録	保育の計画と実践、省察と評価の関係性について考える。また、さまざまな記録の工夫について学ぶ。	保育所保育指針の指定部分を読んでおく。また、保育の記録に関連する文献を読んでおくこと。	120分
第13回	保護者との連携・子育て支援	保護者との連携と子育て支援における保育者の専門性について学ぶ。	保育所保育指針第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	保育者の連携と協働	同僚とのチームワークや学びあい、専門職、関係機関との連携や協働の重要性について学ぶ。	保育所保育指針第5章を読んでおく。	120分
第15回	まとめと振り返り～保育者の資質向上とキャリア形成	これまでの学習を振り返り、保育者としての資質向上とキャリア形成のために必要なことについて具体的に考えてみる。	これまでの授業の総復習をしておく。	240分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	提出課題等については授業内にてその都度返却し解説を行う。質問等がある場合は1635研究室 (emailも可) まで訪問すること。
評価方法	提出課題を毎回ファイリングしていき「学びの記録」として1冊にまとめたものを最終回に提出、これを主な評価対象とする。加えて、各回の授業に取り組む態度やグループワークへの参加状況等については「平常点」として評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点 (20%)、学びの記録 (80%) の割合で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	保育所保育指針	
参考図書	幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>	
オフィスアワー	金曜3時限 1635研究室	
学生へのメッセージ	保育者の専門性について考える授業です。自分の考えを深めるために保育に関する文献を最低1冊は読みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを適宜取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 石川 えりこ	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童文化史を概観し、児童文化の流れを把握する。 ・年中行事や伝承遊び等の伝承文化について学び、基礎的な知識を習得する。 ・現代の子どもの暮らしについて学び、子どもの生活文化についての理解を深める。 ・現代の子どもの遊びの現状を具体的に検討することによって、子どもを取り巻く文化についての考察を深める。 ・子どもにとって身近な児童文化財のひとつである絵本や紙芝居などについて学び、知識を深める。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童文化の歴史の変遷、伝承遊びや伝承文化などについて基礎的な知識が身についている。
思考・判断の観点 (K)	児童文化の重要性を理解した上で、子どもたちとの関わり方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に児童文化に興味・関心を持ち、子どもたちのより良い成長や発達に貢献できる。
技術・表現の観点 (A)	絵本や紙芝居などを作成し、児童文化を具体的に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	絵本の概要	絵本作りの基本。絵本は絵描きと文筆家とデザイナー、編集者で作られる。それぞれの役目について「ボタ山であそんだころ」を読みながら製作について話をする。	「ボタ山であそんだころ」を読んでくる。持参すること。	120分
第2回	絵本を読み解く①子どもと自然、人間関係	絵本に登場人物やもの、動物についての背景を想像する。家族関係、友達関係。背景を自分なりに想像し、お話を軸を考える。「あひる」の登場人物の人間関係を読み解く。	「あひる」を読んでくる。持参することが望ましい。	120分
第3回	絵本を読み解く②子どもと家族	「またおこられてん」を読み合う。家族関係を想像する。主人公の性格、お父さんの仕事、性格。お母さんの趣味、性格、身体的変化などを考える。各自発表する。	「またおこられてん」を読んでくる。持参することが望ましい。	120分
第4回	絵本を読み解く③自分の中の「子	「かんけり」を読みあいながら 自分の中の「子ども」を見つける。絵本制作をしていると自分の中の子どもがどのような人間関係、生活環境で育ったかが明確になってくる。その子どもと向き合う。	「かんけり」を読んでくる。持参すること。	180分

	ども」を発見する			
第5回	絵本を読み解く④絵本の中の登場人物を自分に投影する	選んできた絵本の登場人物などを自分なりに読み解き発表する。	自分の好きな絵本を一冊選んでくる。	180分
第6回	絵本の読みあい	グループごとにそれぞれの本の朗読法を探る。朗読発表。読み方の違い、理解の違いに気づく。	複数名のグループを設定する。グループ内で、それぞれ異なる絵本を選び、読んでおく(4人だったらそれぞれ違う本を4冊読んでおく)。	180分
第7回	自分の中に見つけた「子ども」	1~6の中で見えてきた自分の中の「子ども」を、エピソード(ドストーリー)を書くことにより見出す。	これまでの学習内容について復習し、その中に見えてくる自分の中の「子ども」について考えておく。	180分
第8回	自分の中の「子ども」	自分の中の「子どものストーリー」を発表する。他者のストーリーに質問したり、質問に答えるうちにさらに、その内容が深くなったり、別の「子ども」が見えてくることに気づく。	自分の中のストーリーが発表できるようまとめておく。	210分
第9回	見えてきたストーリーを絵本にする①絵本制作とは	見えてきたストーリーを絵本にするための方法について考える。	絵本制作の手順について、Web等で調べてみる。ラフ用のスケッチブック、画用紙、画材(自由)を準備しておく。	120分
第10回	見えてきたストーリーを絵本にする②大ラフとは	大ラフについて、制作を通して理解する。	大ラフのアイデアを練っておく。	180分
第11回	見えてきたストーリーを絵本にする③作画について	各自の大ラフを固める作画について、制作を通して理解する。	作画のアイデアを練っておく。	210分
第12回	見えてきたストーリーを絵本にする④絵本ができるまで	作画を絵本に制作していくことを体験し、ストーリーと作画の関係を理解する。	絵本づくりの下準備を行う。	210分
第13回	見えてきたストーリーを絵本にする⑤絵本制作を振り返る	見えてきたストーリー → 大ラフ作り → ラフを固める作画 → 絵本に制作の過程を、自身の制作した絵本に基づいて振り返ることを通し、絵本と子どもの関係について理解を深める。	絵本を仕上げる。	210分
第14回	絵本を語る(発表会)	制作した絵本を発表する。他者の発表を聴き、その絵本の中の語り手のストーリーを味わう。絵本の魅力を考える。	制作した絵本を声に出して読み、語り方の練習をしておく。	120分
第15回	絵本の魅力を再考察する	これまでの学習内容を振り返り、また実際に制作することを通して、絵本の魅力、絵本の意味を再考察する。	これまでの学習内容を振り返り、また実際に制作することを通して感じたことをまとめておく。	210分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。絵本の制作に関しては、予定が合えば複数の回数をまとめて行いたい。			
学生へのフィードバック方法	毎回の講義で提出するレポートを通し、質問や感想を受け付ける。質問事項に関しては、翌週の講義で解説する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業中の実績)と課題レポートの結果から判定する。 ・授業中の実績には毎回の授業でのミニレポート、課題(絵本の制作及びレポート)授業への参加状況を含む。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○

試験または課題	○	○	○	○
評価割合	平常点40%・試験または課題60% (平常点は、毎回の授業でのミニレポート、授業への参加状況等を総合して判断します)			
使用教科書名 (ISBN番号)	石川えりこ『ボタ山であそんだころ』(福音館書店)、石川えりこ『かんけり』(アリス館)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で児童文化について考えることができる。 【思考・判断】実習などで子どもと直接ふれあい学び合う実践的な機会を通して児童文化の学びを応用し、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちに児童文化を積極的に伝えることができる。 【技能・表現】子どもの専門家として児童文化の伝承に貢献できると同時に、絵本や紙芝居などを作成できる豊かな表現力が身についている。			
学生へのメッセージ	児童文化は子どもの幸せを願いながら育まれてきたものです。 教科書やプリントによる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	絵本作家として現在も創作活動を続けていることを授業に反映させる。		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現することで進められる。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	小児保健 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鳥海 弘子	指定なし

授業概要(教育目的)	地域における保健活動、子どもの身体的特徴や発育発達を学び基礎知識を習得する。子どもの発達段階に応じた事故予防や保育における衛生管理、危機管理、安全管理を理解する。
履修条件	「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識を習得するために、意欲的に授業にのぞむ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	からだのしくみを知ることにより、子どもの身体的特徴や発育発達を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達段階に応じた事故予防、保育における衛生管理、危機管理、安全管理を理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	虐待や貧困などの社会的問題に真剣に取り組む、地域の子育て支援に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの変化に気づくことができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義① 保健活動の意義と目的	授業の進め方等のオリエンテーションから、今後の授業の進め方を理解する。	教科書P1～13ページを読む。 今後の授業の進め方を確認し自分自身の学習計画を立てる。	180分
第2回	母子保健の意義と現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	母子保健の現状と課題を子どもの健康の視点で考え検討する。	教科書P14～27を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第3回	子どもの発育・発達と保健	子どもの健康について理解を深める。	教科書P28～35を読む。 身体発育曲線の課題を行う(次回提出)	180分

第4回	子どもの運動機能の発達と保健	子どもの運動機能の視点で学びを深める。	教科書P36～41を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第5回	子どもの生理機能の発達と保健	子どもの生理機能の視点で学ぶを深める。	教科書P42～50を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第6回	子どもの精神機能の発達と保健	子どもの精神機能の視点から学びを深める。	授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第7回	母子健康手帳からみる発達と保健	母子健康手帳の意義を理解する。	自分自身の母子健康手帳から自らの発達を知る。	180分
第8回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	子育て支援のあり方を考える。	虐待についての新聞記事等を1事例をレポートし提出する(500字以内)。 次回提出	180分
第9回	子どもの生活習慣と食生活	子どもの生活習慣を理解する。	配布資料を読む。 授業で学んだことをノートにまとめる。	180分
第10回	発達障害の理解	発達障害とはを知り、どのように関わることが必要であるかを理解する。	配布資料を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第11回	保育における環境整備と衛生管理	環境整備の必要性と健康を守るための生成管理方法を理解する。	授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第12回	保育における危機管理と安全管理	子どもの安全、安心を守るために必要なことを学ぶ。	配布資料を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第13回	子どもの事故の現状と課題	子ども事故の現状をすることで防ぐために何が必要であるかを考える。	平成30年 教育・保育施設等における事故報告集計を読む。	180分
第14回	事故やけがに対する応急処置・救命処置	実際の処置の方法を知識として深める。	教科書P81～86を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第15回	小児保健Ⅰの総合理解	小児保健Ⅰの総合的理解を深める。	小児保健としての意義を再度確認する。	180分
学習計画注記		授業で学んだ内容を再度自分自身で振り返ることにより、更に理解が深まります。時間を上手に使いましょう。		
学生へのフィードバック方法		授業終了後、質問等がある場合は教室内で対応する。		
評価方法		毎日に振り返りシートの記入により、授業の理解度を確認する。 授業の理解状況に応じて課題を設け、次回の授業開始時に提出する。 定期試験は100点満点とし、毎回の授業に配布する資料や教科書などから出題し記述問題とする。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返りシート	○	○	○	
課題	○			
平常点	○		○	
定期試験	○	○	○	
評価割合		定期試験 (70%) 課題 (10%) 振り返りシート (10%) 平常点 (10%)		
使用教科書名 (ISBN番号)		授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健テキスト 診断と治療社 小林 美由紀		

参考図書	保育所保育指針 平成29年告示 フレーベル館	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どものからだのしくみを理解し、子どもの成長発達に応じた支援ができる知識を習得する。	
オフィスアワー	なし	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子どもの健康に関するニュースなどに興味を持ち情報収集を行うこと。 ・授業で習った内容を復習し定着を図ること。 ・配布プリントは1冊にファイリングをして授業に持参すること。 	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は公立の保育所の看護師として実務経験があり、保育現場現状を踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育, 心理と発達, 健康と環境, 文化と社会, 生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から, 先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し, 研究方法を吟味し, 研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では, これまでの研究成果をプレゼンテーションし, 卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお, 授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	平常点 (60%) , 中間報告 (プレゼンテーション) (40%) による総合評価。 (平常点は毎週の授業への参加状況, 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので, それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また, 4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため, 指導教員と連絡を密に取りながら, 計画的に研究のための時間を十分に確保して, 一步一步研究が進められるように努力しよう。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシ ー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)				
思考・判断の観点 (K)				
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)				
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合	平常点 (40%) , 研究論文 (50%) , 研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。 (平常点は毎週の授業への参加状況, 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)			
学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				

情報リテラシ ー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	発達臨床心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 各種発達検査・心理検査の模擬体験等を通して、発達臨床に関する課題の把握とアセスメント、課題解決に向けての実践力を培う。 2. 事例を理解する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップなどの作成方法を学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	発達臨床心理学の背景と意義	発達心理学と臨床心理学の基本的な考え方や発達臨床心理学という学問が生まれた背景と意義について学ぶ	「発達とは何か」という問いについて、配布資料をもとに考える。	120分
第2回	生涯発達とライフサイクル論	発達を生涯にわたるものとしてとらえ、エリクソンのライフサイクル論やピアジェやフロイトの発達論などおもな生涯発達に関する理論について学ぶ。	授業で配布する資料を復習し、生涯発達の基本について理解しておく。	120分
第3回	胎児期～乳児期の発達と心理臨床	胎児期～乳児期の発達の基本について学び、未熟児医療やこの時期の臨床的な課題と支援について学ぶ。	胎児期～乳児期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第4回	幼児期～学童期の発達と心理臨床	幼児期～学童期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分

第5回	発達障害と共に生きるということ	おもな発達障害に関する事例の検討を通し、発達障害と共に生きること、共に生きる家族を支えることについて考える。	これまで学んできたことや自身自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第6回	心理的アセスメントの方法①発達検査・心理検査	心理的アセスメントの方法として、主な発達検査・心理検査について知り、その一部を実際に体験し、各種検査への理解を深める。	実際に発達検査・心理検査を経験し、得られた考察をまとめる。	120分
第7回	心理的アセスメントの方法②総合的理解と見立て	各種検査から得られた検査結果をどのように読み取り、どのように対象児に生かすのか、支援の基本を学ぶ。	これまで学んできたことや自身自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第8回	学校の発達臨床—不登校といじめ	不登校やいじめ等、学校現場における臨床事例について、発達臨床的な視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、学校現場における臨床事例について検討してみる。	120分
第9回	児童養護と発達臨床	虐待等、児童養護の問題について現状について知り、発達臨床的視点から考える。	今回の授業で学んだことをもとに、児童養護に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第10回	ジェノグラムとエコマップ	事例を理解し方針を検討する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップの作成方法について学ぶ。	事例をもとに、自分でジェノグラムとエコマップを作成する課題に取り組む。	120分
第11回	思春期～青年期の発達と心理臨床	思春期～青年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	思春期～青年期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第12回	成人期の発達と心理臨床	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。	120分
第13回	老年期の発達と心理臨床	老年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題について、「語ること」「傾聴すること」の重要性を主軸とした対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、老年期の臨床事例について検討しまとめる。	120分
第14回	家族関係と発達臨床	「家族もまた発達する存在である」という考え方を基盤とし、そこに展開する家族関係や家族に関する諸問題を発達の視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、家族に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記	※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。
評価方法	・授業内で実施する課題への取り組みも評価の対象とする。 ・授業の最後に、まとめと振り返りを行い、確認テストを実施する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)
定期試験	○ ○ ○ ○
授業内課題	○ ○ ○ ○
定期試験	○ ○ ○ ○
授業内課題	○ ○ ○ ○
評価割合	定期試験70%、授業内ミニ課題20%、平常点（授業への取り組み等）10%
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
参考図書	人間関係の理解と心理臨床 (978-4-7664-2466-9) 吉川晴美・松井知子 編著 (慶應義塾大学出版会)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。 【思考・判断】人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。 【技術・表現】心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。

オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室	
学生へのメッセージ	子どもの発達や臨床に関する身の回りの記事やニュースに興味をもって授業に臨んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員の療育現場や子育て支援現場での実務経験を生かし、事例をもとに考える授業を取り入れる。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる事例検討やロールプレイを取り入れながら、学生自身が感じ、考え、理解を深める時間を大切にする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	対人関係の発達		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	乳幼児期から老年期までの、各世代の対人関係の発達や特徴について概観した上で、社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解できるようにする。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について紹介する。青年期の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていけるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・乳幼児期から老年期までの各世代の対人関係の特徴を説明できる
思考・判断の観点 (K)	・授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち、よりよく人と人がつながり、生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション: 人にとっての人のかかわり	人の一生を他者とのかかわりという視点から概観する	【予習】誕生から人生の終わりまでの人とのかかわりにどのようなものがあるか書き出してみよう。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳児期の人間関係	生後一年間の成長を追ったドキュメンタリー映画を教材に、人は人との関係の中に生まれてくること、それはどの社会においても変わらないこと、乳児と他者との関係のありようは文化によって違うこと等を学ぶ。	【復習】生後一年間の乳児と他者のかかわりについて、文化を通じて共通している点、文化によって異なる点をまとめ小レポートを作成する。	180分
第3回	幼児期の人間関係	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域人間関係の内容を中心に、幼児期の人とのかかわる力の発達について学ぶ	【予習】要領、指針、教育・保育要領の領域人間関係を読む。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	140分
第4回				220分

	児童期の人間関係(1)	児童期の人間関係の特徴を概観した後、児童期の子どもたちを描いた映像作品を鑑賞し、その特徴の具体的な現れ方を考える	〔予習〕1年次「発達心理学」で学んだ児童期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に鑑賞した映像作品において、児童期の親子関係、仲間関係の特徴が具体的にどのように現れていたか小レポートにまとめる。	
第5回	児童期の人間関係(2)	各自作成したレポートをグループ内で発表し、児童期の人間関係についてディスカッションを行う	〔予習〕前回の授業後に作成したレポートを基にグループでの発表準備をする。〔復習〕グループディスカッションで得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第6回	思春期・青年期の人間関係(1): ソーシャルスキルトレーニング	思春期・青年期の対人関係の特徴を概観したうえで、近年教育の現場にも取り入れられているソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ	〔予習〕1年次前期「発達心理学」で学んだ思春期・青年期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第7回	思春期・青年期の人間関係(2): 恋愛関係	青年期の恋愛関係の発達について概観を学んだ後、グループディスカッションを行う	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第8回	現代社会における人間関係を考える(1) 青年の人間関係	友人との関係のあり方について、自分たちの世代と上の世代を比較し、グループディスカッションを行う。	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第9回	現代社会における人間関係を考える(2) SNSの世代	現代の青年の人間関係にSNSがどのような影響を与えているかグループディスカッションを行う。	〔予習〕一週間のうちどのようなSNSをどのくらいどのように利用したか記録しておく。若者のSNS利用についてどのような意見があるかインターネット等で調べておく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第10回	現代社会における人間関係を考える(3) 自分たちの人間関係を振り返る	現代の青年の人間関係の特徴について他の世代との比較、SNS利用との関係などから総合的に考察する	〔予習〕第8回、第9回のグループディスカッションの内容を見返しておく。〔復習〕グループディスカッションの内容を次回発表できる形にまとめる	180分
第11回	現代社会における人間関係を考える(4) グループ発表	現代の青年の人間関係の特徴について各グループの考察を発表する	〔復習〕これまでのグループディスカッションから得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第12回	成人期の人間関係(1) メンターの役割①	職場でのメンターの役割について学んだ上で、メンターの存在を描く映像作品を鑑賞する	〔予習〕自分が社会で働く際、上司に求めることを書き出しておく。〔復習〕映像作品に描かれるメンターの存在の特徴について気が付いたことを書き出しておく。	180分
第13回	成人期の人間関係(2) 職場の人間関係	職場の人間関係において大切なことについてグループディスカッションを行う	〔復習〕自分が働きだしたとき、新人としてどのような姿勢をもつことが必要か、自分が指導する立場に立ったとき、どのような配慮が必要か、授業でのディスカッションを参考にまとめる。	180分
第14回	老年期の人間関係	人生の最後の時期の人とのかかわりについて学ぶ	〔予習〕祖父母とどのようなかかわりをもってきたか、自分が乳幼児の時、児童期の時、思春期、青年期に分けて書き出す。〔復習〕祖父母の視点から見た孫との関係について、気が付いたことをまとめる。	180分

第15回	まとめと発表	授業を通して人との関係について学んだことを各自発表する	【予習】これまでの授業資料を読み返し、学んだことを発表できる形にまとめる。【復習】発表した内容も含めた形で最終レポートを作成する。	180分	
学習計画注記		授業の進み具合等によりスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。 ・小レポートは、取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題では、授業で得た気づきを基に、自ら積極的に考える姿勢、考察の内容を評価する。 ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	小レポート	○	○	○	
	最終レポート		○	○	
評価割合		平常点 (20%) , 課題 (50%) , 最終レポート (30%) で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		特に指定しない。適宜資料を配布する。			
参考図書		授業のなかで適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】人の生涯にわたる人間関係の発達に関する専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる。【関心・意欲・態度】現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち、よりよく人と人がつながり、生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている。</p>			
オフィスアワー		水曜日 2限 1626研究室			
学生へのメッセージ		授業形態は講義ですが、演習的な内容が多く含まれています。知識を得るだけでなく、それをを用いて考えることを重視した授業ですので、受け身でなく、積極的な姿勢で参加できる方の受講を歓迎します。			
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
	実務経験を活かした授業				
	アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッション、全体での発表を行う。		
	情報リテラシー教育				
	ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	発達障害の理解と支援		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等についての理解と指導や支援方法について理解する。 ・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。 ・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等についての理解と指導や支援方法について理解する。 2. 幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インクルーシブ教育システム	インクルーシブ教育システムについて学ぶ。インクルーシブ教育、特別支援教育、小・中学校等における特別な配慮を必要とする児童生徒等への指導を理解する。	教科書8～19ページで、インクルーシブ教育、特別支援教育の概要について事前・事後学習をする。	120分
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園、教	新保育指針・教育要領・学習指導要領改訂の特別支援教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	教科書21～26ページで、特別支援教育に関する改訂のポイントについて事前・事後学習をする。	120分

	育・保育要領、小学校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント			
第3回	小・中学校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント	小・中学校、特別支援学校学習指導要領改訂の特別支援教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	教科書28～34ページで、小・中学校、特別支援学校学習指導要領について事前・事後学習をする。	120分
第4回	学習障害児の理解と支援	学習障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書37～41ページで、学習障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第5回	注意欠陥多動性障害児の理解と支援	注意欠陥多動性障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書43～48ページで、注意欠陥多動性障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第6回	自閉症児の理解と支援	自閉症児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書49～53ページで、自閉症児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第7回	幼稚園等における発達障害等の教育	幼稚園・保育所における特別支援について学び、現状と指導の実際、地域ネットワークについて理解する。	教科書56～66ページで、幼稚園等の特別支援教育について、事前・事後学習をする。	120分
第8回	小・中学校、高等学校における発達障害等の教育	小・中学校における発達障害等の教育について学び、教育課程の編成、学級経営上の配慮、授業における配慮、校内支援体制、保護者・関係機関との連携について理解する。	教科書67～86ページで、小・中学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第9回	特別支援学校における発達障害等の教育	特別支援学校における発達障害等の教育を学び、教育課程の編成、自閉症学級の指導、学習指導案作成、支援・指導法について理解する。	教科書90～102ページで、特別支援学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第10回	個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について学び、作成の目的、実態把握の方法、指導・支援への活用について理解する。	教科書105～114ページで、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について、事前・事後学習をする。	120分
第11回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(幼稚園)	幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援の実際を学び、指導計画、実態把握、教材、環境の構造化、評価の工夫を理解する。	教科書122～130ページで、幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第12回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通常の学級)	小学校通常の学級における発達障害児の教育を学び、通常の学級の授業の中での支援を理解する。	教科書132～144ページで、小学校通常の学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第13回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校特別支援学級)	小学校特別支援学級における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書145～153ページで、小学校特別支援学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第14回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通級による指導)	小学校通級による指導における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書154～159ページで、小学校通級による指導における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	102分
第15回	地域における障害のある子どもの子育て支援	地域における障害のある子どもの子育て支援について学び、子ども・子育て支援制度、障害者差別解消法等を理解する。	教科書164～173ページで、地域における障害のある子どもの子育て支援について、事前・事後学習をする。	120分
第16回	発達障害児の理解と指			90分

導に関する 定期試験を 実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、発達障害児への教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、発達障害児への教育活動についてより理解を深める。																									
学習計画注記	履修教や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。																										
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。 ・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 																										
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。																										
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振り返りシート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	振り返りシート	○				定期試験	○	○												
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																							
振り返りシート	○																										
定期試験	○	○																									
評価割合	定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。																										
使用教科書名 (ISBN番号)	「発達障害の理解と支援」、杉野学、梅田真理、柳瀬洋美編著 大学図書出版 978-4-907166-90-8C3037																										
参考図書	なし																										
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。</p> <p>【思考・判断】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解を深め具体的な実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる完成やコミュニケーション能力が備わっている。</p>																										
オフィスアワー	月曜日2.3時限目、杉野研究室																										
学生へのメッセージ	<p>保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざす学生にとって、発達障害のある子どもに対する理解を深めるとともに、さまざまな支援方法を知り、それを活用できる力を育むことは、今日とても必要とされている。この授業で学んだことは、皆さんの将来の仕事に役立つものである。</p> <p>障害の捉え方やさまざまな発達障害の理解と支援について、教科書、プリント、ビデオなどを用いて、はじめての学生にも分かりやすく授業をするので、是非、受講して欲しい。</p>																										
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																									
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。																									
アクティブ・ラーニング																											
情報リテラシー教育																											
ICT活用																											

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	発達臨床論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)

発達障害とその心理臨床、療育、特別支援教育、について学ぶ。
 発達障害は子どもの時期に起こる障害であり、それ故その特性と発達の段階に応じた全人的な早期療育、早期対応が重要である。また、親や家族に対しての療育上の援助も同様に不可欠である。家庭、園、学校、等における、実際の事例や問題を通して、行動や認知、情緒面に課題がある子どもの心理と教育、親や家族へのメンタルケアについて学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発達障害について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	発達障害の視点から心理的な問題の仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	発達障害のある方へのかかわり方を自分ができるとして考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	発達障害の視点から仮説を立てたことを自分の言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	発達障害とは何か	発達障害について学ぶ。	予習不要。復習は発達障害について説明できるようにする。	60分
第2回	現代社会と障害のとらえ方	国際生活機能分類について学ぶ。	予習は障害者が日常生活を送る上でどのようなことが障壁になっているかを考えてくる。復習は国際生活機能分類について説明できるようにする。	60分
第3回	自閉症と体験世界	自閉症の方にはどのように世界が見えているかを学ぶ。	予習は自閉症について調べる。復習は自分の生活空間が自閉症の方にはどのように見えているかを考える。	60分
第4回	自閉症と発達臨床	自閉症の方への支援について学ぶ。	予習は自閉症にはどのような支援が必要か考える。復習は自閉症の方への支援について具体的に自分ができると考える。	60分
第5回		広汎性発達障害について学ぶ。		60分

	広汎性発達障害の諸問題と対応		予習は広汎性発達障害について調べる。復習は広汎性発達障害の方への支援について具体的に自分ができることを考える。		
第6回	アスペルガー症候群と発達臨床	アスペルガー症候群について学ぶ。	予習はアスペルガー症候群について調べる。復習はアスペルガー症候群の方への支援について具体的に自分ができることを考える。	60分	
第7回	ダウン症候群と発達臨床	ダウン症について学ぶ。	予習はダウン症について調べる。復習はダウン症の方への支援について具体的に自分ができることを考える。	60分	
第8回	多動児と発達臨床	ADHDについて学ぶ。	予習はADHDについて調べる。復習はADHDの方への支援について具体的に自分ができることを考える。	60分	
第9回	学習障害と発達臨床	LDIについて学ぶ。	予習はLDIについて調べる。復習はLDIの方への支援について具体的に自分ができることを考える。	60分	
第10回	非行と発達障害	非行臨床について学ぶ。	予習は非行について発達障害の観点から考える。復習は非行の予防について具体的に自分ができることを考える。	60分	
第11回	乳幼児健診と早期療育	乳幼児健診と早期療育について学ぶ。	予習は乳幼児健診と早期療育について調べる。復習は乳幼児健診と早期療育について説明できるようにする。	60分	
第12回	発達障害と虐待	虐待を発達障害の視点から考える。	予習は虐待について調べる。復習は虐待を発達障害の関係について説明できるようにする。	60分	
第13回	発達障害とかかわり方	発達障害のある方への支援について学ぶ。	予習は発達障害のある方への適切なかわり方について考える。復習は発達障害のある方への支援について自分ができることを考える。	60分	
第14回	特別支援教育	特別支援教育について発達障害の視点から考える。	予習は特別支援教育について調べてくる。復習は発達障害のある方へどのような特別支援教育が行われているか説明できるようにする。	60分	
第15回	まとめ	これまで学んだことを振り返る。	予習はこれまで学んだことを振り返る。復習はこれまで学んだことを振り返る。	60分	
学生へのフィードバック方法		授業にて解説			
評価方法		平常点 (30% : 学習・発表態度及び出席状況、小レポート) 課題レポート (70%)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	課題レポート	○	○	○	○
評価割合		平常点 (30% : 学習・発表態度及び出席状況、小レポート) 課題レポート (70%)			
参考図書		授業で適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】 児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあひ学び合う、具体的・実践的			

	<p>な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている 	
オフィスアワー	月曜屋休み、火曜3限	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理学研究法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)

心理学分野における研究法の基礎から応用にいたるまでをわかりやすく実演・講義する。科学的研究の原理から始め、行動観察、アンケート法による各種調査、実験計画法による心理学研究のデザインのたてかた、得られたデータの処理と分析法、結果の解釈、研究結果のプレゼンテーション、研究における倫理的問題等について具体的に紹介する。
心理学a、bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	心理学研究法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験、調査結果を解釈できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	倫理を守り、適切な手続きに基づいて心理学研究ができる。また被験者として教示どおりに実験、調査に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	心理学研究法にもとづいた実験、調査ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心理学研究法の紹介	心理学研究法について紹介する	予習不要。復習はどのような研究方法があるのかを確認する。	30分
第2回	科学的研究とは 1	量的研究について学ぶ。	予習は数値化できそうな人間の心理について考えてくる。復習は量的研究について確認する。	30分
第3回	科学的研究とは 2	質的研究について学ぶ。	予習は数値化するのが難しそうな人間の心理について考えてくる。復習は質的研究について学ぶ。	30分
第4回	仮説の立て方について	帰納と演繹について学ぶ。	予習は心理学に関連した仮説を何か立ててくる。復習は自分が立てた仮説を精査する。	30分
第5回	データによる行動の記述 1	行動観察について学ぶ。	予習は日常生活で行動観察して気がついたことを書いてくる。復習は行動観察の記録を書けるようにする。	30分

第6回	データによる行動の記述 2	データの集計とビジュアル化について学ぶ。	予習はデータのまとめ方と見せ方について考えてくる。復習はデータ集計と図表作成をできるようにする。	30分
第7回	心理統計について 1	統計の基礎を学ぶ。	代表値について予習する。代表値について復習する。	30分
第8回	心理統計について 2	有意差検定について学ぶ。	予習不要。復習は他のデータで有意差検定をできるようにする。	30分
第9回	実験計画法 1	1要因の実験計画について学ぶ。	予習不要。復習は1要因計画について理解する。	30分
第10回	実験計画法 2	2要因の実験計画について学ぶ。	予習不要。復習は2要因計画について理解する。	30分
第11回	アンケートによる調査について 1	調査計画を立てる。	予習は調査したいテーマを考えてくる。復習はアンケートを作成する。	30分
第12回	アンケートによる調査について 2	調査結果の分析と解釈について学ぶ。	予習は自分なりに調査結果をまとめてくる。復習はレポートを書く。	30分
第13回	心理学的アセスメント 1	パーソナリティのアセスメントについて学ぶ。	予習不要。復習はアセスメント結果を書く。	30分
第14回	心理学的アセスメント 2	知能のアセスメントについて学ぶ。	予習不要。復習はアセスメント結果を書く。	30分
第15回	まとめ	これまで学んだことをまとめる。	予習はこれまで学んだことをまとめる。復習はこれまで学んだことをまとめる。	30分

学生へのフィードバック方法	授業にて解説
---------------	--------

評価方法	期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%
------	------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合	期末試験80%、平常点（出席・コメント等の参加度）20%
------	------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜屋休み、火曜3限
---------	------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童とカウンセリング		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	人は生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではられない。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もある。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たななかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくない。本授業では、事例検討を交えながら基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、人が人を理解し支えるとはどういうことなのか、子どもの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていく。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	1. 自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション～カウンセリングとは何か	カウンセリングとは何か、カウンセリングについてのイメージや、身近なカウンセリングについて知っていることを話し合う。	各自がこの授業で学びたいことについてまとめる。	120分
第2回	カウンセリングの歴史的変遷	現代のカウンセリングという形になるまでの歴史的変遷と精神分析学、ゲシュタルト心理学、ユング心理学、クライアント中心療法、認知行動療法など、カウンセリングへとつながるおもな心理療法について学ぶ。	「こころ」について、興味のあるテーマや自分自身の課題についてまとめてみる。	120分
第3回	こころとからだのメッセージ	心身一元論や心身二元論など、こころとからだに関する基本的な理論について知り、様々な事例から、こころとからだの深い関連性について学ぶ。自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなどについても実際に体験してみる。	授業で学んだ自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなど体験したことについてまとめる。	120分

第4回	こころの病理の理解	こころの病理について基本的な知識を学び、おもな精神疾患の症状と周囲の理解や対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、こころの病理に関するテーマでのミニレポートを作成する。	120分
第5回	“Who am I?”～私の「自分探し」～自分を理解すること	自己分析の技法のひとつである「Who am I test」を用いて自分自身を客観的に見つめ、自己分析を行う。	自己分析によって気づいたことをまとめる。	120分
第6回	自分の内面を見つめる～描画法と投影法	描画法と投影法を用いて、自分の内面を見つめる経験をし、自己理解体験をする。	授業で体験した描画法や投影法によって気づいたことをまとめる。	120分
第7回	自己を表現すること～セルフアサーション	「さわやかな自己表現」と言われるセルフアサーションを学び、ロールプレイ等による体験を通して「相手も自分も尊重する」コミュニケーションのあり方について実践的に学ぶ。	授業で体験したセルフアサーションから得た気づきをミニレポートにまとめる。	120分
第8回	語ることの意味と聴くことの意味	カウンセリングの最も重要な作業である「語ること」と「聴くこと」について、その意義を学び、ロールプレイにより実際に体験する。	ロールプレイで体験した「語ること」と「聴くこと」の重要性について、自分自身の経験をもとにまとめる。	120分
第9回	カウンセリングにおける基本的な態度	相手の話を聴く際に必要な基本的な姿勢として、「受容」「共感」「無条件の肯定的関心」「自己一致」等、カウンセリングにおける基本的な態度について学ぶ。	模擬カウンセリングによって体験したカウンセリングにおける基本的な態度について、ミニレポートにまとめる。	120分
第10回	カウンセリングの展開と気づきのプロセス	インテーク（初回面接）に始まる、カウンセリングの基本的な展開とクライアントの気づきのプロセスについて、いくつかの事例をもとに学ぶ。	授業で提示された事例について、自分自身で気づいたことについてまとめる。	120分
第11回	カウンセリングの理論と技法①クライアント中心療法	C. ロジャーズが創始者であるクライアント中心療法について、その基本理念と理論について学ぶ。	今回の授業で学んだことを、教科書と配布資料をもとに復習する。	120分
第12回	カウンセリングの理論と技法②認知療法	うつ病の治療に有効とされる認知療法について、そのもととなるA. エリスの論理療法や論理情動療法のABC理論、ABCD理論から学ぶ。	復習として、認知療法に関するミニワークを実際に取り組んでみる。	120分
第13回	カウンセリング体験～ロールプレイ	あらかじめ用意されたシナリオを用いたロールプレイによるカウンセリング体験と自分で考えた課題場面を用いた試行カウンセリングにより、相談をする側と受ける側の体験を通してカウンセリングに必要な配慮やスキルを実践的に学ぶ。	カウンセラー側、クライアント側、それぞれの立場で感じたことや考えたことについてまとめる。	120分
第14回	事例検討とスーパービジョン	保育・療育・教育現場や心理相談の場で対応することの多い事例を取り上げ、アセスメントと支援について検討する。	事例検討を通して得られた気づきや考察についてミニレポートにまとめる。	120分
第15回	まとめ	授業全体を振り返り、「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について、確認する。	基本的なカウンセリングの技法と、授業全体を通して自身の学びをレポートにまとめる。	120分

学習計画注記	※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。			
学生へのフィードバック方法	講義に加えて、グループワークやロールプレイ等の実践演習もまじえ、その場で解説を行い、理解を深める。 リアクションペーパーを通して出された質問事項や興味・関心に対しては、以降の授業で回答したり、授業内容に反映させたりしていく。			
評価方法	期末レポートや授業内ミニ課題、平常点（授業への取り組み状況等）により評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○	○	
ミニレポート	○		○	○

評価割合	期末レポート50%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）20%による総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	「自己理解ワークブック」(978-4780304015) 福島 脩美 著(金子書房)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。</p> <p>【思考・判断】 課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。</p> <p>【関心・意欲・態度】 「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。</p> <p>【技術・表現】 自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。</p>			
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ	・自分自身の課題や、身近な人が抱える課題について、整理しておいてください。			
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。		
アクティブ・ラーニング	○	・事例検討や試行カウンセリング体験、心理検査体験を取り入れた授業展開ができる。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	心理検査法実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの発達検査、知能検査、性格・人格検査などの各種の心理検査に関する基礎知識の習得とともに、人間理解の一つの方法として心理学的臨床観察と検査方法に関して実習を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種心理検査について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	心理検査の結果を解釈することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	心理検査の検査者、被検者として取り組み、倫理を守ることができる。
技術・表現の観点 (A)	心理検査の所見が書ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方や倫理等、心理検査についての講義	なし	0分
第2回	質問紙法	新版TEG II (エゴグラム)、YG	なし	0分
第3回	質問紙法	MMPI (略式) の実施	なし	0分
第4回	質問紙法	MMPI (略式) のスコアリング、解釈	なし	0分
第5回	投影法	風景構成法	なし	0分
第6回	投影法	ロールシャッハ	なし	0分
第7回	投影法	TAT	なし	0分
第8回	投影法	P-Fスタディ	なし	0分
第9回	投影法	SCT, パウム	なし	0分
第10回	作業検査法	内田クレペリン	なし	0分
第11回	知能検査	WAIS-IIIの実施	なし	0分
第12回	知能検査	WAIS-IIIのスコアリング、解釈	なし	0分
第13回	発達検査	デンバー、津守、新版K式	なし	0分

第14回	神経心理学検査	長谷川式、MMSE、ベントン、ベンダー・ゲシュタルト	なし	0分	
第15回	総括・まとめ	これまでの検査をまとめる	なし	0分	
学生へのフィードバック方法		授業にて解説。			
評価方法		平常点（50％：出席状況、授業態度）、レポート（50％）			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
評価割合		平常点（50％：出席状況、授業態度）、レポート（50％）			
使用教科書名 (ISBN番号)		各種テスト解説書			
参考図書		適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】 児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <p>・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p> <p>・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている</p> <p>【技能・表現】 本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p> <p>・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている</p>			
オフィスアワー		月曜昼休み、火曜3限			
学生へのメッセージ		種々の心理検査法器具を実際に扱いながら学びますので、授業への参加態度等も重視いたします。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会福祉		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉など、社会福祉全般について講義する
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育分野に関わる関心だけでなく、他の社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会福祉の基礎概念(1)	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念(ノーマライゼーションなど)が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	社会福祉の基礎概念(2)	「社会生活の原理」と「バーステックの7原則」双方の原理が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	社会福祉を取り巻く環境(1)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する	少子化、高齢化の状況を調べておく	180分
第4回	社会福祉を取り巻く環境(2)	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	わが国における社会福祉の展開(1)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する	テキスト31～36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、保育士業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会的養護		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塩谷 隼平	指定なし

授業概要(教育目的)	社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から、実践例を通して総合的に学ぶ。特に児童福祉施設に注目し、施設養護における子どもの育ちとケアの方法の理解を深める。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても学ぶ。さらに児童虐待の問題に注目して、現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題について保育士としてできることを考えていく。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 社会的養護の制度や現状について説明できるようになる。 2. 児童福祉施設の制度や現状について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	児童福祉施設で保育士として働くための基礎を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童虐待の問題について、多角的、かつ主体的に考えることができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	施設養護の子どもたちの心理について理解し、その支援方法を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会的養護とは	社会的養護の原理や定義、現状について理解する。	シラバスをよく読んで、本講義で扱う内容について予習し、配布プリントをみて社会的養護について復習すること	90分
第2回	社会的養護の制度と歴史	社会的養護の歴史について理解する。特に児童福祉法の制定からはじまる施設養護の経過について学ぶ。	第二次世界大戦後の日本の歴史について予習し、社会的養護の歴史と絡めて復習すること	90分
第3回	家庭養護と施設養護	里親などの家庭養護と施設における家庭的養護について理解する。	里親制度について予習、復習すること	90分
第4回	環境に問題を抱えた子どもの施設養護	環境に問題を抱えた子どもの入所施設である乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について理解する。	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について予習、復習すること	90分
第5回				90分

	問題行動を抱えた子どもの施設養護	問題行動を抱えた子どもの入所施設である児童自立支援施設、児童心理治療施設について理解する。	児童自立支援施設、児童心理治療施設について予習、復習すること	
第6回	障害を抱えた子どもの施設養護	障害を抱えた子どもの入所施設である障害児入所施設について理解する。	障害児入所施設について予習、復習すること	90分
第7回	児童福祉施設における支援	児童養護施設でのレジデンシャルワークを中心に、施設における支援について理解する。	施設におけるレジデンシャルワークについて予習、復習すること	90分
第8回	施設における乳幼児期の支援	乳幼児期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の幼児期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の乳幼児期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第9回	施設における児童期の支援	児童期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の児童期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の児童期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第10回	施設における思春期の支援	思春期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の思春期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の思春期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第11回	児童虐待の現状	児童虐待の種類や現状について理解する。	児童虐待のニュースなどに関心をもって目を通しておくこと	90分
第12回	児童虐待の影響	児童虐待が子どもに与える心理的影響について理解する。	児童虐待について予習、復習すること	90分
第13回	児童虐待の原因	児童虐待の原因について理解し、虐待をしてしまう親にどのような支援が必要かを考える。	保育士として、虐待を予防するために何が出来るか予習、復習すること	90分
第14回	児童虐待を受けた子どもへの援助	児童虐待を受けた子どもへの施設における支援について理解する。	施設における被虐待児の支援について予習、復習すること	90分
第15回	これからの社会的養護	施設の小規模化など社会的養護における変化と課題について理解する	これまでの授業で学んだことをふりかえり、社会的養護がどうあるべきかについて考えること	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小レポートやふりかえりシートについては、次週の授業内で解説する。				
評価方法	授業への参加態度、授業中に課す小レポート、ワークなどの後に書くふりかえりシートなどにより平常点を評価する。 また、最後に定期試験を行う。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小レポート	○	○		
	ふりかえりシート		○	○	
	定期試験	○			
評価割合	平常点 (50%)、および定期試験 (50%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない				
参考図書	1. 福田佳織 2012 「笑って子育て—物語でみる発達心理学—」 北樹出版 2. 改訂・保育士養成講座編集委員会 2009 「改訂4版・保育士養成講座 第8巻 養護原理」 全国社会福祉協議会 3. 山縣文治・林浩康 2009 「よくわかる養護原理 第3版」 ミネルヴァ書房				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの福祉」「子どもの心理」について理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる 【関心・意欲・態度】児童虐待の問題を通して、子どもをめぐる課題や問題について考え、子どもの健全な成長・発達のために自分に何が出来るかを考えることができる。また、社会的養護にある子どもたちの理解を通して、子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけることができる。				
オフィスアワー	非常勤なのでオフィスアワーは設定しません。授業の前後の時間を利用してください。				
学生へのメッセージ					

授業で説明した理論や事例を、実習などにおける実際の体験と結びつけて理解できるように普段から意識してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、児童養護施設において心理職としての実務経験を有しており、施設養護の実態や子どもたちへの支援について、実際の体験をもとに教授している。
アクティブ・ラーニング	○	子どもの心理アセスメントに使用するテストを学生自身が体験したり、学生自身の体験をもとに子どもの心理について考えるワークを実施している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会的養護内容 (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 横井 義広	指定なし
教授	杉野 学	指定なし

授業概要(教育目的)	施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身につけているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。また、児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 児童期の生活プログラムを作成し居住型児童施設に生活する児童について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成することができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 施設で子ども達と関わりあうための基礎的な概念を理解し養護技術の基礎を習得することができる。 2. 日常的に展開されている活動や生活の援助方法を学び必要な知識や技能を習得することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会的養護の概要	社会的養護の概要について学び、社会的養護の定義と原理、児童虐待、障害児の入所増加、障害児入所施設の種類について理解する。	厚生労働省HPを閲覧し社会的養護の定義と原理、児童虐待、障害児の入所増加、障害児入所施設の種類について予習・復習をする。	60分
第2回	障害児入所施設の子どもの生活と支援のあり方	障害児入所施設の子どもの生活と支援のあり方について学び、障害児入所施設の概要、障害者総合支援法との関連、障害児入所施設における支援、児童福祉施設と保育士の役割を理解する。	厚生労働省HPを閲覧し障害児入所施設の概要、障害者総合支援法、障害児入所施設における支援、児童福祉施設と保育士の役割について予習・復習をする。	60分
第3回	知的障害児の障害特性	知的障害児の障害特性と支援を学び知的障害児の特性、知的障害児施設的生活と支援の実際、知的障害児施設役割、障害者ケアマネジメントを理解する。	図書で知的障害児の障害特性と支援について予習・復習をする。	60分

	と支援を理解する			
第4回	肢体不自由児の障害特性と支援を理解する	肢体不自由児の障害特性と支援について学び、肢体不自由児の特性、重症心身障害児施設・肢体不自由児施設の生活と支援の実際、肢体不自由児施設の役割、生活支援介護を理解する。	図書で、肢体不自由児の障害特性と支援について予習・復習をする	60分
第5回	発達障害児の心理・発達と支援のあり方	発達障害児の心理・発達と支援のあり方を学び、発達障害児の特性と支援、児童養護施設の生活と支援の実際を理解する。	児童養護施設HPで児童養護施設の生活と支援の実際について予習・復習をする。	60分
第6回	発達障害児と施設の生活	発達障害と特別支援教育を学び施設での発達障害児の理解と支援、自閉症スペクトラムの子どもへの接し方、特別支援学校と施設との連携の在り方を理解する。	図書で、施設における発達障害児の理解と支援、自閉症スペクトラムの子どもへの接し方、特別支援学校と施設との連携について予習・復習をする。	60分
第7回	児童養護施設における支援事例の考察	児童養護施設における支援事例を考察し日常生活の支援、個別及び集団における支援、注意欠陥多動性障害児への支援、個別支援計画を理解する。	児童養護施設HPを閲覧し日常生活の支援、個別及び集団における支援、個別支援計画について予習・復習をする。	60分
第8回	児童福祉施設の支援者としての資質と倫理、定期試験	児童福祉施設の支援者としての資質と倫理を学び児童福祉施設と保育士の役割、保育士の倫理と責務、社会的養護に関する動向を理解する。	図書で児童福祉施設の支援者としての資質と倫理について予習・復習をする。	60分
第9回	社会的養護内容に関する定期試験の実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、社会的養護内容について理解を深める。	定期試験を通して、社会的養護内容について理解を深める。	90分

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。 ※前半を横井が8回分、後半を杉野が8回分（シラバスはPBを参照）担当する。
--------	----------------------------------------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	・教科書、プリント、ビデオなどを用いて、実践的に具体的に目で分かりやすい授業をする。 ・質問等がある場合は、メール等で対応する。
---------------	---------------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験とともに、授業内レポート、授業態度で総合的に評価する。
------	---------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

評価割合	定期試験85% 授業内レポート5% 授業態度10%
------	---------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	児童養護の原理と実践的活用/浅井春夫監修・中山正雄編集/保育出版社
-----------------	-----------------------------------

参考図書	適宜、紹介する
------	---------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	保育所、施設等で勤務する際、虐待などの子どもを取り巻く環境の変化や地域の子育て支援に関する知識や実践的な指導力は欠かせない。社会的養護内容を学び、基本的な考え方や支援方法について理解を深めて欲しい。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、施設長として施設運営、母子生活支援等に関する基本的な考え、援助方法、地域連携に関する幅広い実務経験を有しており、保育士資格に関する実務的・実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	幼児理解		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

授業概要(教育目的)	目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちや学びの「芽」を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業では、幼児理解の基本を踏まえ、それに基づくかかわり・援助の可能性・工夫について考えるとともに、事例を用いながら具体的に検討していくことを通して、幼児理解に必要な多角的な視点の獲得を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼児理解の基本的視点と具体的な方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	出来事の原因や文脈に目を向けながら、幼児の内面について推察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	事例検討において自分なりの考察ができる。また、他者の読み取りからさらに視点を広げることができる。
技術・表現の観点 (A)	事例から読み取ったことを自分の言葉や文章でわかりやすく表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	わたしの中の子どもと出会う	記憶に残る幼児期のエピソードを読み合い、幼児だった頃の自分の内面に今と同じようにさまざまな思いがあったことを確認する。	課題：幼児期の印象に残っているエピソード記憶を詩やイラストで表現しておく。	120分
第2回	幼児理解と評価の考え方	幼児理解と評価についての基本的な考え方を理解する。	配布プリントを読んで要点をまとめておく。	120分
第3回	幼児理解の基本(1)幼児を肯定的に見る	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。	授業を振り返り「幼児を肯定的に見る」とはどういうことかまとめておく。	120分
第4回	幼児理解の基本(2)活動の意味を理解する	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。	授業を振り返り「活動の意味を理解する」とはどういうことかまとめておく。	120分
第5回	幼児理解の基本(3)発達	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。		120分

オフィスアワー	金曜3時限 1635研究室	
学生へのメッセージ	幼稚園教諭免許取得のための必修科目です。園生活でみられるさまざまな幼児の姿に触れ、ディスカッションに積極的に参加することで、幼児をみる目を養い、その視点をさらに広げていってください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	事例検討などグループディスカッションを取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容総論A (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、保育現場で展開されている保育の内容について総体的に学ぶ授業である。また、わが国の保育の基本である「一人ひとりの特性に応じた援助」、「環境を通じた教育」、「遊びを通じた総合的な指導」について、討議を通して理解を深めることを目的とする。
履修条件	特に定めない。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各領域の構造や位置づけについて説明できる。 ・「遊びを通じた総合的指導」の重要性を踏まえ、幼児の遊びの種類について調査し、乳幼児の遊びと学び・発達との関連性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校教育への接続を踏まえ、学びの芽生えから自覚的な学びの接続について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育内容の概要	子どもの園生活と遊びの様子を紹介するビデオを視聴し、保育内容の意味と意義について理解する。	授業内容を確認し、配布資料の演習問題を完成する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助①	保育現場の事例から、「言葉の前のことば」「子どもの視点に立つ」「子ども同士の関係を援助する」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助②	保育現場の事例から、「共感する」「乳幼児の表現」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	子ども親と保育の変遷	様々な時代、様々な国の子ども親と子どもの生活から「子ども」を大人がどう捉え、どのような保育が求められたのかを考える。確認テストあり。	教科書第1章をよく読み、大人は子どもをどうとらえるのかについて考えをまとめておくこと。	30分
第5回	子どもの遊びの意味	子どもの行う遊びの実際から、遊びのもつ総合性と子どもの学びについて考える。確認テストあり。		60分

			確認テストの復習、乳幼児向けの遊びの種類について資料を収集する。	
第6回	領域・ねらい・内容②	領域、ねらい、内容の関連性を構造的に理解する。確認テストあり。	教科書第2章を予習し、5領域について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第7回	領域・ねらい・内容③	領域「健康」と関連事項として、食育、「幼児期運動指針」について理解する。確認テストあり。	教科書第5章を予習し、子どもの言葉と人のかかわりについて内容を確認する。確認テストの復習	60分
第8回	領域・ねらい・内容④	領域「人間関係」、「環境」と関連事項として、「道徳性の芽生え」「協同的な学び」「規範意識の芽生え」「環境を通じた教育」について理解する。確認テストあり。	教科書第4章を予習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第9回	領域・ねらい・内容⑤	領域「言葉」、「表現」と関連事項として絵本の読み聞かせを体験する。確認テストあり。	教科書第4章の予習・復習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第10回	乳児保育と保育所保育指針①	保育所の機能と役割、保育所保育指針について理解する。確認テストあり。	教科書第7章の予習し、保育所の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第11回	乳児保育と保育所保育指針②	保育所の生活や保育士の援助について実際を理解する。	ワークシートの完成	30分
第12回	幼児教育と幼稚園教育要領	幼児期の発達特性と幼稚園教育要領の内容と構造について理解する。確認テストあり。	教科書第6章を予習し、幼稚園の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第13回	幼保連携型認定こども園	幼保連携型認定こども園の役割と実際について考え、理解する。確認テストあり。	教科書第8章を予習し、様々な保育形態について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第14回	身近な素材を使った遊びの実際	「小麦粉粘土」の製作を通して、身近で可塑性のある素材の活用について、演習を通して考える。	ワークシートに、小麦粉粘土の作り方や完成後の変化について記入する。	30分
第15回	構成遊びの意義と実際	「カプラ」を利用した構成遊びの実際と保育の工夫について、演習を通して考える。	ワークシートに、完成した製作物の画像とともに遊び方の工夫について記入する。	30分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業時に行われる確認テストは、学生が自己採点をする。教員が学生の習熟度を確認しながら、解説を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に行う確認テストは、各自で採点し授業内容の理解を確認するためのものであるため、評価に含めない。 ・定期テストは、第1回から13回までの授業内容を試験範囲とし、60点満点で出題する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期テスト(60%)、ワークシート(40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求—」大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書 森上史朗、柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 子どもと保育総合研究所、代表・森上史朗編「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている

	【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている	
オフィスアワー	火曜日3-5限目 1623教室	
学生へのメッセージ	日常生活の中で乳幼児とその周りの人やものに目を向けて観察・考察するようにしてください。受け身ではなく、積極的な態度で受講することを期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が実物を使って遊ぶ中での気づきを大切にしながら、グループ討議を取り入れている。
情報リテラシー教育	○	乳幼児向けの遊びの種類について調査し、情報を収集、活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容総論B (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深める授業である。さらに、年齢に応じた保育の計画と実践に関する今日的課題に視点を広げ、発達段階に応じた保育の計画と指導法のあり方について演習を通して検討し、学生自らの発見をもとに理解を深めることを目的とする。
履修条件	「保育内容総論B」の単位を取得した者を原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の発達の特性を踏まえ、一人ひとりの乳幼児の特性に応じた援助の重要性を説明できる。国内・国外の保育の実際を参考にしながら、乳幼児の興味や発達の特性に応じた援助の在り方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の遊びや環境の重要性を踏まえ、遊びを通じた保育を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	それまで得られた保育に関するあらゆる知識を結び付けながら、実際を想定して指導計画(活動案)を作成し、適した保育技術を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児の園生活と保育者の援助①	ガイダンス 「気になる子ども」について考える	自分が気になる子どもの特徴とその理由について覚知する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助②	「個と集団」「一人で遊ぶ子ども」をテーマとした事例をもとに、討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助③	「子ども同士の育ちあい」「子どもの自己主張と自己抑制」をテーマにした事例をもとに討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	0-1歳児の生活と保育	0-1歳児の発達の特徴と保育者の援助について理解する。	教科書第4章を予習し、0-1歳児の言葉と人のかかわりについて内容を確認しておく。	30分

第5回	1-2歳児の生活と保育	1-2歳児の発達の特徴と遊び、おもちゃとの関わりについて理解し、物とのかかわりの重要性について考える。	教科書第4章を予習し、1-2歳児の言葉と人のかかわりについて内容を確認しておく。	30分
第6回	3歳児の生活と保育	3歳児の発達の特徴と遊び、遊びの意義について考える。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第7回	4歳児の生活と保育	4歳児の発達の特徴と遊び、子ども同士の関係への援助について考える。	ワークシートに「子ども同士の言葉の伝え合いと保育者の援助」を観点として、考察を記入する。	30分
第8回	5歳児の生活と保育	5歳児の発達の特徴と遊び、遊具を活用した遊びの工夫について考える。	ワークシートに「運動遊びの種類と工夫」を観点として考察を記入する。	30分
第9回	諸外国の特徴的な指導法	レジオ・エミリア・アプローテに見る子どもを中心とした教育について考える。	ワークシートにレジオ・エミリア・アプローテの概要を記入し、大人が子どもに寄り添うことと環境の作り方について考察を記入する。	30分
第10回	保育に活用する教材について	保育に活用できる身近な素材と環境構成について考える。	サブノートのテーマ1,2を完成する。	90分
第11回	保育内容と指導計画	指導計画(活動案)の作成について理解し、年齢に応じた保育内容を考える。	教科書第10章を予習し、計画作成の概要について内容を確認する。	30分
第12回	指導計画の作成	子どもが主体になって楽しむことが中心となる保育内容の計画を作成・検討する。	各グループで討議をすすめ、指導計画を完成する。	90分
第13回	模擬保育① 音楽遊びの展開	作成した指導計画をもとに、音楽遊びをテーマとした模擬保育を行う。時系列の観察記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第14回	模擬保育② 造形遊びの展開	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第15回	模擬保育③ 運動遊びの展開	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された指導案はすべて確認し、修正点について適宜コメントする。観点は、年齢に応じた保育内容であること、ねらいと内容が合致していること、保育の展開方法が適切であること等である。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育はグループ討議の結果を踏まえてグループごとに行い、授業内に評価する。 ・サブノート、学期末レポートは各自で作成し、評価する。 ・サブノート等の提出物については、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	模擬保育(指導案の作成を含む)25%、サブノート25%、学期末レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求」大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書 森上史朗、柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 子どもと保育総合研究所、代表・森上史朗編「最新保育資料集」ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を

		身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。
オフィスアワー		火曜日2-3限目
学生へのメッセージ		学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が模擬保育を通して、考案した保育内容をどのように実現するかを考え、理解する。また、子ども同士の関係や保育者の援助をテーマとした、グループ討議を行う。
情報リテラシー教育	○	乳幼児に適した保育内容について調査し、情報を収集し、指導案作成に活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習健康A (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育実践例を学ぶ。乳幼児が健やかに育つために「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。8回から15回までは学生の発表を中心として授業を展開する。
授業時間外の学習として保育内容「健康」Bでは、児童学科承認の森のようちえん活動に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長と運動の関係について理解している。 運動が子どもにとって大切な事項であることを説明出来る。 年齢段階に応じた運動について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康について判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康、運動、食事について関心がある、
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 演習の課題について発表する能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康観の変遷	健康観は、人、家庭、社会、国家により様々な解釈があることを理解する。	社会環境は健康観の定義や考え方に大きな影響を与えていることを理解しておく。	90分
第2回	領域「健康」	領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことが目的とされていることを理解する。	領域「健康」の3つのねらいを理解しておく。(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。ことを理解しておく。	90分
第3回	子どもの健康の現状と課題	近年の子ども達の遊びや運動の変化は、体力こそ横ばい状態であるがダイナミックな運動や駆け巡る運動は縮小している。これに伴い思いっきり遊んだり運動したりと	子どもの健康の現状を考え、どのような対策が考えられるか理解しておく。	90分

		ということがなくなっている。健康を維持・増進するための課題が山積していることを理解する。		
第4回	遊びと健康	子どもにとって遊びは健康作りの基本である。様々な遊びが混じり合って健康を作り上げていることを理解する。	毎日の遊びが、子どもにとって健康のみならず、パロメーターになっていることを理解しておく。	90分
第5回	健康教育と健康指導	子どもの遊びや、身近な所から健康に気付かせ意識させることを理解する。	遊びを通して、健康な体が遊びをできるようにしていること、健康は毎日の遊びと食事を楽しくしてくれることを子どもに学ばせるさせる。健康教育や健康指導を子どもが楽しく学べる工夫を理解しておく。	90分
第6回	安全管理と安全指導	遊びの中の怪我や事故の防止について理解する。	年齢と遊びの種類によって、怪我や事故防止の対策が異なってくることを理解しておく。	90分
第7回	発育・発達と遊び	近年の子どもの発育発達は、スキヤモンの発育発達曲線を例に取れば、全体が左に2歳前後ずれてきている。子どもの発育環境を考慮した遊びについて理解する。	年齢による遊びの発達は様々であるが、遊びの順番は子どもの発達に重要であることを理解しておく。	120分
第8回	運動遊びを考える	運動は遊びを含んで年齢が経つともなっていく動きやスピードも大きくなっていく。運動環境について望ましい場所や施設等について理解する。	運動環境にとってフィールドは重要である。人間関係の形成や事故防止の点から理解しておく。	120分
第9回	運動習慣の形成と必要性	運動は体を動かすだけでなく、心の底から楽しいと思っただけでなく、運動習慣は身につかない。子どもが運動を習慣化するための方法を理解する。	運動習慣の重要性について、子どもの体の発達とともに理解しておく。	120分
第10回	生活習慣と健康	食事、塾、運動、TV、睡眠、肥満、ゲームといったキーワードから望ましい生活習慣を理解する。	健康は、食事と運動+休息のベクトル上にあることを理解しておく。	120分
第11回	食事と健康	食事は健康のパロメーターであり、健康は食事のパロメーターでもある。食習慣は運動習慣と高い相関をもっていることを理解する。	食習慣は運動習慣を反映している。十分な休息と運動、食事は互いに関係しながら運動の内容や食事の内容にお互いに影響を与えていることを理解しておく。	120分
第12回	運動と健康	運動習慣の形成は健康の形成にも繋がっている。遊びから運動、スポーツへと子どもの遊びがルールを伴うスポーツになっていく過程で身体的健康と心の健康教育もしていくことを理解する。	健康は体とともに心の健康も育てることを理解しておく。	120分
第13回	ケガの予防と救急法	遊び場、用具、施設のハード面と遊びの内容から、子どもにとって危ないという概念を理解する。禁止事項でなく、どのようにすれば子どもにとって危ないのかを理解する。	危険行為の禁止でなく、危険にならないための行動や行為について理解しておく。危険行為や行動に対する言葉掛けを理解しておく。	120分
第14回	保育者の危機管理	注意義務、管理義務、相殺、業務上・・・、受忍の法則、ハイインリッヒの法則等について裁判事例から理解する。	怪我や事故を未然に防ぐために、怪我や事故の要因をどのように排除するのかについて理解しておく。	120分
第15回	まとめ	これまでの演習内容のテーマについて討議を行い、まとめる。	演習内容の中で関心のあるテーマについて理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合があります。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時の終わりに実施する小テストの模範解答と自身の解答を比較しフィードバックできる。 ・他者の発表を聞いて自身の考え方をフィードバックできる。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的な参加態度、毎授業時の終わりに実施する5分間の小テスト（小テストは授業時の内容に沿ったものとする）、与えられた課題の発表3回の総合評価とする。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的な参加態度	○	○	○	
小テスト	○	○	○	
課題の発表	○	○	○	○

評価割合	・授業への積極的な参加態度（30%）、毎授業時の終わりに実施する5分間の小テスト（30%）（小テストは授業時の内容に沿ったものとする）、与えられた課題の発表3回（30%）の総合評価とする。	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの健康や運動に関心がある。 【思考・判断】子どもや保護者の健康観について、判断できる 【関心・意欲・態度】子どもの運動・健康・食事について関心がある。 【技術・表現】子どもの健康について表現できる。	
オフィスアワー	月曜日4時限目	
学生へのメッセージ	児童の健康に関心をもつ態度を日頃から持ってほしい。子どもを取り巻く環境と健康についていろいろな角度から考える習慣を身につけて欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育園や幼稚園に出かけ、実際の子どもの運動や健康について調べる。
情報リテラシー教育	○	子どもの健康について様々な方法を用いて調べ、整理している。
ICT活用	○	課題の発表に様々なメディアを駆使する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習健康B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育の実践例を学ぶ。特に、乳幼児が健やかに育つために働く「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。2年次においては児童学科承認の子ども体験塾に参加する。3年次には児童学科承認の森のようちえんに連続4回以上参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに関する健康の知識。理解ができる。
思考・判断の観点 (K)	・子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに関する健康の判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに対する関心が高まる。子どもの健康観や運度に関する勉強への意欲が高まる。
技術・表現の観点 (A)	・子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに対しての自身の考えや、態度を表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子ども体験塾の準備①	夏に開催される子ども体験塾について理解する。	子どもが楽しめる体験塾について理解しておく。	90分
第2回	子ども体験塾の準備②	子ども体験塾の準備をする。	参加する子ども体験塾の会場作りやプログラムの準備を行う。	90分
第3回	子ども体験塾の準備③	子ども体験塾の準備をする。	プログラムで使う小物や品物の用意をする。	90分
第4回	子ども体験塾の準備④	子ども体験塾の準備を行う。	子ども体験塾の本番に備えて準備にミスがないかを確認する。	90分
第5回	子ども体験塾の実施①	選択した体験塾で子どもの対応をする。	体験塾に参加した子どもを見守りながら一緒に学ぶ。	90分
第6回	子ども体験塾の実施②	選択したプログラムを通して子どもを観察し、子どもの生態を学ぶ。	体験塾を通して様々な子どもについて学ぶ。	90分
第7回	子ども体験塾の片付け	子ども体験塾の片付けを行う。	プログラムの後片付けを行う。	90分

第8回	森のようちえんの見学①	森のようちえんの活動に参加する。	森のようちえんに参加する子ども達の観察をする。	120分
第9回	森のようちえんの見学②	森のようちえんに参加する子どもの運動への態度について観察する。	運動プログラムへの関心や態度について観察する。	120分
第10回	森のようちえんの見学③	森のようちえんに参加する子どもの健康親や保護者の健康親について観察する。	森のようちえんに参加している子どもや保護者の健康親について観察する。	120分
第11回	森のようちえんの見学④	森のようちえんに参加する子どもの食事に対する関心度を観察する。	子どもと保護者の食事に関する態度について観察をする。	120分
第12回	保育園、幼稚園の健康教育・健康管理	保育園や幼稚園における健康教育や健康管理について理解する。	健康診断の結果を基に健康教育が行われることを理解する。子どもの健康を管理する重要性について理解しておく。	120分
第13回	小学校の健康教育・健康管理	小学生の健康教育について理解する。	成長の著しい小学生の健康教育について理解する。成長の差も大きいことを理解する。	120分
第14回	健康親の育成	現代社会における健康親の捉え方と健康親の育成について理解する。	健康親に影響を及ぼしている要因について理解しておく。	120分
第15回	まとめ	子ども体験塾への参加、森のようちえんへの参加を通して、現代の子ども健康や運動について理解する。	子ども体験塾や森のようちえんに、子どもを参加させている保護者の健康親や運動に対する考えを整理しておく。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってはスケジュールに変更が出る場合もあります。

学生へのフィードバック方法 子ども体験塾や森のようちえんへの参加によって、子どもを観察しながら子どもの健康親や運動能力等についてフィードバックできる。

評価方法 授業への積極的参加、子ども体験塾の準備、子ども体験塾への参加、子ども体験塾の片付け、森のようちえんへの参加の総合的な評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加	○	○	○	
子ども体験塾の片付け	○	○	○	○
森のようちえんへの参加	○	○	○	○

評価割合 授業への積極的参加 (20%)、子ども体験塾の準備 (20%)、子ども体験塾への参加 (20%)、子ども体験塾の片付け (20%)、森のようちえんへの参加 (20%) の総合的な評価とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに関する健康の知識、理解ができる。

【思考・判断】 子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに関する健康の判断ができる。

【関心・意欲・態度】 子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに対する関心が高まる。子どもの健康親や運動に関する勉強への意欲が高まる。

【技術・表現】 子ども体験塾や森のようちえん活動への参加により、子どもに対しての自身の考えや、態度を表現できる。

オフィスアワー 月曜日4時限目

学生へのメッセージ 現在の子どもを取り巻く環境は、自身の保育園、幼稚園時代とは大きく様変わりしています。両者（今と昔）のずれを感じ取ると共に保育士あるいは幼稚園教諭、小学校教諭になった時に、子どもとその親に健康について積極的にアドバイスをできる指導者になってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	子ども体験塾や森のようちえんへ参加し、子どもと一緒に経験することによって学ぶ。
情報リテラシー教育	○	子ども体験塾や森のようちえんに関する情報の収集と整理。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習言葉 A (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養う。保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的な力にしていく。また、言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの理解や、言葉をめぐる相談の実際と対応について等、現代における言葉の諸問題についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・領域「言葉」の基礎となる考え方を理解する。 ・「言葉」の意義と機能について理解する。
思考・判断の観点 (K)	幼児がどのようにしたら豊かな言葉や表現を育むことができるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループディスカッションやワークショップなどを取り入れながら主体的に考える。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して言葉に対する感覚を豊かにし、保育実践に生かすための技術を学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育内容「言葉」とは	領域「言葉」についてその意義を学び、領域「言葉」の特徴をとらえていく。「言葉」と他領域の関係、5領域の中の「言葉」についても理解していく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第2回	領域言葉の概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針等から領域「言葉」のねらいと内容を学習する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第3回		幼児語研究の歴史や国語学・言語学の領域、多文化保育の視点から保育の中の「言葉」を考えていく。		90分

	言葉をよりよく理解するために		授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	
第4回	言葉の発達の概要	前言語期の言葉の発達、話し言葉の発達、読み言葉の発達の視点から子どもの言葉の発達の概要をとらえる。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第5回	自己表現、コミュニケーションとしての言葉	意思の伝達、思考の手段などの言葉の機能を知り、保育の場面からその事例を通して具体的に考えていく。言葉による伝え合いの援助についても考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第6回	言葉を豊かにする保育の環境	言葉を豊かにする保育の環境とは何か。具体的な事例をもとにグループワークをしながら考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第7回	伝承遊びと遊び歌	わらべうたによる子どもとのコミュニケーションの方法について学ぶ。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第8回	文字としての言葉	幼稚園教育要領や保育所保育指針等から領域「言葉」の中での文字の取り扱いについて理解する。「幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること」という要領や指針の文言を実践する際に、どのような活動や配慮があるのかということを理解する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第9回	児童文化財について1	児童文化財にはどのようなものがあるか、それらを保育の中で活用するには、どのような配慮が必要なのか、その具体的な点を実践や事例をもとに考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第10回	児童文化財について2	児童文化財の取り扱いについて、実際に演習を通して学んでいく。保育の中での活用の際、どのような配慮が必要なのか、その具体的な点を実践や事例をもとに考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 学んだ児童文化財を1つ取り上げて、子どもたちと楽しめるような形に仕上げ、練習をする。	90分
第11回	児童文化財について3	それぞれが選んだ児童文化財を実践し、互いに見合っ評価し合う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第12回	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子ども	言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもについて、その基本を学び、具体例とともにその適切な対応の仕方について考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第13回	領域「言葉」と小学校「国語」の関連	領域「言葉」と小学校「国語」の関連について、幼稚園教育要領や保育所保育指針等と学習指導要領を比較しながらその違いとつながりを考える。連続性のあるカリキュラムにするためには、どのような視点が必要か、考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第14回	言葉をめぐる相談の実際と対応	言葉をめぐる相談の実際と対応について、ロールプレイの形式を取り入れながら実践する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。 予習としては、言葉における現代的諸問題は何かということを考え、資料を集める。	90分
第15回	現代における言葉の諸問題	現代における言葉の諸問題について、それぞれが調べ学習をしてパワーポイントで発表する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第16回	定期試験	授業の内容について定期試験を行う。	理解に不足がある点を中心に復習を行う。	45分

学習計画注記	講義と演習形式で行う。 ①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業 ②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義 ③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習
学生へのフィードバック方法	大幅帳を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。
評価方法	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			
評価割合	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)			
使用教科書名 (ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ4 言葉』			
参考図書	特になし。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。			
オフィスアワー	月曜2限から4限			
学生へのメッセージ	領域「言葉」は、他の領域との関係が大変深い。言葉が、生活や遊びの中で、他の領域と密接に関連しながら子ども達の育ちを支えていることをよく理解して、広い視点から言葉について考えてもらいたい。そのために、日頃から日常生活の中での言葉に感心を持ち、課題を見つけ積極的に授業に参加して欲しい。 保育士資格必修			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとのかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。		
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。		
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習言葉B (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし
非常勤講師	桜井 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。声を出したり、それを人に届けることを楽しむ。さまざまな素材を読みこなせるよう演習する。組み立てを考えて読むことで、その内容が聞き手にしっかりと届けられるようにする。日常生活の遊びを劇遊びにつなげていく方法や、劇遊びによって日常生活の充実を目指す方法を考える。</p> <p>15回の授業のうち前半は保育内容の統合性を顕在化するために、KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案作成と模擬保育を行う。</p>
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	呼吸法・姿勢の基本を理解し実践し、専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。児童文化財活用の基本や配慮点について知る。
思考・判断の観点 (K)	言語活動を通して、何を目指すのかという点を、子どもの視点から考えていく事ができるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	常に子どもの姿(生活や遊び、発達段階)を基本に活動内容を考えていく態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	呼吸法や姿勢を意識しながら、声を出したり、それを人に届けることを楽しむ実践を行う。児童文化財などを使い子どもに伝わりやすい技術や表現を工夫していく。

学習計画

保育内容演習言葉B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	呼吸法・姿勢(実践演習)	呼吸法・姿勢の基本を理解し実践し、専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第2回	自分の声・人に伝わる声(実践演習)	呼吸法や姿勢を意識しながら、声を出したり、それを人に届けることを楽しむ実践を行う。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第3回	音声による表現・交流	さまざまな素材を読みこなせるよう演習形式の授業を行う。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分

	(実践演習)	さらにグループごとに聞き合って評価を行い、その中からそれぞれの課題を見つけていく。		
第4回	日本語の音韻と音声 (実践演習)	日本語の音韻と音声についての基本を理解し、実践を通してその実際を学ぶ。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第5回	声に出して読む・話すように読む (実践演習)	KVA祭に向けて、声に出して読む、話すように読むという実践を重ねる。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第6回	組み立てを考えて読む。 (講義と実践演習)	組み立てを考えて読むことで、その内容が聞き手にしっかりとどけられるようにする。 KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第7回	紙芝居・ペープサート・パネルシアターを活かす。 (実践演習)	紙芝居・ペープサート・パネルシアターを実践するなかで、子どもに伝わりやすい技術に付ける。 KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第8回	絵本を読む (絵・絵本・本を読むこと。指導案の作成)	絵本についての基本的事項をおさらいし、その活動を指導案として作成する。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。 各自図書館へ行き、子どもの生活や発達段階にあった絵本を探し、読んでみる。	90分
第9回	絵本を読み聞かせる (伝えるように読むには)	絵本を読み聞かせる技術について学ぶ。伝えるように読むにはどのような配慮が必要か考えていく。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。 指導案で書いた絵本の読み聞かせの練習をする。	90分
第10回	絵本を今ここで子どもと共に読む (指導案の作成)	子どもの姿から考えた指導案の実際について考える。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。 予習として、図書館へ行き、素話の題材を探す。	90分
第11回	素話を語り聞かせ① (模擬保育)	素話を取り入れる際のポイントや配慮点について理解する。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。 選んだ素話の練習をする。	90分
第12回	素話を語り聞かせ② (模擬保育)	実際に素話を語り聞かせる経験を通して、その良さや自分の課題を見つける。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第13回	絵本の「先」を創る劇あそび① (模擬保育)	日常生活の遊びを劇遊びにつなげていく方法や、劇遊びによって日常生活の充実を目指す方法を考える。	授業で行った呼吸法、姿勢の基本を毎日意識して練習する。	90分
第14回	日常保育を統合する劇あそび② (模擬保育)	子どもの生活の中から出てくる劇遊びとはどのようなものか、その活動を支える支援について学ぶ。	次週の模擬保育で行う劇遊びについて、グループで練習を行う。	90分
第15回	文化財や機器を活かした劇あそび③ (模擬保育)	これまでの学びを総動員して、模擬保育を行う。その際、ICT機器を使ったり、影絵の技法を使ったりして、多様な可能性を考えて実践していく。	これまでの学びをまとめて定期試験に向けて復習しておく。	90分
第16回	定期試験	授業内容をもとに、定期試験を行う。	各自、理解不足だと思う点を復習する。	60分

学習計画注記

15回の授業のうち前半は保育内容の統合性を顕在化するために、KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案作成と模擬保育を行う。

学生へのフィードバック方法

前半は、演習・KVA祭に向けた準備・実践・振り返りという過程で学びます。特に保育内容演習表現および人間関係の授業と連携して行います。

	後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案の略案を手がかりとして学生が指導案を作成し、行為法を活用した模擬保育を行う。			
評価方法	平常点60%と定期試験の結果40%をもとに評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			
評価割合	授業時間内の参加状況・討論への参加・指導案・模擬保育などで統合的に判断します。(50%) 実技演習評価とレポート (50%) 総合して評価します。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。 必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書	特になし。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 呼吸法・姿勢の基本を理解し実践し、専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。児童文化財活用の基本や配慮点について知る。</p> <p>【思考・判断】 言語活動を通して、何をを目指すのかという点を、子どもの視点から考えていく事ができるようにする。</p> <p>【関心・意欲・態度】 常に子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく態度を養う。</p> <p>【技能・表現】 呼吸法や姿勢を意識しながら、声を出したり、それを人に届けることを楽しむ実践を行う。 児童文化財などを使い子どもに伝わりやすい技術や表現を工夫していく。</p>			
オフィスアワー	月曜 2限から 4限			
学生へのメッセージ	専門家の劇活動やお話活動などをできるだけ見たり聞いたりする機会を作りましょう。自分自身もKVA祭などに主体的に取り組んだり、人形劇や朗読など演じてみるなどの体験を積み、実力を身につけましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとのかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	前半はKVA祭の発表に向けて、演目のグループごとで演習を行う。		
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けた上で、信憑性のある情報か否かを判断する。		
ICT活用	○	ICT機器を活かした保育の実践について演習を通して考えていく。		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	保育内容演習人間関係 A (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	人間関係が希薄化しているといわれる現代において、乳幼児期に人とのかかわる力の基礎を培うことの重要性はますます増している。子どもが初めての集団生活を体験する場である保育所・幼稚園は、人とのかかわる力の基礎が育つ土壌であり、保育者が適切な支援を行うことが求められる。この科目では、乳幼児期の人間関係の発達を学び、人とのかかわる力を育てる保育のあり方について考えることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・領域人間関係のねらいと内容を理解する ・乳幼児期の人間関係の発達について基礎的知識を身に付ける
思考・判断の観点 (K)	・乳幼児期の人と関わる力を育む援助、保育について考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心を持ち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション:保育の基本と領域人間関係	保育・幼児教育の基本と領域人間関係の位置づけを理解する	〔予習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読む。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第2回	現代の子どもたちが育つ環境	現代の社会で育つ子どもたちの人間関係をめぐる問題について調べてきたことを基にグループディスカッションを行う	〔予習〕この50年で子どもの育つ環境がどのように変わってきたか調べまとめる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第3回	領域人間関係のねらい及び内容	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域人間関係の内容を理解する	〔予習〕要領、指針、教育・保育要領の領域人間関係を読む。それぞれの違い部分を確認する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分

第4回	乳児期における人とのかかわりの発達と保育者の援助	0, 1, 2歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助について、グループディスカッションも交えて学ぶ	【予習】1年次前期の「発達心理学」で学んだ乳児期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第5回	幼児期における人とのかかわりの発達と保育者の援助	3, 4, 5歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助についてグループディスカッションも交えて学ぶ	【予習】1年次前期「発達心理学」で学んだ幼児期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第6回	愛着と保育	愛着の発達、個人差、保育における愛着の問題について学ぶ	【予習】1年次前期「発達心理学」で学んだ愛着理論についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第7回	自立と依存	乳幼児期の自立と依存の関係について理解する	【予習】幼児期の自立と依存それぞれがどのような実際の子どもの姿に現れるか考える。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第8回	自己主張と自己抑制	乳幼児期の自己主張と自己抑制の育ちについて学ぶ	【予習】自己主張と自己抑制の発達について、1年次前期「発達心理学」のテキスト・授業資料の該当箇所を見直し確認しておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第9回	いざこざ・けんか	いざこざやけんかを通して学ばれることと保育者の援助について学ぶ	【予習】自分の思い出に残っている幼児期のケンカ・いざこざ、(あれば)保育者のかかわりを思い出し書いておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第10回	思いやりの発達	乳幼児期の思いやり・共感性の発達について学ぶ	【予習】事前配布プリントを読み、乳幼児期の向社会性・共感性の発達についての理論を概観する。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第11回	道徳性・規範意識の発達	乳幼児期の道徳性・規範意識の発達について学ぶ	【予習】事前配布プリントを読み、乳幼児期の道徳性の発達に関する理論にどのようなものがあるか知る。園生活における「お約束」にどのようなものがあったかを思い出し書き出す。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第12回	コミュニケーション能力の発達	乳幼児期のコミュニケーション能力の発達について学ぶ	【予習】現在の自分のコミュニケーション能力について、高いか低いか、何か課題を感じているか、振り返ってまとめる。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第13回	個と集団の育ち	保育の場における個と集団の関係、協同性の育ちについて学ぶ	【予習】集団生活を経験することでこそ育つ力は何か考えて書き出しておく。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第14回	気になる子へのかかわり	気になる子へのかかわりを考える	【予習】事前配布課題(事例を読み課題に答える)に取り組む。【復習】授業中に理解不	90分

			足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。		
第15回	人間関係を支える保育者の役割	子どもの人間関係を支える保育者の役割についてまとめる	〔予習〕これまでの授業資料を読み返しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分	
学習計画注記		授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。 ・課題は、事前課題への取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題は、授業到達目標の達成の程度を測るものとする。 ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	
	最終レポート	○	○		
評価割合		平常点 (30%) , 課題 (30%) , 最終レポート (40%) で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。			
参考図書		授業中に適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】領域人間関係、乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育、保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。			
オフィスアワー		水曜日 2限 1626研究室			
学生へのメッセージ		1. 演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2. 毎回授業内容を復習しておいてください。 3. 宿題とした課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	保育内容演習人間関係B (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	「保育内容演習人間関係B」は、保育現場において子どもも大人（保育者、保護者）も共に育ちあう「人間関係」をめざし、実践演習を中心に進める。具体的にはKVA祭という機会を実践の場として生かし、地域の子どもの対象とした劇制作と上演経験を通して、保育者自身のチームワークのあり方とチームアプローチの基礎を実践的に学ぶと共に、総合的な指導力と実践力の習得を本授業のねらいとする。
履修条件	特になし。 本授業は幼稚園教員免許取得者は必修、保育士資格取得者は選択になります。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. グループワークへの取り組みを通じ、メンバー間の役割分担と連携、チームワークのあり方を実践的に学び、保育者間の連携について理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	1. . 保育者として子どもたちにどのような保育活動を提供したらいいのか、「人間関係」という視点からの保育目標の設定、保育計画の立て方や保育者の役割について、実際に経験し考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 劇制作体験を通じて、保育者・教育者に必要な総合的な指導力と実践力を習得する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育者チームによるグループワーク(舞台公演制作活動)の計画	過去の活動をビデオで観て参考にしながら、自分が制作したい演目(種類)によりグループに分かれ、公演までの大まかな準備計画を立てる。	制作したい具体的な演目の素材を探す。	120分
第2回	劇等の制作活動に向けての準備計画と役割分担	演目の決定とグループ内の役割分担や具体的な準備計画を立てる。 制作のための必要な物品や材料について予算計画を立てる。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第3回				120分

	保育者間の連携のあり方を考える	制作準備を進める中で、より円滑に進めるための連携のあり方や協働のあり方について考え、実践する。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	
第4回	グループワーク① (劇等制作活動)	監督、脚本、演者、道具関連、照明、音響、広報等の担当者が情報共有し、相互に尊重しながら準備を進める。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第5回	グループワーク② (劇制作活動)	監督、脚本、演者、道具関連、照明、音響、広報等の担当者が情報共有し、相互に尊重しながら準備を進める。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第6回	グループワーク③ (劇制作活動)	監督、脚本、演者、道具関連、照明、音響、広報等の担当者が情報共有し、相互に尊重しながら準備を進める。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第7回	グループワーク④ (劇制作活動)	監督、脚本、演者、道具関連、照明、音響、広報等の担当者が情報共有し、相互に尊重しながら準備を進める。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第8回	グループダイナミクスを考える①	実践による練習を積み重ねていく中で、グループダイナミクスに気づき、保育者としての視点から捉えられる。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第9回	グループダイナミクスを考える②	自分のグループだけでなく、他のグループの進行状況にも関心をもって、そこで得た気づきを自分たちの活動に生かす。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第10回	グループダイナミクスを考える③	公演本番に向け、各グループの活動が相互に尊重されながらも、ひとつのまとまりのある活動として統合していく。	自分が担う役割に応じた準備作業を進める。	120分
第11回	劇発表	KVA祭において、自分たちは準備を進めてきた活動(劇等の制作)をひとつの成果として上演する。	公演当日に向けて、最終的な準備や確認作業を行う。	120分
第12回	劇等制作活動の上演のふりかえり	KVA祭で上演されたものを記録したビデオを観て振り返る。	劇等制作活動を通して得られた気づきや課題等をレポートにまとめる。	120分
第13回	子どもを支える保育者同士の人間関係	保育・教育現場等における保育者同士の人間関係に着目し、チーム内連携や集団内の関係機能について学ぶ。	作成中のレポートに今回の授業で学んだ視点を反映させる。	120分
第14回	子どもの人間関係の発達に保育者が果たす役割	保育・教育現場等の集団において、保育者が子どもの人間関係の発達果たす役割について考え、理解を深める。	保育・教育現場等で生じる子ども同士の葛藤場面等、さまざまな場面をまとめておく。	120分
第15回	まとめ	子ども同士や子どもと保育者、保育者同士の人間関係の視点から、日々の保育活動への理解を深める。	これまでこの演習授業で学んだことを総括する。	120分

学習計画注記	※ 履修者の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ※ 本授業は、一部の活動を「保育内容演習言葉B」「保育内容演習表現B」と連携し共同で行う。				
学生へのフィードバック方法	・グループワークに際しては、教員から適宜、助言を行い、質問や疑問へはその都度応えていく。				
評価方法	・レポートは、劇制作等のグループワークへの取り組みを通じて、自身の気づきや保育者としての学びをテーマとしたものとする。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	グループワークへの取り組み		○	○	
	レポート	○		○	
評価割合					

	グループワーク（劇制作活動および発表）への取り組み（20%）、レポート（70%）、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）（10%）、	
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。必要に応じて資料を配布します。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グループワークへの取り組みを通じ、メンバー間の役割分担と連携、チームワークのあり方を実践的に学び、保育者間の連携について理解を深める。</p> <p>【思考・判断】保育者として子どもたちにどのような保育活動を提供したらいいのか、「人間関係」という視点からの保育目標の設定、保育計画の立て方や保育者の役割について、実際に経験し考える。</p> <p>【関心・意欲・態度】劇制作体験を通じて、保育者・教育者に必要な総合的な指導力と実践力を習得する。</p>	
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室	
学生へのメッセージ	・劇制作活動への取り組みに向けて、自主的に演劇・音楽などの鑑賞を積極的におこなっておいてください。また、制作に必要な資料などを集め、グループのメンバーと計画案を練っておいてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は、保育・療育現場において子どもを対象としたグループ活動の指導経験を持つ。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークのうち、劇制作に際しては、学生が主体的に進めていくものとし、教員はそれを支えるスタンスとする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習環境A (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
非常勤講師	池田 仁人	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもを取り巻く環境は、保育者、保護者、友達等の人的環境及び玩具等の物的環境、自然環境や社会環境等子どもを取り巻くすべてが相互に関連しながら構成されている。子どもを取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す領域「環境」及び乳児保育における三つの視点に示すねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深める授業である。また、その指導のもととなる環境に対する感性を養い、必要な知識・技能を身に付ける。			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す「環境を通じた教育」の考え方を理解する。			
思考・判断の観点 (K)	領域「環境」に示すねらい、内容が実際の保育にどのように具現化するのかを考え、具体的にその方法を考案する。			
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)	乳幼児が楽しみながら身近な環境に関わり、親しむことのできる方法や内容を体験し、保育技術を身につける。			
学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	現代の子どもを取り巻く環境の概要について理解する。	現代の子どもにとって必要な体験と幼児期の体験が意味することを考え、小レポートにまとめる。	30分
第2回	環境を通じた教育	我が国の保育・幼児教育の基本的な考え方の一つである「環境を通じた教育」について理解する。	授業内容を復習し、環境を通して学ぶ幼児の姿についてメモをする。	30分
第3回	春の自然を体験する	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「サウンドマップ」、「サイレントウォーク」の実践を通して、自然環境に対する感覚を豊かにする。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気付いたことを記入する。	30分
第4回	春の自然と伝統行事	春の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。	春の自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	40分

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習環境B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	乳幼児が様々な環境と関わる姿や、環境から深い学びが実現する過程に目を向け、乳幼児の環境を通した学びの特性について演習を通して具体的に学ぶ授業である。また、このような乳幼児の発達の特長や環境を通した教育の重要性を踏まえ、学生が乳児保育における三つの視点、及び領域「環境」の示すねらいや内容、内容の取扱いについて、PDCAサイクルを意識しながら演習を通して理解し、修得することを目的とする。
履修条件	保育内容演習環境Bの単位修得していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	乳児期の環境との関わり的重要性を踏まえ、乳幼児の環境を通した学びの特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	環境を通した教育を行うための教材の活用について調査し、具体的な方法を考案する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児を取り巻く社会環境に目を向け、調査し、その現代的課題に対する対応に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	乳幼児を取り巻く環境に関する現代的課題を踏まえ、園生活における行事を計画し、他者が安心感や信頼感を持てるように表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」を参照しながら、乳幼児期の環境との関わり的重要性について考える。	授業内容を踏まえ、環境の影響の大きさについて日常生活の中で考える。	30分
第2回	秋の自然と伝統行事	ネイチャーゲーム「森の色合わせ」、「カメラゲーム」の実践を通して、自然環境に対する興味を喚起し、自然に対する気付きの重要性を理解する。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたこと、子どもに気付いてほしいことを記入する。	60分
第3回	秋の自然を体験する	秋の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。	秋の自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	30分
第4回	子どもの姿と記録	保育現場における保育の記録の実際を参照しながら、画像を用いたドキュメンテーションを作成する。	保護者へ伝えたいことを考えながら、ドキュメンテーションを完成させておく。	90分

第5回	子どもと環境	乳幼児が環境とかかわり姿から環境から学ぶ姿について理解を深める。	授業資料を参照しながら、授業内容を整理し、園内環境や乳幼児の姿の捉え方について考える。	30分
第6回	乳幼児の文字・数量との関わり	乳幼児が文字・数量とかかわる姿から、文字・数量に対する「感覚を豊かにする」ことの意味を理解する。	子どもの遊びの中にある文字・数量について考える。	30分
第7回	乳幼児の安全と環境	保育環境にある安全に対する配慮、災害に対する対応について考える。	ワークシートに授業内容と園での災害に対する対応について考察を記入する。	30分
第8回	園内環境①	【私たちの園を作ろう】様々な園の園舎や園庭を調査し、子どもにとって有意義な園内環境を考える。	各班で園庭や園舎を園パンフレットの形式で作成する。	30分
第9回	園内環境②	【私たちの園を作ろう】幼稚園設置基準・児童福祉施設最低基準等を調査し、園の保育方針、人的配置等を考える。	園パンフレットの形式で、園の概要について記入し、発表の準備をする。	90分
第10回	園内環境③	【私たちの園を作ろう】構想した園環境や保育方針・内容を発表し、保護者等の立場に立って討議する。	保護者の立場に立って、各班が考案した園の発表をどうとらえたか、どのような情報が有益だったかを等、気づいたことをワークシートにまとめる。	90分
第11回	園生活と社会環境①	【秋の遠足の立案】秋の遠足に適した場所を検索し、立案する。また、その内容を保護者向けのおたよりの形式でまとめる。	秋の遠足に適した場所を検索しておく。「チェックシート」、「保護者向けおたより」を完成する。	90分
第12回	園生活と社会環境②	【秋の遠足の立案】立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で発表する。保護者の立場に立ってねらいと内容を分かりやすく説明する。	発表の準備をする。秋の遠足のねらいと内容をどのようにわかりやすく説明するか、保護者に信頼感と安心感を得ることができる発表の方法を考える。	90分
第13回	園生活と社会環境③	【秋の遠足の立案】立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で、発表する。想定される保護者からの要望への対応を考える。	保護者の立場に立って、保育者に対する要望や子どもに対する配慮等について想定し、よりよく家庭と連携しながら、子どもを中心とした保育への実現について考える。	90分
第14回	冬の自然と伝統行事	冬の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。	冬の自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	30分
第15回	冬の自然を体験する	ネイチャーゲーム「マイクロハイク」、「木のシルエット」の実践を通して、子どもが自然環境に親しむための方法を考える。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたことや、子どもが自然に親しむための工夫について考え、記入する。	30分
学習計画注記		授業の進み具合により、変更する場合があります。		
学生へのフィードバック方法		提出されたワークシートはすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 園パンフレット、保護者向けおたより、発表はグループ討議の結果を反映させたものであり、各グループのメンバーが協働して作成したものを評価する。 学期末レポートは各自が作成したものを評価する。 それぞれ定められた提出期限を過ぎた場合には、減点の対象とする。 		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート	○	○	○	○
園パンフレット		○		○
保護者向けお便り		○		○
発表		○	○	○
学期末レポート	○	○		
評価割合	ワークシート(10%)、園パンフレット(10%)、保護者向けおたより(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	無			

参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書他授業内に適宜紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組む。</p> <p>【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	火曜日3-5限目	
学生へのメッセージ	「保育内容演習環境A」で学んだことを整理し、実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。 ・調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。また、園内環境や遠足に適した場所等の情報を収集し、思考・判断に有意な情報を選択する。
ICT活用	○	考案した園の概要や立案した秋の遠足を他者にわかりやすく説明するために、書画カメラ、ppt等の機器を活用する。

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	保育内容演習表現A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
准教授	立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)	乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学ぶ。様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通し、乳幼児の表現を支える保育者としての感性や表現力・創造性を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児の発達と表現の関係について関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	幼稚園教育要領の領域「表現」の章をよく読んでおくこと。	60分
第2回	乳幼児の素朴な表現の実際	事例を通して、乳幼児の表現の発達について考える。	テキスト第1部(第1章～第3章)を読んでおくこと。	60分
第3回	表現の源に出会う体験(1)身体への気づき	ノンバーバルコミュニケーションを中心としたいくつかのワークを通して、表現媒体・コミュニケーション媒体としての「身体」に気づく。	テキスト第4章を読んでおくこと。	60分
第4回	表現の源に出会う体験(2)多感覚を実感する	触り心地を音にする。音楽を描く。絵から音を作り出す。	「黄色い声」「尖った音」など、複数の感覚が重なった音の表現を探してみる。「共感覚」について調べておく。	90分

第5回	表現の源に出会う体験 (3) さわりごちマップ	様々なさわりごち(触感)を基に、身近な場所の特徴を視覚化するマップをつくる。統合的に働く感覚と造形表現の関連を理解し、教材選び・活動構成・環境づくりの意味を実体験する。	からだの感覚や経験から生まれる新しい見方・感じ方について、自身の経験や事例をあげて説明できるようにしておく。	60分
第6回	からだで感じて(1) 絵の具で遊ぶ	共同絵の具の特徴や用具の扱いから生まれる造形表現について理解し、活動や主題の構成・開発について可能性と課題を探究する。	共同絵の具や用具の種類、特徴などについて実践事例をあげ、活動の趣旨を整理しておく。	60分
第7回	からだで感じて(2) 音のマップ~環境との対話	サウンドウォークを体験する。自然の中、建物の中を歩き、そこに聞こえる音や音の響きに耳をすませてみよう。壁に耳を当てると、聴こえ方が違うかも知れない。右足と左足、音は同じかな?	サウンドウォーク、サウンドマップ、サウンドスケープをキーワードとした論文を検索し、読んでおく。	60分
第8回	からだで感じて(3) からだであらわずワーク	「なりたいものになる」ワークなど、即興的な身体表現に取り組み、表現活動を仲間とつくっていく楽しさや心地よさを味わう。	予習課題：身体表現としての「ふり」探し	60分
第9回	身近な素材の発見 (1) コラージュで遊ぶ	「形や色(造形言語)の引用」という観点から、創造的な造形表現の可能性を探究する。異なるものを結び重ねると生じる発想イメージの働きについて、体験的に理解する。	「~としてみる」「~であってもよい」という比喩的な見方・感じ方を活用する事例を探索し、子どもの認識発達と関連付けて説明できるようにする。	60分
第10回	身近な素材の発見 (2) つくって遊ぶ	身近で親しみのある材料を生かす造形表現の意義や可能性を探究する。製作とチームアプローチの討論から、諸材料(自然材料と人工材料・手に取れる材料と取れない材料、可塑性の有無で区別できる材料、透明・不透明材料など)の特徴を知り、活動構成と育てたい資質・感性・技能を考察する。	日常生活にある身近な材料を「自分の観点」で探す。(例：白いもの、光るもの、透明なもの、細長いもの) 集めた材料を授業に持参できるように、準備しておく。	60分
第11回	身近な素材の発見 (3) 音遊び・音づくり	手作り楽器の製作とアンサンブル。音のイメージを描き、それを音にしていく。そのあと、音で会話してみよう。どんな音の物語ができるかな?	手作り楽器を製作する。	120分
第12回	文化的・協働的表現 (1) 鑑賞から企画へ	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに企画する。	各自「企画案」を作成する。	120分
第13回	文化的・協働的表現 (2) 創造する	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに制作する。	グループ内で分担を決め、企画・制作に向けた準備等を行う。	240分
第14回	文化的・協働的表現 (3) 発表	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに発表する。	発表に向けてグループごとに準備・練習等を行う。	240分
第15回	総括	ポートフォリオをまとめながら学びの過程の振り返りを行う。	これまでの授業内容を総復習し、ポートフォリオ(学びの記録)を作成する。	120分

学生へのフィードバック方法	3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行していく。			
評価方法	各授業における課題(提出物、演習への取り組み、発表態度等)の評価とともに、「ポートフォリオ」によって本授業全体を通じた学びの過程と成果を総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○
評価割合	授業課題への評価(60%)、ポートフォリオによる評価(40%)			
使用教科書名(ISBN番号)	保育内容表現/吉永早苗他/光生館/2018 (978-4-332-70188-0)			

参考図書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「子どもの保育」における「表現」の位置付けを理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。	
オフィスアワー	(前期) 新開：金曜3限 1635研究室 吉永：前期月曜3限 後期水曜2限 1601研究室 立川：火曜4限 1926研究室	
学生へのメッセージ	保育士資格・幼稚園教員免許の必修科目です。実習などでのやむを得ない欠席の場合も、後日必ず学習内容を確認して、それぞれの課題に臨みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる課題への取り組みや発表など、さまざまな実践的ワークを通して主体的、能動的に学んでいく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育内容演習表現B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし
准教授	立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について、演習を通して具体的・体験的に学ぶ。前半は、総合的な表現活動体験として「わくわくシアター」の制作と発表に取り組み、保育者としての表現力・創造力の向上を図る。後半は、身体表現・造形表現・音楽表現など「表現遊び」のための事例研究・教材研究を通して、保育活動を具体的に構想し実践する力を養うことを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	1. 乳幼児の生活と実態に即した表現遊びについて構想することができる。 2. 表現活動を豊かにするための環境構成・指導法の工夫について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 総合的表現活動を作り上げていく過程において積極的に協働し、自分の役割を見つけて寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	1. 総合的表現活動への参加において、自分なりの感性、創造力、表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総合表現活動① 制作課題の目的・内容の確認、グループ分け	グループごとに制作課題・目的・内容について議論し、制作の方向性を確認しあう。	次回に向けて必要な準備を行う。	60分
第2回	総合表現活動② グループごとの題材選択、役割分担、活動プランの立案	題材を各自持ち寄り、話し合いの中で適切なテーマを選択する。役割分担と活動プランの立案を行う。	次回に向けて必要な準備を行う。	60分

	無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容 領域「表現」』萌文書林 2018 (978-4-89347-260-1)	
参考図書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領	
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】子どもと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機械を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。	
オフィスアワー	(後期) 新開：金曜3限 1635研究室 吉永：前期月曜3限 後期水曜2限 1601研究室 立川：木曜3限 1629研究室	
学生へのメッセージ	総合的な表現活動体験としてKVA祭「わくわくシアター」を企画・制作します。子どもたちの反応をリアルに得ることができ、子どもたちと一緒に表現活動を楽しみながら学べる貴重な機会です。後半の事例研究・教材研究も将来の保育実践につながるように主体的に取り組んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、国公立小学校教諭として従事した経験を有する。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省学習資料作成委員として教育委員会主催の現職教員の研究研修や地域行政・企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育課題に対応する知識や情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	自分たちで調べて企画・制作・発表したり、事例研究・教材研究を行います。グループワークも多く取り入れています。
情報リテラシー教育	○	活動をデジタル機器に記録・保存したり、トピック・エピソードを精選したりする活動を通して、情報管理や発信に関する倫理観、基本的な処理技能を高める。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーションを用いて、学習プロセスのドキュメンテーションや相互評価を行う。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3,4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 野田 日出子	指定なし

授業概要(教育目的)	保育の基本や保育方法にかかわる基礎的事項について、教科書を基にした講義、演習・実践などを通して授業を行う。保育での遊びや園生活全体における援助等を、幼児期の保育方法の理論と実践の両方から学び、保育者としての実践力を身につけることを目指す。子ども・保護者についての理解や保育者の役割について理解を深める。
履修条件	幼稚園教諭免許取得希望者は必修である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育の基本や保育方法にかかわる基礎的知識を確認する。 環境や子どもの興味関心・発達過程を総合的に考慮した「保育方法」の選択、実践ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育現場の多様化も視野に入れながらさらに広く学びを深め、子ども理解や保護者理解の視点から保育者の役割を考えられるようになる。
技術・表現の観点 (A)	学んだこと、実践したことを、教育実習・保育実習などの保育の現場で活かすことができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、保育方法とは何か	本科目の受講の仕方や学び方を確認し、保育方法について理解する。	受講後、教科書の第1章を読み、復習すること。	60分
第2回	保育の基本についての復習	幼稚園・保育所・こども園等の違いや共通事項を確認する。	2年次までの他の授業でも触れている部分などをもう一度見直し、復習する。	60分
第3回	保育方法、指導方法の考え方	様々な実習生の体験事例から、保育のあり方を考える。グループワークを通して、お互いの気づきを共有する。	教科書第1章第2節をよく読み返すこと。	60分
第4回	子ども理解からはじまる保育方法	第3回の事例から保育の方法を選択する際の基本的事項を学ぶ。	教科書第1章第4節をよく読んでおくこと。	60分
第5回	環境を生かした保育方法	保育の場における、環境の意味、保育者の意図や願いについて理解する。	教科書第3章を読み、復習しておくこと。	60分

第6回	個と集団を生かした保育方法	一人一人の発達への援助と、集団の育ちを促していくことについて考え、保育者の存在や役割を理解する。様々な保育実践事例と子どもの様子を実際に聞き、保育方法の視点から子どもへのかかわり方に関するイメージを持つ。	教科書第5章をよく読んでおくこと。	60分
第7回	子どもにふさわしい園生活と保育形態	様々な保育形態や、子どもの遊びの発展について学び、子どもにふさわしい園生活に関する理解を深める。	教科書第6章を読んで、子どもの遊びの捉え方、援助方法、発展性について復習しておくこと。	60分
第8回	現代の子どもを取り巻く状況①	国内外の様々な場所で起きている子どもに関する問題や現状について、幅広い視野と関心を持って調べ学習を行う。	ニュース、新聞、インターネット等で、関心の高かった話題を取り上げ、自分なりに背景を探り、考察する。	120分
第9回	現代の子どもを取り巻く状況② (グループワーク)	第8回で調べ、まとめたことを、各グループで報告し合う。また、それぞれの考えを出し合うことで視点を多く持ち、子どもについての理解や保育者の役割を確認する。	グループワークでの気付きをレポート(1000字以内)にまとめておくこと。	60分
第10回	小学校との交流活動のデザイン	幼稚園・保育所と小学校との交流について、必要性や現状を知り、連携のあり方を考える。	教科書第11章をよく読んでおくこと。	60分
第11回	配慮を要する子どもへの保育方法	近年増加している外国とつながる子どもや保護者への支援のあり方について、様々な事例を基に考える。	教科書第12章をよく読んでおくこと。	60分
第12回	実践課題① (年齢・発達に応じた教材)	実習で使用できる教材の作成について学ぶ。子どもたちの前に立ち、自己紹介する場面を想定し、教材を考え製作する。 対象年齢を設定し、子どもの年齢や発達にふさわしい教材を考える。	様々な素材や道具を調べ、必要なものを準備するとともに構想・アイデアを練る。	90分
第13回	実践課題② (様々な教材・素材)	第12回で考えた教材を、実際に製作する。他の学生アイデアなどにも目を向けて、意見交換しながら保育者としての視点で製作する。	その都度、工夫、改善案などを自分なりにまとめておくこと。	90分
第14回	実践課題③ (ねらいに基いた教材と実践)	第13回に続き、自己紹介の教材を製作する。他の学生のアイデアなどにも目を向けて、意見交換しながら保育者としての視点で製作する。実践の練習も行い、声の大きさや表情、教材の色合いや大きさなど、様々な配慮についても考える。	実践発表に向けて、十分に練習を行うこと。	60分
第15回	実践発表、学習のまとめ	製作した自己紹介の教材を用いて、各グループごと発表し合う。(模擬保育) 学習の総まとめを行う。	実際に、実演してみてもいいこと、他の学生の発表から気付いたことなどを、各自まとめて整理しておくこと。	60分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業で使用するワークシートはその都度提出し、次週以降にコメントを記載して返却する。また、全体にフィードバックした方がよいと思われる内容は、次の授業で取り上げ、解説したり共に考える場を設けたりする。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席状況・参加態度について評価をする。 ・授業で配布するワークシートは、授業終了時に毎回提出し、内容の理解について確認をする。 ・期末試験では、第2回～11回の授業までのテストを実施する。保育方法における知識・理解について確認する。 ・第12回～15回までの実践課題への取り組みと発表も評価対象とし、技術・表現において確認する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	期末試験	○	○		
	実践課題の発表	○	○		○
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験 (50点) ・ 実践課題の発表 (20点) ・ 出席・授業参加態度・課題提出 (30点) 				
使用教科書名 (ISBN番号)					

	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保育講座6 保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則・森上史郎 編（ミネルヴァ書房） ・幼稚園教育要領、保育所保育指針 	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「子どもの保育」「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技術・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	なし	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、幼稚園教育要領、保育所保育指針等をよく読んでおくこと。 ・国内外における子どもを取り巻く状況に関心を持ち、様々なニュースを見たり読んだりしておくことよい。 	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	障がい児保育 (PA)		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中野 佐世子	指定なし
非常勤講師	上出 香波	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。</p> <p>障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども (self - help needed person) であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。</p> <p>このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	<p>講義の初回から毎回出席し、意欲的に学ぶ姿勢のある者。</p> <p>話し合い、発表を行うため、他者とのコミュニケーションが積極的に取れる者。</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	個々の障害について正しく理解し、保護者と共に子どもの発達を促せる保育者になる。
思考・判断の観点 (K)	障害児の成長を促すため、今どのような助けが必要となるのかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害を身近な問題としてとらえ、社会の中の障害者への関心が高まる。
技術・表現の観点 (A)	保護者への伝え方、提言の仕方を考え、保育者のアドバイスを受け入れてもらえる伝え方が身につく。手話ソングや手話によるゲームをする技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	「障害」の とらえ方 - 「障害」と は	障害とは何か?を 身近なマークなどから学ぶ	教科書P-17を読んで復習	60分
第2回	「障害」の とらえ方 - 「障害児と は」「要助 児の概念」	身体障害、知的障害、精神障害・発達障害の概要を学び、障害児についての理解を深める	教科書P-4, 5を読んで復習をする	60分
第3回	障害に応じ た保育支援 視覚障害 I	視野の発達と障害、色覚の発達と障害について学び、援助方法、保護者への伝え方などについて学ぶ グループ討議をして発表する	教科書P-10, 11を読んで復習 ネットで<色覚多様性>について確認をする	90分

第4回	障害に応じた保育支援 視覚障害Ⅱ	視力の障害について学び、援助・ガイドの方法を理解する	教科書P-12, 13を読んで復習する 身近にあるユニバーサルデザインについて調べる	90分
第5回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅰ	耳の構造を学び、聞こえのしくみと聴覚障害について理解する	教科書P-6, 7を読んで復習する 「みみ展」を検索し、聞こえ方についての理解を深める	90分
第6回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅱ	聞こえないことと話せないことの関係について学び、二次的な障害（話せない、日本語の獲得が難しい）について理解を深める	配布したプリントを読み復習をする	60分
第7回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅲ	聴覚障害児、難聴児とのコミュニケーション方法や留意点について学ぶ	教科書P-8, 9を読んで復習をする	60分
第8回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅰ	肢体不自由の種類や状態、介助する場合の留意点について学び、理解を深める DVDを視聴	視聴したDVDについてレポートを作成する	90分
第9回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅱ	肢体不自由者の目に見えない障害について理解し、園活動における留意点を学ぶ	教科書P-14を読んで復習する	60分
第10回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅰ	知的障害について学び、理解する DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	120分
第11回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅱ	知的障害の特性を学び、それぞれの特性に合わせた援助方法を理解する 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第12回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅰ	発達障害の種類やその特性について学ぶ DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	90分
第13回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅱ	発達障害の特性に合わせた援助方法や留意点について学ぶ 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第14回	障害児を取り巻く保育の現状と課題 補助犬について	今まで学んできたことを踏まえ、改めて障害児保育の現状と課題について学ぶ 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について理解し、園活動における留意点について学ぶ（DVDを視聴）	配布したプリントと教科書P-15を読んで復習をする	90分
第15回	生活動作に関する具体的な保育技術 家庭への支援、家庭との連携と協力	障害の特徴に応じた生活動作（食事動作、排泄動作、行為動作など）に関する具体的な保育技術について学ぶ 家庭への支援、家庭との連携と協力について考え、留意点について学ぶ プリントを配布し、グループ討議、発表をする	プリントを読んで復習 試験に向けてこれまでの総復習をする	120分

学習計画注記	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後学習20時間			
学生へのフィードバック方法	講義の最後にリアクションペーパーに感想や考察、疑問点を記入し提出。 講師はこれを添削し、コメントを記載して返却する。 また、必要なことに関しては、全体に向けても再度説明を行い、講師と学生の意見交換をすすめる。			
評価方法	リアクションペーパーの内容、平常点、定期試験等で評価を決定する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	

	グループ発表	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	
評価割合	平常点30% レポート20% 試験50% の割合で評価する (平常点とは、授業での積極的な態度や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。)				
使用教科書名 (ISBN番号)	①「手話ソングブック ～ともだちになるために～」 すぎき出版 新沢としひこ 中野 佐世子 共著 ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。800円(税込)				
参考図書	・手話ゲームブック/新沢としひこ他/すぎき出版				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障害児の専門職における必要な知識・技能を有することができる。 ・障害児に対する総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、子ども及び保護者への支援ができる。 ・講義を通してコミュニケーションの取り方の基本を身につけ、子ども及び保護者に対して円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・多様化する障害に対して興味関心を持ち続け、先入観を持たず、今、目の前にいる子どもから学ぼうとすることができる。 ・子どもや障害に関する知識と技術を修得し、社会貢献できる以下の能力（基礎的な能力・知識・技術）を有することができる。 ・手話の学習を通して、豊かなコミュニケーション能力が身に付き、それを保育で実践できる 				
学生へのメッセージ	<p>保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。 実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。</p> <p>テキスト②の「ハッピーコミュニケーションのすすめ」は、書店での取り扱いがないため、講義の中で販売します。</p>				
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
	実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児総合医療療育センターで勤務した経験を活かし、様々な障害および支える家族の問題について伝える。 ・NHK手話ニュースキャスター、手話通訳として活動している経験を活かし、手話の楽しさ、保育における有用性について伝える 		
	アクティブ・ラーニング	○	・グループトークを行い、発表する		
	情報リテラシー教育	○	・毎回のリアクションペーパーを通して、考察の導き方、書き方を説明する		
	IGT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	障がい児保育 (PB)		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 上出 香波	指定なし
非常勤講師	中野 佐世子	指定なし

授業概要 (教育目的)	<p>障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。</p> <p>障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども (self - help needed person) であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。</p> <p>このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。</p>
履修条件	<p>講義の初回から毎回出席し、意欲的に学ぶ姿勢のある者。</p> <p>話し合い、発表を行うため、他者とのコミュニケーションが積極的に取れる者。</p>

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	個々の障害について正しく理解し、保護者と共に子どもの発達を促せる保育者になる。
思考・判断の観点 (K)	障害児の成長を促すため、今どのような助けが必要となるのかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害を身近な問題としてとらえ、社会の中の障害者への関心が高まる。
技術・表現の観点 (A)	保護者への伝え方、提言の仕方を考え、保育者のアドバイスを受け入れてもらえる伝え方が身につく。手話ソングや手話によるゲームをする技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	「障害」の とらえ方 - 「障害」と は	障害とは何か？を 身近なマークなどから学ぶ	教科書P-17を読んで復習	60分
第2回	「障害」の とらえ方 - 「障害児と は」「要助 児の概念」	身体障害、知的障害、精神障害・発達障害の概要を学び、障害児についての理解を深める	教科書P-4, 5を読んで復習をする	60分
第3回	障害に応じた 保育支	視野の発達と障害、色覚の発達と障害について学び、援助方法、保護者への伝え方などについて学ぶ	教科書P-10, 11を読んで復習 ネットで<色覚多様性>につい	90分

	援 視覚障害 I	グループ討議をして発表する	て確認をする	
第4回	障害に応じた保育支援 視覚障害 II	視力の障害について学び、援助・ガイドの方法を理解する	教科書P-12, 13を読んで復習する 身近にあるユニバーサルデザインについて調べる	90分
第5回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害 I	耳の構造を学び、聞こえのしくみと聴覚障害について理解する	教科書P-6, 7を読んで復習する 「みみ展」を検索し、聞こえ方についての理解を深める	90分
第6回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害 II	聞こえないことと話せないことの関係について学び、二次的な障害（話せない、日本語の獲得が難しい）について理解を深める	配布したプリントを読み復習をする	60分
第7回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害 III	聴覚障害児、難聴児とのコミュニケーション方法や留意点について学ぶ	教科書P-8, 9を読んで復習をする	60分
第8回	障害に応じた保育支援 肢体不自由 I	肢体不自由の種類や状態、介助する場合の留意点について学び、理解を深める DVDを視聴	視聴したDVDについてレポートを作成する	90分
第9回	障害に応じた保育支援 肢体不自由 II	肢体不自由者の目に見えない障害について理解し、園活動における留意点を学ぶ	教科書P-14を読んで復習する	60分
第10回	障害に応じた保育支援 知的障害 I	知的障害について学び、理解する DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	120分
第11回	障害に応じた保育支援 知的障害 II	知的障害の特性を学び、それぞれの特性に合わせた援助方法を理解する 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第12回	障害に応じた保育支援 発達障害 I	発達障害の種類やその特性について学ぶ DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	90分
第13回	障害に応じた保育支援 発達障害 II	発達障害の特性に合わせた援助方法や留意点について学ぶ 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第14回	障害児を取り巻く保育の現状と課題 補助犬について	今まで学んできたことを踏まえ、改めて障害児保育の現状と課題について学ぶ 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について理解し、園活動における留意点について学ぶ（DVDを視聴）	配布したプリントと教科書P-15を読んで復習をする	90分
第15回	生活動作に関する具体的な保育技術 家庭への支援、家庭との連携と協力	障害の特徴に応じた生活動作（食事動作、排泄動作、行為動作など）に関する具体的な保育技術について学ぶ 家庭への支援、家庭との連携と協力について学ぶ プリントを配布し、グループ討議、発表をする	プリントを読んで復習 試験に向けて今までの総復習をする	120分

学習計画注記	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後学習20時間
学生へのフィードバック方法	講義の最後にリアクションペーパーに感想や考察、疑問点を記入し提出。 講師はこれを添削し、コメントを記載して返却する。 また、必要なことに関しては、全体に向けても再度説明を行い、講師と学生の意見交換をすすめる。
評価方法	リアクションペーパーの内容、平常点、定期試験等で評価を決定する。
評価基準	
評価基準	
評価方法	知識・理解 (K) 思考・判断 (K) 関心・意欲・態度 (V) 技術・表現 (A)

リアクションペーパー	○	○	○	
グループ発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点30% レポート20% 試験50% の割合で評価する (平常点とは、授業での積極的な態度や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。)
使用教科書名 (ISBN番号)	①「手話ソングブック ～ともだちになるために～」 すずき出版 新沢としひこ 中野 佐世子 共著 ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。800円(税込)
参考図書	・手話ゲームブック/新沢としひこ他/すずき出版
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障害児の専門職における必要な知識・技能を有することができる。 ・障害児に対する総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、子ども及び保護者への支援ができる。 ・講義を通してコミュニケーションの取り方の基本を身につけ、子ども及び保護者に対して円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・多様化する障害に対して興味関心を持ち続け、先入観を持たず、今、目の前にいる子どもから学ぼうとすることができる。 ・子どもや障害に関する知識と技術を修得し、社会貢献できる以下の能力（基礎的な能力・知識・技術）を有することができる。 ・手話の学習を通して、豊かなコミュニケーション能力が身に付き、それを保育で実践できる
学生へのメッセージ	<p>保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。 実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。</p> <p>テキスト②の「ハッピーコミュニケーションのすすめ」は、書店での取り扱いがないため、講義の中で販売します。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児総合医療療育センターで勤務した経験を活かし、様々な障害および支える家族の問題について伝える。 ・NHK手話ニュースキャスター、手話通訳として活動している経験を活かし、手話の楽しさ、保育における有用性について伝える
アクティブ・ラーニング	○	・グループトークを行い、発表する
情報リテラシー教育	○	・毎回のリアクションペーパーを通して、考察の導き方、書き方を説明する
ICT活用		



シラバス参照

講義名	保育実践演習		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	児童学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げるための授業である。最終日にはこれらの実践活動を振り返り発表する。具体的には以下のような点を念頭に置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する科目横断的な学習である。 ・保育に関する現代的課題について取り上げ、現状分析や考察、検討を行う。 ・子どもに関する問題解決のための対応や判断について子どもを中心に置いて考え、討議する。 ・これまでの自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得に関する確認と新たな課題を生成し、「反省的实践家」「学び続ける保育者」となるための基礎を培う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	学生自らが保育者としての自分の在り方について考え、現代的課題を多角的に分析し、解決するために求められることを考察する力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に必要な、専門的知識及び技術、教養、判断力、専門職としての倫理観等の資質能力が形成について最終的に確認し、補う。 ・地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げる。
技術・表現の観点 (A)	あるテーマのもとに調査、研究、討議の内容を他者にわかりやすく表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実践演習ガイダンス	これまで得られた児童学の学修をもとに、保育士に必要な資質能力について考える。	ワークシートの作成	45分
第2回	調査研究・討議	次の①～⑥のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座(講座内容が保育分野であったときのみ)	実施レポートの作成	45分

		④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ		
第3回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第4回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第5回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第6回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第7回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第8回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第9回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第10回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第11回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第12回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第13回			実施レポートの作成	45分

	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ		
第14回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第15回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第16回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第17回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第18回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第19回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第20回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第21回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第22回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第23回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③	実施レポートの作成	45分

		特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ		
第24回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第25回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第26回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第27回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第28回	調査研究・ 討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第29回	研究発表	保育実践演習報告会の準備及び実施（ポスターセッション）	本科目における学修内容をポスターにまとめる。	90分
第30回	研究発表	保育実践演習報告会の準備及び実施（ポスターセッション）	本科目における学修内容をポスターにまとめる。	90分

学習計画注記	各ゼミ担当教員の指導の下、外部機関と連携しながら学習を進めること。				
学生へのフィードバック方法	学生が作成・提出したものは、授業担当者である各ゼミ担当者が添削し、返却する。フィードバックを通して、学生が、学修した内容を「どのように学んだか」「どう捉え、考えたか」の視点で深め、教員は保育士としてのキャリアアップにつながるような助言を与える。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出物、報告会の発表内容等を対象に評価を点数化する。 各ゼミ担当者が評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実施レポート		○	○	
	報告会の発表内容		○	○	○
評価割合	実施レポート60%、ポスター発表40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	無				
参考図書	保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。				

		<p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>
オフィスアワー		<p>和田：前期、後期ともに月曜日2-4限目 中田：前期は火曜日3-5限目、後期は火曜日2-3限目</p>
学生へのメッセージ		<p>指導担当教員と事前によく相談し、年間計画を立てて、グループで協働して主体的に地域貢献活動を進めていくことを望む。</p> <p>保育士資格取得 必修</p>
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち2名は、保育士として実務経験を有しており、保育士に必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学外でのボランティア等の活動、見学、子どもや保護者との関わりを通して、現代的課題について理解を深める。
情報リテラシー教育	○	子どもや保育に関する諸問題について、様々な情報を収集するが、その情報の発信元や発信の目的等に目を向け、問題を解決するのに有益で信頼性のある情報が否かを判断する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	算数科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要(教育目的)

まずは、学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）について解説する。次に、学びの連続性の観点から、小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し、特に躓きやすい分野については再考するとともに、これらを分かりやすく指導するにあたって教師に必要とされるより深い数学的内容について解説する。また、幼小連携・接続、保小連携・接続等の観点から、就学前算数（インフォーマル算数）についても扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	発達の連続性を意識した就学前の算数に関する遊びを提案できる。小学校および中学校課程レベルの問題を解くことができるだけでなく、教えることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	新学習指導要領の概略、就学前算数と数学の概論	小学校学習指導要領解説算数編および幼稚園教育要領解説の中で算数に関するポイントを学び、今後何を学ぶべきかを明らかにする。	予習：小学校学習指導要領解説算数編の第1章「総説」および第2章「算数科の目標及び内容」に目を通すこと。さらに、幼稚園教育要領解説の第1章「総説」および第2章「ねらい及び内容」第2節3の「環境」に目を通すこと。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら、授業で学んだことを整理する。	180分
第2回	就学前算数1(数、量)	0歳児から5歳児までの数と量に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って、発達段階に応じた数や量に関する遊びを考え始める。	180分
第3回	就学前算数2(図形、論理)	0歳児から5歳児までの図形と論理に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って、発達段階に応じた図形や論理に関する遊びを考え始める。	180分

第4回	就学前算数3 (発達段階に応じた連続的な遊びの提案1)	発達段階に応じた数や量に関する遊びの例を紹介する。	復習：中間テストに向かって、発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	240分
第5回	就学前算数4 (発達段階に応じた連続的な遊びの提案2)	発達段階に応じた図形や論理に関する遊びの例を紹介する。	復習：中間テストに向かって、発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	240分
第6回	数と計算1 (数の体系, 四則演算, 記数法)	数の体系, 四則演算, 記数法, 筆算を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第7回	数と計算2 (因数分解, 二次方程式や不等式)	文字式, 恒等式と方程式, 因数分解, 二次方程式や二次不等式を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第8回	測定および変化と関係1 (量, 単位)	離散量と連続量, 量の性質, 単位を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第9回	測定および変化と関係2 (単一量と複合量, 割合, 比)	単一量と複合量, 割合 (同種, 異種), 比を学ぶ	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第10回	測定および変化と関係3 (表とグラフ, 関数)	表とグラフから始めて, 関数を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第11回	図形1 (平面幾何)	様々な平面図形とその性質, 面積について学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第12回	図形2 (立体幾何)	様々な空間図形とその性質, 体積を学ぶ。ユークリッド幾何およびリーマン幾何についても紹介する。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第13回	図形3 (図形の合同, 図形の相似)	図形の合同, 図形の相似, 論証幾何を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第14回	データの活用1 (平均値, 分散, 箱ひげ図)	まず, 平均値, 中央値, 最頻値を学ぶ。次に散らばりを見る分散, 箱ひげ図を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第15回	データの活用2 (場合の数, 確率)	場合の数および確率 (条件付確率, ベイズの定理を含む) を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分

学生へのフィードバック方法	予習・復習で扱う課題について、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室 (emailも可) まで訪問すること
評価方法	<p>1. 就学前算数の遊びの提案 (中間テスト) 第1回から第3回で学習した内容を踏まえて、3歳児から5歳児の数、量、図形、論理に関する具体的な遊びを提案する。その際、子どもの発達段階に応じた連続的な遊びであるかを評価する。</p> <p>2. 定期テスト (期末テスト) 各回で学習した内容の類題を出題する。テスト中は教科書や参考書の持ち込みは不可とする。</p> <p>3. 課題</p>

* テストや課題は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
遊びの提案 (中間テスト)	○			
定期テスト (期末テスト)	○			
課題	○			

評価割合

遊びの提案(30%)、定期テスト(30%)、課題(40%)

使用教科書名 (ISBN番号)

小学校学習指導要領解説算数編 (平成29年告示) (ISBN:978-4-536-59010-5)
幼稚園教育要領解説 (平成30年3月) (ISBN:978-4-577-81447-5)

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、算数・数学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12:30～14:00
後期：水曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

算数・数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として、あるときは小学生として、算数・数学を考えてほしい。
授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気軽に1625研究室 (emailも可) まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	生活科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校教育課程の生活科で取り扱われている基本的事項について理解を深める。身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目標にした生活科教育の特性を理解し、幼保小の接続のあり方を視野に入れながら学ぶ授業である。そのため、可能な限り、学内や学外での踏査を通じた演習を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童を対象とした生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得する。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などのかかわりについて実践例を通して意義と内容を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・我が国の小学生の生活	諸外国の子どもと我が国の子どもの生活や社会経験・自然体験について、調査結果をもとに理解し、小学校教育の中でできることを探る。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第2回	幼稚園教育と小学校教育の接続について	幼児教育・小学校教育の制度・内容・子どもの学び方等について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第3回	生活科創設の経緯と意義	生活科創設の経緯を理解するとともに、現在の子どもの取り巻く環境や学校教育における課題に即して、生活科の位置づけや意義について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第4回	学校と生活			90

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学内及び学外を踏査、見学を行う。また、学内において、自然と関わる演習を行う。
情報リテラシー教育	○	環境教育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用	○	第4回目の授業「学校と生活」では、学内を踏査し、発見したもの等を画像を用いて伝える。その際には、デジタルカメラやパソコンを利用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	音楽科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、乳幼児期の音楽表現の指導から小学校の音楽科の指導に関する知識と実践について解説する。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域（歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり）の内容について理解を目指す。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、学生自身の音楽実践力の向上を図る。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	幼児・児童期の音楽的発達について理解する。音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわるとともに、表現することを楽しむ。わが国や諸外国の音楽に触れることを楽しむ。
技術・表現の観点 (A)	曲想と音楽の構造等の関わりについての理解、音楽表現に関する知識・技能、小学校音楽科学習指導要領にある【共通事項】に関する知識を用いて音楽表現を工夫したり、音楽づくりをしたりすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション: 音楽教育の意義と目的①	保育・学校教育における音楽教育は何を目指すのか	保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校音楽科学習指導要領等の関連箇所を読んでおく。	150分
第2回	音楽教育の意義と目的②	保育・音楽科教育の当たり前を疑ってみることを通し、保育者・小学校教師に求められる音楽的資質について考える。	保育者、小学校教師に、なぜピアノ実技が求められるのか考えてみる。また、「小学校音楽科・図画工作科を廃止し、表現科を設置する」となった時の、メリット・デメリットを考えておく(ディベート準備)。	150分
第3回	音楽教育の意義と目的③	小学校音楽科に関するマイクロディベート	論題に対する肯定側及び否定側立論を考える。	240分
第4回	子どもと音楽表現①身	事例に基づきながら解説を行う。写真や映像を視聴することを通し、子ども理解を深める。	テキスト第2章を読んでおく。	150分

	の回りのもの・楽器			
第5回	子どもと音楽表現② 声・歌唱	事例に基づきながら解説を行う。写真や映像を視聴することを通し、子ども理解を深める。	テキスト第3章を読んでおく。	150分
第6回	歌唱についての知識・技能②	声遊びからボイスアンサンブルへ。発声法について学ぶ。	テキスト第4章第2節の内容について予習しておく。	150分
第7回	歌唱についての知識・技能②	情景が伝わるように童謡を歌う。	1・2年次に使用した『ピッコリーノ』に収録された曲を復習しておく。	240分
第8回	歌唱についての知識・技能③	合唱の実践を通し、アンサンブルの美しさを感じ、合唱指導の基礎知識を学ぶ。	パート練習をしておく。	240分
第9回	音楽を通しての学校づくり	合唱指導を通し、クラス・学校づくりに取り組んできた実践家の、授業づくりに関する特別講義	合唱が発表できるよう、パート練習・全体練習を行う。	240分
第10回	サウンドエデュケーション	聴くことの教育とその実践方法について、体験を通して理解する。	テキストの第1章、第5章の通読。	150分
第11回	アンサンブルの基礎知識	ボディーパーカッションを通してその基礎知識を学ぶとともに、アンサンブルの教育的意義を考える。	課題曲の予習。	150分
第12回	音・音楽のコミュニケーション	身の回りのものを使った即興表現	テキスト第4章第3節の内容について予習しておく。	150分
第13回	音楽づくりの基礎知識	図形楽譜を描き、紙を使って音楽作品を制作する。	図形楽譜について調べる。様々な素材の紙を収集する。	240分
第14回	器楽についての基礎知識	保育・小学校音楽で使用する楽器について、実践を通してその基礎的な知識・技能を身につける。	リコーダーの練習をしておく。	150分
第15回	指揮法の知識・技能	既習曲を用いて指揮法の基礎的な知識を学び、実践を通してその基礎技能を習得する。	合唱指揮あるいはオーケストラの映像を探し、指揮の様子を視聴しておく。	150分

学習計画注記	学習内容により、教室を移動することがあります。																									
学生へのフィードバック方法	リフレクションシート、レポートは採点して、次週の授業で返却します。リフレクションシートに記載された質問事項についても、次週にお答えします。																									
評価方法	<p>評価の視点は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートやベアトークに積極的に参加し、その内容に自分の考えを反映させてレポートやリフレクションシートが書かれているか。 ・幼児期の音楽表現活動のねらいや、小学校音楽科の目標が理解されているか。 ・表現活動に積極的に取り組み、基礎的な技能の習得につとめているか。 ・音楽の基礎的な知識を理解し、音楽表現や音楽の授業プランへの応用を考えることができているか。 																									
評価基準																										
評価基準																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>作品発表</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ディベート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>リフレクションシート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	レポート	○	○			作品発表	○		○	○	ディベート	○	○	○		リフレクションシート	○	○	○	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																						
レポート	○	○																								
作品発表	○		○	○																						
ディベート	○	○	○																							
リフレクションシート	○	○	○																							
評価割合	リフレクションシート (40%) 作品発表 (20%)、ディベートおよび期末レポート (40%) で評価する。																									
使用教科書名 (ISBN番号)	無藤隆監修 吉永早苗著 「子どもの音感受の世界」 萌文書林 2016																									
参考図書	<p>保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省</p>																									

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 子どもの保育・子どもの教育・子どもの文化としての音楽についての知識を修得する。</p> <p>【思考・判断】 音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもの豊かな成長・発達の姿を想定して、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる。</p> <p>【技術・表現】 協働して音楽表現に取り組むことにより、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。</p>															
オフィスアワー	<p>前期 月曜日 3限 1601 後期 水曜日 2限 1601</p>															
学生へのメッセージ	<p>教科教育の基礎を学ぶとともに、音楽実践として合唱、合奏を行います。積極的な参加と自主的な練習を期待します。</p>															
教育等の取組み状況																
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="204 645 363 701"></th> <th data-bbox="371 645 435 701">該当有無</th> <th data-bbox="443 645 1412 701">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="204 712 363 768">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="371 712 435 768">○</td> <td data-bbox="443 712 1412 768">豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 779 363 835">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="371 779 435 835">○</td> <td data-bbox="443 779 1412 835">音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 846 363 902">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="371 846 435 902">○</td> <td data-bbox="443 846 1412 902">音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="204 913 363 949">ICT活用</td> <td data-bbox="371 913 435 949"></td> <td data-bbox="443 913 1412 949"></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。	アクティブ・ラーニング	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。	情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。	ICT活用			
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。														
アクティブ・ラーニング	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。														
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	国語科教育（書写を含む）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮津 大蔵	指定なし

授業概要(教育目的)

学習指導要領をもとに、小学校国語科の教科構造、目標、内容等について幅広く考察することによって、実際に授業を行うために不可欠な知識や方法論を身につける。

概要：

- ・小学校国語科の教科構造、目標、内容について
- ・国語科各領域の現代的課題について
- ・授業設計の際の課題、留意点について
- ・学習者評価、授業評価における課題、留意点について

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校国語科の歴史的変遷及び、現代国語科の構造と課題について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	現代国語科教育の課題を踏まえたうえで、課題解決を目指した国語科授業を構想することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ディスカッションに積極的に参加することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	構想した授業プランを国語科学習指導案の形式で表現することが出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	シラバスに基づくガイダンス	学習の見通しをもつ	小学校の時の国語科学習を振り返る	240
第2回	小学校国語科の構造	小学校国語科がどのような構造になっているか及びどのような目標・内容になっているかについて理解する。	学習指導要領を読み込んでおく	240
第3回	国語科の目標、内容	小学校国語科がどのような構造になっているか及びどのような目標・内容になっているかについて理解する。	指導要録の国語科の内容について読む	240
第4回	国語科の教育課程	指導要録を参考に他教科と国語科の比較を行う。	指導要録で各教科の比較を行う。	240
第5回	学習指導要領の変遷	学習指導要領の国語科の変遷について理解する。	配布資料を読み込む	240
第6回	各領域の課題①	話す・聞く領域の課題について知る	配布資料を読み込む	240

第7回	各領域の課題②	書くこと領域の課題について知る	配布資料を読み込む	240
第8回	各領域の課題③	読むこと領域の課題について知る	配布資料を読み込む	240
第9回	各領域の課題④	言語事項領域の課題について知る	配布資料を読み込む	240
第10回	国語科授業設計の課題	学習指導案を検討する。	国語科学習指導案について読み込む	240
第11回	国語科教材研究の実際	教師用指導書を資料に教材研究を行う。	教師用指導書を読み込む	240
第12回	国語科授業観察・評価の課題①	授業記録をもとに授業観察・評価の実際を行う。	配布資料を読み込む	240
第13回	国語科授業観察・評価の課題②	前時をさらに習熟する。	配布資料を読み込む	240
第14回	書写指導留意点	書写指導の実際について理解する。	配布資料を読み込む	240
第15回	まとめと評価	まとめと学習到達度の確認	配布資料を読み込む	240

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説

評価方法 略案と正式の書式の二回の国語科学習指導案が適切に書けているかどうかで評価する。グループワークやディスカッション等で積極的にコミュニケーションを図っているかどうかで平常点を加算する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		○
観察・発言・プレゼン等			○	

評価割合 平常点 (40%) レポート (60%)

使用教科書名 (ISBN番号) 「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省
その他のものは随時、資料を配布する。

参考図書 必要に応じて指示。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあひ学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる
・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている
【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる
・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

学生へのメッセージ 必要に応じてグループワークやディスカッションを行います。積極的に参加してください

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教員として27年間実務経験があり、他大学で10年間同様の講義を担当している

アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッションを積極的に行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	体育科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもたちの健康の維持・増進、体力の向上及び健康な生活を維持するための基本の習得は小学校体育の目標です。体育科教育の各運動領域の特性について理解し、それぞれの領域の指導方法や展開について学びます。学習指導案の作成と模擬授業の展開から体育科教育の実践力を養います。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校における体育科の授業を展開できる。
思考・判断の観点 (K)	児童の求めている授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体育科の授業について関心を持ち、積極的に教えることができる。
技術・表現の観点 (A)	小学校体育科の授業において、実技の模範を示す技術をもっている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校教科教育「体育科教育」の目的	体育は、すべての子どもたちが、生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けることをねらいとすることを理解する。	小学校体育について文部科学省の体育科指導要領を通読しておく。	120分
第2回	指導計画と指導案作成	指導案に基づいた授業指導の手順を整理し、授業の展開を理解する。	指導案に基づいた指導の手順と、授業準備について理解しておく。	120分
第3回	模擬授業準備	模擬授業に必要な用具、生徒の動き、授業展開時の教員の位置、授業時配布物の確認を理解する。	授業準備と授業に必要な用具の点検、資料の用意、振り返りシート等の確認をする。	120分
第4回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅰ	アイスブレイクを中心とした遊びを取り入れた授業の展開を理解する。	授業に参加する児童の気持ちを理解しておく。次回の授業に期待するように授業を展開することを理解しておく。	120分
第5回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅱ	マット運動の授業展開を理解する。	柔軟体操の必要性、授業中の教員の位置、順番を待つ児童の位置、観察のポイント等について理解しておく。	120分

第6回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅲ	跳び箱の授業展開を理解する。	授業教材の的確な選択、踏み切り板の位置、マットの正しい位置、事故防止への配慮等について理解しておく。	120分
第7回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅳ	バトンパスの授業展開を理解する。	バトンパスの段階を追っての指導法を理解しておく。	120分
第8回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅴ	陸上競技のハードルの授業展開を理解する。	インターバルの適切な距離、振り上げ足、両腕の役目等について理解しておく。	120分
第9回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅵ	陸上競技の走り幅跳びの授業展開を理解する	助走、踏み切りの合わせ方、踏切角度、両腕の役目について理解する。	120分
第10回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅶ	ボールゲーム（サッカー）の授業展開を理解する。	パスの種類、脚・足の使いかた、両腕のバランス、軸足の役目について理解しておく。	120分
第11回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅷ	ソフトボールの授業展開を理解する。	ボールの握り方、手首、腕、肩の使い方、上体の使い方、遠投について理解しておく。	120分
第12回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅸ	バスケットボールの授業展開を理解する。	ドリブルとパスについて理解しておく。	120分
第13回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅹ	縄跳びの授業展開を理解する。	様々な跳び方について理解する。単縄や大縄を使用しての縄跳びを使ったゲームを理解しておく。	120分
第14回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅺ	第5学年「けがの防止」（けがの手当）について授業展開を理解する。	「病気の予防」（生活行動がかかわって起こる病気の予防） 「病気の予防」（地域の様々な保健活動の取組）等について理解しておく。	120分
第15回	模擬授業の整理	模擬授業の整理をし、ふりかえりをする。	指導案の作成、授業資料の作成、授業展開について整理しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎時間展開される模擬授業に児童として参加し、教師役の学生の授業を評価できる。自身の授業の計画や実施に、そのフィードバックを効果的に使うことが可能である。
評価方法	1. 指導案の作成への取り組み、2. 指導案、3. 指導案にもとづいた授業の展開、4. 授業の振り返り、5. 授業への積極的な参加の5点からの総合評価とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	1. 指導案の作成への取り組み（20%）、2. 指導案（20%）、3. 指導案にもとづいた授業に展開（20%）、4. 授業の振り返り（20%）、5. 授業への積極的な参加（20%）の5点からの総合評価とする。
参考図書	文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】小学校体育科の目的や具体的な指導方法について理解している。 【思考・判断】児童に対応した授業の構成ができる。 【関心・意欲・態度】児童の積極的に行う。 【技術・表現】小学生の体育科授業で取り上げる教材の模範演技ができる。
オフィスアワー	月曜日4時限目
学生へのメッセージ	子どもに体育を教えることの重要性和必要性について、基本的な考え方を身につけて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	児童が運動の方法やゲームのルールを積極的に修得するように、様々なメディアを用いて自ら学習するようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	運動やスポーツの理解をするために、PC等を用いた授業を展開する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 石塚 綾子	指定なし

授業概要(教育目的)

・新学習指導要領に沿って、小学校社会科の目標及び内容、授業方法等について指導する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・小学校社会科の目標と内容(各学年の単元構成)を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業形態・指導方法の有効性について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	・「授業のまとめと振り返り」において、わかったことをまとめ、そこから考えたことを文章にまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ活'トレーニング'・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	・小学校社会科の目標と内容の全体像をつかむ。	・教科書1~30、150~151、167~178ページを読んでおく。	90分
第2回	第3学年の目標と内容	・第3学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	・教科書31~47ページを読んでおく。	90分
第3回	第4学年の目標と内容	・第4学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	・教科書48~69ページを読んでおく。	90分
第4回	第5学年の目標と内容	第5学年の目標と内容	・教科書70~96ページを読んでおく。	90分
第5回	第6学年の目標と内容	・第6学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	・教科書97~134ページを読んでおく。	90分
第6回	主体的・対話的で深い学びと問題解決的学習	・主体的・対話的で深い学びを実現するための授業形態としての問題解決的学習の進め方を知り、指導計画作成上の位置づけを理解する。	・教科書135~138ページを読んでおく。	90分
第7回	インクルーシブ教育や	・社会科授業を進める上での障害のある児童への配慮、特別な教科「道徳」との関連性を意識した指導のあり方について理解する。	・教科書139~141、195~203ページを読んでおく。	90分

	道徳との関連性			
第8回	地域の実態を生かした社会科学学習	・地域学習の重要性と進め方、地域人材の活用法について理解する。	・教科書141～142ページを読んでおく。	90分
第9回	社会科学における言語活動の充実	・主体的・対話的で深い学びを実現する学習形態（ペア学習、グループディスカッション、ディベート等）の重要性について理解する。	・教科書141～142ページを読んでおく。	90分
第10回	社会科学におけるICT機器の活用	・ICT機器を活用した効果的な資料提示方法や、児童が調査活動をする際のデジタルカメラ等の活用、インターネットを活用した資料収集、学習成果を発表する際のプレゼン方法等について理解する。	・教科書143～146ページを読んでおく。 ・スマートフォン又はタブレットを持っている人は持参する。	90分
第11回	社会科学における地図指導	・地図帳の活用の重要性と活用方法について理解を深める。	・教科書138、152～153ページを読んでおく。 ・地図帳を持っている人は持参する。（小学校で使用した物でもそれ以外でも可）	90分
第12回	社会科学における調査活動	・地域学習におけるフィールドワークのさせ方や、課題解決に向けた調べ学習の進め方について理解する。	・教科書152～153ページを読んでおく。	90分
第13回	社会科学における表現活動	・学習成果（新聞、作品、プレゼンテーション等）のまとめ方や発表方法について理解する。	・自分が体験してきた小学校社会科学授業における学習成果のまとめ方について、発表できるようにしてやる。	90分
第14回	児童主体の学習形態	・教師が前面に出ない、児童主体の授業の進め方について理解する。	・前時で提示された課題について自分の意見をまとめ、発表できるように準備してやる。	90分
第15回	指導と評価の一体化	・毎時間の授業の最後に「まとめと振り返り」を位置づけ、評価に生かす方法を理解する。	・教科書148～153ページを読んでおく。	90分

学生へのフィードバック方法	・毎時間、授業の最後に5～10分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとり、評価して次週の授業にて返却する。
評価方法	・毎時間、授業の最後に5～10分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとり、評価して次週の授業にて返却する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
参加態度・発言等			○	○
授業のまとめと振り返り	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	・参加態度・発言等（25%）、授業のまとめと振り返り（25%）、定期試験（50%）
使用教科書名 (ISBN番号)	・『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』（文部科学省発行）
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・【知識・理解】「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 ・【思考・判断】家族・地域・社会と共同しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 ・【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 ・【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献する。
学生へのメッセージ	・現在「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改革が進められている。旧来の暗記中心の座学型授業形態から脱し、アクティブな授業形態のあり方を学び、その重要性に気付けるようにしていきたい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
	○	

実務経験を活かした授業		・担当教員は公立小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきた。児童の意欲を高める導入のあり方や学習課題への取り組みせ方のポイントを具体的に示しながら、わかりやすく指導していきたい。
アクティブ・ラーニング	○	・学習者が能動的に学ぶ方法として、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ばせたい。
情報リテラシー教育	○	・調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点（情報モラル）等について具体的に紹介し理解させたい。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	理科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

授業概要(教育目的)	理科の学習では、子どもが自然に対して興味・関心をもち、問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をすることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに関心を持たせるかについても考える。
履修条件	「生活科教育」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童が科学的なものの見方や考え方を育てるように指導する知識を得ることが出来る。
思考・判断の観点 (K)	自身が科学的な思考の基本である客観的な考え方やそれに基づいた判断が出来て、それを児童に教えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	科学教育への関心、意欲、態度を持つことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	小学校理科のVTR映像や講義中の実験を通して、児童に対して適切な表現が出来るようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション(小学校理科の初歩的知識の確認1)	「昆虫の体」(第3学年B領域「身の回りの生物」), 「ヒトの体」(第6学年B領域「人の体のつくりと働き」), 「月の動き」(第4今後, 小学校理科を教えるに当たり, 学年B領域「月と星」, 第6学年B領域「月と太陽」), 「流水のはたらき」(第5学年B領域「流れる水の動きと土地の変化」) について基本的な知識を問う課題を行って, 小学校理科の内容をどのくらい理解しているかを確認する。	時間中に作成した課題について, 各自で正解を調べ, 間違っている部分を訂正する。同時に周辺知識についても調べ, 最も興味深い現象についてまとめる。	180分
第2回	小学校理科の初歩的知識の確認2	前回の課題について各自で調べた正解について説明する。また, 一緒に調べた周辺知識について紹介・発表する。	発表を聞き, 最も興味の持った事象と最も興味の持てなかった事象について, その内容と興味を持った理由を書く。	180分
第3回	学習指導要領内容の変遷と現在の小学校「理科」の目的	学習指導要領の変遷と平成30年度から一部改訂が実施されている小学校学習指導要領について, 変更点などを解説する。	予習: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.1~11を読む。復習: 授業内容の確認。	180分

第4回	小学校理科教育の目標と内容1	理科の教科目標について、理科的な見方・考え方、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力について解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.12～19を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	小学校理科教育の目標と内容2	理科の内容構成（学年進行）について解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.20～26を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	学年進行を経験する（植物の成長を例として）	学年目標の構成・内容の基本的な考え方を解説し、植物の成長を例として、VTR映像を使って学年進行を体験する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.27～28を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	各学年の目標と内容1	第3学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.29～44を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	各学年の目標と内容2	第4学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.45～60を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	各学年の目標と内容3	第5学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.61～74を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	各学年の目標と内容4	第6学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.75～93を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	理科教育における体験的な学び1	「A.物質・エネルギー」区分の電気の働きについて、第3学年の「電気の通り道」に関連する簡単な実験を行い、理科教育における体験的な学びについて理解する。	予習：配布したテキストを読み、実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第12回	理科教育における体験的な学び2	「A.物質・エネルギー」区分の電気の働きについて、第4学年の「電流の働き」に関連する簡単な実験を行う。さらに第6学年の「電気の利用」に結びつけるように理科教育における体験的な学びについて理解する。	予習：配布したテキストを読み、実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第13回	社会教育施設との連携について1	小学校学習指導要領中の「指導計画の作成と内容の取扱い」中にある、博物館や科学館との連携について解説する。また、次回に見学する見学テーマ（学習目標）を決める。	予習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」p.94～103を読む。予習：国立科学博物館のHPで展示の概要を調べる。	180分
第14回	社会教育施設との連携2	パソコンを使って国立科学博物館のHPで見学テーマ（学習目標）に合わせた見学ルートの検討する。	見学コースの検討。	180分
第15回	社会教育施設との連携3	国立科学博物館での学習目標に沿った見学を行う。見学後に展示を巡る見学ルートの再検討を行い、実際に児童との見学を想定し、フィードバックする。	見学レポートの作成。	180分

学習計画注記 博物館の見学先は、国立科学博物館（最寄り駅JR上野駅、東京メトロ上野駅、京成上野駅）を予定。上野駅までの交通費と入館料（620円）が必要となる。なお、3時間程度の見学を予定しているので、土日、祝日、補講日での見学となる。

学生へのフィードバック方法 発表については、解説と評価を口頭で伝える。レポート・提出物に関しては、コメントを返す予定。

評価方法 レポート・提出物、平常点の総合評価（平常点は授業への取り組み状況等で総合的に判断する）。授業内での提出物、レポートを出す予定である。授業に出席しなければ提出物は提出できないので注意すること。また、博物館の見学をするが、見学に参加しないとレポートは書けないので、注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
提出物	○	○	○	
発表	○			○

授業への取り組み（平常点）				○	
評価割合	レポート・提出物（80%），平常点（20%）の総合評価。				
使用教科書名（ISBN番号）	小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月（978-4-491-03463-8）				
参考図書	適宜，授業中に紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が習得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】本学科の特徴ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り，子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>				
オフィスアワー	月曜日1時間目 2309室				
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査項目に関する発表と評価。			
情報リテラシー教育	○	PCを利用した見学先の情報入手。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	国語科教育法（書写を含む）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深瀬 須美子	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校における国語科教育の位置づけと役割、国語科の目標と内容を、教育にかかわる法、社会情勢を含めて理解する。指導するにあたって必要な基本的事項、小学校の低学年、中学年、高学年の各々の発達にふさわしい指導内容、主体的に学ぶ児童を育成し、思考力、判断力、表現力を身に付ける国語指導のありかたについて実践的に学習する。

具体的には、小学校国語科教育の目標と内容、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材研究の実際、国語科授業展開の方法、書写指導の方法、学習評価のあり方等を、優れた授業の記録や、小学校の取り組み事例をもとに模擬授業や討論などにより学び、児童の視点に立ち、主体的な学びをひきだす国語科授業法を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校国語科の目標と内容を関連付けて授業方法の説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	小学校国語科の目標の背景、発達段階、児童の視点を根拠として、指導の在り方について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国語科教育の目標と児童の視点、主体的学びを意識して授業に参加している。
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領、学習教材、読書教材を授業づくりに生かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講座ひらき 15時間の 学びの見 通し	主体的な学びの指導者をめざし、目指す授業イメージ、指導者像をつかみ、自らの学びの目当てと意欲をもつ。	毎回、配布するレジメを読み、整理してファイルし持参する。途中、出された課題を期日までに提出する。	180分
第2回	学校教育に 求められて いること	現代社会が学校教育に求めていること、法が求めている教育について理解する。	小学校指導要領解説「国語編」総説を読んでおくこと P1～P10	180分
第3回				180分

	小学校国語科教育の目標	小学校国語科学習指導要領解説を読み、国語科教育の目標を理解する。 学習指導要領を読み、児童の発達段階の概要と学習の系統について知る。	小学校指導要領解説「国語編」国語科の目標を読んでおくこと P11～P15 P196～p207	
第4回	小学校国語科学習指導要領解説の読み方と国語科の内容	小学校国語科学習指導要領解説の読み方を知り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域と、言語活動を通して指導事項を指導することを知る。	小学校指導要領解説「国語編」を読んでおく。 P16～P39	180分
第5回	小学校の国語科の授業の実際(1) 「話すこと・聞くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「話すこと・聞くこと」言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 説明する スピーチをする 討論する	小学校指導要領解説「国語編」 「話すこと・聞くこと」を読んでおく。 P28～, P57～, P94～, P132～	180分
第6回	小学校の国語科の授業の実際(2) 「書くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「書くこと」言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 手紙を書く 説明文を書く 新聞を作る 俳句・短歌・詩を書く	小学校指導要領解説「国語編」 「書くこと」を読んでおく。 P32～, P63～, P101～, P139～	180分
第7回	小学校の国語科の授業の実際(3) 「読むこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「読むこと」言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 音読する 物語を読み、感想を交流する 本を紹介する、推薦する	小学校指導要領解説「国語編」 「読むこと」を読んでおく。 P36～, P67～, P108～, P146～	180分
第8回	小学校の国語科の授業の実際(4) 書写 読書 漢字指導	書写、漢字指導、読書を取り入れた授業のあり方を優れた実践例をもとに一部、体験も取り入れながら理解する。	小学校指導要領解説「国語編」 を読んでおく。 P16～P27	180分
第9回	学ぶ意欲を引き出す授業づくりと学習評価の概要	児童の学ぶ意欲を引き出す授業作りのあり方と学習評価の目的、概要について理解する。	今まで配布された資料等を、授業で活用できるようファイルしておく。	360分
第10回	教材研究と授業計画づくり1	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、体験とグループ討論を通じて理解する。	第10回における教材研究、グループ討論をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第11回	教材研究と授業計画づくり2	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、グループ討論を通じて理解し、学習指導案本時案、細案を作成する。	第10回における教材研究、グループ討論をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第12回	教材研究と授業計画づくり3	細案をもとに、教師役と児童役に別れ実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を完成させて持参する。	180分
第13回	教材研究と授業計画づくり4	細案をもとに、教師役と児童役に別れ、実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を持参する。	180分
第14回	学んだことの振り返り 目指す国語の授業像、教師像、学びの目標の確認	今までの学びを振り返り、わかったこと、わからないことを整理するとともに、これから自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を確認する。	振り返り記入をするので前回までのレジメを読み返し、わかったこと、わからないことを整理するとともに自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を考察しておく。	180分
第15回	まとめ	前回の振り返り、疑問点、国語の授業像、教師像などを交流し、今後の学びの目標をもつ。グループ討論で解決できなかった疑問点を質問し、確かな学びを得る。		

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることもあります。 配布資料は、さかのぼって使用することがあります。○回○月○日配布と記入し、ファイルしておき資料整理、活用力も身に付けて下さい。
学生へのフィードバック方法	

	振り返りカードに書かれた振り返りや質問、提出課題などに、評価またはコメントを記入し返却する。																											
評価方法	<p>毎回、自身の取組の振り返りや、授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し、記述することで思考力・判断力・表現力を確認する。 最後の全体振り返りは、記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で、得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。</p> <p>知識・理解 振り返り、提出課題記述内容 授業中の取組 思考・判断 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組 関心・意欲・態度 授業への取組 課題への取組 記述内容</p>																											
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振り返り記述内容</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>提出課題記述内容</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>授業への取組</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	振り返り記述内容	○	○	○	○	提出課題記述内容	○	○	○	○	授業への取組	○	○	○	○					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																								
振り返り記述内容	○	○	○	○																								
提出課題記述内容	○	○	○	○																								
授業への取組	○	○	○	○																								
評価割合	<p>授業への取組 30% 振り返り記述内容 40% 提出課題への取組と記述内容 30%</p>																											
使用教科書名 (ISBN番号)	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省																											
参考図書	言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省																											
ディプロマポリシーとの関連	関心・意欲・態度 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。																											
学生へのメッセージ	生涯、主体的に学び続ける人の育成が求められています。学ぶために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科はさらに重要となってきています。そして指導するためには、児童との信頼感が土台となります。日ごろから、探求心をもって主体的に学び、読書しましょう。そして、児童の気持ち、思いに寄り添える、信頼される教師となるために、常にどうすればよいか考え、互いの考えの交流を行い、自らを振り返ることを大切にしながら、学んでいきましょう。																											
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>小学校教諭経験を生かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。	アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																										
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。																										
アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。																										
情報リテラシー教育																												
ICT活用																												

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校の社会科の目標・内容を確認し、子どもたちに如何に授業を行うか、その要点をのべる。また社会科誕生（戦後に誕生した新しい科目である）から現在に至る、すぐれた社会科授業を分析し、遺産を学びたい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領と実際の教科書の「比較ができること。教師の工夫や子ども理解に即して、社会科教育の編成が出来ること。
思考・判断の観点 (K)	社会科の基礎は社会科学の基礎にもとづく。学問的な基礎の上で、実際の教育現場の応用が可能なように思考と判断力の形成が重視される
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

社会科教育府

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	社会科教育法とは何か	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第2回	社会科の誕生	戦前の修身、地理、国史	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第3回	社会科の誕生	戦前の教科書	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第4回	社会科の誕生	戦後教育改革と社会科の誕生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第5回	社会科の誕生	山びこ学校	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分

第6回	社会科の誕生	社会科と日本国憲法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第7回	社会科と地域	戦後日本社会の発展と社会科の課題	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第8回	学習指導要領と社会科	社会科学学習指導要領	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第9回	学習指導要領	社会科の構成	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第10回	学習指導要領	目的と方法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第11回	社会科の目的	社会科3年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第12回	社会科の目的	社会科4年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第13回	社会科の目的	社会科5年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第14回	社会科の目的	社会科6年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第15回	社会科の目的	社会科の評価と方法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分

学生へのフィードバック方法	KGノート（家庭学習の一と）を作成するよう指示する。講義で作成されたノートを、自宅で再度、読み直し、テキストや資料の文章を、書き写して、知識の定着を確かなものにする。KGノートの点検を時々行うことを学生に周知させる。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	KGノートと定期試験（レポート）の、総合評価
------	------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験（レポート）	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	授業への出席、発言、レポートの提出、試験など総合評価。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編
-----------------	--------------------------

参考図書	講義の中で適宜、紹介する。
------	---------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識を得ることができる 思考・判断力、ありうべき人間と教育の姿を追究し、判断力を形成できる
---------------	-----------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜4限
---------	------

学生へのメッセージ	小学校課程の免許取得希望者は、例年、30数名でるので、ゼミ形式を採用している。講義をただ受けるという姿勢ではなく、積極的に、参加する態度が絶対に不可欠である。また、予習など、事前の準備をきびしく要求する。日本とはどのような国家なのか、その点を、これまでの教科書はどのように子どもたちに教えようとしてきたのか、その点の基本学習を積んでおくことが重要である。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	算数科教育法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

授業概要(教育目的)

学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）を読み解くことで、各領域の学習内容や指導方法そして評価方法について理解し、実際に子どもを指導できる力を養成する。そのために、教材研究、指導案の作成、模擬授業、協議会を通して、実践的な授業力や指導力を養う。関連して、模擬授業では、教材・教具（ICTを含む）を、その有効な役割を理解できるように、積極的に活用する。
また、現場の小学校教員による特別講義を提供することで、算数科をとりまく今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深めるための機会をつくる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校および中学校課程の問題を解くことができるに留まらず、その問題の背景や系統的な視点で教えることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考をもって算数授業や学級運営等の中でみえる様々な課題に対応することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	算数教育, 新学習指導要領と算数科の目標	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育, ICTを用いた算数教育, カリキュラム・マネジメントに基づく算数教育, 算数教育のユニバーサルデザイン, 数学的活動の重視の観点から算数科の目標を確認する。	予習: 教科書第1章と第2章(1ページから25ページ)に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習: 予習で指定した箇所を読み直ししながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第2回	「A 数と計算」の指導	「A 数と計算」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習: 教科書第3章(27ページから61ページ)に目を通すこと。適宜, 小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習: 予習で指定した箇所を読み直ししながら, 授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分

第3回	「C 測定」の指導	「C 測定」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第5章（87ページから94ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第4回	「C 変化と関係」の指導	「C 変化と関係」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第6章（97ページから105ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第5回	「B 図形」の指導	「B 図形」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第4章（65ページから85ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第6回	「D データの活用」の指導	「D データの活用」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第7章（109ページから124ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第7回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価1	算数の授業づくりにおける学習指導の視点を学ぶ。	予習：教科書第8章（127ページから130ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第8回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価2	評価と指導，学習指導案の作成方法を学ぶ。	予習：教科書第9章（135ページから144ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第9回	模擬授業と協議会1（1年生）	1年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第10回	模擬授業と協議会2（2年生）	2年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第11回	模擬授業と協議会3（3年生）	3年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第12回	模擬授業と協議会4	4年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案	180分

	(4年生)		に目を通して、その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し、省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	
第13回	模擬授業と協議会5 (5年生)	5年生の学習内容において、模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は、授業者の授業の指導案に目を通して、その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し、省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第14回	模擬授業と協議会6 (6年生)	6年生の学習内容において、模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は、授業者の授業の指導案に目を通して、その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習；協議会の内容を整理し、省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第15回	特別講師による種々の教育法の提案および模擬授業と協議会	特別講師から、算数科をとりまく現場の今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について学ぶことで、授業における教師の役割についての認識を深める。	予習：事前に告知された課題に取り組む。 復習：授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う報告書や模擬授業後の提案については、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室 (emailも可) まで訪問すること。また、模擬授業実施にあたっては、授業時以外の時間で、指導案検討等の模擬授業ための指導を行う。			
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導案作成 内容を評価する。 2. 模擬授業 模擬授業の内容と協議会のやりとりを評価する。 3. 課題 毎回の復習時に取り組む報告書や、模擬授業後の省察や授業の改善案の提案の内容を評価する。 <p>* 上記の評価項目は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。</p>			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
指導案作成	○			
模擬授業と協議会	○			○
課題	○			
評価割合	指導案作成 (30%)， 模擬授業と協議会 (40%)， 課題 (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	小学校学習指導要領解説算数編 (平成29年告示) (ISBN:978-4-536-59010-5) 小学校算数科教育法 (ISBN:978-4-7679-2112-9)			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を、算数・数的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】 学修で得た算数・数学的知識・技術をもって、算数授業や学級運営、さらには人間社会や自然の中に見える課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。</p>			
オフィスアワー				

	前期：水曜日12:30~14:00 後期：水曜日12:30~14:00															
学生へのメッセージ	算数・数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として、あるときは小学生として、算数・数学を考えてほしい。 授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。 必修（小）															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく、現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深める。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また、協議会等では、学生同士で活発な議論を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>模擬授業時は、積極的にICTの活用をする。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく、現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深める。	アクティブ・ラーニング	○	模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また、協議会等では、学生同士で活発な議論を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用	○	模擬授業時は、積極的にICTの活用をする。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく、現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深める。														
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また、協議会等では、学生同士で活発な議論を行う。														
情報リテラシー教育																
ICT活用	○	模擬授業時は、積極的にICTの活用をする。														

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	理科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもに対して、理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには、子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では、子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学生へのフィードバック方法

1. 授業前半は、講義形式で行うが、授業後半は、学生同士の話し合いを中心に授業を進める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合

授業でのポートフォリオ作成 (30%)，平常点 (30%)，事後テスト (40%) の結果より評価する。(平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)

使用教科書名 (ISBN番号)

森本信也・森藤義孝著「小学校理科の指導」第2版，建帛社 2018年4月に改訂版が出版される。

参考図書

森本信也著「考える力が身につく対話的な理科授業」，東洋館出版社，ISBN-10: 4491028869
ISBN-13: 978-4491028866

ディプロマポリシーとの関連	木曜午前にしか出講していない。まずは、atkuroda@kanto-gakuin.ac.jpのメールにて受け付ける。	
学生へのメッセージ	理科教育法を受講するための準備として、身の回りにある自然や科学について考える習慣をもってほしい。また、将来、皆さんが向き合う小学生は、それについて如何に考えるだろうかという見方・考え方も養ってもらいたい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
IGT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生活科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 池田 仁人	指定なし

授業概要(教育目的)	生活科の成果と課題の検討、授業参観を通して授業構成の原理を探究し、生活科の授業を計画・実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上をはかる。また、学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校教育における生活科の役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活科における子どもの見方、支援の仕方について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	模擬授業及びその準備に積極的に参加する。
技術・表現の観点 (A)	指導案作成を通し生活科授業を構成する力および生活科の活動計画を作成する力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活科の理念と目標	生活科で育てたい子ども像や生活科の役割について解説する。	学習指導要領解説生活編を熟読し、生活科の目的や育てたい子ども像について具体的に捉えておく。	160分
第2回	生活科の現状と課題	現在の生活科が置かれている状況、問題点などについて解説する。	生活科成立までの歴史や現在の問題点などについて調べておく。	120分
第3回	生活科の授業例の紹介	生活の理念に沿った学習展開の例を紹介する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理する。	180分
第4回	授業の実際	ビデオ視聴を通し、授業の見方や授業展開上の疑問点などを整理する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理すると共に生活科を構成する上でわからないことなどを整理しておく。	180分
第5回		教材開発から単元計画の立て方について解説し、生活科単元の骨組みを考える。	自らの生活科の経験を振り返り、どのような活動がどのよう	180分

	生活科の指導計画の解説①		な目的の下に行われたかについて考察する。	
第6回	生活科指導計画基礎資料作成	生活科マップ・カレンダー等の作成及び機器の活用について解説する。	校外や実際の町に出て、活用できそうな教材をピックアップする。	200分
第7回	生活科の指導計画の解説②	単元目標の設定の仕方について解説し、実際に計画を立てる。	教材を設定し、単元の枠組みを考えておく。 授業後、生活科の理念を反映させて単元目標を修正していく。	240分
第8回	生活科の指導計画の解説③	指導観、教材観、児童観について解説する。	主に指導の流れについて修正を加える。 扱う教材について下調べをしておく。	180分
第9回	生活科の指導計画の解説④	全体指導計画の立案について解説し、実際に単元計画を立てる。	指導の流れや教材観をもとにし、授業中に立てた単元の計画を修正していく。	180分
第10回	生活科の指導計画の解説⑤	本時の授業計画案作りについて解説し、実際に一時間の計画を立てる。	指導計画や子どもへの投げかけを想定し、指導案の修正をする。また、教材の調べ活動も引き続き行う。	180分
第11回	生活科の指導計画の実践①	各グループ(若しくは個人)で授業計画を立案する。	授業では各々が持ち寄った指導計画をもとに模擬授業で用いる授業を検討するので、その準備を行う。	180分
第12回	生活科の指導計画の実践②	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第13回	生活科の指導計画の実践③	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第14回	模擬授業	PC・プロジェクター・ICレコーダーなど視聴覚機器も活用しながら授業計画を元にして役割分担して授業(活動)を行う	役割分担の練習を行い、授業の準備をする。 授業後はどの点が良かったか、また良くなかったかについて考察する。	180分
第15回	模擬授業の反省まとめ	導入の仕方、支援などの観点に基づいて反省を行う。 その他、生活科を中心に据えた低学年学級経営などについて解説する。	模擬授業の反省をまとめ、低学年指導の仕方について考察する。	180分

学生へのフィードバック方法	単元計画や単元目標、指導観など、その時間で立てた計画等は回収し、添削を加えて返却することにより、指導案作りの力が身につくようにしていく。
---------------	----------------------------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で作成した単元目標、指導観や単元計画など(授業内のレポート)と完成した指導案で総合的に評価する。 模擬授業の完成度を評価に加える。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内レポート	○	○		○
指導案	○	○		○
模擬授業			○	

評価割合	授業内レポート(20%)、指導案(70%)、模擬授業(10%)
------	---------------------------------

参考図書	小学校学習指導要領解説生活編
------	----------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている</p> <p>【技能・表現】 本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p>
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

生活科は特に学級経営・子ども支援に影響のある科目です。低学年教師になったつもりで取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は小学校教員経験者である。実際の授業や低学年指導の様子を話しながら、イメージしにくい生活科の授業について教授していく。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を行ううえで、学生同士で内容を検討しながら学びを進めていく。また、実際に低学年が行う活動を体験し、実体験の重要性などについて理解する。
情報リテラシー教育	○	季節や地域の特長を活かすために、図書資料、映像資料、文献等を検索し、活用する。
ICT活用	○	模擬授業に於いて、導入に視聴覚機器を用いるなどして子どもの関心を呼び起こすようにする。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	音楽科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について、目標・内容・指導計画等と対応させながら理解を深める。様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指し、子どもにとって実りある授業づくりを探究する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容について理解する。 小学校音楽科学習指導要領の内容について理解する。
思考・判断の観点 (K)	小学校音楽の授業を構成し実践するための授業感を形成する。 児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を身に付ける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童に伝えたい音楽を探究する。
技術・表現の観点 (A)	小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学習指導要領解説①	日本の音楽教育の歴史、教育目標・育成を目指す資質能力について	小学校音楽科学習指導要領、音楽科の目標を通読。日本の音楽教育の歴史に関する文献を検索し、読んでおく。	150分
第2回	学習指導要領解説②	小学校音楽科学習指導要領に関する全体構造及び指導上の留意点の理解	小学校音楽科学習指導要領と小学校音楽教科書を照合しながら読んでおく。	240分
第3回	音楽的発達と学習内容の関連及び保幼小連携としての音楽の役割	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた低学年における指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について復習し、小学校音楽科との関連を考慮しておく。	150分
第4回	小学校音楽科教育に関する実践研究の動向	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索した内容の発表とその検討	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索し、要点をまとめておく。	240分

第5回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究①	歌唱教材・器楽教材の教材研究の方法と展開について	小学校音楽教科書に掲載されている歌唱教材及び器楽教材に目を通し、歌ったり演奏したりしておく。	150分
第6回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究②	鑑賞曲の教材研究の方法と展開について	小学校音楽教科書に掲載されている鑑賞教材を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	150分
第7回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究③	音楽づくりの実践と発表	小学校音楽教科書に掲載されている音楽づくりのための教材をピックアップし、その内容を確認しておく。	150分
第8回	日本の伝統音楽について	小学校音楽教科書に掲載されている日本の伝統音楽について、鑑賞したり実際に楽器を演奏したりして知識・理解を深める。	小学校音楽教科書に掲載されている日本の伝統音楽を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	120分
第9回	音楽科におけるインクルーシブ教育の実践とその意義の理解	事例を通し、音楽を介したコミュニケーションの可能性を考える。	自分の体験を振り返ったり文献を検索したりして、インクルーシブ教育における音楽の役割を考えておく。	240分
第10回	音楽の授業づくり①	学習指導案の構成について、事例を通して理解する。	学習指導案の書き方について、配布プリントを熟読して具体的なイメージがもてるようにしておくとともに、疑問点を確認しておく。	150分
第11回	音楽の授業づくり②	情報機器を活用した学習指導案やポートフォリオの作成方法についての基礎知識及び、音楽の著作権法や引用の方法について理解する。	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストの添付の仕方について予習しておく。	150分
第12回	音楽の授業づくり③	歌唱教材に関する模擬授業（2グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第13回	音楽の授業づくり④	器楽教材に関する模擬授業（2グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第14回	音楽の授業づくり⑤	鑑賞教材、音楽づくりに関する模擬授業とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第15回	音楽の授業づくり⑥と講義の振り返り	評価についての理解。模擬授業及び講義全体を通しての振り返りを行う。	6件の模擬授業について、学び・助言・反省点を含むレポートを作成する。	150分

学習計画注記	講義の後半は模擬授業です。第7回終了時に、グループ分けと分担を決めますので、早めに準備を開始してください。			
学生へのフィードバック方法	コメントシートに記載された質問事項については、翌週に解説します。模擬授業の学習指導案についての相談は、研究室で受け付けます。			
評価方法	3回の小レポートでは、小学校音楽科に関する知識・理解、及び予習と講義の振り返りに対する関心・意欲・態度を評価します。学習指導案・模擬授業では、講義内容の理解とその応用、実践力を中心に評価します。期末レポートでは、小学校音楽科の授業に向けての資質・能力、授業づくりの方法についての理解と応用力などを評価します。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○		○	

学習指導案・模擬授業	○	○	○	○
期末レポート	○	○		
評価割合	小レポート（30%）、学習指導案・模擬授業（30%）、期末レポート（40%）で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	小学校音楽科学習指導要領解説（文部科学省） 小学校音楽教科書 1年～6年（教育芸術社）			
参考図書	初等科音楽教育研究会（2018）『最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容、小学校音楽科学習指導要領の内容について専門的な知識を修得する。</p> <p>【思考・判断】 模擬授業を通し、児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を、実践的に学び、さまざまな課題に柔軟に対応できる姿勢を身に付ける。</p> <p>【関心・意欲・態度】 児童に伝えたい音楽を探求する。</p> <p>【技術・表現】 小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。</p>			
オフィスアワー	前期 月曜日 3限 1601 後期 水曜日 2限 1601			
学生へのメッセージ	全員が模擬授業を行います。一人ひとりが責任をもって取り組んでください。 小免必修			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での経験の豊富な実践家による特別講義を行う（第5回目を予定）。		
アクティブ・ラーニング	○	グループで協働し、学習指導案を作成し、模擬授業の準備を行う。講義ではペアトーク、グループディスカッションを毎回取り入れて、理解の向上を図る。		
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法や文献の引用方法についての基礎的な知識を身に付ける。		
ICT活用	○	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストを挿入したレポートの作成を行う。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	図画工作科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校図画工作科の目標と内容、その指導と評価の実践方法を学ぶ。子どもと図画工作科をとりまく今日的課題や教育観の変遷を知り、「表現と鑑賞」の題材や評価の事例から教師の役割を考える。そのうえで、「造形遊び」・「絵や立体・工作」などの表現と鑑賞の内容領域を結ぶ指導及び評価活動について協議し、基礎的な理解を深める。また、「材料・用具」の特徴や「学年目標と内容」に配慮する教材研究や題材開発を行い、学習指導案の作成と模擬授業を通して実践的な指導方法の習得と展開・活用力の修得を目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校図画工作科の学習指導要領に準拠した目標・内容・評価について、基本的な知識を有し、説明できる。造形・鑑賞活動を通して育む資質・能力の観点から、実践的な内容や方法について必要な事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	図画工作科の教科特性を理解し、個に応じる児童観・指導観・教材観・評価の観点を持ち、題材の導入・展開・評価について計画したり、説明したりできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童をとりまく今日的課題に関心を持ち、育みたい資質・能力と関連づけて指導と評価の内容や方法を改善することができる。
技術・表現の観点 (A)	題材の設定や開発、指導の展開、評価材の収集などについて実践的な技能を有し、授業を改善する具体的な観点や方法を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	図画工作科の今日的課題や動向	図画工作科の今日的課題や動向について、他教科との関連や子どもの実態などの社会的背景を基に考察し、教科特性と目標を理解する。	図画工作科の今日的課題や動向に着目し、象徴的な事象を調べて整理しておく。	180分
第2回	子どもの発達と造形表現の特徴	子どもの発達と造形表現の特徴の関連について、児童の感覚や認識の発達と造形表現の特徴を知り、発達・成長に応じた題材の構成や指導の観点を理解する。	子どもの発達と造形表現の関連という視点から、現行の図画工作科教科書の題材を基に、特徴的な事例を整理しておく。	180分
第3回	図画工作科・美術科教育の理念と変遷	図画工作科・美術科教育の理念と変遷について知り、今期待される教科学習の目的と実践課題について理解する。	図画工作科・美術科教育の理念と変遷の観点から、現行学習指導要領の改訂の趣旨や期待する子ども像を整理しておく。	180分
第4回	図画工作科教育の目標と内容	図画工作科教育の目標と内容について、学習指導要領に示される教科目標及び内容、具体的な展開における内容の取り扱い、表現・鑑賞・共通事項の構造を理解する。	図画工作科教育の目標と内容の観点から、学習指導要領図画工作科の教科目標、学年ごとの目	180分

		他教科との関連や造形的な見方・考え方について集団討論を通して考察する。	標と内容について整理しておく。
第5回	内容領域と指導方法 (1) 造形遊び	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容を知り、具体的な実践事例を通して学年ごとの活動の特徴や展開方法の要件を理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	表現活動としての「造形遊び」の目標・内容について現行学習指導要領を参照し、各学年の違いや特徴を整理しておく。
第6回	内容領域と指導方法 (2) 絵に表す	「絵に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「絵に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照して整理しておく。
第7回	内容領域と指導方法 (3) 立体に表す	「立体に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「立体に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。
第8回	内容領域と指導方法 (4) 工作に表す	「工作に表す」表現活動について、目標・内容を知り、学年に応じた題材の設定や特徴、描画材料や用具、指導上の留意点について理解する。事例題材の実技的考察や集団討論を通して、主題・技法・内容の取り扱いについて体験的に理解する。	「工作に表す」表現活動について、目標・内容について、現行学習指導要領を参照し、整理しておく。
第9回	内容領域と指導方法 (5) 鑑賞活動	鑑賞の内容領域の目標と内容について知り、学年による鑑賞題材の趣旨・特徴や違いについて理解する。具体的な事例を体験しながら集団討論を通して、実践指導の要件や鑑賞活動の展開方法を体験的に理解する。	鑑賞の内容領域の目標と内容について、現行学習指導要領を参照し、学年目標や内容の概要を整理しておく。
第10回	図画工作科学習の評価活動	図画工作科学習の評価活動について、目標と評価規準の関係、教師の評価と評価材料の収集、児童の相互評価活動や自己評価活動などの実践的内容と方法を理解する。実際に評価の各形態を体験し集団討論することを通して課題や可能性を考察検討する。	図画工作科学習の評価活動について、現行学習指導要領を参照し、目的と評価材料の種類を整理しておく。
第11回	学習指導案の基礎的事項と作成	学習指導案における基礎的な指導計画の形態・記述事項、記述方法について知り、その作成・活用の仕方や意味について理解する。図画工作科の教科特性に応じた指導計画と他教科との違いを比較する討論・考察を通して特徴を理解する。	学習指導案の基礎的事項と作成方法について具体的な事例を参照し、気付いた観点を整理しておく。
第12回	模擬授業と討論 (1)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。
第13回	模擬授業と討論 (2)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。
第14回	模擬授業と討論 (3)	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。
第15回	模擬授業と討論 (4)・まとめ	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業を行い、相互評価の討論を通して実践的課題や展開可能性を考察・検討する。学習指導案と授業改善の関連や改善の視点について理解する。	各自が設定した題材の学習指導案を基に模擬授業のシミュレーションを行い、児童観・教材観・指導観の要旨を説明できるようにしておく。

学習計画注記	授業後半に個々が設定する題材の学習指導案の作成と模擬授業を行う。
学生へのフィードバック方法	講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。毎回授業を振り返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。 授業計画の後半で各自が実施する模擬授業に際し、事前の学習指導案の提出を求め、改善点などの指摘・助言をして応じる。模擬授業は、各自が実践した題材展開について、実践的な問題・留意点を中心に協議してコメントする。
評価方法	・毎回授業を振り返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・教育実習など教育現場での実践を想定した学習指導案は、基本的な書式や内容事項、指導と評価の一体的な扱いの捉え方を観点に評価する。模擬授業は、実践的な展開に向けた題材設定、教材研究の視点、実践の技能について評価する。 ・講義全体の内容、自ら着目した題材を基に考察したことをテーマにした小論レポートの提出（1600～2000字程度）を学期末に求める。レポートは、学習目標の到達規準に準

評価基準																															
<p>拠する観点から評価する。</p>																															
<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ドキュメントシート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習指導案・模擬授業</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>小論レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	ドキュメントシート	○	○	○		学習指導案・模擬授業	○	○		○	小論レポート	○	○												
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																											
ドキュメントシート	○	○	○																												
学習指導案・模擬授業	○	○		○																											
小論レポート	○	○																													
<p>評価割合</p>	<p>平常点10%、学習指導案20%、模擬授業20%、期末小論レポート50%などを総合的に評価する。</p>																														
<p>使用教科書名 (ISBN番号)</p>	<p>必要な学習資料を毎回の授業で配布する。</p>																														
<p>参考図書</p>	<p>文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説・図画工作編』日本文教出版／平成30年3月、ISBN-10: 4536590110 文部科学省検定教科書『図画工作』及び『教師用指導書』開隆堂出版／平成27年版</p>																														
<p>ディプロマポリシーとの関連</p>	<p>【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。 【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する観点を有している。 【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史の変遷に関心をもち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。 【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基礎的能力を有している。</p>																														
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜4限・1629研究室</p>																														
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>授業で配布する資料は各自でファイリング保管し、レポート課題作成時や復習で参照すること。</p>																														
<p>教育等の取組み状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は小学校教諭として造形・美術教育の題材開発・教材開発や授業研究に従事した。文部科学省検定教科書の編修著者代表、文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修・地域や企業・社会的教育機関と連携するネットワークを生かし、学習指導要領に準拠した教科目標や内容を今日の社会文化的背景に照して提供する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>児童の表現活動にあるメッセージ性や実践形態としての協働学習を体験的に理解することを重視する。グループ討論や学習成果の相互評価活動を随時行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>小学校で実践されている題材事例、学習指導案や授業形態の事例などの情報を収集・整理することを通して、題材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>グループ討論や教材研究についてタブレット型 PCを活用する。模擬授業での実践展開においてオンラインwebコンテンツを活用する。</td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教諭として造形・美術教育の題材開発・教材開発や授業研究に従事した。文部科学省検定教科書の編修著者代表、文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修・地域や企業・社会的教育機関と連携するネットワークを生かし、学習指導要領に準拠した教科目標や内容を今日の社会文化的背景に照して提供する。	アクティブ・ラーニング	○	児童の表現活動にあるメッセージ性や実践形態としての協働学習を体験的に理解することを重視する。グループ討論や学習成果の相互評価活動を随時行う。	情報リテラシー教育	○	小学校で実践されている題材事例、学習指導案や授業形態の事例などの情報を収集・整理することを通して、題材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。	ICT活用	○	グループ討論や教材研究についてタブレット型 PCを活用する。模擬授業での実践展開においてオンラインwebコンテンツを活用する。															
	該当有無	概要																													
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教諭として造形・美術教育の題材開発・教材開発や授業研究に従事した。文部科学省検定教科書の編修著者代表、文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修・地域や企業・社会的教育機関と連携するネットワークを生かし、学習指導要領に準拠した教科目標や内容を今日の社会文化的背景に照して提供する。																													
アクティブ・ラーニング	○	児童の表現活動にあるメッセージ性や実践形態としての協働学習を体験的に理解することを重視する。グループ討論や学習成果の相互評価活動を随時行う。																													
情報リテラシー教育	○	小学校で実践されている題材事例、学習指導案や授業形態の事例などの情報を収集・整理することを通して、題材開発や指導計画に活用する能力を高めていく。																													
ICT活用	○	グループ討論や教材研究についてタブレット型 PCを活用する。模擬授業での実践展開においてオンラインwebコンテンツを活用する。																													

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田 佳子	指定なし

授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校家庭科教育の歴史と現状を踏まえ、教科としての位置づけ、意義、目標、指導内容について学ぶ。 ・子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、これからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学習する。 ・学習指導案の作成を通して、家庭科の指導を行うための実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領に基づき家庭科教育の意義と目標、果たす役割について理解し、解説できる
思考・判断の観点 (K)	各領域のねらいを理解し、児童の実態に合わせた指導を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画(指導案)を立てることができる

学習計画

家庭科教育法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像をつかみ、その変遷と今日的意義を理解する。 ※研究課題テーマの提示①家族・家庭生活②食生活③衣生活・住生活④消費生活・環境(各自1テーマ選択)	課題選択後、関連資料を収集(第3時以降で使用)	30分
第2回	小学校家庭科の目標と内容	法的根拠に基づいた学習指導要領の位置付けを理解し、小学校家庭科教育の目標と内容について理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	15分
第3回	家庭科における教材研究と資料等の活用(1)	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	15分
第4回	家庭科における教材研究と資料等	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	15分

	の活用 (2)			
第5回	家庭科における授業展開の視点と方法(1) ※「目標・教材分析のまとめ」提出日	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・学びの過程と家庭科授業 ・授業の成立	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第6回	家庭科における授業展開の視点と方法(2)	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・年間指導計画 ・家庭科指導案の構成	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第7回	家庭科における授業展開の視点と方法(3)	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・家庭科における学習指導方法	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第8回	家庭科における評価の視点と方法	指導計画作成を通して、評価の種類とその方法について理解する。	指導計画と評価について復習し、理解を深める	15分
第9回	教材研究・授業研究	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※各自選択した研究課題テーマにそって学習指導計画(指導案)を作成する。	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	30分
第10回	教材研究・授業研究	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※各自選択した研究課題テーマにそって学習指導計画(指導案)を作成する。	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	15分
第11回	教材研究・授業研究 ※研究成果提出日	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※各自選択した研究課題テーマにそって学習指導計画(指導案)を作成する。	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	15分
第12回	教材研究・授業研究 (発表、評価・交流)	研究課題ごとのグループで研究成果発表。評価し、交流する。(グループディスカッション)	成果発表へ向けての資料作成	15分
第13回	教材研究・授業研究 (発表、評価・交流)	全体での研究成果発表。評価し、交流する。	次回行う模擬授業の準備	10分
第14回	教材研究・授業研究 (発表、評価・交流)	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。	次回行う模擬授業の準備	10分
第15回	教材研究・授業研究 (発表、評価・交流)	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。		

学生へのフィードバック方法 実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。

評価方法 教材分析レポート、選択した研究課題をもとに研究成果レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート1、2	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合	教材分析レポート（20%）、研究成果レポート（50%）、平常点（ワークシート・作品提出、授業態度）（30%）	
参考図書	小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科5・6」開隆堂出版 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版	
ディプロマポリシーとの関連	【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる 【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めよう意識することができる 【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の指導内容を工夫する力を養うことができる 【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、その考え方を身に付けている	
学生へのメッセージ	家庭科は「生活」そのものを学びの対象にする教科です。 身近な生活を観察したり、子どもの生活や置かれている現状を意識しておきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。
アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	体育科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校における生きる力を育成する体育を中心として、体育科の教科目標を中心に取り扱う。児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校体育の授業方法について理解している。
思考・判断の観点 (K)	小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教材について研究心がある。
技術・表現の観点 (A)	体育科教材の児童へのプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教科としての体育の歴史と意義	体育が教科として学校教育の中で果たしてきた役割と意義について理解する。	体育科教育について戦前・戦後の役割について理解しておくこと。	120分
第2回	発達と体育	子どもの発達と体育の関わりについて理解する。	体育の教材が子どもの発育・発達とどのように関わっているか理解しておく。	120分
第3回	学校体育の役割	学校体育の社会との関わり、子どもの発育・発達との関わり、家庭との関わりについて理解する。	学校体育は、社会や家庭で補うことのできない子どもの運動やスポーツ、保健と関わってきていることを理解しておくこと。	120分
第4回	運動やスポーツの楽しさ	運動やスポーツは、なぜ楽しいのかについて理解する。	体育教材の中で運動やスポーツは、子どもに何を教えるのか理解しておくこと。	120分
第5回	運動やスポーツの教授方法	運動やスポーツを教えるための基本的ルールを理解する。	学習法や学習者の心理的影響、体の発育・発達に伴うスポーツの影響等の基本を理解しておく。	150分

第6回	授業計画の作成	学習計画や指導案の作成について基本的原則を理解する。	環境や教科を教えるスタッフ、地域性等から年間の学習計画が影響されること、施設や用具等の制限から教材選びが影響されることを理解しておく。	120分
第7回	マット運動の演習	低学年児童のマット運動を取りあげ、種目や授業の展開について理解する。	マット運動は保育園や幼稚園でも扱っているところが多く、低学年児童のスムーズに入りやすい教材の一つである。運動嫌いを作らない授業の展開について理解しておく。	120分
第8回	跳び箱の演習	低学年児童の跳び箱を取りあげ、種目や授業の展開について理解する。安全への配慮について理解する。	手の位置、踏み切り板の位置、マットの有効活用、他の子どもの演技を見る位置など、跳び箱運動には体育科教育の中でも多くの重要なポイントが含まれていることを理解しておく。	120分
第9回	陸上競技の演習	中学年の児童の陸上競技を取りあげバトンリレーを行う。バトンの効果的な受け渡しについて理解する。	バトンゾーンの有効な使い方を理解しておく。	120分
第10回	縄跳びの演習	中学年児童の縄跳び運動を取りあげ、様々な跳び方や評価表、振り返り表の作成について理解する。	短縄や長縄の指導展開について理解しておく。	120分
第11回	ソフトボールの演習	高学年児童の球技運動を取りあげ、ソフトボールの握り方やキャッチボールの方法、トスパッティングについて理解する。	ボールの握り方、バットの握り方、遠投の方法を理解しておく。	120分
第12回	サッカーの演習	高学年児童の球技運動のサッカーを取りあげ、パスやドリブルの授業の展開について理解する。	インサイドキックを中心としたパスの練習を理解する。	120分
第13回	表現運動の演習	低学年児童の表現運動を取りあげ、授業の展開について理解する。	運動嫌いを作らないように注意する。音楽やリズムに合わせることで表現をしやすいことを理解しておく。	120分
第14回	保健の演習	高学年児童の保健を取りあげ、事故防止や救急手当の授業展開について理解する。	事故や疾病の予防、救急法について理解しておく。	120分
第15回	まとめ	授業のまとめから小学校体育の指導案の作成時の注意事項や、授業の展開方法について理解しておく。	小学校体育の授業展開の理解をしておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎授業の終了時に15分程度の討議を実施し、授業時のテーマについて理解度をフィードバックする。			
評価方法	授業終了時の小テスト、期間中の模擬授業演習、2回の課題提出の総合的な評価とする。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
模擬授業	○	○	○	○
課題	○	○	○	
評価割合	授授業終了時の小テスト（4点×15回=60点）、期間中の模擬授業演習（10点）、2回の課題提出（15点×2回=30点）の総合的な評価とする。			
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】小学校体育の授業方法について理解している。 【思考・判断】小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てられる。 【関心・意欲・態度】教材について研究心がある。 【技術・表現】体育科教材の児童へのプレゼンテーションができる。			
オフィスアワー	月曜日4時限目			
学生へのメッセージ	子どもに体育を教えることの重要性和必要性について基本的な考え方を身につけて欲しい。実践力を養ってほしい。			
教育等の取組み状況				

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	児童が理解しやすい教材作りのために様々な教材作りに関わる。
情報リテラシー教育	○	児童の成長の段階に応じた授業の展開をするために、多くの資料の整理を行い適切な指導案の作成を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	小児保健Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 松井 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援に関わっていくことができるかを考えることを目標としている。
履修条件	保育者・教育者としての役割を意識して講義に参加することができる
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	「子どもの健康」「こどもの心理」を中心に児童学を構成する6領域について総合的な理解を促す。
思考・判断の観点 (K)	保育者・教育者として、家族・地域・社会と協働するコミュニケーション能力ならびに思考過程を学ぶ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子供をめぐる多様化する課題や問題に取り組む。子ども視点に立ち、子供から学ぶという謙虚な態度を身につけることができている。
技術・表現の観点 (A)	保育者、教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康の定義、健康・不健康とは(総論)	小児の健康の定義について理解した上、その対極にある不健康状態について、生理、発達の観点から説明する。	教科書「第1章集団保育の場での健康」	120分
第2回	生活環境と心身の健康 1 小児期(新生児期、乳幼児期、学童期)	小児期における生活環境との関わりの中で、心身の保健について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健」	120分
第3回	生活環境と心身の健康 2 青年期(青年期の課題)	青年期における生活環境との関わりの中で、心身の保健について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健」	120分
第4回	事故と応急処置	小児期における生活環境との関わりで事故発生につながることを理解し、その応急処置ならびに予防法を学ぶ	教科書「第4章子どもの事故とその対応」	120分

第5回	感染症と予防接種	小児期における感染症の理解とその予防法、特に予防接種の必要性を学ぶ	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第6回	感染症ガイドライン	厚労省の保健行政について説明する中で、感染症ガイドラインを理解する	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第7回	小児期の病気：感染症（発疹症）、消化器系疾患	小児期の身体状態・免疫状態を理解した上で、病気の症状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第8回	小児期の病気：呼吸循環器系疾患	小児期の身体機能、発達状況を理解した上で、病気の症状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第9回	小児期の病気：その他の疾患	小児期の身体機能、発達状況を理解した上で、その他の病気の症状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第10回	小児の病気：神経精神疾患（ダウン症を含む）	小児期の精神保健、精神発達を理解した上で、神経精神疾患の症状対応について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健、第5章障がい児と保健」	120分
第11回	小児の病気：心身症、養育者との関係	小児期の精神保健、精神発達を理解した上で、養育者との関わりの中での精神不調について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健、第5章障がい児と保健」	120分
第12回	小児の病気：学習障害・発達障害など	小児期における保育・学校現場における発達障害の理解と対応について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健、第5章障がい児と保健」	120分
第13回	小児の病気：悪性腫瘍・川崎病など・母子保健	小児期における心身両面における病気に関しての理解と対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第14回	母子保健、子育て・家庭の問題	養育者との関係で発症する心身両面からの病気理解、母子保健からの視点	教科書「第7章母子保健の現状と課題」	120分
第15回	保健行政	小児期における生活環境、地域、社会環境との関わりの中で小児期における心身状態の理解を深める	教科書「第7章母子保健の現状と課題」	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	実施した小レポート課題（毎回授業中に行う）については次回回の講義中に再度説明する。			
評価方法	試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他を総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験				
授業への取り組み				
課題レポート				
評価割合	試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他を総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書「保育の中の保健」 萌文書林 (ISBN:9784893471512)、配布するオリジナルテキスト			
参考図書	人間関係の理解と心理臨床 (ISBN:9784766424669)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】小児の保健は家庭や地域社会と密接な関係にあり、今日発生している小児の心身の健康に関する問題と養育環境との関係を理解する専門的知識を有している。 【思考・判断】子どもの健全な豊かな成長・発達のために使命感をもって行動できる力を身につけている。			

オフィスアワー	水曜日 講義終了後昼休み	
学生へのメッセージ	小児保健の理解を通して、自分の心身状態の気づきを促し、健康の保持増進に努めてほしい	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	小児保健演習 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 和香菜	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもの保健の講義で学んだ知識を基に、今日の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策や災害への備え等について講義します。それらの知識が実践できるように演習を行います。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・子どもの病気や健康診断について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの健康に関する情報をニュースや本等から収集する。 ・積極的に授業に参加し、グループの仲間と協力する。 ・自分自身の健康状態を正しく感じとり、体調管理ができる。
技術・表現の観点 (A)	・だっこやおんぶ、沐浴等の子どもの養護が適切に行える。 ・身長・体重やバイタルサインがきちんと測定できる。 ・応急手当が正しく行える。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、乳幼児の養護(1)だっこ	保育者として子どもの健康と命を守る大切さを理解する。乳児のだっこの仕方を学ぶ。	オリエンテーション、教科書第1章、第4章だっこを読んでおくこと。	120分
第2回	乳幼児の養護(2)衣服の着脱・おむつ交換	衣服の着脱とおむつ交換ができる。	教科書第4章衣服の着脱、おむつ交換を読んでおくこと。	120分
第3回	乳幼児の養護(3)おんぶ	安全におんぶができる。	教科書第4章おんぶを読んでおくこと。	120分
第4回	身体計測	身長、体重などの正しい計測法やその注意点について学ぶ。	教科書第2章を読んでおくこと。	120分

第5回	身体発育の評価	身体計測の結果を評価する方法について理解し、正しく使える。	教科書第2章を読んでおくこと。発育評価の結果をワークシートにまとめる。	240分
第6回	保育における健康観察	健康観察のポイントを理解し、体温や脈拍など正しく計測する。	教科書第3章健康観察を読んでおくこと。	120分
第7回	乳幼児の養護(4)沐浴	乳児の清潔を守るため、沐浴について学ぶ。	教科書第4章沐浴を読んでおくこと。服装に注意する。	120分
第8回	健康診断	健康診断の方法と注意点を理解する。	教科書第3章健康診断を読んでおくこと。	120分
第9回	乳幼児の養護(5)歯みがきと歯みがき指導	基本的な生活習慣の一つである歯みがきについて、その方法と援助について学ぶ。	教科書第4章歯みがきを読んでおくこと。歯ブラシ、コップ、手鏡、色鉛筆(赤)、リップクリームを持参する。	120分
第10回	保育環境と安全対策	子どもが長い時間を過ごす園の環境について学ぶ。	教科書第7章を読んでおくこと。	120分
第11回	病気の症状とケア、保育と健康教育	体調の良くない子どもへの対応を学ぶ。保健指導の一つであるほけんだよりを作成する。	教科書第5章第8章を読んでおくこと。ほけんだより作成に必要な資料を収集する。	240分
第12回	応急手当(1)きずの種類と応急手当	基本的な応急手当について学ぶ。	教科書第6章を読んでおくこと。	120分
第13回	応急手当(2)包帯法	包帯の一つである三角巾が正しく扱える。	教科書第6章を読んでおくこと。	240分
第14回	応急手当(3)一次救命処置	心肺蘇生法とAEDについて学ぶ。	教科書第6章を読んでおくこと。服装に注意すること。	120分
第15回	個別の配慮を必要とする子どもへの対応、まとめと解説	食物アレルギーなど個別に配慮が必要な疾病を理解し、そのような子どもへの対応や緊急時の対応について学ぶ。	教科書第5章を読んでおくこと。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	毎回授業の終わりに簡単な感想やわからないことを書いてもらい、毎授業開始時にコメント付きで返却します。質問等がある場合は授業中または終了後などに聞きに来てください。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験を行います。出題の傾向については最後の授業で説明します。 各々の課題の点数を合計した総合評価ですが、合格には筆記試験が6割以上できていることが条件です。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
	授業への参加姿勢			○	○
	課題	○			
評価割合	定期試験 (60%)、授業への参加姿勢 (20%)、課題 (20%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健Ⅱ」(鈴木美枝子編著、創成社)				
参考図書	「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健Ⅰ」(鈴木美枝子編著、創成社) その他、授業時に適宜紹介します。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育者として乳幼児の保健、養護に関する専門的な知識を有している。 【技術・表現】体調の良くない子どもやけがをした子どもなどの状況を正しく判断し、適切な対応を行うことができる。				

オフィスアワー	月曜2、3限 非常勤講師室	
学生へのメッセージ	子どもの気持ちに寄り添い、子どもの健康と命を守る保育者になるべく主体的に学んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は幼稚園で養護教諭として勤務経験があり、保育者としての心構えや習得すべき子どもの健康の保持増進についての知識と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養 (PA)		
講義開講時期	後期後半	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 太田 百合子	指定なし

授業概要(教育目的)

乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実践力を身に付け、食育を行うための能力を習得するための講義をする。実習は、理論を生かした調乳、離乳食、幼児食、成人食等の調理実習を指導する。食育発表を通して実践力を身に付けるための演習指導を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 献立と栄養素の関連を関係づけられる。 2. 子どもの発育・発達に即した要点を説明できる。 3. 栄養に関する基礎知識を食育に関係づけられる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の食生活の問題点を指摘できる。 2. 子どもの病気の時の食事を理解し、それに合わせた食事内容を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食育の媒体作りにはグループ活動として参加できる。 2. 調理実習には意欲を持って積極的に参加し、コミュニケーションを持って協調できる。
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食育の媒体作りにはプレゼンテーション力を活かした表現ができる。 2. 調理では、調理器具を適宜使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小児の栄養と食生活の意義	現代の食生活の問題点を理解する。自分の食生活、家族の食生活などを比較し、食生活の改善点を探る。	教科書第1章P.11~19を読んでおくこと。	120分
第2回	小児の発育・発達と栄養	身体発育と栄養状態の把握、食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養摂取を理解する。栄養学の基本的理論を理解する。	教科書第2章、3章P.21~49を読んでおくこと。	120分
第3回	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準の理解と献立作成の応用からバランスのとれた献立を理解する。	教科書第3章 P.50~64を読んでおくこと。	120分
第4回	乳児期の食生活	乳汁栄養の種類と特徴、利点や欠点を理解する。調整粉乳の調乳法を理解する。授乳と離乳食の栄養バランスを理解する。授乳の仕方、栄養について理解する。	教科書第4章 P.65~94を読んでおくこと。	120分
第5回	離乳期の食生活	離乳の必要性を理解する。離乳の支援のポイントを理解する。	教科書第4章 P.80~94を読んでおくこと。	120分

		ベビーフードを理解する。 子どもの食べる機能の発達DVDを視聴し、感想や意見をまとめる。		
第6回	幼児期の食生活 (1)	食機能の発達を理解する。 食事の内容の理解と間食の意義を理解する。 発達に合わせた食具使用を促す献立をワークから理解する。	教科書第5章 P.95~100を読んでおくこと。	120分
第7回	幼児期の食生活 (2)	保護者の食生活上の問題と対応を理解する。DVDを視聴し、対応の理解を深める。 食べ物の誤嚥、窒息事故の予防を理解する。 弁当の衛生管理と栄養配分を理解する。 間食の与え方、内容をワークで理解する。	教科書 第5章 P.101~108を読んでおくこと。	120分
第8回	学齢期・思春期の食生活	身体的特徴を理解する。 肥満と痩せ、朝食欠食を理解する。 カルシウムと鉄不足を補う献立作成から理解する。	教科書第6章 P.109~120を読んでおくこと。	120分
第9回	生涯発達と食生活	産前産後の食生活を理解する。 胎児の発育・発達と栄養を理解する。 葉酸、食物繊維の摂取基準を満たす献立作成から妊娠中の食生活を理解する。 食品添加物についてDVD視聴から理解する。	教科書第7章 P.121~129を読んでおくこと。	120分
第10回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)	疾病、体調不良の子どもへの対応を理解する。	教科書第8章 P.131~141を読んでおくこと。	120分
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 児童福祉施設における食生活	食物アレルギーを理解する。 診断と対応を理解する。 児童福祉施設の食生活の特徴を理解する。	教科書第8章 P.142~146、9章 P.155~168を読んでおくこと。	120分
第12回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3)	障がいの特徴と食生活を理解する。 摂食障がいの対応を理解する。 ダウン症、自閉症の食対応を理解する。 DVDを視聴し、感想や意見をまとめる。	教科書第8章 P.146~154を読んでおくこと。	120分
第13回	食育	食育がなぜ必要とされるのかを理解する。 和食文化を理解する。 子どもに望ましい食育を理解する。	教科書第10章 P169~192を読んでおくこと。 1年間の日本の行事食のいわれと調べた感想をレポートにまとめて最終日までに提出すること。	240分
第14回	栄養の理解 献立作成	栄養の基礎をもとに献立の作成を通して理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	120分
第15回	演習：子どもの栄養評価と幼児の栄養バランス (1)	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。 献立カードで栄養バランス、配膳の仕方を理解する。 コミュニケーションを図りグループで協力することを体得する。	教科書第2章 P.21~26、 第3章 P.53~64を理解しておくこと。	120分
第16回	演習：子どもの栄養評価と幼児の栄養バランス (2)	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。 献立カードで栄養バランス、配膳の仕方を理解する。 コミュニケーションを図りグループで協力することを体得する。	教科書第2章 P.21~26、 第3章 P.53~64を理解しておくこと。	120分
第17回	演習調理実習 成人用 献立 (1)	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。 コミュニケーションを持って協調する。	ウサギリゴに切れるよう練習すること。	60分
第18回	演習調理実習 成人用 献立 (2)	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。 コミュニケーションを持って協調する。	ウサギリゴに切れるよう練習すること。	60分
第19回	演習調理実習 調乳と離乳食 (1)	無菌操作法を理解する。 調乳の仕方を理解する。 離乳食を理解する。	教科書第4章 P.74~85を理解しておくこと。 包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	60分
第20回	演習調理実習 調乳と離乳食 (2)	無菌操作法を理解する。 調乳の仕方を理解する。 離乳食を理解する。	教科書第4章 P.74~85を理解しておくこと。 包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	60分
第21回	演習調理実習 1~2歳	1~2歳児に適する調理を理解する。 1~2歳児のおやつを理解する。	教科書第5章 P.99~106を理解しておくこと。	60分

	児の幼児食、おやつ(1)		おにぎりを握れるように練習すること。	
第22回	演習調理実習 1~2歳児の幼児食、おやつ(2)	1~2歳児に適する調理を理解する。 1~2歳児のおやつを理解する。	教科書第5章 P.99~106を理解しておくこと。 おにぎりを握れるように練習すること。	60分
第23回	演習調理実習 3~5歳児の弁当、おやつ(1)	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 3歳以上のあ奴を理解する。	教科書第5章 P.106~108をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	60分
第24回	演習調理実習 3~5歳児の弁当、おやつ(2)	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 3歳以上のあ奴を理解する。	教科書第5章 P.106~108をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	60分
第25回	演習調理実習 行事食(1)	行事食の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	教科書第10章 P.169~192をよく理解しておくこと。	60分
第26回	演習調理実習 行事食(2)	行事食の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	教科書第10章 P.169~192をよく理解しておくこと。	60分
第27回	演習 食育媒体制作(1)	食育を理解する。 協調性をもって積極的に参加し理解する。	教科書第10章 P.178~182をよく理解しておくこと。 グループ内の制作に生かせるように絵本など教材を調べておく。	120分
第28回	演習 食育媒体制作(2)	食育を理解する。 協調性をもって積極的に参加し理解する。	教科書第10章 P.178~182をよく理解しておくこと。 グループ内の制作に生かせるように絵本など教材を調べておく。	120分
第29回	食育発表(1)	食育のテーマ、対象年齢、対象人数を明確にしてグループごとに発表し、プレゼンテーション力を習得する。 他の食育発表を体験して評価し、よりよい食育を理解する。	教科書第10章 P.178~182をよく読み理解する。	120分
第30回	食育発表(2)	食育のテーマ、対象年齢、対象人数を明確にしてグループごとに発表し、プレゼンテーション力を習得する。 他の食育発表を体験して評価し、よりよい食育を理解する。	教科書第10章 P.178~182をよく読み理解する。	120分

学習計画注記	第1~14回は1コマ講義、第15~30回は、講義の後で原則隔週で演習や調理実習を行います。 オリエンテーションで日程、教室を示したものを渡しますので間違えないで参加してください。			
学生へのフィードバック方法	演習後、行事食のレポートは、採点して次週の授業にて返却する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習、行事食のレポートは、文章表現などから知識や理解を評価する。 ・食育発表は、子どもの発達を理解し、楽しく学べる表現方法かグループ評価とする。 ・調理実習は、知識をもとに協力しあって時間内において適切な器の選択、盛り付けなどが出来ているか評価する。 ・定期試験は、選択式、穴埋め式、記述式で出題する。知識、理解を評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習後レポート	○			
行事食レポート	○			
食育発表	○	○	○	○
調理実習	○	○	○	○
定期試験	○			
評価割合				

	平常点5%、レポート15%、発表20%、調理実習10%、試験50%による総合評価。 ただし定期試験において6割以上取れていること。平常点は受講態度、調理実習や演習への参加状況等で総合的に判断する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	新版子どもの食生活 上田玲子編著 (ななみ書房)	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの食に関して専門的な知識を有している。 【思考・判断】具体的、実践的な機会を通して、柔軟に対応できる力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】子どもの食の課題を理解し、専門的にかかわれる態度を身に付けている。 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。	
学生へのメッセージ	専門職として食生活の支援力を養うために、自分の食生活を意識して自らバランスの良い食生活をする。日頃の食事や、食生活・健康に関心を持ち、発信される情報に注目すること。 調理実習のまえには、包丁が使えること、簡単な料理が出来るよう練習しておくこと。 食品や器具の取扱いや服装について衛生面安全面の配慮について事前に学習しておくこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立児童館の中の小児保健部・小児科クリニックに30年間勤務経験がある。小児肥満改善教室、離乳食講座、広場事業、妊婦栄養相談、離乳食・幼児食栄養相談、ダウン症、自閉症等の摂食指導を主に行い、保育士、栄養士等キャリアアップ講師、育児雑誌監修等を生かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	保育士として食育を行うには、知識、経験、環境などから自分の食生活を振り返る事が重要である。グループワークをもとに発見学習を繰り返し、今後の実習や卒後に生かせるようにする。
情報リテラシー教育	○	行事食のレポート作成には、情報を収集し整理する力を養い、文献検索を活用したレポートの書き方を説明する。 食育発表には、図書館利用、情報を収集する力を養い、発表に役立てる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童体育演習 (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

人間の発育・発達と運動との関連について幼児期・児童期を中心に考察していく。子どもの身体能力や運動技能を高める道筋をさまざまな方法によって展開していく。子どもが自由にのびのびと活動する身体表現の楽しさを共有しつつ、指導者としての技術を習得することを目的としていく。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	運動技術用語や指導用語を知解する。
思考・判断の観点 (K)	自然の中での運動やゲームを通して、危険を察知する判断力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの遊びや運動への関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	運動表現の授業を通して、動きを見せる表現能力を高める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(集団で行うアイスブレイクゲーム)	仲間作りゲームのアイスブレイクを理解する。	アイスブレイクゲームは、緊張を解きほぐすゲームであり、次の活動へのスムーズな導入をまねく事を理解しておく。	60分
第2回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(集団から少人数グループで行う協力ゲーム)	グループの中でできるゲームや、グループ対抗のゲームを理解する。	グループとグループが対抗して競うゲームは、競技スポーツと異なり勝ち負けにこだわらないことを理解しておく。	60分
第3回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボール運動、マット)	ボールを使った基本的な運動を行う。様々なボールを使い体の柔軟性と巧緻性を高めることを理解する。	メドシングボールを使っの柔軟運動、柔らかいボールを使用するのヘディングでのパスはボールに対する不安感を取り去り、親しみを持って運動できることを理解しておく。	60分

	運動、縄を用いた運動)			
第4回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(芝地や平地で行うレクリエーションゲーム)	屋外での鬼ごっこやタッチゲームを通して、瞬発的な動きや足の細かな運びを修得する。	戸外遊びの爽快さを理解しておく。	60分
第5回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(ボールを使ったスポーティーなゲーム)	サッカーやタッチフットボールを通じて、相手との間合いや相手のスピードを予測することを理解する。	適切な広さや距離での運動は、楽しさを維持できることを理解しておく。	60分
第6回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボールを蹴ったり、投げたりするスポーツゲーム)	サッカー遊びを通して、サッカーの楽しさと足でボールを運ぶ難しさを同時に理解する。	パスが通った時の楽しさ、ボールを足で処理する難しさを学びながら戸外遊びの開放感を理解しておく。	60分
第7回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅰ(林を使った野外ゲーム)	自然の中でのゲームをするための準備や、自然の中でのゲームのルールを理解する。	自然の中での運動やゲーム遊びのルールは、怪我や事故を防ぐために重要であることを理解しておく。	60分
第8回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅱ(追跡ハイキング等自然を生かせるゲーム)	林の中での迷路や、木登りの楽しさを理解する。	自然の中での追跡ハイキング、ネイチャーゲームの手順と楽しさを理解しておく。	60分
第9回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅲ(自然環境を考えるゲーム)	自然環境を利用したゲームや、ASE を通して環境教育と冒険教育の効果を理解する。	自然の中での遊びは、環境教育と冒険教育を学ぶ機会を与えてくれることを理解しておく。	60分
第10回	運動教材を用いた運動Ⅰ(フープ・ボール・縄を用いて屋内・屋外で運動する)	縄跳び、フープ、ボール、マット、跳び箱を障害物に入れたリレーを行い、個人の能力が結果に反映しないことを理解する。	縄跳びや跳び箱の課題を低く設定することで、全員が参加出来る運動になることを理解しておく。	60分
第11回	運動教材を用いた運動Ⅱ(様々な運動を運動会様式に配列し実践する)	模擬運動会を企画し実施する。	保育園や幼稚園、小学校で行われる運動会種目をアレンジして模擬運動会を行う。どのような種目が楽しいのか理解しておく。	60分
第12回	児童の運動遊びの創造	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを理解する。	音楽が体の動きのリズムを作る手助けをしていることを理解しておく。	60分
第13回	児童の運動遊びの指導と安全・管理の方法	色々な運動やスポーツ場面における安全への配慮について理解する。	運動中の怪我や事故の発生原因について理解しておく。	60分

第14回	幼児の運動遊びの評価方法	運動やスポーツの結果について、評価の方法を理解する。	運動やスポーツの評価の難しさについて理解しておく。	60分
第15回	まとめ	幼児や子どもにとって楽しい運動とはどのような運動か、運動の評価は何を評価するのか理解する。	運動やスポーツ嫌いを作らない運動指導について理解しておくこと。	
学習計画注記		授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		毎回の実技授業を通して、自身の運動への関心や興味の度合いをフィードバックできる。修得できない運動については、終了後に練習をすることが可能である。		
評価方法		授業への積極的態度、授業時の運動の修得度合い、12回目の運動遊びの創造の3つの観点からの総合評価とする。		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	授業への積極的態度	○	○	○
	授業時の運動の修得度合い	○	○	○
	運動遊びの創造	○	○	○
評価割合		授業への積極的態度 (40%)、授業時の運動の修得度合い (30%)、12回目の運動遊びの創造 (30%) の3つの観点からの総合評価とする。		
使用教科書名 (ISBN番号)		特に指定しない。		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。 【思考・判断】ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。 【関心・意欲・態度】様々なスポーツゲームに積極的に取り組む、チームのために努力を惜しまない。 【技術・表現】新しい運動を考え、他者に見せるための表現をしている。		
オフィスアワー		月曜日4時限目		
学生へのメッセージ		子どもの運動指導について、大人とは違った視点を持ってほしい。子どもの運動への関心はその後の成長に大きく影響し、また子どもの時の運動の好き嫌いがその後に持続することも考えてほしい。運動指導の楽しさを経験することの重要性を考えて欲しい。		
教育等の取り組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	運動遊びの創造で、幼児や子どもの楽しめる遊びを様々な観点から考え実施している。		
情報リテラシー教育	○	幼児や子どもの運動や遊びを集約し整理している。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	野外活動論（児童と野外環境）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの成長にとって自然環境の果たす役割は極めて重要です。自然の中で子どもたちは他者との関わり、自己への認識、自然との関わりをそれぞれの発育・発達段階のちょうど良いペースで学んでいきます。自然環境がもつ多くの魅力と、子どもの成長にとって重要な要素となる野外環境について内外の知見や身近な実践例から学んでいきます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	野外活動に関する専門的知識を理解している。野外活動の効果について理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	野外活動の実践ができる知識と技術を理解している。
技術・表現の観点 (A)	自然の中の生活の知識と技術を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	野外教育の考え方	野外教育の概念について、アメリカの包括的な考え方である環境教育と冒険教育の側面から理解していく。	日本では1960年代に、アメリカの野外教育の本や雑誌の紹介で普及してきた。Outdoor Educationの訳語が野外教育となったことを理解しておく。	120分
第2回	野外教育の歴史	野外教育の思想的な根源を踏まえ、アメリカの野外教育史と、日本の動向について理解する。	アメリカにおいては1930年代が教育キャンプの黎明期であり、日本においてはYMCA、ボーイスカウトといった民間の青少年団体が戦前、戦後に大きく貢献したことを理解しておく。	120分
第3回	野外教育の効果	野外教育は冒険教育や環境教育などの手法により、身体的スキル、対人的成長または教育的スキル、エコロジカルな関係性について学び深める機会であることを理解する。	野外教育は様々な領域がブレンドされた教育手法である。そのことによって心理的側面、社会的側面、環境・行動的側面からの効果が期待できることを理解しておく。	120分
第4回	野外教育と組織キャンプ	野外教育の原点となっている教育的な意図をもって行われる組織的キャンプについて、野外教育の手段としてなぜ組織キャンプが有効なのかについて理解する。	アメリカにおいては、キャンプ教育や学校キャンプが学校教育のカリキュラムの中に入り野外	120分

			教育となってきたことを理解しておく。	
第5回	冒険教育	日本では多くのキャンププログラムや野外活動の中に、冒険教育プログラムが取り入れられていることを理解する。	冒険教育は、主に自然環境を活用し、冒険の要素を特定の教育目的をもって体験学習として組織的に行う活動であることを理解しておく。	120分
第6回	環境教育	環境教育には教科書を読んだり、授業を受けたり、という伝統的な学びの方法だけではなく、野外教育的手法を探り入れた体験を通じた学びも大切であることを理解しておく。	野外教育を環境教育における手法ととらえ、両者は切り離せないという考えを理解しておく。	120分
第7回	キャンプ療法	キャンプ療法の歴史や考え方、意義について理解する。	キャンプのもつ要素から考えられるキャンプ療法の効果を、「身体的」「精神的」「社会的」の視点から理解しておく。	120分
第8回	チャレンジベースドキャンプ	最近のキャンプでは、チャレンジ、冒険、人間関係づくりをキーワードとしたプログラムが数多く行われている。これをチャレンジベースドキャンプということを理解する。これはキャンプの目標を効果的に達成するためのプログラムであることを理解する。	チャレンジベースドキャンプの代表としてイニシアティブゲームを理解しておく。	120分
第9回	自然を感じるプログラム	ネイチャーアウェアネスプログラムを経験し、自然環境の中に身を置き、からだ全体でその場の環境や生物を感じとる。	現代人の多くは、使われない筋肉のように自然に対する気づきの眼や感覚は鈍ってきていることを理解しておく。感覚を取り戻すには自然の中に身を置き、直接的な体験活動を行うことが必要であることを理解しておく。	120分
第10回	地域研究プログラム	野外教育にとって自然は、「活動の場」であると同時に「学びの場」であり、豊かな自然なくして野外教育は成立しないことを理解する。	「人のいない自然」と「人のいる自然」について理解する。	120分
第11回	創作・芸術活動	キャンプでは、自然環境を活かした身体活動が中心となるが、適切なタイミングでゆったりと過ごせる創作活動や芸術活動を取り入れることで、キャンプ全体にメリハリが生まれることを理解する。	活動をふりかえったり、記録したりする手段としても有意義な時間の過ごし方となることを理解しておく。からだと心をリフレッシュさせる積極的休養にもなることを理解しておく。	120分
第12回	野外生活技術	普段の生活とは異なった環境の中で、自然への配慮やリスクマネジメントなどのさまざまな観点から必要なスキルであり、その習得は快適なキャンプ生活につながることを理解する。	野外生活技術を良く理解し、さまざまな状況に柔軟に対応できることもスキルの1つであることを理解しておく。	120分
第13回	デイプログラム	デイプログラムのように短いプログラムは、活動目的は重要であり、明確に示す必要があることを理解する	デイプログラムは、初めてのキャンプ参加者には最適である。野外活動歴が少ない保護者にとっても気軽に第一歩を踏み出すことができることを理解しておく。	120分
第14回	短～中期プログラム、中～長期プログラム	短期のキャンプでもテーマ、ねらい、内容の一貫性を考えることが重要であることを理解する。中～長期のプログラムは、面白そうな活動を並べるのではなく、「参加者にこうなって欲しい」というねらいを達成できるプログラムを作ることを理解する。	目的が達成できるプログラムを作るために、アクティビティとプログラムとプログラムデザインの違いを理解しておく。	120分
第15回	学校教育とキャンプ	学校教育における自然体験活動のプログラムデザインについて理解する。	「生きる力」「総合的な学習の時間」「学校週5日制」をキーワードに理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります、
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して返却する。小テストの模範解答はgoogle drive上に提示する。質問はメールにて随時受け付ける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時の終わりに、5分間の小テストを実施する。小テストは授業時の講義の内容に沿ったものとする。 ・小テストは5点満点とし、総計は5点×14回で70点とする。 ・授業期間中2回の課題レポートを出し、それぞれ15点満点とし、15点×2回で30点とする。 ・課題は全て講義で話した内容を基に提出することとなるので、十分注意すること。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
課題レポート	○	○	○	
評価割合	小テスト (70%) 課題・レポート (30%) を総合して評価する。			
参考図書	1) 日本野外教育研究会編「野外活動-その考え方と実際-」杏林書院、2001年 2) 筑波大学野外運動研究室編「キャンプの知」勉誠出版、2002年 3) 星野敏男、金子和正 監修「野外教育入門シリーズ1巻～5巻」杏林書院2013年			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育、子どもの健康、子どもの心理、子どもの文化を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できる。 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる体や健康の問題に関心を持って取り組み、こどもたちの健全な発達のために使命感をもって行動できる。			
オフィスアワー	月曜日4時限目			
学生へのメッセージ	子どもを取り巻く遊び環境について考える姿勢を身につけ、環境が子どもを育てる意味について考える態度を修得して欲しい。近年の野外教育ブームが子どもの成長にどのような効果を及ぼしているのかを科学的に考察する習慣を身に付けるように、毎日の自身をとりまく現象について考えて欲しい。先進国が、次代を担う子ども達をどのような環境で育てていくのかという教育の原点を考えてほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	野外活動全般について、自ら知識を深めている。		
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、日本とアメリカの野外活動の違いについて説明できる。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童とことば		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための環境について考える。 また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の教科学習をしていくための基礎としての言葉についても考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解する。 1次的言葉から2次的言葉への移行について理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。 話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの実践的な指導力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは何か、ということを講義形式で学習する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分
第2回	日常生活における児童期の言葉	日常生活における児童期の言葉について、事例を用いながら講義形式とグループワークを組み合わせる。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分
第3回	1次的言葉と2次的言葉	1次的言葉と2次的言葉について、資料と具体的事例をもとに理解する。またその獲得が、児童の生活にどのように影響するのかということについて考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分
第4回	言葉の発達が気になる	言葉の発達が気になる児童に対する支援について、具体的事例をもとにその実際を考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分

	児童に対する支援				
第5回	伝え合う力を高めるとは	伝え合う力を高める実践について講義形式とグループワークにより理解する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第6回	思考力や想像力を養うとは	言葉によって思考力や想像力を養うことについて理解し、その具体的実践について学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第7回	文字・語句・表記に関する事項	文字・語句・表記に関する事項について、児童期の言語発達の視点から学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第8回	話すこと・聞くこと	児童期の話すこと・聞くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第9回	読むこと・書くこと	児童期の読むこと・書くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第10回	児童期の言語感覚を養う実践	児童期の言語感覚を養う実践について、講義とグループワークにより学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第11回	言語活動の展開1	『ごんぎつね』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第12回	言語活動の展開2	『スーホの白い馬』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第13回	言語活動の展開3	『モチモチの木』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第14回	言語活動の展開4	『注文の多い料理店』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第15回	児童の言葉をはぐくむ読書の指導について	児童期の読書活動について、具体的事例を取り上げながら考察する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	60分	
第16回	定期試験	授業内容に基づいた定期試験を行う。			
学習計画注記		テキストは使用しないが、毎回プリントを配布する。ワークシートの形式の部分は、授業後に復習を兼ねて完成させ、ファイルに綴じておく。定期試験の前には、その資料をもとに準備すること。			
学生へのフィードバック方法		大福帳を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対するフィードバックを行う。指導案など提出したものは添削、助言をして返却する。			
評価方法		平常点 (50%)、定期試験 (50%) (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	○
	定期試験	○	○		
評価割合		平常点 (50%)、定期試験 (50%) (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)			
使用教科書名 (ISBN番号)		特になし			
参考図書		『のはらうた I』工藤直子 童話屋			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解できている。 【思考・判断】児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。 【関心・意欲・態度】児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。 【技能・表現】言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。			
オフィスアワー		月曜2限から4限			
学生へのメッセージ		言葉に関する自分自身の感性を豊かにするために、日頃から言葉の楽しさや美しさを意識して、授業に臨んでほしい。			

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかわるうで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	言語活動の展開は、グループワークを取り入れ、教員と学生、学生同士の双方向のやりとりを行う。
情報リテラシー教育	○	先行研究などを収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けた上で、信頼性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の言語活動の展開をパワーポイントなどにまとめて発表し、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と音楽B (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	渡邊 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	渡邊 佐恵子	指定なし
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし

授業概要(教育目的)	児童と音楽Aで習得した演奏技術を基礎に、乳幼児・児童を対象とした弾き歌いの課題曲を扱う。乳幼児・児童が生き生きと音楽活動を楽しみ、感性を育むことができるような歌唱・ピアノ伴奏についての演習を行う。
履修条件	児童と音楽Aを履修済みであること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	子どもの歌における伴奏の役割を理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの動きに合わせて、即興的に伴奏を工夫することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者の表現の工夫を学び、自分の演奏に生かすことができる。
技術・表現の観点 (A)	簡易伴奏を考えたり、子どもの声域に合わせた伴奏を考えたりできるような、実践的な力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、講義の進め方の説明とクラス分け	児童と音楽Aで習得した曲を復習しておく。	90分
第2回	春のうた①	ぶんぶんぶん、チューリップ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第3回	春のうた②	めだかのがっこう、ことりのうた など。	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第4回	夏のうた①	しゃぼんだま、うみ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第5回	夏のうた②	たなばたさま、あめふりくまのこ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第6回	秋のうた①	とんぼのめがね、まつぼっくり など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第7回	秋のうた②	どんぐりころころ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分

第8回	冬のうた①	ジングルベル、あわてんぼうのサンタクロース など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第9回	冬のうた②	お正月、こぎつね など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第10回	みんなのうた①	さんぽ	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第11回	みんなのうた②	おかあさん、とけいのうた など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第12回	みんなのうた③	思い出のアルバム など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第13回	動物のうた①	アイアイ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第14回	動物のうた②	ぞうさん など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第15回	発表と自己評価	発表と鑑賞、講義を振り返り、自己評価を行う。	発表会用の弾き歌いを練習する。	90分

学習計画注記
1クラスを4つのグループに分け、4人の講師が順に個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。学習計画に具体的な曲名をあげていますが、各自の技術、進度に合わせて課題曲を選定します。

学生へのフィードバック方法
リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。

評価方法
リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況			○	○
発表				○

評価割合
リフレクションシート（40%）、課題の進捗状況（30%）、発表会（30%）で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する

使用教科書名 (ISBN番号)
島田和昭・高倉秋子 編 (1998) 『うたってひいて童謡ぴっこりーの』 共同音楽出版社

参考図書
各自の進度に応じて、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】
子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。
【思考・判断】
子どもの状況に合わせて、弾き歌いをすることができる。
【関心・意欲・態度】
保育者・小学校教諭として身につけておきたい弾き歌い曲について、豊かなレパートリーを有している。
【技能・表現】
子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。

オフィスアワー
吉永をお訪ねください。
前期：月曜日 3限 1601
後期：水曜日 2限 1601

学生へのメッセージ
予習復習および自己練習の時間を毎日確保して、表現技術の向上に努めてください。ピアノ伴奏の練習をする前に、まずその曲の詩を味わい、よく歌えるようにしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と身体表現 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 荒金 幸子	指定なし

授業概要(教育目的)	身体表現の楽しさを共有し、これからの子どもたちにとって本当に求められているものは何かを考えながら、指導者として持つべき資質・能力(洞察力、コミュニケーション力、人間力、等を含む実践的指導力)を培っていくことを目的とする。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・上手、下手を気にせず、子どもの心で楽しくからだを動かしてみようと思う人。 ・安全面、衛生面を考えた身支度(運動着、体育館履き含む)で参加できる人。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	子どもにとっての身体活動の意義が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どものからだの発育発達にあった工夫と指導法について、自らの体験を通して理解できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークにも積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自らの身体活動の向上にむけ、充分動きを楽しむことができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	からだほぐしの運動	自らのからだの使い方や動きのクセを知り、からだを正しく動かす方法を身につける。	ケガをしないように、からだを整え準備をしておくこと 疲労を感じられる部分をしっかりケアしておくこと	45分
第2回	保護者と(子ども同士でも)できるコミュニケーション遊び	現場ですぐに実践できるコミュニケーション遊びを紹介し、体験する。	今まで、自分自身が体験してきたコミュニケーション遊びをあげておくこと コミュニケーション遊びを記録に残しておくこと	45分
第3回	自分の動きを見直そう	日常生活の中では動かしきれない「からだの使い方」を学び、必要性を理解する。	巧緻性とは、巧緻性を高める運動とは何かを調べておくこと からだを器用に動かす練習をしておくこと	45分
第4回	動きに慣れよう	いろいろな動きを体験し実践しながら身につけていく。	からだを動かす練習をしておくこと いろいろな動きに慣れるよう練習をしておくこと	45分

第5回	動きを楽しもう	自分のイメージ通りに、からだを動かすことができるようになる過程を楽しむ。	からだを動かす時間を持つようにしておくこと 疲労が長く残らないように工夫をしておくこと	45分
第6回	ボール遊びを考えよう	ボールの特性を理解する。 ボールをいかした遊びを体験する。	ボールに慣れておくこと ボール特性をいかした遊びを考えておくこと	45分
第7回	縄跳びを工夫しよう	縄の活用法、跳び方等ひと工夫した遊びを体験する。	縄に慣れておくこと 縄を使った遊びや跳び方を考えておくこと	45分
第8回	身近な用具で運動遊びを考えよう	すぐに活用できる用具や小道具を利用した運動遊びを体験する。 自ら工夫し提案する。	身近にある用具で利用できそうな物をあげておくこと 他者の提案した遊びを記録に残しておくこと	45分
第9回	運動会作品にチャレンジしよう	運動会作品（身体表現）を実践する。 上手、下手を考えずにチャレンジする。	からだを動かし体調の確認をしておくこと 疲労回復できる体操等を行なっておくこと	45分
第10回	運動会作品を工夫しよう	グループで運動会作品を創作する。 動き、隊形など運動会をイメージして工夫する。	子どもたちをイメージした表現方法を考えておくこと 仲間の提案した動きや隊形等、創作に必要なことをまとめておくこと	45分
第11回	運動会作品を発表しよう	グループで創作した運動会作品を発表する。 各グループの表現を楽しむ。	発表に必要な事項をグループごと確認しておくこと 自ら楽しむことができたか、創作から発表までをふり返しておくこと	45分
第12回	体操・ダンスの指導法	号令と動きについて 心地よく動くため、動かせるために必要なことを体験し理解する。	号令とは何か調べておくこと 号令のかけ方を練習をしておくこと	45分
第13回	体操・ダンスの指導法	姿勢と示範について 正しい姿勢とは、示範に必要なことは何かを体験し理解する。	正しい姿勢、良い姿勢とは何か調べておくこと 示範について理解を深めておくこと	45分
第14回	笑顔の素敵な先生を目指して	指導実践の中で、指導上の留意点を明確にし理解する。	子どもたちを前にして指導する場合、指導上配慮することをあげておくこと 指導者として表現できたか、自分自身でふり返りをしておくこと	45分
第15回	楽しくからだを動かそう	まとめ 専門的リーダーシップをもつ指導者に必要なことを理解する。	リーダーシップとは何かを調べておくこと からだを動かすことを楽しむことができるようになったか自己評価をしておくこと	45分

学生へのフィードバック方法	授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
評価方法	指導者の前に、人間として成長していくため自らが自主性や自発性をもち、いろいろな課題に取り組みながら、新しい能力を修得することができたか総合的に評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	レポート等提出物 (30%) グループワーク・実技テスト・授業への取り組み方 (積極性、協調性、安全性) を (70%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 必要に応じて資料を配布する。

参考図書	教育技術(小学館) 幼児と保育(小学館)より 運動会作品(オリジナル)、その他	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】実践的なプログラムを通して、その必要性を理解し自らの成長を高めている。 【関心・意欲・態度】何事もチャレンジする姿勢をもち、自分自身の可能性を広げている。	
学生へのメッセージ	からだを動かすことが大好きな子どもたちの輪を広げるリーダー(指導者)を目指します。 自らを変革していく姿勢を大切に、身体表現を通じて学びを深めましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現在も担当教員が、子育て教室・子どもの健康教室において実践指導している内容を体験させ、その指導方法を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	既存の運動会作品(担当教員オリジナル振付)をグループに分け、創作から発表までの展開方法を伝えている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と造形 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの心身の発達に伴う造形表現の変容を知り、指導の内容と方法について体験的に学ぶ。「生活や遊び」から表したいことを見付ける題材、「形や色」を言葉のように使って表し伝える喜びを味わう活動、子どもの「感覚や感性」を生かす環境や言葉掛けなど、実践的な事例を体験しながら理解を深める。また、さまざまな造形表現の演習を通して、素材の具体的な特徴や出会い方、子どもの表現に適した「材料・用具」に関する知識と技能を身につけ、今日の教育的課題を解決する応用力・指導力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 幼児期における造形表現の特徴と発達の関連、活動の意義や価値について、基礎的な事項を説明できる。 2. 幼児の造形活動に適した内容や教材・用具の使用方法に関する基礎的な知識をもち、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児の発達や個性を理解する視点をもち、個に応じた支援・指導の展開方法を検討できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼児が親しむ遊びや造形文化に関心をもち、子どもらしく個性的な感性を育む視点を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	身近な生活や遊びに関連づけた造形活動に導入・展開する基本的技能を活用し、具体的な活動を運ぶ要件を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 子どもの造形表現と保育の意義	今日の社会や造形文化と子どもの造形表現の関連を知り、保育における位置づけや意義を理解する。	親しみのある造形文化の概要を把握し、幼児の造形表現と生活の関連を整理しておくこと。	45分
第2回	「形や色」に触れる出会い	生活や遊びにある「形や色」に触れる大切さを知り、造形活動を展開する実践的方法を理解する。	生活にある「形や色」について考え、造形活動を開発・展開する事例を調査しておく。	45分
第3回	「描画材や用具」に触れる出会い	幼児が造形表現に用いる描画材や用具の特徴について、基礎的な知識と基本的な技能を体験的に理解する。	造形表現に用いる材料や用具の活用に係る事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第4回	「身近な材料」に触れる出会い	身近な自然材料や人工材料の種類や特徴及び活用方法について、体験的に理解する。	身近な生活にある自然材料を中心に活用事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第5回		幼児期から児童期に至る心身や認識の発達と造形表現の特徴を知り、支援の方法や観点を体験的に理解する。	幼児期の発達や成長の特徴について整理しておく。	45分

	子どもの育ちと造形表現			
第6回	さまざまな表し方と活用(1)技法や行為から	幼児の造形活動に適した表現技法や遊びを生かした表現行為について体験的に理解する。	幼児期の造形活動について技法や行為を生かした事例を調べておく。	45分
第7回	さまざまな表し方と活用(2)感覚や認識から	幼児の造形表現を支える身体感覚や認識の特徴を知り、造形活動に導く意義や具体的な方法を体験的に理解する。	幼児の成長に伴う感覚や認識の発達について、参考資料を基に特徴を整理しておく。	45分
第8回	季節を感じる表現と壁面装飾	季節感を基に発想する造形表現の意味や材料特徴の生かし方を知り、楽しい壁面装飾と環境づくりを体験的に理解する。	季節感を大切にしたい造形活動や材料の事例を調べ、活動構成に求められる観点を整理しておく。	45分
第9回	遊びから生まれる造形表現	材料の特徴を味わう遊びや気付きを生かした造形表現の内容や環境づくりについて体験的に理解する。	幼児の遊びにある感覚や認識の働きについて年齢を基に基礎的な事項を整理しておく。	45分
第10回	人とつながる造形表現	協働性や社会性を重視する造形表現について意義や価値を知り、具体的な展開方法について体験的に理解する。	幼児のコミュニケーション能力を生かす造形活動の内容や展開について事例をあげ、特徴を整理しておく。	45分
第11回	からだで生みだす造形表現	身体の動きや感覚を生かした造形表現の意義や内容を知り、知覚や認識をつなげる造形活動の展開について体験的に理解する。	日常生活の中で働く幼児の運動感覚や身体感覚について具体的な場面の特徴を整理しておく。	45分
第12回	かたまりから生まれる造形表現	粘土の種類や特徴の違いを知り、かたまりの中から発想を広げる造形表現の可能性について体験的に理解する。	紙粘土や土粘土の特徴を生かした幼児の表現について事例をあげ、支援する観点を整理しておく。	45分
第13回	語り継がれるお話づくり(1)構想と制作	幼児に適した創作物語を構想するグループの話し合いを通して物語文化に触れ、楽しく表現するための要件について体験的に理解する。タブレット型PCを活用したビジュアル・コミュニケーションや構想プロセスを体験的に理解する。	パネルシアターやエプロンシアターなどの実践事例をあげ、物語の創作・演技の意義・目的を整理しておく。	45分
第14回	語り継がれるお話づくり(2)制作と演じ方	グループで構想した創作物語を保育者が演技する際の「材料の活用」や「演じ方」について体験的に理解する。	幼児の興味・関心を高める物語の演じ方や材料の活用について事例をあげ、工夫点を整理しておく。	45分
第15回	物語表現の発表・まとめ	グループで制作した物語を相互鑑賞し改善点や工夫点を協議することを通して、物語的表現のよさや違い、幼児の発達・成長に果たす役割を体験的に理解する。各演習で習得した知識や技能について総合的に振り返る対話を基に、子どもと造形表現の関係や支援環境の要件を理解する。	これまでの造形体験や討論を振り返り、造形的な表現活動に求められる知識・技能について資料を基に整理する。各演習で体験した内容を基に、実践的な造形活動の構想・計画し、子どもの発達に寄与する意義を考察するレポートを提出する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法	実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート（各回200字程度）の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート（1600～2000字程度）の提出を学期末に求める。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメントシート	○	○	○	
小論レポート	○	○		
演習・グループディスカッション			○	○

評価割合	平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし (毎回の授業にて適宜資料を配布する)	
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館、2018年 (ISBN : 9784577814475)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもをとりまく生活や遊びの視点を通して、児童学を構成する領域を総合的に理解し、子どもの造形表現の特徴と発達に関連など、専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】幼児期における造形表現の特徴に適した具体的・実践的な造形活動の展開について考察・検討し、討論する方略を有し、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション力・感性を備えている。</p> <p>【技能・表現】造形活動を開発・展開する基礎的な技能や表現力を有し、理論と実践の融合を図ることを通して、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>	
オフィスアワー	火曜日・3限・1629研究室	
学生へのメッセージ	<p>「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもって、演習に取り組むこと。</p> <p>自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。</p> <p>そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望ましい。</p> <p>学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教員として教育現場に従事した経験をもち、文部科学省検定教科書の編修代表として題材開発や教材開発に携わる。文部科学省の学習資料作成委員として学習指導要領に準拠する教育内容の普及に努める一方、幼稚園・小学校の現職教員の研修、社会的教育機関や企業との連携を生かし、今日的課題に応じた学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習では個人の活動と協働的学習の両立を目指し、自他の対話を通じた対話的で実感的な理解を主に授業を構成する。
情報リテラシー教育	○	教育現場で実践されている具体的な事例を授業前後に参照することを通して、webコンテンツや検索スキルを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCをグループディスカッションや造形表現の構想プロセス等で活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育表現技術		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 桜井 郁子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解するために、保育者・教育者に不可欠な情報伝達能力とコミュニケーション能力の開発を目指す。</p> <p>「伝える」ように伝える方法を各自が自主的に考え、課題を通して実践的に表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>グループ単位のワークショップ形式授業では、グループメンバーの多様性を尊重して独創的で創造力豊かな表現方法を習得することを目的とする。そのうえで「他者が発信する情報の読み取り方」「自身が発信したい情報の伝え方」までを学習することを目指します。</p>
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。
------	-------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 正しい日本語と友達同士の会話を臨機応変に使い分けができる。 表現力を高めるために最新の情報機器を効果的に使いこなすことができる。 保育者、教育者として常に社会情勢に関心を持ち、それについて考え、自分の意見を語るができる。 防災知識や災害時の情報伝達方法を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの視点に立ち思考を共有することができる。 年齢を問わず様々な人の意見を傾聴し、理解し、柔軟に対応する判断力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関心を持ち、積極的に参加して表現力豊かに情報発信ができる。 多様性を認めて協調性のある集団活動ができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビアナウンサーメソッドによる発声・滑舌練習で「明瞭で良く通る声」を作る。 言葉だけではなく全身で情報発信するスキルを磨く。 子どもたちを惹きつける朗読のスキルを習得。 朗読劇を上演し、演出力や表現力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	情報伝達技術 1	<ul style="list-style-type: none"> 全員の前で、各自がマイクを使って自己紹介 印象的なフレーズや全身で自己表現する技術を授業で身につけるための第一歩とする 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅やアルバイト先などで他人が自分をどう見ているかをリサーチ 他人が自分に対して持つイメージを確認し自己イメージとのギャップを確認 	120分

			・自己イメージを投影したオリジナル名刺を作成（提出）	
第2回	情報伝達技術2—① 各自の体験を言語化をして表現する力を身につける	・第1回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに2分程度のスピーチをする	スピーチ原稿の作成	120分
第3回	情報伝達技術2—② 他者の体験を理解し評価する	・第2回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに書かれた他者のスピーチを聞き、印象的な部分や興味深い部分など評価してメモをとる	・発声・滑舌の自習 ・評価メモの作成	30分
第4回	表現技術1—① グループで朗読劇上演構想と推敲	・第3回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループに分かれ課題童話を朗読劇にする。上演のための脚本を作成し演出を考える	・脚本案作成と推敲→決定稿作成 ・演出に合わせた衣装など準備 ・発声・滑舌の自習	120分
第5回	表現技術2—② グループで朗読劇上演と評価	・第4回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループごとに朗読劇上演 他グループの上演を見て評価する ・作成し脚本の提出	・発声と滑舌の自習 ・脚本をもとにグループでリハーサル 衣装や小道具準備	90分
第6回	読み聞かせ基礎1 基礎的な朗読技術習得	・第5回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・具体的な文章を使って、意味の取り方・強調の方法・読むスピードの演劇的効果などを学ぶ	・発声・滑舌の自習	20分
第7回	読み聞かせ基礎2 聴衆を巻き込む朗読技術取得	・第6回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループに分かれて童話の朗読 メンバーの声質・雰囲気ほかで配役を決める 間の取り方や強調に注意して表現力を磨く	・発声・滑舌の自習 ・朗読のための下読み	30分
第8回	保育教材研究1 創作童話を書く	・第7回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・課題絵画を見てイメージことを基に創作童話を書く	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲・清書	120分
第9回	保育教材研究2 自分で書いた創作童話を朗読	・第8回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・各自が書いた創作童話を朗読	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲と朗読のための下読み	120分
第10回	情報伝達技術 言葉だけに頼らない情報収集と情報伝達手法「持ち物展覧会」開催	・第9回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いの持ち物に関する情報を収集机の上に相手の人柄や生活態度などを表現するコピーを添えてお互いに品物を展示をする ・全員で展示内容・方法の評価をつける	・発声と滑舌の自習 ・「持ち物展覧会」の記録と評価メモの作成	30分
第11回	読み聞かせ応用編 一人で好きな詩を朗読	・第10回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・課題として10篇の詩を配布 自分の声や気分にあった作品を選び朗読 ・自己評価と他者評価をする	・発声と滑舌の自習 ・朗読の下読み ・朗読の自己評価メモ作成	60分
第12回	演出技術1 創作朗読劇を作る	・第11回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・創作朗読劇上演のために、各自で課題童話の「続編」を書き創作童話を作る	・発声と滑舌の自習 ・課題童話の朗読下読みと執筆	120分
第13回	演出技術2 創作朗読劇における脚本演出の工夫	・第12回：発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループでのワークショップ形式授業 各自が書いた創作童話を参考にしながら、グループごとに脚本作成 観客を楽しく巻き込める演出を工夫する チームリーダーを決めて配役を決める それにまつわる衣装・小道具・メイク・音響などの役割分担	・発声と滑舌の自習 ・創作朗読劇に脚本推敲と清書。衣装・メイク・音響効果など準備 ・上演に向けてのリハーサル	180分
第14回	演出技術3 創作朗読劇発表と最新情報機器の演劇的利用の工夫	・第13回：発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループごとに創作朗読劇上演 脚本・演出（情報機器利用を含む）に関する評価 ・グループ単位で脚本提出	・発声と滑舌の自習 ・創作朗読劇上演に向けてのリハーサル ・上演後の評価メモ作成	120分

第15回	インタビュアーのテクニックと情報処理技術	・第14回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いに統一テーマに関するインタビューを実施 相手の情報を聞き出し1分程度のスピーチ原稿にまとめ発表 情報の伝達とコミュニケーション能力育成の成果発表	・発声と滑舌の自習 ・発表の評価メモ作成	30分	
学生へのフィードバック方法		・提出物（レポートなど）採点しコメントを付けてフィードバックする。 ・質問があれば直接またはメールなどで応じる。			
評価方法		1) 15回の講義の中で適宜宿題としてレポート（作文を含む）提出を求める。知識・思考・意欲・表現技術を念頭に置いて採点する。 2) 全員の前で決められたテーマについてマイクを使って発表する機会を繰り返し設け、授業の理解度・積極性・表現力を採点する。 3) 漫然と出席するのではなく、学ぶ意欲をもって「積極的に授業に参加しているか」「他者への協調性があるか」など授業態度で採点する。 4) グループでの協同作業を協調性をもってスムーズに行い、自分の得意分野を積極的に生かしてグループに貢献しているかを採点する。 ※定期テストは行わない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート（作文を含む）	○	○	○	○
	発表（朗読やスピーチ）	○	○	○	○
	授業態度	○	○	○	○
	グループ作業	○	○	○	○
評価割合		1) レポート（作文を含む）の内容と提出 30% 2) 発表での表現力・コミュニケーション能力・朗読スキルほか 30% 3) 授業での集中力と積極性40%			
使用教科書名 (ISBN番号)		随時配付			
参考図書		随時配付			
ディプロマポリシーとの関連		・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている			
学生へのメッセージ		将来的に必ず役立つ実践と経験を重要視する授業です ・相手に自分の気持ちが伝わる<話し方><聞き方>を学ぼう ・子どもの視点を忘れずに、常に好奇心を持ち、発見を楽しもう ・授業には積極的に参加し自分から楽しむ気持ちを大切にしよう			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	1977年から2014年までフジテレビに勤務。アナウンサー、番組制作、イベント制作、CSR推進業務を経験したことを授業で生かす。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育	○	テレビ局勤務の実務経験を生かして、適宜情報リテラシー教育を行います。			
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	英語アクティビティ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	英語圏の伝承動揺であるマザーグースの歌を実際に歌って覚える。同時に歌に伴うあそびを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	マザーグースを通じて子どもの文化を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの文化を子どもの視点で考え、子どもの文化を適切に伝承できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に子どもの文化を学ぶ意欲を持ち、その文化を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもに歌と遊びの技術を伝え、子どもと一緒にその技術を表現できる。

学習計画

英語アクティビティ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	マザーグース概説、DVD鑑賞	マザーグースとは何か理解する。マザーグースを題材にしたDVDを鑑賞する。	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第2回	手あそび歌1	Bingo, Enemy Teensy Spider, I'm a Little Teapot	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第3回	手あそび歌2	Head Shoulder Knees and Toes, Hickory Hickory Dock, Hot Cross Buns	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第4回	手あそび歌3	The Wheels on the Bus, Humpty Dumpty, If You're Happy and You Know It	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第5回	手あそび歌4	Hokey Pokey, Jack and Jill, John Brown's Baby	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第6回	手あそび歌5	The Grand Old Duke of York, Old MacDonald Had a Farm, Where Is Thumbkin?	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第7回	手あそび歌6	Pat-a-Cake Pat-a-Cake, Ten Little Monkeys, Row Row Row Your Boat	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分

第8回	手あそび歌 7	Twinkle Twinkle Little Star, Polly Put the Kettle On, One Two Three Four Five!	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第9回	手あそび歌 8	Five Little Ducks, One Potato Two Potato, A Sailor Went to Sea	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第10回	手あそび歌 9	Teddy Bear Teddy Bear, This Old Man, Rock-a-By-Baby	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第11回	手あそび歌 10	Sing a Song of Six Pence, This Little Pig Went to Market, One Two Buckle My Shoe	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第12回	手あそび歌 11	Here We Go Round the Mulberry Bush, simple Simon, Pease Porridge Hot	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第13回	手あそび歌 12	My Mother Said That I Never Should, Deny Menu Many Mo, London Bridge	配付されたプリントの歌と手あそびを覚える。	120分
第14回	手あそび歌 13	The Big Ship Sails, The First Day of Christmas	配付されたプリントの歌と手あそびを覚える。	120分
第15回	手あそび歌の復習	授業で学んだ手あそび歌を再確認し、遊びの内容を復習する。	教科書のDVDと配付されたプリントを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第16回	試験と解説	この授業で学んだ手あそび歌の試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	授業で学んだ手あそび歌を全てメロディー・遊びとともに暗唱する。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	試験終了後にポイントを解説する。答えは後期に希望者に返却する。
評価方法	平常点（授業中の実績）、試験により評価する。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○		○

評価割合	平常点（授業中の実績）50%、試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	原幸子（2001）『てあそび英語うた』民衆社
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】マザーグースについての知識と深い思考によって英語圏の児童文化を理解し、子どもたちに伝えられる。 【関心・意欲・態度】積極的に海外の児童文化を理解しようと努め、社会の構成員として次世代に子どもの文化を伝えることができる。 【技能・表現】マザーグースの知識と手あそびの技術を子どもたちに伝えることができる。
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室
学生へのメッセージ	教科書付録のDVDを自宅でよく見て、遊びを覚えてください。授業中は積極的に参加することを心がけて下さい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	映像を利用し実際に手あそびをやりながら学習する。授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と外国語A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、小学校外国語活動や外国語科の教育内容、第二言語習得理論と外国語教授法、指導案の作成、正しい英語の発音など、児童に英語を教えるために必要な知識を学び、外国語活動または外国語科の模擬授業を行う。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校での外国語(英語)の授業の進め方について理解し、実践できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校での外国語活動、外国語科の授業をどのように運営するか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に外国語(英語)の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点 (A)	正しい英語の発音を身につけ、使える英語の語彙を増やし、自信をもって子どもたちに英語を教えることができる。

学習計画

児童と外国語A				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校における外国語教育	小学校における外国語教育の理論と背景、学習指導要領「外国語活動」「外国語科」について学習する。	教科書第1章、学習指導要領「外国語活動」「外国語科」を読んでおく。	120分
第2回	第二言語習得理論	第二言語習得理論と基本的な外国語教授法について学習する。	教科書第2章、第3章を読んでおく。	120分
第3回	国際理解教育、評価方法	小学校での国際理解教育の狙い、外国語の評価の意義と方法について学習する。	教科書第4章、第5章を読んでおく。	120分
第4回	カリキュラムデザイン、英語授業作り	カリキュラム作成、小学校での英語授業作り、特別支援教育における外国語活動について学習する。	教科書第6章～第8章を読んでおく。	120分
第5回	クラスルーム・イングリッシュ	クラスルーム・イングリッシュについて学習し、暗記する。	教科書第9章を読んでおく。	120分

	リッシュの活用			
第6回	求められる教員の資質、教材の選び方	外国語活動・外国語科を担当する教員に求められる資質、教材の選び方と工夫、ICTの活用について学習する。	教科書第10章～第12章を読んでおく。	120分
第7回	指導のポイント、文字指導の在り方	音声指導、1時間の指導の組み立て方と構成、文字指導の在り方について学習する。	教科書第13章～第15章を読んでおく。	120分
第8回	英語の発音：母音	英語の母音の発音の仕方について学習する。	授業で学んだ発音方法を繰り返し練習する。	120分
第9回	英語の発音：子音	英語の子音の発音の仕方について学習する。	授業で学んだ発音方法を繰り返し練習する。	120分
第10回	小学校外国語活動教材研究Let's Try! ①②	Let's Try! ①②の教材研究を行う。	配付されるLet's Try! ①②を読み、使い方について考えておく。	120分
第11回	小学校外国語科教材研究We Can! ①②	小学校外国語科We Can! ①②の教材研究を行う。	配付されるWe Can! ①②を読み、使い方について考えておく。	120分
第12回	小学校外国語活動・外国語科指導案作成	Let's Try! ①②およびWe Can! ①②を使って指導案を作成する。	外国語活動および外国語科の指導案を作成する。	120分
第13回	模擬授業(1)	外国語活動または外国語科における模擬授業を行う。発表は一人ずつ行う。	発表前に教材研究、指導案検討を十分に行っておくこと。	120分
第14回	模擬授業(2)	外国語活動または外国語科の模擬授業を行う。発表は一人ずつ行う。	発表前に教材研究、指導案検討を十分に行っておくこと。	120分
第15回	まとめと復習	小学校外国語活動、外国語科の教育について授業で学んだことを復習する。試験のポイントを解説する。	教科書第1章～第15章および講義内容を復習しておく。	120分
第16回	試験と解説	小学校外国語活動、外国語科に関して試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	授業での学習内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	授業では前時の復習を兼ねて小テストを行い、その場で確認する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○		○
評価割合	平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	金森強編著『小学校英語科教育法—理論と実践—』成美堂				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門てきた知識を修得した上で外国語を指導できる。</p> <p>【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。</p>				
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室				
学生へのメッセージ					

小学校の現場で自信をもって外国語（英語）を教えられるように、授業では積極的・主体的に取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と外国語B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、小学校で外国語を指導する上で必要な「英語」について実践的に学ぶ。具体的には、ALTとの会話、教室で使う英語、学校生活に関する英語、英語を使った活動など、小学校で英語を教える上で必要な英語表現を学習する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校での外国語(英語)授業の進め方について理解し、実践できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校での外国語活動、外国語科の授業をどのように運営するか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に外国語(英語)の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点 (A)	正しい英語の発音を身につけ、使える英語の語彙を増やし、自信をもって子どもたちに英語を教えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校での外国語活動、外国語科の指導について	学習指導要領「外国語活動」「外国語科」の内容を確認する。英語での授業の進め方をDVDで学ぶ。	学習指導要領「外国語活動」「外国語科」を読んでおく。	120分
第2回	Unit 1 ALTの初訪問	ALTとの会話、学校における英語表現について学習する。	Unit 1を学習する。	120分
第3回	Unit 2 ALTとのコミュニケーション	ALTとの会話、お互いに知りあうための英語、学校の施設などの英語表現を学習する。	Unit 2を学習する。	120分
第4回	Unit 3 学校給食	ALTとの会話、学校給食に関する英語表現について学習する。	Unit 3を学習する。	120分
第5回	Unit 4 休み時間	ALTとの会話、学校での遊びに関する英語表現について学習する。	Unit 4を学習する。	120分

第6回	Unit 5 最初の授業	ALTとの会話、英語で授業を行う際の英語表現について学習する。	Unit 5を学習する。	120分
第7回	Unit 6 数を教える 1	ALTとの会話、英語の数の言い方について学習する。	Unit 6を学習する。	120分
第8回	Unit 7 数を教える 2	ALTとの会話、英語の数の言い方、数式の言い方について学習する。	Unit 7を学習する。	120分
第9回	Unit 8 振り返り	ALTとの会話、外国語の授業の振り返りについて学習する。	Unit 8を学習する。	120分
第10回	Unit 9 幼稚園でのアクティビティ	幼稚園での外国語の授業の進め方、様々な英語活動について学習する。	Unit 9を学習する。	120分
第11回	Unit 10 英語を使った生活科・理科の授業	生活科・理科の授業における英語表現について学習する。	Unit 10を学習する。	120分
第12回	Unit 11 英語を使った家庭科の授業	家庭科の授業における英語表現について学習する。	Unit 11を学習する。	120分
第13回	Unit 12 英語を使った社会科の授業	社会科の授業における英語表現について学習する。	Unit 12を学習する。	120分
第14回	Unit 13 英語による日本文化の紹介	文化交流において日本文化を英語で紹介する時の表現を学習する。	Unit 13を学習する。	120分
第15回	Unit 14 避難訓練、Unit 15 卒業式の英語	小学校での避難訓練や卒業式における英語表現について学習する。	Unit 14、15を学習する。	120分
第16回	試験と解説	授業総まとめの試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	Unit 1~Unit 15を復習する。学校生活に関わる語彙、教室英語表現を暗記する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	授業では前時の復習を兼ねて小テストを行い、その場で確認する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	試験	○	○		○
評価割合	平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	相羽千州子他 (2016) 『子どもに教える先生のための英語一会話から授業まで一』（成美堂）978-4-7919-4797-3				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。</p> <p>【思考・判断】 子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技能・表現】 子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。</p>				
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室				

学生へのメッセージ

学んだ表現や知識は、言葉として「使う」ことが大切です。外国語を使ってコミュニケーションすることの楽しさを子どもたちに伝えられるようになってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原 善	指定なし

授業概要(教育目的)	幼児期から学童期にある子どもを主な読者対象とし、その年齢の子どもを描いた児童文学作品を取りあげ、その内容、意義について考究する。絵本、童話作品、伝承文学などを、子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証するとともに、文学作品との関わりの中で、子どもに何が育まれていくのかについて探求する。その上で、保育・教育者として子どもの年齢にふさわしい文学作品を選択出来るようになることを目指す。
履修条件	なし。なお本科目は幼稚園・小学校教諭免許取得に必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・各回に取り上げる具体的な作品についての精緻な読解に到達すること。
思考・判断の観点 (K)	・児童文学をめぐる毎週のテーマについて、自分なりの理解を深めること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・毎週のテーマに関わる作品を探して実際に自分で読むことを重ねる中で、自身で推薦図書を選択できるようになること。
技術・表現の観点 (A)	・取り扱った伝承文学について、自分なりの効果的な再話ができるようになったり、独創的な続編の創作ができるようになったりすること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス (言葉と生命について)	・宮沢賢治「おきなぐさ」読解	授業前には宮沢賢治の文学についておおよそのところを調べておく。 授業後には、言葉を主題にした作品について調べて、テーマについての理解を深める。	120分
第2回	児童文学のはじまり	・巖谷小波「こがね丸」読解	配布されたプリントで作品の全文を授業前に通読しておく。 授業後には出発期の児童文学の状況について調べて当該作品の位置づけを自分なりに確認する。	120分
第3回	子供の純粋さ	・志賀直哉「清兵衛と瓢箪」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似し	120分

			たテーマの児童文学作品について探しておく。	
第4回	子供の純粋さへの幻想	・川端康成「バツタと鈴虫」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第5回	「赤い鳥」の意義	・芥川龍之介「蜘蛛の糸」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第6回	童謡の世界	・北原白秋・金子みすゞ・まどみちお 読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第7回	児童文学と戦争	・小川未明「野薔薇」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第8回	児童文学と教科書	・新美南吉「ごん狐」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第9回	児童文学と道徳性	・太宰治「走れメロス」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第10回	児童文学と動物	・椋鳩十「大造爺さんと雁」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第11回	ファンタジーとそれを支える伝承	・三浦哲郎「ユタとふしぎな仲間たち」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 できれば映像作品も観ておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第12回	伝承文芸と現代	・阪田寛夫「桃次郎」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第13回	児童にとっての悲哀の仕事	・石井睦美「五月の初め、日曜日の朝」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第14回	童話と絵本	・村上春樹「ふわふわ」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第15回	絵本の読み聞かせ	・谷川俊太郎「もこもこもこ」他の実演	授業前に絵本の読み聞かせの法則を調べておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	個々の課題 やコメントシートについては、そのつど授業の中で解説していく。
評価方法	毎回の授業への参加状況・随時行う課題の得点などで総合的に判断する平常点評価と、学期末のレポートの得点を合わせて評価する。
評価基準	

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点… (60%) ・定期試験及びレポート等… (40%) 			
使用教科書名 (ISBN番号)	そのつど指示し、必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書	参考書として関口安義編『アプローチ児童文学』（翰林書房）があればいいが、必要なものはそのつど指示する。なお、取り扱う作品のいくつかを収録したものに『日本児童文学名作集（上）』（岩波文庫ISBN4-00-311431-0）があるので、今後のためにも手元におくことが望ましい。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「子どもの文化」としての児童文学の意義と魅力を理解できる専門的知識を有し、「子どもの教育」の場に提供する教材を選別できる作品の読解力が修得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】文学が描いてきた児童像の中から・子どもの視点に立ち、・子どもの視点に立ち、・子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p>			
学生へのメッセージ	時間内に読む場合も多く、積極的に読みに参加することが求められるが、随時出席票を使った小さな課題を提出して貰うので、事前にプリントが配られている場合には、きちんと作品を読んでくること。また最終週までに5編の作品を選定できるように、毎週のテーマについて関連作品を自分なりに渉猟すること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	教員による一方的な講義形式をとらず、各自が自ら対象作品を能動的に読解し、課題を発見していけるようなグループ・ディスカッションを取り入れていく。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	カリキュラム論		
講義開講時期	前期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	保育所及び幼保連携型認定こども園における指導計画及び全体的な計画の意義やその種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に学ぶ授業である。乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践の関連性について理解しながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。具体的な事例を通じた演習や計画の作成を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	保育実践における計画の種類とそれらの意味と意義を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達の様子に即した保育内容を吟味しながら、育ちを支える保育者の援助の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	計画の意味と意義	保育の展開における計画の意味と意義について理解する。	教科書第9章を予習し記録の意味と意義について内容を確認する。	60分
第2回	保育の計画	計画の種類と実践・記録・計画の関連について理解する。	教科書第10章を予習・復習し、計画の種類について内容を確認する。	60分
第3回	保育所の計画①	保育所の短期的な活動の内容案を考案し、活動案の作成について理解する。	年齢に応じた遊び・保育内容に関する資料を収集し、適した保育内容を吟味する。	90分
第4回	保育所の計画②	保育所の日案を作成するうえで必要な、保育所の生活の流れや援助の主要な観点について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	60分
第5回	保育所の計画③	保育所の日案を作成する。	日案を完成する。	120分

第6回	未満児の計画	保育所の0-2歳児の計画の特徴を理解する。	0-5歳児が参加できる行事について調査し、資料を収集する。	120分	
第7回	長期計画	行事を鑑みた長期的な計画を考案し、週案、月案を作成する。	週案、月案を完成する。	120分	
第8回	計画と省察	保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察の在り方の実際について理解する。	要領・指針に記載の内容について復習する。	60分	
学習計画注記		授業の進行状況等により、変更の可能性があります。			
学生へのフィードバック方法		提出された指導案はすべて添削して授業内に返却する。また、子ども主体の内容になっているか、年齢に応じた保育内容か、保育者として適切な表現を用いているか等を観点として、適宜助言をする。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・短期計画は各自で作成し、評価する。 ・長期計画はグループ討議の結果を踏まえてグループごとに作成し、評価する。 ・提出物の提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	指導案		○		○
	学期末レポート	○	○		○
評価割合		指導案45%、学期末レポート55%			
使用教科書名 (ISBN番号)		中田範子「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求」大学図書出版 2018			
参考図書		保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書 授業中に適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】 児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。</p> <p>【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。</p>			
オフィスアワー		火曜日3-5限目			
学生へのメッセージ		<p>学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。</p> <p>保育士資格取得 必修</p>			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行い、行事等を踏まえた長期の計画を作成する。			
情報リテラシー教育	○	保育所の乳幼児に適した保育内容に関する情報を収集し、指導案作成に活用する。			
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	相談援助 (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	井上 真	指定なし
助教	田尻 さやか	指定なし

授業概要(教育目的)

社会福祉の専門援助技術の基本的な理論や方法を演習を通して学習する。また、援助の方法や技術を知識として理解するだけでなく、援助の展開過程をより深く理解するために、具体的な事例検討等を通して学生自身が主体的に考え参加できるようにすすめる。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ソーシャルワークが大別できる 虐待の諸問題を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	実践的方法を理解できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	貧困問題	相対的貧困 わが国の貧困状況と国際比較 子供の貧困を学び、社会福祉の課題を保育の場に即して理解する	貧困問題に触れる	120分
第2回	ソーシャルワークの方法 理念 基本的考えかた	ソーシャルワークの歴史を踏まえ、現代的課題を理解する。またその方法も理解する。	ソーシャルワークをインターネットで調べる	120分
第3回	ケースワーク	ケースワーク リッチモンドの定義 その方法 バイステックの原則を学ぶ	バイステックの原則を調べておく	120分
第4回	ケースワーク②	特にバイステックの原則を学ぶ	バイステックの原則をしっかり理解する	120分
第5回	グループワーク	小集団の定義 建設的側面と破壊的側面 グループワークの課題 定義	グループワークを概観しておく	120分
第6回			グループワークを概観しておく	120分

	グループワーク	小集団の定義 建設的側面と破壊的側面 ワークの課題 定義	グループ	
第7回	グループの理解	実践的にグループを理解する		子どもの集団活動を学ぶ 120分
第8回	グループの理解	実践的にグループを理解する		子どもの集団活動を学ぶ 120分
第9回	グループの理解	実践的にグループを理解する		子どもの集団活動を学ぶ 120分
第10回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分
第11回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分
第12回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分
第13回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分
第14回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分
第15回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える 日本の課題	その構造 対応 そして	虐待事案をフォローする 120分

学生へのフィードバック方法	レポートへのコメント付記
---------------	--------------

評価方法	①学期末試験による知識の客観的評価（正誤問題） ②レポートによる論述するちからの評価
------	-----------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
学期末試験	○	○	○	
レポート			○	

評価割合	井上、田尻 西口の総合点評価 期末試験60% レポート40%
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	都度紹介
------	------

ディプロマポリシーとの関連	社会福祉援助の実践的側面に着目し、問題を多角的に捉える力を育てると共にその解消や解決する方法を探し出し実践できる力を養う
---------------	--------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月3時間
---------	------

学生へのメッセージ	保育士にとって相談という行為は重要です。ここではその基本、原則そして実際について学びます。
-----------	-----------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカーやセラピスト及び保育士の経験がある担当教員はできるだけ事例に即して授業展開を行う
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育相談支援 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	複雑化している日本の今日の子育てに関する諸問題保育相談支援の意義と原則、及び保護者支援の基本について理解する。また支援の実際を学び、その内容や方法を理解するとともに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についての理解を深める。
履修条件	特になし 保育士資格必修科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談支援について学ぶ。 2. 保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通し、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に育ちあう」支援のあり方を探る。
思考・判断の観点 (K)	1. 子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。 2. 保育相談支援にかかわる事例の検討を通して、保育者としての専門性、実践力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 事例検討やロールプレイを通して、基本的な相談支援の姿勢とスキルを身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・保育相談支援とは何か、保育相談支援の目指すもの	保育相談支援とは何か、保育ソーシャルワークの基本について学ぶ	今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する	120分
第2回	現代日本の子育てに関する問題	現代日本の子育てにおける問題について、社会的背景を踏まえながら、各自で気づいたことを発表し全体で共有する。	日本の子育てに関する問題を新聞やネットで各自で調べ、興味のあるものをまとめる。	120分
第3回	保育現場の気になる子ども	保育現場の気になる子どもを挙げ、その子の抱える課題や背景について理解し、支援について考える。	自分自身が実習やボランティア等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分

	どもの理解と支援			
第4回	保護者と家族に対する支援	保育相談支援における保護者への対応や家族支援のあり方について考える。	教科書や授業で配布した資料を読んで、保護者対応の基本について確認する。	120分
第5回	地域におけるさまざまな子育て支援の実際①～地域子育て支援ネットワーク	地域子育て支援ネットワークを中心に、地域におけるさまざまな子育て支援の実際について知る。	自分が住んでいる地域の子育て支援機関や制度について調べてミニレポートにまとめる。	120分
第6回	園における保育相談支援～保育者の果たす役割とは	保育現場における保育相談支援について、事例をもとに、保育者の果たす役割について考える。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第7回	保育相談支援に求められる基本的な姿勢と技法	保育相談支援に求められる基本的な姿勢と技法について学ぶ 事例検討に有効なジェノグラムとエコマップの作成について学ぶ	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第8回	「保育相談支援」の実際～ロールプレイ体験	いくつかの保育相談支援場面を設定し、ロールプレイにより保育者と保護者の双方の役割体験を通し、保育相談支援の実際について実践的に学ぶ。	実際に保育相談支援のロールプレイを経験し、得られた考察をまとめる。	120分
第9回	事例を通して学ぶ保育相談支援①～発達の子どもの気になる子どもとその家族への支援	発達の子どもの気になる子どもの事例を読み、子ども自身の理解と支援や家族への支援について考える。特に二次障害について、しっかりと理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、発達の子どもの気になる子どもの臨床事例について検討してみる。	120分
第10回	事例を通して学ぶ保育相談支援②～養育に課題を抱える家庭への支援	養育の課題を抱える家庭の子どもの事例を読み、子ども自身の理解と支援や家族への支援について考える。特に、虐待について、通告等、虐待対応の流れについて十分に理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた児童養護に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第11回	気になる保護者への対応	精神疾患等、保護者自身が課題を抱える事例について、保護者への理解と支援のあり方について学ぶ	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第12回	施設における保育相談支援①～児童福祉施設の果たす役割と現状	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。	120分
第13回	施設における保育相談支援②～社会的養護施設の子どものための支援	社会的養護施設の子どものための保育相談支援の実際を知り、そのあり方について考える。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた臨床事例について自分自身で検討する。	120分
第14回	地域におけるさまざまな子育て支援の実際②～他機関との連携	保育相談支援における医療機関等、他の専門機関との連携の実際を知り、あり方について考える。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた臨床事例について自分自身で検討する。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記

※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

講義のほか、事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。

評価方法	期末レポート50%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）20%による総合評価																		
評価基準	評価基準																		
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)														
	定期試験	○	○	○															
	ミニレポート		○	○	○														
	授業・討論への参加	○	○	○															
評価割合	平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）40%、授業内に出される課題30%、ミニテスト30%により総合的に評価																		
使用教科書名 (ISBN番号)	福丸由佳・安藤智子・無藤隆 編著, 2011, 「新保育ライブラリ『保育相談支援』」 (978-4-7628-2744-0) 北大路書房																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談支援について学ぶ。保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通じ、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に育ちあう」支援のあり方を探る。</p> <p>【思考・判断】 子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。保育相談支援にかかわる事例の検討を通して、保育者としての専門性、実践力を養う。</p> <p>【技術・表現】 事例検討やロールプレイを通して、基本的な相談支援の姿勢とスキルを身につける。</p>																		
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より、子育て家庭に関する、新聞・雑誌の記事に関心を持ち、「保育者」としての視点から考えてみてください。 ・3年次より始まる、保育実習に向けて、自分の実習先の施設への事前学習を進めておいてください。 																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。	アクティブ・ラーニング	○	事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。																	
アクティブ・ラーニング	○	事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭支援論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
非常勤講師	荒木 大輔	指定なし
助教	田尻 さやか	指定なし

授業概要(教育目的)

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考えることを目的とする。前半は、保育の場における保護者支援や子育て支援の実際について学ぶ。後半は、障害がある子どもとその家族の生活についての理解を深める。家族（特に母親）が子どもの誕生から成長に伴い、どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより、家庭支援のあり方について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育の場に求められる家庭支援のあり方（意義・目的）について理解する。 障害のある子ども（ニーズに合わせた多様な支援）とその家族について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭を取り巻く課題や問題に対して関心を持って取り組み、その支援に必要な知識と技法を身につける。
技術・表現の観点 (A)	地域子育て支援の具体的方法について理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子育てと家庭 一 家庭・家族の動向と現状	現在の日本の家族形態について理解する。さらに、少子化が続く現状を知り、子ども家庭支援とは何か、基本的な態度・考え方について学ぶ。	教科書 はじめに「家庭を支援すること」 1章「日本の家庭の変化」(8~30ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	子育てをめぐる問題	社会環境の変化と家庭生活について理解を深める。「都市化」「貧困化」「情報化」などが進む今日の日本の家庭生活について考える。さらに、DV、虐待など今日的な課題についても学ぶ。	家庭を取り巻く諸問題について、どのようなものがあるか、できるだけ多く思い浮かべ、インターネットや新聞などでその問題について調べる。	120分
第3回	子育て支援の政策動向	保育所保育指針における「子育て支援」について学ぶ。さらに、2000年以降、様々な子育てに関する政策が立てられている。その内容を理解し、子どもの育ちや子育てを社会全体で支援していこうとする動きについて学ぶ。	保育所保育指針(平成30年施行)第4章「子育て支援」をよく読むこと。教科書 5章「子	120分

		子育てを社会的に支援するために必要な視点について学ぶ。	育てへの社会的支援」(72~83ページ)を読んでおくこと	
第4回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 — 子どもの育ちの喜びの共有 —	保育所や地域子育て支援施設における子育て支援の原則、保護者と連携して子どもの育ちを育てる視点、子どもの育ちを保護者と共に喜び合う基本的態度について考える。具体的な事例なども紹介し、検討する。	保育所保育指針(平成30年施行)第4章「子育て支援」をよく読むこと。事例を振り返り、保育者として必要な保護者に対する姿勢について理解する。(教科書38~41ページ)	120分
第5回	地域資源や関係諸機関との連携・協力	子ども家庭支援を支える地域の子育て支援拠点・資源にはどのようなものがあるのか理解する。さらに、その資源を活かし、家庭を支援する地域社会の関係づくりにはどのような方法があるのか考える。	教科書 7章「支援のネットワーク」(100~115ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	家庭支援の実際(1) 在園児の保護者への支援	保育所に在園中の家族への支援の具体例を考える。事例検討・ロールプレイ等で実際の場面について考える。	授業中の配布資料(事例)をよく読み、家族への支援の基本姿勢について理解を深める。	120分
第7回	家庭支援の実際(2) 地域の子育て支援	地域に暮らす子育て家庭を支援するプログラムの実際について学ぶ。子育て支援グループや子育て支援拠点における援助について考える。具体的な事例検討、ロールプレイを行い、理解を深める。	配布資料(事例、プログラムについての解説等)をよく読み、理解を深める。	120分
第8回	家族援助のキーワード	前半のまとめを行う。さらに、子ども家庭支援における今後の課題(様々なニーズの理解、家庭を支援する姿勢)についても確認し、今後の学びにつなげる。	前半の配布資料、保育所保育指針 第4章「子育て支援」、教科書をよく読み、保育者の子ども家庭支援における基本姿勢について確認する。	120分
第9回	障がいのある子とその家族の支援 (1) 障害についての基礎的な知識	保育や幼児教育の現場で関わる可能性が高い障害(知的障害、自閉症、発達障害、重症心身障害、中途障害等)についての基礎的な知識を学ぶ。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第10回	障害のある子とその家族の支援 (2) 障害のある子のライフサイクルを学ぶ	障害のある子のライフサイクルと、各ライフステージのライフイベントを学び、障害のある子とその家族がどのような支援機関、専門職とかかわり、どのような制度やサービスを利用しているのか、その背景の理解を深める。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第11回	障害のある子とその家族の支援 (3) 家族は子どもに障害にどう向き合っているか	障害のある子の家族が、障害にどう向き合っているか、いくつかの学説とエピソードについて触れながら学ぶ。また家族にはどのようなプロセスや支援を経て本来持っている力を取り戻していくかについて学ぶ。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第12回	事例検討① 重症児の事例を通して	医療的ケアを必要とする重症児の事例を通じ、家族のリアリティと重度の障害児を支援する福祉制度を学ぶ。また、グループワーク(ロールプレイ)を通して重症児の家族の気持ちなどについて体験的理解を深める。	配布資料(事例、ワークシート)をよく読み、理解を深める。ロールプレイを通して体験的に理解を深める。	120分
第13回	事例検討② 中途障害(高次脳機能障害)の事例を通して	事故や病気で後天的に障害を負うことになった子どもとその家族の支援について学ぶ。個人ワークとして、事例についてのジェノグラムやエコマップなどを作成し、支援ニーズの可視化についても学ぶ。	配布資料(事例、ワークシート)をよく読み、理解を深める。	120分
第14回	事例検討③ 自閉症の事例を通して	自閉症の事例を通じて、これまでの授業で学んだことを全体的に振り返る。	配布資料(事例、ワークシート)をよく読み、理解を深める。	120分
第15回	当事者のお話を聴く — ゲストスピーカーによる講演 —	障害のある子を育ててこられたご家族にきていただき、子育ての困難やその困難をどう解決していったか、幼児期や学齢期においてどのような保育者や支援者、専門職と出会い、どのようなかかわりや支援があったかなどについてお話をいただく。	これまでの配布資料で障害のある家族についてふりかえっておく。また、ゲストスピーカーからの話をコメントペーパーにまとめる。	120分
第16回	試験	前半はまとめの講義を行い、後半にレポート作成の試験を行う。	レポート作成のための準備を行う。	120分

学習計画注記	* 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。 質問がある場合には授業の前後または研究室（mailも可）に積極的に声をかけること。			
評価方法	平常点（提出物、授業態度、出席状況など）20%、レポートおよび試験80%の割合で評価する。レポートの課題については授業中に説明する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
定期試験（レポート）	○	○		○
評価割合	平常点（提出物を含む）20%・レポートまたは試験80%の割合で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	加藤邦子・浜川順子編著「子どもと地域と社会をつなぐ 家庭支援論」福村出版			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子ども家庭支援にかかわる専門的な知識を修得する。 【思考・判断】課程・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を磨く。 【関心・意欲・態度】子ども家庭をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子ども家庭の健全で豊かな育ちのために使命感を持って行動できる。 【技術・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。			
オフィスアワー	水曜日 2時限 1501研究室			
学生へのメッセージ	家庭における支援、保育施設、地域子育て支援施設における支援について興味関心を持って受講してください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	後半を担当する荒木は障害児施設での実務経験を有する。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田 佳子	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校家庭科教育の意義や目標と果たす役割について学ぶとともに、指導内容について生活の科学的理解や児童の実態、中学校との関連を踏まえ系統的に学ぶ。また、学習指導要領を通して、小学校で進められている家庭科教育の現状を理解するとともに、これからの家庭科教育の在り方について考究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育の歴史の変遷と今日的意義と目標、果たす役割について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育が目指す視点をもとに思考・判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画を立てることができる

学習計画

家庭科教育

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の概要	学校における教科の一つである「家庭科」とは何かについて自分が学んだことをもとに考える		
第2回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像を掴み、その変遷と今日的意義を理解する		
第3回	小学校家庭科における目標と内容	学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を理解する		
第4回	家庭科の授業方法	授業の構造を理解するとともに、学習指導法、教材研究の方法について理解する		
第5回		実践的・体験的な学習活動を通して資質・能力の育成を図る授業を授業分析を通して理解する		

	特色ある家庭科授業実践の分析			
第6回	評価とは評価の種類 指導と評価の一体化	指導計画作成を通して、ねらい、指導内容、学習過程、評価計画を身に付ける		
第7回	教材研究と授業展開① 「調理の基礎」の目標 教材分析	目標・教材分析を通して指導内容を理解する ※教材分析についてレポート課題提示	教材分析レポート作成	30分
第8回	教材研究と授業展開② 「調理の基礎」の学習 指導案の作成	ポイントを押さえて1単位時間の指導計画を作成することができる	教材分析レポート作成	30分
第9回	教材研究と授業展開③ 「調理の基礎」の授業 分析	教材研究と授業展開③ 「調理の基礎」の授業分析		
第10回	「衣食住の生活」内容の 教材研究と指導上の 留意点①	生活を豊かにするための布を用いた製作について教材研究を通して指導内容を理解する①		
第11回	「衣食住の生活」内容の 教材研究と指導上の 留意点②	食育の一層の推進、ご飯とみそ汁、表示、食の安全について教材研究を通して指導内容を理解する② ※研究課題の提示	研究課題レポート作成	30分
第12回	「衣食住の生活」内容の 教材研究と指導上の 留意点③	より快適な住まい、季節に合わせた着方・住まい方について教材研究を通して指導内容を理解する③	研究課題レポート作成	30分
第13回	「家族・家庭生活」内容の 教材研究と指導上の 留意点	少子高齢社会の進展への対応、異なる世代の人々との関わりについて教材研究を通して指導内容を理解する④	研究課題レポート作成	30分
第14回	「消費生活・環境」 内容の教材研究と指導 上の留意点	現在の消費生活と消費者の行動、意思決定、自立した消費者の育成について教材研究を通して指導内容を理解する⑤ ※課題レポート提出		
第15回	まとめ	小学校家庭科の目的・役割を理解し、生活の質の向上を図るための指導内容を理解する。		

学生へのフィードバック方法 実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。

評価方法 教材分析レポート、課題をもとに研究課題レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート1、2	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合

	教材分析レポート（20%）、研究課題レポート（40%）、平常点（ワークシート・作品提出、授業態度）（40%）	
参考図書	小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科5・6」開隆堂出版、 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版	
ディプロマポリシーとの関連	【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる 【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる 【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心をもち、家庭科の重要性を理解することができる 【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、その考え方を身に付けている	
学生へのメッセージ	家庭科は「生活」を学ぶ教科です。人と人、人ともものをつなぎ、生活文化の継承、持続可能な社会の構築を目指すものです。楽しみながら、積極的に学ぶ姿勢を期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。
アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	卒業研究基礎ゼミ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし
教授	児童学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探究したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域(子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化)における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

卒業研究基礎ゼミ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒業研究基礎ゼミ1	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第2回	卒業研究基礎ゼミ2	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第3回	卒業研究基礎ゼミ3	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第4回	卒業研究基礎ゼミ4	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第5回	卒業研究基礎ゼミ5	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第6回	卒業研究基礎ゼミ6	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

第7回	卒業研究基礎ゼミ7	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第8回	卒業研究基礎ゼミ8	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第9回	卒業研究基礎ゼミ9	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第10回	卒業研究基礎ゼミ10	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第11回	卒業研究基礎ゼミ11	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第12回	卒業研究基礎ゼミ12	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第13回	卒業研究基礎ゼミ13	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第14回	卒業研究基礎ゼミ14	・配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。 ・4年生保育実践演習ポスターセッションに参加し、ポスターセッション終了後にワークシートを提出する。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第15回	卒業研究基礎ゼミ15	・配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。 ・4年生卒研発表会に参加し、業務を担当する。発表会終了後にワークシートを提出する。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

学生へのフィードバック方法	配属されるゼミの指示に従う。
評価方法	配属されるゼミにおける平常点（授業中の実績）と課題（ワークシート等）の提出等により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題提出	○	○	○	○

評価割合	卒研基礎ゼミ平常点（授業中の実績）50%、保育実践演習と卒研発表会におけるワークシート提出50%
使用教科書名 (ISBN番号)	配属されるゼミ担当教員の指示に従う。
参考図書	配属されるゼミ担当教員の指示に従う。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあひ学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	研究室により異なる。
学生へのメッセージ	これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験（保育・教育現場経験）のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。



[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	青年心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	青年期は自我を確立していく大切な時期である。本講では、青年期が人として生きていく上で大切な時期であることを理解した上で、青年自身の問題と社会の問題がどのように関わっているのかについて考え、問題意識を高めていくことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 青年心理学に関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 2. 青年心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、青年心理学の内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を青年心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 社会的な問題を家族心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある事象から、青年心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、青年心理学で得た知識に基づいて説明するなど、青年心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	青年心理学の理論 1—青年期を学ぶ意義—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本的な姿勢を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	青年心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	青年心理学の理論 2—青年期の区分、一般的特徴—	青年期の定義、区分、一般的な特徴を学ぶ。	青年心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と青年心理学のつながりを考える。	180分
第3回	青年心理学の理論 3—発達課題—	青年期における発達課題を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

第4回	青年心理学の理論 4—アイデンティティ、自我・自己の発達—	アイデンティティとは何かを知り、自我と自己の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	青年心理学の理論 5—個と集団を学ぶ。対人関係の発達—	青年期における対人関係の特徴を知り、対人関係の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	青年期をとりまく時代背景、世代性	各時代における青年期を取り巻く状況や、特有の問題について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	青年期と現代社会	現代社会における青年期が抱える問題を知り、その解決策を考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	青年期のコミュニケーション	青年期のコミュニケーションについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	青年期の問題解決法—心理療法、カウンセリング入門—	青年期の問題解決法として、心理療法やカウンセリングの基礎を学ぶ。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	青年期の「問題」 1—不登校、ひきこもり—	青年期における問題を理解し、その内、不登校と引きこもりについて知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	青年期の「問題」 2—摂食障害—	青年期における問題を理解し、その内、摂食障害の発生のメカニズムとその特徴、および治療や予後を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	青年期の「問題」 3—発達障害—	青年期における問題を理解し、その内、発達障害の特徴、および対応について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	青年期の「問題」 4—依存症、嗜癖—	青年期における問題を理解し、その内、依存症、嗜癖の特徴、および対応について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	青年期の「問題」 5—対処法を考える—	青年期における問題への対処法を考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括	心理学の観点から、変化する社会の中での青年期の課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生じた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		
評価割合	最終試験60%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。			
参考図書	授業の中で紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 青年期という発達段階から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。</p> <p>【思考・判断】 心理学に関する思考をもって「青年期」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、青年心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】 学修で得た専門的技能 (技術) をもって人間社会の中に課題を発見し、青年心理学的な思考や青年心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>			
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、3限、5限 (町田キャンパス1633室) 後期：月曜日のお昼休み、4限 (町田キャンパス1633室)			
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	青年期に生じる問題を扱う部分については、保健・医療機関、教育機関、福祉行政施設において臨床心理士としての実務経験をベースに授業を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	現代社会における青年期特有問題やその解決方法についてディスカッションを行う予定である。		
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	人格心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 早野 富美	指定なし

授業概要(教育目的)	パーソナリティとはどのようなものか、個人差はあるのか、また、パーソナリティは測れるものなのか、について解説する。各回ではそれぞれパーソナリティについて心理学的、精神医学的、精神症候学的、そして生物学的な側面から多面的な視点で説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 人格を記述する方法として、類型論、特性論、因子論の3つの理論について理解し説明できる。 2. 人格を形成するには人間の心理的理解にとどまらず、進化や遺伝、脳との関連からも関係づけられる。 3. 人格を測るにはどのような心理テストがあり、心理テストの理論背景を知り特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 人格を論じるときにどの理論で記述されているのかを類別できる。 2. 人格を測る心理テストには知能テストやパーソナリティテストなど様々なテストがあり、どのような場面でどのようなテストを用いたらよいかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 簡単な心理テストを行ったり解釈するときには参加できる。 2. デスカッションを行うときには積極的に意見を出し合うことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 講義を通して、客観的事実なのか、自分の意見なのかを区別して表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入、人格とは	人格、性格、気質、特性、資質の違いについて学ぶ。それぞれの言葉の意味を理解しながら人格とは何かを考察する。	(予習) 人格とは何か?どのように形成されるのかについて考えてくること。 (復習) 人格、性格、気質、特性、資質の違いについて復習しておくこと。	120分
第2回	人格理論 I	心理学の歴史の中で、どのような理論が提唱され人格心理学が出来上がってきたのかを理解する。	(予習) 歴史の中で古代ギリシャでは人の性格をどのように見ていたかを調べておくこと。 (復習) 講義で配布する資料を復習しておくこと。	240分
第3回	人格心理学 II	日本における人格心理学の歴史について理解するとともに、人格理論の一つである類型論について学ぶ。	(予習) 類型論について調べておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分

第4回	人格理論Ⅲ	人格理論の中の特性論と因子論について理解する。	(予習) 特性論について調べておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第5回	人格と知能	人格形成には知能がかかわっていることを理解し、知能検査の歴史や種類を知る。	(予習) 人格にはなぜ知能が関係するのかを考えてみる。 (復習) 講義で配布した資料を読んでおくこと。	240分
第6回	人格と測定 I	人格は測定できるのか、測定できるとしたらどのような測定の方法があるのかを理解する。	(予習) 人格は測定できるのかについて考えてくる。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第7回	人格と測定 II	人格を測定する各種心理テストについて知る。実際に心理テストを行い解釈の方法について学ぶ。	(予習) どのような心理テストがあるのかを調べ、どのようなことを測定するのかについて調べる。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておく。	240分
第8回	進化と遺伝から見る人格	人格はヒトの個体が発生した時から、成長・発達に伴って形成されていくものと、ヒトが出現したときから備えている基本的な人格の要素が受け継がれていることを知る。	(予習) ヒトが出現したときから備わっているとされる基本的な人格の要素について考えておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておく。	240分
第9回	人格の生物基盤	人格の形成は脳の形成や働きと深く関係していることを学ぶ。	(予習) 前回の講義で配布する資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布する資料を復習しておく。	240分
第10回	脳の器質的な変化と人格の変化	人格は頭を強く打って脳の中に損傷ができた場合や、脳を手術した場合などによって人格が変化することがあることを知る。	(予習) 前回の講義で配布した脳の領域と機能について理解しておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第11回	心身の健康と人格	こころとからだの健康について講義の中で考察する。また心と体の健康状態が人格に与える影響について理解する。	(予習) こころとからだの健康な状態とは、また健康でない状態とはどのような状態化について考えておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第12回	精神病理から見た人格 I	統合失調症、うつ病、不安障害などについて学び、それぞれの疾患の特徴的だといわれる性格について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第13回	精神病理から見た人格 II	発達障害、摂食障害などについて学び、それらの疾患に特徴的だといわれる性格について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第14回	精神症候学から見た人格	サイコパス、ミュンヒハウゼン症候群など症候学的にみた行動の異常を学び、それらの人格特性について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第15回	全体のまとめ	人格理論、歴史、脳との関係など、これまでの講義の全体を振り返りながらまとめる。	(予習) 前回までに講義で配布した資料すべてを読んでおく。 (復習) 理解できたところできなかつたところを把握し、理解できなかつたところは重点的に復習しておくこと。	360分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	各自講義前に調べてきたことや、講義の中で考察したことなどを小レポートにまとめて提出してもらおう。提出したものはとりまとめて整理し、次回の講義で紹介し、みんなで意見を出し合って考察する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義中に数回小レポートを書いて提出してもらおう。また、2回程度のレポートを課題として出すので、テーマに沿って書いたものを提出してもらおう。レポートの評価点は平常点の30%の中に含まれる。 定期試験は60点満点で出題する。問題形式は選択式および記述式で実施する。 レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○		
評価割合	平常点 (40%) と定期試験 (60%) で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する子どもの6領域「保育」「教育」「福祉」「健康」「心理」「文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】 具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応でき、家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を備えている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】 子どもの専門家として社会に貢献できるとともに、保育者・養育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。</p>			
学生へのメッセージ	<p>人格はどのように形成されるのか。人格は測ることができるのか。私たち誰もが持っている人格について、生まれ、育ち、遺伝、生物的といった様々な視点から学んでいきましょう。</p>			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、大学院医学系研究科精神医学教室にて、200人以上の研究協力者に対して知能検査をはじめ、各種心理検査を施行したじっけがあり、その経験をもとに心理検査の種類や手法、解釈の仕方などを享受している。		
アクティブ・ラーニング	○	主に「ラウンドロビン」を用いている。グループで順番に意見を言い俺を発表する手法であるが、それを少し形を変えて、それぞれが意見をまず紙に書きだして、それを教員が集計して次回の講義までにまとめ、まとめたものを紹介し、それについて意見を言い合うという方式で進めている。		
情報リテラシー教育	○	論文を活用したり、どのような機関が発信している情報に信ぴょう性があるかなど、常に情報リテラシーの意識をもって講義をするように心がけている。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
思考・判断の観点 (K)	・人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。 ・保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・家庭とは何か	家庭や家族について、各自が抱くイメージを出し合い、共有する。 養育家庭の体験談を読み、様々な家族のあり方に気づく。	「家族・家庭とは何か」について授業内で話し合ったことをもとに、自分が考えたことをまとめる。	120分
第2回	子どもが育つ場としての家庭(養育者と子どものかかわり方の基本原理)	子どもが育つ場としての家庭について、養育家庭など血縁関係による家族という形にとらわれず、さらに施設で育つ子どもたちにも目を向け、養育者と子どものかかわり方の基本原理について考える。	さまざまな家族関係について、授業で学んだことをもとにまとめる。	120分
第3回	乳児期と家庭教育	乳児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に生きていくための基盤となる愛着関係や信頼関係の構築に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート(リアクションペーパー)としてまとめる。	120分

第4回	幼児期と家庭教育	幼児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に自律と自立に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第5回	学童期・思春期と家庭教育	学童期・思春期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に自立の前段階としての親子関係に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第6回	青年期と家庭教育	青年期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に「自立」というテーマに着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第7回	家庭教育にみる家族の発達の課題～育てられる者から育てる者へ	成人期以降の基本的な発達を踏まえた上で、特に「育てる者から育てる者へ」という役割転換に着目し、家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第8回	事例から考える家庭教育	子育てにおいて、親が悩んだり迷ったり不安に感じることの多い場面を取り上げ、親としてどのような対応が望ましいのか、または考えられるのか、各自で検討し、発表する。合わせて、支援者の立場からどのような助言や支援ができるのかについて考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第9回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①	現代社会の変容について、「社会全体」「家族」「人間関係」「ライフスタイル」「その他」の5つの視点から捉え、各自が気づいたことを発表し、全体で共有する。また、変容自体を良い・悪いで評価するのではなく、その結果、現在どのような状況になっているのか、良い面と悪い面の両面から考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第10回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②	前回授業で考えた現代社会の変容について、家族や家庭をひとつのシステムとしてとらえる。また、現代日本社会における結婚観と家族観の変容について知り、その背景について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第11回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③	資料として「女性の社会的変容と子育ての上で生じている心の諸相」（菅井, 2001）と「女性のライフサイクルの木」（岡本他, 2002）を使い、女性と子どもの視点から、家族と家庭、家庭教育について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第12回	家庭教育支援の現状と課題～家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携	子育て家庭への支援の現状を知り、家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携のあり方について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第13回	海外の家庭教育	海外の家庭教育のあり方について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、日本の家庭教育と比較検討する。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第14回	今後の家庭教育に求められるもの	現代の社会的背景を踏まえながら、今後、家庭教育に求められるもの、必要とされる支援について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、発達の視点、社会的視点からみた、「家族」「家庭」「家庭教育」についての総括を行う。授業の最後に、まとめとしての確認テストを行う。	これまで学んできたことをしっかり復習しておく。	240分

学習計画注記

※ 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業時のミニレポートなどを活用し、質問や疑問については毎回の授業内で回答やコメント、または助言等を返していく。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験	○	○	○	
ミニレポート		○	○	
平常点		○	○	
評価割合	試験60%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加など）10%により総合的に評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。必要な資料を配布します。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。</p> <p>【思考・判断】 人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。</p> <p>また、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。</p>			
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ	各自、新聞や雑誌等の家庭や家族に関する記事を意識し、目を通しておいください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は長年、子育て支援の現場での臨床経験があり、本科目が扱う領域に詳しい。		
アクティブ・ラーニング	○	グループで本科目で取り上げるテーマについてディスカッションするなどの時間を取り入れている。		
情報リテラシー教育	○			
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 田尻 さやか	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題(子ども観、子どもの発達等)を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明に向けて、課題を捉え、知識を深め、実践できる力をつける。			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を理解するための子どもに関する基礎的な知識を修得する。			
思考・判断の観点 (K)				
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動できる態度を身につける。 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。			
技術・表現の観点 (A)				
学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	児童学とは	児童学の対象である「子ども」とはどのような存在だろうか。グループワークやディスカッションを通して自らの「子ども観」を問い直してみよう。	子どもの権利条約にみられる「子ども観」について、情報検索して調べておくこと。	120分
第2回	子どもとは何か(1) 子どもと遊び	子どもの「遊び」の教育的意義や、子どもの遊びの中に「学び」を見出す大人のまなざしの重要性について考える。	幼稚園教育要領の5つの領域のねらいと内容について、具体的にどのような遊びや活動と関連づけられるのか想像しながら読んでみる。	120分

第3回	子どもとは何か (2) 現代社会と子ども	現代社会の姿容と子どもを取り巻く環境や諸問題の現状と課題について、最新のデータを踏まえながら、グループディスカッションを通し考えていく。得られた気づきや考察はグループや全体の場で発表し共有する。	授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	120分
第4回	子どもとは何か (3) 発達と臨床	子どもに関わる諸問題の内、発達と臨床をテーマに、子育て支援や発達障がいや児童養護の問題を取り上げ、事例検討を交えながら、支援の在り方について考える。	2回の授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第5回	子どもの発達 (1) 乳児期・幼児期の発達	乳児期・幼児期の子どもたちの発達の様子について、映像資料等で学ぶ。0, 1, 2歳, 3, 4, 5歳の心身の発達の概観をつかむ。	〔予習〕①自分が覚えている一番古い記憶について、何歳頃のどんな記憶か書いてくる。②幼児期の一番思い出深い人とかかわりについてエピソードを書いてくる。〔復習〕授業で最も興味をもった年齢 (0~5歳児) の発達について、文献やインターネットの情報から調べ、まとめる。	180分
第6回	子どもの発達 (2) 発達に影響を与える要因	人の発達に影響を与える要因、発達のメカニズムについて学ぶ。	〔予習〕今の自分の形成に最も影響を与えていると思うもの (人物, 出来事, 環境等) を書き出してくる。〔復習〕授業の内容に関して理解が不足していると感じられる点について、文献等で調べて確認しておく。	180分
第7回	子どもと共に育つ (1) 関係的存在としての子ども	人間は関係的存在であり、子どもは特に関係の中で育つ存在である。関係的存在としての子どもについて理解し、自己・人・ものがかわりあって育つ状況について考える。さらにその関係のしかたは5つに分類されることを学ぶ。	配布プリントをよく読み、5つのかかわり方について理解する。	120分
第8回	子どもと共に育つ (2) 子どものかかわり方	「5つのかかわり方」の分類を使って、具体的な子どもの遊びの場面 (DVD) を観る。さらに、子どもの遊びの場工面にでてくるもの (おもちゃ, 絵本, 道具) も紹介する。	「5つのかかわり方」について、配布プリントやDVDで観た内容のメモを振り返り、理解する。	120分
第9回	子どもと共に育つ (3) 幼児集団活動と遊び	実際の保育場面における保育者の機能 (方向性・内容性・関係性) を学ぶ。また、小集団活動における子どもの遊びの発展の様子、人間関係について理解する。	配布資料をよみ、保育者の機能について理解する。	120分
第10回	子どもと共に育つ (4) 児童福祉施設におけるかかわりの実践	保育所以外の児童福祉施設 (児童養護施設・母子生活支援施設等) における保育者のかかわり、その具体的な実践例を紹介し、保育者の役割について理解を深める。	配布資料を読み、保育者の活躍する児童福祉施設の種類・役割について理解する。	120分
第11回	第13回 児童と教育 (1) 地域で育つ子どもたち	小学校と地域の幼稚園・保育所との連携は、幼・保・小連携と言われている。同じ地域の幼・保・小連携の重要性や課題について、小学校の立場から理解する。	配布資料を読み、幼保小連携の重要性や課題について、小学校の立場から考察する。	120分
第12回	第14回 児童と教育 (2) 人とかかわりで育つ子どもたち	小学校に入学して学校や友達とうまく適応できない問題は、小1プロブレムと言われている。小1プロブレムを起こさない工夫として、生活科のスタートカリキュラムを理解するとともに、工夫した点と課題について考察する。	スタートカリキュラムに関する配布資料を読み、工夫した点と課題について考察する。	120分
第13回	第15回 児童と教育 (3) 心豊かな子どもたちの育ち	生活科のスタートカリキュラムについて、横浜市A小学校をもとにしたスタートカリキュラムの試案に対して、さらに良くするためにどうしたらよいか考え、各自の意見を提案することができる。	横浜市A小学校をもとにしたスタートカリキュラムの試案に対し、さらに良くするための各自の提案を考える。	120分
第14回	障害のある子ども①	障害のある子どもに関する最近のトピックスを通して、(3人称としての) 子どもの障害をどう捉えるか、討論形式で授業を進める。	新聞やインターネットを通して、障害児者に関するトピックスを1つ以上調べる。そのトピックスで問題になっていること、当事者や家族の主張、社会に求められる対応について整理しておくこと。	120分
第15回				120分

	障害のある子ども②	初めに障害のある子どもを支える様々な職業を紹介する。その中で教員、保育士にスポットを当て、(2人称としての)子どもの障害をどのように捉えてサポートしていくべきか、グループワークを通して検討し、全体で共有する。	障害のある子どもや大人が利用できる関係機関について、幼児期、学齢期、成人期別に事前に調べておくことが望ましい。卒業後に就職を希望する職種がある場合は、その職種に求められる対応について調べておく。	
学習計画注記	*オムニバス形式での開講なので、担当教員のスケジュールの変更がある場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	講義形式が主であるが、子どもに関わる実際の活動や映画のDVD等による視聴覚教材を通して児童学を考究する方法も実施する。 質問は授業の前後または、各授業担当の研究室に訪問すること。			
評価方法	平常点は、授業への取り組みの態度、コメントペーパー、出席状況を総合的に判断する。(20%) 定期試験は、各授業担当から出題され、授業の総合的な理解を確認する。出題については授業の中で説明する。(80%)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
定期試験	○	○		○
評価割合	平常点 (40%)、定期試験 (60%) (平常点は授業への参加状況・小レポート等で総合的に判断する)			
参考図書	講義のなかで随時紹介する。 「共に育つ 一人間探究の児童学― 増補版」宣協社 2015年 ISBN 978-915370-08-3 C3037			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を理解するための子どもに関する基礎的な知識を修得する。 【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動できる態度を身につける。 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。			
オフィスアワー	木曜日 2時限 1501研究室			
学生へのメッセージ	子どもに関する様々な課題(子どもを観察したり、接したりしてみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみる)に関心を向け、積極的にかかわったり、行ったりしてみること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	児童福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 市川 和男	指定なし

授業概要(教育目的)	児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 児童福祉の意義及び歴史的展開過程について説明できる。 2. 児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に説明できる。 3. 児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題について指摘できる。 2. 児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割を類別し、現状と課題について指摘できる。 3. 児童家庭福祉の動向と展望について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 児童家庭福祉とは何か	【1回目 5/11(土)(第1~3回授業)集中授業1~3限目] 児童家庭福祉の授業の全体像について理解する。 子どもを表す用語や社会福祉や児童福祉の目的を学び、児童とは何か、児童福祉とは何かについて理解する。	・予習:テキスト第1章「児童福祉とは何か」(11~15ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習:その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	現代の社会と子どもの生活(1) 子どもの生活環境の変化	急速な社会の変化や、少子化の進展について学び、子どもの生活環境の変化について理解する。	・予習:テキスト第2章1節「子どもの生活環境の変化」(17~24ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

			・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第3回	現代の社会と子どもの生活（2） 子どもの成長や発達をめぐる問題	子どもの生活習慣やからだと心の変化、高学歴社会の子ども達や、心と行動へのケアが必要な子ども達の現状を学び、子どもの成長や発達をめぐる問題について理解する。	・ 予習：テキスト第2章2節「子どもの成長や発達をめぐる問題」（25～37ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第4回	現代の社会と子どもの生活（3） 子育てをめぐる問題	【2回目 5/25（土）（第4～6回授業）集中授業1～3限目】 子育ての負担・安心感や、経済的な負担感、仕事と子育ての両立の現状を学び、子育てをめぐる問題を理解する。	・ 予習：テキスト第2章3節「子育てをめぐる問題」（37～50ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	児童家庭福祉の理念と概念	児童福祉理念の国際的動向や、日本における児童福祉の理念、子どもの権利条約の意義と内容について学び、児童家庭福祉の理念と概念について理解する。	・ 予習：テキスト第3章「児童家庭福祉の理念と概念」（51～60ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	児童家庭福祉の歴史	近代以前の時代における児童保護、明治初期の児童保護対策、児童保護事業の始まり、児童保護にかかわる制度・政策、児童福祉法の成立とその後、欧米における児童福祉の歩みについて学び、児童家庭福祉の歴史を理解する。	・ 予習：テキスト第4章「児童家庭福祉の歴史」（61～80ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	児童福祉および関連施策の体系	【3回目 6/8（土）（第7～9回授業）集中授業1～3限目】 児童福祉及び関連施策の対象、関連施策の諸形態、児童対策にかかわる主な法律、児童福祉及び関連施策の全体場について学び、児童福祉および関連施策の体系を理解する。	・ 予習：テキスト第5章「児童福祉および関連施策の体系」（81～88ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	児童福祉の法制度	児童福祉法の構成、児童福祉施設および事業、児童福祉の機関と児童福祉実施のしくみ、児童福祉の財政について学び、児童福祉の法制度を理解する。	・ 予習：テキスト第6章「児童福祉の法制度」（89～107ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	児童家庭福祉と保育	保育をめぐる現状、子ども・子育て支援制度、保育所・認定こども園、地域型保育給付、地域こども・子育て支援事業について学び、児童家庭福祉と保育を理解する。	・ 予習：テキスト第7章「児童家庭福祉と保育」（110～123ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	児童家庭福祉と児童養護	【4回目 6/22（土）（第10～11回授業）集中授業1～3限目】 社会的養護の仕組み、要保護児童の動向、児童虐待、社会的養護の現状について学び、児童家庭福祉と児童養護を理解する。	・ 予習：テキスト第8章「児童家庭福祉と児童養護」（134～143ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	児童家庭福祉と非行問題	非行とは、少年非行への対応、非行の要因と背景、非行少年の自立支援について学び、児童家庭福祉と非行問題を理解する。	・ 予習：テキスト第9章「児童家庭福祉と非行問題」（145～158ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連する	予習90分、復習90分

			ニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第12回	児童家庭福祉と障害児問題	【5回目 7/6(土) (第12~15回授業) 集中授業1~3限目] 障害のある子ども、障害児福祉の制度を学び、児童家庭福祉と障害児問題を理解する。	・予習：テキスト第10章「児童家庭福祉と障害児問題」(159~175ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第13回	次世代育成支援と子どもの遊びの保障	子どもの「遊び」やその問題、「遊び」を保障する場と制度、「子どもの権利」と「遊び」について学び、次世代育成支援と子どもの遊びの保障を理解する。	・予習：テキスト第11章「次世代育成支援と子どもの遊びの保障」(177~192ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	児童家庭福祉の専門職	児童福祉に関わる専門職、保育士制度の歴史と意義について学び、児童家庭福祉の専門職を理解する。	・予習：テキスト第12章「児童家庭福祉の専門職」(193~199ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後	世界の子どもの福祉を学び、世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後を理解する。	・予習：テキスト第13章「世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後」(201~214ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめ、とこれまでの授業内容を総復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3~4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に実施します。1回あたりの問題数は10問程度で出題します。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		
評価割合	小テスト (20%)、定期試験 (80%) にて評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』ななみ書房 2017年。978-4-903355-66-5C3037				
参考図書	その日の授業に関連する資料を配布します。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。				

		<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。 ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。
オフィスアワー		特になし。
学生へのメッセージ		主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、児童家庭福祉領域の中で、知的障害児、重症心身障害児になどの児童やその家族に関する、福祉、看護医療の専門職として実務経験を有しており、生活支援技術、相談支援技術、保育（療育）に関する理論や支援技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	自然体験活動演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験活動についての知識をもっている。 自然の中での生活の方法について知識をもっている。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> サバイバルの知識をもち、非常時の時の生活方法を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中での活動や生活について関心を持っている。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> サバイバルテクニックを習得している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	自然体験の計画と組織	自然の中で活動するためには事前の下見を中心に、準備に多くの時間をかける。計画から実施までの過程を整理して一度シュミレーションをすることを理解する。	準備に多くの労力を費やすか否かで、効果に影響がでることを理解しておく。	120分
第2回	自然体験活動の指導者	自然の中で生活する時の指導者の役割、あり方、心得について理解する。	自然の中での生活に対応できる指導者の条件について理解しておく。	120分
第3回	安全管理	自然体験の安全管理について考え方、健康管理、指導者の注意義務について理解する。	保険や最近の自然体験の事故判例について調べておく。	120分
第4回	自然体験活動での調査と評価	活動前・活動中・活動終了後に目的や目標が達成できたかの評価を行うことを理解する。この評価を次回の活動の参考としていくことを理解する。	反省会は活動が終了した時に実施されるが、活動中も常にプログラムが計画通り実施されているかをチェックしていく必要があることを理解しておく。	120分
第5回	自然体験活動と天気	自然の中での活動は、天気が大きく左右される。スタッフや装備が十分であっても気象の激変はプログラムに影響を及ぼす。気象図の読み方や、観天望気、気象ニュースから天気を予測する知識や技術を理解する。	気象図や観天望気について理解しておく。	120分

第6回	キャンプ用具とその使い方	テントを中心に自然の中で宿泊するために必要な装備や用具について理解する。	期間やプログラム、フィールドに合わせた用具や装備について理解しておく。	120分
第7回	野外炊事	野外炊事は活動の目的によってメニューが異なってくる。施設の状況や参加者の経験の度合いが、炊事方法を左右することを理解する。	野外炊事はプログラムに影響することを理解しておく。	120分
第8回	テントの設営法・撤収法	長期間の活動ではテントを立てる場所は大切である。テント設営の時間、テントの立て方、撤収とメンテナンスについて理解する。	いろいろなテントの種類と特徴について理解しておく。	120分
第9回	読図とコンパスワーク	地形図から今いる場所や、地形の特徴を読めるようにする。コンパスを使って目標地点まで行けるようにする。地図の中の記号を理解する。	国土地理院の地形図から記号や、等高線を見て地形を思い描けるようにする。	120分
第10回	ロープワーク	プログラムに必要なロープワークを習得する。日常生活で活用できる結び方や繋ぎ方を習得する。	たくさんあるロープワークでも、自然体験活動の中で用いるロープワークは10種類ほどである。基本的なロープワークを理解しておく。	120分
第11回	サバイバルテクニック	森の中で緊急に一晚を過ごさなくてはならない時に、どのようにしたら体を守り、睡眠を取れるのかについて理解する。	サバイバルテクニックは、日常の中でも十分に活用できる技術を含んでいることを理解しておく。	120分
第12回	傷病対策と救急法	自然の中での活動中の怪我や傷病について理解し、救急法について学ぶ。	自然の中で活動するためには、怪我や事故を想定し対応を考えてからプログラムを遂行することを理解しておく。	120分
第13回	イニシアティブゲーム/アドベンチャーゲーム	イニシアティブゲームは課題を解決することで、集団内のメンバーが、お互いをよく知り合い、集団での活動の仕方を学ぶとともに責任感や問題解決能力を身につけることを理解する。アドベンチャーゲームでは目的や目標を見失わないことを理解する。	目的や目標を持たずイニシアティブゲームやアドベンチャーゲームをプログラムに入れることは、危険を追いかけ事故を招くことを理解しておく。	120分
第14回	パッケージプログラム	自然学習を効果的に進めるためのパッケージプログラムについて理解する。	パッケージプログラムは野外のことに関連した課題を一つ一つパッケージにして、それぞれの学習のねらいや準備、活動の進め方などの要点をまとめてあるものである。小学校の低学年を対象にしたパッケージプログラムを考えておく。	120分
第15回	キャンプファイヤー	キャンプファイヤーの企画と準備、方法、片付けまでの一連の活動について理解する。	キャンプファイヤーについて、目的や種類について理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	自然の中で4泊5日間過ごししながら、学んだ知識や技術が毎日使用され習得が確認できる。忘れた時は友達と確認したり、教員に直ぐに教わるができる。
評価方法	4泊5日間の生活を通して、守らなければならない自然の中でのルールについて確認する。キャンプ生活中の態度、基本的なルールの厳守、協調性の3点からの総合評価とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然体験に関する知識を有し、理解をしている。 【思考・判断】気象や地形を推測・判断し自ら行動できる。 【関心・意欲・態度】自然の中でのプログラムに興味を持っている。 【技術・表現】ロープワークやコンパスを使い、地図を使って目的地に行ける。
学生へのメッセージ	

自身が野外活動（主に夏のキャンプ）の楽しさを体験することによって、子どもにその楽しさを与えられることができるようになって欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地形図から様々な風景を描く。
情報リテラシー教育	○	様々なメディアや情報を駆使して天気図を読んだり、気象を予測する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	自然体験活動演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボードでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを経験していく。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	冬季の自然体験活動の知識や技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	寒冷曝露下で自身の体を守る能力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	雪の上でのテント泊の方法を修得している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	雪上キャンプ	雪の上にテントを設営する方法を学ぶ。	夏に立てるテントの方法と雪上でのテントの立て方の相違を理解しておく。	90分
第2回	冬の気象	西高東低を中心とした冬特有の気圧配置を理解する。観天望氣を理解する。	冬の自然体験は気象条件に大きく左右されることを理解しておく。	90分
第3回	冬のキャンプの装備と用具	テントや寝袋、スコップやスノーソーなどの用具や装備について使用方法を理解する。	雪のブロックを切り出したりする、スコップやスノーソーなどの特別な用具や装備について理解しておく。	90分
第4回	そり遊び	ソリを使って子ども達の遊ぶ遊びを理解する、	子ども達にとって人気のソリ遊びについて理解しておく。	90分
第5回	スキー・スノーボード	スキー・スノーボードの履き方から、初歩的な滑降技術を理解する。	スキーとボードの特徴や、初歩的な技術を理解しておく。スノーボードのゲーフィーやレギュラースタンスについて理解しておく。	90分
第6回				90分

	アニマルトラッキング	アニマルトラッキングについて学び、足跡から冬の雪国の動物の生態について理解する。	雪上にできた動物の足跡から、動物の種類と生態を理解しておく。	
第7回	イグルー/雪洞作り	雪洞の掘り方やイグルーのブロックの積み方を理解する。テント、雪洞、イグルー内の保温について理解する。	雪洞やイグルーが、冬の野外での宿泊方法として有効な手段であることを理解しておく。	90分
第8回	雪上運動会	子ども達にとって、雪の上での運動会種目はどのようなものが楽しいのか理解する。	雪上運動会の企画と運営について理解しておく。	90分
第9回	雪の中の寒冷曝露	人の体の寒冷曝露について、体温や皮膚温の変化について理解する。就寝中の人の体温や皮膚温の変化について理解する。外気温の人の体に及ぼす体温低下について理解する。	外気温とテントや雪洞やイグルー内の温度との関係を理解しておく。	90分
第10回	スノーシュー遊び	森の中を歩く手段としてのスノーシューの機能について理解する。雪の中で使用する襪について理解し作成する。	スノーシューの履き方、歩き方について理解しておく。竹藪の作り方を理解しておく。	90分
第11回	雪国の生活	雪の多い地方の文化について理解する。スキー場周辺で暮らす人たちの冬の生活スタイルについて理解する。	スキー場関係で働く人たちの、生活スタイルについて理解しておく。スキー人口の激減とスキー場の関係について理解しておく。	90分
第12回	子ども達の冬の遊び	雪国の子ども達の冬の過ごし方について理解する。スキークラブに所属する子ども達のスキーの練習と、その指導者達について理解する。	インバウンドが非常に多くなっているスキー場、インバウンドが増えないスキー場、様々な雪国の地方の子ども達の冬のあそびや生活スタイルについて理解しておく。	90分
第13回	スキー場	スキー、ボード、テレマーク、スノーバイク、チューブなどの様々な滑走手段がゲレンデに見られるようになり、事故も増えつつあることを理解する。スキー場とゲレンデのこれらからについて理解する。	ゲレンデは年齢や性差、技術に関係なく、さらに色々な滑走方法で多くの人たちが一つの場所で運動をするという場所である。スノースポーツの観点から上記の現象についてゲレンデの抱える課題を理解しておく。	90分
第14回	冬のキャンプの特徴	冬の自然体験活動が一般化されない理由について理解する。	距離、宿泊、寒さや、用具、装備のキーワードから冬の自然体験について理解しておく。	90分
第15回	雪上キャンプの準備	が雪上キャンプ	キャンプ場やネイチャーセンターの抱える問題の一つに、冬季の活用の低さが取り上げられていることを理解しておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	3泊4日の活動演習を通して、プログラムの遂行と同時に事前に習得した知識や技術が試される。新しい知識や技術は短時間の内に、常にフィードバックされる。仲間との協力や協働によって成功体験を得ることができる。
評価方法	3泊4日の演習への参加期間中の積極的参加態度、友だちとの協力や協働、演習終了後に提出する課題の総合評価とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	授業への積極的参加 (35%)、仲間との協力・協働 (35%)、演習終了後の課題提出 (30%)。以上の3つの総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 冬季の自然体験活動の知識や技術を有している。 【思考・判断】 寒冷曝露下で自身の体を守る判断能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。 【技術・表現】 仲間と協力して雪の上でのテント泊の方法を修得している。

学生へのメッセージ

キャンプは夏だけでなく、十分な計画と準備があれば冬期の活動も可能であることを学んでほしい。実際に経験しながら子どもに指導する時の注意点や重要な事を学んで欲しい。
冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	冬の自然の中での活動を実際に経験し、体温を低下させない方法やイグルーの製作等を経験する。
情報リテラシー教育	○	厳しい寒冷化でのキャンプ生活について様々な方法を用いて情報を得る。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	自然体験活動実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

授業概要(教育目的)

自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱで学んだ知識と実践的能力を基に、1週間の自然体験活動の実習を行う。子ども達が自然の中で生活することが、子ども達にどのような効果を及ぼすのかについて実際の経験を通じて考える。本実習を履修した後に「長期自然体験活動指導者」として登録し、全国の小学校で実施される自然体験活動へプログラムや事業評価の助言者として参加できる能力を身につけることを目的とする。さらに、子どもの発育・発達を理解した自然体験活動指導者の育成を目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動施設を利用した活動の手伝いができる。
思考・判断の観点 (K)	対象年齢や経験の有無に応じた活動プログラムを紹介できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動施設の利用者に積極的な言葉かけができる。
技術・表現の観点 (A)	参加者の様々なプログラムの補助や技術の指導補助ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実習オリエンテーション	実習施設のオリエンテーションを理解する。	実習施設について情報を得ておくこと。	90分
第2回	施設について	施設の利用方法について理解する。	一般の人の施設の利用方法について理解しておく	90分
第3回	利用者の心理	施設を利用する人の不安や心配、質問の事項について理解する。	施設を利用する人の目的、年齢、性別、プログラムについて報告書などから理解しておく。	90分
第4回	野外活動施設	野外活動施設の特徴を宿泊形態や活動内容を中心に理解する。	施設の特徴をプログラムの種類、宿泊形態、交通のアクセス等から理解しておく。	90分
第5回	事業の展開 1. キャンプファイヤー	キャンプファイヤーの指導補助について理解する。	薪の組み方、火の維持、片付け等を理解しておく。	90分
第6回	事業の展開 2. クラフト	工作の種類や道具の使い方を理解する。		90分

			のこぎり、ナイフ、彫刻刀、紙やすり等の使い方を理解しておく。	
第7回	事業の展開 3. テントの 設営と撤収	テントの立て方と片付け方を理解する。	テントの種類は沢山あるが、基本的にはいくつかのルールが共通している事を理解しておく。	90分
第8回	事業の展開 4. ハイキン グ	ハイキングや登山について、装備やルート、行動中の注意事項、緊急時の体制について理解する。	ハイキング時の先頭や最後尾を歩く時の注意事項、持ち物、ルートの確認、休憩の時間、不測の事態の連絡体制や緊急時体制について理解しておく。	90分
第9回	事業の展開 5. 野外炊事	実施場所の気圧との関係、炊飯で用いる用具の種類、参加者の経験の有無、野外炊事に使うことが可能な時間等から野外炊事プログラムについて理解する。	野外炊事は、参加者にとって楽しいプログラムの一つである。メニューの内容や時間、経験の有無から活動の補助をどのように行うか理解しておく。	90分
第10回	事業の展開 6. 天体観察	プラネタリウムのある施設では、星座観察は重要なプログラムの一つであることを理解する。	様々なメディアを使って星座の学習をしておく。	90分
第11回	事業の展開 7. 自然観察	施設が存在する周辺の地形、植物や生物の生態、森林生態等について理解する。	施設の周辺の動植物や地形等について、理解しておく。気象についても理解しておく。	90分
第12回	事業の展開 8. ゲーム指 導	イニシアチブゲームやキャンプファイヤーでのゲーム、雨天時のゲームについて知解する	目的や場所、人数、対象年齢に応じたゲームを理解しておく。	90分
第13回	事業の展開 9. ナイトハ イキング	ナイトハイキングは、懐中電灯や月明かりを頼りに行う簡単なハイキングから、2~3時間のプログラムもある。目的や対象年齢を考慮したハイキングについて理解する。	夜のプログラムであることから、危険の回避、救急体制、目的等を考慮したナイトハイキングについて理解しておく。	90分
第14回	事業の展開 10. サバイ バルテク ニック	緊急時の露営泊について、知識や技術を理解する。	天気の急変や事故に遭遇した時の緊急露営の方法について理解しておく。	90分
第15回	施設の点検 と報告書の まとめ	施設の点検をしながら、看板や危険な場所のチェック、危険生物・植物への注意喚起のお知らせ等について理解する。 1週間の実習報告書をまとめる。	施設の専門職員等と巡回しながら点検を行う。報告書の完成を行う準備をする。	90分

学習計画注記	施設の都合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎日指導補助を行うことで、学んだ知識や技術の確認ができる。失敗や成功が次の活動に生かされる。
評価方法	様々なスポーツ施設での1週間のボランティア活動の実践を行い、報告書、先方の受け入れ機関の証明をもって成績の評価の対象とする。活動中の態度や積極性、勤務状況等について書類及び面接をもって評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	実践活動報告書（勤務状況を含む）60%、報告書15%、面接15%の総合評価とする。
使用教科書名（ISBN番号）	特に無し。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考を持って理解し、あるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持っている。 【技術・表現】学修で得た専門的技術をもって人間社会と自然のなかに課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を作り出す能力をもつ。
オフィスアワー	月曜日4時限目
学生へのメッセージ	全国の自然体験活動施設を積極的に使用し、自然体験のすばらしさを積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	全国の施設を調査し、自身に合った実習先を見つける。施設を活用したプログラムを考え、行動する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Aでは、小学校・特別支援学校でのボランティアや授業見学を通じて教師とはどのような職業か理解する他、教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の向上を図る。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校・特別支援学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。(金子和正) 授業の概要について確認する。(齋藤義雄) 教職関係について復習する。(齋藤義雄) 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学(新海公昭) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習 英語(畠部典子) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	国語	教員採用試験対策演習 国語(畠部典子、立川泰史) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第5回	面接・小論文	教員採用試験対策演習 面接・小論文(杉野学、立川泰史)	面接について復習する。小論文を各自記述する。	90分

第6回	特別支援教育	教員採用試験対策演習 特別支援教育（杉野学、阿尾有朋、原田晋吾）オフィスアワーを中心に勉強会を行っているので、希望者は連絡をして参加すること。	特別支援教育について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 最も印象に残っている先生（坂本紀典） 集中講義で行う。	最も印象に残っている先生について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 大きな影響を与えてくれた先生（坂本紀典）	大きな影響を与えてくれた先生について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教師に求められる力（坂本紀典）	教師に求められる力について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教職とは（坂本紀典）	教職とはについて復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自分の教職への適性（坂本紀典）	自分の教職への適性について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育界の課題や子どもたちの抱える問題（坂本紀典）	教育界の課題や子どもたちの抱える問題について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育課題への対応についての小論文（坂本紀典）	教育課題への対応についての小論文について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 目標とする子どもの姿（坂本紀典）	目標とする子どもの姿について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 学習指導要領について（坂本紀典）	学習指導要領についてについて復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
---------------	-------------------------------

評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。 ボランティア活動の報告を評価する。 担当者の評価を、総合的に評価する。
------	--------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（50%）、平常点（50%） 総合的に評価する。
------	--------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	2021年度 教員採用試験対策問題集1 一般教養』東京アカデミー編 2019年10月刊行
------	----------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
---------	-------------------------

学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。

アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Bでは、初等教育演習Aでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の定着を図る。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校・特別支援学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。(金子和正) 授業の概要について確認する。(齋藤義雄) 教職関係について復習する。(齋藤義雄) 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学(新海公昭) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習 英語(畝部典子) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	国語	教員採用試験対策演習 国語(畝部典子、立川泰史) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第5回	面接・小論文	教員採用試験対策演習 面接・小論文(杉野学、立川泰史)	面接について復習する。小論文を各自記述する。	90分
第6回				90分

	特別支援教育	教員採用試験対策演習 特別支援教育（杉野学、阿尾有朋、原田晋吾）オフィスアワーを中心に勉強会を行っている。希望者は連絡をして参加すること。	特別支援教育について復習する。	
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己分析（坂本紀典）集中講義で行う。	自己分析について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教職に生かせる自分の性格や資質・能力（坂本紀典）	教職に生かせる自分の性格や資質・能力について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 理想の教師像と努力したいこと（坂本紀典）	理想の教師像と努力したいことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事（坂本紀典）	これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文作成（坂本紀典）	自己アピール文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育に求められている「生きる力」の育成について（坂本紀典）	教育に求められている「生きる力」の育成について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 新しい学力論とアクティブラーニング（坂本紀典）	新しい学力論とアクティブラーニングについて復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 豊かな心や健やかな体（坂本紀典）	豊かな心や健やかな体について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文完成（坂本紀典）	自己アピール文を完成させる。	90分

学生へのフィードバック方法 作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法 各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。ボランティア活動の報告も評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合 試験またはレポート（50%）、平常点（50%）総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 2021年度 教員採用試験対策問題集1 一般教養』東京アカデミー編

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。

オフィスアワー 各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ 教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。

アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育演習C		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Cでは、初等教育演習Bまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の向上を図る。また、面接や小論文および模擬授業の対策も行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校・特別支援学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。(金子和正)授業の概要について確認する。(齋藤義雄)教職関係について復習する。(齋藤義雄)時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学(新海公昭) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習 英語(畠部典子) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	国語	教員採用試験対策演習 国語(畠部典子、立川泰史) 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第5回	面接・小論文	教員採用試験対策演習 面接・小論文(杉野学、立川泰史)	面接について復習する。小論文を各自記述する。	90分

第6回	特別支援教育	教員採用試験対策演習 特別支援教育（杉野学、阿尾有朋、原田晋吾）オフィスアワーを中心に勉強会を行っている。希望者は連絡をして参加すること。	特別支援教育について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 場面指導の実際1（坂本紀典）集中講義で行う。	場面指導の実際について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 場面指導の実際2（坂本紀典）	場面指導の実際について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育課題の解決に向けて小論文作成（坂本紀典）	教育課題の解決に向けて小論文作成について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議1（坂本紀典）	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議2（坂本紀典）	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議3（坂本紀典）	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座（坂本紀典） 授業力をつける 指導案の改善	授業力をつける 指導案の改善について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座（坂本紀典） 授業力をつける 教材の工夫	教材の工夫について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座（坂本紀典） 指導内容と方法の工夫改善	指導内容と方法の工夫改善について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（50%）、平常点（50%） 総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	2021年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養』東京アカデミー編 2019年10月発行
参考図書	2020年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養』東京アカデミー編
ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育演習D		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Dでは、初等教育演習Cまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の定着を図る。また、面接や小論文及び模擬授業の対策も行い、教師への志望動機や理想とする教師像等について適切に表現できるかを再確認するとともに、自己理解を深め、自己に関するプレゼンテーション能力の向上を図る。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	小学校・特別支援学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問・予想問題を通して実践力をつける。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

初等教育演習D				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。(金子和正) 授業の概要について確認する。(齋藤義雄) 教職関係について復習する。(齋藤義雄) 時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学(新海公昭) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習 英語(畠部典子) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	国語	教員採用試験対策演習 国語(畠部典子、立川泰史) 週1回 木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第5回				90分

	面接・小論文	教員採用試験対策演習 面接・小論文（杉野学、立川泰史）	面接について復習する。小論文を各自記述する。	
第6回	特別支援教育	教員採用試験対策演習 特別支援教育（杉野学、阿尾有朋、原田晋吾）オフィスアワーを中心に勉強会を行っているので、希望者は連絡をして参加すること。	特別支援教育について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文提出（坂本紀典）集中講義で行う。	自己アピール文提出について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育実習に向けての心構え（坂本紀典）	教育実習に向けての心構えについて復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座（坂本紀典） 教育実習の反省と学習したこと	教育実習の反省と学習したことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文完成（坂本紀典）	自己アピール文を完成する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 予想問題の小論文作成（坂本紀典）	予想問題の小論文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善1（坂本紀典）	模擬授業と集団協議の実施と改善1について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善2（坂本紀典）	模擬授業と集団協議の実施と改善2について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善1（坂本紀典）	面接対応と場面指導の実施と改善1について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善1（坂本紀典）	面接対応と場面指導の実施と改善1について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法	作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。
---------------	-------------------------------

評価方法	各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。
------	-------------------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合	試験またはレポート（50%）、平常点（50%） 総合的に評価する。
------	--------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	2020年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養 東京アカデミー編
------	-----------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。
---------	-------------------------

学生へのメッセージ	教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気軽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。

アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習 A I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 田尻 さやか	指定なし

授業概要(教育目的)

幼児グループ活動(就園前親子集団活動)の意義と原理を講義や演習を通して理解し、参加者が共に育ちあいながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼児グループの基礎原理を理解し、実際に地域の親子が活動に参加する姿から学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	子ども・学生同士、親などと直接ふれあい学びあう。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子ども・親の立場に立ち、子どもや親から学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	幼児グループ活動の概要を理解し、今後の学習計画を立てる。実際に親子と出会う日の分担を行う。	教科書をよく読み、幼児グループの概要を理解する。	120分
第2回	共に育ちあう活動としての幼児グループー集団の発達を学ぶー	幼児グループ活動の基本原理を学び、子ども・親・保育者が共に活動を創り、育ちあっていく集団の様相をとらえる。これまでの幼児グループに関する研究や資料を紹介する。	教科書、配布物をよく読み、幼児グループの基本原則「共に育つ」について考える。	120分
第3回	集団における自己・人・ものの関係的発展ーかかわり方を学ぶー	幼児グループにおけるかかわり方を学ぶ。親・子どもが参加し、就園前の豊かなグループ体験が促進されることをねらいとした活動において、つながりを育む視点・かかわり方について理解する。	教科書をよく読み、グループにおける具体的な親子の様子、保育者のかかわりについて理解する。	120分
第4回	子育て支援活動としての幼児グループ	実際に幼児グループに参加している親から課題として挙げられている相談内容、親グループで話し合われているテーマなどを知り、子育て支援活動としての幼児グループの機能について理解する。	教科書や授業内で提示した事例を通して子育て支援について理解を深める。	120分

第5回	子どもグループの活動内容 ー 子どもの遊びー	幼児グループの子どもグループで展開する特徴的な遊びの場をを紹介し、子どもの発達や遊びの展開について学ぶ。	授業内で示した具体的な遊びの展開のプロセスについて、DVDや写真を通して学んだこと・発見したこと・今後活かしたい技法についてまとめる。	120分	
第6回	幼児グループ活動の参加観察①	幼児グループ活動のお弁当の場面（お昼休み）に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと（子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など）を記録用紙にまとめる。	120分	
第7回	幼児グループ活動の参加観察②	幼児グループ活動のお弁当の場面（お昼休み）に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと（子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など）を記録用紙にまとめる。	120分	
第8回	幼児グループ活動の参加観察③	幼児グループ活動のお弁当の場面（お昼休み）に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと（子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など）を記録用紙にまとめる。	120分	
第9回	幼児グループ活動の参加観察④	幼児グループ活動のお弁当の場面（お昼休み）に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと（子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など）を記録用紙にまとめる。	120分	
第10回	幼児グループ活動の参加観察⑤	幼児グループ活動のお弁当の場面（お昼休み）に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと（子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など）を記録用紙にまとめる。	120分	
第11回	幼児グループ活動の環境設定	幼児グループ活動に参加し、子ども・親の姿を理解したうえで、参加者がよりよく過ごせるようにするための環境設定の計画を立てる。	幼児グループ活動の参加観察記録を見直し、参加者の様子を理解し、適切な保育環境について考える。	120分	
第12回	幼児グループ活動の環境整備	幼児グループの環境について計画に基づき、実際に環境整備を行う。具体的には保育に活用する教材などを作成する。	教材準備などの作業を行う。	120分	
第13回	まとめ報告会の準備	前期幼児グループ活動（昼休み）に得られた参加観察記録をまとめ、成果報告会の準備を行う。発表会は全員がプレゼンテーションを行う。詳細は授業内に説明する。	プレゼンテーションのための準備を行う。	120分	
第14回	成果報告会（前期参加観察のまとめ）	幼児グループ前期参加観察記録をまとめ、成果を履修者全員で共有する。幼児グループ活動・参加者理解を深める。	成果報告会で得られた知識について、レポートにまとめる。	120分	
第15回	前期活動の総括と今後に向けて	前期成果報告会の振り返り、前期幼児グループ活動の実際を講義する。そのまとめをふまえて、後期に続く幼児グループ活動の今後について話し合う。	前期活動を振り返り、幼児グループ活動の理解を深める。	120分	
学習計画注記		* 履修者の人数・幼児グループ参加者の様子で授業の内容が前後する場合があります。			
学生へのフィードバック方法		実際の活動の記録を確認し、返却します。参加観察で成立した疑問などには応答しますので、積極的に質問をしてください。			
評価方法		平常点（参加観察の態度）と振り返りレポート（参加観察記録）、成果報告会の内容を総合的に評価します。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○		
	参加観察記録	○		○	○
	成果報告会			○	○
評価割合		授業態度・レポート、成果報告会の内容による総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)		吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から— 第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ			
ディプロマポリシーとの関連		子ども・親の視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけることを目指す。また、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性が備わるように研鑽する。			

オフィスアワー	木曜日 2限 1501研究室	
学生へのメッセージ	学生の自発的、主体的な参加を望んでいます。皆さんと子ども、親、教員のチームワークにより、どの人も成長できるような集団を、共に創っていきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地域から約10組の親子が来校し、就園前の親子グループが展開する。そこに参加観察者として参加する。また、活動環境の設定などを経験し、集団活動を運営する役割を体験する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習AⅡ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 田尻 さやか	指定なし

授業概要(教育目的)	児童臨床実習AⅠに続き、幼児グループ活動の発展、統合期の活動を、参加観察実習を通して理解し、学ぶ。さらに、行事活動の企画・準備・実践を行うなかで、保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。
履修条件	児童臨床実習AⅠを履修しているほうが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	幼児グループの基礎原理を理解し、実際に地域の親子が活動に参加する姿から学ぶ。
思考・判断の観点(K)	子ども・学生同士、親などと直接ふれあい学びあう。
関心・意欲・態度の観点(V)	子ども・親の立場に立ち、子どもや親から学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	前期幼児グループ活動を振り返り、後期の活動の見直しをもつ。幼児グループ活動のねらい、子どもや親子の課題について確認し、今後の学習計画を立てる。	前期の成果発表会の配布物や参加観察記録を見直し、後期の活動の見直しをもつ。	120分
第2回	幼児グループ活動の準備①	幼児グループ活動の環境設定を行う。参加親子が安全に、安心してグループ活動に参加できるよう、準備を行う。具体的には遊具の消毒や清掃、保育活動に必要な用具の製作を行う。	環境整備を行う。	120分
第3回	幼児グループ活動の参加観察⑥	幼児グループ活動(子どもグループ)に参加観察者として参加し、活動の流れ、参加者の様子、リーダーチームの機能について理解する。	参加観察で得られたこと(活動の経過・子どもの発達・保育者のかかわりなど)を記録用紙にまとめる。	120分
第4回	幼児グループ活動の参加観察⑦	幼児グループ活動のお弁当の場面(お昼休み)に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと(子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など)を記録用紙にまとめる。	120分
第5回	幼児グループ活動の参加観察⑧	幼児グループ活動(親グループ)に参加観察者として参加し、活動の流れ、参加者の様子(親の課題や話し合いの様子)、リーダーチームの機能について理解する。	参加観察で得られたこと(活動の経過・親の発言内容や様子・	120分

			保育者のかかわりなど)を記録用紙にまとめる。	
第6回	幼児グループ活動の参加観察⑨	幼児グループ活動のお弁当の場面(お昼休み)に参加し、参加者と共に過ごす。実際の場面に参加観察者としてかかわる。	参加観察で得られたこと(子ども・親の様子、親との会話の内容、集団全体の様子など)を記録用紙にまとめる。	120分
第7回	幼児グループ活動の準備②ーお楽しみ会の計画ー	お楽しみ会(KVA祭)の中で子どもと共に楽しめる音楽や絵本等を活かしたの児童文化活動を計画し、実践に向けて準備を行う。	お楽しみ会の準備を行う。	120分
第8回	幼児グループ活動の準備③ーお楽しみ会の準備ー	お楽しみ会(KVA祭)の中で子どもと共に楽しめる音楽や絵本等を活かしたの児童文化活動を計画に基づき、準備を進める。また、特別講師や4年生が計画している活動についても理解し、お楽しみ会全体について見通しをもつ。	お楽しみ会の準備を行う。	120分
第9回	幼児グループ活動の参加観察⑩ーお楽しみ会の実践ー	幼児グループ活動のお楽しみ会(KVA祭)に参加する。体操遊びの時間、4年生の発表の時間にも活動の補助的な役割で積極的に参加する。さらに、準備をすすめてきた児童文化活動を参加者と共に実践する。	お楽しみ会の準備・片付けを行う。さらに実践をふりかえり、レポートにまとめる。	120分
第10回	地域子育て支援の実践準備①	企業内の育休明け職員対象の研修会における保育スペースについて、環境設定やかかわりの留意点などを理解し、実践に向けた準備を行う。	実践に向けた準備(保育教材の準備等)を行う。	120分
第11回	地域子育て支援の実践準備②	企業内の育休明け職員対象の研修会における保育スペースづくりの準備を行う。参加者情報などを確認し、実際の場面における配慮を考える。	実践に向けた準備(保育教材の準備等)を行う。	120分
第12回	地域子育て支援の実践①	企業内の育休明け職員対象の研修会における保育スペースを運営する。実践を通して子どもの発達理解、親のニーズ、保育者のチームワークなど企業内子育て支援の実践を学ぶ。	実践を通して学んだことを成果報告会に向けてレポートにまとめる。	120分
第13回	地域子育て支援の実践②	企業内の育休明け職員対象の研修会における保育スペースを運営する。実践を通して子どもの発達理解、親のニーズ、保育者のチームワークなど企業内子育て支援の実践を学ぶ。	実践を通して学んだことを成果報告会に向けてレポートにまとめる。	120分
第14回	まとめ 成果報告会の準備	幼児グループ活動・地域子育て支援活動(企業内育休明け職員支援研修)の参加観察記録をまとめ、成果報告会の準備を行う。発表会は全員がプレゼンテーションを行う。詳細は授業内に説明する。	プレゼンテーションのための準備を行う。	120分
第15回	成果報告会ー1年間の総括ー	幼児グループ活動・地域子育て支援活動(企業内育休明け職員支援研修)の成果報告会を行う。成果を履修者全員で共有し、子育て支援について理解を深める。	成果報告会で得られた知識について、レポートにまとめる。	120分
学習計画注記		*履修者の人数・幼児グループ参加者の様子で授業の内容が前後する場合があります。		
学生へのフィードバック方法		実際の活動記録を確認し、返却します。参加観察で成立した疑問などには応答しますので、積極的に質問をしてください。		
評価方法		平常点(参加観察の態度)と振り返りレポート(参加観察記録)、成果報告会の内容を総合的に評価します。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		
参加観察記録	○		○	○
成果報告会			○	○
評価割合		授業態度、レポート、成果報告会の内容による総合評価		
使用教科書名 (ISBN番号)		吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から」 第3巻(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ		
ディプロマポリシーとの関連		子ども・親の視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけていることを目指す。また、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性が備わるように研鑽する。		

オフィスアワー	木曜日 2限 1501研究室	
学生へのメッセージ	学生の自発的、主体的な参加を望んでいます。皆さんと子ども、親、教員のチームワークにより、どの人も成長できるような集団を、共に創っていきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地域から約10組の親子が来校し、就園前の親子グループが展開する。そこに参加観察者として参加する。また、活動環境の設定などを経験し、集団活動を運営する役割を体験する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習B I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 田尻 さやか	指定なし
非常勤講師	山原 麻紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	幼児グループ活動(就園前親子集団活動)の意義と原理を講義や演習を通して理解し、参加者が共に育ちあいながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。
------------	----------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	子ども・保護者・学生同士などと直接ふれあい学びあう、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を備える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子ども・親の立場に立ち、子どもや親から学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	活動環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション -幼児グループについて知る-	幼児グループ活動の概要を理解し、これから運営するグループについてのイメージをもつ。また、グループ運営についての役割を決め、実際に活動を行う準備を行う。	教科書を読み、幼児グループの成り立ちや参加者の背景などを理解する。	120分
第2回	幼児グループ活動の準備①	幼児グループ活動の環境設定を考える。参加親子が安全に、安心してグループ活動に参加できるよう、準備を行う。具体的には道具の消毒や清掃などを行う。	環境設定に必要な製作物(季節に合わせた装飾)などの作成を行う。	120分
第3回	幼児グループ活動の準備②	幼児グループ活動の運営方法を考える。子どもグループ担当、親グループ担当に分かれ、具体的な活動内容について考える。また、参加者との面談に必要な打ち合わせを行う。	年間スケジュールの把握、ピアノ等の保育技術の確認などを行っておく。	120分
第4回	幼児グループ活動の準備③ 一面	幼児グループ活動に参加される親子と出会う。個人面談形式で親と出会う。また、子どもは部屋に慣れること、	親・子どもそれぞれの個人記録を作成し、活動の計画に活かす。	120分

	保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。	
オフィスアワー	木曜日 2限 1501研究室	
学生へのメッセージ	学生の自発的、主体的な参加を望んでいます。皆さんと子ども、親、教員とのチームワークにより、どの人も成長できるような集団を、共に創っていきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地域から約10組の親子が来校し、就園前の親子グループ活動の企画・運営を実際に行う。個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に心理劇などを通して理解する。また、活動環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。
情報リテラシー教育		
IGT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習BⅡ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 田尻 さやか	指定なし
非常勤講師	山原 麻紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	児童臨床実習の活動体験に基づいて集団討議を行い、児童学研究の方法・論文作成上の諸問題などについて考究する。幼児グループ活動において、共に育ちあいながら実践力を養成する。
履修条件	児童臨床実習BⅠと合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	子ども・保護者・学生同士などと直接ふれあい学びあう、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を備える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子ども・親の立場に立ち、子どもや親から学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	活動の環境設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション(前期活動の確認と今後の計画)	前期活動のまとめを活かし、後期活動の計画を立てる。また、年間スケジュールを確認し、行事活動などの役割分担を行い、準備を始める。	前期活動の振り返りを行い、後期活動の見直しを考える。さらに行事活動に向けた計画を立て、準備を行う。	120分
第2回	幼児グループ活動の準備	幼児グループ活動の環境設定を行う。参加親子が安全に、安心してグループ活動に参加できるよう、準備を行う。具体的には遊具の消毒や清掃、保育活動に必要な用具の作成を行う。	ピアノなどの保育技術の確認、環境整備を行う。	120分
第3回	幼児グループ活動⑨ 集団における状況の明確化	幼児グループ活動 第9回目。集団の領域や内容が広がり、全体の状況、方向性に気づいて積極的に関わる事が促進されるような活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定などの作業が求められる。	120分

第4回	幼児グループ活動⑩ 集団における状況の展開	幼児グループ活動 第10回目。役割が機能的に分担され、全体が多様に発展することが促進されるように意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（お楽しみ会）などの作業が求められる。	120分
第5回	幼児グループ活動⑪ 集団における状況の発展1	幼児グループ活動 第11回目。季節を感じる活動（外遊び・どんぐりひろい）を通して、目立つものと目立たせている物との関係が発展することを意図した活動の展開。活動の領域が拡大され、集団内の相互交流が活発になることをねらいとする。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（お楽しみ会）などの作業が求められる。	120分
第6回	幼児グループ活動⑫ 集団における状況の発展2	幼児グループ活動 第12回目。お楽しみ会（KVA祭）を通して、目立つものと目立たせている物との関係が発展することを意図した活動の展開。活動の領域が拡大され、集団内の相互交流が活発になることをねらいとする。特別講師を招き、前半は親子と共に体操遊びの実践を行う。後半は子どもたちも参加する全員参加の劇活動を行う。	お楽しみ会の準備を行う。体操遊びの準備、劇遊びの準備を行う。さらに、実践のふりかえりも行う。	120分
第7回	幼児グループ活動⑬ 集団内活動の構造化	幼児グループ活動 第13回目。役割分化、やり取りを楽しむ、場面の目的を見通して行動することを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（クリスマス会）などの作業が求められる。	120分
第8回	幼児グループ活動⑭ 集団内活動の連結化	幼児グループ活動 第14回目。集団状況が統合的に設定され状況中心に役割が連担・交代されることを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（クリスマス会）などの作業が求められる。	120分
第9回	幼児グループ活動⑮ 集団内活動の統合化	幼児グループ活動 第15回目。目立つものと目立たせているものが統合され、意味が転換することを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（クリスマス会）などの作業が求められる。	120分
第10回	幼児グループ活動⑯ 集団内活動と地域社会の構造化1	幼児グループ活動 第16回目 行事活動（クリスマス活動）の期待をふくらませ、共同でひとつのものをつくりあげることが体験できることを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（クリスマス会）などの作業が求められる。	120分
第11回	幼児グループ活動⑰ 集団内活動と地域社会の構造化2	幼児グループ活動 第17回目 行事活動（クリスマス会活動）を通して、構成遊び、空想場面で創造的にふるまうことを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（クリスマス会）などの作業が求められる。	120分
第12回	幼児グループ活動⑱ 集団内活動と地域社会の連結化	幼児グループ活動 第18回目 一連の作業を理解し、つくったもので遊ぶ、遊びに必要な役割を創造することを意図した活動の展開	活動指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（卒園文集づくり）などの作業が求められる。	120分
第13回	幼児グループ活動⑲ 集団内活動と地域社会の統合化1	幼児グループ活動 第19回目 集団の成果を共有し、先への活動へと活かすことを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（卒園文集づくり）などの作業が求められる。	120分
第14回	幼児グループ活動⑳ 集団内活動と地域社会の統合化2	幼児グループ活動 第20回目 新しい状況において社会的役割を連担しながら、主体的にかかわることにより、個と集団の統合的変革が促進されることを意図した活動の展開。	活動の指導案の作成、環境設定、行事活動の準備（卒園式）などの作業が求められる。	120分
第15回	幼児グループ活動のまとめ	幼児グループ活動全20回を振り返り、子ども・親・保育者としての成長をとらえ、未来への生活に活かす。	幼児グループ活動全20回の活動内容を見直し、1年間の学びをまとめる。	120分

学習計画注記	*参加者の様子、天候などにより活動のスケジュールを調整する場合があります。			
学生へのフィードバック方法	幼児グループ活動の実践の前後で活動の計画の話し合い、活動内容の振り返りの話し合いを毎回行う。			
評価方法	毎回の授業の平常点（指導案作成なども含む）（50%）と振り返りレポート（50%）			
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○

定期試験（レポート）	○	○	○	○
評価割合	平常点（50%）、レポート（50%）による総合評価			
使用教科書名（ISBN番号）	吉川晴美他「子育て・発達支援 ー地域に開く大学として共に育つ保育活動からー 第3巻」（2010）東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ			
ディプロマポリシーとの関連	本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できるよう取り組む。 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。			
オフィスアワー	木曜日 2限 1501研究室			
学生へのメッセージ	学生の自発的、主体的な参加を望んでいます。皆さんと子ども、親、教員とのチームワークにより、どの人も成長できるような集団を、共に創っていきましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	地域から約10組の親子が来校し、就園前の親子グループ活動の企画・運営を実際に行う。個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に心理劇などを通して理解する。また、活動環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習C I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	学内で実施している乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、児童臨床の実践者としての資質を養成する。
履修条件	原則として、後期開講の「児童臨床実習CII」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。 2. 保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。
思考・判断の観点 (K)	1. 個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。 2. 保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保護者支援のあり方について理解を深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	現代の子育て事情を背景に、本実習授業の目的や各自の課題について知る。 初回の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援の現状と子育て支援グループ活動の基礎理論	グループ参加者(子どもと保護者)の基本的な情報を共有する。 子育て支援グループ活動の基礎理論について学ぶ。	次回活動に向けての準備を行う。 次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第3回	子育て支援グループ実践活動①インテーク(集団にお	インテーク面談により、各参加者(子どもと保護者)の様子を把握し、現状と課題について確認する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各	120分

	ける個の課題の確認)		自の課題確認、記録作成を行う。	
第4回	子育て支援グループ実践活動② (集団での安定、出会い体験)	集団に包まれ安定できる状況のもと、参加者(子どもと保護者)が安心して活動するために、保育者はどのようなことに留意し、役割を果たしたらよいかについて考え、実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第5回	子育て支援を考える② (親子の交流の場としての役割について考える)	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③ (保護者支援の実践の試み)	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③ (保育者による保護者支援)	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④ (集団におけるコーナー活動の展開②)	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤ (グループダイナミクス)	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④ (地域社会と子育て)	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥ (季節行事を取り入れた家族参加活動)	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤ (現代社会における子育てをめぐる環境について)	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦ (集団活動体験の統合)	保育場面において、子どもたち一人ひとりの活動やコーナー活動での体験が統合され、個と集団が共に育ちあうために、保育者がどのように動いたらよいかについて考え、実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥ (現代社会における子育ての課題の理解)	現代日本社会の子育てをめぐる社会的背景を踏まえながら、子育てに関する課題を理解し、支援の実践について探る。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分

	と支援の実際)			
第15回	まとめ (前期活動の総括および個人の実践研究成果発表)	前期の活動を総括し、個人の実践研究の成果を発表し、全体で共有する。また、前期の総括を踏まえ、後期の「児童臨床実習CⅡ」に向け、課題を検討する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。	240分
学習計画注記		※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。		
学生へのフィードバック方法		・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント		
評価方法		実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点(活動への参加状況や討論への参加)などによる総合評価		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	期末レポート	○	○	○
	実習課題への取り組み	○	○	○
	毎回の活動記録	○	○	○
評価割合		平常点(授業への参加状況・討論への参加など)および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価		
参考図書		東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援—地域に開く大学として共に育つ保育活動から— 第三巻 2010年度」		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。 【思考・判断】個々の子どもに寄り添った保育者としてのかわりについて実践的に学ぶ。 【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。		
オフィスアワー		水曜日5時限 1619研究室		
学生へのメッセージ		0歳～3歳未満の乳幼児期の子どもの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究テーマ等、各自の興味や関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。		
教育等の取り組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。(担当教員は長年、子育て支援の現場で臨床経験がある。)		
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	児童臨床実習CⅡ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	0歳～3歳の乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動学内実習。前期の「児童臨床実習CⅡ」を踏まえ、参加者である子どもと保護者個々の課題と取り組み、保育者、臨床家としての資質の向上をはかる。毎回の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究上の諸問題などについても考究する。
履修条件	原則として、前期開講の「児童臨床実習CⅠ」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。 2. 個と集団の相即的發展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
技術・表現の観点 (A)	1. 学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・後期・子育て支援グループ準備活動	前期「児童臨床実習CⅠ」を改めて振り返り、後期からの本実習授業の目的や各自の課題についてグループで共有する。 また、後期の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援グループ実践活動①(集団における個々の課題の検討)	グループ参加者(子どもと保護者)の個と集団の育ちに着目し、個々の課題を検討する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第3回	子育て支援を考える①(子ども理)	前回活動での参加児と保護者の様子を踏まえ、各参加者(子どもと保護者)の課題を確認し、後期の活動・支援方針について検討する。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活	120分

	解と保育の目標及び子育て支援の目標の設定)		動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	
第4回	子育て支援グループ実践活動② （集団におけるコーナー活動の展開①）	個と集団の関係性に着目しながら、一人ひとりの子どもたちにとってのコーナー活動の充実を意識した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第5回	子育て支援を考える② （親子の交流の場としての役割について考える）	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③ （保護者支援の実践の試み）	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③ （保育者による保護者支援）	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④ （集団におけるコーナー活動の展開②）	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育の実践を	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤ （グループダイナミクス）	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④ （地域社会と子育て）	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥ （季節行事を取り入れた家族参加活動）	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤ （現代社会における子育てをめぐる環境について）	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦ （季節行事を取り入れた保育）	クリスマスという季節行事を取り入れながら、子どもたちが主体的に楽しめる保育内容を考える。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥（現代	これまでの活動も振り返りながら、現代社会における子育ての課題の理解と支援の実際についてグループディスカッションを取り入れながら理解を深める。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活	120分

	社会における子育ての課題の理解と支援の実践)		動りリーダー（主担当者）は、活動案を計画を作成する。		
第15回	子育て支援グループ実践活動（最終）とまとめ（1年間の活動の総括および個人の実践研究成果発表）	前期「児童臨床実習CI」も含め、1年間の活動全体を振り返り、参加者（子どもと保護者）一人ひとりの成長や変化、集団全体の成長と発展について確認し、今年度最後の活動をまとめる。また学生についても保育者としての気づきや成長を総括する。	・活動終了後、各参加者（子どもと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。	120分	
学習計画注記		※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。			
学生へのフィードバック方法		・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント			
評価方法		実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	期末レポート	○	○	○	
	実習課題への取り組み	○	○	○	○
	毎回の活動記録	○		○	
評価割合		期末レポート30%、実習課題への取り組み30%、毎回の活動記録40%			
参考図書		東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援—地域に開く大学として共に育つ保育活動から— 第三巻 2010年度」			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。個と集団の相即的發展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。 【思考・判断】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。 【関心・意欲・態度】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。 【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。			
オフィスアワー		水曜日5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ		0歳～3歳の乳幼児期の子どもの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究のフィールドとして選択している人は、研究課題等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は公認心理師・臨床心理士等の有資格者であり、長年、療育・子育て支援現場で心理専門職としての実務経験を有している。			
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。			
情報リテラシー教育					
IGT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	障害の基礎的理解		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

授業概要(教育目的)	障害を捉える枠組み、障害の概念、障害種による基礎的知識、障害児の発達と発達診断、生活に係る困難さとそれへの支援、家族への支援と連携、自立(自律)に向けた教育指導の必要性について総合的・基礎的理解を図る。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	障害種による基本的知識の理解が十分である。
思考・判断の観点(K)	障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	疑似体験活動にグループ内で協力的態度を取れる。リフレクションペーパーを通して、積極的な感想や質問をする。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、障害を学ぶことの意義	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。また、「障害」という言葉の概念について触れるとともに、「障害について学ぶ」ことの大切さの理解を目指す。	授業にあたりノートを準備しておく。 自分が考える「障害」のイメージや定義について、ノートに記載しておくこと。	120分
第2回	障害を捉える枠組み	国際生活機能分類(ICF)について理解するとともに、肢体不自由者の例をもとにICFによる障害と障害に基づくニーズの整理法について理解する。ICFについては、国際障害分類(ICIDH)との違いの観点からも理解する。	教科書第1章の4「国際的な動向」を読んでおくこと。	120分
第3回	障害児保育、教育の歴史の変遷	障害児保育と教育について、我が国の歴史の変遷を理解する。特に、障害への差別的な社会観に始まり、篤志家による支援、そして国による支援へと繋がる、流れについて理解を深める。	教科書第2章の1「障害のある子どもの教育の歴史」を読んでおくこと。	120分
第4回	生活に係る困難さの理解	障害に起因する生活に係る困難さについて理解する。車イスや白杖を使った歩行による、障害の疑似体験から、困難さを体験的に理解する。	実施する疑似体験について、介助する側に必要と思われる配慮を想定し、ノートに記載しておくこと。	240分
第5回				120分

	視覚障害の基礎的理解	視覚障害者の生理・心理について理解する。視器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセスメント、視覚障害の種別による困難さ、視覚障害の補償ツールについて理解する。	教科書第11章の1「視覚障害」を読んでおくこと。	
第6回	聴覚障害の基礎的理解	聴覚障害者の生理・心理について理解する。聴覚器と聴覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく聴覚機能のアセスメント、伝音声難聴と感音性難聴の違い、手話や指文字について理解する。	教科書第11章の2「聴覚障害」を読んでおくこと。	120分
第7回	知的障害の基礎的理解	知的障害者の心理機能について理解する。特に、知覚、認知、学習、行動調整の特性を中心に理解する。また、知的機能の基準を表すIQについて、概念や検査法について理解する。	教科書第9章「知的障害の理解と指導・支援」を読んでおくこと。	120分
第8回	肢体不自由の基礎的理解	肢体不自由の機能障害と発達の諸側面への影響について理解する。特に、原因疾患の半数を占める脳性麻痺に焦点化し、麻痺の種類やその特徴について理解を深める。	教科書第10章の1「肢体不自由」を読んでおくこと。	240分
第9回	病弱・身体虚弱の基礎的理解	小児慢性特定疾病のうち、主要な疾患（悪性新生物、筋ジストロフィー、ダウン症、てんかん）について理解する。特に、病気が子どもの心理や社会生活能力に及ぼす影響について、理解を深める。	教科書第10章の2「健康に障害のある子どもたち（病弱・身体虚弱）」を読んでおくこと。	120分
第10回	言語障害の基礎的理解	言語障害の主要障害である、構音障害、吃音、言語発達遅滞について理解する。障害のあらわれ方、器質的問題及び心理面への影響について理解する。また、原因別の指導法について理解する。	教科書第8章の2「言語障害」を読んでおくこと。	120分
第11回	重複障害の基礎的理解	重症心身障害児、及び盲ろう二重障害児について、障害特性と教育的対応の必要性について理解する。また、重症心身障害児に必要な医療的ケアについて、代表的なケアの概要について理解する。	教科書第10章の3「重度・重複障害」を読んでおくこと。	120分
第12回	情緒障害の基礎的理解	情緒障害の代表的症状とそうした子どもの心理的特性について理解する。授業で取り上げる、鍼黙と吃音の事例から、当事者の心理について理解を深める。	教科書第8章の1「情緒障害」を読んでおくこと。	120分
第13回	発達障害の基礎的理解	自閉症スペクトラム、注意欠如多動性障害、学習障害について、障害の特徴を中心に理解する。併せて、発達障害児の代表的アセスメント法並びに教育的対応の手法について、理解を深める。	教科書第6章「LD・ADHDの理解と指導・支援」並びに第7章「自閉症スペクトラムの理解と指導・支援」を読んでおくこと。	240分
第14回	障害者にとっての「働く」ということ	障害者のキャリア教育について理解する。また、知的障害者の就労を例として、障害者が「働く」ことの意味や意義について考えを深める。	教科書第16章の2「就労の支援」を読んでおくこと。	120分
第15回	「障害者観」について考える	障害者差別解消法及び障害者虐待防止法について理解する。また、「虐待・差別の芽」をキーワードとして、人の内奥に潜在する、障害者への眼差しについて、理解を深める。	なぜ、障害者への差別や偏見が生まれるのか。その理由を自分なりに考え、ノートに記載しておくこと。 くわえて、全14回分の総復習をしておく。	予習240分、総復習420分

学習計画注記	* 履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法	・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。			
評価方法	・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容、定期試験、授業態度により評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・疑似体験		○	○	
小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
定期試験	○	○		
評価割合	小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）			
使用教科書名 (ISBN番号)	柘植雅義ほか編 2010 「はじめての特別支援教育：教職を目指す大学生のために（改訂版）」有斐閣 (ISBN: 4641220387)			
ディプロマポリシーとの関連				

		<p>【知識・理解】特別な支援ニーズを有する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会との繋がり観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。</p> <p>【関心・意欲・態度】障害のある子どもの立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。</p>
オフィスアワー		水曜 1、2 限 (1605研究室)
学生へのメッセージ		社会環境の変化や価値観の多様化に伴い、子どもの支援ニーズも多様化しています。保育や教育の現場では、多様な支援ニーズに対応するための専門的知識や技能が求められています。本講で「障害」の基礎的事項について学び、「障害」について主体的に考えたいと思います。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有しており、障害者の有する困難さや家族支援の実際の経験に基づいた教授をしている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	特別支援学校教育課程論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

授業概要(教育目的)	特別支援学校における障害の重度・重複化、多様化の傾向が著しく幼児児童の障害の状態や特性に応じた教育内容・方法の工夫が求められている。また、平成29年4月、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が新しく告示された。そのため、特別支援学校の教育課程編成に関する法令や教育課程編成・実施・評価について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。特別支援学校の教育課程編成に関する基本的な内容について、新学習指導要領等を基に概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	1. 特別支援学校の教育課程編成に関する法令、学習指導要領等の基礎的な知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 特別支援学校の教育課程編成・実施・評価への関心を深める。
技術・表現の観点 (A)	1. 特別支援学校における教育課程に関する教育内容・方法を他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別支援学校教育の変遷	特殊教育から特別支援教育への転換を学ぶ。障害の重度・重複化に伴う障害理解、ICFによる障害の捉え方を理解する。	教科書7～16ページで、特別支援教育の理念、障害理解、ICFについて事前・事後学習をする。	120分
第2回	特殊教育から特別支援教育への転換	特殊教育から特別支援教育への転換を学ぶ。転換の背景と中央教育審議会答申、学校教育法などの法令改正、発達障害児への支援について理解を深める。	教科書7～16ページ、42～48ページ、149～159ページで、特別支援教育への転換による法令改正、発達障害児への支援方法について事前・事後学習をする	120分
第3回	特別支援教育を取り巻く最近の動向	特別支援教育を取り巻く最近の動向について学ぶ。障害者の権利に関する条約、合理的配慮、インクルーシブ教育システムの構築について理解を深める。	教科書163～171ページで、合理的配慮、インクルーシブ教育システムについて事前・事後学習をする	120分
第4回	特別支援学校における教育課程編	特別支援学校における教育課程編成の基本的事項を学ぶ。カリキュラム・マネジメント、一般方針、内容や授業	教科書52～62ページで、カリキュラム・マネジメント、一般方針、内容や授業時数の取扱い	120分

	成の基本的事項	業時数の取扱い、指導計画上の配慮、重複障害等に関する教育課程の取扱いを理解する。	について、事前・事後学習をする	
第5回	視覚障害、聴覚障害特別支援学校の教育課程	視覚障害、聴覚障害特別支援学校の教育課程を学ぶ。幼稚園部、小学部の教育課程編成を理解する。	教科書33～40ページ、76～95ページで、視覚障害と聴覚障害の幼稚園部、小学部の教育課程について、事前・事後学習をする。	120分
第6回	肢体不自由特別支援学校の教育課程	幼稚園部、小学部の教育課程を学ぶ。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、自立活動を理解する。	教科書33～40ページ、116～125ページで、肢体不自由児の教育活動について事前・事後学習する。	120分
第7回	病弱特別支援学校の教育課程編成	病弱特別支援学校の教育課程編成を学ぶ。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、自立活動を理解する。	教科書126～131ページで、病弱虚弱児の教育活動について事前・事後学習する。	120分
第8回	知的障害特別支援学校の教育課程編成	知的障害特別支援学校の教育課程編成を学ぶ。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、自立活動及び各教科等を合わせた指導(日常生活の指導、あそびの指導、生活単元学習、作業学習)の指導内容・方法を理解する。	教科書102～114ページで、知的障害教育の各教科等を合わせた指導について事前・事後学習をする。	120分
第9回	特別支援学校の年間指導計画	特別支援学校の年間指導計画を学ぶ。年間指導計画の書式、配慮事項、授業時数、使用教科書を理解する。	特別支援学校HPを閲覧し年間行事計画や学校教育目標等について、事前・事後学習をする。	120分
第10回	特別支援学校の教育課程の評価	特別支援学校の教育課程の評価の基本的な考えを学ぶ。学校評価の目的、学校運営連絡協議会による学校評価について理解する。	教科書56～57ページ、特別支援学校のHPを閲覧し学校評価について事前・事後学習をする。	120分
第11回	特別支援学校における学校経営	特別支援学校の学校経営計画を学ぶ。学級経営計画の書式、学部の教育計画との関連、基礎的環境整備、危機管理について理解をする。	教科書14～19ページで、学級担任の学級経営、安全管理について事前・事後学習をする。	120分
第12回	個別的教育支援計画の概要	個別的教育支援計画の概要を学ぶ。個別的教育支援計画の作成と活用を理解する。	教科書19～21ページで個別的教育支援計画の書式や記載方法について事前・事後学習をする。	120分
第13回	個別の指導計画の概要	個別の指導計画の概要を学ぶ。個別の指導計画の作成と活用について理解する。	教科書19～21ページで、個別の指導計画の書式や記載方法について事前・事後学習をする。	120分
第14回	キャリア教育	特別支援教育におけるキャリア教育を学ぶ。小学部からのキャリア教育、キャリア発達、就労について理解する。	教科書52～65ページで、特別支援教育におけるキャリア教育について事前・事後学習をする。	120分
第15回	特別支援学校における特別活動	特別支援学校の特別活動を学ぶ。年間行事計画、学校行事、交流及び共同学習を理解する。	教科書63ページ、学校HPを閲覧して、年間行事計画の内容について事前・事後学習をする。	120分
第16回	特別支援学校の教育課程に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援学校の教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、特別支援学校の教育活動について理解を深める。	90分

学習計画注記	履修教や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。 授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 			
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返りシート	○			
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。			

使用教科書名 (ISBN番号)	・「特別支援教育の基礎」、杉野学、長沼俊夫、徳永亜希雄編著 大学図書出版 978-4-907166-89-2C3037	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別支援学校の教育課程について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】特別支援学校の教育課程への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。	
オフィスアワー	月曜日2・3限目、杉野研究室	
学生へのメッセージ	特別支援教育は全ての学校において実施されている。教育課程は、特別支援教育を学ぶための基礎基本である。様々な障害について理解を深めるとともに、障害のある児童生徒が学ぶ教育内容・方法への理解を深めよう。特別支援教育について興味関心のある学生や保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校小学部の教員をめざしている学生に対して、実践的指導力を身に付けてもらうために、教科書の他にプリントやビデオ等を使用して、分かりやすい授業をするので、是非、受講して欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	特別支援教育総論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

授業概要(教育目的)	特別支援教育は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の全ての学校において実施されている。特別支援学校の教育活動の意義や概要について、理解を深め確かな知識を身に付ける必要がある。授業では、特別支援教育の概要、学校組織マネジメント、学級経営、OJTによる人材育成、授業改善、外部人材の活用、知的障害、肢体不自由、重複障害、発達障害の理解と指導及び危機管理、地域連携について概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 特別支援教育の意義、特別支援学校の教育活動に関する基礎的な知識を獲得する。 2. 学校の組織マネジメント、チーム学校、危機管理に関する理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 特別支援教育における障害種別の教育活動への関心と理解を深める。
技術・表現の観点 (A)	1. 障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要について、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯から学ぶ。特別支援教育の理念と教員に求められている資質能力を理解する。	教科書序章の「学校経営の基本的考え方」(8~23ページ)を読んでもらうこと	120分
第2回	特殊教育から特別支援教育への転換	特殊教育から特別支援教育への転換の理念を学ぶ。特別支援教育の意義、特別支援学校の教員に求められている資質能力を理解する。	教科書の「学校経営の基本的考え方」(8~23ページ)を読んでもらうこと	120分
第3回	特別支援学校の教育の基本的な考え方	特別支援学校の学校経営と学級経営を学ぶ。担任に求められる障害児の理解と学級経営力について理解する。	教科書の学校経営計画PDCA一覧表による学校組織マネジメントと学校改善(30~40ページ)を読んでもらうこと	120分
第4回	学校経営計画の重点目標の管理	学校経営計画と学級経営計画を学ぶ。学校組織マネジメントとPDCAサイクルの考え方及びカリキュラム・マネジメントを理解する。	教科書の学校経営計画PDCA一覧表による学校組織マネジメントと学校改善(41~48ページ)を読んでもらうこと	120分

第5回	PDCAを踏まえた特別支援学校のカリキュラム・マネジメント	PDCAを踏まえたカリキュラム・マネジメントの考え方を学ぶ。特別支援学校の学校経営計画の重点目標を理解する。	教科書の学校経営計画PDCA一覧表による学校組織マネジメントと学校改善(49～57ページ)を読んでもらうこと	120分
第6回	特別支援学校のOJTによる専門性の向上と人材育成	特別支援学校の専門性とOJTについて学ぶ。OJTの考え方や進め方、障害特性に応じた実践的指導力の育成方法を理解する。	教科書のOJTによる人材育成(64～88ページ)を読んでもらうこと	120分
第7回	授業改善の推進	特別支援学校における障害児の主体的で対話的な深い学びに向けた授業改善について学ぶ。授業改善の目的・内容・方法、年間指導計画(シラバス)と学習指導案の作成を理解する。	教科書の学校経営計画PDCA一覧表の授業改善への活用、年間指導計画(シラバス)、学習指導案作成(90～102ページ)を読んでもらうこと	120分
第8回	研究授業による授業改善	特別支援学校の授業を学ぶ。授業改善シートや学習指導案の構成や記載方法を理解する。	教科書の学習指導案・略案の作成、キャリア教育、知的障害、肢体不自由の指導(103～116ページ)を読んでもらうこと	120分
第9回	OJTによる授業改善	OJTによる授業改善を学ぶ。特別支援学校の教員が身に付けるべき力、学習指導プログラムと指導、個別の指導計画の作成、学習習得状況把握表の活用を理解する。	教科書のOJTによる授業改善(117～127ページ)を読んでもらうこと	120分
第10回	年間指導計画(シラバス)の作成と活用	特別支援学校の諸教育計画を学ぶ。年間指導計画、週ごとの指導計画、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用を理解する。	教科書の年間指導計画(シラバス)の作成と活用(128～138ページ)を読んでもらうこと	120分
第11回	知・肢併置の特別支援学校の利点を活用した学習指導	知的障害、肢体不自由の障害特性を学ぶ。障害特性に応じた指導内容・方法や知・肢併置の特別支援学校の利点を活用した学習指導を理解する。	教科書の合理的配慮、併置校の利点活用研究、教育課程編成(140～164ページ)を読んでもらうこと	120分
第12回	知的障害と肢体不自由の併置校の利点を活用した学習指導・生活指導	知的障害と肢体不自由の併置校の利点を活用した指導を学ぶ。知的障害と不自由の指導内容・方法及び重複障害の指導を事例を通して理解する。	教科書の併置校の利点活用、知的障害と肢体不自由の指導事例、重複障害の指導事例(165～184ページ)を読んでもらうこと	120分
第13回	外部人材の活用	特別支援学校の教育活動への外部人材の活用について学ぶ。学校介護職員、OT、PT、ST、心理学の専門家などと連携した指導について理解する。	教科書の併置校の外部人材の活用、学校介護職員とのチームアプローチ、生活指導・教科指導(186～220ページ)を読んでもらうこと	120分
第14回	地域連携によるセンター的機能	特別支援学校のセンター的機能を学ぶ。センター的機能について小・中学校等への支援、交流及び共同学習、副籍について理解する。	教科書の地域連携によるセンター的機能の拡充、交流及び共同学習、副籍(222～236ページ)を読んでもらうこと	120分
第15回	センター的機能の拡充、危機管理	特別支援学校のセンター的機能について学ぶ。小学校特別支援学級や高等学校と連携した指導・支援、地域総合防災訓練、危機管理を理解する。	教科書のセンター的機能の拡充、小学校、高等学校との連携、防災訓練(236～253ページ)を読んでもらうこと	120分
第16回	特別支援学校の教育活動に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援学校の教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、特別支援学校の教育活動について理解を深める。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に講義を行うが、スライド、ビデオ、プリントなども使用して目で見て分かりやすい授業をする。 質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 			
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

振り返りシート	○			
定期試験	○	○		
評価割合	・定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	「特別支援学校における学校組織マネジメントの実際—組織的な特別支援教育の推進—」 杉野学著 ジアース教育新社 978-4-86371-331-4C3037			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】障害のある子どもの特別支援教育について理解し、障害のあるこどもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】特別支援学校の教育への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。			
オフィスアワー	月曜日の2・3限目、杉野研究室			
学生へのメッセージ	特別支援教育は、全ての保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校で実施されている。したがって、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭を目指している学生は、是非、授業を受講して欲しい。プリントやビデオなどを使用して、特別支援教育を学ぶのが初めての学生に対しても見て分かりやすい授業を行う。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	知的障害者の教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	知的障害児の障害や学習特性を正しく理解して個別の指導計画に基づき授業を計画的に実施することは重要である。また幼稚園、小学校等に在籍する特別な教育的ニーズを要する幼児児童も含めて、一人一人の障害の状態や学習特性等に応じた多様な指導方法が求められている。そのためには、まず知的障害児の障害や学習特性に応じた指導内容・方法について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。知的障害児の障害や学習特性の理解、知的障害教育の教育内容・方法、実態把握から指導目標の設定や指導内容・方法及び学習評価の理解、個別の教育支援計画や個別の指導計画及び指導案の作成、教材・教具の作成について概説する。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 知的障害児の障害や学習特性及び基本的な指導方法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。 2. 知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	知的障害児の障害の程度や障害特性の理解	知的障害児の障害の程度や障害特性の理解について学び、学習や生活上の障害の状況や特性に応じた指導を理解する。	知的障害児の障害の程度や障害特性の理解について、事前・事後学習をする。	120分
第2回	幼稚園、小学部の教育内容・方法	特別支援学校幼稚園部、小学部の教育内容・方法について学び、発達段階に応じた指導内容・方法を理解する。	特別支援学校HPを閲覧し、幼稚園部、小学部の教育内容・方法を事前・事後学習する。	120分
第3回	知的障害児の実態把握と学習指導	知的障害児の実態把握と学習指導を学び、行動観察、諸検査、面接による実態把握の方法や障害の程度や発達段階に応じた学習指導について理解する。	図書館を活用して、知的障害児の実態把握と学習指導について事前・事後学習をする。	120分
第4回				120分

	知的障害児の各教科別の学習指導の実態	知的障害児の各教科別の学習指導の実態について学び、各教科の目的と内容の段階について理解する。	新特別支援学校学習指導要領解説を見て、知的障害児の各教科別の学習指導について事前・事後学習をする。	
第5回	知的障害児の学習指導の事例研究	特別支援学校における知的障害児の学習指導について学び、事例研究を通して指導内容・方法を理解する。	図書や特別支援学校のHPを閲覧して、知的障害児の学習指導に関する教材活用や学習指導案作成の事前・事後学習をする。	120分
第6回	知的障害児の学習特性に応じた支援方法	知的障害児の学習特性に応じた様々な支援方法(ティーチプログラム、ソーシャルスキルトレーニング、行動分析の考え方)を学び、生活力を高める指導内容・方法を理解する。	知的障害児の学習特性に応じた様々な支援方法について、事前・事後学習をする。	120分
第7回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用を学び、教科指導や生活指導に関する個に応じた指導や関係機関との連携を理解する。	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について、事前・事後学習をする。	120分
第8回	学習指導案の作成と活用	学習指導案の作成と活用について学び、国語、算数の学習指導案を作成し指導内容・方法への理解を深める。	学習指導案の書式や作成について事前・事後学習をする。	120分
第9回	教材・教具の活用方法	知的障害教育の教材・教具について学び、教材を作成することで指導内容・方法を理解する。	特別支援学校HPを閲覧し教材・教具の活用方法について事前・事後学習をする。	120分
第10回	国語指導の実態(幼稚園、小学部)	言語・コミュニケーション、国語科の指導について学び、幼稚園、小学部における指導内容・方法を理解する。	図書や特別支援学校のHPを閲覧し国語指導に関する事前・事後学習をする。	120分
第11回	算数指導の実態(幼稚園、小学部)	数・量、算数科の指導について学び、幼稚園、小学部における指導内容・方法を理解する。	数・量、算数科の指導について事前・事後学習をする。	120分
第12回	応用行動分析の基本的な考え方	応用行動分析の基本的な考え方について学び、行動分析の目的、教育への活用を理解する。	図書で応用行動分析の基本的な考え方について事前・事後学習をする。	120分
第13回	応用行動分析の指導法	応用行動分析の指導法を学び、障害の状況に応じた指導内容・方法を理解する。	図書で、応用行動分析の指導法について事前・事後学習をする。	120分
第14回	自立活動の指導の考え方と指導法	自立活動の指導の考え方と指導法について学び、自立活動の6区分について理解を深める。	図書で、自立活動の指導の考え方と指導法について事前・事後学習をする。	120分
第15回	知的障害児の障害特性に応じた指導	知的障害児の障害特性に応じた指導を学び、行動上の問題への対処法を理解する。	図書で、知的障害児の障害特性に応じた指導について事前・事後学習をする。	120分
第16回	知的障害の教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、知的障害児への教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、知的障害児への教育活動についてより理解を深める。	90分

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。 ・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 			
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返りシート	○			
定期試験	○			○

評価割合	定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に判断する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業でプリントを配布する。	
参考図書	授業で、適宜紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別支援学校の知的障害教育について理解し、知的障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【技能・表現】学習指導案の作成や指導法及び教材の作成について学び、保育人・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション力を身に付けています。	
オフィスアワー	月曜日2・3限目、杉野研究室	
学生へのメッセージ	知的障害と他の障害は重複している場合も多いので、知的障害について知ることは、様々な障害を知る上での基礎となる。したがって、将来、保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざしている学生にとって、知的障害を理解しておくことはとても重要である。学習指導案の作成や教材・教具を活用した支援方法などについて、具体的にプリントやビデオなどを使用して、分かりやすく授業をする。初めての学生にも分かるように授業をするので、是非、受講して知的障害教育への理解を深めて欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	知的障害者の心理・生理・病理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田 晋吾	指定なし
非常勤講師	大瀧 潮	指定なし

授業概要(教育目的)

知的障害者の発生要因や病理的特徴、学習、記憶、認知、思考等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を学び、知的障害児の定義、評価法、障害診断、病理、知的障害児・者の生活課題等について事例を取り上げながら、知的障害者の生物医学的発生要因や疫学、診断医学的側面からの病理的特徴の理解および心理的側面から障害特性の理解を深める。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害、重症心身障害、発達障害 (ASD、SLD、ADHD) の診断基準について解説できる。 知的障害のある子どもの心理的特性について、定型発達児と異なる点を解説できる。 知的障害のある子どもにみられる疾患にはどのようなものがあるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害、重症心身障害、発達障害の子どもの学習や生活を支えるために必要な支援の方法を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で取り上げた障害について要点を理解し、グループ討議等に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

知的障害者の心理・生理・病理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	発達と障害(ガイダンス)	「障害とは何か」について、国際生活機能分類(ICF)の概念的枠組みを用いて考える。仮想事例について、ICFの構成要素を整理し、生活機能や背景因子を検討する。それらの情報を支援に生かす方法について体験的に学ぶ。 キーワード:ICF、生活機能、背景因子	<ul style="list-style-type: none"> テキスト第1章を読んでおくこと。 国際生活機能分類(ICF)について「障害の基礎的理解」で学習した内容を復習しておくこと。 	90
第2回	発達障害を引き起こす原因	障害原因と障害の状態の相互関係について、図にまとめながら整理する。発達障害を引き起こす主な原因として、生物学的要因、環境要因、個体的活動・経験の要因について学ぶ。 キーワード:障害の原因、臨床像、染色体異常、心理・社会的環境	<ul style="list-style-type: none"> テキスト第2章を読んでおくこと。 「ジーニーちゃん虐待事件」についてインターネットで概要を調べておくこと。 中学理科で学習した細胞の「減数分裂」について復習しておくこと。 	90

第3回	脳の機能の発達と障害	図解を用いて、新生児期の脳の発達や、大脳の機能とその障害について学ぶ。 キーワード：脳の発達、神経細胞、大脳、感覚野、運動野、連合野	・テキスト第3章を読んでおくこと。 ・脳の神経細胞の各部位の名称をについて、インターネットを用いて確認しておくこと。	90
第4回	てんかんの病理と発達	てんかんの症状と分類について、動画や図解を用いて学ぶ。てんかんの治療、日常的な配慮事項（教育環境）、発作時の対応に関する知識を習得する。 キーワード：てんかん、脳波、発作、発作時の対応	・テキスト第4章を読んでおくこと。 ・「てんかんネット」のホームページを閲覧しておくこと。	90
第5回	知的障害の診断と定義	知的障害について、医学的な診断基準（DSM-5）を確認する。知能指数（IQ）とは何かを学ぶ。代表的な知能検査を体験し、IQの算出方法を知る。知的障害の教育的定義と就学先について学ぶ。 キーワード：知的障害、DSM-5、知能指数（IQ）、知能検査	・テキスト第7章を読んでおくこと。 ・「正規分布」とは何か、書籍やインターネットで調べておくこと。	90
第6回	認知の発達と障害（言語コミュニケーション・数の概念）	定型発達児の言語コミュニケーションおよび数概念の発達過程を確認し、知的障害児の特性を学ぶ。 キーワード：言語発達、発話行為理論、共同注視、数の保存概念、基数と序数、刺激等価性	・テキスト第5章を読んでおくこと。 ・本時に学んだことを踏まえ、知的障害のある子どもの学習や生活を支援するうえで重要なポイントを具体的にまとめる。	90
第7回	認知の発達と障害（知覚・記憶）	定型発達児の知覚および記憶の発達について確認し、知的障害児の特性を学ぶ。 キーワード：視知覚、模写、短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリー、記憶方略	・本時に学んだことを踏まえ、知的障害のある子どもの学習や生活を支援するうえで重要なポイントを具体的にまとめる。	90
第8回	自閉症スペクトラム障害(ASD)	自閉症スペクトラム障害(ASD)の診断基準を学ぶ。セサミストリートの登場人物（Julia）の特徴を例に、ASDの行動特性と周囲の者の対応の要点を考察する。 キーワード：自閉症スペクトラム障害(ASD)、社会的コミュニケーション、興味の限局性、刺激過敏性	・テキスト第8章および授業内で配布する資料を読んでおくこと。 ・自閉症に関するドラマや映画作品を見ておくことが望ましい（Rainman、IamSamなど）	90
第9回	限局性学習症(SLD)	限局性学習症(SLD)の医学的診断基準および教育用語としての学習障害(LD)の定義を学ぶ。疑似体験を通して、SLDの子どもの困難を理解し、適切な教育的支援について検討する。 キーワード：限局性学習症(SLD)、ディスレクシア、RTIモデル、二次障害	・テキスト第9章および授業内で配布する資料を読んでおくこと。	90
第10回	注意欠如多動性障害(ADHD)	注意欠如多動性障害(ADHD)の診断基準を学ぶ。ADHDの子どもやその家族が抱える困難を知り、効果的とされる支援法を学ぶ。また、ADHDの思春期以降にみられやすい二次障害について知る。 キーワード：注意欠如多動性障害(ADHD)、薬物療法、行動療法、ペアレント・トレーニング、二次障害	・テキスト第10章および授業内で配布する資料を読んでおくこと。	90
第11回	脳性麻痺	脳性麻痺の原因、病理、臨床像について学ぶ。脳性麻痺の子どもへの療育として、医学的治療、教育、機能訓練を学ぶ。 キーワード：脳性麻痺、治療・療育、機能訓練	・テキスト第11章を読んでおくこと。 ・島田療育センターのホームページを見ておくこと。	90
第12回	重症心身障害	重症心身障害に関する医療分野、福祉分野、教育分野の各定義、疫学について学ぶ。重症児の感覚、姿勢・運動、コミュニケーションについて学ぶ。 キーワード：重症心身障害児、大島の分類	・テキスト第12章を読んでおくこと。	90
第13回	発達と障害の診断	発達や障害の診断に関する代表的な知能検査、発達検査を学ぶ。診断に用いられる国際診断基準・分類を知る。 キーワード：診断、障害の診断基準、DSM-5、ICD10、発達検査	・テキスト第13章を読んでおくこと。	90
第14回	障害の早期発見と早期対応	障害の早期発見の重要性と早期対応の効果を学ぶ。また、ある地方公共団体で行われている子どもの健康診断を参考にして、早期発見のための法整備や福祉サービス、各健診の目的について知る。 キーワード：早期発見・早期支援、健康診断	・テキスト第14章を読んでおくこと。	90
第15回	思春期・青年期の問題と社会的サポート	障害のある子どもの思春期・青年期以降の社会的自立や、家族へのサポートについて学ぶ。 キーワード：就労支援、生活支援、家庭支援、地域連携	・テキスト第15章を読んでおくこと。	90

学生へのフィードバック方法	・授業の中では学生が主体となって活動する機会を多く設定する。活動の成果や授業内での発言、グループ討議で出されたアイデアに対して、適宜フィードバックを行う。 ・（その他のフィードバックの方法に関しては、「評価方法」欄に記載する。）
評価方法	・各授業において、その時間に学んだ内容をA5用紙に簡潔にまとめる時間を設ける。これを各受講生の学習ログとして扱い、授業終了後に回収し、担当教員がコメントを付けて返却する。この学習ログを評価の対象とする。 ・まとめとして、授業の最後にレポート課題を実施する。提出後に担当教員がコメント

		を付け、追加課題（発展問題）を提案する。最終的に提出されたレポートを評価の対象とする。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	学習ログの評価	○		○	
	最終レポート	○	○		
	授業中の活動状況			○	
評価割合		学習ログの評価(40%)、最終レポート(40%)、授業中の活動状況(20%)			
使用教科書名 (ISBN番号)		黒田孝吉・小松秀成共編 「発達障害児の病理と心理」 培風館 (ISBN-10: 4563057738)			
参考図書		小池敏英・北島善夫著 「知的障害の心理学」 北大路書房			
ディプロマポリシーとの関連		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの健康・心理」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる（知識・理解） ・子どもを巡る多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感をもって行動できる（関心・意欲・態度）。 			
オフィスアワー		原田（月曜3限 1509教室）			
学生へのメッセージ		<p>授業を開講する日程は、履修生にメールで連絡をします。</p> <p>知的障害のある子どもの保育や教育に携わるうえで、心理・生理・病理の各側面から障害の特性を知っておくことはとても重要です。この科目を通して、知的障害の子どもの保育や教育について興味を持ってもらえると嬉しいです。特別支援学校の免許取得を希望する学生は必修の授業となっていますが、それ以外の学生の受講も歓迎します。</p>			
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング		○	学生のみなさんが主体となって考え、活動できるように話題提供を行います。調べ学習、ペアワーク、授業内の作業、疑似体験への参加などの機会を作りたいと思います。		
情報リテラシー教育		○	授業では適宜グラフを使って解説を行います。グラフの読み取り方など、必要に応じて説明を加えます。また、情報のアウトプットに関する指導として、レポート課題では文章表現のチェックを行います。		
ICT活用		○	一部の授業内で選択回答式のクイズを出題し、Plickersを用いて集計、個人の総合得点を表示する予定です。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	肢体不自由者の心理・生理・病理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡澤 慎一	指定なし

授業概要(教育目的)	肢体不自由がある子どもの心理・生理・病理に関する基本的な事項について講義する。実際の、具体的な理解を促進するために、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いに関する映像資料を多用する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点から一定程度説明することができる
思考・判断の観点 (K)	肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することとおして、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの方針を設定することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	肢体不自由の定義と状態像	肢体不自由の定義と状態像について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第2回	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況／運動系の発達	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について理解する 運動系の発達について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第3回	肢体不自由のある子どもの生理・病理1(肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患)	肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分

第4回	肢体不自由のある子ども の生理・病理2 (肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患)	肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第5回	肢体不自由のある子ども の生理・病理3 (肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患)	肢体不自由の原因疾患：骨・関節疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第6回	肢体不自由のある子ども の心理1 (感覚・知覚・認知)	肢体不自由のある子どもの心理 (感覚・知覚・認知) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第7回	肢体不自由のある子ども の心理2 (言語)	肢体不自由のある子どもの心理 (言語) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第8回	肢体不自由のある子ども の心理3 (コミュニケーション)	肢体不自由のある子どもの心理 (コミュニケーション) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第9回	肢体不自由のある子ども の教育的係わり合いの視点1 (探索活動, Joyful shared event)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (探索活動, Joyful shared event) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第10回	肢体不自由のある子ども の教育的係わり合いの視点2 (コミュニケーション・システム)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (コミュニケーション・システム) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第11回	肢体不自由のある子ども の教育的係わり合いの視点3 (感覚運動)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (感覚運動) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第12回	肢体不自由のある子ども の教育的係わり合いの視点4 (課題学習)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (課題学習) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第13回	肢体不自由のある子ども の教育的係わり合いの実際1 (知的障害を併せ有する 肢体不自由事例)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (知的障害を併せ有する肢体不自由事例) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第14回	肢体不自由のある子ども			120分

	もとの教育的係わり合いの実際2 (感覚障害を併せ有する肢体不自由事例)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (感覚障害を併せ有する肢体不自由事例)について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	
第15回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3 (医療的ケアの必要な肢体不自由事例)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (医療的ケアの必要な肢体不自由事例)について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更します			
学生へのフィードバック方法	毎回、授業の終わりに意見や感想、質問を書いてもらい、次回の授業の冒頭で意見や感想を紹介したり、質問に答えたりする			
評価方法	毎回の「意見や感想、質問」の内容および最終試験の結果による			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「意見や感想、質問等」の内容		○	○	○
最終試験	○	○		
評価割合	「意見や感想、質問等」の内容 (20%) , 最終試験 (80%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	テキストは使用しない。参考資料は適宜配布する。			
参考図書	重度・重複障害児指導研究会 (編) (1979) 講座 重度・重複障害児の指導技術 第1巻～第6巻。岩崎学術出版社。 川住隆一 (1999) 生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究。風間書房。			
ディプロマポリシーとの関連	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病的な観点からの理解を深めるとともに、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することとおして、肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための実践的な力量を身に着けている			
オフィスアワー	集中講義のため、休み時間などにお尋ねください			
学生へのメッセージ	障害児教育が教育の原点であるという言説の実相の一端を共有できればうれしく思います			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	病弱者の心理・生理・病理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田 晋吾	指定なし
非常勤講師	市川 和男	指定なし
非常勤講師	上石 晶子	指定なし

授業概要(教育目的)

病弱者の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱者への適切な配慮、具体的な発達支援について事例を取り上げながら理解を図る。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 小児慢性疾患を抱える病弱者の人体の特徴の生理、小児慢性疾患の病理、心理特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 小児慢性疾患を抱える病弱者に必要な配慮や発達支援の方法について分類し、現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【5/8 (水)1限 目】 オリエン テーション 病気や障害 をめぐる動 向	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」(1~14ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	【5/15 (水)1限 目】 子どもの発 達・精神、 運動面の発 達	発達の領域、支えるもの、脳内機能局在、遅れの診断について学び、子どもの発達・精神、運動面の発達について理解する。	・予習：テキスト第1章「子どもの発達・精神、運動面の発達」(17~27ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第3回				予習90分、復習90分

	【5/29 (水)1限 目】 発達障害の 考え方と広 汎性発達障 害、注意欠 陥性障害 (1)	発達障害、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・ 予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」(28~44ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第4回	【6/5 (水)1限 目】 発達障害の 考え方と広 汎性発達障 害、注意欠 陥性障害 (2)	発達障害、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・ 予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」(28~44ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	【6/12 (水)1限 目】 知的障害を 伴わない発 達障害と二 次障害 (1)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・ 予習：テキスト第2章3節「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」(45~55ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	【6/19 (水)1限 目】 知的障害を 伴わない発 達障害と二 次障害 (2)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・ 予習：テキスト第2章3節「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」(45~55ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	【6/26 (水)1限 目】 病気や障害 の受容とセ ルフケア	病気や障害の受容とセルフケア、発達段階とセルフケア、疾患の受け止め方と心理や情緒面、セルフケアの力を育てるカリキュラム、慢性疾患に適応するための支援について学び、病気や障害の受容とセルフケアについて理解する。	・ 予習：テキスト第12章「病気や障害の受容とセルフケア」(197~205ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	【7/3 (水)1限 目】 病気や障害 の子どもの 心理特性	病気の概念の発達、疾患と病気の違い、発達段階から見た心理社会的問題について学び、病気や障害の子どもの心理特性を理解する。	・ 予習：テキスト第13章「病気や障害の子どもの心理特性」(206~214ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	【7/10 (水)1限 目】 教育・医療 ・保健・福 祉の連携 と支援	地域で暮らすことへの包括支援、全人的ケアの理念と機能、QOLを高める教育・医療・保健・福祉の連携と支援について学び、教育・医療・保健・福祉の連携と支援を理解する。	・ 予習：テキスト第14章「教育・医療・保健・福祉の連携と支援」(215~224ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	【7/17 (水)1限 目】 病気や障害 のある子ど もを支える 法制度	社会保障制度、母子保健関連施策と子どもの医療制度について学び、病気や障害のある子どもを支える法制度を理解する。	・ 予習：テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」(225~231ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・ 復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	環境疾患の 理解と支援 と吸器疾患	就学先の循環器疾患の経年変化、学校現場で良く見る循環器疾患、学校における心疾患児童への対応の注意点や、呼吸器の感染症、気管支ぜん息、過敏気候群につ	・ 予習：テキスト第9章「環境疾患の理解と支援」、第10章「吸器疾患の理解と支援」(59~85ページ)を読んでおくこ	予習90分、復習90分

	の理解と支援	いて学び、環器疾患の理解と支援と吸器疾患の理解と支援を理解する。	と。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第12回	悪性腫瘍の理解と支援と腎・泌尿器疾患の理解と支援	小児がんの種類と好発年齢、脳腫瘍、固形腫瘍、緩和医療とターミナルケア、子どもの腎疾患・泌尿器疾患、慢性心疾患の子どもの学校生活における留意点について学び、悪性腫瘍の理解と支援と腎・泌尿器疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第11章「悪性腫瘍の理解と支援」、第12章「腎・泌尿器疾患の理解と支援」（86～114ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第13回	成長障害・内分泌疾患の理解と支援と消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援	人の成長と異常、内分泌疾患や、教育現場で遭遇しやすい消化器・肝臓・栄養疾患、胃食道逆流現象、急性下痢症・慢性下痢症、嘔吐・周期性嘔吐症、便秘、胃十二指腸潰瘍、慢性ウイルス肝炎、肥満と肥満症、非アルコール性脂肪性肝炎について学び、成長障害・内分泌疾患の理解と支援と消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第13章「成長障害・内分泌疾患の理解と支援」、第14章「消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援」（115～149ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	神経系疾患の理解と支援	てんかん、脳性麻痺、ダウン症、神経皮膚症候群や、知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー、水頭症について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第15章「神経系疾患の理解と支援（1）」、第16章「神経系疾患の理解と支援（2）」（150～194ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめ、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	【7/24（水）1限目】 病弱者の心理・生理・病理のまとめと振り返り	病弱者の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱者への適切な配慮、具体的な発達の支援について理解する。	病弱者の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱者への適切な配慮、具体的な発達の支援について理解する。 ・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」から、テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」（1～231ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：・復習：これまでの授業内容を総復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 授業教室：1202教室 																												
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。 																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は10問で、すべて穴埋め方式で出題する。 定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りの問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				定期試験	○	○												
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
小テスト	○																												
定期試験	○	○																											

評価割合	・小テスト（20%）、定期試験（80%）にて評価します。	
使用教科書名（ISBN番号）	・小野次郎・西牧謙吾・榎原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』（ミネルヴァ書房）978-4-623-06153-2	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。 ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。 	
オフィスアワー	・特になし。	
学生へのメッセージ	・主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<p><上石>担当教員は、小児医療を専門とする医療機関において、肢体不自由児、知的障害児、重症心身障害児などの病弱の児童やその家族に対して、医療の専門職として実務経験を有している。</p> <p><市川>担当教員は、特別支援学校、児童福祉施設、小児医療を専門とする医療機関において、教員と連携しながら、病弱の児童やその家族に対して、医療や福祉の専門職として実務経験を有している。</p>
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	視覚障害の理解と支援		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

授業概要(教育目的)	視覚障害児(者)の実態と支援の必要性についての理解を目指す。授業では、日常生活や学習に係る支援機器やシュミレーションレンズを用いた疑似体験を行い、視覚障害による生活や学習上の困難さについての体験的理解を図る。また、視覚障害者が共に暮らす社会の実現に向けて、どういった障害理解教育や合理的配慮が必要かを主体的に考えさせる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	視覚障害に係る基本的知識及び必要な支援の理解が十分である。
思考・判断の観点 (K)	視覚障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動にグループ内で協力的態度を取れる。リフレクションペーパーを通して、積極的な感想や質問をする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	視覚障害の概念	視覚障害者の病理・生理・心理について理解する。視器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセスメント(視力検査を体験する)、視覚障害の補償ツールについて理解する。	教科書第1章「視覚障害の概念」並びに第8章「弱視(ロービジョン)」を読んでおくこと。	225分
第2回	視覚障害幼児の発達	視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響について、全盲と弱視に分けて理解する。また乳幼児期の発達を促すための支援について理解する。	教科書第4章「自立活動と生活訓練」を読んでおくこと。	225分
第3回	視覚障害者の歩行とその指導	視覚障害者の位置の定位や歩行を促すための指導について理解する。また、歩行を介助、誘導するための介助方法について、白杖を用いた疑似体験をもとに理解する。	教科書第5章「歩行(定位と移動)とその指導」を読んでおくこと。	225分
第4回	視覚障害者の教育	視覚障害者の自立活動や準ずる教育における指導法について理解する。また、点字盤を使った打点を体験し、点字を読むことの難しさを体験的に理解する。	教科書第2章「視覚障害の教育とリハビリテーション」を読んでおくこと。	225分
第5回	視覚障害の疑似体験	シュミレーションレンズを用いて、弱視、視野狭窄、白内障による生活や学習の困難さについて体験的に理解する。	教科書第11章「疑似障害体験」を読んでおくこと。	225分

第6回	視覚障害者にとってのファミリーリゼーション	視覚障害者が環境や事物を把握し、慣れ親しむことの重要性について理解する。また、そのための教育や支援の方法について理解する。	教科書第7章「ファミリーリゼーション」を読んでおくこと。	225分	
第7回	視覚障害者との共生	視覚障害者の理解を促すための教育や共生社会実現のための合理的配慮について、グループ討論をもとに考える。	教科書第12章「障害理解と社会」を読んでおくこと。	225分	
第8回	まとめ	全7回の内容について総括するとともに、内容の理解について確認をする。	学んだ内容について、振り返り、自身の理解度について再確認しておくこと。	225分	
学習計画注記		*履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法		・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。			
評価方法		・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）により評価する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業・疑似体験		○	○	
	小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
	定期試験	○	○		
評価割合		小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）			
使用教科書名 (ISBN番号)		芝田裕一 2015「視覚障害児・者の理解と支援（新版）」北大路書房（ISBN: 4762828858）			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】視覚障害者の専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会との繋がり観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。 【関心・意欲・態度】視覚障害者の立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。			
オフィスアワー		水曜1、2限（1605研究室）			
学生へのメッセージ		ひとくちに「視覚障害」といっても、その様態は多様です。また、視覚障害のある子どものニーズは生活面から教育面に至るまで多岐に及びます。本講義では、視覚障害による生活や学習上の困難さについて体験的に学びます。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有している。入所系サービスでは、視覚障害を合併する児・者を対象とした支援にも携わった。当該の経験に基づいた授業を行う。			
アクティブ・ラーニング	○	授業には疑似体験装置や支援器具を使った体験を取り入れ、当該体験に基づき自ら考えることを学生に求める。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	聴覚障害の理解と支援		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 信方 壽幸	指定なし

授業概要(教育目的)

聴覚障害の生理・病理の基礎、聴覚障害教育の制度と教育課程、聴覚補償やコミュニケーション方法の在り方や聴覚障害の特性に配慮した指導事例を理解し、聴覚障害児の指導の在り方を考え、対応できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	聴覚障害教育の実際を学びながら、教育学または心理学に関する基本的な知識及び方法を修得する。
思考・判断の観点 (K)	聴覚障害教育における教育学的・心理学的諸問題の解決方法を構想する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	聴覚障害教育にかかわる教育学的・心理学的諸問題に関心を示し、主体的に学びを深める。
技術・表現の観点 (A)	聴覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	聴覚障害の定義と特質	聴覚障害の定義・原因・分類について学ぶ。	これまでの経験をもとに、聴覚障害とはどんな障害かを考えておくこと	60分
第2回	聴覚障害児の支援と教育の場	聴覚障害児は、どのような場で学び、どのような支援を受けているかを理解する。	学校教育の制度の概要について学んでおく	60分
第3回	特別支援学校(聴覚障害)の教育課程	聴覚障害幼児の言語指導や児童生徒の各教科等の教育課程の現状と課題について、体験的に学ぶ。	聴覚障害教育の制度の概要を配布プリントで予習しておく	60分
第4回	音や音声の聴取に関する生理と補償	聴覚障害の原因や分類を理解し、聴覚補聴のための聴力検査、補聴器、人工内耳及び集団補聴システムについて学ぶ。	聴覚の生理・病理に関する基礎的な事項を復習しておく	60分
第5回	聴覚障害と多様なコミュニケーション	聴覚口話法やキュード法、手話などの多様なコミュニケーション方法について体験的に学ぶ	手話について情報を得たり、考えたりしておく	60分
第6回	言語と指導			120分

		聴覚障害児に対する発音指導や聴覚活用の指導方法を学ぶ	幼児のこたばの獲得について基礎的な事項を学んでおく	
第7回	聴覚障害教育における教科指導と自立活動	聴覚障害児一人一人に応じた授業の実際について、具体的な場面をDVDで見ながら学び考える。	学校教育の基本的な教育課程について予習しておく	60分
第8回	聴覚障害教育の歴史	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。	120分
学生へのフィードバック方法		実施した小テストは、終了後に答え合わせをする。不明な点等は、講義の最初に質問すること。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・2日間の集中講義となるため、小テストは各日の最後に行い問題数は、1回あたり20問で、すべて穴埋め方式で出題する。解答は授業にて解説する。 ・定期試験は、100点満点で出題し、記述問題によって、応用的な思考力や判断力を確認する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	小テスト	○	○	
	定期試験	○	○	
評価割合		小テスト (30%) 及び定期試験 (70%) で評価する。		
使用教科書名 (ISBN番号)		なし (自作テキストを活用する)		
参考図書		<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害教育の基本と実際 (2008) 中野 善達・根本 匡文 田研出版 2. 聴覚障害児の言語指導—実践のための基礎知識 (2011) 我妻 敏博 田研出版 3. リテラシーと聴覚障害 (2009) 四日市章 コレール社 4. 特別支援学校学習指導要領・解説 文部科学省 URL: 就学支援資料: 文部科学省		
参考URL		http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm		
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】聴覚障害児に対する適切な教育を行うことのできる専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応し、保護者等と協働しながら、「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p>		
学生へのメッセージ		聴覚障害は、見た目には分からない障害である。そのため、聴覚障害の障害特性を理解した指導の在り方を学んでほしい。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、聴覚障害特別支援学校の教員及び校長としての実務経験を有しており、具体的な授業実践例を挙げた講義を行うことができる。また、東京都教育委員会の指導主事、主任指導主事として、障害のある児童・生徒の就学相談に携わっていたことから、保護者の心情を理解した講義を行うことができる。		
アクティブ・ラーニング	○	グループを組んで、課題に対するディスカッションやワークを行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	保育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を学ぶ。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を学び、我が国の保育の特色と現状、課題を把握する。特に、子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深める。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について学生自身のもつそれらを確かめ、その多様性や専門家である保育者との違いに気がつく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点 (K)	保育の思想と歴史の変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児教育・保育の概念と意義	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。	60分
第2回	西洋における保育思想の歴史	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史の変遷があったのかを学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第3回	日本の保育思想と歴史	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第4回				60分

	保育ニーズの拡大と保育制度の整備	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課題と絡めながら理解する。	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、身近な事例を取り上げて考察する。	
第5回	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）	新たな保育制度の始まりについて理解する。	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。	60分
第6回	保育所保育と幼稚園教育の実際	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。	60分
第7回	保育の内容	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。	60分
第8回	保育の計画と記録・評価	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。	60分
第9回	保育の方法	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。	60分
第10回	保育者の職務	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。	60分
第11回	園と家庭との連携、地域との連携	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。	60分
第12回	子育てに関する相談・援助	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに行き、そのニーズを知る。	60分
第13回	多様な保育ニーズ	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。 その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第14回	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）について、事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第15回	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）にはどのようなものがあるのか理解する。 具体的事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分

学生へのフィードバック方法	原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。 提出物については、添削して返却する。			
評価方法	平常点20%、定期試験80%で評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○

定期試験	○			
評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）			
使用教科書名（ISBN番号）	保育の質を高める保育原理（大学図書出版）			
参考図書	保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。</p> <p>【思考・判断】保育の思想と歴史の変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。</p> <p>【関心・意欲・態度】保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。</p> <p>【技能・表現】保育内容について技術的な面も含め習得する。</p>			
オフィスアワー	月曜2限から4限			
学生へのメッセージ	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。</p> <p>毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。</p> <p>保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。</p>			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。		
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	子どもの理解と援助		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	子ども理解が「保育の出発点」であることを理解できるようにする。幼稚園、子ども園、保育所における乳幼児の生活や遊びの実態に即して、乳幼児の発達及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理を理解し、対応の方法を考えられるようにする。幼児理解が幼児教育のあらゆる営みの基本となることを理解できるようにする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・子ども理解が保育の出発点であるという意味を説明できる
思考・判断の観点 (K)	・乳幼児の発達過程で生じるつまづきとその要因を把握するための原理を理解し対応の方法を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの発達をめぐる課題、問題に関心をもって取り組み、保育現場における援助の方法を提案できる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション・幼児教育における幼児理解の意義	幼児理解と指導案作成・保育実践・評価との関係を学ぶ	〔予習〕テキスト第1章②、④(p.15-23, p.30-42)を読み、子どもの発達の把握と保育の振り返り・評価の概要を理解する 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳幼児理解における発達の把握	発達段階と発達過程、個人差への配慮を学ぶ	〔予習〕テキスト第1章②(p.15-23)を読み、発達段階と発達過程、発達を捉えるツールとしての発達検査の概要を捉える。乳幼児期にどのような個人差が見られるか考え、必要な配慮点について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第3回				180分

	乳幼児の学びの課程を捉える視点	乳幼児が遊び、生活の中で何を学び、身に付けているのかを読み取る	〔予習〕テキスト第2章(p.51-89)を読み、乳幼児期の遊び・生活を通じた学びの概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	
第4回	乳幼児の学びを支える保育者	保育者の受容的姿勢、乳幼児と保育者の信頼関係の重要性	〔予習〕テキスト第2章①(p.51-58)を読み、人的環境としての保育者、乳幼児の学びを支える存在としての保育者の役割について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第5回	いざござから学ぶこと	いざござ場面の事例から、個の育ちと集団の育ちを読み取る	〔予習〕テキスト第2章②(p.59-78)を読み、いざござが育ちにつながる体験となること、そのために必要な援助について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第6回	仲間関係の事例からつまづきの要因を学ぶ	仲間関係におけるつまづきの事例から、子ども同士の関係性その他の要因を考える	〔予習〕事前配布プリントを読み、仲間関係におけるつまづきの要因について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第7回	観察・記録の方法と分析・考察の視点	乳幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法を学ぶ	〔予習〕テキスト第2章③(p.24-29)を読み、保育の観察と記録の方法を理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第8回	観察・記録の実際	乳幼児の遊び場面を観察し、記録する	〔予習〕前回授業で学んだ観察・記録のポイントを復習する。〔復習〕授業中に学んだ観察記録のポイントに沿って記録をまとめ考察する。	180分
第9回	観察記録と考察の発表とディスカッション	各自の記録と考察をグループ内で発表し協議することを通して多様な見方・考え方に気付く	〔予習〕観察記録と考察を、グループ発表できる形にまとめる。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる	180分
第10回	観察・記録からの乳幼児理解と学びの読み取り(1)	学びのつながり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ	〔予習〕テキスト第1章①、第3章③(p.1-14, p.111-122)を読み、乳幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、発達と学びの連続性について概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第11回	観察・記録からの入用理解と学びの読み取り(2)	観察記録から読み取った子どもの姿から指導案を考える	〔予習〕事前配布プリントをよみ、指導案の構成、作成について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第12回	子育てに関わる現代的課題の特徴	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える	〔予習〕テキスト第4章①(p.123-130)を読み、乳幼児をもつ家族の現状を把握する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第13回	子育て支援に生かすカウンセリング技法	カウンセリングの基本的な姿勢と技法を学ぶ	〔予習〕テキスト第4章④(p.149-156)を読み、子育て支援に生かすカウンセリングの基本的姿勢と技法の概観を捉える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第14回				180分

	ロールプレイで子育て相談を体験する	保護者の心情を理解し、保育者に求められる対応・支援の方法を学ぶ	【予習】テキスト第4章①②③(p.123-148)を読み、乳幼児をもつ保護者の心情、保育者に求められる対応・支援について知る。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストを読み考える。	
第15回	園内の支援体制の整備・家庭や地域との連携	園内の協力体制、地域の専門機関等との連携について学ぶ	【予習】事前配布プリントを読み、園内の協力体制作り、地域の専門機関等との連携について知る。【復習】授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分

学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。中間レポートは観察記録と考察、グループディスカッションを通しての気づきをまとめたものとし、理解度・観察記録技術・考察、気づきの深さを評価する。最終レポート課題では、多角的な視点から子どもの育ちを理解する視点、子ども理解に基づき具体的な援助を考える力等、授業の到達目標に基づき評価する。 ・平常点、中間レポート、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
中間レポート		○	○	○
最終レポート		○		

評価割合	平常点 (30%)、中間レポート(30%)、最終レポート (40%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの理解と援助—子どもの育ち・学びをとらえて支える—/光生館、無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの (編著)、978-4-332-70195-8
参考図書	授業中に適宜指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室
学生へのメッセージ	前期の発達心理学で学んだ知識を基に、子どもを理解しその育ちを援助する方法について学びます。前期のテキスト、授業資料も手元に置いて、必要に応じて見返しながら受講してください。保育・教育現場での実践につながる内容です。授業、ワーク、課題へ積極的に参加するとともに、理論と実践を結びつけながら、自ら考える姿勢を期待します。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	乳児保育 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	テキストや保育所保育指針等を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」について理解を深める。乳児保育に関する歴史の変遷も踏まえながら、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を知る。さらに3歳未満児の発達と生活について知る。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解し、豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。
履修条件	特になし。 なお、本科目は保育士必修科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解し説明できる。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	乳児保育の意義と目的、歴史の変遷について知る。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第2回	乳児保育の役割と機能	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第3回	乳児保育における養護及び教育	乳児保育における養護と教育について、日本の現状を知り、今後の展開について考える。	児童養護と教育の観点から、自分でもメディア等でニュースを調べてみる。	120分

第4回	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について、最新のデータを踏まえながら、事例等を通して理解を深める。	教科書第3章、第7章をよく読んでおく。 メディア等、乳児保育や子育て支援家庭に関する社会の動向に興味・関心をもって自分でも調べてみる。	120分
第5回	保育所における乳児保育	保育所における乳児保育の基本について保育所保育指針をもとに理解する。	教科書第3章を読んでおく。	120分
第6回	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	保育所以外の児童福祉施設について知り、その役割や機能、そこに入所している（利用している）乳児の生活や実状について知る。	教科書第9章 §5「乳児院」について読んでおく。	120分
第7回	家庭的保育等における乳児保育	家庭的保育とは何か、その意義と現状について知る。	教科書第9章 §3 在宅保育についてよく読んでおくほか、今住んでいる地域の資源について調べてみる。	120分
第8回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場として、保育所や認定こども園のほか、在宅保育や乳児院、子育て支援センター等のさまざまな社会資源について知る。	教科書第9章を読んでおく。	120分
第9回	3歳未満児の生活と環境	3歳未満児の生活と環境のうち、日課や保育室内外の環境について知る。	教科書第2章 §1「日課」、§7「子どもの居る場所」、第4章についてよく読んでおく。	120分
第10回	3歳未満児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境のうち、遊びを取り上げ、発達等の観点から理解する。	教科書第2章 §2「遊ぶ」読んでおく。	120分
第11回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	3歳未満児から3歳以上児の保育について、その概要と基本となる考えについて理解する。	教科書の第5章、第7章についてよく読んでおく。	120分
第12回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わり	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わりについて、実践例をもとに理解を深める。	教科書第5章、第6章をよく読んでおく。	120分
第13回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	乳児保育において、子どもたちの生活を支える上で重要な保育計画・記録・評価のあり方について学び、その意義について理解する。	教科書第5章を読んでおく。	120分
第14回	乳児保育における連携・協働①（職員間および保護者との連携・協働）	乳児保育現場における、保育者間の連携・協働や家庭との連携・協働のあり方について学ぶ。	教科書第3章、第6章を読んでおく	120分
第15回	乳児保育における連携・協働②（自治体や地域の関係機関との連携・協働）・まとめ	乳児保育の現場でどのような関係機関とどのように連携・協働しているのかについて学ぶ。	自分が住んでいる地域の乳児期を支援する関係機関や事業について調べる。	120分

学習計画注記	※ 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業内で出す課題やリアクションペーパーへのコメントを通じて、学生の疑問や質問へのフィードバックを行っていく。また
評価方法	・試験はテキストと必要に応じて配布する資料の中から出題する。
評価基準	

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
授業内課題			○	
評価割合		試験60%、提出物（授業内課題等）30%、平常点10%		
使用教科書名 (ISBN番号)		演習乳児保育の基本 (978-4-89347-125-3) 阿部和子編 (萌文書林)		
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解し説明できる。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。</p> <p>【思考・判断】保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について把握できている。</p> <p>乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について考えることができる。</p>		
オフィスアワー		水曜5時限 1619研究室		
学生へのメッセージ		日頃より、本授業の対象年齢である0～3歳児を意識し、身の回りや社会の状況に興味・関心をもって授業に臨んでください。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員2名のうち1名は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有しており、家庭的保育以外にも施設での乳児保育等の実際についてもよく知っている。またもう1名は保育士として保育現場での実務経験を有する。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	乳児保育の基本を押さえながら、学外実習や視聴覚教材を使って、実践的な内容を伝える。 園見学やグループワークなどを取り入れながら、その実際を具体的に理解するようにしていく。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	・乳児の生活や遊びの環境について、安全管理について、様々な視点から考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・園見学に関心を持ち、積極的に参加する。
技術・表現の観点 (A)	・沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。

学習計画

乳児保育Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子どもと保育士等との関係の重要性	子どもと保育士等との関係の重要性について、保育所保育指針を参考にしながら理解する。	保育所保育指針やテキストから子どもと保育士等との関係の重要性について触れられているところをチェックし、復習する。	90分
第2回	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針の文言をもとに考え、事例を見ながら理解する。	子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて、保育所保育指針やテキストを参考に復習をする。	90分
第3回	子どもの主体性の尊重	子どもの主体性の尊重と自己の育ちについて事例をもとに検討し、発達段階に応じた関わりについて理解する。	保育所保育指針やテキストを参考にしながら乳児の発達段階について復習をする。	90分

	と自己の育ち			
第4回	子どもの体験と学びの芽生え	子どもの体験と学びの芽生えについて、保育所保育指針の「乳児保育の3つの視点」を参考にしながら、その具体的などころを考える。	乳児保育の3つの視点について復習をして、その内容をよく理解しておく。	90分
第5回	子どもの一日の生活の流れと保育の環境	子どもの一日の生活の流れと保育の環境について、テキストや視聴覚教材により理解する。	テキストと授業内で配布されたプリントなどを参考にしながら、子どもの一日の生活の流れと保育の環境について復習をする。	90分
第6回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	子どもの生活や遊びを支える環境の構成について考え、グループワークを通じて環境構成図を作成する。	授業で作成した環境構成図について、良さや課題についてまとめる。	90分
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について、事例をもとに考察していく。写真や動画などをみながらその実際に触れる。	授業で扱った事例から、援助のポイントをまとめる。	90分
第8回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について、事例をもとに考察していく。写真や動画などをみながらその実際に触れる。発達を援助する玩具についても理解する。	授業で扱った援助のポイントについてまとめる。	90分
第9回	子ども同士の関わりとその援助の実際	乳児保育の中での子ども同士の関わりについて理解する。乳児保育の3つの視点における「人との関わり」、領域「人間関係」につながる発達の見通しについて学ぶ。次週の保育所見学についてオリエンテーションを行う。	乳児保育の3つの視点について事例をまとめ、領域との関係を整理する。保育所見学について見学のポイントを復習しておく。	90分
第10回	保育所での見学（保育所で実際に乳児と関わる）	1グループ4～6人くらいに分かれ、保育園を見学する。乳児の一日の流れ、子どもの様子、保育士の援助の様子、環境構成などについて具体的に学ぶ。	見学の記録を指定の用紙にまとめる。	90分
第11回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について、テキストや視聴覚教材で学び、保育所の見学記録等をもとに、具体的に確認する。	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について、ポイントをまとめる。	90分
第12回	集団での生活における配慮	集団生活の中でどう一人一人の生活や遊びを保障していく事ができるのかを考え、適切な子どもの動線や環境構成について、学ぶ。保育者連携の大切さについても理解する。	集団での生活における保育者の配慮についてまとめ、課題について整理する。	90分
第13回	環境の変化や移行に対する配慮	環境の変化や移行に対する配慮について、具体的な事例を見ながら理解する。	環境の変化や移行に対する配慮についてポイントをまとめ整理する。	90分
第14回	長期的な指導計画と短期的な指導計画	乳児保育における長期的な指導計画と短期的な指導計画の実際を学ぶ。月齢の差が激しいので、個別の計画について理解する。計画を立てる際には、子どもの姿から考えることを理解する。	授業の内容をよく理解して、子どもの姿をもとに「ねらい」と「内容」を考え、計画を立てる。	90分
第15回	個別的な指導計画と集団の指導計画	個別的な指導計画と集団の指導計画の両方の意義を学ぶ。それぞれの指導計画の作成を通して、その意義を具体的に理解する。	授業で作成した指導計画をもとに他の月齢についても考え、書いてみる。	90分
第16回	定期試験	授業内容を踏まえて定期テストを行う。	理解不十分な点を確認し、復習しておく。	

学習計画注記	保育所見学等、実践的な活動を行いながら学習内容を習得していく。			
学生へのフィードバック方法	保育所見学の記録、指導案などは添削し返却する。			
評価方法	平常点60%と定期試験40%をもとに評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点		○	○	○
定期試験		○		
評価割合	平常点60%と定期試験40%をもとに評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	『演習 乳児保育の基本』 (萌文書林)			
参考図書	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』 (新・基本保育シリーズ) (中央法規)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>【思考・判断】乳児の生活や遊びの環境について、安全管理について、様々な視点から考える。</p> <p>【関心・意欲・態度】園見学に関心を持ち、積極的に参加する。</p> <p>【技能・表現】沐浴やオムツ交換、調乳や授乳などの技術について学ぶ。</p>			
オフィスアワー	月曜2限から4限			
学生へのメッセージ	<p>保育所見学やグループワークなど演習中心の授業です。自分から課題を見つけ、積極的な姿勢で取り組んでください。</p> <p>保育士資格必修</p>			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育士として実務経験を有しており、子どもとのかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	保育所見学など、グループごとのワークを通してアクティブラーニングを実践していく。		
情報リテラシー教育	○	調べ学習をする際、その情報の発信元や発信目的などに目を向けた上で、信頼性を判断する。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	外国語科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校の外国語活動・外国語科の指導に必要な実践的英語運用力、第二言語習得理論、英米の児童文化（絵本、歌、ゲーム等）、異文化理解など、外国語教育に必要な知識を学ぶ。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	外国語活動・外国語科の授業実践に必要な基本的英語運用力が身についている。
思考・判断の観点 (K)	外国語（英語）を指導する授業の在り方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語運用力の向上に努め、異文化理解、第二言語習得理論、英米の児童文化などについて興味関心を持って学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英文法、英語音声の調音方法、英語の四技能について学ぶことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学習指導要領外国語活動および外国語科の理解	学習指導要領外国語活動および外国語科の内容を学習する。	学習指導要領外国語活動および外国語科を読んでおく。	120分
第2回	基本的英文法の理解	基本的英文法について復習し定着を図る。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第3回	英語の調音(母音と子音)	英語の母音と子音の調音方法について理解し、正しい発音ができるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第4回	英語の発音・リズム・アクセント	英語の発音・リズム・アクセントについて理解し、英文を適切に音読できるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第5回		英語音声の連結、同化、脱落、イントネーションなどについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分

	聞く英語のトレーニング			
第6回	話す英語のトレーニング1	日常生活で使う英語の基本表現、ALTとのコミュニケーションに必要な表現などについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第7回	話す英語のトレーニング2	教室英語について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第8回	話す英語のトレーニング3	英語を使って日本文化の紹介をする。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第9回	読む英語のトレーニング1	英米の代表的な絵本について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第10回	読む英語のトレーニング2	英米の児童文学について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第11回	書く英語のトレーニング1	基本的な英単語の表記について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第12回	書く英語のトレーニング2	掲示物の英語表記について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	第二言語習得理論	第二言語習得理論について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	マザーグースの知識	英米の伝承童謡（マザーグース）について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第15回	異文化理解の知識	外国語教育における異文化理解について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第16回	試験と解説	外国語教育において学習した内容に関して試験を行う。試験後、ポイントの解説を行う。	学習指導要領外国語活動および外国語科を熟読し、授業で学習したプリント教材を復習しておく。	120分

学習計画注記	履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業では前時の復習を兼ねて小テストを行い、その場で確認する。
評価方法	・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点（50%）、試験50%
使用教科書名（ISBN番号）	文部科学省（2018）小学校学習指導要領—平成29年告示（東洋館出版社） 978-4-4910-3460-7
参考図書	別途指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。 【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。 【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ	学んだ知識や技能を実践的に活用できるように、常に訓練を怠らないようにしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インターンシップ (2018年度以降入学者)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校等の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が望まれる。事前・事後の学習では、小学校・特別支援学校の別のコースに分かれて学習する。体験後、学んだことをレポートにまとめるとともに、成果報告会でのプレゼンテーションなどの振り返り（リフレクション）を通して、教育実習に生かすことはもとより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教職に関する知識を身につけ、教職について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子ども、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教職に関する関心があり、教育現場で体験に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

インターンシップ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 オリエンテーション・校種選択	インターンシップに関する概要を知り、小学校か特別支援学校かの参加する学校種を明らかにする。小学校と特別支援学校とに分かれる。 小学校：インターンシップの意義と目的 特別支援学校：インターンシップの意義と目的・心構え、勤務規律等	学校種について考え、変更がある場合は、直ちに連絡する。 インターンシップの意義と目的について確認する。	60分
第2回	2 インターンシップ校の研究	小学校：インターンシップの概要について理解する。 特別支援学校：インターンシップ校の研究(学校目標、教育課程等)	小学校：インターンシップの概要について確認する。 特別支援学校：インターンシップ校について調べる。	60分

第3回	3 インターシップの心得、様々な障害の理解と支援	小学校：インターシップの心得について理解する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性等	小学校：インターシップの心得について確認する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性について確認する。	60分
第4回	4 インターシップ校の研究、特別支援学校の教育課程	小学校：インターシップ校の研究（学校目標、教育課程等） 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について等	小学校：インターシップ校の研究（学校目標、教育課程等）について調べる。 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について等について調べる。	60分
第5回	5 インターシップ校の研究、自立活動の指導	小学校：インターシップ校の研究（教育課程、日課表等） 特別支援学校：自立活動の6区分の内容、指導法	小学校：インターシップ校の研究（教育課程、日課表等）について調べる。 特別支援学校：自立活動の6区分の内容、指導法について確認する。	60分
第6回	6 自己紹介文の書き方、知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：自己紹介文を書く 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：自己紹介文を確認する。 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）について確認する。	60分
第7回	7 日誌の書き方、肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：日誌の書き方 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：日誌の書き方を確認する。 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）を確認する。	60分
第8回	8 直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターシップ日誌の書き方、心構え） 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターシップ日誌の書き方、心構え）をする。 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導を確認する。	60分
第9回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第10回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第11回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第12回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第13回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第14回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第15回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第16回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第17回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第18回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第19回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第20回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	
第21回	インターシップ	インターシップ（8時間×6日間）	インターシップ（8時間×6日間）	

第22回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第23回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第24回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第25回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第26回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第27回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第28回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第29回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第30回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第31回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第32回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第33回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第34回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第35回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第36回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第37回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第38回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第39回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第40回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第41回	41 リフレクション（1）	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題をまとめる（ワークシート） 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題のまとめ（ワークシート）を確認する。 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現（報告）を確認する。	60分
第42回	42 リフレクション（2）	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成 特別支援学校：児童生徒指導、1人1人の特性に応じた指導支援	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成。 特別支援学校：児童生徒指導、1人1人の特性に応じた指導支援の確認。	60分
第43回	リフレクション（3）	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化を確認する。	60分
第44回	44 リフレクション（3）	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討を確認する。	60分

第45回	45 リフレクション (5)	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：4年生教育実習報告会への参加	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：4年生教育実習報告会への参加	60分	
学生へのフィードバック方法		インターンシップを通して、教育現場の現実をよく理解してほしい。			
評価方法		インターンシップ校による観察に基づく評価と事前・事後指導の平常点			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	観察			○	
	平常点			○	
評価割合		インターンシップ校による観察に基づく評価 (70%) 事前・事後指導の平常点 (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)		授業で紹介する			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。			
オフィスアワー		随時 1628研究室			
学生へのメッセージ		インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会である。教育実習の準備段階でもあるが、将来の職業選択やキャリア形成に役立ててほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。			
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。			
情報リテラシー教育					
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	子どもと音楽 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に示されたねらいおよび内容に基づいた、乳幼児期の表現活動を支援するための音楽的表現活動のあり方について講義する。様々な音楽表現の実践を取り入れ、事例を通して乳幼児の音楽表現について解説する。また、音楽の基礎理論についての講義も行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	様々な音楽表現活動の実践を通し、乳幼児の表現の発達を踏まえた音楽表現のあり方について理解する。
思考・判断の観点 (K)	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	共同して表現することを通し、主体的・対話的で深い学びのあり方について理解しようとする。
技術・表現の観点 (A)	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現①	身の回りの音の感受と表現	テキスト第1章、第2章の通読	90分
第2回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現②	人の声の感受と表現	テキスト第3章の通読	90分
第3回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現③	音・声が音楽的になっていくということ	第1回、第2回の講義内容から、本テーマが示すであろう具体的な内容について考えておく。	90分
第4回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために①	歌唱活動の実践と指導の視点	課題曲の詩を味わい、歌えるようにしておく。	90分

第5回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために②	楽器を用いた活動と指導の視点	テキスト第4章第1節の通読	90分
第6回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために③	音環境を考える	テキスト第5章第1節の通読	90分
第7回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために④	幼児期の終わりまでの育ってほしい姿の視点から	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べておく。	90分
第8回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる①	リズム遊びの展開	配布プリントの譜読み・練習をしておく。	90分
第9回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる②	歌遊びの展開	テキスト第4章第2節の予習	90分
第10回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる③	楽器遊びの展開	テキスト第4章第3節の予習	90分
第11回	イメージを表現する①	楽器の響きを追求する。手作り楽器に応用する。	配布プリントの譜読み・練習をしておく。	90分
第12回	イメージを表現する②	視覚からのインプットを聴覚的用言に変容させる。	手作り楽器を仕上げる。配布プリントの予習。	90分
第13回	イメージを表現する③	聴覚からのインプットを視覚的表現に変容させる。	配布プリントの予習	90分
第14回	イメージを表現する④	幼児と楽しめる歌の創作	幼児と楽しめる歌の歌詞を考えておく。	90分
第15回	発表と総括	創作した歌を発表する。 幼児の音楽的表現を育むICT活用について。 総括	発表曲の練習 幼児の音楽的表現を育むICT活用のアイデアを考える。	90分

学習計画注記	講義内容により、教室を変更することがある。 前半の講義では、毎回、実践を通し、わらべうた遊びのレパートリーづくりのための時間をもちます。習得したわらべうたを、楽譜に表すことを通し、音楽の基礎理論を学びます。				
学生へのフィードバック方法	質問および疑問点はリフレクションシートに記載してください。翌週の講義内でお答えします。作品発表については、コメントをお伝えします。「私のテキスト」は、添削して返却します。				
評価方法	講義ではリフレクションシートを配布し、学習内容の理解、講義への意欲・態度等を評価します。個人発表、グループ発表は、講義内容の理解と応用力、取り組み方、表現力等の視点で評価します。私のテキストとは、講義内で紹介したわらべうたあそびについて、その楽譜とあそびかた等をまとめたものですが、知識・理解・思考・判断の状況を判断します。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	リフレクションシート	○		○	
	発表		○	○	○
	「私のテキスト」	○	○		
評価割合	リフレクションシート (40%)、発表 (30%)、「私のテキスト」 (30%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)					

		無藤隆監修・吉永早苗著(2016)『子どもの音感受の世界―心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』萌文書林 島田和昭・高倉秋子 編(1998)『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】 「子どもの音楽的成長と発達」についての基礎知識を身に付けるとともに、子どもの音楽的感性とその表現について理解する。 【思考・判断】 子どもの音楽的表現を支える創造力・コミュニケーション力・感性を身に付ける。 【関心・意欲・態度】 子どもと音楽を通して豊かに関わるための、様々な音楽表現を体験し、積極的にレパトリーを増やす。 【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな音楽的表現力を身に付ける。
オフィスアワー		前期：月曜日 3限 1601 後期：水曜日 2限 1601
学生へのメッセージ		乳幼児期を対象とした講義内容であるが、学びの連続性・保幼小連携の観点からも、小学校教諭免許希望者も受講すること。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	子どもとの音楽遊びの経験の豊かな作曲家による特別講義を予定している。
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークおよび学び合いを通して、理解を深める。テーマを設定し、協働して音楽表現を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	幼児の音楽表現を育むICTの活用について考える。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	音楽実技A (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	渡邊 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	渡邊 佐恵子	指定なし
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし

授業概要(教育目的)

本授業の目的は、ピアノの弾き歌いの実技を通し、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受け止め、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。楽譜の読み方や音楽理論の知識を実践を通して理解し、各自のレベルに応じた童謡や唱歌に取り組みながら、ピアノ演奏の基本的な技術および歌唱技術を獲得できるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	楽譜の読み方や基本的な音楽理論について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの音楽的成長を支えるための保育者・教師としての音楽的な資質について理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	表現技術の獲得に向け、積極的に教室外学習に励んでいる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの音楽表現活動のための弾き歌いの基本的な技術が身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、弾き歌いを通しての学びについての概説、講義の進め方の説明とクラス分け	弾き歌いのテキスト『ぴっこりーの』に目を通し、知っている曲について1~3曲、歌ったり弾いたりしておく。	90分
第2回	読譜の基礎学習	楽譜の読み方・ピアノ演奏の基礎基本	初回に決められた課題曲の練習	90分
第3回	発声の基礎知識	保育者・小学校教諭として必要な歌唱技能に関し、その発声法の基礎を学ぶ。	課題曲を暗譜して歌えるようにしておく。	90分
第4回	ピアノ伴奏の基礎技術①	和音の弾き方を中心とした、音の響かせ方や音色作りについて	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分

第5回	ピアノ伴奏の基礎技術②	指遣いとメロディーの響かせ方	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第6回	ピアノ伴奏の基礎技術③	強弱の表現について	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第7回	ピアノ演奏の基礎技術④	歌唱と伴奏のバランス	個別に提示された課題曲の予習・復習	
第8回	ピアノ伴奏の基礎技術⑤	曲の構造に関する知識	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第9回	ピアノ伴奏の基礎技術⑥	アーティキュレーションを学ぶ	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第10回	ピアノ演奏の基礎技術⑦	子どもの声を引き出すために	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第11回	ピアノ伴奏の基礎技術⑧	子どもとともに歌うということ	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第12回	ピアノ演奏の基礎技術⑨	歌詞の情景が思い描かれるような歌唱表現	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第13回	ピアノ伴奏の基礎技術⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第14回	ピアノ伴奏の基礎技術⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第15回	発表会	発表会形式で、弾き歌いを披露する。友達の演奏表現から学ぶ。	発表会用の弾き歌いを練習する。	90分

学習計画注記	1クラスを4つのグループに分け、4人の講師が順に個人レッスンをを行います。最初の講義において、グループ分けをします。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。
評価方法	リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	リフレクションシート（40%）、課題の進捗状況（30%）、発表会（30%）で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する
使用教科書名（ISBN番号）	島田和昭・高倉秋子 編（1998）『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社
参考図書	各自の進度に合わせ、適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。 【思考・判断】 子どもとの音楽表現の場面を想定し、弾き歌いをすることができる。 【関心・意欲・態度】 保育者・小学校教師に必要な音楽的資質の獲得に向けて、積極的に課題に取り組んでい

		る。 【技能・表現】 子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。
オフィスアワー		吉永をお訪ねください。 前期：月曜日 3限 1601 後期：水曜日 2限 1601
学生へのメッセージ		予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	造形表現基礎 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもが造形文化に親しみ、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を造形体験から考える。さまざまな実技体験を通して子どもの造形活動に立ち合うための基礎的な知識と基本的な技能に関する知見を広げる。また、各種の画材や素材の特徴や可能性、さまざまな材料や用具の適切な扱い方を知る。それにより、子どもの造形体験と文化的な生活との親和的な関係、教材化に向けた開発・応用についての討論を深め、造形感覚に基づく視点を子どもの生活や遊びに活かす視点と力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	子どもの発達過程と造形表現の関連、材料や用具の特徴について基礎的な知識を有し、表現活動を安全かつ効果的に実践する要件を理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの心身の発達に応じた造形活動を計画・展開する視点から、さまざまな材料・用具の特徴を生かす題材を展開するための基本的事項を検討して説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが生活の中で親しむ造形文化や遊びに関心をもち、表現活動に立ち合うための環境づくりについて説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの主体的な造形表現を促す主題設定、材料・用具の特徴に見合う取り扱いなどについて基本的な技術を有し、安全で楽しい活動を展開する環境を構想し説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	今日の生活・文化と子どもの造形表現	今日の生活や造形文化と子どもの造形活動の関連について考え、簡単な実技を通して造形活動の意義や役割を体験的に理解する。	親しみ深い今日の造形文化について事例をあげ、それぞれの特徴や問題について整理しておく。	45分
第2回	遊びから生まれるイメージと造形表現	自然な遊びから生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの認識や関心に基づく造形表現の特徴について体験的に理解する。	遊びから生まれるイメージと造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第3回	からだの感覚を生かす造形表現(1)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、からだ全体の運動感覚を楽しみながら働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。	からだの感覚を生かす造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第4回	からだの感覚を生かす	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、触感・視覚・聴覚など形・色・質感の感覚が総合	手触りや形・色などの感覚を生かす造形表現についていくつか	45分

	造形表現 (2)	的に働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。	の事例をあげ、共通する特徴を整理しておく。	
第5回	自然の材料から生まれる造形表現 (1)	自然の材料 (木枝・葉や実・石・土・水など) に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴を生かすイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料 (上記) について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。	45分
第6回	自然の材料から生まれる造形表現 (2)	自然の材料 (光や影、風・空気などの手に取れないもの) に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴に基づくイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料 (上記) について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。	45分
第7回	身近な材料から生まれる造形表現 (1)	日常生活で触れる身近な人工材料 (紙や粘土など) から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	日常にある人工材料 (上記) を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第8回	身近な材料から生まれる造形表現 (2)	特殊な人工材料 (アルミ箔・プラスチック素材・段ボールなど) から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	やや特殊な人工材料 (上記) を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第9回	用具の操作や技法から生まれる造形表現 (1)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ウレタンローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の特徴を生かした技法や実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第10回	用具の操作や技法から生まれる造形表現 (2)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の操作や技法から発想する実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第11回	ことばから生まれるイメージと造形表現	ことばから生まれるイメージと造形表現を知り、ことばの発達に応じて広がる認識や感情からイメージする造形表現について体験的に理解する。	ことばの発達に応じて広がる認識や感情を生かす実践事例をあげ、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第12回	物語から生まれるイメージと造形表現	絵本やアニメなどの物語から生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの発想や構想の基になる物語性や創造的想像力について体験的に理解する。	物語のストーリーや絵から発想する造形表現の実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第13回	季節や地域の体験から生まれる造形表現	四季の自然や行事で感じる季節感や地域の風土や行事など、子どもの実体験から生まれる造形表現について、活用意図や期待効果について体験的に理解する。	季節感を大切に実践事例を参照し、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第14回	見方・感じ方の変化や重なりを生かす造形表現	さまざまな対象や事象に触れつつ変化する「見方・感じ方」を重視する造形表現を知り、活動の意味や価値について体験的に理解する。	形や色についての見方・感じ方の変化を楽しむ造形的な表現の事例をあげ、着目点の変化やイメージの特徴を整理しておく。	45分
第15回	造形行為のみとりと環境づくり・まとめ	子どもの造形行為に寄り添うみとりと造形環境の構成に関する基礎的な要件を知り、個におうじた援助や適切な環境づくりについて体験的に理解する。全演習を通して造形体験を振り返り、実践的な知識・技能の生かし方に関する討論を通じて整理・理解する。	造形的な表現行為をさせる子どもの心情や興味について、具体例をあげながら整理しておく。	45分

学習計画注記	履修者数や進み具合でスケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。 ・ 毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。 ・ 授業中期以降に、それまでの演習体験から印象に残る3～5例の画像をあげて考察する中間ポートフォリオ (A4判・形式自由) の提出を求める。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート (各回200字程度) の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・ 授業中間意向に提出するポートフォリオは、コメントを記して返却する。 ・ 学期末に全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論文レポート (1200字程度) の提出を求める。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

	ドキュメントシート	○	○	○	
	中間ポートフォリオ			○	○
	小論レポート	○	○		
評価割合	平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。必要な資料を適宜配布する。				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省／編『保育所保育指針 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814482 ・内閣府／文部科学省／厚生労働省／著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814499 ・文部科学省／著『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814475 				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもの生活・文化・遊び、子どもの造形表現の特徴について専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】乳幼児期の造形的な表現の特徴に適した材料・用具・環境に配慮し考察・判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】成長・発達する子どもの生活、文化、遊びに関心をもち、特徴や意味を理解している。</p> <p>【技能・表現】乳幼児の認識や関心に基づいて造形的な表現活動や環境を設定し、立ち合う技術や方略を発揮する能力を有する。</p>				
オフィスアワー	火曜日・3限・1926研究室				
学生へのメッセージ	<p>「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもち、演習に取り組むこと。</p> <p>自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望ましい。自身が学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。			
アクティブ・ラーニング	○	演習を中心とし、成長・発達する子どもの感覚や認識に着目し、造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。			
情報リテラシー教育	○	今日の社会や文化の視点から子どもの生活や遊びの実態を把握するために、webコンテンツやジャーナルの実践事例を参照し考察する。			
ICT活用	○	造形活動のみとり・言葉掛け・援助・反省的実践に活用できる機器としてタブレット型PCやアプリケーションの活用方法を体験的に理解する。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	インターンシップ (3年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし
准教授	小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感(働き甲斐)を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1~2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明(1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分

第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るインターンシップ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	ビジネスマナー(1)	外部講師を招いてビジネスマナー(挨拶など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第9回	ビジネスマナー(2)	外部講師を招いてビジネスマナー(電話対応、企業訪問など)を知る。	マナーの復習をしておくこと。	90分
第10回	面談(6月中旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第11回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第12回	面談(6月下旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第13回	夏季休暇中:インターンシップ実習	インターンシップ実習(8時間×5日=40時間以上)	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第14回	後期1回目:インターンシップの振り返り(1)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第15回	後期2回目:インターンシップの振り返り(2)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。 後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	成果報告書80% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。	
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書 (平成30年度)	
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力	
オフィスアワー	金曜3限 (小池) 3508研究室	
学生へのメッセージ	<p>インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこと。</p> <p>インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握すること。</p> <p>インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこと。</p> <p>なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加すること。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会調査法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)

社会調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、専門職として求められる社会調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術に関わる理解を深める。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会調査に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	社会調査について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	社会福祉士国家試験の科目「社会調査の基礎」について過去問題をインターネットで閲覧する。	120分
第2回	社会福祉と社会調査	社会調査とは何かを考える。社会福祉士の役割と社会調査について理解する。	テキスト第1章の内容をまとめる。	120分
第3回	社会調査の概要	社会調査の意義と目的、社会調査の対象と方法について学習する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第4回	社会調査の概要	社会調査を取り巻く状況、統計法の概要について学習する。	テキスト第2章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第5回	量的調査の方法①	量的調査の特徴と種類について学習する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第6回	量的調査の方法②	調査票(質問紙)の作成方法と留意点について学習する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分

第7回	量的調査の方法③	調査票の配布と回収について学習する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第8回	量的調査の方法④	量的調査におけるデータ解析について理解する。	テキスト第3章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第9回	質的調査の方法①	質的調査の特徴と種類と調査設計を学習する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第10回	質的調査の方法②	対象者の選定と調査手続きと調査手法について理解する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第11回	質的調査の方法③	質的調査における調査の実施について理解する。	社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第12回	質的調査の方法④	質的調査におけるデータの分析と発表・報告の方法について学習する。	テキスト第4章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第13回	社会調査における倫理と個人情報保護	社会調査における倫理と個人情報保護について理解する。	テキスト第5章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第14回	ITを活用した社会調査	社会調査の実施にあたってのITの活用方法を考える。	テキスト第6章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分
第15回	社会科学としての社会福祉	社会科学としての社会福祉について考える。	テキスト第7章の内容をまとめる。社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」について関連する過去問題を解答する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。 ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎』中央法規出版、2013年
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で様々な生活問題を客観的に理解できる。 【思考・判断】社会福祉の精度や実践を活用して問題の解消を図ろうとする視点を持つ。 【関心・意欲・態度】課題を複眼的かつ構造的に捉える力がある。 【技術・表現】問題の軽減や解消のための社会福祉の手法を用いて社会に伝えることができる。
オフィスアワー	【後期】水曜日 1701ゼミ室 10：40～12：50 ※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。
学生へのメッセージ	関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。
教育等の取組み状況	

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、社会調査の能力の育成を図る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

授業概要(教育目的)	3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)				
思考・判断の観点 (K)				
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)				
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合	平常点50% 中間報告書の成果50%			
使用教科書名 (ISBN番号)	各指導教員が個別に提示する。			
学生へのメッセージ	自己のテーマに沿った内容について資料収集をする。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				

シラバス参照

講義名	卒業研究B		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分			
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

授業概要(教育目的)	卒業研究Aでまとめた資料(文献、調査項目等)をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。
------------	-------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)	
------------	--

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準	
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	平常点50% 中間報告書の成果50%
------	--------------------

学生へのメッセージ	テーマに沿った内容について資料の整理をする。
-----------	------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	社会保障論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	社会保障制度は、社会福祉援助の具体的な実践活動に比べて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方は少なくないかもしれません。けれど、社会保障制度は人が社会で生きることの基礎となる、ある意味とても人間臭い制度でもあります。社会福祉援助では社会保障制度に関する具体的な知識を持っていることはとても大切なことです。例えば、福祉や医療、雇用、年金など、社会保障制度はさまざまな形で私たちの生活に具体的に関係する役割を担っています。そのようなことを意識して勉強していきたいと思えます。
履修条件	特にありません。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会保障制度のまさにその実際は知識であり、その内容を理解することは不可欠に大切なことです。知識を理解する力を実践的に身につけていきます。
思考・判断の観点 (K)	それぞれの生活の局面で使われる社会保障制度の内容に関してしっかりと判断することの可能な思考を身につけていきます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会保障制度は制度そのものであり、必ずしも分かりやすい内容になっていないので、とかく、ソーシャルワーク実践に際して後回しにされがちですが、実は人の生活には欠かせないものであり、社会保障制度に関する関心や知ろうとする意欲、実践的な態度を身につけます。
技術・表現の観点 (A)	ソーシャルワーク実践に際して、まずは、当事者の生活を支える社会保障制度に関する知識を駆使する技能と、その内容を分かりやすく当事者に説明する表現能力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、社会保障の歴史的発展と沿革	オリエンテーション社会保障の歴史的発展と沿革について理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第2回	社会保障の理念の発達、社会保障の概念と範囲	主にヨーロッパで発達してきた社会保障制度の概念と範囲をきちんと理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第3回	社会保障の財政、社会		教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分

	保障の機能、社会保障の現代における課題	国の社会保障関係費として支出されている税金は一般歳出予算のうちの最大規模になっています。社会保障の機能から現代におけるその課題を理解します。		
第4回	社会保障制度の体系と国際動向	日本の社会保障制度の根幹は生活保護制度であり、その他に5つの社会保険制度から社会保障性は成り立っています。その概略を理解したうえで、外国の社会保障生徒の相違についても理解を深めたいと思います。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第5回	社会保障制度の体系と国際比較	日本の社会保障制度は防貧的機能を5つの社会保険制度によって実施している、いわば、社会保険制度に偏りを持たせた制度になっています。他方で、日本の医療保険制度として実施されている医療保障は、イギリス、ニュージーランド。スウェーデン島では医療保険制度(社会保険制度)ではなく、税金による医療保障制度です。数か国の社会保障制度の国際比較を行います。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第6回	年金保険制度の概略	年金保険制度の全体像の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第7回	年金保険制度(国民年金制度の概略)	国民年金制度の概略の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第8回	年金保険制度(国民年金制度の仕組み)	国民年金制度の保険料、加入期間等についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第9回	年金保険制度(国民年金制度の実際)	国民年金制度の現在の形を総体として理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第10回	年金保険制度(厚生年金制度の概略)	厚生年金保険の概略の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第11回	年金保険制度(厚生年金制度の仕組み)	厚生年金制度の実際の仕組み(保険料や加入期間等)についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第12回	年金保険制度(厚生年金制度の実際)	厚生年金制度の実際の運用についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第13回	年金保険制度(老齢年金制度)	老齢基礎年金制度・厚生年金制度の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第14回	年金保険制度(障害年金制度)	障害基礎年金制度・障害厚生年金制度の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第15回	年金保険制度(遺族年金制度)	遺族基礎年金制度・遺族厚生年金制度についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分

学習計画注記	決して分かりやすくはない社会保障制度ですから、その都度、分かりにくい箇所は質疑応答を経てきちんと理解可能なようにお手伝いします。
学生へのフィードバック方法	出席状況や質疑応答状況、また、期末試験の状況に応じて、何でも遠慮することなく聞いてください。
評価方法	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本に考えています。

評価基準**評価基準**

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合	出席状況・質疑応答状況50%と期末試験50%を基本に考えています。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。	
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジュメを渡します。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：社会保障制度の正確な知識と理解を身につけます。</p> <p>【思考・判断】：実際の生活局面に即して利用可能な社会保障制度は何かを思考して判断する力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：「制度は分かりにくいから苦手」で立ち止まっているのではなく、社会保障制度に関する関心・意欲・積極的な態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：ソーシャルワークの展開に際していつもその基本となるのは社会保障制度の駆使による当事者の生活の保障です。そのための技能を身につけて、安心して生活可能な支援の表現のための能力を身につけます。</p>	
学生へのメッセージ	社会保障制度は決して分かりやすく設計されていない、実は、そのこと自体、無視できない問題だと考えています。ソーシャルワーカーこそが社会保障制度を縦横無尽に駆使して、当事者の生活を支える力を持つことは大変に重要なことだと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は福祉事務所の社会福祉6法担当現業員として、社会保障制度の具体的な適用に従事していました。現在の社会保障制度には問題や課題があります。その問題や課題についても取り上げていきたいと思っています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
IGT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会保障論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	社会保障論Ⅰに続いて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方の少なくないかもしれない社会保障制度について、人が社会で生きることの基礎としての、ある意味とても人間臭い制度として社会保障制度を勉強していきたいと思います。“実は大切なのですよ！”というようなことを意識して勉強していきたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会保障制度のまさにその実際は知識であり、その内容を理解することは不可欠に大切なことです。知識を理解する力を実践的に身につけていきます。
思考・判断の観点 (K)	それぞれの生活の局面で使われる社会保障制度の内容に関してしっかりと判断することの可能な思考を身につけていきます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会保障制度は制度そのものであり、必ずしも分かりやすい内容になっていないので、とかく、ソーシャルワーク実践に際して後回しにされがちですけれど、実は人の生活には欠かせないものであり、社会保障制度に関する関心や知ろうとする意欲、実践的な態度を身につけます。
技術・表現の観点 (A)	ソーシャルワーク実践に際して、まずは、当事者の生活を支える社会保障制度に関する知識を駆使する技能と、その内容を分かりやすく当事者に説明する表現能力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	医療保険制度の概要	職種と地域で国民皆保険を実現している医療保険制度の概要の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第2回	医療保険制度の具体的な内容	医療保険制度の具体的な内容についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第3回	職域の医療保険制度の概要	職域の医療保険制度の概要についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第4回	職域の医療保険制度の具体的な内容	職域の医療保険制度の具体的な内容の理解を深めていきます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第5回				120分

	地域の医療保険制度の概要	地域の医療保険制度の概要についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	
第6回	地域の医療保険制度の具体的な内容	地域の医療保険制度の具体的な内容についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第7回	医療保険制度の課題と問題点	医療保険制度の課題と問題点について、例えば、高額所得者に対する保険料の上限の設定等についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第8回	労働者災害補償保険制度の概要	労働者災害補償保険制度の概要についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第9回	労働者災害補償保険制度の内容	労働者災害補償保険制度の内容についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第10回	雇用保険制度の概要	雇用保険制度の概要についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第11回	雇用保険制度の内容	雇用保険制度の内容についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第12回	雇用保険制度の課題と問題	雇用保険制度の課題と問題についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第13回	その他の社会保障制度	年金保険制度、医療保険制度、労働者災害補償制度、雇用保険制度以外の社会保障制度の理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第14回	民間保険	民間保険の内容の理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第15回	社会保険の管理運営	社会保険の管理運営の具体的な内容についての理解を深めていきます。	教員配布のレジユメの該当箇所を読んでおくこと。	120分

学習計画注記	決して分かりやすくはない社会保障制度ですから、その都度、分かりにくい箇所は質疑応答を経てきちんと理解可能なようにお手伝いします。
学生へのフィードバック方法	出席状況や質疑応答状況、また、期末試験の状況に応じて、何でも遠慮することなく聞いてください。
評価方法	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本に考えています。
評価基準	
評価基準	
評価割合	出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジユメを渡します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】：社会保障制度の正確な知識と理解を身につけます。 【思考・判断】：実際の生活局面に即して利用可能な社会保障制度は何なのかを思考して判断する力を身につけます。 【関心・意欲・態度】：「制度は分かりにくいから苦手」で立ち止まっているのではなく、社会保障制度に関する関心・意欲・積極的な態度を身につけます。 【技能・表現】：ソーシャルワークの展開に際していつもその基本となるのは社会保障制度の駆使による当事者の生活の保障です。そのための技能を身につけて、安心して生活可能な支援の表現のための能力を身につけます。
学生へのメッセージ	社会保障制度は決して分かりやすく設計されていない、実は、そのこと自体、無視できない問題だと考えています。ソーシャルワーカーこそが社会保障制度を縦横無尽に駆使して、当事者の生活を支える力を持つことは大変に重要なことだと思います。
教育等の取組み状況	

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は福祉事務所の社会福祉6法担当現業員として、社会保障制度の具体的な適用に従事していました。現在の社会保障制度には問題や課題があります。その問題や課題についても取り上げていきたいと思っています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉サービスの組織と経営		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、社会福祉施設のマネジメントについて学ぶ。社会福祉施設を取り巻く社会環境が大きく変化するなかで、市場原理的要素が導入され、競争的環境での運営が強く求められる現状がある。これを踏まえたうえでその歴史的發展、現代の課題、社会福祉施設の新しい動きを学ぶ。また国家試験問題に触れながら、現実的な理解を深める。リスクマネジメントやPDCAサイクルの方法及びクレーム対応などを現場の実務家を招き理解を深める。後半では、ある条件下での高齢者のデイサービスを学生一人一人が立案しプレゼンを行う予定である。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 社会福祉施設の現代的必要性と課題を歴史を踏まえて理解し説明できる。 2 社会福祉施設経営のテクニカルターム、例えば稼働率、利益率、人件費またリスクマネジメントの方法を具多面的に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1 社会福祉施設の役割をその種別を踏まえて分類できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 実際のサービスを創造しようという意欲が持てる
技術・表現の観点 (A)	1 予算管理や執行また事業計画やその実施の方法を具体的に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会福祉施設サービスについてのオリエンテーション	・授業内容 到達点を共有 ・ソーシャルワーク実習を振り返る 得たことと課題を共有する	・実習記録を読み返し、その実践内容と課題を整理する。また新聞記事から社会福祉施設やサービスの問題や課題を探し、コメントする。	120分
第2回	社会福祉施設での職員による虐待	職員による虐待についてその背景を掘り下げる また同調圧力を学ぶために「アッシュの実験」について実際に体験し整理する	職員による虐待の発生原因について新聞記事をみながら自らの意見をまとめる 同調圧力とアッシュも事件を整理する	120分
第3回	社会福祉施設の歴史①	中世ヨーロッパの社会福祉の萌芽となる宗教改革そして困い込む運動、そして1601年の救貧法(エリザベス救貧法)について理解を深め、その後の対象処遇の揺り戻しを経て慈善組織協会につながった足跡を検討し、そ	中世の歴史を理解する。またリッチモンドにつながった流れとリッチモンド以降を検証する。	120分

		の崩壊によって何が生み出され、何が終わったかを考える		
第4回	社会福祉施設の歴史②	わが国の社会福祉施設の歴史を①東京養育院②北海道家庭学校③エリザベトサンダースホームから学ぶ。戦後の社会福祉サービスの流れを措置と契約から学ぶ。	①②③のどれか一つを理解し、その内蔵を400字でまとめる	120分
第5回	社会福祉基礎構造改革	1990年代から始まった「社会福祉基礎構造改革」についての目的、理念、内容を学ぶ。特に保育園改革及び高齢者福祉施設改革の意義と意味を理解する	社会福祉基礎構造改革と介護保険制度について400字程度でまとめることができる	120分
第6回	介護保険制度	介護保険制度の制定までの歴史、目的、内容について、概略する。介護保険が始まり何がどのように変化したのかを具体的に理解する	介護保険の申請手続きをまとめる	120分
第7回	経営における財務	財務三表特に貸借対照表の読み方を学ぶ。またいくつかのテクニカルターム（稼働率や減価償却など）を理解しその意味を学ぶ	貸借対象をインターネットから探し、自分なりにその内容の説明ができる	240分
第8回	経営の実際	介護保険制度は、競争的環境を福祉サービスにも積極的に取り入れた。ここではどのように利用者の気持ちに寄り添いながら効率的で効果的なサービスが作れるかが課題である。この回では高齢者分野の収支シミュレーションを行いながら、「生き残れる」施設とはどのような施設かを考える	「生き残った」施設と「生き残れなかった施設」の違いを明確に理解するための400字程度でまとめる	120分
第9回	外部の実際の経営者の講義	今まで学んだことを抑えて、では実際の経営はどのように行われるのかを高齢者分野の経営者を招き、事例を使いながら学ぶ	講義の内容と感想、課題を800字でまとめる	120分
第10回	福祉サービス実践のリーダーシップ	組織での活動はリーダーシップがと問われる。いいリーダーとはなにか。いいリーダーになるためにはどのような要素が必要か。具体的な事例と学説から検討する	リーダーシップに関する新聞記事を探す	120分
第11回	私のデイサービスを作ろう①	授業を踏まえて「私が作りたい」「私が通いたい」デイサービスをシミュこのレーションをします。第一回目は、授業の目的を共有し一人一人の計画作る。	計画を完成させ、プレゼンができるようにパワポで作成する	120分
第12回	私のデイサービスを作ろう②	前回構想し教室外学習で完成させた「計画」を発表する。その後指定した様式に沿って、理念、ミッション、活動内容を構想する	教室で構想した内容を具体化し、パワポに書き込みプレゼンできる状態にする。	120分
第13回	私が作るデイサービス③	収支予算をシミュレーションする。計算をしてみる	収支予算を確定し、パワポに書き込んで、プレゼンできる状態にする	120分
第14回	私が作るデイサービスの発表会	完成させたパワポを発表する	指摘された事項を踏まえて完成版を作る	120分
第15回	授業のまとめ	授業を終えて「私にとっての社会福祉施設」「社会福祉サービス」の意義についてプレゼンを行う、このなかで職員からの暴力を起こさせないためには何が必要かを述べる	授業ノートを完成させる	240分

学習計画注記	学生の理解度によって、授業進度変えたり、また、学外施設への見学も計画します。			
学生へのフィードバック方法	①毎回リアクションペーパーを記入 ②それを次回授業で発表 ③それに対して教員がコメントする			
評価方法	①授業で行う福祉経営の小テスト1回 40% ②リアクションペーパーの発表 10% ③「私が作るデイサービス」の発表 40% ④小さなレポート 10%			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
リアクションペーパーの発表			○	
デイサービスの発表				○
小さなレポート		○	○	
評価割合				

	①授業で行う福祉経営の小テスト1回 40%															
	②リアクションペーパーの発表 10%															
	③「私を作るデイサービス」の発表 40%															
	④小さなレポート 10%															
使用教科書名 (ISBN番号)	指定しない															
参考図書	都度紹介															
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】社会福祉やソーシャルワークの基本を押さえたうえで、それが実践される社会福祉施設等が理解できる</p> <p>【技術・表現】社会福祉の運営、マネジメントについて、自らの施設を計画する中で理解でき、それを実行できる力を持つ</p>															
オフィスアワー	月曜3時限															
学生へのメッセージ	自分なりの理想的な【社会福祉施設】とは何かという問題意識をもって授業に臨んでください。この授業では、自分で物事を考えることを学生に問います。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、高齢者施設での相談員やNPO法人の理事長も経験し、また行政の福祉系審議会にも委員として参画している。これらを踏まえて、現場の直面する問題やまた解決すべき課題を提示し、それに対応できるスキルを実践的に学べるよう配慮する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>後半は、学生自らが理想のデイサービスを作り上げるために、様々な資源を活用できるよう支援する</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者施設での相談員やNPO法人の理事長も経験し、また行政の福祉系審議会にも委員として参画している。これらを踏まえて、現場の直面する問題やまた解決すべき課題を提示し、それに対応できるスキルを実践的に学べるよう配慮する。	アクティブ・ラーニング	○	後半は、学生自らが理想のデイサービスを作り上げるために、様々な資源を活用できるよう支援する	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者施設での相談員やNPO法人の理事長も経験し、また行政の福祉系審議会にも委員として参画している。これらを踏まえて、現場の直面する問題やまた解決すべき課題を提示し、それに対応できるスキルを実践的に学べるよう配慮する。														
アクティブ・ラーニング	○	後半は、学生自らが理想のデイサービスを作り上げるために、様々な資源を活用できるよう支援する														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉行政論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)

2000年の社会福祉法施行、社会福祉の基礎構造改革以降、社会福祉の行財政と、関連する福祉計画は、公的責任の果たされ方や、民間社会福祉部門との連携のあり方など、実際にはいくつもの問題に直面しています。
この授業では、机上の勉強ではなく、〈生存権〉の保障を原点とする社会福祉行政の実際、その具体的な問題点について、具体的に勉強していきたいと思えます。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会福祉行財政と福祉計画に関する知識を理解する力を実践的に身につけていきます。
思考・判断の観点 (K)	社会福祉行財政と福祉計画の現状についての課題や問題点に関する思考力や判断力を身につけていきます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉行財政と福祉計画による実際の社会福祉サービスの提供についての関心を持って、社会福祉行財政と福祉計画について意欲を持って理解する力を身につけていきます。
技術・表現の観点 (A)	社会福祉行財政と付託計画を基礎とする集団援助技術としてのソーシャルワークの技術によって、地域の人々への社会福祉サービスの提供の在り方に関して理解する力を身につけていきます。

学習計画注記

社会福祉行財政と福祉計画に関するさまざまな問題点や課題も含めて、理解に今一つ不十分の残る箇所については、その都度の質疑応答を通して理解を進めていきます。

学生へのフィードバック方法

質疑応答の積み重ねから社会福祉行財政と福祉計画の十分な理解に到達可能なように対応します。

評価方法

出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本とした評価を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合

出席状況・質疑応答状況50%と期末試験50%での評価を基本とします。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジュメを渡します。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：社会保障制度の正確な知識と理解を身につけます。</p> <p>【思考・判断】：実際の生活局面に即して利用可能な社会福祉制度は何なのかを思考して判断する力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：社会福祉行財政と福祉計画に関する関心・意欲・積極的な態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：ソーシャルワークの中でも集団援助技術として区分される社会福祉行財政と福祉計画に関する技能を身につけて、安心して生活可能な支援の表現のための能力を身につけます。</p>	
学生へのメッセージ	身近な社会福祉機関としての社会福祉行政がどのような社会福祉財政のもとに実施され、また、何故、福祉計画が必要とされているのかについての理解を深めていきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	公的扶助論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>憲法第25条に規定されている<生存権>は社会的な「セーフティネット」としての生活保護制度によって保障されているはずですが。けれども、実際の社会では、この制度を利用できずに餓死したり、路上・公園・河川敷等での野宿生活を強いられている人たちが実在します。何故なのでしょう？</p> <p>権利とは言っても、実際にはとても利用しにくい制度、利用しにくい運用が行われている、それが現在の生活保護制度だと思います。あえて見ようとなかなか見えない、この制度の実際を皆さんと一緒に考える勉強をしていきたいと思っています。</p>
履修条件	特にありません。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	世界の中でも相対的貧困率の高い日本の状況にあって、格差の大きさを示すジニ係数もより格差が大きくなる傾向にあって、生活に困窮するということの意味を客観的に理解すること。
思考・判断の観点 (K)	経済的貧困を生きる人達の自己責任を問うような姿勢では決してなく、社会的に生成されてきている経済的貧困が個人に押し掛かる大変な現状について、主体的に関心を持つ姿勢を自分のものとする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	経済的貧困が決して、個々人の様々な主体的要因(怠惰、浪費等)によってではなく、社会的要因によって生み出されてきていることが、社会福祉調査の源流ともいわれるブースやラウンダリーによる貧困調査によって、明らかにされてきたけれど、その経済的困窮の社会的要因による生成を構造的に理解すること。
技術・表現の観点 (A)	生活保護制度は基本的に社会保障制度の根幹をなす制度であり、その制度・施策の内容をしっかりと理解した上での社会福祉援助活動(ソーシャルワーク)の展開するための、具体的な方策を理解すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、経済的貧困状況とは…	現在の経済的貧困の実情を具体的に知り、把握することから、社会保障制度の根幹を担う生活保護制度の社会的な意味を理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第2回	公的扶助の概念と範囲	現在の公的扶助制度の具体的な在り方と、社会保障制度全体との関係等を実際に即して理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第3回	公的扶助の歴史-欧米と日本-	公的扶助制度の発祥は1601年のイギリスのエリザベス救貧法である。今からすでに400年以上前に作られたエリザベス救貧法は日本の恤救規則より200年以上早く作られている。このような歴史的過程の違いからも、一般的に欧	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分

		米の公的扶助と日本のそれとの歴史的比較から、具体的な制度の在り方の違いを理解する。		
第4回	公的扶助の役割と意義	公的扶助制度によって保障されるべきナショナルミニマムの意味と、そのことによって初めて可能となる人々の生活の実際について理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第5回	生活保護制度の目的	生活保護法はその目的として、①最低限度の文化的な生活の保障、②自立の助長を規定している。ただ、その法文上の事実を理解するだけでなく、この2つの目的を実現するための、具体的な制度運用の欧米各国と日本の違いを理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第6回	生活保護制度の原理	生活保護法の規定する生活保護制度に関する4つの原理を具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第7回	生活保護制度の原則	生活保護法の規定する生活保護制度の実施に関する4つの原則を具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第8回	制度利用者の権利と義務	生活保護制度の利用者の権利と義務を具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第9回	保護の種類と内容・方法、保護施設	生活保護制度の8つの扶助とその内容、また、給付のされ方、5つの保護施設の概略とその果たしている役割を理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第10回	生活保護の運営実施体制(福祉事務所)と財源・予算	社会福祉法上の福祉事務所の規定と現業員の配置基準等について、また、その財源としての税金についての実際を理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第11回	生活保護の運営実施体制(福祉事務所)の実際	福祉事務所では社会福祉主事任用資格を持つ現業員が生活保護制度の運用に携わることとなっているけれど、実際の福祉事務所の現業員配置にはいくつかの改善を必要とする問題がある。そのために、生活保護制度の運用が時に非人間的になされたり、生活に困っている人達に生活保護制度を利用してもらうことに支障が出ている。そのような現在の問題点を具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第12回	生活保護の最近の動向	1950年に制定された生活保護法の実際の利用状況についての、特に、1980年代半ばから1990年代半ばまでの動向と、それ以降の動向についてその実際を理解して、その背景としての「保護の適正化通知(123号通知)」の生活保護制度運用に及ぼした事態を具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第13回	低所得対策の概要と他法・他施策等	生活保護法以外の低所得者への具体的な支援の諸制度、施策について理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第14回	現行生活保護法・制度の問題点と課題	現行生活保護法・制度にはいくつかの改善すべき諸点がある。例えば、制度の利用を必要としている人達のうちの実際にどれほどの人達に制度が利用されているかの推計では、これを捕捉率(テイク・アップ・レート)というけれど、欧米の捕捉率の高さに比較して、日本の生活保護制度の捕捉率は極端に低く20%にも満たない状況にある。つまり、必要な人達に制度が利用されていないという看過できない状況にある。明らかに、現行生活保護法・制度には問題点と課題があるのであり、その具体的な問題点と課題を積極的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第15回	現行生活保護法・制度の運用上の課題と問題点	ここでは主に、生活保護制度の運用に携わる現業員の担う役割について、欧米と日本のその違いを理解する。どちらの運用方法がよりしっかりとしたナショナルミニマムを保障する社会保障制度の根幹をなす制度としての役割をきちんと果たすことに近付けるか具体的に理解する。	教員作成レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分

学習計画注記	授業内容の学生さんによる理解の進展の状況に応じて、各授業の内容の予定を若干、変更することもあります。			
学生へのフィードバック方法	教員作成レジュメは20教ページにコンパクトにまとめているので、それぞれの授業内容に際して、実際の理解状況を授業の際に確認します。理解の進展に遅れの出ている場合には、その場での応答によって理解の促進を行います。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○
評価割合	平常点(出席状況・質疑応答状況)50%、定期試験50%を基本としたいと思います。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思います。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジュメを渡します。			
参考図書	特にありません。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：生活保護制度などの低所得状況を生きる人達の利用すべき制度・施策を知識としてきちんと理解している。</p> <p>【思考・判断】：人を経済的困窮に直面した際に抱く思い等を、「自己責任論」等によって当人の問題への狭小化することなく、社会的な問題として考え、思考し、判断するソーシャルワーカーとしての基本姿勢を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】：低所得状況を生きる人達への寄り添いの気持ちを持った関心・意欲・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】：低所得状況を生きる人達へのソーシャルワーク支援に際して、例えば、C・トールの「コモンヒューマンニーズ」を理解してのソーシャルワーク支援の技能・表現する力を身につけている。</p>			
学生へのメッセージ	「一億総中流」の社会は既に終わり、経済的貧困状況が誰にとっても無関係なことではなくなってきています。格差も拡大して、相対的貧困率を算出する際の所得の中央値も年々下がっています。決して、他人事ではない経済的貧困の増加と格差の拡大に際して、社会保障制度の根幹をなす生活保護制度とその運用の在り方について、具体的に皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は東京都内特別区の福祉事務所で14年間、現業員として生活保護制度の運用に従事してきました。その実際の経験からは、現在の生活保護制度とその運用の在り方には問題点・課題のあることを痛感してきました。そうした担当教員の生活保護制度運用従事経験から「初めて」知り得た問題点・課題について重点的に取り組みます。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	医療福祉論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 砂田 淳一郎	指定なし

授業概要(教育目的)

近年、保健医療と福祉の連携が強調されており、入院のみならず地域で暮らす高齢者・障害者にとって、両者は切っても切り離せない関係にある。また、昨今は不況による失業も深刻な社会問題となっており、低所得の無保険者に対する医療サービス提供の問題も表面化している。従来は、病院の医療ソーシャルワーカーが保健医療サービスに対する知識を必要としていたが、今は、地域支援に当たるすべての支援者にとって、保健医療の動向・制度の理解・他職種連携の理解等は欠かせないものとなっている。そこで、より現場目線に近い内容で授業を展開していき、また、社会福祉士国家試験対策の内容についても取り入れていく。

履修条件

特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 保健医療制度の変遷とそれを生み出した社会背景について理解する。 2. 保健医療サービスの概要について理解する。 3. 介護保険制度との関係性について理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 保健医療サービスにおける専門職の役割について理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 専門職の連携の在り方について理解する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	医療を取り巻く情勢	現代社会における医療問題について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。現代社会の医療問題について新聞等で調べる。	120分
第2回	医療分野の概要と仕組み	医療分野の概要について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療とは何かということについて自分の考えを持つこと。	120分
第3回	医療保険制度の概要と仕組み	医療保険制度の概要について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療保険の種類・特徴について事前に整理しておくこと。	120分
第4回		医療分野の専門職の位置づけと役割について理解する。		120分

	医療分野の専門職の位置づけ		テキストを読む(予習・復習)。医療と福祉の専門職の相違点を整理しておくこと。		
第5回	福祉分野の専門職の位置づけ	福祉分野の専門職の位置づけと役割について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療と福祉の専門職の相違点を整理しておくこと。	120分	
第6回	保健医療サービスの概要	保健医療サービスの概要について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。保健医療とは何かということについて自分の考えを持つこと。	120分	
第7回	医療法における医療施設の機能と類型	医療法における医療施設の機能と役割について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療提供施設と介護保険の入所施設の相違点を整理しておくこと。	120分	
第8回	医療ソーシャルワーカーの歴史	医療ソーシャルワーカーの歴史について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療ソーシャルワーカーの業務内容をイメージできるようにしておくこと。	120分	
第9回	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。医療ソーシャルワーカーの業務内容をイメージできるようにしておくこと。	120分	
第10回	保健医療サービスにおける多職種連携	保健医療サービスにおける専門職の連携について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。なぜ多職種連携が必要なのか、多職種連携の必要性について考えておくこと。	120分	
第11回	保健医療サービスの連携の理論と実践	保健医療サービスの連携の理論と実践について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。多職種連携の事例について事前に検討しておくこと。	120分	
第12回	地域包括ケアシステムの概要	地域包括ケアシステムの概要について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。ご自身が住んでいる地域の実態を把握すること。	120分	
第13回	地域包括ケアシステムの構成要素	地域包括ケアシステムにおける5つの構成要素について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。ご自身が住んでいる地域の実態を把握すること。	120分	
第14回	地域包括ケアシステムの4つの助	地域包括ケアシステムにおける4つの助について理解する。	テキストを読む(予習・復習)。ご自身が住んでいる地域の実態を把握すること。	120分	
第15回	まとめ	最終テストを実施する。	これまでの講義内容の総復習をしておくこと。	120分	
学習計画注記		講義の進行具合により、講義スケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法		課題(試験・レポート等)のフィードバックは、授業内にて行う。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートについては講義内にて1回実施する。文字数は600字程度とする。評価については文章のお作法等を見る(チェック項目については講義内で説明する)。 ・最終試験については論述式とする。題目は事前に発表する。文字数は600程度とする。評価については文章のお作法等を見る(チェック項目については講義内で説明する)。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート課題	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	
評価割合		最終試験(50%)、課題レポート(30%)、講義の出席状況(20%)で総合的に判断する。より具体的な評価方法等については、第1回目の授業の際に確認する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス 第5版。 必要な資料については適宜配布する。			
参考図書		適宜、学生には、最新の参考文献を紹介する。			

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】昨今の社会状況の中で、様々な課題を客観的かつ具体的に受け止めることができる。</p> <p>【思考・判断】正確な情報を収集して、現代社会が抱える医療・福祉分野の課題に対して積極的な取り組みを判断できる力を身に付けている。</p>	
学生へのメッセージ	<p>社会福祉を学ぶ学生にとって、医療や介護の法律や制度の知識習得は必須事項であり、保健医療福祉の現場における事例の学習や検証は、現場で働く事前学習となる。また、本科目は社会福祉士国家試験の「保健医療サービス」に該当するため、国家試験の内容についても触れていくので、国家試験の受験を考えている学生や、資格所得後医療ソーシャルワーカーとして働くことを検討している学生には有意義なものであると考える。</p>	
教育等の取り組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療ソーシャルワーカーの現場経験を有しており、実践向けの内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	権利擁護と成年後見制度		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	実際の社会には社会的排除や権利の侵害、また、「契約社会」にあって、自身の権利を正当に主張することの困難な状況を生きざるを得ない人々が存在します。そのような人達にとって、その権利を擁護し、社会福祉援助の力をもった社会福祉援助者としての基礎をしっかりと形成します。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	権利擁護に際して必要とされる知識の理解を身につけます。
思考・判断の観点 (K)	権利擁護のソーシャルワーク援助に際しての具体的な個々の局面で必要とされる思考力や判断力を身につけます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	権利擁護を必要とする人達が社会に少なくとも生活していることに関して、権利擁護とそのソーシャルワーク援助に関しての関心・意欲、積極的な態度を身につけます。
技術・表現の観点 (A)	権利擁護に際してのソーシャルワーク援助の技術と、当事者に向けた具体的な援助の姿勢を表現する力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会福祉援助に関する法律問題	社会福祉援助による権利擁護に際して必要とされる法律に関する理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第2回	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的な原理に関する理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第3回	民法の理解	人々の生活に密接に関係する民法の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第4回	行政法の理解	私達の生活に際して行政との関係を規定している行政法の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第5回	成年後見制度の概要	民法に規定される「成年後見制度の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第6回	成年後見・成年補佐・成年補助	成年後見・成年補佐・成年補助制度の理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分

	成年補助制度の理解			
第7回	親権と扶養の概要	児童虐待通報件数が年々増加して、生命を奪われてしまう子ども達もいる現状にあって、親権の在り方と扶養の在り方について、現在の家族の在り方との関係での理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第8回	成年後見制度の現状	認知症、知的障害、精神障害等によって判断能力を欠く状況にある人達の権利を擁護するための法律行為に関する成年後見制度の現状についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第9回	日常生活自立支援事業の概要	権利擁護に際しての法律行為ではない日常生活行為に関する援助を担う自治上生活自立支援事業についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第10回	日常生活自立支援事業の現状	政令指定都市社会福祉協議会、都道府県社会福祉協議会で実施されている日常生活自立支援事業の現状についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第11回	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度を利用する際に必要な申立ての費用、成年後見人に支払う報酬等を負担できない低所得状況にある人達の成年後見制度の利用を支援する成年後見制度利用支援事業の理解を深めていきます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第12回	市町村、家庭裁判所等の関係機関	成年後見制度の市町村、家庭裁判所等の関係機関の関りについての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第13回	権利擁護活動の実際-認知症-	権利擁護活動の実際-認知症-の現状とその理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第14回	権利擁護活動の実際-消費者被害・虐待・障害児者-	権利擁護活動の実際-消費者被害・虐待・障害児者-についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分
第15回	権利擁護活動の実際-野宿生活者・アルコール依存等-	権利擁護活動の実際-野宿生活者・アルコール依存等-についての理解を深めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を読んでおくこと。	120分

学習計画注記	授業の進行に伴って理解の不十分な箇所についてその都度、質疑応答することによって、なるべく平易に理解可能なように努力します。
学生へのフィードバック方法	分からない箇所等については遠慮しないで尋ねてください。
評価方法	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本にします。
評価基準	
評価基準	
評価割合	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本として、より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジュメを渡します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：権利擁護に必要なとされる知識と理解を身につけます。</p> <p>【思考・判断】：判断能力に欠ける状況にある人への権利擁護に際して、当事者主体の援助のための思考力や判断力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：権利擁護を必要とする人達の少なくない現状にあって、そんなことに関心・意欲を持ち、積極的に関わろうとする態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：権利擁護のソーシャルワーク援助に際して必要とされる技能、表現力を身につけます。</p>
学生へのメッセージ	判断能力を欠く状況にあり、社会の中で家族の援助等も得られない人達は少なくありません、ぜひ、権利擁護に向けたソーシャルワーク実践に向けた力をつけましょう。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は福祉事務所における社会福祉6法担当現業員として、実際に権利擁護のソーシャルワークに携わった経験があります。権利擁護活動の現状には問題点や課題も残されています。それらの問題点や課題についても具体的に話し合っていきたいと思います。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	就労支援		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	現在の社会の中で、人が生きる際に「働く」ということは不可欠に必要なこととされている。しかし、実際にはさまざまな理由から「働く」ことから社会的に遠ざけられている人々がいる。そのため、就労にあたって何らかの支援を必要とする人々へ社会的に人が「働く」ことを支援していくことの必要性や労働を取り巻く環境について理解することが大切です。さらに、現代における就労支援の本質として、人が「働く」ということの社会的な意味を考え、人が「働く」ことを社会的に保障する方向性や今後の改善につながる視点を理解します。
履修条件	特にありません。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	人が社会において「就労」する際には、どのような支援が必要とされるか、また、人の「就労」する際の困難や難しさに際しての支援の必要性を具体的に理解します。
思考・判断の観点 (K)	人の「就労」のなかなか難しい状況が、当人に及ぼす生きる際の困難を客観的な側面と、主観的な側面の両面から考え、必要な支援の在り方を判断する力を身につけます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人の「就労」のなかなか難しい状況に際しての支援は、何より、当事者主体をつらぬいて、当事者本位の支援に向けての態度、さらに、強い関心や意欲を持った支援として展開し得る力を身につけます。
技術・表現の観点 (A)	人の「就労」のなかなか難しい状況する支援に際してはソーシャルワークとしての取組を縦横無尽に展開することの可能な技術、さらに、その支援を力あるものとして展開して支援者としての自分をより良く表現可能な力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割	人の「就労」することの主体的な意味、社会的な意味について考え、さらに、さまざまな生活状況にあつてなかなか「就労」することの困難な状況にある人達に向けての理解を進めます。	教員配布レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第2回	雇用・就労の動向と施策	2000年以降の約20年間の期間に労働に関する規制緩和が行われ、今では、非正規の雇用者の割合が40%近くにまで増えています。このような雇用と労働の社会的な状況について、その動向と、社会的な対応施策について理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第3回				120分

	障害と就労支援(1)	障害(身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等)のために「就労」の困難な状況にある人達に、特に、社会福祉的な「就労」の場の提供の在り方についての理解を進めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	
第4回	障害と就労支援(2)	障害のために「就労」に際して、具体的な支援を必要としている状況と、その具体的な支援の在り方について理解を進めます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第5回	専門職の役割と実際(1)	「就労」を支援する専門職は必ずしも十分な専門性を持ち、その力をフルに発揮する労働条件の中で支援活動に従事しているわけではない。施策・制度として専門職の役割を理解することに留めることなく、その支援の現場の実際を理解していく。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第6回	低所得者と就労支援(1)・専門職の役割と実際(2)、就労支援の連携と実際(1)	低所得状況にあって人は「就労」は先ず、生活していくために不可欠な収入源を得る手段である。その手段を得なければ低所得状況からの脱出は困難になる。そのような状況での専門職の支援の在り方と、さらに多職種間の連携の在り方を理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第7回	低所得者と就労支援(2)・専門職の役割と実際(3)、就労支援の連携と実際(2)	低所得状況にあって生活保護制度を利用したり児童扶養手当を利用したりしている人達に対するぐたいてきな「就労」支援の実際を理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第8回	就労支援の現在の課題	「就労」についての主観的意味、社会的意味の理解に立って、「就労」に向けた支援の実際の具体的な問題点・課題を理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
学習計画注記		授業内容の理解の進展状況によっては若干のスケジュールの変更がある場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		事前学習、講義形式による学習を通して、その都度、未だ、明確になっていない箇所などのある場合には、その都度、質問時間を設けて対応します。		
評価方法		出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%の評価を基本とします。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○
評価割合	平常点(50%)、期末試験(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断します)とします。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジュメを渡します。			
参考図書	適宜、プリントを配布します。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】：「就労」支援に際しての施策・制度の知識を身につけて、「就労」支援に関する理解を深めます。 【思考・判断】：「就労」支援に際しての当事者の思いを基礎にした当事者主体の「就労」支援に際して必要とされる考え方・思考と適切な判断力を身につけます。 【関心・意欲・態度】：「就労」支援の現在の雇用状況における難しさもよく理解したうえで、積極的な「就労」支援を担う関心・意欲・態度を身につけます。 【技能・表現】：「就労」支援をソーシャルワークとして取り組む際の技能、当事者にソーシャルワーク援助を歓迎されるような展開能力と表現力を基礎とした支援の力を身につけます。			
学生へのメッセージ	講義の展開方法と受講方法はオリエンテーションで説明します。 現在の非正規雇用が40%近くにもなっている状況で、「就労」支援を必要としている当事者の立場を擁護しつつ支援を展開する力を身につけましょう。			
教育等の取組み状況				
概要				

	該当 有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は複数年度における社会福祉6法担当現業員としての業務経験があり、その経験からする実際の「就労」支援の問題点や課題も経験しているので、それらの問題点や課題についても、学生の皆さんと積極的に話し合い、議論していきたいと思います。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	更生保護制度		
講義開講時期	前期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	司法政策(犯罪対策)としての更生保護制度の位置づけを明確にしたうえで、更生保護制度の概要を説明します。また、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び担い手等について説明し、更生保護制度の特色である官民協働システムについて理解します。さらに、最近の更生保護で課題になっている司法と福祉との連携の必要性についても理解を深めていきます。加えて、関連する制度である医療観察についての理解も深めていきます。
履修条件	特にありません。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	実際の更生保護制度と医療観察制度の知識、理解を深め、それらの具体的な内容を身につけます。
思考・判断の観点 (K)	犯罪により社会外処遇を受け、仮釈放等に際して更生保護が対応する際の、刑余者に対するソーシャルワークの視点からの思考・判断力を身につけます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	更生保護が社会的には十分に機能せずに、犯罪を繰り返して社会外処遇を受けることとなる人達のうちの一定数以上の人達に何等かの障害があり、むしろ、社会福祉による支援が必要とされている現状から、この問題は現在の社会の抱える社会問題と言えます。このことに対する関心・意欲・態度を身につけることが急務の課題になっています。
技術・表現の観点 (A)	犯罪によって社会外処遇を受ける人達へのソーシャルワーク援助に際しては、特に「非審判的態度」が必要とされ、それを保持するための技術や、その「態度」を具体的に表現する力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	刑事司法と更生保護制度	刑事司法と更生保護制度の実際の流れと現在の問題点や課題について身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第2回	仮釈放と生活環境の調整	社会外処遇では刑期を満了せずに仮釈放として社会内処遇に切り替えることが行われます。その際には前もって生活環境の調整が保護観察所の保護観察官と保護司によって行われます。その実際についての理解を身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第3回	保護観察	更生保護の中軸をなす保護観察の実際の理解を身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第4回	緊急更生保護		教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分

		社会外処遇からの満期釈放時等に釈放後の住居・仕事などの生活上の不可欠な支援を必要とする際の緊急更生保護についての実際を身につけます。		
第5回	更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携	保護観察所の保護観察官と保護司、その他にはボランティア団体による更生保護に際しての実際の連携の在り方について身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第6回	医療観察制度の概要	重大な刑事犯罪を犯した者が心神喪失状況にある場合に、社会外処遇による刑罰によっては更生することは難しく、その場合には、医療保護観察による制度での対応が行われる。医療保護観察制度の実際について身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第7回	更生保護の動向と今後の展望	更生保護の動向についてこれまでの授業を通して身につけてきた内容を踏まえて、今後の展望について学生と話し合います。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
学習計画注記		授業内容の理解の進展状況に応じて若干、スケジュールの変更を行う場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		授業の中で、理解の今一つ明確にならない箇所について、その都度、質問時間を確保して、より理解の進むように配慮します。		
評価方法		出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本とした評価方法を考えています。		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	出席状況・質疑応答状況	○	○	○
	期末試験	○	○	○
評価割合		出席 (50%) と定期試験 (50%) で評価することを基本とします。		
使用教科書名 (ISBN番号)		特にありません。こちらでレジュメを渡します。		
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】：更生保護制度、医療観察制度に関する知識の理解を身につけます。</p> <p>【思考・判断】：更生保護制度、医療観察制度の実際における難しさや困難なこと等に際しての思考する態度、支援の在り方に際しての判断能力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：社会内処遇としての更生保護制度等についての現在の喫緊な対応の必要性に鑑みてこの問題と課題に対して積極的な関心や意欲を持ち、積極的に関わろうとする態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：社会外処遇を受けた人達の実際の社会参入の困難さを理解すると都道府県別に設置されている地域生活定着支援センターの果たしている役割の重要性が理解されます。そのような局面でのソーシャルワーク援助に必要な技能を身につけます。</p>		
学生へのメッセージ		司法の枠組みの中だけでは社会的な対応の全く不十分な社会外処遇から仮釈放になった人達等に対する社会福祉援助の必要性を理解しましょう。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は社会福祉6法担当現業員としての福祉事務所での業務に携わる際に、保護観察官との連携も経験してきました。この分野の司法と社会福祉援助の連携をより強めていくことの重要性を理解していきましょう。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)

次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。

- ①SSW実習の意義
- ②学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解
- ③実習先で必要とされる相談援助(子ども、家族、教員対象)に係る知識と技術に関する理解
- ④実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解
- ⑤実習先の市の子ども相談体制について理解
- ⑥現場体験学習(個別面接、ケース会議、連携会議など)、見学実習
- ⑦実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解
- ⑧実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解
- ⑨実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ⑩巡回指導
- ⑪実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるSSW実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成
- ⑫実習の評価全体総括会

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	①SSW実習の意義について理解できる。 ②学校現場等を知り、学校組織を体験的に理解することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。 ④用意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	①教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	①SSW実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的なかつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7key'ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	ガイダンス	自己覚知演習
第2回	学校におけるソーシャルワークの価値の理解	子どもを取り巻く様々な専門職の立場や視点を考える
第3回	学校アセスメントと地域アセスメントの方法	学校組織及び学校状況、市町村内の資源及びサービス

第4回	ミクロプラクティス (1)	いじめ事例検討① ・ チームアプローチ ・ 予防的関与		
第5回	ミクロプラクティス (1)	いじめ事例検討②		
第6回	ミクロプラクティス (2)	障がいのある子ども事例検討① ・ 特別支援教育		
第7回	ミクロプラクティス (2)	障がいのある子ども事例検討②		
第8回	ミクロプラクティス (3)	生活困窮事例検討① ・ 福祉事務所 (生活保護) ・ 民生委員		
第9回	ミクロプラクティス (3)	生活困窮事例検討②		
第10回	ミクロプラクティス (4)	虐待事例検討① ・ 児童相談所 ・ 要保護児童対策地域協議会		
第11回	ミクロプラクティス (4)	虐待事例検討②		
第12回	ミクロプラクティス (5)	不登校事例検討① ・ 教育支援センター ・ フリースクール		
第13回	ミクロプラクティス (5)	不登校事例検討②		
第14回	メゾプラクティス	校内ケース会議及び連携ケース会議の手法		
第15回	マクロプラクティス	学校外の資源の活用及び地域に根ざした相談体制の確立		
学生へのフィードバック方法		オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。		
評価方法		記録、中間及び最終評価、報告書、出席簿すべてを整え、実習に取り組む姿勢を含め、授業目的と照らして総合的に判断する。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
記録、中間及び最終評価、報告書			○	○
使用教科書名 (ISBN番号)		特になし。(スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと)		
学生へのメッセージ		スクールソーシャルワーク論でも事例を扱いますが、本講ではより実践的な形で扱います。講義ではなく演習という形がベースになります。また実際の実習は、受け入れ先によって大きく対応が異なりますが、受け入れ先で提供された様々な機会すべてを学びと捉えてください。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地域福祉論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の概念、地域福祉の理念、地域福祉の歴史の変遷（日本、イギリス）について理解した上で、地域福祉を支える公的な組織や民間組織の機能・役割、現状と課題について講義する
履修条件	高齢者福祉論、児童福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワーク各論Ⅳを履修していることが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の概念、地域福祉の理念、地域福祉の歴史（日本、イギリス）について説明できる 2. 地域福祉を支える公的な組織や民間組織の役割、現状と課題について説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域福祉を支える公的な組織や民間組織との協働体制がイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	産業構造の変化からみた地域社会	産業発展による就業構成の変化や家族形態の変化が、地域社会に及ぼした影響について理解する	就業構成の変化と家族形態の変化について、文献・インターネットから調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第2回	高齢化の進展からみた地域社会	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数から地域社会の現状を理解する	高齢者率と高齢者世帯、および支援を要する高齢者数の状況について調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第3回	地域社会の特性(1)	地域共同体モデル、伝統型アノミーモデルといわれる地域社会の特性を理解する	配布したプリントを基に、授業で学んだ内容を復習しておく	180分
第4回	地域社会の特性(2)	個我モデル、コミュニティモデルといわれる地域社会の特性を理解する	前回授業で学んだ地域共同体モデルと伝統型アノミーモデルの特性を復習しておく。また、今回の授業内容を復習することで、地域実践に活用できるようにしておく	180分

第5回	コミュニティの概念	社会学者マッキーバーやテンニースによるコミュニティ概念と、福祉コミュニティの概念について理解する	テキスト1～8ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第6回	地域福祉の概念 (1)	構造的アプローチからみた概念について理解する	テキスト14～22ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第7回	地域福祉の概念 (2)	機能的アプローチからみた概念について理解する	前回学んだ構造的アプローチを復習する。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第8回	地域福祉の理念 (1)	ノーマライゼーションとボランティアの理念について理解する	テキスト10～13ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第9回	地域福祉の理念 (2)	住民主体とソーシャルインクルージョンの理念について理解する	前回の授業内容を復習しておく。また、配布したプリントを基に、復習しておく	180分
第10回	わが国の地域福祉の展開	明治期から大正期に至るまでの地域福祉実践から今日的課題を理解する	テキスト28～32ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第11回	イギリスの地域福祉の展開	イギリスにおける地域福祉の成り立ちから今日に至るまでの展開過程を理解する	テキスト24～25、26～27ページを読んでおく。また、近年のイギリスにおける地域福祉の動向を文献・インターネットで調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第12回	地域福祉を支える組織 (1)	国・都道府県・市町村の機能・役割について理解する	テキスト33～42ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第13回	地域福祉を支える組織 (2)	民間非営利法人（社会福祉法人、NPO法人、各種施設）の機能と役割を理解する	テキスト42～51ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第14回	地域福祉を支える組織 (3)	民間営利法人（株式会社、有限会社など）の機能と役割を理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分
第15回	地域福祉総合演習	地域社会の特性、地域福祉理念、地域福祉の概念を踏まえたうえで、地域福祉活動組織の現状と課題を知る	さまざまな地域福祉活動組織の中から、1つを取り上げて検討する	180分
学習計画注記		授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある		
学生へのフィードバック方法		最終回に実施する地域福祉総合演習で作成したレポートは、採点した上で返却する		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 グループ討議への参加度や討議した内容のプレゼンテーションで評価する ・定期試験 社会福祉士国家試験の出題内容および地域福祉実践に必要な知識を計れるような出題とする。詳細については、最後の授業にて説明する 		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
定期試験	○	○		
評価割合	平常点20%、定期試験80%			
使用教科書名 (ISBN番号)	井村圭他編『地域福祉の原理と方法 第3版』学文社 (ISBN978-4-7620-2874-8) 必要に応じてプリントを配布			
参考図書	なし			

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 地域で発生しているさまざまな福祉課題をありのまま、客観的に受け止め、対応していくことができる</p> <p>【思考・判断】 地域のさまざまな福祉課題に対して、各種社会福祉制度や社会福祉方法論を活用し、それら問題の軽減や解消を図る視点が持てる</p>	
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限	
学生へのメッセージ	地域福祉論は、児童・障害・高齢者分野の知識を基に総合的な授業が進められていきます。このため、これまで学んできたそれぞれの分野の基本的内容を復習しておいてください。また、グループ討議に対しては、自発的・主体的に参加してほしい	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、地域福祉を推進していく際の前提条件や活動を展開させていく際の具体的な知識や手法について講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地域福祉論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	地域福祉論Ⅰを基盤に本授業では、地域福祉を支える人々の機能・役割や現状、地域福祉を推進するために必要な支援技術や地域福祉計画、財源、福祉教育の具体的内容について講義する。
履修条件	地域福祉Ⅰを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	地域福祉を支える人々の機能・役割や、地域福祉を推進するために必要な支援技術や地域福祉計画、財源、福祉教育の具体的内容が説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域福祉を支える人々の活動や支援がイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	地域福祉を推進するために必要な支援技術が理解できるとともに、地域福祉計画作成方法が習得できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	地域福祉を支える人々(1)	コミュニティワーカー、民生委員、各種相談員の機能・役割、現状を理解する	テキスト52～59ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	地域福祉を支える人々(2)	ボランティア、認知症サポーター、介護相談員、各種施設職員の機能・役割、現状を理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	地域福祉を推進するための支援技術(1)	コミュニティワークの成り立ちから具体的な内容について理解する	テキスト27～28、68～75ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第4回	地域福祉を推進するための支援技術(2)	コミュニティワークの視点から、ある地域で実践された事例を検証することで、コミュニティワークを習得する	テキスト60～66ページを読んでおく。また、社会資源の種類を調べておく	180分
第5回	地域福祉を推進するた	コミュニティワークの視点から、ある地域で実践された事例を検証することで、コミュニティワークを習得する	前回の授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	180分

	めの支援技術 (3)		
第6回	地域福祉を推進するための支援技術 (4)	コミュニティソーシャルワークの内容を理解するとともに、コミュニティワークとの相違点についても併せて理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第7回	地域福祉を支える財源 (1)	公的な財源である補助金、地方交付税交付金、地域福祉基金について理解する	テキスト126~130ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第8回	地域福祉を支える財源 (2)	民間財源である共同募金、ボランティア基金、各種助成金、地域通貨	テキスト130~134ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第9回	地域福祉計画の概要	地域福祉計画作成の目的とその内容及び手順が理解できる	テキスト93~99ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第10回	地域福祉計画の作成 (1)	事例を基に地域福祉計画を作成することで、同計画作成の手順を習得する	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第11回	地域福祉計画の作成 (2)	作成した地域福祉計画のプレゼンテーションを行うことで、さまざまな観点から作成された地域福祉計画を共有し、理解を深める	プレゼンテーションされた、さまざまな地域福祉計画を復習しておく
第12回	福祉教育の必要性 (1)	福祉教育の歴史や概要について理解する	テキスト101~107ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第13回	福祉教育の必要性 (2)	福祉教育の現状と課題について理解する	福祉教育の傾向を調べておく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく
第14回	地域福祉総合演習 (1)	グループごとに、地域福祉論 I・II で学んだ各種資源や方法論、地域福祉計画、福祉教育に関する知識や技術を駆使し、地域における課題解決を図る計画を作成する	特定地域の社会資源の種類と財源の種類を調べておく
第15回	地域福祉総合演習 (2)	グループで作成した計画をプレゼンテーションし、さまざまな観点からのアプローチ法があることを理解する	プレゼンテーションされたさまざまな計画を基に、復習しておく

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある				
学生へのフィードバック方法	地域福祉総合演習で作成したレポートは採点した上で返却する				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 グループ討議への参加や討議した内容のプレゼンテーションで評価する ・定期試験 社会福祉士国家試験の出題内容および地域福祉実践に必要な知識を計れるような出題とする。詳細については、最後の授業にて説明する				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			○
	課題	○		○	○
評価割合	平常点20%、課題30%、定期試験50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	井村圭社他編『地域福祉の原理と方法 第3版』学文社 (ISBN978-4-7620-2874-8) 必要に応じて、プリントを配布				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 地域で発生しているさまざまな福祉課題をありのまま、客観的に受け止め、対応していくことができる 【思考・判断】				

	<p>地域のさまざまな福祉課題に対して、各種社会福祉制度やソーシャルワークを活用し、それら問題の軽減や解消を図る視点が持てる</p> <p>【技術・表現】</p> <p>地域のさまざまな人々と連携を図りながら、社会福祉制度やソーシャルワークを総合的に活用し、福祉課題の軽減や解決を図っていくことができる</p>	
オフィスアワー	火曜3・4限、木曜2限	
学生へのメッセージ	<p>地域福祉論は、児童・障害・高齢者分野の知識を基に総合的な授業が進められていきます。このため、これまで学んできたそれぞれの分野の基本的内容を復習しておいてください。また、グループ討議に対しては、自発的・主体的に参加してほしい</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、地域福祉を推進していく際の前提条件や活動を展開させていく際の具体的な知識や手法について講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	実践英会話 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	The goal of this course is to improve fluency in spoken English for students majoring in Social Welfare.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will further their knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners and find that English is enjoyable and that they desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Introduce yourself / Talk about your town.	Please read each week's handout before class. Handouts will be provided in class each week. Weekly quiz questions will come directly from the weekly handouts.	
第2回	Commuting	How do you come to school? / Is where you live convenient?	Read handout	60
第3回	School Life	Your school schedule; are you busy? / Are you shy or outgoing?	Read handout	60
第4回	Work	Talk about your job or your club or your circle / What are you going to do after school?	Read handout	60
第5回	Seasons	What is your favorite season? How come? / Favorite movie? How come?	Read handout	60
第6回	High School Life	Was your high school strict? / What did you do yesterday?	Read handout	60

第7回	Fashion	What's your favorite color? How come? / What color suits you?	Read handout	60
第8回	Food	Talking about spaghetti and ramen and other noodles / What's your favorite ramen restaurant?	Read handout	60
第9回	Technology	Using the internet / Watching Television	Read handout	60
第10回	Sports	Do you play sports? / Are you good at skiing?	Read handout	60
第11回	Animals	Talk about your pet. Do you like animals? / Do you like going to the zoo?	Read handout	60
第12回	Fast Food	How often do you eat fast food? / What's your favorite fast food restaurant? How come?	Read handout	60
第13回	Travel	Have you ever been abroad? / Do you want to visit another country? How come?	Read handout	60
第14回	Practice for Speaking Test	Practice with a partner for final speaking test. No notes or books during the test.	Read all handouts	120
第15回	Speaking Test	Five minute conversation speaking test with a partner.	Read all handouts	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores, feedback from weekly in-class writing, and from speaking with the teacher.
評価方法	Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the handouts as assigned, you'll do well on the weekly quizzes. You can also earn points from in-class weekly writing topics. Write a lot about yourself and what you like to do, as well as your ideas, and you can earn many points. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準**評価基準**

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	None
参考図書	A Japanese - English Dictionary
ディプロマポリシーとの関連	The ability to engage in English conversation on a variety of topics.
オフィスアワー	Wednesday, Machida Campus, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	障害者福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高橋 幸三郎	指定なし

授業概要(教育目的)

この授業では、障害の問題を子どもの誕生から成長に伴う変化に着目しか考える。障害を持って生まれた人（先天的な障害）、あるいは事故などにより（中途障害）を有するようになった人がライフコースの途上で直面する具体的な困難と、その解決を支援する社会福祉援助のあり方を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	障害がある人のライフコースで生じる問題が分かっている その問題を解決するための制度の理解ができている
思考・判断の観点 (K)	さまざまな障害がある人に対して柔軟な関係づくりができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	多職種（医療・教育分野など）の人と連携するための態度が身に着ついている
技術・表現の観点 (A)	障害者の問題を解決するための支援技術の理解ができている

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	障害がある人のライフコースとそこで生じる問題をイメージして、それを解決するための障害者福祉の全体像を理解する。参加型の授業で進めること、その意義を十分理解する。	180
第2回	障害を自分の体験に関連させて考える	自分の問題として障害を考えていかないと学友に対するモチベーションを上げることができない。モチベーションを上げるために受講生は障害のある児童・成人との出会いを回想して、作文にまとめる。その作文を持ちた報告・話し合いを行い障害を自分の身近な問題として認識する。	180
第3回	障害とは①	機能障害・能力低下・社会的不利とICF（国際障害分類）でいる心身機能・活動・参加という分類の違いを理解する。事例として、脳梗塞により、3つの領域の障害がどのように生じるのかを考えてみる。図表「国際障害分類」を参照する。	180
第4回	障害とは②	ICFに基づき身体障害者と知的障害者の事例を用いて理解する。2つの障害は日常的な活動や社会参加にどのような違いとして現れるのかを理解する。	180
第5回	障害者の概念	障害者差別解消法で言われている「合理的な配慮」を理解することにより障害概念を認識する。東京都『みんなで支えあうともに生きる東京へ』（平成30年1月）を教材として用いる。	180

第6回	郊外授業：ハンセン病記念館	差別と偏見の歴史的な理解について、どのように啓発展示が行われているか、現地で確かめる。我が国において行われた、地域ごとに患者を見つけ出し療養所へ送るといふ「絶対隔離」が国民の偏見・差別意識に基づき行われたという歴史を認識する。	180
第7回	偏見と差別	ビデオ教材CD「石菫の花咲くふるさとへ」を用いて、当事者の語りから偏見と差別に関して理解・話し合いを行う。	180
第8回	障害者の生活実態①	障害者の生活を「暮らし」「仕事」「余暇」という視点から考える。こうした3領域で障害者の日常生活について、受講生の日常と対比しながら検討を進める。	180
第9回	障害者の実態②	上記3つの枠組みから「暮らし」を取り上げ、入所・グループホーム・自宅を比較して理解する。	180
第10回	障害者総合支援法①	総合支援法で児童への対応を中心に法律・制度の理解を深める。	180
第11回	総合支援法②	成人期の障害者支援の法律・制度を具体例を用いて検討する。特に7成入所以降、親亡き後の問題、あるいは、最近いわれている「8050問題」と関連させて制度利用に関する理解を深める。	180
第12回	きょうだいとの関係	障害のある人のきょうだいが「いじめ」などさまざまな問題に直面している実態を具体例を用いて理解する。ビデオ「きょうだいとともに生きる」を教材として用いる。	180
第13回	その他の関連法：医療	医療的ケア児という重症心身障害児の直面している生活問題と地域での取り組みを学習する。	180
第14回	地域生活と障害者福祉	障害者が地域で生活を続けていく際、求められる支援の内容を理解する。障害者が生活していく際、地域住民による「障害の理解」を促進するためにどのような活動が求められているのか考える。	180
第15回	障害者福祉の歴史的な理解	戦後、入所施設から通所・グループホームへと福祉政策が展開してきたが、そうした政策の変化を世界の潮流を意識しながら理解する。	180

学習計画注記	定期試験 授業全体で学んだ障害者制度について、社会福祉士国家試験の内容と関連させた試験を実施する。
学生へのフィードバック方法	講義方式を基本にしますが、参加型の授業方式を取り入れていきますので協力してください。毎回の授業で新聞記事紹介を定例化します。
評価方法	障害がある人のライフコースで生じる問題が具体的にわかり、その問題を解決するための制度の理解ができていくかについて評価します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
発表	○	○	○	○
レポート	○			
小テスト	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点 (5点)、発表 (20点)、レポート (10点)、小テスト (5点)、定期試験 (60点)
使用教科書名 (ISBN番号)	MINERVA福祉資格テキスト：社会福祉士・精神保健福祉士＜共通科目編＞ ミネルヴァ書房 2012年
参考図書	『知的障害をもつ人の地域生活支援ハンドブック』（ミネルヴァ書房 2002年）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な生活（福祉）の問題が惹き起されている現代社会のありようをありのままに時に客観的に時に感情移入をしながら受け止めることができる。
学生へのメッセージ	障害に関わる「福祉制度」の利用が必要な人に制度を具体的に説明できるようになりましょう。国家試験対策も意識していくようにします。校外学習は、日時を早めに通知しますので必ず参加するようにしてください。

教育等の取組み状況	
	該当有無 概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	精神保健学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 糸井 千尋	指定なし

授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が成長する過程で直面する発達課題について 2. 代表的な精神障害の診断・治療・予防に関する基礎的な知識 3. 家族・学校・社会の課題と精神保健 4. 社会で生きていく上でのストレスに対応するセルフケアの方法 これらの講義を通して、精神保健の問題は身近な問題であることに気づき、これからの人生でも応用可能な知識やセルフケアの方法を身につける。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が成長する過程で直面する発達課題について理解し、代表的な精神障害の診断・治療・予防に関する基礎的な知識を身につける。 2. 現代社会で抱えやすい、家族・学校・社会の問題を理解し、利用できる制度・サービスを理解する 3. 社会で生きていく上でのストレスに対応するためのセルフケアの重要性を理解する
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要支援者が必要とする支援を考え、判断することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	精神保健学の概要	精神保健の歴史を学ぶことで、その定義を理解する	【予習】現代の精神保健の課題について自分なりに見つけておくこと 【復習】精神保健の定義についてまとめること	120分
第2回	発達課題とは?①	胎児期～思春期のエリクソンの発達課題を学ぶ	【予習】胎児期～思春期に起こりそうな発達のなつまづきを考えておくこと 【復習】胎児期～思春期の発達課題の重要な点をまとめ、理解する	120分
第3回	発達課題とは?②	青年期～老年期のエリクソンの発達課題を学ぶ	【予習】青年期～老年期に起こりそうな発達のなつまづきを考えておくこと	120分

			【復習】青年期～老年期の発達課題の重要な点をまとめ、理解する	
第4回	ストレス・予防の概念	ストレス、ストレス予防に関する理論を学ぶ。また、ストレスによって生じる精神保健の問題について学ぶ。	【予習】ストレスの定義を調べておく 【復習】ストレスの定義を理解し、ストレス予防について、必要な視点を理解する	120分
第5回	精神疾患とその治療①	精神疾患を学ぶ上で、まず脳を始めとする生理学的な知識を身につける。また、脳の変性の病である認知症について学ぶ。	【予習】認知症に関する新聞記事やニュース、書籍を読んでおく 【復習】脳の働き、認知症の症状について理解したことをまとめる	120分
第6回	精神疾患とその治療②	精神疾患の治療に用いられる治療薬を概説する。統合失調症、うつ病の症状を学ぶ。	【予習】統合失調症、うつ病に関する新聞記事やニュース、書籍を読んでおく 【復習】統合失調症、うつ病の症状について理解したことをまとめる	120分
第7回	精神疾患とその治療③	薬物・アルコール依存、ストレス関連障害、パーソナリティ障害の症状を学ぶ	【予習】薬物依存、ストレス関連障害、パーソナリティ障害に関する新聞記事やニュース、書籍を読んでおく 【復習】薬物依存、ストレス関連障害、パーソナリティ障害について、理解したことをまとめる	120分
第8回	精神疾患とその治療④	行動・認知に基づく心理療法、知的障害、発達障害	【予習】知的障害、発達障害に関する新聞記事やニュース、書籍を読んでおく 【復習】知的障害、発達障害について、理解したことをまとめる	120分
第9回	家族の課題と精神保健	現代日本の家族の特徴やその精神保健的な問題、相談機関について学ぶ	【予習】現代日本の家族について、問題と思う点を挙げておく 【復習】現代日本の家族の特徴、その問題、相談機関について重要な点をまとめる	120分
第10回	学校教育の課題と精神保健	現代の学校教育の課題、教師の精神保健の問題を学ぶ	【予習】現代日本の学校について、問題と思う点を挙げておく 【復習】現代日本における学校の課題の重要な点をまとめる	120分
第11回	産業、労働分野の精神保健	現代日本の労働環境における課題について学ぶ	【予習】現代日本の労働環境が抱えている課題について、問題と思う点を挙げておく 【復習】現代日本の労働環境が抱えている課題の重要な点をまとめる	120分
第12回	現代社会の課題とアプローチ①	現代社会が抱える問題（災害、犯罪被害者、ホームレス、性別違和）について学ぶ	【予習】現代社会の課題と思う点を挙げておく 【復習】現代社会が抱えている課題の重要な点をまとめる	120分
第13回	現代社会の課題とアプローチ②	現代社会が抱える問題（認知症、緩和ケア）について学ぶ。	【予習】認知症、緩和ケアにおける課題点を挙げておく 【復習】認知症、緩和ケアにおける課題の重要な点をまとめる	120分
第14回	メンタルヘルスのセルフケア	燃え尽き症候群の例を通し、メンタルヘルスのセルフケアの重要性について学ぶ。	【予習】燃え尽き症候群について調べておく 【復習】授業で学んだことを実践する	120分
第15回	総括・まとめ	第1～14回までで学んだ精神保健学の重要な点を概説する。	【予習】第1～14回で学んだ点で自分が興味を持った点について、文献を調べ、まとめておくこと 【復習】第1～14回を通して、精神保健学の重要な視点をまとめ、理解する	120分

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

	実施した小レポートで授業の内容に関する疑問点があれば、次週の授業にてフィードバックする。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ内容、それについて考えたことを小レポートとして出席ごとに提出することで評価する ・学年末のレポートでは、授業で学んだことを理解し、現代社会が抱える精神保健的な問題を考える力をつけているかを、評価する 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小レポート	○	○		
	学期末レポート	○	○		
評価割合	授業中の小レポート (60%)、学期末レポート (40%) で評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 現代社会の抱える精神保健的な問題について、発達課題を学ぶことを通して、誰にでも起こりうる問題であることを理解する。また、精神疾患の知識を身につけ、家族・教育・労働などのさまざまな面から、精神保健的な問題を考えられるような知識を身につける。</p> <p>【思考・判断】 ニュースや事件などを精神保健的な問題として、考えられるような力を身につける。また、精神保健的な問題を予防するにはどうしたらよいか、また、起こってしまったらどうしたらよいか、など、正しい判断をできる力を身につけている。</p>				
オフィスアワー	なし。連絡を取らねばならない事情がある場合、メールにて連絡すること。				
学生へのメッセージ	授業で習った内容を復習すること。 授業で習った内容から、自分なりの現代社会の精神保健の問題点を見つけ、理解をより深めること。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床心理士として、病院やクリニックで障害を抱える人々の心理ケアを行う実務経験を有している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	こころの障害者心理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 糸井 千尋	指定なし

授業概要(教育目的)	人が生きる上で経験しうる、身体的、発達の、精神的、代表的な障害の症状、その障害を持っている人の心理について学ぶ。また、興味のある障害について論文や著書、相談機関について調べ、発表する機会を持つことで、より能動的に学び、障害についての理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 代表的な障害の症状を説明できる 2. 代表的な障害を持つ人の心の動きを理解できる 3. 障害を抱える人の相談できる場所、利用できるサービスを説明できる
思考・判断の観点 (K)	1. 障害を抱える人や、その周りの人が必要とする支援の仕方を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・障害の捉え方	授業の進め方について説明する。障害の歴史を概観し、障害とは何か?を学ぶ。	【予習】自分や身近な人が持っている障害のイメージをまとめること 【復習】障害とは何か、定義を理解し、まとめる	120分
第2回	乳幼児における障害とその支援	乳幼児における障害を理解する上で、重要な点を学ぶ。特殊教育から特別支援教育に変わった流れを理解する。	【予習】乳幼児期に抱える可能性のある障害を調べておくこと 【復習】乳幼児期の障害を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第3回	視覚障害児・者の特性と心理	視覚障害児・者の特性と、その心理について学ぶ。	【予習】視覚障害の方の障害を取り除く(軽減する)街の仕組みや製品を見つけておくこと 【復習】視覚障害の方を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第4回		聴覚障害児・者の特性と、その心理について学ぶ	【予習】聴覚障害の方の障害を取り除く(軽減する)街の仕組み	120分

	聴覚障害児・者の特性と心理		みや製品を見つけておくこと 【復習】聴覚障害の方を支援する上で重要な視点をまとめる	
第5回	知覚障害児・者の特性と心理	知覚障害児・者の特性と、その心理について学ぶ	【予習】知覚障害について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】知覚障害の方を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第6回	発達障害児・者の特性と心理	発達障害児・者の特性と、その心理について学ぶ	【予習】発達障害について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】発達障害の方を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第7回	ホームワーク発表①	第2～6回で学んだ障害の中から、自分の興味のある障害を選び、まとめて発表する	【予習】利用できる社会的資源について調べる。その障害関連する文献をまとめて発表する。 【復習】他の人の発表や自分の発表へのコメントを踏まえ、障害の理解を深める	180分
第8回	精神障害者の特性と心理①	うつ病、統合失調症の特性と、その心理について学ぶ	【予習】うつ病、統合失調症について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】うつ病、統合失調症の方を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第9回	精神障害者の特性と心理②	不安障害、強迫症、ストレス障害の特性と、その心理について学ぶ	【予習】不安障害、強迫症、ストレス障害について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】不安障害、強迫症、ストレス障害を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第10回	精神障害者の特性と心理③	摂食障害、パーソナリティ障害の特性と、その心理について学ぶ	【予習】摂食障害、パーソナリティ障害について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】摂食障害、パーソナリティ障害を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第11回	認知症者の特性と心理	認知症者の特性と、その心理について学ぶ	【予習】認知症者について、自分や身近な人が持っているイメージをまとめること 【復習】認知症者を支援する上で重要な視点をまとめる	120分
第12回	ホームワーク発表②	第8～12回で学んだ障害の中から、自分の興味のある障害を選び、まとめて発表する	【予習】利用できる社会的資源について調べる。その障害関連する文献をまとめて発表する。 【復習】他の人の発表や自分の発表へのコメントを踏まえ、障害の理解を深める	180分
第13回	相談援助に求められる技能	相談援助をしていく上で役に立つソーシャルスキルや、メンタルケアの方法を学ぶ	【予習】ソーシャルスキルを調べておく 【復習】授業で学んだことを実践すること	120分
第14回	地域援助と障害	障害を理解する上で重要な地域援助の視点を学ぶ	【予習】地域援助とは何かを調べておく 【復習】授業で学んだ重要な点をまとめること	120分
第15回	総括・まとめ	第1～14回まで授業で学んだ障害の重要な視点について、まとめ、発表する	【予習】自分の理解を深めたい障害を調べ、支援する上で重要な視点をまとめる 【復習】他の人の発表や自分の発表へのコメントを踏まえ、障害の理解を深める	180分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります
学生へのフィードバック方法	小レポートの内容や、質問があれば、次週の授業で取り上げる。ホームワーク発表についてもピア評価を行う。匿名化した評価をまとめたものを次週の授業にて返却する。
評価方法	・授業中の小レポートは、授業の終わりに、授業で習ったことをまとめ、自分なりに理解するために行う。また、授業で習ったことの疑問点があれば、記載する。 ・ホームワークは、前半2～6回、後半8～11回のテーマから、自分なりに理解を深めたい

		<p>障害をより詳しく調べ、その人を支援するために理解しておくべき心理や、その人を支援するために利用できる制度、サービスについて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末レポートは、授業で習った各障害を抱える人々を支援するために必要な知識や、思考を問う質問に対し、自分なりに考え記述する。 ・小レポート、ホームワーク、期末レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小レポート	○	○		
	ホームワーク	○	○		
	期末レポート	○	○		
評価割合		授業中の小レポート (50%)、ホームワーク発表 (30点)、期末レポート (20点)			
使用教科書名 (ISBN番号)		「特に指定しない。」			
参考図書		なし			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】障害理解を通して、客観的に、時に感情移入しながら、現代社会の抱える問題を受け止めることができる。</p> <p>【思考・判断】障害や利用できる制度について、時に痛みを伴いながら感心を持つことで、それらの問題の軽減を図ろうとする視点が持てる。</p>			
オフィスアワー		なし。連絡を取らねばならない事情がある場合、メールにて連絡すること。			
学生へのメッセージ		<p>将来、障害を持った人と関わる職業に就く場合、利用者によりよいサービスを提供できたり、自分のメンタルヘルスを損なうことなく、仕事を続けていくことが重要です。本授業を通して、意外と身近な各障害の症状を理解し、その心理を想像できることは、そういう方には役に立つ知識を学ぶことができるでしょう。</p>			
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床心理士として、病院やクリニックで障害を抱える人々の心理ケアを行う実務経験を有している。		
	アクティブ・ラーニング				
	情報リテラシー教育				
	ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	アロマセラピー演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川人 紫	指定なし

授業概要(教育目的)	香りの療法であるアロマセラピーを、医療福祉領域や商業空間で応用するための知識と技能を身につける。 授業は理論の他、実践も行うことで、実際香りを目的に応じてデザインし、ブレンドするまでの技能を習得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	香りの療法アロマセラピーの実践的な使い方、主な精油の種類、禁忌などについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	香りの療法アロマセラピーの効能別の精油や使い方を分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アロマセラピーの定義と導入例	アロマセラピーの定義と歴史、現代に必要とされる社会背景などについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第2回	アロマセラピーの効くメカニズム	アロマセラピー用精油が体内に吸収されて作用を及ぼすメカニズムを学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習する。	120分
第3回	精油(エッセンシャルオイル)の特性と使いかた	アロマセラピーでよく使われる精油の特性と使い方、禁忌などについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習を行う。	120分
第4回	精油(エッセンシャルオイル)の使用上の注意	それぞれの精油が持つ特性をふまえた上で、使用するにあたり注意しなければならないことについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第5回				120分

	精油（エッセンシャルオイル）の知識1	アロマセラピーで良く使われる精油について、学名、抽出部位、香りのノート、作用など詳しく学習する。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	
第6回	精油（エッセンシャルオイル）の知識2	アロマセラピーで良く使われる精油について、学名、抽出部位、香りのノート、作用など詳しく学習する。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第7回	精油（エッセンシャルオイル）の知識3	アロマセラピーで良く使われる精油について、学名、抽出部位、香りのノート、作用など詳しく学習する。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第8回	アロマクラフトの作り方1	精油を芳香拡散するためのクラフトづくりを実践する。	クラフトの作り方、精油の選び方などについて復習すること。	120分
第9回	アロマクラフトの作り方2	精油を芳香拡散するためのクラフトづくりを実践する。	クラフトの作り方、精油の選び方などについて復習すること。	120分
第10回	アロマトリートメントの方法1	精油を使って行うアロマトリートメントの方法において、精油の選び方、トリートメントオイルの作り方、トリートメント技術について学ぶ。	精油の特性、トリートメントの方法について復習すること。	120分
第11回	アロマトリートメントの方法2	精油を使って行うアロマトリートメントの方法において、精油の選び方、トリートメントオイルの作り方、トリートメント技術について学ぶ。	精油の特性、トリートメントの方法について復習すること。	120分
第12回	香りのブレンド実習1	アロマセラピーに使う精油をブレンドする際に必要な知識について学ぶ。	講義で学んだブレンド技術を元に、数種類ブレンドを考案すること。	120分
第13回	香りのブレンド実習2	アロマセラピーに使う精油をブレンドする際に必要な知識について学ぶ。	講義で学んだブレンド技術を元に、数種類ブレンドを考案すること。	120分
第14回	空間におけるアロマセラピーデザイン	医療・福祉施設や商業建物など、空間での芳香拡散を行うにあたり必要な知識を身につける。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第15回	まとめ	これまで学習した内容のまとめ	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	実施した小レポートは、添削して、次週の授業にてフィードバックする。				
評価方法	小レポートは3~4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。すべて記述方式で出題する。 定期試験は行わない。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小レポート	○	○		
評価割合	授業中の小レポート（80%）平常点（20%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	レジュメを配布				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な生活(福祉)の問題が惹起されている現代社会のありようを理解する上で必要なセラピー、特にエビデンスが確立されているアロマセラピー（芳香療法）の存在について知識と理解を深める。 【思考・判断】現代社会の問題に対して、痛みをもって関心を持ち、アロマセラピーを活用して、その軽減や解消を図ろうとする視点が持てる。				
オフィスアワー	水曜日3時限				
学生へのメッセージ	実習内容について、可能な限り自宅や学内で復習をすることで、自身でアロマセラピーの必要性を体感することができる。				

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は、25年に渡りアロマセラピーをはじめとするセラピーの研究及び事業に従事してきた。その経験をふまえた、実務的な講義を展開している。
アクティブ・ラーニング	○	知識のみならず実際アロマセラピーを体験したり、空間での香りを創造することで実践的なスキルを身につけることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	園芸療法実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 本田 ともみ	指定なし

授業概要(教育目的)

園芸療法を現場で実践するためには、知識や概念の理解だけでなく、技術を身につけておく必要がある。本実習では対象者別プログラム案を作成し、相手に実施を行いながら、現場で必要なスキルについて体験的に学んでもらう。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	園芸療法について説明でき、実践のための手順が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者特性について理解し、対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域で行われる園芸療法／園芸福祉活動に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	実践的な園芸療法活動を通して、地域福祉に対する自分の思いを表現することができる。

学習計画注記

実践のための施設の状況に合わせて、実施回は前後します。

学生へのフィードバック方法

レポートは提出後、解説フィードバック予定。

評価方法

レポート及び実施までに必要だった資料(ポートフォリオ)をデータで提出。実習態度も評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		○
ポートフォリオ	○	○	○	○
実習態度			○	○

評価割合

毎回の実習への意欲的な取り組みと課題の提出、プログラム案、現場実習の内容をそれぞれ均等に評価し、総合的に成績をつける。[評価割合：平常点25%、課題25%、プログラム案実施25%、現場実習25%]

ディプロマポリシーとの関連	ソーシャルワークの方法（園芸療法）を活用し、保健や医療の専門家及び地域の人々とともに連携し、コミュニケーションを図りながら、生活問題の軽減や解消のためのアセスメント、プランニング、そして介入ができる。	
オフィスアワー	事前に連絡していただければ、授業の前後に時間が取れます。	
学生へのメッセージ	園芸療法について学ぶことで、実際現場に出たときにできることの幅が広がってくれることを期待しています。日ごろからガーデニングに関する情報を得るようにしてみてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地域の人へ実際に園芸療法プログラムを提案し、実践的な取り組みを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ガーデニングⅠ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

授業概要(教育目的)	園芸療法について現場で実践するためには対象者のことだけでなく、植物の生育に適した環境についても整えていく必要がある。本演習では園芸機材の取り扱いから実際にガーデンを造成していく基本的なプロセスを体験的に学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物栽培の楽しさや難しさ、重要な点を示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本実習の到達目標、進め方、持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。持ち物、服装を準備する。	150分
第2回	花壇の準備	区分け、土づくり、地慣らしなど花壇の準備作業を行う。		
第3回	園芸店見学	近隣の園芸店を見学し、この季節に入手できる植物苗の大きさと価格を学ぶ。	自宅の近所の園芸店や花屋さんで入手できる植物苗の大きさと値段を確認する。	150分
第4回	秋・冬花壇のデザイン	各自担当の花壇の区画を計測し、図面化する。秋から冬の花壇をデザインし、植栽図面を製作する。	実習時間内にデザインが完成しなかった場合は、各自デザインを完成させること。	150分
第5回	花壇に植える植物の準備	康で良い苗の選び方を解説する。各自デザインした花壇の植物を購入その他により準備する。	入手できなかった植物種は、代替の植物とするか自宅近辺の店等で入手し準備する。	150分
第6回	植栽	デザインした花壇と準備した植物を用いて植栽する。	水やり等の管理を各自必要に応じて行う。	150分

第7回	植栽管理計画	植栽した花壇の植物の管理計画を作成する。	実習時間内に終わらなければ、完成させること。	150分
第8回	植栽管理と近隣農家の見学	植栽した後の花壇の管理を行う。 近隣で野菜や菊の栽培を行っている農家の見学		
第9回	初歩的なテラリウムをつくる	初歩的なテラリウムをつくる	各自作品の管理	150分
第10回	近隣農家の見学	秋冬の果樹の管理作業（剪定・整枝など）を学ぶ。		
第11回	季節の飾りを作る	クリスマスやお正月に向けて季節の飾りを作成する	実習時間内に終わらなかった場合は各自完成させ、記録を残すこと	150分
第12回	繁殖（挿し木）	家庭でもできる観葉植物の挿し木を試みる。主な挿し木の方法について解説し、実際に行う。		
第13回	春・夏の花壇のデザイン	秋・冬の花壇のデザイン、施工、管理の一連の経験を活かし、春・夏花壇のデザインをする。	実習時間内に終わらなかった場合は、各自完成させておくこと。	150分
第14回	土づくり	来年の春に向けて、土づくり。腐葉土と肥料のすきこみ。天地返し		
第15回	総括	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認。 ガーデニング実習Ⅱ（3年次前期）への繋がりについて説明する。		

学習計画注記	履修者数、天候、植物の生育状況などにより、実施内容、スケジュールや課題変更になる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。				
評価方法	平常点：演習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、質問や問題に適切に答えているかなどを総合的に判断して評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。				
参考図書	適宜紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】植物の栽培を通し、人間社会と自然の多様性について考え、その特徴について深く理解する。 【思考・判断】社会を構成する大切なひとりとして、社会福祉の観点をもって他者と協力して作業を行うことができる。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。				
オフィスアワー	月曜日 3限 3609研究室				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	音楽セラピーⅡ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深野 広美	指定なし

授業概要(教育目的)	音楽セラピーⅡは、音楽療法及び音楽活動で使用することのできる楽器演奏を修得する。それぞれ個人で演奏する楽器練習と、複数人で実施するハンドベル及びトーンチャイムの練習に取り組み、演奏できるようになる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	楽譜と楽器を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	修得のために努力する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と説明、今後の計画、曲の決定	特になし
第2回	楽器練習・ハンドベル練習	楽器練習・ハンドベル練習	特になし
第3回	楽器練習・ハンドベル練習	楽器練習・ハンドベル練習	特になし
第4回	楽器練習・ハンドベル練習	楽器練習・ハンドベル練習	特になし
第5回	楽器練習・ハンドベル練習	楽器練習・ハンドベル練習	特になし
第6回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第7回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第8回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第9回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第10回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし

第11回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第12回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第13回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第14回	楽器練習・トーンチャイム練習	楽器練習・トーンチャイム練習	特になし
第15回	まとめのレポート	レポート作成	特になし

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更なる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	演習形態の授業になるので、不明な点、困難な点は授業時間内でのやりとりで解決する。
評価方法	出席、練習態度、レポート提出

評価基準**評価基準**

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席			○	
授業態度		○	○	○
レポート提出	○	○	○	

評価割合	出席・練習態度・レポートにより総合評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	教員が随時、資料を配付する。
ディプロマポリシーとの関連	【技能・表現】 福祉セラピーに活用するための音楽技術を習得する。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	協力して音楽を作り上げる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	プレイセラピーⅡ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

グループプレイセラピーの定義、プレイセラピーの理論的根拠、グループプレイセラピーの有効性、グループプレイセラピーの目的、グループプレイセラピーの役割、証拠に裏付けられた実践的研究の重要性について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グループプレイセラピーを理解すること。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	グループプレイセラピーの定義	プレイセラピーは子ども(あるいはどんな年齢の人でも)とセラピストとの生きた内面的な人間関係と規定される。すなわち、セラピストはプレイセラピーの手順をよく心得ていて、洗練されたプレイの数々を供給することができる。人間関係は多分心理療法で最も治療能力がある要素である。グループプレイセラピーでは、セラピストとクライアント関係のほかに、多重な人間関係にその固有の特徴がある。	グループワークについて調査すること。またプレイセラピーについて調査すること。	30
第2回	安全性の確保	クライアントは安全に感じないところでは成長しないことを学ぶ。	人間関係における安全性とは何かを調査すること。	30
第3回	プレイセラピーの理論的根拠	プレイは子どものコミュニケーションの自然な手段であることを学ぶ。	子どものたちのコミュニケーションについてその事例を調査する。	30
第4回	クライアントのために必要な治療的距離	プレイセラピーが作り出す治療的距離はクライアントの安全な場所を確保する。	心理的な距離とは何かを調査すること。	30
第5回	プレイセラピーの限界設定	境界や限界は治療関係を規定し人間関係をも規定することを学ぶ。	制限がない世界について調査すること。	30
第6回				60

	グループプレイセラピーの有効性	グループプレイセラピーは子どもたちや思春期の若者、そして大人にまで有効であることを学ぶ。	なぜグループプレイセラピーが子どもたちだけではなく、若者や大人に有効か調査すること。	
第7回	身代わりの学習	クライアントは他のグループメンバーの情緒的な表現や行動に気がつき、そして行動をコピーしたり、問題解決の技能を学んだり、自分を表現するための代替手段を身につけることができる。	自分自身が経験したと思われる「身代わりの学習」について報告する準備をすること。	30
第8回	グループプレイセラピーの特徴	クライアントは他のグループメンバーがいろいろな活動にかかわることを眺めることによって、はじめは用心深くあるいは心配になるが、やがて調べようとする勇気を持つようになることを学ぶ。	チームプレイやグループワークにおける責任を自覚すること。	30
第9回	クライアントの自己成長 (self-growth) と自己探求 (self-exploration)	クライアントはグループセラピーによって自己成長 (self-growth) と自己探求 (self-exploration) のチャンスを経験する。	人間の自己成長とは何かを調査すること。	30
第10回	クライアントと家族の帰属意識の変化	グループプレイセラピーが社会の明確な縮図として提供されるなら、セラピストはクライアントの日常生活の実態をとらえるチャンスとなる。この「実生活」(“real life”)は、家族や教員、そしてかかわりのある人々にも重要なものとなる。	人間の基本的な欲求として「帰属」への欲求が重要であることを調査すること。	30
第11回	グループプレイセラピーの到達目的	治療効果がある人間関係を構築すること・感情浄化を生じさせること・分析し見抜くこと (insight)・現実を吟味するためのチャンスを増大させること・理想化のための経路を開くことなどが到達目的である。	治療は一般には何を目的になされるのであろうか。それを調査すること。	30
第12回	グループセラピーが促進すべきこと	1. 治療効果のある人間関係を構築すること。 2. 情緒を表現すること。 3. 分析し見抜く能力を伸ばすこと。 4. 現実を吟味するチャンスを与えること。 5. 感情や欲求をさらに容易に表現すること。	グループプレイセラピーが危険性を持つのはどのようなときか調査すること。	30
第13回	グループセラピストたちの共通理解	自分自身と他人を信頼することを学ぶこと。認識と自己知識を増やして、他人の個性的な自我意識の感覚を身につけること。メンバーの欲求や問題点を認識し、普遍性の感覚を身につけること。自分を受け入れ、自分を信用し、自分を尊重すること、そして自分や他人の新しい意見を取得することなどである。	自分自身と他人を信頼するというような経験を報告できるよう準備すること。	30
第14回	グループプレイセラピストの役割	最も重要なことは、セラピストの実践における信念であり、グループメンバーに対してこの信念を持ってお互いに話し合うことである。(1) セラピストはパートナーであり元気づける者である。(2) セラピストは活動的で、どちらかといえば指示をよく出す刑事役である。(3) セラピストは仲間であると同時に教育者である。(4) セラピストは現役の教師であり元気づける者である。	グループプレイセラピストの役割について事前調査すること。	30
第15回	証拠に裏付けられた実践的研究の重要性	証拠にもとづいた実践的研究は、性格や文化、そして好みといった環境での臨床的専門知識を最も有効に統合活用するものであるが、ある母集団で適応された介入の仕方を別の集団にも当てはめてしまうことは誤用の危険性が高い。	グループの特徴をとらえ、介入の仕方や適応については十分吟味されなければならないことを知る。	30
第16回	自己確認	1～15回の講義のポイントを把握すること。	ポイントを把握し記憶すること。	180

学習計画注記

各授業は、関連事項の導入、あるいは削除などで統合するか、分離する場合がある。

学生へのフィードバック方法

授業中での報告や発表、定期試験による。

評価方法

平常点50% (目標達成度・質疑応答・授業の理解など) テスト50%で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

平常点50% (目標達成度・質疑応答・授業の理解など) テスト50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配布する。
参考図書	Group Play Therapy, A Dynamic Approach, Daniel S. Sweeny, Jennifer N. Baggerly, and Dee G. Ray, New York, 2014
ディプロマポリシーとの関連	社会福祉の一方法としてグループプレイセラピーを理解し、その有効性を知識として持つことは重要であり、社会貢献の可能性を広めること。
オフィスアワー	金曜 4 限
学生へのメッセージ	グループ遊戯療法の基本を理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表や報告によること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉セラピー専門演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川人 紫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>「福祉セラピー専門演習 1」で学ぶセラピーとは、現代西洋医学だけでは解決できない人の心と身体の問題を、植物など自然の力を利用することによって解決するためのケアの方法である。</p> <p>具体的には、植物の香りを嗅覚から取り入れることにより心身を健やかに保つ「アロマセラピー（芳香療法）」、ハーブや薬用植物を用いて植物の有効成分を体内に取り入れる「フィトセラピー（植物療法）」、庭に佇むことにより五感を活性化させる「ガーデンセラピー（庭園療法）」などがあげられる。</p> <p>授業では、各セラピーの理論から実践まで広く学ぶことにより、知識、技術と徳性を兼ね備えた福祉セラピストとしての資質を養うことを目的とする。</p>																							
履修条件	特になし																							
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）																							
	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>現代の福祉領域におけるセラピーの必要性を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>福祉領域で役立つセラピーを類別できる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </table>				知識・理解の観点 (K)	現代の福祉領域におけるセラピーの必要性を説明できる。	思考・判断の観点 (K)	福祉領域で役立つセラピーを類別できる。	関心・意欲・態度の観点 (V)		技術・表現の観点 (A)													
知識・理解の観点 (K)	現代の福祉領域におけるセラピーの必要性を説明できる。																							
思考・判断の観点 (K)	福祉領域で役立つセラピーを類別できる。																							
関心・意欲・態度の観点 (V)																								
技術・表現の観点 (A)																								
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>福祉セラピーの定義と種類</td> <td>福祉セラピーとは何か？必要とされる時代背景及び福祉領域で応用することができるセラピーの種類について学ぶ。</td> <td>配布されたレジュメを読み直し、復習すること。</td> <td>120分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>アロマセラピーの定義、作用メカニズム</td> <td>植物の香りを使って心身の調子を整えるアロマセラピー（芳香療法）の定義と作用メカニズムについて学ぶ。</td> <td>配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。</td> <td>120分</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>アロマセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)</td> <td>すでにアロマセラピーは医療や福祉領域において導入されているが、その実践例や臨床事例について学会発表や論文発表を元にエビデンスを検証する。</td> <td>配布されたレジュメを読み直し、復習する。</td> <td>120分</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	福祉セラピーの定義と種類	福祉セラピーとは何か？必要とされる時代背景及び福祉領域で応用することができるセラピーの種類について学ぶ。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分	第2回	アロマセラピーの定義、作用メカニズム	植物の香りを使って心身の調子を整えるアロマセラピー（芳香療法）の定義と作用メカニズムについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分	第3回	アロマセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)	すでにアロマセラピーは医療や福祉領域において導入されているが、その実践例や臨床事例について学会発表や論文発表を元にエビデンスを検証する。	配布されたレジュメを読み直し、復習する。	120分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)																				
第1回	福祉セラピーの定義と種類	福祉セラピーとは何か？必要とされる時代背景及び福祉領域で応用することができるセラピーの種類について学ぶ。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分																				
第2回	アロマセラピーの定義、作用メカニズム	植物の香りを使って心身の調子を整えるアロマセラピー（芳香療法）の定義と作用メカニズムについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分																				
第3回	アロマセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)	すでにアロマセラピーは医療や福祉領域において導入されているが、その実践例や臨床事例について学会発表や論文発表を元にエビデンスを検証する。	配布されたレジュメを読み直し、復習する。	120分																				

第4回	福祉領域で行うアロマセラピーの方法1	特に福祉領域でアロマセラピーがどのように応用されているのか、またどのような効果をもたらすのかについて学ぶ。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分
第5回	福祉領域で行うアロマセラピーの方法2	実際アロマセラピーを体験し、どのように福祉領域で役立つのかについて実証、検討する。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分
第6回	フィットセラピーの定義、作用メカニズム	植物を利用して心身の調子を整えるフィットセラピー（植物療法）の定義、作用メカニズムについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第7回	フィットセラピーの福祉領域におけるエビデンス（科学的根拠）	すでにフィットセラピーは医療や福祉領域において導入されているが、その実践例や臨床事例について学会発表や論文発表を元にエビデンスを検証する。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分
第8回	福祉領域で行うフィットセラピーの方法1	特に福祉領域でフィットセラピーがどのように応用されているのか、またどのような効果をもたらすのかについて学ぶ。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分
第9回	福祉領域で行うフィットセラピーの方法2	実際フィットセラピーを体験し、どのように福祉領域で役立つのかについて実証、検討する。	配布されたレジュメを読み直し、復習すること。	120分
第10回	ガーデンセラピーの定義、作用メカニズム	庭園に滞在することで五感を刺激し、心身の調子を整えるガーデンセラピー（庭園療法）の定義、作用メカニズムについて学ぶ。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第11回	ガーデンセラピーの福祉領域におけるエビデンス（科学的根拠）	すでにガーデンセラピーは医療や福祉領域において導入されているが、その実践例や臨床事例について学会発表や論文発表を元にエビデンスを検証する。	配布されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第12回	福祉領域で行うガーデンセラピーの方法	特に福祉領域でガーデンセラピーがどのように応用されているのか、またどのような効果をもたらすのかについて学ぶ。	配付されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分
第13回	福祉領域で行うガーデンセラピーの方法2	特に福祉領域でガーデンセラピーがどのように応用されているのか、またどのような効果をもたらすのかについて学ぶ。	配付されたレジュメを読み直し、復習すること。また近くのガーデンを訪問しそのセラピー効果について体感すること。	120分
第14回	その他のセラピー	これまで学習したセラピーの他に、福祉領域で役立つであろうセラピーについて学習する。	配付されたレジュメを再度読み直し、復習する。	120分
第15回	まとめ	これまで学習したセラピーについて、それぞれの効能を再度確認する。さらに複数のセラピーを組み合わせることによる相乗効果についても検討する。	配付されたレジュメを再度読み直し、復習すること。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	実施した小レポートは、採点して、次週の授業にて返却する。小レポートの模範解答は掲示するので、質問等は次回講義時に受け付ける。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小レポートは3~4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。 ・定期試験は行わない。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
評価割合	授業中の小レポート（80%） 平常点（20%）			

使用教科書名 (ISBN番号)	レジュメを配布	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な生活(福祉)の問題が惹起されている現代社会のありようを理解する上で必要なセラピーの存在について知識と理解を深める。</p> <p>【思考・判断】現代社会の問題に対して、痛みをもって関心をもち、セラピーを活用して、その軽減や解消を図ろうとする視点が持てる。</p>	
オフィスアワー	水曜日3時限	
学生へのメッセージ	実習内容について、可能な限り自宅や学内で復習をすることで、自身でセラピーの必要性を体感することができる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は、25年に渡りアロマセラピーやフィットセラピーの研究及び事業に従事してきた。その経験をふまえた、実務的な講義を展開している。
アクティブ・ラーニング	○	知識のみならず実際様々なセラピーの実習を通じて、実践的なスキルを身につけることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉セラピー専門演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深野 広美	指定なし

授業概要(教育目的)	福祉セラピー専門演習Ⅱでは、今まで修得した技術を用い実際に施設訪問をして音楽を用いた活動を実施する。そのため学内でプログラムの作成、準備練習を行った後、ボランティア演奏を実施する。
履修条件	音楽セラピーⅠ及びⅡを履修済みのこと
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	対象者の身体的・精神的状態を理解する。
思考・判断の観点 (K)	音楽提供による変化を感じ取る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	対象者に寄り添うということを理解し、実践する。
技術・表現の観点 (A)	音楽提供したことにより対象者の表出を見聞きし、必要に応じた対応をする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の概要と説明、今後の計画	特になし	
第2回	声を使う音楽の練習	ボランティア演奏を想定した歌唱練習	特になし	
第3回	楽器を使う音楽の練習	ボランティア演奏を想定した楽器練習	特になし	
第4回	身体を使う音楽の練習	ボランティア演奏を想定した身体運動の作成・練習	特になし	
第5回	プログラムの作成	ボランティア演奏を想定したプログラムの作成	特になし	
第6回	プログラムの準備・練習	ボランティア演奏を想定したプログラムの準備・練習	特になし	
第7回	プログラムの準備・練習	ボランティア演奏を想定したプログラムの準備・練習	特になし	

第8回	プログラムの準備・練習	ボランティア演奏を想定したプログラムの準備・練習	特になし	
第9回	プログラムの練習	ボランティア演奏を想定した練習	特になし	
第10回	プログラムの練習	ボランティア演奏を想定した練習	特になし	
第11回	プログラムの練習	ボランティア演奏を想定した練習	特になし	
第12回	訪問ボランティア演奏	施設入所者への音楽活動の提供	特になし	90分
第13回	訪問ボランティア演奏	施設入所者への音楽活動の提供	特になし	90分
第14回	訪問ボランティア演奏	施設入所者への音楽活動の提供	特になし	90分
第15回	フィードバック及びまとめのレポート	フィードバック及びまとめのレポート	特になし	

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
---------------	--------------------------------------

学生へのフィードバック方法	演習形態の授業になるので、不明な点、困難な点は授業時間内でのやりとりで解決する。
----------------------	------------------------------------------

評価方法	プログラムの作成・準備・練習 訪問ボランティアに出席し、活動をする。 またその結果からのレポートを提出する。
-------------	--------------------------------------------------------------

評価基準	
-------------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プログラムの作成・準備・練習	○	○	○	○
訪問ボランティア演奏	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	プログラムの作成・準備・練習 (40%)、訪問ボランティア演奏 (30%)、レポート (30%)
-------------	--------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	教員が随時、資料を配付する
------------------------	---------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 高齢者福祉施設入所者の現実を理解する 【技術・表現】 施設入所者のニーズに対応した音楽を提供する
----------------------	-----------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	なし
----------------	----

学生へのメッセージ	学内での準備はグループで協力すること。 訪問施設では真摯な態度で対象者に向かうこと。
------------------	-----------------------------------------------

教育等の取組み状況	
------------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会福祉経営学Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	前田 卓也	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>本講義では、福祉経営を経営者の視点からより実践的に理解をすることを目標とする。福祉に限らず、経営は組織の大きさや状態、環境により大きく左右される。そして、その時取るべき戦略・戦術はそれぞれ異なり、その選択を誤れば、組織の存続を左右する事態にもなりかねる。また、その選択はどのような組織であろうと必ず訪れる事態でもある。では、そのような時、どのような戦略・戦術を取れば良いのだろうか。それを考えるには、どのような知識が必要なのだろうか。</p> <p>ここでは、参加者を経営者と想定し、幾つかのパターンの組織を運営するシミュレーションすることで、学びを深めていく。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特に指定なし
------	--------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	福祉領域で経営を行うための基礎学力を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	福祉領域を経営の視点から考察し、福祉経営に求められる思考・判断方法を理解することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な授業参加が望ましく、自らの考え方やそこに至ったプロセスを言語化できる。
技術・表現の観点 (A)	大きく技術は求めない者の、ディベート時等は相手への配慮を持った発言を求める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉サービス提供組織の特徴と構造	福祉サービスとその他のサービスの相違を考える。サービス業とは何かを身近な問題から理解する。例えばコンビニエンスストアやファミレスでのサービス比較して福祉サービスの特性を検討する	サービス業とは何かをコンビニを例にとって考えてみる。例えばおにぎりが欲しくてコンビニに寄ったを起点におにぎりを渡させるまでのプロセスを描いてみよう	90分
第2回	福祉サービス提供組織の特徴と構造	福祉サービスとその他のサービスの相違を考える。サービス業とは何かを身近な問題から理解する。例えばコンビニエンスストアやファミレスでのサービス比較して福祉サービスの特性を検討する	サービス業とは何かをコンビニを例にとって考えてみる。例えばおにぎりが欲しくてコンビニに寄ったを起点におにぎりを渡させるまでのプロセスを描いてみよう	90分
第3回				90分

	弱者の戦略と組織マネジメント	経営における「弱者とはなにか」を考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	
第4回	弱者の戦略と組織マネジメント	経営における「弱者とはなにか」を考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第5回	弱者の戦略事例検討	経営における「弱者とはなにか」を考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第6回	弱者の戦略事例検討	経営における「弱者とはなにか」を考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第7回	強者の戦略と組織マネジメント	経営における強者とはなにかを考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第8回	強者の戦略と組織マネジメント	経営における強者とはなにかを考える。弱者が弱者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第9回	強者の戦略事例検討	経営における「強者とはなにか」を考える。強者が弱強者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第10回	強者の戦略事例検討	経営における「強者とはなにか」を考える。強者が弱強者としてのマネジメントの特性を検討する。	経営の三要素「ヒト」「モノ」「カネ」についてインターネットから考えておくこと	90分
第11回	経営組織における意思決定	組織はどのように意思決定するのか？ボトムアップとじゃ何か。トップダウンとは何か。どのような時に方法としてのボトムアップがいき、トップダウンが必要かを考えてみる	トップダウンとボトムアップの意味をインターネットで調べておく	90分
第12回	経営組織における意思決定	組織はどのように意思決定するのか？ボトムアップとじゃ何か。トップダウンとは何か。どのような時に方法としてのボトムアップがいき、トップダウンが必要かを考えてみる	トップダウンとボトムアップの意味をインターネットで調べておく	90分
第13回	社会福祉を営む意義	経営組織体として社会福祉法人。営利法人やその他の非営利法人とは何がどのように違うのか	営利法人と非営利法人について調べておく	90分
第14回	社会福祉を営む意義	経営組織体として社会福祉法人。営利法人やその他の非営利法人とは何がどのように違うのか	営利法人と非営利法人について調べておく	90分
第15回	社会福祉を営む意義	経営組織体として社会福祉法人。営利法人やその他の非営利法人とは何がどのように違うのか	営利法人と非営利法人について調べておく	90分
学習計画注記		授業進度や学生の状況を踏まえ修正することもある。		
学生へのフィードバック方法		理論的基礎学力を身に着けたうえで、アクティブラーニングによる学習を15回の講義で行う。		
評価方法		出席、授業態度、レポートから総合的に判断をする。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席			○	
授業態度		○		○
レポート	○			
評価割合	・出席・授業態度(70%) ・レポート(30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定なし。			
参考図書	都度指示します。			
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点 (K) 福祉領域で経営を行うための基礎学力を身につけることができる。			

		思考・判断の観点 (K) 福祉領域を経営の視点から考察し、福祉経営に求められる思考・判断方法を理解することができる。
オフィスアワー		人間福祉学科長に連絡してください
学生へのメッセージ		今日、福祉の仕事をするうえで、経営の視点は避けて通れないものとなってきています。 特にソーシャルワーカーには、その傾向が強いと感じています。 社会に羽ばたく前の準備として、耳慣れない福祉経営という言葉をやっくりと慣れた言葉に変えていきましょう。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は現在も社会福祉法人の特養で相談員として勤務しており、生の現場の息吹をわかりやすく伝えたい
アクティブ・ラーニング		一方的な授業ではなく、いつでも学生とのコミュニケーションを行いながら授業を進める
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会福祉情報演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

授業概要(教育目的)	基本的な資料とデータの分析に関して演習する。公的統計や社会福祉の簡単な文章や情報が読めるための基本的知識に関して学ぶ。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、表・グラフの読み方、また、表計算ソフトウェアを活用してそれらの計算や作成のしかたを演習する。さまざまな質的データの読み方も演習する。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別なども学ぶ。
履修条件	表計算に関する基礎の基礎は理解していること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	公的統計や社会福祉の簡単な文章や情報が読める。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の問題について、データを分析して構造的にとらえようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が統計の授業を履修した場合は、どの程度理解したか振り返る。	USBメモリを用意すること	45
第2回	質的データの読み方と基本的なまとめ方	質的調査について学習し、質的データの原材料やその読み方とまとめ方について理解する。	質的データの読み方とまとめ方について復習すること	45
第3回	記述統計データ(単純集計)の読み方や計算のしかた	学修者が質的調査を理解し、単純集計の技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	単純集計について復習すること	45
第4回	記述統計データ(度数分布)の読み方や作成のしかた	学修者が度数分布の読み方を理解し、それを作成する技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	度数分布について復習すること	45

第5回	主要な記述統計量（代表値：平均）	平均を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	平均について復習すること	45
第6回	主要な記述統計量（代表値：中央値）	中央値と最頻値を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	中央値と最頻値について復習すること	45
第7回	主要な記述統計量（散布度：分散）	学修者が偏差と分散について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	偏差と分散について復習すること	45
第8回	主要な記述統計量（散布度：標準偏差）	標準偏差を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	標準偏差について復習すること	45
第9回	クロス集計	クロス集計について学習し、それを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	クロス集計について復習すること	45
第10回	連関係数	学修者が連関係数について理解する。演習結果を提出する。	連関係数について復習すること	45
第11回	基礎的統計概念（相関係数）	学修者が尺度と相関について理解し、相関係数の計算や回帰分析の練習をする。演習結果を提出する。	相関係数と回帰分析について復習すること	45
第12回	因果関係と相関関係	学修者が因果関係と相関関係の違いを理解する。演習結果を提出する。	因果関係と相関関係の違いについて復習すること	45
第13回	疑似相関	学修者が疑似相関を理解する。演習結果を提出する。	疑似相関について復習すること	45
第14回	統計資料の整理（既存統計資料の収集）	学修者が能動的に既存統計資料を収集する練習をする。演習結果を提出する。	統計資料の収集について復習すること	45
第15回	統計資料の整理（既存統計資料の読み方）	学修者が既存統計資料の読み方を学習する。演習結果を提出する。	統計資料の読み方について復習すること	45

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する。 定期試験は 25 点満点で出題し、実技に基づく。また、基本的な理解度を確認する。 平常点、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
提出物	○			
定期試験	○			
評価割合	平常点 (5%)、提出物 (70%)、定期試験 (25%) などを総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会のありようを客観的に受け止めることができる。 【関心・意欲・態度】社会の問題を構造的にとらえる力がある。			
オフィスアワー	金曜3限 1411研究室			
学生へのメッセージ	必ず授業の復習をすること。			
教育等の取組み状況				

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、データを分析する能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	実践英会話Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	The goal of this course is to further improve fluency in Spoken English for students majoring in Social Welfare
履修条件	None
学習目標(到達目標)	

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will further their understanding of Basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Student will become active learners and find that English is enjoyable and that they desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions	Talk about where you are from / Summer Vacation	Please read each week's handout before class. Handouts will be provided in class each week. Weekly quiz questions will come directly from the weekly handouts.	
第2回	Away from School	Circles and clubs / Shopping	Read handout	60
第3回	What We Can See	What We Can See	Read handout	60
第4回	The Past and the Future	How was yesterday? / Looking forward to...	Read handout	60
第5回	Popular Culture	Favorite movies and music / What's important for you to be happy?	Read handout	60
第6回	Campus Life	This university / Who is your best friend?	Read handout	60
第7回	Free Time		Read handout	60

		What sports are you good at? / Are you shy or outgoing?		
第8回	Home Life	Last night's dinner / A famous person	Read handout	60
第9回	Coffee Shops	How often do you drink coffee? / Is this class interesting?	Read handout	60
第10回	Smartphone Games	What smartphone game do you play? / Do you study hard?	Read handout	60
第11回	Wildlife	What's your favorite zoo animal? / Do you have plans for the coming holidays?	Read handout	60
第12回	In Japan	A visit to Kyoto / What is the most expensive thing you bought this year?	Read handout	60
第13回	Money	How much money do you save? / Do you have plans for spring vacation?	Read handout	60
第14回	Practice for Speaking Test	Practice with a partner for the final speaking test. No notes or books during the test.	Read all handouts	120
第15回	Speaking Test	Five minute natural English conversation speaking test with a partner.	Read all handouts	120

学習計画注記

※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

Students receive weekly quiz scores, feedback from weekly in-class writing, and from speaking with the teacher.

評価方法

Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the handouts as assigned, you'll do well on the weekly quizzes. You can also earn points from in-class weekly writing topics. Write a lot about yourself and what you like to do, as well as your ideas, and you can earn many points. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合

Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Speaking Test 10%

使用教科書名 (ISBN番号)

None

参考図書

A Japanese - English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連

The ability to engage in English conversation on a variety of topics.

オフィスアワー

Wednesday, Machida Campus, 9-10.

学生へのメッセージ

Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	人間福祉学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

この授業は、ビジネスの手法を活用した社会貢献型企業活動を学ぶ。ソーシャルビジネスとは、ビジネスを手段として社会問題を解決しようとする取り組みのことです。言い換えると、収益事業を行いながら社会貢献に取り組むこととも言えます。そして、その主体となる事業体(組織)を「社会的企業」、「ソーシャルベンチャー」、「ソーシャルエンタープライズ」と呼びます。また、ソーシャルビジネスに挑戦する起業家のことを「社会起業家」と呼びます。

2007年に発足された、経済産業省のソーシャルビジネス研究会によると、ソーシャルビジネスの定義は以下の3点を満たすこととされています。

- ・解決が求められる社会的課題に取り組むこと
- ・ビジネスとして、継続的に事業活動を進めていくこと
- ・新しい仕組みを開発・活用し、新しい社会的価値を創出すること

すなわち、社会問題への取り組みを「ビジネス」という手段で行い、それを通して新たな社会的価値を創出すること、それが「ソーシャルビジネス」なのです。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ソーシャルビジネスの社会的意義を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	ソーシャルビジネスの対象分野に関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	ソーシャルビジネスを展開してみる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係	なぜソーシャルなビジネスか? ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分

	ではないのか			
第2回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第3回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第4回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第5回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第6回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第7回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第8回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第9回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第10回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第11回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第12回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第13回	フィールドワークをまとめてみよう	実践現場で学んだことをまとめてみよう その際に自分が明らかにしたい「先行研究」もみてみよう	発表ができるようにまとめる	240分
第14回	フィールドワークをまとめてみよう	実践現場で学んだことをまとめてみよう その際に自分が明らかにしたい「先行研究」もみてみよう	発表ができるようにまとめる	240分
第15回	発表してみよう	自分が作り上げた現場でのフィールドワークを踏まえた「研究論文」を発表する	プレゼントするので準備する	120分
学習計画注記		特になし		
学生へのフィードバック方法		レポートへのコメント		
評価方法		レポート		
評価基準				
評価基準				

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○		○	○
評価割合		レポート；100%		
使用教科書名 (ISBN番号)		なし		
参考図書		都度紹介		
ディプロマポリシーとの関連		社会福祉の実践的側面に着目し展開する		
オフィスアワー		月曜日3時限		
学生へのメッセージ		起業に関心をもって受講してください		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	NPO法人の代表者の経験がある担当教員は、できるだけ現在展開する「外国人介護福祉士育成事業」の実践事例を提供し授業を行う		
アクティブ・ラーニング	○	自らが課題設定しインターネットや図書館で情報収集をし、それを教員と共有する		
情報リテラシー教育				
IGT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地域包括ケアマネジメント		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし
非常勤講師	人間福祉学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	地域包括ケアが求められる背景、地域包括ケアの構成要素、担い手、システムづくり、地域の現状把握と課題の抽出について講義した上で、先進的に取り組まれた実践事例について紹介する。また、学生自らが住んでいる地域における地域包括ケアについて調査・検討することで、理解を深める授業を行う
履修条件	高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	地域包括ケアが求められる背景、地域包括ケアの構成要素、担い手、システムづくり、地域の現状把握と課題の抽出について説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域の特性に応じた地域包括ケアがイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域特性を有したさまざまな地域への関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	地域包括ケアの必要性	地域包括ケアが求められる背景について理解する	テキスト24～43ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	地域包括ケアの構成要素(1)	構成要素である「本人・家族の選択と心構え」、「住まいと住い方」について理解する	テキスト10～11ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	地域包括ケアの構成要素(2)	構成要素である「生活支援・福祉サービス」、「医療・看護・介護・リハビリテーション、保健・予防」について理解する	前回の授業内容と官界の授業内容を復習しておく	180分
第4回	地域包括ケアの担い手(1)	自助・互助・共助・公助の内容や役割について理解する	テキスト12～13ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	240分
第5回		市町村における地域包括ケアシステムの構築プロセスについて理解する		180分

	地域包括ケアのシステムづくり		テキスト14～15ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	
第6回	地域の現状把握と課題(1)	日常生活圏におけるニーズとそこに住んでいる高齢者のニーズを調査から明らかにしていくプロセスを理解する	テキスト16～17ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第7回	地域の現状把握と課題(2)	ニーズ調査から明らかとなった日常生活圏と高齢者の課題抽出と、目標設定が理解する	テキスト18～19ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第8回	地域包括ケアの実践事例(1)	神奈川県Y市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト46～53ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第9回	地域包括ケアの実践事例(2)	千葉県M市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト54～61ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第10回	地域包括ケアの実践事例(3)	大阪府T市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト70～79ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第11回	地域包括ケアの実践事例(4)	和歌山県N郡S町における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト90～97ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第12回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(1)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムについて、自治体関係資料、ホームページを活用し、把握する	収集した情報を整理する	300分
第13回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(2)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムを詳細に把握するために、市役所を訪問し、情報収集を行う。これにより、自ら住んでいる自治体における現状を把握する	収集した情報を整理する	240分
第14回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(3)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムの調査結果をプレゼンテーションし、意見交換を行うことで地域の特性に応じたさまざまなシステムを共有する	プレゼンテーションされた資料を基に、さまざまな地域包括ケアシステムについて復習する	180分
第15回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(4)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムの調査結果をプレゼンテーションし、意見交換を行うことで地域の特性に応じたさまざまなシステムを共有する	プレゼンテーションされた資料を基に、さまざまな地域包括ケアシステムについて復習する	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある
学生へのフィードバック方法	関係資料の収集やフィールドワークから得られた各地域包括ケアシステム内容については、評価した上で返却する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 授業に対する態度・姿勢、グループ討議への参加度から評価する ・フィールドワーク 課題に対してどのような役割を担ったかについて評価する ・定期試験 地域包括ケアシステムの基本的事項について出題する
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点20%、フィールドワーク40%、定期試験40%
使用教科書名 (ISBN番号)	田中滋監修『地域包括ケアサクセスガイド』メディカ出版 (ISBN978-4-8404-4966-3)
参考図書	二木立著『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房 (ISBN978-4-326-70098-1)
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 高齢化が進展している社会状況の中で、高齢者を取り巻くさまざまな福祉課題が惹起されている。そのような福祉課題を謙虚に受け止め、対応していく知識が修得できる</p>

		<p>【思考・判断】 高齢者を取り巻くさまざまな福祉課題に関心を持ち、各種社会福祉制度やソーシャルワークを活用して、福祉課題の軽減や解決を図っていく視点が持てる</p> <p>【関心・意欲・態度】 さまざまな福祉課題を複眼的かつ構造的に捉えることができ、また、福祉課題が「人と状況の相互作用」で生成されることが理解できる</p>
オフィスアワー		火曜3限、木曜2限
学生へのメッセージ		新聞等により、高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、実践的な地域包括ケアシステムを構築していくために必要となる知識や手法について講義している
アクティブ・ラーニング	○	地域の包括ケアシステムに関する情報を収集するために、文献（関係資料）とインターネットを活用している
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉ビジネス専門演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	前田 卓也	指定なし

授業概要(教育目的)	福祉とビジネスという、時に相反する概念に対し、本講義では社会福祉学はもとより、隣接諸科学の知恵を参考にして学びを深めていきます。とりわけ、福祉ビジネスは従来のビジネスモデルをベースに考えを深めることが少なくありません。本講義では、基本的なビジネスモデルを学び、そのうえで福祉をビジネスとして捉えたいと考えています。特に、事例を複数用意し、それを丁寧に振り返ることで、実際に起きている事象を適切に捉え、福祉ビジネスへの理解を深めていきます。講
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

特に指定なし。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	福祉とビジネスの関係ならびに福祉をビジネスとして捉える視点を理解する。
思考・判断の観点 (K)	福祉をビジネスとして捉え、実践を行うまでの思考を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業への積極的な参加、ならびに考える過程を重視する。
技術・表現の観点 (A)	授業内に積極的に参加する姿勢を求めるものの、秀でた技術を求めることはない。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉とビジネスについて	福祉とビジネス。違和感を覚える学生もいるだろう。福祉はそもそも「ビジネス」なのか>福祉は本来、ビジネスでは対応できない「公共財」ではなかったのか。少し考えてみる。	公共財として福祉サービスを調べておくこと、ついでに国鉄がJRに電電公社がドコモに変容した理由をおさえておくこと	45分
第2回	福祉とビジネスについて	福祉とビジネス。違和感を覚える学生もいるだろう。福祉はそもそも「ビジネス」なのか>福祉は本来、ビジネスでは対応できない「公共財」ではなかったのか。少し考えてみる。	公共財として福祉サービスを調べておくこと、ついでに国鉄がJRに電電公社がドコモに変容した理由をおさえておくこと	45分
第3回	戦略とは何か/状況に応じた戦略の使い方	経営では「戦略」と「戦術」が重要だ。では戦略とは何か。例えば、利益率を上げるためには、「収入を増やすか」「支出を減らすか」の二択である。ではどのような閃略を構築するか>	戦略と戦術の意味を調べておく	45分

第4回	戦略とは何か/状況に応じた戦略の使い方	経営では「戦略」と「戦術」が重要だ。では戦略とは何か。例えば、利益率を上げるためには、「収入を増やすか」「支出を減らすか」の二択である。ではどのような閃絡を構築するか>	戦略と戦術の意味を調べておく	45分
第5回	ビジネスモデルの理論	ビジネスモデルということはメディアで使われる。要は収益を得るため、どのようなひな形を創造するかである。多様なビジネスモデルを提示し学生にもビジネスモデル	ビジネスモデルの意味を理解しておく	45分
第6回	ビジネスモデルの理論	ビジネスモデルということはメディアで使われる。要は収益を得るため、どのようなひな形を創造するかである。多様なビジネスモデルを提示し学生にもビジネスモデル	ビジネスモデルの意味を理解しておく	45分
第7回	事例1…戦略思考のビジネスモデル(ビジネス感覚を養う)	ビジネスモデルということはメディアで使われる。要は収益を得るため、どのようなひな形を創造するかである。多様なビジネスモデルを提示し学生にもビジネスモデル	ビジネスモデルの意味を理解しておく	45分
第8回	事例1…戦略思考のビジネスモデル(ビジネス感覚を養う)	ビジネスモデルということはメディアで使われる。要は収益を得るため、どのようなひな形を創造するかである。多様なビジネスモデルを提示し学生にもビジネスモデル	ビジネスモデルの意味を理解しておく	45分
第9回	事例2…社会福祉法人のビジネスモデル	社会福祉法人は社会福祉法に定められた非営利法人である。多様な経営主体が「社会福祉分野」に展開するなかで「社会福祉法人」ができるまたはしかできない事業展開とは何か	社会福祉法人を調べておく	45分
第10回	事例2…社会福祉法人のビジネスモデル	社会福祉法人は社会福祉法に定められた非営利法人である。多様な経営主体が「社会福祉分野」に展開するなかで「社会福祉法人」ができるまたはしかできない事業展開とは何か	社会福祉法人を調べておく	45分
第11回	事例3…NPO法人のビジネスモデル	NPO法人はNPO法に定められた非営利法人である。多様な経営主体が「社会福祉分野」に展開するなかで「NPO社法人」ができるまたはしかできない事業展開とは何か	NPO法人を調べておく	45分
第12回	事例3…NPO法人のビジネスモデル	NPO法人はNPO法に定められた非営利法人である。多様な経営主体が「社会福祉分野」に展開するなかで「NPO社法人」ができるまたはしかできない事業展開とは何か	NPO法人を調べておく	45分
第13回	あなたが考える福祉ビジネスについて	さて、私は福祉ビジネスをどう考えるか?皆で語ってみよう	授業をまとめておくこと	45分
第14回	あなたが考える福祉ビジネスについて	さて、私は福祉ビジネスをどう考えるか?皆で語ってみよう	授業をまとめておくこと	45分
第15回	あなたが考える福祉ビジネスについて	さて、私は福祉ビジネスをどう考えるか?皆で語ってみよう	授業をまとめておくこと	45分

学生へのフィードバック方法		講義・演習・ケースメソッド		
評価方法	授業の参加(20%) 参加態度(20%) 期末レポート(60%)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加			○	○
参加態度	○	○	○	○
期末レポート	○	○	○	○

評価割合	授業の参加 (20%) 参加態度 (20%) 期末レポート (60%)	
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点 (K) 福祉ビジネスには福祉の知識はもちろんのこと、経済学や経営学等隣接諸科学の基礎知識が求められる。それらを包摂した知識を備えている。 思考・判断の観点 (K) 福祉ビジネスの展開で出会う様々な場面に応じた思考方法、判断能力を備えている。	
学生へのメッセージ	福祉ビジネスは耳慣れない言葉かもしれませんが、しかし、社会に出ると、それはとても身近なものとして私たちのところへ寄ってきます。ゆっくり授業を進めていきたいと考えていますので、頭を柔軟に使い、積極的に考える場所として本講義を活用して頂けたら幸いです。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師の経験ならびにかかわりを持つ団体を事例として取り上げ、福祉がビジネスとして成り立つ過程を丁寧に考察する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	福祉ビジネス専門演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	前田 卓也	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>本講義では、福祉ビジネスを展開するうえで欠かすことのできない組織に着目して学びを深めます。</p> <p>福祉ビジネスを展開する時、そこには必ずビジョンや理念が存在します。そして、ビジョンや理念は一人では達成することが難しいことが少なくありません。その時、組織の存在が強く求められます。</p> <p>では、福祉ビジネスを展開する組織とはどのような特徴があるのでしょうか。また、そこに携わる人々にはどのような能力が求められるのでしょうか。</p> <p>本講義はこれらの理解を深め、皆さんが将来福祉ビジネスを展開するための展望を描く一助としていきたいと考えています。</p>
履修条件	特に指定なし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	福祉領域の知識に加え、隣接諸科学の基礎知識を養い、社会を立体的に理解する力を養う。
思考・判断の観点 (K)	福祉ビジネスを展開する組織の動かし方／動き方、ならびに局面に応じた意思決定能力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業への参加、授業態度、積極的な姿勢を求める。
技術・表現の観点 (A)	秀でた技術を求めることはないが、自身の考えやその過程を言語化して表現する力を求める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ヒューマンサービス提供組織について	サービスにはいろいろな形態がある。ではこの中で人間がかかわるサービス、それはヒューマンサービスだが、これにはどのような特徴があるか、	ヒューマンサービスについてその特徴や内容を調べておく	45分
第2回	組織構造と組織設計	サービスを提供するためには組織を作る必要がある。ではいったいどのような組織をつくるか、ワンマン社長がたか全員参加型か、その構造をどのように設計するかを考える	組織とは何かを調べる	45分
第3回	組織における意思決定	意思決定とは何か。組織はどのように自分たちの考えをまとめ、どのような方法で統一させるかを考える	意思決定をしらべる	45分
第4回			マネジメントを調べておく	45分

	講義/演習 「マネジメント」	マネジメント＝管理ではない。ブラックウイスとブレナンは現代社会ではマネジメントが重要であると記す。ではマネジメントとは何か。対立する人間関係を例に取り考える		
第5回	講義/演習 「マネジメント」	マネジメント＝管理ではない。ブラックウイスとブレナンは現代社会ではマネジメントが重要であると記す。ではマネジメントとは何か。対立する人間関係を例に取り考える	マネジメントを調べておく	45分
第6回	講義/演習 「交渉」	前回授業で話したマネジメント。ブラックウイスとブレナンはそれは「交渉」「弁護」の技法と述べるではいったい交渉の技法とはなにか、ハーバード交渉術では「交渉では相手の顔に泥を塗るな」を基本とする。交渉はWINWINの形成であるともいう。一体何か	ハーバード交渉術を調べておく	45分
第7回	講義/演習 「交渉」	前回授業で話したマネジメント。ブラックウイスとブレナンはそれは「交渉」「弁護」の技法と述べるではいったい交渉の技法とはなにか、ハーバード交渉術では「交渉では相手の顔に泥を塗るな」を基本とする。交渉はWINWINの形成であるともいう。一体何か	ハーバード交渉術を調べておく	45分
第8回	講義/演習 「コーチングとティーチング」	コーチングということばがある。コートングとは「誘導や引っ張る」ことではない。自分が自分らしく組織の中で体現できることでもある。その方法を学ぶ	コーチング、アサーティブを調べておく	45分
第9回	講義/演習 「コーチングとティーチング」	コーチングということばがある。コートングとは「誘導や引っ張る」ことではない。自分が自分らしく組織の中で体現できることでもある。その方法を学ぶ	コーチング、アサーティブを調べておく	45分
第10回	講義/演習 「フォローワーシップ」	現場では「サンクスカード」という方法がある。「あなたがいたから今日も元気です。ありがとう」を伝えることです。この項では現場での承認欲求をどのように充足するかを考える	承認欲求をしらべる	45分
第11回	講義/演習 「フォローワーシップ」	現場では「サンクスカード」という方法がある。「あなたがいたから今日も元気です。ありがとう」を伝えることです。この項では現場での承認欲求をどのように充足するかを考える	承認欲求をしらべる	45分
第12回	講義/演習 「リーダーシップ」	リーダーシップということばはあまりにも一般化してるため、わかっているようでわからないまま。リーダーシップとはメンバーを強引に引っ張って行くいくことではないというのが現代社会のある種の結論だ。ではどのようにリーダーシップは形成されるか。どのような方法があるのかをまとめる	自らのリーダーシップの変遷を検討する	45分
第13回	講義/演習 「リーダーシップ」	リーダーシップということばはあまりにも一般化してるため、わかっているようでわからないまま。リーダーシップとはメンバーを強引に引っ張って行くいくことではないというのが現代社会のある種の結論だ。ではどのようにリーダーシップは形成されるか。どのような方法があるのかをまとめる	自らのリーダーシップの変遷を検討する	45分
第14回	ソーシャルワークの可能性	経営にソーシャルワークはどのように位置付けられるか？具体例から検討する	授業をまとめておく	45分
第15回	ソーシャルワークの可能性	経営にソーシャルワークはどのように位置付けられるか？具体例から検討する	授業をまとめておく	45分

学習計画注記	外部施設の見学も検討する			
学生へのフィードバック方法	講義ならびに演習の時間において、不明な点や学生の疑問に対してはフィードバックを行う。			
評価方法	講義への参加 講義態度 期末レポート			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加			○	○
授業態度			○	○

期末レポート	○	○		
評価割合		出席・授業態度(40%) 期末レポート(60%)		
学生へのメッセージ		組織を理解することは、福祉ビジネスを展開するために欠かせないものです。社会的使命を果たすためには、一人では達成できないことがほとんどです。そのために、私たちは組織で活動を展開します。それは福祉ビジネスの世界でも変わりません。 本講義を通じて、皆様が知識や技術を一つ一つ積み上げていけたら幸いです。		
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	講師の経験ならびに関りを持つ方々の事例を取り上げ、丁寧にその思考過程や展開方法を学ぶ。(担当教員は高齢者福祉施設に勤務経験がある)		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コミュニティアートプロデュース論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高橋 かおり	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業は「コミュニティアートプロデュース」を「コミュニティ」「アート」「プロデュース」それぞれの要素にわけ、その歴史と変遷、実践と実施者たちの言葉について学ぶ。近年日本各地でアートプロジェクトは増えつつあるが、その歴史的背景や文脈を知らなければ、現状を理解することは難しいだけでなく、自分たちで実践することも容易ではない。そこで、具体的な事例を見ながら、特に日本特異の文脈について理解を深め、今後展開されうる、あるいは自身で展開していく活動をとらえる際の枠組みについて共に考えていく。
履修条件	特に設けない。アートや芸術に関する知識はなくてもかまわない。また、実務経験の有無、あるいは希望も問わない。重要なことは、トピックやテーマに対して関心をもって調べ、考える姿勢である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	「コミュニティアートプロデュース」ということについて、基礎的な知識を獲得し、擁護の説明ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	コミュニティアートプロデュースについて、実践面・研究面から課題を見出す力を身に着ける。現在実施されている諸プロジェクトに対して批判的に検討する力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	コミュニティアートに鑑賞者、実施者としてかかわる態度を身に着ける。
技術・表現の観点 (A)	地域において芸術活動をする際の困難や、実際の運営について、各地の事例と先人たちの試みを学ぶことによって、今後自身で実践しうる際の指針や注意事項を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入授業の進め方の説明	地域における芸術活動に関する基礎的な紹介、受講生の興味関心領域の確認、テーマへの要望のディスカッション	日本のコミュニティアート(地域におけるアートプロジェクト)を調べる。	10分
第2回	アートプロジェクトとは(日本の地域芸術活動)	伝統的な芸術活動を踏まえたうえで、1990年代後半からのアートプロジェクトの歴史について紹介。	紹介された活動についてweb等で調べる。	20分
第3回	コミュニティとは	コミュニティに関する諸議論の整理(社会関係資本など)、コミュニティの必要性・重要性・意義	授業資料を読み返し、実社会での経験を結びつけて考える。	10分

第4回	コミュニティアートとは（諸外国の地域芸術活動）	海外の地域芸術活動の諸事例の紹介、討論（ソーシャリー・エンゲージド・アートなど）	紹介した作品を鑑賞する	20分
第5回	日本の文化政策史——芸術への公的資金流入	特に1990年代以降の日本の文化政策史や公的資金流入の動きについて整理（メセナ活動など）。	自身の生活史と合わせて文化政策史を考える。	10分
第6回	アートマネジメントとは	日本のアートマネジメント史を振り返り、アートマネジメントの必要性について議論。	紹介した実践例から、アートマネジメントの特徴を考え、課題を見出す。	20分
第7回	コミュニティアートの影	藤田直哉「前衛のゾンビたち」の精読を通じて、「地域アート」や「コミュニティアート」の負の側面を考える。	事前配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	30分
第8回	【事例紹介・検討①】	第8～10回は、受講生による発表をもとに、事例となるコミュニティアート活動についての検討を行う。事例案としては「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」、「中之条ビエンナーレ」、「黄金町バザール」などを予定。受講生の人数、関心によって決める。	授業発表の準備。	120分程度（8～10回合計）
第9回	【事例紹介・検討②】	第8～10回は、受講生による発表をもとに、事例となるコミュニティアート活動についての検討を行う。事例案としては「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」、「中之条ビエンナーレ」、「黄金町バザール」などを予定。受講生の人数、関心によって決める。	授業発表の準備。	120分程度（8～10回合計）
第10回	【事例紹介・検討③】	第8～10回は、受講生による発表をもとに、事例となるコミュニティアート活動についての検討を行う。事例案としては「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」、「中之条ビエンナーレ」、「黄金町バザール」などを予定。受講生の人数、関心によって決める。	授業発表の準備。	120分程度（8～10回合計）
第11回	計画の立て方／企画書の書き方	企画書や計画の立て方について実際の受講生の関心をもとに考える。	自身のプランについて案を考える。	30分
第12回	コミュニティアートプロデュースの実際	事例検討や実際に関わる人の声を踏まえて、コミュニティアートを実際に運営する上での流れや事務手続きについて紹介	紹介された資料を読む	30分
第13回	アートにかかわる働き方を考える	現場の声を紹介しながら、アートにかかわって働くこと、アートにボランティアとしてかかわることの良さや注意点を紹介し、議論する。	資料を読んで意見をまとめる。	20分
第14回	受講生の計画発表	コミュニティアートについて、受講生の計画を発表。実現可能性（資金調達、協働、人選など）について検討。	計画を立てる	60分
第15回	まとめ	これまでの議論のまとめ。受講者の関心に従い補足説明。必要な長期的視点について改めて強調。	これまでの授業資料を見直し、自身の気づきや得たものを考える。	20分

学習計画注記	内容、回数は受講生の人数、関心に応じて変更することがある。			
学生へのフィードバック方法	授業内でのフィードバックを基本とする。発表内容についての対面でのコメントが中心になる。質問はメールで適宜受け付ける。より関心を持つ学生に対しては、学外での活動の紹介や、関係者の紹介も行うことがあり得る。			
評価方法	平常点に加え、授業内で2回予定される発表の内容とその成果物を評価とする。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
事例検討発表	○	○	○	○
計画発表	○	○	○	○
評価割合				

	平常点30%、授業中の事例検討発表30%、コミュニティアート（アートプロジェクト）の計画発表40%	
使用教科書名 (ISBN番号)	『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』 『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことば。の本 <増補版>』アーツカウンシル東京 (担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)	
オフィスアワー	担当者への面談・相談を希望する者は事前に連絡すること。授業前後で調整します。	
学生へのメッセージ	授業外においても積極的な情報収集をすることが求められる。各回事前にキーワードや調べてほしい事例について提示するので、各自毎回10～20分程度それらについて調べる時間をとることが望まれる。また、参考文献も適宜提示するので、それも手に取り読むことをすすめる。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	各地のアートプロジェクトの評価・調査の経験がある
アクティブ・ラーニング	○	授業内では積極的な意見交換の場を設ける。
情報リテラシー教育	○	アートに関する情報収集の方法やコツを教える。また、発表方法、企画書・計画書の書き方についても指導する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会調査法演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福嶋 美佐子	指定なし

授業概要(教育目的)	社会調査は、私たちの生活や仕事の様々な場面で役立てられている。どのような調査が、どのように役立てられているのかを理解し、それを使って真理を追究することは、人間福祉学科で学ぶ学生にとって必要な基礎力と考え、この科目が立ち上げられた。社会調査の基礎知識をつけること、その知識を用いて学術論文やレポートを書く力とプレゼンテーション力を向上させることを目指している。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 質的調査と量的調査の全般を理解できる。 2. 自律的に社会調査を計画、調査、分析できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 調査事例を通じて、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているかを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループプロジェクトを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンを学び、サーバントリーダーとしての自覚を持つ。
技術・表現の観点 (A)	1. グループプロジェクト発表を通じて、PPTを使ったプレゼンテーション技術を高める。 2. ①序論(先行研究の検討)、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた最終レポートを仕上げることで、学術論文執筆の基礎力をつける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会調査とは何か	1. オリエンテーションを通じて、この授業の目的と意義を理解する。 2. 社会調査の概要と福祉分野との関連を理解する。	【復習】新聞・雑誌等から社会調査が載った記事を見つけ出し、感想をまとめる。	30分
第2回	社会調査の歴史	1. 社会調査がどのように発展し、福祉分野でどのように役立てられるようになったかを理解する。 2. 社会調査における倫理を学ぶ。	【復習】社会調査を作った人物のうちひとりを探り上げ、自分の関心領域にどのような調査を可能にしたかをまとめる。	30分
第3回	質的調査① 資料調査	1. 質的調査の概要を学ぶ。 2. 図書館司書による図書館ツアーを通じて、効率よく資料を探せるようになる。	【予習】自分の関心領域をまとめておく。	60分
第4回	質的調査② データの集め方	2. 図書館ツアーで学んだ資料検索知識を基に先行研究を探し、自分の関心分野では何が研究され、何が未済なのかの整理をする。	【復習】先行研究の検索し、自分の関心分野では何が研究され、何が未済なのかの整理をする。	30分

第5回	質的調査③ インタビュー調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. インタビュー調査の概要と長所・短所を学ぶ。	【予習】新聞・雑誌等のインタビュー記事を読む。	60分
第6回	質的調査④ フォーカスグループインタビュー	1. フォーカスグループインタビューの概要と長所・短所を学ぶ。	【復習】フォーカスグループインタビューの長所・短所をまとめる。	30分
第7回	質的調査⑤ ドキュメント調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. ドキュメント調査の概要と長所・短所を学ぶ。	【予習】ドキュメント調査の論文を探して読む。	60分
第8回	質的調査⑥ その他の調査法	1. その他の質的調査の概要と長所・短所を学ぶ。	【予習】各質的調査法の長所と短所を比較する。	60分
第9回	質的調査⑦ 情報の整理	1. インタビュー調査を題材に、文字起こしを通じて情報の整理を行う。	【復習】文字起こしを行う。	60分
第10回	質的調査⑧ 情報の分析	1. インタビュー調査を題材に、文章化することを通じて情報の分析を行う。	【復習】文字起こししたものを文章化する。	60分
第11回	調査を用いた仕事の現場（ゲスト講師による講義）	1. 社会福祉分野で活躍するゲスト講師から、①どのようにキャリアを築いてきたか、②社会調査のデータをどのように活用しているか、③どのようなビジョンを持っているか、を伺うことで、自らのキャリア形成を考えると共に、社会調査の応用法を学ぶ。 2. 積極的な質疑応答を通じて、理解をより深める。	【予習】ゲスト講師の専門分野について調べておく。	60分
第12回	質的調査のまとめ	1. これまでに学んだ質的調査をまとめ、それらを比較できるようにする。 (実習等で欠席している学生に対しての補習も兼ねている)	【予習】これまで学んだ質的調査の長所と短所まとめておく。	60分
第13回	量的調査① 全数調査と標本調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 量的調査の概要を学ぶ。	【予習】国勢調査について調べる。	60分
第14回	量的調査② 調査対象・方法の選び方	1. テーマに相応しい調査対象や調査方法があることを学ぶ。		
第15回	量的調査③ 調査票の作成の仕方	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票作成のポイントを学ぶ。	【予習】発表済みの量的調査の調査票を探しておく。	60分
第16回	量的調査④ 調査票の点検	3. 作成した調査票を点検し、修正することの重要性を学ぶ。		
第17回	量的調査⑤ データのまとめ方：単純集計	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票で得られたデータを単純集計し、それを文章化することを学ぶ。	【復習】単純集計のデータを読み、それを文章化する。	60分
第18回	グループプロジェクト ①関心事の共有とテーマの決定	1. グループプロジェクトを立ち上げ、メンバーの関心を共有し、テーマを決定する。 2. 大まかな調査計画を立て、メンバーの役割を決定する。	【予習】グループプロジェクトで採り上げたいテーマ案を作ってくる。	60分
第19回	量的調査⑥ データのまとめ方：クロス集計	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票で得られたデータからクロス集計し、それを文章化することを学ぶ。	【復習】クロス集計のデータを読み、それを文章化する。	60分
第20回	グループプロジェクト ②調査の対象・方法の決定	1. テーマに最も相応しい調査方法と対象を選ぶ。	【予習】調査対象や方法の案を作ってくる。	60分
第21回	量的調査⑦ データのまとめ方：グラフの選び方	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票で得られたデータからクロス集計し、それを文章化することを学ぶ。	【復習】データに応じて最適なグラフを選ぶ。	60分
第22回	グループプロジェクト ③調査の準備	1. テーマや調査概要を含めた調査計画を立てる。 2. 調査対象へのアポイントメント等の準備を進める。	【復習】調査計画を作成し、調査対象へのアポイントメントを取る。	60分

第23回	量的調査 ⑧PPT作成 とプレゼン テーション の方法	1. パワーポイントの作成技術を学ぶ。 2. パワーポイントを用いたプレゼンテーション技術を学ぶ。	【予習】これまで行ったプレゼンテーションを授業で発表できるように準備する。	60分
第24回	グループプロジェクト ④調査	1. 調査概要に基づいた調査を行う。	【復習】調査を行う。	120分
第25回	グループプロジェクト ⑤情報の整理・回答の集計	1. 調査で得られたデータを整理し、集計する。	【復習】回答の集計をする。	60分
第26回	グループプロジェクト ⑥回答の分析	1. 集計した結果を分析する。	【復習】回答の分析する。	120分
第27回	グループプロジェクト ⑦発表準備	1. パワーポイント資料を作成する。	【予習】発表会の準備をする。	60分
第28回	グループプロジェクト ⑦発表準備	1. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。	【予習】発表会の準備をする。	60分
第29回	グループプロジェクト ⑧発表会	1. グループごとにプレゼンテーションを行う。	【予習】発表会の準備をする。	120分
第30回	グループプロジェクト ⑧発表会	1. 予め定めた基準に基づき、お互いの評価を行う。	【復習】最終レポートの仕上げる。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具体によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	1. 平常点：ディスカッションにおけるコメント 2. 課題：採点し翌週の授業で返却、解説 3. グループプロジェクト：PPTを使ったプレゼンテーションを教員とクラスメイトが予め定めた基準に沿ってコメント 4. 最終レポート：ドラフトを提出の翌週にコメントつきで返却 なお、疑問が残る場合には、講師に直接またはemailで質問すること。				
評価方法	1. 平常点：授業内でのディスカッション等、クラスへの貢献を評価する。 2. 課題：授業で学んだことを反映させた内容を指示し、その理解を評価する。 3. グループプロジェクト：PPTを使ったプレゼンテーションの技術を評価する。 4. 最終プロジェクト：①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた最終レポートを仕上げることで、学術論文執筆の基礎力を評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○		○
	グループ・プロジェクト	○	○	○	○
	最終レポート	○	○		○
評価割合	平常点 (30%)、課題 (20%)、グループプロジェクト (30%)、最終レポート (20%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な福祉の問題が惹起されている現代社会のありようを、社会調査を通じて客観的に分析することができる。				
オフィスアワー	なし				
学生へのメッセージ	工業化社会から情報化社会へと移り変わるにつれ、求められるリーダー像も変化していきます。大江スミ先生は、約100年前に既に気づかれ、学生が「地の塩、世の光」(マタイ5:13-16)となることを望まれていました。社会調査の知識や技術を学ぶことで、地の塩のように目立たぬ行いで人のために尽くし社会の汚れを清め、世の光として明るさと温かさを与えられるサーバント・リーダーとなるよう、一緒に学びましょう。				

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、企業内研究所での実務経験を有しており、社会調査がどのように生活や社会に役立てられているかという視点から授業を計画し、各学生の理解度にも配慮しながら教授する。
アクティブ・ラーニング	○	毎回の授業冒頭で、1週間の福祉関連を中心としたニュースを振り返りながら、ディスカッションを行う。また、1回は福祉現場で活躍する方を招き、組織においてどのように調査データが活かされているかを示していただく。さらに、後半7回はグループプロジェクトを立ち上げ、グループワークを通じて、サーバント・リーダーシップを学ばせる。
情報リテラシー教育	○	インプットでは、①図書館司書による図書館ツアーや、先行研究のための②文献検索、③データベース活用法を、アウトプットでは、グループプロジェクト発表会に向け①パワーポイント作成法や②プレゼンテーション技術を、最終レポートを仕上げるにあたり③アカデミックライティングを教授する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会調査実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福嶋 美佐子	指定なし

授業概要(教育目的)	社会調査の知識と技術を用いて真理を追究することは、卒業研究を進める上で必須である。社会調査を自律的に計画、調査、分析すること、その知識を用いて学術論文やレポートを書く力とプレゼンテーション力を向上させること、を旨としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 自律的に社会調査を計画、調査、分析でき、それを研究に反映させられる。
思考・判断の観点 (K)	1. 調査事例を通じて、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているかを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループプロジェクトを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンを学び、サーバントリーダーとしての自覚を持つ。
技術・表現の観点 (A)	1. グループプロジェクト発表を通じて、PPTを使ったプレゼンテーション技術を高める。 2. グループプロジェクトを反映させた最終レポートを仕上げることで、学術論文を執筆できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	社会調査の概要(社会調査法演習の復習)	1. オリエンテーションを通じて、この授業の目的と意義を理解する。 2. 社会調査の概要を復習し、福祉分野との関連を理解する。 3. 社会調査における倫理を学ぶ。
第2回	社会調査の概要(社会調査法演習の復習)	1. オリエンテーションを通じて、この授業の目的と意義を理解する。 2. 社会調査の概要を復習し、福祉分野との関連を理解する。 3. 社会調査における倫理を学ぶ。
第3回	社会調査の概要(社会調査法演習の復習)	1. オリエンテーションを通じて、この授業の目的と意義を理解する。 2. 社会調査の概要を復習し、福祉分野との関連を理解する。 3. 社会調査における倫理を学ぶ。
第4回	グループごとのテーマの確定	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループプロジェクトを立ち上げ、メンバーの関心を共有し、テーマを決定する。
第5回	グループごとのテーマの確定	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループプロジェクトを立ち上げ、メンバーの関心を共有し、テーマを決定する。

第6回	グループごとのテーマの確定	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループプロジェクトを立ち上げ、メンバーの関心を共有し、テーマを決定する。
第7回	調査概要（調査対象・調査方法・調査スケジュール）	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査計画を立て、メンバーの役割を決定する。
第8回	調査概要（調査対象・調査方法・調査スケジュール）	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査計画を立て、メンバーの役割を決定する。
第9回	調査概要（調査対象・調査方法・調査スケジュール）	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査計画を立て、メンバーの役割を決定する。
第10回	先行研究の検討	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 先行研究を探索し、グループの関心分野では何が研究され、何が未済なのかの整理をする。
第11回	先行研究の検討	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 先行研究を探索し、グループの関心分野では何が研究され、何が未済なのかの整理をする。
第12回	先行研究の検討	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 先行研究を探索し、グループの関心分野では何が研究され、何が未済なのかの整理をする。
第13回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票を作成する。
第14回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票を作成する。
第15回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査票を作成する。
第16回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 3. 作成した調査票を点検し、修正する。
第17回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 3. 作成した調査票を点検し、修正する。
第18回	調査票の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 3. 作成した調査票を点検し、修正する。
第19回	プレ調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 修正した調査票を基にプレ調査を実施する。
第20回	プレ調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 修正した調査票を基にプレ調査を実施する。
第21回	プレ調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 修正した調査票を基にプレ調査を実施する。
第22回	プレ調査に基づく調査票の修正	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. プレ調査を通じて気づいた点を話し、調査票の最終版を作成する。
第23回	プレ調査に基づく調査票の修正	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. プレ調査を通じて気づいた点を話し、調査票の最終版を作成する。
第24回	プレ調査に基づく調査票の修正	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. プレ調査を通じて気づいた点を話し、調査票の最終版を作成する。
第25回	本調査	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第26回	本調査	

		<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第27回	本調査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第28回	本調査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第29回	本調査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第30回	本調査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 本調査を行う。
第31回	分析法の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いた分析法を学ぶ。
第32回	分析法の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いた分析法を学ぶ。
第33回	分析法の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いた分析法を学ぶ。
第34回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第35回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第36回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第37回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第38回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第39回	分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第40回	グラフ化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査結果をグラフ化する。
第41回	グラフ化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査結果をグラフ化する。
第42回	グラフ化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査結果をグラフ化する。
第43回	調査報告書の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書を作成方法を学ぶ。
第44回	調査報告書の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書を作成方法を学ぶ。
第45回	調査報告書の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書を作成方法を学ぶ。
第46回	調査報告書の作成	

		1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を作成する。
第47回	調査報告書の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を作成する。
第48回	調査報告書の作成	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を作成する。
第49回	プレゼンテーションの準備 (PPTの作成)	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイント資料を作成する。
第50回	プレゼンテーションの準備 (PPTの作成)	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイント資料を作成する。
第51回	プレゼンテーションの準備 (PPTの作成)	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイント資料を作成する。
第52回	プレゼンテーションの準備	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。
第53回	プレゼンテーションの準備	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。
第54回	プレゼンテーションの準備	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。
第55回	プレゼンテーション	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループごとにプレゼンテーションを行う。
第56回	プレゼンテーション	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループごとにプレゼンテーションを行う。
第57回	プレゼンテーション	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. グループごとにプレゼンテーションを行う。
第58回	調査報告書の提出	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を仕上げて提出する。
第59回	調査報告書の提出	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を仕上げて提出する。
第60回	調査報告書の提出	1. 担当者が、過去1週間の新聞記事の中から最も関心のあるテーマを選び、クラスでディスカッションを行う。 2. 調査報告書を仕上げて提出する。

学習計画注記	履修者数や授業の進み具体によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	1. 平常点：調査分析作業中にコメント 2. グループプロジェクト：PPTを使ったプレゼンテーションを教員とクラスメイトが予め定めた基準に沿ってコメント 3. 最終レポート：ドラフトをコメントつきで返却			
評価方法	1. 平常点：授業内でのディスカッション等、クラスへの貢献を評価する。 2. グループプロジェクト：PPTを使ったプレゼンテーションの技術の評価する。 3. 最終レポート：①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた学術論文を評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
グループプロジェクト	○	○	○	○
最終レポート	○	○		○

評価割合	平常点（40%）、グループプロジェクト（30%）、最終レポート（30%）	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な福祉の問題が惹起されている現代社会のありようを、社会調査を通じて客観的に分析することができる。	
オフィスアワー	なし	
学生へのメッセージ	現代社会における福祉問題に注目し、現場に足を運ぶだけでなく、その現実を客観的に調査・分析することで、問題を深く理解できます。その分析結果を、4年間で学んだことを関連させながら論文にまとめれば、多くの人に伝えることができます。きっと、卒業後に社会で果たせる役割を見出せることでしょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	当教員は、企業内研究所での実務経験を有しており、社会調査がどのように生活や社会に役立てられているかという視点から授業を計画し、各学生の理解度にも配慮しながら教授する。
アクティブ・ラーニング	○	毎回の授業冒頭で、1週間の福祉関連を中心としたニュースを振り返りながら、ディスカッションを行う。また、社会調査を行う企業を訪ね、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているのかを理解させる。さらに、グループワークを通じて、サーバント・リーダーシップを学ばせる。
情報リテラシー教育	○	インプットでは、先行研究のための①文献検索、②データベース活用法を、アウトプットでは、グループプロジェクト発表会に向け①パワーポイント作成法や②プレゼンテーション技術を、最終レポートを仕上げるにあたり③アカデミックライティングを教授する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク 演習Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>相談援助で求められる実際の援助過程を想定した実技指導を行う。 総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）を中心とする演習形態により行う。 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例を通じて習得する。 また専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。 授業形式は学生による事例発表を中心とする。</p>
履修条件	<p>特になし。 ただし、本科目はソーシャルワーク演習Ⅲの展開科目であり、ソーシャルワーク実習の履修を前提とした授業であることを理解しておくこと。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	思考・判断の観点 (K)	関心・意欲・態度の観点 (V)	技術・表現の観点 (A)
	1. 相談援助に必要な専門知識・技術を理解し説明できる。		
	1. 現代社会における社会問題について、解決方法を相談援助の専門知識・技術と連携して考察することができる。		

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 事例研究の意義、事例の読み方、事例研究の進め方	ソーシャルワークにおける事例研究の意義、事例の読み方、事例研究の進め方を理解する。	教科書内の事例を数点読み、事例に慣れておくこと。	90分
第2回	ソーシャルワーク実践の展開①	援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。 インテーク、アセスメントを中心に。相談援助展開過程	教科書 題5章ソーシャルワークの展開過程(74-99)を読むこと。	90分

		の準備について学ぶ。生活課題のニーズ発見について学ぶ。。。ストレングス視点と情報整理について学ぶ。	
第3回	ソーシャルワーク実践の展開②	援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。 プランニングを中心に。アセスメントから明らかになった情報の分析、社会福祉援助の原則を踏まえた目標設定、目標達成に向けた具体的方法を検討する。	教科書 題5章ソーシャルワークの展開過程 (74-99) を読んでおくこと。
第4回	ソーシャルワーク実践の展開③	援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。 支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケアまでの一連の流れを中心に。	教科書 題5章ソーシャルワークの展開過程 (74-99) を読んでおくこと。
第5回	事例学習①	事例検討 社会的排除とソーシャルインクルージョンについて考える。 低所得者の課題と相談援助。	教科書第6章 低所得者への相談援助演習 (312-315) ホームレスへの相談援助 (316-320) を読んでおくこと
第6回	事例学習②	事例検討 児童虐待について考える。	教科書第6章 児童(児童養護施設入所)への相談援助演習 (350-353) を読んでおくこと。
第7回	事例学習③	事例検討 児童虐待について考える。	教科書 第5章 虐待(児童)への相談援助演習 (288-291) を読んでおくこと。
第8回	事例学習④	事例検討 要介護の高齢者とその家族への支援を考える。	教科書第6章 高齢者(要介護)とその家族への相談援助演習 (326-339) を読んでおくこと。
第9回	事例学習⑤	事例検討 高齢者虐待について考える。	教科書第5章 虐待(高齢者)への相談援助演習 (284-287) を読んでおくこと。
第10回	事例学習⑥	事例検討 DVなど家庭内暴力について考える。	教科書第5章 家庭内暴力に関する相談援助演習 (280-283) を読んでおくこと。
第11回	事例学習⑦	事例検討 障がい者への支援について考える。	教科書第5章 就労支援(障害者)に関する相談援助演習 (268-271) を読んでおくこと。
第12回	事例学習⑧	事例検討 障がい者とその家族への支援について考える。(身体障がい者、知的障がい者)	教科書第6章 障害者(身体障害者)とその家族への相談援助演習 (330-335) 教科書第6章 障害者(知的障害者)とその家族への相談援助演習 (336-339) を読んでおくこと。
第13回	事例学習⑨	事例検討 障がい者とその家族への支援について考える。(発達障がい者、精神障がい者)	教科書第6章 障害者(発達障害者)とその家族への相談援助演習 (330-335) 教科書第6章 障害者(精神障害者)とその家族への相談援助演習 (336-339) を読んでおくこと。
第14回	事例学習⑩	事例検討 在住外国人への相談援助について考える。	教科書第6章 在住外国人への相談援助演習 (371-376) を読んでおくこと。
第15回	授業のまとめと振り返りレポートについて	各自の学びと達成したこと等について自己評価し、グループで分かち合う。	これまでの振り返りをまとめておくこと。
学習計画注記		履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 学生による事例発表が中心の授業です。自分の発表回の1週前の回にレジュメを教員に提出してください。レジュメにについて、教員の指導を受け少なくとも発表2日前までには、レジュメを演習のメンバーに配布しておくこと。紙媒体、電子媒体でも構いません。	
学生へのフィードバック方法		質問等は、人間福祉学科実習指導室(K-411)まで訪問にくること。 また、メールでも可。	
評価方法		各自で事例検討用にレジュメを作成し発表を行う。レジュメ、発表内容、事例検討における参加態度を総合的に評価する。	

また、本演習における学びを客観的に確認するためにレポートを課す。レポートの詳細については、授業内にて提示する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表	○	○		
参加態度	○	○		
レポート	○	○		

評価割合

発表50%、授業内における参加態度30%、レポート20%

使用教科書名 (ISBN番号)

社会福祉士相談援助演習 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会
長谷川匡俊 上野谷加代子 他編

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】教科書等における事例の検討を通じ、社会状況の様々な問題やアプローチ法、支援モデルに重きをおき、専門的に問題解決をする力を有する。
【思考・判断】事例の検討を通じて、福祉専門職として、現代社会の問題に痛みを持って、専門的な制度、実践を、問題の軽減を図ろうとする力を有する。

オフィスアワー

水曜日 3限目 実習指導室K411-1

学生へのメッセージ

指定された事例課題を必ず読み、内容を把握しておくこと。
発表をする場合は、発表する一週間前までにレジュメを作成すること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク演習Ⅴ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)	「ソーシャルワーク演習Ⅳ」に続いて、本演習Ⅴはソーシャルワーク実習指導Ⅲとともに、ソーシャルワーク実習の事後指導と関係付けて実施する。アウトリーチとニーズ把握、個別事例、地域福祉の基盤整備と開発、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価などの理解・習得、それらを実践的に担っていく能力の獲得に向けて、ソーシャルワーク実習の具体的な事例を通じた事例検討、ロールプレイング等による少人数のゼミ形式で取り組んでいく。 授業形式は、学生による事例発表を中心とする。発表は原則、各回1人ずつとする。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし。 ただし、ソーシャルワーク演習Ⅳの展開科目及びソーシャルワーク実習の履修を前提とした授業であることを理解しておくこと。
------	---------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉学の専門知識・技術を福祉現場に応用できるようにする。 また、隣接科学の知識も福祉現場に応用できるようにする。 現在の社会福祉分野における諸課題を具体的な事例を通じ理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 実習での具体的な事例検討を通じ、専門的支援の判断、重要性を客観的に理解する 2. 事例検討の中で冷静に意見を交換できる力をつける。 3. 自身の福祉専門職としての適性を知る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	事例発表における諸注意。ソーシャルワーク実習にて体験した事例を扱うため、秘密保持等をはじめ福祉専門職として重要な倫理等を改めて振り返る。発表方法の説明と順番の決定。 ワークシートを用い個人レベルでの実習の振り返りと学びの課題・演習で取り上げたいこと等の要望をまとめ、全体で分かち合う。	社会福祉士の倫理綱領、行動規範を読んでおくこと。 ソーシャルワーク実習において印象的だった事柄をいくつかまとめておくこと。	90分
第2回	実習での学びの振り返りをし、活かす。	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習で体験した援助の実際について実習先の施設・機関の地域社会で期待される、または果たしている	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑	90分

		機能や役割を整理し課題を明らかにする。他機関との連携の在り方にも留意する。	問点や意見をまとめておくこと。	
第3回	実習での学びの振り返りをし、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習で体験した援助の実際について実習先の施設・機関の地域社会で期待される、または果たしている機能や役割を整理し課題を明らかにする。他機関との連携の在り方にも留意する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第4回	実習での学びの振り返りをし、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習で体験した援助の実際について実習先の施設・機関の地域社会で期待される、または果たしている機能や役割を整理し課題を明らかにする。他機関との連携の在り方にも留意する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第5回	利用者との関わりからの学びを振り返り、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習中の利用者や職員との関わりのプロセスレコードによる再構成を中心とした発表とする。より良い関わり・支援を考察する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第6回	利用者との関わりからの学びを振り返り、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習中の利用者や職員との関わりのプロセスレコードによる再構成を中心とした発表とする。より良い関わり・支援を考察する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第7回	利用者との関わりからの学びを振り返り、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習中の利用者や職員との関わりのプロセスレコードによる再構成を中心とした発表とする。より良い関わり・支援を考察する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第8回	利用者との関わりからの学びを振り返り、活かす	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習中の利用者や職員との関わりのプロセスレコードによる再構成を中心とした発表とする。より良い関わり・支援を考察する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第9回	スーパービジョンについて	事例発表と事例検討を行う。 その際、実習指導を受けた経験の振り返りや実習先での研修等の取り組みを整理し、スーパービジョンについて、その意義・機能・方法について理解する。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第10回	利用者を理解した、ニーズの把握と支援について	事例発表と事例検討を行う。 利用者理解のためのニーズ把握、アセスメントの重要性について実習先での学びを共有し理解し深める。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第11回	利用者を理解した、ニーズの把握と支援について	事例発表と事例検討を行う。 利用者理解のためのニーズ把握、アセスメントの重要性について実習先での学びを共有し理解し深める。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第12回	人と環境の接点・相互作用とは	事例発表と事例検討を行う。 人と環境の接点・相互作用、ミクロ・メゾ・マクロの視点、個人・家族・組織・地域・社会の相互作用について理解を深める。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第13回	社会福祉士の専門性と社会福祉援助に関わる他の専門職について	事例発表と事例検討を行う。 実習での経験と学びを活かし、社会福祉士に求められる専門性について考え、他の専門職への理解を深める。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第14回	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤	事例発表と事例検討を行う。 ソーシャルワークの使命、価値（自己決定、エンパワメント、人間の尊厳等）、倫理について理解を深める。	担当学生は学習内容に沿った内容のレジュメを作成する。他の学生はレジュメを事前に読み疑問点や意見をまとめておくこと。	90分
第15回	まとめ：社会福祉専門職に求められるもの。学びの振り返り	これまでの学びの振り返りを行う。 社会福祉専門職を目指し、継続して成長していけるよう自分自身の今後の課題について、全員で検討する。	これまでのレジュメと自身の実習ノートを振り返ること、	90分

学習計画注記

	履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 学生による事例発表が中心の授業です。自分の発表回の1週前の回にレジュメを教員に提出してください。レジュメについては、教員の指導を受け少なくとも発表2日前までには、レジュメを演習のメンバーに配布しておくこと。紙媒体、電子媒体でも構いません。				
学生へのフィードバック方法	質問等は、人間福祉学科実習指導室（K-411）まで訪問にくること。 また、メールでも可。				
評価方法	各自で事例検討用にレジュメを作成し発表を行う。レジュメ、発表内容、事例検討における参加態度を総合的に評価する。 また、本演習における学びを客観的に確認するためにレポートを課す。レポートの詳細については、授業内にて提示する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	発表	○	○		
	参加態度	○	○		
	レポート	○	○		
評価割合	発表50%、授業への参加態度30%、レポート20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	社会福祉士相談援助演習 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会 長谷川匡俊 上野谷加代子 他編				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ソーシャルワーク実習等における自らが体験してきた具体的な事例の検討を通じ、社会状況の様々な問題を客観的かつ感情を持って専門的に受け止める力を有する。 【思考・判断】 事例の検討を通じて、福祉専門職として、現代社会の問題に痛みを持って、専門的な制度、実践を、問題の軽減を図ろうとする力を有する。				
オフィスアワー	火曜日 3限目 実習指導室K411-1				
学生へのメッセージ	演習の集大成です。発表は中心とディスカッションが中心の授業です。 ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳ、ソーシャルワーク実習等の科目との連携の視点を持って能動的な授業参加を期待します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし
助教	朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」に続いて、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理に加えて、具体的に求められる課題把握のための力、真摯に向う姿勢等を幅広く講義する。また次の課題にも取り組む。①社会福祉援助に係る知識と技術について具体的、实际的に理解する②実習担当教員からの指導のもと、実習課題、実習計画について検討する③「個人票」「実習計画票」等の作成を通して、実習に向けた具体的な準備を行う④実習中の巡回指導、実習後の実習課題、実習計画の達成状況の整理を行う。クラスワークと巡回担当教員による個別指導の授業形態がある。
履修条件	本科目はソーシャルワーク実習の実施条件を満たし、ソーシャルワーク実習を行う意志があることを履修条件とする。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ソーシャルワーク実習の事前教育として、個別指導並びに集団指導を通じて相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
技術・表現の観点 (A)	具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ソーシャルワーク実習の意義・実習先の理解	・社会福祉士の役割とソーシャルワーク実習の目標と内容 ・実習前後の流れ、指導体制の説明 ・他の科目との関連説明 ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について ・実習先の確認	事前に配付する実習の手引きを読んでおくこと。	90分
第2回	実習先の理解(高齢者分野)	高齢者施設・機関の説明 高齢者福祉の動向と課題について 高齢者施設・機関における実習について	実習報告書集の高齢者施設・機関の実習報告を読んでおくこと。 介護保険法、高齢者虐待等、高	90分

			齢者に関わる制度、現状を調べておくこと。	
第3回	実習先の理解（障がい者分野）	障がい者施設・機関の説明 障がい者福祉の動向と課題について 障がい者施設・機関における実習について	実習報告書集の障がい者施設・機関の実習報告を読んでおくこと。 総合支援法をはじめとする障がい者関連制度、現状を調べておくこと。	90分
第4回	実習先の理解（福祉事務所・社会福祉協議会）	福祉事務所・社会福祉協議会の説明 福祉事務所・社会福祉協議会の動向と課題について 福祉事務所・社会福祉協議会における実習について	実習報告書集の福祉事務所・社会福祉協議会の実習報告を読んでおくこと。 生活保護、地域福祉について調べておくこと。	90分
第5回	実習先の理解（児童福祉分野・母子・婦人保護）	児童・母子・婦人保護関連施設・機関の説明 児童・母子・婦人保護関連施設・機関の動向と課題について 児童・母子・婦人保護関連施設・機関における実習について	実習報告書集の児童・母子・婦人保護施設の実習報告を読んでおくこと。 児童虐待・DV等について、制度、現状を調べておくこと。	90分
第6回	福祉専門職による講義	社会福祉関連施設の福祉専門職による、実際の講義。 講師は後日紹介する。	授業内で指示する。	90分
第7回	実習先の理解（実習生個人票の作成）	実習先に提出する実習生個人票を作成する。 本授業内で下書きを作成し、後日巡回担当教員に各自で指導を受け、清書を作成する。	自分が行く実習先についてホームページ等で調べてくること。 実習報告書にて実習内容を確認すること。 実習において何を学びたいか、整理をしておくこと。	90分
第8回	実習先の理解（関連法令等の理解）	配属先実習分野・機関施設の根拠・関連法令の理解、運営・経営に関する理解 配属先実習機関施設のある地域に関する理解	関連法令や施設根拠を福祉六法、教科書にて理解しておくこと。 実習先の地域の特性を可能な範囲で調べておくこと。 巡回担当教員による指導	90分
第9回	実習先の理解（相談面接・援助計画等）	配属先実習分野・機関施設の相談援助業務の理解（相談面接・援助計画・苦情解決・権利擁護）	実習報告書にて、実習先分野・機関施設においてどのような支援が行われているか、確認をしておくこと。 巡回担当教員による指導	90分
第10回	実習先の理解（地域援助・ネットワーク）	配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解（ネットワーク・地域援助・サービス開発）	実習先施設・機関が有する地域援助、ネットワークはどのようなものか、またどのようなネットワークが必要かまとめておくこと。 ミクロ・メゾ・マクロの視点に留意すること。 巡回担当教員による指導	90分
第11回	実習計画の作成	実習目標・達成課題・実習計画の書き方、ポイントの説明	実習目標・達成課題についてまとめておくこと	90分
第12回	実習計画の作成	実習目標・達成課題・実習計画の作成。 巡回担当教員による指導	下書きをもとに、巡回担当教員に指導を受けること。	90分
第13回	実習ノートの理解	実習ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明と練習	配布される実習ノートを1部コピーをし、自分の1日を記録し、授業時に持参する。	90分
第14回	巡回指導の理解 倫理・守秘義務等の理解	巡回指導の目的と内容について 倫理綱領・義務規定・個人情報保護法について	社会福祉士の倫理綱領を読んでおくこと。	90分
第15回	ソーシャルワーク実習に向けての最終確認レポートについて	事故・緊急時の対応について、その他注意事項 実習生の実習における義務と権利について レポートについて	これまでの配布資料等で復習をしておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	人間福祉学科 実習指導室において実習についての資料等を自由に閲覧できる。 また、質問等は実習担当教員に質問をすること。
評価方法	授業における積極性と定められた提出物の提出状況、レポートによって総合的に評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度 (積極性)	○		○	○
レポート	○		○	○
評価割合	授業における態度 (積極性) (50%) レポートその他提出物 (50%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	「ソーシャルワーク実習の手引き」その他、授業中に適宜紹介。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 ソーシャルワークの事例を通じて、社会問題を当事者に寄り添いながらかつ客観的に受け止める力を有する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 複眼的、構造的に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を有する。</p> <p>【技術・表現】 関連分野の専門職との連携のあり方、地域との連携及びその具体的内容を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>			
オフィスアワー	水曜日 3限目 実習指導室K411-1			
学生へのメッセージ	ソーシャルワーク実習に向けての重要な科目である。実習を有意義なものにするために意欲を持って取り組んで欲しい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし
助教	朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)	「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」に続いて、実習体験から得られた成果と課題、気付きと反省等を、「実習記録」「実習報告書」として記述、作成する。具体的に実習として取組んだ内容を概念化、理論化する。また、下記の通り、具体的、実践的で基本的な理解を行う。①実習を通しての気付きや反省についてのまとめを行う②実習によって得られた自身の課題について整理する③具体的な実習体験から、社会福祉援助に係わる社会福祉専門職としての援助の実際を整理する④実習先機関、施設の業務の状況と課題について、実習生としての考察を行う。クラスワークと巡回担当教員による個別指導の授業形態がある。			
履修条件	ソーシャルワーク実習を履修した学生とする。			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
知識・理解の観点 (K)	ソーシャルワーク実習の事後教育として、実習にて体験した事項を中心に、個別指導並びに集団指導を通じて相談援助に関わる知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。			
思考・判断の観点 (K)				
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。			
技術・表現の観点 (A)	具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する			
学習計画	学習計画			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ソーシャルワーク実習を終えて	ソーシャルワーク実習指導Ⅲの進め方について書類等の提出、実習報告書の提出について、実習実働時間等の確認、お礼状	実習ノートを各自で振り返りとして目を通しておくこと。提出が必要な書類を確認しておくこと。	90分
第2回	実習の振り返り①	クラスワークプログラム・内容の報告 印象に残った出来事 学びや価値の揺らぎ、自己覚知などの話し合い 関係形成上・業務遂行上の困難な事項の話し合い その他	自身の実習内容について簡潔に発表できるようにまとめておくこと。	90分
第3回	実習の振り返り②	巡回担当教員による個別指導プログラム・内容の確認 目標・計画の達成度の確認		90分

		印象に残った出来事・体験 学びや価値の揺らぎ、自己覚知など 関係形成上・業務遂行上の困難事項 疑問・問題意識など 自己評価と教員評価 今後の学習課題の確認	自身の実習内容について前回の意見交換を踏まえてまとめておくこと	
第4回	実習の振り返り③	巡回担当教員による個別指導 プログラム・内容の確認 目標・計画の達成度の確認 印象に残った出来事・体験 学びや価値の揺らぎ、自己覚知など 関係形成上・業務遂行上の困難事項 疑問・問題意識など 自己評価と教員評価 今後の学習課題の確認	実習内容についてまとめておくこと	90分
第5回	実習の振り返り④	巡回担当教員による個別指導 プログラム・内容の確認 目標・計画の達成度の確認 印象に残った出来事・体験 学びや価値の揺らぎ、自己覚知など 関係形成上・業務遂行上の困難事項 疑問・問題意識など 自己評価と教員評価 今後の学習課題の確認	実習内容についてまとめておくこと	90分
第6回	実習の振り返り⑤	巡回担当教員による個別指導 プログラム・内容の確認 目標・計画の達成度の確認 印象に残った出来事・体験 学びや価値の揺らぎ、自己覚知など 関係形成上・業務遂行上の困難事項 疑問・問題意識など 自己評価と教員評価 今後の学習課題の確認	実習内容についてまとめておくこと	90分
第7回	実習の振り返り⑥	クラスワーク 個別指導を踏まえての実習の振り返り 発表と意見交換	実習についてまとめておくこと	90分
第8回	実習の振り返り⑦	クラスワーク 実習報告会の発表準備と原稿について説明 実習報告書について説明	実習についてまとめておくこと	90分
第9回	実習の振り返り⑧	巡回担当教員による個別指導 実習報告会の発表準備と原稿作成 実習報告書の作成	実習についてまとめておくこと	90分
第10回	実習の振り返り⑨	巡回担当教員による個別指導 実習報告会の発表準備と原稿作成 実習報告書の作成	実習についてまとめておくこと	90分
第11回	実習の振り返り⑩	巡回担当教員による個別指導 実習報告会の発表準備と原稿作成 実習報告書の作成	実習についてまとめておくこと	90分
第12回	実習の振り返り⑪	巡回担当教員による個別指導 実習報告会の発表準備と原稿作成 実習報告書の作成	実習についてまとめておくこと	90分
第13回	実習の振り返り⑫ 実習報告会	実習指導者を招き、実習について報告を行う。 開催日は通常の授業日と異なる場合があるので注意すること。詳細は授業内で説明する。	教員の指導を受けながら、各自で発表の準備をすること。	90分
第14回	実習の振り返り⑬外部講師による講義	社会福祉関連施設職員による講義 専門職として重要な視点とは。	これまでの報告書、報告会原稿を読み直しておくこと。その際、自身の専門性がどの程度のものかに留意すること。	90分
第15回	実習の総括レポートについて	これまでのまとめを行う レポートのついて説明	これまでの実習、実習指導について学んだ事、自身の課題についてまとめておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更する場合がある。			
学生へのフィードバック方法	人間福祉学科 実習指導室において実習についての資料等を自由に閲覧できる。また、質問等は実習担当教員に質問をすること。			
評価方法	授業における積極性と定められた提出物の提出状況、レポートによって総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度 (積極性)	○		○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	授業態度（積極性）（50%） レポートその他提出物（50%）	
使用教科書名（ISBN番号）	「社会福祉援助実習の手引き」、その他適宜紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ソーシャルワーク実習での体験的事例を通じて、社会問題を当事者に寄り添いながらかつ客観的に受け止める力を有する。 【関心・意欲・態度】複眼的、構造的に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を有する。 【技術・表現】関連分野の専門職との連携のあり方、地域との連携及びその具体的内容を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	
オフィスアワー	火曜日 3限目 実習指導室K411-1	
学生へのメッセージ	この科目は、ソーシャルワーク実習を実施する人に限定しています。登録の際は、この点を考慮して行ってください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>学校は今、様々な課題に直面している。義務教育の小中学校では、虐待や不登校・いじめ・発達障害・保護者による激しいクレーム等、高等学校では中途退学や学費未納・女子生徒のデートDVや妊娠、大学等でも中途退学や発達障害等がその代表としてあげられる。こうした課題に直面することも達の最善の利益を、教育現場で実現していくのが、スクールソーシャルワーカーである。教育現場では長年、心理学を専門とする者（スクールカウンセラー）が長く活動してきたが、心理学の専門家とは違う視点やアプローチが求められている中で、スクールソーシャルワーカー（社会福祉学の専門家）はどのような役割を果たせ、こうした課題に直面できるのかを、講義を通じて理解してもらいたい。</p>
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特に条件はないが、精神保健に関する科目の履修をしていることが望ましい。
------	-------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義と必要性を理解することができる。 ②スクールソーシャルワークの発展過程を理解することができる。 ③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動を理解することができる。 ④スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解できる。権利擁護モデル、地域生活支援モデル。 ⑤スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども観を獲得できる。 ②子どもの貧困を理解し、支援展開を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	出席及びリアクションペーパーの記述にて、本観点を評価する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義の概要			
第2回	今日の学校教育現場の課題	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	日頃から、新聞報道される、学校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	15分～30分
第3回	今日の学校教育現場の課題	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	日頃から、新聞報道される、学校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	15分～30分
第4回				15分～30分

	今日の学校教育現場の課題	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	日頃から、新聞報道される、学校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	
第5回	スクールソーシャルワーク導入の意義	上記の課題を踏まえて、スクールソーシャルワークが導入された経緯を理解する。	「現代社会と福祉」（社会福祉原論）で触れられる、歴史（社会福祉発達史）について復習しておくこと。	30分
第6回	スクールソーシャルワーク発展過程	スクールソーシャルワークの歴史について、主に日本について理解する。	「現代社会と福祉」（社会福祉原論）で触れられる、歴史（社会福祉発達史）について復習しておくこと。	30分
第7回	スクールソーシャルワークの実際	スクールソーシャルワーカーに求められる学校理解（学校文化・教師文化・学校の福祉機能）について理解する。	指定したテキストの当該箇所を、事前に読んでおくこと。	30分
第8回	スクールソーシャルワークの実際	スクールソーシャルワーカーに求められる学校理解（学校文化・教師文化・学校の福祉機能）について理解する。	指定したテキストの当該箇所を、事前に読んでおくこと。	30分
第9回	スクールソーシャルワークの支援理論	スクールソーシャルワーカーに必要な、支援理論について理解する。	援助技術に関する科目で学んだことを、事前に復習しておくこと。	31分
第10回	スクールソーシャルワークの支援理論	スクールソーシャルワーカーに必要な、支援理論について理解する。	援助技術に関する科目で学んだことを、事前に復習しておくこと。	31分
第11回	ここまでのまとめ	理論学習を振り返る。小テストを実施。		
第12回	スクールソーシャルワークの実例事例Ⅰ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第13回	スクールソーシャルワークの実例事例Ⅱ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第14回	スクールソーシャルワークの実例事例Ⅲ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第15回	講義のまとめ	本講のまとめ。小テストを実施予定。		

学生へのフィードバック方法	オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。
---------------	-----------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合	リアクションペーパー（50%）、定期試験（50%）で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「スクールソーシャルワーカーの学校理解」鈴木編著 ミネルヴァ書房
参考図書	①「新スクールソーシャルワーク論 子どもを中心にすえた理論と実践」山下・内田・牧野編著 学苑社

	②「子どもにえらばれるためのスクールソーシャルワーク」山下監修 日本スクールソーシャルワーク協会編 学苑社 ③「子どもへの気づきがつなぐ「チーム学校」 スクールソーシャルワークの視点から」鈴木・佐々木・住友編著 かもがわ出版 ④日本スクールソーシャルワーク協会編「スクールソーシャルワーク論 歴史・理論・実践」(山下・内田・半羽編著) 学苑社	
オフィスアワー	4時限眼講義終了後、17時頃までを予定。(ただし、業務が入った場合を除く)	
学生へのメッセージ	担当教員はスクールソーシャルワーク実践者ですので、実務的なことを可能な限り取り上げ、仕事がイメージできるような講義を心がけていきたいと考えています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク演習・実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>②子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成</p> <p>③子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成</p> <p>④子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めて支援（エンパワメント含む）とその評価</p> <p>⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際</p> <p>⑥校内や関係機関含めた他職種によるチームアプローチの実際</p> <p>⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際</p> <p>⑨市町村の子ども相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に案する理解。</p>
履修条件	特に条件はないが、精神保健に関する科目の履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	①日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解することができる。 ②教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。
思考・判断の観点 (K)	①SSWとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけることができる。 ②子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習ですので、出席することが原則です。またリアクションペーパーの記述内容で、評価を実施します。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	自己覚知演習		
第2回	SSW実習の意義と目的について			
第3回		社会福祉士の倫理綱領の理解		30分

	SSWrの 価値と倫理 (1)		「相談援助の基盤と専門職」の 講義で学んだことを、復習して おくこと。	
第4回	SSWrの 価値と倫理 (2)	子どもの権利条約について	外務省のHP「児童の権利に関 する条約」を読んでおくこと。	30分
第5回	SSWrの 知識 (1)	学校関連組織、生徒指導上の諸課題、関連法、社会資源	スクールソーシャルワーク論の 講義内容を復習すること。	15分
第6回	SSWrの 知識 (2)	いじめや不登校の実態と原因、子どもの障害に関する知 識、非行に関する知識	スクールソーシャルワーク論の 講義内容を復習すること。	15分
第7回	SSWrの 機能 (1)	SSWrに関する説明ロールプレイ	パワーポイントを各自作成す ること。	60分
第8回	SSWrの 機能 (2)	SSWrの広報誌の作成	こども向けの広報誌を各自作成 すること。	60分
第9回	SSWrと 環境 (1)	実習先の学校の組織体系理解と環境整備	実習先の学校が属する自治体の 組織図や事務分掌規等を調べて おくこと。	60分
第10回	SSWrと 環境 (2)	実習先の社会資源やサービスの理解と環境整備・環境開 発	実習先の社会資源やサービスの 理解と環境整備・環境開発	60分
第11回	SSWrと 環境 (3)	実習先の社会資源やサービスの理解と環境整備・環境開 発	実習先の学校が属する自治体 (ないしは配置校)の(特に児 童)福祉資源について、調査して おくこと。	60分
第12回	実習記録に ついて			
第13回	実習計画に ついて			
第14回	実務評価に ついて			
第15回	実習報告会			

学習計画注記 13回までを前期に行い、14回と15回は後期に行う。

学生へのフィードバック方法 オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
講義内での発言や参加態度			○	

評価割合 課題提出とその内容50%、講義内での発言や参加態度50%

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。必要に応じてプリント等を配布。(スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと)

参考図書 特になし。(スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと)

オフィスアワー 4時限眼講義終了後、17時頃までを予定。(ただし、業務が入った場合を除く)

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活か した授業		
アクティブ・ ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク実習(3年)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし
助教	朝倉 和子	指定なし

授業概要(教育目的)	現場実習を通して社会福祉専門職として仕事をするための基礎となる「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」についての理解を目的とする。理論と実践の統合を目指していく。学内における事例研究、演習で学習したことを応用し、実習の中で体験的に社会福祉の制度的理解、職業倫理や心構えの基本的な理解、利用者の理解、ソーシャルワーク(社会福祉援助)の過程の理解、援助の実践、自己理解などを進め統合的理解を目的とする。また、巡回担当教員による巡回を実習中に4回程度実施し実習中における指導を行う。
履修条件	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ及びソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳを履修済みであること。その他社会福祉関連科目を順調に履修できていることを条件とする。原則実習は3年次の夏期休暇中に180時間実施されるが、実習先によっては時期が異なることがある。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	ソーシャルワーク実習を通じて利用者や専門職との係りから、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
技術・表現の観点(A)	関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する。	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分
第2回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する。	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分
第3回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する。	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分

第4回	実習先職員の業務の理解・利用者の理解	利用者の背景と現状を理解する。 相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務について理解する。	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。 実習ノートの記入	90分
第5回	実習先職員の業務の理解・利用者の理解	利用者の背景と現状を理解する。 相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務について理解する。	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。 実習ノートの記入	90分
第6回	実習先職員の業務の理解・利用者の理解	利用者の背景と現状を理解する。 相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務について理解する。	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。 実習ノートの記入	90分
第7回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。 具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。 実習ノートの記入。	90分
第8回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。 具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。 実習ノートの記入。	90分
第9回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。 具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。 実習ノートの記入。	90分
第10回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。 福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。 適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。 実習ノートの記入。	90分
第11回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。 福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。 適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。 実習ノートの記入。	90分
第12回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。 福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。 適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。 実習ノートの記入。	90分
第13回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。 福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。 適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。 実習ノートの記入。	90分
第14回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。 福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。 適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。 実習ノートの記入。	90分
第15回	実習のまとめ	実習生、実習担当職員、巡回担当職員による実習の振り返り。	実習での疑問、課題、達成度についてまとめておくこと。	90分

学習計画注記	実習先の状況等により、スケジュールが変更となる場合があります。
学生へのフィードバック方法	実習担当教員、巡回担当教員とのグループ及び個別指導による。 人間福祉学科 実習指導室において実習についての資料等を自由に閲覧できる。 また、質問等は実習担当教員、巡回担当教員に質問をすること。
評価方法	実習先からの実習内容の評価、実習担当教員による実習内容の評価、実習報告書の提出（必須）、その他実習先への提出物の確認/各種検査の有無/実習準備/実習期間の態度/礼状の提出など、実習の事前/事後について手続を完了しているかどうかを含め、総合的に判断する。（実習先からの評価50%、学内における評価50%） なお、ソーシャルワーク実習指導、その他関連科目の出席状況、履修状況が芳しくない

等、担当教員が実習実施が困難であると判断した場合等は実習実施を取りやめることもあるので、注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習先からの評価	○		○	○
学内における評価	○		○	○

評価割合

実習先からの評価50%、学内における評価50%

使用教科書名 (ISBN番号)

ソーシャルワーク実習の手引き・他

参考図書

適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】ソーシャルワーク実習を通じて、社会問題を当事者に寄り添いながらかつ客観的に受け止める力を有する。
 【関心・意欲・態度】複眼的、構造的に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を有する。
 【技術・表現】関連分野の専門職との連携のあり方、地域との連携及びその具体的内容を実践的に理解する力を有する。

オフィスアワー

各巡回担当の教員に確認のこと。
 実習指導室：前期水曜日3限目 後期火曜日6限目

学生へのメッセージ

社会福祉施設・機関における、具体的かつ実践的な学びのチャンスです。利用者のみならずと関わることへの責任感を持ち続けることができる学生の参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食生産体験演習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

授業概要(教育目的)

1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもあります。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通じた「食育」の学びとなります。野菜等を育成栽培する基礎知識、栽培管理の実体験を通して野菜栽培を学ぶ。他の教員による、食生産関係の見学会を数回予定している。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	野菜の品種と料理の関係、栽培の方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	一般的な夏野菜、冬野菜の野菜栽培ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、屋上グループ分け、屋上プランター種の植付け(枝豆)	野菜の生産と管理、それぞれの野菜の植物としての特徴を知り、適した育成の仕方を学ぶ。	種の植え方、管理の方法を資料で、復習しておく。	90分
第2回	畑栽培説明、グループ分け、看板製作作業	野菜の種類により、栽培が異なることを理解する、それぞれの方法を学ぶ。	種の植え方、管理の方法を資料で、復習しておく。	90分
第3回	畑植付けの準備(マルチ)	土のpH値測定、マルチを張り、ミニトマト、キュウリの植付け準備を学ぶ。屋上プランターの苗の間引き作業を体験する。	畝の作り方、道具の使い方、間引き、誘引作業を資料で復習しておく。	90分
第4回	畑、苗の植付け(ミニトマト・キュウリ)	ミニトマトには、コンパニオンプランツとしてニラをキュウリにはネギを同時に植え、生育、病中対策に良いことを理解する。	コンパニオンプランツの種類、効果を調べる。	90分
第5回		苗の管理方法、誘引や追肥、ネット掛けの方法を学ぶ。	資料を確認しておく。	90分

	支柱立て、誘引作業、追肥、土寄せ作業			
第6回	屋上、追肥作業	野菜栽培についての資料、野菜の科目、分類、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、好光性・嫌光性種子、種の撒き方、コンパニオンプランツ、定植についての知識を身に付ける。	復習しておく。後期小テストを行う。	90分
第7回	外部講師講義（予定）	卒業生を予定（食生産関係者）を招き、現場での話を伺い、現状を知る。	感想とこれからに生かしたいことをまとめ、小レポート提出。	90分
第8回	講義「食料・農業・農業白書」農林水産省派遣講師（予定）	日本の食料自給率、「食」を支える「農業」の重要性、今後の農業を担う若手農業者（農業女子）の現状を理解する。	農業女子プロジェクトについて調べる。食生産の現場について調べる。	90分
第9回	校外授業工場見学「崎陽軒横浜工場」（予定）	「しゅうまい生産」工場を見学し、見聞を広め、これからの食について考える。	レポートにまとめ、次週提出。	90分
第10回	畑、誘引、追肥、土寄せ作業	第1回ミニトマト、キュウリ、その他野菜の収穫を体験する。土寄せ、雑草取りの経験。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第11回	屋上、追肥、土寄せ作業	生育の観察、管理、散水等をの作業を行なう。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第12回	校外授業工場見学「味の素川崎工場」（予定）	原料・製造工程・品質管理など、製品ができるまでを見学し、食生産の現場を理解する。	レポートにまとめ、次週提出。	90分
第13回	野菜収穫（屋上）収穫祭	枝豆、ジャガイモ（男爵）の収穫、試食、あと片付けを体験する。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第14回	野菜収穫（畑）	ミニトマト、キュウリの収穫と糖度検査、試食を体験する。グループ作業での協調性、チームワークを学ぶ。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第15回	畑の後片付け、レポート提出	グループワーク、協調性を身に付ける。	野菜栽培、調理についての知識や体験を振り返り、後期の食生産Bへの活かし方を考えておく。	90分

学習計画注記 畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがあり、また校外授業、工場見学（2回）も先方の予約状況にもよる。また外部講師を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が多く発生すると予想されます。ご留意をお願いします。

学生へのフィードバック方法 レポート提出は、後期最初の授業で返却し、評価についてコメントをします。

評価方法 授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため協調性、チームワーク等の態度を見ます。平常点、工場見学レポート2回、小レポート、最終レポート（グループ作成）で評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
最終レポート	○			
工場見学レポート		○	○	
小レポート		○	○	

平常点				○	
評価割合	平常点（45%）、工場見学レポート2回（20%）小レポート（5%）、最終レポート（グループ作成）（30%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の栽培方法等の専門的知識を有している。 【技術・表現】一般的な夏野菜、冬野菜の栽培方法を身に付けている。				
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室				
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。				
教育等の取組み状況					
	該当 有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食生産体験演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

授業概要(教育目的)

①秋・冬野菜の栽培の基礎知識と管理方法とを実験を通して学ぶ。苗からの栽培、種からの栽培等の方法も体験する。
 土壌の酸度 (pH6~6.5) と作物の関係、収穫した野菜の糖度計測などを体験する。
 ②他の教員による、加工工場等の見学会を数回予定しているので、学外実習で広く見聞を広める。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	野菜の品種と料理の関係、栽培の方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	一般的な秋・冬野菜の野菜栽培ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	畑栽培説明、(大根の種撒き作業)	冬野菜にはどのような野菜があるのか、根菜は種から育てるため、代表的な青首大根の栽培を行ない、種蒔きの方法や手順を学ぶ。	大根の品種名と特徴、どんな料理に向くのかをネット検索し、記録を取る	60分
第2回	屋上栽培説明、種芋・球根植付け作業	ジャガイモの植え付け作業を体験する。	ジャガイモの植え付け作業の記録を取る。植え付け時期、酸度PH値、深さ、間隔、肥料の量や時期、芽の方向、芽かきのタイミング等ネット検索により調べ、本日の作業と比較する。	60分
第3回	畑(間引き作業)	大根の間引き作業を体験する。間引きながら徐々に大きく育てることを体験する。	空き時間に、散水、雑草取りの作業を行なう。	60分
第4回	校外授業工場見学「鎌倉ハム富岡商会本社工場」(予定)	食生産の現場を見学し、現状を知る。	見学して考えたことをまとめ、レポート提出。	60分

第5回	プレゼン説明、パワポの作り方説明、	パワーポイントの作り方、良いパワポづくりのポイントを理解する。	グループワーク、パワーポイントを作成する 1)	60分
第6回	講義、「野菜の品種と料理」、パワポ発表例	野菜の品種と特徴、どの品種がどんな料理に向いているのかに興味を持ち、講義の事例を参考に、他の野菜についても関心を持つようにする。グループワークとして、「新顔野菜・果物」を調べ、パワポを作成し、発表するための準備。参考事例を提示するので、参考にする。	グループワーク、パワーポイントを作成する 2)	60分
第7回	畑（間引き作業）	大根の間引き作業を体験する。間引きながら徐々に大きく育てることを体験する。	グループワーク、パワーポイントを作成する 3)	120分
第8回	外部講師講義（予定）	外部講師（卒業生を予定）食の生産、食開発等に携わっている講師を招き講義を受ける。将来の職業や仕事について考える。	感想、意見をまとめ次回提出。	60分
第9回	プレゼン作業	「新顔野菜・果物」紹介のためのパワポ作成（グループワーク）し、発表準備、発表のポイント、役割分担、練習、時間内にまとめられるかをグループで話し合う。	グループワーク、パワーポイントを作成する 4)	120分
第10回	学生プレゼン発表①	発表の体験、発表を振り返り、「良い発表とは？」を考える。	他グループの発表の良い点を考え、記録する。	60分
第11回	学生プレゼン発表②	発表の体験、発表を振り返り、「良い発表とは？」を考える。	発表の反省点を考え、記録する。	60分
第12回	校外授業工場見学「カップヌードルミュージアム」（予定）	インスタントラーメン ヒストリーキューブ、約60年前にひとつの商品から始まったインスタントラーメンが世界的な食文化へと発展（3,000点のパッケージ）を見学し食文化の歴史を学習する。	見学して考えたことをまとめ、レポート提出。	60分
第13回	野菜収穫（屋上、畑）	ジャガイモの収穫作業を体験する。	小テストのための復習。レポート作成。	予習：120分 復習：120分
第14回	収穫祭	大根の収穫と畑作業の後片付けを体験する。	小テストのための復習。レポート作成。	予習：120分 復習：120分
第15回	小テスト、レポート提出	小テスト、野菜の科目、分類、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、好光性・嫌光性種子、種の撒き方、コンパニオンプランツ、定植についての知識を身に付ける。	野菜栽培作業の体験を通して、身に付けたことを振り返り、記録する。自然を対象に作業、収穫することの難しさを記録する。	30分

学習計画注記	畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがあり、また校外授業、工場見学（2回）も先方の予約状況にもよる。また外部講師を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が多く発生すると予想されます。ご留意をお願いします。
学生へのフィードバック方法	グループワークでのプレゼン発表に対し、多くの教員から講評を行ない、良い発表とはどんな発表か、プレゼンテーション技術とはの説明を行う。
評価方法	授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため協調性、チームワーク等の態度を見ます。平常点、工場見学レポート2回、小テスト、プレゼン発表（グループ作成）で評価。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点（45%）、工場見学レポート2回（10%）、小レポート（5%）、小テスト（10%）、プレゼン発表（グループ作成）（30%）で評価。
使用教科書名（ISBN番号）	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	

	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の特徴等の専門的知識を理解し、プレゼンテーション能力を身に付けている。 【技能・表現】野菜の栽培技術を身に付けている。															
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室															
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養士論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、職業倫理と使命感のある栄養士の養成の一基盤となるものである。そのため、栄養士の有資格者や雇用者、行政の担当者からの講義を得ながら、栄養士として備えるべき資質や知識・技能を理解することを目的とする。具体的には、保育所・学校給食・高齢者福祉施設・病院などの栄養士、管理栄養士を招き、栄養士の置かれている現状と、栄養士として何か求められているかなどについて講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	栄養士の活動分野、役割、業務内容を理解し、栄養専門職としての栄養士の役割と業務内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養士業務に必要な知識が何かを理解することにより、栄養士を目指すために学ぶ意義を確認することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養士養成のためのカリキュラムおよび4年間で学ぶ意義を理解し、学ぶ意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	様々な分野で栄養士・管理栄養士として仕事をされている方々からの講義聞き、その内容についてグループディスカッションおよび発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養士の役割と業務	栄養士の仕事内容、活躍分野、役割について、管理栄養士との違いも含め解説する。	教科書の1編の「栄養士・管理栄養士の基礎知識」を読んでおくこと。	120分
第2回	食事に関する調査方法について①	食事調査の目的、方法、結果の読み取り方、分析方法について説明する。	教科書の付録の「7日間の食事を見直してみよう」を読んでおくこと。	120分
第3回	食事に関する調査方法について②	食事調査の結果から、対象者を行動変容に導く指導方法について説明する。	第3回の食事に関する調査方法について、配布資料の復習をしておくこと。また、再度教科書の付録の「7日間の食事を見直してみよう」を読んでおくこと。	120分
第4回	栄養士の働きについて	栄養士の働きについて理解する。	教科書の2編・2章を読んでおくこと。	120分

第5回	日本食品成分表について	日本食品成分表の内容および使い方を説明する。	教科書の2編・1章を読んでおくこと。	120分
第6回	献立と献立計算	献立表の記入方法および日本食品成分表を用いた献立計算方法を理解する。	調理学実習で習った献立計算の理解および復習をしておくこと。	120分
第7回	体の構造と働きについて	体の構造と働きについて理解する。	教科書の3編・1章を読んでおくこと。	120分
第8回	日本人の食事摂取基準について	日本人の食事摂取基準について、その内容と利用方法を理解する。	教科書の2編・1章を読んでおくこと。	120分
第9回	食生活・食文化の基礎知識について	日本の食生活の変化、食文化、現代の食の問題について理解する。	教科書の4編を読んでおくこと。	120分
第10回	正しい情報の選択の仕方	食と健康に関する様々な情報について、正しい選択方法について理解する。また、「科学的根拠」についても理解する。	事前に配布する資料をしっかりと読んでおくこと。また、食に関する情報、広告などにどのようなものがあるか確認しておくこと。	120分
第11回	栄養士の活動分野① 保育所	実際に保育所で活躍している栄養士から、実際の仕事内容の説明を受け、保育所の栄養士の業務内容を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章を読んで、保育所の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第12回	栄養士の活動分野② 小学校	実際に小学校で活躍している栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、小学校の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章を読んで、学校の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第13回	栄養士の活動分野③ 病院	実際に病院で活躍している管理栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、病院の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章および2章を読んで、病院の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第14回	栄養士の責務と職業倫理	栄養士の責務と職業倫理について理解する。	事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第15回	栄養士養成教育とカリキュラムとの関連	栄養士養成におけるカリキュラムおよび科目の内容を知ること、4年間の学びの流れを理解する。	学生便覧の食物学科の授業科目概要を読んでおくこと。また、配布資料（参考時間割、4年間の科目）も確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートについて、コメントを付けて返却する。
評価方法	平常点、レポート提出状況、レポート内容、グループディスカッションへの参加状況により評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点 (30%)、レポート提出状況 (30%)、レポート内容 (30%)、グループディスカッション参加状況 (10%)
使用教科書名 (ISBN番号)	めざせ栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション/小野章史編著/第一出版
参考図書	日本食品成分表

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】栄養士として探求心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲を持つ。	
オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室	
学生へのメッセージ	初回の授業に出席する前に、中学あるいは高校までに習った食物、調理、栄養、体の構造について、各自復習しておいてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	様々な分野で栄養士・管理栄養士から講義いただいた内容についてグループディスカッションを行い、感じたこと、考えたこと、気付いたこと等をグループでまとめ、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	地球環境と食		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

授業概要(教育目的)

食は人類が存続するために不可欠な要素である。一方、人口が一定水準を超えた段階から、食料の安定確保は地球環境に対する「作用」なしには持続することができなくなった。その「作用」は結果として食料の安定的生産を損ねる結果を招いており、この悪循環が地球環境の破壊を再生不能な段階まで進めることとなっている。そこで、地球環境と食料生産・食料確保との関係を理解し、持続可能な食の確保について考察する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地球環境と食にどのような関係があるのか理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	地球環境の観点から、現代の食に関する問題点を把握、理解することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解する。	授業計画で取り上げているテーマのうち自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、それぞれ食の営みとどのような関係があるのか調べる。	60分
第2回	食と地球環境の関係	私たちの食の営みが地球環境とどのような関係があるのかを俯瞰的に理解する。	発展学習として身の回りの食の営み(例:アルバイト先や日頃利用するスーパー、飲食店等)と自然環境との関係を調べる。予習として日本と世界の食糧需給の状況を調べる。	180分
第3回	日本の食料需給・世界の食料需給	地球環境と食の関係を理解するための基礎知識として日本と世界の食料需給の現状について理解する。	復習として私たちの日頃の食品消費のあり方を振り返り、どのように見直すことができるか考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより地球温暖化に関する最近の話題を調べる。	180分
第4回				180分

	地球環境と食にまつわる諸課題 ①地球温暖化	今回から7回にわたり地球環境と食にまつわる諸課題をテーマごとに学習する。第1回として地球温暖化と食の関係を理解する。	復習としてここ最近の大規模な自然災害（特に地球温暖化と関連する可能性のあるもの。例：2018年の西日本豪雨）による食産業への影響について調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより水資源に関する最近の話題を調べる。	
第5回	地球環境と食にまつわる諸課題 ②水資源の問題	水資源の現状と課題等を理解する。	復習として水の大切さについての理解を促す活動にどのようなものがあるか調べる。予習として生物多様性の言葉の意味やその意義等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第6回	地球環境と食にまつわる諸課題 ③生物多様性	生物多様性と食の関係を理解する。	復習として生物多様性が大切だという理解を促すための方策を考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより遺伝子組換え食品に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第7回	地球環境と食にまつわる諸課題 ④遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品と地球環境の関係を理解する。	発展学習としてゲノム編集技術について調べ環境への影響について考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食の工業化・グローバル化に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第8回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑤食の工業化・グローバル化	食の工業化・グローバル化と地球環境の関係を理解する。	復習として身の回りの工業化・グローバル化された食品を取り上げ、その生産から消費に至るプロセスがどのようになっているか調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品廃棄物等に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第9回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑥廃棄物問題とリサイクル	食品廃棄物や容器包装リサイクルと地球環境の関係を理解する。	復習として自分の生活における食品廃棄や容器包装の取り扱いを振り返り、どのように改善できるか考察する。予習として東日本大震災の被災地における放射能による被害や復興の状況について調べる。	180分
第10回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑦東日本大震災と食	東日本大震災における原発事故が環境と食に及ぼす影響について理解する。	復習として被災地の食の復興に関する活動にどのようなものがあるか調べ、その意義や課題等について考察する。予習として資源リサイクル事業（特にゲスト講師の携わる事業）についてインターネット等により調べる。	180分
第11回	地球環境に配慮した食の営み ① 資源リサイクル事業	資源リサイクル事業に携わるゲスト講師の講話を聞き、その活動の意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を踏まえて資源リサイクル事業を推進するための方策を考える。予習として地産地消の言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第12回	地球環境に配慮した食の営み ② 地産地消	地球環境に配慮した営みとして地産地消の活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近な地産地消の取り組み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業で学んだことと照らし合わせて考察する。予習としてフェアトレードの言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第13回	地球環境に配慮した食の営み ③ フェアトレード	地球環境に配慮した営みとしてフェアトレードの活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近なフェアトレード商品（食品）を取り上げ授業で学んだことと照らし合わせて考察する。11回から13回までの学習を踏まえて、身の回りで地球環境に配慮していると思われる営みを取り上げ、その内容、	240分

			意義、課題、可能性等について論ずる。		
第14回	ワーク 地球環境の視点からこれからの食品消費を考える	これまでの学習を踏まえて地球環境の視点からこれからの食品消費の望ましいあり方についてグループワークを通じて考究する。	復習として授業内のワークで作った提案内容を振り返り、具体的な行動に落とし込めるようにブラッシュアップする。予習としてこれまでの授業内容を確認し、疑問点や確認したいこと等を洗い出しておく。	180分	
第15回	まとめ・振り返り	これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。	試験に備えて授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、地球環境への影響を配慮しつつ、今後自分はどのように食に関わっていきたいかを考える。	240分	
学習計画注記		毎回の授業において主に学習内容を確認するためのリアクションペーパーを記載する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。			
学生へのフィードバック方法		リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。			
評価方法		定期試験は基本的な知識の定着を確認する設問と、理解度や考え方を確認するための論述式の設問により構成される。レポートは授業の復習の一環として9回目以降に実施し、記載内容、書式、考察に基づき評価する。レポート課題は授業内にて提示する。平常点は毎回のリアクションペーパーの記載内容により理解度を確認し、評価する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	
	平常点	○	○	○	
	レポート	○	○	○	
評価割合		試験60点、平常点20点、レポート20点			
使用教科書名 (ISBN番号)		特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。			
参考図書		必要に応じて紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 【思考・判断】多種様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。			
学生へのメッセージ		食と環境に関連する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。			
アクティブ・ラーニング	○	第14回の授業において学んだことを踏まえて自分たちに何ができるかを考えるグループワークを実施する。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					



シラバス参照

講義名	フードビジネス概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

授業概要(教育目的)

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえで望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：フードビジネスとは	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。	フードビジネスの全体像(生産・加工・流通・消費)を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。	60分
第2回	私たちの暮らしとフードビジネス	身近な食品を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているのかを理解する。	復習として身近な食品(授業で取り上げた以外)のいくつかについて、それぞれどのようなフードビジネスが関係しているのかを洗い出して、改めてフードビジネスと自分たちの生活との関係を確認する。予習として新聞やニュース、インターネット	180分

			トにより農業や漁業に関する最近の話題を調べる。	
第3回	フードビジネス①生産（農業・漁業：概要）	農業・漁業について概観するとともにフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として加工食品の原材料や家庭で使用している食材について産地や生産方法を調べ、さまざまな食料生産のあり方があることを確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題（特に課題に関する事柄）を調べる。	180分
第4回	フードビジネス②生産（農業・漁業：意義と可能性）	前回到続き農業と漁業を扱う。フードビジネスとしての農業・漁業の意義と可能性について理解する。	復習として前回と今回の授業で学んだ農業・漁業の現状や課題、可能性を整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品製造業に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	フードビジネス③加工・製造（食品製造業）	食品製造業について概観し、その特徴を理解する。	復習として身近な加工食品を自分自身でつくることで製造工程の複雑さや衛生管理の難しさ等を理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の流通に関する最近の話題を調べる。	180分
第6回	フードビジネス④流通（食品の流通）	食品流通の全体像について概観し、その特徴を理解する。	復習として授業で学んだ食品流通の仕組みを整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより卸売市場に関する最近の話題を調べる。	180分
第7回	フードビジネス⑤流通（卸売流通）	食品流通のうち生鮮食品（青果、鮮魚、精肉等）の卸売流通の特徴について理解する。	復習として授業で学んだ卸売流通の流れを食品の種類ごとに整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品小売業に関する最近の話題を調べる。	180分
第8回	フードビジネス⑥流通（小売流通）	食品流通のうち小売流通（スーパー、専門小売店等）についてその特徴を理解する。	代表的な小売流通であるスーパーと専門小売店について、両者で買い物をしたうえでその特徴、メリット、デメリットなどを比較し、今後、小売流通をどのように利用したいか考察する。	240分
第9回	フードビジネス⑦外食・中食	外食についてはチェーンレストランと個人経営の飲食店の比較を通して、中食についてはコンビニエンスストアを題材に、それぞれフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として外食や中食の利用に際してそのオペレーションを想像しながら授業で学んだことを確認する。予習として次週講義のゲスト講師のビジネスについてインターネット等で事前に情報収集し、その特徴等を理解する。	180分
第10回	フードビジネスの実際	フードビジネスに携わるゲスト講師を招き、フードビジネスの現場から見た意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を振り返り、当該ビジネスの意義、課題、可能性を整理し、課題解決の方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化や工業化に関する最近の話題を調べる。	180分
第11回	フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化	グローバル化や工業化が進展することでフードビジネスの領域において生起する諸課題を理解する。	復習として具体的な食品を題材に、工業化やグローバル化が進展することによる課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性や環境に関する最近の話題を調べる。	180分
第12回	フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題	食の安全性や環境に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食の安全性や環境に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として地産地消について言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍	180分

			やインターネット等により調べ る。	
第13回	これからの フードビジ ネス①地産 地消等	フードビジネスの抱える諸課題を解決するための方策の ひとつとして地産地消、スローフード等いくつかの事例 を取り上げ、その内容や意義、課題について理解する。	復習として身近な地産地消の営 み（直売所やマルシェ等）を見 聞し、授業内容に照らし合わせ て意義や課題等について考察す る。予習としてフードバンク等 NPOや市民活動団体等が行う食 に関する活動について書籍やイ ンターネット等により調べる。	180分
第14回	これからの フードビジ ネス②消費 者課題等	前回に続き、フードビジネスの抱える諸課題を解決する ための方策の事例を取り上げ、その内容や意義、課題に ついて理解する。特に消費者の立場からの解決策に着目 して学習する。	復習として身近にあるフードビ ジネスの諸課題の解決につな がると思われる事例を見聞し、授 業内容に照らし合わせて意義や 課題等について考察する。予習 としてこれまでの授業内容を確 認し、疑問点や確認したいこと 等を洗い出しておく。	180分
第15回	まとめ・振 り返り	これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成につ いて確認する。	試験に備えて授業全体を通して 学んだことを振り返り、知識の 定着を確認することはもちろ ん、自分自身が今後、どのよう にフードビジネスに向き合っ ていきたいかを考える。	240分

学習計画注記	毎回の授業において主に学習内容を確認するためのリアクションペーパーを記載する。 また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。				
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や 補足説明等によりフィードバックする。				
評価方法	定期試験は基本的な知識の定着を確認する設問と、理解度や考え方を確認するための論 述式の設問により構成される。 レポートは授業の復習の一環として7回目以降に実施し、記載内容、書式、考察に基づ き評価する。レポート課題は授業内にて提示する。 平常点は毎回のリアクションペーパーの記載内容により理解度を確認し、評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	
	平常点	○	○	○	
	レポート	○	○	○	
評価割合	試験60点、平常点20点、レポート20点				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。				
参考図書	なし。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、 様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーシ ョン力を身に付ける。 【思考・判断】多種様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 力を身につけている 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見 出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。				
学生へのメッセージ	フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律 等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。				
教育等の取組み状況					
	該当 有無	概要			
実務経験を活か した授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビ ジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。			
アクティブ・ ラーニング					

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	コミュニケーション・プレゼン演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】アクティブラーニングに対応するための基本的な対話力を養います。グループワーク形式で各種課題に取り組む過程で、コミュニケーションの基礎である受容・発信・協創等のコンピテンシーを身につけます。また、演習形式により多数の人に効果的なプレゼンテーションを行う方法を学びます。近代的な教育に適応するための初めの演習であり、今後の学びの基盤を築きます。</p> <p>【授業の形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人、または3人1組でチームを組み、ファシリテーター・プレゼンター・記録係・タイムキーパーの役割を交代しながらコミュニケーションのワークを進めていきます。 ・各クールで、メンバーの組み替えをします。クールは、3回あります。各クールでメンバーの組み替えがあります。 ・クラス全体にプレゼンテーションを行う回があります。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、チームによるディスカッションとグループワークがあります。 ・コミュニケーションでは、目と口元の情報が必要です。マスクは、極力外して参加ください。カラーコンタクトなど虹彩の動きが確認しづらいものの着用も極力外してください。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ファシリテーションが理解できている プレゼンテーションスキルが理解できている
思考・判断の観点 (K)	良好なコミュニケーションを促すための行動を思考・判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	良好なコミュニケーションを作る関心・意欲・態度が醸成されている
技術・表現の観点 (A)	ファシリテーターの役割を担うことができる 多数の人に自分の考えを表現・発信することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「グループワークの進め方と基本的なコミュニケーション技術の説明」 コミュニケーションに必要な受容と発信、コミュニケーションを促すファシリテーションをグループ形式で学びます。	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください。	60分
第2回	第1クール：チーム・ディス	「大学で学びたいこと、学ぶべきこと」 私たちは大学で何を学ぶべきでしょうか？何を学びたい	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください。	60分

	カッション ①	ですか？大学に入学した意味をグループでディスカッションし、発表します。		
第3回	第1クール：ファッション・ワーク①	「新説・桃太郎」 昔話桃太郎を題材としたグループワークから、コミュニケーションを考えます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第4回	第1クール：ファッション・スキル①	「プレゼンテーション・スキルを磨く」 良いプレゼンテーションとはどのようなプレゼンテーションでしょうか？心に響くプレゼンをTEDから学びます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第5回	第1クール：ファッション・ワーク②	「5人のツアーガイド」 あなたは、登山をすることになりました。どのガイドを連れて行きたいですか？このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第6回	第2クール：チーム・ディスカッション②	「私たちが置かれている状況について考える」 社会環境や時代を考えてみましょう。ディスカッションにより、気づきを得ます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第7回	第2クール：ファッション・ワーク③	「デザインコピー」 設計図を元に模型を組み立てます。グループで協力して取り組んでください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第8回	第2クール：ファッション・スキル②	「ジョハリの窓」 自己分析のワークをしてみましょう。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第9回	第2クール：ファッション・ワーク④	「新説・桃太郎、ふたたび」 桃太郎のワークを、メンバーを変えてもう一度してみましょう。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第10回	第3クール：チーム・ディスカッション③	「ジェンダーと女性の自立」 ジェンダーを考えてみましょう。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第11回	第3クール：ファッション・ワーク⑤	「5人のツアーガイド、ふたたび」 5人のツアーガイドのワークを、メンバーを変えてもう一度やってみましょう。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第12回	第3クール：ファッション・スキル③	「観察する」 私達が普段どのようなコミュニケーションをしているのかを観察してみましょう。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第13回	第3クール：ファッション・ワーク⑤	「干ばつを救え」 干ばつを救うため井戸を探します。グループで協力してプロジェクトを成功させてください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。 次回のショートプレゼンの準備 をしてください。	60分
第14回	ショートプレゼン	「効果的に大勢の人の心に伝える」 あなたの興味のある題材について、短いスピーチをしてみてください。うまくプレゼンする必要はありません。あなたらしいプレゼンをしてみてください。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分
第15回	まとめのファッション・ワーク	「共に成長する」 最後のワークです。コミュニケーションを高めるために、今後どのようなことをしたら良いかクラス全体で共有します。	本日のグループワークに対する 振り返りをGoogle Classroomへ 投稿してください。	60分

学生へのフィードバック方法

各回の「本日のグループワークに対する振り返り」について、期限内に回答された方には、コメント・アドバイスをします。

評価方法

・ 演習への参加度とショートプレゼンテストは、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます）

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習への参加度	○	○	○	○
ショートプレゼン	○	○	○	○
評価割合	演習への参加度: 15×6点 = 90点 ショートプレゼン: 10点			
使用教科書名 (ISBN番号)	スライドとプリントを使用します。スライドのpdfファイルは、Google Classroomから入手可能です。			
参考図書	Google Classroomのクラスコード: u7hxcfd 実践 人間関係づくりファシリテーション この参考書は、それぞれのグループワークが終了してから該当箇所を読むようにしてください。先入観を排除するためです。			
参考URL	https://classroom.google.com/u/0/w/Mjc3NzU1MDIwMzNa/t/all			
ディプロマポリシーとの関連	様々な立場や状況の人々との意思疎通ができるコミュニケーション力とプレゼンテーション力を身につけている			
オフィスアワー	木曜日と金曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること			
学生へのメッセージ	楽しく、有意義で役に立つ演習にしたいと思います。みなさんの積極的でポジティブな姿勢が授業を楽しくします。爽りのある時間にしましょう。みなさんの建設的な意見も積極的に取り入れてきます。ファシリテーションの技術は、ティーチングにとっても役に立ちます。教職を目指す学生にもお勧めします。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	企業で経験したチーム形成マネジメントの経験をもとに、コミュニケーションに必要なことを伝えます。大学生が理解できる内容・レベルに変えて授業を展開しています。ファシリテーションスキルの基礎が学べます。		
アクティブ・ラーニング	○	学生どうしのディスカッションやグループワークがあります。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	有機化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

授業概要(教育目的)

有機化学で学ぶべき課題を基礎的な事項から複雑な生体構成成分まで学習する。特に食品、生体分子に関連する有機化合物の理解に力を入れる。生体分子や食物に含まれる有機化合物のみならず、私たちの身のまわりに存在する有機化合物についても、その性質や反応性について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1、有機化合物の構造の分類、構造の特徴を知る。 2、官能基や立体的な特徴を理解する。 3、酸化・還元、置換、付加、脱離など基本的な反応機構を理解する。 4、生体構成有機化合物の基本的な構造や特徴を理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1、生体構成有機化合物の構造や特徴をこれまでに学んだ基本事項と結びつけて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1、それぞれの単元で積極的に課題に取り組み、理解を深める。 2、小テスト、確認テストでの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	有機化合物の分類と化学結合	有機化合物における化学結合は主として共有結合である。炭素原子の結合様式、単結合、二重結合、三重結合などによって炭化水素を分類する。また、官能基による分類についても学ぶ。共有結合の他にも、イオン結合、水素結合について学習する。	教科書第1章の「有機化学を学ぶにあたって」、第2章の「有機化合物の分類と化学結合」(1~18ページ)を読んでおくこと。高校時代、もしくは化学入門の授業で学習した炭素原子の結合様式、官能基についての復習を行う。	120分
第2回	有機化合物の立体化学 I	同じ分子式をもっているが、化学構造や物理的性質が一致しない分子を互いに異性体と呼ぶ。異性体は構造異性体と立体異性体に大別され、立体異性体は、さらに幾何異性体及び鏡像異性体に分類される。第2回では、これらの異性体と、旋光性、不斉炭素について学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の3.1から3.4(19~28ページ)を読んでおくこと。授業のはじめに、第一回の復習として、有機化合物の官能基による分類の小テストを行う。官能基について十分に復習する。	180分
第3回				180分

	有機化合物の立体化学 II	主に炭素原子上の立体関係、すなわち立体配置、及び原子に結合している置換基の相対的な立体関係の立体葉いざについて学ぶ。また、食品成分の立体化学についても学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の3・5、3・6 (28~36ページ) を読んでおくこと。授業のはじめに、第2回の復習として、鏡像異性体について的小テストを行う。前回の授業「有機化合物の立体化学 I」の復習を十分に行い、演習問題を解いておくこと。	
第4回	鎖式炭化水素 (アルカン、アルケン、アルキン) の命名法と特徴	炭化水素の中でも鎖状飽和炭化水素アルカンと二重結合、三重結合をもつ不飽和炭化水素アルケン、アルキンの命名法、特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」アルカン、アルケン、アルキン (37~42ページ) を読んでおく。高校時代、もしくは化学入門で学習したアルカン、アルケン、アルキンの命名法を復習しておく。授業のはじめに、立体配座について的小テストを行う。前回授業「有機化合物の立体化学 II」の復習も十分に行うこと。	180分
第5回	芳香族化合物	環状の炭化水素の特徴、命名法について学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の環状炭化水素 (43~46ページ) をよく読んでおくこと。授業のはじめに、鎖式炭化水素の命名、特徴について的小テストを行う。前回授業の「鎖式炭化水素の命名法と特徴」について十分に復習すること。	180分
第6回	官能基による特徴・・・酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物	酸素、硫黄を含む有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴 A (46~57ページ) をよく読んでおくこと。授業のはじめに、芳香族化合物について的小テストを行う。前回授業「芳香族化合物」の復習を十分に行うこと。	180分
第7回	官能基による特徴・・・窒素含有有機化合物	窒素含有有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴 B (57~66ページ) をよく読んでおくこと。授業のはじめに、酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物について的小テストを行う。前回授業の復習を十分に行うこと。	180分
第8回	第1回から第7回確認テスト 有機化合物の反応・・・酸化還元反応	酸化・還元とは電子の受け渡し、すなわち酸化数の変化を伴う反応である。有機化合物の酸化では、主として分子中に酸素が入るか、または分子から水素が脱離する。一方、有機化合物の還元では、主として分子中に水素が入る反応である。また、分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・1 (67~72ページ) を読んでおく。授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。第7回までの範囲を十分に復習しておくこと。	240分
第9回	有機化合物の反応・・・置換反応	分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・2 (72~79ページ) を読んでおく。授業のはじめに、前回確認テストの解説を行う。間違えた問題については、レポートにまとめて提出すること。	240分
第10回	有機化合物の反応・・・付加反応	不飽和結合や環を有する分子へ別の分子が結合する付加反応について学ぶ	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・3 (79~82ページ) を読んでおく。授業のはじめに、置換反応について的小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	180分
第11回	有機化合物の反応・・・脱離反応	ある分子から2個の原子または置換基が取り去られ、その位置に不飽和結合、または環が生成する脱離反応についてその反応様式を学ぶ。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・4 (83~86ページ) を読んでおく。授業のはじめに、付加反応について的小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	180分

第12回	第8回から第11回までの確認テスト 炭水化物	生体構成有機化合物である炭水素について、構造、構成単位、分類や特徴について学ぶ。 糖アルコール、糖の酸化物などの糖誘導体について、その構造や分類、特徴について学ぶ。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。	教科書第6章「炭水化物」の(87~102ページ)を読んでおく。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。 有機化合物の反応の復習も十分にしておくこと。	240分
第13回	アミノ酸と蛋白質	生体構成有機化合物であるアミノ酸、蛋白質について、その構成単位や立体構造による特徴や結合様式について学ぶ。	教科書第7章「アミノ酸と蛋白質」(103~113ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。間違えた問題についてはレポートにまとめて提出すること。	240分
第14回	脂質	生体構成有機化合物である脂質を基本的な構造や特徴に分類しながら学ぶ。	教科書第8章「脂質」(114~122ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、「アミノ酸と蛋白質」の小テストをおこなう。前回授業の復習を十分にすること。	180分
第15回	ビタミン、核酸	生体構成有機化合物であるビタミンについて、その分類方法や基本的な構造、特徴について学ぶ。また、核酸の構成単位を知り、その構造や特徴について学ぶ。	教科書第9章「ビタミン」、第10章「核酸」(123~141ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、「脂質」について的小テストを行う。前回授業の復習を十分に行うこと。 また、定期試験に向けて、全範囲の復習を行うこと。	420分

学生へのフィードバック方法	授業毎に小テストを行い、理解度を確認します。次回の授業にて小テストの解説を行います。質問等は、授業終了後に質問に来ること。
---------------	---------------------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業での小テストと単元ごとの確認テストを重視する。 ・小テスト及び確認テストの間違い直しを課題提出として実施する。 ・定期テストでは、小テストや確認テストの振り返りを含む問題、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 ・小テスト、確認テスト及び定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施している。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○	○	
課題提出	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合	出席、小テスト、確認テスト、課題提出を含む平常点(50%)および定期試験の得点(50%)により評価する。 平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	基礎有機化学 (栄養科学シリーズNEXT) 講談社サイエンティフィック (978-4-06-155357-6)
-----------------	---------------------------------------------------------

学生へのメッセージ	「化学入門」を履修すること。 繰り返しテキスト読み、併せて配布するプリントを見直して下さい。 小テストの直しは確実に行い、分からない単元を残さないように進めてください。 有機化学の基本的な手法や考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	分子生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

授業概要(教育目的)	生命の基本的特性のひとつである遺伝現象を司る遺伝子のはたらきを明らかにすることを目的に、DNA・ゲノムの構造・機能、遺伝情報の解読・利用の仕組みを学び、さらには、近年注目されているエピジェネティクスや遺伝子組換え技術について理解を深める。免疫や代謝等の重要な生命現象についても、分子生物学的視点から解説し、その機構について明らかにしていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物を構成している主要物質について、構造・機能を説明できる 遺伝現象について、その原理を説明できる DNAやRNAの構造・機能について説明できる
思考・判断の観点 (K)	生命維持に関わる物質について、構造や所在からその機能を類推することができる 今後発展が予想される遺伝子に関する科学技術について、その意義・問題点等を評価・批判することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	生命維持に関わる物質を、摂食によって得られる要素と関連付け、食に関する興味・関心をもつ 遺伝子に関わる技術が人間社会におよぼす影響について関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	分子生物学で扱う領域を説明し、高等学校で学んだこととの関連を解説します。	高等学校で学んだ遺伝に関する領域において頻出の用語について、その意味・内容を理解しておく。授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておくこと。	240分
第2回	生命を支える物質	生物の体を構成しその活動を支える物質—有機物として、タンパク質・糖質・脂質について概要を説明する。	高等学校で学んだ有機物に関する知識を再確認しておく。また、授業で学んだ有機物に関する事項について、ノートの記事で確認しておくこと。	240分
第3回	細胞の構造と機能	さまざまな細胞の形態・構造とその機能の関わりについて理解を深める。細胞内の構造であるオルガネラについては、その機能と生命維持との関わりについて解説する。	高等学校で学んだ細胞に関する知識を再確認しておく。また、授業で学んだ細胞に関する事項	240分

			について、ノートの記述で確認しておくこと。	
第4回	細胞とゲノム	生物を規定する遺伝子の最小単位であるゲノムについて、ヒトを例にその実体を説明する。	ゲノムという言葉について、身の回りで使われている例を見つけ、その内容を調べる。	120分
第5回	DNAの構造	遺伝子の本体であるDNAについて、分子構造上の特徴とその性質について学ぶ。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。授業後は、DNAの構造について新たに学んだ内容をノートで確認しておく。	120分
第6回	DNAと染色体	DNAが染色体の構成にどう関わっているか学び、染色体の挙動と性別や血液型などの遺伝現象との関連を理解する。	高等学校で学んだ染色体に関する知識を再確認しておく。また、ヒトの染色体についてその本数や性染色体などの特徴を調べておく。授業後は遺伝現象を染色体の挙動から説明できるように復習しておく。	240分
第7回	DNAと遺伝子	DNAという物質が遺伝子として機能するしくみを学び、遺伝子の実体を理解する。	高等学校で学んだ遺伝子に関する知識を再確認しておく。	120分
第8回	DNAの複製	DNAの構造と複製の課程との関連を解説し、細胞分裂時におけるDNAの挙動と複製機構を理解する。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。特に細胞周期について理解した上で授業に臨むこと。	120分
第9回	DNAからRNAへ	セントラルドグマと言われる遺伝子からタンパク質への流れを理解し、その流れの中でDNAの塩基配列がRNAに転写される仕組みを学ぶ。	高等学校で学んだDNAやRNAに関する知識を再確認しておく。特に、DNAとRNAの違いについて理解しておくこと。	120分
第10回	RNAからタンパク質へ	映像資料も利用して、RNAの塩基配列が翻訳され、目的とするタンパク質が合成する仕組みについて学ぶ。	高等学校で学んだRNAに関する知識を再確認しておく。また、タンパク質の基本構造についても予習しておくこと。	120分
第11回	複製・転写・翻訳	これまで個々に学んだ複製・転写・翻訳について、この過程全体を通じて再度それぞれの機構を理解する。特に、転写時におけるプロセッシングや翻訳時のコドン対応についてより詳しく学ぶ。	これまでの授業で学んだDNA・RNAに関する事柄をノートやハンドアウトで振り返り、その内容を再確認しておく。授業後に翻訳に関する課題に取り組むこと。	360分
第12回	エピジェネティクス	遺伝子の塩基配列によって制御されない遺伝現象として最近注目されているエピジェネティクスについて学び、その機構がヒトの形質発現にどう関わっているのかを理解する。	エピジェネティクスをキーワードに、身近な例について調べておく。	120分
第13回	免疫の多様性と遺伝子	免疫機構について学び、多様な抗原に対して対応できる仕組みを遺伝子制御の観点から理解する。	高等学校で学んだ免疫に関する知識を再確認しておく。特に、体液性免疫についてその発現の機構を復習しておくこと。	120分
第14回	遺伝子に関する最近の話題	iPS細胞や遺伝子治療、遺伝子組換え技術など、新しい分子生物学上の技術について解説し、私たちの暮らしにどう関わっていくかを考える。	ネットや新聞、図書館にある書籍などを用いてiPS細胞や遺伝子治療、遺伝子組換え技術について知識を深めておくこと。また、これらのメリットそして問題点を考えておくこと。	120分
第15回	生命と遺伝子	この授業で学んできた遺伝子に関する内容を復習・再確認し、遺伝子が支える生命と遺伝子が駆動する進化について理解を深める。	これまでの授業ノートの内容を通覧し、疑問な点を明確にしておくこと。また、授業終了後にもこれまでの授業内容で不明確であった部分も含め、総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。遺伝子を中心とした分子生物学的な知識を十分に得ているか。また、分子生物学的な技術の利点・問題点等を理解しているかなどを評価する。
評価基準	

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○
評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。			
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。			
参考図書	ワトソン遺伝子の分子生物学 第7版 東京電機大学出版局 細胞の分子生物学 第6版 ニュートンプレス よくわかる分子生物学の基本と仕組み 第2版 秀和システム			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境は遺伝子の働きについても影響します。その原理等を理解することができます。 【思考・判断】情報を整理し、客観的な判断ができるような基礎力が身につきます。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について、関心をもち、自ら課題を見だし、その解決に意欲的に取り組むことができます。			
オフィスアワー	後期 木曜日昼休み・3限 (12:30~14:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。			
学生へのメッセージ	分子生物学の分野は、近年最も発展している分野のひとつで、日々新しい発見が生まれています。その知見を応用した技術は、暮らしを便利にしたり、病気を治したりすることに留まらず、人間の生まれ持った個性や寿命にまで影響するような段階にきています。本講義を受講して、これらの知識・技術の基本を理解し、その有用性と問題点について理解を深めて下さい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では、グループワークによる課題検討を行います。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	統計学演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】統計の基礎概念を理解し、計算方法を習得します。実験データや社会調査結果がどのように数値化され、意味付けられているかを演習形式で学んでいきます。疫学や心理統計学の考え方も紹介していきます。</p> <p>【授業の形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座学で統計の考え方と計算方法を説明した後に、演習で演習問題に取り組みます。演習後に、もう一度統計の考え方と計算方法を振り返ります。 ・演習では、4人または3人1組でグループを組み、助け合って解答を見つけます。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p> <p>【教室について】座学は、1206教室；演習は、第1PC室（1401教室）です。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・四則演算、指数、平方根、分数が理解できて、計算できること。 ・確率と期待値が理解できていることが望ましい。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	統計学の基礎概念と計算方法が理解できている
思考・判断の観点 (K)	データを数値化して、評価できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ものごとを主観だけでなく、客観的に分析して判断する態度が身についている
技術・表現の観点 (A)	エクセルソフトウェアを使いこなせている

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【座学1】事前調査/統計学を学ぶ意義/演習①の解説	基礎知識テスト/統計学の概要と目的/基礎となる数学の座学	統計学を学ぶ目的と意義を確認すること；講義の内容を復習しておくこと	60分
第2回	【演習①】高校数学の復習/Googleアプリケーションとエクセル・ソフトウェアの利	基礎知識の答え合わせ/PC室PCへのログイン・Googleアカウントログイン・Google Classroom, Gmail, Googleドライブ, Googleカレンダーの使い方/マイクロソフトオフィス・エクセルの基本的な使い方・基本演算子の使い方・基本統計量の演算子・統計ソフト(アドイン)ベルカーブの使い方	基礎知識テストで解答できなかった問題を復習すること。統計に必要な中・高の数学を復習すること；本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分

	用方法／基本統計量			
第3回	【座学2】 演習①の振り返り／演習②の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第4回	【演習②】 データと尺度 データ／データの分布／母集団と標本／統計的仮説検証と有意水準	VAS法によるチョコレートの官能検査／LOXレス大豆と普通大豆の重量比較／尺度・ヒストグラム・正規分布	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第5回	【座学3】 演習②の振り返り／演習③の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第6回	【演習③】 散布図と相関、相関係数の検定	共分散・相関係数・相関の種類・因果関係と相関	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第7回	【座学4】 演習③の振り返り／演習④の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第8回	【演習④】 クロス集計と連関・カイニ乗検定	カテゴリカルデータの解析と検定／Google Formによるアンケート調査と解析	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第9回	【座学5】 演習④の振り返り／演習⑤の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第10回	【演習⑤】 2つの平均値の比較(t検定)	VAS法によるチョコレートの嗜好性の分析	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第11回	【座学6】 演習⑤の振り返り／演習⑥の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第12回	【演習⑥】 3つ以上の平均値の検定(分散分析)	ミネラルウォーターの官能検査とデータ解析(2)分散分析表と多重比較(1要因被験者内)	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第13回	【座学7】 演習⑥の振り返り／演習⑦の解説	前回の演習について振り返りを行なったのち、次回の演習に必要な統計理論と計算方法を座学で説明します。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度読んで、次回の演習問題を予習しておくこと	60分
第14回	【演習⑦】 疫学と統計	サンプリング・有意とp値・推定に関する注意点／事例研究とメタ分析／リスクとオッズ	本日の演習でやり残した課題を完了しておくこと、わからなかった所について次回質問できるように準備しておくこと	60分
第15回	【座学8】 演習⑦の振り返り／まとめ	前回の演習の振り返りを行なった後、本授業で説明した統計学の概念と計算方法をもう一度おさらいをします。期末試験に向けて、質疑応答に対応します。	期末試験の準備を進めてください。	60分
学生へのフィードバック方法		座学で前回の演習について振り返りを行なうので、わからなかったことを積極的に質問してください。		
評価方法		授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること(参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます)		
評価基準				
評価基準				

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	
期末試験	○	○		
評価割合	授業への参加度 (4点×15=60点) 期末試験 (40点)			
使用教科書名 (ISBN番号)	よくわかる心理統計 (ISBN-13: 978-4623039999)			
参考図書	Google Classroomのクラスコード: ad9y2i			
参考URL	https://classroom.google.com/c/Mjc3NzU1MDIwNTRa			
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている ・統計学が栄養学、疫学、官能評価や社会心理学の基盤を形成していることを理解し、食生活を取り巻く様々な事象について、統計学の視点から自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる 			
オフィスアワー	木曜日と金曜日 昼休み フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること			
学生へのメッセージ	ものごとを数値で評価する利点は、先入観に基づいた誤りを少なくすることです。特に、統計を学んでおくと、官能検査、疫学調査、社会調査のデータの信頼性を高めることができます。本授業では、数学的原理をなるべくわかりやすく説明し、統計の手法をどのように利用するかを学んでいきます。もちろん、統計学に興味のある方は、進んで数学を学んでください。このクラスで学んだことは、必ず卒業研究に役立ちます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	グループで演習を行い、学生どうしで助け合って課題を解きます		
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	エクセルソフトウェアによる演算と、アドインのベルカーブ統計の使い方をマスターします		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし
准教授	黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	実験実習を通して、食品科学の基礎となる化学・生化学・生物学の考え方と実験技術を学ぶ。試薬調製、ガラス器具の操作、滴定や酵素反応などの基本的な実験操作や生物学の基礎実験を実習し、クリティカルシンキング、仮説構築と検証など基本的な考え方を理解する。また、ラボノートの作成や研究倫理についても学習し、専門科目の学びの基盤を築く。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	動植物細胞や生物の構造・特徴を具体的に列挙できる 代表的な食品成分や生体成分の化学構造と性質の関係が理解できている モル・pH・中和反応など、基礎化学分析に必要な概念を説明できる
思考・判断の観点 (K)	実験結果から作用機序等について理論的な推論が行える 化学反応に関して定量的な解析ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループ内でコミュニケーションを取り、協調して実験操作できる 主体的に実験に参加し、そのグループの課題解決に寄与できる 自然科学を背景とした合理的で根拠に基づいた考え方が身についている
技術・表現の観点 (A)	顕微鏡操作に習熟する 薬品等の計量・扱いができる 化学反応の観察・測定ができる 化学分析に必要な計算ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション ／班分け・準備作業、科学的思考法の説明	班分けとそれに伴う実験の準備、実験を行うにあたっての基本的な注意事項を説明する。科学的思考法について解説し、ラボノートの記載の仕方、注意点を説明する。		0分
第2回	顕微鏡・ミクロメータの使い方	顕微鏡の各部名称・操作方法を説明し、ピント合わせ、絞り調節などの基本操作を行う。さらに、ミクロメータの使用法を説明し、各倍率での目盛の計算を行う。	事前にテキストの該当部分を熟読し、顕微鏡各部の名称や基本的な操作手順について理解しておく。	0分

第3回	植物細胞の構造	植物細胞を材料として顕微鏡操作に慣れる。植物細胞内の構造を観察し、その形態・特徴を記述する。さらに、マイクロメーターを用いて細胞の大きさを測定する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、実験の手順について理解しておく。	0分
第4回	動物細胞の構造	動物細胞の観察を通じて、顕微鏡操作に習熟する。前回行った植物細胞の観察から得られた知識から、動物細胞の特徴を理解する。ヒトの血液細胞（血球）の特徴を理解する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、実験の手順について理解しておく。	0分
第5回	生物集団の研究法	生物集団を対象とした研究方法を実習し、その原理を理解する。作業方法とデータの信頼性について理解を深める。実験によって得られた結果はグループ単位で検討し、その検討結果を各グループ間で検証する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、個体数の推定方法に関わる数式について理解しておく。	0分
第6回	酵素実験・DNA抽出実験の事前学習	実験手順とその意味について詳細に解説する。また、酵素やDNAの基本的な性質について説明し、コハク酸デヒドロゲナーゼの作用、DNAの特徴について理解を深める。	予めテキストの該当部分を読み、実験操作の意味が分からない部分をチェックしておく。	0分
第7回	コハク酸デヒドロゲナーゼの働き	生体内で行われている酵素反応を、生体外の比較的簡単な系を用いて再現し、酵素の働きについて理解を深める。試薬の計量や実験器具の取り扱いに習熟する。確認された実験結果を理論的に解釈し、その反応過程を合理的に説明する。	第6回の授業で得た知識をもってテキストの該当部分を熟読し、実験の手順とその操作の意味について理解しておく。	0分
第8回	DNA抽出実験	遺伝情報の担い手であるDNAを細胞から抽出し、その存在を肉眼で確認する。抽出したDNAを用いて、その性質について理解を深める。	第6回の授業で得た知識をもってテキストの該当部分を熟読し、実験の手順とその操作の意味について理解しておく。	0分
第9回	【化学分野①】化学結合を理解する（1）化学結合の基本・分子の極性	私たちが学ぶ対象は、食品やヒトです。食品やヒトはどのような元素から出来ていますか？どのように結びついて成分（化合物）が作られますか？この回では、高校で学んだ元素と化学結合を復習したのち、化合物の極性を理解する実験を行います。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第10回	【化学分野②】化学結合を理解する（2）脂質の融点・有機化合物の分離	「化学結合を理解する」の2回目は、化学構造と性質との関連を学びます。脂肪酸や脂質のサンプルの融点を測定し、化学構造と融点の関係を解析します。食品成分や生体成分は複雑な構造をしていますが、部分部分は良く似ており、これがその化合物の性質を決めています。この授業を通して化学構造から化合物の性質を予測する方法も学びます。また、化合物データベースの検索の方法を説明します。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第11回	【化学分野③】モルの概念と計算／試薬の調製	第3回～第5回は、化学量論の考え方を学んでいきます。食品の加工保存中に起こる成分変化や、生体内の化学反応はランダムに起こるのではなく化学法則に従って定量的に進みます。これらの授業では、シンプルな化学反応をもとに基本となる化学反応を学びます。今回は、化学量論の基盤となるモルの概念と計算方法を学びます。クエン酸を試料として一定のモル濃度を有する試薬を調整してください。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第12回	【化学分野④】酸と塩基（1）中和滴定	今回は、前回調製したクエン酸水溶液のモル濃度を中和滴定で調べます。中和の公式と測定値のばらつき・実験誤差の概念などを学びます。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第13回	【化学分野⑤】酸と塩基（2）pH	化学量論の最後は、化学平衡とpHを学びます。pHは食品の加工貯蔵、生体の化学反応や恒常性に大きな影響を与えますが、pHはどのようにして数値にするかを理解できていますか？この授業では化学平衡の式からpHを求める方法を説明します。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第14回	【化学分野⑥】アミノ酸のニンヒドリン反応／ランペルト・ペールの法則	分光光度計は、化学・生化学実験で最も頻繁に利用される機器です。この機器は、ランペルト・ペールの法則を利用して測定されます。アミノ酸のニンヒドリン反応を実験例としてランペルト・ペールの法則と定量方法を学びます。	授業時間中にラポノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分

第15回	【化学分野⑦】タンパク質と酵素反応／基礎化学と分析化学のまとめ	微生物から抽出した成分をデンブリン溶液と混合して保温したのち、ヨウ素と反応させます。微生物から抽出した成分とデンブリンの組み合わせと反応の有無から、何が起こったのか、微生物から抽出した成分はどのような作用を持つ物質なのかを推定してください。この実験から、科学的な推論の考え方と手順を学びます。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分	
学習計画注記		「実験」形式の授業なので、事前・事後学習の時間を設定していないが、必ず実験を行う前にテキストを熟読しておくこと。授業開始時には簡単な注意事項を述べるのみで、すぐに操作に入ることもあるので、班メンバー間で実験作業の流れについて確認しておくこと。			
学生へのフィードバック方法		生物分野 毎回ラボノートに必要な事項を記載し提出してもらう。提出したラボノートは添削・コメントを付けて、次の授業開始時に返却する。毎回終了時にアンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。 化学分野 授業の初めに前回の授業の理解度を測るテストをします。正解できなかった場合は、学習し直し良く復習しておくこと。分からない場合は、授業後に必ず質問すること。			
評価方法		生物分野 実験に積極的に参加し、自身の役割を果たそうとしているか。顕微鏡操作技術や基本的な実験技術を修得しているか。観察事実に基づく推論を行っているか。結果の理論的な考察が行えているか等を評価する。 化学分野 授業への参加度をルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomを参照すること。 期末試験により授業の理解度を評価します。期末試験は、ラボノートの持ち込みを可とする。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	顕微鏡操作・実験技術の習得	○			○
	実験に積極的に参加		○	○	
	実験結果の理論的な考察	○	○		○
	授業への参加度	○	○	○	○
	期末試験	○	○		
評価割合		生物分野：平常点（アンケートへの回答状況を含む）50%，ラボノートの内容50% 化学分野：授業への参加度70%，期末試験30%			
使用教科書名 (ISBN番号)		生物分野：テキストを配付する。 化学分野：基礎分析化学実験（東京化学同人）実験方法は、Google Classroomを参照のこと。クラスコード：14a9kv1			
参考図書		生物の実験法 I 培風館／教養 生物学実験 共立出版 やさしくわかりやすい化学基礎 文英堂 理系大学受験 化学の新研究 改訂版 三省堂			
参考URL		https://classroom.google.com/u/0/c/MjgxNTg5MjUyNzda			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】食に関わる問題を科学的に考察するために必要な基礎知識が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中に発見された課題について、理論的に考え分析・総合する力が身につきます。 【関心・意欲・態度】自ら考え、課題の解決に向けてチームでディスカッションする力が身につきます。 【技能・表現】客観的な判断をするために必要なデータを収集する技能が身につきます。また、成果を効果的にプレゼンテーションすることができます。			
オフィスアワー		生物分野：後期 木曜日昼休み・3限（12:30～14:30）生物学研究室（2205） 化学分野：木曜日（基礎サイエンス実験終了後～13:00） 相談希望者は、Gmailを用いて予約してください。			
学生へのメッセージ		実験という体験を通して、基本的な実験技術と科学的思考法（仮説を立て、その真偽を検証し、結果を考察、結論する）を身につけます。思考の過程は、ラボノート等に記録しますが、記載方法は添削等を通して指導します。実験を進める上で必要となる化学・生化学・生物学分野の知識も学んでいきますが、基礎知識があると実験内容の理解が進みます。そのため、化学・生物学系の基礎科目の履修や、高校化学・生物学の教科書の復習により理解を深めておくことを薦めます。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	生物分野 観察結果・実験結果の評価・考察について班単位で検討し、検討結果をもとにクラス全体で考える。
情報リテラシー教育	○	化学分野 化合物データベースの検索方法を説明します
ICT活用	○	化学分野 エクセルを用いた実験結果の解析を説明します

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食と語学A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に付ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	「食」に関する英語を、日常会話から基礎的な専門用語にまでわたって知る、理解する。
思考・判断の観点 (K)	食と栄養教育における日米の多少の違いを掴む。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で「食」について話し合えるよう、自信と興味を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関して知った英語を、教室内での練習を経て、実生活で使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Meeting People	英語で自己紹介をする。大学での勉強のことや、大学外での自分のこと、興味のあること等を英語で会話をする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Talking about the Kitchen (1)	1. 各種台所用品の英語を学ぶ。 2. 台所用品の置き場所が説明できるようにするために、場所を表す前置詞や形容詞を学び、クラスメートと練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Talking about the Kitchen (2)	前回到続いて各種台所用品の英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Likes and Dislikes	1. 自分の食べ物の好き嫌いを英語で話せるようにし、クラスメートと練習する。 2. 人の話したことへの肯定、否定の返答の表現を学び、練習する。 3. クラスメートと相談しながら、自分の興味ある日本、その他の国の料理をインターネット等で調べ、次回の授業で英語で発表できるように準備をする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容の3を完成させておくこと。	60分

第5回	1. 自分が興味がある料理についての英語での発表。(発表①) 2. Ordering Food: What Do We Need?	1. 自分が興味を持っている料理を英語で発表する。内容と聞き取り易さの2面から評価する。 2. 食品の買い物例にして、各種食品の数の数え方、量の計り方を学ぶ。(可算名詞、不可算名詞の学習)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第6回	At a Restaurant	1. レストランでの注文の場面の英語を学び、練習する。 2. 自分の好きなレストランについて、英語で紹介できるようにする。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第7回	1. 自分の好きなレストランについての英語での紹介 2. Cooking	1. 前回の授業で作成した自分の好きなレストランの英語での紹介を発表する。(発表②) 2. 具体的な調理手順を英語で聞き、話せるようにする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	Recipes	1. 英文レシピを読めるようにする。 2. 自分で料理を選んで英文レシピを作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第9回	1. 自分で作成した英文レシピの発表 2. Giving Dietary Advice	1. 前回の授業で作成した英文レシピの発表をする。(発表③) 2. 栄養指導で重要となる英語を学び、練習する。 3. 食品各種のグリセミック指数(血糖指数)を学ぶ。 4. 「～しなさい」、「～してはいけません」の英語を練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	Talking about Diets (1)	1. 食関係の場面を例として、英語での頻度の表し方を学び、練習する。 2. 日米のそれぞれの外食利用の頻度を比較する。 3. 頻度の表現を含めて、自分の食生活を英語で紹介できるようにする。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第11回	1. 自分の食生活についての発表 2. Researching Diet Information	1. 前回の授業で作成した自分の食生活についての英語での発表をする。(発表④) 2. 食品各種の栄養価について英語で聞き、話せるようにする。 3. 食品の英語での栄養分析表を読む練習をする。 4. バランスの良い食生活のための食品チャートの日米の違いを知る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	Life as a Dietitian	栄養士の仕事内容を英語で説明できるようにし、将来自分がどのような栄養士として働きたいのか、を英語で作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容を完成させておくこと。	60分
第13回	1. 自分が将来どのような栄養士として働きたいのかの英語での発表 2. Talking about Diets (2)	1. 前回の授業で作成した将来の希望についての英語での発表(発表⑤) 2. さらに食関係の英語を学ぶ。 3. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所をクラスメートと相談しながら考え、英語で作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第14回	1. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表 2. People with Special Dietary Needs	1. 前回の授業で作成した日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表をする。(発表⑥) 2. 特別食が必要な人達のための栄養指導で使われる英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	Talking about Food Experiences	自分の過去の食体験について語る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回での小テストは採点してその次回の授業で返却する。																												
評価方法	小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。																												
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○	○		○	定期試験	○	○		○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
小テスト	○	○		○																									
定期試験	○	○		○																									
評価割合	発表60%、小テスト（定期試験含む）40%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	Speaking of Nutrition (南雲堂、2017) 978-4-523-17827-9																												
参考図書	食ことば英語辞典 (小学館、2004)																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】世界での多様な食環境、食文化を知るとともに、外国人相手に日本食を英語で紹介でき、相手の状態に合わせて英語での基礎的な栄養指導を行えるようにコミュニケーション力をつける。</p> <p>【思考・判断】食品各種の持つ栄養価についてのアメリカでの資料、アメリカと日本とでの外食の頻度の違い、両国での栄養指導方法の違い等を考える。</p> <p>【関心・意欲・態度】栄養士としての関心を国内に限らず、外国人とも英語で栄養指導をしたり、食事、食習慣について話そうとする意欲と態度を養う。</p> <p>【技能・表現】英語で、基礎的な栄養指導ができ、将来自分が目指す栄養士像を話すことができ、日本食の紹介ができたり、好きなレストランの紹介ができたりするようにする。</p>																												
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目																												
学生へのメッセージ	食と栄養について、そう難しくなく、重要な英語を学べる教科書です。発表の内容も重要なことが選ばれています。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>クラスメートとの会話練習や共同作業</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習や共同作業	情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習や共同作業																											
情報リテラシー教育																													
ICT活用																													

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食と語学B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

授業概要(教育目的)	「食と語学A」に続き、栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「食」に関する英語を、日常会話から基礎的な専門用語までを学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 適正体重、適正摂取カロリーの計算方法を学ぶ。 2. 日本、諸外国の地域の料理を知る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で「食」について話し合えるように興味と自信を身に着ける。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関する英語を教室内での練習を経て実生活で使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Pre-Units	1. 初対面の人との会話を学ぶ。自己紹介の仕方、人への質問の仕方等。 2. 知らない英語の意味や発音の訳き方を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第2回	Meet People in This Book	教科書の登場人物の紹介を読む。その内容に従って自分のことを説明できるようにする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第3回	Counting Calories	1. 適正体重の身長からの計算方法と適正摂取カロリーの計算方法を学ぶ。 2. ダイエットについての会話の一例を学ぶ。 3. 英語の数字(大きな数字、序数、日付等)について学ぶ。 4. 教科書巻末の食品カロリー表を参照して、自分用にカロリー面で適正な3食の献立を英語で立てる。(次回で発表)	1. 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 2. 学習内容4を完成させておくこと。	60分
第4回	1. 自分用適正カロリー食の発表	1. 前回の授業で作成した自分用適正カロリー食を発表する。発表内容と聞き取り易さの2面から評価する。(発表①)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

	2. How much butter? How many apples?	2. 食品を例として英語での数の数え方、量の計り方を学ぶ。(可算名詞、不可算名詞)		
第5回	Are you ready to order?	1. レストラン関連の英語を学ぶ。 2. 諸外国の料理について学ぶ。 3. be動詞と一般動詞について学ぶ。 4. チップの適正額について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	How do you make curry?	1. 英文レシピを学ぶ。 2. 命令文について学ぶ。 3. 日本料理から1つ選んで英文レシピを作る。(次回で発表)	1. 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 2. 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第7回	1. 和食の英文レシピの発表。 2. Which is better for you, fish or meat?	1. 前回の授業で作成した和食の英文レシピの発表をする。(発表②) 2. 比較級、最上級について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Review (Pre-Units ~Unit 5)	これまでの教科書の内容の復習 (Pre-Units~Unit 5)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	We had a good time at the party.	過去形について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Please describe what okonomiyaki is.	1. 各種日本料理を英語で紹介する例を学ぶ。 2. 知覚動詞について学ぶ。 3. 自分の好きな鍋料理、味噌汁、お好み焼き、麺類等について英語で紹介できるようにする。(次回で発表)	1. 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 2. 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第11回	1. 自分の好きな日本料理を英語での紹介 2. Are you eating well?	1. 前回の授業で作成した自分の好きな日本料理の英語での紹介を発表する。(発表③) 2. 状態動詞と動作動詞について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Have you ever eaten sea urchin?	1. 料理の国際見本市での会話の一例を学ぶ。 2. 現在完了形について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	You will be healthy.	1. 食生活改善を進める会話の一例を学ぶ。 2. 未来時制について学ぶ。 3. パーティーの準備でそろえるものを英語で考える。(次回で発表)	1. 授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 2. 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第14回	1. パーティーのために準備するもの 2. Review (Unit 7~11)	1. 前回の授業で作成したパーティーのために準備するものの英語での発表をする。(発表④) 2. これまでの教科書の内容の復習 (Unit 7~11)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Appendix	教科書の“Appendix”の内容について学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法

毎回の授業での小テストは採点して次回の授業で返却する。

評価方法

小テストは毎回で行う。各授業ごとに重要なところを指摘する。その中から次回の授業で5問を選んで出題する(5点満点)。遅刻、欠席で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では授業でこなすことができなかった発表と授業最終回分のテストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

小テスト	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○
評価割合	発表60%、小テスト（定期試験含む）40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	You Are What You Eat（南雲堂、2016）ISBN 978-4-523-17808-8			
参考図書	食ことば英語辞典（小学館、2004）			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】世界での多様な食環境、食事文化を知るとともに、外国人相手に日本食を英語で紹介でき、相手の状態に合わせて英語での基礎的な栄養指導を行えるようにコミュニケーション力をつける。</p> <p>【思考・判断】適正体重、適正摂取カロリーの計算方法を学ぶ。食品各種の英語名称とそれらの持つカロリーを知る。</p> <p>【関心・意欲・態度】栄養士としての関心を国内に限らず、外国人とも英語で栄養指導をしたり、食事、食習慣について話そうとする意欲と態度を養う。</p> <p>【技術・表現】英語で、基礎的な栄養指導ができ、日本食の紹介ができるようにする。</p>			
オフィスアワー	月屋休み、水2時限、屋休み、4時限			
学生へのメッセージ	「食と語学A」の教科書に比べてより英語学習が中心となっています。題材はすべて食についてです。学習者にとってあまり難しくなく、興味が持てるように注意して作られています。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習と協同作業		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	社会福祉学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史とき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 この授業対象者が栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	120分
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見続けたら生きられるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるのには好き? こんなことを考えてみて?	120分
第4回	社会福祉の歴史①	中世から教貧法までを学ぶ なぜ「教貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく 特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	120分

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かを配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	公衆衛生学 I (総論)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐々木 溪円	指定なし

授業概要(教育目的)	公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本授業では健康の概念と公衆衛生の歴史および環境と健康を、我が国の現状を踏まえ、総合的に学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	主要な生活習慣病と感染症の疫学と予防対策について説明できる。 生態系、環境と健康の関連性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康やヘルスプロモーションについて、自分の考えをもち、他者の意見を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	精神保健の現状と課題について、関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	健康情報を効率的に収集し、その質を評価することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衛生と公衆衛生	公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理	教科書CHAPTER-1 (P. 1~9) を読んで、「健康」に関する自分の考えをもってから出席してください。	120分
第2回	ヘルスプロモーション	健康日本21(第二次)とソーシャル・キャピタル	「健康日本21(第二次)」について調べてから出席してください。	120分
第3回	環境と健康 1	生態系と環境保全、環境汚染と健康影響	教科書CHAPTER-2 (P. 13~20) を読んで、代表的な公害について調べてから出席してください。	120分
第4回	環境と健康 2	環境衛生	教科書CHAPTER-2 (P. 20~28) を読んで、熱中症について調べてから出席してください。	120分
第5回	情報とコミュニケーション	エビデンスに基づいた医療と保健、ヘルスリテラシー	教科書CHAPTER-5 (P. 63~69) を読んで、インターネットで入手できる健康情報について自分	120分

			の考えをもってから出席してください。	
第6回	生活習慣の現状と対策1	食生活、身体活動、休養	教科書CHAPTER-6 (P. 71~72)に記載されている情報と、自分や周囲の人の日常生活とを比較して考えを得てから出席してください。	120分
第7回	生活習慣の現状と対策2	喫煙	教科書CHAPTER-6 (P. 72~74)を読んで、喫煙問題について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第8回	生活習慣の現状と対策3	飲酒	教科書CHAPTER-6 (P. 74~75)を読んで、妊娠期のアルコール摂取について調べてから出席してください。	120分
第9回	主要疾患の疫学と予防対策1	悪性新生物、循環器疾患	教科書CHAPTER-7 (P. 77~86)を読んで、分からなかった単語について調べてから出席してください。	120分
第10回	主要疾患の疫学と予防対策2	主要疾患の疫学と予防対策2	教科書CHAPTER-7 (P. 86~87)を読んで、分からなかった単語について調べてから出席してください。	120分
第11回	主要疾患の疫学と予防対策3	口腔保健	教科書CHAPTER-7 (P. 87)を読んで、離乳食の進め方について調べてから出席してください。	120分
第12回	感染症対策1	感染症と関連法規	教科書CHAPTER-8 (P. 89~93)を読んで、予防接種について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第13回	感染症対策2	主要感染症の疫学	教科書CHAPTER-8 (P. 94~95)を読んで、結核について調べてから出席してください。	120分
第14回	精神保健対策1	精神保健対策1	教科書CHAPTER-9 (P. 97~102)を読んで、精神保健対策の歴史と現状について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第15回	精神保健対策2	虐待・暴力対策	教科書CHAPTER-9 (P. 102)を読んで、子ども虐待(児童虐待)について自分の考えをもってから出席してください。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は、その授業で学ぶ範囲について出題しますので、予習は必ずしてください。グループで相談する課題では、積極的に自分の考えを発言して、他の学生の意見も聴いて下さい。各回2点×15回で30点に相当するように、評価します。 ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題で出題し、70点満点で評価します。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業内課題	○	○	○	
	定期試験	○			○
評価割合	定期試験				
使用教科書名 (ISBN番号)	「社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版」 編著：柳川洋・尾島俊之 医歯薬出版株式会社 978-4-263-70738-8				
参考図書	「国民衛生の動向」 厚生統計協会				

ディプロマポリシーとの関連	<p>○知識・理解 学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p>○思考・判断 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>○関心・意欲・態度 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる</p>															
学生へのメッセージ	<p>公衆衛生学は覚えることが多いので「暗記科目」と思われがちですが、実際に行われる健康課題の対策には正解がないこともあります。各回のテーマについて、自分の考えをもつようになしてください。</p>															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="365 499 440 593"></th> <th data-bbox="440 499 515 593">該当有無</th> <th data-bbox="515 499 1439 593">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="365 593 440 656">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="440 593 515 656">○</td> <td data-bbox="515 593 1439 656">担当教員は相模原市保健所等で公衆衛生の実務経験を有しており、現在も厚生労働省研究班で母子保健政策に関与している。これらの経験をもとに、暗記に終わらない授業を実施している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 656 440 719">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="440 656 515 719">○</td> <td data-bbox="515 656 1439 719">適宜、学生間で意見交換をする機会を設定している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 719 440 790">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="440 719 515 790">○</td> <td data-bbox="515 719 1439 790">第5回に情報とコミュニケーションをテーマとする回を設定している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 790 440 848">ICT活用</td> <td data-bbox="440 790 515 848">○</td> <td data-bbox="515 790 1439 848">定期試験の練習問題を、ICTを用いて提供している。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は相模原市保健所等で公衆衛生の実務経験を有しており、現在も厚生労働省研究班で母子保健政策に関与している。これらの経験をもとに、暗記に終わらない授業を実施している。	アクティブ・ラーニング	○	適宜、学生間で意見交換をする機会を設定している。	情報リテラシー教育	○	第5回に情報とコミュニケーションをテーマとする回を設定している。	ICT活用	○	定期試験の練習問題を、ICTを用いて提供している。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は相模原市保健所等で公衆衛生の実務経験を有しており、現在も厚生労働省研究班で母子保健政策に関与している。これらの経験をもとに、暗記に終わらない授業を実施している。														
アクティブ・ラーニング	○	適宜、学生間で意見交換をする機会を設定している。														
情報リテラシー教育	○	第5回に情報とコミュニケーションをテーマとする回を設定している。														
ICT活用	○	定期試験の練習問題を、ICTを用いて提供している。														

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学 I (解剖学)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 瀧宮 顕彦	指定なし

授業概要(教育目的)

「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。

この講義の教育目的は、管理栄養士が臨床栄養の現場で基礎知識として持つべき、正常(健康)な人体の構造や機能を学習することです。

授業は、ヒトの細胞や組織、生化学や遺伝の基礎知識について論じた後、皮膚、骨、筋肉、関節、運動器、神経、感覚器、内分泌、血液・リンパ系、心臓及び循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器・生殖器、について講義を行っていきます。講義はpowerpointと配布資料を使用しますが、人体モデルを用いて理解を深めていただく機会も設けます。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・学内での講義を通し、基本的な人体の構造や生理機能を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に付けている。 ・2年次「解剖生理学Ⅱ」での講義内容を理解するうえでの基礎的知識を身に付けている。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の解剖学的構造についての多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本的構造と生理機能を理解したうえで、生活習慣病と食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる ・栄養士、教職、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るため指導力や、食品・物の調理加工の技能と、これら開発企画や表現力を身に付けている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	解剖学総論：身体の概要、細胞、組織について。	解剖学の基礎用語と生体の水分構成を理解する。遺伝形式の基礎についても解説する。	教科書1, 3, 4, 5「からだの概要と大きさ」、「細胞」、「遺伝」、「身体の組織」を読んでおくこと。	90分
第2回	化学および生化学の基礎	生体のエネルギー代謝、特に解糖系について理解する。同時にミトコンドリア内での反応様式についても解説する。	教科書2「化学および生化学の基礎」を読んでおくこと。	90分
第3回				90分

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現役内科医です。某医科大学5年次の講義(Bed Side Learning (BSL))も担当しています。これまでの臨床・教育経験を基に、講義を通じて医学と食物学との橋渡しが行えるように心がけます。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅱ（生理学）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 瀧宮 顕彦	指定なし

授業概要(教育目的)	人体の生理機能(しくみ)について学習する。 人体の構成要素における生命現象がどのように調節され、生体の内部環境の恒常性が維持されているのか理解する
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・学内での講義を通し、人体の生理機能や多様な食環境を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	・人体の生理機能についての多種様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・人体の生理機能を理解したうえで、生活習慣病と食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、教職、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	・専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るため指導力や、食品・物の調理加工の技能と、これら開発企画や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞・遺伝について	細胞の構成と機能を理解する。遺伝形式を理解し代表的な遺伝疾患を知る。	教科書1,3,4,5「からだの概要と大きさ」、「細胞」、「遺伝」、「身体の組織」を読んでおくこと。	90分
第2回	化学および生化学の基礎(その2)	・3大栄養素のエネルギー代謝経路を理解する。特にミトコンドリア内での反応様式を理解する。	教科書2「化学および生化学の基礎」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分
第3回	生体防御と免疫	・人体の免疫機構を理解したうえで、特に食物アレルギーに関する知識を深める。	教科書6「生体防御(免疫)」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分
第4回	筋、骨、関節、皮膚	・筋、骨、関節、皮膚の構造と機能を理解する。さらに骨粗しょう症についてその病態と予防法について知見を得る。	教科書7,9「筋、骨、関節」、「皮膚」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分

第5回	運動器	・運動器の構造と機能を理解し、関節や脊椎に関連する疾患について知見を得る。	教科書8「運動器」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第6回	神経組織及び神経系	・人体の神経系の構造と機能を理解する。さらに神経組織における電気的現象や情報伝達様式についても言及する。	教科書10,11「神経組織」、「神経系」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第7回	感覚能と感覚器	・感覚器の構造と機能、およびその情報伝達様式について理解する。	教科書12「感覚能と感覚器」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第8回	内分泌系	・人体のホルモンの機能と作用機序について理解する。フィードバック機構について知見を得る。	教科書13「内分泌系」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第9回	血液とリンパ	・血液とリンパの構成とその働きについて理解する。血液型発現様式や人体の止血機序についても言及する。	教科書14「血液とリンパ」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第10回	心臓	・心臓の構造と機能を理解する。心臓の電気生理現象並びに刺激伝導系についても理解を得る。冠動脈疾患についても言及する。	教科書15「心臓」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第11回	循環系	・動脈系およびリンパ系の構造と機能を理解する。動脈硬化について発生形式とその予防について、特に食事療法に関する知識を得る。	教科書16「循環系」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第12回	呼吸器系	・呼吸器系の構造と機能、特にガス交換について理解を得る。代表的肺疾患の概要についても言及する。	教科書17「呼吸器系」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第13回	消化器系 (栄養、物質代謝)	・消化器系の解剖学的構造と機能について理解する。膵臓と糖尿病との関連についても言及する。	教科書18「消化器系、栄養、物質代謝」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第14回	泌尿器系 (水と電解質の調節)、生殖器	・泌尿生殖器系の構造と機能、性周期について理解する。腎臓と血圧調整や造血機能との関連についても言及する。	教科書19,20「泌尿器系、水と電解質の調節」、「生殖器」を読んでおくこと。前年度後期配布済みのプリントを持参してください。	90分	
第15回	全体総括	・前期講義の重要項目について、復習を兼ねて再度解説します。前期期末試験対策上、特に重要な回となります。	教科書と配布プリントを準備して下さい。	90分	
学習計画注記		※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法		質問等がありましたら、大学に登録してあるメールアドレスまでご連絡下さい。			
評価方法		定期試験100%で評価します。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	○
評価割合		定期試験100%で評価します。			
使用教科書名 (ISBN番号)		からだの構造と機能 (西村書店) A.シェラー、B.シュミット著			
ディプロマポリシーとの関連		栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の解剖生理を理解し、食事や栄養が人体に与える影響について知識を得ている。			
学生へのメッセージ		皆さんは卒業後、食物を扱う職業に就かれる方々です。食物は生きるための必須条件であり、無関係で居られる人間は存在しません。また、食は人間を養い幸福を与えますが、時に傷つけたりその命を奪ったりもします。そういった意味で皆さんの職業上の責務は非常に重いと言わざるを得ません。そうした責務を全うするために人体の仕組みを知り理解することはとても重要です。講義内容は少し難しいかも知れませんが、なるべく楽しく、わかりやすく皆さんにお話ししていこうと思っています。			

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現役内科医です。某医科大学5年次の講義(Bed Side Learning (BSL))も担当しています。これまでの臨床・教育経験を基に、講義を通じて医学と食物学との橋渡しが行えるように心がけます。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学実習 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

授業概要(教育目的)

人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける各臓器や臓器系の配置、形態を学習する。さらに、ブタ、ヒトの組織標本を用いて組織的形態と機能の間の関連について実地に理解する。また、鏡検観察によって細胞レベルでの微細構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 人体模型、ブタ、ヒトの組織標本を用いて人体の形態と機能について説明できる。 2. 臨床栄養学の理解につなげるために病理学についても形態的観点から説明できる。 3. 生理学的領域において、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・人体模型	オリエンテーション(実習の目的と進め方)及び人体模型による臓器位置の確認を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	身体観測	身体観測と計測を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	循環 1	血圧の測定、心音の聴取、安静時の体温測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	循環 2	運動負荷による心拍数、血圧、体温の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第5回	呼吸	肺活量の測定、努力肺活量の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生化学（総論）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

授業概要(教育目的)	生体内での様々な化学反応や物質交換によって、生命維持が行われる。生命活動の主軸となる細胞や生体物質構造、生理機能について総合的に学ぶ。また、食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節の基礎について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、生体成分の構造と性質を理解する。 2、酵素の役割、その調節機構を十分に理解する。 3、生体成分の代謝の基礎、代謝調節の基礎を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1、これまでに学習した有機化学の概念を生化学の学習に応用する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、予習、復習、授業毎の小テスト、確認テストで理解度を深める。 2、小テスト、確認テストの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の基本構造とその機能	生体膜、細胞の小器官など細胞の基本構造とその機能について学ぶ。 生化学を学ぶための基本事項の確認を行う。	教科書第1章「細胞の構造」(1～7ページ)を読んでおくこと。 生化学きほんノート第1章「生化学を学ぶための基本の「き」」(1～7ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第2回	細胞の有機成分(1)たんぱく質の構造と機能	最も重要な生体物質として位置づけられるたんぱく質の構造と機能について学ぶ。生化学反応の触媒、運動、物質の運搬など、生命活動の至るところでたんぱく質は働いている。たんぱく質は20種類のアミノ酸からなり、それらの構成アミノ酸の数、種類、結合順序がことなると、性質や働きも異なってくる。	教科書第2章「細胞の有機成分」たんぱく質(9～20ページ)を読んでおくこと。 生化学きほんノート第4章「タンパク質」(31～40ページ)を予習、復習に用いる。 参考：代謝ガイドブック タンパク質(33～39ページ) 授業中に行った演習問題の復習をする。	180分
第3回				180分

	細胞の有機成分(2) 糖質の構造と性質	糖質は、主要なエネルギー源であるとともに、生体の構成材料や細胞間の情報伝達物質として、きわめて広範囲にわたる生命活動に関係している。糖質は、単糖類、オリゴ糖、多糖類に大別される。これらの構造と性質について学ぶ。	教科書第2章「細胞の有機成分」糖質(21~27ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第4章「タンパク質」(31~40ページ)を予習、復習に用いる。 参考:代謝ガイドブック 糖質(23~29ページ) 授業中に行った演習問題の復習をする。	
第4回	細胞の有機成分(3) 脂質の性質と分類	脂質の性質と分類について学ぶ。単純脂質、複合脂質、誘導脂質の分類とその構造、性質について学習する。	教科書第2章「細胞の有機成分」脂質(28~34ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第3章「脂質」(19~30ページ)を予習、復習に用いる。 参考:代謝ガイドブック 脂肪(30~32ページ) 授業中に行った演習問題の復習をする。	180分
第5回	細胞の有機成分(4) 核酸	核酸には、遺伝情報の伝達をつかさどるデオキシリボ核酸(DNA)とDNAの情報に従ってたんぱく質を合成するリボ核酸(RNA)の2種類がある。それぞれの構造と性質について学ぶ。	教科書第2章「細胞の有機成分」核酸(28~34ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第5章「核酸」(41~50ページ)を予習、復習に用いる。 参考:代謝ガイドブック 核酸(40~45ページ) 授業中に行った演習問題の復習をする。	180分
第6回	細胞の有機成分(5) ビタミンの構造と機能	脂溶性ビタミンの構造と機能、水溶性ビタミンの構造と機能について学ぶ。	教科書第2章「細胞の有機成分」ビタミン(39~53ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第9章「と補酵素」(89~98ページ)を予習、復習に用いる。 参考:代謝ガイドブック ビタミン(49~50ページ) 授業中に行った演習問題の復習をする。	180分
第7回	細胞の有機成分確認テスト 酵素と代謝(1) 酵素の分類、性質	生化学の歴史は、酵素研究の歴史と言い換えることができる。酵素はたんぱく質のみから成るものと、たんぱく質以外の補助因子を含むものがあるが、いずれも反応速度を大きく促進する機能を示す。第7回では、まず、酵素の分類と性質について学ぶ。 授業のはじめに、細胞の有機成分についての確認テストを行う。	教科書第3章「酵素と代謝」酵素の分類と性質(57~61ページ)を読んでもらうこと。 生化学基本ノート第9章「酵素」(75~87ページ)を予習、復習に用いる。 細胞の有機成分についての確認テストを行う。第6回までの範囲の復習を十分に行うこと。	240分
第8回	酵素と代謝(2) 酵素の反応速度、酵素反応の阻害	酵素は、反応が触媒される場合、最初に酵素-基質複合体を生成する。酵素の濃度と反応速度との関係について学ぶ。また、酵素反応の阻害についても学習する。 授業のはじめに、確認テストの解説を行う。	教科書第3章「酵素と代謝」酵素の反応速度と反応の阻害(61~67ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第9章「酵素」(75~87ページ)を予習、復習に用いる。 確認テストの間違い直しをレポートにまとめて提出する。 授業中に行った演習問題の復習をする。	240分
第9回	酵素と代謝(3) 酵素活性の調節	生体内の代謝は、細胞、臓器、全体としての内部環境の恒常性を維持するような機構によって調節されている。この調節機構の詳細について学ぶ。	教科書第3章「酵素と代謝」酵素反応の調節(67~78ページ)を読んでもらうこと。 生化学きほんノート第9章「酵素」(75~87ページ)を予習、復習に用いる。 授業中に行った演習問題の復習をする。	180分
第10回	細胞における代謝の概観	代謝のもっとも大きなテーマは、生体で利用されるエネルギーを産生することである。一般的に言えば、栄養素を分解し、エネルギーを作り出し、それによって様々な運動を行い、熱を産生し、さらには身体の恒常性を維持し、生命活動を維持する。第10回では、細胞における代謝経路の概観について学習する。 授業のはじめに、酵素と代謝についての確認テストを行う。	教科書第3章「酵素と代謝」酵素反応の調節(57~78ページ)を十分に読んでもらうこと。 生化学きほんノート第9章「酵素」(75~87ページ)を十分に復習する。 第7回から第9回の授業の復習を行う。	240分

「生化学きほんノート」を予習、復習用の課題として教科書に指定しました。本講義終了までに、「生化学きほんノート」の内容はすべてマスターできるように、毎回予習、復習に十分に時間を取ってください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養学・生化学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし
准教授	山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養学・生化学実験では食品学実験でも扱う栄養素成分に対して生体試料の側面から採り上げ、分析する力を学ぶ。実験遂行に際し、必然となる事前準備や手法、試料の扱い方を体得していく。人体に対する実験的学びの中で必要とされる倫理面に対する留意事項についても学ぶ。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもある。

履修条件

基礎的な生物、化学を理解し、関係教科を履修済み、履修中であることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各関係教科の知識と理解を応用し、結果の予測、得られた結果の考察に活用できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養学・生化学領域の講義で修得した成分、生体物質の構造および機能について、客観的に実験手法を分析し、結果を解析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションがとれる。
技術・表現の観点 (A)	各実験における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験の心得 (担当:岩本)	使用機器・器具の予備知識, 実験対象試料と研究倫理を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	消化試験1 (担当:岩本)	唾液アミラーゼによるデンプンの分解を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	消化試験2 (担当:岩本)	胆汁による脂質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	消化試験3 (担当:岩本)	胆汁によるタンパク質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

第5回	生体成分の分析法(栄養学)1 (担当:岩本)	血液成分に関する実験(血糖の定量:ムタロターゼ・GOD法)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	生体成分の分析法(栄養学)2 (担当:岩本)	血液成分に関する実験(血中中性脂肪・コレステロール・遊離脂肪酸の定量)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	生体成分の分析法(栄養学)3 (担当:岩本)	尿成分に関する実験(尿中クレアチニンの定量)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	実験準備 (担当:山崎)	各実験における試薬準備等の事前準備(試薬調製、機器準備)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	生体反応の分析方法(生化学)1 (担当:山崎)	免疫に関する実験(ウエスタンブロット)①調整培養細胞についてを行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	生体反応の分析方法(生化学)2 (担当:山崎)	免疫に関する実験(ウエスタンブロット)②分析,培養細胞の継代を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生体反応の分析方法(生化学)3 (担当:山崎)	培養細胞を用いたアポトーシス実験①(機能性成分との接触試験)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	生体反応の分析方法(生化学)4 (担当:山崎)	培養細胞を用いたアポトーシス実験②分析,核酸に関する実験①(DNAの抽出)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	生体反応の分析方法(生化学)5 (担当:山崎)	核酸に関する実験②(PCR法によるDNA増幅,制限酵素によるDNAの切断)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	生体反応の分析方法(生化学)6 (担当:山崎)	核酸に関する実験③(ゲル電気泳動による解析)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト (担当:岩本・山崎)	1回目~14回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがある。			
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室(岩本)または2308研究室(山崎)まで訪問すること。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価する(小数点以下は四捨五入)。ただし、確認テストの点数が60%未満の者は再試験を行う。 ・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実験にて説明する。 ・レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

	レポート	○	○		
	確認テスト	○	○		○
	実験態度			○	
評価割合	科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価（小数点以下は四捨五入）				
使用教科書名 (ISBN番号)	イラスト基礎栄養学、田村明 他、（東京教学社）978-4-8082-6053-8（岩本） 必要内容資料を適宜配布（山崎）				
参考図書	各関係教科の教科書、授業配布資料等				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技術・表現】専門的技術を身につける。</p>				
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室（岩本） 火曜1限 2308研究室（山崎）				
学生へのメッセージ	<p>実習時は白衣（実験用）を着用のこと。</p> <p>レポートの提出は、提出期限・形式を守ること。</p> <p>授業内容を事前に教科書などで予習すること。</p> <p>現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。</p> <p>また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもあります。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	生化学領域においては、担当教員が食製造現場等における現地調査等を行った実務経験より、実験内容がヒトと食においてどのように活用されているか、今後、活用されるかについても紹介する。			
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員において、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。			
情報リテラシー教育					
IGT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食品学総論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	食品はヒトにとって大変身近な存在であり、生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し、日々の生活の維持、健康増進のために役立てる知識を自身が実働的に活用、また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能（一次機能；栄養特性、二次機能；嗜好特性、三次機能；健康機能特性）を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え、近年の食品に関する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目であり、卒業要件科目である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもある。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。
------	-----------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食品の成分と機能を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な食品を扱う際に食品の成分と機能の知識を基に思考、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食の諸問題対処に対し、食品の成分や機能を基に意欲をもって対処できる。
技術・表現の観点 (A)	食品の成分と機能に関し、他者に正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人間と食品(食べ物)	1. 食文化と食生活、2. 食生活と健康、3. 食料と環境問題を理解する。	教科書；第1章「人間と食品(食べ物)」(12~25ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の一次機能(食品成分の化学)①	1. 食品の一次機能とは、2. 炭水化物(糖質、食物繊維)の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(26~43ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食品の一次機能(食品成分の化学)②	3. 脂質の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(43~57ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回		4. タンパク質の構造と種類と特性について理解する。		予習90分、復習90分

	食品の一次機能（食品成分の化学）③		教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（57～69ページ）を読んでおくこと。	
第5回	食品の一次機能（食品成分の化学）④	5. ビタミンの構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（69～77ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	食品の一次機能（食品成分の化学）⑤	6. ミネラル（無機質）の構造と種類と特性、7. 核酸・核酸の構成成分を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（77～89ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）①	1. 食品の二次機能、2. 水分、3. 食品に含まれる色素成分の分類と特徴を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（90～107ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）②	4. 呈味成分（味とは、甘味成分、酸味成分、苦味成分、塩味成分、うまみ成分）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（107～111ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）③	5. 香り・におい成分、6. 官能評価、7. 有害成分（植物・動物性、アレルギー、突然変異原性物質）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（111～122ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品の三次機能（食品の健康機能性）①	1. 食品の三次機能とは、2. 機能性食品とは、3. 口腔内や消化管内で作用する機能を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（123～131ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品の三次機能（食品の健康機能性）②	4. 消化管吸収後の標的組織における生理機能調節を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（131～137ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品成分の変化①	1～4. 炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミンの変化、5. 成分の相互作用による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（138～149ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	食品成分の変化②	6・7. 褐変、光による変化、8. 加圧・加圧・減圧による変化、9. 酵素による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（150～161ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品の物性	1. 食品の物性とは、2. コロイド、3. レオロジー、4. テクスチャーを理解する。	教科書；第6章「食品の物性」（162～175ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の表示と規格基準	1. 食品表示制度、2. 健康や栄養に関する表示の制度、3. 基準について理解する。	教科書；第7章「食品の表示と規格基準」（176～196ページ）を読んでおくこと。 第1回から第15回の授業内容を復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート10%、定期試験（筆記試験）90%の総合評価（100%）とします。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題レポート10%、定期試験（筆記試験）90%の総合評価（100%）
使用教科書名（ISBN番号）	

	<p>栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ</p>	
参考図書	授業内で必要に応じて、紹介します。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の成分と機能に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。</p>	
オフィスアワー	火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得てください。	
学生へのメッセージ	<p>食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	食品学各論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	多種多様な食品を利用し、ヒトは生命を維持しながら、多彩な食文化を構築し、食生活を営んでいる。食生活形成においては食材の特性を知り、有効活用できる能力が必要である。本講義においては、日本食品標準成分上の分類ごとの特性と属する食品素材に加え、グローバル化する現況を鑑み、輸入食材や新たな食素材にも視点をおき、選択を的確に行うために必要な専門的知識を学ぶ授業展開を行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもある。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもある。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。
------	-----------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性とその利用について専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品の特性を活かした思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品の特性に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品の特性を他社へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の分類と食品成分表	1. 分類の種類、2. 食品成分表の理解について理解する。	教科書；第1章「食品の分類と食品成分表」(12～26ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	植物性食品①	1. 穀類(種類と特徴、米、小麦、大麦、とうもろこし、そば、その他)について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」(27～36ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	植物性食品②	2. いも類(種類と特徴、じゃがいも、さつまいも、その他)、3. 豆類(種類と特徴、大豆、雑豆類)について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」(36～51ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	植物性食品③	4. 種実類(種類と特徴、ごま、アーモンド、その他)、5. 野菜類①(種類と特徴、葉菜、根菜)について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」(51～62ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第5回	植物性食品④	5. 野菜類②（果菜、茎菜、花菜、その他）、6. 果実類（種類と特徴、成分、加工特性）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（62～68ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	植物性食品⑤	7. きのご類（種類と特徴、成分、加工特性）、8. 藻類（種類と特徴、成分、加工特性）について理解する。	教科書；第2章「植物性食品」（68～81ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	動物性食品①	1. 食肉類（種類と特徴、成分変化、牛、豚、鶏、その他の食肉；ジビエ等、加工特性）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（82～91ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	動物性食品②	魚介類（種類と特徴、成分、品質特性、加工特性等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（92～104ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	動物性食品③	乳類（種類と特徴、成分、飲用乳、乳製品等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（104～111ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	動物性食品④	卵類（種類と特徴、構造、成分、調理加工特性、品質判定、栄養強化卵等）について理解する。	教科書；第3章「動物性食品」（112～119ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	油脂	1. 食用油脂の特徴と分類、2. 植物性油脂、3. 動物性油脂、4. 加工油脂（マーガリン類、ショートニング、低カロリー油脂代替物）について理解する。	教科書；第4章「油脂」（120～137ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	調味料、香辛料、嗜好飲料	1. 甘味料（天然、合成）、2. 調味料（食塩等）、3. 香辛料、4. 嗜好飲料（茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料）について理解する。	教科書；第5章「調味料、香辛料、嗜好飲料」（138～162ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	加工食品	1. 加工食品とは、2. 一次加工食品、3. 二次加工食品、4. 三次加工食品、5. 食品添加物について理解する。	教科書；第6章「加工食品」（163～179ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	微生物利用食品	1. 微生物利用食品（発酵食品）の分類と性質、2. アルコール飲料、3. 発酵調味料、4. その他の微生物利用食品について理解する。	教科書；第7章「微生物利用食品」（180～193ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	バイオ食品などの新規食品	1. バイオテクノロジー応用食品、2. 最近の食品加工技術による食品について理解する。	教科書；第8章「バイオ食品などの新規食品」（194～204ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	*授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	-----------------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	課題レポート10%、定期試験（筆記試験）90%の総合評価（100%）とします。
------	-----------------------------------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート10%、定期試験（筆記試験）90%の総合評価（100%）
------	------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600円＋税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー		火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。
学生へのメッセージ		食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食品学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いについても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第2回	定性分析と定量分析①	容量分析; 食酢中の酸の定量(中和滴定)、食品成分定量実験器具調製を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第3回	定性分析と定量分析②	容量分析; 醤油中の食塩の定量(沈殿滴定)、食品成分定量実験試料調製、水分の定量; 常圧加熱乾燥法及び赤	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容	予習30分、復習60分

		外線水分計・灰分の定量；直接灰化法①乾燥又は灼熱～秤量を行う。	に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	
第4回	定性分析と定量分析③	容量分析；酸化鉄(Ⅱ)中の鉄の定量(酸化還元滴定)、定量実験；水・灰分の定量②乾燥又は灼熱～秤量を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第5回	定性分析と定量分析④	容量分析；0.01M EDTA標準溶液の調製(キレート滴定)、定量実験；水分の定量・灰分の定量③乾燥又は灼熱～秤量を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第6回	定性分析と定量分析⑤	食品のpH測定、定量実験；水分の定量・灰分の定量④乾燥又は灼熱～秤量を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第7回	定性分析と定量分析⑥	比色分析、定量実験；水分の定量・灰分の定量⑤恒量を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第8回	定性分析と定量分析⑦	定性実験；たんぱく質に共通な呈色反応：ビウレット反応、アミノ基を有する化合物に共通な呈色反応：ニンヒドリン反応、定量実験；たんぱく質定量(ケルダール窒素分析法)①空試験区を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第9回	定性分析と定量分析⑧	定性実験；インドール核含有化合物呈色反応：アダムキープウイツ反応、オキシフェニル基呈色反応：ミロン反応、アルカリ性下の硫黄反応：硫化鉛反応、定量実験；たんぱく質定量(ケルダール窒素分析法)②試験区	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第10回	定性分析と定量分析⑨	定性実験；脂肪酸エステルの反応：ヒドロキサム酸法、定量実験；脂質定量(ソックスレー抽出法)①試料と円筒ろ紙精秤・受器(脂肪瓶)恒量を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第11回	定性分析と定量分析⑩	定性実験；不飽和脂肪酸の反応：ヨウ素の付加、定量実験；脂質定量(ソックスレー抽出法)②脂質抽出を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第12回	定性分析と定量分析⑪	定性実験；糖質呈色反応、定量実験；脂質定量(ソックスレー抽出法)②脂質抽出後の受器恒量、直接還元糖の定量①試薬調製(力価の決定)、プロスキー変法による食物繊維の定量①試料精秤調製を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第13回	定性分析と定量分析⑫	定性実験；還元糖の反応、オサゾン生成反応による還元糖の識別：フェニルヒドラジン反応、定量実験；直接還元糖の定量②定量、プロスキー変法による食物繊維の定量②洗浄～乾燥	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。	予習30分、復習60分

			2. 実験レポートを作成すること。	
第14回	定性分析と定量分析⑬	成分定量実験；プロスキー変法による食物繊維の定量③ 恒量～灰化、塩化物イオンの定量による食塩分析	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第15回	定性分析と定量分析⑭	成分定量実験；プロスキー変法による食物繊維の定量④ 灰化～灰分、ヒドラジン法によるビタミンCの定量	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。 3. 第1回～第15回の復習を行っておくこと。	予習30分、復習60分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。				
評価方法	実験態度（編成された班における協同の様子等）15%、実験結果・課題レポート45%、実技試験（実験操作）20%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実験態度	○	○	○	○
	レポート	○	○		
	実技試験	○	○		○
	筆記試験	○	○		
評価割合	実験態度（編成された班における協同の様子等）15%、実験結果・課題レポート45%、実技試験（実験操作）20%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	新しい食品学実験(第3版)／三共出版 吉田 勉 監修 飯沼貞明・渡邊 悟 編著 臼井照幸・荒木裕子・岡本由希 共著 定価2,300円＋税 2017年10月6日発行 B5判 並製 176ページ				
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600円＋税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。				
オフィスアワー	火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。				
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養とは何かを理解し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割及び5大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質）の生理的意義を理解する。また、消化・吸収と栄養素の体内動態についても講義する。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証およびフードスペシャリスト、教職（中高）、食品衛生監視員・食品衛生指導者、フードコーディネーター取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養に関する基本用語を説明することができる。 2. 5大栄養素の体内での変化、生理的作用並びに相互作用について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 各栄養素がからだの中に入ると消化器官のどこでどのような作用を受け、どのような作用を発揮するのかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養の概論	栄養の定義、栄養学の歴史を学ぶ。	教科書の第1章(p1-12)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	摂食行動	生活リズムと食生活、摂食の調節について学ぶ。	教科書の第2章(p13-19)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	炭水化物の栄養(1)	炭水化物の消化・吸収について学ぶ。	教科書の第5章(p53-65)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	炭水化物の栄養(2)	炭水化物の体内代謝について学ぶ。	教科書の第5章(p53-65)を通読する。	120分

			教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	
第5回	脂質の栄養 (1)	脂質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第6章 (p67-77) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	脂質の栄養 (2)	脂質の体内代謝、脂質代謝異常と動脈硬化について学ぶ。	教科書の第6章 (p67-77) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	タンパク質の栄養 (1)	アミノ酸とタンパク質とは何か、タンパク質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第4章 (p39-52) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	タンパク質の栄養 (2)	タンパク質の体内代謝について学ぶ。	教科書の第4章 (p39-52) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	ビタミンの栄養 (1)	脂溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章 (p79-97) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	ビタミンの栄養 (2)	水溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章 (p79-97) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	無機質の栄養	多量元素・微量元素の働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第8章 (p99-112) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	機能性非栄養成分	水・食物繊維について学ぶ。	教科書の第9章 (p113-121) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	消化と吸収と栄養素の体内動態 (1)	消化器系の構造と機能 (消化の場・仕組み) について学ぶ。	教科書の第3章 (p21-38) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	消化と吸収と栄養素の体内動態 (2)	消化・吸収の基本概念 (吸収部位・吸収の仕組み) について学ぶ。	教科書の第3章 (p21-38) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	エネルギー代謝	生体におけるエネルギー、消費エネルギーについて学ぶ。	教科書の第10章 (p123-136) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する (初回の授業では実施しない)。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		
	定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。	
使用教科書名 (ISBN番号)	イラスト基礎栄養学、田村明 他、（東京教学社）978-4-8082-6053-8	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室	
学生へのメッセージ	基礎栄養学は応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学とも関連が深く、2年前期に「基礎栄養学」をマスターすればこれらの科目の理解もアップする。結果として栄養士実力認定試験（全員受験）や管理栄養士国家試験（希望者・要実務経験）の勉強も楽に進めることができる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	応用栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

授業概要(教育目的)

人の一生を通して発育、加齢や妊娠などの各ライフステージにおける身体の構造変化、生理学的・生化学的な代謝の変化を学び、それらに基づいて各段階における適切な栄養ケア・マネジメント(栄養管理)の基本的考え方を習得する。更に適切な評価、判定を行った上で身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の方法を学ぶ。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な各ライフステージ別栄養学の基礎知識を理解する。また、運動・スポーツやストレス、特殊環境の特性に基づいた栄養ケアも学ぶ。本科目は、栄養士免許証および食品衛生監視員・食品衛生指導者取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。 2. 運動や特殊環境における人体の特性、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 健康の維持・増進及び疾病予防のために栄養素の機能等を十分理解し、健康に及ぼすリスクの管理について基本的な考え方を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食事摂取基準	ライフステージ別食事摂取基準について学ぶ。	教科書の第2章(p22-53)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	成長・発達・加齢	運動機能の発達、加齢による機能低下について学ぶ。	教科書の第3章(p56-62)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	妊娠期(1)	妊娠期の生理的特徴と性周期について学ぶ。	教科書の第4章(p63-82)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	妊娠期(2)	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第4章(p63-82)を通読する。	120分

			教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	
第5回	授乳期	授乳期の栄養・食事管理について学ぶ。	教科書の第4章 (p83-92) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	新生児・乳児期 (1)	新生児・乳児の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第5章 (p93-119) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	新生児・乳児期 (2)	新生児期・乳児期の発育について学ぶ。	教科書の第5章 (p93-119) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	成長期 (1)	成長期 (幼児期・学童期・思春期) の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第6章 (p121-162) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	成長期 (2)	成長期 (幼児期・学童期・思春期) の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第6章 (p121-162) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	成人期 (1)	成人期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第7章 (p163-182) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120
第11回	成人期 (2)	成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第7章 (p163-182) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	高齢期 (1)	高齢期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第8章 (p183-210) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	高齢期 (2)	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第8章 (p183-210) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	健康増進と運動、スポーツ	健康増進と運動およびスポーツと栄養について学ぶ。	教科書の第9章 (p211-242) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	特殊環境と栄養	特殊な環境 (ストレス反応、高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境) と栄養について学ぶ。	教科書の第10章 (p243-260) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する (初回の授業では実施しない)。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。
- ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。	
使用教科書名（ISBN番号）	イラスト応用栄養学＜第2版＞、田村明 他、（東京教学社）978-8082-6040-8	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室	
学生へのメッセージ	「応用栄養学」で学ぶ内容は多岐にわたる。様々なライフステージだけでなく、スポーツ時や特殊な環境下における人体の生理的特徴を理解し、その状況に応じた栄養管理などを習得する。学ぶ範囲はとてつもなく広いが、学んだことを自身や周りにいる家族、友人に還元できるよう主体的に取り組んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	給食管理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、特定多数の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力について講義する。また、特定給食施設における経営管理を中心に、基礎的な学習や栄養・食事管理システムとマネジメントを行うための知識と技術について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	栄養士の役割、特定給食施設の種類および特性、実際の給食運営について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営管理業務の実践・管理手法および実施後の評価をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食事・栄養管理はライフステージを通して行うものであることを理解し、対象者に合わせた献立立案・作成を常に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	給食管理について	給食の概念、給食の目的、特定給食の概要と法規、栄養士・管理栄養士の役割について理解する。	教科書の「第1章 給食のマネジメント」を読んでおくこと。	120分
第2回	給食における経営管理と情報管理について	経営管理として給食経営、経営管理と経営組織、コントラクトフードサービス、情報管理としてマーケティング、フードビジネス、顧客情報管理について理解する。	教科書の「第2章 給食にける経営管理の基本」および「第3章 情報管理」を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養・食事管理について	栄養管理の意義と目的、栄養管理計画、栄養教育計画、食事計画、献立管理、品質管理、栄養・食事管理の評価について理解する。	教科書の「第4章 栄養・食事管理」を読んでおくこと。	120分
第4回	メニュー管理について	給食におけるメニュー、メニューのマーチャンダイジング、メニュー管理の展開、メニュー管理の評価について理解する。	教科書の「第5章 メニュー管理」を読んでおくこと。	120分
第5回	食材管理について	食材管理の目的、食材の条件、食材管理業務の流れ、保管条件別食品の種類、食材の購入管理、発注・検収、保管・在庫管理、食材管理の評価について理解する。	教科書の「第6章 食材管理」を読んでおくこと。	120分

第6回	生産管理について	生産管理の基本、給食におけるシステム化と生産管理、調理作業工程の管理、調理作業の標準化、配食・配膳の管理、洗浄・清掃作業の管理、給食における廃棄物処理について理解する。	教科書の「第7章 生産管理」を読んでおくこと。	120分
第7回	食事サービス管理について	食事サービス管理、食事サービスにおける精度管理、適温管理、食数管理、利用者サービスについて理解する。	教科書の「第8章 食事サービス管理」を読んでおくこと。	120分
第8回	リスクマネジメントについて	リスクマネジメントの概要、給食施設の衛生管理、各種事故と災害における危機管理について理解する。	教科書「第9章 リスクマネジメント」を読んでおくこと。	120分
第9回	施設・設備管理について	給食の施設・設備管理の概要、給食の施設・設備計画、施設・設備の保守管理について理解する。	教科書の「第10章 施設・設備管理」を読んでおくこと。	120分
第10回	給食施設の実際（病院）	病院給食の概要、病院給食の実際について理解する。	教科書の「第11章 病院給食」を読んでおくこと。	120分
第11回	給食施設の実際（学校）	学校給食の概要、学校給食の実際について理解する。	教科書の「第12章 学校給食」を読んでおくこと。	120分
第12回	給食施設の実際（児童福祉施設）	児童福祉施設給食の概要、児童福祉施設給食の実際について理解する。	教科書の「第13章 児童福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第13回	給食施設の実際（高齢者福祉施設）	高齢者福祉施設給食の概要、高齢者福祉施設給食の実際について理解する。	教科書の「第14章 高齢者福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第14回	給食施設の実際（事業所）	事業所給食の概要、事業所給食の実際について理解する。	教科書の「第15章 高齢者福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第15回	配食サービスについて	配食サービスの概要、配食サービスの実際について理解する。	教科書の「第16 配食サービス」を読んでおくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 定期試験の結果を受け、上位関連科目において説明・解説を行う。

評価方法 平常点、定期試験で評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点30%、定期試験70%

使用教科書名 (ISBN番号) 実践 給食マネジメント論/高城孝助ら編著/第一出版

参考図書 給食施設のための献立作成/赤羽正之ら著/医薬出版

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。

オフィスアワー 金曜日 5時限 2309研究室

学生へのメッセージ 校内・校外給食管理実習を学ぶ前の給食管理の基礎と理論を学ぶ授業です。この科目は校内給食管理実習を受けるための必須要件となっていますので、しっかり勉強しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎調理学実習 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	日本・西洋・中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術(加熱、非加熱、調味)や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、栄養士免許証、中・高教員免許(家庭)、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級、FBA取得のための必須科目である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 栄養価計算方法を説明できる。
思考・判断の観点(K)	食材・器具の衛生的な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切碎でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	一つの食材を工夫し、多様に調味、調理できる。
技術・表現の観点(A)	盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。	120分
第2回	2. 炊飯(白飯)、だしの取り方、野菜の切り方	炊飯の調理工程(計量、洗米、浸漬、加水、むらし)を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀だね、椀裏、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	120分

第3回	3. 季節向き日本料理の献立による実習(えんどう飯、みそ汁、魚の照り焼き、ほうれん草の胡麻和え、果物)	塩味飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解・習得する。切り身魚の扱い方と直火焼きの要点を学ぶ。青菜のゆで方、和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。果物の扱い方と切り方他、盛り付け・配膳を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	120分
第4回	4. 栄養価計算と菓子の実習(桜餅)	日本食品成分表の成り立ちと栄養価計算の基本的な方法を学ぶ。菓子の実習では、道明寺粉の扱い方、餡の作り方を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。また、2~4回の実習の栄養価計算を行いノートに記録すること。	120分
第5回	5. 季節向き日本料理の献立による実習(たけのこ飯、卵豆腐のすまし汁、鰯の香味揚げ、じゅんさいの酢の物、豆大福)	醤油飯の塩分量、食塩の添加時期、加熱方法など炊飯の要点と食塩と醤油の塩分換算も学ぶ。卵豆腐(卵液の希釈と加熱方法)の要点を学ぶ。魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い、三枚おろしを習得する。揚げ物の要点・注意点、酢の物の調味と要点を学ぶ。上新粉、白玉粉の扱い方、小豆の加熱・調味法を学び、餅菓子の調理技術を習得する。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第6回	季節向き日本料理の献立による実習(新茶飯、沢煮椀、鯉のたたき、茄子の南蛮煮、葛よせ)	茶飯及び湯炊きの要点、混合出しの取り方、生もの調理の注意点を実習を通して学ぶ。くずでんぶんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習を通して学ぶ。黒蜜の作り方(黒砂糖と白糖の割合、溶かし方)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第7回	日本料理の献立による実習(そば飯、みそ汁、五目きんぴら、鯛皮ときゅうりの胡麻酢和え、淡雪寒)	鯛そぼろ、卵そぼろの調理法の要点を学ぶ。木綿豆腐、なめこと扱い方、根菜類の切り方と調味法を学ぶ。味噌の塩分量を学び味噌汁へ応用する。棒寒天の種類と扱い方、使用料、凝固温度、卵白の気泡の要点を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第8回	日本料理の献立による実習(ちらし寿司、茶わん蒸し、いんげんの胡麻和え、わらび餅)	すし飯のための炊飯(加水量、加熱・むらし時間)の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しの少ない煮物(炒り煮)の要点と野菜、肉理の扱い方と切り方、調味法を学ぶ。粉寒天の扱い方と使用割合、さらし餡の扱い方、分量、凝固方法を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第9回	日本料理の献立による実習(赤飯、蛤の潮汁、炒り鶏、てんぷら、水ようかん)	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。潮汁の要点、てんぷらの食材の下処理、衣、揚げ温度など揚げ物の要点を学ぶ。天つゆの調味割合、薬味の種類と役割について学ぶ。煮汁の少ない煮物(炒り煮)の要点と野菜、肉理の扱い方と切り方、調味法を学ぶ。粉寒天の扱い方と使用割合、さらし餡の扱い方、分量、凝固方法を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第10回	西洋料理の献立の実習(ミネストローネスープ、舌平目のムニエル、トマトのソテー。バターライス、ブラマンジェ)	パスタの種類と扱い方、舌平目の下ろし方、ムニエルの要点を学ぶ。ピラフの米の炒め方、加水、加熱の要点を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴(糊化)と攪拌効果(粘着性)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分

第11回	西洋料理の献立による実習（南瓜のピューレスープ、豚肉のソテー、リンゴソース添え、マッシュドポテト、ピネグレットソース、カスタードプリン）	実習を通して、スープは、基本となるブイヨン（スープストック）の取り方と南瓜のピューレの方法を学ぶ。豚肉のソテーは、豚肉の下処理法、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュドポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ピネグレットソースの基本の調味割合と調理法を学ぶ。カスタードの材料配合割合と加熱の要点、カラメル調理法の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第12回	西洋料理の献立による実習（オニオンスープ、蟹のクリームコロッケ、マトリース、ニンジンのグラッセ、ロールスポンジケーキ）	実習を通してオニオンスープの玉ねぎの切り方と炒め方の終点を学ぶ。ルウの材料割合とクリームコロッケ用の濃厚ベシャメルソースの加熱方法とその終点を学ぶ。ニンジンのグラッセのはニンジンの切り方、グラッセの要点について、洋菓子の基本であるジェノワーズ（スポンジ）生地配合割合と起泡、焼成方法とその終点について要点を学ぶ。また生地丸め方の切り方の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第13回	使用料理の献立による実習（コンソメスープ、魚介類のリゾット、ニンジンのサラダ、ピネグレットソース、フルーツケーキ）	実習を通して、コンソメスープではスープの澄まし方、リゾットでは、米の扱い方と加水・加熱方法、魚介類の扱い方と処理方法を学ぶ。フルーツケーキでは、12回で学んだスポンジケーキとの比較をしながら、バターケーキの材料割合と混合、焼成方法の違いと調理上の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第14回	中国料理の献立による実習（涼拌茄子、蟹仁吐司、麻婆豆腐、酸辣湯）	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。茄子の処理と加熱（蒸す）方法、溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。次週の実習内容を確認すること。	120分
第15回	中国料理の献立による実習（什錦炒飯、干貝蘿蔔湯、什錦炒飯、乳奶豆腐）	什錦炒飯では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。湯は、干し貝柱の処理法と加熱法、球状大根の作り方を学ぶ。炒飯は、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。乳奶豆腐では、粉寒天の扱い方の復習（8第9回）と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。15週の実習を終えて、復習として自信の評価をまとめること。	120分

学習計画注記	天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。				
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。				
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。 実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。 調理ノート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験		○		○

筆記試験	○	○		
実習ノート	○			○
評価割合	実習試験 (15%) 筆記試験 (15%) 調理のノート (材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、実習ごとの栄養価計算の記載、30%)、授業参加状況 (40%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	七訂 食品成分表 女子栄養大学出版部 (978-4-7895-1019-6) 調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部 (978-4-7895-0323-5) 基礎調理学実習テキスト (印刷製本して配布)			
参考図書	必要に応じて配布。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組む。 【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能とこれらの開発企画や表現力を身につけている。			
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時 (2108室)			
学生へのメッセージ	授業後には、実習内容を毎回調理ノートに整理し、栄養価計算を行うこと。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	調理過程でおこる科学的な諸現象について食品材料の性質と調理操作上のかかわりを理論的に学ぶとともに、おいしさを左右する要因について総合的に理解する。本科目は、栄養士免許、中・高教員免許(家庭)、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級取得のための必科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 調理の意義、目的を説明できる。 2. 食品の調理特性を説明できる。 3. 調理による食品の栄養成分の変化、テクスチャーの変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 適切な調理操作と調理機器の使用法関係性を分類できる。 2. おいしさの要因について分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 授業概要、調理の目的と意義について	調理学の授業内容の概要を理解する。また、調理の目的と意義を理解する。	教科書1章の1、人間と食べ物(1~9ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	1. 食べ物と嗜好性、おいしさの要因(食物の特性、人の特性、環境の特性)	おいしさの要因(食物の特性の中の科学的要因:味、におい)を理解する。	教科書第2章食べ物と嗜好性(16~26ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	3. 食べ物と嗜好性 おいしさの要因(物理的特性、人	おいしさの要因(食物の特性の中の物理的要因:温度、テクスチャー、人の特性、環境要因)を理解する。	教科書第2章食べ物と嗜好性(26~36ページ)を読んでおくこと。	120分

	の特性、環境要因)			
第4回	非加熱調理操作と調理器具	非加熱調理操作の種類と目的およびその操作に必要なとなる器具の種類と特徴について理解をする。	教科書5・3非加熱調理操作 (93～103) を読んでおくこと。授業前に第2～3回の授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。	120分
第5回	加熱調理操作と調理器具・設備、調味操作	加熱調理操作の種類と操作目的とその効果について学ぶ。また、それらの操作に用いる加熱器具・設備についてその特徴と調理上の効果を学ぶ。	教科書5・1加熱操作 (78～92) と5・5調味操作 (104～107) を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品の調理性 (穀類、小麦)	植物性食品 (米、小麦) について調理操作による物性、嗜好性、栄養成分の変化を学ぶ。米は、その種類と調理特性、小麦粉は、小麦たんぱく質とでんぷんの調理操作への影響、膨化調理法の種類と特徴について学ぶ。	教科書6・1・1、6・1・2米、小麦粉 (108～118) を読んでおく。	120分
第7回	植物性食品の調理性 (雑穀、いも類)	雑穀の定義、種類知り、栄養面、調理上の特徴を米、小麦と比較しながら理解する。いもの種類と調理操作による物性、嗜好性栄養西部成分の変化を学ぶ。	教科書6・1・3、6・1・4の雑穀類、いも類 (118～120ページ) を読んでおく。	120分
第8回	植物性植物性食品の調理性 (豆、野菜、果物)	豆の調理操作による物性、栄養成分の変化について学ぶ。特に、あん、豆腐他大豆加工品、煮豆の調理上の要点を理解する。野菜色についてその変化の要因と調理との関連性を学ぶ。	教科書6・2・1、6・2・2の豆、野菜・果物 (121～133ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	動物性食品の調理性 (鶏卵)	鶏卵の構造、成分、調理操作による組織、物性の変化を学ぶ。特に鶏卵の調理特性 (希釈性、熱凝固性、希望性、乳化性など) について、これらに影響をおよぼす要因とメカニズムについて学ぶ。	教科書6・4・2の鶏卵 (148～155ページ) を読んでおくこと。授業前に植物性食品 (第6回～8回) の小テストを実施するので復習をしておくこと。	120分
第10回	動物性食品の調理性 (肉)	食肉の構造と加熱による筋肉組織、嗜好性および栄養成分の変化について学ぶ。食肉の部位と適正な加熱調理法を学ぶ。	教科書6・3・1肉 (134～140ページ) を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品の調理性 (魚類)	魚、いかの組織と調理操作による物性、嗜好性の変化について学ぶ。水や酢を用いた処理による変化、摩砕による変化、また、魚臭を抑える調理法、生魚、煮魚、焼き魚の要点について学ぶ。	教科書6・3・2の魚 (140～145ページ)	120分
第12回	動物性食品の調理特性 (乳・乳製品)	牛乳の成分と調理操作による組織、物性に及ぼす変化 (色 (褐変)、におい、凝固、皮膜の形成) などを学ぶ。また、発酵乳、チーズ、バター、クリーム調理特性について学ぶ。	教科書6・4・3の牛乳 (154～157ページ) 授業前に植物性食品、動物性食品の小テストを行うのでふくすしておく。	120分
第13回	成分抽出素材の調理特性 (でんぷん、糖類)	穀類、豆類、いも類、野菜類から抽出した主なデンプンの特性と利用状況を学ぶ。また、これらの糊化、老化特性を学び、調理への適性を理解する。	教科書6・5・1のデンプン、6・4・1の砂糖 (145～148、157～162ページ) を読んでくること。	120分
第14回	成分抽出素材の調理性 (寒天、ゼラチンなどのゲル化素材)	寒天・ゼラチンの原料の違いや膨潤、溶解、凝固、融解温度特性を学ぶ。また、調味料やその添加量による凝固への影響を両者を比較しながら学ぶ。これにより、調理への適性と応用法を理解する。	教科書6・5・3寒天、6・5・4のゼラチンとカラギーナンゲル (166～171ページ) を読んでくること。	120分
第15回	調理と環境と食生活 (環境とエネルギー、フードマイレージ)	食物連鎖と人間のかかわり、食料と環境問題を日常生活の視点から学ぶ。また、地産地消、加熱調理と省エネルギーについてモデルメニューを比較し、調理の実際のへの応用する視点を養う。	教科書1・6の食料と環境問題 (10～16ページ)	120分

学習計画注記	授業の進み具合によって授業内容を変更することがある。			
学生へのフィードバック方法	毎時間5分程度の質問の時間を設ける。また、小テスト (確認) を実施し、採点後返却をし正回答を明示する。質問がある場合は2108研究室 (emailも可) を訪問すること。			
評価方法	小テスト10%、定期試験90%の総合評価とする。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

小テスト	○			
筆記試験	○			
評価割合	小テスト10%、定期試験90%を合計して評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	新スタンダード栄養・食物シリーズ6 調理学 東京科学同人 畑江敬子他 (978-4-8079-1666-5)			
参考図書	必要に応じて指示する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。			
オフィスアワー	水曜日12時10分から13時 (2108室)			
学生へのメッセージ	栄養士養成の必修科目であるため、授業前に教科書を読んでおくこと。また、授業後は講義内容を復習するなど、積極的、自主的に授業に臨んでください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
IGT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理科学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	調理科学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。本授業は、栄養士免許、中学・高校教員免許(家庭)、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級の免許取得に必須科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 食品の調理特性を説明できる。 2. 調理操作法(非加熱、加熱、調味)による食品の外観、テクスチャーなど食味、栄養成分への影響を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調理額実験の概要と実験上の諸注意。機器・器具の取り扱い方、計量・計測について。実験レポートの作成法について。	調理科学実験の概要について理解する。実験の進め方、実験結果のまとめ方を理解する。また、基本的な器具・機器の扱い方を学ぶ。	教科書3～5ページの調理科学実験を始めるにあたってを読んでおくこと。 教科書8～9ページを読んでおくこと。	120分
第2回	味覚：5基本味の閾値と味の相互作用について	甘味、塩味、酸味、苦み、うま味の5基本味について、検知域、認知域を確認する。経節と昆布、およびこれらの混合出しから、味の相互作用(相乗効果)について確認をする。また、うま味成分と塩味の関係性を確認する。	授業前は、教科書14ページの実験1、18ページの実験2の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。	120分

	て、実験を通して学ぶ。		授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	
第3回	米と米粉（米の吸水と炊飯、米粉の調理特性）	米の吸水について種類（もち米、うるち米、無洗米）と水温により吸水速度が異なることを理解する。白飯、塩味飯、醤油飯、ピラフの調子がり量、色、テクスチャーを比較し、炊飯と味付け飯の要点を理解する。	授業前は、教科書56ページの実験1、プリント（炊飯）の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出する。	120分
第4回	小麦粉の種類と特徴：グルテン形成に及ぼす要因	薄力粉と強力粉の違いを識別できるように、外観、色、手触りを比較する。ドウ調製のための加水量とドウの伸展性を比較し、こね、寝かしの効果を確認する。また、調味料の種類とその添加時期によりグルテン形成への影響を確認し、調理への応用を考察する。	授業前は、教科書62ページの実験1、プリント（グルテン形成）の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第5回	小麦粉：蒸しパンに及ぼす膨化剤の影響、クッキーの性状に及ぼす材料配合割合の影響	クッキーに使用する砂糖、油脂の割合によってドウのやわらかさに影響を与えることを調べ、色、テクスチャーへの効果的な割合を学ぶ。これらの材料の換水値を理解する。膨化剤の種類の違いが、小麦粉生地の色や膨化及びにおいへの影響を知り調理への適性を考察する。	授業前は、教科書64ページの実験2、70ページの実験5の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出する。	120分
第6回	野菜・果物の色（溶液のpHと加熱条件、酵素的褐変）	野菜にふくまれ色素（クロロフィル、アントシアニン、フラボノイド）は、加熱溶液のpHや食塩、塩類の影響を受けることを理解し、調理への適性を考察する。酵素的褐変の機構と防止法を理解する。	教科書の72ページ実験1と配付プリント（野菜果実の色）、74ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第7回	卵の調理性（熱凝固性、希釈性）	卵黄、卵白の熱凝固性を知る。希釈卵液の希釈濃度、希釈液や調味料種類による影響について、茶碗蒸し、卵豆腐、カスタードプリンを対象にゲル化特性を理解する。	教科書の106ページ実験3、と配付プリント（鶏卵の加熱凝固性）、112ページ実験5を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第8回	卵液の調理性2（起泡性、乳化性）	卵白を攪拌すると起泡するが、その際の添加物（砂糖、油脂、卵黄、塩、レモン汁）と温度の影響を理解する。卵黄の乳化作用を利用したマヨネーズの調製法の理論を、調味料の添加時期と割合、攪拌操作から理解し、安定なエマルションの形成要因を学ぶ。	教科書の114ページ実験7、116ページ実験8を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第9回	牛乳・乳製品の調理特性1（酸、熱による影響）	牛乳が酸凝固（カード化）するpHを確認し、カッテージチーズを調製する。 牛乳のたんぱく質の熱変性（皮膜、加熱臭）について、その要因を把握する。	教科書の118ページ実験1、119ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第10回	牛乳・乳製品の調理特性2（クリームの起泡性）	各種クリームの気泡条件とその違いを理解し、適正な起泡条件を知る。	教科書の120ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第11回	いも類の扱い方（じゃがいも、さつまいも）	じゃがいもにおいて粉質性と粘質性の2種のいもの加熱後の扱いが、調理後のテクスチャーの与える影響を学ぶ。 さつまいもの加熱方法（蒸し加熱、オープン加熱、電子レンジ加熱）の違いが甘味、色調、香りが異なることを知り、調理への応用を考察する。	教科書の82ページ実験1、84ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第12回	肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化1	調味料類や野菜・果物中に含まれる酵素（植物プロテアーゼ）の作用が肉の軟化に及ぼす影響を理解する。 ハンバーグにおける食塩や副材料の影響について、それぞれの役割を理解し、その他のひき肉料理への応用を考察する。	教科書の94ページ実験5、96ページ実験6を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第13回	魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味	魚の塩締め、酢締めについて生の魚肉に及ぼす食塩、食酢の影響を知り、その役割を理解する。 いかにテクスチャーが加熱時間により変化することを理解する。	教科書の98ページ実験1、104ページ実験4を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考	120分

	の変化（あじ、いか）		察についてレポートを作成し、次週提出すること。		
第14回	成分抽出素材と調理1（寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性）	寒天、ゼラチンに添加する砂糖のゲル化、テクスチャーへの影響について理解する。また、牛乳、果汁を添加することで各ゲル化に及ぼす影響を理解する。たんぱく質分解酵素を含む果物の添加方法とゲル化への影響を理解する。	教科書の126ページ実験1、128ページ実験2を読み、130ページ実験3の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分	
第15回	成分抽出素材と調理2（砂糖の加熱による変化）	砂糖の加熱温度と攪拌時間の関係を理解し、フォンダン、砂糖衣、カaramel、抜糸、あめの作り方の要点を理解する。	教科書の122ページ実験1、配布プリント（砂糖の加熱による変化）を読み手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分	
学習計画注記		諸事情により食材の搬入に影響があった場合は、授業内容を変更することがある。			
学生へのフィードバック方法		提出されたレポートのコメントを参考にして修正を行い再提出すること。質問がある場合には、2208研究室（email可）まで訪問すること。			
評価方法		実験授業への参加状況40% レポートによる評価60%			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業参加状況	○	○	○	
	レポート	○	○		
評価割合		授業参加状況40%、レポート60%			
使用教科書名 (ISBN番号)		調理学実験 改訂新版 今井悦子他 アイ・ケイコーポレーション (978-4-87492-345-0 C3077)			
参考図書		必要に応じて提示する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまく様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。			
オフィスアワー		水曜日12時10分～13時 2208教室			
学生へのメッセージ		失敗をせず、嗜好性の高い食事づくりには、その食材の調理特性を知り、的確な調理・加工をすることが必要です。調理は、実習、実験、講義の3つの科目を履修し技術を向上させながら、科学的な理由を学び、実験により確認をすることで栄養士として、様々な対象者に対して確実な食事作りが可能となります。主体性をもって授業にのぞんでほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					



シラバス参照

講義名	微生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木 武人	指定なし

授業概要(教育目的)	微生物は多種多様であり、ヒトの生活と密接な関係を持っている。本講義では食品の安全確保、あるいは食品加工（伝統食品や新食品開発）などに重要なヒト・動植物および食品に関わる病原あるいは有用微生物を対象とし、その種類・性質といった微生物の概略から、微生物の利用、制御、感染症の発生メカニズムなど応用的な事柄に至るまで授業展開する。
履修条件	高校における生物を理解していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 微生物の種類、特徴、構造・形態、増殖様式を説明できる。 微生物による食品の変敗や食中毒について説明できる。 微生物の食品への有効利用について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 微生物と人との関わりについて、有効利用と排除の両面から具体的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	微生物の種類と性質① 微生物とは何か	細菌、ウイルス、真菌の分類とそれらの基本的な違いについて学修する。	配付した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。	120分
第2回	微生物の種類と性質② 細菌(I)	細菌の構造と機能について学修する。	講義資料(前回配付済み)を読んでもおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第3回	微生物の種類と性質③ 細菌(II)	細菌の栄養・代謝、増殖について学修する。	講義資料(前回配付済み)を読んでもおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分

第4回	微生物の種類と性質④ ウイルス (I)	ウイルスの構造と機能について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第5回	微生物の種類と性質⑤ ウイルス (II)	ウイルスと宿主の関係、増殖について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第6回	微生物の種類と性質⑥ 真菌類	真菌類の構造と機能、増殖、栄養・代謝について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第7回	微生物の培養	細菌、ウイルス、真菌の培養方法を学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第8回	微生物の利用①	発酵食品など食品加工への微生物の利用を学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第9回	微生物の利用②	微生物の酵素代謝系を利用した物質生産について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第10回	消毒と滅菌	滅菌と消毒の概念や代表的な消毒・滅菌法について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第11回	食品の腐敗と保存①	腐敗による食品の変敗について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第12回	食品の腐敗と保存②	食品の保存と微生物管理について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第13回	感染と免疫	微生物の感染とそれに対する生体防御について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第14回	感染性食中毒	国内で発生率の高い感染性食中毒について、病原体の種類や病態について学修する。	講義資料（前回配付済み）を読 んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第15回	腸内細菌叢と健康	腸内細菌叢とメタボリックシンドロームの関係について学修する。	講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。 これまでの授業内容を総復習 しておくこと。	予習240分 復習420分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回の講義後に行う小テストは、次回の講義で正答の提示と解説を行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に、その回の講義を振り返る小テストを行う。問題数は5問で4～5択の選択問題とする。1～14回までの点数の合計点（70点）を20点満点に換算し、評価する。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、栄養士実力試験の出題形式に基づく選択式の問題により知識と理解度を確認し、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
小テスト	○			
評価割合	定期試験（80%）および小テスト（20%）で評価する。 試験の内容・形式等は初回授業時に説明する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	栄養士や教員、食の専門家として、探究心を持つとともに、使命感と倫理観を持って社会に貢献するための専門知識を有している。 また、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るために必要な指導力を身につけている。			
オフィスアワー	なし			
学生へのメッセージ	微生物は食品加工への応用により保存性や嗜好性の改善に加えて様々な機能性を発揮させる一方で、食品の変敗や我々人の命を脅かす食中毒の原因にもなります。これらの知識は食品を扱う上で必要不可欠であるため、理解を深めるよう務めて下さい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、真菌の発酵抽出物を用いた家畜飼料添加物や健康食品を製造する企業とその機能性解明の共同研究を実施するなかで、その際に得られた知見から使用方法や使用目的に関するアドバイスを行ったり、製造時の品質管理に関する知見を提供するなどの経験を有している。このような微生物発酵産物の利用に関し、生産現場における留意点や、利用の注意点などを教授している。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	食品加工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)

食品の加工・貯蔵技術は有限な素材を有効に活用するために重要である。本授業では農林畜産物、水産物等の加工・貯蔵意義、原理、加工方法に加え、加工特性や貯蔵特性を捉えた包材に関する知識、加工食品の表示に関わる規格や制度に加え、実際の加工食品製造ラインの流れ、製造工程で使用される食品機械についての学びも授業展開する。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目である。

履修条件

高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性を生かした加工食品製造に必要な専門知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工食品製造における各種工程において、安全面に配慮し、倫理的思考と判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的知識を生かして、応用発展に繋げるコミュニケーションができる。
技術・表現の観点 (A)	加工食品に関する知識を正しく他者に伝える文章作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食料の生産と栄養	1. 食料生産の現状と課題、2. 生産条件と栄養について理解する。	教科書；1「食料生産」と栄養(1～29ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品加工と栄養	1. 食品加工の意義と目的、2. 食品加工の方法、3. 三次加工品とその利用について理解する。	教科書；2「食品加工と栄養」(30～50ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	加工食品とその利用①	1. 穀類について理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(51～56ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	加工食品とその利用②	2. いも類とでんぷん類、3. 砂糖類と甘味類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(56～63ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回		4. 豆類、5. 野菜類を理解する。		予習90分、復習90分

	加工食品とその利用③		教科書；3「加工食品とその利用」(63～69ページ)を読んでおくこと。	
第6回	加工食品とその利用④	6. 果実類、7. きのこと類、8. 藻類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(70～76ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	加工食品とその利用⑤	9. 魚介類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(76～80ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	加工食品とその利用⑥	10. 肉類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(80～83ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	加工食品とその利用⑦	11. 卵類、12. 乳類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(83～89ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	加工食品とその利用	13. 油脂類、14. 菓子類を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(89～95ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	加工食品とその利用	15. し好飲料、16. 調味料と香辛料を理解する。	教科書；3「加工食品とその利用」(96～115ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品流通・保存と栄養	1. 食品流通・保存と栄養、2. 食品保存の方法を理解する。	教科書；4「食品流通・保存と栄養」(116～127ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	加工および保存中の成分変化	1. 脂質の変化、2. たんぱく質の変化、3. 糖質の変化、4. ビタミンの変化、5. 保存条件による食品栄養成分変化について理解する。	教科書；5「加工および保存中の成分変化」(128～140ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	器具と容器包装	1. 容器の材料・形態・安全基準、2. 包装による品質変化、3. 素材による環境汚染、4. 包装リサイクルを理解すること。	教科書；6「器具と容器包装」(141～164ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の表示	1. 食品表示の法律、2. 食品の表示課題、3. 産地判別技術による表示の監視を理解すること。	1. 教科書；7「食品の表示」(195～200ページ)を読んでおくこと。 2. 第1回～第15回までの復習を行っておくこと。 3. 出題課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	*授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート10%、定期試験(筆記試験)90%の総合評価(100%)とします。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題レポート10%、定期試験(筆記試験)90%の総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	食べ物と健康Ⅲ第2版食品加工と栄養／三共出版 松津保浩、竹田保之 加藤 淳 編著 定価2500円+税 2017年3月31日発行 B5判 222ページ
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社

	栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】食品加工に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。</p>	
オフィスアワー	火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。	
学生へのメッセージ	<p>食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。</p> <p>現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	食品加工学実習 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	食品加工学の講義内容を踏まえ、実際の加工食品製造に準拠した製法にて缶詰や瓶詰、レトルト食品等をつくる。糖蔵、塩蔵、燻煙等の加工手法を実際にも実習することにより、多種多様な食品素材の加工特性を捉える。併せて、包材特性試験や貯蔵試験や製造規格試験等も行い、加工食品の規格や貯蔵試験も体得する授業展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、HACCP管理者資格取得に関する必修科目である。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。
------	-----------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品素材を生かした一般的な加工技術工程を食品加工を行う意義と併せて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工原料、加工工程の状態を把握し、応用的思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な食品加工工程を応用へ繋げる意欲や関心をもち、編成された班で協働できる。
技術・表現の観点 (A)	基礎的な食品加工操作を自身並びに他者への安全面にも留意した加工操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	穀類の加工 ①	米麴の製造(製麴)、うどんの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第2回	穀類の加工 ②、豆の加工 ①	甘酒の製造、麴かびの検鏡、米味噌の製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第3回	穀類の加工 ③、豆の加工 ②	白酒の製造、豆腐の製造(木綿豆腐、絹ごし豆腐)を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第4回		みかんのシラップ缶詰の製造を行う。		予習90分、復習90分

	果実の加工 ①		1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	
第5回	果実の加工 ②	グレープフルーツマーマレードの瓶詰の製造、ペクチン 検査を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第6回	穀類の加工 ④	パンの製造（ロールパン、菓子パン、調味パン）を行 う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第7回	豆の加工 ③、いもの 加工	納豆の製造、コンニャクの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第8回	乳の加工①	バター、ヨーグルトの製造、酸乳飲料の製造①を行 う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第9回	乳の加工 ②、嗜好品 の加工①	乳酸菌飲料の製造②、ヨーグルトの乳酸測定、フレー パーウォーターの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第10回	野菜の加工	ウスターソースの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第11回	レトルト食 品の加工	レトルト・カレーの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第12回	嗜好品の加 工②	キャラメル、グミの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第13回	畜肉の加工	ソーセージの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第14回	魚肉の加工	ちくわの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第15回	製造基準検 査	みかんのシラップ缶詰の缶詰検査を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読む しておくこと。 2. 実習レポートを作成すること。 3. 第1回～第15回を復習して おくこと。	予習90分、復習90分
学習計画注記		*授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合 もあります。		
学生へのフィードバック方法		授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は 町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前 にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。		
評価方法		実習態度（編成された班における協同の様子等）15%、実習結果・課題レポート45%、 実技試験（実習操作）20%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とし ます。		

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習態度	○	○	○	○
レポート	○	○		
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		
評価割合	実習態度（編成された班における協同の様子等）15%、実習結果・課題レポート45%、実技試験（実習操作）20%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 必要な資料を授業中に適宜、配布します。			
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 稲野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円+税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ 食べ物と健康Ⅲ第2版食品加工と栄養／三共出版 松津保浩、竹田保之 加藤 淳 編著 定価2500円+税 2017年3月31日発行 B5判 222ページ			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品加工における専門的技術を身につける。			
オフィスアワー	火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。			
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、HACCP管理者資格取得に関する必修科目です。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	応用調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	基礎調理学実習を発展させた日本・西洋・中国料理の調理実習を行う。季節向きの献立、行事食、精進料理等、各趣向や目的に合わせた献立において内容に沿った食べ物の文化的、歴史背景も学べる内容とする。技術、食品の性質とその取り扱い方、演出、食事作法なども学ぶ。本科目は、フードコーディネーター3級の資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 行事食を通して食べ物と行事の繋がりがや意味合い、食の文化的、歴史的背景を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食材の下処理法や衛生的な取扱い方、調理技術が身についている。 2. 食品の種類と概量を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	一つの食材を複数の調理法で料理ができる。
技術・表現の観点 (A)	趣向に合わせた食事の演出とマナーや献立作成ができる。 味付け(調味割合)の基本と応用ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要、授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。	実習ノートを作成し授業の目的と授業内容を整理すること。	120分
第2回	アメリカンスタイルの朝食の献立実習	各種パン料理(クロックムッシュ、フレンチトースト)と卵料理(オムレツ)スープと果物の実習をとおして、アメリカンブレイクファースト献立の成り立ちと技術、配膳を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 また西洋料理の朝食の種類とその内容をまとめておくこと。	120分
第3回		パイヨンの取り方、卵白を用いた衣の作り方と揚げ物の要点、マヨネーズとその応用(タルタルソース)を理解	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術	120分

	西洋料理の献立による実習	する。 青菜のゆで方とソテー法を理解する。 オレンジゼリーは、果汁の分量とゼラチンの扱い方を理解する。	的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	
第4回	日本料理、秋の献立	粟ご飯では粟の扱い方、薩摩汁は鶏肉、野菜の切り方、煮方、調味法を学ぶ。サバのみぞれ煮では、さばの二枚卸と調味、上げ方の要点を学ぶ。えのきだけの扱い方、加熱方法、浸し物の要点を学ぶ。どら焼きは、生地、材料割合と焼き方を学ぶ。秋の趣向での配膳を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第5回	雑穀を使った献立(日本料理)による実習	きび、あわ、はと麦、発芽玄米を飯、汁、揚げ物の衣、菓子に使用した献立を通し、その取扱ひ方、特徴、栄養価を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 また、雑穀の定義と栄養価を小麦粉、米と比較しノートに記入すること。	120分
第6回	中国料理の献立による実習	冷拌魷魚では、冷菜としてのいかの処理、味付け、盛り付け方を学ぶ。如意魚拵では、すり身の作り方と巻物調理法を学ぶ。糖酢魚では、鱈の丸揚げの要点を学ぶ。干貝粥では、粥の加熱の要点味付けを学ぶ。仁杏豆腐は、生のアーモンドから仁杏を作る方法を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第7回	秋の行楽弁当の献立による実習	松花堂弁当箱他各種お弁当箱に盛り付けを行い、通常の器との盛り付け方の違いを学ぶ。 実習内容は、松茸ご飯は、松茸の扱い方と醤油飯の調味割合と調味の時期を学ぶ。焼き茄子の味噌汁は、茄子の焼き方と調理法を学ぶ。瓢箪(巻焼卵と瓢形作り)、そうめん、すり身、栗の甘露煮を使いたいぐりの作り方を学ぶ。さんまのさばきかた、里ももと栗部の煮物は、里芋の下処理、栗麩の扱い方、調味法を学ぶ。柿なますは、立て塩法と調味割合、無花果の煮方を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 松花堂弁当箱、幕の内弁当箱の由来を調べノートに記載すること。	120分
第8回	西洋料理の献立による実習	ビーフストロガノフでは、ルウの作り方、肉の煮込み法、調味法について学ぶ。サフランサイスの要点を学ぶ。白菜とみかんのサラダとソースを学ぶ。シュー生地の材料割合と加熱方法、デコレーション法を学ぶ。カスタードクリーム、材料割合と調理法、生クリームの泡立ての要点を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第9回	西洋料理の献立による実習	クラムチャウダーは、ルウと貝を加える要点を学ぶ。豚肉のウイーン風カツレツは、豚肉の処理とソテー方法を学ぶ。付け合わせのペンネパスタ、芽キャベツ、ブロッコリーのゆで方と味付けを学ぶ。アップルパイでは、パイ生地の材料割合と調理法、リンゴの煮方を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第10回	行事食：お正月料理1	田作り、伊達巻、きんかんの甘煮、五色なます、小豆飯、粕汁の実習と器への盛り付け、重箱詰め(一の重、二の重、三の重、与の重)などを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 おせち料理の由について調べ、ノートに記入すること。	120分
第11回	行事食：お正月料理2	栗きんとん、五目のし鶏、わかさぎの南蛮漬、人参と大根の相合結び、雑煮、薯蕷饅頭の実習と重箱詰めと盛り付け、テーブルコーディネートを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 五節句と食べ物について調べ、ノートに記入すること。	120分
第12回	行事食：クリスマス料理	エビのスープ、鶏肉のクリーム煮、ラディッシュのサラダ、プッシュドノエル(クリスマスの薪)の実習を通して、鶏肉の扱い方、ラディッシュの加熱方法と調味、プッシュドノエルのスポンジケーキ生地の要点を学ぶ。クリスマスとしてテーブルコーディネートを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 クリスマスの由来と食べ物について調べ、ノートに記入すること。プッシュドノエルのいわれについても調べること。	120分
第13回	中国料理 立春を祝う料理	立春を祝う料理(春餅)の実習と、甜酸脆魚、雲吞湯、棗糕を実習する。春餅、棗糕では、小麦粉の扱い方の違いを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第14回	行事食 ひな祭りの献立による実習	ひな祭りの趣向で、はまぐり寿司、茶巾寿司、いなりずしの実習を通して、ひな祭り食べ物といわれも学ぶ。えび真蒸のすまし汁では、椀種の真蒸の作り方の要点、桜餅では、道明寺粉の扱い方を学ぶ。また、盛り付けについても行事食としての趣向を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第15回	西洋料理の実習	わかさぎのエスカベージュ、人参のポタージュスープ、帆立で貝のグラタン、パパロアの献立から、これまでの	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術	120分

	<p>復習となる調理法（材料の切り方、揚げ物、裏ごし（ピュレ）、スープの取り方、ルウ、魚介類の扱い方、生クリーム、ゼラチン）、食材の扱い方について学ぶ。</p>	<p>的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。</p>																									
学習計画注記	天候他、材料の搬入に影響があった場合は実習内容の変更をすることがあります。																										
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は2108研究室（emailも可）を訪問してください。																										
評価方法	<p>実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。</p> <p>筆記試験：授業内容に関する試験を実施する。</p> <p>技術試験：応用的な実技試験を行う。</p> <p>調理ノート：指定された項目の記載（15週分）と課題の記述を評価する。</p>																										
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習参加状況</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>実習試験</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習ノート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>		評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	実習参加状況	○	○	○	○	実習試験		○		○	筆記試験	○	○			実習ノート	○			○
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																							
実習参加状況	○	○	○	○																							
実習試験		○		○																							
筆記試験	○	○																									
実習ノート	○			○																							
評価割合	平常点（40%、授業への参加状況）、筆記試験(15%)、実習試験(15%)、調理実習ノート他提出物(30%)による総合評価。																										
使用教科書名 (ISBN番号)	<ul style="list-style-type: none"> ・「応用調理実習」のテキスト（作成教材）を配布する。 ・七訂 食品成分表2019 / 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1019-6） ・調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版部（978-4-7895-0323-5） 																										
参考図書	必要に応じて配布する。																										
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。</p> <p>【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能とこれらの開発企画や表現力を身につけている。</p>																										
オフィスアワー	火曜日12時10分～13時（2108室）																										
学生へのメッセージ	実習ノートを活用し、時間を見つけて調理をすることで技術が上達します。栄養士は、多様な食材の特徴を知り、一食材を多様に、また多くの食材を使いこなせる知識と技術が求められます。積極的に取り組みましょう。																										
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																									
実務経験を活かした授業																											
アクティブ・ラーニング																											
情報リテラシー教育																											
ICT活用																											

[ウィンドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食空間コーディネート論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし
准教授	高尾 純宏	指定なし

授業概要(教育目的)

この科目は、フードコーディネーター資格取得のために必須の科目である。
この授業は、心地よい食卓・食事空間の演出は、豊かな食生活を営む上で最も重要なことである。日常の食卓や行事に伴う様々な趣向を凝らした食卓の演出について、日本や諸外国の基本的テーブルセッティングのルールとその歴史的・文化的背景を含めて学ぶ。また、食器やカトラリー、クロスの材質、フラワーアレンジメントやこれらを総合したカラーコーディネート、食卓とイスなどテーブルを中心としたコーディネートの適正、採光や音響、温湿度などについてもその適切な条件について実演・実習を加えながら解説する。また、これらを基本とするテーブルマナーを解説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幅広い文化によって構成されている食空間に関する知識を勉強することは、感性が豊かに磨かれ、「おもてなしの心と感謝の気持ち」が現れ、よりよい食環境づくりにつながる。食空間をプロデュースすることの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	国、行事、季節等により食空間コーディネート内容は変化するため、国の習慣、行事内容等を考慮しコーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食空間を整える要素として食器の種類・形・触感、照明、色彩、花、部屋の広さ、料理内容など多くある。それらの組み合わせにより、食空間を様々なに変化させることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食空間コーディネートとは	食空間コーディネートの目的、意義、役割について理解する。	テキストの「基礎理論」を読んでおくこと。	120分
第2回	テーブルコーディネートアイテムについて①	テーブルコーディネートのアイテムとして重要な食器の種類について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートアイテムI」を読んでおくこと。	120分
第3回	テーブルコーディネート			120分

	ネットアイテムについて②	テーブルコーディネートのアイテムとして重要な食卓装飾品、照明・光、テーブルリネン、テーブルに飾る花について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートⅡ」を読んでおくこと。	
第4回	色彩について	食空間コーディネートをやる際の、カラーシステム、配色テクニック、テーブルの色使いについて理解する。	テキストの「色彩」を読んでおくこと。	120分
第5回	和洋中のコーディネートについて	洋風テーブルセッティング、和食卓のセッティング、中国料理のセッティング、パーティー、国内外の行事について理解する。	テキストの「コーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	おもてなし料理について	日本料理、西洋料理、中国料理、酒類・飲料類、日本料理・西洋料理・中国料理のテーブルマナーについて理解する。	テキストの「おもてなし料理」を読んでおくこと。	120分
第7回	卓食について	食育基本法、卓食の意味・役割について理解する。	テキストの「卓食」を読んでおくこと。	120分
第8回	LDKとキッチン	食卓の変遷、家の中の食卓空間の位置、DK・D・K、ワークトライアングル、キッチンレイアウト（I、II、L、U、アイランド型、ペニンシュラ型）、LDKの構成について理解する。	復習：キッチンとダイニング、リビングの関係を理解し、それぞれのメリット、デメリットを理解しておく。キッチンの種類、ワークトライアングルとの関係も理解しておく。	120分
第9回	動作空間と寸法	人体寸法、動作特性、ダイニングの動作空間、キッチンの動作空間について理解する。調理台の高さの算出を実際に自分の身長を基に計算する。	復習：収納や配膳などの動作空間について理解しておく。自分自身に合った調理台の高さについての導き方を復習しておく。	120分
第10回	インテリアエレメント 1) 照明器具、ウインドウトリートメント	コーディネーション、照明器具のスタイル、キャンドルの種類や効果を学ぶ。	復習：インテリアエレメントについての理解、6つのスタイルの特徴とそれぞれのエレメントの選択について理解しておく。	120分
第11回	インテリアエレメント 2) 家具、壁紙、天井材、床材、カーペット	家具の歴史、家具のスタイル、内装材スタイル、ウインドウトリートメントについての幅広い知識を得る。	復習：日本と世界の家具の歴史を復習。西洋については時代によって様式があることを理解しておく。内装材の種類、窓の装飾、カーテンの装飾について理解しておく。	120分
第12回	食具、和陶磁器、洋陶磁器、漆器、ガラス器、銀器	和陶磁器、炝器の産地、陶器、磁器、食器種類、陶磁器の技法、器の形状、古窯、漆器産地、加飾について学ぶ。	復習：陶器、磁器、漆器の産地と特徴を理解しておく、またガラス器、銀器との組み合わせ方、それぞれのイメージをつかんでおく。	120分
第13回	西洋の食卓文化	西洋の食卓文化、時代で見る、西洋のお酒と飲み物、お菓子と飲み物について学ぶ。	復習：時代や国で食事の仕方が様々であったことを理解しておく。西洋についてはフォークの発達に時間がかかったことも理解しておく。酒、紅茶、コーヒー、茶、お菓子の発達、習慣を理解しておく。	120分
第14回	日本の食卓文化、その他の文化圏	日本料理の流れ、五節句、懐石の流れ、お茶と器、和菓子の歴史、酒と器、中国、韓国、タイ・ベトナムの食卓文化、その他の文化圏について理解する。	復習：大饗料理、精進料理、本膳料理、懐石料理、会席料理、食卓の変遷、五節句、懐石（茶事）について理解しておく。	120分
第15回	まとめ	テーブルマナーやテーブルセッティングについて、食事空間と様々なエレメント、日本独自の食習慣など総合的に理解する。試験範囲の振り返り。	復習：配布資料の理解、試験対策としての学習をしておく。	120分

学生へのフィードバック方法	定期試験の結果を受け、定期試験問題の解説と答案用紙を一緒に返却する。				
評価方法	平常点（20%）、定期試験（80%）で評価を行う。 担当教員が2名いるが、それぞれが上記割合で評価を行い、その評価を合わせて総合的に成績を出す。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	定期試験	○	○		

評価割合	平常点20%、定期試験80%			
使用教科書名 (ISBN番号)	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・3級」／食空間コーディネート協会 ただし、すでに本学で食空間コーディネート協会による講習会を受講した学生は購入しなくてよい。			
参考図書	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・2級」／食空間コーディネート協会 「TEXT BOOK テーブルコーディネート」／(株) 優しい食卓			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食の専門家として探求心を持ち、社会に貢献したいという意欲があり、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。			
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室 (高尾)			
学生へのメッセージ	フードコーディネータ資格取得希望者は、必ず履修してください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	比較食文化・食生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定	指定なし

授業概要(教育目的)	日本および諸外国の食文化・食生活の講義を行う。 日本および諸外国の食生活は、その地域の気候風土による生産、収穫物や宗教、流通事情などと切り離して考えることはできない。各国々や地域での食の循環について、過去から現在の時間軸を通して、その普遍性と変化、食生活への影響を及ぼす様々な要因を考察し、現在およびこれからの食生活の課題について講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本および諸外国の食文化・食生活の歴史と現状について基礎的な内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	われわれを取り巻く食のさまざまな問題と結びつけて食生活の諸課題を読み解くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	時代とともに食生活が大きく変化していることを身近なテーマの中から見付け出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	講義や自らの知見によって得た内容・情報を整理し、一定の考え方とともに表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食の世界遺産(1)	国連機関であるユネスコが認定した8つの「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第2回	食の世界遺産(2)	国連機関であるユネスコが認定した8つの「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第3回	主食から食文化を考える	人間の生存に関わる主食は、米や麦などの穀物だけではない。豆類や芋類など、気候や風土によって主食が国や地域で異なることを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第4回			原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講	30分

	食材から食文化を考える	食材は、国や地域で主食同様に環境が大きく影響するほか、その利用法が社会状況や風習・宗教などによって多様化した背景を理解する。	義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	
第5回	新大陸の発見で変化した食文化	コロンブスが発見した新大陸から持ち込まれた食材が世界中の食生活を変えた。どんな食材がどこに持ち込まれ、どう生活が一変したかを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第6回	日本は外国の食文化をどう受け入れて来たか	日本は、稲作伝来以来諸外国の食文化をどう受け入れてきたのか。鎖国時代を挟んで日本が受け入れてきた外国の食文化の歩みを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第7回	味の決め手は調味料&スパイス	料理の味を左右する調味料&スパイスの関係は深い。時には戦争の要因ともなった調味料&スパイスの歴史を辿ることで世界の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第8回	食文化は宗教と結びついている	宗教と食生活の関係を正しく認識することがグローバル時代には欠かせない。宗教と密接に結び付いた食文化をその歴史とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第9回	食後のデザート（スイーツ）は別腹？	食後やおやつに食べるデザート（果物や菓子）の歴史は古い。デザートとともに喫するコーヒー、紅茶の歴史を日本の食文化と比較しながら理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第10回	食のマナーに国境はない？	マナーを一つ間違えるととんでもないことになりかねない。食のマナーを諸外国と日本を比較しながら、マナー成立の過程とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第11回	世界に酒と肴は無数にある	食事の場に酒は欠かせない。世界中に無数にあると言われる酒とともに発展した「珍味」「肴」というジャンルと合わせて酒の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第12回	人はお祝いや弔いの時に何を食べて来たのか	行事食（慶弔など）がその国の文化や風習とどのように結びついて進化してきたのか。日常食を離れたハレとケの食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第13回	調理器具、器としつらいで味も変わる	料理を盛る器や演出も食生活の大きな要素である。食の周辺を彩るさまざまな演出について、日本と海外の食文化の捉え方を通じて理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第14回	ファストフード、外食産業が食文化を変える？	ファストフードや外食産業の歴史とともに、現在、世界を席捲するファストフード文化とグローバル化する外食産業の今後について考える。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第15回	食のグローバル化で食生活はどうなるのか？	メディアの進展により食の画一化が急速に進んでいる。地球温暖化など現在起きているさまざまな事象から今後の私たちの食生活を考える	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	講義時に随時課す課題については、必要に応じて講義の中でフィードバックする。			
評価方法	学期末レポート（定期試験）で基本的な評価を行い、講義で随時課す課題と合わせて総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

学期末レポート	○	○	○
講義時の課題			○
評価割合	学期末レポート80%、講義で課す課題20%		
使用教科書名 (ISBN番号)	なし		
参考図書	『食の世界地図』（21世紀研究会編／文春新書） ISBN4-16-660378-7 C0239		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】過去・現在における日本および諸外国の食文化・食生活の成立過程や環境等の考察を通じて、食に関する文化の多様性を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】食生活に関するグローバルな課題について、正確な情報に基づいて思考し、的確に判断できる力を身に付けている。		
学生へのメッセージ	食は文化であり、器に美しく盛られた料理はその時点で芸術となる。ただし、絵画や彫刻は鑑賞することができるが、料理は食べてみなければわからない。料理を鑑賞するという、それは取りも直さず食べることである。テレビや雑誌、あるいはネット等で気になった食べ物があったら、どこの国のものだろう、どんな味がするんだろうなど思いを巡らせ、可能な限り自分の舌で味わってみてほしい。それが食文化・食生活の多様性や奥深さを理解する原点である。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業		NHKテキスト「きょうの料理」編集長を務めた経験を活かし、授業にあたっては単に文献や資料だけに依らず、実務経験に基づいたジャーナリスティックな視点から、身近で理解しやすい教授法を取り入れる。	
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養士総合演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のために必須科目である。 食育、健やかな食生活形成として栄養と健康に携わるエキスパートとしての栄養士としてのキャリアデザインを総合的に学習し、栄養士という有資格者としての礎について講義する。また、栄養士の基本ともいえる栄養計算、対象者別の献立作成についても説明する。さらに、災害時の栄養士の役割についても講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食事摂取基準の考え方、食品成分表の使い方、献立作成の基本を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	対象者に合わせた各栄養素およびエネルギー量を満たす栄養基準の設定をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立作成においては積極的に料理や調理方法の提案ができ、HUGにおいては積極的に意見をいうことができる。
技術・表現の観点 (A)	給食施設ごとの献立作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本食品成分表の使い方について	日本食品成分表の役割、使い方について理解する。	日本食品成分表を見て、目的、性格、掲載内容を理解しておくこと。	120分
第2回	献立作成および栄養計算について	献立作成の要件と日本食品成分表を用いた献立計算の方法を習得する。	調理学実習等で習った献立計算方法の復習をしておくこと。また、テキストの「第1章 献立作成にあたって」を読んでおくこと。	120分
第3回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について①	日本人の食事摂取基準について理解する。	テキストの「第2章献立作成の理論と実際 2. 日本人の食事摂取基準と給食運営」を読んでおくこと。	120分
第4回	日本人の食事摂取基準による栄養	日本人の食事摂取基準を用いた栄養管理・食事管理の基本を理解する。	テキストの「第2章 献立作成の理論と実際 3. 献立作成までの手順 4. 食品群別荷重平	120分

	管理・給食管理について②		均栄養成分について 5. 食品構成」を読んでおく。	
第5回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について③	日本人の食事摂取基準を用いた事業所給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 2. 事業所給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について④	日本人の食事摂取基準を用いた保育所給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 3. 社会福祉施設給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第7回	学校給食実施基準による栄養管理・給食管理について	学校給食実施基準を用いた学校給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 1. 学校給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第8回	対象者に合わせた献立作成①	自分たちで設定した対象者に合った献立作成をする。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第9回	対象者に合わせた献立作成②	自分たちで設定した対象者に合った献立作成をする。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第10回	対象者に合わせた献立作成③	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第11回	災害時における栄養士の役割について①	給食施設における事故と災害を知り、その対策について理解する。	給食管理論で使用する教科書「実践給食マネジメント」の「第9章 リスクマネジメント 3. 各事故と災害における危機管理」を読んでおくこと。	120分
第12回	災害時における栄養士の役割について②	災害時の栄養士会の役割と取り組みの実際について理解する。	日本栄養士会の災害時の取り組みに関する配布資料を読んでおくこと。	120分
第13回	災害時における栄養士の役割について③	災害時は、住居環境が平常時と著しく異なる。特に食事の調整は難しい。災害時の状況に合わせた食事管理について理解する。	給食管理論で使用する教科書「実践給食マネジメント」の「第9章 リスクマネジメント 3. 各事故と災害における危機管理」を読んでおくこと。また、事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第14回	災害時における避難所での栄養士の役割について	HUG (hinanzyo : 避難所、unei : 運営、game : ゲーム) を行うことで、避難所に集まる避難者にどのような状態の方々がいるのか、その方々にどう対応していくかを理解する。	応用栄養学で使用する教科書で、ライフステージ別の食事形態や必要な栄養素量について確認をしておくこと。	120分
第15回	まとめ	食品成分表、食事摂取基準、対象者にあった献立作成、災害時の栄養士としての対応等について学んだ中で、栄養士に必要な知識や技術は何かを、グループディスカッションを行い発表する。	この授業で使用したテキスト、配布資料を読み返しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	提出された献立等の提出物にコメントを入れて返却する。また、グループディスカッション後の発表に対してもコメントを伝える。			
評価方法	平常点、提出物、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）で評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	

提出物	○	○		
レポート	○	○		
GDの参加状況			○	○
評価割合	平常点30%、提出物40%、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）30%			
使用教科書名 (ISBN番号)	給食施設のための献立作成／赤羽正之ら著／医業業出版			
参考図書	日本食品成分表、日本人の食事摂取基準、応用栄養学で使用する教科書			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るために食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。			
オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室			
学生へのメッセージ	献立作成は栄養士の基本業務です。一見、簡単そうに感じますが、対象者や基準に合わせた献立を作成することは食事摂取基準、食品成分表等に関する知識および理解と献立を組み立てるセンスや判断が大切になります。またそれらは、予期せぬ災害時における食事管理にも役立ちます。この授業で献立作成技術をマスターしましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	自分たちで設定した対象者用の献立作成およびHUGは、グループディスカッションにより出来上がった成果物について発表を行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

授業概要(教育目的)	この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、食文化、食生活、食品産業、食情報、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの仕事内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する様々な問題および課題について、食品産業分野の観点から考え、解決方法を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る食関係の広範な分野について、常に関心を持ち、情報収集を積極的にできる。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードスペシャリストとは	食の専門職の現状、フードスペシャリストの概念、フードスペシャリストの業務とその専門性、フードスペシャリストの養成と資格、フードスペシャリストの活躍分野、フードスペシャリストの責務について理解する。	教科書の第1章の「食の専門職の現状」「フードスペシャリストの概念」「フードスペシャリストの業務とその専門性」「フードスペシャリストの養成と資格」「フードスペシャリストの活躍分野」「フードスペシャリストの責務」を読んでおくこと。	120分
第2回	人類と食物①	人類の歩みと食物について理解する。	教科書の第2章の「人類の歩みと食物」を読んでおくこと。	120分
第3回	人類と食物②	食品の加工・保存技術史について理解する。	教科書の第2章の「食品の加工・保存技術史」を読んでおくこと。	120分
第4回	世界の食①	食作法、食の禁忌と忌避について理解する。		120分

			教科書の第3章の「食作法」 「食の禁忌と忌避」を読んでおくこと。	
第5回	世界の食②	世界各地の食事情について理解する。	教科書の第3章の「世界各地の食事情」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本の食①	日本食物史について理解する。	教科書の第4章の「日本食物史」を読んでおくこと。	120分
第7回	日本の食②	食の地域差について理解する。	教科書の第4章の「食の地域差」を読んでおくこと。	120分
第8回	現代日本の食生活①	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活について理解する。	教科書の第5章の「戦後の食生活の変化」「食生活の現状と消費生活」を読んでおくこと。	120分
第9回	現代日本の食生活②	食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食について理解する。	教科書の第5章の「食生活の変化と食産業」「食料の供給と食料自給率」「環境と食活」を読んでおくこと。	120分
第10回	食品産業の役割①	フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴について理解する。	教科書の第6章の「フードシステムと食品産業」「食品製造業の規模と動向」「食品製造業の目的と特徴」を読んでおくこと。	120分
第11回	食品産業の役割②	食品卸売業、食品小売業、外食産業について理解する。	教科書の第6章の「食品卸売業」「食品小売業」「外食産業」を読んでおくこと。	120分
第12回	食品の品質規格と表示①	食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示について理解する。	教科書の第7章の「食品の品質規格」「表示に関わる法律」「JAS法による規格」「食品表示法による表示」を読んでおくこと。	120分
第13回	食品の品質規格と表示②	健康や栄養に関する表示制度、その他お法令等による表示による表示について理解する。	教科書の第7章の「健康や栄養に関する表示制度」「その他お法令等による表示」を読んでおくこと。	120分
第14回	食情報と消費者保護	食情報の発信と受容、食情報の濫用、食の情報管理、食品の安全、消費者保護の制度について理解する。	教科書の第8章の「食情報の発信と受容」「食情報の濫用、食の情報管理」「食品の安全」「消費者保護の制度」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分
学生へのフィードバック方法		学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2309研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。		
評価方法		平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のための必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		
評価割合		平常点30%、定期試験70%		
使用教科書名 (ISBN番号)		フードスペシャリスト論/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社		
参考図書		特に指定しない		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】多様な食環境や食文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組む。		

オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室															
学生へのメッセージ	フードスペシャリスト協会認定資格試験を受験したい学生には必修の科目です。 教科書と併せて過去問題集の取り組みもしましょう。 また、この科目は定期試験の再試験は行いませんので、しっかり勉強しましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>該当 有無</th><th>概要</th></tr></thead><tbody><tr><td>実務経験を活かした授業</td><td></td><td></td></tr><tr><td>アクティブ・ラーニング</td><td></td><td></td></tr><tr><td>情報リテラシー教育</td><td></td><td></td></tr><tr><td>IGT活用</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>		該当 有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			IGT活用		
	該当 有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
IGT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	フードコーディネータ論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。</p> <p>食の様々な場面において、多様な条件や要求を満足させるための演出をすることが、フードコーディネータである。食卓、食品販売、食情報を発信するイベントやマスメディアや広告企画、ライフステージに合わせた食育、店舗経営などで、食空間のコーディネータやサービスマナー、メニュープランニング、フードマネージメントなどに講義する。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)	
------------	--

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	フードコーディネータの仕事の内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する正しい知識および情報と誤った情報との選択・識別をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	専門分野だけの知識・技術をコーディネートするだけでなく、専門以外にも幅広い知識を習得し、多様な状況においてものごとを総合的な視点で捉えることができる。
技術・表現の観点 (A)	新しい食の「ブランド」「トレンド」を創る 食の「開発」「演出」「運営」を行うことができる。

学習計画	
------	--

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードコーディネータの基本理念	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネータとに関連について理解する。	教科書の「第1章 フードコーディネータの基本理念」を読んでおくこと。	120分
第2回	食事の文化について①	食事の概念、食のタブーと宗教について理解する。	教科書の第2章の「食事とは」「食のタブーと宗教」を読んでおくこと。	120分
第3回	食事の文化について②	日本の食事の歴史、特別な日の食事、外国の食事について理解する。	教科書の第2章の「日本の食事の歴史」「特別な日の食事」「外国の食事」を読んでおくこと。	120分
第4回	食卓のコーディネータ①	テーブルコーディネータの要点、日本料理の食卓のコーディネータについて理解する。	教科書の第3章の「テーブルコーディネータの要点」「日本料理の食卓のコーディネータ」を読んでおくこと。	120分

第5回	食卓のコーディネート②	中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネートについて理解する。	教科書の第3章の「中国料理の食卓のコーディネート」「西洋料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	食卓のサービスとマナー①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー、中国料理のサービスとマナー	教科書農耕第4章の「サービスとマナーの基本」「日本料理のサービスとマナー」「中国料理のサービスとマナー」を読んでおくこと。	120分
第7回	食卓のサービスとマナー②	西洋料理のサービスとマナー、パーティー、プロトコルについて理解する。	教科書の第4章の「西洋料理のサービスとマナー」「パーティー」「プロトコル」を読んでおくこと。	120分
第8回	メニュープランニング	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎について理解する。	教科書の第5章の「メニュープランニングの要件」「料理様式とメニュー開発の基礎」を読んでおくこと。	120分
第9回	食空間のコーディネート①	食空間のコーディネートの基礎を理解する。	教科書の第6章の「食空間のコーディネートの基礎」を読んでおくこと。	120分
第10回	食空間のコーディネート②	食事空間のコーディネート、キッチンコーディネートを理解する。	教科書の第6章の「食事空間のコーディネート」「キッチンコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第11回	フードサービスマネジメント①	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本、フードサービス（レストラン）の起業について理解する。	教科書の第7章の「フードサービスマネジメントの動向と特性」「マネジメントの基本」「フードサービス（レストラン）の起業」を読んでおくこと。	120分
第12回	フードサービスマネジメント②	投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点売上高について理解する。	教科書の第7章の「投資計画の作成」「収支計画の作成」「損益分岐点売上高」を読んでおくこと。	120分
第13回	食企画の実践コーディネート①	食企画の流れ、食企画に必要な基礎スキルについて理解する。	教科書の第8章の「食企画の流れ」「食企画に必要な基礎スキル」を読んでおくこと。	120分
第14回	食企画の実践コーディネート②	食企画の実践現場について理解する。	教科書の第8章の「食企画の実践現場」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法	学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2309研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合	平常点30%、定期試験70%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	フードコーディネート論/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社
-----------------	---------------------------------

参考図書	特に指定しない
------	---------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題
---------------	--------------------------------------------------------------------------------

	を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。	
オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室	
学生へのメッセージ	この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目です。この科目は定期試験の再試験は行わないため、これら資格取得を目指している人はしっかり勉強してください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食企画・開発演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】食品の企画開発を担うための基礎力を養う。グループ形式で、過去の商品開発事例を研究し、背景にある企業文化、開発思想、マーケティングやプロジェクトマネジメントの手法を学ぶ。また、安心安全と CSR や知的財産など、企画開発を担う上で必要な法や制度のシステムを学ぶ。</p> <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つのワークがあります。【ワーク1】から【ワーク3】では、3-4人でグループを作り協働してテーマに取り組みます。メンバーは、各ワークで組み替えます。グループワークでは、履修生全員がファシリテーターとプレゼンターを経験します。 ・ 【ワーク4】では、【ワーク1】から【ワーク3】で学んだことを生かして、各自が企画を立案し、プレゼンします。優秀な企画は、食企画・開発演習II及びIIIで採用します。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が習得できている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の効果的な進め方を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことを多面的にディスカッションできている。
技術・表現の観点 (A)	企画の立案とプレゼンテーションの体験を通して、自身の企画力とプレゼンテーションを正確に自己分析できている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【ワーク1】ガイダンス・チーム編成/製品開発の考え方	製品開発の変遷・ビジョンファースト・マーケティングの本質を理解します	振り返りを提出してください (Google Classroomに投稿する)	120分
第2回	【ワーク1】マーケティングのツール (1) / 安	CVCA・食のリスク要因(有害微生物・有害成分)を理解します	振り返りを提出してください (Google Classroomに投稿する)	120分

	全衛生の考え方			
第3回	【ワーク1】マーケティングのツール(2)／食の法と制度・知的財産	法の目的と概要とコンプライアンス・制度とガバナンスを理解します	振り返りを提出してください (Google Classroomに投稿する)	120分
第4回	【ワーク1】マーケティングのツール(3)／マネジメントの考え方	チームビルディングとマネジメントを理解します。	振り返りを提出してください (Google Classroomに投稿する)	120分
第5回	【ワーク2】企画(1)のテーマ調査	企画(1)のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。三番町の書籍も積極的に利用してください(リクエストすることができます)web情報も利用可能です。情報の出どころを必ず記録しておくこと。企画書を作成する時に記載します。企画をどのように評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	120分
第6回	【ワーク2】企画(1)の立案とフィードバック	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	120分
第7回	【ワーク2】企画(1)の実行	企画を実行し、評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	120分
第8回	【ワーク2】企画(1)の振り返り／チーム再編成	チームで立案した企画を魅力的にプレゼンしてください。プレゼンは、特定の人のみが準備・発表するのではなく、全員が力を合わせて発表すること。	企画(1)の振り返りを提出してください(Google Formに回答する)	120分
第9回	【ワーク3】企画(2)のテーマ調査	企画(2)のテーマを実現するための情報を図書館から探して来てください。三番町の書籍も積極的に利用してください(リクエストすることができます)web情報も利用可能です。情報の出どころを必ず記録しておくこと。企画書を作成する時に記載します。企画をどのように評価するのかを決めてください、	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	120分
第10回	【ワーク3】企画(2)の立案とフィードバック	企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。	時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。	120分
第11回	【ワーク3】企画(2)の実行	企画を実行し、評価してください。次回のプレゼンに向けてパワーポイントファイルを作成してください。	パワーポイントファイルを作成し、プレゼンの準備をしてください。特定の人だけが取り組むのではなく、チーム全体で取り組むようにしてください。	120分
第12回	【ワーク3】企画(2)の振り返り／チーム再編成	チームで立案した企画を魅力的にプレゼンしてください。プレゼンは、特定の人のみが準備・発表するのではなく、全員が力を合わせて発表すること。	企画(2)の振り返りを提出してください(Google Formに回答する)	120分
第13回	【ワーク4】個人企画のテーマ調査	授業で学習した知識をもとに、各自が食に関する企画を考えクラス全体に発表します。	テーマ調査をもとに企画を立案してください。	120分
第14回	【ワーク4】個人企画の企画書とプレゼンの準備	企画書を完成させ、プレゼンを準備してください。	本日中に、企画書のパワーポイントファイルをGmail添付で送信すること。	120分
第15回				120分

	【ワーク4】個人企画発表会	発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや意見・感想を発信してください。発表者は、コメント・意見・感想を元に、自身の発表内容及びプレゼンテーション方法を自己分析してください。	それぞれの発表に対してコメントシートを作成し、発表者に渡してください。 (履修生が多い場合には、別の振り返りの方法を採用します)		
学生へのフィードバック方法		授業に対する振り返りを確認し、翌回の授業でフィードバックします。(Google Classroomを利用)			
評価方法		授業への参加度・個人企画は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること(参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業への参加度	○	○	○	○
	個人企画	○	○	○	○
評価割合		授業への参加度 (6点×15=90) 個人企画 (10点)			
使用教科書名 (ISBN番号)		システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」			
参考図書		Google Classroom クラスコード: 8n6rr0y			
参考URL		https://classroom.google.com/u/0/c/MjgxNTg5MjUyNjVa			
ディプロマポリシーとの関連		<ul style="list-style-type: none"> ・食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている ・多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 			
オフィシアワー		月曜日 昼休みと4限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること			
学生へのメッセージ		企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本講義で学ぶ基本的な考え方と手法は、フードビジネスに限らず組織で働く方に大きく役立つと思います。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> ・企画開発の実践的な知識を継承する。 ・企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを継承する。(食品企業での研究開発の実務経験26年) 			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な論理思考力と対話力を養います。			
情報リテラシー教育	○	企画のテーマ調査の時に、図書館の資料の検索や、情報データベースを検索します。			
ICT活用	○	企画のプレゼンの時に、パワーポイントファイルを使用します。			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	病態生理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

授業概要(教育目的)

人体の正常な機能の異常や、調節機能が傷害されることによって起こる病気の身体機能の状態と傷害をきたす原因を学ぶ。特に主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できるようになることを目的とする。本科目は、HACCP管理者資格取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 主要疾患の治療において栄養面以外で必要とされるケアについても把握し、栄養士・管理栄養士が医療チームの中での役割を列記することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	病態生理とは	疾患診断の概要を学ぶ。	教科書の第1章(p16-22)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	循環器疾患(1)	循環器系疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第2章(p23-44)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	循環器疾患(2)	循環器系疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第2章(p44-47)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	呼吸器疾患(1)	呼吸器疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第3章(p48-74)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第5回	呼吸器疾患(2)	呼吸器疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第3章(p75-79)を通読する。	120分

			教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。		
第6回	消化管疾患	消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第4章 (p80-111) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第7回	肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第5章 (p112-137) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第8回	腎臓・尿路疾患 (1)	腎・尿路疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第6章 (p138-150) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第9回	腎臓・尿路疾患 (2)	腎・尿路疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第6章 (p151-156) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第10回	内分泌疾患	内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第7章 (p157-187) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第11回	代謝疾患 (1)	代謝疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第8章 (p188-206) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第12回	代謝疾患 (2)	代謝疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第8章 (p207-210) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第13回	自己免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第9章 (p211-231) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第14回	血液疾患	血液系の疾患・障害の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第10章 (p232-263) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
第15回	神経・筋疾患	神経・筋骨格疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第11章 (p264-290) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分	
学習計画注記		※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。			
学生へのフィードバック方法		毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		
	定期試験	○	○		
評価割合		定期試験 (70%) および授業中に行う小テスト (30%) で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する (小数点以下は四捨五入)。			

使用教科書名 (ISBN番号)	林 洋編 『はじめの一歩の病態・疾患学』 羊土社 978-4758120852	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室	
学生へのメッセージ	HACCP管理者資格希望者だけでなく、管理栄養士国家試験受験を希望する学生や、病院における食事管理、栄養指導などに興味のある学生はぜひ選択して下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食事計画論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	食生活指針や食事摂取基準の概念を理解し、喫食者にとって望ましい食事の計画(献立の作成)ができるための基礎を学ぶ。具体的には、エネルギーと各栄養素の指標を理解し、献立の栄養価計算を食品成分表を用いて可能にする。また、自身の食事内容(料理の種類、料理を構成する材料・分量、調理方法、供給の順番)などを計画し、その評価をおこなう。本科目は、食品衛生監視員・指導者、フードコーディネーター3級の取得に必須の科目である。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食事計画の意義、目的を説明できる。 日本食品成分表の成り立ちを理解し、その使い方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食生活指針や食事摂取基準など栄養・食品に関連する施策や指針の基礎的事項に基づいて日常の食事献立ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要について、食事計画の定義と意義	授業概要を理解し、食事計画の定義、意義、目的を理解する。	授業の目的を理解すること。	120分
第2回	食の現状と課題(児童)	調査データを基に、小学生(児童)の食に関連する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案(策)についてまとめておくこと。	120分
第3回	食の現状と課題(中学、校生)	調査データを基に、中学・高校生の食に関連する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案(策)についてまとめておくこと。	120分

第4回	食の現状と課題（大学生）	調査データを基に、大学生の食に関する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第5回	食の現状と課題（青年期、壮年期）	調査データを基に、青年期、壮年期の食に関連する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第6回	食の現状と課題（高齢期）	調査データを基に、高齢期の食に関する問題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第7回	食生活指針と食事バランスガイド	食生活指針と食事バランスガイド策定の流れと策定の目的、概要を理解する。	事前に配布された資料を読んでおくこと。	120分
第8回	食事摂取基準	食事摂取基準の策定の目的、使用期間、策定方針の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第9回	食事摂取基準（栄養の指標）	食事摂取基準を理解するための概念図をもとに栄養素の摂取の過不足を判断するための指標を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第10回	食事摂取基準（エネルギー、栄養素の指標）	栄養素の指標の目的、種類を学ぶ。基礎代謝量の求め方、たんぱく質、脂質、炭水化物の総エネルギーに占める割合（エネルギー産性栄養素の構成比率）から、推定エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物の求め方を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第11回	日本食品標準成分表2015年版（七訂）について	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の目的、性格、経緯について学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第12回	日本食品標準成分表2015年版（七訂）について（収載食品、成分項目、数値の表示方法、食品の調理条件他）	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の収載食品、成分項目、数値の表示方法、食品の調理条件他を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第13回	食卓構成と献立立案	食品群の種類（三色、六つの基礎食品群、4つの食品群）とその特徴について学ぶ。18～29歳代の1日の献立作成を行う。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布プリントの項目を読んでおくこと。	120分
第14回	献立立案と評価（立案献立の改善）	13回に続き、18～29歳代の1日の献立作成を行う。立案した献立の評価を行い、改善点の検討を行い、献立立案と評価の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布プリントを読んでおくこと。	120分
第15回	献立立案と評価（立案献立の再評価）	13回に続き、18～29歳代の1日の献立作成を行う。立案した献立の評価を行い、改善点の検討を行い、献立立案と評価の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布資料を読んでおくこと。	120分

学習計画注記	授業の進み方によって、内容が変更になることがあります。			
学生へのフィードバック方法	毎回授業内で質問の時間を取るが、時間内で理解できなかったことは、2108研究室（emailも可）を訪問すること。			
評価方法	筆記試験70%、レポート30%の総合評価。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○		
レポート	○	○		

評価割合	定期（筆記）試験（70%）及びレポート（30%）の総合評価。			
使用教科書名 (ISBN番号)	日本食品成分表 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1019-6） 調理のためのベーシックデータブック 女子栄養大学出版部（978-4-7895-0317-4） 必要に応じ資料を配布する。			
参考図書	必要に応じて指示する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。			
オフィスアワー	火曜日12時10分～13時			
学生へのメッセージ	配布する授業の資料は、ファイルに閉じるだけでなく、ノートにその概要を整理しておくことで、内容が理解しやすくなります。			
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	被服学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

授業概要(教育目的)	被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。 (花田朋美／8回) 被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。 (富田弘美／7回) 被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。			
履修条件	なし			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。			
思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、教育現場での発展的学習に備えることができる。			
関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。			
技術・表現の観点 (A)				
学習計画				
被服学概論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分
第2回	布帛の構造 — 繊維・糸・織物・編物の構造 —	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分

第3回	被服の素材 （1）－天然繊維－	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維（綿、麻、羊毛、絹）の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材 （2）－化学繊維－	代表的な化学繊維（再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維）について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の 染色加工と 機能化	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解する。	配付プリントの衣服素材の高機能化について読んでおくこと。	180分
第6回	被服と健康 －被服の快適性－	健康の定義と被服の快適性について概要を理解する。	配付プリントアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	被服の管理 と機能保持 －洗浄と保管－	衣服の汚れと汚れ除去のメカニズムについて、更に取り扱いに関する表示記号の概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗濯について読んでおくこと。	180分
第8回	衣生活と環境 保全	衣服の廃棄と環境問題、環境配慮の方法について概要を理解する。	配付プリント地球環境と繊維製品について読んでおくこと。	180分
第9回	服飾デザイン 1－デザイン構成－	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考える。	180分
第10回	服飾デザイン 2－デザイン要素－	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを自分でくこと。	180分
第11回	被服の変遷 1－西洋の服装－	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミ先生が留学した頃、20世紀初頭のファッション、芸術について調べる。	180分
第12回	被服の変遷 2－日本の服装と和服文化－	古代から中世の公家装束、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについて調べる。	180分
第13回	アパレル設計 －アパレル産業と既製服サイズ－	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握すること。	180分
第14回	衣生活とファッション ビジネス	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解する。	アパレル産業の現状を整理し、さらにアパレル産業の未来について各自の考えをまとめる。	180分
第15回	衣生活と福祉 －ユニバーサルデザイン－	ユニバーサルデザインの定義を把握し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を理解する。	ユニバーサルファッションとして企画されている商品（衣服）を調べる。180分	180分
第16回	筆記試験			

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	①第1回～第8回担当者による筆記試験 ②第1回～第8回の平常点 ③第9回～第15回担当者による筆記試験 ④第9回～第15回の平常点

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回～第8回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第8回の平常点			○	
第9回～第15回の筆記試験	○	○	○	
第9回～第15回の平常点			○	

評価割合	第1回～第8回と第9回～第15回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価																
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配布																
参考図書	第1回～第8回 ①やさしい繊維の基礎知識 (ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年) ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年) ③衣服管理の科学 (ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷) ④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年)																
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。																
オフィスアワー	水曜日4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室（花田） 木曜日12時30分から14時 1405被服構成学研究室（富田）																
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田）被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史、被服材料、被服衛生、被服管理などの基礎を多角的に概説します。被服・服飾の領域全般を広く学ぶことにより、魅力的で賢い衣生活を送ることに役立つような内容です。例えば、スカート・衿・袖などの名称、体型とデザイン、季節の寒暖に適合した素材や着用の方法、正しい洗濯や管理法などの知識は、日常に衣生活に役立つことでしょう。（富田）																
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。（花田）</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。（花田）	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要															
実務経験を活かした授業																	
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。（花田）															
情報リテラシー教育																	
ICT活用																	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	服飾造形実習A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

授業概要(教育目的)

基本的な下衣のショートパンツとスカートの各構成を把握し、デザイン（スタイル、素材、色彩など）、人体の構造とパターン設計（製図）との関係、素材の選定と扱い方、裁断と縫製準備（印つけ）、ミシン縫製の基礎技術、仕上げ（アイロンの扱い）など、衣服製作の基礎的な流れを習得する。消費者として日常着用している既製の素材、縫製、着心地（サイズ感）などの品質を見分けられることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

服飾造形実習A

回	授業テーマ	学習内容(7key*ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	スカートの種類、レポート説明1、生地準備、計測、スカート1（製図）	スカートの種類、材料（生地）、レポートの説明、道具、製図を理解する。スカートとショートパンツに必要な項目（ウエスト、ヒップ、股上など）を計測する。
第2回	洋裁道具説明、スカート2（型紙づくり）、ショートパンツ1（製図、地直し）	スカートの型紙、ショートパンツの製図、生地、準備する道具を理解する。
第3回	ショートパンツ2（型紙づくり、裁断）	型紙づくり、裁断、ロックミシンの使い方、縫い代のロックかけを理解する。
第4回	ショートパンツ3（本縫い1、ポケット、脇、股下、股上）	直線ミシンの使い方、ポケットづくりと付け、脇、股下、股上の縫合を理解する。

第5回	ショートパンツ4 (本縫い2)	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げを理解する。
第6回	スカート3 (型紙の展開、裁断、印つけ)	基本型スカートの展開 (フレア、ギャザー)、裁断、切りじつけによる印付けを理解する。
第7回	スカート4 (裁断、印付けまで完了) (仮縫い1、ダーツ)	裁断、切りじつけによる印付け、ダーツの縫い方を理解する。
第8回	スカート5 (仮縫い2、脇、裾上げ、ベルト付け)	仮縫い合わせ (脇、裾、ベルト付け) の縫い方を理解し、完成させる。仮縫いではインサイドベルトを粗ミシンで付ける。
第9回	スカート6 (試着点検、本縫い1)	試着点検・補正をする。本縫いではダーツ縫い、ファスナー側の脇縫ってアイロン掛けを理解する。
第10回	スカート7 (本縫い2、ファスナー付け、レポートの説明2)	ファスナーを付け、脇縫い、縫い代のロックかけを理解する。ファスナー付け完成・点検をうける。
第11回	スカート8 (本縫い3、ベルト付け、基礎縫い1)	ベルトつくりとベルト付け、基礎縫い1 (まつり縫い・たてまつり縫い) を理解する。
第12回	スカート7 (本縫い4、基礎縫い2)	ベルト付け完成、基礎縫い2 (奥まつり)、スカートの裾にロックをかけ、奥まつりを理解する。
第13回	スカート8 (基礎縫い3、前カンつけ)	基礎縫い3 (前カンのかがり)、ベルトに前カン (フックとバー) を付ける。
第14回	スカート9 (仕上げアイロン、基礎縫い4)	仕上げアイロンを掛け、基礎縫い4 (半返し縫い・全返し縫い・千鳥がけ) の縫い方を理解する。
第15回	着装発表、基礎縫い・作品 (スカート・ショートパンツ)、レポートの提出	コーディネートをして着装し、デザインの特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。

学生へのフィードバック方法	作品・基礎縫い・レポートのコメント、発表に対する講評
---------------	----------------------------

評価方法	平常点、作品、基礎縫い、レポート、発表 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
------	-----------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
作品	○	○	○	○
基礎縫い	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、作品30%、基礎縫い10%、レポート30%、発表10% 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
------	--------------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
-----------------	--------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	木曜日12:30~14:00
---------	----------------

学生へのメッセージ	初めて自分のショートパンツとスカートを作る人でも完成しますので、是非挑戦してください。ただし、欠席しない事が条件です。制作実習は、毎回作業を積み重ねることで作品が完成します。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	作品を着装し、デザインの特徴や素材について調べて発表する。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	住居学概論（製図を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小池 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷(1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住まいの変遷(2) 明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ		180分

			(復習) 自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	180分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第12回	住まいの設計プロセス	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類について学び、作図のための練習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図 (1) 図面作成のルール	建築図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図 (2) 平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第15回	住まいの設計／製図 (3) 配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	(復習) 図面を完成させる。	180分
第16回	定期試験	製図を除く授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて6回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○	○	
	製図課題	○			○
	定期試験	○	○	○	
評価割合	小課題30%、製図課題30%、定期試験40%により総合的に評価する。				

使用教科書名 (ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館	
参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える一住居学」彰国社	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な環境や文化を理解する 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【関心・意欲・態度】生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる 【技能・表現】生活の質の向上を図るための技能と表現力を身につけている	
オフィスアワー	金曜3限 3508研究室	
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

授業概要(教育目的)

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、近世女性史研究家柴桂子先生をお招きし、江戸時代に遡って女性の生き方を知り、現代との相違を考える機会を設けている。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻りに用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」パブリックとプライベートの領域	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第3回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp.7-15を良く読んでおくこと。	180分

	域をめぐって			
第4回	地域と消費者市民社会	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第5回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第6回	家族関係 (1) 家族の概念 結婚と離婚	家族とは何か。どのようにして生成するのかを、結婚と離婚をもとに概説する。近年の晩婚化、非婚化、離婚率の増加をどのように捉えるかを概説する。	授業前後に教科書pp. 16-25を良く読んでおくこと。	180分
第7回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を学び、pp102～110を参照し地域のコミュニティデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク11～のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第8回	家庭経営とジェンダー (1) 現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	家庭経営とジェンダー (2) 近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第10回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について、近世女性史研究家の柴桂子先生を招いて講義して頂く。自らの想いを綴り、旅に出て見聞を拓けようとした女性像を生き生きと紹介し、江戸時代の女性への新たな知見が拓がる講義である。	授業前後に参考図書の②を読んでおくこと。	180分
第11回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史的変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp. 33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第12回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいのかを、概説する	教科書pp. 137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	180分
第15回	家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営	グループ毎に前回ディスカッションした内容をまとめて発表する。期末レポートを提出する。	関心のあるテーマを持つ者同士が集まってディスカッションをした内容を、代表者がプレゼンする。	420分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	中間テストは、模範解答と共に返却します。 プレゼンテーション時には、随時コメントします。
評価方法	・中間テストは30問程度で、穴埋め方式である。 ・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1600字以上。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
期末レポート		○	○	○
グループディスカッション		○	○	○
プレゼンテーション				

評価割合

平常点 (グループディスカッション、プレゼンテーションを含む) 20点
小テスト (30%)・レポート 50%

使用教科書名 (ISBN番号)

日本家政学会 生活経営学部会編 『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2010年

参考図書

- ①原ひろ子著『生活の経営—21世紀の人間の営み—』放送大学教育振興会 2002年
- ②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー : 13)』吉川弘文館 1997年
- ③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
- ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
- ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

前期水曜日4限 (アポイントメントを取り、時間調整を行うこと)

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	第14回の授業ではディスカッション、第15回の授業では発表の機会を設けてある。
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	食科学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新の話題も交えながら総合的に授業展開する。本科目は食物学科履修者は中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(家庭)のための必修科目である。
履修条件	高校までの総合家庭科の食関係領域と基礎的な生物、化学の知識を有していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる知識を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的に提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的、公平性を持ち、提示できる。
技術・表現の観点 (A)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活の意義	1. 食生活の基本、2. 食生活の意義について理解する。	教科書；1「食生活の意義」(1～7ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食の歴史	1. 食と人類、2. 日本の食の変遷について理解する。	教科書；2「食の歴史」(8～17ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	健康と栄養の歴史と制度・行政	1. 世界と日本の栄養思想の歴史、2. 健康に関する社会制度・保健対策、3. 健康・栄養の行政について理解する。	教科書；3「健康と栄養の歴史と制度・行政」(19～38ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	世界と日本の食①	1. 世界の食について理解する。	教科書；4「世界と日本の食」(39～47ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	世界と日本の食②	2. 日本の食について理解する。	教科書；4「世界と日本の食」(47～57ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第6回	栄養面から見た食生活①	1. 栄養学の基礎（総論・タンパク質・糖質）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（59～67ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	栄養面から見た食生活②	1. 栄養学の基礎（脂質・ビタミン）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（68～72ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	栄養面から見た食生活③	1. 栄養学の基礎（ミネラル・フィトケミカル・消化吸収）を理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（72～75ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	栄養面から見た食生活④	2. 疾病予防のためのライフステージ別食生活（乳幼児期・学齢期・青年期）について理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（76～86ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	栄養面から見た食生活⑤	2. 疾病予防のためのライフステージ別食生活（壮年期・高齢期）について理解する。	教科書；5「栄養面から見た食生活」（86～96ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	安全面から見た食生活①	1. 食品の安全と健康被害、2. 食生活の安全に関わる食品行政について理解する。	教科書；6「安全面から見た食生活」（98～120ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	安全面から見た食生活②	3. 食と健康をめぐる情報について理解する。	教科書；6「安全面から見た食生活」（120～131ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	環境面から見た食生活①	1. 食料生産と環境問題について理解する。	教科書；7「環境面から見た食生活」（133～142ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	環境面から見た食生活②	2. 食料問題について理解する。	教科書；7「環境面から見た食生活」（142～154ページ）を読んでもおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	健康のための食生活	1. 地球環境レベルの健康・栄養問題への取り組み、2. 将来に向けての日本人の食生活について理解、考える。	教科書；8「健康のための食生活」（156～166ページ）を読んでもおくこと。 第1回から第15回までを復習しておくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
学習計画注記		* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。		
学生へのフィードバック方法		授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。		
評価方法		課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		
評価割合		課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。		
使用教科書名 (ISBN番号)		私たちの食と健康(第2版)三訂/三共出版 吉田勉 監修 宮沢栄次・堀越宣弘 編著 B5/並製/181ページ/発行年月日：2018年4月10日 定価：2,484円（本体価格：2,300円）		
参考図書		授業内で必要に応じて、適宜、紹介します。		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】様々な立場を想定した食に関わる総合的な知識を他者に伝えることができる。 【思考・判断】教員並びに食の専門家として倫理観を持って食に関する事項を遂行できる思考・判断力を身につける。 【関心・意欲・態度】食に関わる事象を他者に正しく伝える対する倫理的素養を身につける。		
オフィスアワー		火曜1限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の了解を得て下さい。		

学生へのメッセージ

専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科への導入部分的内容となります。平成30年度から入学生活デザイン学科と食物学科履修者は中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための必修科目となります。平成29年度以前入学の生活デザイン学科履修者は、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための選択科目となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭看護（学校安全・救急看護法）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤 由美子	指定なし

授業概要(教育目的)

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について述べるができる。 乳幼児期の心身の特徴について、説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において、独自の創造力を駆使して、作品を完成する。自らが選択した課題のレポート作成の過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を自宅学習を含め取り組み、提出期限などルールを重んじる力を培う。
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわり方を学び社会性を身に着け専門職としての視点を持つ。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう ①		
第2回	健康と病気 ①健康について		
第3回	健康と病気 ②看護と介護		
第4回	病気と看護 家族の年代別健康管理		
第5回	病気と看護 病気の種類と特徴(子ども編)		
第6回			

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活 かした授業		
アクティブ・ ラーニング		
情報リテラ シー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

	生産・流通、食糧供給、食品ロス			
第6回	食生活の現状と対策 ②：食品・栄養の情報	食品の表示に関する法律とその内容を学ぶ。	予習：食品の表示に関する情報を調べる。「七訂食品成分表2019（女子栄養大学出版部）」資料編72、83ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第7回	健康状態の現状と対策：健康問題	生活習慣によって起こる疾病を理解する。また疾病の予防、健康維持・増進を目的とした栄養管理、栄養診断を学ぶ。	予習：生活習慣病の種類や原因に関する情報を調べる。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第8回	食文化①：食文化の形成、食事のマナー	食文化の形成、日本の伝統食文化としての和食の特徴を学ぶ。正しい食事マナーを理解する。	予習：農林水産省ホームページ「日本の伝統食文化としての和食（ http://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/wasyoku.html ）を読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第9回	食文化②：日本料理の変遷、年中行事と食べもの、伝統食・郷土食	日本の伝統的な食事スタイルの種類と特徴、行事食を学ぶ。	予習：日本料理の種類や行事食を調べる。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第10回	栄養管理計画の進め方	第4回授業の学習内容をもとに、栄養管理の手順を学ぶ。	予習：第4回授業の学習内容を振り返る。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第11回	「栄養素」：栄養素の種類と働き、1日の摂取量（日本人の食事摂取基準[2015年版]）	健康の維持・増進を目的とした栄養管理を計画・実施する際の柱となる日本人の食事摂取基準[2015年版]を学ぶ。	予習：「日本人の食事摂取基準[2015年版]」1～5ページ、「七訂食品成分表2019（女子栄養大学出版部）」資料編16～28、73ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第12回	「食品」：栄養素の供給源、食品成分表、廃棄率、購入量、栄養価の算出方法	栄養素の供給源を確認する。食品成分表の見方および使い方、栄養価計算の方法を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2019（女子栄養大学出版部）」本表編口絵6～28、19～20、22、356(7)～362(1)ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第13回	「料理」：調理操作、配合、調味の基本	調理の種類と特徴、基本的な調理操作や配合を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2019（女子栄養大学出版部）」資料編90～91ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第14回	「食事」と「生活習慣」：食事の基本形、生活リズムと食事、食事と生活習慣病	食事の基本的な構成を学ぶ。食事と生活リズムと生活習慣病の関連を理解する。	予習：第4～13回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第15回	まとめ	人間栄養学を柱とした栄養管理の目的、手法等の基礎知識について、実践に向け整理する。学習した内容をレポートにまとめる。	予習：第4～14回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：第4～14回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	150分

学習計画注記	進行状況によって内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパー等の提出物は回収後に採点して、翌週に返却する。
評価方法	リアクションペーパー等による提出物（40%）と、定期試験（60%）を総合的に評価する。 ※リアクションペーパー等：提出された内容について正確性、丁寧さを評価する。なお、評価対象外とする。 ※定期試験：範囲は授業時間中に提示する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	提出物40%、定期試験60%とし、総合的に評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	「七訂食品成分表」 女子栄養大出版部 「調理のためのベーシックデータ第5版」 女子栄養大出版部 「日本人の食事摂取基準[2015年版]」 第一出版
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解する専門的知識を有している。 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけて【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようという主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
オフィスアワー	田中：月曜日15:00～17:30、火曜日10:00～12:00 吉野：火曜日12:30～14:00 江川：木曜日12:30～14:00 城田：金曜日3、4時限 加藤：火曜日5限

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>電卓を用意する（試験時の携帯電話等、情報機器類の持込みは不可）。 受験にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。</p>	
<p>教育等の取組み状況</p>		
	<p>該当有無</p>	<p>概要</p>
<p>実務経験を活かした授業</p>	<p>○</p>	<p>行政機関（田中）、高齢者福祉施設（吉野）、臨床施設（城田）、民間企業の研究機関（江川、現場（加藤）等に従事した経験を踏まえ、管理栄養士業務にかかわる食育・地域栄養ケア、フ床栄養、スポーツ栄養の4つの領域に関する基礎知識および職業倫理についての理解を促進す職を教授する。</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>		
<p>情報リテラシー教育</p>		
<p>ICT活用</p>		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	管理栄養士基礎演習		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業は「管理栄養士とは何か」を学ぶ基礎的な科目である。自分を知り相手を知る機会を通し、「食」と「栄養」の関わりについて一層関心を高め、意欲を持って学びを進めることにつなげる。また、管理栄養士の職務や事例を紹介しながら職業倫理を培う。そして「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域それぞれにおける管理栄養士の役割や現状を理解し、さらには病院、保育所、高齢者福祉施設、食品製造工場などの施設へ出向き、現場で活躍する管理栄養士の姿を見学する。見学後は報告会を実施し、見学できなかった施設についても理解を深める。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	管理栄養士とは何かを適切に説明できる。見学を通して管理栄養士の役割や現状を理解できる。見学をしていない施設についても理解ができる。
思考・判断の観点 (K)	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域における管理栄養士の役割や現状を理解し、類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分を知り相手を知ることで、「食」と「栄養」の関わりに関心を持ち、意欲を持って学びを進めることにつなげる。見学施設および分野を主体的に選択する。
技術・表現の観点 (A)	施設見学前後のグループワークで自分の考えを表現できる。見学後に内容をまとめる力、プレゼンテーション力が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	管理栄養士とは	管理栄養士とは、4年間の学びについて学ぶ。また、現時点での自分自身の考えや将来像について認識する。	特になし	
第2回	自分を知る	体力測定を実施する。人々の健康づくりやスポーツ選手の競技力向上に役立てることを目的とした体力測定の実験を体験的に習得する。	受講するにあたり、各自、体力測定の項目および測定項目について予習しておくこと。	60分
第3回	相手を知る	管理栄養士に必要なスキルとはどのようなものか、「相手を知る」体験を通して学ぶ。また、相手を知るにはどのようなスキルが必要かを考える。	授業内容を復習し、管理栄養士というライセンスを活かした職場で働く際に必要なスキルを今後、どのように身につけていくか自分なりに考えておくこと。	60分
第4回				60分

	管理栄養士の職業倫理、活躍の場	管理栄養士の職務や事例を学びながら、職業倫理を培う。「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域それぞれにおける管理栄養士の役割や現状を理解する。上記の理解をふまえ、見学希望調査を実施する。	受講するにあたり、各自、管理栄養士とは何か、職務、役割、活躍の場などを調べ、予習しておくこと。	
第5回	4領域について、4領域間の関連性	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域について学び、領域間の関連性について理解する。	授業内容を復習し、4領域の関連性について理解しておくこと。	60分
第6回	4領域での学び	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域について、自分自身が学びたいこと、知りたいことを明確にする。	受講するにあたり、各自、事前に各領域で学びたいことを明確にしておくこと。	60分
第7回	プレゼンテーションの方法、コミュニケーション、マナー	プレゼンテーションについて学び、報告会向け理解を深める。コミュニケーション、マナーについて学び、自分の理解度および実践状況を知る。	受講するにあたり、各自、管理栄養士の学外実習の手引きの該当箇所を熟読しておくこと。	60分
第8回	グループディスカッション	グループディスカッションにより、施設見学におけるテーマを決定し、見学により何を学ぶか考える。	受講するにあたり、各自、事前に施設見学における学習テーマを考え、まとめておくこと。	60分
第9回	テーブルマナー講座	都内ホテルにおいて講座を受講し、テーブルマナーを学ぶ。	受講するにあたり、各自、事前にテーブルマナー講座とはどのようなものかを調べておくこと。	60分
第10回	施設見学(学外実習)	夏季休暇を利用して「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設より、教員の引率を伴う施設見学を行う。見学を通して、管理栄養士の職務、役割、食と栄養との関わりなどを学ぶ。	各自、見学施設について事前にしっかりと調べ、予習をしたうえで見学に臨むこと。見学後は、学んだ内容をまとめておくこと。	90分
第11回	グループワーク	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、グループワークによる意見交換、考察などをまとめる。そして、報告会に向けた資料および提出物、媒体を作成する。	受講するにあたり、活発なディスカッションになるよう、自分の意見などをしっかり準備しておくこと。また、グループでまとめた内容を基に、資料および提出物、媒体作成を進める。	120分
第12回	報告会(前半)	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、班ごとにプレゼンテーションを行う。見学に行かなかった施設についても理解を深める。	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習しておくこと。	60分
第13回	報告会(後半)	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、班ごとにプレゼンテーションを行う。見学に行かなかった施設についても理解を深める。	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習しておくこと。	60分
第14回	学びの考察、将来像の描画	当科目の受講を通して、自分自身が学んだこと、解決したことは何かなどを考察する。また、現時点での将来像を認識し、描画する。	これまでの授業を通して、どのようなことを学んだか、自分のなかで何が解決したかなど、考えをまとめておくこと。	60分
第15回	栄養価計算ソフト演習	2年次から使用する栄養価計算ソフトの使用方法について、ソフト開発者による演習を通して学ぶ。	受講後は、自分専用の栄養価計算ソフト(マッシュルームソフト)を実際に操作し、2年次の授業でスムーズに活用できるようしっかりと復習しておくこと。	120分

学習計画注記	※通年授業のため、授業日程によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーション用の原稿は、主に見学引率教員にて添削し返却する。 個人の提出物は、課題内容に応じ授業にて解説または採点し返却する。
評価方法	評価はSABCDとする。 ・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・プレゼンテーションは、グループワークでの評価であり、取り組みや提出物、報告会での発表を総合的に判断する。 ・提出物は、個人の提出物を評価する。 施設見学、報告会、栄養価計算ソフト講習の出席は必須である。欠席した場合、他の要件を満たしていても単位を認めず再履修とする。 ※以上の評価方法は平成31年度入学者から適用され、かつ再履修者は除く。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
プレゼンテーション		○	○	○
提出物	○	○	○	
評価割合	平常点 (40%) , プレゼンテーション (30%) , 提出物 (30%) で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他社と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p>			
オフィスアワー	城田（前期：金曜日3, 4時限, 後期：水曜日2, 3時限）			
学生へのメッセージ	管理栄養士についての基本的な事柄を正しく理解し、4年間のこれからの学びに繋げてほしいと思います。自分を知り、自分で考え、相手のことを知る機会でもありません。真面目に取り組みましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士としての実務経験を有しており、管理栄養士の基礎的知識、職業倫理など、管理栄養士に関する幅広い内容について教授している。		
アクティブ・ラーニング	○	学外施設見学, グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション		
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	有機化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐山 信成	指定なし

授業概要(教育目的)

有機化学はメタノールのような簡単な分子からビタミンB12や糖、タンパク質のような高分子まで多くの有機化合物を対象としている。有機化合物(炭素化合物)は日常生活に欠かせない食品や繊維・医薬品・動植物の生体内にみられ、それらの化合物を学ぶ有機化学は私たちの生活を化学的に説明し、生活方法の指針を示す学問の一つである。本講義は化学入門(共通教育科目)の履修を前提に行う。有機化合物の基本構造や性質、有機化学反応について体系的に講義する。特に専門科目で必要とされるアルコール・脂肪酸・糖・アミノ酸・タンパク質・核酸等の分子構造や性質について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 有機化合物の結合や官能基・性質を理解し、有機化合物を分類することができる。 2. 有機化合物の立体構造について説明することができる。 3. アルコール・脂肪酸・糖・アミノ酸・タンパク質・核酸などの構造式と化学的性質を理解し、食品中の化学物質を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	有機化合物の表記法と結合・官能基	有機化合物の結合と表し方を理解し説明できる。官能基を把握しその性質について理解を深め説明できる。	共有結合について復習しておくこと。	120分
第2回	アルコールの構造と性質	アルコールの性質について官能基から化学的に説明できる。 第一級・第二級・第三級アルコールの分類ができる。それらの化学反応性の違いを習得する。 構造異性体についても理解を深める。	高校の教科書「化学」のアルコールを復習しておくこと。	120分
第3回	アルコールの酸化反応とカルボン酸	アルコールの酸化反応について理解を深める。酸化剤について確認する。アルデヒドやカルボン酸の官能基の性質について理解を深める。有機化合物の酸化反応と還元反応について説明することができる。	高校の教科書「化学」でアルデヒドとカルボン酸について復習しておくこと。毎回、体系的に有機化学の内容が深くなるので、授業内容を復習すること。	120分

第4回	カルボン酸の反応とエステル	アルコールとカルボン酸の反応について理解する。エステルの構造式を理解し説明できる。関連する中性脂肪について理解を深め説明できる。有機化合物の命名法について習得する。	カルボン酸・エステルの官能基と構造式、命名法について復習しておくこと。	120分
第5回	ヒドロキシ酸と光学異性体	有機化合物の構造異性体について理解を深める。光学異性体について理解し表記法を習得する。	アルコールからエステルまで確認し整理しておくこと。	120分
第6回	不飽和脂肪酸化合物 エチレンとアセチレン	エチレンやアセチレンの結合の長さや結合角について、混成軌道により説明することができる。シグマ (σ) 結合とパイ (π) 結合の違いについて理解を深める。	エチレンとアセチレンの構造式を調べておくこと。有機化学のテキストで混成軌道の章を予習すること。	120分
第7回	芳香族化合物 (1) ベンゼンの構造と芳香族炭化水素	混成軌道からベンゼンの結合の長さや結合角について理解を深める。ベンゼンの共鳴構造について混成軌道とパイ電子で考察する。芳香族炭化水素について分類することができる。構造異性体について説明することができる。	有機化学のテキストで芳香族化合物、特にベンゼンの構造について予習すること。	120分
第8回	芳香族化合物 (2) 酸素を含む芳香族化合物	酸素官能基を含むフェノール・ベンズアルデヒド・安息香酸の構造式と性質について理解を深める。脂肪酸アルコール・アルデヒド・カルボン酸との性質の違いについても認識する。サリチル酸など医薬品の原料について性質と構造を理解する。	履修済みのアルコール・アルデヒド・カルボン酸など酸素を含む脂肪酸化合物の構造と性質について復習しておくこと。	120分
第9回	中間試験	有機化合物の官能基や構造式について習得の度合を確認する。脂肪族や芳香族化合物の分類や性質について理解度を確認する。 有機化学の基礎理論の習得度合いについて確認する。	第1回から第8回までの学習内容を有機化学のテキストと演習プリントで復習しておくこと。	120分
第10回	炭水化物 (1) 単糖類と二糖類	糖の構造式と性質について理解を深める。グルコース (ブドウ糖) のアルドース形とピラノース形について確認し説明できる。スクロースの構造について理解を深める。糖の名称と分類および糖の立体配置 (Fischer投影式) を習得する。	専門科目と関連する化合物であるので、有機化学のテキストの炭水化物を時間をかけて予習すること。	120分
第11回	炭水化物 (2) 糖の反応および多糖類	糖の定性反応について構造式から理解を深める。還元糖・配糖体についてアセタール構造から考察する。セルロースやデンプン・グリコーゲンの構成単位と構造について理解する。	糖の検出反応である銀鏡反応やフェーリング反応について復習しておくこと。糖類の名称と分類を整理しておくこと。	120分
第12回	アミノ酸の構造と性質	アミノ酸の構造と性質について理解を深める。アミノ酸の光学異性体や酸塩基とアミノ酸の反応について考察する。双性イオン構造と等電点について説明することができる。	有機化学のテキストでアミノ酸の章を予習すること。必須アミノ酸の名称や構造式を確認しておくこと。	120分
第13回	タンパク質の構造と性質	アミノ酸からタンパク質の構造を理解する。タンパク質のアミノ酸側鎖の相互作用について説明できる。酵素について説明することができる。	アミド結合やジスルフィド結合について有機化学のテキストで確認すること。酵素の名称と分類について調べておくこと。	120分
第14回	核酸の構成成分と性質	DNAやRNAの構成成分とヌクレオシド・ヌクレオチドについて説明できる。リボースやデオキシリボースと塩基やリン酸の結合について説明できる。併せてATPの構造と性質について理解を深める。	有機化学のテキストで糖のリボースとデオキシリボースを確認すること。有機化学のテキストの核酸の章で塩基の種類とリン酸エステル結合について調べておくこと。	120分
第15回	脂質および生体分子のまとめ	脂質の種類と構造について理解する。第10回以降の生体分子の立体構造や性質・結合・反応等について理解を深める。生体分子の理解により専門科目と関わる化学物質の反応性について考察できる。	有機化学のテキストで脂質の章を確認すること。有機化学のテキストと演習プリントで糖から脂質まで体系的に復習すること。	120分

学習計画注記	授業内容の進み具合により中間試験日や学習計画が前後することがあります。			
学生へのフィードバック方法	授業で演習を行い到達度を判断し予習や復習を促す。授業で中間試験の講評を行う。			
評価方法	演習の取り組み・中間試験の得点から平常点 (50点) を与える。定期試験の得点 (50点) と併せて評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点（50％）、定期試験の得点（50％）により評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	マクマリー有機化学概説 第7版（伊東・児玉訳、東京化学同人） （適宜、演習プリントを配布する。）	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】有機分子の構造や性質に関する基礎学力により、専門科目の食物栄養や生命科学の内容を理解する力を有する。 【思考・判断】有機化学の基礎理論から、健康や栄養に関わる有機化学反応について論理的に考察する力を身につけている。	
オフィスアワー	授業後に質問を受けます。	
学生へのメッセージ	「化学入門」を履修すること。 繰り返し有機化学のテキスト読み、併せて配布する演習プリントを見直して下さい。有機化学の基本的な考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし
非常勤講師	佐山 信成	指定なし

授業概要(教育目的)	食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。
履修条件	特に無し。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。(化学分野) 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。(生物学分野)
思考・判断の観点 (K)	基礎的な実験・レポート作成などを通して、管理栄養士として必要不可欠な理学的思考をもつようになる。(両分野)
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。(化学分野) 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などについて実践できる。(生物学分野)
技術・表現の観点 (A)	基礎的な実験技術、実験結果と考察による理学的な思考の両方を習得し、2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。(両分野)

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	今後の実験の進め方などについての説明。数値データの取り扱いについての説明。	事前に渡されたテキストを読む。	60分
第2回	生物実験の心得と顕微鏡の基本操作(生物学分野1)	基礎サイエンス実験の生物学分野実験(以下、生物学実験)を行うにあたり、実験ノートの書き方、スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。また、生物学実験や専門科目の実験(解剖生理学、微生物学など)に使用する生物顕微鏡の基本操作の習得する。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第3回	動物・植物細胞の観察(生物学分野2)	顕微鏡技術・顕微鏡標本作成技術の向上。また、植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や、生物体と細胞との関わりを理解する。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第4回	染色体・DNA・酵素	次回から実験を行う染色体の観察と核型分析、DNAの抽出、酵素実験に関する基本的な生物学的事項について資料		60分

	実験解説 (生物学分野3)	を用いて解説することにより、実験の目的、意義に対する理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	
第5回	染色体の観察と核型分析 (生物学分野4)	細胞周期における核の変化と遺伝子の座である染色の形成を観察し、細胞分裂の過程と染色体の構造を理解する。さらに現在でも出生前診断等に用いられている核型分析を行い、染色体の利用についても理解する。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第6回	DNAの抽出と定性分析 (生物学分野5)	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し、定性分析を行い、その実態について理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第7回	ATPによる筋収縮実験 (生物学分野6)	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し、さらにはその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第8回	コハク酸脱水素酵素の実験 (生物学分野7)	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し、酵素の働きについて理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第9回	溶液の濃度と密度 (化学分野1)	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。電子天秤で物質量を測定し、水溶液の調製法を習得する。水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。	実験前に化学実験のマニュアルで実験内容について予習し、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。	60分
第10回	容量分析 (1) 中和滴定 (化学分野2)	中和滴定の実験を行い、定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深め、併せて食酢の酸度の決定実験を行う。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。 「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。	60分
第11回	容量分析 (2) 酸化還元滴定 (化学分野3)	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し、酸化還元反応の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。 「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。	60分
第12回	緩衝溶液の性質 (化学分野4)	緩衝溶液の酸・塩基によるpHの変化を実験で確かめ、実験からどのような溶液が緩衝作用を示すのかを理解する。酸・塩基とその塩および緩衝溶液のpHの計算法をイオン平衡から理解する。併せて生体における緩衝作用について考察する。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。「化学基礎」のpHと緩衝溶液について復習しておくこと。	60分
第13回	定性分析 (1) 陽イオン検出 (化学分野5)	金属イオンと酸・塩基・塩類の定性反応を行い、金属イオンの性質を理解し、定性分析法について習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および金属の錯イオンについても理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。 「化学基礎」の金属イオンの反応と検出法について復習しておくこと。	60分
第14回	定性分析 (2) 官能基の検出 (化学分野6)	有機化合物の官能基について定性反応を行い、官能基の検出法を習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および官能基の性質について理解する。特に糖やアミノ酸・カルボン酸の性質について理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験ノートに実験計画を書き、実験の概要を把握しておくこと。 「化学」の有機化合物の官能基と性質について復習しておくこと。	60分
第15回	分子模型 (化学分野7)	分子モデルを組み立て、有機化合物分子の大きさや立体配座・立体配置について理解する。幾何異性体や構造異性体・光学異性体について確認する。特に乳酸・アミノ酸・ブドウ糖の立体構造や表記法について理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアルを読み、実験の概要を把握しておくこと。「化学」で有機化合物の構造式について復習しておくこと。	60分

学習計画注記	実験内容は、実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。(生物学分野)
学生へのフィードバック方法	実験時間内に作成した実験サブノート(実験レポート)、観察スケッチは次回までに添削する。(生物学分野) 実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。(化学分野)
評価方法	

		<p>【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%，生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的の知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全15回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験に繋がる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。</p> <p>【生物学分野】毎回、実験中に提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチを評価対象とする。また、専門実験で必要になる顕微鏡操作については、定期試験中に実技試験を行う。毎回の実験の提出物・実技試験・実験態度により、総合的に評価する。</p> <p>【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。</p>			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○
	実験レポート（化学分野）	○	○	○	○
	実技試験（生物学分野）				○
評価割合		<p>【生物学分野】提出物・実験態度（43.75%）＋顕微鏡実技試験（6.25%）＝50%</p> <p>【化学分野】実験レポートの合計点（K+A； 30%）＋実験態度・出席状況等の平常点（V+A； 20%）＝50%</p>			
使用教科書名 (ISBN番号)		教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・技能】人間、食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。</p> <p>【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技術の基盤となる基礎的実験技能を身につける。</p>			
オフィスアワー		水曜日2時間目（沼波）			
学生へのメッセージ		<p>実験の内容は「化学入門」および「有機化学」と密接に関係します。科目の垣根を越えた総合的な学習姿勢で臨んで下さい。「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容も復習して下さい。（化学分野）</p> <p>生物学・化学の知識だけでなく、実験を通して、今後、専門科目に必要な実験のリテラシーや理料的な思考を養ってください。（生物学分野）</p>			
教育等の取組み状況					
		該当有無	概要		
	実務経験を活かした授業				
	アクティブ・ラーニング				
	情報リテラシー教育				
	ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養情報統計演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
教授	海野 知紀	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	Evidence-Based Nutrition (根拠に基づく栄養学) を実践するためには、まずは各種文献等の情報を有効に活用する必要がある。そのためには情報の取得方法や、統計学の理論に基づいたデータのか扱いが必須である。本演習では、インターネットを活用した各種栄養情報の収集方法、さらには統計学の基礎知識を学びながら、統計処理アプリケーションソフトを用いてデータ解析の方法を習得する。特に管理栄養士として扱うことが多い疫学データについて、数値を扱いながら理解を深める。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測(推定と検定)の原理と方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	統計とは(田中)	国の実態をとらえるための「統計」、大量の事象をとらえるための「統計」、確率的な事象をとらえるための「統計」、データと情報	各自が思いをめぐらせる統計について調べる。配布プリントにより復習する。	予習25分、復習20分
第2回	統計の基礎1(田中)	標本調査とは?~調査のしくみと設計~	配付プリントの復習をする。	45分
第3回	統計の基礎2(田中)	政府統計を読み取る	配付プリントの復習をする。	45分
第4回	統計用語を知る(田中)	用語と使用例を正確に述べられるようになること。	配付プリントの復習をする。	45分
第5回		統計学以外の統計テストを説く	配付プリントの復習をする。	45分

	各種統計を読み取る (田中)			
第6回	1変数の分布の図表による表現 (海野)	実験、調査などによって得られたデータは、変数（個人や状況に応じて値が変わるもの）についての分布を図にすることで全体を把握することができる。今回は、実際の質的データあるいは量的データを用いて、様々な図の作成方法を修得する。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第7回	2変数の同時表現 (海野)	データ解析を行うとき、変数（項目）間の関係を調べたい場合がある。今回は、量的データ同士を表示する方法として、散布図を描き、2つの量的データ間の関連を示す指標である相関係数を求める方法を学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第8回	2群の代表値の検定① (海野)	平均値や中央値などの代表値に関する検定には、パラメトリックな方法とノンパラメトリックな方法がある。パラメトリックな方法として、2群（グループ）の母平均値が等しいかどうかの検定、対応のある2つの平均値が等しいかどうかに関する検定がある。今回は、2群の母平均値が等しいかどうかの検定方法について学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第9回	2群の代表値の検定② (海野)	前回は、パラメトリックな方法による2群（グループ）の母平均値が等しいかの検定法を学んだ。今回は、対応のある2つの平均値が等しいかに関する検定法を理解するとともに、2群の代表値のもう一つの検定法である母集団の分布型に関する前提を必要としないノンパラメトリックな検定法をも学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第10回	3群以上の代表値の差の検定 (海野)	2つのグループの平均値の差の検定は前回に学習した。今回は、3群以上の平均値の差の検定方法を学ぶ。2群間の検定を繰り返し行うことはせず、検定の多重性に対処する方法として、一元配置分散分析の方法を理解する。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第11回	栄養疫学入門 (江川)	人間集団の栄養摂取、食習慣や食行動と疾病の関連を調査する疫学手法を理解する。	第5章人口統計を予習すること。	45分
第12回	人口統計 (江川)	人口動態統計、人口動態統計、出生・死亡に関する指標を理解する。人口ピラミッド、生命表からわが国の人口の動向を理解する。	第6章保健統計調査（1 基幹統計）を予習すること。	45分
第13回	保健統計 (江川)	基幹統計、一般統計調査の方法と内容を理解する。	インターネットで国民健康・栄養調査を入手し、回答すること。	45分
第14回	国民健康・栄養調査 (江川)	わが国の国民健康・栄養調査の方法と内容を理解する。	第6章保健統計調査（5 情報処理）を予習すること。	45分
第15回	疫学と統計学 (江川)	栄養疫学に必要な統計学・情報処理の基礎を理解する。	栄養疫学に関する学習事項を復習すること。	45分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出課題の返却はせず、模範解答を記したプリントを配布するので、各自で復習すること（田中） 提出課題の返却はせず、模範解答を記したプリントを配布するので、各自で復習すること（海野） 予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する（江川）
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 教室外学習は、提出課題の内容により理解度を評価する。（田中） 教室外学習は、提出課題の内容により理解度を評価する。（海野） 教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価する。（江川）
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
リアクションペーパー		○		○

評価割合	定期試験（60%）、平常点（提出物を含む。40%）（海野） 定期試験（60%）、平常点（提出物を含む。40%）（江川）
------	----------------------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	(1~5回) プリントを配布 (6~10回) プリントを配布 (11~15回) ていねいな保健統計学 (978-4758109727)
-----------------	---------------------------------------------------------------------------

参考図書	(11~15回) 国民健康・栄養調査 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyouchousa.html 身体状況調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_sinntai.pdf
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	栄養摂取状況調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_eiyoubu.pdf 生活習慣調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_seikatu.pdf	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【技能・表現】人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルとともに、マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜日15:00～17:30（田中） 木曜日1限目（海野） 木曜日12:30～14:30（江川）	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（田中）内閣府の白書作成や厚生労働省の承認統計（国民健康・栄養調査）の政策主担当をした。担当教員（海野）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、食品開発を目的とした基本的なデータ解析法を教授する。担当教員（江川）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的としたデータ解析手法を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	授業外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。（江川）
情報リテラシー教育	○	白書
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。（江川）

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木 洋子	指定なし

授業概要(教育目的)	前半は発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、乳幼児期の摂食行動の特徴を学習し、食事を取り巻く社会環境や育児観と関連付けながら健康な食生活とは何か考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の口腔機能の発達を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	講義で学んだ知識を元に、特定の栄養素や育児法を過大評価する情報の問題点を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション：授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第3回	幼児期の発達心理学	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第4回	児童期・青年期の発達心理学	児童期の仲間関係の発達、青年期の自己同一性の発達等を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第5回		成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。		120分

	成人期・老年期の発達心理学		講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	
第6回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第7回	大学生の食事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史的变化について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べる。	240分
第8回	乳幼児期における食と心の関わり・食事の意義	食事を通して発達する心理的側面と、保育園や幼稚園と家庭での食事の意義について理解する。	教科書Ⅰ編（14-60ページ）を読んでおくこと。	180分
第9回	保育園での生活と家庭での食事	保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認し、第8回の講義内容の理解を深める。	教科書Ⅲ編（154-163ページ）を読んでおくこと。「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	授乳期の食べる機能・栄養と食支援	授乳期の口腔機能の特徴を理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER1（62-73ページ）を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	離乳期の食べる機能・栄養と食支援1：栄養指導・離乳の進め方・食べる機能の発達・食器具など	栄養指導の変遷と、ミルクから離乳食への移行期の口腔機能の発達を理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER2の74-91ページを読んでおく。	120分
第12回	離乳期の食べる機能・栄養と食支援2：離乳期の食事・献立・ベビーフード・口腔の成長など	離乳初期・中期・後期の調理形態と口腔機能の発達を関連付けて理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER2の92-113ページを読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	幼児期の食べる機能・栄養と食支援	幼児食に移行した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、介助のポイントを理解する。	教科書Ⅱ編CHAPTER3（114-152ページ）を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記	授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業で告知する。
学生へのフィードバック方法	小レポートは講義の中で内容を紹介し、他の履修者と考えを共有する。小レポートの返却はしない。
評価方法	(1)講義の理解度を確保するため、定期試験（筆記試験）を実施する。15回目の講義で出題範囲を告知する。 (2)講義中に小レポートを2回実施する。レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、定期試験の得点に加算する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
小レポート		○		
評価割合	定期試験80%、小レポート20%で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援 (2008) 荻野悟郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社			
参考図書	藤村宣之編著 (2009) 発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つかー ミネルヴァ書房 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著 (2017) 若者たちの食卓 ナカニシヤ出版 その他、必要に応じて講義で紹介いたします。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の摂食に関わる口腔機能の発達について専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。			
学生へのメッセージ	「食」は様々な価値観が反映された営みです。その価値観は、単純に善悪や正誤に分けられません。本講義が、自分にとって望ましい「食」はどのようなものかを考えるきっかけになると良いです。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

授業概要(教育目的)

公衆衛生は疾病を予防し、寿命を延長させ身体的、精神的、社会的、霊的にも健康の増進を図るために学ぶ、自然を対象とする科学(science)と人間の作った技術(art)の体系である。地域社会集団や国といった集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について学習する。公衆衛生学の視点から健康および健康問題について学習し、社会の動向も併せて保健活動や施策について学習する。プライマリー・ヘルス・ケアやヘルスプロモーション、健康問題の現状、現在国が進めている健康づくり施策、保健予防活動について学習し、人々を取り巻く環境と健康、労働と健康問題等を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	公衆衛生の基本的な考え方、理念、方法、歴史、現在等について学習し現在の課題と関係づけられる。
思考・判断の観点 (K)	集団における健康問題を指摘できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団における健康問題を把握し、改善する方法としての公衆衛生学の展開に参加できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	健康と社会、環境の関係を理解し、表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	公衆衛生と社会・環境・健康	公衆衛生と社会・環境・健康と管理栄養士国家試験のガイドライン(法、ライフ・サイクル)。社会・環境・健康に影響の大きい人口の実態として、千代田区の昼間人口と夜間人口の予測をたて、それがどの程度当たっているか、インターネットで調べる。また、自分の住んでいる(愛着のある)市町の人口も同様に行い、比較する。集団を見る目がどの程度あるか、確認する。	人口に関する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分
第2回	人口動態と公衆衛生	人口動態の過去、現在、未来(予測)をインターネットで調べ、資料の保存(PDFファイル)の仕方を学ぶ。自分の市町のホームページのデータを探す。	人口に関する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分
第3回	比、指数、対数、と人口動態、静態	出生、死亡、死因統計について、実数、率、対数(特に年齢調整死亡)、ガン死亡率、順位について学ぶ。インターネットで自分の市町のデータを調べ、国、県等と比較する。	人口に関する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分

第4回	死亡統計、健康指標	人口動態、静態統計の死亡統計、健康指標について、実数、率、対数（特に年齢調整死亡）、ガンの死亡率、順位について学ぶ。インターネットで自分の市町のデータを調べ、国、県等と比較し、日本と世界をインターネットで比較する。	人口に関する教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。ミニテストのための復習。	180分
第5回	統計・ガン、ミニテスト1	統計・ガン、ミニテスト①、視聴覚教材（史的展開）	人口に関する教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。ミニテストのための予習（教科書242-243）。	180分
第6回	公衆衛生とグローバル化	2つの悪循環、健康の定義、PHC、ヘルス・プロモーションについて学び、インターネットで自分の市町の保健、健康づくり計画等に、それらの理念が入っているか確認する。また、WHO（世界保健機関）のホームページにもアクセスを試みる。	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章84, 100-107, 128-144）。	180分
第7回	公衆衛生の理念 疾病の自然史と予防の5段階	健康と人権、PHC（プライマリ・ヘルス・ケア）、ヘルス・プロモーション、NCD（非感染症、生活習慣病）について、インターネットで自分の市町の健康日本21計画等に、それらの理念が入っているか確認する。また、WHO（世界保健機関）のホームページにもアクセスを試みる。	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章84, 100-107, 128-144）。	180分
第8回	公衆衛生の理念 プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野、ヘルスプロモーションの5方法	プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野、ヘルスプロモーションの5方法について、インターネットで自分の市町の健康日本21計画等に、それらの理念が入っているか確認する。	ミニテストのための復習（教科書244-245）。	180分
第9回	公衆衛生の理念、ミニテスト2、環境	ミニテスト2、フィットネス、水の環境とカッパ伝説についてインターネットで自分の市町を調べる。	ミニテストのための予習（教科書244-245）。	180分
第10回	健康と環境 食の安全	視聴覚教材（雪印食中毒事件）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	食中毒について	180分
第11回	健康と環境 食の国際化	視聴覚教材（狂牛病）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	狂牛病について	180分
第12回	健康と環境 公害	4大公害裁判について学ぶ。視聴覚教材（公害、水俣等）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。	180分
第13回	健康と環境 公害から地球温暖化へ	公害から地球温暖化へを学ぶ。視聴覚教材（公害）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための復習（教科書246-247）。	180分
第14回	健康と環境 公害、ミニテスト3	ミニテスト3、公害から地球温暖化へを学ぶ。視聴覚教材（公害）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための予習（教科書246-247）。	180分
第15回	国際保健、まとめ	国際保健、及び、公衆衛生学のまとめ	これまでの視聴覚教材、レポートを整理する。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、スケジュールは変更となります。
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	①国試対策を兼ねてミニテストを3回程度（毎回50問程度）、行い、毎回8割で合格点とする。点数等は、その場で、報告する。なお、8割に達していないものは、次回、再テストを行う。 ②ミニテストを併せたものを定期試験として出題予定。 ③定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート（5%）、小テスト（5%）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
ミニテスト	○			
平常点		○	○	
レポート		○	○	○

評価割合	定期試験（80％）と平常点（5％）、レポート(5%)、小テスト(5%)
使用教科書名 (ISBN番号)	1. 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集／金川 克子 メヂカルフレンド社 2017、978-4-8392-2179-9 (後期も使用) 2. 松田正己編、PHCとUHC－現代公衆衛生学、第3版－、クオリティケア、2018、978-4-904363-70-6 (後期も使用)
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 人間、健康、環境との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識基盤を身につけている。 (思考・判断) 個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から、現代の食・栄養と健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集する力を身につけている。 (感心・意欲・態度) 社会に貢献しようとする意思を身につけている
オフィスアワー	メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	比の計算、指数、対数の基礎知識を前提とする。 公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、並びに健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	インターネットの健康関連情報の検索、市町のホームページや、WHOのデータベース等の活用方法、レポートの作成
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

授業概要 (教育目的)

公衆衛生学Ⅰで学習した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に学ぶことを目的とする。健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解することを目的とする。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に学ぶ。また、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状、対象別の各種の公衆衛生・保健活動を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康福祉に関する自己学習能力を高める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ケアの分かる管理栄養士を目指す。
技術・表現の観点 (A)	ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習計画

公衆衛生学Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康と悪循環、感染症	貧困・疾病・教育不足の悪循環と感染症について、国立感染症研究所やWHOのホームページのデータベースから、感染症の5分類につき1つずつの感染症を調べる。特に食関連の感染症に注目する。	病原微生物学の復習	180分
第2回	感染症対策とケア	新興・再興感染症としてのHIVエイズの起源とまん延の経過を学ぶ。視聴覚教材（薬害エイズ患者と結婚）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	病原微生物学の復習	180分
第3回	感染症対策と性行動	エイズ、梅毒等の性感染症の状況、若者における性感染症増加の原因について学ぶ。視聴覚教材（インスタントセックス）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	病原微生物学の復習	180分
第4回	グローバル	グローバル化と新興・再興感染症について学ぶ。視聴覚	病原微生物学の復習	180分

	化と新興・再興感染症	教材（エボラ出血熱）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）		
第5回	ミニテスト4（感染症）、親密性	ミニテスト4（感染症）、視聴覚教材（いきなり結婚）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための予習（教科書248）	180分
第6回	ケアと難病対策と障害保健	難病対策と障害保健について学ぶ。視聴覚教材（ありがとう）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分。	180分
第7回	精神保健、自殺対策とケア	精神保健とDALY（障害調整生存年）、自殺対策とケアについて学ぶ。視聴覚教材（やどかりの里）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分。	180分
第8回	健康日本21、数値目標、健康寿命と格差の是正	健康日本21の計画と数値目標について学び、自分の市町のホームページのデータをインターネットで調べる。	教科書の該当部分。	180分
第9回	健康日本21、フィットネス	健康日本21の計画と数値目標について、ベースライン、2次計画の目標値、1次計画の最終値、などを学び、自分の市町のホームページのデータをインターネットで調べる。フィットネスについて学ぶ。	ミニテストのための復習（教科書の該当部分）	180分
第10回	ミニテスト5（健康日本21）、フィットネス	ミニテスト5（健康日本21）、フィットネスについて学ぶ。	ミニテスト5（健康日本21）の予習	180分
第11回	社会保障、フィットネス	社会保障、フィットネスについて学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第12回	社会保障、フィットネス	社会保障とライフサイクル、フィットネスについて学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第13回	フィットネス	フィットネスの実際について、外部講師から学ぶ	教科書の該当部分。	180分
第14回	ライフサイクルと公衆衛生の法、対策	ライフサイクルと公衆衛生の法、対策について学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第15回	ミニテスト6（ライフサイクル）とまとめ	ミニテスト6（ライフサイクル）、公衆衛生学Ⅱのまとめ	教科書の該当部分。	180分

学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
---------------	-------------------------------------

評価方法	①国試対策を兼ねてミニテストを3回程度（毎回50問程度）、行い、毎回8割で合格点とする。点数等は、その場で、報告する。なお、8割に達していないものは、次回、再テストを行う。 ②ミニテストを併せたものを定期試験として出題予定。 ③定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート（5%）、小テスト（5%）
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
ミニテスト	○			
平常点		○	○	
レポート		○	○	○

評価割合	定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート（5%）、小テスト（5%）
------	-------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	1. 松田正己編、PHCとUHC—現代公衆衛生学、第3版一、クオリティケア、2018、978-4-904363-70-6 (前期に使用したもの)
-----------------	--------------------------------------------------------------------------

	2. 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017、978-4-8392-2179-9(前期に使用したもの)
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる (感心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続ける ことができる
オフィスアワー	メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	公衆衛生学には、考える力が必要です。管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養だけでなく、健康・環境関連の情報に興味を持ち、公衆衛生と結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。また、複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	インターネットの健康関連情報の検索、市町のホームページや、WHOのデータベース等の活用方法、レポートの作成
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

授業概要(教育目的)	①ケアの当事者の夢のグループ学習、②放射線等の測定、③個人の人生プラン、④対象別のケア、⑤年齢調整死亡率の計算、等よりなる。
履修条件	公衆衛生学I
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	公衆衛生学に関連する現代の多様なテーマを学び、理解する(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学等)。また、自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけて、作成できるようになる。
思考・判断の観点(K)	健康福祉に関する自己学習能力を高める。
関心・意欲・態度の観点(V)	主体的な授業への参画を求める。自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけられるようになる。
技術・表現の観点(A)	健康日本21の数値目標や統計データの読み方を理解する。ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習計画

公衆衛生学実習

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月プラン・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	総論 初回説明、テーマの説明と各論グループ分け	総論 初回説明、テーマの説明と各論グループ分け 始めにグループ分け(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学、を予定)(興味のあるテーマにより、10-12グループを予定、但し、1グループは12人以内、人数が多い場合は、別のテーマに移動)を行い、そのグループによる相互討論「テーマについてどのようなケアが望ましいか、その夢」を語り合う。	教科書第I部
第2回	各論テーマ毎のグループワーク(その1)	各論テーマ毎のグループワーク(その1) 夢を語る	教科書第I部
第3回	各論グループワーク(その2)	各論グループワーク(その2) 夢を語り、まとめる	教科書第I部
第4回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定	

	定		
第5回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定	
第6回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定	
第7回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定	
第8回	死亡率	死亡率の計算、年齢調整死亡率	
第9回	死亡率	死亡率の計算、年齢調整死亡率（間接法）	
第10回	フィットネス	フィットネスの特別授業（実演）	
第11回	各論とモデル認識①	各論（災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学）について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。	教科書の第Ⅱ部4-5章、第Ⅲ部、第Ⅳ部、第Ⅴ部の各章
第12回	各論とモデル認識（その②）	各論（災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学）について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。	
第13回	各論とモデル認識（その③）	各論（災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学）について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。（その③）	
第14回	各論とモデル認識（その④）	各論（災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学）について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。（その④）	
第15回	各論とモデル認識（その⑤）	各論（災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学）について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。（その⑤）	

学習計画注記	学習の進度により、内容を調整する。特別講義は、講師の都合により、決まり次第、連絡予定。
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	平常点（35%）、報告・レポート（65%）

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
報告レポート	○	○	○	○

評価割合	授業中の発表（65%）と平常点（35%）
使用教科書名 (ISBN番号)	1. 松田正己他編、いのちの地域ケア いのちの倫理を考える(第3版)、やどかり出版、2014、978-4-904185-28-5 C0036
参考図書	1. 松田正己編、PHCとUHC—現代公衆衛生学、第3版—、クオリティケア、2018 2. 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017
ディプロマポリシーとの関連	（知識・理解）社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 （思考・判断）健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 （関心・意欲・態度）生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続ける ことができる。 （技能・表現）他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限、メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビ

や新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、だけでなく健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。また、難病、精神保健、結核対策等の組織で実務経験がある。複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

授業概要(教育目的)	「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。この講義の教育目的は、管理栄養士が基礎知識として持つべき、正常（健康）な人体の構造を学習することです。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 人間の解剖学的構造が理解できる。 2. 細胞、組織、器官の部位や名称を記憶している。
思考・判断の観点 (K)	1. 人体解剖学の知識を入手する方法が身についている。 2. 解剖学的知識を応用して細胞、組織、器官の機能について推察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康の源であり、適切な栄養によって育まれ維持されている身体に対して関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	1. 人体解剖学を理解し、適切な解剖学的用語を用いて人体の構造の説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の構造	身体を形成している細胞の構造や機能を学ぶ。更に、細胞分裂の種類や特徴について学習する。	教科書の第2章I, II (9-16ページ)を読んでおくこと。	180分
第2回	組織・器官の構造	同じ方向に分化した細胞の集団である組織や、いくつかの組織が集まった器官の種類を理解して、名称を記憶する。	教科書の第2章のIII, IV (16-28ページ)を読んでおくこと。	180分
第3回	人体概観・骨格系の構造	解剖学の基本である、忍耐の方向、区分、部位を示す用語を記憶する。更に、体を支持する骨格系について理解し主な骨の名称を記憶する。	教科書の第1章のI, II, III (1-8ページ)、第3章のI-VII (29-50ページ)を読んでおくこと。	180分
第4回	筋系の構造	筋肉の種類や形態を理解する。主な筋肉の名称を記憶する。	教科書、第4章I-IX (51-72ページ)を読んでおくこと。	180分
第5回	血液・生体防御系の構造	血液を構成する細胞性成分と液性成分の種類を理解し記憶する。	教科書の第5章 I-VIII (73-102ページ)を読んでおくこと。	180分

第6回	循環器系の構造	循環器系を構成する、心臓、血管、リンパ管の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第6章 I-V (103-132ページ) を読んでおくこと。	180分
第7回	内分泌系の構造	ホルモンを産生・分泌する内分泌系の細胞、組織、器官について理解し、主なホルモンの名称やそれを産生・分泌する細胞や組織器官の名称を記憶する。	教科書の第7章 I-VII (133-156ページ) を読んでおくこと。	180分
第8回	消化管の構造	消化器系を構成する、消化管の部位及び消化腺の種類を理解し、各々の名称を記憶する。	教科書の第8章 I-VII (157-172ページ) を読んでおくこと。	180分
第9回	肝・胆・膵の構造	消化器を形成する肝・胆・膵の構造を理解し、主な構造物や部位の名称を記憶する。	教科書の第8章 VIII-XI (176-188ページ) を読んでおくこと。	180分
第10回	呼吸器系の構造	呼吸器系の解剖を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第9章 I-X (189-216ページ) を読んでおくこと。	180分
第11回	腎・泌尿器系の構造	腎・泌尿器系の解剖学的特徴を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第10章 I-V (217-240ページ) を読んでおくこと。	180分
第12回	生殖器系の構造	生殖器系の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第11章 (241-268ページ) を読んでおくこと。	180分
第13回	神経系の構造	神経系の分類や構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第12章 I-XI (269-300ページ) を読んでおくこと。	180分
第14回	皮膚と感覚器系の構造	皮膚や様々な感覚器の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第13章 I-VII (301-326ページ) を読んでおくこと。	180分
第15回	全体の総括	第1回から14回までに学んだ内容で、特に栄養と関連が深い内容について再度見直しを行い、知識を確実なものにする。	第1回から第14回までに配布した資料を読み直しておくこと。知識が不確実な項目については、再度教科書も読んでおくこと。	480分

学習計画注記	授業の進行度合いによって講義スケジュールが変更される場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業ごとに配布するプリントに沿って講義を行います。パワーポイントによる写真などの提示も併用します。知識を確実にするため、総括の授業も予定しています。
評価方法	定期試験の成績で100%評価します。学習態度が悪い場合には、程度に応じて定期試験成績から減点します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験100%で評価する。 15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると受験資格を失います。
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) /岩堀修明/文光堂/2016年
参考図書	ぜんぶわかる人体解剖図/坂井健雄、橋本尚詩著/成美堂出版/2017年/ISBN978-4-415-30619-3
ディプロマポリシーとの関連	本講義は、ディプロマポリシーの「知識・理解」に直結した内容である。本講義を受講することによって、解剖学的用語が身につけば、他職種との専門用語を用いたコミュニケーションが可能となり、ディプロマポリシーの「技能・表現」にも関連している。
オフィスアワー	木曜日3時限目。 1505研究室に在室時。
学生へのメッセージ	人体の主な部位や細胞・組織・器官の名称を記憶することは、人間を理解する上での基礎となります。折に触れて予習復習し、学習した知識を自分のものにして下さい。この科目を学習すれば、正常な身体の働きについて理解が深まり、栄養と健康に関する様々な事柄が理解しやすくなるでしょう。解剖学的用語は、栄養や健康に関わる他の職種の人たちとのコミュニケーションに欠かせません。人体は、非常に目的にあった構造をしています。楽しみながら共に勉強してゆきましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、現役の医師であり、実臨床において、いかに解剖学の知識が大切であるかを臨場感をもって教授することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

授業概要(教育目的)	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の知識に基づき、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」について解説する。特に正常機能(生理学)について理解を深め、応用栄養学、臨床栄養学などの理解を助けるための知識を網羅する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人体の主な、細胞、組織、器官、器官系の機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	解剖学生理学の知識に基づき、栄養障害や疾病に罹患した際にどのような問題が生じるのか推定できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人体の機能に興味をもって、栄養と関連付けながら学習する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の機能	細胞膜や細胞小器官の機能、遺伝情報の伝わり方、エピジェネティクスの概念について学習する。	教科書の第2章I, II (9-16ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	組織・器官の機能	組織・器官、気管系の特徴と機能について学習する。	教科書の第2章のIII, IV (16-28ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	骨格筋、筋肉系の機能	骨格筋、筋肉系、関節の機能について学習する。骨粗鬆症に関する理解を深める	教科書の第3章のI-VII (29-50ページ)と、第4章I-IX (51-72ページ)を読んでおくこと	120分
第4回	神経系の機能	興奮の伝導と伝達、中枢神経の機能局在、自律神経の神経伝達物質、脳代謝と血液脳関門について学習する。	教科書の第12章 I-XI (269-300ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	循環器系の機能	心臓や脈管系の機能、刺激伝導系、血圧調節機構について学習する。	教科書の第6章 I-V (103-132ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	呼吸器系の機能	呼吸器、呼吸運動、ガス交換の仕組み、酸素乖離曲線と酸塩基平衡、慢性肺疾患について学習する。	教科書の第9章 I-X (189-216ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回				120分

	腎・泌尿器系の機能	体液の分布と調節、レニンアンジオテンシナルドステロン系、腎機能検査、慢性腎疾患について学習する。	教科書の第10章 I-V (217-240ページ) を読んでおくこと。	
第8回	血液・生体防御系の機能	血液成分のそれぞれの役割、ヘモグロビンの代謝、血液凝固と線維素溶解系、血液型、免疫とアレルギーの仕組みについて学習する。	教科書の第5章 I-VIII (73-102ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	消化管の機能	それぞれの部位別の消化管の機能および、腸内細菌叢と健康の関係について学習する。	教科書の第8章 I-VII (157-172ページ) を読んでおくこと。	120分
第10回	前半の総括	第1回から7回までの講義内容の復習を行い知識を確実なものにする。	第1回から7回までの配布資料を見直しておくこと。知識が不確実な部分は、教科書で確認すること。	240分
第11回	内分泌系の機能	主な内分泌器官とそこから分泌されるホルモンの名称や作用を学習する。更に、ホルモンの過不足によって生理機能がどのように変調するかを学習する。	教科書の第7章 I-VII (133-156ページ) を読んでおくこと。	120分
第12回	生殖系系の機能	男女別の生殖器官の機能と男性ホルモンおよび女性ホルモンの役割、性分化、胎盤や乳腺について学習する。	教科書の第11章 (241-268ページ) を読んでおくこと。	120分
第13回	生殖系系の機能	男女別の生殖器官の機能と男性ホルモンおよび女性ホルモンの役割、性分化、胎盤や乳腺について学習する。	教科書の第11章 (241-268ページ) を読んでおくこと。	120分
第14回	皮膚と感覚器系の機能	皮膚や様々な感覚器の機能を理解し、栄養と機能の関係について学ぶ。	教科書の第13章 I-VII (301-326ページ) を読んでおくこと。	120分
第15回	後半の総括	第8回から14回までの講義内容の復習を行い知識を確実なものにする。	第8回から14回までの配布資料を見直しておくこと。知識が不確実な部分は、教科書で確認すること。	240分

学生へのフィードバック方法

特に記憶にとどめるべき内容については、講義中に質問を行い、理解度を確認する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
受講態度			○	

評価割合

実習態度が50%、レポートが50% (実習態度が良好でもレポートの提出がないと合格点に達しません。必ずレポートを提出すること。) 6回以上欠席すると「不可」の評価になります。

使用教科書名 (ISBN番号)

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) /岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)

参考図書

ぜんぶわかる人体解剖図/坂井健雄、橋本尚詩著/成美堂出版/2010年/ISBN978-4-415-30619-3

ディプロマポリシーとの関連

知識・理解：本実習は、正常なヒトの生理学的知識を身につける目的で行われる。
 思考・判断：ヒトの解剖学と生理学を理解することによって適切な栄養の重大性に思いをはせることができる。
 関心・意欲など：管理栄養士の職務を全うするためには、本講義内容の積極的な吸収が必要である。

オフィスアワー

月曜日の16:00-17:00

学生へのメッセージ

前期に学んだ解剖学の知識をもとに、さらに、臨床栄養学・応用栄養学を理解するために基盤となる生理学を学習します。
 人体の精巧な生理的機能について共に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当職員は、現役医師であり、ヒトにおける解剖生理学を適切に教授することが可能である。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	解剖生理学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

授業概要(教育目的)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	解剖生理学Ⅰ,Ⅱで学んだ、人体の主な組織、器官、器官系の名称と働きを説明できる。
思考・判断の観点(K)	実習で得られたデータを、正しく解釈できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	人体の構造や機能に興味をもって、意欲的に実習に取り組むことができる。
技術・表現の観点(A)	データに基づいて、考察を行い、結果の発表または実習レポートにまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 実習予定と注意事項、レポートの記載法	実習班の構成や出欠に関するルール、レポート提出期限、実習の評価方法を理解する。病歴の取り方を学習し、実習を安全の施行するための問診票を完成させる。	実習レポートの作成法に関して、リテラシー教育で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第2回	身体計測と栄養状態の評価	体表解剖学で用いられる、主な計測点の部位や名称を理解する。 正しい方法で、身長、体重、ウエスト周囲長、上腕周囲長、皮下脂肪厚を測定し、BMIや体脂肪率、上腕筋面積を算出する。	教科書の第2章(18-33ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	運動器系の解剖生理： 徒手筋力検査など	筋力評価とロコモ度テスト、運動器健診の項目を実際に体験して、自らの運動器の状態を評価する。	ロコモティブシンドロームやフレイルについて、書籍やウェブ上の情報を読んで予習しておくこと。	120分
第4回	神経系の解剖生理： 疲労やストレ	認知機能検査や主な感情の評価方法を体験する。 膝蓋腱反射やアキレス腱反射の出し方を学ぶ。	書籍などでMMSEやビジュアルアナログスケール、POMS2について予習しておくこと。	120分

	スの評価など			
第5回	循環器系 (1) : 診察法、臨床症候と血圧	循環器疾患患者に認められる臨床症候を理解する。脈の触診、心音の聴取、血圧測定を実際に経験し結果を解釈する。	教科書の第5章 (52-61ページ) を読んでおくこと。	120分
第6回	循環器系 (2) : 心電図	安静時、運動負荷心電図を記録し結果を解釈する。体位による心電図の変化を理解する。	教科書の第7章 (66-77ページ) を読んでおくこと。	120分
第7回	呼吸器系の解剖生理：呼吸機能検査など	呼吸モデルを用いて、呼吸運動を理解する。呼吸機能検査を実際に体験して、結果を解釈する。	教科書の第6章 (62-65ページ) を読んでおくこと。	120分
第8回	腎・泌尿器系の解剖生理：尿検査など	実際の尿を用いて、試験紙法を用いた尿一般検査を行い検査の仕組みや結果の解釈を学習する。血液検査データ等から、eGFRを算出し、CKDの重症度を判定する。	教科書の第10章 (96-112ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	血液・アレルギー疾患、アナフィラキシーショックへの対応	貧血に見られる症候をパートナーとともに確認する。血液検査データから、赤血球恒数を算出し、貧血の種類を判定する。アナフィラキシーショックへの対応法をロールプレイを行うことによって身につける。	解剖生理学I, IIで使用した教科書で、貧血、アレルギーについて復習しておくこと。	120分
第10回	消化器系の解剖生理と感染予防：嚥下機能の評価など	口腔内の観察、様々な嚥下評価を体験する。経口感染予防のために、標準予防策について学習し、正しい手洗いを練習して身につける。	解剖生理学I, IIで使用した教科書の、嚥下、咀嚼の部分で復習しておくこと。	120分
第11回	内分泌系の解剖生理：経口糖負荷試験	経口ブドウ糖負荷試験を経験し、負荷後の血糖の反歌を評価する。得られた血液を用いて、ヘマトクリット値の測定法や、出血時間の評価法も学習する。	書籍やウェブで糖尿病の種類や診断方法について予習しておくこと。	120分
第12回	一次救急蘇生法：AEDの使い方	蘇生人形とトレーニング用のAEDを用いて、1次救命措置とAEDの使い方を学習する。	書籍やウェブで、一時救命措置について予習しておくこと。AEDが有効な不整脈について確認しておくこと。	120分
第13回	細胞・組織学(1)：顕微鏡の使い方、組織を顕微鏡で観察	明視野顕微鏡の使用法を身につける。筋肉、軟骨、消化管の組織を実際に観察し、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	教科書の第3章 (34-36ページ) を読んでおくこと。病理学の教科書や、ウェブ上で観察予定の組織の特徴を予習すること。	120分
第14回	細胞・組織学(2)：主な臓器の組織を顕微鏡で観察	肝臓、腎臓、膵臓、精巣、肺の組織を実際に観察して、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	病理学の教科書や、ウェブ上で観察予定の組織の特徴を予習すること。	120分
第15回	骨の解剖：骨格標本の作成	グループで協力して、人体の骨格標本を作成する。	解剖生理学I, IIで使用した教科書の、骨格系の部分を復習しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法

作成された実習レポートは、採点して返却する。
一般論をただ記載するのではなく、実習で得られた結果を基にして、正しく考察がなされているレポートを、高評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自習レポート	○	○		○
実習態度			○	

評価割合

実習態度が50%、レポートが50% (実習態度が良好でもレポートの提出がないと合格に達しません。必ずレポートを提出すること。)
6回以上欠席すると「不可」の評価になります。

使用教科書名 (ISBN番号)	解剖生理学実習/山田哲雄/第一出版/2014年 (978-4-8041-1317-3)	
参考図書	管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) /岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・理解：本実習は、解剖生理学的の知識を補填するものであり、相応の知識があるのを前提として行う。</p> <p>思考・判断：本実習は、実習で得られたデータを解釈することによって知識を確かなものにするために行われる。</p> <p>関心・意欲など：実習であることから、積極的な態度がなければ成立しない。</p> <p>技能・表現：本実習で得られた結果は、プレゼンテーション資料や実習レポートとしてまとめることが要求されている。</p>	
オフィスアワー	月曜日の16：00-17：00	
学生へのメッセージ	この実習では、今まで学んできた解剖生理学の知識を、自ら体験することで確実なものにするために行います。皆様方の積極的な関わりを期待しています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当職員は、現役の医師であり、医療現場で実際に行なわれている、身体計測や生化学的検査、生理検査を実際に学生に体験させ、得られた結果の解釈を説明することが可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	運動生理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	運動を遂行するとき、身体は運動に最も適した状態となるように変化する。また、トレーニングを長期間継続すると、身体はそのトレーニング様式に適した変化をする。このような一過性の応答や慢性的な適応の生理学的メカニズムを講義する。
履修条件	解剖生理学および解剖生理学実習と合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2. 運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたる運動の効用を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：環境への対応とストレス応答	健康寿命維持増進における運動生理学の意義、概要、学習方法を理解する。 環境適応とストレス応答について、生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から12) 復習：教科書第2章の通読、用語集の作成	120分
第2回	総論：健康増進と運動	運動による健康増進効果についての科学的エビデンスを学習し、運動の急性応答と慢性適応の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から3) 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成	120分
第3回	総論：運動・スポーツとエネルギー	運動時のエネルギー供給系の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から3) 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成	120分
第4回	各論：運動と筋・骨系	運動の実施による筋・骨格系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題(1から4) 復習：教科書第5章の通読、用語集の作成	120分
第5回	各論：運動と循環器系	運動の実施による循環器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題(1から2) 復習：教科書第6章の通読、用語集の作成	120分

第6回	各論：運動と呼吸器系	運動の実施による呼吸器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第7章の通読、用語集の作成	120分
第7回	各論：運動と神経系	運動の実施による神経系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第8、9章の通読、用語集の作成	120分
第8回	各論：骨格筋収縮能力の維持と改善、体温調節	運動の実施による骨格筋収縮、熱産生の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（8章1、9章1から2） 復習：教科書第9章の通読、用語集の作成	120分
第9回	スポーツと栄養	トップアスリートのスポーツ栄養管理事例から、管理栄養士に必要な運動生理学の理解を深める。	予習：教科書第10章前半（10.1～10.5）の通読 復習：教科書1から9章までの予想問題の自己採点（中間試験）	120分
第10回	スポーツと栄養総論	運動の実施によるエネルギー代謝の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から5） 復習：教科書第10章後半（10.6～10.11）の通読、用語集の作成	120分
第11回	スポーツと栄養各論	運動と栄養摂取の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第11章の通読、用語集の作成	120分
第12回	運動負荷評価法	運動負荷テストの目的、種類、様式を理解し、運動負荷テストの実施上の注意点を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第12章の通読、用語集の作成	120分
第13回	運動処方	安全で効果的な運動処方の科学的根拠を学習し、健康づくりに応用する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第13章の通読、用語集の作成	120分
第14回	運動療法	内科的および外科的疾患の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第14章の通読、用語集の作成	120分
第15回	運動障害	内科的および外科的障害の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書の通読、教科書10から14章までの予想問題の自己採点（期末試験）	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	教室外学習の予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。				
評価方法	中間試験は教科書1から9章の範囲から出題する。期末試験は教科書10から14章の範囲から出題する。特別授業、教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価する。再試験は実施しない。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	リアクションペーパー			○	
	中間試験	○	○		
	期末試験	○	○		
評価割合	リアクションペーパー20%、中間試験40%、期末試験40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	山本順一郎 (2018) エキスパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学 (第4版). 化学同人. (ISBN: 9784759812497)				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを活用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている				
オフィスアワー	木曜日 12:30～14:30				

学生へのメッセージ

人間の生命を守り、健康を増進する上で管理栄養士に不可欠な科目であり、解剖生理学などと関連付けた教室外学習が必須である。疑問や質問は講義中に解決するように積極的に参加し、ディスカッションを中心に予習、復習をすること。スポーツ栄養士を目指す学生は完全にマスターしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、人体の構造と機能に関する理解を促進するための専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	授業外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	微生物学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 津山 淳	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。特に、管理栄養士は食中毒、発酵、腸内細菌、さらに感染リスクの高い患者の栄養指導など微生物と接する機会が多い。そのため微生物学は重要な基礎科目である。</p> <p>本講義では感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要について解説する。微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症や食中毒を引き起こす微生物について学んでいくための内容となる。</p> <p>初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。</p>
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件

無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食中毒や腸内細菌など、食や人間の栄養と微生物との関連について理解する。 2. 免疫学の基本用語を理解し、病原体に対する宿主の防御機構を説明できる。 3. 主な感染症およびそれを引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染性を持つ病原体の種類や性質、危険性を分類できる。 2. 食中毒を引き起こす病原体を熟知し、調理時の予防策を立案できる。 3. 微生物の本質的な基礎を習得することにより、健康・栄養と微生物の接点をイメージできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理時の適切な衛生環境の向上に積極的に寄与できる 2. 勤務先において感染症患者や感染症発生時の対応に円滑に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ライフステージ別栄養学の概要	ライフステージやライフサイクルの概念、小児期の分類、ヒトのライフステージと食生活、成長発達に伴う変化生涯にわたる健康のためのアプローチについて理解する。	教科書の第3章、A、B(55-65ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	栄養アセスメント	栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈、問診・食事調査法について理解する。	教科書の第1章A-D(1-10ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	妊娠・産褥期の生理	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥について理解する。	教科書の第4章A(69-73ページ)を読んでおくこと。	120分

第4回	妊娠・分娩・産褥期の栄養アセスメントと病態生理	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。	教科書の第4章C-E (74-84ページ) を読んでおくこと。	120分
第5回	授乳期	乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。	教科書の第4章授乳期A-D (85-109ページ) を読んでおくこと。	120分
第6回	正常新生児と乳児	新生児の分類、胎児循環、褐色脂肪細胞、新生児の診察と原始反射、新生児期から乳児期の身体発育の原則、授乳や離乳食が順調か否かの判断法について理解する。	教科書の第5章A, B (111-123ページ) を読んでおくこと。	120分
第7回	未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題	未熟性に起因した疾患や問題点、新生児黄疸、先天性胆道閉鎖症、ビタミンK欠乏性出血症、呼吸窮迫症候群、低血糖、貧血、消化管アレルギー、くる病、絵師成長円などについて理解する。	教科書の第5章C (123-129ページ) を読んでおくこと。	120分
第8回	栄養補給法母乳と人工乳の違い	母乳と人工乳の違い、母乳育児を進めるためのポイント、育児用ミルクの種類と特徴について理解する。	教科書の第5章D (130-139ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	乳児期の栄養と離乳食	離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、手づかみ食への重要性、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準について理解する。	教科書の第5章のD-F (139-142ページ) を読んでおくこと。	120分
第10回	先天性代謝異常章と特殊ミルク	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。	この部分は教科書には記載されていないが、国家試験問題としては頻出する。学習内容に記載されたキーワードを参考にして、書籍やインターネットで予習しておくこと。	240分
第11回	幼児期の成長と栄養アセスメント	スカモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、青年期、歯牙の生える順番、幼児期における各臓器の発育発達の特徴、間食の量や与え方について理解する。	教科書の第6章A-C (145-154ページ) を読んでおくこと。	120分
第12回	幼児期の病態と栄養ケア	幼児期のやせと栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症、食物アレルギー、食を通じた幼児の健全育成について理解する。	教科書の第6章のD-F (154-169ページ) を読んでおくこと。	120分
第13回	学童期の成長障害と栄養アセスメント	思春期のホルモン分泌、成熟度の評価法、小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。	教科書の第7章A-D (171-184ページ) を読んでおくこと	120分
第14回	思春期の病態と栄養ケア	思春期に頻度が上昇する、糖尿病、やせ、貧血、女性アスリートの三主徴や、逸脱行為（喫煙、飲酒、性の問題）、生活リズム障害について理解する。	教科書の第7E-F (185-202ページ) を読んでおくこと。	120分
第15回	ライフステージ栄養学（妊婦、胎児、新生児、乳幼児、学童期、思春期）のまとめ	第1回から14回の講義で、特に栄養学的に重要な部分を確認し、理解や知識を確実なものとする。	第1回から14回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確実な部分は、その部分の教科書も再度読んでおくこと。	240分

学習計画注記	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物とは何か 2. 感染の基本と自然免疫システム 3. 獲得免疫システム 4. 細菌の分類とグラム陽性球菌 5. 通性嫌気性グラム陰性桿菌 6. 好気性菌 芽胞菌 7. 嫌気性菌 マイコバクテリウム 非定型細菌 8. ウイルス I 9. ウイルス II 10. ウイルス III 11. プリオン 真菌 12. 蠕虫と原虫 13. 感染性食中毒 14. ワクチン・腸内細菌と腸管免疫 15. 法令・院内感染予防・消毒と滅菌 16. 定期試験 <p>アプリを用いたアクティブ・ラーニングを実施する予定である。 スマートフォン、タブレット、ノートPCの持ち込みを推奨する。</p>
学生へのフィードバック方法	質問は講義中いつでも受け付けます。また、メールでの質問も受け付けますが、その場合はメールで返信するか授業において解説するかは講師が判断します。

	公平を期すため、定期試験に関する質問は試験前最後の講義以降は基本的に受け付けません。				
評価方法	試験100%（100点満点）で行う。 ただし、講義中に内容に関連した質問をした場合や、こちらから出す問いに対して高度な回答した場合は加点の対象とする場合がある。 試験は定期試験のみ。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期テスト	○	○		
評価割合	試験100%（100点満点）で行う。				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症, 編集: 医療情報科学研究所 ブラック微生物学, 著者: Jacquelyn G.Black, 監修・翻訳: 神谷 茂, 高橋 秀実, 林英生, 俣野 哲朗				
ディプロマポリシーとの関連	微生物学は感染症のみならず食中毒、発酵、腸内細菌など食や健康との関連が深い。抵抗力の低下した方への栄養指導や食事の提供を行う管理栄養士には、本講義で解説する食中毒を引き起こす病原体の「知識と理解」は必須である。また、最近では腸内細菌叢による各種代謝が人間の栄養に重要な役割を果たしていることが明らかとなっている。このように日進月歩で新しい知見が見出されている領域でもあるため、本講義では最新知見にも対応できる「思考と判断力」の形成に向けた基礎を目指す。そのため表層的な議論に留まらず最新の研究成果やその考え方についての解説も、あくまでも1年生向けに行っていく。				
オフィスアワー	火曜日14:00-14:40, 17:50-18:20 (事前にメールで予約をもらえると確実に対応できます)				
学生へのメッセージ	高校までの生物学の知識があることが望ましいです。 ただし、不明点があればいつでも質問して下さい。 どんな初歩的な質問であっても構いませんので、理解しないまま素通りしないようにして下さい。質問は講義中いつでも構いません。 鋭い質問は加点の対象とする場合も有ります。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	学生の理解度確認および理解向上のためクリッカーアプリを用いた問題を講義中に出すことを予定している。ネットワークやアプリ動作など環境に応じて柔軟に対応する。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	臨床病態栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齊藤 恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	臨床栄養の現場で管理栄養士が遭遇する疾患について、その発症 機序や重症化への進展を学ぶ。特に、栄養障害が、生活習慣病、代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、免疫・アレルギー疾患、腎疾患等に どのように関連しているかについて概要を理解する。さらに、治療に向けた基本的な考え方を講義する。
履修条件	解剖生理学I および解剖生理学II を履修していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各疾患の病態や診断など、臨床医学の基礎的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	診断のための主な症候と臨床検査	主な症候について学ぶ。主な臨床検査の意義と解釈について学ぶ。	事前学習：教科書第1章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	加齢・疾患に伴う変化、疾患の治療	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化(炎症、萎縮・肥大、化生・異形成、腫瘍など)、個体の死、疾患の治療総論について学ぶ。	事前学習：教科書第16章および第2章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	栄養、代謝系疾患	脂質異常症、栄養障害(PEM、カヘキシー、マラスムス、クワシオルコル)、ビタミン異常症、ミネラル異常症等の病態、症状および診断について学ぶ。	事前学習：1年次に学んだ脂質やビタミンについて確認しておく。教科書第3章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第4回	糖尿病	糖尿病の成因、分類、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次に学んだ糖代謝や消化管の解剖生理について確認しておく。教科書第3章の左記疾患該当部分を読んでお	150分

			く。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第5回	高尿酸血症、内分泌系疾患	高尿酸血症、痛風、内分泌（ホルモン）系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだホルモン（内分泌系）について確認しておく。第3章左記疾患該当部分および第4章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系疾患	消化器系疾患（口腔、食道、胃十二指腸、大腸）の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系について確認しておく。教科書第5章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	肝胆膵疾患	肝胆膵系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系（肝胆膵）について確認しておく。教科書第6章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系疾患	循環器系疾患（肺塞栓症含む）の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ循環器系について確認しておく。教科書第7章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系疾患 1	腎臓系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系について確認しておく。教科書第8章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系疾患 2、尿路系疾患、生殖器系疾患	腎臓系疾患、尿路系、生殖器系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系、生殖器系について確認しておく。教科書第8章該当部分および第15章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	脳血管障害、神経精神疾患	脳血管疾患、神経系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ脳神経系について確認しておく。教科書第7章左記疾患該当部分および第9章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系について確認しておく。教科書第10章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	血液系疾患	血液系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ造血管系について確認しておく。教科書第11章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	運動器系疾患、皮膚系疾患	運動器系、皮膚系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ運動器系（筋、骨）について確認しておく。教科書第12章左記疾患該当部分および第13章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第15回	免疫・アレルギー系疾患	免疫系、アレルギー系疾患の病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ免疫系について確認しておく。教科書第14章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	600分

			これまでの授業の内容を総復習しておく。
学習計画注記	履修者の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。		
学生へのフィードバック方法	毎回講義時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行い、講義内に解説を加える。		
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。		
評価基準			
評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
定期試験	○	○	
評価割合	定期試験100%		
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版：羊土社		
参考図書	病気がみえるシリーズ MEDIC MEDIA, イメージするからだのしくみシリーズ MEDIC MEDIA		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。		
オフィスアワー	火曜12:30~14:30 1503教室		
学生へのメッセージ	1年次に履修してきた科目を基にした科目であると同時に、今後の専門科目の基盤となる科目ですので、しっかり理解するよう努めてください。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の实地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。	
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	分子栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養素の代謝は、生体を持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機構について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子とたんぱく質合成を説明できる。 2. 遺伝子発現の調節の機構について説明できる。 3. 生活習慣病と遺伝子多型(遺伝因子)の関連について説明できる。 4. 細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生物物質と細胞	真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官や構造物がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを理解する。特に、細胞膜については水や栄養素の細胞内への取込みに係る役割を果たしていることから、その構造的特徴を中心に説明する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第2回	細胞膜を介した物質の移動	前回に細胞膜の構造を学んだ。今回は、膜を介した物質の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送たんぱく質を通過するが、輸送たんぱく質のチャネル、担体、ポンプとしての働きを学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第3回	酵素とその働き①	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類(酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素)や性質(基質特異性、最適温度、最適pHなど)を学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分

第4回	酵素とそのはたらき②	前回の授業にて、酵素の種類と性質を学んだ。今回は、酵素とともに働く補酵素の役割を理解し、酵素反応の調節の機序を理解する。また、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害、反競争的阻害）の酵素反応論的な知識を得る。最後に、血中への逸脱酵素と疾患との関係についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、1～3回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第5回	遺伝情報とその発現 (DNAの構造と複製)	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的複製のしくみについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第6回	遺伝情報とその発現 (たんぱく質の合成)	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うたんぱく質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してたんぱく質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第7回	遺伝子の発現調節	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第8回	遺伝子と疾患	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、4～7回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第9回	情報伝達の機構 (細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達)	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きく分けると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達について理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第10回	情報伝達の機構 (内分泌系、神経系による調節)	前回は、細胞間の情報伝達機構の概要について学んだ。信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンの働きについて理解する。また、信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける神経情報伝達物質による情報伝達についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第11回	摂食制御の情報伝達	摂食は、満腹中枢と摂食中枢の相反的な活動によって制御されているが、この活動は様々な情報伝達物質が関わっている。今回は、摂食制御の体液性伝達と神経性伝達について理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第12回	糖質の摂取と遺伝子発現	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく代謝系はそれぞれの組織特異性による役割を果たしている。これはグルコース代謝に係る酵素の組織特異的な発現に基づく。今回は、グルコースの利用における組織の役割の違いを理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、9～11回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第13回	脂質の摂取と遺伝子発現	前回は、グルコース代謝に関わる酵素の組織特異的な発現について学んだ。今回は、脂肪酸代謝やコレステロール代謝に関わる酵素に関して理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第14回	ビタミン・ミネラルの摂取と遺伝子発現	ビタミンA（レチノイン酸）、ビタミンD（活性型ビタミンD）はホルモン様作用を示す。これらが核内受容体を介して標的遺伝子の発現を転写レベルで制御する機序について学ぶ。また、骨形成と骨吸収に係る副甲状腺ホルモン、活性型ビタミンD、エストロゲンなどのホルモン類による調節についても理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第15回	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、12～14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて540分

学生へのフィードバック方法

・実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回当たりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの追再試験は行わないので注意すること。
・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形

式に基づく選択式の問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合

小テスト (20%)、定期試験 (80%)

使用教科書名 (ISBN番号)

プリントを配布

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、そして地球・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー

水曜 1 時限 1205 研究室

学生へのメッセージ

生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

授業概要(教育目的)

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学 I では、一般的な生化学の知識を習得するとともに、特に食品学、栄養学、調理学との関連を重視し、我々が食品に含まれる栄養素をどのように体内に取り入れ、どのように生命の維持と生命現象の発現に利用しているかについて概説する

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 細胞内小器官における物質代謝を説明できる。 生体成分の構造ならびに機能を説明できる。	2. 主要な
思考・判断の観点 (K)	1. 主要な生体成分の代謝について概説できる。 2. 主要な代謝経路の役割について概説できる。	
関心・意欲・態度の観点 (V)		
技術・表現の観点 (A)		

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の構造と機能	細胞の構造と細胞小器官の役割について理解する。	教科書6~11頁、生物の基本単位-細胞を読んでおくこと。	90分
第2回	糖質の種類と構造	糖の構造と化学的性質を理解する。	教科書41~49、糖質の特徴を読んでおくこと。	120分
第3回	糖質の代謝①	解糖系におけるグルコースの代謝と生成物について理解する。TCA回路とその生成物について理解する。	教科書52~56頁解糖系・TCA回路を読んでおくこと。	120分
第4回	糖質の代謝②	五炭糖リン酸回路で生成する物質とその働きについて理解する。グリコーゲンの合成と分解について理解する。糖質以外の生体成分からのグルコース生成である糖新生について理解する。	教科書58~62頁を読んでおくこと。	120分
第5回	脂質の構造と化学	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。	教科書77~86頁を読んでおくこと。	120分
第6回	脂質の代謝①	脂肪酸合成・リポたんぱく質と脂質の輸送について理解する。	教科書92~94、97~101頁を読んでおくこと。	120分
第7回				120分

	脂質の代謝②	コレステロール代謝・リン脂質の合成・イコサノイドの種類と機能について理解する。	教科書87～92頁を読んでおくこと。	
第8回	アミノ酸・たんぱく質の構造と化学	たんぱく質の分類・構造と変性、アミノ酸の構造・種類について理解する。	教科書101～109頁を読んでおくこと。	120分
第9回	アミノ酸・たんぱく質の代謝①	たんぱく質の分解 アミノ酸の代謝 アミノ基転移反応・酸化的脱アミノ反応について理解する。個々のアミノ酸の代謝と生成物について理解する。	教科書110～114頁を読んでおくこと。	120分
第10回	アミノ酸・たんぱく質の代謝②	尿素回路について理解する。	教科書115～116頁を読んでおくこと。	120分
第11回	たんぱく質の生合成・遺伝子発現の調節	たんぱく質の生合成の機序、遺伝子発現について理解する。	教科書129～135頁を読んでおくこと。	120分
第12回	核酸代謝	核酸の生合成と分解について理解する。	教科書121～123頁を読んでおくこと。	120分
第13回	生体の調節因子	酵素の反応形式と酵素の分類・構造。	教科書141～147頁を読んでおくこと。	120分
第14回	生体の調節因子	酵素の反応速度。	教科書150～152頁を読んでおくこと。	120分
第15回	生体の調節因子	ステロイドホルモン・ペプチドホルモンの作用形式。	教科書158～163頁を読んでおくこと。	120分
第16回				

学生へのフィードバック方法

質問等は随時受け付けるので、1204研究室まで。

評価方法

講義内容の範囲から出題する試験によって評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合

定期試験 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号)

基礎から学ぶ生化学／奥 恒行他編／南江堂／2006 ISBN978-4-524-24779-0 ○3047

参考図書

生化学ガイドブック (南江堂)
ハーバー生化学 (丸善)

ディプロマポリシーとの関連

管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。

オフィスアワー

木 2・3限

学生へのメッセージ

高校で学んだ生物並びに化学の知識が基礎となります。ぜひ再度見直しをして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生化学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

授業概要(教育目的)

生化学的知識、すなわち生体成分の性質やそれらが示す化学反応と生命機序を理解するための基礎的実験を行う。他の実験と同様、実験をうまく進めていくためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠であることはもちろん、どのような原理によっているのか、実験で得られた数値などの結果から、どのような結論が導けるのかなどを理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実験の予定と諸注意	
第2回	糖質実験(でんぷんの消化 I)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察し反応温度と消化の関係について考察する。
第3回	糖質実験(でんぷんの消化 II)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察し pH と消化の関係について考察する。
第4回	タンパク質実験(タンパク質の消化 I)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第5回	タンパク質実験(タンパク質の消化 II)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第6回	タンパク質実験(タンパク質の消化 III)	消化によって生じた低分子のペプチド、アミノ酸をローリー法で測定し、消化の程度を観察する。
第7回	脂質の消化 (I)	リパーゼによる脂質の人工消化試験を行い、構成する脂肪酸の同定を薄層クロマトグラフィー (TLC) で行う。薄層クロマトグラフィーの原理について理解する。

第8回	脂質の消化 (Ⅱ)	薄層板 (TLC) の溶媒による展開と消化分解産物と標準脂肪酸の同定。		
第9回	クロマトグラフィー (Ⅰ)	クロマトグラフィーの原理と物質の分離について理解する。		
第10回	クロマトグラフィー (Ⅱ)	カラムクロマトグラフィーを用いた添加回収試験により実験の信頼性について理解する。		
第11回	血液成分の分析血漿の遊離脂肪酸、中性脂質測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。		
第12回	血液成分の分析血漿の総コレステロール、遊離コレステロール測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。		
第13回	血液成分の分析血漿のアミノ基転移酵素活性測定	血漿のアミノ基転移酵素活性を測定し、測定の原理と意義について理解する。		
第14回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。		
第15回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。		
学生へのフィードバック方法		レポートにより理解ならびに説明が必要な点についてフィードバックする。		
評価方法		レポート、小テストによる総合評価。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合		レポート (90%)、小テスト (10%)		
使用教科書名 (ISBN番号)		プリントを配布 新しい生化学・栄養学実験 ISBN4-7827-0450-x c3077		
ディプロマポリシーとの関連		管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。		
オフィスアワー		木 2・3限		
学生へのメッセージ		高校で学習した化学・生物に関する基礎知識も必要となります。事前学習は必要としないが、基礎栄養学、生化学の基礎的内容を理解していることが望ましい。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎食品学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	食品の構成成分(水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香り・におい成分など)の物理的・化学的性質を理解するとともに、食品成分間の反応や調理・加工特性など、我々が食している食品について総合的に学ぶ。また、食品の機能性をベースとした食品(特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品など)について関連法規の枠組みを講義する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. 食品に含まれる各種成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。 2. 食品成分間反応における、栄養面、嗜好面、安全面への影響を説明できる。
思考・判断の観点(K)	1. 食品成分の機能性や疾病予防に対する役割を列記することができ、適切に利用するための食品表示制度の仕組みを類別できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活と健康、食料と環境問題	食べ物と人の関わりを歴史の変遷の観点から学ぶ。食料の需給システムと環境問題を理解する。	教科書第1章の「食品の歴史の変遷」「食料と環境問題」(1~9ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	食品の主要成分(水分)	食品中の水の状態(結合水・自由水)と、物性や貯蔵性との関連を理解する。	教科書第3章の「1. 水(水分)」(27~33ページ)を読んでおくこと	120分
第3回	食品の主要成分(炭水化物)	食品中の単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在を知る。食物繊維(水溶性・不溶性)の生理的機能を理解する。	教科書第3章の「2. 炭水化物」(33~50ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	食品の主要成分(脂質)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在を知る。油脂の物理化学的指標としてのケン化価、ヨウ素価、過酸化価等を理解する。	教科書第3章の「3. 脂質」(50~64ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、1~3回の授業内	240分

			容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	
第5回	食品の主要成分（タンパク質）	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在を知る。たんぱく質の変性の栄養学的意義を理解する。	教科書第3章の「4. たんぱく質」（64～74ページ）を読んでおくこと	120分
第6回	食品の主要成分（ビタミン）	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在を知る。食品の加工や貯蔵に係る含有量の変化を理解する。	教科書第3章の「5. ビタミン」（75～80ページ）を読んでおくこと。	120分
第7回	食品の主要成分（ミネラル）	食品中の無機質の種類、性質、所在、生理的機能を知る。	教科書第3章の「6. 無機質」（81～87ページ）を読んでおくこと。	120分
第8回	食品の嗜好成分（呈味成分）	食品の呈味成分（基本味・補助味）の種類、構造、性質を知る。成分の組合せによる呈味の相互作用を理解する。	教科書第4章の「味の成分」（93～99ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、4～7回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第9回	食品の嗜好成分（香気成分）	食品の香気成分の種類、構造、性質を知る。二次的に生成する香気成分の生成機序を理解する。	教科書第4章の「香りの成分」（100～102ページ）を読んでおくこと。	120分
第10回	食品の嗜好成分（色素成分）	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在を知る。ポリフィリン系色素の色の变化を理解する。	教科書第4章の「色の成分」（103～109ページ）を読んでおくこと。	120分
第11回	食品成分の反応（化学的变化・酵素的変化）	酵素的褐変（ポリフェノールオキシダーゼ）と非酵素的褐変（アミノカルボニル反応、カラメル反応）による食品学的意義を理解する。	教科書第5章の「成分間の相互作用」（111～118ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、8～10回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第12回	食品の物性	食品におけるコロイド分散系として、エマルションとサスペンション、ゾルとゲルの関係を理解する。液状食品の流動特徴を知る。	教科書第6章の「食品の物性とおしさ」（119～130ページ）を読んでおくこと。	120分
第13回	食品の機能性	特定保健用食品や機能性表示食品として用いられている食品の三次機能をもたらす成分を学ぶ。	教科書第8章の「食品の持つ三つの機能」（139～140ページ）を読んでおくこと。 消費者庁のホームページより、特定保健用食品と機能性表示食品の具体例を調べておくこと。	120分
第14回	特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品	具体的な食品表示の例を用いて、保健機能食品制度の概要を理解する。	教科書第8章の「健康食品にかかわる制度」（141～145ページ）を読んでおくこと。 消費者庁のホームページより、食品表示基準の概要を調べておくこと。	120分
第15回	栄養成分の表示（強調表示）	食品表示基準の概要と、食品選択における栄養表示の重要性を理解する。	教科書第8章の「栄養成分表示」、第9章の「食品成分表」（145～163ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、11～14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習240分、復習420分
第16回	定期試験	授業内容の目標到達度を確認する。		

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3～4回の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、評価基準に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			

定期試験	○	○		
評価割合	定期試験（80%）、小テスト（20%）			
使用教科書名（ISBN番号）	食べ物と健康Ⅰ 食品成分を理解するための基礎（第2版）喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士（化学同人）（ISBN 978-4-7598-1818-5）			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。			
学生へのメッセージ	我々は食事を通して様々な化学成分を摂取している。それらを体内で利用して生命活動を営んでいる。どのような食品にどのような成分が含まれているのかを詳しく知ることは、管理栄養士として必要な知識であるので、主体的に学んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に対し、開発者として習得すべき「商品企画から販売までの流れ」、アドバイザースタッフとして習得すべき「利用の注意点」を教授している。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎食品学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	食品成分の分析技術、品質管理技術の進歩は目覚ましいものがある。基礎食品学実験では、食の専門家として必要とされる実験技術を習得し、食品の成分間反応などの実際を確認する。それとともに日本食品標準成分表で採用されている分析方法についても理解する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 食品成分の性質と成分間反応について、基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験の基礎 (薬品・器具の扱い方、結果の記録方法と報告など)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第2回	重量測定 (水分、灰分)	大豆(国産・外国産)を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第3回	タンパク質の性質(等電点沈殿)	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分

第4回	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第5回	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第6回	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第7回	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第8回	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第9回	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解）	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第10回	タンパク質の定量（ケルダール法：アンモニア蒸留）	硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第11回	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第12回	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第13回	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第14回	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第15回	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは指定日に提出する。	45分
学生へのフィードバック方法		作成された実験レポートは、採点して、返却する。実験結果や考察などについて質問がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。 ・実験レポートは、以下の基準に基づき評価される。 		

		①レポート課題そのものを理解している。 ②課題にそって解答がなされている。 ③答えるべきことがらの内容について正確に理解している。 ④専門用語の意味などについて、正確に理解している。 ・「国家試験の問題にチャレンジ」は、配布されたテキストにある国家試験の過去問題について、誤っている記述を正しい文章に直すなど、単に正答を記すだけにしないこと。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート	○	○		○
	平常点			○	
評価割合		レポート (60%)、平常点 (40%) (平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する)			
使用教科書名 (ISBN番号)		プリント配布			
参考図書		Nブックス実験シリーズ 食品学実験 (青柳康夫・有田政信編) 建帛社			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。 【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的スキルと共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。			
オフィスアワー		木曜日1限目			
学生へのメッセージ		実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問(課題)を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において商品の研究開発の実務経験を有しており、実験的な手法による品質管理等の実際を教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	応用食品学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

授業概要(教育目的)	農産物(穀類、いも類、野菜類など)や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。この講義では、食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法を理解させることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. 食材・食品の種類や、それらに含まれる成分を説明できる。 2. 様々な加工食品の製造方法を説明できる。
思考・判断の観点(K)	1. 食材・食品の種類等を類別できる。 2. 食材の旬や成分を活かした食品加工、調理への展開を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	1. 日常で食している食品に対して、その素材や加工法などに関心を持つことができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

応用食品学				
回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、現在の食品に関する状況(生鮮食品や加工食品とは何か、食料供給率や供給、消費など)	応用食品学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。生鮮食品や加工食品(1次加工食品、2次加工食品など)とは何か、植物性食品、動物性食品、農産物、水産物など、食品の区分を理解する。また、現在の私たちを取り巻く食品の状況(食糧の生産や消費、食料自給率、食料輸入など)について理解をする。	教科書第1章「食品」1~7ページを読んでおくこと。特に第1章4「食品の消費と供給」については予習と復習をして理解すること。	120分
第2回	穀類とその加工品	穀類とは何かを理解する。米や小麦を中心として、その他の麦、トウモロコシなどの種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章1.「穀類」8~33ページを読んでおくこと。特に米と小麦の項目は重要点とし	120分

			て、予習と復習をして理解すること。	
第3回	いも類とその加工品	いも類とは何かを理解する。ジャガイモやサツマイモを中心として、その他のいも類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章2.「いも類」34～43ページを読んでおくこと。特にジャガイモとサツマイモの項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第4回	豆類・種実類とその加工品	豆類や種実類とは何かを理解する。大豆や小豆を中心として、その他の豆類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。(ただし、納豆の項目は除く)さらに、種実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章3.「豆類」44～52ページおよび4.「種実類」53～59ページを読んでおくこと。特に大豆の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。(ただし、納豆の項目は除く)	120分
第5回	野菜類とその加工品	野菜類とは何かを理解する。野菜類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、野菜類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章5.「野菜類」60～77ページを読んでおくこと。特に野菜類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第6回	果実類とその加工品	果実類とは何かを理解する。果実類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、果実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章6.「果実」78～90ページを読んでおくこと。特に果実類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第2章の1～6の植物性食品についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。	240分
第7回	きのこ類、海藻類とその加工品	きのこ類や海藻類とは何かを理解する。きのこ類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、海藻類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章7.「きのこ類」91～97ページおよび8.「海藻類」98～105ページを読んでおくこと。特にきのこや海藻の成分の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第8回	食肉類とその加工品	食肉類とは何かを理解する。食肉類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第3章1.「食肉類」106～124ページを読んでおくこと。特に食肉類の熟成に関わる項目と食肉類加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第9回	乳類、卵類とその加工品	乳類、卵類とは何かを理解する。乳類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、卵類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。(ただし、乳類発酵食品の項目は除く)	教科書第3章2.「乳類」125～140ページおよび3.「卵類」141～148ページを読んでおくこと。特にそれぞれのたんぱく質の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第3章の1～3の動物性食品(畜産食品)についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。(ただし、乳類発酵食品の項目は除く)	180分
第10回	魚介類とその加工品	魚介類とは何かを理解する。魚介類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。(ただし、魚介類発酵食品の項目は除く)	教科書第3章4.「魚介類」149～175ページを読んでおくこと。特に魚介類に含まれる成分や加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。(ただし、魚介類発酵食品の項目は除く)	120分
第11回	油脂、甘味料、調味料	油脂、甘味料、調味料とは何かを理解する。油脂、甘味料、調味料の種類や性質、成分、加工方法を理解する。	教科書第4章1.「食用油脂」176～183ページおよび2.「甘味料」184～188ページ、3.「調味料/食塩・うま味調味料」189～190ページを読んでおくこと。	120分
第12回	発酵食品(味噌、醤油、醤油)	発酵食品(味噌、醤油、醤油)とは何かを理解する。発酵食品(味噌、醤油、醤油)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第4章3.「調味料/みそ、しょうゆなど」190～195ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第13回				120分

	発酵食品 (アルコール類など)	発酵食品(アルコール類など)とは何かを理解する。発酵食品(アルコール類、食酢、みりんなど)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。あわせて嗜好性飲料の茶類についても学ぶ。	教科書第4章3.「調味料/食酢、みりんなど」196~197ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」208~215ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	
第14回	発酵食品 (納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)	発酵食品(納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)とは何かを理解する。発酵食品(納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第2章3.「豆類/大豆の用途」48ページおよび第3章2.「乳類/乳類の利用」132~139ページ、第3章4.「魚介類/魚介類の加工品」172~173ページの発酵食品の項目を読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、発酵食品についてそれぞれの項目で微生物や加工方法の区別ができるように復習をすること。	240分
第15回	嗜好性飲料、香辛料、まとめ	嗜好性飲料とは何かを理解する。茶やコーヒーの種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工方法について学ぶ。さらに、香辛料の種類や性質、含まれる成分についても学ぶ。	教科書第4章4.「香辛料」198~203ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」204~208ページを読んでおくこと。さらに、本講義の全体にわたって、それぞれの項目の食品の成分等の区別などができるように復習をすること。	720分

学習計画注記	講義内容の進行状況によりシラバスが前後する場合がある。				
学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。				
評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 (90%) 授業への参加態度などの平常点 (10%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	新版 食品学Ⅱ / 菅原龍幸監修/建帛社/2016 ISBN 978-4-7679-0582-2				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品、食材の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考・判断】食品に関する正確な情報を収集し、論理的・批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。				
オフィスアワー	月曜日3時限 1401研究室				
学生へのメッセージ	普段食べている食品などの基本的な内容です。スーパーなどに行ったとき、食材や食品をよく見てください。パッケージに記載されている表示にも注意をして、いろいろなものに興味を持ってください。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業において、官公庁、農協等との食品の研究・開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学の講義の上で食品の成分や栽培・生産体系から収穫・加工・販売までを実践的に教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

授業概要(教育目的)	加工食品を実際により、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別についても学ぶ。また、食品開発における基礎についても学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	加工食品を実際により、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、発酵食品の原理(納豆)	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	豆タンパク質の加工変化(豆腐)	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	乳の変化(チーズ)	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	発酵(味噌)	米味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第5回	缶詰製造			60分

		缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・加圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	
第6回	肉類の加工（ソーセージ）	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	果実類のゲル化（マーマレード）	マーマレードの製造を通じて果実類加工・ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	乳類発酵（ヨーグルト）	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。	ヨーグルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	糖蔵の原理（ミカンシロップ）	ミカンのシロップ漬の製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵・酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	ミカンのシロップ漬の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	高圧殺菌法（レトルト食品）	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	糖質マンナンの変化（コンニャク）	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	カビの酵素による糖化実験（甘酒）	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	乳脂肪の変化（バター）	バターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化する原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	糖質の加熱変化（キャラメル化）	キャラメル製造を通じて糖の加熱変化・キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	キャラメル製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	小麦タンパク質の粘性（パスタ）	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記	シラバスは、学年層などにより回の内容が入れ替わることがある。
学生へのフィードバック方法	各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	レポート（50%）および実験へ臨む態度などの平常点（50%）で判定する。
使用教科書名（ISBN番号）	プリント配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。 【思考・判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。 【技術・表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的スキルを身につけている。
オフィスアワー	月曜日3時限 1401研究室
学生へのメッセージ	納豆や、味噌、ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工、高圧蒸気加熱加工など、様々な食品の製造、加工技術を学びます。普段、スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているのかなど、興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究・共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せつかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の変化、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関連などは重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成についてなど順を追って学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。 2. 各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	1. 調理操作の結果、なぜその様な現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食べ物と嗜好性	おいしさの要因や評価の方法などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第2章の「食べ物と嗜好性」(17~44ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第2回	食事設計と栄養	食事設計の基本知識や食卓構成などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第3章の「食事設計と栄養」(45~65ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第3回	調理器具	調理熱源や調理器具、設備などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第4章の「調理器具」(66~77ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第4回	調理操作			120分

		加熱操作、非加熱操作、冷凍・解凍、調味操作などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第5章の「調理操作」(78～107ページ)を読んで復習しておくこと。
第5回	調理操作による変化(米)	米の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。	授業での配布プリント及び教科書第6章の「米」(108～112ページ)を読んで復習しておくこと。
第6回	調理操作による変化(小麦)	小麦の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。	授業での配布プリント及び教科書第6章の「小麦」(112～118ページ)を読んで復習しておくこと。
第7回	調理操作による変化(イモ類、豆類)	イモ類、豆類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「イモ類、豆類」(118～125ページ)を読んで復習しておくこと。
第8回	調理操作による変化(野菜、海藻、果物)	野菜、海藻、果物の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「野菜、海藻、果物」(125～133ページ)を読んで復習しておくこと。
第9回	調理操作による変化(肉)	肉の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「肉」(134～140ページ)を読んで復習しておくこと。
第10回	調理操作による変化(魚)	魚の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「魚」(140～145ページ)を読んで復習しておくこと。
第11回	調理操作による変化(砂糖)	砂糖の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「砂糖」(145～148ページ)を読んで復習しておくこと。
第12回	調理操作による変化(卵)	卵の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「卵」(148～154ページ)を読んで復習しておくこと。
第13回	調理操作による変化(牛乳・デンプン)	牛乳、デンプンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「牛乳・デンプン」(154～162ページ)を読んで復習しておくこと。
第14回	調理操作による変化(油脂・寒天・ゼラチン)	油脂、寒天、ゼラチンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「油脂・寒天・ゼラチン」(163～169ページ)を読んで復習しておくこと。
第15回	まとめ	1回から14回までのまとめと振り返り	授業での配布プリント(1～14回)の内容を総復習しておくこと

学生へのフィードバック方法	質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室まで訪問してください。(不在時はe-mailも可)
評価方法	定期試験と平常点の総合で評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験(90%)、平常点(10%) (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
使用教科書名(ISBN番号)	「調理学」畑江敬子・香西みどり(東京化学同人)

参考図書	「調理と理論」同文書院	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜日5時限	
学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に学習しましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	調理学実験（官能評価を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め、先の目的を達成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。	配布プリントを復習すること。	60分
第2回	官能検査法	紅茶の甘味の嗜好試験を行うことで3点嗜好試験法について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第3回	米の炊飯	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第4回	卵の熱凝固性	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第5回	卵の乳化性	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第6回	小麦粉中のグルテンの性質	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第7回				60分

	小麦粉に対する副材料の影響	様々な条件のクッキーを作ることによってクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	
第8回	乳製品の起泡性と転相	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第9回	揚げ物の吸油率	揚げ物の揚げ方による吸油率の変化について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第10回	砂糖溶液の加熱とその性質	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第11回	イカの収縮	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第12回	魚の酢締め	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第13回	ゼラチンと寒天の性質	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第14回	報告検討会	他班の実験結果を知ることで、実験内容の理解を深める。発表は実物投影機を利用する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第15回	まとめ	まとめと学習到達度の確認テスト	確認テストの内容を復習しておくこと	60分

学生へのフィードバック方法	学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。 なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。
------	-------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		

評価割合	レポート (50%)、確認テスト (50%)
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	クッキングエクスペリメント 4th Edition、四宮陽子 (学研書院) 978-4-7624-3853-0
-----------------	---------------------------------------------------------

参考図書	調理と理論 (同文書院)
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜5時限
---------	-------

学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。
-----------	----------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎調理学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>具体的な調理技術の到達目標を最初に示すので、授業中はもとより自宅でも日々調理に慣れること。 毎回決められているテーマにそった3~4品の献立を、4~5人のグループごとに調理する。 授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、1つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	基本の調理技術と器具類の正しい使用方法、食材の調理特性などを理解して調理を実践できる。
思考・判断の観点(K)	薄味、均等で美しい盛り付け、最小の栄養損失などを考えた調理が実践出来る。
関心・意欲・態度の観点(V)	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わることが出来る。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

基礎調理学実習				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的には注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第2回	計量の練習	デジタル秤の正しい使い方を理解する。衛生的な手洗いの方法を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第3回	野菜の切り方1、生の操作	野菜の基本的な切り方を理解し練習する。包丁の正しい扱い方を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第4回				60分

	日本茶について	日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を理解する。五節句について学び柏餅を作る。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	
第5回	米の炊飯、だしの取り方	米の正しい炊飯の方法を理解して米を炊く。かつお節と昆布の合わせだしの基本的な取り方を理解し、吸い物を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	一汁三菜、茹でる操作	和食の基本の一汁三菜を理解し、簡単な日本料理を調理する。茹でる操作の基本を理解し青菜を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	野菜の切り方2、魚のおろし方、実技試験1	野菜の基本的な切り方を理解して練習する。魚を3枚におろす。野菜の切り方1の実技試験を実施する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	煮る操作	煮る操作の基本を理解して煮物を調理する。簡単な日本料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	炒める操作	中国料理の構成を理解する。炒める操作の基本を理解して簡単な中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	揚げる操作	揚げ物の操作の基本について理解する。中華材料について理解して基本的な中華料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第11回	焼く操作	西洋料理と焼く操作の基本を理解する。オーブンの正しい扱い方を理解する。基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	蒸す操作	正しい蒸し器の扱い方を理解して基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	実技試験2	野菜の切り方と魚のおろし方の実技試験を実施する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第14回	包丁の研ぎ方、強飯について	包丁の研ぎ方の基本を理解して練習する。もち米の蒸し方を理解して赤飯を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	まとめ、包丁の確認	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。各自の包丁が正しく扱われているか確認する。	半年間学んだことを総合的に復習する。	60分

学生へのフィードバック方法

学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法

各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
定期試験
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○			
実技試験	○	○		
定期試験	○			
平常点			○	

評価割合	各種提出物30%（1回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする） 技術試験30% 定期試験20% 平常点20%	
使用教科書名 (ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）978-4-8103-1457-1 「七訂食品成分表2019」女子栄養大学出版部、 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部	
参考図書	適宜紹介する	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜日5時限 1B04研究室（大富あき子）	
学生へのメッセージ	調理技術向上には授業を受けるだけでなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。 「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中はもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。 基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3~4品の献立を4~5人のグループごとに調理する。授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、1つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点(K)	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

基礎調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的な注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第2回	日本料理	秋の献立を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第3回	西洋料理 1	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第4回	西洋料理 2	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後	60分

			のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	
第5回	西洋料理 3	オープンを活用しながら魚の包み焼き、クッキー等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	中国料理 1	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	中国料理 2	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	韓国料理	韓国の食文化を理解しながら韓国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	東南アジアの料理	東南アジア（インドネシア、ベトナム、タイ）の食文化を理解しながら調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	日本の郷土料理	各県の郷土料理を理解しながら、今回は鹿児島県の郷土料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 実技試験に備えて調理の練習を行う。	60分
第11回	行事食 1	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	行事食 2	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	行事食 3	桃の節句の行事について理解しながら、桃の節句で食べる料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 次週の実技試験の練習を行う。	60分
第14回	実技試験	応用調理学実習で取り上げた料理の中から1～2品の実技試験を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	まとめ、包丁の確認	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。各自の包丁が正しく扱われているか確認する。	半年間学んだことを総合的に復習する。	60分

学生へのフィードバック方法 学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法 各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
定期試験
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○			
実技試験	○	○		
定期試験	○			
平常点			○	

評価割合 各種提出物30%（1回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする）
技術試験30%

	定期試験20% 平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代 (同文書院) ISBN 978-4-8103-1457-1 「七訂食品成分表2019」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1019-6 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0323-5
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
オフィスアワー	金曜日5時限 1B04研究室 (大富あき子)
学生へのメッセージ	調理技術向上には授業を受けるだけでなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。 「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食事計画論実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。</p> <p>そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。</p>
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら食事計画を立案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など 栄養管理の確認、栄養状態の診断(アセスメント)	授業の目的等を確認する。「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。	予習：「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。	60分

	ント)の実践			
第2回	栄養状態の診断(アセスメント)の結果分析、目標設定、給与栄養目標量の設定	前回のアセスメントを分析し、その結果にもとづき目標を設定する。また、目標を達成するために必要なエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。実習の内容をワークシートに記録する。	復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2015年版]」で確認する。ワークシートに記録する。	60分
第3回	食品構成の作成	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。	復習：設定した食品群ごとの摂取量が適切であるか、ワークシートをもとに確認する。ワークシートに記録する。	60分
第4回	献立の作成①(献立構成の決定)	料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、食品構成(第3回時に作成)をもとに献立を作成する。	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。	120分
第5回	実習室準備、りんごの皮むきと試食	実習室の清掃後、使用する食器類の選定を行う。また、りんごの皮むきを練習し、食べ比べを行う。	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：実習内容をレポートにまとめる。	60分
第6回	献立の作成②(食材および使用量の決定)	第4回で作成した献立構成をもとに使用する食材や使用量を決定する。使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第2回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。	復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整する。ワークシートに記録する。	120分
第7回	献立の作成③(発注伝票の作成)	献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。	復習：発注量を確認し、期日までに伝票を提出する。ワークシートに記録する。	60分
第8回	献立の点検、調理計画の立案、衛生管理の確認	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認する。また調理工程を確認し、実施計画を立てる。	復習：実習内容をワークシートに記入する。	60分
第9回	献立の実践(試作)	計画にもとづき調理を行い、評価する。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。ワークシートに記録する。	60分
第10回	献立の評価・献立の改善①(献立の見直し、発注伝票の作成)	第9回の内容を評価し、評価にもとづき改善点を整理して、改善案を作成する。改善内容にしたがって、栄養価の調整、発注伝票の作成を行う。	復習：期日までに発注伝票を提出する。ワークシートに記録する。	120分
第11回	献立の改善②(調理計画の見直し、衛生管理の見直し)	改善案にしたがい、調理工程を修正する。	復習：ワークシートに記録する。	60分
第12回	献立の実践(運営)	計画にもとづき調理を行い、評価する。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。ワークシートに記録する。	60分
第13回	献立の評価	第12回の内容を評価し、評価にもとづき改善点を整理する。栄養管理全体の実施内容について振り返り、報告書の作成、発表の準備を行う。	復習：ワークシートに記録する。発表用のスライドを作成する。	120分
第14回	評価の報告会	栄養管理全体の評価について報告書にまとめた内容を発表する。	予習：発表原稿を覚える。 復習：報告書を作成する。	120分
第15回	まとめ、レポート提出、調理実習室整備	レポートを提出後、調理実習室を清掃する。	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：実習を通し学習した内容を振り返り、まとめる。	120分

学習計画注記

実習の進行状況によって内容を前後させる場合がある。

学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。				
評価方法	提出物50%、定期試験30%、平常点20%を総合的に評価する。 ※提出物：提出された内容の正確性、丁寧さを評価する。なお、提出遅れ、未提出は評価の対象外とする。 ※定期試験：範囲は授業時間中に提示する。 ※平常点：受講態度、予習の状況、プレゼンテーション等の状況の評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物	○	○	○	○
	定期試験	○	○		
	平常点			○	○
評価割合	提出物50%、定期試験30%、平常点20%とし、総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	「七訂食品成分表」 女子栄養大出版部 「調理のためのベーシックデータ第5版」 女子栄養大出版部 「日本人の食事摂取基準[2015年版]」 第一出版				
参考図書	適宜紹介する				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。				
オフィスアワー	火曜日5限 (1B05研究室)				
学生へのメッセージ	1) 受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組む、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。 2) 電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生は班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。			
情報リテラシー教育	○	発表会用のプレゼンテーション資料を作成する。			
ICT活用	○	発表会用の資料をパワーポイントで作成し、映写して発表する。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

授業概要(教育目的)

食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農業、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食の安全・安心とは何かを食品衛生と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、食品衛生行政および関連法規、食品の表示	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。	教科書第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。	180分
第2回	食品の変質と防止方法(変質、保存方法、包装容器)	食品の変質はどのようにして起きるのか、またその防止方法について理解をする。	教科書第3章「食品の変質/油脂の酸敗、食品の変質の防止法、鮮度、腐敗、酸敗の判定法」32～54ページを読んでおくこと。	180分
第3回	食品と微生物(微生物の種類)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質/微生物」25～31ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので良く復習をして理解すること。	120分

第4回	食品と微生物（微生物の嗜性質）	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質／微生物」32～41ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので前回の講義内容と合わせて復習をして理解すること。	180分
第5回	食中毒の定義	食中毒とは何か、定義や発生状況等を理解する。	教科書第4章「食中毒／食中毒とは、食中毒の発生状況」57～65ページを読んでおくこと。食中毒は食品衛生の中心となるので良く復習をして理解すること。	120分
第6回	食中毒（細菌性1）	食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第7回	食中毒（細菌性2）	食中毒のうちで細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第8回	食中毒（細菌性3、ウイルス性）	食中毒のうちで細菌性の食中毒およびウイルス性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページおよび「食中毒／ウイルス性食中毒」90～95ページを読んでおくこと。細菌別やウイルスの食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	120分
第9回	食中毒（寄生虫・自然毒・化学毒・食物アレルギー）	食中毒のうち微生物によって起こる以外食中毒で、寄生虫、動物性・植物性の食中毒、化学毒、食物アレルギーなどについて理解する。	教科書第4章「食中毒／寄生虫による食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、食物アレルギー」96～116ページを読んでおくこと。また、全体的に食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第10回	寄生虫と感染症	前回の続き寄生虫症と食品から感染する感染症について理解する。	教科書第5章「食品による感染症と寄生虫症」117～148ページを読んでおくこと。	120分
第11回	食品汚染物質	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化（食品加工）によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。	180分
第12回	食品添加物	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	180分
第13回	食品添加物	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	180分
第14回	食品衛生管理と包装容器	食品衛生管理法として HACCPやISOを理解する。併せて洗剤や包装容器についても理解する。	教科書第8章「食品衛生管理」209～238ページおよび第9章「食品用器具および包装容器」239～245ページを読んでおくこと。	180分
第15回	食品の安全性の問題とまとめ	食の安全、残留農薬や遺伝子組換え、放射線処理などの問題を理解する。また全体を通したまとめを行う。	教科書第10章「食品の安全性問題」247～263ページを読んでおくこと。食品衛生の全体を良く理解できるように復習すること。	480分

学習計画注記	講義内容の進行状況によりシラバスが前後する場合がある。
学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 (90%) 授業への参加態度などの平常点 (10%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版 有蘭幸司 (編集) 南江堂 2018				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品衛生に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での、食品衛生の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考・判断】食品衛生に関する正確な情報を収集し、論理的・批判的に思考することで食の安全・安心に関する取り組みに対処できる能力を身につける。				
オフィスアワー	月曜日3時限 1401研究室				
学生へのメッセージ	食品衛生は、食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示、食中毒など様々なものを学んでください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生を実学的・実践的に教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎栄養学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養と健康および疾病との係わり、栄養と食生活の関係、栄養学の歴史的背景から栄養の定義について学ぶ。また、栄養素の生体内ではたらきについて、体構成成分としての分布、エネルギー源としての役割、栄養素の体内相互変換について体系的に学ぶ。さらに、栄養素の消化・吸収の基本的概念や生活活動やリズムに伴う摂食行動の変化を学び、個体の栄養状態に適合した栄養管理を行うための理論を得る。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素（炭水化物、たんぱく質）の生体内ではたらきについて説明できる。 2. 栄養素等の消化・吸収と排泄のメカニズムについて説明できる。 3. 摂食行動の仕組みとその調節について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養の定義、栄養と健康・疾患	栄養の概念および栄養と健康・疾患との関わりから、栄養の意義を理解する。欠乏と過剰を起源とした栄養学の歴史について学ぶ。	教科書第1章の「栄養の定義」「栄養と健康・疾患」(14~19ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	遺伝形質と栄養の相互作用	遺伝形質と栄養の相互作用について学び、生活習慣病と遺伝子多型の関連について理解する。特に、儉約(節約)遺伝子の種類と役割を知る。	教科書第1章の「遺伝形質と栄養の相互作用」(20~25ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	食物の摂取(空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング)	空腹時、満腹時における生理的な条件変化(自律神経系、内分泌系など)に伴う摂食行動の調節機構を理解する。また、摂食行動における概日リズムの重要性を知る。	教科書第2章の「満腹感・空腹感と食欲」「摂食量の調節」「食事のリズムとタイミング」(28~36ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態	栄養素の消化と吸収の意義と機構について、消化器系の構造と機能の観点から理解する。	教科書第3章の「消化器系の構造と機能」「消化・吸収と栄	120分

	(消化器系の構造と機能)		養」(39~44ページ)を読んでおくこと。	
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態(消化過程の概要、管腔内消化の調節)	物理的消化、化学的消化、生物学的消化の概念を理解する。特に化学的消化に係る消化酵素の種類やはたらきに関する基本的事項を学び、ホルモンによる分泌調節の仕組みを理解する。	教科書第3章の「消化過程(分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物)の概要」「管腔内消化の調節」(44~51ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、1~4回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第6回	消化・吸収と栄養素の体内動態(膜消化・吸収)	吸収の機序(受動輸送、能動輸送)の基本的概念を理解する。さらに、水溶性栄養素と脂溶性栄養素の体内動態について学ぶ。	教科書第3章の「膜消化・吸収」(52~55ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回	栄養素別の消化・吸収(炭水化物、たんぱく質)	炭水化物とたんぱく質の消化・吸収の機序を学ぶ。特に、それぞれの栄養素の消化に係る酵素と、吸収に係る輸送体(トランスポーター)の種類と役割について理解する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収(炭水化物、たんぱく質)」(56~59ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	栄養素別の消化・吸収(脂質、ビタミン、ミネラル)	脂質、ビタミン、ミネラルの消化・吸収の機序を学ぶ。特に、生理的条件におけるミネラルの吸収性の違いについても把握する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収(脂質、ビタミン、ミネラル)」(59~64ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	栄養素の体内動態、生物学的利用度	消化吸収率の測定法および算定法を理解する。	教科書第3章の「栄養素の体内動態」「生物学的利用度(生物学的有効性)」(64~66ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、5~8回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第10回	炭水化物の栄養(糖質の体内代謝)	炭水化物の各臓器における役割と動態を理解する。特に、脳のエネルギー源としてのグルコースの役割を知り、血糖の一定に保つことの重要性を理解する。	教科書第4章の「糖質の体内代謝」(75~78ページ)を読んでおくこと。	120分
第11回	炭水化物の栄養(血糖とその調節、エネルギー源としての作用)	血糖値調節ホルモンの種類と役割を学ぶ。グリコーゲンの体内分布、その分解と合成の過程をエネルギー代謝との関係で把握する。	教科書第4章の「エネルギー源としての作用」「血糖とその調節」(70~74ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	炭水化物の栄養(他の栄養素との関係、食物繊維・難消化性糖質)	炭水化物の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。食物繊維・難消化性糖質の定義、種類、分類、それぞれの主な生理作用を理解する。	教科書第4章の「他の栄養素との関係」「食物繊維」(78~84ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、9~11回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第13回	たんぱく質の栄養(たんぱく質の合成と分解、たんぱく質・アミノ酸の体内代謝)	たんぱく質・アミノ酸の代謝について、食後、食間期の違いを把握する。生体内におけるたんぱく質の合成と分解の仕組みについて理解する。	教科書第6章の「たんぱく質の合成と分解」「たんぱく質・アミノ酸の体内代謝」(109~112ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	たんぱく質の栄養(アミノ酸の臓器間輸送)	たんぱく質・アミノ酸の臓器間輸送と臓器における機能の特徴(代謝の臓器差)について理解する。	教科書第6章の「たんぱく質・アミノ酸の体内代謝」「アミノ酸の臓器間輸送」(113~115ページ)を読んでおくこと。	120分
第15回	たんぱく質の栄養(摂取するたんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係)	食事たんぱく質の栄養評価法(生物学的評価法、化学的評価法)について、その基本的概念を理解する。たんぱく質の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。	教科書第6章の「摂取するたんぱく質の量と質の評価」「他の栄養素との関係」(115~121ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、12~14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習240分 復習420分

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室(emailも可)まで訪問すること。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 (80%)、小テスト (20%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学改訂第3版 (羊土社) (ISBN 978-4-7581-1350-2)			
参考図書	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート 改訂第3版 (羊土社) (ISBN 978-4-7581-1351-9)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p>			
オフィスアワー	木曜日1限目			
学生へのメッセージ	我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎栄養学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	ヒトの健康維持・増進には、栄養素やエネルギー量の摂取バランスが重要である。本授業では、栄養素（脂質、ビタミン、ミネラル）が人体の機能維持・増進に果たす役割とその過不足がもたらす欠乏症と過剰症について解説する。次に、栄養素ではないが、ヒトの生命維持に必須となる水の栄養学意義を理解し、1日当たりの水の出入を把握する。最後には、エネルギー代謝の概念とエネルギー消費量の測定法について解説する。
履修条件	基礎栄養学Ⅰを履修していること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素（脂質、ビタミン、ミネラル）の生体内分布とはたらきについて説明できる。 2. 水、電解質の生体内分布とはたらきについて説明できる。 3. エネルギー代謝の概要、エネルギーの摂取不足および過剰が生体に及ぼす影響を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義（重要性）を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	脂質の栄養(脂質の体内代謝)	食後・食間期の脂質の代謝を学ぶ。また、細胞内で脂肪酸からエネルギーが生成されるまでの流れを理解する。	教科書第5章の「脂質の体内代謝」(97～99ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	脂質の栄養(脂質の臓器間輸送)	脂質の臓器間輸送におけるリポたんぱく質の役割を理解する。絶食時の脂肪組織におけるホルモン感受性リパーゼの作用を理解する。	教科書第5章の「脂質の臓器間輸送」(95～97ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	脂質の栄養(貯蔵エネルギーとしての作用、コレステロール代謝の調節)	白色脂肪細胞と褐色脂肪細胞の特徴と役割を学ぶ。また、コレステロールの生合成とフィードバック阻害による調節機構を理解する。	教科書第5章の「貯蔵エネルギーとしての作用」「脂質の種類とはたらき(コレステロール)」(93～95ページ、99～100ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	脂質の栄養(摂取する)	脂肪酸由来の生理活性物質(エイコサノイド)の種類と役割を理解する。	教科書第5章の「摂取する脂質の量と質の評価」「脂肪酸由来	120分

	脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係		の生理活性物質」「他の栄養素との関係」(100~102ページ)を読んでおくこと。	
第5回	ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能:脂溶性ビタミン)	脂溶性ビタミンの種類と機能を理解する。また、脂溶性ビタミンの摂取過多による過剰症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」(123~127ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、1~4回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第6回	ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能:水溶性ビタミン)	水溶性ビタミンの種類と機能を理解する。また、水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」(127~133ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回	ビタミンの栄養(ビタミンの栄養学的機能、ビタミンの生物学的利用度、他の栄養素との関係)	ホルモン様作用、補酵素、抗酸化作用、血液凝固、造血作用、一炭素単位代謝に係る各種ビタミンについて理解する。水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄、腸内細菌によるある種のビタミンの産生、ビタミンB12吸収機構の特殊性を理解する。	教科書第7章の「ビタミンの栄養学的機能」「ビタミンの生物学的利用度」「他の栄養素との関係」(133~138ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	ミネラルの栄養(ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織におけるはたらき)	多量ミネラルと微量ミネラルの分類を学び、体内における分布とその意義を理解する。硬組織(骨、歯)におけるカルシウム、リン、マグネシウムの役割を理解する。	教科書第8章の「ミネラルの分類と栄養学的機能」「硬組織におけるはたらき」(141~143ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	ミネラルの栄養(生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用)	血圧調節に係るアンジオテンシン、アルドステロンとナトリウムの仕組みを理解する。活性酸素消去酵素、呼吸酵素に係るミネラルを把握する。	教科書第8章の「生体機能の調節機構」「酵素反応の賦活作用」(144~147ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、5~8回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第10回	ミネラルの栄養(鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度)	ヘム鉄と非ヘム鉄、機能鉄と貯蔵鉄の関係を理解する。カルシウム、鉄の消化吸収率と変動要因について理解する。	教科書第8章の「鉄代謝と栄養」「ミネラルの生物学的利用度」(147~150ページ)を読んでおくこと。	120分
第11回	水・電解質の栄養的意義(水の出入)	水の供給と排出に係る代謝水、不可避尿、不感蒸泄の実際を理解する。	教科書第9章の「生体内の水」「水の出入」(153~154ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	水・電解質の栄養的意義(脱水、浮腫、電解質代謝と栄養)	脱水の種類と臨床的徴候を理解する。酸塩基平衡における電解質の役割を理解する。高血圧とナトリウム・カリウムの関与を理解する。	教科書第9章の「脱水、浮腫」「電解質代謝と栄養」(156~164ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、9~11回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第13回	エネルギー代謝の概念	物理的燃焼値と生理的燃焼値の違いについて把握する。基礎代謝量の概念と基礎代謝量に影響を及ぼす因子について理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の概念」「エネルギー消費量(基礎代謝量)」(167~170ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝	メッツ(Mets)、身体活動レベル(PAL)の定義を理解する。安静時における臓器別エネルギー代謝量の特徴を理解する。	教科書第10章の「エネルギー消費量」「臓器別エネルギー代謝」(170~174ページ)を読んでおくこと。	120分
第15回	エネルギー代謝の測定法	呼吸ガス分析によるエネルギー代謝量の測定原理、エネルギー基質としての糖質と脂質の燃焼割合の算出法を理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の測定法」(174~179ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、12~14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習240分 復習420分

学生へのフィードバック方法

	実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、評価基準に示す力を養うことを目的に実施している。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○			
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験（80%）、小テスト（20%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第3版 (羊土社) (ISBN 978-4-7581-1350-2)				
参考図書	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート 改訂第3版 (羊土社) (ISBN 978-4-7581-1351-9)				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p>				
学生へのメッセージ	我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	基礎栄養学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養素が生体にとってどのような吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法を通して理解する。また、摂取する栄養素の量と質によって生体濃度が変化するがその測定について習得する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の消化についてその概要が説明できる。血液の生化学的検査手法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実験の予定と諸注意	
第2回	糖質実験(でんぷんの消化 I)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察し反応温度と消化の関係について考察する。
第3回	糖質実験(でんぷんの消化 II)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察し pH と消化の関係について考察する。
第4回	タンパク質実験(タンパク質の消化 I)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第5回	タンパク質実験(タンパク質の消化 II)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第6回	タンパク質実験(タンパク質の消化 III)	消化によって生じた低分子のペプチド、アミノ酸をローリー法で測定し、消化の程度を観察する。
第7回	脂質の消化 (I)	リパーゼによる脂質の人工消化試験を行い、構成する脂肪酸の同定を薄層クロマトグラフィー(TLC)で行う。薄層クロマトグラフィーの原理について理解する。

第8回	脂質の消化 (Ⅱ)	薄層板 (TLC) の溶媒による展開と消化分解産物と標準脂肪酸の同定。			
第9回	クロマトグラフィー (Ⅰ)	クロマトグラフィーの原理と物質の分離について理解する。			
第10回	クロマトグラフィー (Ⅱ)	カラムクロマトグラフィーを用いた添加回収試験により実験の信頼性について理解する。			
第11回	血液成分の分析血漿の遊離脂肪酸、中性脂質測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。			
第12回	血液成分の分析血漿の総コレステロール、遊離コレステロール測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。			
第13回	血液成分の分析血漿のアミノ基転移酵素活性測定	血漿のアミノ基転移酵素活性を測定し、測定の原理と意義について理解する。			
第14回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。			
第15回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。			
学生へのフィードバック方法		レポートの提出により、栄養成分の消化について理解が進むようフィードバックする。			
評価方法		レポート； (90%)、小テスト (10%)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レポート	○	○		
	小テスト	○	○		
評価割合		レポート (90%)、小テスト (10%)			
使用教科書名 (ISBN番号)		プリントを配布 新しい生化学・栄養学実験 ISBN4-7827-0450-x c3077			
ディプロマポリシーとの関連		管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。			
オフィスアワー		木 2・3限			
学生へのメッセージ		基礎専門知識を導く元となる実験を通して管理栄養士の基礎力を身につけてほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	食事摂取基準論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	食事摂取基準の概念や、エネルギーおよび各栄養素の基準値設定と その根拠について学ぶ。特に国内外における基礎的研究・疫学的研究などの結果の意義や解釈について十分理解できるようにする。さらに食事摂取基準値と疾病リスクとの関連、また、ライフステージ別の特徴に対して理解を深め、種々の対象者における栄養教育・栄養管理上での活用に関する考え方、個人および集団を対象とした場合の具体的な用い方の知識・技術を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食事摂取基準策定の意義や科学的根拠について説明できる。 栄養素の各指標について科学的根拠に基づき説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、各ライフステージにおける栄養管理に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総論	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第2回	エネルギー1	エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費などについて理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第3回	エネルギー2	エネルギー必要量に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第4回	たんぱく質1	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	
第5回	たんぱく質2	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第6回	脂質1	脂質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第7回	脂質2	脂質（脂肪酸、コレステロール）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第8回	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第9回	脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミンに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第10回	水溶性ビタミン1	水溶性ビタミン（B1, B2, ナイアシン, B6, B12）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第11回	水溶性ビタミン2	水溶性ビタミン（葉酸, パントテン酸, ビオチン, ビタミンC）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第12回	多量ミネラル	多量ミネラルに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第13回	微量ミネラル1	微量ミネラル（鉄, 亜鉛, 銅, マンガン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第14回	微量ミネラル2	微量ミネラル（ヨウ素, セレン, クロム, モリブデン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第15回	まとめ	食事摂取基準論全体のまとめ	事前学習：第1回～第14回を復習しておく。事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。これまでの授業内容を総復習しておく。	600分
第16回	定期試験			

学習計画注記	2019年度中に改訂予定の食事摂取基準2020年版の内容によっては、上記の内容・進度に変更が生じる場合があります。			
学生へのフィードバック方法	毎回講義時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行い、講義内に解説を加える。			
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%	
使用教科書名 (ISBN番号)	日本人の食事摂取基準2020年版 (2019年8月～9月頃改訂版発刊予定のため、履修前の購入時に必ず確認すること)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。	
オフィスアワー	火曜12:30～14:30 1503教室	
学生へのメッセージ	単に栄養素の数値を覚えるのではなく、その背景にある考え方を理解するようにしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の实地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も显示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学 I は応用栄養学の一分野に分類される。ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理についての学習する。この授業ではライフステージ概論にはじまり、妊娠期（児の側からみれば胎児期）、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期にいたる成長期における各段階の栄養と母性栄養学を包括的に学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	母性栄養と成長期の特徴及び栄養の重要性を理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	ライフステージについて説明することができ、栄養学的な視点から考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ライフステージ別栄養学の概要	ライフステージやライフサイクルの概念、小児期の分類、ヒトのライフステージと食生活、成長発達に伴う変化生涯にわたる健康のためのアプローチについて理解する。	教科書の第3章、A、B(55-65ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	栄養アセスメント	栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈、問診、食事調査法について理解する。	教科書の第1章A-D(1-10ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	妊娠・産褥期の生理	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥について理解する。	教科書の第4章A(69-73ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	妊娠・分娩・産褥期の栄養アセスメントと病態生理	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。	教科書の第4章C-E(74-84ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	授乳期			120分

		乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。	教科書の第4章授乳期A-D (85-109ページ) を読んでおくこと。	
第6回	正常新生児と乳児	新生児の分類、胎児循環、褐色脂肪細胞、新生児の診察と原始反射、新生児期から乳児期の身体発育の原則、授乳や離乳食が順調か否かの判断法について理解する。	教科書の第5章A, B (111-123ページ) を読んでおくこと。	120分
第7回	未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題	未熟性に起因した疾患や問題点、新生児黄疸、先天性胆道閉鎖症、ビタミンK欠乏性出血症、呼吸窮迫症候群、低血糖、貧血、消化管アレルギー、くる病、絵師成長円などについて理解する。	教科書の第5章C (123-129ページ) を読んでおくこと。	120分
第8回	栄養補給法母乳と人工乳の違い	母乳と人工乳の違い、母乳育児を進めるためのポイント、育児用ミルクの種類と特徴について理解する。	教科書の第5章D (130-139ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	乳児期の栄養と離乳食	離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、手づかみ食べの重要性、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準について理解する。	教科書の第5章のD-F (139-142ページ) を読んでおくこと。	120分
第10回	先天性代謝異常と特殊ミルク	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。	この部分は教科書には記載されていないが、国家試験問題としては頻出する。学習内容に記載されたキーワードを参考にして、書籍やインターネットで予習しておくこと。	240分
第11回	幼児期の成長と栄養アセスメント	スカモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、骨年齢、歯牙の生える順番、幼児期における各臓器の発育発達の特徴、間食の量や与え方について理解する。	教科書の第6章A-C (145-154ページ) を読んでおくこと。	120分
第12回	幼児期の病態と栄養ケア	幼児期のやせと栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症、食物アレルギー、食を通じた幼児の健全育成について理解する。	教科書の第6章のD-F (154-169ページ) を読んでおくこと。	120分
第13回	学童期の成長障害と栄養アセスメント	思春期のホルモン分泌、成熟度の評価法、小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。	教科書の第7章A-D (171-184ページ) を読んでおくこと	120分
第14回	思春期の病態と栄養ケア	思春期に頻度が上昇する、糖尿病、やせ、貧血、女性アスリートの三主徴や、逸脱行為(喫煙、飲酒、性の問題)、生活リズム障害について理解する。	教科書の第7E-F (185-202ページ) を読んでおくこと。	120分
第15回	ライフステージ栄養学(妊婦、胎児、新生児、乳幼児、学童期、思春期)のまとめ	第1回から14回の講義で、特に栄養学的に重要な部分を確認し、理解や知識を確かなものとする。	第1回から14回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確かな部分は、その部分の教科書も再度読んでおくこと。	240分

学習計画注記	授業の進行度合いによって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業ごとに配布するプリントに沿って講義を行います。 パワーポイントも併用します。 授業中は、皆さんの理解の程度を確認するため、質問をします。 質問には積極的に答えてください。
評価方法	定期試験の成績で100%評価します。 受講態度が著しく悪く他の受講生に迷惑をかけている場合には、程度に応じて定期試験の点数から減点します。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験の成績で100%評価します。 15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。
使用教科書名 (ISBN番号)	応用栄養学：改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/

参考図書	特になし	
オフィスアワー	火曜日、3限目	
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験の「応用栄養学」に相当する専門科目であるので、確実に身に着けましょう。 胎児期や成長期の適切な栄養は、成人後の健康に直結する非常に大切な要因です。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、現役の小児科医であり、小児栄養消化器肝臓病学会の専門医/指導医である。従って、ライフステージ栄養学の胎児期から思春期までの領域に関して実臨床に即した講義を行うことができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育総論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要 (教育目的)

栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について理解する。そのために、教育的な手段を用いて、人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すために、適切な栄養教育マネジメントについて、アセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解した栄養教育実施者となるための心構えを含めた講義を行う。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養教育の目的・目標及び対象者について理解し説明できる。 2. 栄養教育マネジメントの流れについて理解し説明できる。 3. 栄養教育関連法規について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 栄養教育の目的・目標について自ら考え、判断し、説明できる。 2. 栄養教育マネジメントの流れについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループワークで授業の最後にディスカッションを行ってもらおう。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	栄養教育の目的・目標	栄養教育の目的についてWHOの健康の定義やヘルスプロモーションも含めた歴史的観点から学び、栄養教育の最終目標について理解する。	教科書、第1章の「栄養教育の概念」のA栄養教育の目的・目標を読んでおくこと。	180分
第2回	栄養教育・栄養指導の歴史	栄養教育の歴史について学ぶ。教科書に乗っていない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の歴史について理解する。	教科書、第1章の「栄養教育の概念」のColumn 栄養教育・栄養指導の歴史を読んでおくこと。	180分
第3回	栄養教育の対象と機会	栄養教育のライフステージ別の対象者と、その対象者へのライフスタイル別の栄養教育の場面や場所について学び、理解する。	教科書、第1章の「栄養教育の概念」のB栄養教育の対象と機会を読んでおくこと。	180分
第4回	栄養教育の法的根拠	栄養教育の概念を理解したうえで対象者へ栄養教育を実施するための、栄養教育関連法規について学び、理解する。	教科書の参考資料における関連法規を全て読んでおくこと。	180分
第5回	栄養教育と	栄養教育における行動科学の知識と、食行動変容の機序	教科書、第2章の「栄養教育の	180分

	行動科学	について学び、理解する。	ための理論的基礎」のA栄養教育と行動科学を読んでおくこと。	
第6回	栄養教育と食環境づくりとの関連	対象者を支援する環境（食環境）の改善について、食環境の定義から、食物へのアクセスおよび情報へのアクセスにおける食環境整備についてまで学び、理解する。	教科書、第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のF食環境づくりとの関連を読んでおくこと。	180分
第7回	日本人の長寿を支える「健康な食事」	日本人の長寿を支える「健康な食事」について学ぶ。教科書に乗っていない追加情報については配布プリントで学び、理解する。	教科書、第2章のColumn 日本人の長寿を支える「健康な食事」を読んでおくこと。	180分
第8回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、そのアセスメントを中心的に学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のA健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメントを読んでおくこと。	180分
第9回	栄養教育マネジメント：目標設定	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その目標設定を学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のB栄養教育の目標設定を読んでおくこと。	180分
第10回	栄養教育マネジメント：計画立案	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のC栄養教育計画立案のa～dまでを読んでおくこと。	180分
第11回	栄養教育マネジメント：教材の選択と作成	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時に使用する主な媒体と教材について学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のC栄養教育計画立案のe教材の選択と作成を読んでおくこと。	180分
第12回	栄養教育マネジメント：学習形態の選択	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時の学習形態について学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のC栄養教育計画立案のf学習形態の選択を読んでおくこと。	180分
第13回	栄養教育マネジメント：栄養教育プログラムの実施	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施について学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のD栄養教育プログラムの実施を読んでおくこと。	180分
第14回	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価について学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のE栄養教育評価及びColumnの評価デザインを読んでおくこと。	180分
第15回	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルについて学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育マネジメント」のF栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルを読んでおくこと。	180分

学習計画注記 講義の進み具合及び学生の理解度によってスケジュールは変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 毎回講義の理解度について講義の最後に小レポートを提出させるので理解度を評価し、翌週学生全体に講義内でフィードバックする。
必要があるレポート類は学生本人に返却することでフィードバックする。

評価方法

- ・小テストは全15回の授業中、3回程度実施する。小テストは記述形式のテストとする。また栄養教育関連法規に関しては穴埋め形式で中間テストとして実施する。小テストも中間テストも再試験は行わないので注意すること。
- ・定期試験は○×形式、および穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントが全範囲が出題範囲となる。また栄養教育についての知識・理解・思考判断を問う問題として自由記述形式の設問も出題する。
- ・授業の最後の小レポートはグループワークで討論を行うことがある。その結果をレポートとして記述形式で提出してもらう。
- ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
- ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		
グループワーク	○	○	○	

評価割合	定期試験70%、小テスト・レポート10%、平常点20%（平常点は授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する）			
使用教科書名 (ISBN番号)	サクセス管理栄養士講座 栄養教育論 池田小夜子・斎藤トシ子・川野因 第一出版 (978-4-8041-1390-6)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。</p>			
オフィスアワー	月曜日3時間目 1605研究室			
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について学びます。その為に、教育的な手段を用いて人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すための栄養教育マネジメントまで総合的に学ぶことになります。本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやレポート作成を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。		
情報リテラシー教育	○	レポート作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要(教育目的)

本講義では栄養教育方法における行動科学理論について学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2. 栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3. 行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2. 栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3. 行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養教育と行動科学	栄養教育のために理論的基礎における行動科学の定義について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のA栄養教育と行動科学を読んでおくこと。	180分
第2回	行動科学の理論とモデル	行動科学の理論における刺激-反応理論について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の刺激反応理論を読んでおくこと。	180分
第3回	ヘルス・ビリーフ・モデル	行動科学の理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のヘルス・ビリーフ・モデル及び、教科書2. のヘルス・ビリーフ・モデルを読んでおくこと。	180分
第4回	トランスセオレティカ	行動科学の理論におけるトランスセオレティカルモデルについて学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のトランス	180分

	ルモデル		セオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んでおくこと。	
第5回	トランスセオレティカルモデル(グループワーク)	行動科学の理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し理解を深める。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のトランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。	180分
第6回	計画的行動理論	行動科学の理論における計画的行動理論について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の計画的行動理論及び、教科書2.の計画的行動理論を読んでおくこと。	180分
第7回	社会的認知理論	行動科学の理論における社会的認知理論について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の社会的認知理論及び、教科書2.の自己効力感を読んでおくこと。	180分
第8回	ソーシャルサポート	行動科学の理論におけるソーシャルサポートについて学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」のソーシャルサポート及び、教科書2.のソーシャルサポートを読んでおくこと。	180分
第9回	行動カウンセリング	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらいレポートを作成する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の栄養カウンセリングを読んでおくこと。また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。	180分
第10回	ストレスとコーピング	行動科学の理論におけるストレスとコーピングについて学び、理解する。	教科書2.のストレスとコーピングを読んでおくこと。	180分
第11回	教育プログラムの作成	教育プログラムの作成について実際に作成することで、理解を深める。	教科書1. 第3章の「栄養教育マネジメント」栄養教育計画立案を読んでおくこと。	180分
第12回	行動変容技法と概念①	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第13回	行動変容技法と概念②	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第14回	行動変容技法と概念③	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第15回	組織・地域づくりにおける行動変容技法	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第2章の「栄養教育のための理論的基礎」の組織づくり・地域づくりへの展開を読んでおくこと。	180分

学習計画注記 講義の進み具合及び学生の理解度によってスケジュールは変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 毎回講義の理解度について講義の最後に小レポートを提出させるので理解度を評価し、授業内で全学生にフィードバックを行う。

評価方法

- ・小テストは全15回の授業中、4回程度実施する。小テストは〇×形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・課題レポートを2回実施する。
- ・定期試験は〇×形式、および穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントが全範囲が出題範囲となる。また栄養教育についての知識・理解・思考判断を問う問題として自由記述形式の設問も出題する。
- ・授業の最後の小レポートはグループワークで討論を行うことがある。その結果をレポートとして記述形式で提出してもらう。さらに授業の中でグループワークを数回実施する。
- ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
- ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

小テスト	○		
レポート	○	○	
グループワーク	○	○	○
定期試験	○	○	

評価割合	定期試験60%、小テスト・レポート20%、平常点20%（平常点は授業への参加状況や討論状況・発表等で総合的に判断する）
使用教科書名 (ISBN番号)	1. サクセス管理栄養士講座 栄養教育論 池田小夜子・斎藤トシ子・川野因 第一出版 (9784804113906) 2. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社 (9784263233375)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
オフィスアワー	月曜日3時間目 1605研究室
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的について学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶこととなります。 本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	臨床栄養学基礎		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齊藤 恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学基礎では、臨床病態栄養学（病理学）で学んだ総論的知識を臓器系列の疾患ごとに整理し、各疾患の病態・症状・診断・治療を網羅的に学ぶ。
履修条件	臨床病態栄養学（または病理学）を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とかかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養・代謝系疾患	栄養障害(PEM, カヘキシー, マラスムス, クワシオルコル), ビタミン異常症, ミネラル異常症等の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ栄養障害について確認しておく。教科書の該当部分(第1章p29-38)を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	糖尿病	糖尿病の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ糖尿病について確認しておく。教科書の該当部分(第1章p15-19)を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	脂質異常症, 高尿酸血症	脂質異常症, 高尿酸血症の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ脂質異常症・高尿酸血症について確認しておく。教科書の該当部分(第1章p20-22, 26-28)を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第4回	内分泌系疾患	内分泌（ホルモン）系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ内分泌について確認しておく。教科書の該当部分（第2章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第5回	消化器系疾患1	消化器系疾患（口腔，食道，胃十二指腸，大腸）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について確認しておく。教科書の該当部分（第3章p54-59）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系疾患2，周術期，緩和ケア	消化器系疾患の診断・治療を学ぶ。周術期，緩和ケアについて，病態や治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について確認しておく。教科書の該当部分（第3章p60-67，第13章，第14章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	肝胆膵疾患	肝胆膵系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ肝胆膵系について確認しておく。教科書の該当部分（第4章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系疾患	循環器系疾患（肺塞栓症含む）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ循環器系について確認しておく。教科書の該当部分（第5章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系疾患1	腎臓系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系について確認しておく。教科書の該当部分（第6章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系疾患2，尿路系疾患	腎臓系疾患，尿路系，生殖器系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・尿路系等について確認しておく。教科書の該当部分（第6章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	呼吸器系疾患，血液系疾患	呼吸器系疾患，血液系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ呼吸器系・血液系について確認しておく。教科書の該当部分（第8章，第9章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	免疫・アレルギー系疾患，感染症	免疫系，アレルギー系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ免疫・アレルギー系について確認しておく。教科書の該当部分（第11章，第12章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	小児の疾患，妊婦の疾患	小児や妊婦特有の疾患（消化不良症，周期性嘔吐症，腎疾患，1型糖尿病，先天代謝異常症，妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠など）について，病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：教科書の該当部分（第18章，第19章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	脳血管疾患，神経・精神疾患，障害者	脳血管疾患，神経系疾患等の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ脳血管疾患・神経系について確認しておく。教科書の該当部分（第5章93-95，第7章，第17章）を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第15回	運動器系疾患，外傷，	運動器系，皮膚系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ運動器系について確認しておく。	600分

	熱傷, クリ ティカルケ ア		教科書の該当部分(第10章161-166, 第15章)を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。 これまでの授業内容を総復習しておく。
第16回	定期試験		
学習計画注記		履修者の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。	
学生へのフィードバック方法		毎回講義時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行い、講義内に解説を加える。	
評価方法		定期試験(筆記試験)で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。	
評価基準			
評価基準			
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)
	定期試験	○	○
評価割合		定期試験100%	
使用教科書名 (ISBN番号)		栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版 羊土社	
参考図書		栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版 羊土社, 病気がみえるシリーズ MEDIC MEDIA, イメージするからだのしくみシリーズ MEDIC MEDIA	
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。	
オフィスアワー		火曜12:30~14:30 1503教室	
学生へのメッセージ		3年次で学修する臨床栄養学応用や臨床栄養ケアマネジメントにつながるだけでなく、ライフステージ別栄養学など他の科目とも有機的に繋がっていますので、関連づけて学修するようにしてください。	
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の現地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。	
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	公衆栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

授業概要(教育目的)	住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題、あるいはニーズを把握する。
思考・判断の観点 (K)	上記を取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするといった、思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について積極的にかかわり改善意欲を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 公衆栄養の概念、公衆栄養活動の意義	わが国の法律の仕組みと健康づくりに関する法令とその役割を知る。 公衆栄養学と管理栄養士の役割を理解する。	栄養士法、健康増進法、地域保健法 母子保健法、高齢者の医療の確保に関する法律、食品衛生法、介護保険法、食品安全基本法、食料・農業・農村基本法、食育基本法、学校給食法について、教科書の巻末の栄養関連法規を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第2回	2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題	わが国の人口構造の変化、超高齢社会、健康・栄養問題と健康状態の変化について理解する。	教科書により、わが国の人口構造と、それに伴う健康・栄養問題の現状と課題を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第3回				180分

	3. 国民健康・栄養調査の沿革	わが国の国民健康・栄養調査の沿革と基本的な考え方を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「栄養調査 情報のひろば」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	
第4回	4. 国民健康・栄養調査の方法	わが国の国民健康・栄養調査の目的・方法を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第5回	5. 食事の変化	栄養調査に基づく、エネルギー摂取量、栄養素摂取量、食品群別摂取量と料理・食事パターンの面から経時的変化と現状について理解する。	教科書により栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第6回	6. 食生活の変化	食生活とそれを支える食環境との関連を食物へのアクセスと食情報へのアクセスを理解する。	教科書により、食生活の変化について食行動・食知識・食スキルの変化について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第7回	7. 食環境の変化	食品生産・流通面、食情報面の両面から食環境を理解する。	教科書により、食料需給表と食料自給率について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第8回	8. 地域における健康危機管理の在り方	災害時の栄養・食生活支援活動について、理解する。	教科書により、健康・食生活の危機管理を読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにより、「災害時の健康・栄養について」と日本栄養士会HPより、「災害時の栄養・食生活支援マニュアル」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第9回	9. 栄養施策に関する指針	食生活指針改定の趣旨、国民の食生活の現状と課題と食生活指針の構成と各項目について理解する。	教科書により、食生活指針について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第10回	10. 栄養施策に関する指針やツール	健康・栄養食生活改善のための指針やツールを理解する。	教科書により、他ツール運動指針、食事バランスガイド、食育ガイド及び健康な食事について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第11回	11. 健康日本21の背景と目標設定	わが国の健康づくり対策の沿革と健康日本21の背景と目的を理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第12回	12. 健康日本21第2次について	“国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針と同計画の第2次の目標について理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第13回	13. 諸外国における健康・栄養問題	諸外国の健康・栄養状態、栄養素摂取の概況について理解する。	教科書により、国際的に健康状態や栄養状態を比較するとき用いられる指標や国際機関による健康・栄養・食料政策について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第14回	14. 地域特性に対応したプログラムの展開	地域における公衆栄養活動を理解する。	教科書により、地域栄養ケアのための関係団体と食生活改善推進員連絡協議会について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第15回				180分

15. 管理栄養士業務における実践力の強化に向けて	社会に貢献する管理栄養士の業務を地域の特性に対応した制度を理解する。	教科書により、在宅医療、介護予防の制度について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。			
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。1回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、3問とする。 ・ 定期試験は100点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		
	リアクションペーパー		○	○	
	定期テスト	○	○		
評価割合	平常点は授業へのリアクションペーパー等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	公衆栄養学, 古野純典他編, 南江堂, 2018				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解する。</p> <p>【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。”</p>				
オフィスアワー	火曜日：10：45～12：00、15:00～17：30、金曜日10：00～12：00				
学生へのメッセージ	心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献することを念頭としながら「問題は何か、解決するためにどうするのか」という取組意欲をもつ受講を期待します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。			
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパー			
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書			
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	給食経営管理論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論を学ぶ。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解する。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について学ぶ。
評価割合	定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する)
使用教科書名(ISBN番号)	給食経営管理論/三好恵子、山部秀子、平澤マキ/第一出版
学生へのメッセージ	この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。2年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	給食経営管理実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)

給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のサブシステム全般を学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、対象者のニーズに応じ、栄養給与目標に見合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HACCPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報)を実践する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	給与栄養目標量、喫食者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実習ガイダンス、給食の理念と計画	実習の流れとスケジュールを確認する。班と役割り、クラスコンセプトを決定する。モデル献立を確認する。グループワークにて選択献立(主菜B)を検討・決定し、期間献立表を作成し提出する。	考案する献立(主菜B)を自宅で作成し、調整内容を確認する。	120分
第2回	給食経営計画、栄養・食事計画、栄養教育計画	給食における、経営計画、栄養・食事計画、栄養教育計画について学ぶ。グループワークにて、選択献立(主菜B)献立表、期間献立表、経営計画表、栄養教育計画表を作成し提出する。	各々担当する運営献立(モデル献立含む)を献立通りに自宅で作成し、具体的なレシピを検討する。	120分
第3回	施設・設備管理、衛生安全管理、食材・発注管理	調理室の構造と設備、厨房機器および衛生安全管理について学び確認する。食材・発注管理に必要な作業を学ぶ。グループワークにて食材日計表、発注書、レシピを作成し提出する。		
第4回	試作準備	試作の流れとスケジュールを確認する。試作献立、日計表、発注書、レシピの最終確認をする。グループワークにて試作時に必要な帳票類を作成し提出する。栄養教育媒体を作成する。		

第5回	試作実習	グループワークにより運営献立の試作を実施する。試作後選択献立（主菜B）を評価し、修正点を調整する。試作時に使用した帳票を記入し提出する。	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。	60分
第6回	生産管理、試運転準備	生産管理と必要な帳票について学ぶ。試運転の献立と流れを確認する。グループワークにて運営献立表・日計表・発注書、その他帳票類を作成し提出する。作業指示書、作業工程表を作成する。		
第7回	試運転実習	大量調理の試運転を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ（動線、汚染区域・非汚染区域）、大量調理機器の使用法、衛生管理等の確認を行う。試運転終了後グループワークにて各班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書・工程表の見直しを行う。	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。	60分
第8回	運営準備	グループワークにて運営に必要な全ての帳票を見直し完成させる。献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体 他帳票類を提出する。	運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配付し、当日の役割を説明しておく。	60分
第9回	運営実習1	運営班1班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。 運営班は運営後の帳票類を完成させ提出する。	120分
第10回	運営実習2	運営班2班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。 運営班は運営後の帳票類を完成させ提出する。	120分
第11回	運営実習3	運営班3班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。 運営班は運営後の帳票類を完成させ提出する。	120分
第12回	運営実習4	運営班4班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。 運営班は運営後の帳票類を完成させ提出する。	120分
第13回	運営実習5	運営班5班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。 運営班は運営後の帳票類を完成させ提出する。	120分
第14回	運営のまとめ	実習の帳票類・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。総合評価会の準備を行う。グループワークにて、帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。		
第15回	総合評価会	プレゼンテーション形式にて、5回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。		

学習計画注記	※			
学生へのフィードバック方法	班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次回の授業までに添削、コメントして返却する。			
評価方法	実習点と試験で総合的に評価する。 ・実習点（実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物） ・筆記試験			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合	実習点80%、筆記試験20%で評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00	
学生へのメッセージ	給食経営管理実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。給食経営管理理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPDCAサイクルを実感しましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 吉野 知子	指定なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	総合演習 I (2年)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし
講師	吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)

臨地実習前の事前指導と各班の実習テーマに関する事前準備を行う。具体的には各々の実習の目的や目標の理解、実習施設の概略の周知と動機付け、知識の整理、研究課題の検討等を行う。さらに病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、保育所、保健所等実習先の指導者から講義を受け、実習にあたっての心構え、社会における管理栄養士の使命および役割や業務について理解する。

履修条件

給食運営臨地実習、臨床栄養 I 臨地実習、公衆栄養臨地実習または臨床栄養 II 臨地実習へのいずれの履修条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	「課題発見(気づき)と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に対する心構えや取り組む姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。
技術・表現の観点 (A)	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総合ガイダンス(2年次実施)	臨地実習(給食運営・公衆栄養・臨床栄養 I II)の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。	特になし	
第2回	全体ガイダンス	臨地実習に向けて3分野合同講義 今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する(公衆栄養、臨床栄養 I II、給食運	「学外実習の手引き」の、総合演習 I の部分を読んでおくこと。	60分

		営)。実習に向けての準備や心構え及び注意事項を学ぶ。		
第3回	公衆栄養ガイダンス①	公衆栄養臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する	「学外実習の手引き」の、公衆栄養臨地実習の分野を読んでおくこと。	60分
第4回	外部講師講演(介護保険施設)	介護老人福祉施設の管理栄養士による「介護保険施設における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	介護保険施設の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第5回	公衆栄養ガイダンス②	公衆栄養臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第6回	外部講師講演(事業所)	コントラクトフードサービスの管理栄養士による「事業所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	事業所の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第7回	外部講師講演(保健所・保健センター)	保健所・保健センターの管理栄養士による「保健所・保健センターにおける役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保健所・保健センターの管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第8回	外部講師講演(保育所)	保育所の管理栄養士による「保育所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保育所の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第9回	外部講師講演(小学校)	小学校の管理栄養士による「小学校における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	小学校の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第10回	外部講師講演(病院)	病院の管理栄養士による「病院における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	病院の管理栄養士の役割について予習しておくこと。 指定されたレポートを作成すること。	120分
第11回	給食運営ガイダンス①	給食臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第12回	報告会	4年生における給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅡⅡ臨地実習の報告会(プレゼンテーション)に参加する。発表後のディスカッションにより実際の実習のイメージと理解を深める。	事前に配付される要旨集を予習し、当日に質問やディスカッションができるよう準備しておく。	120分
第13回	給食運営ガイダンス②	給食運営臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分
第14回	臨床栄養ガイダンス①	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の臨床栄養臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第15回	臨床栄養ガイダンス②	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習 実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習班ごとに課題について検討し具体的に進めておくこと。	120分

学習計画注記	※外部講師の講演日程については、場合により変更になることがあります。			
学生へのフィードバック方法	レポートは後日返却する。			
評価方法	平常点、レポートから総合的に評価する。 (平常点は、授業態度・意欲、課題への取り組み状況から総合的に判断する)			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点	○	○	○																
レポート	○	○	○	○															
評価割合	平常点50%、レポート50%で評価する。																		
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらをそれらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。</p>																		
オフィスアワー	吉野（火曜日12：30～14：00）、金澤（金曜日1,2時限）、酒井（未定）、田中（未定）、城田（金曜日3,4時限）、加藤（火曜日5時限）																		
学生へのメッセージ	<p>臨地実習実施のための事前授業です。実習の目的を明確にし、心構えや基本事項を学び実習の準備を行います。また臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割と業務について学びます。実習先の特徴や概要を捉え、その中から自ら課題・テーマを見出し主体的に取り組みましょう。</p>																		
教育等の取り組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>実習班単位によるグループワークを実施する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。	アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。																	
アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	江戸・東京の食と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫 仁美	指定なし

授業概要(教育目的)	200年以上におよぶ徳川政権下の時代は、現代につながる伝統的な食文化が完成した時代でもある。本科目では、前半は江戸時代以前の日本の食文化の形成・発展を、後半は江戸時代以降の食に関わる事象を取り上げ解説する。日本の食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、食文化が現代の私たちの食生活にどのようにつながっているのか、さらにはどのように活かしていけるのかについて考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の自然環境の特徴と食文化形成とを関係づけられる。 日本の伝統食品の特徴と歴史を理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の食生活の課題点を発見分析し、課題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本の食文化に興味を持ち、主体的に授業に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本人の食-狩猟採取時代	日本列島における、旧石器時代から縄文時代の社会と食生活について知る。	配布プリントを復習する。 稲作の起源、日本への伝播について調べておく。	160分
第2回	稲作社会の成立	弥生時代から古墳時代の社会と食生活について知る。特に水田稲作導入による社会の変換について理解する。	配布プリントを復習する。 平安時代の貴族の食について調べておく。	160分
第3回	日本的食文化の形成期	飛鳥時代から室町時代前半にかけての社会と食生活について知る。	配布プリントを復習する。 室町時代にはどのような外来の食が日本に伝来したのか調べておく。	160分
第4回	日本的食文化の再編成期	室町時代後半から江戸時代初期にかけての社会と食生活について知る。特に海外との交流による食文化の伝来について理解する。	配布プリントを復習する。 上水井戸がどのようなものであったか調べておく。	160分
第5回				160分

	伝統的な食文化の完成期	江戸時代の社会と食生活について知る。特に生活用水（上水）が江戸の人々の暮らしの基盤となったことを理解する。	配布プリントを復習する。江戸時代の海運にどのようなルートがあったか調べておく。	
第6回	江戸の食材	江戸時代には輸送ルートが発達した。酒、鯉節、海苔等の食材について、江戸にどのようにして集められ、消費されたのかについて知る。	配布プリントを復習する。関西の醤油と関東の醤油の違いについて調べておく。	160分
第7回	調味料-味噌から醤油味へ	江戸を市場とする醤油産業の発展、それにとまって考案された料理について知る。	配布プリントを復習する。江戸時代にはどのような食べ物屋があったのか調べておく。	160分
第8回	江戸の食べ物屋と菓子	高級料理茶屋から軽食屋までさまざまな食べ物屋と菓子類について知る。	配布プリントを復習する。江戸時代の料理書にはどのようなものがあるのか調べておく。	160分
第9回	江戸の料理書とグルメガイド	江戸時代には出版文化が盛んとなった。その中から食べ物に関する出版物である、料理書と食べ歩きを楽しむための小冊子（ガイドブック）について知る。	配布プリントを復習する。現代にはどのような年中行事があるのかまとめておく。	160分
第10回	江戸の行事と食	日本古来の年中行事は、多種多様な要素が交わり、現代まで伝承されているものがある。ここでは、江戸庶民の年中行事とそれに関わる食について知る。	配布プリントを復習する。テーマに沿って具体的な事例を上げ、レポートにまとめて提出する。	240分
第11回	江戸東京野菜	江戸の御府内やその近郊の農村で栽培され、江戸で消費され、江戸の食文化を育てた伝統野菜について産地や歴史等を知る。	配布プリントを復習する。自らの食生活を振り返り、現代の食生活の問題点についてまとめておく。	160分
第12回	近代における食の変化	明治維新後の新しい生活様式の出現、外来料理の受容、戦争の時代の食、現代の食生活の多様化について知る。	配布プリントを復習する。身近な調理器具について、どのように変化してきているのか調べる。	160分
第13回	食卓・台所の変化	膳からテーブルへの変化、食事作法（箸）、台所や調理器具等の変化について知る。	配布プリントを復習する。世界中でどのような日本の料理が食べられているのか調べる。	160分
第14回	世界に広がる日本食まとめ	世界中で日本の料理が食べられるようになった背景とその実際を知る。授業の総まとめを行う。	配布プリントを復習する。これまでの授業内容を総復習しておく。	300分
第15回	食に関わる企業の取り組み	現代の食を取り巻く環境において、企業ではどのような取り組みをしているのか知る。	配布資料を基に復習をしておく。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	質問や不明な点がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは与えられたテーマに対し、具体的な事例、それに対する自らの考えが述べられているか総合的に判断する。 ・定期試験は70点満点で出題し、穴埋め、選択式の問題を含む。また、記述問題によって、思考力や判断力を確認する。 ・平常点は授業への参加状況、授業態度から総合的に判断する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験(70%)、レポート(15%)、平常点(15%)で判定する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p>
オフィスアワー	火曜日3時限 1402

学生へのメッセージ

現在の私たちの食文化は長い年月をかけて形成されたが、同時に様々な課題も生まれている。日頃から新聞、テレビ等の食に関する情報を意識して得るようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育園栄養士として業務に携わった内容を踏まえ、江戸・東京の食と文化を担当する上で、特に現代の食生活の多様化、行事食のあり方などを実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養プロデュース実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫 仁美	指定なし
助教	大野 治美	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

授業概要(教育目的)	様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め、将来の管理栄養士の立場からヒューマンサービスの意義を理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造できる人材を育成するために、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指すことを目的とする。臨床栄養系、食育・地域栄養ケア系、スポーツ栄養系、フードサービス系での実習先を用意し、3日間以上1週間以内程度の学外実習を行い、管理栄養士としての職業倫理の形成に役立てる。
履修条件	特に無し
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通じた取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかかわり等を説明することができる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	様々な実践活動の場において、他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	他職種とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 実習先の希望調査	実習概要について、各実習先施設の特徴について知る。 実習先の希望調査を行う。	学外実習の手引き「1. 学外実習の種類と履修条件」を読む しておくこと	45分
第2回	事前学習①	学外実習を行うための基本事項(態度・姿勢・服装等)について理解する。先輩の体験談や事例について知る。	学外実習の手引き「2.1) 学外実習に向けての心構え」を読む しておくこと。	45分
第3回	事前学習②	授業欠席届、腸内細菌検査等の提出書類の取扱いについて知る。お礼状の書き方を知る。	学外実習の手引き「2.2) 実習に向けての事前準備 提出書類の準備 3) 腸内細菌検査の提出方法 4) 出勤簿の取扱い、5) 実習日誌の記入や提出、6) 実	45分

			習終了のお礼」を読んでおくこと。	
第4回	事前学習③	実習先施設の概要、交通経路を調べる。実習報告会に向けてのまとめ方について知る。	学外実習の手引き「4.4」提出物について」を読んでおくこと。	45分
第5回	事前学習④	誓約書の記入。各施設班毎の実習テーマについて。	実習施設のホームページなどを見て、実習テーマの内容を考えておくこと。	45分
第6回	マナー講習	マナー講師による講義。学外実習に向けての礼儀や態度について体験の場を持って理解する。	マナー講習の体験を踏まえて、お礼状を作成し、提出すること。	45分
第7回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第8回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第9回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第10回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第11回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第12回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第13回	まとめ	各施設の担当教員の指示に従い、お礼状の作成、まとめ作業（要旨集原稿、実習報告会パワーポイントの作成）等を行う。	実習日誌（まとめ）の記入を行っておくこと。	45分
第14回	まとめ	各施設の担当教員の指示に従い、お礼状の作成、まとめ作業（要旨集原稿、実習報告会パワーポイントの作成）等を行う。	実習日誌（まとめ）の記入を行っておくこと。	45分
第15回	実習報告会	パワーポイントを用いた各施設の発表および要旨集を熟読し、様々な施設の栄養士・管理栄養士の役割や業務、取組みについて理解する。	実習日誌（報告会を終えて）の記入を行っておくこと。	45分

学習計画注記	授業日程は、予定変更の可能性もあります。				
学生へのフィードバック方法	マナー講師によるお礼状は添削をし、後日返却をする。実習日誌は、確認後に後日返却をする。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は授業への参加状況、提出物の状況、授業態度から総合的に判断する。 ・単位を取得できた場合の成績評価はP（合格）とする ・学外施設でのオリエンテーション、学外施設での実習、実習報告会を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認めない。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○			○
	実習評価表			○	○
評価割合	平常点 (50%)、実習評価表 (50%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物、地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント</p>				

		ト、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー		火曜日3時限 1402 (綿貫) 木曜日2時限 1206 (大野)
学生へのメッセージ		学外施設での実習に臨む姿勢として、実習先の施設についてしっかりと把握しておくことが大切である。ただ単に、授業や学外施設での実習に受け身で参加することがないよう に注意し、各自で積極的に取組み、自覚を持って参加してほしい。
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活か した授業		
アクティブ・ ラーニング	○	学外施設における3日間以上7日間以内の実習を行う。
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	海外専門研修（栄養学）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力などを持った国際社会で活躍できる管理栄養士を育成する。さらに高年次以降本格化する専門分野の学びの動機づけ、視野の広がりを獲得することを目指す。
履修条件	定員に対し、応募者多数の場合は抽選を行います。 実地研修への参加は以下の条件を満たしていることが必須です。 ○履修登録をしている。 ○事前指導①～③を全て受講している。 ○必要経費を納入している。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	人間栄養の観点から現地での様々な情報を収集し、学習することで、知識を深めるとともに日本の文化、日本の社会制度はもちろんのこと、栄養管理の国際的動向、国際貢献に関する理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	海外の当地の健康事情・健康課題と、その背景である人々の生活状況、食料生産、食文化との関わりを体験しながら学ぶとともに、管理栄養士制度の仕組みや活動の参観を通し、人間栄養に対する興味関心を高めることで、主体的な学習態度や国際的な視野を身につける。
技術・表現の観点 (A)	これまでの学びを活かし、目標達成に向けた企画力、表現力、マネジメント能力、コミュニケーション能力を磨く。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月*ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導①	研修の目的および内容、日程および訪問先の説明、現地情報を理解する。	予習：シラバスを読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第2回	事前指導②	外部講師から、現地情報として食文化、イタリア語の挨拶と食べ物を学ぶ。 またグループ別研修として、グループ分けとテーマの決定を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第3回	事前指導③	渡航に関する注意事項を確認する。		60分

			予習：資料を読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	
第4回	事前指導④	グループ別研修の学習を行う。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第5回	事前指導⑤	入国・出国の流れ、注意事項を確認する。簡単な英会話を学ぶ。	予習：資料を読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第6回	事前指導⑥	グループ研修のリハーサルを行う。	予習：事前にリハーサルの予行練習を行う。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第7回	実地研修	イタリアでの食科学に基づく生産者育成の場（スローフード国際本部、食科学大学）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第8回	実地研修	トリノおよびブラにて現地情報で情報収集を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第9回	実地研修	イタリアでの栄養士の活動の場（イタリア栄養士協会）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第10回	実地研修	イタリアでの栄養士の活動の場（ACミラン本部）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第11回	実地研修	ミラノにて現地情報で情報収集を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第12回	実地研修	イタリアの食文化体験の場（チーズ工場、FIGO EATALY WORLD）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第13回	実地研修	ポローニャにて現地情報で情報収集を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第14回	事後指導①	報告会資料を作成する。	予習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。 復習：報告会のリハーサルを行う。	120分
第15回	事後指導②	研修報告を行う。	予習：報告会のリハーサルを行う。 復習：学習内容をレポートにまとめる。	60分

学習計画注記	授業の進行状況によって内容を前後させる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。				
評価方法	提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。 ※提出物：理解度、正確性、丁寧さ ※平常点：研修態度 ※プレゼンテーション：表現力				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物	○		○	○
	平常点			○	
	プレゼンテーション			○	○
評価割合	提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜紹介する。				
参考図書	適宜紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。				

オフィスアワー	田中：月曜日3-4限（1607） 加藤：火曜日5限（1B05）	
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者（田中）は、厚生労働省で国際会議に参加している。
アクティブ・ラーニング		学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。
情報リテラシー教育		得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。
ICT活用		発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	キャリアデザイン活動		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	管理栄養士としてのキャリアデザインの重要性について講義する。キャリアをデザインするための知識に関心を持ち、学生自らがキャリアをデザインすることを目標とする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間、食物、地域・環境の相互関係を説明できる。管理栄養士業務に多職種連携が必要であり、地域の社会資源を活用できることを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士としてのキャリアプランを立案するための意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに	管理栄養士のキャリアの実例からキャリアデザインについて説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第2回	管理栄養士のキャリアデザイン	専門職としてのキャリアデザインの重要性について説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第3回	管理栄養士に関係する職業	キャリアコースに関わる職業と管理栄養士との関係を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第4回	管理栄養士と社会とのつながり	管理栄養士が利用可能な社会資源を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第5回	キャリアデザインを考える①	自己分析を通じて自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分

第6回	キャリアデザインを考える②	自分自身の将来像を想定して自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第7回	キャリアデザインを考える③	自分のキャリアデザインの実現に必要な行動目標を考える。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第8回	管理栄養士のキャリア	現代社会における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第9回	管理栄養士のキャリア（フードサービス）	フードサービスにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第10回	管理栄養士のキャリア（食育・地域栄養ケア）	食育・地域栄養ケアにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第11回	管理栄養士のキャリア（臨床栄養）	臨床栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第12回	管理栄養士のキャリア（スポーツ栄養）	スポーツ栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第13回	自らのキャリア形成に向けて：多職種連携	キャリア形成に必要な多職種連携について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第14回	自らのキャリア形成に向けて：社会資源の活用	キャリア形成に必要な社会資源の活用について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価を行う。	学修事項をまとめ、記録する。	120分

学習計画注記	一方的な講義にならないよう、講義中にディスカッションを行う。			
学生へのフィードバック方法	担当教員のオフィスアワーで対応する。			
評価方法	平常点と課題の内容により評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題	○		○	
評価割合	平常点 (20%)、課題評価 (80%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。			
参考URL	https://www.dietitian.or.jp/career/			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。			
オフィスアワー	(酒井) 火曜日 5限 地域栄養教育 (酒井) 研究室 (江川) 木曜日12時30分～14時 (會退) 未定			
学生へのメッセージ				

講義での理論と実社会での様々な活動に触れながら、自ら課題を発見し、その解決方法を探求することを期待する。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関に従事した経験を踏まえて、健康増進関連のキャリアコースについて教授する。担当教員（會退）は保育所、担当教員（酒井）は消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に従事した経験をふまえて、栄養教育の実践と評価関連のキャリアコースについて教授する。
アクティブ・ラーニング	○	人々の生活のニーズを考え、食物の生産から消費まで実体験を基に学習する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

資 格 科 目



シラバス参照

講義名	教師論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

教職の意義、教員の役割（資質能力）、教員の職務内容、そして、チーム学校の意義について論じる。歴史に即して教師とはどんな職業だったのかを説明し、教育現場の実際に即して教師の仕事を紹介し、教師の使命と服務規律、最後に、チーム学校の一員としての教師の今日的な要請を論じる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教師とは何かに関する基礎知識の習得。他の教育職との違いを明確にする。
思考・判断の観点 (K)	子どもを理解し、尊重する教職の独自の役割を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教師論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教師とは何か	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第2回	教職の意義	時代の中の教師、戦前、教科書と教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第3回	教職の意義	時代の中の教師、戦前、国家と教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第4回	教職の意義	教師の専門性、戦後の教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第5回	教職の意義	他の教育職について、発達援助職	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第6回	教師の役割	子どもを理解する	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第7回	教師の役割	子どもを育む	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分

第8回	教師の役割	授業をつくる	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第9回	教師の役割	保護者とどう共同するのか	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第10回	教師の役割	女性教師について	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第11回	教員の職務	研修について	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第12回	教員の職務	校務分掌、生徒指導など	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第13回	教員の職務	身分保障など	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第14回	チーム学校	同僚とともに学校をつくる	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第15回	チーム学校	発達援助職との共同	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分

学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）を自宅で作成するように指導する。講義でとったノートを再度、自宅で読み直し、テキストを読み込んで、あらためて、KGノートを作成すること。復習をかねて、知識の習得を確実なものにするためのもの、このKGノートの点検を時々に行う。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験とKGノートの総合評価
------	-----------------

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	KGノート1割、定期試験9割、の「総合評価
------	-----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定はしない。
-----------------	-----------

参考図書	講義の中で、紹介する。
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる 思考・判断、あるべき人間都教育の姿を追究できる 関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことができる
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	月曜4限
---------	------

学生へのメッセージ	教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、皆さん方が、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。しかも、批判的に、である。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		



シラバス参照

講義名	教育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解すること。
思考・判断の観点 (K)	現代教育問題の本質にあるものを見つめられるようになること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講していることが重要である。
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢が備わること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育が人間にとって持つ意味(1)	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp. 1-16を讀んでおくこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を紹介する。	授業前後に教科書pp. 16-42とレジュメの第2回の部分を讀んでおくこと。	180分
第3回	<子ども>の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想を概説する。	授業前後に教科書pp. 43-54とレジュメの第3回の部分をよく讀んでおくこと。	180分
第4回	近代日本に影響を与えた西洋教育思想	ペスタロッチー、フレーベル、デューイの教育思想を概説する。	授業前後に、教科書pp. 54-59とレジュメの第4回の部分をよく讀んでおくこと。	180分

第5回	近世以前の教育と近世の教育	大学寮、足利学校等近世以前の教育と近世の藩校郷校について映像を用いて概説する。(第1回小テスト)	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp. 61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を紹介する。	授業前後に、教科書pp. 65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	近代日本公教育制度の成立期の制度として学制の頒布と教育令について概説する。	授業前後に、教科書pp. 67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語の公布	授業前後に、教科書pp. 71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	コルチャック神父の思想について概説し、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp. 243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を概説する。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを概説する。	授業前後に教科書pp. 75-77、pp. 174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業の作り方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp. 157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp. 91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。授業前後に、教科書pp. 209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。	授業前後に、教科書pp. 259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小テスト(2回)の採点後の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。なお、特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」(2000字以上)である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	第1回小テスト	○			
	第2回小テスト	○			
	期末レポート		○		○
	リアクション・ペーパー			○	○
評価割合	小テスト(2回) 30%、平常点20%、最終レポート50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣 (978-4-641-22081-2)				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社 2009年、 ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会 2014年、 ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 1961年 ・松沢哲郎『想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店 2011年、 ・コメニウス著 井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ 1995年 	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>	
オフィスアワー	水曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）	
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	常時、学生へ質問し回答を得る、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

1, 教育とは何か、を論じる。人間にとって教育とは何か、教育は発達に働きかける営みである、ことを論じる。2, 学校とは何か、を論じる。古代の学校はなぜ、成立したのか、そして、近代学校はどのような成立したのか、を論じる。
3, つぎに、学力とは何か、授業とは何か、教育評価はどうあるべきか、教育課程の編成原理について、生活指導とは何か、そして、道徳教育の意義、ついて論じる。教育の内的事項の説明である。
最後の、4, 教師の仕事とは何か、教育行政の原理とは何か、を論じる。
現代日本の教育現実を批判的に見つめ、どのような改革が必要か、自分の頭で考えることが重要である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教育の基本原則(教育、学校、学力、評価、生徒指導、子どもの権利、など)が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	教育と教化の違いが分かる。体罰と懲戒の区別が指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教育原理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教育とは何か	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第2回	教育とは何か	人間と教育	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第3回	教育とは何か	発達と教育	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第4回	学校とは何か	学校の誕生	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第5回	学校とは何か	近代学校の成立	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第6回		学習指導要領の変遷		180分

	学力とは何か		テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	
第7回	学力とは何か	学力と人間社会	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第8回	授業とは何か	生活と教育、科学と教育	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第9回	道徳とは何か	教科としての道徳	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第10回	教育評価	評価社会と教育	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第11回	生活指導	生活指導と教師	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第12回	子どもの権利	子どもの権利条約	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第13回	子どもの権利	教師の自由と子どもの権利	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第14回	教師の仕事	研修権	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第15回	現代社会と教育	新教育基本法の成立	テキストの担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分

学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）の作成を指示している。講義ノートを自宅で再度、学習する際に、配付資料やテキストを写し、知識の習得を確実にするためである。講義の際に、時々、点検を行う。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

評価方法	KGノートと定期試験の総合評価
------	-----------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
KGノート	○		○	

使用教科書名 (ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣
-----------------	------------------------

参考図書	講義の中で、適宜、紹介する。
------	----------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識を習得できる 思考・判断力、めざすべき人間と教育について追究し、判断できる
---------------	-----------------------------------------------------

学生へのメッセージ	教育学は、実際にある、教育の現場の困難を解決するためにあるものだ。教育の困難とはどのようなものか、そのことをまずはイメージしてほしい。基礎知識を暗記して安心する、ということではない。現場の教育問題の困難を解決するために学ぶのだ、ということである。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を理解する。 2. 教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学と教育、人の発達の関わり—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	発達と教育1—発達課題と身体的発達—	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分
第3回	発達と教育2—運動	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解す		180分

	機能の発達と発達の普遍性と可変性——	る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	
第4回	発達と教育3——脳と神経の発達——	発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育4——自我の発達——	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育5——自我の防衛機制——	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育6——社会性の発達——	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	発達と教育7——認知の発達——	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支えるメカニズム1——動機づけ——	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支えるメカニズム2——記憶——	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習を支えるメカニズム3——自己効力感——	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する理論1——条件づけ——	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	学習に関する理論2——観察学習と技能学習、教育における評価——	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育——「障害のある子ども」とは——	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括——教育心理学の理論への応用——	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		
評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 30%			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。			
参考図書	『教育心理学』丸善出版 ¥2,500 このほか適宜、授業の中で紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技術 (技術) をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。			
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、3限、5限 (町田キャンパス1633室) 後期：月曜日のお昼休み、4限 (町田キャンパス1633室)			
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 教職必修			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育制度論（中・高）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)	なぜ、公教育制度が制定されるようになったのか。教育関連の制度が時代によってどのように変遷してきたのか、教育制度は現代教育が抱える問題とどのような関係があるのかについて、憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等の基本的な教育法規をもとに概説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	憲法、教育基本法、学校教育法、児童福祉法等主な教育関連法について基本的な知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育制度の成立過程や存在意義について考え、現状を判断する材料を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教員となるために教育制度に関して知り、活用しようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	法律を遵守し、また法律を守るように生徒を指導できる教育力・伝える力・表現力を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育制度を学ぶことの意味	人間社会にとって教育制度とは何か、について学ぶ。	本授業で教科書について説明を行う。授業後に、pp.1-17を読むこと。	120分
第2回	教育法のしくみ	教育関連法のしくみと相互関係を特に憲法と教育基本法について学ぶ。	授業前後に教科書pp.18-38を良く読み、授業後に配布したレジュメを良く読むこと。	180分
第3回	子どもの学習権	子どもの権利、人権、学習権についてその権利を法律でどのように保証しているかを学ぶ。	授業前後に教科書pp.163-183を良く読み、配布資料とワークシートも授業後に良く読んでおくこと。	180分
第4回	教職員の制度	教員はどのように法によって身分保障され、どのような権利と義務が課せられているのかを学ぶ。	授業後にワークシートをよく復習し、授業前後に教科書教科書pp.58-68を良く読んでおくこと。	180分
第5回	教員の研修	教員養成・研修に関する制度について概説する。このような制度がつけられた背景についても説明する。	授業後に教科書pp.80-94を良く読んでおくこと。授業内で配	180分

			布したワークシートを良く復習すること。	
第6回	学校教育法と義務教育	学校教育法に定められた学校の定義と義務教育の理念について学ぶ。	授業前後に教科書pp. 102-125を良く読んでおくこと。	180分
第7回	教育委員会の制度	教育委員会の組織と職務および地域との関わりについて、概説する。	授業前後に教科書pp. 68-79を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第8回	教育行政制度の歴史	教育委員会制度の歴史と現状の課題について新聞記事等を用いて概説する。	この部分は、教科書には無いので、授業後に配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第9回	教科書制度	教科書制度の歴史と現状の問題点、教科書制度の国際比較を行い、教科書制度についての理解を深める。	授業前後に教科書pp. 95-101を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第10回	義務教育と教育機会の均等	義務教育における教育機会の均等を定めた法制度と無償性の関係についてと現代社会における状況を概説する。	授業前後に教科書pp. 102-106, pp. 180-183を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。30問程度の中間テストを実施するので、前回までに配布したワークシートを良く復習しておくこと。	240分
第11回	生涯学習	生涯学習が何故現代社会に必要なのか、生涯学習制度はどのように成立したのかを学ぶ。この部分は、教科書全体に関わる部分でもある。	教科書pp. 24-38を良く読んでおくこと。配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第12回	幼児教育と子育て支援	現代社会は、男女共同参画社会であることを踏まえて、夫婦が働きながら子育てをできる社会になるための子育て支援の法制度を学ぶ。	教科書pp. 126-143を授業前後に良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	120分
第13回	学校の安全管理	学校保健安全法に基づく学校における健康保持と安全、災害時の学校の対応等について学ぶ。災害が多い今日、どのような法律によって教育現場が運営維持されているかを知ることの重要性を理解する。	この部分は、教科書には無いので、配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと	180分
第14回	フランス公教育制度の歴史	フランスは公教育制度発祥の近代国家である。どのようにして公教育制度が成立したのか、その制度的な歴史を概説し、公教育制度に多様性があることを学ぶ。	この部分は、教科書には無いので、配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第15回	現行教育制度の諸問題とこれからの教育制度	よりよい教育を行うためにはどのような教育制度が望ましいかを災害時の対応や地域との連携協働の観点も含めて考える。	ディスカッション形式の授業で、受講生の考えや意見交換を行う。	420分
学習計画注記		特になし		
学生へのフィードバック方法		中間テストは模範解答と共に返却する。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・30問程度の中間テストを1回実施する。 ・期末テストは、中間テストの設問中25問を含む50問である。 ・授業中に制度についての知識理解について随時質問を發する。教員の質問に対する応答も関心・意欲・態度の評価に含める。 		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
期末テスト	○	○		
授業態度・リアクションペーパー			○	
評価割合		受講態度20%、試験50%、中間テスト(30%)で総合評価。		
使用教科書名 (ISBN番号)		小玉 敏也 (編著), 鈴木 敏正 (編著), 降旗 信一 (編著) 『持続可能な未来のための教育制度論 (「ESDでひらく未来」シリーズ)』学文社 2018年 ISBN : 978-4-7620-2764-2		
参考図書		<ul style="list-style-type: none"> ①ピーター・L・バーガー著 藪田稔訳『聖なる天蓋』新曜社 1995年 ②市川須美子編『教育小六法 平成30年版』学陽書房 2019年 ③兼子仁著『教育権の理論』勁草書房 1976年 		

	④堀尾輝久著『いま、教育基本法を読む』岩波書店 2003年 ⑤河田敦子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房 2011年	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる	
オフィスアワー	火曜日 午後15:00~16:30 (アポイントメントを取り、調整すること)	
学生へのメッセージ	教育法規、教育制度に関する話が主になります。現代の自分たちの生活や教育現場と制度がどのように結び付いているかを、新聞やテレビの情報と共に考えながら受講してください。教育法制度の理論と内容をしっかり身に付けることは、教員採用試験でも教育現場でも役に立ちます。授業内容を積極的に吸収するようにしてください。 教職必修	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、毎時学生に発言を求め、対話形式で行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育制度論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教育制度は、教育の実際を規定する。教育制度の歴史を踏まえ、教育の理念、目的を正確に理解し、その規定要因を理解する。
思考・判断の観点 (K)	教育制度は、社会と政治、経済の影響を受けて、機能している。広く、その関連に注目することのできる重要な判断と思考を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教育制度論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	近代日本における教育制度の展開	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第2回	近代と教育	江戸末期の教育	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第3回	近代と教育	学制(1872年)と福沢諭吉	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第4回	自由民権と教育	自由民権と近代学校	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第5回	教育勅語	天皇制国家と教育	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分

第6回	教育勅語	教育勅語の浸透と矛盾	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第7回	教育制度の拡充	女子教育の進展	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第8回	教育制度の拡充	国定教科書	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第9回	植民地教育	朝鮮と台湾の教育、日本語教育	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第10回	新教育運動	芸術教育運動	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第11回	戦後教育改革	教育基本法の成立	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第12回	戦後教育改革	山びこ学校	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第13回	1950年代の教育	東西対立と教育制度の変容	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第14回	高度経済成長と教育	学習指導要領の変遷と能力主義教育	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第15回	まとめ	近大教育制度の進展	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分

学生へのフィードバック方法
KGノート（家庭学習ノート）の作成を指示する。講義で作成されたノートを、自宅で、再度、書き直して行く。テキストや資料の文章をもう一度、ノートに写して、知識の定着を図る。そのための点検を時々行う。

評価方法
定期試験とKGノートの、総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合
KGノートと定期試験の総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号)
有斐閣の『やさしい教育原理』

参考図書
講義の中で、適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
知識・理解、豊かな知識を得ることができる
思考・判断力、あるべき人間と教育の姿を追究し、判断することができる

オフィスアワー
水曜日4限

学生へのメッセージ
歴史的な説明が大変をしめる講義になる。教育には歴史があるのだ、という当たり前の事実を、まずは、知ってほしい。近代的な学校はいつからスタートしたのか、なぜ、学校は生まれたのか、民衆は学校をどのように受け入れたのか、等々、である。近代日本には、4つの大きな戦争を経験してきた。実は、教育制度は、この戦争と密接な関連をもっていた。こうした事実には、関心を示せる力量をみにつけてほしい。今後の教育の困難な課題に向きあうためには、ぜひ必要な力量となることを、想像して、勉強にどんな意欲に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育課程論		
講義開講時期	後期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

授業概要(教育目的)	学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領についての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 教育課程の意義が理解できる。 2 教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。	教科書の第1章(p8~16)と第2章(p18~22)を読んでもらうこと。	120分
第2回	2 教育課程に関する法制及び行政	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。	教科書の第2章(p22~27)と第3章(p30~38)を読んでもらうこと。	120分
第3回	3 近代日本の教育課程	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。	教科書の第4章(p40~48)を読んでもらうこと。	120分
第4回		戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。		120分

	4 現代日本の教育課程、昭和編		教科書の第5章（p50～58）を読んでおくこと。	
第5回	5 現代日本の教育課程、平成編	ゆとり教育と生きる力を理解する。	教科書の第6章（p60～68）を読んでおくこと。	120分
第6回	6 学習指導要領の改訂	学習指導要領（中学校編、高等学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。	教科書の第7章（p70～77）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。	180分
第7回	7 教育課程の評価とカリキュラムマネジメント	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。	教科書の第9章（p94～105）と第10章（p108～117）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、試験	学習のまとめと定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめを行う。	270分

学生へのフィードバック方法 授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。

評価方法 定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合 定期試験 70%、平常点 30%で評価する。
定期試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

使用教科書名 (ISBN番号) 齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『教育課程論—カリキュラムマネジメント入門—』大学図書出版 2018年

参考図書 『学習指導要領中学校編』、『学習指導要領高等学校編』文部科学省

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。

オフィスアワー 月曜日4限 1628研究室

学生へのメッセージ 教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

中学校・高等学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等）について学び、中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を学ぶ。それらをふまえ、学習指導案の作成および検討、模擬授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・中学校・高等学校の家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解することができる。 ・中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を理解した上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	・模擬授業を観て、良い部分や改善点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・家庭科の効果的な学習方法について、進んで考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	・生活に関して調べたことを自分なりに工夫してまとめ、発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、家庭科とは	家庭科とはどのような教科なのか、自分達が学んできた家庭科を振り返りながら考える。	家庭科の教科書に目を通し、家庭科の内容についておさえる。	120分
第2回	家庭科教育の理念、歴史的変遷	家庭科教育が歩んできた道のりを振り返り、家庭科教育で求められていること、何をねらいとしているのかを考える。	学習指導要領解説の総説を読み、改訂の経緯や趣旨・要点をおさえておく。	120分
第3回	家庭科の学習内容(1) 家庭・家族	家庭・家族に関する内容について授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の家庭・家族に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	120分
第4回	家庭科の学習内容(2) 衣生活	衣生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の衣生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	120分
第5回	家庭科の学習内容(3) 食生活	食生活の基礎基本事項をおさえて授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の食生活に関する部分を読んで	120分

			おく。授業で取り上げた事項について確認する。	
第6回	家庭科の学習内容(4) 住生活	住生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の住生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	120分
第7回	家庭科の学習内容(5) 環境	環境に配慮した生活について、授業で実施できるアクティブラーニングを取り入れて考える。	教科書および学習指導要領解説の環境に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	120分
第8回	家庭科の学習内容(6) 消費生活	消費生活について生徒が主体的に考えるような授業方法を考えていく。	教科書および学習指導要領解説の消費生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	120分
第9回	家庭科の評価と年間指導計画	家庭科の評価の観点、家庭科の授業計画の立て方などを扱う。	授業で取り上げた内容を確認し、授業計画を立てる上でのポイントを整理しておく。	120分
第10回	学習指導案の作成方法	家庭科の学習指導案の作成方法について扱う。	授業で取り上げた内容を確認し、模擬授業で取り扱いたい内容を考えて学習指導案を作成する資料を集める。	150分
第11回	学習指導案の作成(1) 家庭科の教科目標	家庭科の目標について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	150分
第12回	学習指導案の作成(2) 授業の展開	授業を展開する方法について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	150分
第13回	学習指導案の検討(1)	作成した学習指導案について意見交換を行う。	配布プリントの作成。模擬授業の準備をする。	150分
第14回	学習指導案の検討(2)・修正	作成した学習指導案について意見交換を行い、修正点を考える。	グループで作成した学習指導案を修正する。模擬授業の準備をする。	150分
第15回	模擬授業、総括	模擬授業を行い、学習指導案を改善する。	意見交換でもらったアドバイスをもち、グループで作成した学習指導案を修正しておく。	150分

学生へのフィードバック方法

提出物に対しては授業にて解説する。

評価方法

学期末レポート（グループで作成した学習指導案に個人で修正を施したもの、および省察）、授業内提出物、小レポート（レジュメ原稿および発表）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート（学習指導案、省察）	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
小レポート	○		○	○
平常点（授業への参加状況）			○	

評価割合

レポート：40%
授業内提出物：40%
小レポート：10%
平常点：10%

使用教科書名 (ISBN番号)

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1
文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）
高等学校家庭科教科書「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍）978-4-487-16573-5

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。
【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を作り出す能力を身につけている。

学生へのメッセージ

普段から生活に関することに興味・関心を持ち、授業で扱った内容との関連性を考えるようにしてください。授業では受け身にならないよう、積極的に参加・発言するよう心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	竹中 真紀子	指定なし

授業概要(教育目的)	小学校・中学校・高等学校での家庭科の教科としての位置づけ、学習指導要領における家庭科の目標と指導内容の現状および歴史的経緯を概説する。学習指導案の作成方法など、指導計画や指導方法の基本についての講義や、先輩の教育実習経験などを踏まえ、多様な教材研究をもとに生活を工夫し創造する態度を育成する家庭科教育の意義を探究する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の歴史的変遷、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と家庭科教員としてもとめられる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の諸問題について関心を持ち続け、生活者の視点に立ち持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	グループ発表やノートへの記入において重要な事項を適切に表現することができる。

学習計画

家庭科教育法A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書について確認する。専用ノート(アースノート)を渡し、使い方を確認する。これまで自分が受けてきた家庭科の授業を振り返り、これからの学びをイメージする。	予習として、自身の中学校・高等学校での家庭科の学びについて、教科書等を読み直し振り返っておくこと。授業後に、本時のポイント等をアースノートにまとめておくこと。	180分
第2回	家庭科とは、また学習指導要領とは	家庭科の科目構成、教育課程の編成と指導計画の作成などについて学ぶ。	授業後に、アースノートに授業のポイントをまとめ直し、配布プリント等の内容を復習しておくこと。	180分

第3回	家庭科における食生活領域の学び	家庭科の各科目における食生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書（高等学校 家庭総合）の食生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第4回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び	家庭科教育の歴史の変遷について学び、あわせて本学の家庭科教育法では、「消費生活と環境」教育の重要性を認識し、先輩たちが契約や生活設計の模擬授業を行ってきた歴史があることを理解する。	予習として新聞記事から家庭経済・消費生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第5回	家庭科の役割と家庭科教員の役割	小・中・高の家庭科での学習について、また改訂などにより家庭科に求められるものがどのように変化してきたのかについて学ぶ。担当教員の実際の学校での授業経験などから、家庭科教員としての自分の目指す教員像を思い描く。	学習指導要領の改訂について、配布プリント等の内容を復習すること。家庭科教員となったらどのような授業をしたいか、学習指導案作成までに考えをふくらませておくこと。	180分
第6回	家庭科における家族・家庭及び福祉領域の学び	家庭科の各科目における家族・家庭生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の家庭生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第7回	家庭科における衣生活の学び	家庭科の各科目における衣生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における衣生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の衣生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科における住生活の学び	家庭科の各科目における住生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における住生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第9回	年間指導計画の作成方法	家庭科教育の年間指導計画の立て方について学び、模擬的に計画を行う。次時以降のグループ研究で担当する領域を決定し、年間計画と対応させ、どのような授業を行うか検討する。	グループ研究での担当領域について、指定した教科書の相当部分を読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成方法	学習指導案の作成方法について学び、実際に使用している形式で指導案を作成する。グループで指導案の研究を行う。	作成した指導案について、グループ内でどのように発表を行うか検討し、各自準備を行うこと。	180分
第11回	学習指導案グループ研究発表（1）	発表担当グループは、作成した学習指導案を説明し、題材設定の理由や授業の目標、内容などについて発表する。他の受講生は、指導案の授業計画、授業内容、発表態度等について広く評価する。	教員や他の受講生のコメントを聞き、指導案から学ぶべきポイントを見出し、授業後にアースノートにまとめておくこと。	180分
第12回	学習指導案グループ研究発表（2）	発表担当グループは、作成した学習指導案を説明し、題材設定の理由や授業の目標、内容などについて発表する。他の受講生は、指導案の授業計画、授業内容、発表態度等について広く評価する。	教員や他の受講生のコメントを聞き、指導案から学ぶべきポイントを見出し、授業後にアースノートにまとめておくこと。	180分
第13回	学習指導案グループ研究発表（3）	発表担当グループは、作成した学習指導案を説明し、題材設定の理由や授業の目標、内容などについて発表する。他の受講生は、指導案の授業計画、授業内容、発表態度等について広く評価する。	教員や他の受講生のコメントを聞き、指導案から学ぶべきポイントを見出し、授業後にアースノートにまとめておくこと。	180分
第14回	先輩教員の話聞いて学ぶ（特別授業）	本学で教員免許を取得し現在教員として働いている本学卒業生から、教員への道程や教育現場の実際について話を聴講し、理解を深める。	授業後に、アースノートに先輩教員の講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第15回	4年生の教育実習体験を聞いて学ぶ	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験報告（主に研究授業について）を聴講し、教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
学習計画注記		授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。		
学生へのフィードバック方法		アースノートに記入してある学生が、なぜ家庭科教員になりたかったのか、思い出せるように、アースノートへの記入を活用しながら、双方向でやりとりする。先輩たちの教育実習体験がいきるように、家庭科教育法ABCDが教育実習につながるようにフィードバック方法は学生たちと相談しながら改善する。		
評価方法		グループごとのDVD教材分析や指導案の作成については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。		

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ発表	○	○	○	○
アースノート	○			○
定期試験	○			
評価割合	平常点 (DVD教材分析・指導案の作成含む) : 40%、授業記録 (アースノートへの授業記録) : 20%、定期試験 : 40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説 (高等学校 家庭) / 文部科学省 (2019年3月15日現在、最新版入手不可) (2) 学習指導要領解説 (中学校 技術・家庭) / 文部科学省 (978-4-304-02154-1) (3) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来 / 実教出版 (978-4-407-20382-0)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。			
オフィスアワー	専任教員については担当教員のゼミ室 (研究室) 前の掲示を確認してください。			
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用や授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。		
情報リテラシー教育				
IGT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)

家庭科教育法Aで学習した内容を踏まえて様々な学習方法について検討し、中学校・高等学校の家庭科についてさらに理解を深める。学習指導案の作成および模擬授業を行い、授業実践力を付ける。また、衣生活分野の実習を通して指導する際の手がかりを得る。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中学校・高等学校の家庭科について理解を深めた上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	お互いの模擬授業を検討し、より良いものに改善することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科を指導する際に必要な知識と技術を進んで身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学習者にとって意義のある教材・教具を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	家庭科教育法Aの授業を振りかえり、模擬授業の担当領域を決める。	家庭科教育法Aの授業で行ったことを復習しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて学習指導案を作成する準備をする。	120分
第2回	学習指導案、教具・教材の作成方法	家庭科の様々な学習方法、教具教材の意義について知る。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第3回	衣生活実習(1)基礎縫い	基礎縫いを復習し、指導上の留意点を考える。	教科書で基礎縫いについて確認しておく。	120分
第4回	衣生活実習(2)作品製作	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考える。	基礎的な裁縫技能を確認しておく。	120分
第5回	衣生活実習(3)作品製作および製	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考える。	製作実習模擬授業の準備をする。	150分

	作記録の作成			
第6回	製作実習模擬授業	模擬授業を通して製作実習を行う上での注意点を学ぶ。	製作実習模擬授業の教材を作成する。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	150分
第7回	模擬授業(1)家庭・家族	家庭・家族に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第8回	模擬授業(2)保育・高齢者・福祉	保育・高齢者・福祉に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第9回	模擬授業(3)食生活	食生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第10回	模擬授業(4)衣生活	衣生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第11回	模擬授業(5)住生活	住生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第12回	模擬授業(6)環境	環境に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第13回	模擬授業(7)経済生活・消費者	経済生活・消費者に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振りかえり、改善点について考える。	120分
第14回	模擬授業の振り返り	模擬授業を振りかえり、学習内容・学習方法についておさえる。	模擬授業を振りかえり、学習指導案の修正・改善を行う。	150分
第15回	学習指導案の検討、修正、総括	意見交換でもらったアドバイスをもとに学習指導案の改善を行う。	学習指導案、配布プリントの修正・改善を行う。	150分

学生へのフィードバック方法

提出物に対しては授業にて解説する。学習指導案には個別にコメントする。

評価方法

学期末レポート（学習指導案、教材、省察）、模擬授業、授業内提出物、作品製作（作品、製作の記録）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
学期末レポート	○	○	○	○
模擬授業	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
作品製作	○		○	○
平常点			○	

評価割合

レポート（学習指導案、教材、省察）：40%
 模擬授業：15%
 授業内提出物：20%
 作品製作：10%

	平常点：15%															
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」(開隆堂) 978-4-304-02154-1 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」(教育図書) 高等学校家庭科教科書「家庭総合 自立・共生・創造」(東京書籍) 978-4-487-16573-5															
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。 【技術・表現】学修で得た専門的技能(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を作り出す能力を身につけている。															
学生へのメッセージ	普段から生活に関することに興味・関心を持ち、家庭科の授業でどのようにいかすことができるかを考えるようにしてください。 第3～5回では基礎縫い・布小物製作を行います。以下のものを各自で用意してください。 ・裁縫用具(針・糸・糸切りばさみ) ・ボタン1～2個(2つ穴あるいは4つ穴ボタン。大きさは自由。) ・布小物製作の材料															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブラーニングの要素を取り入れて授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。	アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブラーニングの要素を取り入れて授業を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。														
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブラーニングの要素を取り入れて授業を行う。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	家庭科教育法B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
准教授	竹中 真紀子	指定なし
非常勤講師	花形 美緒	指定なし

授業概要(教育目的)	体験的な学習活動を通して「家族・家庭」、「衣食住の生活」、「消費と環境」等の科学的な理解を図り「生活の営みに係る見方・考え方」を養う家庭科教員に必要とされる資質を身につけるための基本的な態度を養う。教科に関する学びの内容を踏まえ、グループによりテーマを定め、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業の実施という一連の流れを通して、学生同士が評価し合いながら実践力を高めることを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家政学と家庭科教育の歴史の変遷、家庭科教員として求められるカリキュラムマネジメントについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	成年年齢18歳引き下げを踏まえて、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度や主体的に地域社会と関わり、参画することができる。
技術・表現の観点 (A)	小・中・高等学校家庭科の系統性を明確化し「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」の三つの枠組みに整理し家庭科の授業を構成することができる。

学習計画

家庭科教育法B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などについて確認する。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分
第2回	家庭科の教材研究	家庭科の授業を計画する際に、教科書や資料集以外に日常生活の中から教材として用いることができるものについて考察する。実際に身の回りのものに目を向け、模擬授業に使用できるかどうかを検討する。	次時以降の模擬授業において、導入部分あるいは展開部分で使用できそうな教材や見本を、日常生活の中から探して持参できるように準備すること。	180分
第3回				180分

	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (1) 家族	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	
第4回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (2) 子ども	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (3) 高齢者	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (4) 食生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (5) 衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科の授業と学び	5回の模擬授業を通して、「生徒に伝わる家庭科の授業」の在り方について考察し、次回以降の模擬授業に活かす姿勢を養う。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第9回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (6) 住生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (7) 消費行動	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (8) 持続可能な社会環境	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第12回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (9) ライフステージと経済計画	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第13回	模擬授業の振り返り・考察	これまでの全ての模擬授業を振り返り、領域ごとに最も優れていた模擬授業を選び、考察する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	模擬授業の記録	前時に選ばれた模擬授業の担当者は再度授業を実施し、それを次年度以降の教材とするために動画として記録する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。また、次週のアースノート提出に向けて、ノート全体のまとめを完成させること。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、領域ごとの授業のポイントを確認し、学習指導案とも対応させて理解を定着させる。	授業全体をよく振り返り、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分

学生へのフィードバック方法

模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法	模擬授業については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	模擬授業	○	○	○	○
	アースノート	○			○
	定期試験	○			
評価割合	平常点（模擬授業の内容含む）：40%、授業記録（アースノートへの授業記録）：20%、定期試験：40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説（高等学校 家庭）／文部科学省（2019年3月15日現在、最新版入手不可） (2) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0）				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。				
オフィスアワー	専任教員について担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。				
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	家庭科教育法C		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし
教授	河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)	家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。
履修条件	家庭科教育法A・Bを履修していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点(K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点(A)	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書等について確認する。家庭科教育法A・Bの履修を通して学んだことを振り返り、家庭科教育法C・Dでどのように発展させるか、家庭科教員として自分自身の目指す教員像を思い描く。	予習として、自分自身の中学・高校時代での家庭科の学びについて振り返っておくこと。家庭科教育法A・Bで学んだ内容についても振り返っておくこと。	180
第2回	家庭科教育の目標と内容、授業形態、授業計画	改訂された家庭科の科目構成や学習指導要領について学び、授業計画の作成方法などについて理解する。	授業後に、授業のポイントを自分の言葉でまとめ、年間授業計画について授業で作成したものを直して置くこと。	180
第3回	家庭科教育の意義、指導方法	家庭科教育の意義について、家庭科に求められるものはどのように変化してきたのかを学ぶ。さらに家庭科教員としての指導方法について、担当教員の実際の学校での授業経験から考察する。	学習指導要領の改訂についてプリント等を整理しまとめること。自分自身がどのような家庭科の授業をしたいか、模擬授業	180

			の指導案作成時までに考えておくこと。
第4回	家庭科における家族・家庭及び福祉領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家族・家庭及び福祉領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
第5回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家庭経済・消費者領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
第6回	家庭科における食生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における食生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
第7回	家庭科における衣生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における衣生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
第8回	家庭科における住生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における住生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。
第9回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（1）家族・家庭及び福祉領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
第10回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（2）家庭経済・消費者領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
第11回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（3）食生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
第12回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（4）衣生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
第13回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（5）住生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。
第14回	教育実習報告会	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験授業（主に研究授業について）を、司会進行を分担しながら聴講する。教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、先輩の教育実習についての報告のポイントや感想をまとめておくこと。
第15回	学習指導案・模擬授業の考察および総括	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。	修正した箇所をポイントごとにまとめ、後期の授業や教育実習につなげられるようにしておくこと。

学生へのフィードバック方法

	模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。			
評価方法	模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自期末試験にまとめた内容を評価する期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
期末試験	○	○		
評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・40% 模擬授業への考察、相互評価・・・20% 定期試験・・・40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	中学校 技術・家庭科学学習指導要領解説 高等学校 家庭科学学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）			
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多様な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。			
学生へのメッセージ	家庭科教育法A、Bの学習指導案、模擬授業での省察を見直し、授業計画に合わせた授業を再構築し、また他の単元での授業構成について教材研究を進めておきましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法C		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深谷 敬子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

授業概要(教育目的)	家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容の確認をする。教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法を学び、模擬授業を通して家庭科の授業をつくる実践力を身につける。
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育法A、Bで学習した知識を深め、教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法をより実践的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	小・中・高等学校家庭科では「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」の三つの枠組みで系統だて高校ではホームプロジェクトや学校家庭クラブで社会貢献するよう指導する能力を養う。

学習計画

家庭科教育法C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書の確認。専用ノート(アースノート)の使い方を確認。家庭科A・Bの授業を振り返り、教育実習や教員となるイメージする。	家庭科教育法A・Bで学んだ内容について振り返りアースノートにまとめておくこと。	180分
第2回	家庭科教育とチーム活動を通じたリーダーシップ教育	家庭科教育法Cでチームを編成し教育課程の編成と指導計画の作成などに具体的な。教育評価(評価の意義と目的、評価の観点と目標)	授業後に、アースノートに家庭科教育法Cのポイントをまとめ直し、配布プリント等の内容を復習しておくこと。	180分
第3回	家庭科における持続可能な社会につながる学び	家庭科の目標と内容を理解し、持続可能な社会、SDGsやアクティブラーニング、科学的な視点、安全を意識しながら、指導に必要な知識と技術について認識する。2018年度家庭科教育法Cで作成した「江戸エコかるた」を学ぶ	予習として食品ロスに関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつ	180分

		活用した持続可能な社会につながる食育授業・消費生活環境を考える。	かった授業内容をまとめること。	
第4回	家庭科の特性と学習指導の形態・方法	家庭科の学習指導の特質や特徴的な指導法等について理解する。一斉指導、小集団学習、個別学習、アクティブラーニングの事例として知識構成型ジグソー法について実践的に学ぶ。	家庭科教育法Bで学んだ家庭科学習指導要領と授業の構築のあり方、家庭科の特徴ある指導について復習しておく。予習として家庭科学習指導の特質や特徴的な指導法、授業の構造、教材研究について理解し、全体計画を構想し、1時間の授業を構築できるようにしておく。	180分
第5回	家庭科の特性と学習指導の形態・方法	教科指導における情報通信技術（ICT）の活用、問題解決的な学習、実践的・体験的な学習、課題解決的な学習の指導を学ぶ。学校家庭クラブ活動とホームプロジェクトの事例をとおして持続可能な社会構築につながる社会貢献をする学習を学ぶ。	予習として家庭科の授業づくりについて、実際に教材研究を行い、指導細案を作成する。さらに教育方法及び技術について主体的・対話的で深い学びを実践する方法を考えておく。	180分
第6回	家族・家庭生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として生活設計に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第7回	衣生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として衣生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第8回	食生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として食生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第9回	住生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として住生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第10回	契約に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として契約に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第11回	消費生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として消費生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでおくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第12回	家庭科の施設設備 安全指導	学習環境の重要性とその条件について学び、家庭科の施設設備について理解する。実習室の使用、学習時の服装、校外での学習時等の安全指導について理解を深める。	中学校・高等学校の家庭科教室の施設設備について考えておく。実習時の安全指導についてまとめておく。	180分
第13回	4年生の教育実習体験を聞いて学ぶ（7月10日）	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験報告会について各チームで役割を担い、先輩との情報交換を行い教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、アースノートに先輩教員の講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	家庭科教育法Cで学んだ内容の振り返り	「江戸エコかるた」を活用した持続可能な社会につながる学習指導案の作成をする。学習指導全体についてのまとめ・学びの共有と振り返りを行う。	アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分

第15回	まとめ	これまでの1 業全体を振り返り、各授業のポイントを整 理し、教育実習の際の準備と心構えの意欲を高める。	授業全体をよく振り返り、定期 試験に向けて準備を行うこと。	180分	
学生へのフィードバック方法		各チームの発表についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。			
評価方法		グループごとのDVD教材分析や指導案の作成については、内容や発表態度を評価する。 アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要 領の理解に関する出題を行う。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	グループ発表	○		○	
	アースノート	○			○
	定期試験	○			○
評価割合		平常点 (DVD教材・指導案の作成含む) : 40% 授業記録 (アースノートへの授業記録) : 20% 定期試験 : 40%			
使用教科書名 (ISBN番号)		(1) 学習指導要領解説 (高等学校 家庭) / 文部科学省 (最新版入手不可?) (2) 学習指導要領解説 (中学校 技術・家庭) / 文部科学省 (978-4-304-02154-1) (3) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来 / 実教出版 (978-4-407- 20382-0) (4) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】 / 教 育出版 / (978-4-316-30052-8) (5) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 共通教科「家 庭」】 / (978-4-316-30073-3)			
参考図書		授業時に適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】 総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】 生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をするこ とができている。 【関心・意欲・態度】 生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができてい る。 【技能・表現】 健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができ ている。			
オフィスアワー		担当教員のゼミ室 (研究室) 前の掲示を確認してください。			
学生へのメッセージ		教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授 業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指 導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業 参加することが求められる。			
教育等の取組み状況					
	該当 有無	概要			
実務経験を活か した授業					
アクティブ・ ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、 受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。			
情報リテラシー 教育					
ICT活用	○				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法D		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし

授業概要(教育目的)	家庭科教育法Cを継続しながら家庭科の目標と学習内容を確認する。家庭科の授業づくりを通して学習指導の諸方法における留意点等また評価の意義、目的等を具体的に学び、家庭科教員としての実践力を養う。
履修条件	家庭科教育法Cを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業予定、評価方法などについて確認する。家庭科教育法Cの振り返りから、家庭科教育法Dの模擬授業時の目標を各自設定し、発表する。模擬授業の担当日や担当領域について決定する。	家庭科教育法Cで使用した学習指導案に目を通し、家庭科教育法Dで行う模擬授業時に自分が注意したい点や新たに挑戦したい点などについて箇条書きに書き出してくること。	180
第2回	実習授業の注意点	家庭科の授業のうち、実習を行う場合の注意点について学ぶ。調理実習や被服製作実習、幼児や高齢者とのふれあい実習などさまざまな実習を想定し、課題を発見する。	本授業で指定する家庭総合の教科書の相当するところを読んでおくこと。	180
第3回	実習授業の事前準備と指導方法	前時に確認した注意事項に加え、実習授業の際はどのような事前準備や連絡等が必要になるか理解する。指導方法、手順などの説明が生徒に伝わるようにはどのように工夫できるか検討する。	授業で学んだ点を自分なりにまとめ、担当する模擬授業でどのように活かせるか検討しておくこと。	180
第4回			自身の模擬授業ではどのようなワークシートを使用することが	180

	ワークシート作成の方法と注意点	家庭科の授業で使用するワークシートの作成について学ぶ。授業での効果的な使用法や評価標準などとともに、どのようなワークシートが適切か考察する。	できるか考えをまとめておくこと。	
第5回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、模擬授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第6回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第7回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第8回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第9回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第10回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第11回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第12回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第13回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第14回	家庭科の教材研究	家庭科の授業ではどのようなものを教材として用いることができるのか、例を提示し、授業内容を計画する。教材として導入に使用するもの、展開で使用するものなど具体的な授業を想定して深く理解する。	授業後に、実際に自分が授業で使用してみたい教材を身近なところから探しておくこと。各領域1点以上の教材を検討しておくこと。	180
第15回	学習指導案および模擬授業の省察、総括	学習指導案の作成方法を再度確認し、自身が模擬授業で用いた指導案を再評価し修正する。模擬授業で学んだこと、改善すべきことなど意見を交換し、教育実習に向けてのまとめとする。	教育実習に向けて、これまでの授業や模擬授業を振り返り、自分でまとめておくこと。教育実習にむけて、家庭科教育法で学んだことを活かせるようにしっかり省察しておくこと。	180

学生へのフィードバック方法	模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどフィードバックを行う。
評価方法	

		模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自期末試験にまとめた内容を評価する期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模擬授業	○	○	○	○
模擬授業の考察・相互評価	○	○	○	○
定期試験	○	○		
評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・40% 模擬授業への考察、相互評価・・・20% 定期試験・・・40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	中学校 技術・家庭科学習指導要領解説 高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）			
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多様な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。			
学生へのメッセージ	家庭科教育法Cでの学習指導案の作成、模擬授業の省察をとおして、中高生の生活実態を把握した授業内容になるよう、情報収集を回り、授業への資料となるよう整理しておきましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	家庭科教育法D		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深谷 敬子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

授業概要(教育目的)	家庭科教育法ABCの学びを総合して、家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を高める。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭科教員として、国際的視点なども踏まえ、学問的背景と今日的な家庭科の社会的視座を理解する。
思考・判断の観点 (K)	教育現場の現況を理解して、家庭科教員としてふさわしい見識を身につけ、授業を構築する考えや判断力を育成する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの教員としての資質を確認し、教壇に立つ上で不足している知識や、技能を身に付けようとする。
技術・表現の観点 (A)	家庭科の学習指導案の作成や模擬授業を行うことができ、家庭科の今日的な課題や実践的動向を知り、自らの授業の向上に取り組むことができる。

学習計画

家庭科教育法D

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などの確認。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分
第2回	模擬授業の意義と方法	模擬授業の実践をととして、相互の授業観察・評価について学ぶ。模擬授業では、教材の工夫、視聴覚教材、PCなどを用いた模擬授業の展開の実施を行い、主体的・対話的・深い学びの学習方法の学習指導案を創る。	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。	180分
第3回	学習指導案の作成・考察および模擬授業(1) 家族	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および	180分

		の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	
第4回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (2) 子ども	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (3) 高齢者	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (4) 食生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (5) 衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科の授業と学び	5回の模擬授業を通して、「生徒に伝わる家庭科の授業」の在り方について考察し、次回以降の模擬授業に活かす姿勢を養う。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第9回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (6) 住生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (7) 消費行動	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (8) 持続可能な社会環境	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第12回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (9) ライフステージと経済計画	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第13回	模擬授業の振り返り・考察	これまでの全ての模擬授業を振り返り、領域ごとに最も優れていた模擬授業を選び、考察する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	模擬授業の記録	模擬授業の観察と評価のまとめをする。授業力自己診断シート、相互授業観察シートのまとめをする。授業における教育方法と技術について、まとめる。	自分の模擬授業の授業構想、板書や資料の工夫、発問、机間指導など振り返って確認しておく。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、領域ごとの授業のポイントを確認し、学習指導案とも対応させて理解を定着させる。	授業全体をよく振り返り、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分
学生へのフィードバック方法		模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。		
評価方法		模擬授業については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。		
評価基準				

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模擬授業	○		○	○
アースノート	○			○
定期試験	○			
評価割合	平常点（模擬授業の内容含む）：40% 授業記録（アースノートへの授業記録）：20% 定期試験：40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説（高等学校 家庭）／文部科学省（最新版入手不可？） (2) 学習指導要領解説（中学校 技術・家庭）／文部科学省（978-4-304-02154-1） (3) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0） (4) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】／教育出版／（978-4-316-30052-8） (5) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 共通教科「家庭」】／（978-4-316-30073-3）			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。			
オフィスアワー	担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。上村 1805ゼミ室 前期：水曜日 4限 後期：火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。			
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	道徳教育論 (小)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)

- ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。
- ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
- ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
- ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。
- ・1人または1グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解している。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどのような時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳教育の歴史 I	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第3回	近代日本における道徳教育の歴史 II	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第4回				180分

	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学生へのフィードバック方法	講義形式、ときに、意見を求める。資料をたくさん配布する。資料を読みこなせる能力を求める。 模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。			
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「心に残る言葉」発表			○	○
学習指導案の作成と修正	○	○	○	

模擬授業		○	○	○															
授業への取り組み			○																
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の修正 (20%) 模擬授業実技 (30%) 平常点 (30%) 																		
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省『平成30年 中学校道徳学習指導要領解説 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）																		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版1994年） 井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年 河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol. 32 2006年） 三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol. 32 2006年 ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年 他 																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>																		
オフィスアワー	随時対応します。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。 																		
教育等の取り組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>ディスカッション、模擬授業、発表を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション、模擬授業、発表を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業																			
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション、模擬授業、発表を行う。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	道徳教育論（中・高）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

授業概要(教育目的)

- ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。
- ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
- ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
- ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。
- ・1人または1グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解している。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどのような時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳教育の歴史 I	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第3回	近代日本における道徳教育の歴史 II	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	第3回レジュメを良く読んでおくこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第4回				180分

	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3~4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学生へのフィードバック方法	講義形式、ときに、意見を求める。資料をたくさん配布する。資料を読みこなせる能力を求める。 模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。			
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「心に残る言葉」発表			○	○
学習指導案の作成と修正	○	○	○	

模擬授業		○	○	○															
授業への取り組み			○																
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の修正 (20%) 模擬授業実技 (30%) 平常点 (30%) 																		
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省『平成30年 中学校道徳学習指導要領解説 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）																		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版1994年） 井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年 河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol. 32 2006年） 三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol. 32 2006年 ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年 他 																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>																		
オフィスアワー	随時対応します。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。 																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>ディスカッション、模擬授業、発表を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション、模擬授業、発表を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業																			
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション、模擬授業、発表を行う。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	特別活動論（中・高）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学ぶ。</p> <p>将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の教育の課題と特別活動の意義の理解 他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢 生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を培う。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	教員免許資格に必要
------	-----------

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別活動論の課題と目的—授業ガイダンス	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。	今までの学校生活をふり返り、児童の学校生活充実の条件を考える。	180分
第2回	特別活動実践演習ホームルーム開き	特別活動の一つであるホームルーム活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。	子ども時代の新年度の様子をふり返る。	180分
第3回	教育の目的と特別活動 1 エピソード記述から探る子どもの願い	絵日記ワークにより、生徒にとって楽しい学校となるために条件を探る。	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。	180分

第4回	教育の目的と特別活動 2 学級班活動による教育目標の検討	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。	180分
第5回	教育の目的と特別活動 3 生徒の視点から見た教育の目的 (BRD)	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。	180分
第6回	コミュニケーション能力の育成と特別活動	今日の生徒にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。	コミュニケーション能力を育てるための、ホームルーム活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク 演習1 (ホームルーム活動)	児童のコミュニケーション能力を高めるホームルーム活動を、グループで計画し模擬実践する。(アクティブラーニング)	コミュニケーションワークを調査する (ICT活用)	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク 演習2 (学校行事)	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。(アクティブラーニング)	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。(ICT活用)	180分
第9回	BRD 今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。	180分
第10回	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。	教師の教育実践に関する図書を読む。	180分
第11回	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。	教育に関わる法・条約を調べる。	180分
第12回	特別活動校外授業—下見計画実習1 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第13回	特別活動校外授業—下見計画実習2 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第14回	特別活動の指導案	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。	指導案を記述する。	180分
第15回	特別活動の課題と展望 (BRD)	今日の生徒の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク (指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど) ・ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	特別活動指導案の完成度。 グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。

		適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD（当日ブリーフレポート）による。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	特別活動指導案	○		○	○
	プレゼンテーション		○	○	○
	ミニテスト	○			
	レポート		○	○	○
評価割合		特別活動指導案 (30%) プレゼンテーション (30%) ミニテスト (10%) BRD (当日ブリーフレポート) (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)		特に使用しない。 必要に応じて授業内で指定する。			
参考図書		折出健二編『特別活動』学文社			
ディプロマポリシーとの関連					
オフィスアワー		火曜日 3限1607研究室			
学生へのメッセージ		今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子ども時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。			
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。			
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	特別活動論 (小)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」(小学校学習指導要領)ことが目標とされている。 授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と子どもの現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的(教育基本法)の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別活動論の課題と目的—授業ガイダンス	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。	今までの学校生活をふり返し、児童の学校生活充実の条件を考える。	180分
第2回	特別活動実践演習 学級開き	特別活動の一つである学級活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。	子ども時代の新年度の様子をふり返る。	180分
第3回	教育の目的と特別活動 1 エピソード記述から探る子どもの願い	絵日記ワークにより、児童にとって楽しい学校となるために条件を探る。	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。	180分
第4回				180分

	教育の目的と特別活動 2 学級班活動による教育目標の検討	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。	
第5回	教育の目的と特別活動 3 生徒の視点から見た教育の目的（BRD）	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。	180分
第6回	コミュニケーション能力の育成と特別活動	今日の児童にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。	コミュニケーション能力を育てるための、学級活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク演習1（学級活動）	児童のコミュニケーション能力を高める学級活動を、グループで計画し模擬実践する。（アクティブラーニング）	コミュニケーションワークを調査する（ICT活用）	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習2（学校行事）	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。（アクティブラーニング）	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。（ICT活用）	180分
第9回	BRD 今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。	180分
第10回	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。	教師の教育実践に関する図書を読む。	180分
第11回	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。	教育に関わる法・条約を調べる。	180分
第12回	特別活動校外授業—下見計画実習1（多摩動物公園）	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第13回	特別活動校外授業—下見計画実習2（多摩動物公園）	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第14回	特別活動の指導案	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。	指導案を記述する。	180分
第15回	特別活動の課題と展望（BRD）	今日の児童の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				
学習計画注記		学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。講義・グループワーク（指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。		
学生へのフィードバック方法		学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。		
評価方法		特別活動指導案の完成度。グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD（当日ブリーフレポート）による。		
評価基準				

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
特別活動指導案	○		○	○
プレゼンテーション		○	○	○
ミニテスト	○			
レポート		○	○	○

評価割合	特別活動指導案 (30%) プレゼンテーション (30%) ミニテスト (10%) BRD (当日ブリーフレポート) (30%)															
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。 必要に応じて授業内で指定する。															
参考図書	折出健二編『特別活動』学文社															
ディプロマポリシーとの関連																
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室															
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子ども時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>パワーポイントによるプレゼンテーション。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。	情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。	ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。														
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。														
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。														

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育方法・技術論（幼・小）		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点をすれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育に必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する問題点が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	情報機器の活用を図ることが出来る。

学習計画

教育方法・技術論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、西洋における教育方法(19世紀前半まで)	西洋における教育方法(19世紀前半まで) ペーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第1章(p10~18)を読んでおくこと。	120分
第2回	2 西洋における教育方法(19世紀後半から)	西洋における教育方法(19世紀後半から) デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	教科書の第2章(p20~28)を読んでおくこと。	120分
第3回	3 日本における教育方法	日本における教育方法を理解する。	教科書の第3章(p30~38)を読んでおくこと。	120分

第4回	4 学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第4章（p40～48）と第5章（p50～59）を読んでおくこと。	120分
第5回	5 学びあい	学びあいを理解する。	教科書の第6章（p62～71）を読んでおくこと。興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	180分
第6回	6 教育の道具・素材・環境、教育機器とICT	教育の道具・素材・環境、教育機器とICTを理解する。	教科書の第7章（p74～83）と第8章（86～94）を読んでおくこと。	120分
第7回	7 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。	教科書の第9章（p96～106）と12章（p130～139）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、定期試験	これまでの学習をまとめるとともに定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめをする。	270分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。
---------------	---------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		○
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合	定期試験（70%）平常点（30%）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
------	----------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	齋藤義雄『教育方法・技術論—主体的・対話的で深い学びに向けて—』大学図書出版 2018年
-----------------	----------------------------------------------

参考図書	『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年 他は、授業で紹介する。
------	---------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	授業の前後 授業教室または随時1628研究室
---------	------------------------

学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身につけてもらう。身につけた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ICTについての理解し、活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育方法・技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点をすれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育に必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する問題点が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教育方法・技術論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、西洋における教育方法(19世紀前半まで)	西洋における教育方法(19世紀前半まで) ペーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第1章(p10~18)を読んでおくこと。	120分
第2回	2 西洋における教育方法(19世紀後半から)	西洋における教育方法(19世紀後半から) デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	教科書の第2章(p20~28)を読んでおくこと。	120分
第3回	3 日本における教育方法	日本における教育方法を理解する。	教科書の第3章(p30~38)を読んでおくこと。	120分

第4回	4 学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第4章（p40～48）と第5章（p50～59）を読んでおくこと。	120分
第5回	5 学びあい	学びあいを理解する。	教科書の第6章（p62～71）を読んでおくこと。興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	180分
第6回	6 教育の道具・素材・環境、教育機器とICT	教育の道具・素材・環境、教育機器とICTを理解する。	教科書の第7章（p74～83）と第8章（86～94）を読んでおくこと。	120分
第7回	7 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。	教科書の第9章（p96～106）と12章（p130～139）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、定期試験	これまでの学習をまとめるとともに定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめをする。	270分

学生へのフィードバック方法	授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。
---------------	---------------------------------------------------------------

評価方法	定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		○
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合	定期試験（70%）平常点（30%）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等
------	----------------------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	齋藤義雄『教育方法・技術論—主体的・対話的で深い学びに向けて—』大学図書出版 2018年
-----------------	----------------------------------------------

参考図書	『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年 他は、授業で紹介する。
------	---------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	授業の前後 授業教室または講師控室
---------	-------------------

学生へのメッセージ	教員免許は、取得するだけではなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身につけてもらう。身につけた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ICTについての理解し、活用する。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生徒指導論（小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	子どもの学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として子どもを理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	子どもと対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・子どもの自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習—学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える。	120分
第3回	体験的教師生徒関係論—生徒指導の目標(絵日記ワーク)	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 アクティブラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分
第4回		絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分

	教育の目標と生徒指導 (BRD)			
第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる分権を下调させる。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働・学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導 (BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望 (BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返り、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
生徒指導案	○	○		
模擬授業・プレゼンテーション			○	○
ミニテスト	○			
レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案 (30%) 模擬授業・プレゼンテーション (30%) ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) (40%)	
使用教科書名 (ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2019』かもがわ出版	
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書	
ディプロマポリシーとの関連		
オフィスアワー	火曜日 3 限1607研究室	
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や子どもの実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生徒指導論（中・高）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として生徒を理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・生徒の自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習—学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	体験的教師生徒関係論—生徒指導の目標(絵日記ワーク)	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 アクティブラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分
第4回	教育の目標と生徒指導(BRD)	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分

第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPAGを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働-学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導 (BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望 (BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返し、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。				
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。				
評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	生徒指導案	○	○		
	模擬授業・プレゼンテーション			○	○
	ミニテスト	○			
	レポート	○	○		○
評価割合	生徒指導案 (30%) 模擬授業・プレゼンテーション (30%)				

	ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）（40%）	
使用教科書名（ISBN番号）	日本子どもを守る会編『子ども白書2019』かもがわ出版	
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書	
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室	
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生徒指導論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	教員免許資格に必要
------	-----------

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として生徒を理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・生徒の自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習ー学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	体験的教師生徒関係論ー生徒指導の目標(絵日記ワーク)	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 7アクティブ・ラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分
第4回				120分

	教育の目標と生徒指導 (BRD)	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	
第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関する諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を調べます。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働-学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導 (BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・IGT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・IGT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・IGT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・IGT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望 (BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返り、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
生徒指導案	○	○		
模擬授業・プレゼンテーション			○	○
ミニテスト	○			
レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案 (30%) 模擬授業・プレゼンテーション (30%) ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) (40%)	
使用教科書名 (ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2018』本の泉社	
参考図書	生徒指導提要 (文部科学省)	
ディプロマポリシーとの関連		
オフィスアワー	火曜日 3 限1607研究室	
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育相談論（幼・小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 教育相談とは何かを理解する。 2. 教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 3. 教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ——教育相談の目的と領域——	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	学校における「相談」とは	学校における「相談」とは何かを知る。	「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	180分
第3回	問題行動はいつ起きる？1	ストレスの仕組みについて理解する。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

	——ストレスの仕組み——			
第4回	問題行動はいつ起きる？ ——子どもの発達と「困りごと」——	教育現場における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション 1 ——カウンセリングと心理療法——	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション 2 ——カウンセリングによる問題解決の手法——	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション 3 ——ラポールの形成の手法——	ラポールとは何かを知り、どのように形成するのか、その手法を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	教育相談でのコミュニケーション 4 ——集団を活かす——	集団を活かした教育相談の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	中間総括 (中間試験)	これまでの教育相談の理論をふりかえり、どの程度理解しているのかを自分で確認し、この後の実践的な学びにつなげる。	事前に配布された資料や自分のノートをよく確認し、全てわかるようにしておく。	180分
第10回	個別対応の実際 1 ——ラポール形成編——	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第11回	個別対応の実際 2 ——問題への対応編——	教育現場における問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第12回	個別対応の実際 3 ——青年期問題編——	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際 1 ——発達障害の子どもの世界——	発達障害の子どもには世界はどう見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもに対応するのかを具体的に考える。	180分
第14回	集団対応の実際 2 ——合理的配慮とアセスメント——	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回				180分

<p>集団対応の 実際③ ——集団を 対象とした 予防・開発 的取り組 み、グルー プマネー ジメント——</p>	<p>集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。ワークブックに基づいて学習する。</p>	<p>事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。</p>																											
<p>学習計画注記</p>	<p>講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。</p>																												
<p>学生へのフィードバック方法</p>	<p>1. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 2. ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。</p>																												
<p>評価方法</p>	<p>出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲と態度、中間試験の評価、最終課題の評価をもとに総合評価を行う。</p>																												
<p>評価基準</p>																													
<p>評価基準</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席カード (コメント式)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ワークブック</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>最終課題</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	中間試験	○	○			出席カード (コメント式)		○	○	○	ワークブック	○	○		○	最終課題	○	○	○	○				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
中間試験	○	○																											
出席カード (コメント式)		○	○	○																									
ワークブック	○	○		○																									
最終課題	○	○	○	○																									
<p>評価割合</p>	<p>出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲、態度を30% 中間試験の評価を35% 最終課題の評価を35% として、総合評価を行う。</p>																												
<p>使用教科書名 (ISBN番号)</p>	<p>特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。</p>																												
<p>参考図書</p>	<p>自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房 を推奨する。このほか適宜、授業の中で紹介する。</p>																												
<p>ディプロマポリシーとの関連</p>	<p>【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>																												
<p>オフィスアワー</p>	<p>(町田キャンパス1633室) 前期：月曜日3限、5限 後期：月曜日お昼休み、4限</p>																												
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。</p>																												
<p>教育等の取組み状況</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。	アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。	情報リテラシー教育			ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。														
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。																											
アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。																											
情報リテラシー教育																													
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。																											

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育相談論（中・高）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)	
------------	--

学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	1. 教育相談とは何かを理解する。 2. 教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 3. 教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画	
------	--

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ——教育相談の目的と領域——	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	学校における「相談」とは	学校における「相談」とは何かを知る。	「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	180分
第3回	問題行動はいつ起きる？1	ストレスの仕組みについて理解する。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

	——ストレスの仕組み——			
第4回	問題行動はいつ起きる？2 ——子どもの発達と「困りごと」——	学校における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション1 ——カウンセリングと心理療法——	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション2 ——カウンセリングによる問題解決の手法——	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション3 ——ラポールの形成の手法——	ラポールとは何かを知り、どのように形成するのか、その手法を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	教育相談でのコミュニケーション4 ——集団を活かす——	集団を活かした教育相談の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	中間総括（中間試験）	これまでの教育相談の理論をふりかえり、どの程度理解しているのかを自分で確認し、この後の実践的な学びにつなげる。	事前に配布された資料や自分のノートをよく確認し、全てわかるようにしておく。	180分
第10回	個別対応の実際1 ——ラポール形成編——	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第11回	個別対応の実際2 ——問題への対応編——	学校における問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第12回	個別対応の実際3 ——青年期問題編——	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際1 ——発達障害の子どもの世界——	発達障害の子どもの世界はどのように見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもの世界に対応するのかを具体的に考える。	180分
第14回	集団対応の実際2 ——合理的配慮とアセスメント——	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回				180分

<p>集団対応の 実際③ ——集団を 対象とした 予防・開発 的取り組 み、グルー プマネー ジメント——</p>	<p>集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グループマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。ワークブックに基づいて学習する。</p>	<p>事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。</p>																											
<p>学習計画注記</p>	<p>講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。</p>																												
<p>学生へのフィードバック方法</p>	<p>1. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 2. ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。</p>																												
<p>評価方法</p>	<p>出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲と態度、中間試験の評価、最終課題の評価をもとに総合評価を行う。</p>																												
<p>評価基準</p>																													
<p>評価基準</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席カード (コメント式)</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>ワークブック</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>最終課題</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	中間試験	○	○			出席カード (コメント式)		○	○	○	ワークブック	○	○		○	最終課題	○	○	○	○				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
中間試験	○	○																											
出席カード (コメント式)		○	○	○																									
ワークブック	○	○		○																									
最終課題	○	○	○	○																									
<p>評価割合</p>	<p>出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲、態度を30% 中間試験の評価を35% 最終課題の評価を35% として、総合評価を行う。</p>																												
<p>使用教科書名 (ISBN番号)</p>	<p>特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。</p>																												
<p>参考図書</p>	<p>自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房 を推奨する。このほか適宜、授業の中で紹介する。</p>																												
<p>ディプロマポリシーとの関連</p>	<p>【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相談的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>																												
<p>オフィスアワー</p>	<p>(町田キャンパス1633室) 前期：月曜日3限、5限 後期：月曜日お昼休み、4限</p>																												
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。</p>																												
<p>教育等の取組み状況</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。	アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。	情報リテラシー教育			ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。														
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。																											
アクティブ・ラーニング	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。																											
情報リテラシー教育																													
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。																											

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習指導（中等）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	本授業は、教育実習そのものである。教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかりとれるようになり、担当授業の教材研究・学習指導案作成・実践、生徒との関わり方、担任業務ができるようになることを目的とする。
履修条件	教育実習派遣規程を満たしていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	教育実習校で授業を行える家庭科に関する専門的知識・理解、担任としての生徒指導に関する知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育実習時に教師として思考・判断する力がある。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるために必要な教職への意欲・関心が態度として示されている。学校現場の先生方と積極的にコミュニケーションを取れる。
技術・表現の観点 (A)	生徒に教える技術・表現力を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習事前指導	教育実習先と連絡を取り、オリエンテーションの日時を確認する。教育実習の心構え、教育実習ノートの書き方等を学ぶ。	教育実習先へは、きちんと連絡を取り、使用教科書、実習中に担当させて頂ける授業の単元、実習日程等をしっかりと事前に把握しておくこと。	120分
第2回	実習校で実施する授業の事前練習	実習校で担当することを指示された授業範囲について模擬授業で事前練習を行う。	本授業時間だけでは、担当させて頂ける授業の模擬授業を出来ない場合は、指導教員と相談し、授業時間外に模擬授業を最低1回はすること。実習先でさせて頂ける授業については綿密にしっかりと授業計画を練っておくこと。生徒の前に立つたら、実習生とはいえ、プロ意識を持って授業ができるだけの準備をすること。	240分
第3回		教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。		240分

	事前模擬授業		研究公開授業に指定された単元については、2回以上の模擬授業を事前に行った上で、実習先の担当の先生のご指導を受けるようにすること。	
第4回	教育実習事前模擬授業	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。	教室外学習教材研究を充分行い、模擬授業を実施すること。	240分
第5回	教育実習事前模擬授業	教育実習で担当させて頂ける授業の模擬授業を実施する。当該分野の専門の先生にご指導頂くこともある。	本授業内で専門の先生にいらして頂けない場合は、専門分野の先生のところへ伺い、ご指導を受けること。	240分
第6回	教育実習事後指導	教育実習修了後の反省と御礼状の書き方。教育実習ノートの提出と受け取りについて学ぶ。	教育実習校への御礼状は、教育実習修了後1週間以内にお送りすること。教育実習ノートは、実習修了日に担当の先生に伺った上で校長先生に提出すること。	120分
第7回	教育実習報告会	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会で発表する。	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。	180分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	模擬授業の指導、質問には随時対応します。
---------------	----------------------

評価方法	教育実習への取り組み姿勢 (50%) 模擬授業 (50%)
------	----------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教育実習への取り組み姿勢		○	○	○
模擬授業	○	○	○	○

評価割合	実習校の評価を重視する。
------	--------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。
-----------------	-------

参考図書	授業中適宜、紹介する。
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる</p> <p>【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	担当教員が随時対応できる態勢を整えている。
---------	-----------------------

学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この実習において欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業

情報リテラシー教育	<input type="radio"/>	教材研究における情報活用
ICT活用	<input type="radio"/>	学校現場でICTを活用した授業ができるようにする。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)	教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加(派遣)基準に合致していること。
履修条件	3年生前期までの教職科目がすべて履修済みであること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	教材研究と子ども理解を中心に、教育実習の基本事項を理解すること
思考・判断の観点 (K)	教育実習に必要な技術、および心構えについて思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	大学での学修内容を教育実習で活かしていくために、積極的に情報を収集すること
技術・表現の観点 (A)	教育実習に必要な理解と学修内容について、相手に合わせた適切な発信ができること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教育実習とは何か	実習ノートを書く。	180分
第2回	教育実習とは何か	教育実習のビデオ鑑賞、実習記録の書き方・要点指導	実習ノートを書く。	180分
第3回	教育実習とは何か	教育実習の評価基準とは何か、子ども理解と教材分析	実習ノートを書く。	180分
第4回	教育実習のまとめ方について	教育実習後に開催される教育実習報告会に向けて、報告書のまとめ方を学ぶ。また、教育実習先の学校、地域についての理解を深め、まとめる。	予習として、学校の概要、案内、指導案など、集められる資料を集めておく(90分)。復習として、教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報を集め、まとめる(90分)。	180分
第5回				180分

	教育実習での生徒理解に向けての準備	教育実習中に重要となる生徒理解のレディネスを高める。そのため、教育実習に必要なこと、目指したい教師像、楽しみにしていることなどをグループワーク形式で検討し、自分の強みを知り、弱みを解決する方法を検討する。	予習として、既にまとめている教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報をあらかじめ見直し、加えて自分の強み、弱みへの理解を深めておく（90分）。復習として、自分の強みを生かし、自分の弱みを解決する方法を考える。	
第6回	教育実習報告 1	家庭科教育法Aの授業履修中の学生（主に学部2年生）を対象として教育実習の報告を行う。家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたかを中心に報告する。教育実習中の研究授業・学習指導案を提示しながら、生徒の授業中の様子・反応をまとめ、評価する。地域や学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするには、家庭科教材研究としてどのような準備をして深めておけばよかったかを、発表する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。	180分
第7回	教育実習報告 2	家庭科教育法Cの授業履修中の学生（主に学部3年生）を対象教育実習の報告を行う。教育実習校の特色・生徒・家庭科の教員・実習室の様子、家庭科年間計画などを説明し、家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたか、実習先を選ぶときにどのような点を留意すべきか、実習校の家庭科教員との連絡の取り方、など教育実習準備をしておくべきかを発表する。また、研究授業・学習指導案を提示しながら、題材設定の理由の記載方法や評価する。学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩に提示する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分
第8回	教育実習をふりかえる	教育実習全体をふりかえり、地域・学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩からのレスポンスシートに記入し、受講生全員で教育実習をふりかえり意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分

学習計画注記	※受講生の教育実習の日程や、質疑応答・討論を中心に展開する。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	授業で提出した課題、製作物については採点后、可能な限り返却する。返却できないものは、担当教員による口頭でのコメント、画像や動画として電子ファイルで返却するなどして、フィードバックする。
評価方法	実習報告会と受講態度の総合評価
評価基準	
評価基準	
評価割合	出席および毎時のレポートにより評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	毎回、プリントを用意する。
参考図書	講義の中で、適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識をえること 思考・判断力、めざすべき姿の教育を追究し、判断できること 表現など、学んだことを適確に表現できること
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校

運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この講義の欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習 A		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)

中学校または高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う一般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりとしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかりと考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかりと行き、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。	120分
第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	180分
第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。		120分

			学校現場で活用されている教材をしっかりと見直し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	
第5回	学修指導案の作成	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようにすること。	120分
第6回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第7回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第8回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第9回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(1)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	120分
第10回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(2)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこと。	120分
第11回	研究公開授業の準備(1)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	240分
第12回	研究公開授業の準備(2)	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをしに行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。	240分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	240分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちん挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出して頂くこと。	120分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	240分

学生へのフィードバック方法	実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。公開研究授業を大学教員が参観する。			
評価方法	教育実習校における評価が大部分を占める(90%)。状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある(10%)。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	
事前準備	○	○	○	
評価割合	実習校の評価(90%) 特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。(10%)			
使用教科書名(ISBN番号)	文部科学省『中学校学習指導要領 家庭科』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭科』			

	文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭科』 家庭科の教科書	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと	
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありますが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習 A		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。																												
履修条件	教育実習派遣基準に合格していること																												
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)																												
	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td colspan="4">総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td colspan="4">子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td colspan="4">子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td colspan="4">子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現（コミュニケーション）の獲得</td> </tr> </table>				知識・理解の観点 (K)	総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす				思考・判断の観点 (K)	子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く				関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成				技術・表現の観点 (A)	子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現（コミュニケーション）の獲得								
知識・理解の観点 (K)	総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす																												
思考・判断の観点 (K)	子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く																												
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成																												
技術・表現の観点 (A)	子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現（コミュニケーション）の獲得																												
評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価																												
評価基準	評価基準																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習校の評価</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	実習校の評価	○	○	○	○	平常点			○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
実習校の評価	○	○	○	○																									
平常点			○																										
評価割合	実習校の評価9割と平常点1割																												
参考図書	教育実習事前指導で渡している資料など																												
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、教育現場で、子どもたちに分かる学習を保障するための知識の獲得 思考・判断、子どもの寄り添う資質能力を培い、子どもに考えさせる自らの思考の獲得																												

	意欲・態度、子どもの学習を成立させるためにあらゆる努力を惜しまない態度の形成 表現と提案、子どもと会話ができるコミュニケーション能力と問題提示の能力形成	
オフィスアワー	水曜4限	
学生へのメッセージ	教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかも知れない。実習中は、それほど、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだと、誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習B		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりとしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかりと考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかりと行き、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。	120分
第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	120分
第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。		90分

	家庭科の教科書	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>	
オフィスアワー	教育実習中なのでアポイントメントにより時間調整を行うこと。	
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありますが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験のある先生方に囲まれて教育実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教育実習B		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加(派遣)基準に合致していること。			
履修条件	3年生前期までに教育実習派遣基準に合格していること			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
知識・理解の観点(K)	総合家政学の立場に立って、生活課題を子どもに提示できる知識の獲得			
思考・判断の観点(K)	子どもの学習の理解という立場に立って、如何に、学習が成立するのか、そのための思考と判断の獲得			
関心・意欲・態度の観点(V)	子どもの学習が成立するために如何に努力するべきか、そのための努力を惜しまない意欲の形成			
技術・表現の観点(A)	子どもと会話するためのコミュニケーション能力と問題課題解決のための提示能力の形成			
評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
実習校の評価	○	○	○	○
平常点			○	
評価割合	実習校の評価9割と平常点1割			
参考図書	教育実習事前指導における資料など			
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、総合家政学の立場を生かし、生徒の学習を成立させるための知識の獲得 思考・判断、子どもの立場に立って、如何に生徒が理解できるのか、そのための思考判断			

	<p>の獲得 意欲・態度、子どもの学習を成立させるためのあらゆる努力を続けるための意欲と態度の形成 表現と提案、子どもと会話できるためのコミュニケーション能力と問題解決のための提示能力の形成</p>	
オフィスアワー	水曜4限	
学生へのメッセージ	<p>教材研究のために、睡眠時間も極端に減るかも知れない。実習中は、それだけ、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだ、と誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養教育実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし

授業概要(教育目的)

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項及び学校給食管理の学びについては、栄養士免許取得必須科目としてすでに習得済みである。したがって、本授業では包括的な内容で実習指導を行うことを目的とする。また事前指導においては細かい連絡等も行うため必ず毎時間出席すること。本授業は栄養教育実習及び教職実践演習(栄養)と一年間の流れで実施する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場で必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習前オリエンテーション	栄養教育実習に行くための準備について学ぶ	教育実習校について学びを深めておく	90分
第2回	栄養教育実習記録の書き方など	栄養教育実習記録の書き方など事前準備から最終評価まで流れを学ぶ	栄養教育実習記録について事前に中身を確認しておく	90分
第3回	教育実習参加にあたっての諸注意	教育実習参加にあたっての諸注意について学ぶ	教育実習参加にあたっての心構え及び身支度等の諸注意について考える	90分
第4回	関連授業と授業参観の方法	関連授業と授業参観の方法について学ぶ	食の指導に関連する授業と各種授業参観の方法について考える	90分
第5回	学校組織の理解	学校の組織について学ぶ	学校の組織について理解を深め、どのように協働すべきか考える	90分

第6回	栄養教諭の職務内容とその心構え	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学ぶ	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学びを深める	90分	
第7回	教育実習校の教諭との連携	教育実習校の教諭との連携について学ぶ	教育実習校の教諭との連携について学びを深める	90分	
第8回	模擬授業の準備①指導案作り	模擬授業の準備として指導案作りについて学ぶ	模擬授業の準備として指導案作りを行う	90分	
第9回	模擬授業の準備②教材づくり	模擬授業の準備として教材づくりを学ぶ	模擬授業の準備として教材づくりを行う	90分	
第10回	模擬授業の模擬体験①指導案を使用して模擬授業	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として指導案を使用しての模擬授業準備を行う	90分	
第11回	模擬授業の模擬体験②教材も使用しての実践模擬授業	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業準備を行う	90分	
第12回	教育実習後のオリエンテーション	教育実習後の報告発表の準備について学ぶ	教育実習後の報告発表の準備を行う	90分	
第13回	栄養教育実習記録の整理・報告書作成	栄養教育実習記録の整理・報告書作成について学ぶ	栄養教育実習記録の整理・報告書を作成する	90分	
第14回	実習の自己評価と報告会準備	実習の自己評価と報告会準備について学ぶ	実習の自己評価と報告会準備を行う	90分	
第15回	栄養教育実習報告会	栄養教育実習報告会を行う	栄養教育実習報告会について準備する	90分	
学習計画注記		教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に指導教諭と協議し栄養教育実習に出るための準備を行い、実習校及び指導教諭と連絡を取り合うことが必要である。			
学生へのフィードバック方法		個別に指導案及び教材等、また教育実習に出るための事前準備・事後指導内容について授業中に解説を行ったり、添削して返却する。			
評価方法		教育実習に行くための事前準備の取り組み及び報告書作成などの事後の取り組み、さらに報告発表会及び平常点で評価する。(平常点は授業への参加状況や教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	報告発表会	○	○	○	○
	レポート	○	○		
評価割合		平常点30%、報告発表会40%、その他報告書作成等のレポート作成30% (平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度及び報告発表会の準備など総合的に評価する)			
参考図書		小学校学習指導要領 (文部科学省) 中学校学習指導要領 (文部科学省)			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】 栄養教諭として現場で必要な知識を理解している。 【思考・判断】 栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける。 【関心・意欲・態度】 栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々とは協働するための共感性をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。 【技術・表現】 食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる。			
オフィスアワー		月曜日3時間目 1605教室			

学生へのメッセージ

栄養教諭になるための教育実習にできるように、教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習にできるように課題発見力・課題解決学習について模擬授業発表練習を通じて学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	栄養教育実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし

授業概要(教育目的)

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う一般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々との関わりに、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習一日目①	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第2回	教育実習一日目②	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第3回	教育実習一日目③	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第4回	教育実習二日目①	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第5回	教育実習二日目②	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第6回	教育実習二日目③	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第7回	教育実習三日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分

第8回	教育実習三日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第9回	教育実習三日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第10回	教育実習四日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第11回	教育実習四日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第12回	教育実習四日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第13回	教育実習五日目①	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第14回	教育実習五日目②	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第15回	教育実習五日目③	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分

学習計画注記	教育実習内容は教育実習校と打ち合わせて決めるため、自ら積極的に実習校と連絡を取り合う必要がある。																												
学生へのフィードバック方法	栄養教育実習記録に実習中の学びについての評価は、教育実習校の指導教諭からコメントで返却される。																												
評価方法	教育実習校からの実習評価と「栄養教育実習記録」及び報告発表会及び平常点で評価する。(平常点は教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する)																												
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育実習校の評価</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>栄養教育実習記録</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>報告発表会</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	教育実習校の評価	○	○	○	○	栄養教育実習記録	○	○	○		報告発表会	○	○	○	○					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
教育実習校の評価	○	○	○	○																									
栄養教育実習記録	○	○	○																										
報告発表会	○	○	○	○																									
評価割合	教育実習校の評価90%、栄養教育実習記録5%、報告発表会5%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定はない																												
参考図書	小学校学習指導要領 (文部科学省) 中学校学習指導要領 (文部科学省)																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 栄養教諭として現場に必要な知識を理解している事に該当。</p> <p>【思考・判断】 栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける事に該当。</p> <p>【関心・意欲・態度】 栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。</p> <p>【技術・表現】 食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる事に該当。</p>																												
オフィスアワー	月曜日3時間目 1605教室																												
学生へのメッセージ	栄養教諭になるための教育実習であるため、教育現場で教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要																						
	該当有無	概要																											

実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習を通じて、課題発見力・課題解決学習について学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（小）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)

教育実習に先立つ事前指導と事後指導を通して教育実習の意義を確かめ、教育実習生としての基礎的知識と基本的技能を修得する。教育実習生の立場や心得、勤務形態、児童の心理、学習指導要領とカリキュラムマネジメント、教育目標に準拠する学級経営、生徒指導と教科指導、教材研究などに関する留意事項を理解する。教育実習生としての真摯な姿勢、教育職員としての責任感や態度を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校実習（初等教育実習C）に取り組むための基礎事項を理解し、教育の現場で学ぶための実践的・専門的な知識を実践活動に関連づけられる。
思考・判断の観点 (K)	今日的な課題や地域の実態に応じて教育実践の内容と方法を検討し、教育の目標の達成に向けたよりよい指導を改善する視点と判断力を発揮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの人権や個性を尊重し、地域に根ざす学校の教育目標や学校・学年・学級経営方針に即して実践的な知識・技能を学ぶ協調性や姿勢を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	個や状況に応じて学習・生活指導を行うための基礎となる表現力や対話力、教科指導における基本的な技能を実践場面で活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習の意義と目的・実習校の選択ガイドダンス	小学校の教育実習に参加するにあたって教育実習の意義と目的を知る。実習記録(日誌)の記述内容や取り扱いなど、学校教育の現場に参加する際の基本的な留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』(児童学科編)を参照し、教育実習の概要を確認しておく。	90分
第2回	教育実習の具体的な目標と関連する資質	教育目標の達成に向け、児童の発達に応じた要求と特性を捉え、指導を工夫しながら児童への理解と愛情に基づく人間関係を形成する趣旨を理解し、社会的役割と大学での学びを総合的に生かす指導改善の姿勢を準備する。	『小学校実習のてびき』第1章のIIを参照し、児童理解、指導改善、責任等を確認しておく。	90分
第3回	小学校教育実習の心得・学校の組織と生活・教育目標と学級経営	教育実習生の出退勤管理、授業の参観や担当、人権・個人情報や安全管理、危機管理などの概要を知り、所属学級における指導教諭や児童との接し方に関する基礎的事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のIIIを参照し、小学校教育実習の心得と厳守・留意する事項を整理しておく。	90分

第4回	事前面談・教育実習計画（オリエンテーション）について	配属学校でのオリエンテーション（実習前の面談・打ち合わせ）について、手続きやマナー、持ち物などの留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のIVを参照し、学校オリエンテーションの流れを整理しておく。	90分
第5回	教育実習（教育実地研究）における研究テーマの決め方	教育実習における授業観察や授業研究の意義を考え、研究テーマの決め方や研究授業の設定までの要件と流れを理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のVを参照し、自身の問題意識と研究目標（テーマ）を検討しておく。	90分
第6回	「学習指導案」作成の手順	学校経営方針（教育目標）に基づく「学習指導案」の意義や責任、「学習指導案」作成に必要な基礎知識と専門的な技能を身に付ける。教科単元の事例をあげて授業改善に向けた観点を共有する討論を通して、実践と計画との関連を捉える。	『小学校実習のてびき』第1章のVIを参照し、「学習指導案」の形式や作成手順を整理しておく。	90分
第7回	小学校教育実習の実際	小学校各学年の児童の特性について「からだ・こころ」の両面から概要を知り、発達・成長に応じた指導上の配慮を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のVIIを参照し、学年ごとの傾向や特徴を整理しておく。	90分
第8回	授業参観の方法	授業参観や実践観察における記録の取り方について、基本事項や着眼点、記録形式と手順、参加マナー、記録を基にした考察方法などを、事例を参照して理解する。簡単な実践記録を体験することを通して、考察や解釈の方略を修得する。	『小学校実習のてびき』第1章のVIIIを参照し、授業観察における基本的な内容を整理しておく。	90分
第9回	学習指導案の作成から授業まで	「学習指導案」の作成から授業実践までの流れを知り、作成の手順、授業当日までの教材研究のポイント、授業後の協議会の留意事項などを理解する。学習指導案の実例を基に簡単な研究協議会を模し、留意点を体験的に理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のIXを参照し、学習指導案作成と授業までの準備や協議会・反省会の概要を整理しておく。	90分
第10回	実習日誌の書き方	実習日誌の意義及び記録項目や具体的な記述方法について知り、記録に基づいた考察（仮説的視点と解釈・事象の取り扱い）の方法を理解する。記録の実例をあげ、実際の考察記述を体験し、相互評価する討論を通して情報処理の理解を深める。	『小学校実習のてびき』第1章のXを参照し、実習日誌の意義や基本項目を整理しておく。	90分
第11回	お礼状の書き方	教育実習終了後に配属校に提示する「お礼状」の書き方について、その意義を踏まえ、記述する内容や指し出しの手順を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のXIを参照し、「お礼状」作成の基本的な流れを整理しておく。	90分
第12回	教科等の概要（各教科・領域の目標・育てたい資質・能力・学習形態）	学習指導要領に示される「各教科・領域の目標・育てたい資質・能力」について確認し、実習時の授業観察や授業づくりの観点とする方法を理解する。指導と評価の一体的な扱いを実現するための教科特性、合科的指導の可能性や課題について、知見を深める。	『小学校実習のてびき』第2章のIを参照し、各教科の目標に準じて「求められる資質・能力」を確認しておく。	90分
第13回	学習指導案の作成（導入形態と主発問）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に導入と主の発問を相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章II（学習指導案の様式）を参照し、自分が作成する教科または領域の特性を整理し検討しておく。	90分
第14回	学習指導案の作成（指導と評価の一体化・見取りと評価材料）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に指導と評価活動の連携を観点に相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章IIを参照し、「全体の指導計画」と「本時の展開」の関連や、目標と評価規準の関係を整理しておく。	90分
第15回	教材研究と反省的実践	授業づくりと授業改善に求められる教材研究の意義や内容、実践授業の成果や課題を省察する観点や協議会の捉え方について理解する。授業改善に向けた実践者の評価サイクルを理解し、授業者としての実践力・改善力を高める。	『小学校実習のてびき』全体を振り返り、実習生活に求められる意識・資質・能力を整理しておく。	90分

学習計画注記

履修者の実習期間により、スケジュールが変動する場合がある。

学生へのフィードバック方法

- ・教育実習の心構えをはじめ、学習指導案の書き方や教育実習記録の書き方など実務の基礎知識・基本的な技能を高める。授業ごとに個々の疑問や課題を「ドキュメントシート」に記し、適宜、助言指導を返す。
- ・教育実習に参加する前に、各教科・領域等の「学習指導案」を作成し、学習指導に要する汎用的スキルを修得する。想定した教科・領域の指導計画について、重要な観点を指摘し、コメント付きで返却する。
- ・教育実習終了後は報告会を通して情報を交換し、教育職員としての資質を向上する。

	討論や講評を通じた振り返りの成果を記す「実習報告シート」は討論の継続（類型化）に活用し、その過程を講評する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントシートについては、教育実習の基礎的事項に関する理解の深まり方を示す考察記述を評価する。 ・学習指導案については、単元目標と評価計画の整合性、単元設定の理由となる児童観・教材観・指導観の記述、展開方法の妥当性を評価する。 ・実習報告では、実習前後における問題意識の変容や深まり方を評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ドキュメントシート	○		○	
	学習指導案	○	○		○
	実習報告シート		○	○	
評価割合	ドキュメントシート（20%）、学習指導案（50%）、実習報告シート（30%）を総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	『小学校実習の手引き』東京家政学院大学児童学科編（配布）				
参考図書	齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習―学びの連続性を通して―』大学図書出版、2018年、ISBN：978-4-907166-87-8c3037 齋藤義雄『教育方法・技術論―主体的・対話的で深い学びに向けて―』大学図書出版、2018年、ISBN：978-4-907166-85-4c3937				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地域に根ざす学校の教育目標や人権を尊重する立場を理解し、初等教育実習（小）に臨むための基礎的な知識を有する。 【思考・判断】場面の状況に応じる指導観を基に、適切な教育行動を実践する主体性や協働性を有する。 【関心・意欲・態度】人格を形成という教育の目的に高い関心を持ち、自らを改善する主体性や自己教育力を有する。 【技能・表現】教科学習や生活指導場面で基礎となる対話力や創造性を発揮し、指導を計画・展開・省察・改善する基本的な技能を有する。				
オフィスアワー	木曜3限1629研究室				
学生へのメッセージ	小学校教育実習の意義について理解し、どのような目標をもって臨むか、自身の考えをまとめておくこと。学び手として実習に望むが、子どもにとっては指導者である。期間中、この両義的な立場に位置づけられることを自覚し、将来像をつくりながら誠実に取り組みたい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修や企業・地域行政と連携するネットワークを生かし、教育に求められる教師像や教育の役割など、今日的な情報と知識を提供する。			
アクティブ・ラーニング	○	小学校で常態化している集団討論や協働的な問題解決などの学習形態を実体験することを通して、相互主体的に学び合う機会をもつ。			
情報リテラシー教育	○	指導の実例を積極的に参照するために、著作権・肖像権の有無や情報の真偽にも留意して自身の計画・実践に活用するリテラシーを高める。			
ICT活用	○	タブレット型PCや電子黒板、デジタルコンテンツや教育用アプリケーション、視聴覚機器を活用する実践形態について、体験的に理解する機会をもつ。			

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育実習C		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>小学校において、校長をはじめとする指導教諭等の指導の下で、授業観察、授業参加、授業指導を主にした実地研究を行う。この教育実習を通して、社会的義務と期待を担う学校教育の実務を体験的に理解する。</p> <p>この実地研究に際し、大学での学習と小学校における指導を関連づけて考察・判断する基礎・基本的な知識・技能を確認したり省察していく。事前・事後を通して、教育実習の意義や教育職員としての服務、学年・学級経営、学習指導、生徒指導等についての資質・能力、教員として相応しい教職観、倫理観などを身に付けることを目的とする。</p>
履修条件	<p>「学生便覧」の定める教育実習派遣基準（小学校）を満たしていること。</p> <p>「小学校教育実習指導」の授業を履修していること。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	学習指導要領をはじめ学校教育に求められる社会的機能を実践する場に臨む責任と意義を理解し、実践活動や改善に努めるための基礎的な知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	教科の特性や場面状況に応じて適切な指導援助を実践する判断力・決断力を持ち、問題解決の具体的方法や観点をあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童の個性を尊重して理解することに関心を持ち、共に育つ喜びを実感しながら個に応じた教育活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	学級経営への参加や授業づくりに臨むための基本的な技能を持ち、適切かつ柔軟に発揮するための表現力・対話力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション(学校・地域の特性・実習の流れの把握)	教育実習の概要について、配属学校にて事前説明を受ける。学校と地域の特色、教育目標、配属された学年学級経営方針、児童の実態、学校の行事日程ほか、教育実習の内容日程、勤務時間と出退勤管理、準備品、担当授業数、施設設備と備品管理などの概要を知る。	オリエンテーション前に学校や教育委員会のホームページなどを参照し、地域と特色ある教育活動を把握しておくこと。説明を受けた留意事項は、教育実習記録に記入する。実習初日までに、自分の実習目標(研究テーマ)を想定しておくこと。	120分
第2回	本実習(学校教育目標の理解と児童理解)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭(教務・生活・研究)の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、	実習初日から配属学校の教育目標と地域に根ざした特色ある教育活動を把握する。配属学級の経営方針と児童の実態把握に努める。	120分

		他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。		
第3回	本実習（研究テーマの決定と児童理解）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	教育実習記録（実習日誌）に、児童の実態に即して自ら設定した目標を記述する。一日の学校生活の流れを理解し、教科指導と生活指導とのけじめ、登下校指導や給食・清掃指導のルールなど学校生活での教師の役割について振り返る。	120分
第4回	本実習（授業観察・授業参加）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、教科の特性や指導方法の違い、児童個々の理解を深める。観察記録を振り返り、理解の個人差や対応方法を検討し、担当する教科や指導方法を検討する。	120分
第5回	本実習（教科・単元目標と内容・教材研究）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、担当する教科における指導法の考察と教材研究を進める。学習指導要領の教科目標と学年目標、内容の取り扱いを理解し、担当学級・学年の実態に合わせた指導方法を検討していく。	120分
第6回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	担当した授業の省察を通して、教科・単元の目標に準拠した教材の研究を進める。児童の学びに向かう態度を高める教材・発問を工夫し、視覚教材、具体物、学習形態を具体的に改善する手段を考察する。	120分
第7回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	学習指導案の作成や改善を通して、指導計画を見直しながら、単元のねらいを実現する「導入・展開・終結」の流れを具体的に検討する。実践的な指導法や児童個々の理解に応じるみとりについて反省し、学習形態（個人・小グループ・全体活動）の活用展開を改善するための視点を確認する。	180分
第8回	本実習（授業実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、	担当した実践授業を通して、教科ごとに児童個々の理解を深め、個に応じた指導方法と教材活用を検討する。検討した教材の選定や活用方法が単元や題材のねらいの具現化に則しているかを視点に考察を重ねる。	180分

		指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。		
第9回	本実習（学習形態と指導法）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	能力別編成の学習形態、体験型実技型の教科の特性、発問のことは選び、板書計画、活動の時間配分などについて、各教科の見方・考え方を高め、育てたい資質・能力を培う活動計画を具体的にしていく。	180分
第10回	本実習（研究授業設定と準備）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業とする教科を決定し、学習指導案を作成する。これまで担当した実践授業の成果と課題を振り返り、自分の研究テーマの視点や指導教諭からの助言を基に、指導計画を改善する。	180分
第11回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業の指導案の計画についてシミュレーションを繰り返し、教材の提示と活用、既習事項と発展学習とのつながりなどを視点に考察する。	180分
第12回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業直前準備として、学習指導案の記述と本時の流れについて最終確認を行う。教材準備（内容・提示・配布・回収など）と学習形態との適性を検討し、予想される児童の反応を具体的に想定する。	240分
第13回	本実習（公開研究授業）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業を実践と協議会を通して、学習指導案と実践の差異、個に応じた指導や形成的評価、学級全体の活動の様子、教科・単元の目標や内容と理解の実態を省察する。協議会での自評や助言への謝辞など、省察的実践者としての基礎的な態度と意義を体験的に理解する。	360分
第14回	実習成果と課題の整理	教育実習の成果と課題を自分の研究テーマの視点を中心に整理する。 教育実習終了後に教育実習記録を実習学校に提出し、学校から事後指導を受ける。	教科指導を支える学級経営、学年間の連携、特別な配慮を要する児童の理解と支援、学校の教育目標を実現する学級目標に則した生活のあり方について理解を整理する。教育実習記録を振り返り、自分の研究テーマの視点から実習の成果と課題を明確にする。	180分
第15回				240分

	教育実習の省察・まとめ	教育実習を通して学んだことを教育実習記録にまとめ、以後の学習に反映する課題を明らかにする。教育実習全般を通して実習生活を支えて頂いた教職員、共に育とうとしてくれた児童に感謝し、教育職員としての職業観や社会人としての礼節を身に付ける。	実習校・学校長の所見・指導助言を受けた事項と自己の研究テーマを観点に実習全般を振り返り、省察する。期間中に作成した学習指導案や教材資料とともに、大学へ提出する。	
学習計画注記	受け入れ学校が実情を勘案して立案する教育実習計画により、実習生の配属学年・学級、内容日程が決定する。研究授業の日時・校時・教科または領域は、学校側の指導教員と相談して決定する。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・配属学校における事前オリエンテーションの内容について、疑問や不安を解消するよう相談に応じる。 ・教育実習記録は、記録考察と指導担当教諭の所見を総合的に確認し、コメントする。 ・自己評価票については、巡回指導担当からの報告と勘案して確認し、必要な場合は個別に面談で対応する。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習記録（学習指導案・教材研究資料等を含む）の内容を総合的に評価する。 ・自己評価票の各観点について、巡回指導教諭の所感・配属学校教諭・校長の所見などを基に、目標到達度を総合的に評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教育実習記録	○	○		○
自己評価票・省察記述	○	○	○	
評価割合	『教育実習記録』の記述内容と教育実習校による評価及び教材研究（60%）と自己評価票・省察まとめ（40%）を総合的に判断し評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	『小学校実習のてびき』東京家政学院大学児童学科編 『教育実習記録（日誌・自己評価票）』東京家政学院大学教職教育委員会編			
参考図書	文部科学省『学習指導要領解説』（総則と各教科編） 齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習一学びの連続性を通して一』大学図書出版 2018年、ISBN：978-4-907166-87-8c3037			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、児童や学校教育に関する専門的な知識を有する。</p> <p>【思考・判断】児童や学校の教職員・教育実践者などと直接ふれあい実践的機会を通して、様々な場面課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】児童の見方・考え方に関心をもち、児童と共に育つという主体的・対話的な姿勢・態度を有する。</p> <p>【技能・表現】教科学習や生活場面の指導に求められる基本的な技能と個の状況に応じたコミュニケーション能力を発揮できる。</p>			
オフィスアワー	火曜4限（前期）、木曜3限（後期）、1629研究室			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習とは、単なる体験ではなく、大学の学びと実地での知見を統合する研究（教育実地研究）に位置づく主体的な探究活動である。ゆえに、自分が描く教師像の具現化に向けた「研究テーマ」が必須なることを念頭に置いて臨みたい。 ・実地研究（実習）を通して、主体的に課題を解決し、小学校教員としての資質・能力の向上につなげるよう取り組む。教育実習の意義や実務に参加する社会的責任を自覚した真摯な姿勢が求められる。 ・教育実習期間中における大学への「報告・連絡・相談」を心掛ける。特に、研究授業の日程や内容は、巡回にあたる担当教員に事前に連絡し、相談に努めること。 			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編著者や文部科学省学習資料作成委員として現職教員の研修・地域行政や企業との連携するネットワークを生かして、今日的な教育課題に相応した情報や知識、授業実践の実践的な方略を提供する。		
アクティブ・ラーニング	○	配属学校の教職員や児童との関わりと対話を通して、地域に根ざす学校教育の意義や役割を実感し、主体的に見いだした課題の解決にあたる。		
情報リテラシー教育	○	地域の実態に即した特色ある教育活動について情報を整理し、児童理解のための情報、学校の教育目標に基づく指導方針などに関心をもって実践に活用する。		
ICT活用	○	電子黒板、タブレット型PC、ネットワーク、webコンテンツ、デジタル教科書や視覚教材などについて、配属校の環境と指導目的に応じて効果的に活用する。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（幼）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)	幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してからの事後指導が含まれる授業である。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解することを目的とする。また、学生が幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実際との関連について理解を深めながら、幼児の発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。			
履修条件	「初等教育実習A」「初等教育実習B」を履修する者			
学習目標(到達目標)				
学習目標(到達目標)				
知識・理解の観点 (K)	実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解し、説明できる。			
思考・判断の観点 (K)	幼児に適した保育内容であることを考え、判断することができる。			
関心・意欲・態度の観点 (V)	初等教育実習A及びBを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自覚化する。			
技術・表現の観点 (A)	実習に向けて幼児の発達段階に応じた保育内容を考え、指導計画の作成に適した文章で表現できる。			
学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「初等教育実習A」の報告会へ参加する。幼稚園生活の流れ、幼児の姿や保育を観察する際の観点について理解する。	参加した実習報告会の内容をまとめ、気づきと自らの課題についてワークシートに記入すること。教科書 第1章「実習って何だろう」を予習し、実習を通して学ぶ内容について確認すること。	30
第2回	幼稚園の見学実習	園生活を参加・体験することを通して、実態を理解する。幼稚園の一日見学実習で、幼児の姿と保育の観察を行う。	幼稚園における、登園から降園までの流れを観察した時のメモ及び授業資料をもとに、幼児の姿、保育者の援助、環境構成を時系列で記録用紙に記入する。また、幼稚園生活全般を通して気付いたことをまとめる。	60

第3回	初等教育実習Aガイダンス	実習園の概要を理解し、一日見学実習の振り返りを通して観察の視点や記録の方法について学ぶ。	教科書 第2章「実習を迎えるまでのステップ」を予習し、実習の概要について内容を確認しておくこと。	30
第4回	オリエンテーションの実施概要	実習園でのオリエンテーションの内容と事務手続きについて理解する。	「実習の手引き」をよく読み、疑問点等をまとめておくこと。	30
第5回	初等教育実習Aの心構え	実習の意義と実習生としての在り方を理解する。	授業で習った実習の心構えや目標の設定をもとに、「実習生個人票」「初等教育実習Aに臨んで」を作成する。	30
第6回	幼児の発達の理解	幼児の発達の特徴と保育における観察の視点を理解する。	添削された一日見学実習記録用紙を確認し、観察の視点や記録の書き方について復習し、自らの不足部分を修正する。	30
第7回	実習記録について	実習記録の作成と観察の実際について演習を通して理解する。	「実習の手引き」、授業資料、日誌等の内容を確認し、疑問点についてまとめておく。	30
第8回	保育の実際	園生活に関する画像や動画を用いて、幼稚園の一日の生活を理解し実習に役立つ技術を修得する。	授業内容と気づき、課題について記入する。	30
第9回	初等教育実習Aの振り返り・実習報告会	初等教育実習Aを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。	110
第10回	初等教育実習Bガイダンス	初等教育実習Bの概要を理解し、課題を見出し、自覚化する。また、初等教育実習Bの実習園の概要を理解する。	初等教育実習Aの日誌を復習し、自らの課題についてまとめる。決定した実習園について園パンフレット等の資料をもとに園の概要を理解し、日誌「実習園の概要」を記入する。	30
第11回	部分実習指導案の作成	幼児に適した保育内容に関する資料をもとに、指導案を考案し作成する。	指導案の作成及び検討する。	30
第12回	全日実習の意義・概要	全日実習の意義と概要を理解し、主活動内容案を作成する。	添削された部分実習指導案を確認・修正し、全日実習指導案の作成及び検討をする。	30
第13回	指導計画の作成	全日実習指導案の作成及び、実際を想定した演習を通して検討を行う。	授業で行った演習をもとに、全日実習指導案を確認・修正する。	60
第14回	実践と省察	保育におけるPDCAサイクルについて理解する。	授業で行った幼児の姿と自らのかかわりを通じた省察について復習し、初等教育実習Aの日誌や見学実習記録を手掛かりに記録の省察部分のよりよい記入の方法について考える。	30
第15回	初等教育実習Bの振り返り・実習報告会	初等教育実習Bを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。	115

学習計画注記 やむを得ない事情で授業を欠席する場合には、授業内容や配付物等を自分で確認すること。また、必要に応じて個別の対応を行う。

学生へのフィードバック方法 提出されたワークシート、指導案等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

- ・ワークシート、指導案等の提出物、及び授業内の発表等を対象に評価を点数化する。
- ・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート	○		○	
一日見学実習記録	○	○		
部分実習指導案		○		
全日実習		○		○

実習日誌		○		○
評価割合	授業内提出物(70%)、報告会発表(30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	大豆生田啓友他編「幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版]」ミネルヴァ書房 978462306976			
参考図書	文部科学省「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説書」 文科省、厚労省、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」 東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習B 実習の手引き」			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている 【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。			
オフィスアワー	吉永：前期は月曜日3限1601、後期は水曜日2限1601 中田：前期は火曜日3-5限目、後期は火曜日2-3限目 田尻：前期・後期とも木曜日2限			
学生へのメッセージ	本授業は、幼稚園での実習が実りあるものとなるための大切な授業です。毎回の授業内容を確実に理解し、身につけ、疑問点はその都度解決するようにしてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。		
アクティブ・ラーニング	○	幼稚園での見学実習では、実際に幼稚園を訪問し、幼児と関わりながら観察する。また、実習報告会の準備及び実施の過程において、自らの経験を振り返りながら、学生同士の意見交換を行う。		
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考え、指導計画を作成する。		
ICT活用	○	幼児の姿や幼稚園生活の実際を理解するために、画像や動画を用いた授業を行う。		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育実習 A		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)	日々子どもたちが生活する幼稚園において、子ども達の遊びや集団活動等の様子を観察することを中心とした実習である。また、初等教育実習Bにつなげる実習でもあり、適宜、子ども達と実際に関わることを通じた観察や、部分実習等を行う。こうした実習を通して、幼稚園教育の実際を体験し、幼稚園生活や子どもと保育の実態を理解するとともに、初等教育実習Bへ向けての課題の抽出と目標の設定へとつなぐことを目的とする。
履修条件	初等教育実習指導(幼)を履修していること。学生便覧に定める実習参加基準を満たしていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	幼稚園において幼児との関わりを体験しながら、幼児の発達の様子や、保育環境の構成、保育内容等を理解し、幼稚園教諭や他の教職員の役割に気付き、理解を深める
思考・判断の観点 (K)	子どもを取り巻く家庭・地域に対する幼稚園や保育者の役割について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々の保育の省察をもとに積極的に実習課題を見出し、実践する。
技術・表現の観点 (A)	子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者として適切に援助し、関わることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を日誌に記入し、ピアノの練習、読み聞かせをする絵本の選定等、必要な準備をする。	60
第2回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3~5歳児クラスのうちのいずれかに1~2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60

		・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。		
第3回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第4回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第5回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第6回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第7回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第8回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第9回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第10回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60

		<p>よる指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。 		
第11回	観察実習	<ul style="list-style-type: none"> ・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第12回	観察実習	<ul style="list-style-type: none"> ・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第13回	観察実習	<ul style="list-style-type: none"> ・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第14回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	60
第15回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	初等教育実習Bに向けた課題を見出し、準備を進める。	60

学習計画注記	各実習園の状況により、配属クラス、部分実習の内容等が異なるため、各自でよく確認してください。			
学生へのフィードバック方法	提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園からの評価項目1				○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3	○		○	
実習日誌		○		○
振り返りシート		○	○	
評価割合	実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	大豆生田啓友他編「幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版]」ミネルヴァ書房 978462306976			
参考図書	東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習A 実習日誌」			

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する 6 領域 「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>										
オフィスアワー	<p>吉永：前期は月曜日3限1601、後期は水曜日2限1601 中田：前期は火曜日3-5限目、後期は火曜日2-3限目 田尻：前期・後期とも木曜日2限</p>										
学生へのメッセージ	<p>実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。子どもとの関わりを楽しみ、心を動かしながら多くのことを学んでください。</p>										
教育等の取組み状況											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="368 566 443 656">該当有無</th> <th data-bbox="443 566 1439 656">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 656 443 745">○</td> <td data-bbox="443 656 1439 745">担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 745 443 813">○</td> <td data-bbox="443 745 1439 813">実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 813 443 880">○</td> <td data-bbox="443 813 1439 880">幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 880 443 938">○</td> <td data-bbox="443 880 1439 938">配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。</td> </tr> </tbody> </table>	該当有無	概要	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。
該当有無	概要										
○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。										
○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。										
○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。										
○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。										

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	初等教育実習B		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)	実際に教育活動が展開されている幼稚園の中で、園長を始め指導教諭等の指導の下で、観察、保育参加、部分実習、全日実習を3週間にわたって行うものである。この実習を通して、教育として行われる業務に全般的に携わることになる。大学での学習と幼稚園における実践等を関連させて考察しながら、教師としての服務、学級経営、環境の構成や保育者の援助等、総合的な力を身に付けるとともに、教員として相応しい教職観、倫理観、識見を豊かにする。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	「初等教育実習A」の単位を修得し、「初等教育実習指導」を履修していること、「学生便覧」の定める実習参加基準を満たしていること。
------	-----------------------------------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼稚園において、幼児の姿を受け止め、関わることを通して、子ども一人ひとりに応じた援助の在り方を理解する。
思考・判断の観点 (K)	長期的及び短期的な保育のねらいと方法、内容の関連について実践を通して具体的に考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの様子や自分自身の子どものかかわりや援助の方法を省察することにより、課題を明確にして取り組む。
技術・表現の観点 (A)	幼稚園における幼児の遊びや活動が充実するような保育者としての援助や環境構成等の保育技術を身に付け、実践する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を実習日誌に記入し、必要な準備を行う。	60
第2回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		<ul style="list-style-type: none"> ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第3回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに適した保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第4回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに適した保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第5回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに適した保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第6回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに適した保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第7回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに適した保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		<p>を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第8回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第9回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第10回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第11回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第12回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第13回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第14回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第15回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第16回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第17回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全</p>	60

		<p>深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	
第18回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第19回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第20回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第21回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第22回				60

	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	
第23回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第24回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第25回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第26回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第27回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第28回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第29回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第30回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第31回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		<p>わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。</p>		
第32回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第33回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第34回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第35回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第36回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとり 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		との関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第37回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第38回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第39回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第40回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第41回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・ 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第42回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	
第43回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を實踐し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	
第44回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	
第45回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	自己の課題を見出し、よりよい社会人、保育者となるための準備をする。	
学習計画注記		実習園の方針により、実習内容や配属クラスが異なるため、各自でよく確認してください。		
学生へのフィードバック方法		提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。		
評価方法		・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園からの評価項目1		○	○	○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3				○
実習日誌	○	○		○
振り返りシート		○	○	
評価割合	実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	大豆生田啓友他編「幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版]」ミネルヴァ書房 978462306976			

参考図書	東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習A 実習日誌」	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	吉永：前期は月曜日3限1601、後期は水曜日2限1601 中田：前期は火曜日3-5限目、後期は火曜日2-3限目 田尻：前期・後期とも木曜日2限	
学生へのメッセージ	実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。
履修条件	教育実習AまたはBを履修していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	教育に関する基礎的知識、家庭科教員としての専門的知識をある程度有し、また、知識・理解が不足している時に、その知識に関する調べ方がわかっている。
思考・判断の観点 (K)	生徒への対応が、教育者として思慮深く、客観的な判断基準を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育や家族・家庭について常に関心を持ち、向上心と研究意欲をもって、より良い教育者になろうとする意欲があり、教師としてふさわしい態度は何かを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にわかり易く、生徒の興味・関心を惹き出すような学びのプログラムを企画する能力がある。 声・文字・身振り等を通して、相手に伝える表現力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教職課程の集大成として4年間を振り返り、教育実習で指摘されたこと等を克服して、履修カルテを完成させることが本演習の目的であることを学ぶ。	家庭科は生活科学なので、日々情報入手にアンテナを張り、次世代を育てられる知識量を見に付けること。	90分
第2回	教職と教育実習に関するディスカッション	教職課程全体と教育実習を振り返り、どのような点を今後努力していくべきかを学生間でディスカッションし、確認し合う。	中学高等学校で公開されている授業を積極的に参観すること。	120分
第3回	自らの反省に基づく授業改善計画の作成	履修カルテを記入しながら、自分が苦手とする分野がどこなのかを確認し、できるだけその苦手分野の模擬授業を本演習で実施することが望ましい。あるいは、実習先で研究公開授業として行った授業をお互いに見せ合うことによって、専門性の高い授業を学び合う。	日々、家庭科に関わる情報の入手と学習に心がける。	90分

第4回	授業力向上のための教材研究・学習会（被服分野 人数によって変動する）	被服分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、より良い授業ができるように学び合う。	中学高等学校が公開している授業をできるだけ参観すること。	90分
第5回	授業力向上のための教材研究・学習会（食分野 人数によって変動する）	食分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。より良い授業ができるように学び合う。	調理実習は、模擬授業ではなかなかできないので、教育実習で担当したことを克明に記録しておくこと。	90分
第6回	授業力向上のための教材研究・学習会（住分野 人数によって変動する）	住分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	防災や災害時の安全管理についても再度確認しておくこと。	90分
第7回	授業力向上のための教材研究・学習会（家族分野 人数によって変動する）	家族・保育分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	保育分野は、近年教育実習で行うことが多く、教える内容も増えてきている。十分に学習を積んでおくこと。	90分
第8回	授業力向上のための教材研究・学習会（環境・消費者問題 人数によって変動する）	環境・消費者問題を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を実施する。将来よりよい授業ができるように学び合う。	環境・消費者問題は今社会でも大きな問題になっている。社会で起きていることに敏感になり、正確な情報を次世代に伝えられるように学習すること。	90分
第9回	学級経営	担任としての学級経営のポイントを話し合いながら学び合う。生徒の名前を覚え、生徒の中に入って行くにはどのようにしたらよいかを考える授業である。	小中高等学校でのボランティア活動に積極的に参加すること。	90分
第10回	教員間のコミュニケーション	教師同士のコミュニケーションが、教師を育てること。情報交換が生徒指導に役立つことを教育実習を振り返りながら、様々な事例を出し合って学ぶ。	教師論等の教科書を良く読み、復習しておくこと。	90分
第11回	学校訪問・見学	公開授業を実施している学校を訪問する。あるいは、別の日に公開授業を参観したことで本時の振り替えとする。	基本的に教室外学習である。	90分
第12回	学校訪問・授業見学	11回と同様である。1校の授業見学を2回分と換算する。	本時が教室外学習である。	90分
第13回	家庭科教師と現代社会	本時は、家庭科教員を長く勤められた方をお招きして現場の様子や体験をお話頂く予定である。	家庭科教員になるために聴いておきたい質問事項等準備しておくこと。	90分
第14回	これからの家庭科教育（ディスカッション）	本演習を通して学んだこと、教職課程を通して学んだこと等を振り返り、ディスカッションを行う。履修カルテを完成させる。	自分の不得意分野に就いてはよく学習しておくこと。	90分
第15回	まとめ	履修カルテを提出し、教員となるための心構えを発表し合う。	履修カルテをしっかりと完成させておくこと。	60分

学習計画注記	特になし			
学生へのフィードバック方法	履修カルテ、教育実習ノートにコメントして返却する。			
評価方法	授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。模擬授業の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業参加の姿勢		○	○	

模擬授業	○	○	○	○
履修カルテ		○	○	
評価割合	授業参加の姿勢 (30%)、模擬授業 (40%)、履修カルテ (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「衣」「住」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って、責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p> <p>・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>			
オフィスアワー	アポイントメントにより時間調整を行うこと。			
学生へのメッセージ	教職課程を履修したことが自分の人生にどのように活かされるのか、本当に、教師になりたいかどうか、真剣に考えてください。いずれは教師への道を選ぶ、という態度もあってよいです。自分の中の教師への志望の意思をある程度明確にされることを希望します。教員という仕事に伴う社会的責任を自覚しながら、自らの人生の歩みを確かなものにしてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員経験のある方をお招きしてお話して頂く。		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、ディスカッション		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

授業概要(教育目的)

大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教師としての使命感や責任感と教育的愛情を理解し、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力の必要性を理解することに加え、自己理解を深めること
思考・判断の観点 (K)	教育現場で生じている問題に気づき、教師として必要な能力と技術について思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	教師としての能力の形成を具体的に実感できるようになること
技術・表現の観点 (A)	保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力を得ること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教職の使命について	なぜ、教職を志望したのか、そのメモ化。教育実習に行った感想ノート作成。	180分
第2回	履修カルテの完成	履修カルテとは何かをあらためて理解し、必要事項を記入する。	履修カルテの記入に必要な資料をそろえることを予習とする(90分)。授業後、履修カルテのうち、完成できていない部分について記入し、必要事項が全て記入された履修カルテを見て、教職課程での4年間を各自振り返る(90分)。	180分
第3回	教職課程での学びに関するふりか	自分にとって、教職課程での学びとは何だったのか、今後どう活かしていくのかを考える。考えた内容は、パワーポイントにまとめる。	教職課程で学んだ4年間を振り返るのに必要な資料をそろえることを予習とする(90分)。まとめたパワーポイントを基に、	180分

	えり（個人）		小グループで共有する方法を検討する（90分）。	
第4回	教職課程での学びに関するふりかえり（小グループ）	前の回に各自でまとめた「教職課程での学び」を小グループで共有する。その後、同じグループで「教職課程での学び」についてグループワークを行い、自分たちの変化、成長への気づきを深める。	作成したプレゼンテーションを、わかりやすくプレゼンテーションできるようにすることを予習とする（90分）。小グループで共有したグループメンバーのプレゼンテーションから、教職課程での4年間を各自振り返る（90分）。	180分
第5回	教職課程での学びに関するふりかえり（全体）	前の回に各小グループで行った「教職課程での学び」に関するグループワークの結果を全体で共有する。また、第2回目から5回目までの授業を振り返り、グループワークの組み立てについても学ぶ。最後に、「教職課程での学び」を共通体験として、自分たちの変化、成長への気づきをさらに深める。	前の回に行ったグループワークから自分が得たことを、適切に表現できるようにすることを予習とする（90分）。気づいた自分の成長を、継続的に伸ばし、社会で活かす方法を考える（90分）。	180分
第6回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備	180分
第7回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生の部活動について、教師の部活動指導の実態に関するメモと資料収集	180分
第8回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、現在の中学生の進路選択について資料収集	180分
第9回	学校経営と実習校訪問、併校訪問	学級経営の課題と教師の任務、併校訪問、キャリア教育の実施、併校教師との懇談、学校経営について、生徒の実態と進路状況など、	併校訪問のためのキャリア教育（中学生）を語る準備、中学生時代の自分の生き方の振り返り、現在の進路選択における自己教養形成についての考察ノート作成、	180分
第10回	学校経営と実習校訪問	生徒指導、子ども観、そして同僚教師の連携、チーム学校に一人としての資質能力形成	チーム学校の一員としての資質能力に関する資料種集とメモ化	180分
第11回	持続可能な社会と家庭科教育 1	家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながるエシカル消費などに裏打ちされた家庭科について、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGs など持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第12回	持続可能な社会と家庭科教育 2	シェアリングエコノミーなど、あらたな生活環境が出現しているなかでの家庭科教育を考える。若者の生活設計や家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされたかきょういくについて、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGs など持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第13回	持続可能な社会と家庭科教育 3	贈与・経済を中心に、家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされた家庭科の授業実践を例に、実際の生活現場を想定した授業案を作成する。	東京家政学院大学の先輩家庭科教師が、持続可能な社会にむけて行っている家庭科教育実践について話をきき調べる。	180分
第14回	持続可能な社会と家庭科教育 4	人生100年時代の家族・地域・農業など家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGs など持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第15回	まとめ	教職の使命と課題、大学4年間の教養形成と教育実習での「成果」	常勤、非常勤など、今後の教職への準備に必要なことの整理。非常勤講師の状態に関する資料集など、	180分

学生へのフィードバック方法

演習と講義、見学など、
教職専門教師と家庭科科目専門教師の共同。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験 (レポート)	○	○	○	○
レスポンスシート	○		○	○
評価割合		定期試験8割とレスポンスシート2割の総合評価		
使用教科書名 (ISBN番号)		特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。		
オフィスアワー		水曜4限		
学生へのメッセージ		4年間の教職科目の締めくくりの講義である。 自分自身が本当に教職に向いているのかどうか、真剣に確かめてほしい。 教職を目指すのなら、3, 4年はあきらめず、採用試験を突破して、専任の道を目指す、そういう「意思」を持てるのかどうか。自ら、答えを出してほしい。 そういう、講義にしていきたい。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを用い、自らの成長への気づきを促す。		
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、より深い気づきを促す		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教職実践演習（栄養）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	佐藤 広美	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
講師	吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義、演習、模擬授業発表会（ロールプレイ）、学校訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場で遭遇する事案等を想定した教育課題について取り扱い演習を行う事を目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ティラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とした演習についてガイダンスで理解する。(担当:辻)	履修カルテの記入整理をしておく	180分
第2回	これまでの4年間の学修の振り返りと教職の使命・意義	これまでの4年間の学修の振り返りとともに教職の使命・意義と教師の役割について理解する。(担当:佐藤)	履修カルテの記入と栄養教育実習の振り返りをまとめておく。	180分
第3回	教師の使命感について	教師の使命感についての討議を行う。(担当:佐藤)	教師の使命感について栄養教育実習の振り返りを行っておく。	180分
第4回		子どもについて理解を深めるために子ども観の課題について理解する(担当:佐藤)		180分

	子ども理解の課題についての討論		栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行って置く。	
第5回	子ども理解・子ども親について事例研究・討議	子ども理解・子ども親について事例研究・討議をおこなう（担当：辻）	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行って置く。	180分
第6回	教育現場における給食運営について講義と討議	教育現場における給食運営について講義と討議をおこなう（担当：吉野）	栄養教育実習の現場における給食運営について振り返りを行って置く	180分
第7回	地域保護者との共同関係の構築について講義	地域保護者との共同関係の構築について講義を行う（担当：酒井）	栄養教育実習の現場における地域保護者との連携について振り返りを行って置く	180分
第8回	栄養教育の教職模擬授業発表会①	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第9回	栄養教育の教職模擬授業発表会②	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第10回	教職教育研修会	教育現場に就職した卒業生からの講義及び討議を行う（担当：辻他）	栄養教育実習での学びを深めて復習しておき、家庭科教諭や栄養教諭として現場で働くにはどのようなことが必要なか理解する。	180分
第11回	栄養教育実習校における実践演習①	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第12回	栄養教育実習校における実践演習②	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第13回	栄養教育実習校における実践演習③	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第14回	栄養教育実習校における実践演習④	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第15回	資質能力のまとめと確認	栄養教諭としての資質能力のまとめと確認を行う。（担当：佐藤）	栄養教諭としての資質能力のまとめを行い、自分自身の教諭としての資質の確認を行う。	180分

学習計画注記	本演習はオムニバスで複数の教員にて担当するため、欠席などしないように気を付けること。			
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各担当教員の授業・演習等の取り組み姿勢や模擬授業発表会及び平常点で評価する。（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する） 出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。 遅刻3回は欠席1回とみなす。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模擬授業発表会	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○
学校見学報告書	○	○	○	

評価割合	平常点40%、模擬授業発表会30%、その他学校見学報告書作成30%（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）	
使用教科書名（ISBN番号）	テキストは指定しない。配布資料等は随時担当教員が紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる事に該当。 【思考・判断】栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる事に該当。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる事に該当。 【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる事に該当。	
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。	
学生へのメッセージ	現代社会の中の子どもの食をめぐる問題を考え、学校や教師の役割について考えてほしい。栄養問題は重要であるが、教育現場では、もっと広く、例えば農業の実際の問題など、食をめぐる様々な問題を考えてほしい。その上で、栄養教諭はどんな課題を引き受けなければならないのかを考えてもらいたい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	教職実践演習（幼小）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
准教授	立川 泰史	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>教職課程科目や教育課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限度必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する。</p> <p>教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上する。</p> <p>初等教育実習の園や小学校の実習体験、ボランティア活動など、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める意義について理解する。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	今日の教育課題に照して求められる教師像を理解し、教育者に必要な基礎的・専門的な知識に基づいて、反省や改善に主体的に取り組む実践力や観点について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	児童の理解や教育環境の把握に向かう視点を持ち、実態に即した指導の改善を検討・判断する教育的な見方・考え方を有する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童・保護者・地域や社会の課題に関心を持ち、主体的・協働的に課題解決に向かう意欲と姿勢を有する。
技術・表現の観点 (A)	多様な場面の教育目的に則して適切な対応を実践する基本的な能力を有し、児童の個性を尊重して地域に貢献する技術、よりよい生活や学習環境を構築する実行力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、教育実習の振り返りと課題の抽出	教育実習を振り返り、印象に残った実践的な課題を抽出する。場面とエピソードを踏まえて、前後の文脈を切り取る。	実習体験や実習日誌の考察から、多様な問題を整理しておく。	90分
第2回	事例・課題によるグループ編成と課題領域の類別	事例・課題を共有するグループを編成し、討論を通して課題を領域(教師・子ども・教材・環境)ごとに類別する。	抽出した課題を領域(教師・子ども・教材・環境)の中に位置づけて整理しておく。	90分

第3回	各領域における課題解決のまとめ・中間プレゼンテーション資料の作成	各領域（教師・子ども・教材・環境）に類型化した課題の解決策をまとめ、中間プレゼンテーション資料の原案を作成する。	課題の本質や背景を考察し、解決の手だてを整理しておく。	90分
第4回	中間プレゼンテーションの役割分担と発表順テマ一覧表の作成	中間プレゼンテーションに際して担当する課題を分担する。各グループの発表順を決定し、発表テマ・メンバーの一覧表を作成する。	グループ内の協議を通して、発表する課題に適した分担責任者を思案しておく。	90分
第5回	中間プレゼンテーション①、相互評価活動	中間プレゼンテーション1回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第6回	中間プレゼンテーション②、相互評価活動	中間プレゼンテーション2回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第7回	中間プレゼンテーション③、相互評価活動	中間プレゼンテーション3回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第8回	模擬授業（ロールプレイ）の構成計画	中間プレゼンテーションで発表した内容の中から選んだ問題場面について、解決する指導を想定し、その場面を含む学習指導案や場面指導案の構成を検討する。	課題の領域を踏まえて、想定場面の根拠となる指導観・子ども観・教材観を整理しておく。	90分
第9回	模擬授業（ロールプレイ）のための学習指導案・場面指導案の作成	中間プレゼンテーションで発表した内容の中から選んだ問題場面について、解決する指導を想定し、その場面を含む学習指導案や場面指導案の構成を作成する。	課題の領域を踏まえて、想定場面の根拠となる指導観・子ども観・教材観を整理しておく。	90分
第10回	模擬授業①、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）1回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第11回	模擬授業②、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）2回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第12回	模擬授業③、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）3回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第13回	模擬授業④、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）4回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第14回	模擬授業⑤、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）5回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第15回	「履修カルテ」の確認・まとめ（教育の今日的課題・求められる教師像）	「履修カルテ」に示された観点を基に、これまでに履修した教職科目の目標到達度を自己評価する。自己評価の平均値を基に視覚化される結果を参照し、自身の課題を明確にする。また、今日の教育的課題に対応して求められる教師像を捉え、自己教育力を高める。	履修カルテに記述する科目や成績などの情報を整理しておく。	90分

学習計画注記

履修生の実習期間や人数により、スケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

・グループ形態での発表・指導案の作成、模擬授業などと講評を中心に実施する。
 ・前半は、初等教育実習（幼稚園・小学校）での成果と課題を振り返り、共有した課題を小グループでの討論を通して問題領域の分類を行う。各グループが「領域ごとの問題解決をまとめたプレゼンテーション」と質疑応答を行う。それぞれのプレゼンテーションについては、講評・助言で応答する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・後半は、「問題解決の場面に則した学習指導案や場面指導計画」を作成し、模擬授業・ロールプレイ形式で発表する。発表直後に全体の質疑応答を設け、講評や助言で応答する。 ・中間プレゼンテーションや後半の模擬授業では、それぞれの発表に対して「相互評価票」を記入し、提出を求める。 ・学期末に、これまで学んだ教職科目の修得度を自己評価する「履修カルテ」を作成し、提出を求める。本カルテは、教員からのコメントを記して大学が保管する。 																																
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間プレゼンテーション及び後半の模擬授業・ロールプレイは、提起する問題の妥当性や明確さ、解決策に活用する知識や考え方、プレゼンテーション・リテラシーなどを観点に総合的に評価する。 ・発表時に記入する「相互評価票」は、問題への関心の高さや考察内容を観点に評価する。 ・学期末の提出を求める小論レポート（1600字程度）は、「4年間で変容した教職観」を共通テーマとし、「指導観・児童観・教材観」における知識・理解、考察・判断の思考力、記述スキルなどを観点に、総合的に評価する。 																																
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中間プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>相互評価票</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小論レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	中間プレゼンテーション	○	○	○	○	相互評価票		○	○		小論レポート	○	○		○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																													
中間プレゼンテーション	○	○	○	○																													
相互評価票		○	○																														
小論レポート	○	○		○																													
評価割合	平常点（主体的に討論に参加し学ぶ姿勢）20%、中間プレゼンテーションと模擬授業20%、相互評価票の記入10%、期末小論レポート50%などをもとに、総合的に判断する。																																
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。（資料・ワークシートは適宜配布する）																																
参考図書	①文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 ②文部科学省編『小学校学習指導要領解説・各教科領域編』日本文教出版ほか （ともに平成29年3月公示版）																																
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】今日の教育課題を理解し、教職に必要な基礎的な知識を有する。 【思考・判断】子ども・保護者・地域の実態を把握し、実態に応じて課題の解決を案出・実践する柔軟な見方・考え方を有する。 【関心・意欲・態度】学校・地域・行政・社会的教育機関と協働して教育に従事する意義に関心をもち、反省・改善し続ける自己教育力を有する。 【技能・表現】教職に求められる基本的な技能、豊かな表現力と対話力を発揮する資質を有する。																																
オフィスアワー	木曜4限・1628・1629研究室																																
学生へのメッセージ	幼稚園・小学校教諭を目指す自覚をもち、基礎的な知識・基本的な技能を高めるための問題意識を具体化しながら参加すること。 各自の問題意識については「卒業研究」との関連も視野に入れ、効果的・効率的な探求計画をもって取り組む。 授業で配布する資料・ワークシート類は各自で管理・保管し、随時提出可能にしておくこと。																																
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>中間プレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。</td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。	アクティブ・ラーニング	○	小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。	情報リテラシー教育	○	実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。	ICT活用	○	中間プレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。															
	該当有無	概要																															
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。																															
アクティブ・ラーニング	○	小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。																															
情報リテラシー教育	○	実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。																															
ICT活用	○	中間プレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。																															

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	特別支援教育実習・実習指導		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田 晋吾	指定なし
教授	杉野 学	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	阿尾 有朋	指定なし

授業概要(教育目的)

本科目では、特別支援教育を専門とする教員としての基本的な資質・能力の涵養をねらいとした講義・演習を行う。
指導案の書き方、模擬授業、教材教具の研究、指導技法の習得、学習評価の仕方などを通じて、特別支援教育を専門とする豊かな人間性と指導力のある教師となることを目指す。

履修条件

原則として、特別支援教育領域に関する科目を履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程を理解し、各教科・領域の概要を説明できる。 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害種や障害特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児児童生徒の活動の様子をみて、障害の状態に応じた指導計画を立案することができる。 実習で経験したことを事前指導で学習した内容と関連付けて考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員あるいは社会人としての自覚をもって実習に取り組む。 PDCAサイクルの視点を持ち、子どもへの対応や授業の改善策を考え、実践に活かすことができる。
技術・表現の観点 (A)	障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

学習計画

特別支援教育実習・実習指導

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション①	・実習の意義と目的、心構え、勤務と服務規律について確認する。 ・実習初日までに必要な準備を確認し、スケジュール表を作成する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第1章を読んでおくこと。	60
第2回	オリエンテーション②	・実習日誌を受け取り、事前書き込み内容(実習先となる学校の概要など)の記載を行う。 ・実習に関するビデオ教材を視聴する。実習中の記録の取り方(日誌の記載方法)を知る。	実習日誌に目を通し、書き込みる箇所に記入すること。	60

第3回	実習校の研究	・実習先が同じ学生同士でグループを作り、学校目標、校種、教育課程を調べ、実習日誌にまとめる。	・テキスト「特別支援教育ハンドブック」第4章、第6章を読んでおくこと。 ・実習校のホームページを閲覧し、学校に関する基礎情報を確認しておくこと。	60
第4回	様々な障害の理解と支援	・知的障害・肢体不自由の障害特性を学び、実際の指導場面で必要な配慮事項を検討し、発表する。 ・視覚障害、聴覚障害、自閉症についてテキストに基づいて復習を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第5章を読んでおくこと。	60
第5回	特別支援学校の教育課程	・特別支援学校（知的・肢体）の教育課程を確認する。 ・それぞれの実習先となる特別支援学校の教育課程と照らし合わせながら、時間割を確認する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第6章を読んでおくこと。実習先の学校種とその教育課程について調べたことをまとめておくことと良い。	120
第6回	個別の指導計画、個別の教育支援計画	・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成過程を学習する。仮想事例について、個別の教育支援計画を作成する。また、模擬的なケース会議を開き、個別指導計画を作成する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第7章を読んでおくこと。	60
第7回	自立活動の指導	・自立活動の意義と、6区分の内容を学習する。 ・自立活動の時間の学習指導案を読み込み、指導の目的や具体的な指導方法を学ぶ。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第8章を読んでおくこと。	60
第8回	知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	・知的障害児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第10章を読んでおくこと。	60
第9回	肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	・肢体不自由児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第11章を読んでおくこと。	60
第10回	危機管理、アレルギー対策、日常生活なかでの指導	・特別支援学校で想定される危機管理、緊急時対応について、具体的なエピソードから対応の仕方について学習する。（一覧表を作成し、日誌に綴じる。）	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第12章を読んでおくこと。	60
第11回	学習指導案の作成①	・指導案作成の手順を学ぶ。 ・授業改善のためのPDCAサイクルについて学ぶ。 ・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ①。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第9章を読んでおくこと。	60
第12回	学習指導案の作成②	・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ②。 ・指導案を作成する（個別作業①）。	前回の授業で学習したことをまとめておくこと。文部科学省のホームページから特別支援学校の学習指導要領をダウンロードして目を通しておくこと。	120
第13回	学習指導案の作成③	・指導案を作成する（個別作業②）。	指導案作成に必要な情報を収集しておくこと。模擬授業に必要な教材を準備しておくこと。	120
第14回	学習指導案の作成④	・指導案に基づいて模擬授業を行う。（時間の都合上、指導案の一部について模擬授業を行う。）	自分の指導案をよく読み込み、授業者として実演できるようにしておくこと。	120
第15回	事前指導のまとめ	・実習日誌の記載について最終確認を行う。	これまでの授業で学んだことや、作成したものを日誌のファイルに綴じ、すぐに参照できるようにしておくこと。	120
第16回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第17回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第18回	特別支援学校（知的）で使用する教材・教具研究	・特別支援学校（知的）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。	知的障害のある児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。	120

第19回	特別支援学校（肢体）で使用する教材・具研究	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校（肢体）で使われている教材や教具を紹介する。 実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。 	<p>肢体不自由の児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。</p>	60
第20回	教材・教具の作成	<ul style="list-style-type: none"> 実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。 	<p>作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。</p>	60
第21回	教材・教具の作成	<ul style="list-style-type: none"> 実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。 	<p>作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。</p>	60
第22回	教材・教具の作成（発表）	<ul style="list-style-type: none"> 作成（再現）した教材の発表を行う。 すべての教材レポートをまとめた冊子を作成し、授業後に配布する。 	<p>発表の仕方について各自確認・練習しておくこと。</p>	60
第23回	特別支援学校（実習校）での実習オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校での教育実習に先駆けて、実習校でオリエンテーションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションの日程調整の連絡や、当日のマナーについて予習しておくこと。 オリエンテーションで必ず確認する事項について日誌内の所定のページに書き留めておくこと。 	60
第24回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。（日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	<p>見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。</p>	60
第25回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。（日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	<p>見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。</p>	60
第26回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。（日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	<p>見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。</p>	60
第27回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。（日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	<p>見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。</p>	60
第28回	実習報告会の準備	<ul style="list-style-type: none"> 実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 	<p>実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。</p>	60
第29回	実習報告会の準備	<ul style="list-style-type: none"> 実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。 	<p>実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。</p>	60
第30回	実習報告会への参加	<ul style="list-style-type: none"> 実習報告会で発表を行う。 発表を聞き、就学前機関や小学校の職務を学ぶ。 	<p>実習報告会の発表の手順について、グループのメンバーでよく確認しておくこと。</p>	60

学習計画注記	<p>本科目は、通年（前期：水曜2限、後期：木曜2限）で開講する。 特別支援学校での実習を希望している者は必ず履修すること。</p>
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 学生の質問や発表内容について、3名の担当教員が授業内で即時にフィードバックを行う。 課題の成果や作成した指導案に、担当教員がコメントをつけて返却する。
評価方法	<p>①実習校から提出される評価票および日誌の記載内容に基づいて評価を行う（40点満点）。</p> <p>②大学で実施する事前事後指導では、授業内での発表、課題（指導案や教材作成）、模擬授業の実施状況を評価の対象とする（60点満点）。</p> <p>上記、①、②の評価点を合計し、総合評価を行う。</p>
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ討議・発表	○	○		
指導案・教材作成	○			○
模擬授業			○	
教育実習評価表			○	
実習日誌の記載内容	○	○	○	

評価割合	教育実習 (40%)、実習事前事後指導 (60%) で評価する。															
使用教科書名 (ISBN番号)	特別支援教育ハンドブック (東京家政学院大学特別支援教育研究会) を初回授業で配布する。															
参考図書	授業内で適宜紹介する。															
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。 【思考・判断】 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】 子ども達の健全で豊かな成長・発達のために、使命感を持って行動できる。															
オフィスアワー	原田 (月曜3限 1509教室) 杉野 (水曜3限 1606教室) 阿尾 (水曜2限 1605教室)															
学生へのメッセージ	特別支援学校だけでなく、幼稚園、保育園、小・中学校でも特別支援教育を推進することが求められています。特別な教育的ニーズや障害の状態について理解を深め、確かな知識や技術で支援を行えるように学びましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>特別支援学校管理職経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>授業は、少グループに分かれて演習形式 (導入説明→演習→発表→振り返り) で進める。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。handsup!を使い、リアルタイムに質疑を受け付ける。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	特別支援学校管理職経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。	アクティブ・ラーニング	○	授業は、少グループに分かれて演習形式 (導入説明→演習→発表→振り返り) で進める。	情報リテラシー教育	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。	ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。handsup!を使い、リアルタイムに質疑を受け付ける。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	特別支援学校管理職経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。														
アクティブ・ラーニング	○	授業は、少グループに分かれて演習形式 (導入説明→演習→発表→振り返り) で進める。														
情報リテラシー教育	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。														
ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。handsup!を使い、リアルタイムに質疑を受け付ける。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 延子	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養教諭教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習と校での食に関する指導のあり方を理解し、栄養教諭として効果的な指導方法を身につけられるよう行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童生徒の持つ食に関する健康課題の背景には社会状況の変化があることを客観的に理解し、説明
思考・判断の観点 (K)	児童生徒の持つ食に関する健康課題について探求し、その課題解決に向けた方策について情報収集効果的な取り組みを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の持つ食に関する健康課題の解決のため、栄養教諭(管理栄養士)として使命感を持つ意欲がある。 他職種と連携するためのコミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	児童生徒に効果的な指導を行うための全体計画や指導案を作成することができる。教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。

学習計画

回	年月日(曜日)	時限	授業テーマ	学習内容(7ヶ月「ラーニング」・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習
第1回	平成31年04月11日(木)	4 限前半	児童生徒に対する食育の必要性	少子高齢化社会を迎えるわが国の課題と次世代を生きる児童生徒の健康の保持増進のため、学校における食育の重要性について理解する。	食に関する指導の手引き第1章「児童生徒の食生活を取り巻く状況等」(1~5ページ)および、よくわかる栄養教諭第7章「子どもの健全育成と食育」(159~177ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	平成31年04月18日(木)	4 限前半	学校における食育を推進するための施策	食育基本法と食育推進基本計画における学校における食育の推進の位置づけ及び学校に期待される役割について理解する。	よくわかる栄養教諭の付録「7. 食育基本法」(315~318ページ)と第3次食育推進基本計画を読んでおくこと。	120分
第3回	平成31年04月25日(木)	4 限前半	学校における食育の推進に関する法律および諸制度	学校における食育の中心となるのは、学校給食である。その根拠法である学校給食法において学校給食が教育に位置付けられた経緯および学習指導要領における食育や学校給食の位置づけについて理解する。	よくわかる栄養教諭第1章の「4 学校における食育を推進するための文部科学省の施策」(11~17ページ)と付録「8. 学校給食法」(318~319ページ)を読んでおくこと。	90分
第4回	平成31年05月09日(木)	4 限前半	栄養教諭に求められる役割	栄養教諭制度が創設された経緯と関係法規等について理解する。	よくわかる栄養教諭第1章の「1 栄養教諭の意義と役割」(1~11ページ)および付録1の「食に関する指導体制の整備について」(306~310ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	平成31年05月16日(木)	4 限前半	栄養教諭の職務内容	栄養教諭の職務内容である「給食の管理」と「食に関する指導」を一体的に展開するためには、他の教職員や保護者、地域の専門家等との連携・協力が必要である。そのため効果的な食に関する指導全体計画の作成方法について理解する。	食に関する指導の手引き第2章「食に関する指導に係る全体計画の作成」(14~36ページ)を読んでおくこと。また、全体計画作成に載せる食に関する指導目標をグループで考えておくこと。	120分
第6回	平成31年05月23日(木)	4 限前半	食に関する指導の全体	食に関する全体計画をグループで作成する。児童生徒に身につけさせたい、または改善したい食に関する目標を		120分

			計画の作成 (演習)	設定し、給食の時間および食に関連する教科等、教育活動全体の中で取り組めるよう演習を通して学ぶ。(グループワーク)	グループで話し合い、または役割分担し、8割程度まで全体計画を作成する。	
第7回	平成31年05月30日(木)	4限前半	食に関する指導の全体計画の作成(演習)	グループで意見交換および教員の助言を踏まえ、食に関する指導の全体計画を修正し、よりよい計画を作成することを通して、より深く、体系的に食育を推進する方法について学ぶ。(グループワーク)	グループで話し合い、または役割分担し、8割程度まで全体計画を作成する。	90分
第8回	平成31年06月06日(木)	4限前半	学校給食の意義・役割	学校における食育の中心である給食の時間の指導及び食育の教材となる献立の活用方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第4章「学校給食を生きた教材として活用した食育の推進」(196～227ページ)を読んでおくこと。また、給食の時間の指導案の題材を考えておくこと。	120分
第9回	平成31年06月13日(木)	4限前半	給食の時間の指導案作成(演習)	グループで給食の時間の指導案を作成することを通して、児童生徒の食に関する課題を明確にし、学校給食の献立を教材として活用することが、課題解決のために効果的な指導方法であることを理解する。(グループワーク)	給食の時間における指導案を集め、指導案の作成方法を調べておく。	90分
第10回	平成31年06月20日(木)	4限前半	給食の時間の指導案作成(演習)	グループで話し合い、給食時間の指導案を修正し完成させる。作成した指導案で模擬授業を行うとともに、他のグループの模擬授業から、より深く、給食の時間における食に関する指導の題材設定、指導案の作成方法等について学ぶ。(グループワーク)	グループで話し合い、又は分担し、給食の時間の指導案をほぼ完成させておくこと。また、模擬授業に必要な教材を用意しておくこと。	120分
第11回	平成31年06月27日(木)	4限前半	食に関する個別的な対応指導	生活習慣病の要因となる肥満傾向や近年、増加している食物アレルギーを有する児童生徒等に対応するための望ましい個別対応指導について理解する。	文部科学省作成の学校給食における食物アレルギー対応指針に目を通しておくこと。	90分
第12回	平成31年07月04日(木)	4限前半	教科等の特性を踏まえた食に関する指導	食と関連した教科等における指導を行う際に、教科の目標や特質を踏まえつつ、食に関する指導の目標達成を図ることが大切なことを理解する。また教科等の指導案作成方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第3章「各教科等における食に関する指導の展開」(46～175ページ)の内、小学校特別活動、体育、家庭科について読んでおくこと。	120分
第13回	平成31年07月11日(木)	4限前半	教科等における食に関する指導案作成(演習1)	グループにおいて小学校体育又は家庭科の指導案を作成し、学校給食を教材として活用することが効果的な指導につながることを理解する。また、望ましい指導案の作成方法について学ぶ。(グループワーク)	よくわかる栄養教諭の補遺：指導案例(283～303ページ)の内小学校体育、家庭科の指導案を読んでおく。 グループで話し合い、分担し、8割程度指導案を作成しておくこと。	240分
第14回	平成31年07月18日(木)	4限前半	教科等における食に関する指導案作成(演習・模擬授業)	グループで話し合い、または教員の助言を得て指導案を作成させ、模擬授業を行う。教員の講評や他のグループの模擬授業を踏まえ、より深く、効果的な指導方法や指導案の作成方法について理解する。(グループワーク)	模擬授業に必要な教材を作成しておくこと。 授業の後で作成した指導案に修正を加え、完成させること。	
第15回	平成31年07月25日(木)	4限前半	諸外国における食育及び学校給食の現状	わが国の学校給食制度が世界で最も優れた制度と評価される所以は、給食の提供と食育が一体的に展開されていることであることを理解し、栄養教諭(管理栄養士・栄養士)の役割が極めて大きいことを、諸外国の学校給食と対比させて学ぶ。	レポートの提出又は小テストを実施するので、これまでの授業内容を復習しておくこと。	復習 240分
第16回						

学習計画注記	授業の進行状況によっては、スケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法	小テストを実施した際には、模範解答を提示する。			
評価方法	レポート提出および小テスト、食に関する全体計画および指導案の作成並びに模擬授業によって身につけているかどうかを評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○		○	
小テスト	○			
全体計画の作成	○	○		
指導案の作成・模擬授業		○	○	○
評価割合	平常点(40%)、教員が課す小テスト、レポート、指導案等(60%) 平常点は、授業態度や授業及び討論への積極的な参加状況によって評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	食に関する指導の手引—第一次改訂版—(平成22年3月) 文部科学省 東山書房 よくわかる栄養教諭 第二版 同文書院			
参考図書	学習指導要領、体育及び家庭科の教科書、学校給食における食物アレルギー対応指針			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、組織的におくこと地域との相互理解から「人間の栄養」を理解でき身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを身につけている。 【関心・意欲・態度】栄養教諭(管理栄養士)として社会に貢献しようとする意思と他者と共働する人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のために給食管理と食育に関する専門的な技能と表現力を知る。			
オフィスアワー	無			

学生へのメッセージ	本授業と他の教職科目をつなげ、学習を深めていくことで、児童生徒に対する食育の必要性やの理解及び食に関する指導の実践力の向上が期待できる。児童生徒が健康で明るい未来を生きるために、栄養教諭の役割は極めて重要であるから、是非、意欲的に学んでいただきたい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は学校栄養職員としての実務経験と文部科学省において栄養教諭制度の創設及び学校にお進に関する法の整備・指導に関わった経験を有しており、それを活かして栄養教諭が習得すべき教法について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	食に関する指導の全体計画、指導案の作成について、グループにおいて意見交換しながら作り上げワークを採用している。
情報リテラシー教育	○	わが国が抱える現代課題や子どもたちの食に関する状況等をインターネット等を通して情報収集する指導事例をインターネットや書籍から収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	学校栄養教育論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし
非常勤講師	伏島 礼子	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養教諭の教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Iに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭が行う「食に関する指導」に必要な知識、スキル、態度について説明することができる
思考・判断の観点 (K)	「食に関する指導」について栄養教諭の立場から思考することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童・生徒の発達段階に応じた「食に関する指導」について自ら考えようとし、栄養教諭としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	栄養教諭として「食に関する指導」を行う必要なスキルを習得し、学習者のニーズに応じた指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	学校栄養教育論Ⅰの振り返り：栄養教諭の職務内容、使命、役割の確認と、自らの考えをまとめ、討論する	栄養教諭について学んだこと、自分の考えを整理する。今後学ぶべき内容やなりたい栄養教諭像を模索する。	120
第2回	幼児・児童・生徒の発達段階別の栄養・食に関する諸課題 (担当：酒井治子)	幼児・児童・生徒の発達段階別の栄養・食に関する諸課題に関する科学的根拠の情報源の整理について学ぶ。	幼児・児童・生徒の発達段階別の栄養・食に関する諸課題に関する情報を集める。	120
第3回	幼児・児童・生徒の発達段階に	幼児・児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導と学習教材の選定にあたって留意する点を学ぶ。	幼児・児童・生徒の発達段階に応じた教材を調べ、整理する。	120

	応じた食に関する指導と学習教材 (担当: 酒井 治子)			
第4回	地域と連携して進める食に関する指導への取り組み1 (担当: 酒井 治子)	地域を連携した学校給食を活用した食に関する指導を、「和食給食サミット」の取り組みを事例に学ぶ。	様々な地域や場面に存在する食に関する資源を探し、情報発信の方法を考える	120
第5回	地域と連携して進める食に関する指導への取り組み2 (担当: 酒井 治子)	地域を連携した学校給食を活用した食に関する指導を、「和食給食サミット」の取り組みに参画し、食に関する指導の現状と課題を学生同士で討議しまとめる。	和食給食を切り口にした様々な地域での食に関する指導の実際に触れ、実際の課題を考える	120
第6回	地域と連携して進める食に関する指導への取り組み3 (担当: 酒井 治子)	地域を連携した学校給食を活用した食に関する指導を、「和食給食サミット」の取り組みに参画し、食に関する指導の現状と課題を学生同士で討議しまとめる。	和食給食を切り口にした様々な地域での食に関する指導の実際に触れ、実際の課題を考える	120
第7回	地域を連携した学校全体での食育ネットワークのあり方 (担当: 酒井 治子)	地域と連携した学校全体での食育ネットワークにかかわる地域の関係団体・機関等を実践例から学ぶ。	地域と連携した学校全体での食育ネットワークにかかわる団体・機関を考える。	120
第8回	児童の発達に応じた教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科) (担当: 伏島礼子)	家庭科という教科の全体像を把握し、児童の発達に応じた学習指導内容への理解を深める。	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。	120
第9回	教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法1 (担当: 伏島礼子)	教科(家庭科)における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	小学校の家庭科の学習指導要領と解説を熟読する。	120
第10回	教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法2 (担当: 伏島礼子)	教科(家庭科)における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案を考える。	120
第11回	教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の評価計画 (担当: 伏島礼子)	教科(家庭科)における食に関する指導の評価方法を学び、指導の再編について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の評価方法を考える。	120
第12回	教科における食に関する指導(家庭科、技	教科(家庭科)における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案をロールプレイの予行練習を行う。	120

	術・家庭科)の演習1(担当:伏島礼子)			
第13回	教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習2(担当:伏島礼子)	教科(家庭科)における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案をロールプレイの予行練習を行う。	120
第14回	食生活に関する歴史と食事・食物の文化的事項(担当:大富あき子)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項について学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導の事例を収集する。	120
第15回	食文化に着目した食に関する指導(担当:大富あき子)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項を、どのように食に関する指導に盛り込んでいくか、また、児童・生徒の発達段階に応じた展開のあり方を学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導に適切な教材を考える。	120

学生へのフィードバック方法	授業中の演習課題・レポートは当日、また、翌日に質疑応答をしながら、議論を深める。
評価方法	授業中の演習課題と最終回でのレポートにより評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習課題	○		○	
レポート	○	○		○

評価割合	演習課題50%、レポート50%
------	-----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	「よくわかる栄養教諭-食育の基礎知識- 第二版」, 藤澤 良知, 芦川 修武, 古畑 公, 田中 弘之, 田中 延子, 同文書院, 2016, 4810314510 「食に関する指導の手引き」, 文部科学省, 2010, 4827814929
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考図書	小学校学習指導要領, 文部科学省 小学校学習指導要領解説 家庭編, 文部科学省
------	--------------------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、栄養教諭として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養教諭として、栄養の管理と指導に関する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
---------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

オフィスアワー	酒井 火曜日5限 地域栄養教育(酒井)研究室 大富 金曜日5限 調理学(大富)研究室
---------	-----------------------------------------------

学生へのメッセージ	学校における食育は、次代を担う子ども達の心身共に健全な成長を願い、義務教育に位置づいています。飽食時代に育ち、食の重要性にも気付かぬ児童生徒の、生きる力を育むために不可欠です。そのために必要な栄養教諭の知識、スキル、態度とはどのようなものでしょうか？4年次の教育実習にむけて、食に関する指導の実践力を高めていきましょう。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員である酒井は「和食給食を活かした食に関する指導」に関わっている経験、大富も教育委員として教育委員会で教育、文化、スポーツ、生涯学習等の施策にかかわる実務経験、伏島は昨年まで現職の家庭科教諭としての長年の実務経験を生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。
アクティブ・ラーニング	○	現場の栄養教諭の研修の場の一つでもある「和食給食サミット」に参画することで、学生自らも、栄養教諭の先生方のグループディスカッションのまとめにかかわることができ、実践現場の臨場感のある課題の把握や、食に関する指導の実際に触れることが可能となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	わが国の博物館総数は年々増加しており、現在ではおよそ6,000館あると言われている。博物館という社会教育施設を理解するために、まず博物館と博物館学芸員とのかわりを明確にして、そのうえで博物館の基本的な性格を学ぶ。さらに今日の博物館が形成された基盤として歴史的な成立過程を概観し、加えて今日の諸問題について理解する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	博物館の誕生とその後の性格の変遷、及び現状について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館における学芸員の役割・使命とその可能性や限界について指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の展示等の活動への理解を深め、自らの興味関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館とは何か、学芸員とは何か～オリエンテーション	博物館施設や学芸員活動の概要を説明しつつ、本講義の進め方等を講義します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第2回	ヨーロッパの博物館と江戸期の博物学～日本の博物館前夜	ヨーロッパを中心とした世界の博物館の胎動について概観し、次いで日本の江戸期の博物学の動きを概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第3回	近代の博物館と博覧会～日本の博物館の誕生	明治以降の日本の博物館の誕生について、博覧会や文化財保護、戦時体制などに留意しながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第4回				180分

	発展する戦後の博物館～博物館活動の広がり	戦後の博物館活動の展開を社会教育施設、展示施設、研究施設などの面から時系列も加味しつつ概観します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	
第5回	法律からみた博物館～教育と調査研究の狭間で	博物館に関わる様々な法律を紹介したうえで、博物館法という博物館の定義と役割を確認し、水族館や植物園など様々な種類の博物館も紹介します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第6回	登録博物館その他～モノをみせる施設の展開	博物館と同類と目される、相当施設、資料館、記念館などの展開と、それぞれの役割について、具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第7回	資料の収集と調査研究～博物館活動の第一歩	博物館における資料収集とその整理方法や考え方について具体の事例も交えながら概観します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第8回	資料の保存～資料管理と保存科学	博物館における資料の保存について、日常管理（燻蒸やIPM）や保存処理・修理技術などを具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第9回	資料の展示～博物館の顔とその課題	博物館における資料の展示について、その技術的方法のほか、考え方・思想や課題などを具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館と文化財～保存と活用と思想	博物館が文化財保護とどう関わるのか、文化財の保存や活用に役立てる可能性と課題について、具体の事例も交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第11回	教育としての博物館～博学連携	展示をはじめ、講座・講演、出前授業など博物館活動が学校教育や社会教育にどのように関わるかを、具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館とボランティア～市民活動と博物館	博物館活動における各種の支援、特にボランティアの役割と意義、限界について取り上げ、市民・地域社会との協業という視点で博物館を概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館の運営と評価～経済的論理から	博物館の運営方法について事例を見ながら概説したうえで、博物館評価の方法と限界を考えることで、逆説的に博物館の特色と意義を浮き彫りにします。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第14回	観光と博物館～広がる世界と博物館	国際化の中で国内外からの来館者へどう対応するのか、観光（施設）としての博物館の活動について具体の事例を用いながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第15回	博物館とデジタル・ネット社会～効率化と広報活動	情報化社会の中での博物館活動、すなわちデジタルデータの有効利用とSNS等による有意義な広報など、最先端の動きについて概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	下記小テストでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）に小テストを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○		○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	小テスト（毎回）（40%）、定期試験（60%）で評価します。	
使用教科書名（ISBN番号）	講義の際、必要に応じて資料を配布します。	
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の活動と自らの興味関心を関連づけて考えることができる	
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。	
学生へのメッセージ	博物館という近くて遠い存在を、より身近に感じてもらうとともに、博物館活動がこれからの日本の在り方を考える重要な視点・論点を提供してくれること、すなわち現代社会において博物館が必要不可欠な社会教育施設であることを知ってほしいです。加えて、博物館活動が現代社会で成り立つ意味／必要とされる意味を理解することで、各自の専攻の社会的立ち位置を自覚する機会ともしてほしいと考えています。本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を講義内容と絡めながら見学してみてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業にあるといつてよい。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、具体的に資料の収集から資料の活用に至るまでのプロセスを追って博物館資料の位置づけとその考え方について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	博物館で取り扱う資料の性格とその社会的意義について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館で取り扱う資料のもつ可能性や限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館で取り扱う資料への理解を深め、自らの興味関心に引き付けて収集・保管から活用までを考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館資料論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館資料論の目的と意義	博物館で取り扱う資料とはどのようなものか、ということを知るために博物館資料の種類と分類を総覧し、次いで博物館の所有ないし管理する資料とするための一連の手続きについて概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけて、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館資料の性格	博物館の資料といえば、実物資料(一次資料)だけが資料と考えられがちであるが、他にも二次資料とよばれる資料があること、その役割などについて学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけて、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第3回	博物館資料の収集方法	博物館の資料を収集する方法、具体的には採集、購入、寄贈、寄託、借用、製作などに視点をあててその可能性と限界について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけて、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第4回	博物館資料の保存と修理	博物館で取り扱う資料は材質も形状も多種多様であるため、それぞれの形状や材質に対応する保存方法がある。多様な保存方法について概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけて、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第5回				180分

	博物館資料の整理と管理	博物館で扱う資料の日常的な管理方法について、台帳の作成や整理方法、データベースや検索方法などを紹介しながら概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	
第6回	博物館資料の記録化 (1) 写真	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に写真・画像として記録することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	博物館資料の記録化 (2) 実測図	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料を計測して実測図を作成することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	博物館資料の記録化 (3) 拓本	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に拓本として記録する技術とその有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	博物館資料の記録化 (4) 台帳	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に台帳の作成・整備の手順とその有効性・限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館資料の記録化 (5) 調査法	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料自体を観察したり、聞き取りや文献調査などにより付帯情報を収集・整理することの意義について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	博物館資料の收藏と梱包	博物館にある資料を適切な保存・管理の下で活用する方法のうち、特に資料の收藏と移動(梱包)の技術や考え方について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館資料の展示と活用	博物館にある資料を有効に活用する代表的な形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館の刊行物	博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動の社会的な広がりや意義について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	実物と複製、偽物、クローン	博物館にある資料を適切に保存しつつ、有効に活用するための手段として、実物以外の形態の資料を作成し利用することの意義と限界、そして課題について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	再び博物館資料論の目的と意義(まとめ)	改めて博物館で扱う資料とは何か、という問いを立てて講義のまとめを行うことで、社会の中での資料のもつ役割と可能性について理解するとともに、博物館そのものの存在意義を考えてみます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	下記小テストでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後(5~10分程度)に小テストを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館資料に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。
評価基準	
評価基準	
評価割合	小テスト(毎回)(40%)、定期試験(60%)で評価します。
使用教科書名(ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】博物館資料が保存され展示されることの社会的意義を理解できる 【思考・判断】博物館における資料の可能性について生活と絡めて考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の資料を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み(12:30~12:50)に1624研究室にて相談を受けます。
学生へのメッセージ	

博物館で取り扱われる資料の多様性を知るとともに、それが保存され、展示される社会的意義を理解してほしいです。加えて、そうした資料を扱う博物館活動が現代社会で必要とされる意味にも思いをはせることで、各自の専攻の社会的立ち位置を自覚する機会としてほしいと考えています。

本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を講義内容と絡めながら見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

授業概要(教育目的)	日本における経済的危機は悪化の一途をたどっていたが、この間、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が重要な課題となっている。こうした社会的な潮流は博物館の運営面においても例外とはいえ、近年、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。本講義では、博物館経営において学芸員が取り組むべき課題や現代社会における博物館の役割について、テーマを設けて講義する。
履修条件	博物館学に関する概説を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 博物館を運営する上での基本的な要素を説明することができる。 2. 博物館が現実的に取り組んでいる施策の事例を通じて、現代社会における博物館のあり方、役割を具体的に述べるができる。 3. 専門分野以外の経営面において、学芸員が取り組むべき視点を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館経営の上で重要と思われるテーマを個別に取りあげ解説することにより、現在、博物館が抱える運営上の諸問題について考察することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館経営とは何か	シラバスに基づく講義内容の説明を行うとともに、授業への導入として博物館経営論とはどのようなものなのかについて解説する。博物館経営論の導入として、現代社会の中で、なぜ博物館に「経営」といった視点が必要なのか。行政が積極的にとりいれているNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の視点から、博物館経営の必要性を知る。	【予習】一般的に、社会において「経営」とは何を意味するのかを考えておく。 【復習】NPMという大きな潮流を理解し、現代社会における博物館経営について何が大切であるかをまとめておく。	120分
第2回	博物館の設立と基本構想	博物館の設立の行程や理想的な博物館建設の形を知り、その中でも基本理念の重要性を知る。	【予習】博物館を新たに設置するために考慮すべき要件をまとめておく。 【復習】新設博物館の設立過程を確認し、基本構想の要素について整理しておく。	120分
第3回				120分

	博物館の行政制度と使命	公的機関として設置されることの多い博物館を運営する上での、法的根拠について理解を深めると共に、その使命について考える。	【予習】博物館概論で触れられた、博物館法および関連規則を思い出し、博物館設置の目的について整理しておく。 【復習】博物館の法的位置づけや運営の実態、博物館が果たすべき使命について、プリントと講義内容を復習する。	
第4回	博物館の施設と設備	博物館の施設や設備といったハード面について、近年における傾向やリニューアル等の問題点について知る。	【予習】実際に訪れたことのある博物館を思い出し、博物館の施設がどのような構造になっているかを考えておく。 【復習】博物館の施設や設備が、どのような観点から設計・設置されているかをよく理解しておくこと。	120分
第5回	博物館の人的資源	博物館を支える人々は多様で、それぞれがどのように博物館の業務と関わっているのか。そのなかでも博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、博物館における役割とその特質について概観する。	【予習】博物館の中で学芸員はどのような仕事をしているのだろうか。博物館概論で学んだ博物館の機能と併せてまとめておく。 【復習】博物館における学芸員の位置づけと重要性について理解し、今日の学芸員が何を求められているのかを復習しておくこと。	120分
第6回	博物館の財政制度	公的機関でありまた教育機関でもある博物館の、財政基盤ならびに予算の特殊性、出納の実態などを学ぶ。	【予習】一般的に、行政の予算がどのような過程で成立するのかを調べておく。 【復習】博物館の財政的根拠や予算の特質を、講義内容とプリントを確認してまとめておく。	120分
第7回	ミュージアム・マーケティング	博物館の集客戦略として行われてきているミュージアム・マーケティングの手法と具体例について学ぶ。	【予習】商業的に使われているマーケティングの意味を調べておく。 【復習】ミュージアム・マーケティングの手法と運用上の留意点についてまとめておく。	120分
第8回	博物館を評価する	博物館組織の内外で実施されている事業評価のあり方について学ぶ。	【予習】行政や企業で行われている事業評価のあらましを調べてみる。 【復習】事業評価について、博物館におけるその意義と問題点について整理しておくこと。	120分
第9回	指定管理者制度と博物館	現在行われている指定管理者制度の有効な点や問題点をよく理解し、より強い官と民のパートナーシップとしての指定管理者制度の新しい姿を知る。	【予習】自治体において採用されてきている指定管理者制度について、その概要をまとめておく。 【復習】旧来の事業委託制度と指定管理者制度の違いをまとめ、博物館やその他の施設における指定管理の具体例を調べてみる。	120分
第10回	博物館の利用者サービス	博物館経営における「サービス」とは何を意味するのか。今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に学んでいく。	【予習】一般的にイメージするサービスと公共サービスの違いについて考えておく。 【復習】利用者主体の博物館経営という観点から、博物館が行うことができるサービスにはどのようなものがあるのかを、よく整理しておくこと。	120分
第11回	博物館と観光	旅行ガイドブックには常に登場する博物館であるが、生涯学習機関に位置付けられる博物館は観光には消極的であった。しかしながら政府は、オリンピックを背景に博物館や文化財を観光資源として積極的に活用する姿勢に転換した。こうした流れを概観し、博物館と観光との関係を説明する。	【予習】一般的の人が博物館を訪れる契機は何であろうか。思い付くままに列記し、その中で観光利用がどのくらいの位置を占めるのかを検討してみる。 【復習】博物館を観光資源として活用する利点を説明できるようにまとめる。	120分
第12回	バリアフリーからユニバーサルミュージアムへ	バリアフリーという用語が社会に浸透しているが、多岐にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面とソフト面での施策について理解し、さらにユニバーサルミュージアムの取り組みについて知る。	【予習】近年、公共施設の設計に取り入れられるようになってきたユニバーサルデザインについて、予め調べる。 【復習】バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを把握	120分

			し、ユニバーサルミュージアムの特徴を復習しておく。
第13回	博物館のネットワーク	博物館における従来型のネットワークと、高度情報社会におけるネットワークについて、近年の動向を学ぶ。	<p>【予習】今日の高度情報社会の特質を踏まえ、人と人のつながりや情報の伝達、博物館での情報機器利用について調べておく。</p> <p>【復習】高度情報社会における博物館のネットワークについて、従来型のネットワークと比較しながら、その多様性や拡張性についてまとめる。</p>
第14回	地域社会と博物館	生涯学習機関としての博物館が、地域への貢献として地域が抱える問題に取り組むという新たな課題について、新しい博物館の施策を学ぶ。	<p>【予習】あなたがイメージする地域あるいは地域社会とはどのようなものなのか、地域社会における博物館の存在意義を考えてみる。</p> <p>【復習】博物館と地域社会との関係、および博物館が地域社会に果たす役割をまとめておく。</p>
第15回	博物館の現在	現代社会において博物館の果たすべき役割やあるべき姿を、博物館経営の立場から総合的に理解する。	<p>【予習】これまでの講義で説明した内容を基に、今日の博物館が社会において果たすべき役割について考えておく。</p> <p>【復習】利用者の立場に立った博物館、地域の課題に取り組む博物館といった、新しい博物館像を自分なりに描けるようにする。</p>
学生へのフィードバック方法		授業では各回のポイントやキーワードについての確認を行うが、授業期間に4回程度のリアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパーの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。	
評価方法		定期試験による評価 80% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 20% また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、4回を越える欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。	
評価基準			
評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
リアクションペーパー	○	○	
定期試験	○		
評価割合		期末試験による評価 80% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 20%	
使用教科書名 (ISBN番号)		教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。	
参考図書		加藤有次ほか編『博物館経営論』雄山閣出版、1999年刊 大塚 哲編『博物館経営論』樹村房、1999年刊 佐々木亨ほか『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会、2008年刊 大塚 哲ほか『博物館学Ⅲ (博物館情報・メディア論・博物館経営論)』学文社、2012年刊	
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】博物館と地域社会の結びつきを理解し、博物館が地域社会に果たすべき役割を説明することができる。 【思考・判断】博物館経営の施策を通して、博物館がどのように地域社会の諸問題を解決していくべきであるのかを思考することができる。	
オフィスアワー		授業の前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。	
学生へのメッセージ		できるだけいろいろな博物館に足を運び、展示だけではなく授業で学んだ視点を生かして、博物館経営の観点から博物館を見学するくせをつけよう。	
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、また博物館協議会の委員を務めている。これらの実務経験を活かした教授を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	各回の授業は教員が講義する型式を基本とするが、ディスカッションを取り入れた双方向型の授業を取り入れていきたい。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	生涯学習概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 上野 昌之	指定なし

授業概要(教育目的)	生涯学習は人が生涯にわたって成長し続けるという概念のもと行われる教育・学習形態で、時・場所の制約を越え、学習する権利を実現させようとするものである。人々が学びを通して新たな自分になることを目指す教育とっていいかもしれない。この講義では生涯学習の理念を踏まえ、社会教育施設のあり方、役割をとらえた後に、国内における様々な様態、特に多文化・多民族の状況下において自己実現に向かう人々の動向に目を向け、学習権の意味を考えていく。最後にすべての人々が直面する「死」について、「生」をいかにとらえるかという課題も検討する。
履修条件	生涯学習、社会教育、多文化共生について学びたいと考える者。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	生涯学習、社会教育の諸事象についての説明ができ、概念的に関係づけられるようになる。
思考・判断の観点(K)	生涯学習・社会教育を取り巻く諸問題について自己の意見を持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点(V)	講義中の課題に積極的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	自らのことばで生涯学習の諸事象を具体的に表現することができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	これから学習することになる生涯学習論とはどのようなことを学ぶ講義なのか、生涯学習とは何かということからはじめる。	これまで学校教育以外で行った学習には同様なものがあつたかどうか事前に振り返っておく。これから取り組みたい自己実現の方向性を考え、それには何をすべきか計画を立てる。	120分
第2回	生涯学習の理念と動向	生涯学習の考え方が生まれた背景と進展を国際的な動向から考え、生涯学習の理念と動向を押しえ考える。	教科書第3章を読み、ユネスコで生涯教育の発案された背景とのちの発展について理解しておく。	120分
第3回	生涯学習の概念	日本における生涯教育、生涯学習の成り立ちと進展を制度等を押しえ考える。	教科書第1章を読み、日本に導入された生涯学習の考え方を社会教育とそのあり方との相違点を考えておく	120分
第4回				120分

	社会教育の歴史	日本の社会教育の始まりと発展を押さえ、社会教育の持つ意義と目的を理解する。	教科書第2章を読み社会教育の歴史と現状を知る。	
第5回	生涯学習と学校教育	今日学校教育は単独で教育を行うことはできない。学社連携の意味から学校教育と社会教育施設との連携の必要性を考える。	教科書第4章を読み、学校教育が生涯学習体系にどのように位置づけられ、関連性を持つのかを理解しておく。	120分
第6回	生涯学習と図書館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある図書館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、図書館の目的と役割を知るとともに、自己が図書館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第7回	生涯学習と博物館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある博物館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、博物館の目的と役割を知るとともに、自己が博物館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第8回	生涯学習と公民館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある公民館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、公民館の目的と役割を知るとともに、自己が公民館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第9回	生涯学習関連行政の仕組み	社会教育行政の役割、仕組みを理解し、生涯学習を支える行政のあり方を考える。	教科書第8章を読み、社会教育行政を概念的にとらえておく。	120分
第10回	多文化共生社会への取り組み①	今日の日本社会を構成する外国人労働者の問題を考える。多文化共生社会を築く上で重要な視点、問題点を考え、共生社会実現を阻害する要因、克服するために何をすべきかを考える。	近年日本に急増する外国人の労働者について、どのような背景で増加し、どのような職種に多くいるのかを調べ、彼らの抱える問題を見つける。	120分
第11回	多文化共生社会への取り組み②	戦前から日本社会を担ってきたオールドカマー（在日）に視点をおき、彼らの歴史を振り返る。多文化共生社会を築く上で重要な視点、問題点を考え、共生社会実現を阻害する要因、克服するために何をすべきかを考える。	日本社会に戦前から溶け込み暮らしている在日の人々の歴史を調べ、なぜ形成されているのかを理解しておく。	120分
第12回	多文化共生社会への取り組み③	識字教育に視点を当て、識字教育が学習の権利として持つ意味を考える。、今日的な識字問題を考え、識字を獲得できないための弊害、社会参画の制限、生活の限界性などを考えていく。	機能的識字が満たされない場合、生活上どのような弊害が起きてくるかを身の回りの事例をもとに考えてみる。特に外国人労働者の生活などを中心に考える。	120分
第13回	多文化共生社会への取り組み④	日本における先住民族の一つ(アイヌ民族)についてその歴史を踏まえ、日本における位置、直面している諸問題、先住民族の権利について考える。	アイヌ民族がどのような人々なのかその歴史、文化について調べる。先住民族の権利とは何か、その概念を調べる。	120分
第14回	学校学力から生涯学力へ	これまで受けてきた学校教育が変わろうとしている。知的基盤社会からさらにその先の社会で人々に必要な能力とは何か。それを獲得するための学習とはどのようなものかを考える。	既に進行しつつあるビッグデータや人工知能(AI)による「第4次産業革命」がさらに急速に進展していく時代に人ができること、すべきことは何かを考える。	120分
第15回	生と死を考える	人は死ぬ瞬間まで自己を高めることができる。死を考えることは生を全うさせることにもなる。よりよく生き、「よりよく死ぬ」とは、どのようなことかを考える。	死ぬこととはどのようなことか、身近な死や自己の死について考え、生きることの意味を考える。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	各回のレビューシートについて次回講義時にコメント、解説を行う。			
評価方法	毎回講義中に課題を与えレビューシートを提出してもらう。当日の講義内容に関する事柄を中心に出席し、思考力を見るときに講義への意欲関心の度合いを計る。欠席に対する特段の考慮はしない。定期試験は講義に関する事柄について知識を計る問いと理解力・判断力を計る論述問題を課す。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レビューシート		○	○	
定期試験	○	○		

評価割合	試験(70%)、レビューシート(30%) 総合的に判断する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	佐藤晴雄著 『生涯学習概論』 学陽書房 2016年 (978-4313611405)			
参考図書	岩崎正吾編『多文化・多民族共生時代の世界の生涯学習』学文社2018年			
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 関心・意欲：社会を構成する大切なひと 社会を構成する大切なひと 社会を構成する大切なひと りとして、高い徳性をもったりとして、高い徳性をもったりとして、高い徳性をもったりとして、高い徳性をもったりとして、高い徳性をもつ人々のために働く能力 人々のために働く能力			
オフィスアワー	講義時間の前後20分			
学生へのメッセージ	生涯を通して学ぶことの重要性を考えてみましょう。 多様な人々と社会を作る意味を考えてみましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	「学内実習」「見学実習」「館園実習」の面から博物館の実務に対する理解を図る。「学内実習」では、資料の取り扱い博物館運営の知識や実務についての習得をはかるために、博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する理論や技術など修得する。「博物館見学」では、博物館の構造や施設、バックヤード（研究室、収蔵庫、作業室、燻蒸庫など）、展示技術などを見学して具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。また「館園実習」として、博物館所蔵の実物資料を用いての資料の取り扱い方法、整理方法、各種道具類などの習熟を踏まえたうえで、総括的な実習として博物館展示室において展示実習を行い一般公開する。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	学芸員の実務の多様性を理解する。
思考・判断の観点(K)	学芸員の実務についての可能性や限界について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	自らの興味関心に絡めて各博物館の活動について考えることができる
技術・表現の観点(A)	資料の保存と公開に関する技術と思想を自ら実践できる

学習計画

博物館実習			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外実習(予習・復習)の内容
第1回	学内実習(1)	オリエンテーションを行うとともに、博物館の環境と保存について講義し、実際に温湿度の計測や環境の管理について実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第2回	学内実習(2)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料整理と写真撮影などについて講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第3回	学内実習(3)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料の実測について講義を行い、実習を行います	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。

第4回	学内実習 (4)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料の拓本について講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第5回	学内実習 (5)	博物館資料の取り扱い方法として、特に梱包と輸送について講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第6回	博物館見学 1	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第7回	博物館見学 2	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第8回	博物館見学 3	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第9回	博物館見学 4	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第10回	博物館見学 5	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第11回	館園実習1	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第12回	館園実習2	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第13回	館園実習3	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第14回	館園実習4	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
第15回	館園実習5	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。	
学習計画注記		※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。 ※特に博物館見学については、千代田キャンパスとの合同を計画しているうえ、先方の都合によっては土曜日等に変更になる可能性もあります。		
学生へのフィードバック方法		下記小テストでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の実技に対する取り組み方・姿勢を中心に評価します ・また毎回、授業の最後（5～10分程度）に小テストを実施します。そこでは、基本的には授業の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・授業終了後、レポートの提出を義務づけます。実習に絡めた総合的なテーマを出題し、論じてもらいます。 		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
レポート	○	○	○	
実技	○	○	○	○
評価割合		実技（60%）小テスト（毎回）（10%）、レポート（30%）で評価します。		
使用教科書名 (ISBN番号)		授業の際、必要に応じて資料を配布します。		
参考図書		授業の際、必要に応じて資料を配布します。		
ディプロマポリシーとの関連				

	<p>【知識・理解】博物館の活動が多岐にわたることを理解できる 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割と生活との関わりについて考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の活動と自らの興味関心を関連づけて考えることができる 【技術・表現】博物館活動を自らの意志で主体的に実践できる</p>															
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。															
学生へのメッセージ	博物館という現場で学芸員がどのような思いで、またどのような課題を抱えつつ業務を遂行しているかを理解してほしいです。そしてそれが、社会の中で、特に私たちの日常生活にどのような意義があるのかを一人一人が考える場としてほしいと考えています。本実習期間中は、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を実習の内容とも絡めながら見学してみてください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

授業概要(教育目的)	博物館において資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。
履修条件	博物館学に関する概説の授業を受講していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	博物館でおこなわれている資料保存に関する幅広い知識や考え方を身につける。
思考・判断の観点 (K)	多様な博物館資料の特性を把握し、その資料をどのように取り扱うべきであるのかという判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館資料をはじめとする我が国の文化財の重要性を認識し、次世代へと継承していく意欲を養う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館の資料保存 — 守る・残す・伝える —	博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。	【予習】博物館法では資料保存（保管）がどのように位置づけられているかを確認しておく。 【復習】美術工芸品を含む人文系資料が、どのような素材でつくられているかを整理する。	120分
第2回	文化財保護法の理念と特質	博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。	【予習】文化財保護法を調べ、文化財とはどのようなものかを確認する。 【復習】文化財保護法の理念をまとめ、博物館資料との関わりを整理しておく。	120分
第3回	わが国の気候・風土と伝統的保存	年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。	【予習】わが国の地理的特徴と気候について、その多様性を確認しておく。 【復習】日常で行われてきた伝統的な保存方法に、どのような	120分

			ものがあるのかをまとめておく。	
第4回	正倉院にみる伝統的保存	伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。	【予習】奈良市に所在する正倉院について調べておく。 【復習】正倉院宝物が長きにわたって伝えられてきた保存法についてまとめておく。	120分
第5回	博物館資料と文化財科学	資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。	【予習】前回までに学んだ伝統的保存法の限界についてまとめておく。 【復習】文化財科学のインターフェイス的な役割と研究分野について確認しておく。	120分
第6回	博物館の保存環境	博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。	【予習】博物館資料や文化財がどのような場所に置かれているかを確認しておく。 【復習】博物館において資料の保存環境を整備する際の留意点をまとめる。	120分
第7回	博物館資料の生物被害対策	博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。	【予習】博物館資料や文化財を汚損・食害する生物を調べておく。 【復習】IPMがなぜ行われるようになってきたのかをまとめ、その理念と手法的特徴を確認しておく。	120分
第8回	考古資料の保存と修復	考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。	【予習】考古資料とはどのようなものでどのような特質があるのかを調べる。 【復習】考古資料が博物館において、修復され展示される「ことが多い理由についてまとめておく。	120分
第9回	史料の保存と修復	光や温度に影響を受けやすい古典籍等の史料に対する保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。	【予習】博物館で展示されている紙資料の種類を調べておく。 【復習】史料の保存手法やアーカイブ化の利点をまとめておく。	120分
第10回	映像資料・写真資料の保存とアーカイブ	資料の二次的な保存手段である映像・写真を取り上げ、劣化しやすい性質や保存方法およびアーカイブ化について概観する。	【予習】博物館資料において、映像や写真はどのように位置づけられているかを調べておく。 【復習】映像や写真を補完・保存する際の留意点をまとめておく。	120分
第11回	美術工芸資料の保存	美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の保存について概観する。	【予習】博物館資料として扱う美術工芸品の種類や材質の多様性を確認しておく。 【復習】美術工芸品の保存環境と収蔵・保管の留意点をまとめておく。	120分
第12回	自然資料の保存	自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。	【予習】博物館法や文化財保護法における、自然系資料の位置付けを確認しておく。 【復習】生物を扱う博物館の特質と、保存の手法および意義についてをまとめておく。	120分
第13回	コレクション・ドキュメンテーションと資料管理	資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメンテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。	【予習】博物館資料の記録がどのように活用されているかを、博物館のホームページ等で調べておく。 【復習】コレクション・ドキュメンテーションの利点と手順についてまとめておく。	120分
第14回	博物館の資料保存と危機管理	博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。	【予習】環境による資料の劣化以外に、学芸員が博物館資料を取り扱う際の注意点を考えておく。 【復習】博物館資料を脅かす短期・中期・長期的な危機にどのようなものがあるのかをまとめ、その対策について確認する。	120分

第15回	被災文化財の保護と博物館	近年問題となっている災害に直面した文化財に対して、博物館が果たしてきた役割について述べる。	【予習】震災等の自然災害に直面した文化財の事例について調べておく。 【復習】被災文化財の救出や保護に果たす博物館の役割を確認しておく。	120分	
学生へのフィードバック方法		授業テーマに関連した質疑やディスカッションを取り入れ、授業の最後に各回の要点やキーワードについての確認を行う。 質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。			
評価方法		定期試験による評価および授業への取り組みおよび質疑やディスカッションへの参加などの平常点で評価する。 また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、4回を超える欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	質疑やディスカッションへの参加		○	○	
	定期試験	○			
評価割合		積極的な質疑やディスカッションへの参加 20% 定期試験ないしはレポート 80%			
使用教科書名 (ISBN番号)		教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。			
参考図書		青木 豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣 2013年刊 石崎武志編『博物館資料保存論』講談社 2012年刊 本田光子・森田 稔編『博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2012年刊			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】博物館の資料保存に関する知識を身に付けることで、博物館資料をはじめとする文化財を次世代に継承し、地域社会における質の高い文化的生活の持続が可能であることが理解できる。			
オフィスアワー		授業前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。			
学生へのメッセージ		実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などから、資料保存と展示との両立を考えてみよう。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

授業概要(教育目的)	博物館の展示は、調査研究の成果を公開する場であると同時に、展示する側と見る側のコミュニケーションの場である。この視点をもとにして展示することの意義について学ぶ。実際の展示に基づいて展示の方法を概観するとともに、展示室内に備えられるさまざまな装置類、デザイン・照明などの展示技術、展示企画作成の実際、さらにギャラリートーク、視聴覚機器類、展示図録など博物館の展示の在り方について総合的に理解する。
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	博物館における展示の意味と性格の変遷、及び現状について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館における展示の意義・可能性と限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の展示への理解を深め、自らの興味関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館展示論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館展示論の概要(オリエンテーション)	本講義の計画と概要について説明します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館における展示	博物館における展示の性格と種類について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第3回	博物館展示の実際(1)	博物館展示の事例として、本学付属の生活文化博物館の展示をみながら考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第4回	展示の類型とそのあり方	博物館の展示の類型を紹介し、それぞれの可能性と課題について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

第5回	展示の技術 (1)	博物館の展示における展示室、展示台、展示ケースなど、主としてハード部分について紹介し、展示の意義と限界を理解します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第6回	展示の技術 (2)	博物館の展示における壁面の利用、展示解説パネルの作成、動線の確保などソフト部分の役割と技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	展示の技術 (3)	博物館の展示における展示室の環境整備、資料の管理の考え方や技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	展示の技術 (4)	博物館の展示におけるキャプションや画像、映像など伝達の目的と限界について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	博物館の展示と教育	博物館における展示と学校及び生涯教育（学習）との関連性と課題について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館展示の実際 (2)	特に地域博物館の展示で用いられることの多い民俗資料の展示について、考え方と限界、可能性について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	博物館の展示と広報	博物館の展示において、いかに外向けにその活動を発信していくか、またそれを展示にフィードバックしていくか、を概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館の展示と図録	博物館の展示に合わせて作成される図録やパンフレットといった媒体の役割と限界について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館展示の評価とその方法	博物館の展示を第三者的にどう評価できるのか、その意義と課題について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	博物館展示の実際 (3)	博物館の展示のうち、特に美術・工芸品の展示の考え方や技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	博物館展示の実際 (4)	博物館の展示において、特に動物や植物、魚類などの展示に意義と課題について説明します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	下記小テストでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、講義の最後（5～10分程度）に小テストを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・ 定期試験は、博物館展示に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○		○	
	定期試験	○	○	○	
評価割合	小テスト（毎回）（40%）、定期試験（60%）で評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	『博物館の展示をつくる 展示論』（日本展示学会・雄山閣・2010） ISBN-10:4639021496 ISBN-13:978-4639021490				
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館の展示が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館の展示の可能性と限界について考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の展示を自らの興味関心と関連づけて考えることができる				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。				
学生へのメッセージ	博物館という近くて遠い存在を、より身近に感じてもらうとともに、博物館の展示が社会を考える重要な視点・論点を提供してくれることを知ってほしいです。それを理解す				

ることで、各自の専攻の社会的立ち位置を再度見つめなおす機会ともしてほしいと考えています。
本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）の展示を講義内容と絡めながら見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の展示や現場での指導・監修の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

授業概要(教育目的)	来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が收藏する資料（コレクション）は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという展示の歴史をはじめとして、展示の意義や手法など、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて解説する。
履修条件	博物館学に関する概説の授業を受講していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	展示に関する基礎的な知識を身に付け、博物館および来館者にとって展示とは何を意味するのかを理解する。また、博物館が資料を展示するための様々な取り組みを知る。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館における展示とは何か	今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。	【予習】一般的に行われている展示（ディスプレイ）と、博物館が行う展示にはどのような差があるかを考えてみる。 【復習】博物館が行う展示の意義をまとめておく。	120分
第2回	展示の歴史－陳列から展示へ－	わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。	【予習】前近代において、人に「もの」を見せるという行為にどのようなものがあるかを調べておく。 【復習】近代以降の博物館の歴史を、展示の発達という視点でまとめておく。	120分
第3回	博物館資料の多様性と展示の類型	博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。	【予習】博物館概説で学んだ博物館の種別を思い出して整理しておく。 【復習】博物館の分野別によ	120分

			る。資料の見せ方の特徴をまとめておく。	
第4回	展示空間の設計	博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいべき展示空間を構成する諸要素について述べる。	【予習】博物館の展示空間室がどのようなものであるのか、過去に訪れたことのある博物館の展示室を思い出し、その特徴をまとめておく。 【復習】展示空間は展示資料の視点と来館者の視点があることに留意し、展示空間を設計する際の要点をまとめておく。	120分
第5回	展示を企画する	来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画が重要な要素となる。ここでは、いくつかの事例に照らしながら、展示解説の手法を含めた展示計画について解説する。	【予習・復習】過去に訪れた博物館を思い出し、また新たに博物館を訪れて、展示物の配置や導線にどのような工夫がなされているかを確認する。	240分
第6回	展示のディスプレイ	博物館が収集する多様な資料を効果的に展示する手法について、屋内外の展示手法ならびに、模型やレプリカを用いた展示の効用についても言及する。	【予習】博物館では、どこにどのような方法で資料（作品）が展示されているのかを列挙してみる。 【復習】展示資料の種類と、多様な資料を展示する際の効果的な手法についてまとめておく。	120分
第7回	展示の照明	資料を効果的に演出するには、照明は欠かすことのできない設備である。芸術性や快適性など来館者への効果を概観するとともに、資料の保存環境への配慮についても触れる。	【予習】展示に限らず、照明を用いて「もの」を効果的に見せている事例を調べてみる。 【復習】展示において、どのような照明の種類があり、どのような方法によって照明がなされているのか。その効果とともにまとめておく。	120分
第8回	展示におけるマルチメディアの普及	1970年の大阪万博以来、展示に大型映像機器をはじめとする視聴覚機器の導入が進み、今日の展示にはマルチメディア機器は欠かせないものとなっている。このような視聴覚機器の効果に触れると共に、デジタルミュージアムやインターネット上に展開するバーチャルミュージアムについてもその意義を検討する。	【予習】マルチメディアとは何か、その定義と実態について考えてみる。 【復習】博物館展示においてマルチメディアが急速に普及した背景と、マルチメディア利用の現状を把握しておく。	120分
第9回	展示の評価	より良い展示を行うためには、博物館の事業評価のひとつとして、展示の評価を行う必要がある。ここでは展示の企画から終了までの各段階における評価の方法と、評価の拠りどころにもなる来館者調査について解説する。	【復習】授業で学んだ評価の視点をもとに、実際に博物館を訪れて展示を評価してみる。	240分
第10回	展示のリスクマネジメント	資料を展示するという行為は、資料の保存・継承という博物館の使命や資料の取り扱いの過程において、様々なリスクを伴う。これを資料の保全や展示環境の面から解説する。	【予習】博物館資料保存論で学んだ資料劣化の要因をまとめておく。 【復習】展示における資料の取り扱いを、資料保存の観点から整理しておく。	120分
第11回	展示にみる博物館の学び	博物館にとって展示活動は、普及・啓発事業と並んで教育活動の一つとして捉えられる。展示の教育的効果を、学校教育との連携および地域社会における生涯学習の両側面から見てみたい。また、教育・普及の視点からガイドボランティアやギャラリートークといった解説活動にも触れる。	【予習】学校教育と生涯学習の相違点を調べておく。 【復習】博物館の教育・普及活動の種類と効果についてまとめておく。	120分
第12回	こどものための博物館	少子高齢化が進む今日の社会において、次世代を担う子供たちを博物館に誘うことは、博物館の将来を予測する上で重要な課題である。ここでは子供に視点を置いたチルドレンズミュージアムの実態について取りあげる。	【予習】チルドレンズミュージアムとはどのような博物館なのかを調べておく。 【復習】チルドレンズミュージアムの目的と手法について整理しておく	120分
第13回	博物館の楽しみー非日常から日常へー	今日の博物館展示は、学術的な側面を維持しながら、楽しい、分りやすい、ためになる展示を展開する必要がある。このような、共感や感動を呼ぶ身近な博物館づくりの観点から行われている、様々な取り組みについて紹介する。	【予習】これまでに訪れた博物館展示で、面白かった展示の事例を挙げ、どういった点がどのような理由で興味を引いたのかについて考えてみる。 【復習】現代社会あるいは地域社会において行われている、共感や感動を呼ぶ展示の特質をまとめておく。	120分
第14回	博物館展示のアウトリーチ	博物館の展示は館内にとどまらず、他機関との連携によって館外に展開している。このような館外における展示のあり方の事例を見ながら、効果について考える。	【予習】博物館の外で行われている博物館事業にはどのようなものがあるのかを、博物館の年報などで調べてみる。	120分

			【復習】博物館が館外で行う事業のうちで、展示活動にはどのようなものがあるのかを把握し、なぜ行わなければならないのかを説明できるようにする。		
第15回	展示のユニバーサルデザイン	博物館が社会教育施設であると共に公の施設であるという観点から、障害者はもとより誰でも利用できる博物館づくりとして注目されてきているユニバーサルミュージアムについて展示手法の面から概観する。	【予習】公共建築に取り入れられてきているユニバーサルデザインとは何か、あらかじめ調べてみる。 【復習】博物館のユニバーサル化はなぜ行われなければならないのか、その意義と手法、現状について整理する。	120分	
学生へのフィードバック方法		授業テーマに関連した質疑やディスカッションを取り入れ、授業の最後に各回の要点やキーワードについての確認を行う。 質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。			
評価方法		定期試験による評価および授業への取り組みおよび質疑やディスカッションへの参加などの平常点で評価する。 また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、4回を超える欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	質疑やディスカッションへの参加		○	○	
	定期試験	○			
評価割合		積極的な質疑やディスカッションへの参加 20% 定期試験ないしはレポート 80%			
使用教科書名 (ISBN番号)		教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。			
参考図書		黒沢浩編『博物館展示論』（講談社 2014年刊） 里見親幸『博物館展示の理論と実践』（同成社 2014年刊） 大畑哲・水嶋英治『博物館学Ⅱ 博物館展示論・博物館教育論』（学文社 2012年刊）			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】博物館の展示に対する取り組みや手法等を知ることにより、博物館が展示を通して地域社会に知的豊かさを提供する生涯学習機関であることを理解することができる。 【判断】展示は博物館の意思伝達装置であるので、来館者や地域社会に対してどのようなメッセージを伝えなければならないのかを思考することができる。			
オフィスアワー		授業前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。			
学生へのメッセージ		博物館は、規模や資料の種類によって様々なものがあるので、そうした多様な資料がどのように展示されているのかを、実際に博物館に足を運んで確かめてみよう。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	講義が中心であるが、学生諸君との質疑やディスカッション等の双方向性のある授業を行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる



シラバス参照

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高木 幸枝	指定なし

授業概要(教育目的)	博物館教育の理念と現状について、外国を含む数多くの事例を紹介しながら理解をはかる。教育プログラムやワークシート、ギャラリートーク、ワークショップの立案や模擬的な実践により、博物館教育のあり方や課題を理解するとともに学芸員としてのスキルの一部を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 現代の博物館における多彩な教育活動について説明できる。 2. 博物館教育のあり方や課題について理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 教育プログラムを実践することができる基本的なコミュニケーション力が養われている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館教育の基礎理論	「博物館の場における学び」、「展示品に関わる学び」の意味を理解する。	ネットの検索エンジンで「博物館教育」を調べておくこと。	180分
第2回	日本の博物館教育の歴史	明治時代の「教育博物館」から始まる日本独自の歴史を理解する。	ネットの検索エンジンで「国立博物館」を調べておくこと。	180分
第3回	博物館教育の実例 イギリス・アメリカ	イギリスとアメリカの博物館教育の実例を理解する。	イギリスとアメリカの主な博物館を調べておくこと。	180分
第4回	博物館教育の実例 オランダ・ドイツ・フランス	オランダ・ドイツ・フランスの博物館教育の実例を理解する。	オランダ・ドイツ・フランスの主な博物館を調べておくこと。	180分
第5回		多様な博物館教育のありかたを理解する。		180分

	博物館教育活動の諸形態		近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	
第6回	博物館教育プログラムの立案と実践	教育プログラムの立案と実践を体験し、博物館教育の課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第7回	博物館教育ワークシートの立案と作成	ワークシートの立案と作成を実際に行い、博物館教育の課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第8回	社会教育施設としての博物館活動	博物館の現状と課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第9回	博物館教育と学校連携	博物館の現状と課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第10回	博物館の教育活動ギャラリートーク	展示品の解説について実践的におこない、その意味とスキルを理解する。	近隣の博物館へ足を運び、学芸員による展示品の解説を聞いてみる。	180分
第11回	博物館の教育活動ワークショップ	ワークショップの立案を実践的におこない、その意味とスキルを理解すること。	近隣の博物館へ足を運び、ワークショップの例を調査しておくこと。	180分
第12回	博物館の教育活動「ユニバーサル」への配慮	博物館における「ユニバーサル」の意味と必要性を理解すること。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第13回	博物館教育を担う学芸員の役割	学芸員の仕事の意味と現状を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第14回	これからの博物館教育(1)	先進的は博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第15回	これからの博物館教育(2)	先進的は博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合により、スケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは採点して次週の授業にて返却し、全体講評を行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは2~3回分の授業に係る学習範囲から出題して、授業内で計4回実施する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限りは小テストの再試験をおこなわない。 ・定期試験は80点満点で、記述式の回答を求める出題とする。 ・小テストと定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○		○	
	定期試験	○		○	○
評価割合	小テスト(20%)、受講態度(20%)、定期試験(60%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力</p>				

学生へのメッセージ

できるだけ多くの博物館に足を運び、知識、感性、表現力、伝達力を磨いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は30年以上にわたり学芸員としての実務経験を有しており、博物館教育の現状と課題を講義するとともに、教育プログラムの実践に必要な基礎的コミュニケーション力のアップを指導する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

授業概要(教育目的)

博物館教育の意義を理念を講じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	博物館の教育活動の基礎を学ぶ
思考・判断の観点 (K)	博物館の実際に触れ、感性・表現力・伝達力を駆使する博物館の教育力について考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の実際にふれ、感想を述べ合う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館教育論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1回、オリエンテーション	博物館とは何か	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第2回	第2回、博物館教育とは何か	博物館教育とは何か、その歴史	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第3回	第3回、博物館教育とは何か、	博物館教育とは何か、その種類	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第4回	博物館教育とは何か	利用者の要望と体験	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第5回	博物館教育とは何か	学芸員の仕事	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第6回	博物館に行ってみる	東京国立博物館の本館見学	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

第7回	博物館に行ってみる	東京国立博物館、東洋館	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第8回	博物館に行ってみる	昭和館に行ってみる	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第9回	教育とは何か	教育と人間の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第10回	教育とは何か	学校の誕生と文化の伝達	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第11回	教育と展示	文化と国家の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第12回	教育と展示	文化と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	30分
第13回	教育と展示	文化の子ども	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第14回	教育と展示	教科書と文化	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第15回	教育と展示	漫画と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

学習計画注記	受講者が少数の場合には、ゼミ形式で行う場合も想定される
学生へのフィードバック方法	講義ノートの他に、KGノート（家庭学習ノート）を作成してもらおう。講義で聴いたノートをもとに、テキストに学んだ内容をあらためてKGノートに記入し、復習を行う。そのノートを時々点検したい。
評価方法	定期試験（レポート）とKG（家庭学習）ノートの総合的評価

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験（レポート）	○	○	○	
	KGノート	○			

評価割合	KGノートを点検し、定期試験（レポート）との総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	木下史青『博物館へ行こう』（岩波ジュニア新書）
参考図書	毎回の講義で配布する資料、など。
ディプロマポリシーとの関連	知識・思考、豊かな知識とあるべき姿を適確に判断できる 関心・態度、高い徳性をもって働く能力を得る 表現、他者と共感しながら創造する力を得る
オフィスアワー	水曜日4限
学生へのメッセージ	文化の持つ人間形成力につて、考えて見たいものです。 いい文化に触れた時、人間は時間を忘れ、その環境の中に一体化している自分を発見する。文化の人間に与える変容力というものか。その変容力と教育と乃関係を考えて見たい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木村 涼	指定なし

授業概要(教育目的)

博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していく。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考える。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められる。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を説明できる。 2. 博物館における情報発信の現状と課題について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 博物資料のデジタルアーカイブのシステムについて理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館情報・メディア論を学ぶ	博物館における情報・メディアの提供について理解する。	教科書1の「博物館情報・メディア論を学ぶ」(9~20頁)を読んでおくこと	60分
第2回	博物館における情報・メディアの意義	展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を理解する。	教科書2の「博物館における情報・メディアの意義」(21~41頁)を読んでおくこと	60分
第3回	博物館の機能からみた情報の蓄積と活用	博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを理解する。	教科書3の「博物館の機能からみた情報の蓄積と活用」(42~59頁)を読んでおくこと	60分
第4回	情報教育の意義と重要性	博物館の展示や教育に利用されているメディアについて理解する。	教科書4の「メディアで学ぶ、メディアを学ぶ」(60~76頁)を読んでおくこと	60分
第5回		博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	60分

	データベースの構築と運用			
第6回	博物館標本のデジタル化の技法	デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているのかを理解する。	教科書6の「博物館標本のデジタル化の技法」(92~103頁)を読んでおくこと	60分
第7回	デジタルミュージアム	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	60分
第8回	デジタル・アーカイブ	デジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを理解する。	教科書8の「デジタル・アーカイブの現状と課題」(124~141頁)を読んでおくこと 授業の最初に、1~7回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第9回	情報通信技術の活用	博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて理解する。	教科書9の「博物館展示における情報通信技術の活用」(142~160頁)を読んでおくこと	60分
第10回	インターネットを活用した情報発信	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	60分
第11回	博物館と知的財産	著作権法の概要理解及び博物館資料の取り扱いがもたらす法的な問題点を理解する。	教科書11の「博物館と知的財産」(176~199頁)を読んでおくこと	60分
第12回	博物館と市民をつなぐ情報メディア	博物館の情報発信のモデルとして、展示を事例にあげて理解する。	教科書12の「博物館と市民をつなぐ情報メディア」(200~221頁)を読んでおくこと	60分
第13回	展覧会と情報メディア	展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実態を理解する。	教科書13の「展覧会と情報メディア」(222~239頁)を読んでおくこと	60分
第14回	博物館における情報メディアの活用	情報技術やメディアを常設展示に入れ成果をあげている博物館の事例をあげて理解する。	教科書14の「常設展示のイノベーション」(240~256頁)を読んでおくこと	60分
第15回	博物館情報・メディア論の未来	これまで学んだことを統括するとともに、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。	教科書15の「博物館情報・メディア論の未来」(257~272頁)を読んでおくこと 授業の最初に、8~14回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
学生へのフィードバック方法		実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。		
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに評価する。 ・小テストは2回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計2回実施する。1回あたりの問題数は、大問7題で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 		
評価基準				
評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	平常点	○		
	小テスト	○		
評価割合		小テスト(複数回)(70%)、平常点(30%)で評価する。		
使用教科書名 (ISBN番号)		西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』(NHK出版、平成25年) 978-4-595-31412-4		
参考図書		なし		
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】博物館における情報発信方法の現状と課題を理解できる。 【思考・判断】デジタルアーカイブの構築方法を理解できる。		

学生へのメッセージ

日本各地には様々な博物館があります。博物館がどのような形で情報発信をしているのか、実際に博物館を見学し、実態を学んで下さい。また、インターネットなどを通して、自分にとって興味ある博物館の情報発信の現状を理解して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅰ（3年次）		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の実現にふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。			
履修条件	保育士資格取得希望者			
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）			
	学習目標（到達目標）			
知識・理解の観点 (K)	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する			
思考・判断の観点 (K)	実習課題を明確化する			
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む			
技術・表現の観点 (A)	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録（実習日誌）の書き方を習得する			
学習計画	学習計画			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習の意義・目的・内容の理解(保育所)	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

第2回	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第3回	保育実習の方法の理解（保育所）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第4回	保育実習の方法の理解（施設）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第5回	実習の心構えの理解（保育所）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第6回	実習の心構えの理解（施設）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第7回	個人情報の保護と守秘義務	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第8回	子どもの人権の尊重についての理解	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第9回	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第10回	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第11回	実習記録の意義・方法の理解（保育所）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第12回	実習記録の意義・方法の理解（施設）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第13回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第14回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第15回	保育指導案作成の実際（保育所）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第16回	保育指導案作成の実際（施設）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第17回	実践指導（保育所）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第18回	実践指導（施設）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第19回	実習総括（保育所）	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第20回	実習総括（施設）	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第21回				90分

	実習日誌の評価とふりかえり（保育所）	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	
第22回	実習日誌の評価とふりかえり（施設）	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第23回	指導実習の評価とふりかえり（保育所）	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第24回	指導実習の評価とふりかえり（施設）	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第25回	ロールプレイによるふりかえり（保育所）	ロールプレイにより保育所実習について新しい気づきを得る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第26回	ロールプレイによるふりかえり（施設）	ロールプレイにより施設実習について新しい気づきを得る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第27回	自己課題と学習目標の明確化（保育所）	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第28回	自己課題と学習目標の明確化（施設）	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第29回	実習Ⅱにむけて	実習Ⅱにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第30回	実習Ⅲにむけて	実習Ⅲにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

学習計画注記	受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	日誌や指導案は指導後に返却をする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の評価（実習評価票及び実習態度）：実習評価票、実習園からの総評により、子ども・保育に関する知識の修得、実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、考察の深さ、保育技術の修得について評価する。 ・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得、実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、考察の深さ、保育技術の修得について評価する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	本授業においては出席率100%が前提である。 実習の評価（50%）、実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）
使用教科書名（ISBN番号）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004 2. 指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009 3. 福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007 4. 感性をひらく表現遊び/岡本弘子編著/北大路書房/2013
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習に役立つ表現遊び2/岡本弘子編著/北大路書房/2007 2) 保育実習まるごとガイド/寺田清美・渡邊暢子/小学館/2007
ディプロマポリシーとの関連	

		<p>(知識・理解) 実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。</p> <p>(思考・判断) 実習課題を明確化する。</p> <p>(関心・意欲・態度) 実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。</p> <p>(技術・表現) 基本的な保育技術を身につける。 指導実習用の指導案を作成する。 記録(実習日誌)の書き方を習得する。</p>
オフィスアワー		水曜3, 4限
学生へのメッセージ		保育実習ⅠB及びⅠCに参加するために、本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は、実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し、後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また、毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習 I B (4年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	この実習は、保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
履修条件	規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児の生活・遊び・発達等について理解を深める ・保育所の機能、保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と保育実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・保育技術を実践し、磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として保育に入りながら、実習先施設について理解を深める
第2回	保育の一日の流れを理解し、参加する	保育所の一日の流れに注目し理解しながら、保育に参加する
第3回	子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する	保育に入り子どもを観察したりかかわったりしながら、乳幼児の発達を理解する

第4回	保育計画・指導計画を理解する	保育計画・指導計画がどのように実践されるかを観察し理解する。		
第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を磨く	部分実習を行い、保育技術を磨く。実施後の振り返りを通して指導計画についてより深く理解する		
第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	保育に参加しながら、職員間の役割分担とチームワークについて観察、理解する。また自らチームの一員として保育を行うことで実践的に理解する。		
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き、保育の記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより、保育記録についてより理解を深め、記録技術を磨く。		
第8回	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ	日々の保育に参加し、保育者の保育における意図、ねらいと具体的な保育内容（環境構成を含む）との関連を理解する。		
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	日々の保育に参加することを通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。		
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	保育に参加することを通して、子どもたちの安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。		
第11回	保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する	保育に参加し、保育者の身近で、子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。		
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	保育への参加、保育の記録、振り返りを通し、自らの課題に気付く		
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	部分実習を行うクラスの子どもたちをよく観察し、かかわりながら、その発達を理解する。その上で指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。		
第14回	保育マップを作成する	実習期間中、子どもたちの遊び・活動が観察された場所に、内容、参加した子どもたちの名前等を記入し、保育マップを作成する。		
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し、実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。		
学生へのフィードバック方法		実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。		
評価方法		・日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、保育記録の技術の修得について評価する ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○
評価割合		日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。		
使用教科書名 (ISBN番号)		・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林 ・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林		
学生へのメッセージ		保育実習 I Bへの参加基準は以下の通りです。 ①1, 2年次開講の保育士必修科目の内、未修得科目が3科目以下であること。 ②学業成績の総合評価の平均 GPA が2.2以上であること。 ③「保育実習指導 I」を履修していること。		
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。		
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ		
情報リテラシー教育				

ICT活用		
-------	--	--

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習 I C (4年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)

この実習は、施設実習に参加し、一日の流れや生活の具体的な内容についての理解を深め、施設の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を施設での実践や利用者との関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。

履修条件

規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の利用者について理解を深める 施設の機能、保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 各科目で習得した知識・技術と実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 支援技術を実践し、磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として生活に入りながら、実習先施設について理解を深める
第2回	施設の一日の流れを理解し、参加する	施設の一日の流れに注目し理解しながら、参加する
第3回	観察やかかわりを通して利用者を理解する	観察したりかかわったりしながら、利用者を理解する
第4回	支援計画を理解する	支援計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、技術を磨く	生活援助などの一部を担当し、実施後の振り返りを通してより深く理解する。

第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	生活に参加しながら、職員間の役割分担とチームワークについて観察、理解する。また自らチームの一員として動くことで実践的に理解する。
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き、記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより、記録についてより理解を深め、記録技術を磨く。
第8回	支援のねらいを具体化する方法について学ぶ	日々の生活行為に参加し、支援の意図、ねらいとの関連を理解する。
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	実践を通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	記録、振り返りを通し、自らの課題に気付く
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	個別のかかわり	気になる利用者について個別にかかわり、具体的支援について考える。
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し、実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法	実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、記録の技術の修得について評価する ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合	日誌の評価 (50%) と実習施設による評価 (50%) を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林 (978-4-89347-133-8)
ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <p>・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている</p> <p>【関心・意欲・態度】・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p> <p>・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている</p> <p>【技能・表現】・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p> <p>・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている</p>
オフィスアワー	月曜2限から4限
学生へのメッセージ	<p>保育実習ⅠCへの参加基準は以下の通りです。</p> <p>①1, 2年次開講の保育士必修科目の内、未修得科目が3科目以下であること。</p> <p>②学業成績の総合評価の平均GPAが2.2以上であること。</p> <p>③「保育実習指導Ⅰ」を履修していること。</p>

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし

授業概要(教育目的)

保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。保育実習Ⅱ(保育所)は「参加観察実習」(部分実習を含む)を経て「指導実習(責任実習)」(部分実習から全日実習)へと移行する段階である。保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得することを目指している。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただくことにより、保育実践力を高めていくことを目的とする。

履修条件

学生便覧の規定による保育実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育者同士の連携や子育て支援の工夫を実際の場面の中でとらえることができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの個人差を考慮し、内面を理解しながら、その場に応じた対応方法を工夫できる。責任実習を振り返り、自己課題を明確にできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に意欲を持って参加し、実習生として子どもや先生方に学ばさせていただく謙虚な姿勢でコミュニケーションを図りながら、その場に必要なきをしようとする。また、半日から一日の保育を保育者として実践させていただくことにより、保育実践力を高めていくことを目的とする。
技術・表現の観点 (A)	習得してきた保育技術を活かしながら自分なりに保育を立案し、実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習課題に取り組む(1)	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
第2回	実習課題に取り組む(2)	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
第3回	実習課題に取り組む(3)	発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
第4回	実習課題に取り組む(4)	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。

第5回	実習課題に取り組む(5)	地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
第6回	実習課題に取り組む(6)	職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
第7回	実習課題に取り組む(7)	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第8回	実習課題に取り組む(8)	保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
第9回	実習課題に取り組む(9)	園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
第10回	実習課題に取り組む(10)	子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
第11回	実習課題に取り組む(11)	子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
第12回	実習課題に取り組む(12)	立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
第13回	実習課題に取り組む(13)	自己の保育を省察するための記録（日誌）を工夫して書く。
第14回	実習課題に取り組む(14)	保育マップを作成する。
第15回	実習課題に取り組む(15)	反省会に出席し、実習全体を省察する。

学習計画注記	※各回の内容は12日間の実習の中で意識して行う事項を示しており、実際にはそれぞれの実習園の実態や自己課題に即して各自スケジュールを調整しながら実習課題を遂行していくことになります。なお、本科目の「予習・復習」に相当する部分は「保育実習指導Ⅱ」の授業で行います。
学生へのフィードバック方法	実習中に行われる巡回訪問指導において、質問や疑問点などについて口頭で担当教員よりフィードバックを行います。その他の質問等は、実習終了後に保育実習指導Ⅱの授業の中で解説します。
評価方法	実習園からの評価（5項目の小項目と総合評価の評価点各5点満点、合計30点満点）と、実習後に提出された日誌の評価70点を合わせて、総合的に評価します。したがって、実習を規定の時間数終えても日誌を提出しない場合は不合格となり、単位認定できません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園の評価	○	○	○	○
実習日誌の評価		○	○	○

評価割合	実習の評価（50%）と実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	保育実習指導Ⅱで用いたテキストを参考にすること。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜3、4限
学生へのメッセージ	「自ら学ぶ・学び合う・共に育つ」…本学児童学科の実習教育に共通する理念です。実習中は子どもや先生方に学ばせていただくという謙虚な姿勢を保ちつつ、単に受け身ではなく、疑問点について積極的に質問するなど「主体的な学び手」としての自分のあり方を心がけましょう。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育現場での実習は全てがアクティブラーニングです。

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

授業概要(教育目的)	児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生き育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所以外の児童福祉施設での現場実習を通して、について理解を深める。
履修条件	※保育実習ⅠB及びⅠCを履修済みであること。 ※規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める。 ・施設の機能、保育士の専門性や業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
関心・意欲・態度の観点 (V)	・初めての施設実習（保育実習ⅠC）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む
技術・表現の観点 (A)	・保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分
第2回	保育実習Ⅲの手引きと日誌について	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分
第3回	実習施設の概要と自己課題の明確化	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	「実習に臨んで」の下書きの作成	120分
第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深め	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分

		る。		
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記 実習先の施設の状況により、実習内容や順番が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法 日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、記録の技術の修得について評価する
実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合 日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) ・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】施設の利用者について理解を深める。また施設の機能、保育士の専門性や業務等について理解する

	<p>【思考・判断】各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する</p> <p>【関心・意欲・態度】初めての施設実習（保育実習ⅠC）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む</p> <p>【技術・表現】保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く</p>															
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室															
学生へのメッセージ	保育実習Ⅲでは実習施設の種別に応じた高い専門性が求められます。十分な事前学習をして実習に臨んでください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>保育実習に参加し実践的に学ぶ</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。	アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。														
アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにするとともに保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後はその経験を手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つように自己課題を明確し、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをすることを目的とする。
履修条件	保育実習指導Ⅰおよび保育実習ⅠBを履修済みであること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	保育士の専門性(子育て支援を含む)と職業倫理について説明できる。
思考・判断の観点(K)	実習に臨んで、自己課題を具体的に見つけることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	実習関連の書類作成や与えられた課題への取り組み等、必要な準備を滞りなく行うことができる。
技術・表現の観点(A)	実習に活かせるようレポーターを増やしたり練習するなどして保育技術の向上を図ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解	保育実習Ⅱの意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習Ⅱの意義と目的」「保育実習の心得」を読んでおくこと。 誓約書、個人票、出勤簿を記入し、学外実習事務室へ提出すること。	90分
第2回	保育実習Ⅱの方法の理解	保育実習Ⅱの方法について演習形式で理解する。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習Ⅱの概要」を読んでおくこと。 実習園周辺マップを記入し学外実習指導室へ提出すること。	90分
第3回	実習課題の明確化	保育実習Ⅰの振り返りを行いつつ、保育実習Ⅱの自己課題を明確化する。	保育実習ⅠBの日誌を読んでおくこと。 保育実習Ⅱの手引き「保育実習の心得」を読んでおくこと。	90分

第4回	実習日誌Ⅱの書き方	実習日誌Ⅱの書き方、特にエピソード記録の書き方について、実践しながら学ぶ。	保育実習Ⅱの手引き「実習日誌作成上の留意点」を読んでおくこと。	60分
第5回	主活動案の作成と検討(1)	責任実習で行う主活動案を作成するための準備を行う。	主活動で何を行うかいくつかの案を考えておく。	180分
第6回	主活動案の作成と検討(2)	グループごとに作成した主活動案の検討を行う。	各自「保育指導計画案」を作成してくる。	180分
第7回	主活動案の作成と検討(3)	修正した指導案をもとに、模擬保育に必要な準備をする。	指導案を修正してくる。	120分
第8回	模擬保育(1)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第9回	模擬保育(2)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第10回	模擬保育(3)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第11回	模擬保育(4)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第12回	主活動検討と模擬保育のまとめ	主活動検討と模擬保育の振り返りとまとめを行う。実習に向けての最終確認を行う。	実習日誌の事前記入欄を全て記入しておくこと。	180分
第13回	実習事後指導(1)	グループワークで「責任実習」を中心に実習全体について振り返る。	実習日誌の記入漏れがないか最終確認しておく。	60分
第14回	実習事後指導(2)	保育実習Ⅱにおける自己課題の達成状況について評価し、将来に向けた自己課題を明確化する。今後のキャリア形成の見通しを立てる。	自己課題についてまとめておく。	120分
第15回	実習事後指導(3)	実習報告会に向けた発表の準備を行う。	グループごとに分担を決めて必要な発表資料（パワーポイント等）を作成する。	180分

学習計画注記	※実習配属の時期により、スケジュールが変更になることもあります。				
学生へのフィードバック方法	授業中の課題提出物は翌週の授業で返却し、解説を行います。				
評価方法	授業への参加状況、模擬保育等を「平常点」とし、最終的に提出された「指導案」とともに評価対象とする。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	
	指導案		○		○
評価割合	本授業においては出席率100%が前提である。 平常点 (50%) + 指導案 (50%) をもって「合格」とする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	保育実習指導 I で使用したテキストを引き続き使用します。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>				
オフィスアワー	水曜日 3、4限				
学生へのメッセージ	保育実習Ⅱに参加するために、本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は、学外実習事務室へ理由を添えた「欠席届」を提出し、後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また、毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。				

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所での実務経験を有する担当教員による保育現場に即した具体的な事例提供やアドバイスを行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク形式での演習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)



シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
教授	児童学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

1. 保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

履修条件

保育士の選択必修科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し、明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。
思考・判断の観点 (K)	1. 学生一人ひとりが保育実習ⅠB（保育所）や保育実習ⅠC（施設）において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 現代の社会状況にも関心を持ち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分
第2回	保育実習Ⅲの手引きと日誌について	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分
第3回	実習施設の概要と自己課題の明確化	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	「実習に臨んで」の下書きの作成	120分

第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記	※ 履修学生の実習の状況等により、スケジュールが変更になる場合があります。			
学生へのフィードバック方法	<ol style="list-style-type: none"> 3年生までの実習記録や保育所からの評価に基づき自己課題を明確にする。 グループ・ディスカッションにより、自己の課題解決の過程を探る。 各施設で必要とされる専門的な知識や保育技術を身につける。 保育現場における課題場面をロールプレイ等を通じて吟味する。 			
評価方法	平常点（自己課題への取り組みや授業に臨む姿勢）および指導案作成・課題の提出			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己課題への取り組みや授業に臨			○	
指導案作成・課題の提出	○	○	○	○
評価割合	平常点60% 指導案作成・課題提出40%			

使用教科書名 (ISBN番号)	施設実習ガイド (978-4-89347-203-8) 駒井美智子編著 (萌文書林)																
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し、明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。</p> <p>【思考・判断】学生一人ひとりが保育実習ⅠB(保育所)や保育実習ⅠC(施設)において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代の社会状況にも関心をもち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。</p>																
オフィスアワー	水曜日5限 1619研究室																
学生へのメッセージ	保育士資格を取得することへの高い意識をもって授業に臨んでください。また、自分の実習先の施設について、十分な事前学習を自主的に進めてください。																
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。	アクティブ・ラーニング	○	実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要															
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。															
アクティブ・ラーニング	○	実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。															
情報リテラシー教育																	
ICT活用																	

[ウインドウを閉じる](#)



所在地

東京家政学院大学

【町田キャンパス】

〒194-0292 東京都町田市相原町 2600 番地

電話 042(782)9811

【千代田三番町キャンパス】

〒102-8341 東京都千代田区三番町 22 番地

電話 03(3262)2251

授業計画 平成31年度

平成31年4月1日 発行

発行 東京家政学院大学

大学事務局

電話 03(3262)2257

<http://www.kasei-gakuin.ac.jp/>